目　　次

学長のことば

平成28年度授業科目および担当者

日本文化学科

科目・担当者一覧 …… 3

講義内容 …… 10

国際コミュニケーション学科

科目・担当者一覧 …… 179

講義内容 …… 189

英語コミュニケーション学科

科目・担当者一覧 …… 409

講義内容 …… 415

共通科目（外国語を除く）

科目・担当者一覧 …… 501

講義内容 …… 506

共通科目（外国語）

科目・担当者一覧 …… 671

講義内容 …… 676

司書課程

科目・担当者一覧 …… 851

講義内容 …… 852

学芸員課程

科目・担当者一覧 …… 873

講義内容 …… 874

日本語教員養成講座

科目・担当者一覧 …… 887

講義内容 …… 888

学長　石澤　靖治

大学とはどのようなところかと尋ねられた場合に、私は「知的好奇心を満たし、学ぶことの楽しさを知るところである」と答える。いわば、大学は「知のエンターテインメント」を提供し、学生はそれを追求するところということである。

このシラバスは、そんな知のエンターテインメントに導く役割を担っている。ただこのシラバスを最初に見た際に、科目の多さに圧倒されるかもしれない。本学では学生数に比べて開講科目が多いのが特色だから、それは自然な感想だろう。だが選択肢が多いということ自体、知的な贅沢の提供である。学生時代がもはや過去になった大人がこのシラバスを手に取ったら、現役の学生よりも強い興味をもって見るだろうと思う。そして「もう一度学んでみたい」と考えるはずだ。大学とはそんな場所なのである。

大学は「知のエンターテインメント」の場であるのだから、当然のことながら、学生は自分の興味と関心を大切にしながら科目を選ぶ。もちろん卒業するために最低限取得しなければならない科目や単位数という形で、科目選択に一定の制限はある。しかしそれはそれほど厳しいものではなく、科目選択の自由度は高い。したがって当初は手当たり次第に、多種多様な科目を選ぶことになるかもしれない。

しかしながら仮に最初はそれでいいとしても、ずっとそのままの行動をとることは好ましいことではない。なぜなら、そうした学び方では最終的に「全てを学んだが、結局何も学ばなかった」ということになってしまうからである。残念ながらそんな学生を少なからず見かける。何の脈絡もなく、単なる興味と関心や感覚だけで科目を選んで多くのことを学んだつもりになっても、結局のところ、それは学問的な蓄積にはなりにくいのである。

本学は国際化への対応を意識した上でのリベラル・アーツの大学である。その上で、自分が興味を集中すべきところはどこなのか、そのためにどのような科目を選択して、その興味を学問的にどのように発展させていくべきなのか、そうした理解を前提にして、このシラバスで自分のアカデミック・ストーリーを作り上げていかなければならない。

もう一つ付け加えることがある。近年大学に求められているのは、学生に十分な教育を行うことである。大学は学問をするところだから、それは当然のことなのであるが、長い間、大学は「入るのが難しく出るのは簡単」とされ、ともすれば大学での教育が軽視されてきたところがあった。しかし現在は、大学で学生をいかに勉強させて、実力のある人間に育て上げるかということが社会から求められている。したがってこのシラバスの中身も、学んだ上で何をどこまで獲得すべきかということが明記されている。そしてそのためには、学生は授業のみならず、それ以外に多くの時間を自らの学習に充てることが前提とされている。それをはっきりと認識して欲しい。

ではそのようにして学んだ上で、あなたがたはこの大学で最終的に何を身につけるべきか。それは単なる知識の吸収ではなく、前述した自分なりの学問的な核を深めていく中で、究極的には、物事を理解した上で自分の頭で本質的なことを深く考え、その考えを自分の言葉で論理的に説明し表現できる能力を養うことにある。また自分で問題を見つけ、自分でその問題への解答を見つけられる力を養成することでもある。要するに深い思考と説得力のある言葉を身につけることが、大学で達成すべき最終的な目標である。そしてそこで得た知的産物は、あなたがたの今後の人生をより豊かなものにし、仕事においては強い足腰になる。

大学は「知のエンターテインメント」であると述べてきた。ただ、知的な楽しみを得るというのは、遊びのエンターテインメントと同じではない。そこには知的な格闘が必要であり、ある程度の苦しさが伴う。そうした後に初めて知的なエンターテインメントの喜びが得られるのである。それを最後に一言付け加えておく。

日本文化学科

平成 28 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

日 本 文 化 学 科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科　目　名	副　　題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担　当　者	頁
日本文化基礎演習科目群	日本文化基礎演習ＩＡ	アートマネジメント入門	ART-101-JX	1	春		2	尼ヶ﨑　彬	10
	日本文化基礎演習ＩＢ	日本文化研究への第一歩	ART-102-JX	1	春		2	松枝　佳奈	11
	日本文化基礎演習ＩＣ	古事記を読む	LIT-103-JX	1	春		2	神田　典城	12
	日本文化基礎演習ＩＤ	近代を生きた女性たち	HIS-104-JX	1	春		2	木村　直恵	13
	日本文化基礎演習ＩＥ	枕草子を読む	LIT-105-JX	1	春		2	伊藤　守幸	14
	日本文化基礎演習ＩＦ	現代日本語の談話分析	JPL-106-JX	1	春		2	福島　直恭	15
	日本文化基礎演習ＩＧ	現代社会を社会学的に考える	SOC-107-JX	1	春		2	木村絵里子	16
	日本文化基礎演習ＩＨ	日本の昔話と伝説	ANT-108-JX	1	春		2	徳田　和夫	17
	日本文化基礎演習ＩＩ	日本の染織と服飾文化（1）	ART-109-JX	1	春		2	福島　雅子	18
	日本文化基礎演習ＩＪ	日本近世史研究の基礎	HIS-110-JX	1	春		2	岩淵　令治	19
	日本文化基礎演習ＩＫ	食品研究の基礎（１）	LIF-111-JX	1	春		2	阿部　　誠	20
	日本文化基礎演習ＩＬ	スポーツ文化の系譜	SPO-112-JX	1	春		2	荒井　啓子	21
	日本文化基礎演習ＩＭ	情報社会における問題の分析	INF-113-JX	1	春		2	清水　將吾	22
	日本文化基礎演習ＩＮ	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-114-JX	1	春		2	品川　　明	23
	日本文化基礎演習ＩＯ	日本語学入門	JPL-115-JX	1	春		2	秋山　智美	24
	日本文化基礎演習ＩＰ	近代日本美術（明治時代）	ART-116-JX	1	春		2	清水　敏男	25
	日本文化基礎演習ⅡＡ	アートマネジメント入門	ART-117-JX	1		秋	2	尼ヶ﨑　彬	26
	日本文化基礎演習ⅡＢ	日本文化研究への第一歩	ART-118-JX	1		秋	2	松枝　佳奈	27
	日本文化基礎演習ⅡＣ	万葉集を読む	LIT-119-JX	1		秋	2	神田　典城	28
	日本文化基礎演習ⅡＤ	モダン東京研究	HIS-120-JX	1		秋	2	木村　直恵	29
	日本文化基礎演習ⅡＥ	枕草子を読む	LIT-121-JX	1		秋	2	伊藤　守幸	30
	日本文化基礎演習ⅡＦ	過去の日本語の研究	JPL-122-JX	1		秋	2	福島　直恭	31
	日本文化基礎演習ⅡＧ	現代社会を社会学的に考える	SOC-123-JX	1		秋	2	木村絵里子	32
	日本文化基礎演習ⅡＨ	うわさばなしの世界	ANT-124-JX	1		秋	2	徳田　和夫	33
	日本文化基礎演習ⅡＩ	日本の染織と服飾文化（２）	ART-125-JX	1		秋	2	福島　雅子	34
	日本文化基礎演習ⅡＪ	日本近世史研究の基礎	HIS-126-JX	1		秋	2	岩淵　令治	35
	日本文化基礎演習ⅡＫ	食品研究の基礎（２）	LIF-127-JX	1		秋	2	阿部　　誠	36
	日本文化基礎演習ⅡＬ	スポーツ文化の系譜	SPO-128-JX	1		秋	2	荒井　啓子	37
	日本文化基礎演習ⅡＭ	情報社会における問題の分析	INF-129-JX	1		秋	2	清水　將吾	38
	日本文化基礎演習ⅡＮ	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-130-JX	1		秋	2	品川　　明	39
	日本文化基礎演習ⅡＯ	日本語学入門	JPL-131-JX	1		秋	2	秋山　智美	40
	日本文化基礎演習ⅡＰ	20世紀後半の日本美術	ART-132-JX	1		秋	2	清水　敏男	41
	日本文化基礎演習ⅢＡ	アートマネジメント入門	ART-233-JX	2	春		2	尼ヶ﨑　彬	10
	日本文化基礎演習ⅢＢ	日本文化研究への第一歩	ART-234-JX	2	春		2	松枝　佳奈	11
	日本文化基礎演習ⅢＣ	古事記を読む	LIT-235-JX	2	春		2	神田　典城	12
	日本文化基礎演習ⅢＤ	近代を生きた女性たち	HIS-236-JX	2	春		2	木村　直恵	13
	日本文化基礎演習ⅢＥ	枕草子を読む	LIT-237-JX	2	春		2	伊藤　守幸	14

日 本 文 化 学 科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科　目　名	副　　題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担　当　者	頁
日本文化基礎演習科目群	日本文化基礎演習ⅢF	現代日本語の談話分析	JPL-238-JX	2	春		2	福島　直恭	15
	日本文化基礎演習ⅢG	現代社会を社会学的に考える	SOC-239-JX	2	春		2	木村絵里子	16
	日本文化基礎演習ⅢH	日本の昔話と伝説	ANT-240-JX	2	春		2	徳田　和夫	17
	日本文化基礎演習ⅢI	日本の染織と服飾文化（1）	ART-241-JX	2	春		2	福島　雅子	18
	日本文化基礎演習ⅢJ	日本近世史研究の基礎	HIS-242-JX	2	春		2	岩淵　令治	19
	日本文化基礎演習ⅢK	食品研究の基礎（1）	LIF-243-JX	2	春		2	阿部　　誠	20
	日本文化基礎演習ⅢL	スポーツ文化の系譜	SPO-244-JX	2	春		2	荒井　啓子	21
	日本文化基礎演習ⅢM	情報社会における問題の分析	INF-245-JX	2	春		2	清水　將吾	22
	日本文化基礎演習ⅢN	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-246-JX	2	春		2	品川　　明	23
	日本文化基礎演習ⅢO	日本語学入門	JPL-247-JX	2	春		2	秋山　智美	24
	日本文化基礎演習ⅢP	近代日本美術（明治時代）	ART-248-JX	2	春		2	清水　敏男	25
	日本文化基礎演習ⅣA	アートマネジメント入門	ART-249-JX	2		秋	2	尼ヶ﨑　彬	26
	日本文化基礎演習ⅣB	日本文化研究への第一歩	ART-250-JX	2		秋	2	松枝　佳奈	27
	日本文化基礎演習ⅣC	万葉集を読む	LIT-251-JX	2		秋	2	神田　典城	28
	日本文化基礎演習ⅣD	モダン東京研究	HIS-252-JX	2		秋	2	木村　直恵	29
	日本文化基礎演習ⅣE	枕草子を読む	LIT-253-JX	2		秋	2	伊藤　守幸	30
	日本文化基礎演習ⅣF	過去の日本語の研究	JPL-254-JX	2		秋	2	福島　直恭	31
	日本文化基礎演習ⅣG	現代社会を社会学的に考える	SOC-255-JX	2		秋	2	木村絵里子	32
	日本文化基礎演習ⅣH	うわさばなしの世界	ANT-256-JX	2		秋	2	徳田　和夫	33
	日本文化基礎演習ⅣI	日本の染織と服飾文化（2）	ART-257-JX	2		秋	2	福島　雅子	34
	日本文化基礎演習ⅣJ	日本近世史研究の基礎	HIS-258-JX	2		秋	2	岩淵　令治	35
	日本文化基礎演習ⅣK	食品研究の基礎（2）	LIF-259-JX	2		秋	2	阿部　　誠	36
	日本文化基礎演習ⅣL	スポーツ文化の系譜	SPO-260-JX	2		秋	2	荒井　啓子	37
	日本文化基礎演習ⅣM	情報社会における問題の分析	INF-261-JX	2		秋	2	清水　將吾	38
	日本文化基礎演習ⅣN	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-262-JX	2		秋	2	品川　　明	39
	日本文化基礎演習ⅣO	日本語学入門	JPL-263-JX	2		秋	2	秋山　智美	40
	日本文化基礎演習ⅣP	20世紀後半の日本美術	ART-264-JX	2		秋	2	清水　敏男	41
日本文化基礎科目群	日本文化政策論Ⅰ	文化政策の基本構造	MSE-101-JA	1～	春		2	阿曽村智子	42
	日本文化政策論Ⅱ	日本文化政策の現状	MSE-102-JA	1～		秋	2	阿曽村智子	43
	日本人論Ⅰ	神々と祭り	JPN-103-JA	1～	春		2	小平　美香	44
	日本人論Ⅱ	近代日本の家、家族・家庭	JPN-104-JA	1～		秋	2	木村　直恵	45
	日本語学Ⅰ	現代日本語の諸相	JPL-105-JA	1～	春		2	福島　直恭	46
	日本語学Ⅱ	日本語の歴史	JPL-106-JA	1～		秋	2	福島　直恭	47
	日本思想史Ⅰ	神社・神道のなりたち	PHL-107-JA	1～	春		2	小平　美香	48
	日本思想史Ⅱ	日本の近代を考える	PHL-108-JA	1～		秋	2	小平　美香	49
	日本思想史Ⅲ	古事記天皇代を読む	PHL-109-JA	1～	春		2	神田　典城	50
	日本思想史Ⅳ	風土記を読む	PHL-110-JA	1～		秋	2	神田　典城	51

日 本 文 化 学 科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科　目　名	副　　題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担　当　者	頁
日本文化基礎科目群	日本文学史Ⅰ	平安時代の物語を読む（前半）	LIT-111-JA	1～	春		2	伊藤　禎子	52
	日本文学史Ⅱ	平安時代の物語を読む（後半）	LIT-112-JA	1～		秋	2	伊藤　禎子	53
	民俗学Ⅰ	衣食住の民俗	ANT-113-JA	1～	春		2	山崎　祐子	54
	民俗学Ⅱ	女性と子どもの民俗	ANT-114-JA	1～		秋	2	山崎　祐子	55
	日本政治経済史	都市江戸を舞台に	HIS-115-JA	1～	春		2	岩淵　令治	56
	日本社会制度史	近代以前の社会・家族と慣習・法	HIS-116-JA	1～	春		2	菅原　正子	57
	伝統文化論Ⅰ（花）			1～	－	－	2	－	－
	伝統文化論Ⅱ（茶）	茶の湯文化	TRD-118-JA	1～	春		2	谷村　玲子	58
	伝統文化論Ⅳ（書）		TRD-120-JA	1～		秋	2	齊藤　登	59
	伝統文化論Ⅴ（舞踊）	日本の伝統芸能を知る・学ぶ	TRD-121-JA	1～		秋	2	森田　ゆい	60
	伝統文化論Ⅵ（演劇）	『風姿花伝』を読む	TRD-122-JA	1～		秋	2	岩崎　雅彦	61
	伝統文化論Ⅶ（邦楽）	雅楽と平安時代の宮廷文化	TRD-123-JA	1～	春		2	遠藤　徹	62
	伝統文化論Ⅷ（染織）	日本の伝統染織	TRD-124-JA	1～		秋	2	福島　雅子	63
	日本生活文化史Ⅰ（衣文化）	日本の服飾史	ART-125-JA	1～	春		2	福島　雅子	64
	日本生活文化史Ⅱ（衣文化）	江戸の「きもの」と衣文化	ART-126-JA	1～		秋	2	福島　雅子	65
	日本生活文化史Ⅲ（食文化）	日本の食生活の変遷	LIF-127-JA	1～	春		2	宇都宮由佳	66
	日本生活文化史Ⅳ（食文化）	食物の起源と伝播，思想とマナー	LIF-128-JA	1～		秋	2	宇都宮由佳	67
	日本生活文化史Ⅴ（住文化）	構成要素からみた住宅デザイン	LIF-129-JA	1～	春		2	乾　尚彦	68
	日本生活文化史Ⅵ（住文化）	地域と住まい	LIF-130-JA	1～		秋	2	乾　尚彦	69
	日本文化論	日本神話と諸文化	JPN-131-JA	1～	春		2	神田　典城	70
	近代文化論Ⅰ	近代文化のなかの経済思想――〈働くこと〉と〈つくること〉をめぐる思想と文化	HIS-132-JA	1～	春		2	木村　直恵	71
	近代文化論Ⅱ	「社会」とは何か――歴史から考える	HIS-133-JA	1～		秋	2	木村　直恵	72
民俗・歴史系科目群	民俗文化論Ⅰ（民俗信仰）	異界をのぞく	ANT-201-JB	2～	春		2	山崎　祐子	73
	民俗文化論Ⅱ（民俗行事・祭礼）	年中行事と祭礼	ANT-202-JB	2～		秋	2	山崎　祐子	74
	民俗文化論Ⅲ（都市民俗学）		ANT-203-JB	2～	春		2	伊藤　慎吾	75
	民俗文化論Ⅳ（都市民俗学）	異類文化学入門―憑依・擬人化編―	ANT-204-JB	2～		秋	2	伊藤　慎吾	76
	比較民俗文化論Ⅰ（民間伝承）	日本の昔話と伝説	ANT-205-JB	2～	春		2	徳田　和夫	77
	比較民俗文化論Ⅱ（民間伝承）	外国の昔話と伝説	ANT-206-JB	2～		秋	2	徳田　和夫	78
	比較生活文化論Ⅰ（地域食文化論）	食文化へのアプローチ	LIF-207-JB	2～	春		2	磯部　泰子	79
	※☆比較生活文化論Ⅱ（染織文化論）	世界の中の日本染織	LIF-208-JB	2～	春		2	澤田　和人	80
	日本生活文化論Ⅰ（ものの文化史）	装身具にみる日本の服飾文化	LIF-209-JB	2～		秋	2	梅谷　知世	81
	日本生活文化論Ⅱ（通過儀礼）	慶弔の装い	LIF-210-JB	2～	春		2	福島　雅子	82
	日本生活文化論Ⅲ（住文化論）	祭祀空間の構造	LIF-211-JB	2～		秋	2	乾　尚彦	83
	日本生活文化論Ⅳ（都市生活論）		LIF-212-JB	2～	春		2	木村絵里子	84
	日本史論Ⅰ（古代）	平安時代再考　―平安京の変貌と都市京都の様相	HIS-213-JB	2～	春		2	中込　律子	85
	日本史論Ⅱ（中世）		HIS-214-JB	2～	春		2	関　幸彦	86
	日本史論Ⅲ（近世）	江戸の都市社会	HIS-215-JB	2～	春		2	岩淵　令治	87

日 本 文 化 学 科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
民俗・歴史系科目群	日本史論Ⅳ（近現代）		HIS-216-JB	2～	春		2	加藤　厚子	88
	☆日本文化交流史Ⅰ			2～	－	－	2	－	－
	☆日本文化交流史Ⅱ	中世・近世の日中関係	HIS-318-JB	2～		秋	2	米谷　　均	89
	☆歴史資料論Ⅰ（考古）			2～	－	－	2	－	－
	☆歴史資料論Ⅱ（考古）	貝と骨から読み解く日本の歴史と文化	HIS-320-JB	2～	春		2	阿部　常樹	90
	歴史資料論Ⅲ（古文書）	江戸時代の古文書の解読	HIS-221-JB	2～		秋	2	岩淵　令治	91
	歴史資料論Ⅳ（古文書）	江戸時代の古文書を読み解く	HIS-322-JB	2～	春		2	工藤　航平	92
芸術・思想系科目群	形象文化論Ⅰ（絵画）	日本絵画史の諸様相	ART-201-JC	2～	春		2	石田　佳也	93
	形象文化論Ⅱ（絵画）	日本写真を読む：モダニズムから現代アートまで	ART-202-JC	2～		秋	2	佐々木悠介	94
	形象文化論Ⅲ（生活芸術）	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、ジャポニスム、欧米と日本の諸芸術	ART-203-JC	2～	春		2	岡部　昌幸	95
	形象文化論Ⅳ（空間造形）	映像と空間	ART-204-JC	2～	春		2	堀江　秀史	96
	形象文化論Ⅴ（近現代美術）	現代美術はどのように形成されてきたか	ART-205-JC	2～		秋	2	清水　敏男	97
	形象文化論Ⅵ（芸術交流論）	近代日本の音楽文化の諸相	ART-206-JC	2～	春		2	高久　　暁	98
	身体文化論Ⅰ（現代舞踊）		ART-207-JC	2～	春		2	尼ヶ﨑　彬	99
	身体文化論Ⅱ（現代演劇）		ART-208-JC	2～		秋	2	尼ヶ﨑　彬	100
	日本思想研究Ⅰ（神話）	日本神話の成り立ち	JPN-209-JC	2～		秋	2	神田　典城	101
	日本思想研究Ⅱ（仏教）	日本的仏教の特色	PHL-210-JC	2～		秋	2	加藤みち子	102
	日本思想研究Ⅲ（神道）	神道思想の特色	PHL-211-JC	2～	春		2	加藤みち子	103
	☆日本思想研究Ⅳ（歌学）			2～	－	－	2	－	－
	☆日本思想研究Ⅴ（芸道）		PHL-213-JC	2～	春		2	尼ヶ﨑　彬	104
	日本思想研究Ⅵ（近世思想）		PHL-214-JC	2～		秋	2	吉田　麻子	105
	日本文学論Ⅰ（上代）	万葉集・初期の歌人から人麻呂へ	LIT-215-JC	2～	春		2	神田　典城	106
	日本文学論Ⅱ（上代）	万葉集・旅人憶良から家持へ	LIT-216-JC	2～		秋	2	神田　典城	107
	日本文学論Ⅲ（中古）	越境する物語	LIT-217-JC	2～	春		2	伊藤　守幸	108
	※日本文学論Ⅳ（中古）	英語圏の日本古典文学研究について	LIT-218-JC	2～		秋	2	伊藤　守幸	109
	日本文学論Ⅴ（中世）	絵巻と文学 - 説話絵巻, お伽草子絵巻, 妖怪絵巻の世界	LIT-219-JC	2～	春		2	徳田　和夫	110
	日本文学論Ⅵ（中世）	お伽草子の女たち	LIT-220-JC	2～		秋	2	恋田　知子	111
	日本文学論Ⅶ（近世）	近世怪異小説の女たち	LIT-221-JC	2～	春		2	恋田　知子	112
	☆日本文学論Ⅷ（近現代）			2～	－	－	2	－	－
	☆中国文学論Ⅰ			2～	－	－	2	－	－
	☆中国文学論Ⅱ	唐宋の詩を読む	LIT-224-JC	2～		秋	2	和田　浩平	113
現代社会系科目群	☆現代文化論Ⅰ（都市論）			2～	－	－	2	－	－
	☆現代文化論Ⅱ（郊外論）	現代を生きる形	SOC-302-JD	2～		秋	2	若林　幹夫	114
	現代文化論Ⅲ（児童文化）	現代日本の児童文学が描いてきたもの	CHL-203-JD	2～		秋	2	藤田のぼる	115
	☆現代文化論Ⅳ（ファッション）			2～	－	－	2	－	－
	現代文化論Ⅴ（イメージとメディア）	メディアの中の社会／イメージの中の社会	SOC-305-JD	2～	春		2	若林　幹夫	116
	※現代文化論Ⅵ（カルチュラル・スタディーズ）	＜文化＞の力学を考える	SOC-306-JD	2～	春集中		2	本橋　哲也	117

日 本 文 化 学 科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科　目　名	副　　題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担　当　者	頁
現代社会系科目群	現代文化論Ⅶ（スポーツ文化論）	スポーツという文化	SPO-207-JD	2～	春		2	荒井　啓子	118
	メディア論	情報通信技術	INF-208-JD	2～	春		2	岩城　宏明	119
	現代生活論Ⅰ（現代食品情報）	現代食品情報	LIF-209-JD	2～		秋	2	阿部　　誠	120
	現代生活論Ⅱ（現代の食生活）	ライフステージ別の食生活および問題点	LIF-210-JD	2～	春		2	濱谷　亮子	121
	現代生活論Ⅲ（自己と他者）	親密性をめぐって	SOC-311-JD	2～	春		2	時安　邦治	122
	現代生活論Ⅳ（個人と集団）	貧困と社会的排除	SOC-312-JD	2～		秋	2	時安　邦治	123
	☆日本政治論	日本政治、その仕組みと歴史	POL-213-JD	2～		秋	2	逢坂　　巌	124
	☆日本経済論			2～	－	－	2	－	－
	日本社会論	現代日本社会の構造変動と自己の変容	SOC-215-JD	2～		秋	2	奥山　敏雄	125
比較文化研究科目群	☆比較文化論Ⅰ（比較日本文化）	東京のなかのロシア・東欧文化	JPN-301-JE	3～	春		2	松枝　佳奈	126
	☆比較文化論Ⅱ（文学）	文学批評理論入門	LIT-302-JE	3～	春		2	木村　直恵	127
	比較文化論Ⅲ（芸術）	展覧会を読む	ART-303-JE	3～		秋	2	堀江　秀史	128
	※比較文化論Ⅳ（民俗）	儀礼・信仰・物語・ビジュアルカルチャー	ANT-304-JE	3～		秋	2	徳田　和夫	129
	比較文化論Ⅴ（社会）	「江戸」の発見	HIS-305-JE	3～		秋	2	岩淵　令治	130
	比較文化論Ⅵ（嗜好）		LIF-306-JE	3～	春		2	中野　美季	131
	比較文化論Ⅶ（生活）	装飾文化の交流	ART-307-JE	3～		秋	2	福島　雅子	132
	比較文化論Ⅷ（Japanese Culture Ⅰ）	Reading Movies	JPN-308-JE	3～	春		2	J．P．チャン	133
	比較文化論Ⅸ（Japanese Culture Ⅱ）	Love and Care	JPN-309-JE	3～		秋	2	J．P．チャン	134
	比較文化論Ⅹ（工芸）	海を渡った工芸品	ART-310-JE	3～	春		2	福島　雅子	135
日本文化専門演習科目群	日本文化演習ＩＡ	日本芸術の諸相	ART-301-JY	3	春		2	尼ヶ﨑　彬	136
	日本文化演習ＩＢ	学術論文の読み方・書き方	ART-302-JY	3	春		2	堀江　秀史	137
	日本文化演習ＩＣ	日本の神話	LIT-303-JY	3	春		2	神田　典城	138
	日本文化演習ＩＤ	近代日本の歴史と思想	HIS-304-JY	3	春		2	木村　直恵	139
	日本文化演習ＩＥ	平安時代の文学（１）	LIT-305-JY	3	春		2	伊藤　守幸	140
	日本文化演習ＩＦ	日本語研究の方法	JPL-306-JY	3	春		2	福島　直恭	141
	日本文化演習ＩＧ	現代社会研究（１）	SOC-307-JY	3	春		2	時安　邦治	142
	日本文化演習ＩＨ	中世文化・民俗文化〔1〕―民間説話・古典説話・芸能など―	ANT-308-JY	3	春		2	徳田　和夫	143
	日本文化演習ＩＩ	日本の染織と服飾文化の諸相（１）	ART-309-JY	3	春		2	福島　雅子	144
	日本文化演習ＩＪ	日本近世の政治・社会・文化（１）	HIS-310-JY	3	春		2	岩淵　令治	145
	日本文化演習ＩＫ	食品研究１	LIF-311-JY	3	春		2	阿部　　誠	146
	日本文化演習ＩＬ	スポーツ文化の諸相	SPO-312-JY	3	春		2	荒井　啓子	147
	日本文化演習ＩＭ	インターネットコミュニケーション	INF-313-JY	3	春		2	清水　將吾	148
	日本文化演習ＩＮ	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-314-JY	3	春		2	品川　　明	149
	日本文化演習ＩＯ	言語学・日本語教育Ⅰ	JPL-315-JY	3	春		2	秋山　智美	150
	日本文化演習ＩＰ	アートによる地域活性化の調査、研究	ART-316-JY	3	春		2	清水　敏男	151
	日本文化演習ＩＱ	電子メディア	INF-317-JY	3	春		2	岩城　宏明	152
	日本文化演習ＩＲ			3	－	－	2	－	－

日 本 文 化 学 科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科　目　名	副　　題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担　当　者	頁
日本文化専門演習科目群	日本文化演習ＩＳ	日常生活におけるメディア利用	INF-319-JY	3	春		2	越塚　美加	153
	日本文化演習ⅡＡ	日本芸術の諸相	ART-320-JY	3		秋	2	尼ヶ﨑　彬	154
	日本文化演習ⅡＢ	卒業論文演習	ART-321-JY	3		秋	2	堀江　秀史	155
	日本文化演習ⅡＣ	日本の神話	LIT-322-JY	3		秋	2	神田　典城	156
	日本文化演習ⅡＤ	近代日本の歴史と思想	HIS-323-JY	3		秋	2	木村　直恵	157
	日本文化演習ⅡＥ	平安時代の文学（２）	LIT-324-JY	3		秋	2	伊藤　守幸	158
	日本文化演習ⅡＦ	言語研究の可能性	JPL-325-JY	3		秋	2	福島　直恭	159
	日本文化演習ⅡＧ	現代社会研究（2）	SOC-326-JY	3		秋	2	時安　邦治	160
	日本文化演習ⅡＨ	中世文化･民俗文化〔2〕―お伽草子･民間説話・芸能など―	ANT-327-JY	3		秋	2	徳田　和夫	161
	日本文化演習ⅡＩ	日本の染織と服飾文化の諸相（２）	ART-328-JY	3		秋	2	福島　雅子	162
	日本文化演習ⅡＪ	日本近世の政治･社会･文化（２）	HIS-329-JY	3		秋	2	岩淵　令治	163
	日本文化演習ⅡＫ	食品研究２	LIF-330-JY	3		秋	2	阿部　　誠	164
	日本文化演習ⅡＬ	スポーツ文化の諸相	SPO-331-JY	3		秋	2	荒井　啓子	165
	日本文化演習ⅡＭ	インターネットコミュニケーション	INF-332-JY	3		秋	2	清水　將吾	166
	日本文化演習ⅡＮ	1. 食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2. 環境教育･科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-333-JY	3		秋	2	品川　　明	167
	日本文化演習ⅡＯ	言語学・日本語教育II	JPL-334-JY	3		秋	2	秋山　智美	168
	日本文化演習ⅡＰ	アートによる地域活性化の調査、研究	ART-335-JY	3		秋	2	清水　敏男	169
	日本文化演習ⅡＱ	コンピュータによる作品制作	INF-336-JY	3		秋	2	岩城　宏明	170
	日本文化演習ⅡＲ			3	－	－	2	－	－
	日本文化演習ⅡＳ	接触した情報が日常生活に与える影響	INF-338-JY	3		秋	2	越塚　美加	171
	日本文化演習ⅢＡ	日本芸術の諸相	ART-439-JY	4	春		2	尼ヶ﨑　彬	136
	日本文化演習ⅢＢ	学術論文の読み方・書き方	ART-440-JY	4	春		2	堀江　秀史	137
	日本文化演習ⅢＣ	日本の神話	LIT-441-JY	4	春		2	神田　典城	138
	日本文化演習ⅢＤ	近代日本の歴史と思想	HIS-442-JY	4	春		2	木村　直恵	139
	日本文化演習ⅢＥ	平安時代の文学（１）	LIT-443-JY	4	春		2	伊藤　守幸	140
	日本文化演習ⅢＦ	日本語研究の方法	JPL-444-JY	4	春		2	福島　直恭	141
	日本文化演習ⅢＧ	現代社会研究（１）	SOC-445-JY	4	春		2	時安　邦治	142
	日本文化演習ⅢＨ	中世文化･民俗文化〔1〕―民間説話･古典説話・芸能など―	ANT-446-JY	4	春		2	徳田　和夫	143
	日本文化演習ⅢＩ	日本の染織と服飾文化の諸相（１）	ART-447-JY	4	春		2	福島　雅子	144
	日本文化演習ⅢＪ	日本近世の政治･社会･文化（１）	HIS-448-JY	4	春		2	岩淵　令治	145
	日本文化演習ⅢＫ	食品研究１	LIF-449-JY	4	春		2	阿部　　誠	146
	日本文化演習ⅢＬ	スポーツ文化の諸相	SPO-450-JY	4	春		2	荒井　啓子	147
	日本文化演習ⅢＭ	インターネットコミュニケーション	INF-451-JY	4	春		2	清水　將吾	148
	日本文化演習ⅢＮ	1. 食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2. 環境教育･科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-452-JY	4	春		2	品川　　明	149
	日本文化演習ⅢＯ	言語学・日本語教育I	JPL-453-JY	4	春		2	秋山　智美	150
	日本文化演習ⅢＰ	アートによる地域活性化の調査、研究	ART-454-JY	4	春		2	清水　敏男	151
	日本文化演習ⅢＱ	電子メディア	INF-455-JY	4	春		2	岩城　宏明	152

日 本 文 化 学 科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科　目　名	副　　題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担　当　者	頁
日本文化専門演習科目群	日本文化演習ⅢR			4	－	－	2	－	－
	日本文化演習ⅢS	日常生活におけるメディア利用	INF-457-JY	4	春		2	越塚　美加	153
	日本文化演習ⅣA	日本芸術の諸相	ART-458-JY	4		秋	2	尼ヶ﨑　彬	154
	日本文化演習ⅣB	卒業論文演習	ART-459-JY	4		秋	2	堀江　秀史	155
	日本文化演習ⅣC	日本の神話	LIT-460-JY	4		秋	2	神田　典城	156
	日本文化演習ⅣD	近代日本の歴史と思想	HIS-461-JY	4		秋	2	木村　直恵	157
	日本文化演習ⅣE	平安時代の文学（２）	LIT-462-JY	4		秋	2	伊藤　守幸	158
	日本文化演習ⅣF	言語研究の可能性	JPL-463-JY	4		秋	2	福島　直恭	159
	日本文化演習ⅣG	現代社会研究（2）	SOC-464-JY	4		秋	2	時安　邦治	160
	日本文化演習ⅣH	中世文化・民俗文化〔2〕―お伽草子・民間説話・芸能など―	ANT-465-JY	4		秋	2	徳田　和夫	161
	日本文化演習ⅣI	日本の染織と服飾文化の諸相（２）	ART-466-JY	4		秋	2	福島　雅子	162
	日本文化演習ⅣJ	日本近世の政治・社会・文化（２）	HIS-467-JY	4		秋	2	岩淵　令治	163
	日本文化演習ⅣK	食品研究２	LIF-468-JY	4		秋	2	阿部　　誠	164
	日本文化演習ⅣL	スポーツ文化の諸相	SPO-469-JY	4		秋	2	荒井　啓子	165
	日本文化演習ⅣM	インターネットコミュニケーション	INF-470-JY	4		秋	2	清水　將吾	166
	日本文化演習ⅣN	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-471-JY	4		秋	2	品川　　明	167
	日本文化演習ⅣO	言語学・日本語教育Ⅱ	JPL-472-JY	4		秋	2	秋山　智美	168
	日本文化演習ⅣP	アートによる地域活性化の調査、研究	ART-473-JY	4		秋	2	清水　敏男	169
	日本文化演習ⅣQ	コンピュータによる作品制作	INF-474-JY	4		秋	2	岩城　宏明	170
	日本文化演習ⅣR			4	－	－	2	－	－
	日本文化演習ⅣS	接触した情報が日常生活に与える影響	INF-476-JY	4		秋	2	越塚　美加	171
卒業研究・卒業論文	卒業研究（春）		JPN-401-JZ	4	春集中		8	岩城　宏明	172
	卒業研究（秋）		JPN-402-JZ	4		秋集中	8	岩城　宏明	173
	卒業論文（春）		JPN-403-JZ	4	春集中		8	岩城　宏明	174
	卒業論文（秋）		JPN-404-JZ	4		秋集中	8	岩城　宏明	175
他学科専門科目 指定された	言語学Ⅰ	記号のシステム・音と語の仕組み・対照言語学	LIN-101-IB	1～	春		2	佐藤　直人	236
	言語学Ⅱ	統語論・意味論・語用論と言語学史	LIN-102-IB	1～		秋	2	佐藤　直人	237
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	LIN-103-IB	1～	春		2	福島　直恭	238
	社会言語学Ⅱ	近代日本の言語政策	LIN-104-IB	1～		秋	2	福島　直恭	239
	文化人類学Ⅰ	文化人類学の基礎概念	ANT-105-IB	1～	春		2	齋藤　亜子	240
	文化人類学Ⅱ	現代における民族：文化人類学とフィールドワーク	ANT-106-IB	1～		秋	2	齋藤　亜子	241

日本文化基礎演習IA・IIIA

3610010100100

副　題	アートマネジメント入門							担　当　者	尼ヶ﨑　彬　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ART-101-JX ART-233-JX

〔授業の到達目標〕

芸術文化プロジェクト立案の初歩的な知識と能力を習得する。

〔授業の内容〕

芸術は一人の天才がいるだけでは成り立たない。クリエーターと社会の間に立って，作品の制作を支援し多くの観客に届けるためのシステムを企画運営する仕事，つまりアートマネジメントを担当する者が必要である。概説ではいくつかの事例をもとに企画の方法を学び，その後演習参加者は各自演劇・舞踊公演，美術展などの芸術イベントの企画とそのマネジメントを仮想的に行い，その成果を発表する。

〔教材〕

参考書は授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２回の発表のための予習（企画立案・プレゼン準備）は通算50時間。復習（発表内容の見直し）は10時間

〔成績評価の方法〕

授業中の発表および提出物（企画書等）による評価（70%）を基にし，出席（30%）を加味する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

下記参照

質問がある場合,簡単なことはメールでakira.amagasaki●gakushuin.ac.jp（change ● to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う。

〔授　業　計　画〕

第１週　アートマネジメントおよび授業の進め方についてのガイダンス
第２週　アートマネジメント概説
第３週　〃
第４週　学生による発表
第５週　同上
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習IB・IIIB

3610010100200

副　題	日本文化研究への第一歩							担　当　者	松枝　佳奈　講師
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ART-102-JX ART-234-JX

〔授業の到達目標〕
１．日本の伝統文化・現代文化や日本と外国文化の関係について知り，その内容を考察し説明できるようになる。　２．自ら学術書や学術論文を読み，その読解方法を習得し内容を正しく理解する。　３．学術的なレポート，小論文などを書く技術を身につける。

〔授業の内容〕
学期前半は，今橋理子著『兎とかたちの日本文化』（東京大学出版会，2013年）を教科書とし，本書を丁寧に通読することで，私たち日本人にとって古来より身近な動物である「兎（うさぎ）」をめぐる言説や美術作品などについて理解を深める。さらに脚注や論の構成，テクストや作品の解釈・分析の方法など学術書や学術論文の形式を学び，それらを主体的に読む練習を重ねる。このような作業は，２年次以降の各分野の授業や演習，４年次の卒業論文執筆などの際に学術書・学術論文の内容を正しく理解し，それらに基づいて自ら考察を行うための「基礎体力作り」となることが期待される。学期後半は，学期前半で習得したことを踏まえて，「ロシア・バレエと日本文化」をテーマに，大学図書館などにおける学術書や学術論文の調査・閲覧の方法やプレゼンテーションの方法について学び，実践する。明治期から現代までロシア・バレエが日本のバレエ文化形成に与えてきた影響や，両者の密接な関係について先行研究を十分に調べて理解し，他の学生に分かりやすく伝えることが求められる。またDVDを使ってロシア・バレエに触れる機会も設ける。このように「外国文化を通じて日本文化を相対化する」という観点を養うことは，今後，各自が日本文化研究に取り組む際に有益な助けとなることが予想される。なお本授業の内容は，秋学期の「日本文化基礎演習2B」,「日本文化基礎演習4B」と同様である。

〔教材〕
教科書：今橋理子『兎とかたちの日本文化』東京大学出版会，2013年
指定教科書については，初回授業までに大学内の紀伊國屋ブックセンターにて必ず購入し，毎回授業に持参すること。その他のテキストや教材については，授業内で指示もしくは適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の準備として，教科書や配布テキストについて授業内で指定された箇所をあらかじめ熟読すること（２時間程度）。授業後に課題が指示された場合は，授業で学んだことを踏まえた上で取り組むこと（２時間程度）。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度（毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパーを含む，30%），学期中の課題小レポートの提出状況およびその内容（30%），学期末課題レポートの提出状況およびその内容（40%）を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業内で指示する。

〔備考〕
各自で学外や大学図書館などにおいて調査を行うよう指示する場合がある。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
授業概要の説明／「日本文化研究」とは／「学術書」・「学術論文」と「作文」・「感想文」の違い／『兎とかたちの日本文化』講読のまえに
第２週　『兎とかたちの日本文化』講読（１）
第３週　『兎とかたちの日本文化』講読（２）
第４週　『兎とかたちの日本文化』講読（３）
第５週　『兎とかたちの日本文化』講読（４）
第６週　『兎とかたちの日本文化』講読（５）
第７週　『兎とかたちの日本文化』講読（６）
第８週　『兎とかたちの日本文化』講読（７）
第９週　「ロシア・バレエと日本文化（１）」―外国文化を通じて日本文化を相対化する―
第10週　「ロシア・バレエと日本文化（２）」
第11週　「ロシア・バレエと日本文化（３）」
第12週　「ロシア・バレエと日本文化（４）」
第13週　「ロシア・バレエと日本文化（５）」
第14週　「ロシア・バレエと日本文化（６）」
第15週　「ロシア・バレエと日本文化（７）」
受講人数や受講学生の関心の状況に合わせて，授業計画を変更する場合がある。

日本文化基礎演習IC・IIIC

3610010100300

副　題	古事記を読む							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	LIT-103-JX LIT-235-JX

〔授業の到達目標〕
古事記を通じて，日本の言語と文字の関係性，および説話の仕組みが理解できるようになる。

〔授業の内容〕
文学は，文献を通じて享受するのを基本とする。そこでこの授業では，古典の文献を読みこなすための基礎的な力をつけることを目指す。同時に教材の内容を通じて，日本古代の文学状況に関する基本的な知識の習得をはかる。教材はわが国最古の文献資料である古事記を取り上げる。同書は和銅五年の選と伝えられており，独自の文体でこの世の始まりから説き起こし，推古天皇に至る歴代について記している。内容的には説話の宝庫であると同時に，文字による和文表記の工夫の様がよくあらわれている。この古事記について，訓読の現状を調査しつつ，文献を厳密に読むための方法の習得を目指す。そしてその読解作業を通じて古代の文学的状況の理解をはかる。授業は受講生一人ずつの分担範囲を決め，各自の調査したところを報告し，それについて全員で討論するかたちで進める。ただし，人数によっては分担を決めずに進めることがある。

〔教材〕
教科書：西宮一民編『古事記　新訂版』おうふう
参考書：大島正二『漢字伝来』岩波新書

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
当該授業時に扱う個所については，発表担当者以外の受講生もテキストを読んで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
授業時の発表(20%)及び学期末のレポート(80%)による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕
受講生の自主的な発言を授業運営の基本とする。自ら発言しようとしない学生には受講資格を認めないことがある。授業中，古語辞典の使用を必須とする。
授業時間外に質問が必要となった場合の対処の仕方は，授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　概要説明および講読箇所決定
第２週　概要説明及び分担決定
第３週　順次発表及び討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
今期に扱う個所は，受講生の希望による。

日本文化基礎演習ID・IIID

3610010100400

副　題	近代を生きた女性たち							担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	HIS-104-JX HIS-236-JX

〔授業の到達目標〕

近代日本についての歴史的なアプローチの方法を学び，基礎的な資料の調査収集・分析・報告ができるようになる。

〔授業の内容〕

近代という時代を，女性たちはどのように生きてきたのだろうか。今なお，ほとんどの近代史は男性たちがおもな登場人物であるような物語として書き継がれている。しかし，表舞台への登場こそ少なかったかもしれないが，女性たちもまた近代という時代のなかで重要な役割を演じ，ときには翻弄される存在であった。わたしたちの曾祖母・祖母・母，そして私たち自身へと至る歴史的な道のりとはどのようなものであったか。この基礎演習では，女性たちの生活・人生・仕事・価値観・思想・運動を通して，明治から現在に至る近代史の流れを改めて検証することとしたい。具体的な作業としては，鹿野政直・堀場清子著『祖母・母・娘の時代』をテキストとし，みなさんにはそこで挙げられている資料を用いて，さらに発展的な調査発表を担当してもらう。また，皆さん自身にも，曾祖母・祖母・母といった身近な女性たちに聞き取り調査をしてもらい，彼女たちが生きてきた人生と歴史的時間との交錯について学んでもらう。

〔教材〕

参考書：鹿野政直・堀場清子『祖母・母・娘の時代』（岩波ジュニア新書）岩波書店，1985年
教科書はすでに絶版のため，全文を複写して配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，事前にテキスト資料の該当回の箇所を読んで予習するとともに，自分の報告担当の回のために50時間以上かけて準備すること。

〔成績評価の方法〕

出席・授業参加（報告や質問など）・期末レポートにより，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション・作業内容と方法の説明
第２週　作業内容と方法の説明
第３週　資料収集方法の説明
第４週　報告者による報告
第５週　（以下同じ）
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IE・IIIE

3610010100500

副　題	枕草子を読む							担　当　者	伊藤　守幸　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	LIT-105-JX LIT-237-JX

〔授業の到達目標〕

枕草子を精読することによって，当時の文化や王朝貴族の心性に対する理解を深めることを目指す。また，注釈作業を通じて，辞書・研究書・学術論文等の資料を入手し，活用する方法に習熟する。

〔授業の内容〕

枕草子は，大変ポピュラーな作品である。しかし，その成立と流布の過程について，謎の多い作品でもある。この授業では，そうした書誌的問題にも目配りしながら，受講生による発表を中心に，幾つかの代表的章段を読み進める。古典作品を深く理解するための注釈作業について手ほどきする。そうした作業を通じて，図書館の利用法や各種データベースの利用法にも慣れてもらう。

〔教材〕

教科書：松尾聰、永井和子編『枕草子　日本の古典を読む』小学館，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『枕草子』の講読の準備と事後の補足的調査。

〔成績評価の方法〕

出席および発表，レポート等によって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後１時半～２時半。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入部　―仮名の成立と仮名遣い―
第２週　枕草子の特質について
第３週　枕草子と日記文学
　　発表担当者と担当箇所の確定
第４週　担当者による発表と質疑応答　―枕草子の精読―
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習IF・IIIF

3610010100600

副　題	現代日本語の談話分析							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-106-JX JPL-238-JX

〔授業の到達目標〕

学術的な研究発表の基礎（文献検索，コーパス作成，調査，分析およびプレゼンテーションなどが含まれる）を習得する。

〔授業の内容〕

談話分析という立場から「現代日本語」に関する研究の実践を体験する。発表担当の学生は，テレビのトーク番組などの日常的な口頭言語による談話資料を対象として，一文を言語の最大の単位とする研究方法（いわゆる「文－文法」）ではアプローチできないようなテーマを設定して，調査・分析・発表を行う。その発表に対して参加者全員による討論を通して考察を進めていく。発表者については，発表の内容のほかに，発表（プレゼンテーション）のやり方についても，重要な評価の対象となる。高校までの学校教育で習った「文法」に関する知識は必要ないが，毎時間積極的に討論に参加するという意識が受講学生にはなによりも要求される。

〔教材〕

購入を義務づける書籍はない。授業内容に関連の深い参考図書は，授業内でそのつど紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表のために必要な作業はA．談話資料作成，B．テーマを設定した研究発表で，Aは５時間～10時間程度（ただし日本語を母語話者でない学生はそれ以上必要），Bは20時間程度。

〔成績評価の方法〕

演習発表担当時の発表内容やプレゼンテーションの方法の良し悪しを同程度に重視して評価する。

また，討論への参加の積極性，出席状況も評価対象とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限

メール（アドレスは日本文化学科事務室へ行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　「文－文法」と「談話文法」についての概説
第２週　談話分析についての概説（研究方法としての長所と短所）
第３週　担当学生による研究発表および討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IG・IIIG

3610010100700

副　題	現代社会を社会学的に考える							担　当　者	木村　絵里子　講師
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	SOC-107-JX SOC-239-JX

〔授業の到達目標〕

（1）社会学の基礎的な文献を読み，社会学の概念や考え方を理解する。
（2）文献の内容を的確にまとめ，レポートする方法を学ぶ。
（3）現代社会を捉えるための実践的な思考力を身につける。

〔授業の内容〕

現代社会を生きるということは，どのようなことなのだろうか。「社会」とは，私たちが普段触れることのできる一側面だけでなく，諸問題が複雑に絡み合った上で成立している。このような社会の輪郭は，社会学的な見方や思考を身につけることによってある程度浮かび上らせることが可能となるのである。この基礎演習では，指定した文献のレポート発表を各受講生に担当してもらう。それをもとにディスカッションを行いながら，現代社会に対する理解を深めていく。

〔教材〕

教科書：友枝敏雄・山田真茂留『Do！ソシオロジー――現代日本を社会学で診る』（有斐閣アルマ）改訂版，有斐閣，2013年

教科書の購入の際には，「初版」ではなく「改訂版」であることに注意。なお追加文献については，授業内でいくつかの候補を挙げ，話し合いの上，決定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定した文献をあらかじめ読んだ上で出席すること。その際，自分自身の意見や疑問点などをまとめておく。この準備学習には，おおよそ4時間程度を要する。ただし，文献購読の各レポート担当者は，それ以上の準備時間が必要となる。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート（40%），出席（20%），授業での発表内容と授業への参加姿勢など（40%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション―現代日本と社会学―
第2週　『Do！ソシオロジー』購読（1）：序章
第3週　『Do！ソシオロジー』購読（2）：第1章
第4週　『Do！ソシオロジー』購読（3）：第2章，第3章
第5週　『Do！ソシオロジー』購読（4）：第4章，第5章
第6週　『Do！ソシオロジー』購読（5）：第6章，第7章
第7週　『Do！ソシオロジー』購読（6）：第8章，第9章
第8週　『Do！ソシオロジー』購読（7）：第10章，第11章
第9週　追加文献購読（1）
第10週　追加文献購読（2）
第11週　追加文献購読（3）
第12週　追加文献購読（4）
第13週　追加文献購読（5）
第14週　追加文献購読（6）
第15週　まとめ（理解度の確認）

授業計画は，受講生の人数などに応じて変更することがある。

日本文化基礎演習IH・IIIH

3610010100800

副　題	日本の昔話と伝説							担　当　者	徳田　和夫　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ANT-108-JX ANT-240-JX

〔授業の到達目標〕

1；日本に伝わる民間説話（民間伝承,口承文芸,民間文芸）のうちの「昔話」「伝説」について知識を深めます。

2；その文化史的な意義を把握します。

3；諸外国の民間説話との比較をおこなって,世界的な普遍性と各地域（日本,東アジア,ヨーロッパ）の独自性を考えます。

〔授業の内容〕

民間説話について概説し,「昔話」「伝説」を具体的に取りあげて，それぞれの特徴と意義を講義します。演習としてはそのつど，比較文化の観点から外国の類話や対応話を紹介して，普遍性と独自性を考えていきます。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『『図説：絵とあらすじでわかる！日本の昔話』』（青春新書インテリジェンス）
青春出版社，2014年

上記の教科書は日本文化学科事務室にて販売する予定です。また，折々プリント資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献は，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

レポートによる。なお，当然のことながら出席をきわめて重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始時に指示します。

〔備考〕

（1）当科目は秋学期の「比較民俗文化論1,2；(民間伝承)〔日本編〕〔外国篇〕」と連動しています。

（2）授業時における，私語，および正当な理由なき途中退出を厳禁とします。

〔授　業　計　画〕

第1週　民間説話とは？
第2週　昔話と伝説について
第3週　外国の昔話について　1；―アジア圏―
第4週　外国の昔話について　2；―ヨーロッパ圏―
第5週　本格昔話　1;
第6週　本格昔話　2;
第7週　本格昔話　3;
第8週　本格昔話　4;
第9週　本格昔話　5;
第10週　動物昔話　1;
第11週　動物昔話　2;
第12週　動物昔話　3;
第13週　笑い話　1;
第14週　笑い話　2;
第15週　まとめと解説

日本文化基礎演習II・III

3610010100900

副　題	日本の染織と服飾文化（1）							担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ART-109-JX ART-241-JX

〔授業の到達目標〕

日本の服飾史・染織史に関する基礎的な知識を修得し，また，各自が選んだテーマについて研究し報告することを通じて，文献の収集や現存作例の検討方法，プレゼンテーションの方法などを身につける。

〔授業の内容〕

人は古来，美しく装い，身の回りのものを装飾するために，染や織の技法によるさまざまな工夫を重ねてきた。また衣服には，各時代や個人の階級なども反映されている。きものを装う習慣は現代まで継承され，日本の染織・服飾文化の歴史は私たちの身近に生き続けているといえるだろう。

本演習では，近世以前から続く日本の伝統的な服飾類と染織品を主な対象として，歴史的な位置付けなどを考えていく。まず，研究方法に関する講義を行った後，服飾類および染織品に関する基礎的なテーマを各自選んで研究し，報告を行う。対象となるテーマに関する文献の収集，作例の検討方法，プレゼンテーションの方法などについては適宜解説を行う。報告までの流れを通じて，学術的な研究の基礎的な方法論を理解することを目指したい。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する文献等を各自で集め，また指定した文献を読み，発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と討論への参加（30%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

授業に関する質問の受付方法などについては，授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本服飾史・染織史研究の概要
第３週　テーマに関する研究の進め方
第４週　学生による発表
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習Ⅰ J ・Ⅲ J

3610010101000

副　題	日本近世史研究の基礎							担　当　者	岩淵　令治　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	HIS-110-JX HIS-242-JX

〔授業の到達目標〕
日本近世史研究の方法を理解することを目的とする。

〔授業の内容〕
日本近世史研究（文献史学）の研究は，近世史料と，先行研究論文の読解にもとづいている。本演習では，活字史料・研究論文について各自報告をする。活字史料については，紀州田辺藩の江戸勤番武士が江戸について記した「江戸自慢」ほかを予定している。また，将来的に日本近世史で卒業論文を書くことを想定し，研究書の感想レポートを提出してもらう。

〔教材〕
テキストはコピーを配布する。また，授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
自分の発表を担当する部分以外についても，毎回，活字史料の読み・意味を予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕
報告(40%)，レポート(30%)，出席状況(30%)により評価する。ただし，2/3以上の出席がない場合は，受講を放棄したものとみなし，評価しない。また，報告者ではない回でも，積極的に議論に参加することを期待する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
研究に関する質問・相談は金曜日の13：30～14：30に受け付ける。

〔備考〕
初回の授業には必ず出席すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業のガイダイス
第２週　江戸時代の概説
第３週　活字史料の輪読
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　論文・書籍の輪読
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
履修人数によって，計画が変更になることがあります。

日本文化基礎演習IK・IIIK

3610010101100

副　題	食品研究の基礎（1）							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	LIF-111-JX LIF-243-JX

〔授業の到達目標〕

食品研究に必要な手法・基礎技術を習得し，使用できるようになる。

〔授業の内容〕

日本の食文化に関する研究を進めるうえで基礎となる「食品」を対象とした各種研究手法を，具体的な食品素材を対象に体験して習得していく。各種の小麦加工品からテーマ食品を選択し，各種手法により多方面から調査・分析し，最終的にレポートにまとめる。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

最終的にまとめたレポート（約90%）および授業への参加状況（約10%）で成績を評価する。ただし，授業回数の３分の１を越えて欠席した場合は評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業等について質問がある場合には，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の進め方
第２週　テーマ食品の解説
第３週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（１）
第４週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（２）
第５週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（３）
第６週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（４）
第７週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（５）
第８週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（６）
第９週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（７）
第10週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（８）
第11週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（９）
第12週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（10）
第13週　結果の表示
第14週　レポートまとめ方指導
第15週　〃
授業計画は変更することがある。

日本文化基礎演習IL・IIIL

3610010101200

副　題	スポーツ文化の系譜							担　当　者	荒井　啓子　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SPO-112-JX SPO-244-JX

〔授業の到達目標〕

「スポーツを文化として捉える」という観点を学び，スポーツ文化研究の基礎的な知識と研究方法を習得する。また，資料の読解力や問題発見能力を養う。

〔授業の内容〕

スポーツは，これまで，各国の風土，時代による価値観，社会通念・制度，宗教，政治，教育，性差等から多くの影響を受けて成熟してきた。本演習では，それらの社会的・文化的・歴史的背景とともに，日本及び諸外国の，過去及び現在の様々な「スポーツ事象」を取り上げ，考察を進める。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」ということを常に考えながら，スポーツ文化研究の第一歩を踏み出していただきたい。アプローチにあたっては，スポーツ人類学及びスポーツ文化論に関する文献を用いて考察･発表･意見交換等を行うが，はじめの数回は，スポーツと周縁文化との関わりを理解するために講義を行う。さらに，スポーツ文化関連の博物館等への見学を学外授業として予定している。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

提示された資料を熟読した上で，疑問点等の解決や理解度をより深めるための参考文献や資料にあたる。その内容をレジュメとして用意し，授業時における発表の準備とする。

〔成績評価の方法〕

出席状況（40%）発表（２回・計40%），レポート（20%）によって総合的に評価する。
（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目，火曜日４時間目

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：「人はなぜスポーツをするのか？」を考える
第２週　スポーツの読み解き（１）～「スポーツ文化複合」について
第３週　スポーツの読み解き（２）～現代社会とスポーツ
第４週　スポーツの読み解き（３）～近代スポーツと民族スポーツ
第５週　学生の発表ならびに討議
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IM・IIIM

3610010101300

副　題	情報社会における問題の分析							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	INF-113-JX INF-245-JX

〔授業の到達目標〕

（1）　与えられた問題に対し，論理的な分析に基づいたレポート作成およびプレゼンテーションができる．

（2）　情報社会において現在認識されている問題について，どのような立場があるかを客観的に説明できる．

〔授業の内容〕

情報社会は私たちの生活に大きな利便性をもたらした．一方で，情報技術の急速な発展・普及に伴い，これまでの枠組みでは判断が難しい新たな問題も生じている．本授業では，情報社会の諸問題について考え，主体的な判断を行うための論理的な分析力を身に付けることを目的とする．本授業の前半では例題を通じて情報リテラシーの基礎を学び，後半で情報社会で起こっている具体的な問題（ソーシャルメディア，プライバシー，著作権など）について考える．

〔教材〕

参考書：情報教育学研究会情報倫理教育研究グループ『インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版，2013年

教科書は使用しない．各回において講義資料を配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

情報収集や資料作成は準備学習の時間に割り当てる．

〔成績評価の方法〕

各回の提出物60%と演習成果物（レポートと発表それぞれ２回）40%の計100%によって評価する．演習成果物では，調査の深さや論理的な考察の妥当性について問う．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限

shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，情報社会の特徴について概説する．
第２週　問題分析の進め方について概説する．
第３週　例題　（１）：問題の構造化
第４週　例題　（２）：情報の収集と活用
第５週　例題　（３）：文書の書き方
第６週　学生発表とまとめ
第７週　現在の情報社会で問題となっているテーマをいくつか取り上げ，概説する．
第８週　応用　（１）：問題分析
第９週　応用　（２）：対策案と副作用の検討
第10週　応用　（３）：論理の構築　（１）
第11週　応用　（４）：論理の構築　（２）
第12週　応用　（５）：根拠の提示
第13週　応用　（６）：発表の仕方
第14週　学生発表とまとめ
第15週　授業全体のまとめ

授業の後半は２～4人程度でのグループ作業を計画しているが，履修人数・学習状況によっては個人作業に変更することがある．

日本文化基礎演習IN・IIIN

3610010101400

副　題	体験学習と人間関係コミュニケーション	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-114-JX LIF-246-JX

〔授業の到達目標〕

１．人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力，ファシリテーション能力の基礎を習得する。

２．他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。

３．授業中に行われるファシリテーションについて，批判的な視点でフィードバックすることができる。

４．授業中に体験し，発見したコミュニケーションの重要点とその活用について，文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕

１．体験学習と問いかけ

いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し，体験学習法の基礎を学ぶ。

２．体験学習と人間関係コミュニケーション

学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて，セルフ・エスティームを育てるための活動，コミュニケーション能力を高める活動，協力できる力を育てる活動などを体験する。

３．体験学習と振り返り

上記１と２の体験から，どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後，グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し，ファシリテーターとして指導体験する。その後，振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

図書館での文献検索方法を習得し，コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し，コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には，文献による予習と復習が必須である。そのために４時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

１．出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%

２．授業におけるファシリテーション　20%

３．授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して，批判的な視点からの評価レポート25%

４．担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限（14：40-16：10）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

日本文化専門演習や国際コミュニケーション専門演習で実施するフードコンシャスネス教育の体験（食に関する官能検査やアンケート，試食体験など）を随時実施することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　コミュニケーションとは！　体験学習とは！
第２週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーション　アイスブレーキング他
第３週　自己能力判断　人間関係コミュニケーション　自己のコミュニケーションにとって何が必要か？　得意と不得意なところ
第４週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践　レポートの書き方
第５週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践１
第６週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践２・３
第７週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践４・５
第８週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践６・７
第９週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践８・９
第10週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10・11
第11週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践12
第12週　活動体験　フードコンシャスネス教育の体験
第13週　〃
第14週　プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
第15週　まとめ

できるだけ早期に文献を検索し,問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものである。

日本文化基礎演習IO・IIIO

3610010101500

副　題	日本語学入門							担　当　者	秋山　智美　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	JPL-115-JX JPL-247-JX

〔授業の到達目標〕

社会言語学の分析を通じて，自身で問題点を見つけ出し，分析・研究するという態度を習得する。

〔授業の内容〕

社会言語学は，文字通り，社会とことばの関係を探る学問です。男性と女性では，ことばの感じ方が違ってお互いがなかなか意図が通じないで困ることや，電車の中でおしゃべりしている若者たちの語彙やイントネーションが，お年寄りの方からするとまるで外国語のように聞こえることもよくあることです。日常生活におけるこうした言語をめぐるおもしろい言語現象をきっかけに，「社会」と「人間」と「言語」の関わりを探っていきます。また，日常生活における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびレジュメを使った講義と受講者による発表形式です。なお，各回の内容は，履修学生の興味によって変更する可能性があります。

〔教材〕

授業時にプリントを配布します。その他，参考書については適宜，授業内で指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業の予習として授業時に配布された資料を 2 時間程度かけて通読すること。
毎回，授業の復習として授業時に配布された資料を 2 時間程度かけて通読すること。

〔成績評価の方法〕

課題レポート（50%），授業への参加態度・発表（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール（aki1●amber.plala.or.jp）（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　導入
第 2 週　社会言語学調査の出発点
第 3 週　社会言語学調査の方法（1）
第 4 週　社会言語学調査の方法（2）
第 5 週　社会言語学調査の方法（3）
第 6 週　受講者による発表と討論（1）
第 7 週　受講者による発表と討論（2）
第 8 週　受講者による発表と討論（3）
第 9 週　受講者による発表と討論（4）
第10週　受講者による発表と討論（5）
第11週　受講者による発表と討論（6）
第12週　受講者による発表と討論（7）
第13週　受講者による発表と討論（8）
第14週　受講者による発表と討論（9）
第15週　受講者による発表と討論（10）

日本文化基礎演習IP・IIIP

3610010101600

副　題	近代日本美術（明治時代）							担　当　者	清水　敏男　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ART-116-JX ART-248-JX

〔授業の到達目標〕
　日本の近代美術史について基礎的な知識を修得することを目標とする。また近代美術について調べる課程で，受講生が調査研究する能力をたかめること，パワーポイントを作成し説得力のある発表をする能力を身につけることも目標である。

〔授業の内容〕
　「授業のねらい」日本の近代美術は19世紀後半,江戸末期から明治にかけて大きな変貌を遂げ,その後の日本美術のありかたに決定的な影響をおよぼした。この演習では，幕末から明治にかけて活躍した芸術家，思想家，美術運動，美術機関などについて調べ，日本の近代美術の成立について考える。
　「授業概要」明治の美術が西欧との出会いによって変化していく過程を，油彩画の探求に向かった画家たちと，伝統的絵画技法を変革し「日本画」という新しい絵画を創成した画家たちとの２グループを中心に調べ発表する。

〔教材〕
　参考書：岡倉天心『茶の本』（講談社学術文庫）第21版，講談社，2005年
　　木下長宏『岡倉天心』（ミネルヴァ日本評伝選）ミネルヴァ書房，2005年
　　北澤憲昭『眼の神殿』美術出版社，1989年
　　土方定一『日本の近代美術』（岩波文庫　青　５７４－１）岩波文庫，2012年
　　高階秀爾『日本近代美術史論』（ちくま学芸文庫）筑摩書房，2006年
　『茶の本』は受講前に全員が読むこと

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　教科書（参考書）を熟読すること。東京国立博物館，東京国立近大美術館の展示，その他明治時代の展示や特別展を調査すること。

〔成績評価の方法〕
　出席日数，展覧会調査レポート（1000字×10本），発表内容のレポート（2000字×１本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　木曜日12時半から１時まで，午後２時半から３時まで

〔授　業　計　画〕

第１週　幕末明治の美術概要
第２週　『高橋由一履歴』を読む
第３週　〃
第４週　学生発表（創成期の画家：川上冬崖，高橋由一等）
第５週　学生発表（初期油彩画家：渡欧米した画家，近代美術論争）
第６週　学生発表（初期油彩画家：工部美術学校とフォンタネージ）
第７週　学生発表（初期油彩画家：工部美術学校で学んだ画家）
第８週　学生発表（黒田清輝とその仲間）
第９週　岡倉天心『茶の本』を読む
第10週　学生発表（日本画の蠢動：フェノロサ，岡倉天心）
第11週　学生発表（日本画創成期の画家：狩野芳崖，橋本雅邦）
第12週　学生発表（東京美術学校）
第13週　学生発表（日本美術院の画家：横山大観，菱田春草等）
第14週　学生発表（日本美術院の画家：下村観山，寺崎広業等）
第15週　まとめ：日本の近代美術とはなにか

日本文化基礎演習ⅡA・ⅣA

3610010200100

副　題	アートマネジメント入門							担　当　者	尼ヶ﨑　彬　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ART-117-JX ART-249-JX

〔授業の到達目標〕

芸術文化プロジェクト立案の初歩的な知識と能力を習得する。

〔授業の内容〕

芸術は一人の天才がいるだけでは成り立たない。クリエーターと社会の間に立って，作品の制作を支援し多くの観客に届けるためのシステムを企画運営する仕事，つまりアートマネジメントを担当する者が必要である。概説ではいくつかの事例をもとに企画の方法を学び，その後演習参加者は各自演劇・舞踊公演，美術展などの芸術イベントの企画とそのマネジメントを仮想的に行い，その成果を発表する。

〔教材〕

参考書は授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

２回の発表のための予習（企画立案・プレゼン準備）は通算50時間。復習（発表内容の見直し）は10時間

〔成績評価の方法〕

授業中の発表および提出物（企画書等）による評価（70%）を基にし，出席（30%）を加味する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

下記参照

質問がある場合,簡単なことはメールでakira.amagasaki●gakushuin.ac.jp（change ● to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う。

〔授　業　計　画〕

第１週　アートマネジメントおよび授業の進め方についてのガイダンス
第２週　アートマネジメント概説
第３週　〃
第４週　学生による発表
第５週　同上
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習IIB・IVB

3610010200200

副　題	日本文化研究への第一歩							担　当　者	松枝　佳奈　講師
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ART-118-JX ART-250-JX

〔授業の到達目標〕
１．日本の伝統文化・現代文化や日本と外国文化の関係について知り，その内容を考察し説明できるようになる。　２．自ら学術書や学術論文を読み，その読解方法を習得し内容を正しく理解する。　３．学術的なレポート，小論文などを書く技術を身につける。

〔授業の内容〕
学期前半は，今橋理子著『兎とかたちの日本文化』（東京大学出版会，2013年）を教科書とし，本書を丁寧に通読することで，私たち日本人にとって古来より身近な動物である「兎（うさぎ）」をめぐる言説や美術作品などについて理解を深める。さらに脚注や論の構成，テクストや作品の解釈・分析の方法など学術書や学術論文の形式を学び，それらを主体的に読む練習を重ねる。このような作業は，２年次以降の各分野の授業や演習，４年次の卒業論文執筆などの際に学術書・学術論文の内容を正しく理解し，それらに基づいて自ら考察を行うための「基礎体力作り」となることが期待される。学期後半は，学期前半で習得したことを踏まえて，「ロシア・バレエと日本文化」をテーマに，大学図書館などにおける学術書や学術論文の調査・閲覧の方法やプレゼンテーションの方法について学び，実践する。明治期から現代までロシア・バレエが日本のバレエ文化形成に与えてきた影響や，両者の密接な関係について先行研究を十分に調べて理解し，他の学生に分かりやすく伝えることが求められる。またDVDを使ってロシア・バレエに触れる機会も設ける。このように「外国文化を通じて日本文化を相対化する」という観点を養うことは，今後，各自が日本文化研究に取り組む際に有益な助けとなることが予想される。なお本授業の内容は，春学期の「日本文化基礎演習1B」，「日本文化基礎演習3B」と同様である。

〔教材〕
教科書：今橋理子『兎とかたちの日本文化』東京大学出版会，2013年
指定教科書については，初回授業までに大学内の紀伊國屋ブックセンターにて必ず購入し，毎回授業に持参すること。その他のテキストや教材については，授業内で指示もしくは適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の準備として，教科書や配布テキストについて授業内で指定された箇所をあらかじめ熟読すること（２時間程度）。授業後に課題が指示された場合は，授業で学んだことを踏まえた上で取り組むこと（２時間程度）。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度（毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパーを含む，30%），学期中の課題小レポートの提出状況およびその内容（30%），学期末課題レポートの提出状況およびその内容（40%）を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業内で指示する。

〔備考〕
各自で学外や大学図書館などにおいて調査を行うよう指示する場合がある。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
授業概要の説明／「日本文化研究」とは／「学術書」・「学術論文」と「作文」・「感想文」の違い／『兎とかたちの日本文化』講読のまえに
第２週　『兎とかたちの日本文化』講読（１）
第３週　『兎とかたちの日本文化』講読（２）
第４週　『兎とかたちの日本文化』講読（３）
第５週　『兎とかたちの日本文化』講読（４）
第６週　『兎とかたちの日本文化』講読（５）
第７週　『兎とかたちの日本文化』講読（６）
第８週　『兎とかたちの日本文化』講読（７）
第９週　「ロシア・バレエと日本文化（１）」―外国文化を通じて日本文化を相対化する―
第10週　「ロシア・バレエと日本文化（２）」
第11週　「ロシア・バレエと日本文化（３）」
第12週　「ロシア・バレエと日本文化（４）」
第13週　「ロシア・バレエと日本文化（５）」
第14週　「ロシア・バレエと日本文化（６）」
第15週　「ロシア・バレエと日本文化（７）」
受講人数や受講学生の関心の状況に合わせて，授業計画を変更する場合がある。

日本文化基礎演習IIC・IVC

3610010200300

副　題	万葉集を読む							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	LIT-119-JX LIT-251-JX

〔授業の到達目標〕

万葉集の歌を学ぶことを通じ，日本における言語と文字との関係性，および歌の凝縮した表現を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

文学は，文献を通じて享受するのを基本とする。そこでこの授業では，古典の文献を読みこなすための基礎的な力をつけることを目指す。同時に教材の内容を通じて，日本古代の文学状況に関する基本的な知識の習得をはかる。教材はわが国最古の歌集にして和文の宝庫である万葉集を取り上げる。本年度は，その初期の歌々を扱う。その一語一句について，訓み・語彙を厳密に検討しながら，定型詩という制限の中で実現された，凝縮した語のあり方を吟味する。そしてこの作業を通じて，わが国における文学意識の芽生え，また文字使用の始原的状況にふれる。授業は受講生が一人ずつ歌・もしくは歌人を分担して各自の調査したところを報告し，それについて全員で討論するかたちで進める。

〔教材〕

教科書：小野寛編『新選　万葉集抄』笠間書院
参考書：大島正二『漢字伝来』岩波新書

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当該授業時に扱う歌については，発表担当者以外の受講生も単語の意味を調べて授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

授業時の発表(20%)及び学期末のレポート(80%)による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

受講生の自主的な発言を授業運営の基本とする。自ら発言しようとしない学生には受講資格を認めないことがある。授業中，古語辞典の使用を必須とする。
授業時間外に質問の必要が生じた場合の対処の仕方は，授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　概要説明及び講読歌(歌人)の決定
第２週　概要説明及び分担決定
第３週　順次発表及び討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
今期は初期の歌を扱う予定だが，受講生が希望する歌人・歌を優先する。

日本文化基礎演習IID・IVD

3610010200400

副　題	モダン東京研究							担　当　者	木村　直恵　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	HIS-120-JX HIS-252-JX

〔授業の到達目標〕

近代日本についての歴史的なアプローチの方法を学び，基礎的な資料の調査収集・分析・報告ができるようになる。

〔授業の内容〕

繁華街と百貨店，新交通機関と郊外開発，新しい住宅と生活のあり方など，大正から昭和初期にかけて形成されていった都市文化は，現在の私たちが享受する都市・生活文化の源流である。この授業では，これらの生活に密着した事象について，具体的な資料を基に知識を得，考えることを通じて，歴史研究の方法の基礎を学ぶことを目標とする。グループごとに，テキストをもとに各自が興味を持った事例について調査し，考えたことを発表するという作業を中心として，授業を進めていく。また，時間が許せば，このようにして得られた知識をもとに，学外見学に赴いたり，谷崎潤一郎『痴人の愛』を読解したい。各人の自由な好奇心を期待するが，調査と資料を読む手間はいとわないこと。

〔教材〕

教科書：谷崎潤一郎『痴人の愛』新潮文庫
参考書：内田青蔵『消えたモダン東京』（らんぷの本）初版，河出書房新社，2002年
　　今和次郎『考現学入門』ちくま文庫
教科書は絶版のため，コピーにて対応する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎時間，テキスト該当箇所の事前予習を要する。また，報告担当の場合は責任をもって準備を行うこと。

〔成績評価の方法〕

授業参加度と発表，レポートによって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　調査と報告の方法
第３週　資料調査と図書館利用の方法について
第４週　受講者の報告
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　『痴人の愛』演習
第14週　無声映画観賞
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IIE・IVE

3610010200500

副　題	枕草子を読む							担　当　者	伊藤　守幸　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	LIT-121-JX LIT-253-JX

〔授業の到達目標〕

枕草子を精読することによって，当時の文化や王朝貴族の心性に対する理解を深めることを目指す。また，注釈作業を通じて，辞書・研究書・学術論文等の資料を入手し，活用する方法に習熟する。

〔授業の内容〕

枕草子は，大変ポピュラーな作品である。しかし，その成立と流布の過程について，謎の多い作品でもある。この授業では，そうした書誌的問題にも目配りしながら，受講生による発表を中心に，幾つかの代表的章段を読み進める。古典作品を深く理解するための注釈作業について手ほどきする。そうした作業を通じて，図書館の利用法や各種データベースの利用法にも慣れてもらう。

〔教材〕

教科書：松尾聰、永井和子編『枕草子　日本の古典を読む』小学館，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『枕草子』の講読の準備と事後の補足的調査。

〔成績評価の方法〕

出席および発表，レポート等によって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後１時半～２時半。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入部　―仮名の成立と仮名遣い―
第２週　枕草子の特質について
第３週　枕草子と日記文学
　　発表担当者と担当箇所の確定
第４週　担当者による発表と質疑応答　―枕草子の精読―
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化基礎演習ⅡF・ⅣF

3610010200600

副　題	過去の日本語の研究							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-122-JX JPL-254-JX

〔授業の到達目標〕

文献を使用した過去の言語の研究の基礎（文献検索，資料読解，調査，分析などが含まれる）およびプレゼンテーションの技法を習得する

〔授業の内容〕

文献を手がかりとして，過去の言語を研究する方法を習得することを目的とする。使用する文献は，中世日本語の口頭言語を反映しているといわれる狂言台本のひとつである『版本狂言記』である。毎回，発表担当の学生が担当部分について注釈をほどこし，さらに各自で設定したテーマについて調査・分析・発表をおこなう形式で授業を進めていく。発表者については，発表の内容のほかに，発表（プレゼンテーション）のやり方も重要な評価の対象となる。発表者以外の学生も，毎時間積極的に討論に参加するという意識がなによりも要求される。

〔教材〕

特になし。テキストはプリント配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時に必要な作業はA．担当箇所の注釈，B．テーマを設定した研究発表で，Aのためには５～10時間，Bのためには10～20時間程度

〔成績評価の方法〕

演習発表担当時の発表内容とプレゼンテーションの方法の善し悪しを同程度に評価対象とする（80%）。その他，討論への参加の積極性（20%），出席状況（最低でも開講時数の２／３以上が必要）によって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　中世日本語と資料概説
第２週　『版本狂言記』およびその他の狂言台本や関連資料について
第３週　「発表」に関する説明
第４週　担当学生による研究発表および討論
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IIG・IVG

3610010200700

副　題	現代社会を社会学的に考える							担　当　者	木村　絵里子　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	SOC-123-JX SOC-255-JX

〔授業の到達目標〕

（1）社会学の基礎的な文献を読み，社会学の概念や考え方を理解する。
（2）文献の内容を的確にまとめ，レポートする方法を学ぶ。
（3）現代社会を捉えるための実践的な思考力を身につける。

〔授業の内容〕

現代社会を生きるということは，どのようなことなのだろうか。「社会」とは，私たちが普段触れることのできる一側面だけでなく，諸問題が複雑に絡み合った上で成立している。このような社会の輪郭は，社会学的な見方や思考を身につけることによってある程度浮かび上らせることが可能となるのである。この基礎演習では，指定した文献のレポート発表を各受講生に担当してもらう。それをもとにディスカッションを行いながら，現代社会に対する理解を深めていく。

〔教材〕

教科書：友枝敏雄・山田真茂留『Do！ソシオロジー――現代日本を社会学で診る』（有斐閣アルマ）改訂版，有斐閣，2013年

教科書の購入の際には，「初版」ではなく「改訂版」であることに注意。なお追加文献については，授業内でいくつかの候補を挙げ，話し合いの上，決定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定した文献をあらかじめ読んだ上で出席すること。その際，自分自身の意見や疑問点などをまとめておく。この準備学習には，おおよそ4時間程度を要する。ただし，文献購読の各レポート担当者は，それ以上の準備時間が必要となる。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート（40%），出席（20%），授業での発表内容と授業への参加姿勢など（40%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション―現代日本と社会学―
第2週　『Do！ソシオロジー』購読（1）：序章
第3週　『Do！ソシオロジー』購読（2）：第1章
第4週　『Do！ソシオロジー』購読（3）：第2章，第3章
第5週　『Do！ソシオロジー』購読（4）：第4章，第5章
第6週　『Do！ソシオロジー』購読（5）：第6章，第7章
第7週　『Do！ソシオロジー』購読（6）：第8章，第9章
第8週　『Do！ソシオロジー』購読（7）：第10章，第11章
第9週　追加文献購読（1）
第10週　追加文献購読（2）
第11週　追加文献購読（3）
第12週　追加文献購読（4）
第13週　追加文献購読（5）
第14週　追加文献購読（6）
第15週　まとめ（理解度の確認）

授業計画は，受講生の人数などに応じて変更することがある。

日本文化基礎演習IIH・IVH

3610010200800

副　題	うわさばなしの世界							担　当　者	徳田　和夫　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ANT-124-JX ANT-256-JX

〔授業の到達目標〕
1.民間で伝承されてきた物語（口承文芸：昔話・伝説・うわさ話）の精神文化としての意義を理解する。
2.現代社会のとくに若者や児童たちが，新たに伝承物語を形成していることを認知する。
3.「都市伝説」「現代民話」のフィールドワークと解析を行い，民俗学に親しむ。

〔授業の内容〕
民俗学の分野である口承文芸（民間伝承，民間説話）の一つに「うわさばなし（世間話）」があります。現代社会におけるそれは「現代民話」「都市伝説」と呼ばれています。
とくに児童や若者の社会で語られ広まってきた「うわさばなし」を中心に取りあげて，その形成と流布の様相を考えます。その際，「昔話」「伝説」との照らしあわせや，近代以前の事例との比較もおこないます。
参考：「もの言う動物」「口さけ女」「狐と狸の世間話」「<学校の怪談>トイレの花子さん，赤い紙・青い紙」「七不思議」「俗信・まじない・ジンクス」「紫の鏡」「こんな晩・親子の因縁」「笑う首」「追いかけてくる上半身」「ピアスの白い糸」「深夜の怪（百鬼夜行･二宮金次郎など）」「不幸な手紙・Eメール」「消えた新妻」「小さいオジサン」「動物の恩返し」「魔女・山姥」「妖怪（天狗・河童など）・お化け」,他。

〔教材〕
教科書：
参考書：池田・大島・近藤・高津・渡辺『ピアスの白い糸』『魔女の伝言板』『走るお婆さん』『幸福のEメール』（日本の現代伝説）白水社，1994～96年。常光　徹『学校の怪談―口承文芸の展開と諸相』ミネルヴァ書房，1993年。野村純一『日本の世間話』（東書選書）東京書籍，1995年。松谷みよ子『現代の民話―あなたも語り手，わたしも語り手』（中公新書，2000年，中央公論社），『現代民話考〔１〕―河童・天狗・神隠し』『現代民話考〔７〕―学校・笑いと怪談・学童疎開』『現代民話考〔10〕―狼・山犬・猫』『現代民話考〔11〕―狸・むじな』（ちくま文庫）。宮田登『都市空間の怪異』（2001年,角川選書）。
徳田和夫「オニの中世（史書編・物語編）」（『<歴史読本・辞典シリーズ>日本の鬼総覧』，1995年，新人物往来社）。「鳥獣草木譚の中世―<もの言う動物説話>とお伽草子『横座房物語』」（講座日本の伝承文学10『口頭伝承<ヨミ・カタリ・ハナシ>の世界』,2004年,三弥井書店）。『室町の妖怪―説話伝承と図像』（2016年，せりか書房）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕
総合評価（演習発表：35%，質問・発言15%，レポート：50%）によっておこないます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業開始時に指示します。

〔授　業　計　画〕

第１週　うわさばなし（世間話）とは何か。（概説１）
第２週　うわさばなしの研究方法（概説２）
第３週　中世，近世のうわさばなし（概説３）
第４週　昔話，伝説との関連（概説４）
第５週　演習発表と討議
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめと解説

日本文化基礎演習II I ・IV I

3610010200900

副　題	日本の染織と服飾文化（2）									担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ART-125-JX ART-257-JX

〔授業の到達目標〕

日本の服飾史・染織史に関する基礎的な知識を修得し，また，各自が選んだテーマについて研究し報告することを通じて，文献の収集や現存作例の検討方法，プレゼンテーションの方法などを身につける。

〔授業の内容〕

日本の染織史・服飾史の研究では，主に博物館や美術館などに所蔵される現存する染織・服飾品と，関連する史料や文献などが検討の対象となる。

本演習では，日本の染織技法や服飾様式に関連する文献を読み，基本的な理解を進め，各自報告を行う。また，授業では，染織品や服飾品の考察方法や扱い方，文献の検討方法などについても実践的な指導を行う。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する文献等を各自で集め，また指定した文献を読み，発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と授業への参加（30%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

授業に関する質問の受付方法などについては，授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　服飾史・染織史研究の方法
第３週　テーマに関する研究の進め方
第４週　学生による発表
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習II J・IV J

3610010201000

副　題	日本近世史研究の基礎							担　当　者	岩淵　令治　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	HIS-126-JX HIS-258-JX

〔授業の到達目標〕
日本近世史研究の方法を理解することを目的とする。

〔授業の内容〕
日本近世史研究（文献史学）の研究は，近世史料と，先行研究論文の読解にもとづいている。本演習では，活字史料・研究論文について各自報告をする。活字史料については，徳川幕府に「ほめられた」庶民の記録『孝義録』等の史料を予定している。また，将来的に日本近世史で卒業論文を書くことを想定し，研究書の感想レポートを提出してもらう。

〔教材〕
テキストはコピーを配布する。また，授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
自分の発表を担当する部分以外についても，毎回，活字史料の読み・意味を予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕
報告(40%)，レポート(30%)，出席状況(30%)により評価する。ただし，2/3以上の出席がない場合は，受講を放棄したものとみなし，評価しない。また，報告者ではない回でも，積極的に議論に参加することを期待する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
研究に関する質問・相談は金曜日の13：30～14：30に受け付ける。

〔備考〕
初回の授業には必ず出席すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業のガイダイス
第２週　江戸時代の概説
第３週　活字史料の輪読
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　論文・書籍の輪読
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
履習人数によって計画が変更になることがあります。

日本文化基礎演習IIK・IVK

3610010201100

副　題	食品研究の基礎（2）							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	LIF-127-JX LIF-259-JX

〔授業の到達目標〕

食品研究に必要な手法・基礎技術を習得し，使用できるようになる。

〔授業の内容〕

日本の食文化に関する研究を進めるうえで基礎となる「食品」を対象とした各種研究手法を，具体的な食品素材を対象に体験して習得していく。各種の大豆加工品からテーマ食品を選択し，各種手法により多方面から調査・分析し，最終的にレポートにまとめる。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

最終的にまとめたレポート（約90%）および授業への参加状況（約10%）で成績を評価する。ただし，授業回数の３分の１を越えて欠席した場合は評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問がある場合には，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の進め方
第２週　テーマ食品の解説
第３週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（１）
第４週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（２）
第５週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（３）
第６週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（４）
第７週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（５）
第８週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（６）
第９週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（７）
第10週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（８）
第11週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（９）
第12週　テーマ食品に関する調査・分析とその指導（10）
第13週　結果の表示
第14週　レポートまとめ方指導
第15週　〃
授業計画は変更することがある。

日本文化基礎演習ⅡL・ⅣL

3610010201200

副　題	スポーツ文化の系譜							担　当　者	荒井　啓子　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SPO-128-JX SPO-260-JX

〔授業の到達目標〕

「スポーツを文化として捉える」という観点を学び，スポーツ文化研究の基礎的な知識と研究方法を習得する。また，資料の読解力や問題発見能力を養う。

〔授業の内容〕

スポーツは，これまで，各国の風土，時代による価値観，社会通念・制度，宗教，政治，教育，性差等から多くの影響を受けて成熟してきた。本演習では，それらの社会的・文化的・歴史的背景とともに，日本及び諸外国の，過去及び現在の様々な「スポーツ事象」を取り上げ，考察を進める。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」ということを常に考えながら，スポーツ文化研究の第一歩を踏み出していただきたい。アプローチにあたっては，スポーツ人類学及びスポーツ文化論に関する文献を用いて考察･発表･意見交換等を行うが，はじめの数回は，スポーツと周縁文化との関わりを理解するために講義を行う。さらに，伝統スポーツやスポーツ文化関連の博物館への見学を学外授業として予定している。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

提示された資料を熟読した上で，疑問点等の解決や理解度をより深めるための参考文献や資料にあたる。その内容をレジュメとして用意し，授業時における発表の準備とする。

〔成績評価の方法〕

出席状況（40%）及び発表（３回を予定，レジュメの内容を含む。計60%）によって総合的に評価する。

発表を２回とした場合は，出席に加え，発表（40%）とレポート（20%）を対象とする。

（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目，火曜日４時間目

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：「人はなぜスポーツをするのか？」を考える
第２週　スポーツの読み解き（１）～「スポーツ文化複合」について
第３週　スポーツの読み解き（２）～現代社会とスポーツ
第４週　スポーツの読み解き（３）～近代スポーツと民族スポーツ
第５週　学外授業（伝統スポーツまたは博物館見学等）＜未定＞
第６週　学生の発表ならびに討議
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IIM・IVM

3610010201300

副　題	情報社会における問題の分析							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	INF-129-JX INF-261-JX

〔授業の到達目標〕

（1）　与えられた問題に対し，論理的な分析に基づいたレポート作成およびプレゼンテーションができる．

（2）　情報社会において現在認識されている問題について，どのような立場があるかを客観的に説明できる．

〔授業の内容〕

情報社会は私たちの生活に大きな利便性をもたらした．一方で，情報技術の急速な発展・普及に伴い，これまでの枠組みでは判断が難しい新たな問題も生じている．本授業では，情報社会の諸問題について考え，主体的な判断を行うための論理的な分析力を身に付けることを目的とする．本授業の前半では例題を通じて情報リテラシーの基礎を学び，後半で情報社会で起こっている具体的な問題（ソーシャルメディア，プライバシー，著作権など）について考える．

〔教材〕

参考書：情報教育学研究会情報倫理教育研究グループ『インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版，2013年

教科書は使用しない．各回において講義資料を配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

情報収集や資料作成は準備学習の時間に割り当てる．

〔成績評価の方法〕

各回の提出物60%と演習成果物（レポートと発表それぞれ２回）40%の計100%によって評価する．演習成果物では，調査の深さや論理的な考察の妥当性について問う．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限

shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，情報社会の特徴について概説する．
第２週　問題分析の進め方について概説する．
第３週　例題　（１）：問題の構造化
第４週　例題　（２）：情報の収集と活用
第５週　例題　（３）：文書の書き方
第６週　学生発表とまとめ
第７週　現在の情報社会で問題となっているテーマをいくつか取り上げ，概説する．
第８週　応用　（１）：問題分析
第９週　応用　（２）：対策案と副作用の検討
第10週　応用　（３）：論理の構築　（１）
第11週　応用　（４）：論理の構築　（２）
第12週　応用　（５）：根拠の提示
第13週　応用　（６）：発表の仕方
第14週　学生発表とまとめ
第15週　授業全体のまとめ

個人での作業を計画しているが，履修人数・学習状況によっては授業の後半は２～3人程度でのグループ作業に変更することがある．

日本文化基礎演習IIN・IVN

3610010201400

副　題	体験学習と人間関係コミュニケーション	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-130-JX LIF-262-JX

〔授業の到達目標〕
１．人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力，ファシリテーション能力の基礎を習得する。
２．他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。
３．授業中に行われるファシリテーションについて，批判的な視点でフィードバックすることができる。
４．授業中に体験し，発見したコミュニケーションの重要点とその活用について，文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕
１．体験学習と問いかけ
いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し，体験学習法の基礎を学ぶ。
２．体験学習と人間関係コミュニケーション
学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて，セルフ・エスティームを育てるための活動，コミュニケーション能力を高める活動，協力できる力を育てる活動などを体験する。
３．体験学習と振り返り
上記１と２の体験から，どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後，グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し，ファシリテーターとして指導体験する。その後，振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕
特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
図書館での文献検索方法を習得し，コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し，コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には，文献による予習と復習が必須である。そのために４時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕
１．出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%
２．授業におけるファシリテーション　20%
３．授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して，批判的な視点からの評価レポート25%
４．担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業に関する質問は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限（14：40-16：10）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕
日本文化専門演習や国際コミュニケーション専門演習で実施するフードコンシャスネス教育の体験（食に関する官能検査やアンケート，試食体験など）を随時実施することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　コミュニケーションとは！　体験学習とは！
第２週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーション　アイスブレーキング他
第３週　自己能力判断　人間関係コミュニケーション　自己のコミュニケーションにとって何が必要か？　得意と不得意なところ
第４週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践　レポートの書き方
第５週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践１
第６週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践２・３
第７週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践４・５
第８週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践６・７
第９週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践８・９
第10週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10・11
第11週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践12
第12週　活動体験　フードコンシャスネス教育の体験
第13週　〃
第14週　プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
第15週　まとめ
できるだけ早期に文献を検索し,問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものである。

日本文化基礎演習IIO・IVO

3610010201500

副　題	日本語学入門							担　当　者	秋山　智美　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	JPL-131-JX JPL-263-JX

〔授業の到達目標〕

日本語のコロケーション（共起問題）を通じて，自身で問題点を見つけ出し，分析・研究するという態度を習得する。

〔授業の内容〕

日本語におけるコロケーション（共起関係）を通じてことばとことばの結びつきの強弱はどうして起こるのか，またその事象にはどのようなことが要因として挙げられるのかを考えます。「―がいななく」という動詞があったら格助詞の前にくる名詞は何でしょうか。「馬」です。ではその名詞以外にはないのでしょうか。この授業ではこのような「ことば」と「ことば」の結びつきを探っていきます。また，日常生活における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびレジュメを使った講義と受講生による発表形式です。なお，各回の内容は，履修学生の興味によって変更する可能性があります。

〔教材〕

授業時にプリントを配布します。その他，参考書については適宜，授業内で指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業の予習として授業時に配布された資料を２時間程度かけて通読すること。
毎回，授業の復習として授業時に配布された資料を２時間程度かけて通読すること。

〔成績評価の方法〕

課題レポート（50%），授業への参加態度・発表（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール（aki1●amber.plala.or.jp）（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　コロケーション分析の手法（１）
第３週　コロケーション分析の手法（２）
第４週　コロケーション分析の手法（３）
第５週　受講者による発表と討論（１）
第６週　受講者による発表と討論（２）
第７週　受講者による発表と討論（３）
第８週　受講者による発表と討論（４）
第９週　受講者による発表と討論（５）
第10週　受講者による発表と討論（６）
第11週　受講者による発表と討論（７）
第12週　受講者による発表と討論（８）
第13週　受講者による発表と討論（９）
第14週　受講者による発表と討論（10）
第15週　まとめ

日本文化基礎演習IIP・IVP

3610010201600

副　題	20世紀後半の日本美術							担　当　者	清水　敏男　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ART-132-JX ART-264-JX

〔授業の到達目標〕
第二次世界大戦後の日本の美術動向の基礎的な知識を習得することを目標とする。また調査研究の能力を高め，パワーポイントの作成，説得力のある発表を行う能力をたかめることも目標とする。

〔授業の内容〕
「授業のねらい」20世紀後半の日本は第二次世界大戦で中断された近代美術の探求を再開した。日本は明治以降,西欧に対して受身だったが日本の芸術家たちはようやく世界と同じスピードで新しい芸術表現を展開し始めた。この授業では1950年代60年代の美術の状況を調べ，日本の近代美術，現代美術への理解を深めることを目的とする。
「授業の概要」この時代の美術状況は，関西の具体美術運動，東京の実験工房を二つの核としてスタートした。また読売アンデパンダン展，ネオダダ，ハイレッドセンター，もの派等の新しい運動が次々と生まれ，美術の最前線を切り開いた。この時代の芸術運動と芸術家について調査し，この時代をさまざまな角度から検証する。

〔教材〕
参考書：岡本太郎『今日の芸術』（知恵の森文庫）光文社，1999年
赤瀬川原平『反芸術アンパン』（ちくま文庫）筑摩書房，1994年
赤瀬川原平『東京ミキサー計画』（ちくま文庫）筑摩書房，1994年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
教科書（参考書）を熟読すること。関連の展覧会を調査すること。

〔成績評価の方法〕
1）出席，2）展覧会レポート（現代美術展覧会1000字×10本），3）期末レポート（発表内容を記述する2000字×1本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
木曜日12時半から1時，午後2時半から3時

〔授　業　計　画〕

第1週　1920年代以降1960年代までの日本の前衛美術概観
第2週　『具体美術宣言』を読む
第3週　学生発表（具体美術：吉原治良，田中敦子）
第4週　ビデオ：田中敦子
第5週　学生発表（具体美術のアーティスト）
第6週　〃
第7週　実験工房関係の文献を読む
第8週　学生発表（実験工房の理論：瀧口修造）
第9週　学生発表（実験工房のアーティスト）
第10週　〃
第11週　学生発表（ネオダダのアーティスト）
第12週　〃
第13週　学生発表（ハイレッドセンターのアーティスト）
第14週　〃
第15週　もの派，総括

日本文化政策論I

3612000100100

副　題	文化政策の基本構造							担　当　者	阿曽村　智子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	MSE-101-JA

〔授業の到達目標〕
(１)現代の文化政策に関する基本的な概念や理論について具体例に基づき理解を深める。
(２)国際的な比較等を通じて日本の文化的特性や文化的多様性についてより広い視野から考察できるようになる。

〔授業の内容〕
日本の文化政策に関する基本的な概念や理論について，具体的な政策例の紹介や諸外国の法制・行政組織との比較を通じて理解を深めつつ，その歴史的展開を概観する。理論的・歴史的な考察と共に，視聴覚教材等を用いて日本文化の諸側面に触れる機会も設ける。春学期は特に日本の工芸に関して，柳宗悦の著作の精読も行う。以上により，本講が，より広い国際的な視野から日本の文化を再考する手がかりとなるようにしたい。

〔教材〕
参考書：平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会，2000年
後藤和子編『文化政策学』（有斐閣コンパクト）有斐閣，2001年
池上惇・植木浩・福原義春編『文化経済学』有斐閣，1998年
柳宗悦『工藝の道』（講談社学術文庫）講談社，2005年
柳宗悦『手仕事の日本』（岩波文庫）岩波書店，1997年
W．ボウモル･W.ボウエン/池上惇･渡辺守章監訳『舞台芸術―芸術と経済のジレンマ』芸団協出版部，1994年
佐々木高明『日本文化の多重構造―アジア的視野から日本文化を再考する』小学館，1998年
佐々木高明『多文化時代を生きる―日本文化の可能性』小学館，2000年
柳宗悦「工藝の美」（上記『工藝の道』所収）および『手仕事の日本』は授業中にテキストとしても使用する。個別テーマについてのより詳しい文献目録は授業時に提示する。
原則的に講義は配布プリントに基づいて行う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
進度に応じて適宜与えられた課題テーマについてあらかじめ調べてくること。美術館訪問，舞台芸術鑑賞などの実践と報告レポートの作成，自主的な課外学習や読書の時間を含めて，予･復習に各回平均で２時間程度。

〔成績評価の方法〕
中間・期末レポート（50%），および平常の出席状況（リアクション・ペーパーの内容等50%）を総合的に判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
t-asomura●world.odn.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　序論：文化政策とは？
第２週　文化政策の基本概念（１）文化の諸定義
第３週　文化政策の基本概念（２）文化と文明
第４週　文化政策の基本概念（３）文化的アイデンティティ
第５週　公的支援の理論的根拠（１）文化政策の歴史的背景
第６週　公的支援の理論的根拠（２）文化経済学の先駆者たち（A.スミス，J.ラスキン，W．モリス）
第７週　柳宗悦の思想と運動―日本文化政策論の視点から―　その１．
第８週　柳宗悦の思想と運動―日本文化政策論の視点から―　その２．
第９週　公的支援の理論的根拠（３）芸術と経済のジレンマ(W.ボウモル＆W．ボウエン）
第10週　公的支援の理論的根拠（４）文化の民主化（A.トフラー，P.ブルデュー）
第11週　日本文化政策の歩みと特質（１）文化財の保護と活用
第12週　日本文化政策の歩みと特質（２）文化芸術振興基本法
第13週　日本文化政策の歩みと特質（３）地域の文化振興政策
第14週　国際交流基金の活動と文化政策の評価方法
第15週　レポート返却と講評・まとめ
学期中それぞれ一回，指定された美術館の訪問と，自由選択での舞台芸術の鑑賞を行い，それらを文化政策の観点から論じることを，中間および期末の課題レポートのテーマとする。

日本文化政策論II

3612000200100

副　題	日本文化政策の現状							担　当　者	阿曽村　智子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	MSE-102-JA

〔授業の到達目標〕
国家の枠組みを超えたグローバルな視点と地元に根差したローカルな視点をともに取り入れつつ，現代日本文化政策の課題について考察する。文化に関する政策提言レポートを作成するための基礎力を身につけるとともに，日本の文化の多様性に理解を深める機会としたい。

〔授業の内容〕
春学期の講義内容をふまえて，秋学期には理論的考察とともに具体的な事例研究を行う。また，ユネスコの文化政策の歴史的展開の検討を通じて，近年の国際社会における文化政策の動向と日本の国際文化協力の実際や今後の課題ついても考察する。

〔教材〕
参考書：ジョセフ・L・サックス/都留重人監訳『「レンブラント」でダーツ遊びとは―文化的遺産と公の権利』岩波書店，200１年
林容子『進化するアートマネジメント』レイライン，2004年
高階秀爾『芸術のパトロンたち』（岩波新書）岩波書店，1997年
M.K.スミス・M.ロビンソン/阿曽村邦昭・阿曽村智子訳『文化観光論―理論と事例研究　上・下』古今書院，2009年
野口　昇『ユネスコ―50年の歩みと展望』シングルカット社，1996年
佐々木正幸・川崎賢一・河島伸子編著『グローバル化する文化政策』勁草書房，2009年
原則，配布資料に基づき講義を行う。個別テーマについてのより詳しい文献目録は授業時に提示する。副教材として，適宜視聴覚教材を使用する予定である。文化を政策の対象とすることの意義と課題について学ぶとともに日本の文化の多様性に触れる機会ともしたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
与えられた課題テーマについてあらかじめ調べてくること。身近な文化遺産など文化政策の対象となる案件の実例について主体的な調査を行うこと。日頃から地元の文化政策に関する情報を集め，できれば，芸術鑑賞の機会を多く持つこと。これらの総合的な学習を含めて，予・復習に各回平均で２時間程度。

〔成績評価の方法〕
学期末には各自が地域の「文化政策提言」を作成・提出することを課題とする。課題の成果（60%）と，授業参加時の積極性（リアクション・ペーパーの内容等40%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
t-asomura●world.odn.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　序論：文化多様性の時代―世界の構造的変化と日本文化政策の展開
第２週　文化と公共性（１）文化遺産と公的権利の諸問題
第３週　文化と公共性（２）文化的景観保全の現代的課題　その１―倉敷と鞆の浦の事例―
第４週　文化と公共性（３）文化的景観保存の現代的課題　その２―白川郷・五箇山の事例―
第５週　文化と経済（１）現代における文化の創造と消費のメカニズム
第６週　文化と経済（２）メセナの歴史的系譜と企業メセナ，フィルアンソロピー＆CSR
第７週　文化と経済（３）舞台芸術としての日本の伝統芸能
第８週　国際文化交流政策（１）ユネスコ「文化遺産保護六条約体制」の形成と展開
第９週　国際文化交流政策（２）無形文化遺産条約と「文化的アイデンティティ」の諸問題
第10週　国際文化交流政策（３）文化多様性宣言の意義と文化多様性条約の課題
第11週　日本文化の多様性（１）世界の先住民問題とアイヌ文化振興政策
第12週　日本文化の多様性（２）沖縄の文化・歴史と文化観光振興政策
第13週　日本文化の多様性（３）海外における日本文化・日本語教育の歴史的展開
第14週　まとめ　世界の中の日本―日本文化紹介・日本語教育の実情と課題
第15週　レポート返却と講評・まとめ

日本人論I

3612001100100

副　題	神々と祭り							担　当　者	小平　美香　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	JPN-103-JA

〔授業の到達目標〕

日本の神々や祭りに関する基本的な知識をもてるようになること。

「日本人」や「日本の文化」に関して，自らの言葉で語ることができるテーマをもてるようになること。

〔授業の内容〕

「神々と祭り」という歴史・文化的な観点から日本人について考える。神々や祭りに関わる古典，歴史書，法制書など古代，中世の文献や絵画をはじめ，儀礼などから日本人がどのように神々と関わってきたのかという考察を通じて,「自然」「食」「ケガレ」「女性」「子供」といった，日本文化を考える上で，いくつかの重要なテーマが浮かび上がってくるだろう。

〔教材〕

参考書：小平美香『女性神職の近代―神祇儀礼・行政における祭祀者の研究―』ぺりかん社他

教科書は用いずプリントを配布する。参考書は授業の中で適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に指示される，文献の講読・キーワードについての予習・復習

〔成績評価の方法〕

レポート（60%），課題（20%），リアクションペーパー（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外の場合は，学科事務室を通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　日本人論とは―日本文化を理解するために
第２週　古代の伝承にみられる神々のかたち
第３週　神々へのタタエゴト
第４週　祟りをなす神々
第５週　罪とハラエ
第６週　祭りと儀礼
第７週　神と人との食１
第８週　神と人との食２
第９週　祭りの中の子ども
第10週　祭りと女性１
第11週　祭りと女性２
第12週　女神から童子神へ
第13週　造形と儀礼
第14週　本居宣長の「かみ」論
第15週　まとめ

日本人論II

3612001200100

副　題	近代日本の家、家族・家庭							担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	JPN-104-JA

〔授業の到達目標〕

近代日本における家族生活をめぐる思想・イデオロギーや，現実の家族形態のあり方の変遷を多角的に学び，近代家族論の分野の基礎知識を身につける。

〔授業の内容〕

結婚は家と家との結びつきだという考え方，結婚したら女性は「家」に入るものだという意見，女児の誕生よりも男児の誕生を喜ぶ傾向，「長男の嫁」という立場に課せられる重い役割…，私たちは現在でもときどきこのような考え方や感覚が，日本人のあいだに浸透しているのを感じることがあるだろう。このような感覚は，はたして伝統的なものなのだろうか，それとも意外にこうした感覚が多くの人に共有されるようになったのは，近い時代のことなのだろうか。

人間にとって，自分がそのなかで生まれ育ち，生活を営んでいく家・家族・家庭といった単位は，多様でありながらもほぼ普遍的に経験されてきたものである。とりわけ近代の日本においては，「家・家族・家庭」はたんに慣習的・伝統的に人々の人生に関わる単位としてではなく，法的・政治的・思想的にさまざまなかたちで「日本人」を把握し構成する概念やイデオロギーとして，大きな役割を果たしてきた。またそれのみならず，個々人の実人生に対しても強い影響力や拘束力を及ぼすものでもあった。

今期の授業では，近代日本で編成されていった「家・家族・家庭」をめぐる言説や実践を取り上げつつ，近代「日本人」の生活と人生に対する感覚を概観してみたい。それを通じて，各々が現代家族や家庭をめぐる近年の新たな問題や傾向について考える糧としてもらえれば幸いである。

〔教材〕

参考書：『21世紀家族へ』（ゆうひかく叢書）第3版，落合恵美子，2004年
鹿野政直『戦前・「家」の思想』第2版，創文社，1992年
海野福寿・大島美津子『家と村』（近代日本思想大系）岩波書店，1989年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後，その授業で扱った内容について復習し，理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

授業出席と期末試験で評価する。試験期間中に試験を実施する。出席が全回数の７割に満たない場合は評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　近世的「家」の成立と動揺
第２週　近世的「家」の崩壊から近代へ
第３週　戸籍法と「家」の再編
第４週　西洋的家族観・男女関係間の紹介と「家」批判
第５週　「ホーム」と「恋愛」
第６週　民法編纂事業と民法典論争
第７週　家族国家観と「家」の擬制化
第８週　「家庭」家族の誕生
第９週　良妻賢母思想と家族生活の改造
第10週　「家」への抵抗と反逆
第11週　総動員下の「家」と「家庭」
第12週　戦後改革と民法改正
第13週　高度成長期の家族と郊外
第14週　変容する家庭・家族と親密圏
第15週　まとめ

日本語学I

3612010100100

副　題	現代日本語の諸相							担　当　者	福島　直恭　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	JPL-105-JA

〔授業の到達目標〕

日本語学に関する基礎知識を習得する。基礎知識の内容としては，言語分析に必要な概念，術語，基本的立場などがあげられる。

〔授業の内容〕

はじめに，日本語を含めたすべての言語に共通する一般的特徴について概説する。つぎに現代日本語に関して音的側面，語彙的側面，文法的側面から概説する。日本語を科学的に考察することとは，具体的にはどういうことであり，どういうことではないのかということを理解することが一番の目標となる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に必要な時間は各 2 時間程度

〔成績評価の方法〕

学期末に行われる試験かレポート（80%）および出席状況（20%）による。単位取得のためには開講回数の 3 分の 2 以上の出席も必須。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜 2 限

メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　「日本語を話す」ことと「日本語について話すこと」の違い
第 2 週　日本語研究ではない日本語に関する言説の具体例とその非論理性
第 3 週　言語の一般的特徴①－言語の音的単位－
第 4 週　言語の一般的特徴②－言語の意味的単位－
第 5 週　言語の一般的特徴③－文法とは何か－
第 6 週　世界の言語と日本語
第 7 週　日本語の音的単位①－日本語の母音と子音－
第 8 週　日本語の音的単位②－音節と拍－
第 9 週　日本語の音的特徴－清音と濁音－
第10週　日本語の音的特徴－現代日本語のアクセント－
第11週　日本語の語彙的特徴－和語と借用語－
第12週　日本語の文法的単位－単語と文節と文－
第13週　日本語の文法的特徴①－「は」と「が」－
第14週　日本語の文法的特徴②－日本語構文－
第15週　まとめ

日本語学II

3612010200100

副　題	日本語の歴史							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	JPL-106-JA

〔授業の到達目標〕

過去の言語変化に関する記述を通して，「歴史として認識する」ということはどういうことであって，どういうことではないかということを理解する。科学としての言語研究の立場から言語変化を分析する方法を理解する。

〔授業の内容〕

過去の日本語の変化のうち，上代～中古～中世に起こったもののいくつかに焦点をあてて，それらの変化前と変化後では何がどう変わったのか，また，それらはどういう意味をもつ変化だったのかを考えていく。日本語に起こったいろいろな変化を単に羅列するのではなく，一見，相互に直接的な関係がないようにみえる諸変化間に，因果関係や相関関係を見出し，言語変化や，言語の歴史的研究についての理解を深めることを目的とする。

〔教材〕

参考書：亀井孝他『日本語の歴史２．３』平凡社ライブラリー，2007年
特になし。毎回プリント配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習，復習のための必要な時間は毎回各２時間程度

〔成績評価の方法〕

最低でも開講時数の２／３以上の出席が必須で，それをクリアした者だけが学期末におこなうレポートか試験を受けることができる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　人間の歴史，言語の歴史，日本語の歴史
第２週　古代日本語の姿１　古代日本語の音的特徴
第３週　古代日本語の姿２　八母音から五母音へ１
第４週　古代日本語の姿３　八母音から五母音へ２
第５週　古代日本語の姿４　音的側面の変化と借用語
第６週　ハ行音の変遷１
第７週　ハ行音の変遷２
第８週　音便形の成立
第９週　アクセントの体系的変化
第10週　助動詞の数の減少１
第11週　助動詞の数の減少２
第12週　終止形と連体形の合流
第13週　二段活用の一段化１
第14週　二段活用の一段化２
第15週　まとめ

日本思想史I

3612011100100

副　題	神社・神道のなりたち							担　当　者	小平　美香　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	PHL-107-JA

〔授業の到達目標〕

神社や神道のなりたちについて，説明できるようになること。
歴史資料を読解することができるようになること。
神道を通じてさらに広く日本の思想に対する理解を深められるようになること。

〔授業の内容〕

４世紀から14世紀を対象に，神社や神道の成立を神々への信仰と神仏関係を軸に考える。
神道思想の形成から神道の成立を考えることによって，日本の思想のみならず，日本の思想や文化がいかに東アジア世界と不可分にむすびついてるかが理解されるであろう。

〔教材〕

参考書：佐藤弘夫『概説日本思想史』ミネルヴァ書房，2005年
　　岡田荘司『日本神道史』吉川弘文館，2010年他
教科書は用いず，プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に指示される文献資料読解・課題の予習
授業時プリントの復習と神道の成立に関する「年表」の作成

〔成績評価の方法〕

学期末試験（50%），課題（30%），リアクションペーパー（20%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外の場合は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション　日本思想史とは
第２週　祭祀遺跡から考える「神社の成立」
第３週　『古事記』『日本書紀』とその編纂意図について
第４週　神々の系譜と氏祖
第５週　律令国家の形成
第６週　神祇令と唐の「祠令」
第７週　『延喜式』にみられる神祇行政と祭祀
第８週　神仏関係
第９週　八幡神と本地垂迹
第10週　平安時代の神社と祭祀
第11週　神道思想の形成１－両部神道
第12週　神社参詣１－僧侶たちの伊勢参宮
第13週　神道思想の形成２－伊勢神道
第14週　神社参詣２－参詣曼荼羅を読む
第15週　まとめ―日本思想史から考える神道

日本思想史II

3612011200100

副　題	日本の近代を考える							担　当　者	小平　美香　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	PHL-108-JA

〔授業の到達目標〕

近代史の中から，自分自身の中の関心を発見できるようになること。
歴史資料を使って主体的に事象を調べたり，論じたりすることができるようになること。

〔授業の内容〕

公文書をはじめ，雑誌，日記，絵画等様々な近代の資料を取り上げ読み解く作業を通じて，明治維新を迎えた日本が，どのような思想のもとに近代化をすすめたのかということを，教育，宗教，産業，福祉の観点から考える。学習院の歴史や近代化における女性の問題も取り上げたい。

〔教材〕

参考書：鳥海靖『もう一度読む山川日本近代史』山川出版社，2013年
小平美香『昭憲皇太后からたどる近代』ぺりかん社，2014年他
教科書は用いず，資料を配布する。講義時にテーマごとの参考文献を指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に指示される資料の読解，課題の予習と復習

〔成績評価の方法〕

レポート（60%），課題（20%），リアクションペーパー（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外の場合は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション　明治維新とは
第２週　近代教育の発祥と漢学
第３週　学制とその変遷
第４週　福澤諭吉の思想と学問
第５週　神仏分離政策
第６週　国民教化運動
第７週　女子教育１
第８週　女子教育２
第９週　渋沢栄一の思想と活動
第10週　官営富岡製糸場
第11週　欧化政策と洋装
第12週　博覧会
第13週　佐野常民―博愛社と赤十字社
第14週　婦人慈善会
第15週　まとめ

日本思想史III

3612011300100

副　題	古事記天皇代を読む							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	PHL-109-JA

〔授業の到達目標〕

奈良時代の人々の構築しようとした歴史の意味が理解できるようになる。

〔授業の内容〕

古事記は全三巻からなっており，そのうちの中巻と下巻が，初代神武天皇以下歴代天皇の治世を描く。しかしそれは歴史的事実そのものではない。本講義では，古事記中・下巻をテキストとして順次読み進めながら，奈良時代の人々がいかに自分たちの過去を構築しようとしたのかを考察してゆく。

〔教材〕

教科書：西宮一民編『『古事記』修訂版』おうふう

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

期末試験による(100%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　古代の文献に関する基礎知識
第２週　古事記とは何か
第３週　神武記
第４週　〃
第５週　崇神記垂仁記
第６週　景行記
第７週　成務記仲哀記
第８週　応神記
第９週　仁徳記
第10週　〃
第11週　履中記反正記
第12週　允恭記安康記
第13週　雄略記
第14週　〃
第15週　清寧記顕宗記

日本思想史IV

3612011400100

副　題	風土記を読む							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	PHL-110-JA

〔授業の到達目標〕

古代の人々が，自分たちを取り巻く世界について，どのように認識していたかが理解できるようになる。

〔授業の内容〕

風土記は奈良時代に編まれた地誌であり，そこには当時の人々が自分たちを取り巻く世界に対し，様々に格闘し，認識しようとした努力の跡が記し留められている。この風土記の記述を通して，彼らの思考のありようを探ってみたい。

〔教材〕

授業時にプリント配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験による(100%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　古代の文献に関する基礎知識。
第２週　風土記とは何か。
第３週　出雲国風土記
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　常陸国風土記
第８週　〃
第９週　〃
第10週　播磨国風土記
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　九州風土記
第15週　逸文

日本文学史I

3612012100100

副　題	平安時代の物語を読む（前半）							担　当　者	伊藤　禎子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	LIT-111-JA

〔授業の到達目標〕

各自なりの平安文学観を持てるようにする。

〔授業の内容〕

かな物語成立の初めである『竹取物語』から『源氏物語』までの作品を読みながら，文学史の流れを解説する。

〔教材〕

プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各作品についての基礎的事項（作者，年代，あらすじ等）を事前に確認しておく。

〔成績評価の方法〕

出席点と学期末試験（100%）で成績を評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　竹取物語 1
第 3 週　竹取物語 2
第 4 週　落窪物語 1
第 5 週　落窪物語 2
第 6 週　落窪物語 3
第 7 週　うつほ物語 1
第 8 週　うつほ物語 2
第 9 週　うつほ物語 3
第10週　うつほ物語 4
第11週　源氏物語 1
第12週　源氏物語 2
第13週　源氏物語 3
第14週　授業のまとめ 1
第15週　授業のまとめ 2

日本文学史II

3612012200100

副　題	平安時代の物語を読む（後半）							担　当　者	伊藤　禎子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	LIT-112-JA

〔授業の到達目標〕

各自なりの平安文学観を持てるようにする。

〔授業の内容〕

『源氏物語』とそれ以後の物語を読んでいくことで，平安文学がどのように展開しているかについて解説する。

〔教材〕

プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各作品についての基礎的事項（作者，年代，あらすじ等）を事前に確認しておく。

〔成績評価の方法〕

出席点と試験（100%）で成績を評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　平安時代物語（前半）の概略
第 3 週　源氏物語 1
第 4 週　源氏物語 2
第 5 週　源氏物語 3
第 6 週　狭衣物語 1
第 7 週　狭衣物語 2
第 8 週　狭衣物語 3
第 9 週　夜の寝覚 1
第10週　夜の寝覚 2
第11週　浜松中納言物語
第12週　松浦宮物語
第13週　とりかへばや，その他
第14週　授業のまとめ 1
第15週　授業のまとめ 2

民俗学I

3612014100100

副　題	衣食住の民俗							担　当　者	山崎　祐子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ANT-113-JA

〔授業の到達目標〕

衣食住の民俗を通して，日常生活の変遷を学び，日本民俗学の基本的な考え方や学術語彙を説明できるようにする。

〔授業の内容〕

私たちの生活は，ハレ（非日常）とケ（日常）に分けることができるが，この授業では，ケの部分を取り上げる。衣食住という当たり前の日常生活を民俗学の視点でテーマを設定し，解説をする。民俗調査報告書，市町村史などの資料の扱い方，読み方を学ぶ。

〔教材〕

教科書は使用せず，毎回，資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し，授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパーなどの平常点（30パーセント）と試験（70パーセント）で総合的に判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後，質問に応じる。日本文化学科を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　身体尺と尺貫法
第３週　民家の見方
第４週　炉と竈
第５週　自給自足の暮らし
第６週　木綿以前の衣料
第７週　仕事着の工夫
第８週　履物と被り物
第９週　日常の食事
第10週　雑穀の食べ方
第11週　発酵食品（スシの民俗）
第12週　涼しく暮らす知恵
第13週　生活の道具
第14週　まとめ（柳田国男の『食物と心臓』をめぐって）
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

民俗学II

3612014200100

副　題	女性と子どもの民俗							担　当　者	山崎　祐子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ANT-114-JA

〔授業の到達目標〕

日本人の生死観の概念図を用いて，通過儀礼の意義を説明できるようにする。女性と子どもに関わる民俗を通して，民俗学の考え方を身につける。

〔授業の内容〕

私たちの生活は，ハレ（非日常）とケ（日常）に分けることができるが，この授業では，ハレの部分を取り上げる。出産，子育て，結婚などの儀礼や，生活改善の諸活動などについて解説する。民俗調査報告書，市町村史のほか，日本の昔話や伝説，手記などを資料として用い，書かれたものから何が読み取れるかを解説する。

〔教材〕

教科書は使用せず，毎回，資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し，授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験（70パーセント），リアクションペーパーなどの平常点（30パーセント）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の終了時に質問を受け付ける。ほか，日本文化学科事務室を通して連絡を受ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　通過儀礼概論
第３週　出産
第４週　〃
第５週　子どもから大人へ
第６週　〃
第７週　成人の儀礼
第８週　口承文芸と教育
第９週　結婚の儀礼
第10週　五月五日と女の家の民俗
第11週　手記を読む
第12週　生活改善の諸活動
第13週　「遠野物語」を読む
第14週　まとめ
第15週　〃
授業計画は変更することがある。

日本政治経済史

3612015400100

副　題	都市江戸を舞台に							担　当　者	岩淵　令治　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	HIS-115-JA

〔授業の到達目標〕

江戸時代の政治・経済の実態を理解する

〔授業の内容〕

都市江戸を素材として，江戸時代の政治と経済のしくみを検討する。都市政策の決定過程と伝達，治安維持，「平和な世」における幕府権威の発現の場や方法，奉公人，酒の流通，入札など，都市生活とかかわる側面をとりあげる。単なる制度や概説ではなく，その実態を描くことに留意したい。

〔教材〕

参考書：岩淵令治編『江戸・大坂・京の三都物語』（週刊朝日百科日本の歴史30）朝日新聞社，2014年
杉森哲也・岩淵令治ほか『日本近世史』放送大学教育振興会，2013年
講義中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回配布するプリント類，参考文献・論文の内容確認。

〔成績評価の方法〕

講義中に実施する小テストおよび出席・授業態度（40%），期末試験（60%)。なお、出席は３分の２以上があくまでも条件であり、出席点はとらない。期末試験は記述式で，ノートと講義中に配布したプリント持ち込みを可とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

研究に関する質問・相談は金曜日の13：30～14：30に受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　江戸時代の概説
第２週　政治１　政策の決定
第３週　政治２　法の伝達
第４週　政治３　裁判制度と実態
第５週　政治４　治安維持
第６週　政治５　権威（１）　江戸城門番
第７週　政治６　権威（２）　行列
第８週　政治７　権威（３）　大名家の葬送儀礼
第９週　経済１　概説
第10週　経済２　商家奉公人の世界
第11週　経済３　都市の地価
第12週　経済４　仲間・組合
第13週　経済５　江戸住商人の成長と酒の流通
第14週　経済６　入札
第15週　まとめ
進捗によって，計画を変更することがある。また，可能であれば，博物館見学を一回実施したい。

日本社会制度史

3612016400100

副　題	近代以前の社会・家族と慣習・法							担　当　者	菅原　正子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-116-JA

〔授業の到達目標〕

西洋文化が流入する近代より以前の日本では，西洋とはまったく異なった慣習や法が存在し，隣の中国等の影響を受けながらも独自の日本社会・文化を発展させていった。この独自性には現代の日本社会に受け継がれている部分もある。授業では，近代以前の中世を中心に古代・近世・近代にも言及しながら，日本の社会や家族についてさまざまな慣習・法などからみていき，西洋や中国とも比較しながらその独自性について理解する。

〔授業の内容〕

社会のなかでも特に女性に関する事柄を多く取り上げる。法にみえる女性，男女の子供の教育，人生儀礼，家族・夫婦，社会や政治の場で活動した女性などについて，具体的な史料をみながら考察する。歴史学の根拠となる史料の大切さも知ってほしい。

〔教材〕

教科書：菅原正子『日本人の生活文化〈くらし・儀式・行事〉』第2刷（2012年）版，吉川弘文館，2008年

参考書：菅原正子『日本中世の学問と教育』（同成社中世史選書）同成社，2014年

第４週以降は教科書を使用する。毎回プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日本史の基礎的な知識として，少なくとも時代区分（原始～近代，○○時代），ときの政府・統治者（朝廷・幕府，天皇・将軍，織田信長・豊臣秀吉など）は知っておいてほしい。

〔成績評価の方法〕

期末試験の成績で評価する。毎回提出するリアクションペイパーは参考にはするが点数にはしない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに―日本の社会制度・法・慣習
第２週　日本の法と政治の歴史
第３週　朝廷の天皇・皇后・女官
第４週　鎌倉幕府の法典『御成敗式目』
第５週　子供のための教訓書
第６週　男子・女子の教育
第７週　子供の人生儀礼―七五三と成人式の源流
第８週　結婚・離婚・再婚
第９週　財産の相続と所有
第10週　夫婦の氏姓
第11週　夫婦とジェンダー
第12週　衣服と女性
第13週　女性の芸術活動―美術と芸能
第14週　政治を行なった女性たち
第15週　おわりに

伝統文化論II（茶）

3612051200100

副　題	茶の湯文化							担　当　者	谷村　玲子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	TRD-118-JA

〔授業の到達目標〕

茶の湯文化を広く学際的方法で理解し，また喫茶がどのように伝統文化になっていくかを歴史から学ぶ。その上で茶の湯という文化を，どうやって世界の人々に伝えていくかを学生に考えさせたい。

〔授業の内容〕

茶の湯が日常的な喫茶とは大きく異なることを学生一人一人に理解させたい。導入として植物学におけるチャ，その伝播，そして日本の茶の湯文化と西洋紅茶文化の違いを明らかにする。学生が茶の湯が日本独特な芸能であることを理解した上で，本講義においては，茶の湯を，一；作法・点前という身体技法，二；数々の茶道具，三；茶室・茶庭の三つの要素から説明していく。建築・陶器・文学　等の様々な参考資料そして画像を用いながら，茶の湯を通して，人と物との関係，日本人の美意識，自然観を学生に考えさせたい。

さらに学期後半には，茶の湯史を従来の日本文化史の領域にとどまらず，文化人類学・教育学，社会学といった学際的視点から説明する。様々な視点から学生一人一人の興味を刺激し，新しい茶の湯研究の可能性を指摘したい。

〔教材〕

参考書：村井康彦『千　利休』（NHK　ブックス２８１）日本放送出版協会
熊倉功夫『茶の湯の歴史』（朝日選書　４０４）朝日出版社
Varley & Kumakura, *Tea in Japan*, University of Hawaii Press, 1989

毎回の講義ごとにその日の講義内容と史資料を各自に配布する。日本文化の講義ではあるが，広く比較文化や思想史関係，さらに英文参考書も講義の中で紹介の予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

翌週の内容を予告するので，特に歴史に関することは常識的な概史を読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末試験：配布資料と自筆ノートのみ持ち込み可

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　茶の湯研究とは何かを説明する。シラバスの確認を行った後に，正式な茶会のビデオをみて，茶の湯文化に関する自由な意見調査を行う。
第２週　茶とは：植物としてのチャ。そして西洋の茶文化
第３週　茶道具：茶道具，日本と中国の工芸品の違い。道具から見た日本人の美意識の変化
持参の茶杓に各自学生は「銘」を付けて，授業終了時に提出。
第４週　茶の湯に見られる自然：茶庭の自然・身体技法，茶道具，そして茶庭における自然。
第５週　茶事：四時間にわたる正式の茶会。それぞれの場面での特殊な身体動作，そして水・灰・音（消音）・火の象徴する意味を考える。
第６週　茶の湯の歴史：茶に関する中国と日本の最古の文献を読む。遣唐使・平安時代・鎌倉時代の茶の湯
第７週　室町時代の茶の湯：会所の茶の湯とやつしの美意識の出現
第８週　戦国時代：南蛮文化と自由都市堺。最後に現代に伝わる南蛮文化の影響を考える。
第９週　下克上と茶の湯：信長・明智光秀・秀吉の茶会記録を分析する。
第10週　利休の茶会：天文十三年（一五四四）～天正一八年（一五九０）の会。約五十年にわたる利休の茶の湯の変容を茶会から探る。
第11週　利休の茶室：空間から見た利休の茶。秀吉の黄金の茶室，安土城，そして利休作と伝わる山崎の待庵を用いて，利休の茶とは何か，人々はなぜ利休の茶に惹かれたのかを考える。
第12週　利休の最後と利休後の茶の湯：利休の死のなぞ。利休の死後に茶の湯をリードした戦国大名の茶の湯。
第13週　江戸時代の茶の湯と家元制度：三千家の成り立ちの歴史。そして社会学的視点からみた家元制度。
第14週　武家の茶の湯：石州流茶の湯と武家茶人
第15週　女性と茶の湯：江戸時代から現代へ
出来るだけシラバスに沿って講義を進める所存である。しかし講義は“生き物”であり，受講学生の人数，興味　知識によって，時に内容に変化を持たせる可能性もある。

伝統文化論Ⅳ（書）

3612051400100

副　題								担　当　者	齊藤　登　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	TRD-120-JA

〔授業の到達目標〕

文字を通しての，和・漢文化・時代を解説する。

〔授業の内容〕

文字の歴史は，大陸日本を問わず正史であることは言うまでもありません。従って本講座では，文字より見た和・漢の歴史を中心に進めていきます。また，現在使用（含む作品）しうる文字は甲骨，金文，古文，篆書，隷書，草書，行書，楷書，草仮名，平仮名，片仮名などがあり，その使用目的，時代背景，エピソードなどを混え乍ら解説していきます。

〔教材〕

教科書：『全国大学書道学会「書の古典と理論」』光村図書出版（株）

参考書：『書学書道史学会「書道史年表事典」』萱原書房

漢字，殷代より清代の名品解説。仮名，成立期の時代背景の説明。これらは文化遺産ですので時代，作品共覚えるのに必要になります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習より復習に重点を置いて下さい。所謂，時代作品の名称を必ず覚える為。

〔成績評価の方法〕

レポート又は試験，人数による。出席重視。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　上記各体（10体）の説明。
第２週　「甲骨」殷代で使用された意義（政＝祭）を考える。
第３週　「金文」殷代の神器より黄金期の周代（西周）を解説。
第４週　「篆書の成立」春秋・戦国時代より秦の統一までを見る。
第５週　「隷書」漢帝国の文字と文化。
第６週　「隷書」より「草書」への経緯を解説。
第７週　草書の名品と日本へ渡来し草仮名への変革を解説。
第８週　「王羲之」を中心に行書の名品解説。我国への流入を見る。
第９週　「楷書」二大黄金期中，唐代の名品と北魏の雄渾な書を解説。
第10週　「漢倭奴国王印」の発見，漢字流入期を考える。
第11週　日本各地に残る文字の資料を解説する。
第12週　聖徳太子・法華義疏よりその他の金石文を考察。
第13週　奈良朝より平安初期までの書文化解説。
第14週　三筆と三跡の別，唐様より和風へ。仮名美の完成。
第15週　和・漢文字文化の相異点。

永い歴史を僅か15週で解説する為，欠席すると追いてこられなくなります。文字を通しての古代史解説です。

伝統文化論V（舞踊）

3612051500100

副　題	日本の伝統芸能を知る・学ぶ							担　当　者	森田　ゆい　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	TRD-121-JA

〔授業の到達目標〕
日本の伝統芸能の概要について人に説明出来る程度に理解する。

〔授業の内容〕
日本の伝統芸能には様々なジャンルがありますが，それぞれが固有の表現様式を持っています。
本授業では能楽，文楽，歌舞伎，日本舞踊，地唄舞，琉球舞踊等の映像を比較しながらそれぞれの表現様式の特徴を学びます。
最後にスポーツ科学の手法を用いた舞手の身体の分析結果などについて紹介します。

〔教材〕
授業中に紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業中に紹介する関連書籍を読むとより理解が深まります。

〔成績評価の方法〕
授業で学んだことを手がかりに興味を持った内容について題材を決め，レポートを作成する（30点）。
舞台鑑賞後にレポート作成（10点）。伝承について考えるレポート作成（10点）。
出席点（50点）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕
授業期間内に１回以上舞台公演を鑑賞して頂きます。
お勧めの舞台については授業中に紹介します。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本の伝統芸能概論
第３週　「道成寺」能楽と歌舞伎
第４週　「曽根崎心中」文楽と歌舞伎
第５週　舞と踊　日本舞踊と地歌舞
第６週　能　代表的な作品
第７週　狂言　代表的な作品
第８週　歌舞伎　代表的な作品
第９週　文楽　代表的な作品
第10週　伝承について考える
第11週　「道成寺」民俗芸能，組踊，文楽，その他様々な道成寺
第12週　「三番叟」民俗芸能，能楽，歌舞伎舞踊
第13週　舞手の身体
第14週　舞楽，琉球舞踊，韓国舞踊
第15週　総括

伝統文化論VI（演劇）

3612051600100

副　題	『風姿花伝』を読む							担　当　者	岩崎　雅彦　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	TRD-122-JA

〔授業の到達目標〕

古典芸能に対する理解を深める。

〔授業の内容〕

世阿弥の能楽論を読む。能は室町時代に生まれた舞台芸能であり，完成された劇形態の芸能としては日本最古のものである。能を大成したのが観阿弥とその子の世阿弥である。特に世阿弥は能の芸術性を高めた最大の功労者であった。世阿弥は能役者・能作者であると同時に理論家でもあり，多くの能楽論を書き残している。その中から代表的なものである『風姿花伝』を取り上げ，講読する。

〔教材〕

教科書：野上豊一郎・西尾実『風姿花伝』（岩波文庫）岩波書店
参考書：表章『世阿弥・禅竹』（日本思想大系）岩波書店
田中裕『世阿弥芸術論集』（新潮日本古典集成）新潮社
竹本幹夫『風姿花伝・三道』（角川ソフィア文庫）角川学芸出版

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにあらかじめ目を通し，正しく音読できるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末にレポート提出

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　能について１
第２週　〃２
第３週　観阿弥の生涯について
第４週　世阿弥の生涯について１
第５週　〃２
第６週　『風姿花伝』を順次読み進めてゆく。
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

伝統文化論VII（邦楽）

3612051700100

副　題	雅楽と平安時代の宮廷文化							担　当　者	遠藤　徹　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	TRD-123-JA

〔授業の到達目標〕

日本の雅楽の概要と特質，および日本文化における位置を理解する。

〔授業の内容〕

日本の伝統音楽は多彩な種目がありますが,そのなかで最古層を形成しているのが雅楽です。雅楽は，５世紀から９世紀にかけて大陸から渡来した楽舞や日本列島に古来伝わる歌舞を源流として，平安時代の宮廷社会で大成しました。平安時代以降も，日本の伝統音楽の形成にさまざまな影響を与えつつ，また日本の歴史と密接に関わりながら今日まで伝承されています。本授業では雅楽を様々な角度から読み解き，雅楽を生み出した平安時代の宮廷文化の特質，雅楽とそれ以後に発達した日本の伝統音楽の関係などを考えていきます。

〔教材〕

参考書：遠藤徹他『別冊太陽　雅楽』平凡社，2004年
遠藤徹『雅楽を知る事典』東京堂出版，2013年
柘植元一、遠藤徹他『シルクロードの響き』山川出版社，2002年
芝祐靖、遠藤徹他『雅楽入門事典』柏書房，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

理解が不十分な点は参考文献等で確認すること。

〔成績評価の方法〕

試験

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　総論
第２週　雅楽の源流と東アジアの古代文化（１）
第３週　雅楽の源流と東アジアの古代文化（２）
第４週　楽舞の伝来と左舞・右舞
第５週　御遊の成立と詩歌管絃
第６週　平安時代の宮廷儀礼と雅楽
第７週　古典文学に描かれた雅楽（１）枕草子など
第８週　古典文学に描かれた雅楽（２）平家物語など
第９週　宮廷歌謡の展開，催馬楽・朗詠・風俗歌・今様など
第10週　神事の歌舞，御神楽・東遊など
第11週　仏教儀礼と雅楽
第12週　楽家と楽書
第13週　中世以降の雅楽と伝統音楽の諸相（１）
第14週　中世以降の雅楽と伝統音楽の諸相（２）
第15週　総括

伝統文化論VIII（染織）

3612051800100

副　題	日本の伝統染織							担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	TRD-124-JA

〔授業の到達目標〕

日本の伝統的な染と織の文化についての基礎的な知識を修得する。現代に継承される伝統的な染織技法や作品に触れ，日本の伝統文化についての理解を深める。

〔授業の内容〕

現代まで継承される「きもの」とともに，日本の伝統的な染と織の文化は今日まで受け継がれてきた。近年では，国が主導するクール・ジャパン戦略において，日本の伝統工芸に着目した文化輸出が図られるなど，国際社会へ日本をアピールするための重要なツールとして，日本の染織を含む伝統工芸が注目されている。一方で，生活スタイルの変化により，日本各地に発展してきた多様で独創的な染織文化のうち，存続が危ぶまれるような深刻な状況に直面している地域も少なくない。

本講義では，世界に誇ることのできる日本の伝統的な染織文化について，代表的な産地に着目して学んでいく。講義の中では，現在に継承される伝統的な染織技法や実際の染織品などに触れる機会も設け，現代まで生き続ける伝統文化をより深く理解することを目指したい。

〔教材〕

参考書：丸山伸彦・道明三保子『すぐわかる 産地別 染め・織りの見わけ方』東京美術，2012年

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

課題と学期末試験（70%），出席状況と授業態度（30%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本の伝統染織
第３週　日本の染と織（１）　江戸小紋
第４週　日本の染と織（２）　南部絞
第５週　日本の染と織（３）　小千谷縮・越後上布
第６週　日本の染と織（４）　結城紬
第７週　日本の染と織（５）　有松・鳴海絞
第８週　日本の染と織（６）　京友禅
第９週　日本の染と織（７）　京鹿の子
第10週　日本の染と織（８）　西陣織
第11週　日本の染と織（９）　博多織
第12週　日本の染と織（10）　久留米絣
第13週　日本の染と織（11）　紅型
第14週　日本の染と織（12）　芭蕉布
第15週　まとめ　―染と織にみる日本の美意識―
授業計画は変更することがある。

日本生活文化史I（衣文化）

3612061100100

副　題	日本の服飾史							担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ART-125-JA

〔授業の到達目標〕

日本の服飾の歴史に関する基礎的な知識を学び，日本の服飾文化への理解を深める。

〔授業の内容〕

日本における服飾の歴史を考える時，一般的には現代まで継承される「きもの」や，女房装束である「十二単」などが注目される傾向が強い。高校までの歴史教科書では，服飾の歴史に関する記述は極めて限られており，私たちにとって最も身近な服飾文化に関して，その歴史に触れる機会は十分ではないと言えるだろう。

そこで本講義では，日本の古代から現代に至る服飾の歴史を通観することで，我が国の服飾文化の展開をより深く理解してもらいたい。日本の服飾文化は，古代より中国などの諸外国から強い影響を受けつつ，摂取した外来の文化を咀嚼し，多様な独自の展開を遂げてきた。諸外国との影響関係も視野に入れながら，現代社会にも受け継がれる日本の服飾の歴史について考えたい。

〔教材〕

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験またはレポート（70%），出席状況と授業態度（30%）により評価する。期末試験またはレポートについては，履修者数により決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　服飾の起源
第３週　飛鳥時代の服飾
第４週　奈良時代の服飾
第５週　平安時代の服飾（１）
第６週　平安時代の服飾（２）
第７週　鎌倉時代の服飾
第８週　室町時代の服飾（１）
第９週　室町時代の服飾（２）
第10週　戦国時代の服飾
第11週　安土桃山時代の服飾
第12週　江戸時代の服飾（１）
第13週　江戸時代の服飾（２）
第14週　近代から現代へ
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本生活文化史II（衣文化）

3612061200100

副　題	江戸の「きもの」と衣文化							担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ART-126-JA

〔授業の到達目標〕

江戸時代の「きもの」を中心とした多様な衣文化の展開について学び，現代まで引き継がれる日本の民族衣装としての「きもの」と伝統的な衣文化が持つ独自性の源について理解を深める。

〔授業の内容〕

現在，私たちが「きもの」と呼ぶ衣服は，江戸時代以前は「小袖」と呼ばれた。小袖とは，平安時代から続く袖口の大きく開いた大袖形式の衣服に対して，袖口が小さく詰まった衣服を指している。古来，小袖は貴族階級の下着として，また庶民には動きやすい表着として着用されたが，中世から近世への移行期には小袖が身分の上下を問わず中心的衣服となり，江戸時代には小袖を中心とした衣文化が発展した。

本講義では，現代の日本社会にも引き継がれている日本の民族衣装としての「きもの」に視座を据え，その源としての江戸時代の多様な衣文化について学ぶ。

〔教材〕

参考書：丸山伸彦『江戸のきものと衣生活』小学館，2007年

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験またはレポート（70%），出席状況と授業態度（30%）により評価する。期末試験またはレポートについては，履修者数により決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　江戸のきもの　―小袖―
第３週　流行の変遷（１）　辻が花
第４週　流行の変遷（２）　慶長小袖
第５週　流行の変遷（３）　寛文小袖
第６週　流行の変遷（４）　小紋染
第７週　流行の変遷（５）　友禅染
第８週　流行の変遷（６）　御所解と茶屋辻
第９週　流行の変遷（７）　裾模様
第10週　衣服の諸相（１）　能装束の世界
第11週　衣服の諸相（２）　歌舞伎の衣装
第12週　生産と流通（１）　雛形本と紺屋
第13週　生産と流通（２）　呉服屋と古着屋
第14週　生産と流通（３）　更衣
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本生活文化史III（食文化）

3612061300100

副　題	日本の食生活の変遷							担　当　者	宇都宮　由佳　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	LIF-127-JA

〔授業の到達目標〕

日本の食文化を歴史的変遷から理解する．日本の食の成り立ち，すなわち過去の食スタイルが現在に至るまでの過程を学ぶことで，現時点から将来の食を考える力を身につける．

〔授業の内容〕

日本の食生活を中心として，各時代の自然環境，政治，経済，宗教，文化など社会情勢を背景に，どのようなモノをどのように調理して食してきたのか，その時代の特徴と食の変遷を解説する．

また，日本の食文化は，様々な国・地域の文化の影響を受けながら形成してきた．そこで，外来の食文化の受容，従来の食スタイルの変容，発展あるいは衰退について事例をあげながら，日本の食文化の成り立ちを紐解いていく．

〔教材〕

毎回，教員が用意したプリント（2-3枚）で授業を進める．参考書は適宜紹介する．
学生はA4サイズのファイルブックを用意しておくこと．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習は，授業内容にあわせて適宜指示する．Ａ４サイズで１ページ以上の課題である．

〔成績評価の方法〕

小レポート（20%），理解度の確認（50%），授業への取り組み（30%）で評価をする．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の進め方の説明，食文化の成り立ち
第２週　旧石器時代・縄文・弥生時代―厳しい自然環境下での食物，稲の伝播
第３週　古墳時代から飛鳥時代―米と律令国家（政治）
第４週　奈良時代から平安時代―貴族食の発達，大饗料理，中国文化の影響
第５週　鎌倉時代―武士の食事，携帯・保存食，市の発達
第６週　精進料理―禅風食の普及，仏教の一般大衆化
第７週　室町時代から戦国時代―本膳料理，庖丁流派の成立
第８週　懐石料理と会席料理
第９週　安土・桃山時代―南蛮文化の流入，南蛮菓子，卵料理の登場
第10週　江戸時代―発達した庶民の料理
第11週　卓袱料理と普茶料理
第12週　行事食と郷土食
第13週　明治・大正・昭和（戦前）－西洋化と肉食，和洋折衷
第14週　昭和から現代―家電製品の普及，技術の発展
第15週　将来の食を考える―国際化と伝統食
授業は，教員が用意したプリント，パワーポイント，DVDなど活用して実施する．

日本生活文化史Ⅳ（食文化）

3612061400100

副　題	食物の起源と伝播，思想とマナー							担　当　者	宇都宮　由佳　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	LIF-128-JA

〔授業の到達目標〕

食物の起源と伝播，人々の食べ物に込めた思い，食に関するマナーやタブー（食物禁忌）を理解する．日本の伝統的な食文化について，調味料，だし，嗜好品（酒），江戸時代の食（すし，そば，てんぷら），行事食などの知識を身につける．食を通して，自らのアイデンティティを確立するとともに他の食文化に対する理解を深める．

〔授業の内容〕

近年，諸外国の食に触れることが多くなったが，食文化の成り立ちや背景を学ぶことは，非常に大切である．私たちが普段食べている物について，その起源や発祥，伝播などを比較文化の視点をもちながら学んでいく．あわせて人々が食べ物に込めた思い，またマナーやタブー（食物禁忌）を理解し，なぜそのようなことが必要なのか考える．

日本の伝統的な食文化について，調味料の種類，だし，嗜好品，江戸時代に発展した食（蕎麦やてんぷら），行事食などについて，トピックスに分けて解説する．

〔教材〕

毎回，教員が用意したプリント（2-3枚）で授業を進める．参考書は適宜紹介する．

学生はA4サイズのファイルブックを用意しておくこと．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習は，授業内容にあわせて適宜指示する．Ａ４サイズで１ページ以上の課題である．

〔成績評価の方法〕

小レポート（20%），理解度の確認（50%），授業への取り組み（30%）で総合的に評価をする．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

食文化はもちろん，その背景となる社会情勢に関心をもってほしい．

〔授　業　計　画〕

第１週　授業のすすめ方　主食とは何か？世界の主食を考える
第２週　ムギの食文化―ムギの栽培と伝播，ヨーロッパとアジアのムギの食べ方
第３週　コメの食文化―コメの栽培と伝播，炊飯の仕方，ウルチとモチ米の食べ方
第４週　麺の食文化―麺の誕生と製法，中国・朝鮮半島・日本の麺の種類と食文化，東南アジアのコメ麺，イタリアの麺状パスタ
第５週　食事作法―箸，スプーン，フォークの誕生，テーブルクロスの必要性，食事マナー
第６週　食物禁忌と宗教１―ユダヤ教，キリスト教，イスラム教のタブーとその理由
第７週　食物禁忌と宗教２―上座部仏教，大乗仏教のタブーとその理由
第８週　タンパク質を補った大豆食品
第９週　ダシの文化―かつおぶしとコンブ
第10週　日本酒の歴史と文化
第11週　すしの歴史と文化
第12週　そば，天ぷらの歴史と文化
第13週　うなぎの蒲焼の歴史と文化
第14週　和洋折衷料理の魅力
第15週　まとめ
授業は，教員が用意したプリント，パワーポイント，DVDなど活用して実施する

日本生活文化史V（住文化）

3612061500100

副　題	構成要素からみた住宅デザイン							担　当　者	乾　尚彦　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-129-JA

〔授業の到達目標〕

日本の住まいのデザインの特徴と変遷を把握する。

〔授業の内容〕

日本の住まいには，長い伝統を持つデザインが継承されている。その具体的なかたち，変遷をみながら，それを成立させてきた要因を考察することで，日本の住まいの伝統について理解を深めることを目的としている。また，建築の各部構法に関する基礎的用語についても解説していくので，建築入門の講義としても位置付けることができる。

〔教材〕

参考書：安藤・乾・山下『住まいの伝統技術』建築資料研究社，1995年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義の前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート，出席，最終レポートの内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　開口部１
第２週　開口部２
第３週　屋根１
第４週　屋根２
第５週　屋根３
第６週　継手仕口
第７週　架構１
第８週　架構２
第９週　壁・床
第10週　階段
第11週　空間構成１
第12週　空間構成２
第13週　モジュール　京間と田舎間
第14週　総括１
第15週　総括２

日本生活文化史VI（住文化）

3612061600100

副　題	地域と住まい							担　当　者	乾　尚彦　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-130-JA

〔授業の到達目標〕

日本各地の集落，街並み，住まいにどのようなものがあるか，それを成り立たせてきたものはなにかの理解を得ることができる。

〔授業の内容〕

日本の各地には，その地域の伝統や風土，気候，自然にはぐくまれた住まい，集落，町並が作られてきた。現存する（あるいは，近年まで現存した）住文化の諸相，それらを継承した現代の住まいをとりあげ，そうした住文化を成立させてきた要因について考えていく。

〔教材〕

参考書：安藤・乾・山下『住まいの伝統技術』建築資料研究社，1995年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義の前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート，出席，最終レポートの内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　雪囲いの建築術／東北，北陸
第２週　自律する住まい／沖縄
第３週　多層民家の出現　合掌造／岐阜・富山，高はっぽう造り／山形
第４週　コーガ石～火山の贈り物／東京都新島
第５週　雨除け板～住まいのレインコート／紀伊半島，四国・九州南部
第６週　アイヌの住まい／北海道
第７週　日本住宅亜種の誕生／北海道
第８週　ベンガラの集落／岡山県吹屋
第９週　風の形／鳥根県斐川平野，高知県室戸岬，和歌山県潮岬
第10週　街道と水路に沿った集落／福島県大内宿，長野県奈良井・妻籠・馬籠
第11週　住まいの祭祀空間／椎葉
第12週　都市祭礼／京都，岐阜県高山，川越
第13週　民家の再生
第14週　総括１
第15週　総括２

日本文化論

3613001000100

副　題	日本神話と諸文化							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	JPN-131-JA

〔授業の到達目標〕
神話と文化の関係を理解し，古代日本人の世界観が分かるようになる。

〔授業の内容〕
古事記と日本書紀はこの世の始まりから書き起こされており,そこには創造の時,そして神々の世界が展開している。そのストーリーを様々な神話群が構成しているわけだが，それら多くの神話の基層を探ってゆくと，それぞれさまざまな文化と密接にかかわっていることが明らかになってくる。そこに析出される文化の相には実に多様なものがあり，大きく見れば日本文化形成の跡を留めているということができる。本講義では，個々の神話ごとにその基盤となっている文化の相を明らかにし，また諸外国のそれとの比較も交えながら，日本文化の諸相を探ってゆく。

〔教材〕
教科書：神田典城『対照神代記紀』笠間書院
授業時に適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
学期末試験(100%)による

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　古代の文献を読むために。
第２週　日本神話とは何か。
第３週　創世神話に盛られたもの（１）
第４週　創世神話に盛られたもの（２）
第５週　創世神話に盛られたもの（３）
第６週　イザナキとイザナミの結婚と洪水神話
第７週　黄泉の国の神話とギリシア神話
第８週　コノハナノサクヤビメの神話と死の起源
第９週　日本神話と農耕文化①
　　オホゲツヒメ（１）
第10週　日本神話と農耕文化②
　　オホゲツヒメ（２）
第11週　日本神話と農耕文化③
　　オホナムチ（１）
第12週　日本神話と農耕文化④
　　オホナムチ（２）
第13週　日本神話と農耕文化⑤
　　オホナムチ（３）
第14週　日本神話と農耕文化⑥
　　オホナムチ（４）
第15週　日本神話と農耕文化⑦
　　オホナムチ（５）

近代文化論I

3613001100100

副　題	近代文化のなかの経済思想――〈働くこと〉と〈つくること〉をめぐる思想と文化									担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	HIS-132-JA

〔授業の到達目標〕

近代文化は労働，制作，創造，芸術の関係をどのように捉えたかを，西洋と日本の事例について考える。

〔授業の内容〕

19世紀から20世紀の初頭にかけて，西洋においても日本においても物質文明の発展の裏で格差が拡大し，社会的矛盾が広がっていた。そうしたなかで芸術の制作と再定義に携わりつつ社会の変革についても思索したウィリアム・モリスという人物がいる。モリスは工芸家・デザイナーとして現在でも世界中で愛されるデザインの生みの親であっただけではなく，詩人であり社会改革家でもあった。この授業ではマルクス，ラスキン，ラファエル前派，そしてガンジーなど，モリスに連なる芸術と思想の系譜を紹介することとしたい。またモリスの仕事は日本においても早くから紹介され,柳宗悦や宮沢賢治にもインスピレーションを与えることになった。彼らによって考えられた働くこと，ものづくり，社会の変革と革命，エコロジー，そして生活と芸術の関係と役割といった様々なテーマは，今なお重要な問題提起でありつづけるだろう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業内容を配布資料などを通じて復習することと，関連する文献を自習すること。

〔成績評価の方法〕

出席と期末の試験によって評価する。全授業回数の３分の２以上出席していることが，期末試験を受験する条件となる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに
第２週　近代的「労働」以前の世界
第３週　近代的な労働観と「経済人」の登場――ロビンソン・クルーソーの経営生活
第４週　経済学(ポリティカル・エコノミー)の誕生――アダム・スミス『諸国民の富』
第５週　理想の工場と理想の労働――ロバート・オウエンとニュー・ラナーク
第６週　「疎外」される働く人間――マルクスとエンゲルスの出発点
第７週　ソローの森の生活――何のための労働か，生きるに価する生を生きるとは
第８週　ジョン・ラスキンと「穏やかな経済学」
第９週　ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動
第10週　理想の労働協同体――空想的社会主義から近代都市計画へ
第11週　日本資本主義の精神――塩原多助・渋沢栄一・福沢諭吉
第12週　日本の産業革命と初期社会主義
第13週　「民芸」と美しき村――柳宗悦と『白樺』
第14週　田園都市構想と農村の労働/芸術――宮沢賢治
第15週　まとめ

近代文化論II

3613001200100

副　題	「社会」とは何か――歴史から考える							担　当　者	木村　直恵　准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	HIS-133-JA

〔授業の到達目標〕

「社会」をめぐる近代思想の基礎的な枠組みを学び，日本語と翻訳の問題および「社会」という言葉をめぐって展開された近代日本の歴史と思想について理解する。

〔授業の内容〕

「社会」という言葉は，日頃，さまざまなシーンで耳にする機会の多い言葉である。だが，この言葉がどんな意味をもっているのかを正面から問うことは難しい。たとえば，「社会人」という言葉がある。これはいったいどのような「社会」に生きる，どのような「人」のことを意味しているのだろうか。よく気を付けてみると，「社会」という言葉の意味は一つではなく，文脈に応じていろいろな意味やニュアンス，価値づけが与えられていることが感じられるだろう。それとともに，皆さん自身もあまり自覚しないままに，「社会」という言葉をいろいろな意味で使い分けているのではないだろうか。

この言葉は，日本語にとってはもともとsocietyという言葉の翻訳語として定着したものである。societyは近代の重要概念のひとつであり，ヨーロッパ近代社会の展開とともに，この概念についての思考も深まっていった。この授業では，「社会・society」という言葉に焦点をあてつつ，この言葉をめぐる歴史と多様な意味をたどることをつうじて，私たちが今，この言葉とどのように向き合えばよいのかを考えてみたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業後には授業内容を復習して理解を深めるとともに，授業で紹介した文献を自習すること。

〔成績評価の方法〕

出席と試験によって評価する。出席が授業回数の７割以上であることが，試験を受ける条件となる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに――「社会」のイメージ探訪
第２週　ヨーロッパ近代の始まりと「社会」
第３週　「ユートピア」の構想
第４週　社会契約論という考えかた――ホッブズ・ロック・ルソー
第５週　〃
第６週　社会の自律――スコットランド学派と商業社会
第７週　「市民社会」の理想と限界――ドイツ観念論からマルクスへ
第８週　公共圏とアソシエーション
第９週　「社会」という問題――社会学と社会主義
第10週　幕末から明治へ――「社会」概念との出会いと初めての西洋「社会」体験
第11週　西周「相生養之道」と福沢諭吉「人間交際」
第12週　明治期日本のアソシエーション――明六社について
第13週　明治10年代の「社会」
第14週　「社会」は変えられるものか拘束するものか
第15週　おわりに

民俗文化論I（民俗信仰）

3615021100100

副　題	異界をのぞく							担　当　者	山崎　祐子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ANT-201-JB

〔授業の到達目標〕

民俗学の心意伝承の基本事項を学び，異界という概念を説明できるようにする。それぞれの身のまわりの事象を民俗学の視点で分析する方法を身につける。

〔授業の内容〕

古い伝統的な行事や伝承ばかりではなく，今，自分たちの目の前で起きていることも民俗学の扱う対象である。この授業では，民間信仰の基礎知識をふまえながら，身近な問題を異界という概念を用いて解説する。民俗調査報告書，市町村史のほか，昔話，伝説，世間話，都市伝説，随筆，近世の地誌類などを，民俗学の視点でどう読むかを解説する。

〔教材〕

教科書は使用せず，毎回，資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し，授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。配布した資料を読み返す。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパーなどの平常点（30パーセント），期末試験（70パーセント）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後に質問を受け付ける。ほか，日本文化学科事務室を通じて連絡を取る。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　境界の民俗
第３週　死後供養
第４週　祈願の形ー守り札
第５週　祈願の形ー呪いと占い
第６週　江戸の願掛け
第７週　民俗の諸相
第８週　幽霊と妖怪
第９週　多摩ニュータウンの狐話
第10週　異界への通路を探るー都市伝説と学校の怪談
第11週　異界への通路を探るー夢をめぐって
第12週　異界への通路を探るー番町皿屋敷ほか
第13週　異界をのぞく
第14週　まとめ
第15週　〃
授業内容は変更することもある。

民俗文化論II（民俗行事・祭礼）

3615021200100

副　題	年中行事と祭礼							担　当　者	山崎　祐子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ANT-202-JB

〔授業の到達目標〕

年中行事，祭礼の基本事項を学び，一年をどのようなリズムで暮らしてきたのかを理解する。基本的な太陰太陽暦の構造を理解し，伝統的な年中行事の意味を説明できるようにする。

〔授業の内容〕

主な年中行事を季節別に取り上げ，続いて祭礼と民俗芸能を取り上げる。太陰太陽暦から太陽暦への改暦は，年中行事と季節感の混乱をもたらした。何が変わったのか，変わらないものは何なのかを，検討する。祭礼と民俗芸能では，主に秋から冬にかけて行われる祭礼を取り上げ，神楽と田楽について映像を見ながら解説する。

〔教材〕

教科書は使用せず，毎回，資料のプリントを配布する。参考文献は配布するプリントに記載し，授業時に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は特に必要ない。講義中に指示された重要な語句について復習すること。映像の視聴のまとめをすること。

〔成績評価の方法〕

ビデオの視聴によるワークシート（25パーセント），期末試験（60パーセント），リアクションペーパーなどの平常点（15パーセント）で総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後に質問を受け付ける。ほか，日本文化学科事務室を通して連絡を取る。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　太陰太陽暦の基礎知識
第３週　正月とはいつなのか
第４週　七夕と盆
第５週　祭礼の見方
第６週　年中行事の構造
第７週　民俗芸能ー荒神神楽
第８週　民俗芸能の基礎知識
第９週　民俗芸能ー三河の花祭
第10週　民俗芸能ー田楽
第11週　競技の民俗
第12週　年中行事の諸相
第13週　江戸の正月
第14週　東日本大震災の復興と民俗芸能
第15週　まとめ
授業で上映するビデオを借用する関係上，授業の順序が変わることがある。

民俗文化論III（都市民俗学）

3615021300100

副　題								担　当　者	伊藤　慎吾　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ANT-203-JB

〔授業の到達目標〕
日本文化において動物妖怪がどのような存在であったのか，自分なりの考えを持つに至ること。

〔授業の内容〕
現代の日本において，人間と動物との関わり方は多様である。その捉え方はいろいろあるが，中でも文学や民俗学の分野から見れば，キャラクター（ゆるキャラや広告キャラクター，物語の登場キャラクター）として日常的に関わっている点が最も注目されるだろう。また人間と自然との対立を示すために動物を象徴的に扱うことも文芸創作ではしばしば見られるようになった。一方，現実の動物については，ペットから家族の一員へと存在意義が拡大し，その反面，高度成長期以来消滅しつつあった狩猟文化が農作物や観光地への被害の拡大によって見直されてきている。
人間と動物との関わりを歴史的に取り上げるのが人獣交渉史である。歴史学の分野においてそれは発達してきた。ただ，そこで論じられる動物は，主として狩猟の対象として，食糧として，家畜として，愛玩動物としての動物との関わりの歴史である。つまり，人間の社会経済的な生活の中で，動物がどのように関わってきたのかが問われるのである。
ところが人間と動物との交渉には別の側面もある。これを歴史的に見れば，神仏そのもの，あるいは神仏の使いとしての動物との交渉，また怪異をもたらすものとしての動物との交渉，文芸世界の中の動物との交渉などが主だったものだろう。このように動物との交渉は社会経済的な面だけでなく，精神的な面にも大きく影響を及ぼしてきた。そして文芸･絵画･芸能といった文化創造の各分野によって具現化し，また社会生活にも作用してきて今日に至るものである。
本講義では人間に対する異類，人間に擬えられた異類を対象としている。異類として表現された実在／非実在の動物は人間から離れて存在しないのである。物理的に未踏の山奥や海底に棲むとされるものといえども，目撃され，あるいは想像されることで立ち現れるのだ。各回では日本の精神文化を映し出す鏡として異類，特に動物妖怪について様々な角度から見ていくことにしたい。

〔教材〕
教科書：伊藤慎吾『妖怪・憑依・擬人化の文化史』第1版，笠間書院，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
次回分の該当箇所（［授業計画］の項中の【教科書】参照）に目を通した上で授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
平常点（50%）
レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　総論１。異類の物語の担い手について【教科書】「総論」のうち「動物の物語と職業」の節
第２週　総論２。異類との対話について【教科書】「総論」のうち「アニマル･コミュニケーション」の節。「馬の神の託宣」
第３週　総論３。異類と人間の生まれ変わりについて【教科書】「総論」のうち「前生・転生譚」の節
第４週　総論４。異類との共生【教科書】「総論」のうち「動物との共生」の節
第５週　総論５。人間との関わり方【教科書】「総論」のうち「人間との関わり方」の節
第６週　妖怪１。動物妖怪解説【教科書】「描かれる異類たち―妖怪画の変遷史」
第７週　妖怪２。鵺【教科書】「変貌するヌエ」
第８週　妖怪３。猫又【教科書】「ネコマタとその尻尾の描写の変遷」
第９週　妖怪４。件【教科書】「「くだん」が何を言っているのかわからない件」
第10週　妖怪５。ゆるキャラ【教科書】「ゆるキャラとフォークロア―ゆるキャラに擬人化される民間伝承」
第11週　妖怪６。『妖怪ウォッチ』【教科書】「『妖怪ウォッチ』と『ポケモン』の動物妖怪」
第12週　妖怪７。東方プロジェクト【教科書】「東方プロジェクトの妖怪キャラクター」
第13週　妖怪８。補論・南方熊楠と熊野の妖怪
第14週　憑き物１。憑き物概説【教科書】「憑依する霊獣たち―憑き物，神使，コックリさん―」
第15週　これまでの整理

民俗文化論Ⅳ（都市民俗学）

3615021400100

副　題	異類文化学入門―憑依・擬人化編―							担　当　者	伊藤　慎吾　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ANT-204-JB

〔授業の到達目標〕
日本文化において憑き物や擬人化された異類がどのような存在であったのか，自分なりの考えを持つに至ること。

〔授業の内容〕
現代の日本において，人間と動物との関わり方は多様である。その捉え方はいろいろあるが，中でも文学や民俗学の分野から見れば，キャラクター（ゆるキャラや広告キャラクター，物語の登場キャラクター）として日常的に関わっている点が最も注目されるだろう。また人間と自然との対立を示すために動物を象徴的に扱うことも文芸創作ではしばしば見られるようになった。一方，現実の動物については，ペットから家族の一員へと存在意義が拡大し，その反面，高度成長期以来消滅しつつあった狩猟文化が農作物や観光地への被害の拡大によって見直されてきている。
人間と動物との関わりを歴史的に取り上げるのが人獣交渉史である。歴史学の分野においてそれは発達してきた。ただ，そこで論じられる動物は，主として狩猟の対象として，食糧として，家畜として，愛玩動物としての動物との関わりの歴史である。つまり，人間の社会経済的な生活の中で，動物がどのように関わってきたのかが問われるのである。
ところが人間と動物との交渉には別の側面もある。これを歴史的に見れば，神仏そのもの，あるいは神仏の使いとしての動物との交渉，また怪異をもたらすものとしての動物との交渉，文芸世界の中の動物との交渉などが主だったものだろう。このように動物との交渉は社会経済的な面だけでなく，精神的な面にも大きく影響を及ぼしてきた。そして文芸･絵画･芸能といった文化創造の各分野によって具現化し，また社会生活にも作用してきて今日に至るものである。
本講義では人間に対する異類，人間に擬えられた異類を対象としている。異類として表現された実在／非実在の動物は人間から離れて存在しないのである。物理的に未踏の山奥や海底に棲むとされるものといえども，目撃され，あるいは想像されることで立ち現れるのだ。各回では日本の精神文化を映し出す鏡として異類，特に動物妖怪について様々な角度から見ていくことにしたい。

〔教材〕
教科書：伊藤慎吾『妖怪・憑依・擬人化の文化史』第1版，笠間書院，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
次回分の該当箇所（［授業計画］の項中の【教科書】参照）に目を通した上で授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
平常点（50%）
レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　異類をめぐる文化。動物妖怪概説(前期の復習)。【教科書】「総論　異類文化学への誘い」
第２週　憑き物２。狐憑き【教科書】「狐憑き―近世の憑きもの・クダ狐を中心に―」「狐憑きと脳病」
第３週　憑き物３。アニマル・コミュニケーション【教科書】「ペットの憑霊―犬馬の口寄せからペットリーディングまで」
第４週　憑き物４。犬神憑き【教科書】「犬神系の一族」
第５週　憑き物５。都市伝説の異類【教科書】「動物霊が友達になるまで」
第６週　擬人化１。擬人化概説【教科書】「擬人化された異類」
第７週　擬人化２。擬人化された鼠【教科書】「擬人化された鼠のいる風景―お伽草子『隠れ里』再考」
第８週　擬人化３。異類合戦物【教科書】「『花月往来』の魅力―花と月の合戦―」
第９週　擬人化４。近世の擬人化【教科書】「なぜ江戸時代に擬人化がひろがったのか」
第10週　擬人化５。歌謡における擬人化表現【教科書】「物語歌の擬人化表現―童謡とコミックソングのはざまで―」
第11週　擬人化６。妖怪の擬人化【教科書】「妖怪の擬人化，そして人間化」
第12週　擬人化７。現代の擬人化【教科書】「擬人化コスプレの登場」
第13週　擬人化８。海外における擬人化表現【教科書】「西欧の擬人化表現と日本漫画の影響」
第14週　補論
第15週　これまでの整理

比較民俗文化論I（民間伝承）

3615022100100

副　題	日本の昔話と伝説							担　当　者	徳田　和夫　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ANT-205-JB

〔授業の到達目標〕

1：日本に伝わる民間説話（口承文芸,民間文芸）のうちの「昔話」「伝説」について知識を深めます。

2；その文化史的な意義を把握します。

3；諸外国の民間説話と比較して，世界的な普遍性と地域（日本，東アジア）の独自性を考えます。

〔授業の内容〕

民間説話について概説し，「昔話」と「伝説」を具体的に取りあげて，それぞれの特徴と意義を講義します。そのつど，比較文化の観点から外国の類話や対応話を紹介して，普遍性と独自性を考えていきます。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『図説：絵とあらすじでわかる！日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）青春出版社，2014年

上記の教科書は日本文化学科事務室にて販売する予定です。また，折々プリント資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

レポートによる。なお，当然のことながら出席をきわめて重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始時に指示します。

〔備考〕

（1）当科目は秋学期の「比較民俗文化論Ⅱ（民間伝承）〔外国編〕」と連動しています。

（2）授業時における，私語，および正当な理由なき途中退出を厳禁とします。

〔授　業　計　画〕

第1週　民間説話とは？
第2週　昔話と伝説について
第3週　外国の昔話について①―アジア圏―
第4週　外国の昔話について②―ヨーロッパ圏―
第5週　本格昔話①
第6週　本格昔話②
第7週　本格昔話③
第8週　本格昔話④
第9週　本格昔話⑤
第10週　動物昔話①
第11週　動物昔話②
第12週　動物昔話③
第13週　笑い話①
第14週　笑い話②
第15週　まとめと解説

比較民俗文化論II（民間伝承）

3615022200100

副　題	外国の昔話と伝説							担　当　者	徳田　和夫　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ANT-206-JB

〔授業の到達目標〕

1.民間説話（口承文芸，伝承文芸）の文化的な意義を把握します。
2.民俗学，物語学（ナラトロジィ）・説話学などの専門学術の目的と方法を理解します。
3.民間説話をフィールドにして，日本と外国との文化比較を実践的に修得します。

〔授業の内容〕

およそ人間の共同社会が営まれるところには，はやくから口承文芸や民間の物語が生まれ，今なお様ざまなかたちで伝えられています。このグローバルな普遍性のもとに，特定域（国，民族，言語）の昔話と伝説が存在しています。つまり私たちの物語文化は孤立したものではありません。世界中のそれと同じように歩み，そのうえで個別の歴史を創ってきました。

この授業は，秋学期の「比較民俗文化論Ｉ；（民間伝承）〔日本編〕」と連動しています。なるべく両者を履修するようにして下さい。日本の昔話を諸外国，諸民族のそれと比較対照することによって，その共通面と各個の独自面を考えながら，伝承文芸の文化史的意義を講義します。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『図説：絵とあらすじでわかる！日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）青春出版社，2014年

教材として複写資料を用意します。また，必要に応じて参考書，研究論文を授業時に紹介していきます。

参考書・論文：徳田和夫「民間説話と古文献」（『民間説話の研究 - 日本と世界』1987年,同朋社）,「浄蔵法師と恩愛の妻子」（イメージ・リーディング叢書『絵語りと物語り』1990年,平凡社）,「『長谷雄草紙』絵巻と昔話『鼻高扇』」（昔話 - 研究と資料19『視る昔話』1991年,三弥井書店）,「〔欲の熊鷹〕の分布圏 - お伽草子・異類物世界への通路」（『伝承文学研究』46号,1997年）,「中世の民間説話と『蛙の草紙絵巻』」（『学習院女子大学紀要』３,2001年）,「鳥獣草木譚の中世 -〔もの言う動物〕説話とお伽草子『横座房物語』」（講座日本の伝承文学10『ヨミ・カタリ・ハナシの世界』2004年,三弥井書店）,「古典説話と昔話」（シリーズことばの世界２『かたる』2008年同），『室町の妖怪―説話伝承と図像』（2016年，せりか書房）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況，学期末のレポートによっておこないます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始時に指示します。

〔備考〕

（１）下記の授業計画の内容，順序には変更がありえます。
（２）当科目は春学期の「比較民俗文化論Ｉ（民間伝承）〔日本編〕」と連動しています。
※授業内容とは無関係な私語，携帯電話の使用，正当な理由なき中途退出を厳禁とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　同話・類話，比較説話学，物語学（ナラトロジィ）
第２週　動物の物語
第３週　人間と動物の物語
第４週　グリム童話（１）
第５週　グリム童話（２）
第６週　文化英雄
第７週　世界のシンデレラ
第８週　ドラゴン退治の物語
第９週　トリック・スターと巨人伝説
第10週　精霊と妖怪
第11週　アイヌ民族の昔話（１）
第12週　アイヌ民族の昔話（２）
第13週　東アジアの昔話（１）
第14週　東アジアの昔話（２）
第15週　まとめと解説

比較生活文化論I（地域食文化論）

3615031100100

副　題	食文化へのアプローチ							担　当　者	磯部　泰子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	LIF-207-JB

〔授業の到達目標〕

日本の食文化を広く世界に発信できるように，食文化の基礎知識を学び，日本の食文化を伝える方法を取得できるようにする。

〔授業の内容〕

自然環境とそこで生活する人々の工夫によって，世界各地域に独特の食文化が形成されている。

日本の食文化の地域性と日本人の味覚特性を理解して，海外の食教育の方法論や味覚を比較することにより，多角的な視点で日本の食文化を観られるようにする。海外や日本の食文化の事例も学ぶ。

〔教材〕

参考書：石毛直道『石毛直道　食の文化を語る』第１版，ドメス出版，２００９年
原田信男『日本料理の社会史　和食と日本文化』第１版，小学館，２００５年
必要に応じてプリントを配布し，参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

「発酵」か「旨み」に関して調べ，レポートで提出。20時間
食文化に関して自分のテーマをみつけて，調べて，レポートで提出。30時間
授業で出す課題に関しての感想レポート作成。10時間

〔成績評価の方法〕

２回の課題レポート（４０％），授業後に提出するリアクション・ペーパー（20%），発表（20%）意欲的に授業にとりくんだか（20%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問がある場合には，isobe●gol.com（change ● to @）までメイルで問い合わせて下さい。

〔備考〕

味覚の実施授業などを行うために，受講者を制限する。
受講者は日本文化学科掲示板を確認すること。
シラバスの内容や日程は，変更される可能性がある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　食文化とは「風土と食文化」
第３週　食から見た日本史「米を選んだ日本の歴史」
第４週　味覚授業１「醤油」
　　醤油の国際化　「如何に海外に広まったか」
第５週　「発酵」
第６週　味覚授業２　嗜好「台湾茶」
第７週　「旨み」
第８週　日本の食文化からの考察１
　　「世界無形文化遺産　和食」
第９週　日本の食文化からの考察２
第10週　食文化へのアプローチ・視点を学ぶ１
　　「食文化の物語性と町おこし」海外の事例
第11週　食文化へのアプローチ・視点を学ぶ２
　　「食における価値創造」
第12週　食文化へのアプローチ・視点を学ぶ３
　　「地域の食と歴史を考証」国内の事例
第13週　食文化へのアプローチ　国際比較
第14週　発表
第15週　まとめ

※☆比較生活文化論II（染織文化論）

3615031200100

副　題	世界の中の日本染織							担　当　者	澤田　和人　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	LIF-208-JB

〔授業の到達目標〕

日本染織の特質を理解することを目的とします。

〔授業の内容〕

日本の染織は，中国をはじめとする世界各地の染織を学びつつ発展していきました。この講義では，諸外国の染織と比較することにより，日本の染織の特質について考えていきます。技法の模擬作業を行ったり，スライド（パワー・ポイント画像）を用いることで，より深く理解が進むよう，ヴィジュアルに解説していきます。

〔教材〕

教科書は使用しない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の準備として復習に2時間以上，予習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

出席（60%）とレポート提出（40%）により評価します。出席を重視するため，2/3以上の出席がない場合は，受講を放棄したものとみなし，評価はしません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

sawakazu●rekihaku.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

ハサミとセロハンテープを持参すること。

〔授　業　計　画〕

第1週　染と織の基本1
第2週　染と織の基本2
第3週　錦織技法の変化―「和様化」をめぐる問題1
第4週　錦織技法の変化―「和様化」をめぐる問題2
第5週　舶載品へのあこがれ1
第6週　舶載品へのあこがれ2
第7週　キモノの歴史1
第8週　キモノの歴史2
第9週　日本の絞り染の特色1
第10週　日本の絞り染の特色2
第11週　友禅染1
第12週　友禅染2
第13週　日本の板締の特色1
第14週　日本の板締の特色2
第15週　まとめ

日本生活文化論I（ものの文化史）

3615032100100

副　題	装身具にみる日本の服飾文化							担　当　者	梅谷　知世　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	LIF-209-JB

〔授業の到達目標〕

装身具の歴史を通して日本の服飾文化について理解を深める。

〔授業の内容〕

装身具は装いの一部をしめるにすぎないが，装飾性をはじめ服飾に求められる役割が凝縮されていることが多い。わが国では，縄文・弥生・古墳時代の装身具は呪術性や社会的な立場の表示という機能をち,平安時代にはコミュニケーションの道具という側面をもつ扇が発展した。近世に入ると，桃山時代には異装を好む風潮を背景に変わり兜が流行する。江戸時代には高度な工芸技術を駆使した印籠・袋物・髪飾りなどが発展し，市民層にまで装身具文化が広がる。これらの装身具には身につける人の趣味や感性，教養を反映した多彩な趣向が凝らされ，装身具と装い全体との調和を重視する洗練された服飾文化が形成された。明治時代以降は，和装に洋傘や指輪や懐中時計などの西洋式装身具を組み合わせる和洋折衷の装いが，新しい形の日本風として広く好まれるようになる。

本講義では，以上のような日本服飾の歴史のなかに現れた装身具について，社会との関係，多様な造形性，美意識，外国文化の受容など，さまざまな視点から考察する。

〔教材〕

教科書は使用せず，毎回プリントを配布する。

参考文献は授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業後に，配布プリントやノートを再確認して復習し，授業で紹介した参考文献にも目を通して授業内容についての理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

出席状況・授業態度（30%），期末試験（70%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに―装身具研究の意味
第２週　縄文・弥生時代の装身具
第３週　古墳時代の装身具
第４週　奈良時代の装身具
第５週　平安時代の装身具（扇）
第６週　桃山時代の装身具（変わり兜）
第７週　江戸時代の装身具１（印籠と根付）
第８週　江戸時代の装身具２（櫛・簪・笄）
第９週　江戸時代の装身具３（装身具の意匠と絵師）
第10週　江戸時代の装身具４（袋物１）
第11週　江戸時代の装身具５（袋物２）
第12週　近代の装身具１（和装用装身具にみる明治の新風）
第13週　近代の装身具２（西洋式装身具の受容と展開１）
第14週　近代の装身具３（西洋式装身具の受容と展開２）
第15週　まとめ

日本生活文化論II（通過儀礼）

3615032200100

副　題	慶弔の装い							担　当　者	福島　雅子　准教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	LIF-210-JB

〔授業の到達目標〕

通過儀礼の装いの歴史について学び，日本の伝統文化への理解を深める。

〔授業の内容〕

七五三や成人の祝事などの通過儀礼は，現代の日本社会においても息づいており，私たちにとって最も身近な伝統的儀礼といえる。本講義では，日本における通過儀礼の装いに焦点を当て，その起源と展開をたどる。

〔教材〕

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験またはレポート（70%），出席状況と授業態度（30%）により評価する。期末試験またはレポートについては，履修者数により決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　慶弔の装い
第３週　出産の装束
第４週　誕生に関する儀礼
第５週　七五三の歴史（１）
第６週　七五三の歴史（２）
第７週　成人の祝事（１）
第８週　成人の祝事（２）
第９週　振袖の今昔
第10週　婚礼衣装（１）
第11週　婚礼衣装（２）
第12週　留袖の今昔
第13週　長寿の祝事
第14週　葬送の儀
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本生活文化論III（住文化論）

3615032300100

副　題	祭祀空間の構造							担　当　者	乾　尚彦　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	5	コース・ナンバー	LIF-211-JB

〔授業の到達目標〕

様々な祭祀が都市，集落，住まいのなかでどのようにおこなわれてきたかを理解する。

〔授業の内容〕

居住空間を正しく理解するためには，日常生活だけでなく，祭祀，儀礼がどのようにおこなわれるかを理解する必要がある。日本各地の様々な祭祀を映像で紹介しながら，それが都市，集落，住まいの空間とどのように関わるのかを考察し，日本の祭祀空間の構造の特質を述べていく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義の前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート，出席，最終レポートの内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　住まいで祀る神々
第２週　冬祭りのコスモロジー１　奥三河花祭り，高千穂神楽，椎葉神楽，備中神楽
第３週　冬祭りのコスモロジー２　新野の雪祭り，西浦田楽
第４週　冬祭りのコスモロジー３　遠山の霜月祭り，坂部の冬祭り
第５週　冬祭りのコスモロジー４　大日堂舞楽
第６週　祖霊を迎える空間１　三遠南信の盆踊り，念仏踊り
第７週　祖霊を迎える空間２　小浜島のソーラ，悪石島のボジェ
第８週　豊饒を迎える空間１　藤守と板橋の田遊び，伊雑宮と会津の御田植祭り
第９週　豊饒を迎える空間２　龍郷のショッチョガマと平瀬マンカイ，竹富島のタナドゥイ
第10週　豊饒を迎える空間３　久高島の八月行事
第11週　祓いと再生１　蛇と獅子～蛇も蚊も祭り，間々田の蛇祭り，三朝のジンショ，沼田の湯立て神楽
第12週　祓いと再生２　渡名喜島のシマノーシ，弥美神社大祭
第13週　祓いと再生３　室根大祭，相模国府祭（こうのまち），大国魂神社暗闇祭り，春日若宮おん祭
第14週　まとめ１
第15週　まとめ２

日本生活文化論Ⅳ（都市生活論）

3615032400100

副　題								担　当　者	木村　絵里子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIF-212-JB

〔授業の到達目標〕

1)自分自身の身近なことだけではなく，現代，あるいは時代を超えた社会に対する想像力を持てるようになること。

2)上記のような想像力によって，現代都市の文化や生活に対する理解を深めることができること。

3)社会学的知見を通して，社会的問題に対する実践的な思考力を身に付けること。

〔授業の内容〕

近代化の特徴のひとつに「都市化」があり，現代社会の文化は都市と密接に関わっているといえる。本講義では，下記にあるように都市における若者の文化に関わる多様なトピックや諸問題を，「社会学」の知見を通じて理解を深めていく。さらに私たちが普段直接触れることのできない，歴史的な観点を通じて現代社会の輪郭をより明確に浮かび上がらせる。それは，現代社会を女性として生きるということはどのようなことなのか，そして様々な他者と共に生きるということはどのようなことなのかを想像・理解することにつながるのである。

〔教材〕

講義で扱う文献・資料については，講義内に適宜提示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，関連文献を読んだ上で出席すること。その際，自分自身の意見や疑問点などをまとめておく。この準備学習には，おおよそ4時間程度を要する。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート（40%），出席（20%），授業での発表内容と授業への参加姿勢など（40%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション――都市の文化と生活
第2週　都市とファッション（1）：流行現象の成り立ち
第3週　都市とファッション（2）：流行と若者文化①
第4週　都市とファッション（3）：流行と若者文化②
第5週　ディスカッション
第6週　<女性美>の誕生(1)：明治期①
第7週　<女性美>の誕生(2)：明治期②～大正期
第8週　<女性美>の誕生(3)：昭和初期～戦後
第9週　<女性美>の現在：現代における美に関する文化
第10週　「恋愛結婚」の誕生：恋愛と結婚の結合の起源
第11週　現代都市の若者の恋愛意識・行動
第12週　現代都市の若者の友人関係
第13週　現代都市の若者のメディア利用
第14週　ディスカッション
第15週　まとめ

授業計画は，受講生の人数などに応じて変更することがある。

日本史論I（古代）

3615041100100

副　題	平安時代再考　―平安京の変貌と都市京都の様相	担　当　者	中込　律子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	HIS-213-JB

〔授業の到達目標〕

（1）律令国家の都城制および平安京の変貌を通じて古代史の基礎知識を修得する。（2）都市京都の様相を通して当時の人びとの生活や環境などを理解する。（3）平安時代を例に，歴史は後世の人間により歪曲されやすいことを理解し，一般的通念の誤りを改める。（4）歴史をリアルに考える力を身につけ，多角的に考えることを学ぶ。

〔授業の内容〕

平安時代と聞いて，多くの人が最初に思い浮かべるのは貴族の優雅な生活であろう。しかし，実際の平安時代は古代から中世へと社会全体が大きく変化した時代で，都である平安京も都城として出発したが大きく変貌した。そこに暮らす貴族から庶民まで様々な階層の人びとの活動も予想以上に活発である。そこで，本年度は平安時代の都市京都を採り上げ，前提である律令国家の都城制を解説することで，政治・社会の大きな変化を解説する。文学作品や写真・絵巻物などの画像，祭礼の動画なども用い，イメージ豊かに平安時代をとらえ直す。

〔教材〕

授業時にプリントを配布。参考書を随時紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

複数の週にわたって同じプリントを使用するので，復習あるいは予習のために配布プリントに目を通す。大学入試で日本史を選択しなかった学生は，予備的な知識として高校教科書等に目を通し，用語に慣れておく（暗記は必要ない）。以上の予習・復習各30分程度。さらに，参考文献（講義で提示）や辞書類による調査など予復習３時間

〔成績評価の方法〕

学期末試験（論述形式）80%。授業への参加態度（リアクションペーパーや口頭の質問，評価基準は講義で説明）20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

講義の前後の時間に質問に答える（～15：30）。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔備考〕

講義において随時リアクションペーパーを配布し，学生の基礎知識や講義の理解度，興味の対象や疑問点を確かめる（確認目的のペーパーでは歴史知識の有無による成績評価はしない）。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに　―平安時代のイメージ―
第２週　平安時代の概観　―その位置づけ
第３週　律令制と都城制（１）　―飛鳥京～藤原京
第４週　律令制と都城制（２）　―平城京
第５週　平安遷都　―平安前期の政治と平安京
第６週　平安京から中世都市京都へ（１）―景観の変化
第７週　平安京から中世都市京都へ（２）―政治の場の変化
第８週　平安京から中世都市京都へ（３）―流通の変化
第９週　平安京から中世都市京都へ（４）―都市住人，特に庶民の変化
第10週　都市京都の生活・環境（１）―食料
第11週　都市京都の生活・環境（２）―衛生問題１
第12週　都市京都の生活・環境（３）―衛生問題２
第13週　都市京都の生活・環境（４）―疫病と祭祀
第14週　都市京都の生活・環境（５）―祭祀と都市住民
第15週　まとめ
講義の過程で，必要があれば講義順を変更する場合がある。

日本史論II（中世）

3615041200100

副　題								担　当　者	関　幸彦　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	HIS-214-JB

〔授業の到達目標〕

今年度は武士と貴族の織りなす人間模様について人物と時代という観点から考えます。テーマは「恋」と「闘い」です。この二つの主題を通じ中世という時代の特色を勉強します。

〔授業の内容〕

『源氏物語』『平家物語』『太平記』などの世界から，武士と貴族の恋愛事情や闘いの様子をさぐります。恋は貴族の専売ではないし，闘いも武士だけのものではないのです。公武両者のせめぎ合う中世を10世紀から14世紀，平安王朝から鎌倉・南北朝までを通覧します。

〔教材〕

教科書：関幸彦『恋する武士　闘う貴族』第1版，山川出版，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキスト相当項目について，若干の予習が希ましい。

〔成績評価の方法〕

試験　70%　出席　30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　平安王朝と武士の恋①
第２週　平安王朝と武士の恋②
第３週　鎌倉武士と恋①
第４週　鎌倉武士と恋②
第５週　南北朝時代と恋する武士たち①
第６週　南北朝時代と恋する武士たち②
第７週　『平家物語』と闘う貴族①
第８週　『平家物語』と闘う貴族②
第９週　『平家物語』と闘う貴族③
第10週　『太平記』と貴族①
第11週　『太平記』と貴族②
第12週　『太平記』と貴族③
第13週　恋する武士　闘う貴族（まとめ）①
第14週　恋する武士　闘う貴族（まとめ）②
第15週　理解度の確認
武士や貴族たちを取り上げ時代と人物から中世社会の特色について考える。列伝，伝記風に語ることで人間を通じ歴史を読むことが主眼です

日本史論III（近世）

3615041300100

副　題	江戸の都市社会							担　当　者	岩淵　令治　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	HIS-215-JB

〔授業の到達目標〕

江戸の都市社会を通して，江戸時代の社会のしくみを理解する。

〔授業の内容〕

近世は，前近代の日本の中で最も都市が発達した「都市の時代」であった。領主が政治・経済の集中を図って計画的に作った城下町，商品流通の発展の中で成長していった在方町は，共通するしくみや文化を持ち，その多くが現代日本の都市の母体となっている。講義では，世界でも有数の人口・規模をほこり，最大の城下町であった江戸をとりあげる。とくに，武家地と町人地を中心に，都市社会のありようを紹介する。

〔教材〕

参考書：岩淵令治編『江戸・大坂・京の三都物語』（週刊朝日百科日本の歴史30）朝日新聞社，2014年
杉森哲也・岩淵令治ほか『日本近世史』放送大学教育振興会，2013年
岩淵令治『江戸武家地の研究』塙書房，2004年

テキストはコピーを配布する。また，授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回配布するプリント類，参考文献・論文の内容確認。

〔成績評価の方法〕

講義中に実施する小テストおよび出席・授業態度（40%），期末試験（60%)。なお、出席は３分の２以上があくまでも条件であり、出席点はとらない。期末試験は記述式で，ノートと講義中に配布したプリント持ち込みを可とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

研究に関する質問・相談は金曜日の13：30～14：30に受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　近世の概説
第２週　近世社会のしくみ　役と身分
第３週　日本都市史の概説・近世の都市
第４週　三都論
第５週　町人地（１）町と町人
第６週　町人地（２）町の変容
第７週　町人地（３）江戸の商人
第８週　武家地（１）武家地の成立と展開
第９週　武家地（２）大名家と江戸の菩提寺
第10週　武家地（３）武家地と出入商人
第11週　寺社地
第12週　江戸の消防制度
第13週　都市の文化－園芸－
第14週　近世考古学
第15週　補足とまとめ
進捗状況によって計画の変更がありうる。

日本史論Ⅳ（近現代）

3615041400100

副　題								担　当　者	加藤　厚子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	HIS-216-JB

〔授業の到達目標〕

幕末から高度経済成長期までのマス・メディア産業の発達過程と関連政策の制定過程を概観して，その特徴を検討することにより，国家と社会，マス･メディアの関係を多面的に理解し，現状を多様な視点から分析するための基礎能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

一般家庭へのインターネット普及以降，マス・メディアに対する人々の認識やマス・メディア産業そのものが大きく変化し，インターネット普及以前のマス･メディアの歴史に関して様々な見解が登場している。またマス・メディアの機能について日本と諸外国とを比較した場合，国や文化による特徴がみられる。これはメディアの社会的位置づけや産業としての発達程度，政府によるメディア政策などの差異に起因するものであり，この歴史的経緯をふまえなければ，マス･メディアの特徴や現況の正確な把握は困難である。幕末から高度経済成長期までのマス･メディア産業の発展過程と関連政策を概観しその特徴を検討することで，現在のマス・メディアを考察するための基礎能力を養う。

〔教材〕

参考書：佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス）岩波書店，1998年
佐藤卓己・渡辺靖・柴内康文編『ソフトパワーのメディア文化政策』新曜社，2012年
教科書は使用しない。その他各回の参考文献は講義中で紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回配布する次回講義に関する予習プリント（資料）を読み，設問について考察すること。講義後は参考文献や講義中指示する文献の関連個所を読んで復習すること。

〔成績評価の方法〕

小レポート１回（20%），学期末試験（80%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外はメール：katsusha1895●gmail.com（change ● to @）で連絡すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　マス・メディア発達過程の通史的整理：メディアの発達過程を整理し，講義の基礎となる時系列を把握する。
第２週　マス・メディア概念の変化：メディア概念の変化を理解し，メディアに対する認識の多様性を考える。
第３週　活字メディア（１）新聞の企業化：新聞社の発達過程と新聞の機能，関連政策を検討し特徴を指摘する。
第４週　活字メディア（２）戦時下の統合と戦後の事業再編：戦中・占領期における新聞の特性と社会的役割を検討する。
第５週　活字メディア（３）出版業の興隆：明治期から現在に至るまでの出版流通機構の形成過程について概観する。
第６週　音声メディア（１）ラジオ放送の開始：国主導で発達したラジオ放送の機能と期待された社会的役割を検討する。
第７週　音声メディア（２）占領政策に伴うラジオ放送改革：ラジオ放送の機構・内容，受容変化を分析する。
第８週　音声メディア（３）レコードとコンテンツ販売：音声記録について他メディアと融合した発達過程を検討する。
第９週　映像メディア（１）企業化と寡占市場の形成：1920年代における日本独自の映画市場の確立過程を概観する。
第10週　映像メディア（２）戦時統制と市場の拡張・再編：戦時映画統制政策の特質について検討する。
第11週　映像メディア（３）日本映画黄金期の到来：占領期以降，社会認識における映画の位置づけの変容を考察する。
第12週　映像メディア（４）テレビの普及と既存メディア：産業史の観点からテレビの登場・普及を概観する。
第13週　メディアの構成要素（１）通信社：通信社の設立過程を概観し，他メディアとの連関性について検討する。
第14週　メディアの構成要素（２）広告：日本における広告業の発達過程と特徴について考察する。
第15週　メディアの構成要素（３）輿論と世論：「輿論」から「世論」への変成が社会に及ぼした影響を考える。
授業内容は進行状況により変更する場合がある。

☆日本文化交流史II

3615051200100

副　題	中世・近世の日中関係							担　当　者	米谷　均　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	HIS-318-JB

〔授業の到達目標〕

前近代の日中関係史を,ヒト・モノ・情報の往来の観点から概説し,その理解を深める。また日中両国の文化交流によってもたらされる「相互理解」のほか,近年看過できなくなってきた「相互不理解」の問題についても積極的に検討する。

〔授業の内容〕

日中両国は,近年国境問題などにより,不和と軋轢（あつれき）が表面化している。それはサブ・カルチャーの伝播により,若い世代同士の距離感が狭まる一方,両国の間に横たわる「歴史」や「領土」をめぐる感覚の相違は,ますます顕在化している。本講義では，前近代の日中関係を，ヒト・モノ・情報の交流という視点から検討する。そして東アジア海域における文物交流がもたらした「相互理解」と,にも関わらず生じるところの「相互不理解」の問題も取り上げたい。なお講義は，授業中に配布するプリントをもって進行し， 時に応じてDVDを上映する。

〔教材〕

参考書：橋本雄『中華幻想―唐物と外交の室町時代―』勉誠出版，2011年
荒野泰典・石井正敏・村井章介『倭寇と「日本国王」』（日本の対外関係史４）吉川弘文館，2010年
山脇悌次郎『長崎の唐人貿易』（日本歴史叢書）吉川弘文館，1995年
橋本雄『“日本国王”と勘合貿易』（NHKさかのぼり日本史）NHK出版，2013年
村井章介『日明関係史研究入門』勉誠出版，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業配布プリントを授業前・授業後に通読しておくこと。

〔成績評価の方法〕

論述試験ないしはレポート（どちらかを選ぶかは未定）のほか，出欠状況を加味して評価を出します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス―日中関係史総論―
第２週　東アジア世界における「本の道」―日中関係と漢籍の還流―
第３週　同　上　―近世・近代における漢籍の還流と流出―
第４週　中国に渡海した日本人僧の「身分証明書」―度牒と戒牒―
第５週　同　上　―留学のための度牒と戒牒の偽造―
第６週　日明関係の開始―東アジアの季節風と遣明船―
第７週　同　上　―肖像画賛と語録の序跋を通じた文化交流―
第８週　勘合と日明貿易―「勘合」の実態と日明貿易の内容―
第９週　同　上　―勘合貿易の利権争奪戦―
第10週　豊臣秀吉の朝鮮侵略と日明関係―豊臣秀吉の登場―
第11週　同　上　―秀吉の日本国王「冊封」の実態―
第12週　江戸時代の日中国交回復の模索と挫折―「鎖国」と「海禁」―
第13週　同　上　―近世日本の四つの口―
第14週　長崎の唐人屋敷―展海令と日中関係―
第15週　同　上　―唐人屋敷の日常―
授業の進捗状況により，下記の計画を変更することもあります。

☆歴史資料論II（考古）

3615061200100

副　題	貝と骨から読み解く日本の歴史と文化							担　当　者	阿部　常樹　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	HIS-320-JB

〔授業の到達目標〕

1．考古学，特に動物考古学の研究方法とその成果の理解
2．日本の歴史における人と動物の関係性の理解
3．日本の文化の成立における動物の位置づけについての理解

〔授業の内容〕

動物は，食材，道具の材料，使役用，愛玩用などさまざまな形で我々の生活に関係しています。つまり，人間の歴史や文化のなかで他の動物との関係性は重要であるといえます。また，現代において一般的に日本文化として知られているほとんどのものは近世に成立したものが多く，動物に関連する事象においても，魚貝類の多くが食材として用いられている「和食」や日本犬種の成立などその例に漏れません。そこで本講義では，遺跡から出土する貝殻や骨など動物の身体に関わる遺物を研究対象としている動物考古学分野から日本の歴史や文化にアプローチしていきます。

〔教材〕

参考書：古泉弘　編『事典　江戸の暮らしの考古学』初版，吉川弘文館，2013年
西本豊弘・新美倫子　編『事典　人と動物の考古学』初版，吉川弘文館，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

本講義を受講する前に，日本史を簡単に復習しておいてください。
講義開始後は，復習をしっかりおこなってください。講義内容が相互に関連しているため予習という側面もあります。
時間のある受講生は，予習として参考書にあげた2冊を読んでいただくことをお勧めします。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度50%，試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　考古学概説
第3週　動物考古学の研究法（解説編）
第4週　動物考古学の研究法（実践編）
第5週　先史時代の生業と食文化（縄文時代を中心に）
第6週　縄文時代以降の生業と食文化（弥生時代～中世）
第7週　考古学から読み解く江戸時代の食文化1
第8週　考古学から読み解く江戸時代の食文化2
第9週　考古学から読み解く江戸時代の食文化3
第10週　考古学から読み解く人と動物の付き合い1イノシシとブタ
第11週　考古学から読み解く人と動物の付き合い2ウマとウシ
第12週　考古学から読み解く人と動物の付き合い3イヌとオオカミ
第13週　考古学から読み解く人と動物の付き合い4ネコ
第14週　人骨から歴史を読み解く
第15週　補足とまとめ

講義内容を一部，変更する可能性もあります。
第4週の「動物考古学の研究法（実践編）」でフライドチキンを食してもらう予定です。鶏肉が苦手な場合やアレルギー等のある場合はあらかじめ教えてください。
第7週から第9週の間で，1回学外授業として江戸遺跡などの見学を予定しています。但し，先方の予定もあるので見学場所を変更または中止する可能性もあります。

歴史資料論III（古文書）

3615061300100

副　題	江戸時代の古文書の解読							担　当　者	岩淵　令治　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	HIS-221-JB

〔授業の到達目標〕

江戸時代のくずし字を，辞書を用いて解読できる能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

日本文化を研究する上で，先行研究のサーベイとともに基礎となるのは，資・史料の分析である。本講義では，江戸時代の古文書読解の独習能力を身につけることを目標とする。具体的には，テキストを配布し，履修者に予習してきてもらい，外国語と同様に毎回輪読する形ですすめていく。テキストは原文書の写真版を用いる。

〔教材〕

教科書：林英夫ほか『近世古文書解読辞典』柏書房

古文書を解読するために，辞書は不可欠なので，履修者は購入してください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

外国語の学習と同様であるため，辞書を用いての解読の予習・復習は必須である。

〔成績評価の方法〕

通常の受講態度（50%）と学期末試験（50%）で判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

研究に関する質問・相談は金曜日の13：30～14：30に受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（近世古文書の概要）
第２週　辞書の使い方等の説明
第３週　テキストについての解説
第４週　テキスト（古文書の写真版）の輪読
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　補足とまとめ

進捗によって，計画を変更することがある。また，可能であれば，博物館見学を１回実施したい。

歴史資料論Ⅳ（古文書）

3615061400100

副　題	江戸時代の古文書を読み解く							担　当　者	工藤　航平　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	HIS-322-JB

〔授業の到達目標〕

江戸時代（近世）のくずし字を，辞書類を用いて解読・理解できる能力を身につけることを目標とします。

〔授業の内容〕

日本の文化を研究する上での第一歩となるのは，古文書・古記録や書物などを読み解くことです。

本授業では，古文書・古記録や書物などの写真版をテキストとし，履修者に予習してきてもらい，毎回輪読する形で進めていきます。

くずし字を解読する上でのポイント，辞書類の使い方，古文書等に記された意味や時代背景などについて，適宜解説を加えます。

〔教材〕

教科書：林秀夫ほか『近世古文書解読辞典』柏書房

古文書等の解読に必要不可欠なので，購入の上，講義に必ず持参してください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

外国語の学習と同様であるため，辞書を用いての予習・復習は必須です。

〔成績評価の方法〕

通常の受講態度（50%）と学期末試験（50%）で判断します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（授業方針・計画の説明，江戸時代の古文書等の概要）
第２週　辞書類の使い方などの説明
第３週　テキストの輪読
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめと補足

第１週は，授業の進め方と，古文書・くずし字とはどういうものかを解説し，本授業の意義について理解してもらいます。／第２週は，短い文章を用いて，くずし字の解読の仕方や辞書類の利用方法などを解説し，解読するための基本的な技術を身につけてもらいます。／第３週から第14週では，実際にテキストを用いて，履修者に輪読をしてもらい，それをもとに適宜解説を加えます。／第15週では，授業全体のまとめと補足を行います。

形象文化論I（絵画）

3613051100100

副　題	日本絵画史の諸様相							担　当　者	石田　佳也　講師
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ART-201-JC

〔授業の到達目標〕

様々なテーマを通して，各時代の画家や主要な作品を確認することにより，日本絵画史の概要を理解する。

〔授業の内容〕

絵巻や屏風などの日本絵画には，花鳥や山水，人物，動物などさまざまな画題が描かれている。この講義では，日本絵画史の基礎事項を確認しながら，とくに個々の主要作品の画題に着目して，その画家や流派，技法，文化史的意義や時代背景を詳しく考察する。

〔教材〕

参考文献に関しては授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回に配布したレジュメの内容を，再確認する。可能であれば，授業中に指定した参考文献を参照し，また授業中に推薦する授業に関連した展覧会を鑑賞する。

〔成績評価の方法〕

出席状況（40%）と期末のレポート（60%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容のガイダンス
第２週　日本絵画史の基礎事項　画家や流派，技法を中心に
第３週　〃
第４週　〃
第５週　日本絵画の画題について
第６週　日本絵画史の諸様相　主要作品を通して文化史的意義や時代背景を考察する
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括
毎回，スクリーンに関連する画像を相当数映写する。
講義で取り上げる項目の順番は，適宜変更する場合もある。

形象文化論II（絵画）

3613051200100

副　題	日本写真を読む：モダニズムから現代アートまで	担　当　者	佐々木　悠介　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	ART-202-JC

〔授業の到達目標〕

１．大正期から現代までの日本写真における様々な動向を知る。
２．日本写真を，伝統的な美術やジャーナリズム，文学といった様々なジャンルとの関係で，また同時代のヨーロッパやアメリカの写真との関係で理解し，関心領域を拡げる。
３．授業での小論述とその添削指導を通して，学術的な文章表現を身につける。

〔授業の内容〕

写真術が発明されて二百年に満たず，絵画や文学といった領域と比較すれば，まだ歴史の浅いジャンルである。また，技術的な発展によってさまざまな表現が可能になったのは，おもに二十世紀に入ってからであると言って良い。しかし二十世紀以降の写真に絞ってみれば，日本はフランスやアメリカなどいくつかの文化圏と並んで，レベル，分量，多様性とも豊かなものを残してきた。そうした日本写真について知ることで，伝統的な美術だけでなく，文学やジャーナリズムといった，日本の様々な文化事象を考える上でも，様々な示唆が得られるはずである。

本講義では大正期モダニズム以降の日本写真のざまざまな動きと，同時代の欧米の写真の動向を，二週に一つのテーマを立てて取り上げる。写真資料を見て考え，評価するにはそれなりの訓練が必要であるが，できるだけ多くの図版資料を講義で見せながら解説するので，受講者は写真に関する予備知識はなくても構わない。

また，写真に関する資料には大学図書館に所蔵されていないものも多いので，そういった資料や貴重な写真集の探し方や閲覧の仕方，レポートのための図版資料の作り方も併せて指導する。

〔教材〕

参考書：鳥原学『日本写真史（上、下）』（中公新書）中央公論新社，2013年
飯沢耕太郎（監修）『カラー版 世界写真史』美術出版社，2004年

各回の講義で扱う個別の対象に関しては，適宜，参考文献を案内する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テーマごとに前もって配布する資料に目を通し，また授業で扱う題材に関する読書課題・調べもの課題に取り組む。

〔成績評価の方法〕

講義の中で行う小論述（10点×６回）：60点
期末レポート：40点
※配点その他については小論述の実施回数に応じて若干変更する場合がありますが，期末前には明示します。
※期末レポートについては，基本的な文献の探し方，書式も含めて授業中に案内します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

初回講義に出席し，またそれ以降は講義前後の時間帯に直接相談してください。
受講者とのやりとりに使えるメールアドレスは，講義の中で案内する予定です。

〔授　業　計　画〕

第１週　初回ガイダンスの後，ピクトリアリズム（野島康三，安井仲治，福原信三など，および英米のピクトリアリストたち）前編
第２週　ピクトリアリズム　後編
第３週　関西モダニズムと写真（安井仲治，中山岩太，浪華写真倶楽部，芦屋カメラクラブなど，およびフランスを中心としたモダニズム写真の動向）前編
第４週　関西モダニズムと写真　後編
第５週　フォトジャーナリズム（木村伊兵衛と名取洋之助，およびマグナム・エージェンシーを中心としたフォトジャーナリズムの隆盛まで）前編
第６週　フォトジャーナリズム　後編
第７週　フォトジャーナリズムの後にくるもの（フランス語圏，英語圏の写真家たちを中心に）前編
第８週　フォトジャーナリズムの後にくるもの　後編
第９週　日本の戦後世代から「プロヴォーク」まで（東松照明，奈良原一高，細江英公，中平卓馬，森山大道など）前編
第10週　日本の戦後世代から「プロヴォーク」まで　後編
第11週　写真と文学（安部公房，金井美恵子など，およびフランス語圏のロマン＝フォト）前編
第12週　写真と文学　後編
第13週　日本写真の海外受容　前編
第14週　日本写真の海外受容　後編
第15週　最終回まとめと期末レポート提出
授業で取り上げる図版資料の都合で，上記の題材を一部変更する場合があります。

形象文化論III（生活芸術）

3613051300100

副　題	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、ジャポニスム、欧米と日本の諸芸術	担　当　者	岡部　昌幸　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ART-203-JC

〔授業の到達目標〕

アール・ヌーヴォー，アール・デコ，ジャポニスム，そのほか19世紀末から20世紀前半の欧米と日本の諸芸術について，知識を得，体験的な学びをする。

〔授業の内容〕

アール・ヌーヴォー，アール・デコとジャポニスム（日本美術心酔）を中心に，生活美術・装飾美術における東西美術文化交渉と日本文化の果たした国際貢献を論じます。現在，国際化や企業・行政の文化的地域的貢献，さらには環境問題の必要が叫ばれています。しかし，それらのコンセプトと実現は，すでに19世紀～20世紀前半の日本と，日本の影響を基に起きた欧米の美意識・造形の革命に見直すことができます。過去の歴史と，今なお生きる作品に，豊かな美と心，生き方を学びましょう。型どおりの通史やジャンルでなく，作家の内面や実作品との対話を通じて，未知の新しい価値を見出す眼を養いましょう。作品鑑定の学びも導きます。

〔教材〕

教科書：岡部昌幸『すぐわかる作家別アール・ヌーヴォーの美術（改訂版）』改訂版，東京美術，2011年

購入は必須です。参考書は，講義中で随時，指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習および復習として，学期中に美術館見学３館(都内，各４時間)，教科書・参考書通読６時間を最低，必要とします。

〔成績評価の方法〕

（１）出席の確認は毎回行いますが，意味ある出席を求め，積極的な関わりを求めます。また（２）学期中に小レポートを１，２回，そして（３）学期末に400字×７枚程度のレポートの提出，（４）指定された美術館・歴史的文化財の見学を課し，およそ（１）を30%（２）を15%（３）を40%（４）を15%の割合で総合評価を行います。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　美術と人生（１）
第２週　美術と人生（２）
第３週　作品鑑定と美術品の流通(１)
第４週　作品鑑定と美術品の流通(２)
第５週　アール・ヌーヴォーのコレクションと美術館収集（１）
第６週　アール・ヌーヴォーのコレクションと美術館収集（２）
第７週　バレエ・リュスと総合芸術
第８週　クリスチャン・ディオールとファッション，20世紀芸術
第９週　建築と庭園の芸術
第10週　「いき」の構造と日本のアール・デコ
第11週　竹久夢二と大正ロマン
第12週　フランク・ロイド・ライトとイームズ・デザイン
第13週　イサム・ノグチ，環境芸術へ
第14週　見直しとまとめ（１）
第15週　見直しとまとめ（２）

受講者もこの講義の流れに沿い，それぞれ自分自身，受講の目標の設定，学習の計画，将来の展望をもって，この講義の受講を有意義なものとする意欲と心構えを求めたいと思います。受動的ではなく自主的に関わる受講態度を求めます。

形象文化論Ⅳ（空間造形）

3613051400100

副　題	映像と空間							担　当　者	堀江　秀史　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ART-204-JC

〔授業の到達目標〕

映像の技術史を概観し，個別の作家・作品論へと応用できる基礎的知識を得る。

近現代日本の芸術環境において，映像がいかに用いられてきたかを学ぶことを通じて，比較芸術論の観点から映像を考えるとはどういうことかを理解する。

戦後日本の実験映像の諸相を学ぶ。

映像を総合的に捉え，批判的に観賞する能力を身につける。

〔授業の内容〕

映像は一般に，二次元的な存在であると考えられているが，観賞者がそれをどのように受けとめるかに着目すると，時間的，空間的広がりのなかで捉える必要があることが分かる。本授業では，隣接諸芸術領域にも眼を配りつつ，大きく以下四つの観点から「映像」を検討する。

1，技術史――写真から映画へ
2，〈映像〉という概念の諸相とその特性
3，近代日本における映像と演劇
4，空間の中の映像――戦後日本の実験映像

個別の作品・作家というよりも，文学，絵画，音楽その他，広く芸術一般を視野に入れつつ映像について考えることで，相対的に「映像」なるものの特性を浮き彫りにすることを目指す。

〔教材〕

参考書は授業時に指示。原則としてプリントやスライドで授業を行なう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に示す参考文献に目を通す。授業内容を復習し，要点を自分なりにまとめなおす。積極的に都内の映画，演劇，展覧会を観に行くことを奨励（義務ではない）。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパー（50%）及び期末レポート（50%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜午後。

随時メールによって対応。別途指示。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　概念の検討1――「映像」とimage
第3週　概念の検討2――近代小説の中の「映像」
第4週　映像の技術史1――世界写真史1
第5週　映像の技術史2――世界写真史2
第6週　映像の技術史3――世界映画史
第7週　映像と印刷――道具としての光
第8週　複製芸術論
第9週　古典映画観賞（リュミエール諸作品）
第10週　近代日本の演劇と映像
第11週　戦後日本の映像批評理論――理論誌の展開1
第12週　戦後日本の映像批評理論――理論誌の展開2
第13週　戦後日本の実験映像作家――松本俊夫ほか
第14週　戦後日本の演劇と映像――寺山修司1
第15週　戦後日本の演劇と映像――寺山修司2
　　まとめ

なるべく多くの実験映像に触れる機会を持つ予定。

形象文化論V（近現代美術）

3613051500100

副　題	現代美術はどのように形成されてきたか							担　当　者	清水　敏男　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ART-205-JC

〔授業の到達目標〕

19世紀後半から20世紀にいたるまでの近現代美術の動向について基礎的な知識を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」20世紀後半までの美術は欧米の一部を中心に展開されてきた。しかし20世紀後半になると徐々に領域をひろげ，1989年の冷戦の終了以降は地球規模での美術活動の展開が顕著になった。本講義では20世紀はじめから現代にいたるまでの世界の美術の動きに関する知識をつけ，現代美術の意味と動向を理解することを目的とする。

「授業の概要」17世紀にはじまる近代思想，近代科学の歴史を概観するところからはじめる。19世紀後半以降のフランス近代美術の歴史に始まり，欧米における20世紀前半の美術の諸潮流を概観することで，近代美術の基礎的知識を得る。ついで20世紀後半の美術の展開を主な美術運動を通じて理解し，さらに1989年以降世界各地での美術の展開を学ぶ。そして21世紀にはいった世界の最新の美術状況を学び，現代美術の意味を深層から理解する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

現代美術（現存作家の美術）展覧会を最低１点調査しレポート（各1000字）を初回提出すること。

〔成績評価の方法〕

出席日数，展覧会調査レポート（1000字×10本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日12時半から１時，午後２時半から３時

〔授　業　計　画〕

第１週　ルネッサンスから17世紀へ１
第２週　ルネッサンスから17世紀へ２
第３週　印象派
第４週　19世紀末から20世紀はじめの美術１
第５週　19世紀末から20世紀はじめの美術２
第６週　日本の近代美術
第７週　藤田嗣治（明治以降の日本美術と世界の関係）
第８週　20世紀前半のアメリカにおける美術近代化とデザインの誕生
第９週　イブ・クラインとヌーボーレアリスト
第10週　日本の現代美術（具体）
第11週　日本の現代美術（ネオダダ以降）
第12週　日本の現代美術（現代）
第13週　新しい世界の美術の台頭（中国）
第14週　新しい世界の美術の台頭（アジア，アフリカ）
第15週　国際展，まとめ

形象文化論VI（芸術交流論）

3613051600100

副　題	近代日本の音楽文化の諸相	担　当　者	高久　暁　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ART-206-JC

〔授業の到達目標〕
・現代日本の音楽文化の基層をなしている近代日本（江戸時代末期から明治時代・大正時代・昭和初期）の音楽文化の諸相とその豊かさを知り，音楽をより深く多角的な側面からアプローチするための方法を知る。
・近代日本の音楽ジャンルを代表する曲種と楽曲，その作曲者・演奏者らについて，録音資料や映像資料を介して体感的に知る。

〔授業の内容〕
江戸時代末期から昭和初期にかけての時代は，日本の音楽文化がダイナミックな変容を遂げた時期として特筆されます。今年度の授業では，この時期に発生・発展・消滅あるいは発展的解消を見たさまざまな音楽をジャンル横断的に紹介してその音楽的実態を知り，社会的背景や影響関係についても考察を行います。授業では録音資料や映像資料を積極的に活用します。今年度の授業では，西洋音楽のスタイルの音楽の作曲家たちの作品の紹介に少し力点を置く予定です。

〔教材〕
教科書は特に使用しません。講師の作成したプリントを配布します。参考図書はたくさんあるので，授業で指示あるいは紹介するようにします。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
準備学習として調べるべき項目（人名や作品名や用語など）や聞くべき音楽（動画サイトを用いることもあります）を授業で指示することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

〔成績評価の方法〕
出席の回数とレポートを総合的に評価します。今年度は短いレポート(授業の内容に関連する首都圏の音楽博物館，または展示の見学報告)と，授業の内容に基づいたレポート１通（学期末のレポート，2400字程度）の提出を課します。レポートを作成するために授業で指示された参考図書を読む必要があります。詳細は初回の授業で説明します。また，７月初旬の授業でもプリントを配布して詳しく指示を行います。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
・出講時限の前後に直接面会する。
・学期末レポートの執筆要領を記したプリントに，教員と確実に連絡の取れるメールアドレスを公表します。

〔備考〕
音楽の専門的知識や経験は必要ありませんが，義務教育修了程度までの音楽全般にわたる知識は前提とします。社会情勢の変化に応じて，授業内容を変更する場合があります。日本と隣接地域（朝鮮半島，中国大陸，台湾など）の地理や近代史の基礎知識が必要となる場合もありますが，最低限の必須項目は授業でも触れるようにします。授業に出席して，どのようなタイプの音楽にも積極的に聞き取ってゆく態度が一番大切です。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業ガイダンス，音楽をめぐる学問とその広がり，音楽の調べ方，首都圏の代表的な音楽資料館とその利用法，成績評価の課題（レポート）の説明ほか
第２週　日本の音楽文化の特質（１）歴史的・地理的概観
第３週　日本の音楽文化の特質（２）社会史的概観
第４週　日本の音楽文化の特質（３）近代日本の音楽文化の特質
第５週　失われた近代日本の外来音楽（１）明楽・琉球宮廷音楽：日本の音楽文化のなかの中国音楽
第６週　失われた近代日本の外来音楽（２）清楽・清楽から演歌・歌謡曲へ
第７週　唱歌の諸相（１）複数の「唱歌」・学習院でも歌われた保育唱歌
第８週　唱歌の諸相（２）唱歌の東アジア世界への伝播
第９週　唱歌の諸相（３）唱歌の細分化・儀式唱歌と校歌・社歌
第10週　西洋音楽の大衆化の諸相
第11週　邦楽の近代・新日本音楽とその後
第12週　戦前期の西洋音楽（１）　作曲家とその作品(山田耕筰，信時潔ほか)
第13週　戦前期の西洋音楽（２）　作曲家とその作品（1900年代以降の作曲家たち）
第14週　戦前期の西洋音楽（３）　演奏家とその演奏(久野久・澤田柳吉から原智恵子・安川加壽子など)
第15週　授業で十分に触れられなかった重要事項について，まとめ
授業計画については初回の授業でも説明します。

身体文化論I（現代舞踊）

3613053100100

副　題								担　当　者	尼ヶ崎　彬　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ART-207-JC

〔授業の到達目標〕

近代芸術としての舞踊についての基本的知識を習得し，個々の業績の芸術的意義について説明できるようになる。

〔授業の内容〕

20世紀に日・米・欧で創造された現代舞踊を順次とりあげ，その活動をビデオで紹介し，その思想や活動の意義を同時代の現代芸術との関係の中で考察する。

〔教材〕

参考書：尼ヶ崎　彬『芸術としての身体』勁草書房，1988年
　　尼ヶ崎　彬『ダンス・クリティーク』勁草書房，2004年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(授業でとりあげる予定の舞踊家についての学習)2時間。復習(予定以外に授業でとりあげた舞踊家についての補充的学習)4時間。

〔成績評価の方法〕

原則として試験により評価するが，場合によってはレポートに代替することもある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

下記参照

質問がある場合,簡単なことはメールでakira.amagasaki●gakushuin.ac.jp（change ● to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う。

〔授　業　計　画〕

第１週　ディアギレフとバレエ・リュス
第２週　ニジンスキーと『春の祭典』
第３週　マーサ・グラハムとモダンダンス
第４週　石井漠と日本の新舞踊
第５週　カニングハムとバランシン
第６週　ポスト・モダンダンスの実験
第７週　土方巽と暗黒舞踏
第８週　モーリス・ベジャール
第９週　アルヴィン・エイリー
第10週　フランスのヌーヴェル・ダンス
第11週　ピナ・バウシュとフォーサイス
第12週　新しい潮流
第13週　日本のコンテンポラリー・ダンス
第14週　〃
第15週　〃
上記計画は現在の予定であり，じっさいには変動することがある。

身体文化論II（現代演劇）

3613053200100

副　題								担　当　者	尼ヶ﨑　彬　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ART-208-JC

〔授業の到達目標〕

明治維新にともなう日本近代化への努力の一部としての「近代的演劇」への模索，1960年代の反近代を標榜する文化革命の一部としての「反近代演劇」の実験，そして現代の多様な演劇実践について，基本的知識を獲得し，自分自身の視点をもって説明できるようになる。

〔授業の内容〕

明治の新しい演劇への出航と，1960年代以降の創造的な演劇に焦点を当て，現代の「ポストドラマ演劇」までをビデオを利用しつつ概観する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(シラバスに示した演劇人についての学習)2時間。復習(予定以外に授業でとりあげた演劇人についての補充的学習)4時間。

〔成績評価の方法〕

原則として試験によって評価するが，場合によってはレポートによって代替する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

下記参照

質問がある場合,簡単なことはメールでakira.amagasaki●gakushuin.ac.jp（change ● to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水の３限または木曜２限に研究室で行う。

〔授　業　計　画〕

第１週　歌舞伎改良
第２週　壮士芝居と女優
第３週　新派
第４週　新劇
第５週　60年代演劇１（鈴木忠志）
第６週　60年代演劇２（唐十郎）
第７週　60年代演劇３（寺山修司）
第８週　70年代演劇（つかこうへい）
第９週　80年代演劇１（野田秀樹）
第10週　80年代演劇２（鴻上尚史）
第11週　80年代演劇３（さまざまな試み）
第12週　現代演劇１（平田オリザ）
第13週　現代演劇２（宮城聡と安田雅弘）
第14週　現代演劇３（ケラリーノ・サンドロビッチと松尾スズキ）
第15週　現代演劇４（岡田利規他）
歌舞伎改良運動，新派・新劇，アンダーグラウンド演劇，小劇場演劇，そしてパフォーマンスを含む現代の演劇までを映像資料を見つつ，紹介する。

日本思想研究I（神話）

3613061100100

副　題	日本神話の成り立ち							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	JPN-209-JC

〔授業の到達目標〕
古代王権の目指した神話構築の方向性およびその意義が理解できるようになる。

〔授業の内容〕
古事記上巻と日本書紀巻一巻二はさまざまな神話群によって構成されている。そのストーリーは過去から現在へと流れる時間軸に沿うかたちで展開している。しかしそれは初めから今見るかたちのものがあったわけで無く，個々の神話を様々に改変し，組み立て直すことでできあがって来たものと思われる。本講義では，それぞれの神話のもとのかたちを探り，各神話が本来的に表していたと思われる意味を推測し，古代の日本人がこの世のありかたをどのように把握していたのかを考察する。同時に，古事記・日本書紀として示されている神話全体の構造の示している表現意図をも探ってみたい。

〔教材〕
教科書：神田典城『対照神代記紀』笠間書院
テキストを中心に講義を進めるが，必要に応じて適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
学期末試験(100%)による

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕
今年度は，出雲神話を取り上げる

〔授　業　計　画〕

第１週　古代の文献を読むために。
第２週　日本神話とは何か。
第３週　スサノヲの神性
第４週　ヲロチ退治
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　オホクニヌシの神性
第９週　イナバの白兎
第10週　〃
第11週　〃
第12週　オホクニヌシの試練
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本思想研究II（仏教）

3613061200100

副　題	日本的仏教の特色							担　当　者	加藤　みち子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	PHL-210-JC

〔授業の到達目標〕

・世界宗教の一つである仏教の基本的な考え方を理解すること。
・インド，中国の仏教とは異なる「日本仏教」の特色について理解を深めること。
・現代にまで通じる仏教思想の日本文化への定着の諸相について知識を得ること。

〔授業の内容〕

本講義では，日本思想との出会いによって変容し日本化した仏教の特色について理解することを目指します。

具体的には，中国で成立し，日本独自の展開をした，禅，浄土，密教，天台などの思想を，中国と日本を比較しながら説明していきます。また。各宗派が説法に用いた絵画資料なども手掛かりに，日本仏教独自の仏教信仰，現代にまで通じる仏教行事の意味などについても解説していきます。

〔教材〕

教科書：加藤みち子『絵から読み解く日本仏教－日本仏教概論』山喜房佛書林，2012年

参考文献，補助的参考文献については，講義の中で随時，紹介していきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書，配布プリントの指定個所をあらかじめ読んでから出席すること。

授業後は，教科書･配布プリントを再読し，紹介された参考文献を読んで理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%），授業内ミニレポート等（30%）の総合点で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

第一回授業に必ず出席してください。成績評価，授業の進め方等について重要な説明をします。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容のガイダンスとイントロダクションー世界宗教としての仏教
第２週　東アジア仏教の特色ー漢文経典の成立と，宗派仏教
第３週　禅と禅宗ーその思想と特色
第４週　「十牛図」からみる禅の思想と禅の日本化
第５週　阿弥陀仏の浄土と念仏ー浄土宗とその教え
第６週　「来迎図」からみる浄土思想と日本的浄土思想
第７週　薬師如来と温泉信仰
第８週　神仏習合とはー「女体権現」とは？
第９週　閻魔王と地獄，そして法華経信仰
第10週　六道輪廻と地蔵信仰
第11週　施餓鬼供養と観音信仰
第12週　霊山曼荼羅と修験の思想
第13週　「観心十法界図」と天台の思想
第14週　「曼荼羅」と密教の思想
第15週　エピローグ－日本思想と「日本的」仏教の特色

授業計画は進み具合によって，若干変更することがあります。

日本思想研究III（神道）

3613061300100

副　題	神道思想の特色							担　当　者	加藤　みち子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	PHL-211-JC

〔授業の到達目標〕

・仏教の仏や，キリスト教の神とは異なる，神道・神祇信仰の「かみ」と「かみまつり」の意味を理解すること。

・日本思想史上における神道理論の成立・発展とその意義を理解すること。

〔授業の内容〕

本講義は，古代以来，日本の生活思想文化の形成に多大な影響を与えた「神祇信仰」と「神道思想」の特色を，12世紀から17世紀を中心にみていきます。この作業を通して，現代日本人の生活にも深くかかわる「神道思想」とその意義を考察することを目指します。

〔教材〕

教科書：加藤みち子『「かみ」は出会って発展する－神道ではない日本の「かみ」史・古代中世編』北樹出版，2011年

教科書は必携です。必ず入手し，毎時間持参してください。学習を深めるための参考書は，授業内で，随時紹介していきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書・配布プリントの指定個所を読んで質問が出来るようにして来てください。

教科書・配布資料を再読し，参考文献を読んで理解を深めてください。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%），授業内ミニレポート等（30%）の総合評価です。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

第１回授業に必ず出席してください。単位取得等に関する重要事項を説明します。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の進め方についてのガイダンス，イントロダクション
第２週　「かみ」に関する基礎知識（１）
第３週　「かみまつり」に関する基礎知識（２）
第４週　変容発展する「かみ」
第５週　仏教と出会って発展する「かみ」－八幡神
第６週　本地垂迹と山王神道
第７週　伊勢神宮の祭神
第８週　神道五部書と「皇」字をほしがる神
第９週　度会家行と伊勢の神道説
第10週　日本は「神国」か？
第11週　御霊信仰－人の「たま」を神としてまつること
第12週　「心」と出会った神－吉田神道説
第13週　三社託宣と「かみのことば」
第14週　「神もうで」のいろいろ－遠隔地の神社への参拝の意味
第15週　エピローグ－日本思想と神道
だだし，進み具合，受講生の理解度によって多少変更することがあります。

☆日本思想研究V（芸道）

3613061500100

副　題								担　当　者	尼ヶ﨑　彬　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	PHL-213-JC

〔授業の到達目標〕

「芸術」という概念と制度は18世紀のヨーロッパの産物であり，日本でこれに相当するのが「芸道」である。それは日本人の美意識や自然観，そして生活文化と密接に結びついている。この芸道についてそれがどのような思想から生れ，どのような制度となったのかを説明できるようになる。

〔授業の内容〕

芸道は中世の歌道から始まる。授業は歌道の背後にある自然観や日本人の文化的特徴から始まり，近世の家元制度の完成までを，その思想を中心に概観する。

〔教材〕

教科書：尼ヶ崎　彬『縁の美学――歌の道の詩学２』勁草書房，1995年

上記教科書は現在入手困難であるが，授業時に入手方法について説明する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(シラバスに示した事項について教科書による学習)2時間。復習(予定以外に授業でとりあげた事項についての補充的学習)4時間。

〔成績評価の方法〕

試験により評価する

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

下記参照

質問がある場合，簡単なことはメールでakira.amagasaki●gakushuin.ac.jp（change ● to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水の３限または木曜２限に研究室で行う。

〔授　業　計　画〕

第１週　和歌の芸術的特徴（枠と縁）
第２週　同上
第３週　日本文芸にみる自然観（古代）
第４週　同上（中世前期）
第５週　同上（中世後期）
第６週　和歌と仏教（藤原俊成）
第７週　同上
第８週　数寄としての和歌
第９週　道としての和歌（藤原定家）
第10週　同上
第11週　俳諧の風雅（芭蕉）
第12週　同上
第13週　日本学としての歌論（本居宣長）
第14週　近世芸道
第15週　家元制度

上記は予定であって，じっさいには計画変更されることもある。

日本思想研究VI（近世思想）

3613061600100

副　題								担　当　者	吉田　麻子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	PHL-214-JC

〔授業の到達目標〕

わたしたちが生きている今の時代の価値観・もののとらえ方・考え方などは絶対的なものではないということを実感し，相対化できるようになること。

〔授業の内容〕

近年のアニメ「妖怪ウォッチ」の大流行をあげるまでもなく，現代科学がいくら進んだところで，わたしたちはこの世ならぬものに対しての興味を失うことは決してありません。いつになっても「本当にあった怖い話」は尽きることなく口にのぼり，多くの人々の関心をひきつけて止みません。

また，わたしたちが普段から「霊魂なんて存在しない，死んでしまえばそこにあるのは無だけだ」と考えていたとしても，やっぱり親しい人のお墓の前に立てば，自然と心の中でその向こうにいる誰かに向かって言葉をかけてしまうのも事実です。つまり,現代人である私たちは，一方では「死後の魂」や「この世ならぬ不思議なものたち」について冷静で客観的な意識を持ちながらも，どこかで完全には割り切ることができないという，大変あいまいで矛盾した感覚をもっているのではないでしょうか。

ところで，近代西洋科学が入ってくる以前の日本では，死や死後の世界，あるいは妖怪や幽霊といった不思議な存在は，現代の私たちが感じているよりもずっと身近で当たり前のものでした。

この授業では，江戸時代の日本人が，人間の死生をどう考えていたのか，またそこに神や妖怪や幽霊はどう関わっていたのかについてとりあげます。特に，江戸時代の思想家・平田篤胤（篤胤は妖怪話を研究し，また人の霊魂の行方を考えました）を中心に考えていきます。

〔教材〕

授業中に指示します

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業でとったノートや書き込んだプリントの断片的な情報を，次の授業までに，もう一度，自分の言葉できちんとした文章に直しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業全体の三分の二以上の出席を最低条件として，成績評価は授業中に提出する課題が20%，最後に課すレポートが80%とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　二十一世紀の死生観１
第３週　二十一世紀の死生観２
第４週　二十一世紀の死生観３
第５週　霊魂のゆくえと西洋文明の接近
第６週　鬼神は実在するのか
第７週　江戸の知識人と妖怪，不思議な話
第８週　大江戸妖怪ブーム
第９週　祈ること祭ること
第10週　死と生の捉え直し１
第11週　死と生の捉え直し２
第12週　柳田国男と平田篤胤１
第13週　柳田国男と平田篤胤２
第14週　映画『遠野物語』
第15週　まとめ

日本文学論I（上代）

3613071100100

副　題	万葉集・初期の歌人から人麻呂へ							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	LIT-215-JC

〔授業の到達目標〕

万葉集の歌を学ぶことを通じ，日本における言語と文字との関係性，および歌の凝縮した表現を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

万葉集は，わが国最古にして最大の歌集です。そこに収載された数多くの歌につき，その一語一句について，訓み・語彙を厳密に検討しながら，定型詩という制限の中で実現された，凝縮した語のあり方に触れていきます。今期は万葉前期の歌，即ち初期の歌人達の歌及び柿本人麻呂の歌を取り上げます。

〔教材〕

教科書：小野寛編『新選　万葉集抄』笠間書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のペーパーテスト(100%)による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入として，古代の歌の状況の把握。
第２週　初期の歌人たち（１）
第３週　初期の歌人たち（２）
第４週　初期の歌人たち（３）
第５週　初期の歌人たち（４）
第６週　初期の歌人たち（５）
第７週　人麻呂の歌（１）
第８週　人麻呂の歌（２）
第９週　人麻呂の歌（３）
第10週　人麻呂の歌（４）
第11週　人麻呂の歌（５）
第12週　人麻呂の歌（６）
第13週　人麻呂の歌（７）
第14週　人麻呂の歌（８）
第15週　人麻呂の歌（９）

日本文学論II（上代）

3613071200100

副　題	万葉集・旅人憶良から家持へ							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	LIT-216-JC

〔授業の到達目標〕

万葉集の歌を学ぶことを通じ，日本における言語と文字との関係性，および歌の凝縮した表現を理解できるようになる。

〔授業の内容〕

万葉集は，わが国最古にして最大の歌集です。そこに収載された数多くの歌につき，その一語一句について，訓み・語彙を厳密に検討しながら，定型詩という制限の中で実現された，凝縮した語のあり方に触れていきます。今期は万葉後期の歌，即ち大伴旅人・山上憶良，そして大伴家持の歌を取り上げます。

〔教材〕

教科書：小野寛編『新選　万葉集抄』笠間書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを読んで理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のペーパーテスト(100%)による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入として，古代の歌の状況の把握。
第２週　旅人と憶良（１）
第３週　旅人と憶良（２）
第４週　旅人と憶良（３）
第５週　旅人と憶良（４）
第６週　旅人と憶良（５）
第７週　旅人と憶良（６）
第８週　旅人と憶良（７）
第９週　家持（１）
第10週　家持（２）
第11週　家持（３）
第12週　家持（４）
第13週　家持（５）
第14週　家持（６）
第15週　家持（７）

日本文学論III（中古）

3613071300100

副　題	越境する物語							担　当　者	伊藤　守幸　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIT-217-JC

〔授業の到達目標〕

平安時代の物語が，海外に対して開かれた視座を有していることを，具体的作品に即して理解する。

〔授業の内容〕

『竹取物語』,『うつほ物語』,『浜松中納言物語』を中心に，そこに登場する舶来の品々に着目し，王朝人の国際感覚を確認するとともに，海外を舞台として新たな物語を展開する，王朝人の想像力の在り方について考察する。

〔教材〕

教科書：上坂信男訳注『竹取物語』（講談社学術文庫）講談社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前の作品講読と事後の補足的調査。4時間。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%），レポート（80%）を概ねの目安とし，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後1時半～2時半。

〔授　業　計　画〕

第1週　受講生の確認と授業計画の説明。
第2週　物語文学史概説
第3週　異国を描く物語について
第4週　『竹取物語』と異国
第5週　求婚難題説話と舶来品（1）
第6週　求婚難題説話と舶来品（2）
第7週　求婚難題説話と舶来品（3）
第8週　求婚難題説話と舶来品（4）
第9週　『うつほ物語』の類聚趣味
第10週　蔵を開く物語―『うつほ物語』とアラビアンナイト
第11週　俊蔭巻の波斯国描写の特質（1）
第12週　俊蔭巻の波斯国描写の特質（2）
第13週　瑠璃に荘厳された世界―『うつほ物語』とラピスラズリ（1）
第14週　瑠璃に荘厳された世界―『うつほ物語』とラピスラズリ（2）
第15週　瑠璃に荘厳された世界―『うつほ物語』とラピスラズリ（3）

※日本文学論Ⅳ（中古）

3613071400100

副　題	英語圏の日本古典文学研究について							担　当　者	伊藤　守幸　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIT-218-JC

〔授業の到達目標〕

『源氏物語』や『更級日記』の英訳本の読解を通じて，日本の古典文学を海外の読者に紹介することの意義や問題点について，具体的に考察し理解を深めてもらう。

〔授業の内容〕

海外の日本文学研究，とりわけアメリカを中心とする英語圏におけるそれは，量的にも質的にも充実度を増しているが，そのような海外の研究に対する日本国内の研究者や読書人の関心は，残念ながら決して高いとは言えない。授業では，そうした偏りを是正する意味もこめて，日本古典文学に関する英語圏の論文を紹介する。この授業を通じて，日本文学や日本文化に対する国際的理解なるものが，基本的に翻訳を前提としてしか成り立たないという現実に目を向け，その意味を考えてもらいたい。また，アンツェン＆伊藤訳“The Sarashina Diary”を用いて，『更級日記』の新旧英訳の比較を具体的に行なう。

〔教材〕

参考書：ソーニャ・アンツェン＆伊藤守幸, *The Sarashina Diary*, Columbia University Press, 2014

教材は，適宜コピーして配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

英語教材を多く用いるので，事前準備と事後の復習は欠かせない。4時間。

〔成績評価の方法〕

出席状況（20%），レポート（80%）を概ねの目安とし，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後1時半～2時半。

〔授　業　計　画〕

第1週　受講生の確認と授業計画の説明
第2週　英語圏の日本文学研究の歴史を概観する
第3週　英語圏における『源氏物語』受容の歴史について
第4週　アーサー・ウェイリー訳『源氏物語』登場の意義
第5週　「世界文学」としての『源氏物語』
第6週　新旧の英訳『源氏物語』を比較する
第7週　I. モーリス訳『更級日記』の功罪
第8週　新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（1）
第9週　新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（2）
第10週　新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（3）
第11週　新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（4）
第12週　新旧の英訳『更級日記』の「解説」を比較する（5）
第13週　新旧の英訳『更級日記』の本文を比較する（1）
第14週　新旧の英訳『更級日記』の本文を比較する（2）
第15週　新旧の英訳『更級日記』の本文を比較する（3）

日本文学論V（中世）

3613071500100

副　題	絵巻と文学 - 説話絵巻・お伽草子絵巻・妖怪絵巻の世界							担　当　者	徳田　和夫　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	LIT-219-JC

〔授業の到達目標〕

中世日本における様ざまな物語文学・説話文学を知識とし，その特徴を文化史的に理解します。

日本のビジュアル・カルチャーの展開の把握と，文芸メディアとしての絵巻に親しみます。

〔授業の内容〕

代表的な説話絵巻，お伽草子絵巻，妖怪絵巻を取り上げて，その文芸面とビジュアル・カルチャーの意義を説明し，あわせて比較文化の視点からも講義します。

対象が視覚的な作品であることから，映像,画像を多用します。

〔教材〕

参考書などを授業の開始時および折々に紹介し，またプリント資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

小テスト（理解度の確認）とレポートによっておこないます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始時に指示します。

〔授　業　計　画〕

第１週　ことばと絵，文学と絵画
第２週　「絵解き」について
第３週　中世説話文学とお伽草子絵巻
第４週　絵巻物の展開①
第５週　絵巻物の展開②
第６週　絵巻物の展開③
第７週　奈良絵本，絵入り版本の数かず
第８週　説話絵巻①
第９週　説話絵巻②
第10週　説話絵巻③
第11週　お伽草子絵巻①
第12週　お伽草子絵巻②
第13週　お伽草子絵巻③
第14週　妖怪絵巻①
第15週　妖怪絵巻②
本学の文化交流ギャラリー，および外部の美術館・博物館の見学を必須とします。

日本文学論VI（中世）

3613071600100

副　題	お伽草子の女たち							担　当　者	恋田　知子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIT-220-JC

〔授業の到達目標〕
物語の形成と構造，本文と絵の関係，文化・信仰的背景など，さまざまな角度から室町の物語を読み解く力を身につけます。

〔授業の内容〕
14世紀から17世紀にかけて制作された短編の物語群であるお伽草子（室町物語）を鑑賞します。『源氏物語』に代表される王朝物語が貴族の恋愛を題材としたのに対し，お伽草子では，貴公子や姫君はもちろん，武士や庶民，芸能者・宗教者，神仏や異類にいたるまで，物語の主人公となってさまざまな活躍を見せます。奇想天外な物語は絵とも結びつき，素朴な絵本から豪華な絵巻まで多種多様な展開を見せます。お伽草子作品を中心に，同時代の周辺資料を読み解きながら，お伽草子に描かれた女性像について検討します。

〔教材〕
参考書：恋田知子『仏と女の室町　物語草子論』笠間書院，2008年
徳田和夫『お伽草子百花繚乱』笠間書院，2008年
市古貞次『御伽草子』（日本古典文学大系）岩波書店，1958年
大島建彦・渡浩一『室町物語草子集』（新編日本古典文学全集）小学館，2002年
桑原博史『おとぎ草子』（講談社学術文庫）講談社，1982年
徳田和夫『お伽草子事典』東京堂出版，2002年
教科書…授業時にプリントを配布します。
参考文献…授業時に適宜，紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
シラバスや講義おいて紹介したお伽草子作品や参考文献について，図書館等を使って予習や復習を試み（４時間程度），講義内容の理解を深めてください。

〔成績評価の方法〕
出席状況・コメント内容・学期末レポートによって総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は毎回のコメント用紙や授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡してください。

〔備考〕
講義形式ですが，最後の10～15分を使って毎回コメントを提出してもらう予定です。
講義に反映したいので，意欲的に取り組んでください。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　講義概要および評価方法・室町の文芸について
第２週　概説　お伽草子の特徴
第３週　苦しむヒロイン１－『鉢かづき』より
第４週　苦しむヒロイン２－『鉢かづき』より
第５週　逃げる男，追う女１－『道成寺縁起』より
第６週　逃げる男，追う女２－『道成寺縁起』より
第７週　三角関係の果て１－『磯崎』より
第８週　三角関係の果て２－『磯崎』より
第９週　三角関係の果て３－『恋塚物語』より
第10週　三角関係の果て４－『恋塚物語』より
第11週　罪業と救済１－『和泉式部』より
第12週　罪業と救済２－『和泉式部』より
第13週　罪業と救済３－『中将姫の本地』より
第14週　罪業と救済４－『中将姫の本地』より
第15週　まとめ
講義の進行状況にあわせて，作品の順序や作品を変更する場合もあります。
なお，履修希望者は初回ガイダンスに必ず参加してください。

日本文学論VII（近世）

3613071700100

副　題	近世怪異小説の女たち							担　当　者	恋田　知子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIT-221-JC

〔授業の到達目標〕
江戸の文芸に親しみ，さまざまな角度から作品を読み解く力を修得します。

〔授業の内容〕
江戸時代前期に創られた，平仮名主体の散文文芸である仮名草子を鑑賞します。とくに，近世怪異小説を取り上げ，そこに描かれた女性像について検討します。江戸時代の文芸・文化だけでなく，近世以前の文献類との比較などにより，江戸の怪談が描き出す女性像を分析し，女性の幽霊の系譜や日本人の精神文化の基底について考察します。

〔教材〕
教科書：横山泰子『江戸歌舞伎の怪談と化け物』講談社，2008年
参考書：高田衛『江戸怪談集　上中下』岩波書店，1989年
諏訪春雄『日本の幽霊』岩波書店，1988年
高田衛『女と蛇』筑摩書房，1999年
堤邦彦『江戸の怪異譚』ぺりかん社，2004年
堤邦彦『女人蛇体』角川書店，2006年
教科書…授業時にプリントを配布します。
参考文献…授業時に適宜，紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
シラバスや講義において紹介した仮名草子作品や参考文献について，図書館等を使って予習や復習を試み（4時間程度），講義内容の理解を深めてください。

〔成績評価の方法〕
出席状況・コメント内容・学期末レポートによって総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は毎回のコメント用紙や授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡してください。

〔備考〕
講義形式ですが，最後の10～15分を使って毎回コメントを提出してもらう予定です。
講義に反映するので，意欲的に取り組んでください。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス　講義概要および評価方法について・近世の文学とは
第2週　概説　仮名草子の特徴・近世怪異小説について
第3週　蛇になる女（1）－『因果物語』より
第4週　蛇になる女（2）－『曽呂利物語』より
第5週　亡女の片袖（1）－『宿直草』より
第6週　亡女の片袖（2）－『新御伽婢子』より
第7週　逆さまの女（1）－『因果物語』より
第8週　逆さまの女（2）－『諸国百物語』より
第9週　子育て幽霊と産女（1）－『伽婢子』より
第10週　子育て幽霊と産女（2）－『奇異雑談集』より
第11週　子育て幽霊と産女（3）－『百物語評判』より
第12週　中世の怪談－能・軍記物語より
第13週　近代の怪談－漱石『夢十夜』より
第14週　幽霊の性別
第15週　まとめ　死者へのまなざし
講義の進行状況にあわせて，順序や作品を変更する場合もあります。
なお，履修希望者は初回ガイダンスには必ず参加してください。

☆中国文学論II

3614007200100

副　題	唐宋の詩を読む							担　当　者	和田　浩平　講師		
単位	2	配当年次	2〜	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	LIT-224-JC

〔授業の到達目標〕

唐代，宋代の詩をとりあげます。自然と人生を高らかに歌いあげる唐詩，日常の小さなことを平静淡泊に歌う宋詩，それぞれの特徴を理解し，鑑賞できるようになることが目標です。

〔授業の内容〕

中国文学論Ⅰでは，詩経，楚辞，漢魏，六朝の詩をとりあげました。今年度の中国文学論Ⅱでは，唐宋の詩を読みます。唐代の詩は六朝以前の伝統の上に大きな発展をしたものです。押韻，平仄が厳格な絶句，律詩，排律が成立し，主題も内容も多彩になりました。李白，杜甫，白居易などが登場します。次の宋代の詩は，平淡で理知的な作風になっていきます。蘇軾，王安石，陸游などが現れました。唐宋の代表的な詩をじっくり鑑賞してみたいと思います。

〔教材〕

特にありません。授業時に適宜紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

資料を読んでもうらことがあります。必要に応じて事前に準備してください。

〔成績評価の方法〕

出席状況やレポートによって総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　唐詩について
第２週　初唐の詩　王勃，楊炯，盧照鄰，駱賓王
第３週　盛唐の詩（一）孟浩然
第４週　盛唐の詩（二）李白
第５週　盛唐の詩（三）杜甫
第６週　盛唐の詩（四）王維
第７週　中唐の詩（一）白居易
第８週　中唐の詩（二）韓愈
第９週　中唐の詩（三）柳宗元
第10週　晩唐の詩　杜牧，李商隠
第11週　宋詩について
第12週　北宋の詩（一）蘇軾
第13週　北宋の詩（二）王安石
第14週　南宋の詩（一）陸游
第15週　南宋の詩（二）文天祥

☆現代文化論II（郊外論）

3616011200100

副　題	現代を生きる形							担　当　者	若林　幹夫　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	SOC-302-JD

〔授業の到達目標〕

郊外と郊外化を切り口に，私たちが生きる現代の社会と文化がどのように形成され，現在どのように存在し，そこにどんな問題が孕まれるのかを理解する。

〔授業の内容〕

団地，ニュータウン，新興住宅地など，戦後日本の「郊外」と呼ばれる社会は，高度経済成長と相関して，都市に付属する場所として作り出され，いまや日本人の多数が生活する空間となっている。この授業では，郊外という場所がどのように作られ，そこに人びとの生活や社会の理想がどのように盛り込まれ，現実にどのような生き方や文化がそこに生み出されていったのかを検討することで，私たちが現代を生きる形の一端を明らかにすることを試みる。

〔教材〕

参考書：若林　幹夫『郊外の社会学』（ちくま新書）ちくま書房，2007年
原　武史『滝山コミューン1974』講談社，2007年
三浦　展『ファスト風土化する日本』（新書Y）洋泉社，2004年
若林　幹夫『モール化する都市と社会――巨大商業施設論』ＮＴＴ出版，2013年

特定の教科書は使用しません。
上記のテクストの他，随時参考文献を紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回分のノートの確認，関連するwebや文献の調査，授業内容の自身の生活に当てはめて考察することなどが，予習・復習となる。この講義は現代の日常的な生活を対象とするので，社会生活の日常の反省的な考察も予習・復習として重要。

〔成績評価の方法〕

試験を実施する予定だが，人数や必要の応じてレポートを課す場合もある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の前後に声を掛けて下さい。

〔備考〕

受講者との質疑を交えて講義を進めるので，単に「聴く」だけでなく，積極的に講義に参加して欲しい。

〔授　業　計　画〕

第１週　なぜ「郊外」について考えるのか？：郊外を生きるということ
第２週　虚構のような町：小人とショートケーキハウスとポストモダン
第３週　立場なき場所：郊外批判をめぐって
第４週　立場なき場所：都市でも農村でもない場所
第５週　青い郊外と白い郊外：つくばエクスプレス沿線から考える
第６週　郊外の地層：郊外は本当に均質か？
第７週　住むことの神話と現実（１）：団地ライフ
第８週　住むことの神話と現実（２）：コミュニティがコミュニタスだった頃
第９週　住むことの神話と現実（３）：滝山コミューン
第10週　演技するハコ（１）：量から質へ
第11週　演技するハコ（２）：おしゃれな郊外から
第12週　「ファスト風土」は存在するか？
第13週　ショッピングセンターと郊外消費文化
第14週　郊外の終わり？
第15週　現代を生きる形

上記は現時点での講義のおおよその計画であり，受講者の状況等に応じて内容を柔軟に変更する可能性もある。

現代文化論III（児童文化）

3616011300100

副　題	現代日本の児童文学が描いてきたもの							担　当　者	藤田　のぼる　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	CHL-203-JD

〔授業の到達目標〕

児童文学のおもしろさを実感すると共に，児童文学作品を通して子どもの成長の実相や，大人として自立しようとしている自身のありかたを考察する手がかりとする。

〔授業の内容〕

大学の講義の中で「児童文学」という項目があることに意外の感を覚える人もいるでしょうが，そこには三つほどの意義を述べることができます。一つは，子ども時代本をあまり読まなかったという人はもとより，かなり読んだ人にしても，「読み残した」であろう作品はたくさんあり，そのおもしろさにふれてほしい，ということ。それから，将来母親ということも含めて大人として子どもと対する時のひとつのアイテムとして，子どもの本について知っておくことは有効だろう，ということ。そして，次の点がもっとも大切なことですが，今子ども時代と決別しようとしている大学生という時期に，児童文学にふれることで，自らの子ども時代の意味を自分の中で問い直してほしいということです。

講義でとりあげるのは，主に現代（といっても1960年代以降）の日本の児童文学作品で，物語を中心に，毎回さまざまな角度から２，３点の作品を紹介していきます。併せて，詩や絵本も随時紹介するので，相当駆け足の講義になりますが，児童文学そして自身の子ども時代再発見の契機になれば，と願っています。

〔教材〕

参考書：佐藤宗子・藤田のぼる『少年少女の名作案内　日本の文学・リアリズム編』自由国民社，2010年
佐藤宗子・藤田のぼる『少年少女の名作案内　日本の文学・ファンタジー編』自由国民社，2010年
藤田のぼる他『「場所」から読み解く世界児童文学事典』原書房，2014年

指定の教科書はなし。必要に応じ，プリント（短編作品など）を配布します。参考書は，いずれも主要な児童文学作品が紹介されているので，講義をさらに深めて理解するために有用です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義で紹介した作品を，可能な範囲で読むようにしてください。

〔成績評価の方法〕

基本的には，学期末に提出のレポートによって評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の場合は，学科事務室を通して連絡してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　児童文学の講義を始めるにあたって
第２週　子どものいる場所から１～学校の中で
第３週　子どものいる場所から２～家族の中で
第４週　子どものいる場所から３～社会の中で
第５週　ファンタジーの方法１～向こう側の世界に
第６週　ファンタジーの方法２～この世界のどこかに
第７週　ファンタジーの方法３～ハイ・ファンタジーの世界
第８週　ファンタジーの方法４～新しいファンタジー
第９週　テーマを深める１～「生」と「死」をめぐって
第10週　テーマを深める２～“愛”について
第11週　テーマを深める３～「特別」の人たち
第12週　子どもを捉える視点から１～子どもの成長を描く
第13週　子どもを捉える視点から２～子どもの発見を描く
第14週　子どもを捉える視点から３～子どもの冒険を描く
第15週　まとめ～さまざまな子ども像
授業計画は状況により変更する場合があります。

現代文化論V（イメージとメディア）

3616011500100

副　題	メディアの中の社会／イメージの中の社会	担　当　者	若林　幹夫　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	SOC-305-JD

〔授業の到達目標〕

メディアとイメージという点から，人間の社会とその現代的なあり方を考える視点を獲得すること。

メディア論，イメージ論という点から文化研究と社会学の視点，方法を理解できるようになること。

〔授業の内容〕

私たちが生きる現代の社会と文化は，さまざまなメディアの媒介作用と，それらが日々産出するイメージぬきには理解することができない。この講義では，メディア論，身体論，イメージ論，都市論，時間論，空間論等の視点から，メディアとそれが生み出すイメージの社会的なあり方と，そこでの人間の意識や感覚，関係の変容について考察し，現代の社会と文化について考える視点を提供したい。

〔教材〕

参考書：吉見俊哉・若林幹夫・水越伸『メディアとしての電話』弘文堂，1992年
マーシャル・マクルーハン『メディア論――人間の拡張の諸相』みすず書房，1987年
ヴォルフガング・シヴェルブシュ『鉄道旅行の歴史』法政大学出版局，1982年
若林幹夫『〈時と場〉の変容』（コムニス）NTT出版，2010年

特定の教科書は使用しない。主要な参考書としては，上記を参照。他の参考文献は，必要に応じて随時指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回分のノートの確認，関連するwebや文献の調査，授業内容の自身の生活に当てはめて考察することなどが，予習・復習となる。この講義は現代の日常的な生活を対象とするので，社会生活の日常の反省的な考察も予習・復習として重要。

〔成績評価の方法〕

学期末試験を行う予定だが，受講者の人数や必要に応じてレポートを課す場合もある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の前後に声を掛けてください。

〔備考〕

受講者との質疑応答等を交えて講義を行うので，単に「聴講」するのではなく積極的に「参加」することを期待する。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション：現代文化，イメージ，メディア
第２週　メディアと有名性（１）：映画の出現は「名声」や「英雄」，「有名人」のあり方をどう変えたか
第３週　メディアと有名性（２）：20世紀的な有名人やヒーローと大衆の関係
第４週　複製技術とアウラの凋落：ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」から考える①
第５週　映画が開く世界：ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」から考える②
第６週　映画的知覚とは何か（１）：映画『カメラをもった男」を観る
第７週　映画的知覚とは何か（２）：映画『カメラをもった男』から考える
第８週　環境化するメディアとイメージ（１）：ハイデガーとマクルーハン
第９週　環境化するメディアとイメージ（２）：ヴィリリオとメディア都市論
第10週　メディアとしての電話（１）：電話をめぐる二つのオペラを観る
第11週　メディアとしての電話（２）：電話は身体感覚をどう変えたか
第12週　メディアとしての電話（３）：電話は社会と空間をどう変えたか
第13週　モバイルメディアと現代社会（１）：身体化・自己化するメディア
第14週　モバイルメディアと現代社会（２）：モバイルメディアとウェブ社会
第15週　メディア化・ウェブ化する社会と環境：現代の社会と文化をどう理解するか

上記の計画は現時点でのおおよその見取り図であり，授業の進行に応じて適宜柔軟に変更する場合がある。

※現代文化論VI（カルチュラル・スタディーズ）

3616011600100

副　題	＜文化＞の力学を考える							担　当　者	本橋　哲也　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	SOC-306-JD

〔授業の到達目標〕
　カルチュラル・スタディーズの基本的な思考と方法を身近な話題と題材から学びます。

〔授業の内容〕
　カルチュラル・スタディーズとは，大学の内外で日常的にみなさんが触れており，それに囚われ，創ってもいる＜文化＞の力学について考える方法です。そうした考え方にこれまで馴染みのなかった皆さんにも楽しく学んでいただけるよう，さまざまな映画を鑑賞することを通じて，そのような力関係を分析し考えます。自分の日常生活や周囲の人間関係，そして世界で生起する出来事にとって，＜文化＞がいかに関与しているかについての，思考の訓練を行い，他者の存在について思いを凝らすことの大切さを実感していただきたいと思います。

〔教材〕
教科書：本橋哲也『『映画で入門カルチュラル・スタディーズ』』大修館書店，2006年
　教科書は，授業中に朗読していただくなど，初回から最後まで毎回使用しますので，必ず教室に持ってきてください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　予習として映画を見る（２～３時間）。
　復習として教科書の内容を再確認する（２～３時間）。

〔成績評価の方法〕
　授業後のレポート提出による評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　Eメイル：tedtedm●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１回　１）パワーポイント講義：「カルチュラル・スタディーズとは何か？」
第２回　２）アイデンティティ：『千と千尋の神隠し』
第３回　３）子ども：『亀も空を飛ぶ』
第４回　４）生殖：『ヴェラ・ドレイク』
第５回　５）メディア：『恋におちたシェイクスピア』
第６回　６）スポーツ：『ミリオンダラー・ベイビー』
第７回　７）音楽：『耳に残るは君の歌声』
第８回　８）ディアスポラ：『エレニの旅』
第９回　９）在日：『パッチギ！』
第10回　10）労働：『息子のまなざし』
第11回　11）ホロコースト：『シンドラーのリスト』
第12回　12）民族分断：『JSA』
第13回　13）難民：『イン・ディス・ワールド』
第14回　14）帝国：『プロスペローの本』
第15回　15）先住民：『鳥の歌』

現代文化論VII（スポーツ文化論）

3616011700100

副　題	スポーツという文化							担　当　者	荒井　啓子　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SPO-207-JD

〔授業の到達目標〕

スポーツ現象の中に凝縮・刻印されている文化や社会について理解を深め，「スポーツを文化として捉える」という観点を「スポーツ文化複合」の側面から学ぶ。

〔授業の内容〕

衣・食・住・音楽・美術・演劇等々と同様に，スポーツという文化もまた，時代や国の情況によって多様な姿が映し出されてきた。スポーツは，その社会が織り成す「伝統」の，あるいは「現代」の様々な文化の糸と絡み合いながら，私たちの生活の中に根づいている。この時間では，スポーツという人間の営みとその社会的・文化的・歴史的背景（気候・風土・民族・時代・社会通念・社会制度・宗教・政治・教育・産業・メディア・ファッション・性差・健康等）との関わりを眺めながら，人間にとってあるいは現代社会においてスポーツとはどのような文化なのか，という問題を考えていきたい。同時に，スポーツの窓から見た，文化の「変容と持続」，あるいは「独自性と普遍性」についても論じていきたい。映像・小説・CM・マスメディア資料なども読み解きながら講義をすすめる。

〔教材〕

テーマに応じて授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前回のレジュメを確認し各自のノートに目を通した上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

レポート（50%），理解度の確認（30～40%），出席状況（20～10%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目，火曜日４時間目

〔備考〕

「特別授業」を開催する場合がある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的とすすめ方
第２週　人はなぜスポーツをするのか（スポーツ映画を観る）
第３週　近代オリンピックⅠ
第４週　近代オリンピックⅡ
第５週　女性とスポーツ（女性スポーツの黎明期から現代まで）
第６週　ジェンダーとスポーツ（「らしさ」の社会通念とスポーツ）
第７週　イスラーム女性とスポーツ（異文化の中の近代スポーツ）
第８週　メディアとスポーツⅠ（テレビが変えたスポーツ文化）
第９週　メディアとスポーツⅡ（広告・CMとスポーツ）
第10週　近代スポーツと民族スポーツ（スポーツの普遍性と独自性）
第11週　イギリス生まれのスポーツとアメリカ生まれのスポーツ
第12週　パラリンピックとパラリンピアン
第13週　スポーツと環境問題
第14週　日本人とスポーツ（花見・遠足・運動会）
第15週　日本人とスポーツ（伝統スポーツと外来スポーツ）

メディア論

3616021100100

副　題	情報通信技術							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	INF-208-JD

〔授業の到達目標〕

情報理論の基礎を学習し，情報通信技術に関する理解を深める。また，社会科学的側面からインターネットの問題点や今後について，考察できる基礎知識を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

20世紀に誕生したコンピュータは，ネットワークで結ばれ巨大情報メディアに成長した。この講義では,コンピュータやインターネットについて解説する。技術的な内容が中心となるが,社会に与えた影響についても触れていく。また,「情報理論」に関する内容についてもふれる。マスメディアに関する内容も含まれるが，マスメディア論ではないので注意すること。

履修にあたって特に条件は設けない。

また，講義内容の理解状況により，授業計画を変更することがある。ガイダンスには必ず出席すること。

〔教材〕

教科書：川合　慧『『情報』(東京大学教養学部テキスト)』東京大学出版会，2006年

詳細は，最初の授業時に示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として教科書理解に30時間，課題のために30時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

履修者数が40名以下の場合は，試験を行わず課題提出（レポート：100%）とし，平常の成績を重視する。また，試験を行った場合は，試験（100%）の結果で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　情報とは
第３週　記号化・デジタル化
第４週　情報伝達の仕組み
第５週　コンピュータの歴史
第６週　コンピュータの仕組み
第７週　インターネット
第８週　デジタル化の功罪
第９週　画像・映像データ
第10週　放送とインターネット
第11週　電子メディアと非電子メディアの比較
第12週　インターネットが引き起こした社会問題
第13週　未来のメディア
第14週　まとめ
第15週　〃
第１週の授業に必ず出席すること。履修者数により授業計画を一部変更することがある。

現代生活論I（現代食品情報）

3616041100100

副　題	現代食品情報							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIF-209-JD

〔授業の到達目標〕

現代の多様な食品情報を系統的に理解できるようになる。

〔授業の内容〕

現代の食生活には様々な加工食品が大きな役割を果たしている。食品成分の機能性の開発や加工技術の進歩により加工食品の種類は増加し，使用される原料も，新たな生産方法や品種の開発，海外からの輸入品の増加などにより極めて多様である。授業では，まず加工食品に関する現代のいくつかの諸問題を概説し，ついで，食品加工の原点である食品保蔵の原理と実際，および各種加工食品について解説する。最後に，学生各自で関心のある食品をとり上げて現状をさらに詳しく調査し，レポートしてもらう。

〔教材〕

プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

提出レポート（約90%）と授業への参加状況（約10%）で成績評価する。ただし，授業回数の３分の１を越えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業等について質問がある場合は，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに
第２週　加工食品と問題点
第３週　食品保蔵の原理と実際１
第４週　食品保蔵の原理と実際２
第５週　食品保蔵の原理と実際３
第６週　食品の品質保持と加工
第７週　〃
第８週　食品の安全性の評価法
第９週　食品情報と表示
第10週　情報の信頼性
第11週　ダイエット甘味料，ダイエタリーファイバー強化食品，ビタミン強化食品
第12週　DHA強化食品，ポリフェノール強化食品，ミネラルウオーター，インスタント食品
第13週　レトルト食品，冷凍食品，有機栽培食品
第14週　レポート作成指導
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

現代生活論II（現代の食生活）

3616041200100

副　題	ライフステージ別の食生活および問題点					担　当　者	濱谷　亮子　講師				
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIF-210-JD

〔授業の到達目標〕

出生，発育，加齢にともなう生理的な変化や栄養状態の特徴を学び，ライフステージ別の食生活の特徴や問題点を説明することができる。

〔授業の内容〕

生命の営みと健康の保持・増進のために，ヒトは食物を摂取することが不可欠である。ライフステージ別（乳幼児期，学童・思春期，成人期，高齢期，さらに妊娠期・授乳期）の生理的変化や栄養状態の特徴を学び，ヒトの摂食行動に影響を及ぼす因子（精神的要因，社会環境等）を踏まえ，現代の食生活の問題点やライフステージ別の望ましい食生活の在り方を学習する。

〔教材〕

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布資料に目を通し，疑問点を質問できるように準備しておくこと

〔成績評価の方法〕

学期末試験

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　日本人の食生活の現状
第２週　栄養素の働き
第３週　健康維持・増進のためのエネルギー・各栄養素の摂取量について（食事摂取基準，食事バランスガイド）
第４週　妊娠・授乳期の特性と栄養・食生活
第５週　乳児期の特性と栄養・食生活（乳汁期）
第６週　乳児期の特性と栄養・食生活（離乳期）
第７週　幼児期の特性と栄養・食生活１
第８週　幼児期の特性と栄養・食生活２
第９週　学童期・思春期の特性と栄養・食生活
第10週　成人期の特性と栄養・食生活１
第11週　成人期の特性と栄養・食生活２
第12週　高齢期の特性と栄養・食生活
第13週　健康づくりのための運動指針
第14週　傷病者のための栄養管理
第15週　まとめと解説

現代生活論III（自己と他者）

3616041500100

副　題	親密性をめぐって							担　当　者	時安　邦治　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	SOC-311-JD

〔授業の到達目標〕

自己と他者をつなぐ社会空間として親密性の意義を理解し，現代のさまざまな社会問題について親密性という視点から考えられるようになる。

〔授業の内容〕

フェミニズムの「個人的なことは政治的なこと」というスローガンとともに，親密性の研究が社会学において重要な意味をもつようになった。この授業では，それまで「社会」の外部として社会科学の研究から排除されてきた親密性に焦点を当てる。社会学者A．ギデンズの親密性をめぐる理論を手がかりとして，現代社会のいくつかの問題について考えていく。

なお，この授業は性的な事柄もテーマとして扱うので，そうした話題を不快に感じる学生は受講するかどうかよく検討すること。

〔教材〕

参考書：アンソニー・ギデンズ『親密性の変容』而立書房，1995年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義の後に課題を出すので，講義の復習をした上で課題に取り組み，指示に従って提出すること。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（50%）と講義翌週の復習テスト（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日４限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。
kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　自己とアイデンティティ
第３週　モダニティにおける自己
第４週　家父長制と近代家族
第５週　親密性の変容
第６週　新しい家族の出現
第７週　セクシュアリティ（１）
第８週　セクシュアリティ（２）
第９週　セクシュアル・マイノリティ
第10週　依存と虐待
第11週　アダルト・チルドレン
第12週　ドメスティック・バイオレンス（１）
第13週　ドメスティック・バイオレンス（２）
第14週　「つながり」と「キャラ」
第15週　講義のまとめ
授業計画は変更することがある。

現代生活論Ⅳ（個人と集団）

3616041600100

副　題	貧困と社会的排除							担　当　者	時安　邦治　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	SOC-312-JD

〔授業の到達目標〕
社会学が問題にしてきた貧困と社会的排除の諸相について，データにもとづいて現状を理解し，望ましい社会のありかたを考えられるようになる。

〔授業の内容〕
現代の日本社会の「格差」がさまざまに論じられ，人々の貧困や社会的排除，とりわけ「女性の貧困」や「子どもの貧困」が重大な問題だと意識されているにもかかわらず，格差や貧困の問題は一向に解決に向かっているようには思われない。この授業では，格差，貧困，社会的排除を捉える理論的・実践的な視点と諸データを提示しながら，社会的連帯と生活保障の必要性とその方策を考えていく。

〔教材〕
参考書：岩田正美『現代の貧困――ワーキングプア／ホームレス／生活保護』（ちくま新書）筑摩書房，2007年
阿部彩『弱者の居場所がない社会――貧困・格差と社会的包摂』（講談社現代新書）講談社，2011年
橘木俊詔編著『格差社会』（福祉＋α）ミネルヴァ書房，2012年
教科書は使用せず，適宜プリント等を使用する。なお，配布済みのプリントを後日あらためて配布することはしない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
講義の後に課題を出すので，講義の復習をした上で課題に取り組み，指示に従って提出すること。

〔成績評価の方法〕
学期末のテストまたはレポート（50%）と講義翌週の復習テスト（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日４限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。
kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　リスク社会と個人化
第３週　格差，貧困，社会的排除（１）
第４週　格差，貧困，社会的排除（２）
第５週　ホームレス状態（１）
第６週　ホームレス状態（２）
第７週　女性の貧困（１）
第８週　女性の貧困（２）
第９週　子どもの貧困（１）
第10週　子どもの貧困（２）
第11週　外国人の困窮（１）
第12週　外国人の困窮（２）
第13週　シティズンシップの諸権利
第14週　シティズンシップから人権へ
第15週　講義のまとめ
授業計画は変更することがある。

☆日本政治論

3616051100100

副　題	日本政治、その仕組みと歴史							担　当　者	逢坂　巌　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	POL-213-JD

〔授業の到達目標〕

日本政治の仕組みや流れについて，その概要を理解する。

〔授業の内容〕

日本政治の入門的概論です。講義は３部にわかれます。日本政治を利益集団・官僚・政党・メディア・有権者とアクターごとに概観し，どのようなメカニズムで法律や予算ができるかなどについて講義します。つぎに，戦後日本政治を流れを歴史的に振り返り，最後に外交と財政という２つのテーマについて考えます。出来るだけわかりやすく論じていきたいと思います。

〔教材〕

参考書：川出良枝、谷口将紀 編『政治学』東京大学出版会，2012年
甲斐 祥子『現代政治のナビゲーター』新版，北樹出版，2011年

教科書は用いません。毎回レジュメを配布し，テーマごとの参考文献等も講義中に適宜紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

様々なメディアで政治ニュースに接しましょう。

〔成績評価の方法〕

試験を行います。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　第１部：日本政治のアクターたち　１　利益集団（１）
第３週　第１部：日本政治のアクターたち　１　利益集団（２）
第４週　第１部：日本政治のアクターたち　２　官僚・官僚制（１）
第５週　第１部：日本政治のアクターたち　２　官僚・官僚制（２）
第６週　第１部：日本政治のアクターたち　３　政治家・政党（１）
第７週　第１部：日本政治のアクターたち　３　政治家・政党（２）
第８週　第１部：日本政治のアクターたち　４　メディア
第９週　第１部：日本政治のアクターたち　５　有権者
第10週　第２部：戦後日本政治の歴史　１　敗戦から高度成長時代の日本政治
第11週　第２部：戦後日本政治の歴史　２　低成長時代の日本政治
第12週　第２部：戦後日本政治の歴史　３　ゼロ成長時代の日本政治
第13週　第３部：日本政治の諸テーマ　１　外交
第14週　第３部：日本政治の諸テーマ　２　財政
第15週　まとめ

日本社会論

3616051300100

副　題	現代日本社会の構造変動と自己の変容							担　当　者	奥山　敏雄　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	SOC-215-JD

〔授業の到達目標〕

現代日本社会の構造変動とそれにともなう自己のあり方の変化について理解することを通じて，各自が現在感じている自己をめぐる閉塞感などの経験が日本社会のなかで刻まれたものであることを理解し，自己をめぐる経験を社会学的観点から反省的に距離をとって捉え返すことができるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

日本社会が経験した世界的にも例のない急激な社会変動をめぐり，生産と消費，生活世界と自己，他者とのコミュニケーションなどについて概観し，資本制システムと自己という観点を軸に，1960年代から70年代半ばまで，70年代半ばから90年代半ばまで，90年代半ばから現在へと，大きく３つの局面に分けて，日本社会の現在がどのように生み出されてきたのか，そのなかで自己のあり方がどのように「型どられてきた」のかを考える。そしてこの観点から，日本社会を覆っている深い閉塞感について考えたい。

〔教材〕

教科書は使用しない。参考書は授業のなかで適宜情報提供する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後に関連する参考文献を読んで，授業内容をさらに発展的に理解すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(30%)と学期末試験(70%)を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　社会の変化と自己の「型どり」
第２週　産業社会の形成とその論理
第３週　組織の巨大化と管理される個人
第４週　近代家族と私化
第５週　大衆社会と欲望
第６週　人並み化の圧力と大衆消費
第７週　消費の様式の変容
第８週　差異の生産とシミュレーション
第９週　個性化の意味
第10週　情報化社会と消費
第11週　虚構の時代と自己
第12週　グローバル化と格差社会の形成
第13週　ネット社会とコミュニケーション
第14週　自己の内閉化
第15週　他者の喪失

☆比較文化論I（比較日本文化）

3617021100100

副　題	東京のなかのロシア・東欧文化							担　当　者	松枝　佳奈　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	JPN-301-JE

〔授業の到達目標〕

１．現代の日本や東京で受容されている身近なロシア・東欧諸国のさまざまな文化に実際に触れ，それらと日本文化の関わりについて理解を深める。　２．自ら学術書や学術論文を読み，先行研究を正しく理解する。　３．定められた形式に則った学術的なレポート，小論文を書く作業を通じ，各自の今後の研究や卒業論文執筆のための実力を養う。

〔授業の内容〕

日本の北方の隣国であるロシアのほか，同国と地続きでつながり，現在EU諸国とともに密接な関係を持ち続ける東欧諸国（ウクライナやベラルーシ，ブルガリア，チェコ，ポーランド，ハンガリー，ルーマニア，セルビア，クロアチアなど）は，現代の日本にとって必ずしも文化的・心理的に遠い国々ではないといえる。なぜなら日本や東京には，ロシア・東欧地域の文化を知り，体験することのできる場所やイベントが数多く存在するからである。

本授業では，ロシア・東欧料理のレストランで食文化を体験し，御茶ノ水の東京復活大聖堂教会（通称：ニコライ堂）の見学を行うほか，東欧諸国の大使館や文化センターやそこが主催する関連イベント，ロシア・東欧諸国関係の書店や雑貨店などについて調査し，東京に息づくロシア・東欧文化について関心や理解を深める。また日本とロシア・東欧諸国の比較文学・比較文化研究や文化交流史に関する先行研究や関連文献を読み，日本文化とロシア・東欧文化の関わりを意識しながらこれらの分野に関する基礎的な知識を身に付ける。

なお本授業は日本文化学科の授業科目であるが，当学科の学生のみならず，ロシア・東欧文化や外国文化一般に関心を持つ国際コミュニケーション学科・英語コミュニケーション学科の学生や留学生の出席も歓迎する。

〔教材〕

使用する教材・参考書等については，授業内で指示もしくは適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の準備として，指示する参考書や配布テキストにあらかじめ目を通し，基本的事項を押さえること（２時間程度）。授業後に課題が指示された場合は，授業で学んだことを踏まえた上で取り組むこと（２時間程度）。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（毎回の授業後に提出するリアクション・ペーパーを含む，30%），学期中の課題小レポートの提出状況およびその内容（30%），学期末課題レポートの提出状況およびその内容（40%）を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内で指示する。

〔備考〕

各自で学外での調査を行うよう指示する場合がある。また受講人数によっては学期中に１～2回程度の学外見学を行う予定である。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション―東京のなかのロシア・東欧文化に触れる前に―
あなたのロシア・東欧諸国のイメージは？／東京にあるロシア・東欧文化のスポットについて／先行研究について／授業内プレゼンテーションについて
第２週　日本のなかのロシア・東欧文化（１）
明治・大正期の日本人の眼から見たロシア・東欧―二葉亭四迷，大庭柯公，昇曙夢を中心に―
第３週　日本のなかのロシア・東欧文化（２）
白系ロシア人と日本文化／身の回りの白系ロシア人文化
第４週　日本のなかのロシア・東欧文化（３）
ロシア・バレエと日本文化―明治期から現代まで―／ロシア・バレエDVD鑑賞
第５週　日本のなかのロシア・東欧文化（４）
日本と東欧諸国（チェコ・ポーランド・セルビア・クロアチア・ブルガリアなど）の文化交流／フィールド・ワークを行うにあたって
第６週　「東京のなかのロシア・東欧文化」を訪ねる（１）
東京の東欧諸国の文化スポット，関連イベントについて知る（受講学生によるプレゼンテーション）
第７週　「東京のなかのロシア・東欧文化」を訪ねる（２）
東京のロシア・東欧関連の書店・雑貨店などについて知る（受講学生によるプレゼンテーション）
第８週　日本のなかのロシア・東欧文化（５）
ニコライ大主教と明治日本―ロシア正教と日本の関わり―／東京復活大聖堂教会について（受講学生によるプレゼンテーション）
第９週　「東京のなかのロシア・東欧文化」を訪ねる（３）
御茶ノ水・東京復活大聖堂教会（通称：ニコライ堂）見学
第10週　日本のなかのロシア・東欧文化（６）
日本の地方都市におけるロシア文化の様相―札幌・新潟・長崎・京都―
第11週　日本のなかのロシア・東欧文化（７）
日本に息づく「ゴンドラの唄」とロシア文化の関係―文学・音楽・映画・ポップカルチャーの交差―
第12週　日本のなかのロシア・東欧文化（８）
日本で愛される「かわいい」ロシア・東欧文化―マトリョーシカ，チェブラーシカ，東欧アニメ―／ロシア・アニメ「チェブラーシカ」DVD・東欧アニメDVD鑑賞
第13週　「東京のなかのロシア・東欧文化」を味わう（１）
ロシア・東欧料理の歴史・食文化について知る（受講学生によるプレゼンテーション）
第14週　「東京のなかのロシア・東欧文化」を味わう（２）
東京のロシア・東欧料理店について知る（受講学生によるプレゼンテーション）
第15週　「東京のなかのロシア・東欧文化」を味わう（３）
東京のロシア料理店での食文化体験／ディスカッション
受講人数や受講学生の関心など状況に合わせて，授業計画を変更する場合がある。

☆比較文化論II（文学）

3617021200100

副　題	文学批評理論入門							担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	LIT-302-JE

〔授業の到達目標〕

これまでに皆さんは，学校の授業や，自分の楽しみのために，いろいろな小説を読む機会があったことだろう。だが,小説の読み方ということを意識して読んだことはあるだろうか。「もし私が登場人物だったら…」とか「こんな登場人物，許せないと思った」といった，小学生の感想文のような読み方から脱皮できているだろうか。今回の授業では，小説をより深く読解するための基礎知識を身につけることとしたい。

〔授業の内容〕

ひとつの小説作品は，さまざまな技法を複合的に支えられて成立している。それらはどのようなものだろうか。また20世紀以降，小説を読解するための批評理論の開拓も進んだ。小説を読むうえで，どのような視点や方法論が存在するのだろうか。こうした点について，廣野由美子『批評理論入門』と，ここで具体例として扱われているメアリ・シェリー『フランケンシュタイン』をテキストとし，その他の小説作品にも触れつつ進めていく。

受講者それぞれに興味のある小説テクストについて，その技法について解説してもらうことも考えている。

〔教材〕

教科書：廣野由美子『批評理論入門』中公新書
　　メアリ・シェリー作，森田弓子訳『フランケンシュタイン』東京創元社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』を各自で通読し，また必要に応じて文学作品を自分で選定して読んでおくことを要する。

〔成績評価の方法〕

授業中と期末に課すレポートと，授業参加の総合評価とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに
第２週　メアリ・シェリーと『フランケンシュタイン』
第３週　冒頭とストーリー・プロット
第４週　語り手と焦点化
第５週　提示・叙述と時間
第６週　性格描写・アイロニー・声
第７週　イメジャリーと反復
第８週　異化と間テクスト性
第９週　メタフィクションと結末
第10週　伝統的批評・ジャンル批評
第11週　読者反応批評・脱構築批評
第12週　精神分析批評・フェミニズム・ジェンダー批評
第13週　マルクス主義批評・文化批評
第14週　ポストコロニアル批評・新歴史主義
第15週　文体論的批評・透明な批評

比較文化論III（芸術）

3617021300100

副　題	展覧会を読む							担　当　者	堀江　秀史　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ART-303-JE

〔授業の到達目標〕

展覧会という「メディア」を活用できるようになる。
展覧会の学問的，社会的意義について意識的になり，批判的に捉える能力を身につける。

〔授業の内容〕

展覧会は，単に期間限定で貴重な美術品の実物を見ることが出来るだけの場ではない。それは巨大な器として，理論上あらゆる事象を秩序付けて我々の前に提示することの可能なメディアである（そこには，学問上の最先端の成果が表れていることも多い）。また，その展示方法や説明の仕方などにも注意を向ければ，受け手の身体を駆使して読みとらねばならない，様々な表現が混淆したテクストとも考えられる。

本授業では，そうした観点から改めて展覧会を見直す。受講者は，現在，実際に開催されている展覧会に足を運び，展覧会そのものとそのカタログを仔細に検討し，批判的に考察する口頭発表が課される。採り上げる展覧会は，担当者の興味関心に即して自ら選んでもらう。自然科学から人文学まで，あるいはそれらの融合形としての学際的な展覧会を含め，幅広いテーマで個別発表が展開されることが望ましい。

〔教材〕

教科書：今橋映子編『展覧会カタログの愉しみ』東京大学出版会，2003年
その他，適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

展覧会に，実際に数回足を運ぶ必要がある。その経験をもとにした発表を課す。人数に制限をかける。

〔成績評価の方法〕

授業内で交わされる議論への積極的参加（30%）と，授業期間において課される個別発表（30%）及び，個別発表をまとめる形で最終的に提出してもらうレポート（40%）をもって評価を行なう。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜午後。
随時メールによって対応。別途指示。

〔備考〕

これまで美術館，博物館に馴染みのない学生も，大いに歓迎する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス。授業方針の説明。
第２週　展覧会の読み方（講義）
第３週　展覧会カタログの読み方・調べ方（講義）
第４週　展覧会調査・見学１
第５週　展覧会調査・見学２
第６週　展覧会調査・見学３
第７週　個別発表１
第８週　個別発表２
第９週　個別発表３
第10週　個別発表４
第11週　個別発表５
第12週　個別発表６
第13週　個別発表７
第14週　個別発表８
第15週　まとめ（全体討議）
学期中に数回，重要な展覧会へ皆で足を運ぶ機会を設ける予定（都内か東京近郊）。

※比較文化論Ⅳ（民俗）

3617021400100

副　題	儀礼・信仰・物語・ビジュアルカルチャー							担　当　者	徳田　和夫　教授		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ANT-304-JE

〔授業の到達目標〕

1.日本の民俗文化・伝統文化の学習分析において，比較文化論の必要性を理解します。
2.民俗文化の意義を把握した上で，比較文化論や文化比較の方法について理解します。
3.日本を含む東北アジアと，ヨーロッパの民俗文化を比較対照し，その共通性と対応性を認知します。

〔授業の内容〕

日本と外国の民俗儀礼（年中行事・祭礼・コスプレ），信仰（民間信仰・俗信・妖怪とモンスター・パワースポット），物語（民間説話・宗教説話）を比較対照します。また，図像学も導入し，物語・動物・妖怪とモンスター図像，マスキャラ，ゆるキャラの分析もおこないます。
それらから，民俗文化における世界的共通性と地域的独自性を考えていきます。

〔教材〕

授業時にプリント等に拠って指示します。また，教材プリントを用意します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況，学期末のレポートに拠って評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始時に指示します。

〔備考〕

必用に応じて，美術館，博物館の見学を薦めます。その際には，見学感想文の提出を求めます。
※授業内容と無関係な私語，飲食，携帯電話等の使用，正当な理由なき中途退出を厳禁とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　民俗学と比較民俗学１
第２週　民俗学と比較民俗学２
第３週　年中行事１
第４週　年中行事２
第５週　年中行事３
第６週　祭礼１
第７週　祭礼２
第８週　信仰１（アニミズムと神仏習合）
第９週　信仰２（仏教とキリスト教）
第10週　信仰３（俗信）
第11週　物語１（日本とアジア１）
第12週　物語２（日本とアジア２）
第13週　物語３（日本とヨーロッパ１）
第14週　物語４（日本とヨーロッパ２）
第15週　まとめと解説
以上の［授業計画］は，必要に応じて，追加・削除，順序変更がありえます。

比較文化論V（社会）

3617021500100

副　題	「江戸」の発見							担　当　者	岩淵　令治　教授		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	HIS-305-JE

〔授業の到達目標〕

異文化である過去の文化が，その後に「伝統」として発見され，創造される側面があることを理解する。

〔授業の内容〕

「伝統的」とされる文化の中には，実は近代以降に発見され，創造されたものも少なくない。ここでは江戸の都市文化を主な題材として，各時代に発見されていく「江戸文化」と実態を比較し，「江戸像」を相対化するとともに，何がどのような契機で発見されたのか，その社会的な背景も考えてみたい。

〔教材〕

参考書：岩淵令治『江戸・大坂・京の三都物語』（週刊朝日百科日本の歴史30）朝日新聞社，2014年
杉森哲也・岩淵令治ほか『日本近世史』放送大学教育振興会，2013年

テキストはコピーを配布する。また，授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回配布するプリント類，参考文献・論文の内容確認。

〔成績評価の方法〕

講義中に実施する小テストおよび出席・授業態度（40%），期末試験（60%)。なお、出席の３分の２以上があくまでも条件であり、出席点はとらない。期末試験は記述式で，ノートと講義中に配布したプリント持ち込みを可とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

研究に関する質問・相談は金曜日の13：30～14：30に受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　「伝統」の発見・創造
第２週　江戸時代における「江戸」像の発信（１）他国者から見た江戸
第３週　江戸時代における「江戸」像の発信（２）江戸勤番武士の日記を読む　その１
第４週　江戸時代における「江戸」像の発信（３）江戸勤番武士の日記を読む　その２
第５週　江戸時代における「江戸」像の発信（４）創られる名所　１
第６週　江戸時代における「江戸」像の発信（５）創られる名所　２
第７週　江戸時代における「伝統」の伝播－雅楽と楽器師－
第８週　近代における「江戸」の発見（１）明治武士道の誕生　１
第９週　近代における「江戸」の発見（２）明治武士道の誕生　２
第10週　近代における「江戸」の発見（３）「江戸史蹟」の誕生
第11週　近代における「江戸」の発見（４）「江戸城登城風景図」の二つの表象－名所画と「歴史画」
第12週　近代における「江戸」の発見（５）大正期の消費文化と江戸の「商品化」
第13週　高度成長期における「江戸」の発見　江戸商人像をめぐって
第14週　現代における「江戸」像と実態　「清潔都市」「リサイクル都市」幻想
第15週　補足とまとめ
進捗状況によって計画の変更がありうる。

比較文化論VI（嗜好）

3617021600100

副　題								担　当　者	中野　美季　講師		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	LIF-306-JE

〔授業の到達目標〕

講義と体験を通じて味覚への理解を深め，味わう力，表現する力を養う。食の分野に関心を持ち，積極的に参加する意欲ある学生を歓迎する。

〔授業の内容〕

今日，食や食物の嗜好への人々の関心は極めて高い反面，「味覚」についての基礎的知識は十分とはいえないのが現状である。本講義では適宜感覚の実験及び比較テイスティングを行い，ワークシートに詳細に記入することにより，味覚の体験的理解と表現力を養うことを目指す。

1．識別テスト等を利用して「味覚」を認識する。

2．文化としての日本の味を体験的に理解する。外国との比較もまじえて考える。講師はイタリア食文化を専門とするため，比較対象は特にイタリアである。

3．味の背景にある食文化を理解し，世界の中の日本，日本の中の自分を認識し，表現する。

講義の進度により，シラバスに記載の内容・順序等は適宜変更される。

〔教材〕

参考書：プラート味覚教育センター／中野美季『味覚の学校』木楽舎，2012年

必要に応じてプリントを配布し，参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自分自身の食生活，出身地の郷土料理に，日常的に関心をもって向き合うこと。

〔成績評価の方法〕

授業への貢献度（30%），ワークシートとレポート（30%），出席（40%），などを加味して総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

風味や味覚の官能検査を行うため，受講者を制限する。受講希望者は日本文化学科掲示板を確認すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，味覚の基礎知識
第２週　味覚の基礎知識
第３週　味覚実験　五味（甘味，塩味，苦味，酸味，うま味）の識別など
第４週　味覚実験　味と五感
第５週　味覚実験　濃度の識別など
第６週　日本のだし（魚の節類）
第７週　日本のだし（昆布）
第８週　味覚と文化　日本酒
第９週　味覚と文化　ワイン
第10週　味覚と文化　日本，イタリア比較（調味料，食材など）
第11週　〃
第12週　イタリアの伝統食品
第13週　まとめ
第14週　討議
第15週　発表と調理実習

比較文化論VII（生活）

3617021700100

副　題	装飾文化の交流							担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ART-307-JE

〔授業の到達目標〕

日本と諸外国との文化交流について歴史の中で確認し，その意義を理解する。

〔授業の内容〕

古来，人は生活の中で用いる身近なものに，さまざまな文様や技法を凝らして装飾をほどこしてきた。文様や装飾技法は，文化圏を越えて伝播し，日本は中国や西アジア，西欧諸国などとも影響関係がみとめられる。本講義では，文様や装飾美術に着目し，日本が諸外国から受けた影響と，日本から諸外国へ与えた影響について考える。

〔教材〕

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験またはレポート（70%），出席状況と授業態度（30%）により評価する。期末試験またはレポートについては，履修者数により決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　―装飾文化の交流―
第２週　文様（１）　龍と鳳凰
第３週　文様（２）　唐草文
第４週　文様（３）　咋鳥文の系譜
第５週　信仰の美術（１）　仏像の誕生
第６週　信仰の美術（２）　浄土教美術
第７週　茶の湯の美術（１）　唐物
第８週　茶の湯の美術（２）　わび茶
第９週　南蛮文化と南蛮美術
第10週　世界を魅了した輸出品（１）　JAPANとIMARI
第11週　世界を魅了した輸出品（２）　明治の超絶技巧
第12週　ジャポニスム（１）
第13週　ジャポニスム（２）
第14週　アール・ヌーボー
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

比較文化論VIII（Japanese Culture I）

3617021800100

副　題	Reading Movies							担　当　者	J．P．チャン　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPN-308-JE

〔授業の到達目標〕

The goals of the course are to understand the different formal methods for reading a movie and applying specific terms for analyzing films. Students will be expected to write papers to show how these techniques create meaning in movies.

〔授業の内容〕

This course will introduce students to the different film techniques that can be used to "read" movies. Movies are unique in the way they convey meaning not only through dialogue and story, but also through its visual tools. Everything in a movie is a series of choices, whether it is the color of the curtains in a room, the placement of a vase, or the editing decisions that place one shot next to another. We will watch short films and feature films and apply film terms to see how meaning is produced and conveyed to an audience using these film techniques.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to watch movies, complete readings, and write responses to both. Students will be expected to spend two to four hours per week to prepare for the course.

〔成績評価の方法〕

Students will be evaluated on homework, a midterm quiz, and a term paper.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I will be available to meet with students after class and by appointment.
I can be contacted by email at jeong.chang.classes●gmail.com（change ● to @）.

〔授　業　計　画〕

第１週　Course Introduction
Homework: Read handout on Editing
第２週　Modern Times　［モダン・タイムス］
第３週　Discuss Modern Times and editing in the movie
Homework: Write a short response paper on Modern Times and editing
第４週　Continue discussion of Modern Times and lecture on mise-en-scène
Read handout on camera positioning
第５週　Tokyo Story　［東京物語］
第６週　Discuss Tokyo Story, mise-en-sc&#e8;ne, and camera positioning
Homework: Write a short response paper on Tokyo Story
第７週　Continue discussing Tokyo Story
Midterm Quiz Review
第８週　Midterm Quiz
第９週　Run Lola Run　［ラン・ローラ・ラン］
Reading on graphic matching and managing time in movies
第10週　Discuss Run Lola Run and graphic matching
Writing the introduction and thesis
Homework: Write your introduction
第11週　Peer review introduction
Topic sentences
Writing the body of the paper
Homework: Write the body of the paper
第12週　Peer review the body of the paper
Writing the conclusion
Homework: Rewrite body and write the conclusion
第13週　Peer review the entire paper
Homework: Rewrite the paper
第14週　Reverse outlining
Homework: Final rewrite of the paper
第15週　Turn in final paper

比較文化論IX（Japanese Culture II）

3617021900100

副　題	Love and Care							担　当　者	J．P．チャン　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPN-309-JE

〔授業の到達目標〕

The goals of the course are to understand the contemporary context of love and care through movies that emphasize love and caring. In analyzing the movies over the course of the term, we will familiarize ourselves with the formal tools of film analysis and learn how to use these tools to deepen our understanding of movies and how it represents love and caring. Students will be able to write papers that articulate this analysis.

〔授業の内容〕

This course will examine love and caring in world cinema. In watching and analyzing these movies, we will discuss how love and caring are constructed as indispensable resources for human happiness and thriving. However, we will also see how love and care are affected by globalization and neoliberalism, and how the demands of these two ideologies are both challenged and accommodated by the need and responsibilities of love and caring. The movies in this course attempt to navigate this tricky terrain.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to watch movies, complete readings, and write responses to both. Students will be expected to spend 2-4 hours per week to prepare for the course.

〔成績評価の方法〕

Students will be evaluated on homework, a midterm quiz, and a term paper (700-1200 words).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

I will be available to meet with students after class and by appointment.
Email at jeong.chang.classes●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Course Introduction
Reading on love and caring in contemporary society
第２週　Eternal Sunshine of the Spotless Mind　［エターナル・サンシャイン］　(2004)
第３週　Discuss Eternal Sunshine of the Spotless Mind
Homework: Write a short response on the movie
第４週　Memory, love and identity in Eternal Sunshine of the Spotless Mind
Reading on friendship and caring
第５週　Take Care of My Cat　［子猫をお願い］　(2001)
第６週　Finish watching Take Care of My Cat
Discuss movie and what it says about the role of friendship and caring
第７週　Neoliberalism and its impact on personal relationships
Midterm Quiz Review
第８週　Midterm Quiz
Reading on care and the family
第９週　老人Z (1991)
第10週　Discuss　老人Z
Writing the introduction and thesis
Homework: Write your introduction
第11週　Peer review introduction
Topic sentences
Writing the body of the paper
Homework: Write the body of the paper
第12週　Peer review the body of the paper
Writing the conclusion
Homework: Rewrite body and write the conclusion
第13週　Peer review the entire paper
Homework: Rewrite the paper
第14週　Reverse outlining
Homework: Final rewrite of the paper
第15週　Turn in final paper

比較文化論X（工芸）

3617022000100

副　題	海を渡った工芸品							担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ART-310-JE

〔授業の到達目標〕

日本が受容した外来の文化と，諸外国において受容された日本の文化について知ることで，日本文化の独自性への理解を深める。

〔授業の内容〕

古代より，日本には中国などの国々から多くの工芸品が海を渡りもたらされ，日本の文化に大きな影響を与えてきた。また一方で，日本で制作された漆工・染織・やきものなどの工芸品が諸外国に渡り，西欧美術等にも大きな影響を与えている。

本講義では，海を渡って日本にもたらされた工芸品と，日本から諸外国へ舶載された工芸品に注目し，それらが日本と諸外国へ与えた影響について考える。

〔教材〕

参考書：中村修也『黄金文化と茶の湯』（よくわかる伝統文化の歴史３）淡交社，2006年
中村修也『茶道・香道・華道と水墨画』（よくわかる伝統文化の歴史2）淡交社，2006年

授業時に，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業後には，配布資料と指定した参考文献等を確認し，授業内容を十分に理解すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験またはレポート（70%），出席状況と授業態度（30%）により評価する。期末試験またはレポートについては，履修者数により決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４限

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　正倉院の宝物（１）
第３週　正倉院の宝物（２）
第４週　唐物（１）
第５週　唐物（２）
第６週　名物裂
第７週　南蛮文化の影響
第８週　JAPAN　―輸出漆器―
第９週　古渡り更紗
第10週　伊万里焼
第11週　明治の輸出工芸
第12週　ジャポニスムと工芸
第13週　ジャポニスムとファッション
第14週　アール・ヌーボー
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本文化演習IA・IIIA

3611010100100

副　題	日本芸術の諸相							担　当　者	尼ヶ﨑　彬　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ART-301-JY ART-439-JY

〔授業の到達目標〕

近代日本の芸術文化に関する基本的知識の獲得と，その研究方法の習得。

〔授業の内容〕

近代日本芸術の各分野に関し，新しい視点で書かれた研究書を取り上げ，学生が分担してその内容を報告し，全員で討議する。この著作のリストは網羅的になるように教員側が用意する。

〔教材〕

授業中指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表週の予習（発表準備）は30時間。それ以外の週の予習（指定図書の通読）は４時間。復習（授業内容の確認と必要箇所の再読）は２時間。

〔成績評価の方法〕

レポート（70%），出席（30%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

下記参照

質問がある場合，簡単なことはメールでakira.amagasaki●gakushuin.ac.jp（change ● to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の３限に研究室で行う。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　〃
第３週　学生による発表
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IB・IIIB

3611010100200

副　題	学術論文の読み方・書き方							担　当　者	堀江　秀史　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ART-302-JY ART-440-JY

〔授業の到達目標〕

学問の世界に身を置くにあたって必要な心構え，精神を理解する。
情報の集め方，調べ方を身につける。
口頭発表のスキルを身につける。
学術論文を執筆するのに必要な作法（形式面含む）を習得する。
すでに書かれた学術論文を通じて，論理的な議論を構築する方法を学び，自ら執筆する準備を整える。

〔授業の内容〕

指定する書籍，論文を読み，それについて発表することで，上記目標に到達してもらう。テキストは，写真や絵画など，視覚芸術を扱う論を中心とする。発表は，指定書籍を踏まえつつ，自分の関心のある分野，対象に引きつけて展開しても良い。冒頭数回は，それぞれが自分の発表をする際に必要な知識，作法，方法について講義する。

〔教材〕

教科書：授業時に指示

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

共通のテキストを使うので，受講者は全員，当該箇所を事前に読んでくること。その他，自分の発表に備えて，各自準備が必要。

〔成績評価の方法〕

授業内で交わされる議論への積極的参加（40%）と，授業期間において課される個別発表（60%）をもって評価を行なう。レポートは原則課さない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜午後。
随時メールによって対応。別途指示。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス。授業方針の説明。個別発表の担当箇所決め。
第２週　学術研究の倫理について。（講義）
第３週　研究にあたって必要な資料の集め方。調べ方。（講義）
第４週　論文の分析方法。言語的構築物はいかに成立しているかを，執筆する立場から紹介。（講義）
第５週　論文（入門的書籍）を分析し，関連事項を自ら調べて発表する。個別発表１－１。（演習）
第６週　個別発表１－２
第７週　個別発表１－３
第８週　個別発表１－４
第９週　個別発表１－５
第10週　まとめ１（全体討議）
第11週　論文（学術論文）を分析し，関連事項を自ら調べて発表する。個別発表２－１。（演習）
第12週　個別発表２－２
第13週　個別発表２－３
第14週　個別発表２－４
第15週　まとめ２（全体討議）

日本文化演習IC・IIIC

3611010100300

副　題	日本の神話							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	LIT-303-JY LIT-441-JY

〔授業の到達目標〕

日本の神話の意義及び仕組みが分かり，研究上のの問題点が理解できるようになる。

〔授業の内容〕

古事記・日本書紀の二文献は，いずれもこの世の始原から書き起こし，歴代天皇の治世に説き及ぶ。その天皇代に至るまでの部分は，神々による世界の形成が描かれており，これを記紀神話と呼び習わしている。もちろん両書は成立の経過も書物としての性格も異なる。しかし日本書紀には説話のまとまりごとに収録された豊富な異伝があり，これに古事記の記事を合わせ伝承間の相違点を子細に検討するならば，それぞれの神話の形成の跡をたどることもある程度は可能である。そこでこの手法により，各神話の本源の姿を探究すると共に，各々の神話に込められた文化的メッセージに対する理解を深めることを目指す。なお必要に応じ，風土記も参照する。

〔教材〕

教科書：神田典城編『対照神代記紀』笠間書院

参考書については授業時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの内容をよく理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート(100%)による

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

古語辞典必携

〔授　業　計　画〕

第１週　概要説明
第２週　発表及び討論
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習ID・IIID

3611010100400

副　題	近代日本の歴史と思想							担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	HIS-304-JY HIS-442-JY

〔授業の到達目標〕

近代日本の思想や文化に関わる資料や著作および，それについての研究論文に触れ，歴史的な流れの中で理解することをつうじて，歴史研究の方法的基礎を養うとともに，思想や文化の営みに親しむきっかけをつくる。

〔授業の内容〕

今学期は，日本近代史を概観することのできる通史をいくつか併読することをつうじて，日本近代史の流れをつかむとともに，各通史記述の執筆時期や著者による時代区分や歴史的出来事についての評価の共通性や差異を分析することとしたい。また，都内の関連ある史跡を授業の一環として見学することもある。

〔教材〕

教科書：中村隆英『明治・大正史』東京大学出版
　　成田龍一『近現代日本史と歴史学』中央公論新社
成田龍一の本は3年生のみ購入のこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の講読文献を事前に予習して理解し，自分の感想やコメントを準備しておくこと。また自分の報告担当の回は，事前に責任をもって報告の準備を行うこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業参加，課題提出物，期末レポートにより総合的に評価する。出席が全回数の7割に満たない場合は評価対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　4年生卒論報告
第3週　〃
第4週　文献講読
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習IE・IIIE

3611010100500

副　題	平安時代の文学（1）							担　当　者	伊藤　守幸　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	LIT-305-JY LIT-443-JY

〔授業の到達目標〕

『源氏物語』の精読を通じて，文学のみならず平安文化全般にわたる多くの知見に接して，日本の古代文化に関する豊かな教養を身につけてもらうことを目指す。

〔授業の内容〕

『源氏物語』を素材として，古典作品の精密で分析的な読解を試みる。テキストとして青表紙本『源氏物語』の影印本を用いることによって，くずし字を読むことにも習熟してもらう。取り上げる巻としては，「若菜上」の巻を予定している。

〔教材〕

教科書：『青表紙本「源氏物語」若菜上』新典社
　　中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『源氏物語』講読の準備と事後の補足的調査。４時間。

〔成績評価の方法〕

出席および演習内容・レポートによって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後１時半～２時半。

〔授　業　計　画〕

第１週　『源氏物語』についての概説
第２週　担当箇所の確定と発表方法に関する説明
第３週　担当者による発表と質疑応答　―『源氏物語』若菜上の講読―
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IF・IIIF

3611010100600

副　題	日本語研究の方法							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	JPL-306-JY JPL-444-JY

〔授業の到達目標〕

学術的な日本語研究方法の基礎（文献検索，コーパス利用，調査，分析，プレゼンテーションなど）を習得する

〔授業の内容〕

時代（古典語・現代語）を問わず，日本語やその他の言語に関する研究書や研究論文などを読む。それぞれの学生が興味･関心のある事柄に関する文献を探し，その内容について，解説，批判，今後の研究の展開の可能性などに関する報告を行う。（初回授業から数回，教員が日本語研究・言語研究について概説する。）

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが，必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は10時間以上の準備が必要。

〔成績評価の方法〕

発表担当時の発表内容およびプレゼンテーション（80%）の他，討論への参加の積極性（20%）などを総合的に評価する。最低でも開講時数の２／３以上の出席が必須である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　言語研究と日本語研究の諸分野についての概要説明
第２週　具体的な研究方法の検討
第３週　以後は担当学生による発表と討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習IG・IIIG

3611010100700

副　題	現代社会研究（1）							担　当　者	時安　邦治　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SOC-307-JY SOC-445-JY

〔授業の到達目標〕

社会学の知見を参考にして，現代社会について研究するための知識とスキルを習得し，自らの研究課題を立案し，情報収集・調査を進められるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会の諸側面について社会学からアプローチする。授業は学生の発表とその内容についての議論を中心に進めていく。学期の前半は3年生が中心となり，現代社会研究に関する教科書的な内容の文献を講読し，現代社会を見る視点を獲得する。後半は4年生が卒業論文の構想を発表する。

研究は他者との交流，意見交換によってはじめて醸成されるものである。そのため学生には積極的な授業参加と生産的な議論が要求されている。授業は一部に反転学習を取り入れる。

〔教材〕

教科書：社会福祉養成講座編集委員会『社会理論と社会システム』（新・社会福祉養成講座）第3版，中央法規，2014年

教科書は社会福祉士養成のために編集されたものであるが，授業は社会福祉士養成を目的とするものではなく，教科書はあくまで社会学の理論と成果を学ぶために使用する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書は事前に該当箇所を読み，質問等を用意してくること。発表に際しては，さまざまな角度からの質問に答えられるよう，レジュメの作成を含めて十分な準備をしておくこと。また，卒業論文・ミニ卒業論文に向けて課題を適宜出すので，その都度取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

成績は学期末のレポート（30%），発表・授業への取り組み（40%），課題（30%）から総合的に評価する。特に議論への参加を重視する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日4限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。
kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　第1章第1節　社会システム／第2節　法と社会システム
第3週　第1章第3節　経済と社会システム／第4節　社会変動
第4週　第1章第5節　人口から見た社会変動／第2章第1節　生活のとらえ方
第5週　第2章第2節　家族／第3節　地域
第6週　第3章第1節　社会的行為／第2節　社会的役割
第7週　第3章第3節　社会集団と組織／第4節　社会的ジレンマ
第8週　第3章第5節　社会関係資本と社会的連帯／第4章第1節　社会問題のとらえ方
第9週　第4章第2節　日本社会と社会問題／第3節　共生社会と権利
第10週　卒業論文構想発表（1）
第11週　卒業論文構想発表（2）
第12週　卒業論文構想発表（3）
第13週　卒業論文構想発表（4）
第14週　卒業論文構想発表（5）
第15週　授業の総括

日本文化演習IH・IIIH

3611010100800

副　題	中世文化・民俗文化〔1〕―民間説話・古典説話・芸能など―									担　当　者	徳田　和夫　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ANT-308-JY ANT-446-JY

〔授業の到達目標〕

1.日本の伝統文化を，民俗学と比較文化論から研究する必要性を熟知する。
2.民俗の概念とその多様性の認知，および説話伝承について多方面からの研究を実践する。
3.文化を，本物・現物に接して理解する。

〔授業の内容〕

中世における女性の物語や，中世から現代にまで伝わる民間説話を絵巻作品に照らして解析し，また関連する芸能作品を鑑賞して，日本人の精神文化史を考察していきます。

文学史的な把握に加えて，特に口承文芸・民間説話学（昔話・伝説・うわさ話など），民俗学（民間信仰・俗信・年中行事など）を導入していきます。

さらに比較説話学（外国の民間説話・宗教説話との対比），物語絵画史（絵巻・奈良絵本・錦絵・仏教絵画など），芸能史（古典芸能・民俗芸能・話芸）などからアプローチします。

〔教材〕

教科書：徳田和夫『図説：絵とあらすじでわかる！　日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）2014，青春出版社。

参考書：徳田『室町の妖怪―説話伝承と図像』(2016,せりか書房)，徳田『お伽草子事典』(2002,東京堂出版)。また，プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

総合評価（研究と演習発表40%，質問・発言20%，レポート40%）によっておこないます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始時に指示します。

〔備考〕

（1）ゼミ旅行，美術館・博物館・史蹟等の見学，古典芸能の鑑賞，民俗芸能・儀礼のフィールド・ワークを企画実行します（参加を前提とする）。

（2）授業時あるいは別時間に，卒業論文の対象選定，準備についての指導と，その発表の機会を設けます。

〔授　業　計　画〕

第１週　概説（１）
第２週　概説（２）
第３週　演習発表と討議
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習II・IIII

3611010100900

副　題	日本の染織と服飾文化の諸相（1）							担　当　者	福島　雅子　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ART-309-JY ART-447-JY

〔授業の到達目標〕

卒業論文の作成に向けて，日本服飾史・染織史研究の方法を理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

日本服飾史・染織史に関する研究論文を取り上げ，各自担当を決めて内容を報告する。論文については，受講生の関心を聞き決定する。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する資料を各自で収集し，また指定した文献を読み，発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と授業への参加（30%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜4限，金曜4限。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　学生による発表と討論
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習I J・III J

3611010101000

副　題	日本近世の政治・社会・文化（1）							担　当　者	岩淵　令治　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	5	コース・ナンバー	HIS-310-JY HIS-448-JY

〔授業の到達目標〕

日本近世史研究の方法に基づき，最終的に卒業論文を提出することを目的とする。

〔授業の内容〕

日本近世の政治・社会・文化に関する文献史学の研究は，近世史料と，先行研究論文の読解にもとづいている。春学期は，江戸時代の活字史料の輪読を通して意味解釈や課題を発見する方法を学ぶ。参加者は，史料の担当箇所について報告する。テキストについては，参加者の関心も聞いたうえで，決定したい。なお，学期末には４年生は卒業論文の予備的なレポートを，３年生は将来の卒業論文に向けたレポートを提出してもらう。

〔教材〕

テキストはコピーを配布する。また，授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，自身のみならず他の報告者の史料についても，読み・意味を予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

報告(40%)，レポート(30%)，出席状況(30%)により評価する。報告者ではない回でも，積極的に議論に参加することを期待する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

研究に関する質問・相談は金曜日の13：30～14：30に受け付ける。

〔備考〕

初回の授業に出席すること。また，就職活動と重ならない限り，毎週出席すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業のガイダイス（参加者の関心の披露）
第２週　時代の概説・辞書類の説明等
第３週　卒業論文の原案報告（４年生）
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　史料研究報告（３年生）
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　卒業論文の進捗報告（４年生）
第15週　〃

参加人数によって，計画に若干の変更がありうる。テキストは，各人の関心を聞いた上で検討する。また，１，２回，都内の博物館・資料館・史跡見学を行う。夏季の合宿については，学期中に検討する。

日本文化演習IK・IIIK

3611010101100

副　題	食品研究１							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	LIF-311-JY LIF-449-JY

〔授業の到達目標〕

食品の研究を自ら進め，論文にまとめる能力をつける。

〔授業の内容〕

多様な日本食文化の対象である食品・食材とその利用について，文化的価値と科学的特性を研究し総合的に評価するための方策を中心に検討する。日本の伝統食品，現代の加工食品，新しい食品原料などについての関連文献を講読し，内容を検討すると共に，必要な基礎的実験技術，調査･分析手法を習得する。その後，特定の食品や食に関連する問題を研究テーマに選び，研究を進めるための実際的な方策・手法についての検討や予備的調査を中心として具体的な研究計画の策定を行っていく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

発表および提出物等（約80%），授業への参加状況（約20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業等について質問がある場合には，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　資料調査，基礎実習，基礎実験など研究手法の検討と計画の策定の指導
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本文化演習ⅠL・ⅢL

3611010101200

副　題	スポーツ文化の諸相							担　当　者	荒井　啓子　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	SPO-312-JY SPO-450-JY

〔授業の到達目標〕
スポーツ現象の中に凝縮・刻印されている文化や社会を，主にスポーツ人類学やスポーツ文化論の視点から理解を深め，スポーツ文化研究の内容や方法を習得していく。資料の読解・問題の発見・論理的思考の能力を養いつつ，卒業論文作成に向けて独自の研究課題を見出していく。

〔授業の内容〕
日本及び諸外国の，過去及び現在の社会における「スポーツ現象」を，社会的・文化的・歴史的側面から考察を行う。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」という問題を常に考えながら，スポーツの窓から社会や人間を眺め，同時に，社会の動きからスポーツという文化を読み解いていく。
「スポーツ」とは，近代スポーツばかりではなく，日本の伝統スポーツ・世界のエスニックスポーツ・遊び・身体技法等を含むが，そのようなスポーツ文化そのものについての研究だけでなく，その周辺領域（社会，ジェンダー，メディア，民族，環境，教育，健康，異文化等）との関わりに目を向けながら学際的に考察を進める。アプローチにあたっては,前半は,スポーツ文化論・スポーツ人類学・スポーツ史学等に関する文献を用い，分担したテーマについて発表を行う。後半は，各自が自由な発想と関心によってテーマを選び，発表・討議を行い，研究方法を含めてスポーツ文化研究についての認識をより深めて卒業論文に繋げていく。

〔教材〕
テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
研究テーマに関する内容をより深く理解し問題点を発見していくための資料や参考文献を常に模索し読み込んでいく。その上で，独自性のある研究に発展させていくことを考える。研究発表では，その内容をレジュメとして用意し，授業時における質疑応答の準備とする。

〔成績評価の方法〕
出席状況（40%）発表（30%），レポート（30%）によって総合的に評価する。
（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日３時間目，火曜日４時間目

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：スポーツの概念
第２週　スポーツ文化研究の方法：スポーツの読み解き
第３週　〃
第４週　学生の発表ならびに討議
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習IM・IIIM

3611010101300

副　題	インターネットコミュニケーション							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-313-JY INF-451-JY

〔授業の到達目標〕

インターネットコミュニケーションに関連した領域で，（1） 自らテーマを設定し，必要な情報を収集・分析する能力，（2） 自身の主張の正当性を論理的に説明できる能力を身に付ける．

〔授業の内容〕

インターネット上のコミュニケーションはソーシャルネットワークサービスやスマートフォンの普及に伴って，日常的な情報伝達手段に変化している．本授業では，この分野の諸問題について考察し，問題の調査分析を行うことを主な目的とする．春学期は教員による解説と学生による調査発表によって今後の議論に必要となる基礎的な知識を習得することに重点を置く．

〔教材〕

参考書：藤代 裕之『ソーシャルメディア論: つながりを再設計する』青弓社，2015年
その他の参考文献は授業中に適宜紹介する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表のための準備作業（文献調査，資料作成など）はすべて準備学習に割り当てる．

〔成績評価の方法〕

担当部分の発表40%と授業への参加状況60%の計100%によって評価する．発表では担当部分の理解度と説明の明快さについて問う．授業参加の必要条件として，他の学生の発表に対して発言を行うことを求める．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　インターネットコミュニケーション概説
第３週　テキストコミュニケーション
第４週　集合知
第５週　ソーシャルメディア
第６週　ソーシャルメディア活用事例
第７週　ソーシャルグラフの形成
第８週　情報の拡散
第９週　ネットワーク構造の分析（1）
第10週　ネットワーク構造の分析（2）
第11週　コンピュータを用いたソーシャルメディア分析（1）
第12週　コンピュータを用いたソーシャルメディア分析（2）
第13週　個人情報とプライバシー
第14週　サービスのアーキテクチャ
第15週　まとめ
原則として，各回学生発表である．関連する領域の範囲内で，調査テーマを変更することがある．

日本文化演習IN・IIIN

3611010101400

副　題	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育） 2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-314-JY LIF-452-JY

〔授業の到達目標〕
1．体験学習法と教えない教育について十分に認識し，それらを実践するファシリテーション能力がある。
2．問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3．独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4．体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5．実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕
1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え，食物の役割を探究し，人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて，歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し，食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ，おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材，食品，料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2．環境教育・科学教育と体験学習（環境コミュニケーションと科学コミュニケーション）：小学校の自然体験や理科の単元をアメリカで生まれたGEMS，MARE，FOSS,PWやPWETなどの教材の指導体験を通し，教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え，改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕
ゼミ希望学生は，２年時に実施される味わい教育インストラクターの講習会に必ず参加すること。講習会で使用するテキストと卒論テーマは密接に関連している。また，講習会はできるだけ複数回参加すること。ゼミの選択が決定した２年生は３月に実施されるゼミ事前講習会に必ず参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
研究テーマに対応した文献の遡及調査を実施することが必須である。また，選択した分野の学会を探すことも必要である。演習の時間だけではファシリテーションの実践や味わい教育を実践する時間は取れないことから，事前の準備や振り返りの時間が４時間程度必要である。

〔成績評価の方法〕
1．ゼミではプログラム実践を通した経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため，出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。（40%）
2．積極的課外授業への参加を通し，アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し，論理的に自らのアクティビティを評価することができる。（40%）
3．積極的な文献収集とその読解を通し，適切な報告書を作成することができる。（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業に関する質問はakira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日５限目（16：40-17：50）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕
金曜日午後に課外活動を実施することがある。午後の時間割には演習のみを割り当てることが望ましい。味わい教育インストラクター養成講習会にできるだけ参加すること。可能な時期（夏季休業中など）にゼミ旅行を実施する（２泊から３泊：場所は青森，大分を予定）。また，フードコンシャスネス教育班の学生は，ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　フードコンシャスネス教育，環境コミュニケーション，科学コミュニケーションとは何か？
　　卒論作成指導，文献検索方法，ラーニングサイクル，振り返り方法について
第２週　文献調査法　卒業論文の仮テーマの作成など
第３週　ファシリテーション体験１（ファシリテーションとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査１
第４週　ファシリテーション体験２（ラーニングサイクルとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査２
第５週　ファシリテーション体験３（振り返りとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査３
第６週　アンケート作成とその評価方法
第７週　感覚・味覚教育プログラム，環境教育プログラム，科学教育プログラムの体験
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　環境教育プログラム，食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
グループでのテーマに対応し，協調関係を構築する必要がある。

日本文化演習IO・IIIO

3611010101500

副　題	言語学・日本語教育I							担　当　者	秋山　智美　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	JPL-315-JY JPL-453-JY

〔授業の到達目標〕

3年生においては，言語学研究の基礎分野を広く理解し，研究の所在やアプローチする方法について学ぶことを目的とする。

4年生においては，卒業論文作成に向けての具体的な計画を立てて，実践的な調査研究を始める。

〔授業の内容〕

現代の日本語分野において対照言語学研究，社会言語学研究の諸問題を含めて幅広く諸領域（文法論，意味論，語彙論，語用論，文章・談話論，待遇表現，方言，日本語教育など）の研究を進める。

〔教材〕

授業時にプリントを配布します。その他，参考書については適宜，授業内で指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業の予習として授業時に配布された資料を2時間程度かけて通読すること。
毎回，授業の復習として授業時に配布された資料を2時間程度かけて通読すること。

〔成績評価の方法〕

課題レポート（50%），授業への参加態度・発表（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール（aki1●amber.plala.or.jp)（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　導入
第2週　先行研究の通読（文法論）
第3週　先行研究の通読（意味論）
第4週　先行研究の通読（語彙論）
第5週　先行研究の通読（語用論）
第6週　先行研究の通読（文章・談話論）
第7週　先行研究の通読（待遇表現）
第8週　先行研究の通読（方言）
第9週　先行研究の通読（日本語教育）
第10週　先行研究の通読（社会言語学）
第11週　卒業論文に向けて－研究計画発表(1)
第12週　卒業論文に向けて－研究計画発表(2)
第13週　卒業論文に向けて－研究計画発表(3)
第14週　卒業論文に向けて－研究計画発表(4)
第15週　卒業論文に向けて－研究計画発表(5)
授業計画は，進行状況により変更する場合もある。

日本文化演習IP・IIIP

3611010101600

副　題	アートによる地域活性化の調査、研究							担　当　者	清水　敏男　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ART-316-JY ART-454-JY

〔授業の到達目標〕

アートマネジメントならびに現代美術に関する調査能力を養い必要な知識を身につける。
文化や社会の一般的状況を理解できる総合力を養う。
現代美術，デザインに関する基礎的な知識を身につける

〔授業の内容〕

現在日本ではアートによる地域活性化が近年盛んになり都市のみならず地方で多くのアートプロジェクトが実施されるようになった。こうしたアートプロジェクトの調査，研究をグループで行うことにより，アートの変容，アートの現代社会に置ける役割，意味を考察する。

卒業論文:1945年以降の現在の，日本の視覚芸術（絵画，彫刻，写真），デザイン（グラフィック，プロダクツ，建築）の分野を対象とし，自分自身の問題意識を明確にし，自分のテーマを選定する。対象についての調査研究，文献調査，関係者へのインタビュー，実地調査など多角的に研究する。独自の視点でテーマを扱う能力を重視する。

３年次からテーマを設定し，長期にわたって調査研究することが望ましい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

現代美術の展覧会，アートプロジェクトを調査すること。アートプロジェクトにボランティアとして参加することを推奨する。

〔成績評価の方法〕

１）出席日数，２）発表，３）期末レポート（発表内容を2000字で記述する），４）展覧会レポート（３年生のみ，1000字×10本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日12時半から１時，２時半から３時

〔備考〕

現代美術のみならず，近代以前の美術も積極的に見，自分でレポートを作成するなどして準備しておくこと。日本文化基礎演習Pを事前に受講しておくことがのぞましい。

またゼミで行なう調査旅行等に必ず参加すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
　　３年生共同研究テーマ討論
第２週　共同研究テーマ発表
第３週　４年生卒業論文発表１，
第４週　４年生卒業論文発表２，
第５週　共同研究発表１
第６週　共同研究発表２
第７週　共同研究発表３
第８週　共同研究発表４
第９週　３年生個人研究発表１
第10週　３年生個人研究発表２
第11週　３年生個人研究発表３
第12週　４年生卒業論文中間発表１，
第13週　４年生卒業論文中間発表２，
第14週　４年生卒業論文中間発表３，
第15週　総評

日本文化演習IQ・IIIQ

3611010101700

副　題	電子メディア							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-317-JY INF-455-JY

〔授業の到達目標〕

卒業研究に必要な基礎能力を身につけることを目標とします。

〔授業の内容〕

この演習を簡単に表現すると「何か作ろう。」ということになります。ただし，「何か」というのは，映像･音楽･アニメ等のコンピュータを利用して作れるもの，プログラム等のコンピュータに関連したものに限られます。また，設備等の問題から納得のいくものが作れない場合があるので，不安な学生は，事前に担当者に問い合わせてください。

テーマを決めた後，必要に応じてグループ分けを行い，基礎能力の充実に努めます。この段階では，出席を重視します。学期末には，基礎知識はもちろんのこと，基礎的な技術力が身についているか確認します。

また，決められたテーマで簡単な作品を制作します。

〔教材〕

個人またはグループごとに異なる教科書を使います。詳細は，最初の授業時に示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

個人またはグループ毎に教科書を読み，課題制作を進める。準備学習として教科書理解に30時間，課題制作のために30時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

作品製作（制作）に必要な基礎知識が身についているかどうか確認します。また，出席状況も重視します。

作品の評価50%，制作に必要な技術の理解度・習得度30%，制作へ取り組む姿勢20%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　製作作品のテーマの希望調査（グループ分け）
第２週　基礎学習１（全体）
第３週　基礎学習２（グループ別）
第４週　課題制作１（その１）
第５週　課題制作１（その２）
第６週　中間発表１
第７週　課題制作２（その１）
第８週　課題制作２（その２）
第９週　中間発表２
第10週　課題制作３（その１）
第11週　課題制作３（その２）
第12週　中間発表３
第13週　まとめ
第14週　まとめと解説
第15週　まとめと次学期の制作計画の検討

日本文化演習IS・IIIS

3611010101900

副　題	日常生活におけるメディア利用							担　当　者	越塚　美加　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	INF-319-JY INF-457-JY

〔授業の到達目標〕
研究を進めるにあたって基本的な文献探索法，書誌事項の書き方，レジュメの書き方，発表の仕方などの手法をメディアに関する文献を手がかりに習得する。

〔授業の内容〕
３年生はメディアの特性やその利用についての文献を輪読しながら，さまざまな情報伝達に用いられるメディアと私たちの生活との関係について歴史的に，また現在の状況を考察する。また，研究を進めるうえで必要な情報探索技能や書誌事項の扱いについても取り上げる。
４年生には卒業論文のテーマの選択に関わるテーマの文献を選んで，その内容についての発表を課す。この作業を通じて，研究調査の手法について学ぶとともに，基本的な情報収集法とその記録法等の基礎的な素養を身につける。

〔教材〕
教科書：河野哲也『レポート・論文の書き方入門』第3版，慶應義塾大学出版会，2002年
参考書：渡辺武達, 田口哲也『メディア学の現在』新訂第2版，世界思想社，2015年
長田攻一, 田所承己『つながるつながらないの社会学』弘文堂，2014年
最初に教科書として挙げたものは必ず購入すること。3-4年生の授業を通じて卒業論文までこれに則っていきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時に提示した情報探索法については，各自復習して，習得に努めること。
また，日常的にメディアに関する新聞記事や雑誌記事などを意識的に読み，メディア自体あるいはそれらを取り巻く環境について自習してほしい。

〔成績評価の方法〕
平常点（含む小レポート）及び期末レポート。
平常点には，出席点が含まれる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日４限～５限（ゼミ終了後）
日本文化学科の事務室あるいはメールにて

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　情報メディア概説
第３週　日常生活で利用しているメディア（文献講読１）
第４週　日常生活で利用しているメディア（文献講読２）
第５週　日常生活で利用しているメディア（文献講読３）
第６週　日常生活で利用しているメディア（文献講読４）
第７週　日常生活で利用しているメディア（文献講読５）
第８週　情報探索法１
第９週　情報探索法２
第10週　発表の手法を学ぶ（プレゼンテーション，図表の扱い）
第11週　文献調査発表１
第12週　文献調査発表２
第13週　文献調査発表３
第14週　文献調査発表４
第15週　まとめ
演習形式ですので，授業には十分な準備時間をかけ積極的に臨んでください。

日本文化演習IIA・IVA

3611010200100

副　題	日本芸術の諸相							担　当　者	尼ヶ﨑　彬　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ART-320-JY ART-458-JY

〔授業の到達目標〕

近代日本の芸術文化に関する研究を通じて，問題の発見，研究の手法，論理的考察，他者に伝えるためのプレゼンテーションや文章の作成などについて，必要な技能を獲得する。

〔授業の内容〕

近代日本の芸術に関し，各自の自由に設定したテーマで研究し，発表する。4年生の場合これは卒論の中間発表を兼ねる。

〔教材〕

授業中指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表週の予習（研究・発表準備）は60時間。復習（研究の反省と内容の再構成）は20時間。それ以外の週は予習不要。復習（他学生の発表内容・方法の点検と批判的考察）に2時間。

〔成績評価の方法〕

レポート（70%），出席（30%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

下記参照

質問がある場合,簡単なことはメールでakira.amagasaki●gakushuin.ac.jp（change ● to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水・木曜の3限に研究室で行う。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　〃
第3週　学生による発表
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IIB・IVB

3611010200200

副　題	卒業論文演習							担　当　者	堀江　秀史　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ART-321-JY ART-459-JY

〔授業の到達目標〕

既存の言説を批判的に摂り込んで自身の糧とし，発展的に出力・展開する力を身につける。
口頭発表のスキルを身につける。
学術論文を執筆するのに必要な作法（形式面含む）を習得する。
学問的対話を通じて，自身の考え（卒業論文）を磨く。

〔授業の内容〕

春学期に続いて，卒業論文提出に向けた準備を行なう。
前半は，春学期のテキストあるいは別途指示する論文の分析を発表してもらう。後半は，その実践編として，自身のテーマについて発表してもらう。
四年生は，自分の（執筆途中の）卒業論文について発表し，寄せられた意見をもとに，内容に磨きをかける。
三年生は，来るべき卒業論文では何が求められるのかを，四年生の姿から学びつつ，自身のテーマを絞って構想発表をする。

〔教材〕

教科書：飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）講談社，1996年
春学期に引き続き使用する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

共通のテキストを使うので，受講者は全員，当該箇所を事前に読んでくること。その他，自分の発表に備えて，各自準備が必要。

〔成績評価の方法〕

授業内で交わされる議論への積極的参加（40%）と，授業期間において課される個別発表（60%）をもって評価を行なう。レポートは原則課さない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜午後。
随時メールによって対応。別途指示。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス。授業方針の確認。個別発表の担当箇所決め。
第２週　論文（入門的書籍）を分析し，関連事項を自ら調べて発表する。個別発表１－１。（演習）
第３週　個別発表１－２
第４週　個別発表１－３
第５週　個別発表１－４
第６週　まとめ（全体討議）
　　卒論相談会
第７週　卒論個別発表１
第８週　卒論個別発表２
第９週　卒論個別発表３
第10週　卒論個別発表４
第11週　卒論個別発表５
第12週　卒論個別発表６
第13週　卒論個別発表７
第14週　卒論個別発表８
第15週　卒論個別発表９／卒論構想発表
受講者の卒業論文執筆の進捗状況によって，やむをえず授業計画を変更することがある。

日本文化演習IIC・IVC

3611010200300

副　題	日本の神話							担　当　者	神田　典城　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	LIT-322-JY LIT-460-JY

〔授業の到達目標〕

日本の神話の意義及び仕組みが分かり，研究上のの問題点が理解できるようになる。

〔授業の内容〕

古事記・日本書紀の二文献は，いずれもこの世の始原から書き起こし，歴代天皇の治世に説き及ぶ。その天皇代に至るまでの部分は，神々による世界の形成が描かれており，これを記紀神話と呼び習わしている。もちろん両書は成立の経過も書物としての性格も異なる。しかし日本書紀には説話のまとまりごとに収録された豊富な異伝があり，これに古事記の記事を合わせ伝承間の相違点を子細に検討するならば，それぞれの神話の形成の跡をたどることもある程度は可能である。そこでこの手法により，各神話の本源の姿を探究すると共に，各々の神話に込められた文化的メッセージに対する理解を深めることを目指す。なお必要に応じ，風土記も参照する。

〔教材〕

教科書：神田典城編『対照神代記紀』笠間書院

参考書については授業時に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの内容をよく理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポート(100%)による

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

古語辞典必携

〔授　業　計　画〕

第１週　概要説明
第２週　発表及び討論
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IID・IVD

3611010200400

副　題	近代日本の歴史と思想							担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	HIS-323-JY HIS-461-JY

〔授業の到達目標〕

近代日本の思想や文化に関わる資料や著作および，それについての研究論文に触れ，歴史的な流れの中で理解することをつうじて，歴史研究の方法的基礎を養うとともに，思想や文化の営みに親しむきっかけをつくる。

〔授業の内容〕

春学期の学習を踏まえて，日本近代史のそれぞれの時期を代表する思想的な文献を講読する。また，都内の関連ある史跡を授業の一環として見学することもある。

〔教材〕

教科書：『昭和思想集1.2』（近代日本思想大系）筑摩書房
参考書：『明治思想集1.23』（近代日本思想大系）筑摩書房，1990年
『大正思想集1.2』（近代日本思想大系）筑摩書房

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の購読史料を事前に予習して理解し，自分の感想やコメントを準備しておくこと。また自分の報告担当の回は，事前に報告の準備を行うこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業参加，課題提出物，期末レポートにより総合的に評価する。出席が全回数の７割に満たない場合は評価対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文献講読
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　３年生・卒論テーマ候補の報告
４年生・卒論最終報告

日本文化演習IIE・IVE

3611010200500

副　題	平安時代の文学（2）									担　当　者	伊藤　守幸　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	LIT-324-JY LIT-462-JY

〔授業の到達目標〕

『源氏物語』の精読を通じて，文学のみならず平安文化全般にわたる多くの知見に接して，日本の古代文化に関する豊かな教養を身につけてもらうことを目指す。

〔授業の内容〕

『源氏物語』を素材として，古典作品の精密で分析的な読解を試みる。テキストとして青表紙本『源氏物語』の影印本を用いることによって，くずし字を読むことにも習熟してもらう。取り上げる巻としては，「若菜上」の巻を予定している。

〔教材〕

教科書：『青表紙本「源氏物語」若菜上』新典社
　　中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『源氏物語』講読の準備と事後の補足的調査。４時間。

〔成績評価の方法〕

出席および演習内容・レポートによって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日の午後１時半～２時半。

〔授　業　計　画〕

第１週　『源氏物語』についての概説
第２週　担当箇所の確定と発表方法に関する説明
第３週　担当者による発表と質疑応答　―『源氏物語』若菜上の講読―
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IIF・IVF

3611010200600

副　題	言語研究の可能性							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	JPL-325-JY JPL-463-JY

〔授業の到達目標〕

さまざまな言語研究について理解し，その中から卒業論文のテーマを決定する

〔授業の内容〕

ひとくちに言語研究といっても，研究対象である言語をどのような視点から，どのような存在としてみるのかによって，さまざまな内容の研究がある。まず，言語研究の分野としてどのようなものがあるのかを知り，次にその中から，自分個人の研究としてどういう分野の言語研究を行っていくのかを決定する必要がある。この演習ではそのために必要な知識や技術の習得をめざす。また，秋学期のはじめに，４年次学生の卒業論文の中間発表を行い，卒業論文執筆の準備を整える。

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが，必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は，準備のための時間が10時間以上必要。

〔成績評価の方法〕

発表担当の際の発表内容，発表方法（80%）討論への参加の積極性（20%）。
また，最低でも開講時数の２／３以上の出席が必要。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
初回の授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　卒業論文執筆の注意事項
第２週　卒業論文中間発表１
第３週　卒業論文中間発表２
第４週　卒業論文中間発表３
第５週　卒業論文中間発表４
第６週　さまざまな言語研究１
第７週　さまざまな言語研究２
第８週　共時態に関する研究
第９週　過去の言語に関する研究
第10週　卒業論文着想発表１
第11週　卒業論文着想発表２
第12週　卒業論文着想発表３
第13週　卒業論文着想発表４
第14週　卒業論文着想発表５
第15週　まとめ

日本文化演習IIG・IVG

3611010200700

副　題	現代社会研究（2）							担　当　者	時安　邦治　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SOC-326-JY SOC-464-JY

〔授業の到達目標〕

論文作成の基本的なルール，技法を学び，必要な研究能力を習得して，卒業論文（４年生)・ミニ卒業論文（３年生）を完成させる。

〔授業の内容〕

初めの数回は論文作成の方法等について学ぶ。その後，学生の個人研究発表を行う。４年生は卒業論文のテーマと方法を確定し，構想（問題意識と問題設定，結論，議論の展開を示す章立てを含む）と経過・進捗状況を報告する。質疑応答と議論を経て，他の出席学生とともに問題の理解を深め，研究方針を修正しつつ，論文の完成を目指す。３年生は学年末レポート（ミニ卒）ならびに次年度の卒業論文に向けた研究テーマを設定し，それに関係する重要な文献や先行研究について報告する。研究のテーマは広い意味での社会学，社会思想，倫理学などに関わるものであることが望ましい。

発表を聞く学生は，積極的に議論し，発表者の研究がよりよいものとなるように協力すること。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表に際しては，さまざまな角度からの質問に答えられるよう，レジュメの作成を含めて十分な準備をしておくこと。また，卒業論文・ミニ卒業論文に向けて課題を適宜出すので，その都度取り組むこと。

〔成績評価の方法〕

成績は学期末のレポート（30%），発表・授業への取り組み（40%），課題（30%）から総合的に評価する。特に議論への参加を重視する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日４限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。
kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　論文の書き方（１）
第３週　論文の書き方（２）
第４週　卒業論文中間発表（１）
第５週　卒業論文中間発表（２）
第６週　卒業論文中間発表（３）
第７週　卒業論文中間発表（４）
第８週　卒業論文中間発表（５）
第９週　卒業論文中間発表（６）
第10週　卒業論文中間発表（１）
第11週　個人研究発表（２）
第12週　個人研究発表（３）
第13週　個人研究発表（４）
第14週　個人研究発表（５）
第15週　個人研究発表（６）
授業計画は変更の可能性がある。

日本文化演習IIH・IVH

3611010200800

副　題	中世文化・民俗文化〔2〕―お伽草子・民間説話・芸能など―	担　当　者	徳田　和夫　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ANT-327-JY ANT-465-JY

〔授業の到達目標〕
1.日本の伝統文化を民俗学と比較文化論から研究する必要性を熟知する。
2.民俗の概念とその分野の多様性の認知，および説話・伝承の多方面からの研究を実践する。
3.文化を，本物・現物に接して理解する。

〔授業の内容〕
春学期の「日本文化演習H：中世文化・民俗文化〔１〕―民間説話・古典説話・芸能など―」を発展させて，おもに絵巻，奈良絵本テキストのお伽草子（＝14～17世紀の短編の物語草子群）作品を取りあげ，さまざまな視点から分析をおこないます。物語を通して精神文化の歴史と発展を把握し，あわせて現代に生きる私たちの文化的使命を考えます。
文学史の観点に加えて，特に口承文芸・民間説話学（昔話・伝説・うわさ話など），民俗学を導入します。
さらに比較説話学（外国の民間説話・宗教説話との対比），物語絵画史（絵巻・奈良絵本・錦絵など），芸能史（古典芸能・民俗芸能）などからアプローチします。

〔教材〕
参考書：徳田和夫『絵語りと物語り』（イメージリーディング叢書）平凡社，1990年
徳田和夫編『世界の文学29・日本１:お伽草子』（週間朝日百科）朝日新聞社，2000年
徳田和夫『お伽草子・伊曽保物語』（新潮日本古典文学アルバム）新潮社，1991年
徳田和夫編『お伽草子事典』東京堂出版，2002年
徳田和夫編『お伽草子 百花繚乱』笠間書院，2008年
徳田和夫監修『図説：日本の昔話』（青春新書インテリジェンス）青春出版社，2014年
徳田和夫『室町の妖怪―説話伝承と図像』せりか書房，2016年
教科書とは別にプリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時に配布・指示した文献を，あらかじめ読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕
総合評価（研究と演習発表40%，質問・発言20%，レポート40%）によっておこないます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業開始時に指示します。

〔備考〕
（１）ゼミ旅行,美術館・博物館・史蹟等の見学，古典芸能の鑑賞，民俗芸能・儀礼のフィールド・ワークを企画実行します（参加を前提とする）。
（２）授業時あるいは別時間に，卒業論文の対象選定，準備についての指導と，その発表の機会を設けます。

〔授　業　計　画〕

第１週　概説（１）
第２週　概説（２）
第３週　演習発表と討議
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめと解説

日本文化演習II I ・IV I

3611010200900

副　題	日本の染織と服飾文化の諸相（2）							担　当　者	福島　雅子　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ART-328-JY ART-466-JY

〔授業の到達目標〕

研究に必要な方法論の基礎を学び，資料の収集や検討方法および現存作例の分析方法，研究成果のプレゼンテーションの方法を習得する。研究成果を卒業論文の執筆へと結び付けることを目指す。

〔授業の内容〕

日本の染織と服飾文化に関して，各自がテーマを設定して研究を進め，研究成果を発表する。各自の研究成果について全員で討論を行い，研究をより深めることを目指す。

〔教材〕

授業の中で指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表課題に関する資料を各自で収集し，また指定した文献を読み，発表の準備を進めること。

〔成績評価の方法〕

発表（70%）と討論への参加（30%）から総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜 4 限，金曜 4 限。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　学生による発表と討論
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習II J・IV J

3611010201000

副　題	日本近世の政治・社会・文化（2）							担　当　者	岩淵　令治　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	5	コース・ナンバー	HIS-329-JY HIS-467-JY

〔授業の到達目標〕

日本近世史研究の方法に基づき，最終的に卒業論文を提出することを目的とする。

〔授業の内容〕

日本近世の政治・社会・文化に関する文献史学の研究は，近世史料と，先行研究論文の読解にもとづいている。秋学期は，江戸時代に関する研究論文の輪読を通して意味解釈や課題の発見する方法を学ぶ。参加者は，担当論文について報告する。テキストについては，参加者の関心も聞いたうえで，決定したい。なお，３年生は将来の卒業論文に向けたレポートを提出してもらう。

〔教材〕

テキストはコピーを配布する。また，授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，自身のみならず他の報告者の史料についても，読み・意味を予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

報告(40%)，レポート(30%)，出席状況(30%)により評価する。報告者ではない回でも，積極的に議論に参加することを期待する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

研究に関する質問・相談は金曜日の13：30～14：30に受け付ける。

〔備考〕

初回の授業に出席すること。また，就職活動と重ならない限り，毎週出席すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業のガイダイス（各自の現状の関心を披露）
第２週　テキストの相談等
第３週　研究論文の輪読（４年生）
第４週　〃
第５週　研究論文の輪読（３年生）
第６週　〃
第７週　卒業論文最終報告（４年生）
第８週　〃
第９週　研究論文の輪読（３年生）
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　卒業論文概要報告（４年生）
第15週　〃
参加人数によって，計画に変更がありうる。テキストは，各人の関心を聞いた上で検討する。また，１，２回，都内の博物館・資料館・史跡見学を行う。

日本文化演習IIK・IVK

3611010201100

副　題	食品研究２							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	２	配当年次	３ ４	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	３	コース・ナンバー	LIF-330-JY LIF-468-JY

〔授業の到達目標〕

食品の研究を自ら進め，論文にまとめる能力をつける。

〔授業の内容〕

日本の伝統食品，現代の加工食品，各種食品原料，食品製造・加工技術，各種調理品，食生活・食形態などを対象に設定した各自の研究テーマと策定した研究計画に基づき，資料調査や実地調査，実験等を通じて，検証，解析を行っていく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

発表および提出物等（約80%），授業への参加状況（約20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業等について質問がある場合は，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　テーマごとの調査・研究とその指導
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本文化演習ⅡL・ⅣL

3611010201200

副　題	スポーツ文化の諸相							担　当　者	荒井　啓子　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	SPO-331-JY SPO-469-JY

〔授業の到達目標〕

スポーツ現象の中に凝縮・刻印されている文化や社会を，主にスポーツ人類学やスポーツ文化論の視点から理解を深め，スポーツ文化研究の内容や方法を習得していく。資料の読解・問題の発見・論理的思考の能力を養いつつ，卒業論文作成に向けて独自の研究課題を見出していく。

〔授業の内容〕

日本及び諸外国の，過去及び現在の社会における「スポーツ現象」を，社会的・文化的・歴史的側面から考察を行う。「スポーツとはどのような文化なのか」「他の文化とどのような関わりがあるのか」という問題を常に考えながら，スポーツの窓から社会や人間を眺め，同時に，社会の動きからスポーツという文化を読み解いていく。

「スポーツ」とは，近代スポーツばかりではなく，日本の伝統スポーツ・世界のエスニックスポーツ・遊び・身体技法等を含むが，そのようなスポーツ文化そのものについての研究だけでなく，その周辺領域（社会，ジェンダー，メディア，民族，環境，教育，健康，異文化等）との関わりに目を向けながら学際的に考察を進める。アプローチにあたっては,前半は,スポーツ文化論・スポーツ人類学・スポーツ史学等に関する文献を用い，分担したテーマについて発表を行う。後半は，各自が自由な発想と関心によってテーマを選び，発表・討議を行い，研究方法を含めてスポーツ文化研究についての認識をより深めて卒業論文に繋げていく。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究テーマに関する内容をより深く理解し問題点を発見していくための資料や参考文献を常に模索し読み込んでいく。その上で，独自性のある研究に発展させていくことを考える。研究発表では，その内容をレジュメとして用意し，授業時における質疑応答の準備とする。

〔成績評価の方法〕

出席状況（40%）発表（30%），レポート（30%）によって総合的に評価する。
（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目，火曜日４時間目

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：スポーツの概念
第２週　スポーツ文化研究の方法：スポーツの読み解き
第３週　〃
第４週　学生の発表ならびに討議
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

日本文化演習IIM・IVM

3611010201300

副　題	インターネットコミュニケーション							担　当　者	清水　將吾　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-332-JY INF-470-JY

〔授業の到達目標〕

インターネットコミュニケーションに関連した領域で，（1）　自らテーマを設定し，必要な情報を収集・分析する能力，（2）　自身の主張の正当性を論理的に説明できる能力を身に付ける．

〔授業の内容〕

インターネット上のコミュニケーションはソーシャルネットワークサービスやスマートフォンの普及に伴って，日常的な情報伝達手段に変化している．本授業では，この分野の諸問題について考察し，問題の調査分析を行うことを主な目的とする．秋学期は学生による調査発表によって進め，自ら問題分析を行い，他者に説明・提案する能力を高めることに重点を置く．

〔教材〕

参考書：増田 直紀（監修，翻訳），高口 太朗（翻訳）『ネットワーク科学』丸善出版，2014年
その他の参考文献は授業中に適宜紹介する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表のための準備作業（文献調査，資料作成など）はすべて準備学習に割り当てる．

〔成績評価の方法〕

担当部分の発表40%と授業への参加状況60%の計100%によって評価する．発表では担当部分の理解度と説明の明快さについて問う．授業参加の必要条件として，他の学生の発表に対して発言を行うことを求める．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
shogo.shimizu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　学生発表
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
原則として，各回学生発表である．関連する領域の範囲内で，調査テーマを変更することがある．

日本文化演習IIN・IVN

3611010201400

副　題	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育） 2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-333-JY LIF-471-JY

〔授業の到達目標〕
1．体験学習法と教えない教育について十分に認識し，それらを実践するファシリテーション能力がある。
2．問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3．独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4．体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5．実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕
1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え，食物の役割を探究し，人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて，歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し，食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ，おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材，食品，料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2．環境教育・科学教育と体験学習（環境コミュニケーションと科学コミュニケーション）：小学校の自然体験や理科の単元をアメリカで生まれたGEMS，MARE，FOSS,PWやPWETなどの教材の指導体験を通し，教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え，改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕
ゼミ希望学生は，２年時に実施される味わい教育インストラクターの講習会に必ず参加すること。講習会で使用するテキストと卒論テーマは密接に関連している。また，講習会はできるだけ複数回参加すること。ゼミの選択が決定した２年生は３月に実施されるゼミ事前講習会に必ず参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
研究テーマに対応した文献の遡及調査を実施することが必須である。また，選択した分野の学会を探すことも必要である。演習の時間だけではファシリテーションの実践や味わい教育を実践する時間は取れないことから，事前の準備や振り返りの時間が４時間程度必要である。

〔成績評価の方法〕
1．ゼミではプログラム実践を通した経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため，出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。（40%）
2．積極的課外授業への参加を通し，アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し，論理的に自らのアクティビティを評価することができる。（40%）
3．積極的な文献収集とその読解を通し，適切な報告書を作成することができる。（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業に関する質問はakira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日５限目（16：40-17：50）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕
金曜日午後に課外活動を実施することがある。午後の時間割には演習のみを割り当てることが望ましい。味わい教育インストラクター養成講習会にできるだけ参加すること。可能な時期（夏季休業中など）にゼミ旅行を実施する（２泊から３泊：場所は青森，大分を予定）。また，フードコンシャスネス教育班の学生は，ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　フードコンシャスネス教育，環境コミュニケーション，科学コミュニケーションとは何か？
　　卒論作成指導，文献検索方法，ラーニングサイクル，振り返り方法について
第２週　文献調査法　卒業論文の仮テーマの作成など
第３週　ファシリテーション体験１（ファシリテーションとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査１
第４週　ファシリテーション体験２（ラーニングサイクルとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査２
第５週　ファシリテーション体験３（振り返りとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査３
第６週　アンケート作成とその評価方法
第７週　感覚・味覚教育プログラム，環境教育プログラム，科学教育プログラムの体験
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　環境教育プログラム，食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
グループでのテーマに対応し，協調関係を構築する必要がある。

日本文化演習IIO・IVO

3611010201500

副　題	言語学・日本語教育II							担　当　者	秋山　智美　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	JPL-334-JY JPL-472-JY

〔授業の到達目標〕

3年生においては，言語学研究の基礎分野を広く理解し，研究の所在やアプローチする方法について学ぶことを目的とする。

4年生においては，卒業論文作成に向けての具体的な計画を立てて，実践的な調査研究を始める。

〔授業の内容〕

現代の日本語分野において対照言語学研究，社会言語学研究の諸問題を含めて幅広く諸領域（文法論，意味論，語彙論，語用論，文章・談話論，待遇表現，方言，日本語教育など）の研究を進める。

〔教材〕

授業時にプリントを配布します。その他，参考書については適宜，授業内で指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業の予習として授業時に配布された資料を2時間程度かけて通読すること。
毎回，授業の復習として授業時に配布された資料を2時間程度かけて通読すること。

〔成績評価の方法〕

課題レポート（50%），授業への参加態度・発表（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール（aki1●amber.plala.or.jp)（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　4年生による卒業論文発表（1）
第2週　4年生による卒業論文発表（2）
第3週　4年生による卒業論文発表（3）
第4週　4年生による卒業論文発表（4）
第5週　4年生による卒業論文発表（5）
第6週　4年生による卒業論文発表（6）
第7週　4年生による卒業論文発表（7）
第8週　4年生による卒業論文発表（8）
第9週　3年生による中間論文に向けた発表（1）
第10週　3年生による中間論文に向けた発表（2）
第11週　3年生による中間論文に向けた発表（3）
第12週　3年生による中間論文に向けた発表（4）
第13週　3年生による中間論文に向けた発表（5）
第14週　3年生による中間論文に向けた発表（6）
第15週　3年生による中間論文に向けた発表（7）
授業計画は，進行状況により変更する場合もある。

日本文化演習IIP・IVP

3611010201600

副　題	アートによる地域活性化の調査、研究							担　当　者	清水　敏男　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ART-335-JY ART-473-JY

〔授業の到達目標〕

アートマネジメントならびに現代美術に関する調査能力を養い必要な知識を身につける。
文化や社会の一般的状況を理解できる総合力を養う。
現代美術，デザインに関する基礎的な知識を身につける

〔授業の内容〕

３年生は春学期から継続している共同研究を深化すると同時に卒業論文の準備を行う。
４年生は卒業論文を完成する。
卒業論文:1945年以降の現在の，日本の視覚芸術（絵画，彫刻，写真），デザイン（グラフィック，プロダクツ，建築）の分野を対象とし，自分自身の問題意識を明確にし，自分のテーマを選定する。対象についての調査研究，文献調査，関係者へのインタビュー，実地調査など多角的に研究する。独自の視点でテーマを扱う能力を重視する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

現代美術の展覧会，アートプロジェクトを調査すること。アートプロジェクトにボランティアとして参加することを推奨する。

〔成績評価の方法〕

１）出席日数，２）発表，３）期末レポート（発表内容を2000字で記述する），４）展覧会レポート（３年生のみ，1000字×10本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日12時半から１時，午後２時半から３時

〔備考〕

現代美術のみならず，近代以前の美術も積極的に見，自分でレポートを作成すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　４年生卒業論文発表１
第３週　４年生卒業論文発表２
第４週　４年生卒業論文発表３
第５週　共同研究発表１
第６週　共同研究発表２
第７週　共同研究発表３
第８週　共同研究発表４
第９週　３年生卒論発表１
第10週　３年生卒論発表２
第11週　３年生卒論発表３
第12週　３年生卒論発表４
第13週　４年生卒業論文発表
第14週　〃
第15週　総評

日本文化演習IIQ・IVQ

3611010201700

副　題	コンピュータによる作品制作							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-336-JY INF-474-JY

〔授業の到達目標〕

卒業研究を念頭に置いて，最後まで作品を仕上げる能力を習得し，計画した作品を完成させる経験を積むことを目標とします。

〔授業の内容〕

この演習を簡単に表現すると「何か作ろう。」ということになります。ただし，「何か」というのは，映像･音楽･アニメ等のコンピュータを利用して作れるもの，プログラム等のコンピュータに関連したものに限られます。また，設備等の問題から納得のいくものが作れない場合があるので，不安な学生は，事前に担当者に問い合わせてください。

春学期の演習を発展させ，各自（または各グループ）で，制作（製作）目標・計画を立てます。審査後，作成に取り掛かります。

〔教材〕

個人またはグループごとに異なる教科書を使います。詳細は，最初の授業時に示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

個人またはグループ毎に計画を立案し，課題制作を進める。準備学習として計画立案に20時間，課題制作のために40時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

作品製作（制作）に必要な知識・技術力の習得度50%，作品の内容および完成度50%で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　製作作品のテーマの決定
第２週　製作活動１（製作計画について個人・グループごとに審査）
第３週　製作活動２
第４週　製作活動３
第５週　中間報告１（進行状況の確認）
第６週　製作活動４
第７週　製作活動５
第８週　製作活動６
第９週　中間報告２（完成に向けて，進行状況の確認）
第10週　製作活動７
第11週　製作活動８
第12週　発表準備
第13週　発表および演習メンバによる審査
第14週　〃
第15週　〃

日本文化演習IIS・IVS

3611010201900

副　題	接触した情報が日常生活に与える影響							担　当　者	越塚　美加　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	INF-338-JY INF-476-JY

〔授業の到達目標〕

春学期に勉強したことを踏まえ，議論に挙がっている事象を批判的に分析し，他者の意見を考慮しながらさらに自分の意見を提示する手法を学ぶ。また，グループワークを通じて，一つの見方に取りまとめていく手法を学ぶ。

〔授業の内容〕

3年生は，全員が関心のある情報メディア関連のテーマを決めて文献調査あるいは小規模の社会調査を行い，その結果を分析して，まとめ，報告するまでの一連の作業を行う。春学期の学習成果を活かし，文献調査等，最初から自分たちで分担して調査を進めていく。その途上で，KJ法等のグループ内でアイディアをまとめ上げていく手法等を学習する。これまでの例としては「電子書籍の現状及び将来」「インターネット上の広告」というテーマのもと，二つのグループに分かれて文献調査および議論に基づいて現状及び将来の可能性について議論した。

4年生は，卒業論文の進捗状況について，報告を求める。

〔教材〕

参考書：橋元良明『メディアと日本人：　変わりゆく日常』（岩波新書）岩波書店，2011年

3年生が調査の対象とするメディアやその扱いについては，話し合いの結果，最終決定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

3年生のグループワークについては，授業時間内では時間が足りないので，文献調査に始まり，結果のまとめ提示法について授業時間外に各グループごとに準備すること。4年生は卒論の進捗状況だけではなく，必要な文献を読んだ結果についての報告も求める。その準備を授業時間外にきちんと行うこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%）及びレポート（50%）

グループワークを含むので，出席を重視する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日4限，5限（ゼミ終了後）

日本文化学科事務室を通じて，あるいは，電子メール

〔授　業　計　画〕

第1週　調査対象の選定
第2週　先行研究の検討
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　調査の計画立案
第7週　〃
第8週　調査の実施
第9週　〃
第10週　調査結果の分析
第11週　〃
第12週　〃
第13週　学生の発表と議論
第14週　〃
第15週　まとめ

3年生は，グループによる分担作業を中心として，授業時間外の作業が多く想定されるので，きちんと準備をして臨むこと。やむを得ず欠席する場合には，事前にきちんと連絡すること。

卒業研究（春）

3611091100200

副　題									担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	JPN-401-JZ

〔授業の到達目標〕

卒業研究を完成させる。

〔授業の内容〕

各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。

〔成績評価の方法〕

主査，副査各１名によって，提出された卒業研究の成果および口述試験の結果が総合的に評価される。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認すること。

〔授　業　計　画〕

第１回　各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。
各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認するとともに，日程の詳細については，ガイダンスや掲示で必ず確認すること。

卒業研究（秋）

3611091100100

副　題								担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	JPN-402-JZ

〔授業の到達目標〕

卒業研究を完成させる。

〔授業の内容〕

各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。

〔成績評価の方法〕

主査，副査各１名によって，提出された卒業研究の成果および口述試験の結果が総合的に評価される。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認すること。

〔授　業　計　画〕

第１回　各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。
各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認するとともに，日程の詳細については，ガイダンスや掲示で必ず確認すること。

卒業論文（春）

3611091200200

副　題								担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	JPN-403-JZ

〔授業の到達目標〕

卒業論文を完成させる。

〔授業の内容〕

各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。

〔成績評価の方法〕

主査，副査各１名によって，提出された卒業論文の成果および口述試験の結果が総合的に評価される。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認すること。

〔授　業　計　画〕

第１回　各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。
各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認するとともに，日程の詳細については，ガイダンスや掲示で必ず確認すること。

卒業論文（秋）

3611091200100

副　題								担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	JPN-404-JZ

〔授業の到達目標〕

卒業論文を完成させる。

〔授業の内容〕

各自が受講している日本文化演習（ゼミ）の担当教員から指導を受けること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各自所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。

〔成績評価の方法〕

主査，副査各１名によって，提出された卒業論文の成果および口述試験の結果が総合的に評価される。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認すること。

〔授　業　計　画〕

第１回　各自が受講している日本文化演習の担当教員によって各授業計画が実施される。
各自が受講している日本文化演習の担当教員に確認するとともに，日程の詳細については，ガイダンスや掲示で必ず確認すること。

国際コミュニケーション学科

平成 28 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

国際コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション基礎演習科目群	国際コミュニケーション基礎演習ⅠA	文化財とは何か	MSE-101-IX	1	春		2	M．ウーゴ	189
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠB			1	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠC	International Business (This seminar will be conducted in English)	MAN-103-IX	1	春		2	金城　亜紀	190
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠD	中・東欧研究の可能性	ARE-104-IX	1	春		2	中島　崇文	191
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠE	国際政治とグローバリゼーション	POL-105-IX	1	春		2	畠山　圭一	192
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠF	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	ENG-106-IX	1	春		2	J．F．モア	193
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-107-IX	1	春		2	荘林幹太郎	194
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠH	マイノリティの歴史と現在	SOC-108-IX	1	春		2	武井　彩佳	195
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠI	歴史社会学および東アジア地域研究	HIS-109-IX	1	春		2	金野　　純	196
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠJ			1	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠK	東アジアにおける人の移動と文化交流	ARE-111-IX	1	春		2	羅　　京洙	197
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠL	ルネサンスの女性―近代のヨーロッパを考える	GEN-112-IX	1	春		2	根占　献一	198
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠM	現代社会の法的分析（国際法と国内法）	LAW-113-IX	1	春		2	櫻井　大三	199
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠN	アジア太平洋地域研究の方法	ARE-114-IX	1	春		2	乾　　尚彦	200
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠO	イギリス文化展望	ENG-115-IX	1	春		2	古庄　　信	201
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠP	世界のことばと社会	HIS-116-IX	1	春		2	工藤　晶人	202
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠQ	国際協力	INR-117-IX	1	春		2	伊藤由紀子	203
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠR	コミュニケーションを考える	PSY-118-IX	1	春		2	逢坂　　巌	204
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠS			1	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠT	外国為替の基礎	ECO-120-IX	1	春		2	佐久間　潮	205
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠU	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-121-IX	1	春		2	品川　　明	206
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠV			1	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠW			1	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅠX	ウェブ上の情報システム	INF-124-IX	1	春		2	江藤　正己	207
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡA	世界遺産という企画	MSE-125-IX	1		秋	2	M．ウーゴ	208
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡB			1	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡC	International Business (This seminar will be conducted in English)	MAN-127-IX	1		秋	2	金城　亜紀	209
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡD	ヨーロッパ近現代史の諸問題	ARE-128-IX	1		秋	2	鈴木　珠美	210
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡE	文明の衝突か共生か	POL-129-IX	1		秋	2	畠山　圭一	211
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡF	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	ENG-130-IX	1		秋	2	J．F．モア	212
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-131-IX	1		秋	2	荘林幹太郎	213
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡH	マイノリティの歴史と現在	SOC-132-IX	1		秋	2	武井　彩佳	214
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡI	歴史社会学および東アジア地域研究	HIS-133-IX	1		秋	2	金野　　純	215
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡJ			1	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡK	東アジアにおける人の移動と文化交流	ARE-135-IX	1		秋	2	羅　　京洙	216
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡL	ヴェネツィア共和国とコルテジアーナ―ヨーロッパ女性史	GEN-136-IX	1		秋	2	根占　献一	217
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡM	現代社会の法的分析（国際法と国内法）	LAW-137-IX	1		秋	2	櫻井　大三	218

国際コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション基礎演習科目群	国際コミュニケーション基礎演習ⅡN	世界の住まい	ARE-138-IX	1		秋	2	乾　尚彦	219
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡO	イギリス文化展望	ENG-139-IX	1		秋	2	古庄　信	220
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡP	世界のことばと社会	HIS-140-IX	1		秋	2	工藤　晶人	221
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡQ	国際協力	INR-141-IX	1		秋	2	伊藤由紀子	222
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡR	コミュニケーションを考える	PSY-142-IX	1		秋	2	逢坂　巌	223
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡS			1	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡT	経済記事の読み方	ECO-144-IX	1		秋	2	佐久間　潮	224
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡU	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-145-IX	1		秋	2	品川　明	225
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡV			1	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡW			1	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅡX	ウェブ上の情報システム	INF-148-IX	1		秋	2	江藤　正己	226
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢA	文化財とは何か	MSE-249-IX	2	春		2	M．ウーゴ	189
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢB			2	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢC	International Business　(This seminar will be conducted in English)	MAN-251-IX	2	春		2	金城　亜紀	190
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢD	中・東欧研究の可能性	ARE-252-IX	2	春		2	中島　崇文	191
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢE	国際政治とグローバリゼーション	POL-253-IX	2	春		2	畠山　圭一	192
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢF	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	ENG-254-IX	2	春		2	J．F．モア	193
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-255-IX	2	春		2	荘林幹太郎	194
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢH	マイノリティの歴史と現在	SOC-256-IX	2	春		2	武井　彩佳	195
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢI	歴史社会学および東アジア地域研究	HIS-257-IX	2	春		2	金野　純	196
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢJ			2	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢK	東アジアにおける人の移動と文化交流	ARE-259-IX	2	春		2	羅　京洙	197
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢL	ルネサンスの女性―近代のヨーロッパを考える	GEN-260-IX	2	春		2	根占　献一	198
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢM	現代社会の法的分析（国際法と国内法）	LAW-261-IX	2	春		2	櫻井　大三	199
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢN	アジア太平洋地域研究の方法	ARE-262-IX	2	春		2	乾　尚彦	200
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢO	イギリス文化展望	ENG-263-IX	2	春		2	古庄　信	201
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢP	世界のことばと社会	HIS-264-IX	2	春		2	工藤　晶人	202
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢQ	国際協力	INR-265-IX	2	春		2	伊藤由紀子	203
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢR	コミュニケーションを考える	PSY-266-IX	2	春		2	逢坂　巌	204
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢS			2	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢT	外国為替の基礎	ECO-268-IX	2	春		2	佐久間　潮	205
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢU	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-269-IX	2	春		2	品川　明	206
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢV			2	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢW			2	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅢX	ウェブ上の情報システム	INF-272-IX	2	春		2	江藤　正己	207
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣA	世界遺産という企画	MSE-273-IX	2		秋	2	M．ウーゴ	208
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣB			2	－	－	2	－	－

国際コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション基礎演習科目群	国際コミュニケーション基礎演習ⅣC	International Business (This seminar will be conducted in English)	MAN-275-IX	2		秋	2	金城　亜紀	209
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣD	ヨーロッパ近現代史の諸問題	ARE-276-IX	2		秋	2	鈴木　珠美	210
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣE	文明の衝突か共生か	POL-277-IX	2		秋	2	畠山　圭一	211
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣF	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	ENG-278-IX	2		秋	2	Ｊ．Ｆ．モア	212
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-279-IX	2		秋	2	荘林幹太郎	213
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣH	マイノリティの歴史と現在	SOC-280-IX	2		秋	2	武井　彩佳	214
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣI	歴史社会学および東アジア地域研究	HIS-281-IX	2		秋	2	金野　　純	215
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣJ			2	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣK	東アジアにおける人の移動と文化交流	ARE-283-IX	2		秋	2	羅　　京洙	216
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣL	ヴェネツィア共和国とコルテジアーナ―ヨーロッパ女性史	GEN-284-IX	2		秋	2	根占　献一	217
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣM	現代社会の法的分析（国際法と国内法）	LAW-285-IX	2		秋	2	櫻井　大三	218
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣN	世界の住まい	ARE-286-IX	2		秋	2	乾　　尚彦	219
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣO	イギリス文化展望	ENG-287-IX	2		秋	2	古庄　　信	220
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣP	世界のことばと社会	HIS-288-IX	2		秋	2	工藤　晶人	221
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣQ	国際協力	INR-289-IX	2		秋	2	伊藤由紀子	222
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣR	コミュニケーションを考える	SOC-290-IX	2		秋	2	逢坂　　巌	223
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣS			2	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣT	経済記事の読み方	ECO-292-IX	2		秋	2	佐久間　潮	224
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣU	体験学習と人間関係コミュニケーション	LIF-293-IX	2		秋	2	品川　　明	225
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣV			2	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣW			2	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション基礎演習ⅣX	ウェブ上の情報システム	INF-296-IX	2		秋	2	江藤　正己	226
国際関係基礎科目群	経営学Ⅰ	経営学の基礎を学び、キャリアについて考える	MAN-101-IA	1～		秋	2	金城　亜紀	227
	※マーケティングⅠ	消費財マーケティングの基礎理論	MAN-202-IA	2～	春		2	田島　博和	228
	地域研究基礎論Ⅰ（第三世界）	中・東欧研究概論（1）	ARE-103-IA	1～	春		2	中島　崇文	229
	地域研究基礎論Ⅱ（第三世界）	中・東欧研究概論（2）	ARE-104-IA	1～		秋	2	石田　信一	230
	国際関係基礎論Ⅰ	国際安全保障学の基礎	INR-105-IA	1～	春		2	畠山　圭一	231
	国際関係基礎論Ⅱ	国際政治経済の基本的枠組み	INR-106-IA	1～		秋	2	荘林幹太郎	232
	環境科学Ⅰ	環境問題を理解するための自然・社会科学の基礎	ENV-107-IA	1～	春		2	荘林幹太郎	233
	環境科学Ⅱ	環境政策概論	ENV-108-IA	1～		秋	2	加藤　弘二	234
	マスコミュニケーション論Ⅰ（概論）	メディアと社会	SOC-109-IA	1～	春		2	蔡　　星慧	235
地域文化系基礎科目群	言語学Ⅰ	記号のシステム・音と語の仕組み・対照言語学	LIN-101-IB	1～	春		2	佐藤　直人	236
	言語学Ⅱ	統語論・意味論・語用論と言語学史	LIN-102-IB	1～		秋	2	佐藤　直人	237
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	LIN-103-IB	1～	春		2	福島　直恭	238
	社会言語学Ⅱ	近代日本の言語政策	LIN-104-IB	1～		秋	2	福島　直恭	239
	文化人類学Ⅰ	文化人類学の基礎概念	ANT-105-IB	1～	春		2	齋藤　亜子	240
	文化人類学Ⅱ	現代における民族：文化人類学とフィールドワーク	ANT-106-IB	1～		秋	2	齋藤　亜子	241

国際コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
地域文化系基礎科目群	北米文化論	北米地域の地理・風土と政治・文化	ARE-107-IB	1～		秋	2	畠山　圭一	242
	ヨーロッパ文化論	近代ヨーロッパの宗教・思想・文化	PHL-108-IB	1～		秋	2	根占　献一	243
	アジア文化論	アジアにおける戦争、革命、社会変容	ARE-109-IB	1～	春		2	金野　　純	244
	イスラム文化論Ⅰ	イスラムの基礎知識	ARE-110-IB	1～	春		2	小野　仁美	245
	言語地理学	スラヴの言語と文化	GEO-111-IB	1～		秋	2	坂倉　千鶴	246
	比較神話論		ANT-112-IB	1～	春		2	東　由美子	247
	比較道具論	生活を支える道具から生活文化を考察する	LIF-113-IB	1～	春		2	真島　麗子	248
	比較居住文化論	モンゴロイドアジア大陸部を中心として	LIF-114-IB	1～	春		2	乾　　尚彦	249
英語演習基礎科目群	英語演習ⅠA	Language and Culture in Our World	ENG-201-IV	2	春		2	川口エレン	250
	英語演習ⅠB	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	ENG-202-IV	2	春		2	大野　純子	251
	英語演習ⅠC	時事英語のリスニング	ENG-203-IV	2	春		2	渡辺　幸俊	252
	英語演習ⅠD	アイルランドの文化に触れる	ENG-204-IV	2	春		2	小村　志保	253
	英語演習ⅠE	A Taste of English	ENG-205-IV	2	春		2	谷口めぐみ	254
	英語演習ⅠF	Language Change	ENG-206-IV	2	春		2	川口エレン	255
	英語演習ⅠG	Reading for better communication	ENG-207-IV	2	春		2	清水　英之	256
	英語演習ⅠH	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	ENG-208-IV	2	春		2	大野　純子	257
	英語演習ⅠI	English Pronunciation Practice through Shakespeare Songs	ENG-209-IV	2	春		2	清水　英之	258
	英語演習ⅠJ	Reciting English poems	ENG-210-IV	2	春		2	清水　英之	259
	英語演習ⅠK	TOEIC対策	ENG-211-IV	2	春		2	山口志のぶ	260
	英語演習ⅠL	TOEIC対策	ENG-212-IV	2	春		2	山口志のぶ	261
	英語演習ⅡA	Language and Culture in Our World	ENG-213-IV	2		秋	2	川口エレン	262
	英語演習ⅡB	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう！	ENG-214-IV	2		秋	2	大野　純子	263
	英語演習ⅡC	時事英語のリスニング	ENG-215-IV	2		秋	2	渡辺　幸俊	264
	英語演習ⅡD	アイルランドの歴史に触れる	ENG-216-IV	2		秋	2	小村　志保	265
	英語演習ⅡE	A Flavor of English	ENG-217-IV	2		秋	2	谷口めぐみ	266
	英語演習ⅡF	Language Change	ENG-218-IV	2		秋	2	川口エレン	267
	英語演習ⅡG	Reading for better communication	ENG-219-IV	2		秋	2	清水　英之	268
	英語演習ⅡH	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう！	ENG-220-IV	2		秋	2	大野　純子	269
	英語演習ⅡI	English Pronunciation Practice through Shakespeare Works	ENG-221-IV	2		秋	2	清水　英之	270
	英語演習ⅡJ	English Pronunciation Practice through English Popular Songs	ENG-222-IV	2		秋	2	清水　英之	271
	英語演習ⅡK	TOEIC対策	ENG-223-IV	2		秋	2	山口志のぶ	272
	英語演習ⅡL	TOEIC対策	ENG-224-IV	2		秋	2	山口志のぶ	273
国際関係専門科目群	国際コミュニケーション論	歴史を動かす国際報道	ICM-201-IC	2～		秋	2	明石　和康	274
	国際関係論Ⅰ（国際関係史）	複数の国際社会	INR-202-IC	2～	春		2	工藤　晶人	275
	国際関係論Ⅱ（日欧関係）	日欧関係にみる近世と近代	INR-203-IC	2～		秋	2	工藤　晶人	276
	国際関係論Ⅲ（日米関係）		INR-204-IC	2～	春		2	畠山・齋藤	277
	※国際関係論Ⅳ（将来展望）	21世紀の国際関係	INR-205-IC	2～		秋	2	畠山　圭一	278

国際コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際関係専門科目群	国際法Ⅰ	分権社会の法	LAW-206-IC	2～	春		2	櫻井　大三	279
	国際法Ⅱ	国家と国際法	LAW-207-IC	2～		秋	2	櫻井　大三	280
	ボランティア論Ⅰ	ボランティアとは？ 国際協力ＮＧＯの活動を通し学ぶ	VOL-208-IC	2～	春		2	野口　朝夫	281
	ボランティア論Ⅱ	NPOとわたしたち	VOL-209-IC	2～		秋	2	伊藤由紀子	282
	国際機構論Ⅰ	国際機構の設立と構造	INR-310-IC	3～	春		2	小中さつき	283
	国際機構論Ⅱ	様々な分野における国際機構の活動	INR-311-IC	3～		秋	2	小中さつき	284
	国際開発論Ⅰ	国際開発援助	INR-212-IC	2～	春		2	伊藤由紀子	285
	国際開発論Ⅱ		INR-213-IC	2～		秋	2	眞嶋　麻子	286
	経営学Ⅱ	経営学の基礎を、「会社」を題材に、体系的かつ実践的に学ぶ	MAN-214-IC	2～	春		2	金城　亜紀	287
	※マーケティングⅡ	東南アジアでのマーケティング	MAN-215-IC	2～		秋	2	田島　博和	288
	金融論	金融の基本を学ぶ	ECO-216-IC	2～		秋	2	佐久間　潮	289
	国際経済Ⅰ	貿易と外国為替の基礎	ECO-217-IC	2～	春		2	佐久間　潮	290
	国際経済Ⅱ		ECO-218-IC	2～		秋	2	渡邉　　淳	291
	マスコミュニケーション論Ⅱ（理論）	メディアとコミュニケーション、メディアと文化	SOC-219-IC	2～		秋	2	蔡　　星慧	292
	マスコミュニケーション論Ⅲ（広告・ＰＲ）	広告やPRの役割を理解する	SOC-220-IC	2～	春		2	中馬　　淳	293
	☆比較教育学			3～	－	－	2	－	－
	比較政治学Ⅰ	比較政治：日本と中国	POL-222-IC	2～	春		2	杉原　志啓	294
	比較政治学Ⅱ	日中対立とアメリカ政治	POL-223-IC	2～		秋	2	杉原　志啓	295
	国際政治Ⅰ（歴史と現状）	国際政治の歴史と現状	POL-224-IC	2～	春		2	畠山　圭一	296
	国際政治Ⅱ（日本の使命）	近代日本政治外交史	POL-225-IC	2～		秋	2	齋藤　洋子	297
	国際政治Ⅲ（構造変化）	国際関係の構造変化と21世紀の課題	POL-326-IC	3～	春		2	加藤　　朗	298
	国際政治Ⅳ（国際戦略）	国際戦略の理論と政策	POL-327-IC	3～		秋	2	加藤　　朗	299
	ヨーロッパ政治史Ⅰ	ホロコースト研究	HIS-328-IC	3～	春		2	武井　彩佳	300
	ヨーロッパ政治史Ⅱ	強制移住とジェノサイド	HIS-329-IC	3～		秋	2	武井　彩佳	301
地域文化系専門科目群	アメリカ文化論Ⅰ	米大統領とアメリカの政治・社会	POL-201-ID	2～	春		2	石澤　靖治	302
	アメリカ文化論Ⅱ		POL-202-ID	2～		秋	2	前嶋　和弘	303
	イスラム文化論Ⅱ	イスラムと社会生活	ARE-203-ID	2～		秋	2	小野　仁美	304
	☆イギリス文化論Ⅰ			2～	－	－	2	－	－
	☆イギリス文化論Ⅱ	英国文化展望：中世から現代へ	ARE-205-ID	2～	春		2	古庄　　信	305
	フランス文化論Ⅰ	フランスの歴史と文化	ARE-206-ID	2～	春		2	工藤　晶人	306
	フランス文化論Ⅱ	フランスの歴史と文化	ARE-207-ID	2～		秋	2	工藤　晶人	307
	ドイツ文化論Ⅰ	「ドイツ的」とは何か	ARE-208-ID	2～	春		2	武井　彩佳	308
	ドイツ文化論Ⅱ	戦後ドイツ社会	ARE-209-ID	2～		秋	2	武井　彩佳	309
	イタリア文化論Ⅰ	都市文化としてのイタリア文化とその歴史	ARE-210-ID	2～	春		2	根占　献一	310
	イタリア文化論Ⅱ	文学と絵画に描かれる18世紀のヴェネツィア	LIT-211-ID	2～		秋	2	宮坂　真紀	311
	東南アジア文化論Ⅰ（大陸部）	遺跡を通してみるアジア文化	ARE-212-ID	2～	春		2	重枝　　豊	312
	東南アジア文化論Ⅱ（島嶼部）	居住文化と生活文化からアジアの基層文化を考える	ARE-213-ID	2～		秋	2	乾　　尚彦	313

国際コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
地域文化系専門科目群	☆アフリカ文化論	多様な文化や社会への理解から築く相互関係	ARE-214-ID	2～		秋	2	津山　直子	314
	☆中南米文化論	ラテンアメリカの歴史と文化	ARE-215-ID	2～	春		2	佐藤　正樹	315
	中国文化論		ARE-216-ID	2～		秋	2	金野　純	316
	朝鮮文化論	韓国の文化と社会	ARE-217-ID	2～	春		2	羅　京洙	317
	☆南アジア文化論	基本的身体行為から理解する南アジアの文化と社会	ARE-218-ID	2～	春		2	杉本　浄	318
	☆ロシア文化論	伝統文化、宗教、民族、日常社会についての考察	ARE-219-ID	2～	春		2	中村　逸郎	319
	東欧文化論	ドナウ流域諸国の歴史と文化	ARE-220-ID	2～	春		2	中島　崇文	320
	☆オセアニア文化論	日濠関係を考える	ARE-221-ID	2～	春		2	阿久津博康	321
	アメリカ文学Ⅰ		LIT-222-ID	2～	春		2	山口志のぶ	322
	アメリカ文学Ⅱ		LIT-223-ID	2～		秋	2	山口志のぶ	323
	☆イギリス文学Ⅰ	映像によるイギリス文学　1	LIT-224-ID	2～	春		2	岩﨑　光洋	324
	☆イギリス文学Ⅱ	映画で学ぶ英文学	LIT-225-ID	2～		秋	2	岩﨑　光洋	325
	比較音楽論Ⅰ（東洋）		ART-326-ID	3～	春		2	丸山　洋司	326
	比較音楽論Ⅱ（西洋）	ヨーロッパの社会とオペラ	ART-327-ID	3～		秋	2	米田かおり	327
	☆比較宗教論Ⅰ	死者の救済と共同体におけるその位置	PHL-328-ID	3～	春		2	田口　博子	328
	☆比較宗教論Ⅱ	信仰における「喪の作業」の役割	PHL-329-ID	3～		秋	2	田口　博子	329
	文化遺産学	文化財から文化遺産へ	MSE-230-ID	2～	春		2	M．ウーゴ	330
外国語演習専門科目群	外国語演習ⅠA	International Relations of East Asia	ENG-301-IW	3	春		2	羅　京洙	331
	外国語演習ⅠB	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係（1）	ENG-302-IW	3	春		2	久保田有香	332
	外国語演習ⅠC	外国語で学ぶ奴隷貿易の歴史	ENG-303-IW	3	春		2	工藤　晶人	333
	外国語演習ⅠD		ENG-304-IW	3	春		2	渡邉　淳	334
	外国語演習ⅠE	オペラと異郷趣味	ITA-305-IW	3	春		2	大崎さやの	335
	外国語演習ⅠF	Race and Ethnicity	ENG-306-IW	3	春		2	武井　彩佳	336
	外国語演習ⅠG	ビジネス現場からみた日米関係	ENG-307-IW	3	春		2	大出　隆	337
	外国語演習ⅠH	様々な国における女性の社会進出の実態	ENG-308-IW	3	春		2	佐久間　潮	338
	外国語演習ⅠI	Experiencing Shakespeare	ENG-309-IW	3	春		2	古庄　信	339
	外国語演習ⅠJ	西欧から見た東欧の人々と社会・モーツァルトの生涯	ENG-310-IW	3	春		2	中島　崇文	340
	外国語演習ⅠK	金融・経済基礎	ENG-311-IW	3	春		2	中島　洋子	341
	外国語演習ⅠL	Cultural Properties in Japan	MSE-312-IW	3	春		2	M．ウーゴ	342
	外国語演習ⅠM	英語で読む国際法	LAW-313-IW	3	春		2	櫻井　大三	343
	外国語演習ⅠN	外国語で読む現代日本	HIS-314-IW	3	春		2	金野　純	344
	外国語演習ⅠO	英語で学ぶ環境経済	ENG-315-IW	3	春		2	荘林幹太郎	345
	外国語演習ⅡA	Experiencing Shakespeare	ENG-316-IW	3		秋	2	古庄　信	346
	外国語演習ⅡB	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係（2）	ENG-317-IW	3		秋	2	久保田有香	347
	外国語演習ⅡC	外国語で学ぶ国際移民	ENG-318-IW	3		秋	2	工藤　晶人	348
	外国語演習ⅡD		ENG-319-IW	3		秋	2	渡邉　淳	349
	外国語演習ⅡE	イタリア、ルネサンスの芸術家像	ENG-320-IW	3		秋	2	高橋　朋子	350

国際コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
外国語演習専門科目群	外国語演習ⅡF	Race and Ethnicity	ENG-321-IW	3		秋	2	武井　彩佳	351
	外国語演習ⅡG	グローバル企業のCSR活動とアライアンス活動	ENG-322-IW	3		秋	2	大出　　隆	352
	外国語演習ⅡH	アジア女性の晩婚化と避婚化	ENG-323-IW	3		秋	2	佐久間　潮	353
	外国語演習ⅡI	国際情勢	ENG-324-IW	3		秋	2	藤原　朝子	354
	外国語演習ⅡJ	International Relations of East Asia	ENG-325-IW	3		秋	2	羅　　京洙	355
	外国語演習ⅡK	金融・経済基礎	ENG-326-IW	3		秋	2	中島　洋子	356
	外国語演習ⅡL	World Cultural and Natural Heritage	MSE-327-IW	3		秋	2	M．ウーゴ	357
	外国語演習ⅡM	英語で読む国際法	LAW-328-IW	3		秋	2	櫻井　大三	358
	外国語演習ⅡN	外国語で読む現代日本	HIS-329-IW	3		秋	2	金野　　純	359
	外国語演習ⅡO	英語で学ぶ日本の農村・環境問題	ENG-330-IW	3		秋	2	荘林幹太郎	360
国際コミュニケーション専門演習科目群	国際コミュニケーション演習ⅠA	文化財の保護と活用	MSE-301-IY	3	春		2	M．ウーゴ	361
	国際コミュニケーション演習ⅠB			3	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅠC	経営学	MAN-303-IY	3	春		2	金城　亜紀	363
	国際コミュニケーション演習ⅠD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	ARE-304-IY	3	春		2	中島　崇文	364
	国際コミュニケーション演習ⅠE	情報戦略なき国家	POL-305-IY	3	春		2	畠山　圭一	365
	国際コミュニケーション演習ⅠF			3	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅠG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-307-IY	3	春		2	荘林幹太郎	367
	国際コミュニケーション演習ⅠH	現代欧米社会の人種・民族	HIS-308-IY	3	春		2	武井　彩佳	368
	国際コミュニケーション演習ⅠI	日本の歴史社会学	HIS-309-IY	3	春		2	金野　　純	369
	国際コミュニケーション演習ⅠJ			3	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅠK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	ARE-311-IY	3	春		2	羅　　京洙	370
	国際コミュニケーション演習ⅠL	ヨーロッパ文化の諸問題	PHL-312-IY	3	春		2	根占　献一	371
	国際コミュニケーション演習ⅠM	国際法と国内法の基本問題	LAW-313-IY	3	春		2	櫻井　大三	372
	国際コミュニケーション演習ⅠN	比較生活文化研究	ANT-314-IY	3	春		2	乾　　尚彦	373
	国際コミュニケーション演習ⅠO	English and Its Culture I	ENG-315-IY	3	春		2	古庄　　信	374
	国際コミュニケーション演習ⅠP	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史	HIS-316-IY	3	春		2	工藤　晶人	375
	国際コミュニケーション演習ⅠQ	国際開発協力	INR-317-IY	3	春		2	伊藤由紀子	376
	国際コミュニケーション演習ⅠR			3	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅠS			3	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅠT	グローバル化の実態	ECO-320-IY	3	春		2	佐久間　潮	377
	国際コミュニケーション演習ⅠU	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-321-IY	3	春		2	品川　　明	378
	国際コミュニケーション演習ⅠV	言語学・日本語教育I	JPL-322-IY	3	春		2	秋山　智美	379
	国際コミュニケーション演習ⅠW	日本語研究の方法	JPL-323-IY	3	春		2	福島　直恭	380
	国際コミュニケーション演習ⅠX	情報システム	INF-324-IY	3	春		2	江藤　正己	381
	国際コミュニケーション演習ⅡA	文化財の保護と活用	MSE-325-IY	3		秋	2	M．ウーゴ	382
	国際コミュニケーション演習ⅡB			3	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅡC	経営学	MAN-327-IY	3		秋	2	金城　亜紀	384

国際コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション専門演習科目群	国際コミュニケーション演習ⅡD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	ARE-328-IY	3		秋	2	鈴木　珠美	385
	国際コミュニケーション演習ⅡE	日本の政治文化の特質	POL-329-IY	3		秋	2	畠山　圭一	386
	国際コミュニケーション演習ⅡG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-331-IY	3		秋	2	荘林幹太郎	388
	国際コミュニケーション演習ⅡH	現代欧米社会の人種・民族	HIS-332-IY	3		秋	2	武井　彩佳	389
	国際コミュニケーション演習ⅡI	東アジア地域研究と歴史社会学	HIS-333-IY	3		秋	2	金野　　純	390
	国際コミュニケーション演習ⅡJ			3	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅡK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	ARE-335-IY	3		秋	2	羅　　京洙	391
	国際コミュニケーション演習ⅡL	ルネサンス文化の展開―思想の様態	PHL-336-IY	3		秋	2	根占　献一	392
	国際コミュニケーション演習ⅡM	国際法と国内法の基本問題	LAW-337-IY	3		秋	2	櫻井　大三	393
	国際コミュニケーション演習ⅡN	比較生活文化研究	ANT-338-IY	3		秋	2	乾　　尚彦	394
	国際コミュニケーション演習ⅡO	English and Its Culture II	ENG-339-IY	3		秋	2	古庄　　信	395
	国際コミュニケーション演習ⅡP	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史	HIS-340-IY	3		秋	2	工藤　晶人	396
	国際コミュニケーション演習ⅡQ	国際開発協力	INR-341-IY	3		秋	2	伊藤由紀子	397
	国際コミュニケーション演習ⅡR			3	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅡS			3	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅡT	グローバル化の実態（その２）	ECO-344-IY	3		秋	2	佐久間　潮	398
	国際コミュニケーション演習ⅡU	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-345-IY	3		秋	2	品川　　明	399
	国際コミュニケーション演習ⅡV	言語学・日本語教育II	JPL-346-IY	3		秋	2	秋山　智美	400
	国際コミュニケーション演習ⅡW	言語研究の可能性	JPL-347-IY	3		秋	2	福島　直恭	401
	国際コミュニケーション演習ⅡX	情報システム	INF-348-IY	3		秋	2	江藤　正己	402
	国際コミュニケーション演習ⅢA	文化財の保護と活用	MSE-449-IY	4	春		2	M．ウーゴ	361
	国際コミュニケーション演習ⅢB	Intercultural Communication I	ECM-450-IY	4	春		2	G．R．ファリア	362
	国際コミュニケーション演習ⅢC	経営学	MAN-451-IY	4	春		2	金城　亜紀	363
	国際コミュニケーション演習ⅢD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	ARE-452-IY	4	春		2	中島　崇文	364
	国際コミュニケーション演習ⅢE	情報戦略なき国家	POL-453-IY	4	春		2	畠山　圭一	365
	国際コミュニケーション演習ⅢF	Discussing Japan	ECM-454-IY	4	春		2	J．F．モア	366
	国際コミュニケーション演習ⅢG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-455-IY	4	春		2	荘林幹太郎	367
	国際コミュニケーション演習ⅢH	現代欧米社会の人種・民族	HIS-456-IY	4	春		2	武井　彩佳	368
	国際コミュニケーション演習ⅢI	日本の歴史社会学	HIS-457-IY	4	春		2	金野　　純	369
	国際コミュニケーション演習ⅢJ			4	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅢK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	ARE-459-IY	4	春		2	羅　　京洙	370
	国際コミュニケーション演習ⅢL	ヨーロッパ文化の諸問題	PHL-460-IY	4	春		2	根占　献一	371
	国際コミュニケーション演習ⅢM	国際法と国内法の基本問題	LAW-461-IY	4	春		2	櫻井　大三	372
	国際コミュニケーション演習ⅢN	比較生活文化研究	ANT-462-IY	4	春		2	乾　　尚彦	373
	国際コミュニケーション演習ⅢO	English and Its Culture I	ENG-463-IY	4	春		2	古庄　　信	374
	国際コミュニケーション演習ⅢP	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史	HIS-464-IY	4	春		2	工藤　晶人	375
	国際コミュニケーション演習ⅢQ	国際開発協力	INR-465-IY	4	春		2	伊藤由紀子	376

国際コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション専門演習科目群	国際コミュニケーション演習ⅢR			4	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅢS			4	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅢT	グローバル化の実態	ECO-468-IY	4	春		2	佐久間　潮	377
	国際コミュニケーション演習ⅢU	1. 食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2. 環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-469-IY	4	春		2	品川　明	378
	国際コミュニケーション演習ⅢV	言語学・日本語教育I	JPL-470-IY	4	春		2	秋山　智美	379
	国際コミュニケーション演習ⅢW	日本語研究の方法	JPL-471-IY	4	春		2	福島　直恭	380
	国際コミュニケーション演習ⅢX	情報システム	INF-472-IY	4	春		2	江藤　正己	381
	国際コミュニケーション演習ⅣA	文化財の保護と活用	MSE-473-IY	4		秋	2	M．ウーゴ	382
	国際コミュニケーション演習ⅣB	Intercultural Communication II	ECM-474-IY	4		秋	2	G．R．ファリア	383
	国際コミュニケーション演習ⅣC	経営学	MAN-475-IY	4		秋	2	金城　亜紀	384
	国際コミュニケーション演習ⅣD	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	ARE-476-IY	4		秋	2	鈴木　珠美	385
	国際コミュニケーション演習ⅣE	日本の政治文化の特質	POL-477-IY	4		秋	2	畠山　圭一	386
	国際コミュニケーション演習ⅣF	Discussing Japan	ECM-478-IY	4		秋	2	J．F．モア	387
	国際コミュニケーション演習ⅣG	地球環境問題と国際コミュニケーション	ENV-479-IY	4		秋	2	荘林幹太郎	388
	国際コミュニケーション演習ⅣH	現代欧米社会の人種・民族	HIS-480-IY	4		秋	2	武井　彩佳	389
	国際コミュニケーション演習ⅣI	東アジア地域研究と歴史社会学	HIS-481-IY	4		秋	2	金野　純	390
	国際コミュニケーション演習ⅣJ			4	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅣK	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究	ARE-483-IY	4		秋	2	羅　京洙	391
	国際コミュニケーション演習ⅣL	ルネサンス文化の展開―思想の様態	PHL-484-IY	4		秋	2	根占　献一	392
	国際コミュニケーション演習ⅣM	国際法と国内法の基本問題	LAW-485-IY	4		秋	2	櫻井　大三	393
	国際コミュニケーション演習ⅣN	比較生活文化研究	ANT-486-IY	4		秋	2	乾　尚彦	394
	国際コミュニケーション演習ⅣO	English and Its Culture II	ENG-487-IY	4		秋	2	古庄　信	395
	国際コミュニケーション演習ⅣP	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史	HIS-488-IY	4		秋	2	工藤　晶人	396
	国際コミュニケーション演習ⅣQ	国際開発協力	INR-489-IY	4		秋	2	伊藤由紀子	397
	国際コミュニケーション演習ⅣR			4	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅣS			4	－	－	2	－	－
	国際コミュニケーション演習ⅣT	グローバル化の実態（その２）	ECO-492-IY	4		秋	2	佐久間　潮	398
	国際コミュニケーション演習ⅣU	1. 食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）　2. 環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	LIF-493-IY	4		秋	2	品川　明	399
	国際コミュニケーション演習ⅣV	言語学・日本語教育II	JPL-494-IY	4		秋	2	秋山　智美	400
	国際コミュニケーション演習ⅣW	言語研究の可能性	JPL-495-IY	4		秋	2	福島　直恭	401
	国際コミュニケーション演習ⅣX	情報システム	INF-496-IY	4		秋	2	江藤　正己	402
卒業研究・卒業論文	卒業研究（春）		ICM-401-IZ	4	春集中		8	荘林幹太郎	403
	卒業研究（秋）		ICM-402-IZ	4		秋集中	8	荘林幹太郎	404
	卒業論文（春）		ICM-403-IZ	4	春集中		8	荘林幹太郎	405
	卒業論文（秋）		ICM-404-IZ	4		秋集中	8	荘林幹太郎	406
指定された他学科専門科目	日本文化政策論Ⅰ	文化政策の基本構造	MSE-101-JA	1～	春		2	阿曽村智子	42
	日本文化政策論Ⅱ	日本文化政策の現状	MSE-102-JA	1～		秋	2	阿曽村智子	43

国際コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
指定された他学科専門科目	☆比較文化論Ⅰ（比較日本文化）	東京のなかのロシア・東欧文化	JPN-301-JE	3～	春		2	松枝　佳奈	126
	☆比較文化論Ⅱ（文学）	文学批評理論入門	LIT-302-JE	3～	春		2	木村　直恵	127
	比較文化論Ⅲ（芸術）	展覧会を読む	ART-303-JE	3～		秋	2	堀江　秀史	128
	※比較文化論Ⅳ（民俗）	儀礼・信仰・物語・ビジュアルカルチャー	ANT-304-JE	3～		秋	2	徳田　和夫	129
	比較文化論Ⅴ（社会）	「江戸」の発見	HIS-305-JE	3～		秋	2	岩淵　令治	130
	比較文化論Ⅵ（嗜好）		LIF-306-JE	3～	春		2	中野　美季	131
	比較文化論Ⅶ（生活）	装飾文化の交流	ART-307-JE	3～		秋	2	福島　雅子	132
	比較文化論Ⅷ（Japanese Culture Ⅰ）	Reading Movies	JPN-308-JE	3～	春		2	J. P. チャン	133
	比較文化論Ⅸ（Japanese Culture Ⅱ）	Love and Care	JPN-309-JE	3～		秋	2	J. P. チャン	134
	比較文化論Ⅹ（工芸）	海を渡った工芸品	ART-310-JE	3～	春		2	福島　雅子	135

国際コミュニケーション基礎演習IA・IIIA

3620010100100

副　題	文化財とは何か							担　当　者	M．ウーゴ　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	MSE-101-IX MSE-249-IX

〔授業の到達目標〕
文化財を通じて，特定の課題について調べる・考える・発表する力をつけること。

〔授業の内容〕
現在,我々が「文化財」あるいは「文化遺産」と呼ぶものはどういうものか。また,「文化財」として我々が守ろうとしているものはどういうものか。そして，それをなぜ後世に残そうとするのか。日本，海外を問わず，人類にとっての「文化財」，その概念，その保存の目的と背景を概観する。実のところ，世界中で「遺産」として考えられている対象には少なからず違いがある。有形のもの，無形のもの，文化的なもの，自然的なもの，さらに，それらを統合したもの，重点の置かれ方はさまざまに異なる。このような事情を踏まえた上で，日本国内の文化財を分析し，そして外国ではどのような「遺産」があるのかを比較することによって，それぞれに共通する特徴を理解する。また，地域によって捉え方の異なる「遺産」については，遺産の保存方法に関して，具体的な実例をもとに考察を深める。各自，日本や外国の「遺産」に関して調査し意見交換を図る。そうした成果を定期的に小論文としてまとめ，発表し，調べる力や論文の執筆力を高めてゆく。

〔教材〕
参考書：佐藤望（編）『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』第二版，慶應義塾大学出版会，2013年
文化庁文化財部（編）『未来に伝えよう　文化財』文化庁，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
出席と授業への参加の姿勢（積極性）［10%］，レポートやレジメ［50%］発表［40%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水・５限
OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
この授業を選択する学生は，文献やインターネットを通じた情報収集だけではなく，あらゆる文化財を訪れ，実際に鑑賞することを求める。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文化財について
第３週　日本の文化財　1
第４週　日本の文化財　2
第５週　日本の文化財　3
第６週　発表・討論
第７週　〃
第８週　〃
第９週　外国の文化財　1
第10週　外国の文化財　2
第11週　外国の文化財　3
第12週　発表・討論
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IC・IIIC

3620010100300

副　題	International Business (This seminar will be conducted in English)								担　当　者	金城　亜紀　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	MAN-103-IX MAN-251-IX

〔授業の到達目標〕
1. 国際ビジネスの基礎知識を修得する。
2. グローバルなビジネス・政治経済の動向について，自分で考え，意見を形成し，主張できるようになる。
3. 大量の英文を読み，それについて分かりやすく英語でプレゼンテーションできるようになる。

〔授業の内容〕
1. 米国の標準的な大学用の教科書を用います。
2. 英語で学生がチーム毎に発表することを軸に演習を進めます。発表しない方にも発言することを求めます。
3. 詳細なスケジュールを演習開始時に配布しますので，必ず出席してください。

〔教材〕
参考書：Daniels, Radebaugh, Sullivan, *International Business - Environments and Operations*, 15th Edition, Pearson Education, 2015
必用に応じて参考資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
・グループでの発表の準備：3回以上（各10時間程度）
・予習：毎回（各2時間程度）
・学期末課題：10時間程度

〔成績評価の方法〕
グループでの発表：40%
Class contribution: 30%
学期末課題：30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日13：30～14：30（4222研究室）

〔備考〕
・予備知識は必要ありませんが，しっかり勉強されることを前提として演習を進めます。（準備学習に必要な時間を確保できない方には向きません）。
・演習に積極的に取組み，お互いに高め合いながら，楽しく勉学する意欲のある方を歓迎します。

〔授　業　計　画〕

第1週　Kick-off
第2週　1. Overview of International Business and Globalization
第3週　同上
第4週　2. Culture
第5週　同上
第6週　3. Governmental and Legal Systems
第7週　同上
第8週　4. Economic Systems and Market Methods
第9週　同上
第10週　5. Trade and Factor Mobility Theory
第11週　同上
第12週　6. Trade Protectionism
第13週　同上
第14週　7. Economic Integration and Cooperation
第15週　Wrap-up
・より良い演習にするために，本計画を変更することがあります。

国際コミュニケーション基礎演習ID・IIID

3620010100400

副　題	中・東欧研究の可能性							担　当　者	中島　崇文　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ARE-104-IX ARE-252-IX

〔授業の到達目標〕
中・東欧全般に関する理解を深め，この地域を対象とする研究はどのようなものが可能であるのかを理解すると共に，論文の執筆の方法を具体例を参照しながら習得する。

〔授業の内容〕
毎週，『アカデミック・スキルズ』を１章ずつ検討した後，中・東欧及びその周辺地域を対象とする様々なテーマによる論文を１本ずつ精読する。受講生は『アカデミック・スキルズ』の該当する章と取り上げる予定の論文を事前に読んだ上で授業に臨むことが前提となるが，授業では担当教員は内容，体裁，脚注の付け方，参考文献の記載方法等について具体例に即して説明し，また，受講生は全員が一言ずつコメントするものとする。

〔教材〕
教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門―』慶應義塾大学出版会，2012年
授業で取り上げる論文（２～6万字程度）については担当教員が用意し，前の週に事前に配布する予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
教科書の該当部分に目を通し，また，事前に配布された論文を熟読し，授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕
受講態度（約20%），授業中に行うコメントと授業終了時に提出するペーパーの内容の緻密さ（約50%），指定された期限までに提出するレポートの出来具合（約30%）等によって総合的に評価する。受講者は毎週出席して当然との観点から，出席を点数化して加点するということは行わない。逆に１回の欠席につきおおむね５点の減点とし，加えて，欠席日に提出すべき課題が遅れても未提出の場合にはさらに５点の減点となる。このように欠席した場合の減点が大きいため，受講生は毎週欠かさず出席するよう，最大限に努力してほしい。日常的に欠席しがちな人，じっくりと長い文章を読むことを好まない人は歓迎しないし，本基礎演習は勧めない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは初回のレジュメに記載する）。

〔備考〕
国際コミュニケーション学科の学生で中島ゼミへの申請を検討している者や中欧国際協力研修参加予定者は，この国際コミュニケーション基礎演習Dの他，地域研究基礎論I・II，東欧文化論をできるだけ履修し，かつ，優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては，これらの授業を履修し，かつ，それらの成績の優秀な者が優先される）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容の説明，自己紹介
第２週　論文の執筆の方法
第３週　中・東欧における日常のデザイン
第４週　中・東欧における観光業の発展
第５週　中・東欧の都市における緑化政策
第６週　中・東欧における日本美術の受容（１）
第７週　中・東欧における日本美術の受容（２）
第８週　中・東欧における言語と民族意識
第９週　中・東欧の言語と日本語の比較分析
第10週　中・東欧における移民の問題
第11週　中・東欧において社会主義時代に育った政治家
第12週　中・東欧における戦争被害者の研究
第13週　中・東欧の国々における歴史教育と歴史教科書
第14週　レポートの返却とコメント
第15週　総括

国際コミュニケーション基礎演習IE・IIIE

3620010100500

副　題	国際政治とグローバリゼーション							担　当　者	畠山　圭一　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	POL-105-IX POL-253-IX

〔授業の到達目標〕

文献購読を通じて，国際関係・異文化交流に関する課題を理解するとともに，文献調査，理論分析，調査内容報告，討論に関する基本的手法を身につける。

〔授業の内容〕

冷戦終結以来，国際社会における紛争や摩擦は国家，民族間の文化的価値観の相違に起因するものが多発するようになっている。今後の国際関係を理解し，国際紛争や国家・民族間の摩擦を解決するには，国際社会の主体である各々の国家が，相手の固有文化とその反映としての政治的特色に対する理解を深めることが必要である。本演習では，世界的大論争を巻き起こした『文明の衝突』（サミュエル・ハンチントン）の問題提起を手がかりに，異文化，異文明の交流について考察する。また西欧と非西欧（特に日本，中国）の文明，文化の比較を通じて両者の異質性や同質性を探り，今後の国際関係における課題を考えてみたい。

〔教材〕

教科書：サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストの該当箇所を読み，自らの課題を用意して臨むこと。思考力，分析力の養成が主眼であるため，事前，事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習，復習には十分な時間(標準は各2時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

出席状況，演習参加の積極性，報告内容，リポート等によって総合的に評価(出席状況の配点は2割，リポートの配点は4割，その他4割)し，60点以上を合格とする。欠席について，無断欠席2回，連続3回の欠席，総計4回の欠席のいずれかに該当する場合には即刻，受講停止とするので，注意されたい。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火4限又は随時。連絡方法は初回授業で指示する。

〔備考〕

読書三昧の半年間となる。政治や国際関係に関する高い関心と使命感を持つ有為の学生を求める。

〔授　業　計　画〕

第1週　導入講義
第2週　テキスト輪読
第3週　テキスト内容の報告と討論
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括講義

国際コミュニケーション基礎演習IF・IIIF

3620010100600

副　題	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	担　当　者	J．F．モア　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ENG-106-IX ENG-254-IX

〔授業の到達目標〕

外国人に日本について説明する場合，表現に苦心する原因の１つは，風土，文化，習慣の違いが多くて，適切な言葉が見出せないことにある。この演習の目的は，日本的な物や習慣について英語で読んだり書いたりすることによって，自分のまわりの日本的世界を英語で表現出来るようになることである。その際に必要になる「定義をするための英語」と「過程を描写し，やり方を説明する英語」のパターンは基本的なものである。しかも，英語の学術論文にもよく利用されているものでもあり，使いこなせるようになると後々まで便利である。

〔授業の内容〕

テキストは，時間感覚から新聞・ビジネス・ショッピングまで様々なテーマをとりあげ，日本とアメリカの社会や国民の考え方を比較し，その違いと変化を指摘しているものである。学生がプレゼンテーションでは，テキストのサマリーに自分で調べた情報をつけて発表して，クラスメートの考えを英語で聞き出そうとする。この二つの作業，英作文と英文の reading and discussionを平行した授業になる。

授業は英語で行う。

〔教材〕

教科書：Paul Stapleton, *Exploring Hidden Culture*, Kinseido, 2001

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the assigned chapter each week before class and prepare a two-paragraph comment, along with your questions about it, and discussion questions for the class.

Presentation preparation (8 hours).

Examination preparation (7 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%，presentation 20%，weekly assignments 25%, final examination 25%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2[d] period, 他

〔授　業　計　画〕

第１週　Getting acquainted and presentation scheduling
第２週　Presentations and discussion　ものの定義をする練習
第３週　〃
第４週　Presentations and discussion　意見を述べる練習
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　Presentations and discussion　比較をする練習
第９週　〃
第10週　〃
第11週　Presentations and discussion　過程・やり方を説明する練習
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　Final discussion
試験期間に期末試験を行う。

国際コミュニケーション基礎演習IG・IIIG

3620010100700

副　題	地球環境問題と国際コミュニケーション	担　当　者	荘林　幹太郎　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENV-107-IX ENV-255-IX

〔授業の到達目標〕
「根拠」を特に必要としない『感想文』を書くことから，「根拠」を踏まえた大学生としての『レポート』を書くことに転換する(これまでの経験則からは，毎回の課題に真摯に向き合った学生はそれに成功すると確信している)。

〔授業の内容〕
本基礎演習では，地球温暖化をはじめとする地球環境に関わる問題を事例として，国際コミュニケーションに必要な基本的技術，とくに論理的に考え，書き，発表する技術を学ぶ。
具体的には，５週目までの毎回の演習において，講師から地球環境問題の事例について紹介し，受講生はそれをもとに２～３パラグラフの文章を書き，その詳細な添削を受けることによりパラグラフの基本的な書き方を身につける。そのうえで，６週目以降に，論点（テーマ）を設定したうえで，それを根拠によって論理的に支える文章を書く練習を行う。10週目以降にそれを数ページのレポートにまとめ発表する。

〔教材〕
教科書：ティモシー・W. クルーシアス、キャロリン・E. チャンネル『大学で学ぶ議論の技法』慶應義塾大学出版会，2004年
『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版，2006年
「大学で学ぶ議論の技法」はぜひとも長く手元に置いて欲しい。社会人になった後も必ず役に立つと思う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
2週間に１回を基本として３パラグラフ程度のレポートを課す（平均すると毎週４時間程度の負荷のイメージ）。

〔成績評価の方法〕
２週間に１回程度出題される小メモ（２～３パラグラフ）の宿題（40%），授業における発言等（20%），最終レポート（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
毎週水曜日昼休み
mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕
授業内容について質問がある場合には，mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　地球環境問題を事例としたパラグラフライティングの練習
第３週　同上
第４週　〃
第５週　〃
第６週　レポートライティングについての基本的ルール：テーマの設定と根拠
第７週　事例演習
第８週　同上
第９週　〃
第10週　〃
第11週　レポート最終発表
第12週　同上
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IH・IIIH

3620010100800

副　題	マイノリティの歴史と現在							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SOC-108-IX SOC-256-IX

〔授業の到達目標〕

民族的・言語的・宗教的マジョリティの歴史的生成と，彼らが抱える現在の問題について学ぶ。

〔授業の内容〕

世界にはさまざまなマイノリティ（少数派）が暮らしています。民族的・言語的・宗教的にマジョリティ（多数派）と異なる彼らは，過去には社会から排除されたり，強制的に同化させられたりしました。この授業では，主にヨーロッパと北米のマイノリティを取り上げ，その歴史，現在の彼らを取り巻く社会状況，差別の構造などについて考えます。

授業では，配布したテキストを読み，特定のマイノリティについて自分で調べ，報告します。この後，報告したテーマでレポートにまとめます。さらに，参加者は新聞に目を通し，マイノリティに関連した記事を持参することが求められます。

〔教材〕

テキストを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲･貢献度（40点），報告（20点），レポート（20点），新聞の切り抜き（20点）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜・水曜の４時限後，約30分。
授業の前後に申し出ること。

〔備考〕

遅刻者は出席点が半分

〔授　業　計　画〕

第１週　「マイノリティとは何か」：報告者の決定
第２週　テキスト解説
第３週　〃
第４週　〃
第５週　報告＋解説
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　関連する映画鑑賞
第11週　報告＋解説
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
計画通りいかないこともあります。

国際コミュニケーション基礎演習Ⅱ・Ⅲ

3620010100900

副　題	歴史社会学および東アジア地域研究							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-109-IX HIS-257-IX

〔授業の到達目標〕

歴史社会学の研究方法の概略を理解し，地域研究の意義や方法についても基礎的な知識を得る。アウトラインの作成方法，レポートの作成方法，プレゼンテーションの作法についても学ぶ。

〔授業の内容〕

歴史と聞くとナポレオン，毛沢東，始皇帝…のような「有名人」を思い浮かべるかもしれませんが，私たちが普段何気なく生活している「社会」もまた歴史研究の対象となります。さまざまな社会現象には，かならず歴史的な背景があります。本演習では，歴史的な視点から社会について学ぶ歴史社会学の考え方を習得し，それを日本，中国，韓国などの東アジア地域研究のなかでどのように実践するのかについて学びます。

担当者（金野）がフィールドとしているのは中国をはじめとする東アジア地域ですが，歴史社会学に関心がある学生であればヨーロッパなど他の地域をテーマに報告しても構いません。

〔教材〕

授業時にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布されるコースパックを熟読し，内容をまとめておくこと。また授業では，内容に関して意見を求められることもあるので，自分なりの考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は，報告内容（40%），授業参加（40%），レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜３限

授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）

〔備考〕

本演習は，３年次以降の専門研究をおこなうための基本的方法を学ぶ場として位置づけられる。したがって本演習担当教員のゼミナールを希望する学生は受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　歴史社会学と地域研究
第３週　歴史をどのように研究するのか？（１）　―研究の作法
第４週　歴史をどのように研究するのか？（２）　―日本，中国，韓国，カンボジアを事例として
第５週　報告とディスカッション
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション基礎演習IK・IIIK

3620010101100

副　題	東アジアにおける人の移動と文化交流							担　当　者	羅　京洙　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ARE-111-IX ARE-259-IX

〔授業の到達目標〕

東アジアの国際関係を，人と文化の移動と交流という観点から分析し，そこから見えてくる東アジアという地域の「実態」を把握することを試みる。

〔授業の内容〕

グローバリゼーションが進む中，今日の東アジア地域では，近代の産物である国民国家の領土範囲に必ずしも収まらない個人や民族（エスニック・グループ）のような超国家的存在への関心がますます高まっている。「国民」という美名のもとに国家の枠内に閉じ込められて外部世界から孤立してきた様々な個人や民族は，東アジア国際関係の変容を自覚し，国境という物理的･心理的境界を越える移動と交流を繰り広げている。本演習では，東アジアの人々が国家，国境，国民，民族といった既存の体制や概念を如何に揺るがし，新たな地域空間とそこでの共通の地域的アイデンティティを創る担い手としてどのような役割を果たしているのかを理解する。また本演習では，国境を越える人々の移動によって文化の移動，さらには文化の交流と創造が行われるという構造とその事例についても一緒に学ぶ。なお，本演習は，大学生にとって必須のアカデミックな思考法と方法論をふまえつつ，（１）担当教員による講義，（２）関連文献の輪読，（３）学生によるプレゼンテーションを軸に進める。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第２版，慶應義塾大学出版会，2012年

その他の参考文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定したテキストや参考資料をあらかじめ読んだ上で，毎回の演習に臨むこと。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度・貢献度（30%），プレゼンテーション（30%），課題・レポート（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

演習の内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　アカデミックな思考と方法（１）
第３週　アカデミックな思考と方法（２）
第４週　アカデミックな思考と方法（３）
第５週　講義：東アジアにおける人と文化の国際移動（１）
第６週　講義：東アジアにおける人と文化の国際移動（２）
第７週　文献講読と討論（１）
第８週　文献講読と討論（２）
第９週　文献講読と討論（３）
第10週　プレゼンテーションと討論（１）
第11週　プレゼンテーションと討論（２）
第12週　プレゼンテーションと討論（３）
第13週　プレゼンテーションと討論（４）
第14週　プレゼンテーションと討論（５）
第15週　総合討論・総括

国際コミュニケーション基礎演習ⅠL・ⅢL

3620010101200

副　題	ルネサンスの女性―近代のヨーロッパを考える	担　当　者	根占　献一　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	GEN-112-IX GEN-260-IX

〔授業の到達目標〕

歴史的過去を知ることで，現在の自分の立場を考えられるようになること

〔授業の内容〕

ヨーロッパの歴史も男性中心に描かれる。たとえば，ルネサンスの世界で男性の画家や彫刻家，建築家はよく知られている。ボッティチェリ，レオナルド，ミケランジェロ，ラファエロ，パッラーディオなどは著名で，その影響も大きかった。

天才たちが活躍したこの時代に女性の芸術家，文学者や詩人は全く無視してよい存在だったのだろうか。彼女たちの生きた，活動した記録はないのだろうか。その絵を見たり，文を読んだりはできないのだろうか。また彼女たちに理解のある女性の後援者はいなかったのだろうか。実はいたのである。いたのなら，どういう風に生きたのだろうか。またどのように評価されたのだろうか。

この演習では，できるだけ女性の役割と活動を知るべく関連テクスト（英文）を読みながら，ヨーロッパ文化のルネサンス的意義を考えてみたい。一年生にとっては最初の演習なので導入的な演習の側面も持つ。

〔教材〕

テクスト教材（英文テキスト）はこちらで準備する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

最低各２時間以上。

〔成績評価の方法〕

発表（40%），授業への参加意欲・貢献度（40%），レポート（20%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問などがある場合には，月曜日12時45分から13時半の間に研究室を訪ねること。ただし，前もって学科事務室に希望の日にちに関して連絡をとっておくほうが望ましい。

〔備考〕

映像資料（ビデオ・DVD・映画）も多用。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入とともに，基本的な演習とはなにか，またその演習はどうあるべきか　についても話します
第２週　ヨーロッパにおける女性ーその人間観のなかで
第３週　テクストに基づく各自の発表
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　関連映像
第15週　〃

国際コミュニケーション基礎演習IM・IIIM

3620010101300

副　題	現代社会の法的分析（国際法と国内法）	担　当　者	櫻井　大三　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	LAW-113-IX LAW-261-IX

〔授業の到達目標〕

現実の社会で問題となっている事件・事象の中から法的な問題点を抽出し，その問題の所在を明らかにするとともに，その解決の在り方を展望することができるようになること。

〔授業の内容〕

本演習では，諸君が日々の新聞報道で接した事件・事象を法的な視点から眺めるとどうなるのかを自問し，その疑問に対して自ら答えを探り当てるべくさまざまな調査・検討を行い，その結果をプレゼンテーション形式で報告して頂く。

したがって，当然のことながら，受講生は，日々新聞の社会面・国際面に目を通し，世の中の動きを把握することが求められる。新聞で報じられる事件・事象には，何らかの形で法律との接点を含んでいるものが少なくない。新聞という法律問題の宝庫から適当な記事をピックアップし，「なぜこうなるのだろう」という素朴な疑問をもち，そのような疑問に対する答えを自分なりに探り当てることが，受講生の課題である。

授業の進め方は，新聞記事を素材とした報告と，それに対する質疑応答（討論）が中心となる。取り上げる題材は法律問題が望ましいが，社会問題として議論に値するものであれば，それも可とする。

〔教材〕

教科書：佐藤望『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

１．予習120分：指示された新聞記事を熟読し，プレレジュメ記載の複数の参考文献に当たりながら，疑問点を質問できるように準備しておくこと（報告者は，別途指示された要領により報告原稿，レジュメを準備すること）。

２．復習120分：報告者は，討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて，報告原稿を加筆修正したレポートを作成すること。

〔成績評価の方法〕

（１）毎回の出席，討論への参加（以上を平常点として50％程度）。

（２）割り当てられた報告の実施およびレポートの提出（50％程度）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

毎週月曜日の放課後，もしくは，毎週金曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。

電子メールによる（メールアドレスは，学科事務室にて確認されたい）。

〔備考〕

本演習への参加の前提として，受講生には，『アカデミック・スキルズ』を読了し且つその内容を十分理解していることが求められる。本書は，報告テーマの決め方，資料の探し方・分析の仕方・まとめ方，文章の書き方，プレゼンテーションの仕方について説明した，いわば本演習を実践するうえでの手引書である。

受講生には，「法学II」および「国際法I・II」を並行して履修することを強く推奨する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　演習の受け方・心得等
第３週　『アカデミック・スキルズ』について
第４週　受講生による個別報告（１）
第５週　受講生による個別報告（２）
第６週　受講生による個別報告（３）
第７週　受講生による個別報告（４）
第８週　受講生による個別報告（５）
第９週　受講生による個別報告（６）
第10週　受講生による個別報告（７）
第11週　受講生による個別報告（８）
第12週　受講生による個別報告（９）
第13週　受講生による個別報告（10）
第14週　受講生による個別報告（11）
第15週　受講生による個別報告（12）

平素から新聞を読む習慣を身につけ，関心のある事件・事象に注目し，どのようなテーマについて報告をしたいのかを熟考してもらいたい。

国際コミュニケーション基礎演習IN・IIIN

3620010101400

副　題	アジア太平洋地域研究の方法							担　当　者	乾　尚彦　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ARE-114-IX ARE-262-IX

〔授業の到達目標〕

東南アジア，東アジア，オセアニアの地域研究の方法の基礎を習得する。

〔授業の内容〕

東南アジア，東アジア，オセアニアには多様な文化が見られるが，こうした地域の文化を研究する上で必要な基礎的な技術の習得を目標とする。具体的には，フィールドワークやアンケート調査の方法，当該地域に関わる書誌，データベース（HRAFなどを含む），関連図書館，研究機関，分野別の研究者を把握し，当該地域の基層文化に関わる諸学説を概観し，将来，当該地域で各種のテーマのもとに研究を進めていく上での基礎を確立する。また，毎回の報告を通して，資料を扱う上で問題となる引用の方法，著作権の扱い，発表・報告・プレゼンテーションの技術についても学んでいく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

報告のためのレジュメ作成。他の報告者の内容に関する事前学習。

〔成績評価の方法〕

レポート，出席，発表の内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，アジアと自分との関わり
第２週　地域研究の資料操作法１　（１）KJ法とアウトラインプロセッサー（２）カードとフィールドノート
第３週　地域研究の資料操作法２　著作権と引用
第４週　資料探索１　検索とデータベース
第５週　資料探索２　アジア・太平洋の研究機関，学会，専門図書館，書店
第６週　アジアの基層論１　アジア文化の起源論
第７週　アジアの基層論２　モンゴロイドの拡散と適応
第８週　アジアの基層論３　空間区分と風土，社会，世界観
第９週　アジアの基層論４　アジア・太平洋探検史
第10週　アジア文化の諸相１
第11週　アジア文化の諸相２
第12週　アジア文化の諸相３
第13週　アジア文化の諸相４
第14週　アジア文化の諸相５
第15週　アジア文化の諸相６

国際コミュニケーション基礎演習IO・IIIO

3620010101500

副　題	イギリス文化展望							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-115-IX ENG-263-IX

〔授業の到達目標〕

授業におけるテキスト講読，発表その他のアクティヴィティをとおして，英語力を養うと同時に英国に関する様々な文化を理解し，自国の文化との比較考察を目標とする。

〔授業の内容〕

私たちが外国語として学ぶ英語は，もともとは日本の面積の約３分の２という小さな島国イギリスの言葉でしかなかったが，およそ1500年の歴史を経て，今や国際語，世界の共通語となっている。ではその英国はどのような歴史を経て今日に至ったのか，そこに生きる英国人はどのような考え方をするのか，また英国人が生み出した英国文化とはどのようなものか，様々なトピックからこの問題を考察しながら，同時に同じ島国である日本とその文化，考え方との違いを観察してほしい。テキストをとおして，英国の歴史・地理および様々な文化に触れる。また発表（プレゼンテーション）の実践をとおして「人前で話す」訓練なども行う。

〔教材〕

教科書：Ian Dennis, Kimie Saito, Ritsuko Miyake, *Facets of Britain*, 朝日出版社, 2006

ケルトや古代ローマ，アングロサクソン時代をとおして現代にいたる英国の歴史と文化に触れる内容を平易な英語で理解する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に各２時間以上を必要とする。

〔成績評価の方法〕

期末試験だけでなく通常の授業時における様々なactivities（発表やレポート）の取り組み方も評価の対象とする。評価の割合は試験(70%)，発表(20%)，授業への参加意欲・貢献度(10%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３～４時限，
メールまたは学科事務室を通じて

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　学外見学授業（早稲田大学演劇博物館）
第３週　Chapter 1 Celtic Britain
第４週　Chapter 2 Roman Britain
第５週　Chapter 3 Anglo-Saxon Britain
第６週　Chapter 4 The Norman Conquest
第７週　Chapter 5 Medieval Britian
第８週　Chapter 6 The Coming of Christianity Britain
第９週　Chapter 7 Church and State and the Dissolution of the Monasteries
第10週　Chapter 8 The Industrial Revolution
第11週　Chapter 9 Legends and Stories
第12週　Chapter 10 The English Love of Nature
第13週　Chapter 11 Churchill, Chartwell and Blenheim
第14週　Chapter 12 Preserving the Past
第15週　Mother Goose Presentation

上述の授業計画にある第３週～14週は，テキストに基づいてグループによる発表（プレゼンテーション）を行う。

国際コミュニケーション基礎演習IP・IIIP

3620010101600

副　題	世界のことばと社会							担　当　者	工藤　晶人　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	HIS-116-IX HIS-264-IX

〔授業の到達目標〕

フランス語圏を主な事例として，ヨーロッパ，アジア，アフリカのさまざまな地域における言語と社会の関わりを理解する。

〔授業の内容〕

私たちの社会はことばによって支えられている。世界の歴史を考えたり，移民などの現代的現象を理解するためにも，言語と社会のかかわりを知ることは重要である。本科目では，そうしたテーマにかかわる基本的な考え方を学び，さまざまな地域の事例についてグループ報告とディスカッションを行う。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読と発表準備

〔成績評価の方法〕

報告内容とレポート（60%），授業参加の積極性（40%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日の昼休み
授業中に指示する。

〔備考〕

３年次以降に本演習担当教員のゼミナールを希望する学生は本科目を受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション・報告の仕方
第２週　概説―ヨーロッパの言語と社会
第３週　概説―中東・北アフリカの言語と社会
第４週　概説―サハラ以南アフリカの言語と社会
第５週　文献購読・発表・ディスカッション
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション基礎演習IQ・IIIQ

3620010101700

副　題	国際協力							担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INR-117-IX INR-265-IX

〔授業の到達目標〕
国際協力の現場における「外部者」の役割を考察する

〔授業の内容〕
阪神・淡路大震災で，日本各地から数多くの一般人のボランティアが個人として救援活動に従事し，「ボランティア」という言葉が一躍注目された。それと同時に，非営利組織（NPO）や非政府組織（NGO）の活動，役割も評価されはじめ，98年には非営利活動を活発にする１つの方策としてNPO法が施行された。このようにボランティアやNPO・NGOへの人々の関心は日本の国際協力という分野の発展においても貢献し，より多くの日本人が専門家，ボランティアとして世界各地で活躍し，また，徐々にではあるが，これらの活動に対する寄付文化も発展しつつある。しかしながら，戦後半世紀以上にわたって取り組まれ続けてきている世界の貧困をはじめとした問題は解決するばかりか，貧富の格差，環境問題といったように問題は深刻化し，山積み状態である。いわゆる学歴が高い専門家が従事している活動が必ずしも問題解決につながらないその原因を，国際協力の現場における「外部者」の役割を議論しながら考える。

〔教材〕
教科書：伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』ちくまプリマー新書，2010年
プリント教材は初回授業で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
各回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には４時間費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕
課題１および２　20%，Code of Conduct 30%，国際貢献関連　35%，授業への参加意欲他15%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
第１回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合，必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて，授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　INTRODUCTION
第２週　ディスカッション課題１
第３週　ディスカッション課題２
第４週　Code of Conduct I
第５週　Code of Conduct II
第６週　Code of Conduct III
第７週　「国際貢献のウソ」
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　レポートフォローアップ
第15週　まとめ
初回授業で発表等の順番を決めます。

国際コミュニケーション基礎演習IR・IIIR

3620010101800

副　題	コミュニケーションを考える							担　当　者	逢坂　巌　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	PSY-118-IX PSY-266-IX

〔授業の到達目標〕

コミュニケーション論の基礎をつかむ。読書の仕方や議論，発表のやり方なども理解体得する。

〔授業の内容〕

コミュニケーションとは，日常でもよく使われている言葉だが，いろいろ考えるとよくわからない。本演習では，そのコミュニケーションについて，特に基礎的な成り立ちや様々な様相に関して，教科書を全員で読みながら，議論をし，考えていく。参加者には事前に教科書の該当部分を読み，ゼミの中では内容について議論をおこなうことが求められる。

〔教材〕

教科書：辻大介・是永論・関谷直也『コミュニケーション論をつかむ』（テキストブックス［つかむ］）初版，有斐閣，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書の各項目を事前に読んでくること。

〔成績評価の方法〕

出席（20%）。授業での発表と議論への参加などの授業への貢献（60%），期末の発表（20%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　コミュニケーションとは何か
第３週　ことばとコミュニケーション
第４週　ことば以前のコミュニケーション
第５週　身体とコミュニケーション
第６週　談話・文章を理解するメカニズム
第７週　会話のダイナミクス
第８週　文字のコミュニケーション
第９週　映像のコミュニケーション
第10週　自己とコミュニケーション
第11週　社会関係とコミュニケーション
第12週　親密性とコミュニケーション
第13週　都市空間とコミュニケーション
第14週　発表
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IT・IIIT

3620010102000

副　題	外国為替の基礎							担　当　者	佐久間　潮　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ECO-120-IX ECO-268-IX

〔授業の到達目標〕

外国為替に関する基礎知識を習得し，外国為替の変動等が経済に及ぼす影響について，自ら考えられるようになること。

〔授業の内容〕

テレビの夜のニュースでは，その日の外国為替市場における外国為替相場と東京証券取引所の株価が報じられている。なぜ,外国為替相場が貴重なニュースの時間に流されるかといえば,それが国民生活に大きな影響を与えるからである。たとえば，為替相場が変動すれば，海外旅行のための外貨を購入するのに必要な円の額が変化する。たとえば，2011年には１ドルは70円台で購入できるときもあったが，2015年末には１ドルを購入するのに約120円必要であった。また，為替相場が大きく変動すれば，日本国内で売られる輸入野菜，輸入ブランド商品，などの価格は変化する。もちろん円に換算した石油価格も変わり，それはガソリン代や電気代の変化をもたらす。この基礎演習では，国民生活に影響を与える外国為替相場に関する色々な問題を読書，調査，発表，ディスカッション，レクチャー，を通じて考える。

〔教材〕

教科書：『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版，2006年

参考書：国際通貨研究所『外国為替の知識』第2版，日本経済新聞社，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各２時間

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（30%）とテスト（70%）で総合評価

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日３時限
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　演習を始めるにあたって
第２週　国際取引と国際収支（その１）
第３週　国際取引と国際収支（その２）
第４週　外国為替相場とは
第５週　外国為替相場はどのように決まるか
第６週　直物為替と先物為替（その１）
第７週　直物為替と先物為替（その２）
第８週　外国為替市場とその参加者
第９週　外国為替取引の実際（その１）
第10週　外国為替取引の実際（その２）
第11週　外国為替相場の予想
第12週　世界の主要外国為替市場（その１）
第13週　世界の主要外国為替市場（その２）
第14週　国際通貨制度（ブレトンウッズ体制）
第15週　国際通貨制度（変動相場制の時代）

国際コミュニケーション基礎演習IU・IIIU

3620010102100

副　題	体験学習と人間関係コミュニケーション	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-121-IX LIF-269-IX

〔授業の到達目標〕

１．人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力，ファシリテーション能力の基礎を習得する。

２．他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。

３．授業中に行われるファシリテーションについて，批判的な視点でフィードバックすることができる。

４．授業中に体験し，発見したコミュニケーションの重要点とその活用について，文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕

１．体験学習と問いかけ

いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し，体験学習法の基礎を学ぶ。

２．体験学習と人間関係コミュニケーション

学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて，セルフ・エスティームを育てるための活動，コミュニケーション能力を高める活動，協力できる力を育てる活動などを体験する。

３．体験学習と振り返り

上記１と２の体験から，どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後，グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し，ファシリテーターとして指導体験する。その後，振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

図書館での文献検索方法を習得し，コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し，コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には，文献による予習と復習が必須である。そのために４時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

１．出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%

２．授業におけるファシリテーション　20%

３．授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して，批判的な視点からの評価レポート25%

４．担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限（14：40-16：10）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

日本文化専門演習や国際コミュニケーション専門演習で実施するフードコンシャスネス教育の体験（食に関する官能検査やアンケート，試食体験など）を随時実施することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　コミュニケーションとは！　体験学習とは！
第２週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーション　アイスブレーキング他
第３週　自己能力判断　人間関係コミュニケーション　自己のコミュニケーションにとって何が必要か？　得意と不得意なところ
第４週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践　レポートの書き方
第５週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践１
第６週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践２・３
第７週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践４・５
第８週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践６・７
第９週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践８・９
第10週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10・11
第11週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践12
第12週　活動体験　フードコンシャスネス教育の体験
第13週　〃
第14週　プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
第15週　まとめ

できるだけ早期に文献を検索し,問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものである。

国際コミュニケーション基礎演習IX・IIIX

3620010102400

副　題	ウェブ上の情報システム							担　当　者	江藤　正己　専任講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-124-IX INF-272-IX

〔授業の到達目標〕
現代社会における情報システムの意義や位置づけを考察できるようになる
調べたことを他人に分かり易く伝えるためのプレゼンテーション能力を修得する
資料を効率よく検索し，適切に利用できるようになる

〔授業の内容〕
私たちの身の回りには，TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ，Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い，ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり，情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。現代社会を生きていく上で，情報システムを理解し活用する能力は不可欠といえます。
しかしながら，多くの人は情報システムのごく一部をただ「なんとなく」使っているにすぎません。この授業では，普段利用している情報システムの仕組みをユーザーとして知っておくべき範囲で扱うとともに，さらに一歩進んだ情報システムの活用方法をとりあげます。
授業では，主に次の三つの作業を求めます。（１）情報システムの特徴や活用方法等について，小課題に沿って担当教員と相談しながら調べる。（２）調べた内容について，パワーポイント等を用いて，他の履修者に向けて発表する。発表者以外の履修者は，発表内容に対してコメントを書き評価する。（３）期末レポートを作成する。

〔教材〕
参考書：NHKスペシャル取材班『グーグル革命の衝撃』（新潮文庫）新潮社，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
小課題に沿って，発表の準備（発表後は期末レポートの作成）を進めること。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度(30%)，小課題(30%)，発表(20%)，期末レポート(20%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，あるいは発表・小課題・期末レポートのいずれか一つを完全に放棄した場合，成績評価の対象としません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕
この授業を履修するにあたり，求める前提知識は，「ホームページを見ることができる」ことのみです。コンピュータ技術に関する高度な予備知識は必要ありません。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，プレゼンテーションとは
第２週　参考資料の調査方法（Web検索）
第３週　参考資料の調査方法（文献検索）
第４週　図書館及び，図書館資料の使い方
第５週　発表資料の作成方法（情報システムの分析：Facebook, mixi, Twitterの比較）
第６週　発表(例　どのような人がどのようにWikipediaを書いているか？）
第７週　発表(例　Yahoo知恵袋では，どのような人が質問・回答しているのか？）
第８週　発表(例　Andorid携帯のAndroidとは何か？）
第９週　発表(例　口コミサイトで得られる情報は，テレビや雑誌の情報とどのように違うか？）
第10週　発表(例　毎日100以上のサイトを効率的にチェックするには？）
第11週　発表(例　Amazonの優れているところはどこか？）
第12週　発表(例　削除されたウェブサイトを見るにはどうしたら良いか？）
第13週　発表(例　USBフラッシュメモリを使わずにデータを持ち運ぶには？）
第14週　発表(例　ネットならではの広告にはどのようなものがあるか？）
第15週　現代社会における情報システムの位置づけ：Googleが社会に与えた影響
発表テーマは教員が用意したものの中から，履修者が初回授業時に選択する。
上記の発表テーマは単なる例であり，履修者の人数等によって変更となる。

国際コミュニケーション基礎演習IIA・IVA

3620010200100

副　題	世界遺産という企画							担　当　者	M．ウーゴ　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	MSE-125-IX MSE-273-IX

〔授業の到達目標〕
世界遺産についての知識を深めつつ，調べる力を身につけること。

〔授業の内容〕
世界遺産は「文化遺産」,「自然遺産」，そして「複合遺産」に区分されるが，それぞれはどのような遺産だろうか。まず，日本にはどのような世界遺産があるのかを見てゆく。日本の世界遺産を中心に，それらがどのような基準で選択され，世界遺産リストに推薦されたのかを深く理解する。さらに，既に登録された日本の世界遺産だけではなく，推薦されたけれど登録されなかった遺産，また，これから推薦されようとしている遺産を検討し，日本国内の文化財としての価値だけではなく，その世界的な意義までを理解する。学生は小グループに分かれ，グループごとに世界遺産に関して調査し意見交換を重ねる。そうした成果を定期的にレジメや小論文としてまとめ，発表し，選んだテーマについて調べる力を高めてゆく。

〔教材〕
参考書：佐藤望（編）『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』第二版，慶應義塾大学出版会，2013年
日本ユネスコ協会連盟（編）『世界遺産年報』講談社、エイジャ，1997年～

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
出席と授業への参加の姿勢（積極性）［10%］，レポートやレジメ［50%］発表［40%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水・5限
OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
この授業を選択する学生は，文献やインターネットを通じた情報収集だけではなく，あらゆる自然遺産や文化財を訪れ，実際に鑑賞することを求める。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　日本の文化遺産と自然遺産　1
第3週　日本の文化遺産と自然遺産　2
第4週　日本の文化遺産と自然遺産　3
第5週　発表・討論
第6週　〃
第7週　〃
第8週　日本の世界遺産暫定リスト　1
第9週　日本の世界遺産暫定リスト　2
第10週　日本の世界遺産暫定リスト　3
第11週　発表・討論
第12週　〃
第13週　〃
第14週　日本の世界遺産と外国の世界遺産
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IIC・IVC

3620010200300

副　題	International Business (This seminar will be conducted in English)							担　当　者	金城　亜紀　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	MAN-127-IX MAN-275-IX

〔授業の到達目標〕
1. 国際ビジネスの基礎知識を修得する。
2. グローバルなビジネス・政治経済の動向について，自分で考え，意見を形成し，主張できるようになる。
3. 大量の英文を読み，それについて分かりやすく英語でプレゼンテーションできるようになる。

〔授業の内容〕
1. 米国の標準的な大学用の教科書を用います。
2. 英語で学生がチーム毎に発表することを軸に演習を進めます。発表しない方にも発言することを求めます。
3. 詳細なスケジュールを演習開始時に配布しますので，必ず出席してください。

〔教材〕
参考書：Daniels, Radebaugh, Sullivan, *International Business - Environments and Operations*, 15th Edition, Pearson Education, 2015
必用に応じて参考資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
・グループでの発表の準備：3回以上（各10時間程度）
・予習：毎回（各2時間程度）
・学期末課題：10時間程度

〔成績評価の方法〕
グループでの発表：40%
Class contribution: 30%
学期末課題：30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
木曜日12：20～13：20（4222研究室）

〔備考〕
・予備知識は必要ありませんが，しっかり勉強されることを前提として演習を進めます。（準備学習に必要な時間を確保できない方には向きません）。
・演習に積極的に取組み，お互いに高め合いながら，楽しく勉学する意欲のある方を歓迎します。

〔授　業　計　画〕

第1週　Kick-off
第2週　1. Ethics and Social Responsibility
第3週　同上
第4週　2. Strategies for International Business
第5週　同上
第6週　3. Evaluation of Countries for Operations
第7週　同上
第8週　4. Modes of Trading Internationally
第9週　同上
第10週　5. Forms and Ownership of Foreign Production
第11週　同上
第12週　6. The Organization and Governance of Foreign Operations
第13週　同上
第14週　7. Global Marketing
第15週　Wrap-up
・より良い演習にするために，本計画を変更することがあります。

国際コミュニケーション基礎演習IID・IVD

3620010200400

副　題	ヨーロッパ近現代史の諸問題							担　当　者	鈴木　珠美　講師
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ARE-128-IX ARE-276-IX

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパ，とくに中・東欧の近現代史に関する理解を深める。同時に，文献の読み方，事項の調べ方，そして論文の執筆に至る研究の手法を，具体例を参照しながら習得する。

〔授業の内容〕

19世紀後半から20世紀に至るヨーロッパ，とくに中・東欧のドイツ語圏の近現代史を取り上げる。多民族，多言語の帝国，戦争による国境の変更，国民形成，さまざまなマイノリティ，二度の世界大戦，ファシズムとナチズム，集団の強制的な移動といった，現代社会にも通じる諸問題の歴史的背景について，基本的な文献の精読をとおして理解を深める。

授業では，上記に関する複数の基本的な研究文献を輪読する。受講生は，文献の担当箇所についてまとめ，発表を行うものとする。その際，『アカデミック・スキルズ』の該当箇所を適宜参照して，研究の技法の基本事項についても確認しつつ授業を進める。

〔教材〕

教科書：佐藤望（編著）『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

参考書：大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一（編）『ハプスブルク史研究入門―歴史のラビリンスへの招待』第1版，昭和堂，2013年
マーク・マゾーワー著、中田瑞穂・網谷龍介訳『暗黒の大陸―ヨーロッパの20世紀』初版，未來社，2015年

授業で取り上げる論文は，担当教員が準備し，事前に配布する予定である。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書の該当部分を通読すること。また，事前に配布された論文を熟読し，授業中に自分なりのコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加（質疑応答を含む），担当箇所の発表，および指定された期限までに提出されたレポートを，総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業の前後に受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容の説明。発表と論文執筆の方法について。
第２週　第一次世界大戦前の中・東欧（１）
第３週　第一次世界大戦前の中・東欧（２）
第４週　第一次世界大戦前の中・東欧（３）
第５週　第一次世界大戦前の中・東欧（４）
第６週　第一次世界大戦と東・中欧における国民国家体制の成立（１）
第７週　第一次世界大戦と東・中欧における国民国家体制の成立（２）
第８週　大戦間期の中・東欧（１）
第９週　大戦間期の中・東欧（２）
第10週　ナチズム，ファシズムと戦争（１）
第11週　ナチズム，ファシズムと戦争（２）
第12週　第二次世界大戦前後の中・東欧（１）
第13週　第二次世界大戦前後の中・東欧（２）
第14週　総評
第15週　理解度の確認
受講生との相談により，順番等を変更することもあります。

国際コミュニケーション基礎演習IIE・IVE

3620010200500

副　題	文明の衝突か共生か							担　当　者	畠山　圭一　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	POL-129-IX POL-277-IX

〔授業の到達目標〕

文献購読を通じて，国際関係・異文化交流に関する課題を理解するとともに，文献調査，理論分析，調査内容報告，討論に関する基本的手法を身につける。

〔授業の内容〕

冷戦終結以来，国際社会における紛争や摩擦は国家，民族間の文化的価値観の相違に起因するものが多発するようになっている。今後の国際関係を理解し，国際紛争や国家・民族間の摩擦を解決するには，国際社会の主体である各々の国家が，相手の固有文化とその反映としての政治的特色に対する理解を深めることが必要である。本演習では，世界的大論争を巻き起こした『文明の衝突』（サミュエル・ハンチントン）の問題提起を手がかりに，異文化，異文明の交流について考察する。また西欧と非西欧（特に日本，中国）の文明，文化の比較を通じて両者の異質性や同質性を探り，今後の国際関係における課題を考えてみたい。

〔教材〕

教科書：サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストの該当箇所を読み，自らの課題を用意して臨むこと。思考力，分析力の養成が主眼であるため，事前，事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習，復習には十分な時間(標準は各2時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕

出席状況，演習参加の積極性，報告内容，リポート等によって総合的に評価(出席状況の配点は2割，リポートの配点は4割，その他4割)し，60点以上を合格とする。欠席について，無断欠席2回，連続3回の欠席，総計4回の欠席のいずれかに該当する場合には即刻，受講停止とするので，注意されたい。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火4限又は随時。連絡方法は初回授業で指示する。

〔備考〕

読書三昧の半年間となる。政治や国際関係に関する高い関心と使命感を持つ有為の学生を求める。

〔授　業　計　画〕

第1週　導入講義　文明から見た世界
第2週　テキスト輪読
第3週　テキスト内容報告と討論
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括講義

国際コミュニケーション基礎演習IIF・IVF

3620010200600

副　題	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	担　当　者	J．F．モア　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ENG-130-IX ENG-278-IX

〔授業の到達目標〕

The goals of this class are to become more comfortable speaking and writing about Japan in English, and to become more aware of the differences in the ways people communicate in Japanese and in English.

〔授業の内容〕

外国人に日本について説明する場合，表現に苦心する原因の１つは，風土，文化，習慣の違いが多くて，適切な言葉が見出せないことにある。この演習の目的は，日本的な物や習慣について英語で読んだり書いたりすることによって，自分のまわりの日本的世界を英語で表現出来るようになることである。その際に必要になる「定義をするための英語」と「過程を描写し，やり方を説明する英語」のパターンは基本的なものである。しかも，英語の学術論文にもよく利用されているものでもあり，使いこなせるようになると後々まで便利である。

演習中で読むテキストは日本語と英語を比較し，その違いを学習者としてどう対応すべきかをテーマにしている。学生がするプレゼンテーションでは，テキストのサマリーを用意して，クラスメートの理解を確認して，意見を英語で聞き出そうとする。この二つの作業，英作文と英文の　reading and discussionを平行した授業になる。授業は英語で行う。

〔教材〕

教科書：*Handouts will be given in class*

教科書は授業中に指示，配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of reading and two paragraph comment for class discussion.
Preparation for presentation (8 hours).
Preparation for examination (7 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and participation in class discussion 30%；　presentation 20%；　weekly written assignments 25%；　final examination 25%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第１週　Getting acquainted and presentation scheduling
第２週　Presentations and discussion　ものの定義をする練習
第３週　〃
第４週　Presentations and discussion　意見を述べる練習
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　Presentations and discussion　比較をする練習
第９週　〃
第10週　〃
第11週　Presentations and discussion　過程・やり方を説明する練習
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　Final discussion
試験期間に期末試験を行う。

国際コミュニケーション基礎演習IIG・IVG

3620010200700

副　題	地球環境問題と国際コミュニケーション							担　当　者	荘林　幹太郎　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENV-131-IX ENV-279-IX

〔授業の到達目標〕
「根拠」を特に必要としない『感想文』を書くことから，「根拠」を踏まえた大学生としての『レポート』を書くことに転換する(これまでの経験則からは，毎回の課題に真摯に向き合った学生はそれに成功すると確信している)。

〔授業の内容〕
本基礎演習では，地球温暖化をはじめとする地球環境に関わる問題を事例として，国際コミュニケーションに必要な基本的技術，とくに論理的に考え，書き，発表する技術を学ぶ。
具体的には，５週目までの毎回の演習において，講師から地球環境問題の事例について紹介し，受講生はそれをもとに２～３パラグラフの文章を書き，その詳細な添削を受けることによりパラグラフの基本的な書き方を身につける。そのうえで，６週目以降に，論点（テーマ）を設定したうえで，それを根拠によって論理的に支える文章を書く練習を行う。10週目以降にそれを数ページのレポートにまとめ発表する。

〔教材〕
教科書：ティモシー・W. クルーシアス、キャロリン・E. チャンネル『大学で学ぶ議論の技法』慶應義塾大学出版会，2004年
『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版，2006年
「大学で学ぶ議論の技法」はぜひとも長く手元に置いて欲しい。社会人になった後も必ず役に立つと思う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
2週間に１回を基本として３パラグラフ程度のレポートを課す（平均すると毎週４時間程度の負荷のイメージ)。

〔成績評価の方法〕
２週間に１回程度出題される小メモ（２～３パラグラフ）の宿題（40%），授業における発言等（20%），最終レポート（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
毎週水曜日昼休み
mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕
授業内容について質問がある場合には，mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　地球環境問題を事例としたパラグラフライティングの練習
第３週　同上
第４週　〃
第５週　〃
第６週　レポートライティングについての基本的ルール：テーマの設定と根拠
第７週　事例演習
第８週　同上
第９週　〃
第10週　〃
第11週　レポート最終発表
第12週　同上
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IIH・IVH

3620010200800

副　題	マイノリティの歴史と現在							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SOC-132-IX SOC-280-IX

〔授業の到達目標〕

民族的・言語的・宗教的マジョリティの歴史的生成と，彼らが抱える現在の問題について学ぶ。

〔授業の内容〕

世界にはさまざまなマイノリティ（少数派）が暮らしています。民族的・言語的・宗教的にマジョリティ（多数派）と異なる彼らは，過去には社会から排除されたり，強制的に同化させられたりしました。この授業では，主にヨーロッパと北米のマイノリティを取り上げ，その歴史，現在の彼らを取り巻く社会状況，差別の構造などについて考えます。

授業では，配布したテキストを読み，特定のマイノリティについて自分で調べ，報告します。この後，報告したテーマでレポートにまとめます。さらに，参加者は新聞に目を通し，マイノリティに関連した記事を持参することが求められます。

〔教材〕

テキストを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲･貢献度（40点），報告（20点），レポート（20点），新聞の切り抜き（20点）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜の４時限後の30分。
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は主席点が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　「マイノリティとは何か」：報告者の決定
第２週　テキスト解説
第３週　〃
第４週　〃
第５週　報告＋解説
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　関連する映画鑑賞
第11週　報告＋解説
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
計画通りいかないこともあります。

国際コミュニケーション基礎演習II I・IV I

3620010200900

副　題	歴史社会学および東アジア地域研究							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-133-IX HIS-281-IX

〔授業の到達目標〕
歴史社会学の研究方法の概略を理解し，地域研究の意義や方法についても基礎的な知識を得る。アウトラインの作成方法，レポートの作成方法，プレゼンテーションの作法についても学ぶ。

〔授業の内容〕
歴史と聞くとナポレオン，毛沢東，始皇帝…のような「有名人」を思い浮かべるかもしれませんが，私たちが普段何気なく生活している「社会」もまた歴史研究の対象となります。さまざまな社会現象には，かならず歴史的な背景があります。本演習では，歴史的な視点から社会について学ぶ歴史社会学の考え方を習得し，それを日本，中国，韓国などの東アジア地域研究のなかでどのように実践するのかについて学びます。
担当者（金野）がフィールドとしているのは中国をはじめとする東アジア地域ですが，歴史社会学に関心がある学生であればヨーロッパなど他の地域をテーマに報告しても構いません。

〔教材〕
授業時にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前に配布されるコースパックを熟読し，内容をまとめておくこと。また授業では，内容に関して意見を求められることもあるので，自分なりの考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕
出席を重視する。成績は，報告内容（40%），授業参加（40%），レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜３限
授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）

〔備考〕
本演習は，３年次以降の専門研究をおこなうための基本的方法を学ぶ場として位置づけられる。したがって本演習担当教員のゼミナールを希望する学生は受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　歴史社会学と地域研究
第３週　歴史をどのように研究するのか？（１）　―研究の作法
第４週　歴史をどのように研究するのか？（２）　―日本，中国，韓国，カンボジアを事例として
第５週　報告とディスカッション
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション基礎演習IIK・IVK

3620010201100

副　題	東アジアにおける人の移動と文化交流									担　当　者	羅　京洙　准教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ARE-135-IX ARE-283-IX

〔授業の到達目標〕

東アジアの国際関係を，人と文化の移動と交流という観点から分析し，そこから見えてくる東アジアという地域の「実態」を把握することを試みる。

〔授業の内容〕

グローバリゼーションが進む中，今日の東アジア地域では，近代の産物である国民国家の領土範囲に必ずしも収まらない個人や民族（エスニック・グループ）のような超国家的存在への関心がますます高まっている。「国民」という美名のもとに国家の枠内に閉じ込められて外部世界から孤立してきた様々な個人や民族は，東アジア国際関係の変容を自覚し，国境という物理的･心理的境界を越える移動と交流を繰り広げている。本演習では，東アジアの人々が国家，国境，国民，民族といった既存の体制や概念を如何に揺るがし，新たな地域空間とそこでの共通の地域的アイデンティティを創る担い手としてどのような役割を果たしているのかを理解する。また本演習では，国境を越える人々の移動によって文化の移動，さらには文化の交流と創造が行われるという構造とその事例についても一緒に学ぶ。なお，本演習は，大学生にとって必須のアカデミックな思考法と方法論をふまえつつ，（１）担当教員による講義，（２）関連文献の輪読，（３）学生によるプレゼンテーションを軸に進める。

〔教材〕

教科書：佐藤望編著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第２版，慶應義塾大学出版会，2012年

その他の参考文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定したテキストや参考資料をあらかじめ読んだ上で，毎回の演習に臨むこと。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度・貢献度（30%），プレゼンテーション（30%），課題・レポート（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

演習の内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　アカデミックな思考と方法（１）
第３週　アカデミックな思考と方法（２）
第４週　講義：東アジアにおける人と文化の国際移動
第５週　講義：人の移動と多文化共生＜日本篇＞
第６週　講義：人の移動と多文化共生＜韓国篇＞
第７週　文献講読と討論（１）
第８週　文献講読と討論（２）
第９週　文献講読と討論（３）
第10週　プレゼンテーションと討論（１）
第11週　プレゼンテーションと討論（２）
第12週　プレゼンテーションと討論（３）
第13週　プレゼンテーションと討論（４）
第14週　プレゼンテーションと討論（５）
第15週　総合討論・総括

国際コミュニケーション基礎演習IIL・IVL

3620010201200

副　題	ヴェネツィア共和国とコルテジアーナ―ヨーロッパ女性史							担　当　者	根占　献一　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	GEN-136-IX GEN-284-IX

〔授業の到達目標〕

歴史を知ることで，自分という存在を考えられうる視点を養うこと

〔授業の内容〕

学問や文学の世界で女性が活躍するようになったのは，ヨーロッパでも必ずしも昔からではない。ルネサンス時代に次第に男性と張り合う知的な女性が現れてきた。アドリア海の女王，ヴェネツィア共和国にはcortegiana onestaと呼ばれる「職業婦人」がいた。その一人がヴェロニカ・フランコである。

彼女に関わるテクストー研究者の解説と彼女の手紙ーを読みながら，ヨーロッパ文化や歴史への貢献を考えていきたい。テクスト（英文）は易しくないうえに，古典語のみならず，イタリア語を始めとするヨーロッパ近代の各国語が出てくる可能性があるが，多様なヨーロッパ各国語を考える機会にしてほしい。

〔教材〕

テクスト教材（英文）はこちらで準備する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

最低各２時間以上。

〔成績評価の方法〕

発表（40%），授業への参加意欲・貢献度（40%），レポート（20%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問などがある場合には，月曜日12時45分から13時半の間に研究室を訪ねること。ただし，前もって学科事務室に希望の日にちに関して連絡をとっておくほうが望ましい。

〔備考〕

映像資料多用。

〔授　業　計　画〕

第１週　序―歴史の中の女性
第２週　オリエントとヨーロッパ間のヴェネツィア
第３週　テクストに基づく各自の発表
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　映像資料
第14週　〃
第15週　結―まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IIM・IVM

3620010201300

副　題	現代社会の法的分析（国際法と国内法）	担　当　者	櫻井　大三　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	LAW-137-IX LAW-285-IX

〔授業の到達目標〕
現実の社会で問題となっている事件・事象の中から法的な問題点を抽出し，その問題の所在を明らかにするとともに，その解決の在り方を展望することができるようになること。

〔授業の内容〕
本演習では，諸君が日々の新聞報道で接した事件・事象を法的な視点から眺めるとどうなるのかを自問し，その疑問に対して自ら答えを探り当てるべくさまざまな調査・検討を行い，その結果をプレゼンテーション形式で報告して頂く。
したがって，当然のことながら，受講生は，日々新聞の社会面・国際面に目を通し，世の中の動きを把握することが求められる。新聞で報じられる事件・事象には，何らかの形で法律との接点を含んでいるものが少なくない。新聞という法律問題の宝庫から適当な記事をピックアップし，「なぜこうなるのだろう」という素朴な疑問をもち，そのような疑問に対する答えを自分なりに探り当てることが，受講生の課題である。
授業の進め方は，新聞記事を素材とした報告と，それに対する質疑応答（討論）が中心となる。取り上げる題材は法律問題が望ましいが，社会問題として議論に値するものであれば，それも可とする。

〔教材〕
教科書：佐藤望『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
１．予習120分：指示された新聞記事を熟読し，プレレジュメ記載の複数の参考文献に当たりながら，疑問点を質問できるように準備しておくこと（報告者は，別途指示された要領により報告原稿，レジュメを準備すること）。
２．復習120分：報告者は，討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて，報告原稿を加筆修正したレポートを作成すること。

〔成績評価の方法〕
（１）毎回の出席，討論への参加（以上を平常点として50％程度）。
（２）割り当てられた報告の実施およびレポートの提出（50％程度）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
毎週月曜日の放課後，もしくは，毎週金曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
電子メールによる（メールアドレスは，学科事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
本演習への参加の前提として，受講生には，『アカデミック・スキルズ』を読了し且つその内容を十分理解していることが求められる。本書は，報告テーマの決め方，資料の探し方・分析の仕方・まとめ方，文章の書き方，プレゼンテーションの仕方について説明した，いわば本演習を実践するうえでの手引書である。
受講生には，「法学II」および「国際法I・II」を並行して履修することを強く推奨する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　演習の受け方・心得等
第３週　『アカデミック・スキルズ』について
第４週　受講生による個別報告（１）
第５週　受講生による個別報告（２）
第６週　受講生による個別報告（３）
第７週　受講生による個別報告（４）
第８週　受講生による個別報告（５）
第９週　受講生による個別報告（６）
第10週　受講生による個別報告（７）
第11週　受講生による個別報告（８）
第12週　受講生による個別報告（９）
第13週　受講生による個別報告（10）
第14週　受講生による個別報告（11）
第15週　受講生による個別報告（12）
平素から新聞を読む習慣を身につけ，関心のある事件・事象に注目し，どのようなテーマについて報告をしたいのかを熟考してもらいたい。

国際コミュニケーション基礎演習IIN・IVN

3620010201400

副　題	世界の住まい							担　当　者	乾　尚彦　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ARE-138-IX ARE-286-IX

〔授業の到達目標〕

世界の住まい研究に必要な基礎的な技術を習得する。

〔授業の内容〕

世界各地には，様々な形式の住居とそれに関わる文化がある。そうした比較居住文化研究の基礎として，世界各地の伝統的な住文化がどのようなものかを調べる。毎回，発表者は，担当地域の文献を探し，それを読み，レジュメにまとめて報告するというのが基本である。それらを通して，文献や資料探索の方法を学び，研究史や研究機関，研究者，基礎文献を把握する。また，資料を扱う上で問題となる引用の方法，著作権の扱い，発表・プレゼンテーションの技術についても学んでいく。

〔教材〕

教科書：OLIVER, Paul（ed.）, *Encyclopedia of Vernacular Architecture of the World*, Cambridge University Press, 1997

英文の教科書は，国際コミュニケーション学科事務室に保管してあるので，各自，それを閲覧する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

報告者はレジュメの作成。その他は，内容に関する事前学習。

〔成績評価の方法〕

レポート，出席，発表の内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　住文化の見方・調べ方
第２週　発表者が選択した地域の報告
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　まとめ１
第15週　まとめ２

国際コミュニケーション基礎演習IIO・IVO

3620010201500

副　題	イギリス文化展望							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-139-IX ENG-287-IX

〔授業の到達目標〕

授業におけるテキスト講読，発表その他のアクティヴィティをとおして，英語力を養うと同時に英国に関する様々な文化を理解し，自国の文化との比較考察を目標とする。

〔授業の内容〕

私たちが外国語として学ぶ英語は，もともとは日本の面積の約３分の２という小さな島国イギリスの言葉でしかなかったが，およそ1500年の歴史を経て，今や国際語，世界の共通語となっている。ではその英国はどのような歴史を経て今日に至ったのか，そこに生きる英国人はどのような考え方をするのか，また英国人が生み出した英国文化とはどのようなものか，様々なトピックからこの問題を考察しながら，同時に同じ島国である日本とその文化，考え方との違いを観察してほしい。テキストをとおして，英国の歴史・地理および様々な文化に触れる。また発表（プレゼンテーション）の実践をとおして「人前で話す」訓練なども行う。

〔教材〕

教科書：Ian Dennis, Kimie Saito, Ritsuko Miyake, *Facets of Britain*, 朝日出版社, 2006

宗教改革～産業革命～２つの世界大戦の時代をとおして現代にいたる英国の歴史と文化に触れる内容を平易な英語で理解する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に各２時間以上を必要とする。

〔成績評価の方法〕

期末試験だけでなく通常の授業時における様々なactivities（発表やレポート）の取り組み方も評価の対象とする。評価の割合は試験(70%)，発表(20%)，授業への参加意欲・貢献度(10%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３～４時限，
メールまたは学科事務室を通じて

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　学外見学授業（早稲田大学演劇博物館）
第３週　Chapter 1 Celtic Britain
第４週　Chapter 2 Roman Britain
第５週　Chapter 3 Anglo-Saxon Britain
第６週　Chapter 4 The Norman Conquest
第７週　Chapter 5 Medieval Britian
第８週　Chapter 6 The Coming of Christianity Britain
第９週　Chapter 7 Church and State and the Dissolution of the Monasteries
第10週　Chapter 8 The Industrial Revolution
第11週　Chapter 9 Legends and Stories
第12週　Chapter 10 The English Love of Nature
第13週　Chapter 11 Churchill, Chartwell and Blenheim
第14週　Chapter 12 Preserving the Past
第15週　Mother Goose Presentation

上述の授業計画にある第３週～14週は，テキストに基づいてグループによる発表（プレゼンテーション）を行う。

国際コミュニケーション基礎演習IIP・IVP

3620010201600

副　題	世界のことばと社会							担　当　者	工藤　晶人　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	HIS-140-IX HIS-288-IX

〔授業の到達目標〕

フランス語圏を主な事例として，ヨーロッパ，アジア，アフリカのさまざまな地域における言語と社会の関わりを理解する。

〔授業の内容〕

私たちの社会はことばによって支えられている。世界の歴史を考えたり，移民などの現代的現象を理解するためにも，言語と社会のかかわりを知ることは重要である。本科目では，そうしたテーマにかかわる基本的な考え方を学び，さまざまな地域の事例についてグループ報告とディスカッションを行う。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読と発表準備

〔成績評価の方法〕

報告内容とレポート（60%），授業参加の積極性（40%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日の昼休み
授業中に指示する。

〔備考〕

３年次以降に本演習担当教員のゼミナールを希望する学生は本科目を受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション・報告の仕方
第２週　概説―ヨーロッパの言語と社会
第３週　概説―中東・北アフリカの言語と社会
第４週　概説―サハラ以南アフリカの言語と社会
第５週　文献購読・発表・ディスカッション
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション基礎演習IIQ・IVQ

3620010201700

副　題	国際協力							担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INR-141-IX INR-289-IX

〔授業の到達目標〕
国際協力の現場における「外部者」の役割を考察する

〔授業の内容〕
阪神・淡路大震災で，日本各地から数多くの一般人のボランティアが個人として救援活動に従事し，「ボランティア」という言葉が一躍注目された。それと同時に，非営利組織（NPO）や非政府組織（NGO）の活動，役割も評価されはじめ，98年には非営利活動を活発にする1つの方策としてNPO法が施行された。このようにボランティアやNPO・NGOへの人々の関心は日本の国際協力という分野の発展においても貢献し，より多くの日本人が専門家，ボランティアとして世界各地で活躍し，また，徐々にではあるが，これらの活動に対する寄付文化も発展しつつある。しかしながら，戦後半世紀以上にわたって取り組まれ続けてきている世界の貧困をはじめとした問題は解決するばかりか，貧富の格差，環境問題といったように問題は深刻化し，山積み状態である。いわゆる学歴が高い専門家が従事している活動が必ずしも問題解決につながらないその原因を，国際協力の現場における「外部者」の役割を議論しながら考える。

〔教材〕
教科書：伊勢崎賢治『国際貢献のウソ』ちくまプリマー新書，2010年
プリント教材は初回授業で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
各回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には4時間費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕
課題1および2　20%，Code of Conduct 30%，国際貢献関連　35%，授業への参加意欲他15%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
第1回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合，必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて，授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授　業　計　画〕

第1週　INTRODUCTION
第2週　ディスカッション課題1
第3週　ディスカッション課題2
第4週　Code of Conduct I
第5週　Code of Conduct II
第6週　Code of Conduct III
第7週　「国際貢献のウソ」
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　レポートフォローアップ
第15週　まとめ
初回授業で発表等の順番を決めます。

国際コミュニケーション基礎演習IIR・IVR

3620010201800

副　題	コミュニケーションを考える							担　当　者	逢坂　巌　講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	PSY-142-IX SOC-290-IX

〔授業の到達目標〕

コミュニケーション論の基礎をつかむ。読書の仕方や議論，発表のやり方なども理解体得する。

〔授業の内容〕

コミュニケーションとは，日常でもよく使われている言葉だが，いろいろ考えるとよくわからない。本演習では，そのコミュニケーションについて，特に基礎的な成り立ちや様々な様相に関して，教科書を全員で読みながら，議論をし，考えていく。参加者には事前に教科書の該当部分を読み，ゼミの中では内容について議論をおこなうことが求められる。

〔教材〕

教科書：辻大介・是永論・関谷直也『コミュニケーション論をつかむ』（テキストブックス［つかむ］）初版，有斐閣，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教科書の各項目を事前に読んでくること。

〔成績評価の方法〕

出席（20%）。授業での発表と議論への参加などの授業への貢献（60%），期末の発表（20%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　オリエンテーション
第2週　コミュニケーションとは何か
第3週　ことばとコミュニケーション
第4週　ことば以前のコミュニケーション
第5週　身体とコミュニケーション
第6週　談話・文章を理解するメカニズム
第7週　会話のダイナミクス
第8週　文字のコミュニケーション
第9週　映像のコミュニケーション
第10週　自己とコミュニケーション
第11週　社会関係とコミュニケーション
第12週　親密性とコミュニケーション
第13週　都市空間とコミュニケーション
第14週　発表
第15週　まとめ

国際コミュニケーション基礎演習IIT・IVT

3620010202000

副　題	経済記事の読み方							担　当　者	佐久間　潮　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ECO-144-IX ECO-292-IX

〔授業の到達目標〕

経済の基礎知識および考え方を身につけること。それを基に新聞や雑誌に掲載される経済記事の内容を大筋で理解できるようになること。

〔授業の内容〕

その時々で話題になっている経済記事を読み，経済に関する基礎知識と経済的考え方を身につけるべく，学生は事前に配布された記事を読み，自分で調べ，理解したうえで，その内容について授業で発表する。この発表を基にコメント，ディスカッション，を行い，より正確な知識の習得と経済論理的思考力を養う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各 2 時間

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲と貢献度（30%）とテスト（70%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日 3 時限
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第 1 週　基礎演習の進め方に関するオリエンテイションと第 2 週以降に使用する資料の配布。
第 2 週　事前に配布された経済記事について学生が調査報告を行う。この発表を基にコメント，ディスカッション，を行う。
第 3 週　同上
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション基礎演習IIU・IVU

3620010202100

副　題	体験学習と人間関係コミュニケーション	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-145-IX LIF-293-IX

〔授業の到達目標〕

１．人間関係を構築するために必要なコミュニケーション能力，ファシリテーション能力の基礎を習得する。

２．他者とコミュニケーションをするときに重要な事項や問題点について認識できる。

３．授業中に行われるファシリテーションについて，批判的な視点でフィードバックすることができる。

４．授業中に体験し，発見したコミュニケーションの重要点とその活用について，文章で適切に表現することができる。

〔授業の内容〕

１．体験学習と問いかけ

いろいろな体験学習法に基づいたアクティビティやコミュニケーションの活動を体験し，体験学習法の基礎を学ぶ。

２．体験学習と人間関係コミュニケーション

学びかた・教えかたハンドブックなどを用いて，セルフ・エスティームを育てるための活動，コミュニケーション能力を高める活動，協力できる力を育てる活動などを体験する。

３．体験学習と振り返り

上記１と２の体験から，どのようなことが認識されたのか？どのような活動が有効か？実践したい活動はどれかなどを議論した後，グループごとに人間関係コミュニケーションプログラムを実践し，ファシリテーターとして指導体験する。その後，振り返りなどから改善プログラムを提案する。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

図書館での文献検索方法を習得し，コミュニケーションに関する雑誌記事や図書を収集し，コミュニケーションの重要性をいろいろな角度で認識する必要がある。ファシリテーションの前後には，文献による予習と復習が必須である。そのために４時間程度の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕

１．出席状況および授業への貢献度（積極的な授業参加）25%

２．授業におけるファシリテーション　20%

３．授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得た概念を文章表現する振り返りレポートと授業中のファシリテーションに対して，批判的な視点からの評価レポート25%

４．担当課題に対する総合レポート（参考文献を必ず入れること）30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限（14：40-16：10）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕

日本文化専門演習や国際コミュニケーション専門演習で実施するフードコンシャスネス教育の体験（食に関する官能検査やアンケート，試食体験など）を随時実施することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　コミュニケーションとは！　体験学習とは！
第２週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーション　アイスブレーキング他
第３週　自己能力判断　人間関係コミュニケーション　自己のコミュニケーションにとって何が必要か？　得意と不得意なところ
第４週　活動体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践　レポートの書き方
第５週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践１
第６週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践２・３
第７週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践４・５
第８週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践６・７
第９週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践８・９
第10週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践10・11
第11週　指導体験　人間関係コミュニケーションとファシリテーションの実践12
第12週　活動体験　フードコンシャスネス教育の体験
第13週　〃
第14週　プログラムの振り返りおよび改善プログラムの作成とその実践
第15週　まとめ

できるだけ早期に文献を検索し,問題意識を持つこと。授業計画で実施される内容は個々のコミュニケーション能力を鍛えるための実習形式のものである。

国際コミュニケーション基礎演習ⅡX・ⅣX

3620010202400

副　題	ウェブ上の情報システム							担　当　者	江藤　正己　専任講師		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	INF-148-IX INF-296-IX

〔授業の到達目標〕
現代社会における情報システムの意義や位置づけを考察できるようになる
調べたことを他人に分かり易く伝えるためのプレゼンテーション能力を修得する
資料を効率よく検索し，適切に利用できるようになる

〔授業の内容〕
私たちの身の回りには，TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ，Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い，ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり，情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。現代社会を生きていく上で，情報システムを理解し活用する能力は不可欠といえます。
しかしながら，多くの人は情報システムのごく一部をただ「なんとなく」使っているにすぎません。この授業では，普段利用している情報システムの仕組みをユーザーとして知っておくべき範囲で扱うとともに，さらに一歩進んだ情報システムの活用方法をとりあげます。
授業では，主に次の三つの作業を求めます。（１）情報システムの特徴や活用方法等について，小課題に沿って担当教員と相談しながら調べる。（２）調べた内容について，パワーポイント等を用いて，他の履修者に向けて発表する。発表者以外の履修者は，発表内容に対してコメントを書き評価する。（３）期末レポートを作成する。

〔教材〕
参考書：NHKスペシャル取材班『グーグル革命の衝撃』（新潮文庫）新潮社，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
小課題に沿って，発表の準備（発表後は期末レポートの作成）を進めること。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度(30%)，小課題(30%)，発表(20%)，期末レポート(20%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，あるいは発表・小課題・期末レポートのいずれか一つを完全に放棄した場合，成績評価の対象としません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕
この授業を履修するにあたり，求める前提知識は，「ホームページを見ることができる」ことのみです。コンピュータ技術に関する高度な予備知識は必要ありません。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，プレゼンテーションとは
第２週　参考資料の調査方法（Web検索）
第３週　参考資料の調査方法（文献検索）
第４週　図書館及び，図書館資料の使い方
第５週　発表資料の作成方法（情報システムの分析：Facebook, mixi, Twitterの比較）
第６週　発表(例　どのような人がどのようにWikipediaを書いているか？）
第７週　発表(例　Yahoo知恵袋では，どのような人が質問・回答しているのか？）
第８週　発表(例　Andorid携帯のAndroidとは何か？）
第９週　発表(例　口コミサイトで得られる情報は，テレビや雑誌の情報とどのように違うか？）
第10週　発表(例　毎日100以上のサイトを効率的にチェックするには？）
第11週　発表(例　Amazonの優れているところはどこか？）
第12週　発表(例　削除されたウェブサイトを見るにはどうしたら良いか？）
第13週　発表(例　USBフラッシュメモリを使わずにデータを持ち運ぶには？）
第14週　発表(例　ネットならではの広告にはどのようなものがあるか？）
第15週　現代社会における情報システムの位置づけ：Googleが社会に与えた影響
発表テーマは教員が用意したものの中から，履修者が初回授業時に選択する。
上記の発表テーマは単なる例であり，履修者の人数等によって変更となる。

経営学I

3622005300100

副　題	経営学の基礎を学び、キャリアについて考える	担　当　者	金城　亜紀　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	MAN-101-IA

〔授業の到達目標〕

1．経営学の全体像とポイントを理解し，基礎的な知識を体系的に取得すること。
2．キャリア形成についての理解を深め，目標を設定できるようになること。
3．自信をもって人前で意見を主張し，建設的な議論ができるようになること。

〔授業の内容〕

春学期と併せて通年で完結する授業です。(経営学IIも受講することが望ましい)。
本授業ではディスカッションを重視します。授業に積極的に取組み，チームとしてお互いを高め，楽しく勉強する意欲のある方を歓迎します。

〔教材〕

教科書：上村、奥林、森田、竹林、他2名『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣，2007年
参考書：伊丹、加賀野『ゼミナール経営学入門』第3版，日本経済新聞出版社，2003年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習が大事です。各テーマ毎に教科書を熟読しノートにまとめると共に，キーワードを使いこなせるようにしてください。本授業の内容をしっかり理解するためには，概ね毎週３～4時間程度の準備学習が必要となります。

〔成績評価の方法〕

授業内容の確認（70%），宿題（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日：12：20～13：20 (4222研究室)

〔授　業　計　画〕

第１週　Kick-off
第２週　モチベーション
第３週　欲求とリーダーシップ
第４週　雇用システム
第５週　非正規雇用
第６週　報酬制度
第７週　日本的雇用の変化
第８週　人材育成制度
第９週　グローバル人材
第10週　若者と労働
第11週　人工知能のインパクト
第12週　女性のキャリアについて考える
第13週　21世紀のキャリア形成
第14週　会計のつかみ
第15週　Wrap-up
授業をより良くするために，本計画を変更することがあります。

※マーケティングI

3622005500100

副　題	消費財マーケティングの基礎理論							担　当　者	田島　博和　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	MAN-202-IA

〔授業の到達目標〕

消費財を扱うメーカーや小売業者のマーケティングに関する基礎的な概念や理論を理解する。

〔授業の内容〕

消費財を扱うメーカーや小売業者のマーケティングに関する基礎的な概念や理論について，具体的な例を挙げながら，そしてお互いの関連を明確にしながら講義します。

〔教材〕

参考書：和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略』（有斐閣アルマ）第4版，有斐閣，2012年

以下のホームページから資料をダウンロードして下さい。http://www.tku.ac.jp/~htajima/lecture.html

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習：前回のノートおよび資料を見返す。予習：資料の該当箇所を読む。必要な時間：各2時間以上。

〔成績評価の方法〕

期末試験の点数と授業中の発言点の合計によって評価します。なお発言点については，一回目の授業で説明します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールで連絡して下さい。htajima●tku.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　オリエンテーション
第2週　マーケティングを学ぶための予備知識
第3週　マーケティングの定義
第4週　ポジショニング
第5週　マーケティング環境
第6週　製品戦略
第7週　価格戦略
第8週　販売促進戦略
第9週　流通戦略
第10週　マーケティング戦略のダイナミクス：新製品のマーケティング戦略と製品ライフサイクル
第11週　顧客関係性管理
第12週　マーケティングのグローバル化
第13週　データを活用したマーケティング（1）
第14週　データを活用したマーケティング（2）
第15週　まとめ

地域研究基礎論I（第三世界）

3622011100100

副　題	中・東欧研究概論（1）							担　当　者	中島　崇文　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ARE-103-IA

〔授業の到達目標〕
地域研究の基本的な考え方を，中・東欧を事例として修得し，世界のその他の地域にも応用できるようになることを念頭に置いている。また，本学の協定校の比較的多い中・東欧に受講生が関心を持つようになることを期待している。

〔授業の内容〕
地域研究の基本的な考え方を概観した後，その具体例として中・東欧に関し，できるだけ多様な観点からおおむね時系列で講義する。春学期は主に20世紀初頭までの時代を扱う。

〔教材〕
教科書：柴宜弘編著『バルカンを知るための65章』（エリア・スタディーズ48）明石書店，2016年
小森宏美編著『エストニアを知るための59章』（エリア・スタディーズ111）明石書店，2014年
毎週，授業時にレジュメを配布し，これに基づいて講義する。世界史の知識が乏しい者は高校の世界史の教科書に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業で用いるレジュメは原則として前の授業で配布するので，事前にしっかりと目を通しておくこと。また，教科書の該当箇所は毎週のレジュメの末尾に明記しているので，こちらも事前に読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕
論述式の期末試験の点数（約50%）と毎週の授業終了時に提出していただく感想文の点数（約50%）を合計して100点満点として算出する。受講者は毎週出席して当然との観点から，出席を点数化して加点するということは行わず，逆に１回の欠席につき７点の減点とする。遅刻した際には，その理由を証明する書類が提示されない限り，出席とはみなされない。受講態度に問題がある（私語，早退，居眠りなど）と判断される場合も大幅に減点される。受講生は遅刻せずに毎週出席するよう，最大限に努力すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは毎回のレジュメに記載している）。

〔備考〕
基礎科目群に属する授業科目であるので，できる限り１年次，さもなければ２年次に履修するのが望ましい。また，引き続き秋学期に地域研究基礎論IIを履修することが望ましい。中欧国際協力研修参加予定者，国際コミュニケーション学科の１，2年生で中島ゼミへの申請を検討している者は，地域研究基礎論I・II，東欧文化論，国際コミュニケーション基礎演習Dをできるだけ履修し，かつ，優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては，これらの授業を履修し，かつ，それらの成績の優秀な者が優先される）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明
第２週　学習院女子大学と中・東欧との関わり
第３週　地域研究とは何か
第４週　中・東欧の地理的概観
第５週　中・東欧の８か国による12年前（2004年５月１日）のEUへの加盟
第６週　中・東欧の地域概念―「中欧」,「東欧」とは何か―
第７週　中・東欧の民族移動の時代と建国―今でも語り継がれるタタール人の脅威―
第８週　中・東欧の中世における国王と民話―チェコ・アニメの巨匠が描いた国王の姿―
第９週　中・東欧の中世に西欧から移り住んだ人々―各地に残されたドイツ人の文化遺産―
第10週　中・東欧の中世における宗教の対立と共存―三十年戦争とクロアチアのネクタイ発祥伝説―
第11週　中・東欧の近代における民族意識の覚醒（１）―オスマン帝国支配下の諸民族の動向―
第12週　中・東欧の近代における民族意識の覚醒（２）―ロシア帝国支配下の諸民族の動向―
第13週　中・東欧の近代における民族意識の覚醒（３）―ハプスブルク帝国支配下の諸民族の動向―
第14週　中・東欧からの近現代における西欧や北米への移住，そしてアジアに足を運んだ中・東欧の人々―ドヴォルザークやマザー・テレサ及びその他の多数の移民―
第15週　総括

地域研究基礎論II（第三世界）

3622011200100

副　題	中・東欧研究概論（2）							担　当　者	石田　信一　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ARE-104-IA

〔授業の到達目標〕
地域研究の基本的な考え方を，中・東欧を事例として修得し，世界のその他の地域にも応用できるようになることを念頭に置いている。また，本学の協定校の比較的多い中・東欧地域に受講生が関心を持つようになることを期待している。

〔授業の内容〕
春学期に引き続き，20世紀から21世紀にかけての中・東欧を様々な側面から概観する。地域研究基礎論Iを履修していない者はシラバスにおける当該頁も参照すること。

〔教材〕
教科書：柴宜弘編著『バルカンを知るための66章（第２版）』明石書店，2016年
参考書：柴宜弘・石田信一編著『クロアチアを知るための60章』明石書店，2013年
柴宜弘・木村真・奥彩子編『東欧地域研究の現在』山川出版社，2012年
授業時にレジュメを配布し，これに基づいて講義する。世界史の知識が乏しい者は高校の世界史の教科書に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業で用いるレジュメは原則として前の授業で配布するので，事前にしっかりと目を通しておくこと。また，教科書の該当箇所は毎週のレジュメの末尾に明記しているので，こちらも事前に読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕
最後の授業時に実施する論述式の小テスト（40%），中間段階で提出を求める課題レポート（30%），毎週の授業終了時に提出を求める感想文（30%）を合計して100点満点として算出する。受講者は毎週出席して当然との観点から，出席を点数化して加点するということは行わず，逆に１回の欠席につき５点の減点とする。遅刻した際には，その理由を証明する書類が提示されない限り，出席とはみなされない。受講態度に問題がある（私語，早退，居眠りなど）と判断される場合も大幅に減点される。受講生は遅刻せずに毎週出席するよう，最大限に努力すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔備考〕
基礎科目群に属する授業科目であるので，できる限り１年次，さもなければ２年次に履修することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明
第２週　中・東欧と第一次世界大戦
第３週　中・東欧と両大戦間期の諸問題
第４週　中・東欧と第二次世界大戦
第５週　中・東欧における社会主義体制の導入
第６週　中・東欧の社会主義期における政治と経済
第７週　中・東欧の社会主義期における社会と文化
第８週　中・東欧における社会主義体制の崩壊
第９週　中・東欧のポスト社会主義期における民族問題
第10週　中・東欧のポスト社会主義期における民族紛争―旧ユーゴスラヴィアの内戦と継承国家（１）
第11週　中・東欧のポスト社会主義期における民族紛争―旧ユーゴスラヴィアの内戦と継承国家（２）
第12週　中・東欧諸国のEUやNATOへの加盟と国境を越える人々の移動
第13週　中・東欧における市場経済への移行と社会問題
第14週　中・東欧の日本との交流
第15週　総括

国際関係基礎論I

3622013100100

副　題	国際安全保障学の基礎							担　当　者	畠山　圭一　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INR-105-IA

〔授業の到達目標〕
国際関係の基本構造と概念的枠組みを理解する。

〔授業の内容〕
巨大で複雑な世界―その中の様々な問題をめぐって世界中のあらゆる人々や文化の相互作用によって展開される出来事を解明していくこと。それが「国際関係論」と呼ばれる学問の役割である。今日，私たちの生活は国際社会と切り離しては考えられない。食糧や衣類や各種消耗品，エネルギーや資源，金融や情報，その他の一切が国際社会との相互依存で支えられている。国際関係に関する的確な判断なくして私たちの日常生活は成り立たず，その意味で，国際関係研究に課せられた使命は非常に重い。だが国際関係研究がそうした役割を果たすには各国の文化や国内政治，経済はもちろん国家以外の主体（国際機構，多国籍企業，個人）によって営まれる国際的諸活動に関する様々な分野の学問的知見を必要とする。国際関係の研究は一般的には「国家間の紛争と協力」に関する研究であり，中でも最重要なテーマは「戦争と平和」の問題である。このテーマを扱う分野は，一般に「国際政治学」もしくは「国際安全保障学」と呼ばれ，常に国際関係研究の主流を形成している。国際関係基礎論Ｉは，初学者を対象に「国際安全保障学（国際政治学）」の視点から国際関係の基礎知識や概念の基礎的枠組みを提供することを目的とする。

〔教材〕
教科書：村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ』有斐閣

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
受講生自らが２時間程度の予習及び復習を実施することを前提としている。テキストの指定箇所を熟読し，理解を深め，自らの課題を持って講義に臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕
国際関係に関する基本用語・基礎概念・基礎理論に関する理解度について判定するため，期末試験を実施し，６割以上の者を合格とする。試験は択一もしくは選択形式。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火４限又は随時。連絡方法は初回授業で指示する。

〔備考〕
受講生が講義毎に２時間程度の予習及び復習を実施することを前提としている。国際関係基礎論は，本学，特に国際コミュニケーション学科，英語コミュニケーション学科の学生にとっては専門科目を受講する上での全般的基礎となる国際関係に関する基礎的な概念や用語を習得するための非常に重要な科目であり，その性格上，特に復習を励行してほしい。また，なるべく，すべての学生が，できれば１，２年時に受講することを強く勧める。なお，計４回の欠席または３回連続の欠席で受講停止とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入：日常生活と国際関係
第２週　激動する国際社会－世界はどこに向かうのか
第３週　国際関係論の対象と方法
第４週　国際関係の主体と環境
第５週　国家システムの変遷－国際システムは時代とともに変化する
第６週　国際関係の変遷－国際システムも時代とともに変化する
第７週　20世紀の国際政治略史－20世紀は国際政治にとって激動の時代だった
第８週　パワー・ポリティクス
第９週　国家と対外政策
第10週　外交
第11週　国際紛争
第12週　軍事力と軍備管理
第13週　国際機構と国際法
第14週　問題演習
第15週　総括　激動する現代の世界政治システム－世界はどこへ行くのか

国際関係基礎論II

3622013200100

副　題	国際政治経済の基本的枠組み									担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	INR-106-IA

〔授業の到達目標〕
第２次大戦以降の国際政治経済体制の変遷について，その理論的基礎を理解するとともに，大きな流れを為替や関税をめぐる国際政治経済の枠組みを中心に把握する。

〔授業の内容〕
国際関係研究は一般的には「国家間の紛争と協力」という文脈で捉えられ，1960年代までは「戦争と平和」の問題（国際政治もしくは国際安全保障論）が中心テーマだった。ところが1970年代以降，（主として先進国間の）国際経済活動をめぐる紛争や協力が国際関係における重要課題となり，「国際関係における政治と経済の関係の研究（国際政治経済学）」が国際関係研究の第二の柱としてクローズアップされるようになった。冷戦が終わると国際政治経済学の関心は先進国の問題から（経済依存，国際債務，海外支援，技術移転を含む）南北問題や地球環境問題やグローバル・テレコミュニケーションといった問題へと移ったが，その背景には，南北間の経済格差や地球環境問題や各種分野におけるグローバリゼーションが「地域紛争」「地域覇権国による冒険主義」「（今回の同時多発テロのような）新たな戦争」等にみられる深刻な国際安全保障上の脅威をもたらしかねないという事情も存在している。今日，国際関係の研究者は，従来，別々に論じられがちだった「国際安全保障学」と「国際政治経済学」の学問的成果を結びつけて論じることが多くなっており，実際，お互いの学問的成果のいずれを欠いても国際関係における適切な判断は不可能になっている。国際関係基礎論IIでは，国際関係論のもう一つの柱である「国際政治経済学」の視点から国際関係の基礎知識や概念の基礎的枠組みを提供する。

〔教材〕
教科書：野林健・大芝亮・納家政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門　新版』有斐閣，2005年
参考書：岩本 武和、奥 和義、小倉 明浩、金早雪『グローバル・エコノミー 新版』（有斐閣アルマ）有斐閣，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
２回の持ち帰り中間試験はそれぞれ６時間程度の負荷を想定。６回の課題は毎回３時間程度，毎回の授業は教科書の各章に対応していることから，その復習に２時間程度を想定。

〔成績評価の方法〕
２回の中間試験（自宅持ち帰り：合計40%），６回の課題（合計10%），期末試験（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日５時間目
mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　導入―国際関係をめぐる政治と経済
第２週　国際政治経済学とは何か
第３週　国際政治経済学をめぐる理論と思想
第４週　国際政治経済秩序の形成
第５週　国際政治経済秩序の発展と転換
第６週　貿易を巡る国際政治経済
第７週　開発援助を巡る国際政治経済
第８週　科学技術を巡る国際政治経済：知的財産権を中心として
第９週　地球環境問題と国際政治経済（１）：京都議定書を巡る政治経済
第10週　地球環境問題と国際政治経済（２）：生物多様性条約を巡る政治経済
第11週　グローバリズムとリージョナリズム：WTOとFTA
第12週　地域的枠組みの展開：EU
第13週　地域的枠組みの展開：アジア
第14週　今後の展開
第15週　総括

環境科学I

3622021100100

副　題	環境問題を理解するための自然・社会科学の基礎	担　当　者	荘林　幹太郎　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENV-107-IA

〔授業の到達目標〕

水，土，大気に係る環境問題の基礎的な事項を理解できる。

〔授業の内容〕

環境やその保全に関わる複雑性を考えるとき，自然科学に加えて，経済学などの社会科学も含めた多様な分野の知見に基づく総合的な視野が必要となる。例えば，水質問題を議論する場合，どのような化学物質がどのような形態で水質汚染を引き起こすかということに関する科学的知識を踏まえた上で，汚染を減じるための最適な政策手段（規制，課税，補助金等）を経済学的な知見も援用しつつ決定しなければならない。

「環境科学I」では，水，大気，土にまつわる環境問題について自然，社会科学の両方を含む広角的な視点から捉えることによって環境問題の複雑性を概観し，その解決に向けた総合的視野の重要性をともに議論していきたい。

〔教材〕

参考書：中西準子『環境リスク学』日本評論社，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の宿題に4時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出欠確認を兼ねる：20%），中間試験（自宅持ち帰り試験：20%），期末試験（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日昼休み

mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　水と環境（1）：水循環の科学的メカニズムとそれに与える経済活動の影響（水質汚濁，水資源の枯渇）
第3週　同上（2）：水質の汚染とそれを軽減するための技術的および経済学的手法
第4週　同上（3）：水資源の枯渇とそれによる環境影響を軽減するための技術的および経済学的手法
第5週　大気と環境（1）：地球の大気環境の変遷と温暖化のメカニズム
第6週　同上（2）：温暖化防止のための国際的枠組
第7週　同上（3）：オゾン層の破壊，酸性雨
第8週　土壌と環境（1）：土壌の成り立ちと土壌汚染
第9週　同上（2）：塩害や砂漠化の進展と対応策
第10週　農業と環境（1）：農薬，化学肥料と食料・環境
第11週　同上（2）：窒素循環のメカニズム
第12週　同上（3）：バイオマス資源の活用
第13週　リスク評価と費用便益分析（1）
第14週　同上（2）
第15週　まとめ

環境科学II

3622021200100

副　題	環境政策概論							担　当　者	加藤　弘二　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENV-108-IA

〔授業の到達目標〕

環境と人間の経済活動の関わりを理解する。
環境問題を含む様々な社会問題について，経済学の視点で考えることができるようになる。

〔授業の内容〕

環境問題を理解するために必要かつ重要な社会科学（主に経済学）の基礎的概念について講義し，いくつかの事例を用いてその応用を試みる。授業で取り上げる事例は，地球温暖化対策，農業・農村政策，自然資源管理などであり，具体的事例を通して，環境経済学の理解を深めていきたい。

〔教材〕

教科書は指定しませんが，授業中に適宜参考書を紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は課さない。授業の際に出した課題に取り組むとともに,配布資料を用いて復習を行い，授業内容の理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業時に提出するリアクションペーパー（20%）
授業中に行うミニテスト（30%）
期末レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

特にありません。

〔授　業　計　画〕

第１週　環境と経済学
第２週　競争市場の効率性
第３週　市場の失敗と環境問題
第４週　環境政策手法（１）
第５週　環境政策手法（２）
第６週　地球温暖化に対する取り組み（１）
第７週　地球温暖化に対する取り組み（２），理解度の確認
第８週　自然資源の経済学
第９週　コモンズの悲劇と共同体
第10週　農業環境政策
第11週　自由貿易と環境（１）
第12週　自由貿易と環境（２）
第13週　貧困と環境・資源問題
第14週　環境評価
第15週　まとめと解説

マスコミュニケーション論I（概論）

3625000500100

副　題	メディアと社会							担　当　者	蔡　星慧　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	SOC-109-IA

〔授業の到達目標〕

メディアと社会との相互関係を理解し，学生自ら考え，議論することでメディアをめぐる環境変化を批判的に観る力，リテラシーをつけていきたい。

〔授業の内容〕

急変するメディア環境は様々な社会の文化を形成していく。本講ではそういったメディアの環境変化と近未来，社会的意味合いについて考えてみる。

〔教材〕

特に指定はありません。毎回配付するレジュメと資料を配付し，その都度参考文献を提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前配付資料を読み，調べる課題などがあります。

〔成績評価の方法〕

・出席20%
・リアクションペーパー/ミニ課題10%
（毎回授業の終わりに当日授業の中心内容，感想，質問などを書く）
・レポート30%
・定期試験40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-Mail:chekadai●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　メディアと社会
第２週　マス・コミュニケーションの歴史
第３週　新聞メディアの特性①－新聞の紙面，産業特性
第４週　新聞メディアの特性②－伝えるべきこと，ジャーナリズムのプロフェッショナルとは
第５週　放送メディアの特性①－放送の制度的特性と構造
第６週　放送メディアの特性②－放送ジャーナリズムのあり方を考える
第７週　職業としてのジャーナリスト
第８週　出版メディアの特性①－本づくりのプロセスを見る
第９週　出版メディアの特性②－社会のトレンド，特集，企画力，雑誌の誌面を見る
第10週　雑誌の文化史
第11週　メディアをめぐる最新動向①放送と通信の融合
第12週　メディアをめぐる最新動向②メディアをめぐる国際状況
第13週　政治とマスメディア
第14週　メディアはメッセージである
第15週　総合まとめ―メディアの近未来
テーマによる時事問題など，補充資料がある場合，授業の進行に多少の変更もあります。

言語学I

3622007100100

副　題	記号のシステム・音と語の仕組み・対照言語学							担　当　者	佐藤　直人　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	1	コース・ナンバー	LIN-101-IB

〔授業の到達目標〕

1.国際音声字母(IPA)を理解し，発音できる。
2.個別言語の音韻システムを理解し，音素を取り出せる。
3.語の成り立ちを説明できる。

〔授業の内容〕

日本語学，第二言語習得研究に用いられる言語学の概念を理解し，データが提示された場合に実際に分析できる。世界の言語の多様性を知り，その中に日本語を自分なりに位置付けられる。

〔教材〕

教科書：斎藤純男『言語学入門』第1版，三省堂，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習:教科書の該当箇所を読み，独学で理解が難しかったテクニカルタームをメモしておく。
復習：講義中のノートは殴り書きしてほしい，それを受講後なるだけ早く整理しなおす。

〔成績評価の方法〕

小テスト（10回）50%
期末テスト筆記　50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールまたは講義後のアポイントメント

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス。言語の多様性（１）「どうぞ」と「どうも」の言語学
第２週　言語学とは何か。言語学の下位領域。記号システムの中での言語の位置付け。
第３週　言語の多様性（２）様々な言語音声，様々な文字，手話。
第４週　調音音声学（１）音声学と音韻論の違い。発声の仕組み。発声器官の名称。
第５週　調音音声学（２）分節音：基本母音no.1-no.8及びシュヴァー。
第６週　調音音声学（３）分節音：肺気流子音の基本的なもの。
第７週　調音音声学（４）超分節音：アクセントとプロソディ。
第８週　構造主義音韻論（１）音素分析。音韻論的対立。
第９週　構造主義音韻論（２）音韻プロセス。
第10週　生成音韻論（１）音韻プロセスと音韻規則。弁別素性と音素。母音無声化。
第11週　生成音韻論（２）音韻行列と音韻交替。特殊モーラに見られる同化。
第12週　生成音韻論（３）基底表示-音声表示，規則の順序付け。動詞タ形の派生。
第13週　形態論（１）派生と屈折。
第14週　形態論（２）新語を探してみよう。
第15週　まとめ。試験の重要項目。

言語学II

3622007200100

副　題	統語論・意味論・語用論と言語学史							担　当　者	佐藤　直人　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	1	コース・ナンバー	LIN-102-IB

〔授業の到達目標〕

1.言語表現を要素に分解し，各要素の関係を図式化できる。
2.文法と解釈の関係を自分のことばで説明できる。
3.言語学の歴史と第二言語教育の理論の関係を自分のことばで説明できる。

〔授業の内容〕

日本語学，第二言語習得研究に用いられる言語学の概念を理解し，データが提示された場合に実際に分析できる。世界の言語の多様性を知り，その中に日本語を自分なりに位置付けられる。

〔教材〕

教科書：斎藤純男『言語学入門』第1版，三省堂，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習:教科書の該当箇所を読み，独学で理解が難しかったテクニカルタームをメモしておく。
復習：講義中のノートは殴り書きしてほしい，それを受講後なるだけ早く整理しなおす。

〔成績評価の方法〕

小テスト（10回）50%
期末テスト筆記　50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールまたは講義後のアポイントメント

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス。統語論・意味論・語用論の概略。
第２週　統語論（１）階層構造と直接構成素分析。
第３週　統語論（２）句構造と語順。
第４週　統語論（３）言語間の統語論的な違い。日本語の特徴。
第５週　意味論（１）外延に基づく意味論と内包に基づく意味論。
第６週　意味論（２）アメリカ構造主義における成分分析。意味構造のタイプ。
第７週　意味論（３）認知意味論（意味の身体化・メタファー），概念意味論（意味役割）。
第８週　語用論（１）スピーチアクト。
第９週　語用論（２）会話の含意。
第10週　語用論（３）ポライトネス。関連性理論。
第11週　文章と談話。
第12週　歴史言語学。
第13週　地理言語学と日本語の方言。
第14週　構造主義言語学と現代言語学。
第15週　まとめ。試験の重要項目。

社会言語学I

3622008100100

副　題	社会の中の言語							担　当　者	福島　直恭　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIN-103-IB

〔授業の到達目標〕

言語の多様性につて理解し，それを通して社会の多様性，人間の考え方，価値観の多様性を理解する。

〔授業の内容〕

言語は，人間社会の中で生まれ，人間社会の中で使われ，そして変化していくものである。言語について考える際にも，言語だけを切り離して考えるのではなく，それが使われる社会とか，それを使う人間という要因を含めて考える必要がある。本講義では，まず，言語が人間社会の中でどのように生まれたのかという問題から話をはじめる。次に，言語が人間にとってどのような役割を果たしているのかという問題，そしてそのような役割を果たすために言語はどのような性格を持っているのかということ，どのように変化していくのかということなどを取り上げる。最後に，言語はどのように死んでいくのか，なぜ死んでしまうのかという点についても言及する。

〔教材〕

参考書：ロレト・トッド『ピジン・クレオール入門』（21世紀の言語学）大修館書店，1986年
デビッド・クリスタル『消滅する言語』中公新書，2004年

受講者に購入を義務付ける教科書的な書籍はないが，授業内容に関連の深い参考図書は，授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

必要な予習・復習時間は各２時間程度

〔成績評価の方法〕

毎回，授業内容に関する簡単なレポートを提出してもらい，その採点結果で評価する。ただし，開講時数の２／３以上の出席が必須である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　社会言語学とはなにか
第２週　言語の誕生・言語の起源
第３週　言語の誕生・ピジンとクレオール１
第４週　言語の誕生・ピジンとクレオール２
第５週　言語の働き・言語と国家
第６週　言語の働き・言語と民族
第７週　言語の働き・言語と社会階級
第８週　言語の働き・アイデンティティーの指標としての言語１
第９週　言語の働き・アイデンティティーの指標としての言語２
第10週　言語の働き・言語と認識，思考
第11週　言語の変化・言語変化の原動力
第12週　言語の変化・言語変化の方向と定着
第13週　言語的不平等
第14週　言語の死・危機言語の実態
第15週　言語の死・危機言語に関する対応

社会言語学II

3622008200100

副　題	近代日本の言語政策							担　当　者	福島　直恭　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIN-104-IB

〔授業の到達目標〕

近代日本の言語政策に関する知識を習得し，それを通して現代の日本語，日本社会のあり方を理解する。言語研究の基本的立場，考え方などを身につける。

〔授業の内容〕

日本語話者が「標準日本語」とか「国語」と呼んでいるものの実体はいかなるものなのかについて考えていく。そのような概念は古代から連綿と続いてきたものではなく近代の産物である。そのような概念はなぜ生まれ，社会においてどのような役割を果たしているのかという点について，近代国民国家日本の成立時期を中心に考察を進めていく。同様の手順で，日本語の特徴のひとつといえる「敬語体系」という概念の虚構性についても言及する。

〔教材〕

参考書：イ・ヨンスク『「国語」という思想－近代日本の言語認識－』岩波書店，1996年
福島直恭『書記言語としての「日本語」の誕生－その存在を問い直す－』笠間書院，2008年

教科書は特になし。毎回プリント配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に必要な時間は各2時間程度

〔成績評価の方法〕

毎回，講義に関連する簡単なレポートを提出してもらい，その採点結果で評価する。ただし，開講時数の2／3以上の出席が必須である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜2限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第1週　社会言語学の導入
第2週　社会言語学と言語政策
第3週　「日本語」という存在についての疑問
第4週　「話しことば」と「書きことば」
第5週　「書きことば」と標準語
第6週　声の文化と文字の文化
第7週　「日本語」以前の日本語
第8週　「日本語」の成立事情1　言文一致
第9週　「日本語」の成立事情2　標準語と標準語教育
第10週　「日本語」の成立事情3　植民地支配と「日本語」
第11週　「日本語」虚構説
第12週　敬語虚構論
第13週　〃
第14週　海外の言語政策
第15週　まとめ

文化人類学I

3622009100100

副　題	文化人類学の基礎概念							担　当　者	齋藤　亜子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ANT-105-IB

〔授業の到達目標〕

文化人類学の基礎概念を学び，異文化を理解する。

〔授業の内容〕

文化人類学とは，人間の文化的側面を学ぶ学問です。私たちのものの見方や普段何気なく行っているふるまい方は，文化の異なる社会では奇妙に思われることがあるかも知れません。また，私たちには奇妙に思えることが他の社会では当たり前として捉えられている場合もあります。異文化について知ることは，ものの見方は一つではないということを学び，また自分の文化を客観的に見つめ直すことでもあります。

グローバル化の時代といわれる現在では，人々は異なる文化圏を行き来し，また移り住んだ先で新たな文化を築いているケースが数多くあります。このように複雑化した現在の多様な文化を理解するのに文化人類学を学ぶことは有用であるといえるでしょう。

この授業では，主に文化人類学の基礎概念を学んでいきます。

〔教材〕

参考書：綾部恒雄、桑山敬巳　編『よくわかる文化人類学』第2版，ミネルヴァ書房，2010年
　　山下晋司、船曳建夫　編『文化人類学キーワード』改訂版，有斐閣，2008年

教科書は特に指定しません。講義の中で必要に応じて教材を提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には指定した教材または配布プリントをあらかじめ読んだ上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

小テスト　20%，リアクションペーパー　30%，期末試験　50%　で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義概要の説明：文化人類学とは何か
第２週　文化人類学の歴史と理論１
第３週　文化人類学の歴史と理論２
第４週　言語と文化
第５週　家族
第６週　婚姻
第７週　ジェンダーとセクシュアリティ
第８週　メキシコ先住民の母系社会
第９週　民族とエスニシティー
第10週　贈与と交換
第11週　信仰と世界観
第12週　通過儀礼と分類
第13週　伝統的医療と妖術
第14週　死と葬儀
第15週　理解度の確認

文化人類学II

3622009200100

副　題	現代における民族：文化人類学とフィールドワーク							担　当　者	齋藤　亜子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ANT-106-IB

〔授業の到達目標〕

現代における民族問題について学ぶ。またフィールドワークの疑似体験を通じて文化人類学の調査方法を学ぶ。

〔授業の内容〕

文化人類学Iで学んだ基礎概念は，フィールドワークによる調査によって積み上げられてきたものです。文化人類学IIでは，主にラテンアメリカの先住民の文化をみていきますが，同時にフィールドノートや写真観察法によって文化人類学の調査方法であるフィールドワークがどのようなものであるかを概観します。

〔教材〕

参考書：綾部恒雄、桑山敬巳　編『よくわかる文化人類学』第2版，ミネルヴァ書房，2010年
山下晋司、船曳建夫　編『文化人類学キーワード』改訂版，有斐閣，2008年

教材は必要に応じて講義の中で提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

リアクションペーパーでは毎回いくつかの質問に答えてもらうので提示した参考資料や配布プリントによく目を通しておくこと。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパー　30%，写真観察法，発表　20%　期末試験　50%　で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義内容の説明：文化人類学とフィールドワーク
第２週　先住民とは　ラテンアメリカの先住民（１）
第３週　ラテンアメリカの先住民（２）
第４週　異文化へのまなざし　人種主義，オリエンタリズム批判
第５週　写真観察法とフィールドノート
第６週　映像資料：ペルーの伝統行事１
第７週　映像資料：ペルーの伝統行事２
第８週　環境破壊と先住民
第９週　観光と文化
第10週　写真観察法：発表・ディスカッション１
第11週　写真観察法：発表・ディスカッション２
第12週　写真観察法：発表・ディスカッション３
第13週　映像資料：世界の地域間格差を生み出したものは何か１
第14週　映像資料：世界の地域間格差を生み出したものは何か２
第15週　まとめ

北米文化論

3623000300100

副　題	北米地域の地理・風土と政治・文化							担　当　者	畠山　圭一　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ARE-107-IB

〔授業の到達目標〕
北米地域の地理，歴史，政治，社会，文化，外交等に関する基礎的知識を習得する。

〔授業の内容〕
太平洋を挟んで日本の対岸にある北米は日本と密接な関係をもった地域である。特にアメリカは日本にとって政治，経済，文化のいずれをとってもきわめて重要な国家であるばかりか，歴史的に見ても実に深い縁で結ばれた国家である。たとえば日本が国際社会で注目され始めた1890年代は，国際社会がアメリカに注目し始めた時期でもあった。また鎖国時代の日本を開国へと導いたのがアメリカの「黒船」であるとすれば，それまで孤立主義を貫いていたアメリカを国際政治の場に引きずり出したのは日本の「真珠湾攻撃」であった。ところで，この北米地域はアメリカ，カナダという二つの先進国を構成国とし，両国はともにイギリスに起源を発している。しかしながら両国の性格やたどった歩みは著しく異なっており，アメリカがイギリスの支配から離脱した共和国であるのに対してカナダはイギリス女王を君主とする立憲君主国であり，またアメリカの躍動感にあふれた歴史に対してカナダの歴史は内戦も奴隷制度も先住民との戦いも歴史的暗殺も少ない穏かなものである。かかる性格の違った二国によって北米地域が構成されているところに，北米文化のもつ特殊性と魅力と力強さがある。本講義はこうした北米地域についての地理，歴史，政治，社会，文化等に関する基礎的知識の提供と，国際関係論（日米関係），アメリカ文化論等の専門科目を学ぶ上での導入を目的とするものである。

〔教材〕
教科書：畠山圭一・加藤普章　編・著『世界政治叢書Ⅰ　アメリカ・カナダ編』（世界政治叢書）ミネルヴァ書房，2008年
アメリカとカナダを一体として取り扱った数少ない教科書で，本授業のために編纂された。基礎的な資料もふんだんに含まれ，きわめて有用なテキストである。授業でしばしば活用し，試験準備にとっても必携のテキストであり，予習・復習に活用してもらいたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習および復習(それぞれ２時間を標準とする)を前提に行われる講義である。テキストの指定箇所を熟読の上，理解を深めて講義に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
期末試験の結果で評価し，６割以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火４限又は随時。連絡方法は初回授業で指示する。

〔備考〕
計４回の欠席または連続３回の欠席で受講停止とする。また，授業開始後15分以上遅刻した場合は欠席とみなすので注意されたい。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入　目的と対象
第２週　北米論　１　地理的特徴　北米の自然と資源の農業
第３週　アメリカ論　１　アメリカの地域（１）－ニューイングランド，中部大西洋地域，南部
第４週　アメリカ論　２　アメリカの地域（２）－中西部，太平洋岸西部，ハワイ，アラスカ
第５週　アメリカ論　３　アメリカの歴史－地域構造の変遷，多様性と統一
第６週　アメリカ論　４　アメリカの政治－連邦制と三権分立
第７週　アメリカ論　５　アメリカの精神文化－国民統合の思想的基盤
第８週　アメリカ論　６　アメリカの外交－孤立主義と国際主義
第９週　カナダ論　１　カナダの地域－東部沿岸諸州，プレーリー諸州，ブリティッシュコロンビア州
第10週　カナダ論　２　カナダの歴史－多元社会の形成
第11週　カナダ論　３　カナダの政治－連邦制と議院内閣制
第12週　カナダ論　４　カナダの社会文化－多文化社会とアイデンティティの模索
第13週　カナダ論　５　カナダの外交－「ミドル・パワー」外交
第14週　北米論　２　北米文明の特質
第15週　結語　北米と日本

ヨーロッパ文化論

3623000400100

副　題	近代ヨーロッパの宗教・思想・文化							担　当　者	根占　献一　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	PHL-108-IB

〔授業の到達目標〕

近代のヨーロッパは近・現代の日本を含む世界と深い関係があることを理解できるようになること

〔授業の内容〕

ルネサンスと宗教改革から始まるとされるヨーロッパ近代の思想と，宗教，文化の発展をたどりながら，ヨーロッパ文化を広く，世界的グローバリゼーションのなかで考えていく。

〔教材〕

教科書はないが，必要に応じて参考文献を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

最低各 2 時間以上

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲･貢献度（40パーセント），普段のリアクション･ペーパー（15パーセント），試験（45パーセント）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問などがある場合には，月曜日12時45分から13時半の間に研究室を訪ねること。ただし，前もって学科事務室に希望の日にちに関して連絡をとっておくほうが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　序ーヨーロッパとは，近代とは。
第 2 週　ルネサンス―イタリアを中心にした文化世界
第 3 週　ルネサンスの発展
第 4 週　宗教改革―ドイツを中心に
第 5 週　宗教改革の展開
第 6 週　カトリック改革と日本
第 7 週　バロック時代
第 8 週　科学革命―天才たちの世紀
第 9 週　科学と進歩史観
第10週　合理思想と国家理性
第11週　啓蒙思想
第12週　啓蒙と近代日本と世界
第13週　映像資料
第14週　〃
第15週　結ーヨーロッパ文化の近代的意義
専門家を招いて「特別授業（講義）」を行う予定。

アジア文化論

3623000500100

副　題	アジアにおける戦争、革命、社会変容							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ARE-109-IB

〔授業の到達目標〕

わたしたちが住む東アジアを中心に世界史を理解し，自分自身が大きな歴史的世界のなかに存在している感覚を身につける。そしてさまざまな歴史や人生をみることで，「他者」への想像力を養う。

〔授業の内容〕

日本，台湾，韓国，中国，ベトナム，カンボジアを取り上げ，アジアの戦争，革命，そして社会変容の過程を講義・映像資料などをとおして学び，現在もなお続く暴力の連鎖について，歴史的な角度から考える。

〔教材〕

授業のはじめにプリントを配布する。欠席者のための再配布はおこなわない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各授業の最初のプリントに，授業に関連した参考文献が記載されているので，授業内容と合わせて関連文献を熟読し，理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー・出席（40%）と期末試験（60%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜３限
授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　台湾統治（１）
第３週　台湾統治（２）
第４週　韓国統治
第５週　満州国の建国と＜日本＞の拡大
第６週　日本社会はなぜ戦争へと向かったのか
第７週　中国における革命，建国，そして冷戦（１）
第８週　中国における革命，建国，そして冷戦（２）
第９週　文化大革命
第10週　ベトナム戦争と東アジア世界の変容
第11週　クメール・ルージュの革命とカンボジア（１）
第12週　クメール・ルージュの革命とカンボジア（２）
第13週　20世紀後半における国家への反逆と革命
第14週　まとめ：東アジアの戦争・革命・社会変容と「暴力」について（１）
第15週　〃

イスラム文化論I

3623003100100

副　題	イスラムの基礎知識							担　当　者	小野　仁美　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ARE-110-IB

〔授業の到達目標〕

イスラムの宗教的な基礎知識を学び，さらにそれらが現代のイスラム社会に及ぼしている影響について知ることにより，世界人口の約四分の一を占めるイスラム教徒の価値観を理解することを目指す。

〔授業の内容〕

イスラムの宗教としての側面，知の体系としての側面から，イスラム文化を解説する。各回のテーマについて，まず古典的知識を学び，さらに現代社会における位置づけについても触れていきたい。

〔教材〕

毎回レジュメを配布する。教科書はとくに指定しない。
参考文献は，授業時に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として，事前に指定する参考文献に目を通しておくこと。授業後には，復習として再度参考文献を読み，理解を深めてほしい。

〔成績評価の方法〕

期末試験50%，平常点（リアクション・ペーパー，質問等）50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

初回授業時に，教員のメールアドレスをお伝えします。

〔備考〕

授業後の質問を歓迎します。参考文献の相談にも応じますので,積極的に活用してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業のねらいと進め方
第２週　世界のなかのイスラム
第３週　ユダヤ教，キリスト教，イスラム教
第４週　六信五行
第５週　預言者ムハンマドの生涯
第６週　映画で学ぶイスラム（１）
第７週　聖典クルアーン
第８週　映画で学ぶイスラム（２）
第９週　預言者ムハンマドの言行録（ハディース）
第10週　イスラム法の規範
第11週　スンナ派とシーア派
第12週　イスラム神秘主義
第13週　イスラムと科学
第14週　アラビアンナイトの世界
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

言語地理学

3623010100100

副　題	スラヴの言語と文化							担　当　者	坂倉　千鶴　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	GEO-111-IB

〔授業の到達目標〕

「言語地理学」および「スラヴの言語と文化」の諸相について基礎的な知識を習得するとともに，受講者が自ら選択したテーマを深めながら，班毎の共同作業を通してそれぞれの「言語と文化のハンドブック」を作成し，新入生に向けて情報として発信します。

〔授業の内容〕

この授業では，まず印欧語族のひとつを形成しているスラヴ語派について，その概要を分かりやすく紹介した後，それぞれのスラヴ語について，文化も視野に収めつつ具体的に学んで行く予定です。初心者のためのスラヴの言語文化入門といった内容になります。時にはゲストスピーカーを交えながら演習形式で進めて行く予定です。

〔教材〕

参考書：黒田龍之助『羊皮紙に眠る文字たちースラヴ言語文化入門』初版，現代書館，1998年
三谷恵子『スラヴ語入門』初版，三省堂，2011年
桑野隆『ロシア・中欧・バルカン　世界のことばと文化入門』（世界のことばと文化シリーズ）初版，成文堂，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各回の授業用プリントを毎回一週間前に配布しますので，事前に読んで疑問点を整理した上で授業に臨んでください。

詳細については，初回授業時にお知らせします。

〔成績評価の方法〕

年度末に課すレポート(55%)と出席状況（15%），授業への取り組みの姿勢（30%）などを総合的に勘案します。

課題レポートとして，班毎に協力して「～の言語と文化のハンドブック」を作成します。

出席票とコメントシート，両方の提出をもって出席と見なします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

スラヴ・東欧関係の授業を受講していることが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　言語地理学とは何か？
第３週　スラヴ語の話
第４週　班分け，班毎に図書館で文献渉猟，文献リストの作成。
第５週　ロシアの言語と文化
第６週　ウクライナの言語と文化
第７週　ベラルーシの言語と文化
第８週　ポーランドの言語と文化
第９週　チェコの言語と文化
第10週　スロヴァキアの言語と文化
第11週　ソルブの言語と文化
第12週　ブルガリアの言語と文化
第13週　セルビアの言語と文化
第14週　クロアチアの言語と文化
第15週　各班によるまとめのプレゼンテーション

比較神話論

3623011100100

副　題								担　当　者	東　由美子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ANT-112-IB

〔授業の到達目標〕
神話的思考について理解を深め，現代社会を相対化する視野を養います。

〔授業の内容〕
19世紀から20世紀にかけて，文学はもとより，文化／社会人類学，心理学，言語学，宗教学などといった様々な分野においても,「神話」が研究素材として取り上げられるようになり,「神話」を分析するための画期的な手法も次々と生み出されるようになりました。一方，分析手法が多角的になるにつれ,「神話」とは何かという問題が浮上してくることになります。つまり，分析方法の変化に応じて，どのような事物を「神話」としてとらえるのかということも，議論されるようになってきます。ギリシアの古典や『古事記』・『日本書紀』に描かれた神々の物語から，伝説や昔話，ひいては洞窟に描かれた太古の絵画，土偶，こういったものまでも「神話」の範疇に含めて考察されるようになってきているのが現状です。ですから,「神話学」とは，あらゆる「神話」研究者に共通する確固たる不変の分析対象を持たず,「神話学」独自の分析手法も持ちません。この意味において,「神話学」は，現在においてもいまだ単独で地位を築いていない学問分野です。本講義では,「神話学」的に重要だと思われる事柄を取り上げて講義を行います。

〔教材〕
参考書等については，講義の中で適宜指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：授業内で指定する文献の指定範囲を読んで不明な点を可能な限り調べてくること。
復習:授業終了後，授業中に指定された課題について小レポートを作成し理解を深めること。
必要な時間は 4 時間程度と予想している。

〔成績評価の方法〕
内容の理解のための小レポートを提出してもらいます。成績はレポートの提出回数（80%）および内容の充実度（20%）を合計して判定します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールアドレス：myth●mbp.nifty.com（change ● to @）

〔備考〕
成績評価の詳細について，第一回の授業で説明します。履修希望者は第一回の講義に出席してください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション：評価方法，講義の目的，導入講義
第 2 週　夢と精神分析
第 3 週　精神分析と文化研究
第 4 週　古代社会と現代の民俗世界
第 5 週　フロイトの精神分析
第 6 週　フロイトと夢
第 7 週　ドリームワーク
第 8 週　エディプス・コンプレックス
第 9 週　神話と精神分析
第10週　現代における神話
第11週　芸術作品における神話的表象 1
第12週　芸術作品における神話的表象 2
第13週　芸術作品における神話的表象 3
第14週　芸術作品における神話的表象 4
第15週　芸術作品における神話的表象 5

比較道具論

3623011200100

副　題	生活を支える道具から生活文化を考察する	担　当　者	真島　麗子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	LIF-113-IB

〔授業の到達目標〕
1.道具(生活財)を通して，様々な地域の文化に触れ，国際社会で活躍するための基礎知識を身につける。
2.具体的な造形物や現象を取り上げ，その歴史や地理的文脈を理解しながら考察し，比較分析することから，問題点を発見する能力を養う。
3.私達が築いた物質文化の現状を把握し，過去の反省点を明確にしながら，国際社会に向けて新たな生活環境が提案できる価値観を育成する。

〔授業の内容〕
道具は，広い意味で私達の五体（頭・首・胸・手・足）や五感（視・聴・臭・味・触）の動きを補助する物として使われ，作り出された造形物の総称である。そして，これらは人間が作り出した最も古い文化の一つであると言える。人間の歴史は，道具の素材発見，および，その性能の拡大と製作技術の発展史でもあり，様々な道具類の使用が，私達の生活にも大きな変容をもたらしてきた。しかし，一方，この物質文化が，地球温暖化を初めとする環境破壊も引き起こしてきた。生活財の歴史や利用状況，増加に伴う問題点などを浮き彫りにすると同時に，今後の生活環境について考える。他国との比較も行い国際的な視野も広げる。

〔教材〕
参考書：日本生活学会編『生活学事典』第1版，TBSブリタニカ，1999年
近藤雅樹『日用品の二〇世紀』(二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容　8）第1版，ドメス出版，2003年
山口昌伴『台所の一万年-食べる営みの歴史と未来』（百の知恵双書）第1版，社団法人農山漁村文化協会，2006年
教科書は使用しない。その都度プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回，授業開始30分ほどを，前回の授業後に提出されたリアクションペーパーからの質問や疑問点に答え，共に考える時間にあてているが，そのやり取りの中で出された宿題に解答できるよう，予習，復習に各２時間程度をかけること。

〔成績評価の方法〕
中間レポート(35%)，最終レポート(50%)，授業後のリアクションペーパーの内容(15%)等を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は，学科事務室を通じて連絡を取ること

〔備考〕
毎回，映像資料（パソコン画像）を利用しながら考察する。

〔授　業　計　画〕

第１週　道具から見た生活史概要・生活を支える道具から生活文化を考察する方法
第２週　道具の保有内容からの考察１　－群馬の養蚕農家の暮らし（鍋・釜の利用）・台所道具の歴史
第３週　道具の保有内容からの考察２　－道具の配置状況からみる竹富島（二棟造り）の住み方
第４週　道具の保有内容からの考察３　－収納の歴史と蔵の役目・収納方法を考える
第５週　生活財の増加と暮らしの変容１　－郊外の3LDKの暮らしの実態
第６週　生活財の増加と暮らしの変容２　－ライフコースと保有数の問題点
第７週　他国の生活財保有と暮らし１　－韓国の都市生活・済州島等
第８週　他国の生活財保有と暮らし２　－インドネシア－バリ島の生活財
第９週　他国の生活財保有と暮らし３　－ネパールの暮らし・地球家族-30ヶ国の生活財
第10週　他国の生活財保有と暮らし４　－台所と食の道具史-イギリス・スウェーデン等
第11週　他国の生活財保有と暮らし５　－フィリピン-バタン島・サブタン島の生活財
第12週　木の技術と容器－刳物から桶・樽作り・その活用
第13週　石の技術とアーチの石橋　－沖縄・熊本県　通潤橋・中国等
第14週　伝統技術の活用と地方の資料館づくり　－船造りの村と北前船の復原・新潟県佐渡市相川　佐渡金山資料館からの考察
第15週　まとめ-問題点と解説

1.単一の道具からだけでなく，保有する道具の種類や数量，又，無意識に置かれた道具(生活財)の状況から生活文化を考察する。伝統技術から作られた道具や文化財を活用した町並みの保存・地域の資料館づくりにも触れる。
2.授業後のリアクションペーパーからも問題点を抽出し授業を進めていく。興味深い問題点が出た場合は授業計画に繰り込む。

比較居住文化論

3623011300100

副　題	モンゴロイドアジア大陸部を中心として							担　当　者	乾　尚彦　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-114-IB

〔授業の到達目標〕

世界の居住文化をみる視座を確立し，居住文化の理解のしかたを学ぶ。

〔授業の内容〕

世界には，様々な居住文化がみられる。本講義では，そのなかでも特に，モンゴロイドの住むユーラシア大陸に焦点をあて，そこに見られる居住文化の諸相を世界の居住文化と比較しながら考えていく。

身近なアジアである東アジア，東南アジア大陸部には，様々な自然，歴史，社会的条件から，多様な生活文化，住まいがつくられてきた。それらは，また，同時に，アジアの基層文化に由来する様々な共通性も示している。そうした居住文化を成立させてきた要因についても考察していく。

本講義で対象とするのは，これまでに実際にフィールドワークによって調査研究をおこなってきた地域・民族である。居住文化の実相を，調査者の視点で，多くの画像資料を用いながらなるべく具体的に示していきたい。

〔教材〕

講義中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義の前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート，出席，最終レポートの内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　モンゴル族１
第２週　モンゴル族２
第３週　モンゴル族３
第４週　モンゴル族４
第５週　韓国河回村
第６週　漢族１（ヤオトン～土に暮らす住まい）
第７週　漢族２（四合院と円形土楼～中庭の住まい）
第８週　アジア大階段の諸民族
第９週　タイ北部山地民
第10週　中国雲南省ワ族１
第11週　中国雲南省ワ族２
第12週　中国雲南省ワ族３
第13週　ベトナム
第14週　総括１
第15週　総括２

英語演習IA

3624000100100

副　題	Language and Culture in Our World							担　当　者	川口　エレン　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	ENG-201-IV

〔授業の到達目標〕

As this course will be conducted in English, the instructor hopes that the students will be able to improve their skills in English, as well as learn more about language in general and English in particular. The purpose of this course is to explore, at an introductory level, many of the themes in the world of applied linguistics.

〔授業の内容〕

Based on the topics in the textbook, our focus will be language development, language learning, how language changes and how and why languages sometimes die. The main activities will be summary presentations by students and group activities based on the readings from the textbook.

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie and Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, Sanshusha (三修社), 2007

Other materials for lessons will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must read each chapter before coming to class. They are responsible for knowing the contents of all chapters even if the they are not the one(s) the students are assigned to present.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 25%, weekly presentations 25%, sectional quizzes 30%, and a term paper 20%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

・The classes will be conducted in English.

・Students will be expected to present their research on assigned material on a weekly basis.

・Attendance and class participation are crucial to passing this course.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introductory Class
Chapter-selection for presentations
Chapter 1 - The Dawn of Language
第２週　Chapter 2 - Do Animals Have Language?
Chapter 3 - The Rosetta Stone
第３週　Quiz 1
Chapter 4 - Chomsky and Universal Grammar
Chapter 5 - Younger is Better
第４週　Chapter 6 - Misunderstandings about Bilingualism
Quiz 2
Chapter 7 - Are Men and Women's Speech Really Different?
第５週　Chapter 8 - Politeness
Chapter 9 - PC (Politically Correct) Speech
第６週　Quiz 3
Chapter 10 - What Makes a Good Language Learner?
Chapter 11 - Individual and Societal Multilingualism
第７週　Chapter 12 - The Role of Teaching Methods in Language Learning
Quiz 4
Chapter 13 - Ways of Organizing Languages
第８週　Chapter 14 - What's the Difference between a Language and a Dialect?
Chapter 15 - Ryukyuan: Language or a Dialect?
第９週　Quiz 5
Chapter 16 - Official Languages: Harmful or Beneficial?
Chapter 17 - The English-only Movement in the U.S.
第10週　Chapter 18 - Esperanto
Quiz 6
Chapter 19 - Language Change
第11週　How to Write a Paper
Chapter 20 - Prescriptivisim and Descriptivism
Chapter 21 - Loanwords
第12週　Quiz 7
Chapter 22 - Why Do Languages Disappear?
Chapter 23 - Saving the World's Languages
第13週　Chapter 24 - Revitalizing Hawaiian and Welsh
Quiz 8
Final Paper Due
第14週　Language Game
第15週　Wrap-up

This syllabus is a guide for the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary.

英語演習IB

3624000100200

副　題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	担　当　者	大野　純子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ENG-202-IV

〔授業の到達目標〕

・英語音素の発音を学び，ネイティブらしい発音を習得する。
・ノーマルスピードにおける音変化を学び，リスニング力の向上を図る。
・TOEIC　リスニング部門　50点以上のスコアアップを目標とする。

〔授業の内容〕

・CBSニュースを題材にオーバーラッピング，リテンション，シャドイング，日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
・シャドーイングを録音して，固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し，表現そのものの習得を目指します。
・クラスメートのシャドーイングを聴き，お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘　Stephen Timson, *CBS News Break*, First Edition, 成美堂, 2013
参考書：国井信一　橋本敬子『究極の英語学習法　K&H　System』初版，アルク，2001年
　　篠田顕子　他『英語リスニング・クリニック』初版，研究社，2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指示された場所を予習してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度40%，各unit終了後の小テスト40%，レポート20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日　昼休み　12：00～13：00　サポートセンターを通じてご連絡ください。

〔備考〕

教科書を購入の上一回目の授業にご参加ください。
USBメモリースティックもご持参ください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 Addicted to Your Smartphone?
第 3 週　同上
第 4 週　Unit 2 Tutoring for Tots
第 5 週　同上
第 6 週　Unit 3 Corporate Wellness Programs GainingPopularity
第 7 週　同上
第 8 週　発表
第 9 週　Unit 4 Are Kids Hurt When Moms Work?
第10週　同上
第11週　Unit 5 New Graphic Warnings for Cigarette Smokers
第12週　同上
第13週　Unit 6 Silicon Valley School: No Computers in Classrooms
第14週　同上
第15週　発表
各unit終了後に小テストを行います。
やむを得ない事情により授業計画は変更する場合があります。

英語演習IC

3624000100300

副　題	時事英語のリスニング							担　当　者	渡辺　幸俊　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-203-IV

〔授業の到達目標〕

ロイター通信社の最新ニュースを使って国際ニュースを理解できるようになること。

〔授業の内容〕

世界に冠たる「トムソン･ロイター社」の最新英語ニュースのディクテーションに取り組み，併せて各ジャンルの語彙を習得していきます。そのため，毎時間の授業前に語彙テストを課します。時間が許せば，授業の最後にニュースのReproducitonを行います。

〔教材〕

教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2016』株式会社ニュートン，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。ネット掲載のニュースの他，その時点での最新ニュースを取り上げていきます。Reproductionに関しては，予習を徹底してください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加度　30%，語彙テスト　40%，Reproduction 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

右記のメールで連絡を取ってください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　天気予報　内容要約　語彙テスト
第２週　最新ニュースのディクテーション，内容要約　語彙テスト
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

「最新」のニュースを扱いますので，毎時間のニュース内容は現時点では分かりません。予習に際して，テレビ・ラジオ・新聞等に関心を払い，日々の生活に取り入れてください。

英語演習ID

3624000100400

副　題	アイルランドの文化に触れる							担　当　者	小村　志保　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ENG-204-IV

〔授業の到達目標〕

一般的な英文（新聞，雑誌，論文等）が読めるようになることを目指します。読解力の向上を目指す学生に適します。

〔授業の内容〕

英語圏の国として認識されているアイルランドですが，国民が英語を日常的に使用するようになったのは，わずか150年ほど前のことです。それまでは大多数の国民が母語であるアイルランド語（ゲール語）を使用し，それに伴って独自の文化や風習も継承してきました。こうした経緯から，現在でもアイルランドで使用される英語には興味深い特徴があります。授業ではアイルランドで広く知られている神話，民話，妖精物語などを読みながら，その文化や歴史に触れる機会にしたいと思います。受講生は各自学期中に少なくとも１度英文テキストの和訳を発表してもらいます。教科書は使わず適宜プリントを配布します。

〔教材〕

プリントを適宜配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

その週に扱うテキストを各自事前に和訳して毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

出席（30%）課題発表（40%）期末テスト（30%）により判断します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通して連絡してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　テキストの輪読と解説
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　理解度の確認
課題発表の進み具合により授業計画を変更する場合があります。

英語演習IE

3624000100500

副　題	A Taste of English							担　当　者	谷口　めぐみ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-205-IV

〔授業の到達目標〕

本講義は受講者の教養としての英語力の向上を目指すものです。言語を分析的に学習する方法やツールとしての英語の運用能力を身につけていきましょう。

〔授業の内容〕

「英語を楽しく学びたい！」という学生の想いに応えられるような，そして，高校までの英語学習で教わってきた文法ルールも復習できてしまう，少し欲張った英語学習をこの演習では目指します。今，多くの方々の関心を呼ぶ「食」と「文学作品」の接点をみつけてテキストにしたものを用いて，身近な話題から英語を楽しく，効果的に，学習しましょう。

文法テキストを用いて文法事項の復習をしっかりと行った後，200～250wordsのエッセイを分析することで読解力を高め，文法項目の実践化に挑戦しましょう。また，テキストで紹介された文学作品の原書講読を通じて，作品や著者に関するグループディスカッションを適宜行います。

〔教材〕

教科書：Fiona Wall Minami et als., *A Taste of English: Food and Fiction*, Asahi Press, 2013
福井慶一郎、加藤主税『大学教養英文法（改訂版）』朝日出版社，２００１年

上記指定テキストの他，輪読用資料や文法事項の補充プリントを配布し，演習を通して学習した内容のアウトプットを皆さんがより効果的にできるよう指導に取り組みます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で説明した文法事項の復習及び定着のため，演習問題に取り組んだうえで，次回授業に参加すること。

文法事項の学習内容に応じたリーディング教材がテキストにあります。文法学習の進度に応じて教員が指示しますので，あらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるよう準備すること。

〔成績評価の方法〕

出席点（30%），試験（50%），課題提出状況・授業参加態度（20%）により総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

初回授業時（オリエンテーション）で説明いたします。

〔備考〕

授業に辞書（電子辞書・可）を携行してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　文。　直訳の罠。
第２週　品詞
　　Beatrix Potter (Chapters 2 and 3)
第３週　Beatrix Potter
第４週　比較
　　O. Henry (Chapter 7)
第５週　時制
　　Ernest Hemingway (Chapter 8)
第６週　〃
第７週　O. Henry
　　Ernest Hemingway
第８週　〃
第９週　助動詞
　　Bridget Jones and Dieting (Chapter 13)
第10週　関係詞
　　Breakfast and Tiffany's (Chapter 11)
第11週　受動態
　　Agatha Christie
第12週　Itの用法（強調）
　　Harry Potter and Chocolate Frogs
第13週　Review
　　和訳集中特訓
第14週　Review
　　要約集中特訓
第15週　Presentation
　　本の紹介

上記の授業計画はあくまでも「計画」であり，進度や内容は受講者の英語理解度に応じて修正される可能性があります。秋学期開講の英語演習II･Eと学習内容の力点が異なるように授業の年間計画を立てているため，英語演習I･Eと英語演習II･Eを続けて受講することに問題はありません。

英語演習IF

3624000100600

副　題	Language Change							担　当　者	川口　エレン　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-206-IV

〔授業の到達目標〕

This course will be conducted in English. The instructor hopes that the students will be able to improve their overall skills in English, as well as learn about language at a slightly deeper level.

〔授業の内容〕

We will go through the different types of changes there are and have occured in languages in general and the changes in English in particular. We will also look at the different attitudes people have towards language change.

The sessions will be conducted in a lecture style, but the students will be expected to present their research on assigned materials on a weekly basis.

〔教材〕

There will be no textbook for this course. Printed handouts will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must take good notes and review each lesson at home to be able to keep up with the class and do well on the quizzes.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 35%, homework 20% and the seven quizzes 45% given throughout the semester.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

The work for this class is rigorous and is not recommended if a student's English ability is less than intermediate level.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introductory Class
第 2 週　Language Change - The Basics
第 3 週　English in the Past
第 4 週　Borrowing Words
第 5 週　Changes in Pronunciation
第 6 週　Changes in Spelling
第 7 週　Changes in Grammar
第 8 週　Changes in Meaning
第 9 週　The Origin of Dialect
第10週　Relatedness between Languages
第11週　More Remote Relations
第12週　The Birth and Death of Language
第13週　Attitudes towards Language Change
第14週　World Englishes
第15週　Wrap-up

This syllabus is a guide to the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary, thereby adjusting the progress of the syllabus accordingly.

英語演習IG

3624000100700

副　題	Reading for better communication							担　当　者	清水　英之　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-207-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では英語の発音技術の習得と文法理解を到達目標にしています。また，人間関係における相互理解の方法について考察します。

〔授業の内容〕

この授業では音読を中心とした英文の読書法を体得するために，必要な文法的事項を確認し，英語での思考が可能になるよう訓練します。テキストの内容は交流分析という心理療法を土台にしたコミュニケーション技術に関するものです。とくに夫婦間の心理的な交流に焦点が当てられています。

〔教材〕

教科書：Dan Kiley『The Wendy Dilemma』（ウェンディ・ジレンマ）開拓社，1986年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習を２時間以上，授業の復習を２時間以上することが必要です。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業でのリアクションペーパーと定期試験の成績で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　英語の発音とリズムについて
第２週　英語のイントネーションについて
第３週　Introduction　（１）
第４週　Introduction　（２）
第５週　Introduction　（３）
第６週　One Woman Caught in the Trap　（１）
第７週　One Woman Caught in the Trap　（２）
第８週　One Woman Caught in the Trap　（３）
第９週　Are You in Danger of the Wendy Trap？　（１）
第10週　Are You in Danger of the Wendy Trap？　（２）
第11週　Are You in Danger of the Wendy Trap？　（３）
第12週　Loving, Not Mothering　（１）
第13週　Loving, Not Mothering　（２）
第14週　Loving, Not Mothering　（３）
第15週　まとめ

英語演習IH

3624000100800

副　題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう!	担　当　者	大野　純子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ENG-208-IV

〔授業の到達目標〕

・英語音素の発音を学び，ネイティブらしい発音を習得する。
・ノーマルスピードにおける音変化を学び，リスニング力の向上を図る。
・TOEIC　リスニング部門　50点以上のスコアアップを目標とする。

〔授業の内容〕

・CBSニュースを題材にオーバーラッピング，リテンション，シャドイング，日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
・シャドーイングを録音して，固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し，表現そのものの習得を目指します。
・クラスメートのシャドーイングを聴き，お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘　Stephen Timson, *CBS News Break*, First Edition, 成美堂, 2013
参考書：国井信一　橋本敬子『究極の英語学習法　K&H　System』初版，アルク，2001年
　　篠田顕子　他『英語リスニング・クリニック』初版，研究社，2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指示された場所を予習してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度40%，各unit終了後の小テスト40%，レポート20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日　昼休み　12：00～13：00　サポートセンターを通じてご連絡ください。

〔備考〕

教科書を購入の上一回目の授業にご参加ください。
USBメモリースティックもご持参ください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 Addicted to Your Smartphone?
第 3 週　同上
第 4 週　Unit 2 Tutoring for Tots
第 5 週　同上
第 6 週　Unit 3 Corporate Wellness Programs GainingPopularity
第 7 週　同上
第 8 週　発表
第 9 週　Unit 4 Are Kids Hurt When Moms Work?
第10週　同上
第11週　Unit 5 New Graphic Warnings for Cigarette Smokers
第12週　同上
第13週　Unit 6 Silicon Valley School: NoComputers in Classrooms
第14週　同上
第15週　発表
各unit終了後に小テストを行います。
やむを得ない事情により授業計画は変更する場合があります。

英語演習II

3624000100900

副　題	English Pronunciation Practice through Shakespeare Songs							担　当　者	清水　英之　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-209-IV

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through reading Shakespeare.

〔授業の内容〕

この授業は英語の発音に自信を持っていただくことが目的です。英語の世界では常識のWilliam Shakespeareのsongsをテキストに使用し，英語の発音を基礎から学びます。英語での声の出し方，母音の発音の仕方，子音の発音の仕方，単語の発音方法，語句の発音方法などを科学的に学び，ひたすら訓練をすることにより自信を持って英語を発音することができるようになるでしょう。英語には正しい発音といわれるものはありません。なぜなら，英語は様々な方言で成り立っているからです。では，私たち日本人はどのような英語の発音をすればよいのでしょうか。一緒に研究しましょう。

〔教材〕

教科書：荒井良雄編著『シェイクスピア名セリフ集』初版，朝日出版社，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習に2時間以上，授業後に教科書の音読と暗記に2時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数と毎回のリアクションペーパーおよび定期試験の結果を総合的に判断し評価をします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　英語の発声法と母音の発音：O Mistress Mine (p. 92.)
第2週　リズムの不思議：O Mistress Mine (p. 92.)
第3週　イントネーションの不思議：Under the Greenwood Tree (p. 90.)
第4週　It was a Lover and his Lass (p. 94.)
第5週　Come away, death (p. 104.)
第6週　Who is Silvia? (p. 96.)
第7週　How should I your True Love Know? (p. 98.)
第8週　Tomorrow is St. Valentine's Day (p. 100.)
第9週　O Willo, Willo, Willo (p. 102.)
第10週　Fear no more the heat o' the sun (p. 84.)
第11週　When that I was and a little tiny boy (p. 106.)
第12週　Sonnet 105 (p. 124.)
第13週　Puck (p. 170.)
第14週　Prospero (p. 168.)
第15週　まとめ
原則として毎回違ったシェイクスピアの歌を読みます。

英語演習I J

3624000101000

副　題	Reciting English poems							担　当　者	清水　英之　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-210-IV

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through this class.

〔授業の内容〕

この授業の目的は英語の詩を朗読することです。英語の詩を人前で朗読するためには，世界に通用する英語の発音が必要となります。英語の発音に関する知識を確認しながら英語での朗読を楽しみましょう。また，英米の文学に触れることにより，日本文化との比較を通して自国の文化を見直すことができます。また，声を出す朗読は健康にも効果があり，皆さんの心の成長を促すと共に楽しい人生を生きるきっかけにもなるでしょう。

〔教材〕

毎回プリントを使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含めテキストの予習に 2 時間以上，授業後にテキストの音読と暗記に 2 時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数，毎回のリアクションペーパー，定期試験の結果などを総合的に判断して評価をします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　母音の発音確認　Mary Had a Little Lamb
第 2 週　ストレスアクセントとリズム　Mary Had a Little Lamb
第 3 週　子音の発音確認　Rain
第 4 週　単語の発音方法　From a Railway Carriage
第 5 週　語句の発音方法　Who has seen the wind?
第 6 週　リズムの習得　Song
第 7 週　ピッチアクセントとイントネーション　To the Virgins, to make much of your time
第 8 週　イントネーションの習得　A Shropshire Lad II
第 9 週　意味を伝える音読　The Rainbow
第10週　英詩の朗読　The Daffodils
第11週　英詩の朗読　A Red, Red Rose
第12週　英詩の朗読　The Last Rose of Summer
第13週　英詩の朗読　Sonnet 18
第14週　英詩の朗読　Sonnet 29
第15週　まとめ
授業は計画的に考えられているので欠席しないように健康を維持してください。

英語演習IK

3624000101100

副　題	TOEIC対策							担　当　者	山口　志のぶ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-211-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では，英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテストに立ち向かえるように，問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

春学期は，リスニング・パート対策に重点をおいてTOEICで用いられる５つのアクセントに聞き慣れ，口頭練習や数多くの練習問題を解くことでリスニング能力の向上を促します。テスト全体を見失わないように，偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保著『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版，成美堂，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60％に平常点約40％（出席状況＋授業態度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後，あるいは学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Unit 1 Part 1 Photographs 1
第３週　Unit 2 Part 1 Photographs 2
第４週　Part 1　まとめ
第５週　Unit 3 Part 2 Question-Response 1
第６週　Unit 4 Part 2 Question-Response 2
第７週　Part 2　まとめ
第８週　Unit 5 Part 3 Conversations 1
第９週　Unit 6 Part 3 Conversations 2
第10週　Part 3　まとめ
第11週　Unit 7 Part 4 Short Talks 1
第12週　Unit 8 Part 4 Short Talks 2
第13週　Part 4　まとめ
第14週　〃
第15週　総まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

英語演習IL

3624000101200

副　題	TOEIC対策							担　当　者	山口　志のぶ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ENG-212-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では，英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテストに立ち向かえるように，問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

春学期は，リスニング・パート対策に重点をおいてTOEICで用いられる５つのアクセントに聞き慣れ，口頭練習や数多くの練習問題を解くことでリスニング能力の向上を促します。テスト全体を見失わないように，偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保著『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版，成美堂，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60％に平常点約40％（出席状況＋授業態度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後，あるいは学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Unit 1 Part 1 Photographs 1
第３週　Unit 2 Part 1 Photographs 2
第４週　Part 1　まとめ
第５週　Unit 3 Part 2 Question-Response 1
第６週　Unit 4 Part 2 Question-Response 2
第７週　Part 2　まとめ
第８週　Unit 5 Part 3 Conversations 1
第９週　Unit 6 Part 3 Conversations 2
第10週　Part 3　まとめ
第11週　Unit 7 Part 4 Short Talks 1
第12週　Unit 8 Part 4 Short Talks 2
第13週　Part 4　まとめ
第14週　〃
第15週　総まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

英語演習IIA

3624000200100

副　題	Language and Culture in Our World							担　当　者	川口　エレン　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	ENG-213-IV

〔授業の到達目標〕

As this course will be conducted in English, the instructor hopes that the students will be able to improve their skills in English, as well as learn more about language in general and English in particular. The purpose of this course is to explore, at an introductory level, many of the themes in the world of applied linguistics.

〔授業の内容〕

Based on the topics in the textbook, our focus will be language development, language learning, how language changes and how and why languages sometimes die. The main activities will be summary presentations by students and group activities based on the readings from the textbook.

〔教材〕

教科書：Shawn M. Clankie and Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, Sanshusha (三修社), 2007

Other materials for lessons will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must read each chapter before coming to class. They are responsible for knowing the contents of all chapters even if the they are not the one(s) the students are assigned to present.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 25%, weekly presentations 25%, sectional quizzes 30%, and a term paper 20%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

・The classes will be conducted in English.

・Students will be expected to present their research on assigned material on a weekly basis.

・Attendance and class participation are crucial to passing this course.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introductory Class
Chapter-selection for presentations
Chapter 1 - The Dawn of Language
第２週　Chapter 2 - Do Animals Have Language?
Chapter 3 - The Rosetta Stone
第３週　Quiz 1
Chapter 4 - Chomsky and Universal Grammar
Chapter 5 - Younger is Better
第４週　Chapter 6 - Misunderstandings about Bilingualism
Quiz 2
Chapter 7 - Are Men and Women's Speech Really Different?
第５週　Chapter 8 - Politeness
Chapter 9 - PC (Politically Correct) Speech
第６週　Quiz 3
Chapter 10 - What Makes a Good Language Learner?
Chapter 11 - Individual and Societal Multilingualism
第７週　Chapter 12 - The Role of Teaching Methods in Language Learning
Quiz 4
Chapter 13 - Ways of Organizing Languages
第８週　Chapter 14 - What's the Difference between a Language and a Dialect?
Chapter 15 - Ryukyuan: Language or a Dialect?
第９週　Quiz 5
Chapter 16 - Official Languages: Harmful or Beneficial?
Chapter 17 - The English-only Movement in the U.S.
第10週　Chapter 18 - Esperanto
Quiz 6
Chapter 19 - Language Change
第11週　How to Write a Paper
Chapter 20 - Prescriptivisim and Descriptivism
Chapter 21 - Loanwords
第12週　Quiz 7
Chapter 22 - Why Do Languages Disappear?
Chapter 23 - Saving the World's Languages
第13週　Chapter 24 - Revitalizing Hawaiian and Welsh
Quiz 8
Final Paper Due
第14週　Language Game
第15週　Wrap-up

This syllabus is a guide for the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary.

英語演習ⅡB

3624000200200

副　題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう！	担　当　者	大野　純子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ENG-214-IV

〔授業の到達目標〕

・英語音素の発音を学び，ネイティブらしい発音を習得する。
・ノーマルスピードにおける音変化を学び，リスニング力の向上を図る。
・TOEIC　リスニング部門　50点以上のスコアアップを目標とする。

〔授業の内容〕

・CBSニュースを題材にオーバーラッピング，リテンション，シャドーイング，日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
・シャドーイングを録音して，固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し，表現そのものの習得を目指します。
・クラスメートのシャドーイングを聴き，お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘　Stephen Timson, *CBS News Break*, First Edition, 成美堂, 2013
参考書：国井信一　橋本敬子『究極の英語学習法　K&H　System』初版，アルク，2001年
　　篠田顕子　他『英語リスニング・クリニック』初版，研究社，2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指示された場所を予習してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度40%，各unit終了後の小テスト40%，レポート20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日昼休み　12：00～13：00　サポートセンターを通じてご連絡ください。

〔備考〕

教科書を購入の上一回目の授業にご参加ください。
USBメモリースティックもご持参ください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 8 Learning Small Talk
第 3 週　同上
第 4 週　Unit 9 Happy Meal Ads Target Kids
第 5 週　同上
第 6 週　Unit 10 Internships-Are They Worth It?
第 7 週　同上
第 8 週　発表
第 9 週　Unit 11 Happiness 101
第10週　同上
第11週　Unit 12 Therapy Dogs Help the Sick
第12週　同上
第13週　Unit 13 Ford Going Green with U.S.-Grown Crops
第14週　同上
第15週　発表
各unit終了後に小テストを行います。
やむをえない事情により授業計画は変更する場合があります。

英語演習IIC

3624000200300

副　題	時事英語のリスニング							担　当　者	渡辺　幸俊　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-215-IV

〔授業の到達目標〕

国際ニュースを理解できるようになること。

〔授業の内容〕

世界に冠たる「トムソン･ロイター社」の最新英語ニュースのディクテーションに取り組み，併せて各ジャンルの語彙を習得していきます。そのため，毎時間の授業前に語彙テストを課します。時間が許せば，授業の最後にニュースのReproducitonを行います。

〔教材〕

教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2016』株式会社ニュートン，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。ネット掲載のニュースの他，その時点での最新ニュースを取り上げていきます。Reproductionに関しては，予習を徹底してください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加度　30%，語彙テスト　40%，Reproduction 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

右記のメールで連絡を取ってください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　最新ニュースのディクテーション，内容要約　語彙テスト
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

「最新」のニュースを扱いますので，毎時間のニュース内容は現時点では分かりません。予習に際して，テレビ・ラジオ・新聞等に関心を払い，日々の生活に取り入れてください。

英語演習IID

3624000200400

副　題	アイルランドの歴史に触れる							担　当　者	小村　志保　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ENG-216-IV

〔授業の到達目標〕

一般的な英文（新聞，雑誌，論文等）が読めるようになることを目指します。読解力の向上を目指す学生に適します。

〔授業の内容〕

一般的な世界史の学習においてアイルランドの歴史が取り上げられることはほとんどありません。長く英国の支配下にあったため英国の一部として誤って認識されることも多いのですが，実際にはアイルランドの歴史は英国からの独立を目指してきた歴史と言うことができます。今日まで約500年に及ぶ独立運動では，暴力に頼るのか非暴力で運動を進めるのか，が常に問題になってきましたが，このことは今日の世界情勢を考える際にも参考になるものです。授業では主に独立運動にかかわった人々の言説を参考に，民族，言語，宗教が複雑に絡んだアイルランドの歴史に触れる機会にしたいと思います。受講生は各自学期中に少なくとも１度英文テキストの和訳を発表してもらいます。教科書は使わず適宜プリントを配布します。

〔教材〕

プリントを適宜配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

その週に扱うテキストを各自事前に和訳して毎回の授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

出席（30%）課題発表（40%）期末テスト（30%）により判断します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通して連絡してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　テキストの輪読と解説
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　理解度の確認
課題発表の進み具合により授業計画を変更する場合があります。

英語演習IIE

3624000200500

副　題	A Flavor of English							担　当　者	谷口　めぐみ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-217-IV

〔授業の到達目標〕
本講義は受講者の教養としての英語力の向上を目指すものです。言語を分析的に学習する方法やツールとしての英語の運用能力を身につけていきましょう。

〔授業の内容〕
「英語を楽しく学びたい！」という学生の想いに応えられるような，そして，高校までの英語学習で教わってきた文法ルールも復習できてしまう，少し欲張った英語学習をこの演習では目指します。「英語を楽しく学ぶ」方法の１つとして，映画を題材としたテキストを用いて，映画に登場する食文化や食べ物をはじめとする身近な話題から英語を楽しく，効果的に，学習しましょう。
文法テキストを用いて文法事項の復習をしっかりと行った後，それぞれの映画について述べた200～250wordsのエッセイを分析することで読解力を高め，文法項目の実践化に取り組みます。また，総合的な英語力の養成となるよう，英作文の練習を行い，映画批評に挑戦します。

〔教材〕
教科書：Fiona Wall Minami et als., *A Flavor of English: Cinema and Cuisine*, Asahi Press, 2014
福井慶一郎、加藤主税『大学教養英文法（改訂版）』朝日出版社，2001年
参考書：Eric Bray, *Movie Time!*, Nan'un-Do, 2012
上記指定テキストの他，英作文用のプリント教材を配布し，演習を通して学習した内容のアウトプットを皆さんがより効果的にできるよう指導に取り組みます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業で説明した文法事項の復習及び定着のため，演習問題に取り組んだうえで，次回授業に参加すること。
文法事項の学習内容に応じたリーディング教材がテキストにあります。文法学習の進度に応じて教員が指示しますので，あらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるよう準備すること。

〔成績評価の方法〕
出席点（20%），試験（35%），課題提出状況・授業参加態度（45%）により総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オリエンテーションで説明いたします。

〔備考〕
授業に辞書（電子辞書・可）を携行してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
文。
第２週　時制
Kramer v. Kramer (Chapter 1)
第３週　時制の照応と話法
形容詞
第４週　比較
The Devil Wears Prada (Chapter 2)
第５週　疑問詞
Charlie and the Chocolate Factory (Chapter 10)
第６週　Charlie and the Chocolate Factory　（１）
登場人物の紹介
第７週　Charlie and the Chocolate Factory　（２）
登場人物の紹介
第８週　仮定法
Notting Hill (Chapter 6)
第９週　Notting Hill（１）
あらすじ紹介
第10週　Notting Hill（２）
あらすじ紹介
第11週　前置詞
Everybody's Fine (Chapter 11)
第12週　接続詞
No Reservations (Chapter 7)
第13週　Review
映画批評に挑戦（１）
第14週　Review
映画批評に挑戦（２）
第15週　Review
映画批評に挑戦（３）

上記の授業計画はあくまでも「計画」であり，進度や内容は受講者の英語理解度に応じて修正される可能性があります。春学期開講の英語演習I・Eの学習内容と異なるように授業の年間計画を立てているため，英語演習I・Eと英語演習II・Eを続けて受講することに問題はありません。

英語演習IIF

3624000200600

副　題	Language Change							担　当　者	川口　エレン　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-218-IV

〔授業の到達目標〕

This course will be conducted in English. The instructor hopes that the students will be able to improve their overall skills in English, as well as learn about language at a slightly deeper level.

〔授業の内容〕

We will go through the different types of changes there are and have occured in languages in general and the changes in English in particular. We will also look at the different attitudes people have towards language change.

The sessions will be conducted in a lecture style, but the students will be expected to present their research on assigned materials on a weekly basis.

〔教材〕

There will be no textbook for this course. Printed handouts will be distributed in class as necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students must take good notes and review each lesson at home to be able to keep up with the class and do well on the quizzes.

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on class participation 35%, homework 20% and the seven quizzes 45% given throughout the semester.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

The work for this class is rigorous and is not recommended if a student's English ability is less than intermediate level.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introductory Class
第 2 週　Language Change - The Basics
第 3 週　English in the Past
第 4 週　Borrowing Words
第 5 週　Changes in Pronunciation
第 6 週　Changes in Spelling
第 7 週　Changes in Grammar
第 8 週　Changes in Meaning
第 9 週　The Origin of Dialect
第10週　Relatedness between Languages
第11週　More Remote Relations
第12週　The Birth and Death of Language
第13週　Attitudes towards Language Change
第14週　World Englishes
第15週　Wrap-up

This syllabus is a guide to the course. It is not fixed and the pace will be adjusted as necessary, thereby adjusting the progress of the syllabus accordingly.

英語演習IIG

3624000200700

副　題	Reading for better communication							担　当　者	清水　英之　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-219-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では英語の発音技術の習得と文法理解を到達目標にしています。また，男女間の人間的な交流をテーマにコミュニケーションについて考察します。

〔授業の内容〕

この授業では音読を中心とした英文の読書法を体得するために，必要な文法的事項を確認し，英語での思考が可能になるよう訓練します。テキストの内容は交流分析という心理療法を土台にしたコミュニケーション技術に関するものです。とくに夫婦間の心理的な交流に焦点が当てられています。

〔教材〕

教科書：Dan Kiley『The Wendy Dilemma』（ウェンディ・ジレンマ）開拓社，1986年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習を 2 時間以上，授業の復習を 2 時間以上することが必要です。

〔成績評価の方法〕

毎回の授業でのリアクションペーパーと定期試験の成績で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　英語の発音とリズムについて
第 2 週　英語のイントネーションについて
第 3 週　Loving, Not Mothering
第 4 週　The Adult Love Script　（1）
第 5 週　The Adult Love Script　（2）
第 6 週　Give-and-Take　（1）
第 7 週　Give-and-Take　（2）
第 8 週　Give-and-Take　（3）
第 9 週　Tolerance and Empathy
第10週　Dependability
第11週　Personal Development
第12週　Sharing　（1）
第13週　Sharing　（2）
第14週　Realism, Intimacy, The X factor
第15週　まとめ

英語演習IIH

3624000200800

副　題	シャドーイングでネイティブの発音を身につけよう！	担　当　者	大野　純子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ENG-220-IV

〔授業の到達目標〕

・英語音素の発音を学び，ネイティブらしい発音を習得する。
・ノーマルスピードにおける音変化を学び，リスニング力の向上を図る。
・TOEIC　リスニング部門　50点以上のスコアアップを目標とする。

〔授業の内容〕

・CBSニュースを題材にオーバーラッピング，リテンション，シャドーイング，日本語⇒英語などの通訳訓練法を実践します。
・シャドーイングを録音して，固まりで抜けるところなどを繰り返し練習し，表現そのものの習得を目指します。
・クラスメートのシャドーイングを聴き，お互いに評価しあいます。

〔教材〕

教科書：熊井信弘　Stephen Timson, *CBS News Break*, First Edition, 成美堂, 2013
参考書：国井信一　橋本敬子『究極の英語学習法　K&H　System』初版，アルク，2001年
　　篠田顕子　他『英語リスニング・クリニック』初版，研究社，2000年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指示された場所を予習してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度40%，各unit終了後の小テスト40%，レポート20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日昼休み　12：00～13：00　サポートセンターを通じてご連絡ください。

〔備考〕

教科書を購入の上一回目の授業にご参加ください。
USBメモリースティックもご持参ください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 8 Learning Small Talk
第 3 週　同上
第 4 週　Unit 9 Happy Meal Ads Target Kids
第 5 週　同上
第 6 週　Unit 10 Internships-Are They Worth It?
第 7 週　同上
第 8 週　発表
第 9 週　Unit 11 Happiness 101
第10週　同上
第11週　Unit 12 Therapy Dogs Help the Sick
第12週　同上
第13週　Unit 13 Ford Going Green with U.S.-Grown Crops
第14週　同上
第15週　発表
各unit終了後に小テストを行います。
やむをえない事情により授業計画は変更する場合があります。

英語演習II I

3624000200900

副　題	English Pronunciation Practice through Shakespeare Works							担　当　者	清水　英之　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-221-IV

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through this class.

〔授業の内容〕

この授業は英語の発音に自信を持っていただくことが目的です。英語の世界では常識のWilliam Shakespeareの作品をテキストに使用し，英語の発音を基礎から学びます。英語での声の出し方，母音の発音の仕方，子音の発音の仕方，単語の発音方法，語句の発音方法などを科学的に学び，ひたすら訓練をすることにより自信を持って英語を発音することができるようになるでしょう。Shakespeareの作品にはイギリス文化の本質が詰まっています。日本の文化との比較をしながら，より深い英語の世界を体験しましょう。

〔教材〕

教科書：荒井良雄編著『シェイクスピア名セリフ集』初版，朝日出版社，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含め教科書の予習に2時間以上，授業後に教科書の音読と暗記に2時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数と毎回のリアクションペーパーおよび定期試験の結果を総合的に判断し評価をします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　英語の発声法と母音の発音：O Mistress Mine（p.92.）
第2週　アクセントと子音の発音：O Mistress Mine（p.92.）
第3週　リズム練習（1）Lovers（p.24.）
第4週　リズム練習（2）Nothing（p.40.）
第5週　イントネーションの不思議　Universe（p.70.）
第6週　イントネーション練習（1）What is a Man？（p.62.）
第7週　イントネーション練習（2）Mercy（p.32.）
第8週　To be or not to be（p.78.）
第9週　Schoolboys（p.22.）
第10週　Infants（p.18.）
第11週　Sonnet 18（p.114.）
第12週　Sonnet 29（p.116.）
第13週　Sonnet 105（p.124.）
第14週　Prospero (p.168.)
第15週　まとめ：レポート作成
原則として毎回違ったシェイクスピアのセリフを読みます。

英語演習II J

3624000201000

副　題	English Pronunciation Practice through English Popular Songs							担　当　者	清水　英之　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-222-IV

〔授業の到達目標〕

You will be able to pronounce English properly through this class.

〔授業の内容〕

この授業の目的は英米のポピュラーソングズを用いて英語の発音を学ぶことです。英語の歌を歌うためには，世界に通用する英語の発音が必要となります。英語の発音に関する知識を確認しながら英語の歌を楽しみましょう。また，この授業の目的は，人生の最大のテーマである愛と孤独について考察することです。英米の流行歌に触れることによりアメリカ人やイギリス人の心を感じ，彼らの愛や孤独について考えましょう。

〔教材〕

教材はプリントを使用します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

音読を含めテキストの予習に2時間以上，授業後に英語の歌の練習に2時間以上かけることが必要です。

〔成績評価の方法〕

必要な出席回数，毎回のリアクションペーパー，定期試験の結果などを総合的に判断して評価をします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　英語の発声法と母音の発音
第2週　英語の子音の発音
第3週　英語のリズムについて　Mary had a little lamb
第4週　英語のイントネーションについて　Twinkle, twinkle, little star
第5週　I’m a Rock
第6週　You’re Beautiful
第7週　Let it Be
第8週　Honesty
第9週　I Still Haven’t Found What I’m Looking for
第10週　Imagine
第11週　Greatest Love of All
第12週　A Candle in the Wind
第13週　Last Christmas
第14週　Chiquitita
第15週　まとめ

授業は計画的に考えられているので欠席しないように健康を維持してください。また，授業以外の学習として習った英語の歌をカラオケなどで練習してください。

英語演習IIK

3624000201100

副　題	TOEIC対策							担　当　者	山口　志のぶ　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-223-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では，英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテストに立ち向かえるように，問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

秋学期は，リーディング・パート対策に重点をおいて文法問題や長文読解の練習問題を数多くこなします。テスト全体を見失わないように，偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。随時，速読力向上や語彙力増強に役立つ資料を配布して解説します。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版，成美堂，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%に平常点約40%（出席状況＋授業態度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後，あるいは学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Listening Test: Part 1 - 4　復習
第 3 週　Unit 9 Part 5 Incomplete Sentences 1
第 4 週　〃
第 5 週　Unit 10 Part 5 Incomplete Sentences 2
第 6 週　〃
第 7 週　Unit 11 Part 6 Text Completion 1
第 8 週　〃
第 9 週　Unit 12 Part 6 Text Completion 2
第10週　〃
第11週　Unit 13 Part 7 Reading Comprehension 1
第12週　〃
第13週　Unit 14 Part 7 Reading Comprehension 2
第14週　〃
第15週　まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

英語演習ⅡL

3624000201200

副　題	TOEIC対策							担　当　者	山口　志のぶ　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ENG-224-IV

〔授業の到達目標〕

この授業では，英語による実践的なコミュニケーション能力を身につける手段としてTOEICテストに立ち向かえるように，問題の対処法と解答のコツを学びながらスコアアップを目指します。

〔授業の内容〕

秋学期は，リーディング・パート対策に重点をおいて文法問題や長文読解の練習問題を数多くこなします。テスト全体を見失わないように，偶数章の終わりで未習パートの問題についても学習します。随時，速読力向上や語彙力増強に役立つ資料を配布して解説します。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, 宮崎充保『Valuable Clues for the TOEIC® Test』初版，成美堂，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習として小テストを予定しています。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60%に平常点約40%（出席状況＋授業態度＋課題＋小テスト等）を加えた総合評価とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後，あるいは学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Listening Test: Part 1 - 4　復習
第 3 週　Unit 9 Part 5 Incomplete Sentences 1
第 4 週　〃
第 5 週　Unit 10 Part 5 Incomplete Sentences 2
第 6 週　〃
第 7 週　Unit 11 Part 6 Text Completion 1
第 8 週　〃
第 9 週　Unit 12 Part 6 Text Completion 2
第10週　〃
第11週　Unit 13 Part 7 Reading Comprehension 1
第12週　〃
第13週　Unit 14 Part 7 Reading Comprehension 2
第14週　〃
第15週　まとめ

上記のスケジュールは受講者の英語力や人数によって変更する可能性があります。

国際コミュニケーション論

3622000300100

副　題	歴史を動かす国際報道							担　当　者	明石　和康　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ICM-201-IC

〔授業の到達目標〕

国際関係がダイナミックに展開している現在，日々変化する世界の動きを伝える国際報道の重要性は日に日に高まっている。歴史が大きく動く際の国際報道の役割を理解するとともに，報道の持つ国際的なコミュニケーション能力の実態を学ぶことで，学生自身が世界の動きを大きな歴史の一コマとしてとらえる力を養い，自らのコミュニケーション能力も磨く意志を持つように社会認識を深める。

〔授業の内容〕

国際報道の担い手とは何かを最初に提示し，続いて教員の通信社記者としての経験を基に，主に米国や欧州，中南米における報道の実態，歴史的な出来事が起きた際の国際報道の役割，さらには現在の報道について実例に当たりながらその意味合いや内容を批判的に学ぶ。具体的な事例としては，米国での客観報道の歴史，国際通信社の変遷と業務，ベルリンの壁崩壊時（1989年）や米同時多発テロ（2001年）の際の報道などを取り上げる。毎回，質疑と意見提示の時間を設け，積極的な参加を学生に求める。

〔教材〕

参考書：明石和康『ヨーロッパがわかる―起源から統合への道のり』岩波書店，2013年
明石和康『大統領でたどるアメリカの歴史』岩波書店，2012年
その他，随時指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定した参考文献をあらかじめ読んだ上で出席すること。また，復習とレポート作成にしっかり時間をかけること。１コマの授業について，予習・復習の時間は合わせて少なくとも４時間とし，計60時間の教室外学習の時間を取るように。

〔成績評価の方法〕

適宜レポートを提出させる。数回のレポート（１回につき2000字程度）の総合点が50%，理解度の確認が20%，授業中の質疑応答，意見提示が30%。なお，出席を重視する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールにて照会すること。akashi●jiji.co.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の説明，スケジュール
第２週　国際報道の担い手とは
第３週　アメリカにおける報道１
第４週　アメリカにおける報道２
第５週　アメリカにおける報道の歴史
第６週　理解度の確認
第７週　欧州における報道
第８週　歴史の変わり目とは何か
第９週　中南米における報道
第10週　理解度の確認
第11週　通信社の歴史と役割
第12週　現在の国際報道１
第13週　現在の国際報道２
第14週　理解度の確認
第15週　まとめ

理解度の確認の時期は多少前後する可能性がある。進行状況にもよるが，少なくとも３回はレポートを提出してもらう。授業内容を変更する場合もある。授業中には適宜，教員から学生に質問し，学生からの質問や意見も求める。

国際関係論I（国際関係史）

3622000900100

副　題	複数の国際社会							担　当　者	工藤　晶人　准教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INR-202-IC

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパを軸とする国際関係史とアジア・アフリカ諸地域の歴史的展開を比較し，複眼的な世界史のとらえ方を学ぶ。

〔授業の内容〕

現代世界が前提としている国際関係の仕組みが，いかなる政治的・地理的・文化的条件の中から形成されてきたのかを概観する。秋学期の国際関係論II（日欧関係）とあわせて受講することで，より理解が深まるはずである。

〔教材〕

教科書：南塚信吾，秋田茂，高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史』ミネルヴァ書房，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

学期末試験（70%），授業中に提出するコメントペーパー（30%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日の昼休み
授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　近代以前の世界１―ヨーロッパ
第３週　近代以前の世界２―イスラーム世界
第４週　近代以前の世界３―東アジアと東南アジア
第５週　近代以前の世界４―アフリカ
第６週　近世の世界とヨーロッパの勢力拡張１
第７週　近世の世界とヨーロッパの勢力拡張２
第８週　近世の世界とヨーロッパの勢力拡張３
第９週　近世の世界とヨーロッパの勢力拡張４
第10週　「長い19世紀」の国際関係１
第11週　「長い19世紀」の国際関係２
第12週　「長い19世紀」の国際関係３
第13週　「長い19世紀」の国際関係４
第14週　20世紀の国際関係
第15週　授業内容のまとめと確認
授業の進行は前後することがあります。

国際関係論II（日欧関係）

3622000600100

副　題	日欧関係にみる近世と近代							担　当　者	工藤　晶人　准教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INR-203-IC

〔授業の到達目標〕

16世紀から20世紀初頭にいたる日欧交流の歴史について理解を深める。

〔授業の内容〕

この講義では，16世紀に日欧の交流が始まってから「鎖国」と「開国」を経て日本が列強への道を歩み出す20世紀初頭にいたるまでの関係史をたどる。政治的・文化的な構造変化と，日欧交流にかかわった人々の伝記を交えて学ぶことによって，摩擦と協調の諸側面を考察する。春学期の国際関係論Iとあわせて受講することでより理解が深まるはずである。

〔教材〕

教科書：南塚信吾，秋田茂，高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史』ミネルヴァ書房，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

学期末試験（80%），授業中に提出するコメントペーパー（20%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日の昼休み
授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ユーラシアの近世と近代
第２週　〃
第３週　日欧交流のはじまりから「鎖国」へ
第４週　〃
第５週　江戸時代の海外交流
第６週　〃
第７週　東アジアの伝統的国際秩序
第８週　〃
第９週　主権国家体制とヨーロッパ
第10週　〃
第11週　開国と不平等条約改正
第12週　〃
第13週　列強への道と日清・日露戦争
第14週　〃
第15週　授業内容のまとめと確認
授業の進行は前後することがあります。

国際関係論III（日米関係）

3622000700100

副　題								担　当　者	畠山　圭一　教授 齋藤　洋子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	INR-204-IC

〔授業の到達目標〕

日米関係史と日米文化比較を通して，日本および米国の政治・社会・文化についての知見を獲得する。国際社会における日米関係の意義についての見識を深める。

〔授業の内容〕

日米両国の政治・社会・文化などの特質と日米関係の歴史を検討し，今日の国際社会における日米関係の役割と意義を考察する。講義では，まず日本社会とアメリカ社会の特質，相違点を確認した上で，過去から現在まで両国を訪れた人々の感想や観察などの記録から，両国の社会・文化の特質を考察する。その後，日米関係の歴史を同時期の世界史の動向を踏まえた上で検討し，今後の日米関係と両国が国際社会で果すべき役割を考察する。

〔教材〕

教科書：五百旗頭眞『『日米関係史』』有斐閣，2008年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：事前にテキストの該当個所を読んでおくこと。
復習：授業の中で紹介した参考文献などを紐解き理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

定期試験　60%
レポート　40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　日本とアメリカの相違点（政治システム・宗教・国家観）
第３週　日本人の見たアメリカ（ジョン万次郎から現在まで）
第４週　アメリカ人の見た日本（ペリーから現在まで）
第５週　日米関係史（１）19世紀後半の日米関係
第６週　日米関係史（２）日露戦争前後の日米関係
第７週　日米関係史（３）第一世界大戦と日本・アメリカ
第８週　日米関係史（４）国際新秩序の成立と日米関係
第９週　日米関係史（５）満州事変後の日米関係
第10週　日米関係史（６）日米戦争
第11週　日米関係史（７）アメリカの占領政策とその転換
第12週　日米関係史（８）冷戦期の日米関係
第13週　日米関係史（９）冷戦終結後の日米関係
第14週　日米関係史（10）国際社会の多極化と日米関係
第15週　総括　今後の日米関係の展望

※国際関係論Ⅳ（将来展望）

3622000800100

副　題	21世紀の国際関係							担　当　者	畠山　圭一　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INR-205-IC

〔授業の到達目標〕
近代的価値観，特に20世紀の価値観が国際関係に及ぼした影響とそこから人類が学んだ教訓を探り，その知見をもとに，21世紀の国際社会における潮流変化の意味を理解し，国際社会の将来を展望する力を養う。

〔授業の内容〕
21世紀を迎えた今日，国際社会の環境は急速に変化しつつある。それは単に冷戦が終わったということではなく，大戦争や冷戦あるいは大恐慌の背景にあった（時には主因であった），観念や価値観がその説得力・影響力を大きく失ったことや新たな技術が発達したことと深く関係している。今日，政治，経済，社会，国際関係等の思想潮流やシステムも大きく変わろうとしている。本講義では，20世紀から21世紀への時代潮流の変化を見つめながら，21世紀の国際関係の姿を展望し，21世紀に人類が直面するであろう国際関係の課題と日本の対外政策のあり方を検討する。

〔教材〕
教科書：添谷芳秀編『21世紀国際政治の展望』慶應義塾大学出版会
本講義は何よりも予習・復習が重要であり，国際政治における20世紀の教訓と21世紀の課題についての深い議論が展開されている本書は，本講義の議論を深め，授業の到達目標を達成するために必携のテキストである。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
講義１時間あたり受講生が２時間程度の予習を行っていることを前提に講義を行うので事前にテキストの該当個所を読んで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
定期試験（６割）とリポート（４割）の点数を合算して評価し，６割以上を合格とする。定期試験・リポートともに，受講者の内容理解と思索の深さを基準に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火４限又は随時。連絡方法は初回授業で指示する。

〔備考〕
予習内容，授業内容について質問があれば授業中でも遠慮せずにしてほしい。なお３回連続欠席，計５回の欠席で受講停止とする。また受講態度の悪い場合も欠席扱いとする。無断退出は認めないので，やむをえない事情で退出する際は必ず一言断るようにしてほしい。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入―検討課題と分析方法
第２週　国際関係に関する文明史または人類史的視点
第３週　20世紀はどんな時代だったのか【１】社会改革の実験
第４週　20世紀はどんな時代だったのか【２】ナショナリズムの昂揚
第５週　20世紀はどんな時代だったのか【３】経済学の発達
第６週　20世紀はどんな時代だったのか【４】科学技術の進歩
第７週　20世紀から21世紀へ【１】宗教の復権？
第８週　20世紀から21世紀へ【２】情報化社会の波
第９週　20世紀から21世紀へ【３】ボーダーレス＝新たな帝国の出現？
第10週　20世紀から21世紀へ【４】覇権安定論とその限界
第11週　21世紀の国際関係【１】民主主義の将来
第12週　21世紀の国際関係【２】経済自由主義の将来
第13週　21世紀の国際関係【３】新しい国際システム
第14週　21世紀の国際関係【４】戦争の未来
第15週　総括―21世紀を希望の世紀とするために

国際法I

3622002100100

副　題	分権社会の法							担　当　者	櫻井　大三　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LAW-206-IC

〔授業の到達目標〕
国際法が分権社会の法であることを具体例を用いて説明することができるようになること。

〔授業の内容〕
「国際法I」では，国際法の中でもその基本的な骨格をなす主要論点（総論）についての理解を深めることに講義の主眼が置かれる。講義では，近年わが国が直面している国際法上の諸問題などの具体的な事例を取り上げることに留意し，分かりやすい解説を心掛けたい。毎回の講義では，その日の学習内容を示したレジュメを配布することを予定している。
講義では，まず導入として，国際法の意義と基本的性格について考察する。国際法とは何か，その起源と歴史的変遷，その存在理由，国際法の存立基盤である国際社会の構造および性格とそれを反映した国際法の特徴，国際法の法的性質などが主要な検討課題となる。
そのうえで，国際法の形成について考察する。国際法は分権社会の法である以上，その形成態様はおのずと国内社会におけるそれとは異なる。これは通常，国際法の法源論という形で議論される。
以上を踏まえたうえで,国際法と国内法とがどのような協働関係を築いているのかを理論的・実際的な見地から考察することとしたい。

〔教材〕
（１）教科書は開講時に指示する。
（２）『条約集』（指定条約集については，開講時に指示する。）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
１．予習：教科書の該当箇所を熟読し，そこに登場する条約等の条文を予め読み込むとともに，具体的な事例を判例集等で確認すること。
２．復習：講義レジュメを読み返し，不明な用語，事例等を教科書等で確認すること。

〔成績評価の方法〕
（１）授業中に実施する小テストないしレポート（10%程度）
（２）学期末試験（90%程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
毎週月曜日の放課後，もしくは，毎週金曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
電子メールによる（メールアドレスは，学科事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
国際法も法律学の一分野である以上，その習得にあたり法学の基礎知識はきわめて重要（というか，不可欠）である。したがって，受講生には，担当者による「法学I」および「法学II」を履修済みであるか，少なくとも「法学I」を並行して履修することが強く推奨される。
併せて，新聞の国際面で報道される事件・事象にも平素から目配りをしておくことが求められる（時事問題に関心をもち，日本や諸外国，国際社会がどのように動いているのかに注意を払って欲しい）。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　法学体系全体における国際法の位置づけ
第３週　国際法の概念・歴史
第４週　国際社会の組織構造　（１）
第５週　国際社会の組織構造　（２）
第６週　国際法の意義・特徴
第７週　国際法の法的性質
第８週　国際法の成立形式（法源・総論）
第９週　慣習国際法
第10週　条約国際法（条約法・総論）
第11週　法の一般原則
第12週　条約の締結手続
第13週　条約の適用範囲
第14週　条約の無効・終了
第15週　総括

法学はもとより，外交や国際関係に興味をもつ者（国際政治や地域研究の社会的側面に興味をもつ者）が意欲的に本講義を受講してくれることを希望する。受講生の要望に応じて，外交実務家（外交官等）による特別授業の実施も検討したい。

国際法II

3622002200100

副　題	国家と国際法							担　当　者	櫻井　大三　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LAW-207-IC

〔授業の到達目標〕

国家に関する国際法規則の内容を理解し，それら関連規則の国際紛争事例への適用態様とその法的帰結を説明することができるようになること。

〔授業の内容〕

「国際法II」では，「国際法I」で習得した総論的理解を前提とした上で，国家に関する国際法の規則を明らかにすることに主眼が置かれる。

講義の前半では，国家承認および政府承認の諸問題が検討される。国際法は，国家の成立や変動・消滅についてどのような規律の枠組みを有しているのか，また，政府の非合法的な変更が行われた場合に，国際法上はどのような対応がありうるのかが，ここでの問題意識である。

講義の後半では，国家管轄権というキーワードを軸に，国家の領域主権が及ぶ場所的範囲の構造と性質を解明する。国家管轄権とは，国家がその国内法を一定の人，財産または事実に対して適用し執行する国際法上の権能をいい，国家主権の具体的な発現形態を示すものである。今日の国際社会において生ずる国際紛争は，各国がその政策，国内法令または執行措置などの国家管轄権を，相互に受忍可能な国際法上の条件と限界を越えて実施することに起因しており，国際紛争の争点を把握するためにも，国家管轄権の基本構造とその特質の理解は不可欠である。

以上，いずれの論点の検討に際しても，近年わが国が直面している国際法上の諸問題にできる限り言及するように努めることとし，国際法が単なる道徳や礼譲ではなく，実定法規範として機能している実態を明らかにすることに努めたい。

〔教材〕

（１）開講時に指示する。
（２）『条約集』（指定条約集については，開講時に指示する。）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

１．予習：教科書の該当箇所を熟読し，そこに登場する条約等の条文を予め読み込むとともに，具体的な事例を判例集等で確認すること。
２．復習：講義レジュメを読み返し，不明な用語，事例等を教科書等で確認すること。

〔成績評価の方法〕

（１）授業中に実施する小テストないしレポート（10％程度）
（２）学期末試験（90％程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

毎週月曜日の放課後，もしくは，毎週金曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
電子メールによる（メールアドレスは，学科事務室にて確認されたい）。

〔備考〕

国際法は，一般に，総論的な理解（「国際法I」）を前提とした上で，各論での議論（「国際法II」）が展開される。両者を一貫して学習し，はじめて国際法という学問の基本的な発想が理解できる。その意味で，受講生には「国際法I」を予め履修しておくことが強く推奨される。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　国際法I（総論）の重要論点の確認
第３週　国家承認　（１）
第４週　国家承認　（２）
第５週　国家承認　（３）
第６週　政府承認　（１）
第７週　政府承認　（２）
第８週　政府承認　（３）
第９週　国家領域（１）
第10週　国家領域（２）
第11週　国家領域（３）
第12週　国家領域（４）
第13週　国家管轄権（１）
第14週　国家管轄権（２）
第15週　国家管轄権（３）

法学はもとより，外交や国際関係に興味をもつ者（国際政治や地域研究の社会的側面に興味をもつ者）が意欲的に本講義を受講してくれることを希望する。受講生の要望に応じて，外交実務家（外交官等）による特別授業の実施も検討したい。

ボランティア論I

3622002300100

副　題	ボランティアとは？ 国際協力ＮＧＯの活動を通し学ぶ	担　当　者	野口　朝夫　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	VOL-208-IC

〔授業の到達目標〕

「ボランティア」活動に参加したことがあるという学生も，機会があれば参加してみたいという学生も多いだろう。しかし，「ボランティア」って何だろうと正面から問われると，どう答えればよいのか。どのように参加したらいいの？　資格がいるの？　意味があるの？など，実際のことは判りにくい。さらに，そもそも，なんでボランティアなんて必要なのか，という議論もあるかも知れない。

この授業の目的は，そのような疑問の答えを探り，「ボランティア」の意味を考え，１人１人が「ボランティア」を身近で普通なこととして，自ら実践できるようになることにある。そのため，講義を通し，皆が主体的に「考え」ることが期待される。

〔授業の内容〕

「ボランティア」概念の歴史的な変遷，活動内容，役割，成果などを，主に国際協力NGOが担う分野から総合的に学ぶことで，「ボランティア」・NGO活動の意味を考える。さらに各自，参加したいボランティア活動を考え，プロジェクト実施のためのアクションプランを作成する。

〔教材〕

教材は使用しない。進行に合わせ適時，資料を配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前半の授業では，前回の授業の振り返りをおこなっておくこと。一部，各自が調べたことを発表することがある。

後半では，アクションプラン作成のため，各自が資料収集や分析，計画立案などを授業前に準備する必要がある。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度　50%　調査研究の熱心さ・アクションプランの評価　30%　レポート　20%の割合で評価をおこなう。ただし，アクションプラン，レポートは全て提出が前提となる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールにて照会すること。asawo.noguchi●nifty.com（change ● to @）

〔備考〕

ボランティアをおこなうためのアクションプランを作成することから，受講者は，具体的に何らかのボランティアをしたいという思いを持っていることが前提となる。また，秋学期の「ボランティア演習１」を選択希望の学生は，本授業を選択することが望まれる。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の目的　スケジュールについて
　　ボランティアって何か　ボランティアをすることの意味は？
第２週　ボランティア概念の変遷，展開を知る
第３週　市民セクターを考える　NPO・NGOの世界
第４週　日本のNGOの歴史と現在
第５週　国際協力の担い手としてのNGO　ビジョン　ミッションとボランティア
第６週　NGO・NPOの組織運営を知る
第７週　何のために，何が出来るか，何をしたいか　「私」のボランティア活動
第８週　NPO・NGOを調べる　参加したいボランティア活動のテーマを探す
第９週　ボランティアの具体的内容を考える。アクションプランの作成
　　ボランティア団体を立ち上げ，行動計画を練る
第10週　アクションプランの作成
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　アクションプランの発表
第15週　授業をふり返る　「私にとってのボランティア」とは。レポート作成

授業計画は，大体の流れを示すもので，詳細は変更になることがある。
授業中のおしゃべりは厳禁。教室の途中の出退席も禁止。

ボランティア論II

3622002400100

副　題	NPOとわたしたち							担　当　者	伊藤　由紀子　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	VOL-209-IC

〔授業の到達目標〕
NPOと市民社会の関わりあい方を理解する

〔授業の内容〕
今日,社会の多様な分野で積極的な市民参加が行われており,NPO（非営利組織）やNGO（非政府組織）などの非営利・非政府の新しい社会セクター（市民セクター）が注目されている。こうした市民組織の存在が今後のよりよい社会づくりに向けて不可欠であるとの認識は一般化しつつある。しかし，組織数やその役割が増大しながらも，欧米の組織と比較すると，組織・資金力ともに貧弱であり，こうした市民組織の強化，およびこれらの組織を支える市民社会の育成が必要である。本講義では，NPOが存在する意義や背景を検証しながら，その活動の役割や現状と課題について理解を促すことが目標である。

〔教材〕
授業中に適宜プリント他を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
随時指定します。１回の授業あたり４時間，文献を読んだり，レポートを書くための時間を予定してください。

〔成績評価の方法〕
授業内で書く小ペーパー（複数回実施・出欠席確認をかねる）45%，学外でのボランティア活動　10%，試験　45%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
交通機関による遅延も含め，時間を区切って遅刻者の入室は許可していませんので，気をつけてください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　ボランティアの源流と歴史
第３週　人から組織社会
第４週　なぜNPOなのか（１）
第５週　なぜNPOなのか（２）
第６週　NPO法人の現状（１）
第７週　NPO法人の現状（２）
第８週　NPOと市民社会
第９週　NPOと企業
第10週　社会企業家
第11週　世界のNPO
第12週　日本のNPOの課題と展望
第13週　〃
第14週　まとめ
第15週　理解度の確認

国際機構論I

3622003100100

副　題	国際機構の設立と構造							担　当　者	小中　さつき　講師		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INR-310-IC

〔授業の到達目標〕

国際機構の構造や働きを学ぶことで，国際社会が抱える問題や国際社会の仕組みを知る。また，日本が国際機構を通じて国際社会に対してどのような貢献ができるか自ら考える力を身につけることを目標とする。

〔授業の内容〕

いまや，人権，平和，環境，経済，文化，どの分野においても国際機構の存在を無視することはできない。国際連合をはじめ，国際原子力機関（IAEA），国連児童基金（UNICEF），国際通貨基金（IMF），国際労働機関（ILO），世界保健機関（WHO）などの国連専門機関，欧州連合（EU）をはじめとする地域的な国際機構を毎日のようにニュース等で目にする。授業では，主に国際連合の組織構造や実際の活動を通して，国際機構が国際社会で果たしている役割，また果たすべき任務を学び，考える。

国際機構に関わる時事問題に関しても随時取り上げ，問題を掘り下げていく。

〔教材〕

教科書：香西茂、安藤仁介　編『国際機構条約・資料集』第２版，東信堂，2002年
参考書：横田洋三　編著『新国際機構論』国際書院，2005年
佐藤哲夫『国際組織法』有斐閣，2005年
最上敏樹『国際機構論』第２版，東京大学出版会，2006年

テキストについては初回の授業で説明する。レジュメや資料を毎回配布する予定なので，参考書を必ずしも購入する必要はないが，勉強を深めたい人には有用であろう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布したレジュメや資料，また参考書を使って１時間ほど授業の内容をしっかり復習することが重要である。また，国際情勢や国際社会がどのような問題を抱えているのかについて，新聞程度の基礎知識は身につけておいてほしい。

〔成績評価の方法〕

期末試験（80%）と授業内での小テストおよびレポートや発言（20%）で評価する。
出席数や授業態度・意欲は評価を受けるための前提条件である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール　satsukikonaka●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕

本講座の内容を理解するためには，国際法の基礎知識が必要となる。必要な内容についてはもちろん講義で説明するが，新しいことを学ぼうとする意欲が求められる。

〔授　業　計　画〕

第１週　国際機構，国際機構法とは何か
第２週　国際法の基礎
第３週　国際社会の組織化（１）国際連盟設立まで
第４週　国際連盟の構造と任務
第５週　国際社会の組織化（２）国際連合の設立から現在まで
第６週　総論　国際機構の設立　目的　任務
第７週　総論　国際機構の法主体性
第８週　総論　国際機構の意思決定手続
第９週　総論　国際機構の決議の法的効果
第10週　総論　国際機構と国家（１）加盟
第11週　総論　国際機構と国家（２）特権・免除
第12週　地域的国際機構
第13週　NGO（非政府組織）
第14週　国際機構で働く
第15週　まとめ

授業内容については，学生の皆さんの関心のある問題も取り入れていきたい。授業初回でアンケートを取る予定なので，扱ってほしいテーマについて考えておいて欲しい。

国際機構論II

3622003200100

副　題	様々な分野における国際機構の活動							担　当　者	小中　さつき　講師		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INR-311-IC

〔授業の到達目標〕

国際機構の構造や任務の内容を理解することにより，国際社会が抱える問題や国際社会全体の仕組みを学ぶ。また日本が国際機構を通じて国際社会に対してどのような貢献ができるかを考える力を身につけることを目標とする。安全保障，貿易，人権といった，個別の分野における国際機構の働きや，特定の国際機構の特徴を学び，国際機構論Iよりも機構論についてさらに理解を深める。

〔授業の内容〕

いまや，人権，平和，環境，経済，文化，どの分野においても国際機構の存在を無視することはできない。様々な国際問題に各国が個別に対応するのではなく，組織として対応することにより，国際社会は問題の解決を促し問題発生の予防を行おうとする。しかしながら国際機構の一員になるということは，国家は一定の義務を引き受けることとなり，また意思決定についても一定の制約を受けることになる。それでもなお国際社会が国際機構を求める社会的必要性とは何なのか。分野ごとに抱える問題点をしっかり理解し，その上でどのような国際機構が設立されているのか，その内容，有用性，限界そして可能性を様々な国際機構を取り上げながら学んでいく。

〔教材〕

教科書：香西茂、安藤仁介　編『国際機構条約・資料集』東信堂，2002年
参考書：横田洋三『新国際機構論』国際書院，2005年
佐藤哲夫『国際組織法』有斐閣，2005年
最上敏樹『国際機構論』第２版，東京大学出版会，2006年

教科書や参考書については最初の授業で説明する。基本的にはレジュメや資料を毎回配布する予定なので，参考書は必ずしも購入する必要はないが，勉強を深めたい人には有用な文献である。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布したレジュメや資料，また参考書を使って授業の内容をしっかり復習することが重要である。その他に，必ず毎日新聞に目を通し，国際関係関連の記事をしっかり読むこと。

〔成績評価の方法〕

期末試験（80%）と授業内での小テストおよびレポート（20%）で評価する。
出席数や授業態度・意欲は評価を受けるための前提条件である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール　satsukikonaka●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（国際機構，国際機構法とは何か）
第２週　安全保障と国際機構（国際連合と地域的機構）
第３週　国際連合の安全保障制度（１）しくみ
第４週　国際連合の安全保障制度（２）事例研究
第５週　国際連合の安全保障制度（３）今後の課題
第６週　貿易と国際機構
第７週　人権保障と国際機構
第８週　国際人道法と国際機構
第９週　環境保護と国際機構
第10週　教育・文化と国際機構
第11週　開発援助と国際機構
第12週　海上交通の安全と国際機構
第13週　地域的機構（ヨーロッパ）
第14週　地域的機構（アジア，アフリカ）
第15週　まとめ

授業内容については，学生の皆さんの関心のある問題も取り入れていきたいと考えている。授業初回でアンケートを取る予定なので，扱ってほしいテーマについて考えておいて欲しい。

国際開発論I

3622003300100

副　題	国際開発援助							担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INR-212-IC

〔授業の到達目標〕
開発途上国の開発に関わる課題と展望を理解する

〔授業の内容〕
今日，「豊かな」先進国と「貧しい」開発途上国の２つ世界が存在する。戦後，賠償，復興，開発などさまざまな戦略と目的で国際開発援助活動が行われてきたが，世界の貧富の差は縮まるばかりか拡大している。経済開発中心から，人間開発，参加型開発というように開発理論は変遷し，昨今では良い統治，アカウンタビリティー，参加，持続，エンパワメント，社会資本などのキーワードを中心に議論が進められている。本講義では，国家にとっての開発とはどういうことを意味することかを理解しながら，これからの展望を考察する。また，問題の多様性と社会組織のパターン，ダイナミズム，変化のあり方に関する認識を提示する。開発途上国の直面する諸問題を認識しながら，社会開発の側面を考察し，どのような解決方法が可能かさぐる。

〔教材〕
授業中に適宜プリント他を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
随時指定します。１回の授業あたり４時間，文献を読んだり，レポートを書くための時間を予定してください。

〔成績評価の方法〕
授業内で書く小ペーパー（複数回実施・出欠席確認をかねる）45%，学外でのボランティア活動　10%，試験　45%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
交通機関による遅延も含め，時間を区切って遅刻者の入室は許可していませんので，気をつけてください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション　開発　vs　発展
第２週　開発途上国（１）
第３週　貧困
第４週　開発理論の流れ（１）
第５週　開発理論の流れ（２）
第６週　開発途上国と教育
第７週　開発途上国と保健
第８週　開発援助の様々な担い手
第９週　国際協力の意義（１）
第10週　国際協力の意義（２）
第11週　日本から学ぶこと
第12週　課題と展望
第13週　映像紹介
第14週　まとめ
第15週　理解度の確認

国際開発論II

3622003400100

副　題								担　当　者	眞嶋　麻子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	INR-213-IC

〔授業の到達目標〕

国際開発の可能性と課題について，自ら考察できるようになること。

〔授業の内容〕

グローバリゼーションのすすむ国際社会では，飢餓，貧困，武器貿易，紛争，環境破壊といった深刻な問題も増幅している。本講義では，こうした問題に対応するために作られてきた国際社会の仕組みについて，開発に焦点を当ててその問題点と可能性を考えることを目的とする。講義の前半では，今日に至るまでの国際開発の歴史をたどる。後半では，一方で国家の役割が再検討され，他方で民間企業などの新たな国際開発主体が着目されている今日の動向について批判的に検討する。それらをもとに，「国際開発」に対するどのようなオルタナティブが提起されているのかについても考えたい。

〔教材〕

教科書は特に使用せず，講義時にプリントを配布する。
参考文献については，講義の進度に合わせて適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予備知識は特に必要としない。講義時に紹介する参考文献および新聞などのメディアを使って，国際開発にかんする情報を集めておくこと。

〔成績評価の方法〕

期末試験50%，授業内課題および小レポート50%（レポートは学期中に二度課す予定）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　国際開発の歴史（１）冷戦期の開発援助
第３週　国際開発の歴史（２）ポスト冷戦期の開発と「テロとの戦い」
第４週　国際開発の歴史（３）構造調整政策と「グッド・ガバナンス」
第５週　国際開発の歴史（４）ミレニアム開発目標と貧困削減
第６週　国際開発の歴史（５）新興国の台頭と開発援助の新潮流？
第７週　日本の開発援助
第８週　非国家主体と国際開発（１）民間企業と開発
第９週　非国家主体と国際開発（２）民間企業と開発
第10週　非国家主体と国際開発（３）人権と開発
第11週　非国家主体と国際開発（４）人権と開発
第12週　非国家主体と国際開発（５）市民社会に関わる国際開発の事例
第13週　国際開発へのオルタナティブ（１）周辺諸国からの問題提起
第14週　国際開発へのオルタナティブ（２）非国家主体に対するアプローチ
第15週　まとめと理解度の確認
受講者の人数や理解度に応じて，計画が変更されることがある。

経営学II

3622005400100

副　題	経営学の基礎を、「会社」を題材に、体系的かつ実践的に学ぶ							担　当　者	金城　亜紀　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	MAN-214-IC

〔授業の到達目標〕
1．経営学の全体像とポイントを理解し，基礎的な知識を体系的に取得すること。
2．自信をもって人前で自分の意見を表明し，建設的な議論ができるようになること。

〔授業の内容〕
・私たちの意思と努力で，組織の長所は伸び，短所も強みに変えられます。経営学は，そのためのツールです。経営学を学ぶことは充実した楽しい人生を送るためにも有益です。
・「会社」を題材に，「戦略」，「組織」，「人材」を軸に，(通年で）合計15の質問と約150のキーワードに分解して経営学を学びます。現実の企業や経済の動きの理解を深められるように，鮮度の良いトピックスを提供し，グローバルな視点も取り入れます。
・本授業は，ディスカッションや発表の機会も多く，ダイナミックに展開します。それは，経営学は実践の学問であり，「自分の頭で考え」，「他者と議論し」，「具体的な行動」につなげることが大切だからです。
・受講するにあたり，経営学に関する事前の知識は不要です。明るく，元気な方を歓迎します。
・秋学期と合わせて通年で完結する予定です。１年生の方が受講されても結構です。

〔教材〕
教科書：上村、奥林、森田、竹林、他2名『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣，2007年
参考書：伊丹、加賀野『ゼミナール経営学入門』第3版，日本経済新聞出版社，2003年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
・復習を重視し，授業の各テーマが終了する毎に，必ず，教科書を熟読すると共にキーワードを中心に自分でまとめてください。本授業をしっかり理解するためには，１回の授業につき概ね4時間の準備学習が必要と思われます。

〔成績評価の方法〕
授業内容の確認(70%)，宿題(30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日：13：30～14：30 (4222研究室）

〔授　業　計　画〕

第１週　なぜ，学習院女子大学で経営学を学ぶのか？
第２週　リーダーシップとは何か？
第３週　会社の経営とは？
第４週　会社になぜ理念が必要なのか？
第５週　ビジョン
第６週　戦略（１）
第７週　戦略（２）
第８週　マーケティング（１）
第９週　マーケティング（２）
第10週　組織論（１）
第11週　組織論（２）
第12週　企業間関係論
第13週　組織形態
第14週　勤労観
第15週　Wrap-up
・授業をより良くするために，本計画を変更することがあります。

※マーケティングII

3622005600100

副　題	東南アジアでのマーケティング							担　当　者	田島　博和　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	MAN-215-IC

〔授業の到達目標〕
東南アジアの多様性を踏まえたマーケティングを理解する。

〔授業の内容〕
東南アジア，特にASEANに加盟する10カ国を対象にして，地理・政治・経済・民族・宗教などに関する多様性を紹介した後に，それを踏まえて各地域でのマーケティングについて講義します。春学期に開講する「マーケティングI」の応用編であると同時に，東南アジアに対する理解の出発点となる授業にしていきたいと思っています。

〔教材〕
参考書：川端基夫『アジア市場のコンテキスト【東南アジア編】』新評論，2005年
和田充夫・恩蔵 直人・三浦俊彦『マーケティング戦略』（有斐閣アルマ）第4版，有斐閣，2012年
一回目の授業で指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
復習：前回のノートと資料を見返す。予習：今回の資料を読む。必要な時間：各２時間以上。

〔成績評価の方法〕
期末試験の点数と授業中の発言点の合計によって評価します。なお発言点については，一回目の授業で説明します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールで連絡して下さい。htajima●tku.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　東南アジアの概況
第２週　マーケティング戦略の体系
第３週　各国のマーケティング環境（１）政治制度・法律
第４週　各国のマーケティング環境（２）経済
第５週　各国のマーケティング環境（３）民族・宗教・文化
第６週　マーケティング環境に基づく市場細分化
第７週　各国でのマーケティング（１）タイ
第８週　各国でのマーケティング（２）ベトナム
第９週　各国でのマーケティング（３）マレーシア・シンガポール
第10週　各国でのマーケティング（４）ミャンマー・ラオス・カンボジア
第11週　各国でのマーケティング（５）フィリピン
第12週　各国でのマーケティング（６）インドネシア
第13週　各国でのマーケティング（７）ブルネイ
第14週　まとめ（１）
第15週　まとめ（２）

金融論

3622005800100

副　題	金融の基本を学ぶ							担　当　者	佐久間　潮　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1	コース・ナンバー	ECO-216-IC

〔授業の到達目標〕
金融の基本的知識を習得すること。

〔授業の内容〕
私たちの日常生活は，お金なしには考えられない。しかし，経済主体（家計，企業，政府）のすべてが必要なお金を十分持っているわけではなく，お金が不足している主体もあれば，余っている主体もある。経済活動が円滑に営まれ，経済発展を遂げるためには，お金が余っている主体から不足している主体へ，お金を融通することが不可欠である。このことを金融という。
金融情勢は経済の一般的状況や中央銀行の金融政策から大きな影響を受ける。この講義では，（1）お金の果たしている役割，（2）銀行の果たしている役割，（3）中央銀行と金融政策の果たしている役割，を中心に，アメリカのニューヨーク連邦準備銀行が出している平易な解説書を使って学んでいく。

〔教材〕
教科書：The Federal Reserve Bank of New York, *The Story of Money*, The Federal Reserve Bank of New York
The Federal Reserve Bank of New York, *The Story of Banks*, The Federal Reserve Bank of New York
The Federal Reserve Bank of New York, *The Story of Monetary Policy*, The Federal Reserve Bank of New York

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
各２時間

〔成績評価の方法〕
期末テスト（100%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜日３時限
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　序論
第２週　お金の果たす役割り（その１）
第３週　お金の果たす役割り（その２）
第４週　お金の果たす役割り（その３）
第５週　お金の果たす役割り（その４）
第６週　銀行の果たす役割り（その１）
第７週　銀行の果たす役割り（その２）
第８週　銀行の果たす役割り（その３）
第９週　銀行の果たす役割り（その４）
第10週　銀行の果たす役割り（その５）
第11週　中央銀行と金融政策の役割（その１）
第12週　中央銀行と金融政策の役割（その２）
第13週　中央銀行と金融政策の役割（その３）
第14週　中央銀行と金融政策の役割（その４）
第15週　中央銀行と金融政策の役割（その５）

国際経済I

3622006100200

副　題	貿易と外国為替の基礎							担　当　者	佐久間　潮　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ECO-217-IC

〔授業の到達目標〕

貿易の実態及び基礎理論を学習し，貿易に大きな影響を与える外国為替の基礎知識を身につける。

〔授業の内容〕

現在，私達の身の回りには，世界のいろいろな国から輸入された衣料，食品，電気製品，自動車，燃料，化学製品，などさまざまな商品があふれている。また，日本で生産された各種商品も世界各地に輸出されている。では，なぜ貿易が行なわれるのか。あらゆる商品を世界でもっとも安く生産できる国があったとしたら，その国だけが商品を輸出し，それ以外の国々は，すべて輸入するだけになってしまうのか。ある国の通貨とその貿易相手国の通貨が異なる場合（異なるのが普通だが），どちらの通貨で輸入代金が支払われるのか。ある国の輸入業者が外国通貨で輸入代金を支払わなければならなくなったとき，その輸入業者は自国の通貨をいくらで外国通貨と交換できるのか。世界の国々の通貨が異なることからどのような問題が生じてくるのか。また，その問題はどのようにして解決することができるのか。この授業では，こうした問題について考えていく。テキストはニューヨーク連邦準備銀行が発行している平易な資料を使う。

〔教材〕

教科書：The Federal Reserve Bank of New York, *The Story of Foreign Trade and Exchange*, The Federal Reserve Bank of New York
参考書：佐久間潮『国際金融・外為市場（実務と理論の基礎）』初版，財経詳報社，2002年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各２時間

〔成績評価の方法〕

期末テスト（100%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日３時限度
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　世界の貿易の現状（その１）
第２週　世界の貿易の現状（その２）
第３週　世界貿易はなぜ行なわれるか――アダム・スミスの考え方（その１）
第４週　世界貿易はなぜ行なわれるか――アダム・スミスの考え方（その２）
第５週　世界貿易はなぜ行なわれるか――リカードの考え方（その１）
第６週　世界貿易はなぜ行なわれるか――リカードの考え方（その２）
第７週　地域経済統合について（その１）
第８週　地域経済統合について（その２）
第９週　外国為替取引とは
第10週　外国為替取引の実際（スポット取引）
第11週　外国為替取引の実際（フォワード取引――その１）
第12週　外国為替取引の実際（フォワード取引――その２）
第13週　外国為替相場はどのようにして決まるか
第14週　外国為替市場の実態（その１）
第15週　外国為替市場の実態（その２）

国際経済II

3622006200200

副　題								担　当　者	渡邉　淳　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ECO-218-IC

〔授業の到達目標〕

昨今の金融危機の歴史と教訓を通じ，銀行等の金融の担い手の役割について学習する。

〔授業の内容〕

サッブプライム問題が惹起したいわゆるリーマンショックやラ米債務問題などの金融危機を振り返りながら，身近な視点からバブル，住宅ローンや銀行の機能などをに対する理解を深めつつ，国際金融と資金の流れについて学習する。またレポート作成とその発表を通じ，社会人としての必要なプレゼンのスキルアップを図る。

〔教材〕

プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業は質疑応答形式にて進行するので事前配布資料の予習と前回授業の復習は不可欠。

〔成績評価の方法〕

出席点（約15%），レポートと授業中の発表と態度（約35%），１回のテスト（約50%）等の結果を総合し，評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の後あるいは国際コミュニケーション学科の副手を通じてのアポ

〔授　業　計　画〕

第１週　本コースの勧め方，内容の説明
　　お金とは，銀行の役割について
第２週　貸し出しと審査について
第３週　ローンとインターバンク市場について
第４週　住宅ローンと銀行審査について
第５週　サッブプライム問題について（１）
第６週　サッブプライム問題について（２）「証券化」
第７週　リーマンショックについて
第８週　レポート提出と発表，プレゼンの留意点について
第９週　ラ米債務問題について（１）
第10週　ラ米債務問題について（２）
第11週　ラ米債務問題について（３）ブレーティボンド
第12週　アジア通貨危機について
第13週　アジア通貨危機について（２）
第14週　国際資本市場とContagionについて
第15週　金融危機のレビューとその教訓
　　理解度の確認

マスコミュニケーション論II（理論）

3625000600100

副　題	メディアとコミュニケーション、メディアと文化							担　当　者	蔡　星慧　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	SOC-219-IC

〔授業の到達目標〕

前期の授業と連続し，コミュニケーション理論，メディアと社会，メディアと文化など，密度ある事例からメディアと私たちの相互関係に対する理解を深める機会にしていきたい。

〔授業の内容〕

本講ではメディアが生み出してきた様々な社会の変化と文化現象を事例にコミュニケーション力としてのメディアに注目してみる。加えてデジタル社会において私たち受け手が現代社会を生きる上で，メディアをいかに有効に活用するか，送り手と受け手のインタラクティブ性について批判的に考えてみる。

〔教材〕

特に指定はありません。毎回レジュメと資料を配付し，その都度参考文献を提示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前配付資料を読み，調べる課題などがあります。

〔成績評価の方法〕

出席（20%），リアクションペーパー（10%），レポート（30%），期末定期試験（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-Mail:chekadai●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　コミュニケーションとは
第２週　マス・コミュニケーションの基礎概念
第３週　メディアとコミュニケーション
第４週　マス・コミュニケーション効果研究理論①－初期理論
第５週　マス・コミュニケーション効果研究理論②－後期理論
第６週　文化とコミュニケーション
第７週　カルチュラルスターディーズからみる事例
第８週　メディアと流行
第９週　皇室イメージの戦前と戦後
第10週　テレビの文化
第11週　80年代の文化
第12週　若者の文化
第13週　クールジャパン，日本の文化コミュニケーションを知る
第14週　メディア社会とコミュニケーション力
第15週　まとめ

授業では学生との議論など，学生の積極的な授業参加を重視します。シラバスは授業内容に反映するメディアの最新動向の言及や議論によって，多少進行を変えることもあります。

マスコミュニケーション論III（広告・ＰＲ）

3625000700100

副　題	広告やPRの役割を理解する							担　当　者	中馬　淳　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	SOC-220-IC

〔授業の到達目標〕

広告やPRに関心を持ち，その意味するところを理解すること。メディアのコンテンツや広告として発信される企業・団体等のメッセージを受け取るリテラシーを獲得すること。

〔授業の内容〕

この授業では，広告やPRについて，基本的な考え方や役割を実例を交えて解説します。

両者はアプローチこそ違えども,「人を説得する」というメカニズムは同じです。人がコマーシャルに引き付けられたり，お気に入りの店ができるのは，どうしてなのでしょうか。あるいは,「この企業に就職したい」という気持ちはどこから生まれてくるのでしょうか。

特に近年では，デジタルメディアやソーシャルメディアの台頭で，マスメディアを使った広告やPRが主流だった時代とは少し違った様相を見せ始めています。そうした状況を交えながら,「人を動かす」コミュニケーションのメカニズムについて考えていきたいと思います。

受講者にはディスカッションやレポートの作成などが課せられるなど，能動的な参加を求めていきますので，よろしくお願いします。

〔教材〕

教科書は特に使用しません。参考書は適宜ご案内します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で紹介する広告やPRに関して，実際にメディアで触れ，考える時間をとってもらうことが最も重要になる。また，期間中に何度かレポートの作成が課せられる（各回４時間程度を想定）。

〔成績評価の方法〕

期末試験（約70%），フィードバックペーパーの提出と質（約30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業開始時に案内する

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション～広告とPRの現在
第２週　コンセプト・ターゲットの設定
第３週　広告表現の考え方
第４週　メディアプランニング
第５週　デジタルメディアと広告
第６週　統合コミュニケーション
第７週　戦略PRとパブリシティ
第８週　ブランドとは何か
第９週　コーポレート・コミュニケーション：企業のイメージをどう高めていくか
第10週　クライシス・コミュニケーション：企業の危機にどう対処するか
第11週　ソーシャル・コミュニケーション：企業は社会とどう向き合っていくか
第12週　広告やPRにまつわる仕事
第13週　まとめ
第14週　〃
第15週　〃
進行状況により，上記計画は一部変更することがあります。

比較政治学I

3625001300100

副　題	比較政治：日本と中国							担　当　者	杉原　志啓　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	POL-222-IC

〔授業の到達目標〕

日本の政治における世界史との連関を学習。春学期は，とくに日本と中国の政治史の連動過程を修得する。

〔授業の内容〕

比較政治学１では，比較政治学の基礎理論をレクチャーのうえ，本年度全体のテーマである日米中３国の政治史を比較探究していく基礎として，日本と中国における政治の歴史を詳しく検討していく予定である。具体的には，日本の国家成立過程における日本神話と天皇の関連，中国における儒教と皇帝政治の関連，そして中国の政治制度が日本の政治におよぼした過程をみていく。なお，本講座は，秋学期における日米中の政治的案件の現状と将来を展望する前提として企図しており，可能なかぎり比較政治学２との連続聴講を望みたい。

〔教材〕

参考書：杉原志啓編・坂本多加雄著『歴史を語る作法』都市出版，2004年

授業中比較政治学と宗教史の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業関連のプリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の１回の小テスト（50%）と学期末レポート１回（50%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　比較政治学の基礎理論（１）
第３週　比較政治学の基礎理論（２）
第４週　中国の政治形態
第５週　儒教とは何か
第６週　中国における国家と民衆
第７週　中国における歴史的国民性
第８週　大航海時代と東アジア
第９週　古代日本と中国および朝鮮
第10週　中華文明と日本の接触
第11週　日本における儒教と儒学
第12週　中国の華夷秩序
第13週　近代日本と華夷秩序
第14週　国際法秩序と華夷秩序の対立
第15週　日本と中国における政治・国家の歴史的相違

小テストと期末レポート，実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが，この２回は必ず出席すること。

比較政治学II

3625001400100

副　題	日中対立とアメリカ政治							担　当　者	杉原　志啓　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	POL-223-IC

〔授業の到達目標〕

欧米キリスト教文明と政治の関連に関する基礎知識の習得。

〔授業の内容〕

秋学期の本講座では，比較政治学１における日本と中国の政治史の比較検討を簡単に復習しつつ，日中を含む東アジア地域全体への西欧文明到来の歴史を概観していくが，とくに日本におけるアメリカの進出への対応過程の政治の問題を詳しくレクチャーしていく予定である。

〔教材〕

参考書：杉原志啓編・坂本多加雄著『歴史を語る作法』都市出版，2004年

授業中比較政治学と日米中の政治史に関わる基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中の配布プリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の１回の小テスト（50%）と学期末レポート１回（50%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　アジアとキリスト教
第３週　アジアへのキリスト教文明の到来
第４週　日本へのキリスト教文明の到来と対立
第５週　日本におけるキリスト教と儒教
第６週　中国および朝鮮へのキリスト教文明の到来と対立
第７週　日本における政教分離
第８週　近代日本の宗教と政治（１）
第９週　近代日本の宗教と政治（２）
第10週　日本におけるアメリカ進出への対応
第11週　日本とアメリカの対立
第12週　東アジアにおける日米中の相関関係
第13週　世界秩序の再編と現状
第14週　宗教と政治的対立
第15週　日本の文明史的特異性

小テストと期末レポート，実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが，この２回は必ず出席すること。

国際政治I（歴史と現状）

3622004100100

副　題	国際政治の歴史と現状							担　当　者	畠山　圭一　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	POL-224-IC

〔授業の到達目標〕
20世紀の国際政治の歴史と基礎理論および今日の課題を理解する。

〔授業の内容〕
21世紀の国際政治を展望するための前提として，20世紀が人類に残した様々な国際政治上の教訓を探るのが本講義の目的である。20世紀という時代はそれまでのあらゆる価値観が挑戦を受け，政治，経済，社会について考えうるほとんどすべての理論と制度が実験され，その可能性が極限まで試された時代だった。しかも，その影響が全世界規模であらゆる社会階層にまで波及し，世界戦争，革命，大恐慌が価値観，秩序，生活環境の激変をもたらした時代でもあった。本講義では，20世紀の世界，人類に大きな影響を与えてきた社会思想，政治思想，国際政治理論とその具体的な展開の歴史を取り上げ，20世紀の国際政治並びに20世紀という時代の特殊性について考察を行う。

〔教材〕
教科書：ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィド・A・ウェルチ『国際紛争(原書第9版)　理論と歴史』有斐閣，2013年
国際政治の歴史と理論に関するオーソドックスな必携テキスト。授業内でしばしば使用する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
講義１時間あたり受講生が２時間程度の予習を行っていることを前提に講義を行うので事前にテキストの該当個所を読んで授業に臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕
定期試験（６割）とリポート（４割）の点数を合算して評価し，６割以上を合格とする。基礎知識の習得状況をもっとも重視するが，国際政治の各事象に関する分析・解釈の深さも加味しながら評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火４限又は随時。連絡方法は初回授業で指示する。

〔備考〕
予習内容，授業内容について質問があれば授業中でも遠慮せずにしてほしい。なお３回連続欠席，計４回の欠席で受講停止とする。また受講態度の悪い場合も欠席扱いとする。授業開始後15分以降の遅刻は欠席とみなす。無断退出は認めないので，やむをえない事情で退出する際は必ず一言断るようにしてほしい。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入・国際政治の常識（リアリズムとリベラリズム，国際政治と倫理・モラル）
第２週　歴史　１．20世紀における大規模紛争の起源（国際システム，多様な紛争要因）
第３週　歴史　２．勢力均衡と第１次世界大戦（勢力均衡，第１次世界大戦の起源）
第４週　歴史　３．集団安全保障の失敗と第２次世界大戦（集団安全保障，第２次世界大戦の起源）
第５週　歴史　４．冷戦の起源（抑止と封じ込め，冷戦に関する３つの解釈，ルーズベルトの政策，スターリンの政策）
第６週　歴史　５．冷戦の進展（冷戦の軌跡，３つの分析レベル，米ソの戦略目的，封じ込め）
第７週　歴史　６．冷戦の終結（緊張緩和の過程，冷戦終結）
第８週　歴史　７．冷戦の教訓―核兵器の役割(物理学と政治,恐怖の均衡,核抑止の問題,キューバ危機)
第９週　中間的まとめ
第10週　現状　１．国家主権と介入
第11週　現状　２．国際法と国際機構
第12週　現状　３．地域紛争
第13週　現状　４．相互依存とパワー
第14週　現状　５．新世界秩序―国民国家と国際紛争の将来
第15週　総括

国際政治II（日本の使命）

3622004200100

副　題	近代日本政治外交史							担　当　者	齋藤 洋子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	POL-225-IC

〔授業の到達目標〕
近代日本の主要な外交政策について学び，現代の日本が抱える外交問題を歴史的な背景を踏まえて理解できるようになる。

〔授業の内容〕
本講義では，幕末から第二次世界大戦後にいたる日本の外交政策を概観し，近代日本が直面した問題，選択した政策を客観的に考察する。当該期は国際社会における日本の地位が激変した時代であり，政府要路者は難しい判断が迫られた。国内世論，国際社会の動向などを踏まえつつ，近代日本のリーダーたちは，どのような判断を下し政策を決定していったのか，その過程を再考する。
また，現在日本が直面している外交問題についても，授業との関連の中で適宜解説，分析していく。

〔教材〕
参考書：井上寿一『日本外交史講義』岩波書店，2003年
佐道明広,小宮一夫,服部龍二 編『人物で読む近代日本外交史：大久保利通から広田弘毅まで』吉川弘文館，2009年
佐道明広,小宮一夫,服部龍二 編『人物で読む現代日本外交史：近衛文麿から小泉純一郎まで』吉川弘文館，2008年
I.ニッシュ 著；宮本盛太郎 監訳『日本の外交政策：1869-1942 霞が関から三宅坂へ』ミネルヴァ書房，1994年
関静雄『近代日本外交思想史入門』ミネルヴァ書房，1999年
その他授業中適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：事前に，参考書などで時代背景を確認しておくこと。
復習：授業中紹介した参考文献などを読み理解を深めること。

〔成績評価の方法〕
コメント　40%，レポート　60%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕
近代史の基本的な流れは理解しているものとして授業を進めます。高校で日本史を選択しなかった場合などは，解説書や参考書で大まかな流れを掴んでおいて下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス／ペリー来航の衝撃
第２週　開国後の対外危機―薩英戦争，下関戦争，外国人殺傷事件―
第３週　岩倉使節団の見た世界
第４週　マリア・ルス号事件
第５週　条約改正交渉
第６週　大津事件
第７週　初期議会と日清戦争
第８週　日英同盟の成立と日露戦争
第９週　日韓併合と日本の大陸政策
第10週　第一次世界大戦と日本
第11週　ワシントン体制と協調外交
第12週　満州国樹立と国際連盟脱退
第13週　アジア新秩序と日米交渉
第14週　占領下の日本
第15週　講和条約と日米安保条約

国際政治III（構造変化）

3625003100100

副　題	国際関係の構造変化と21世紀の課題							担　当　者	加藤　朗　講師		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	POL-326-IC

〔授業の到達目標〕
国際構造の変化の動態を歴史的に分析し，国際構造の変化がもたらす影響とその原因を探る知識や分析力を得ることを目標とする。

〔授業の内容〕
今日の国際構造は，冷戦時代における米・ソという二つの超大国による安定的な「二極」構造とも，ポスト冷戦時代における超大国アメリカと欧・日・露・中などの複数の強国による不透明ながらも協調的だった「一超多強」構造とも異なっている。それは,「グローバル化の進展」「非国家主体の興隆」「主要国における大国意識の高まり」「文明間競争の予兆」などが複合的に作用し，大国間の激しい覇権競争と，国際テロリズムや大量破壊兵器拡散による既存秩序への様々な挑戦が展開する，流動的で，かつ競争・対立的なものとなっている。こうした動乱の時代を経て，やがて新たな国際秩序が生まれ，再び人類は国際的な安定と繁栄を享受することとなろう。だが，そうした安定期に至るまでの過渡期は逆に破滅的な結果をもたらすこともある。20世紀の例を見ても人類は２度にわたる世界大戦を体験している。それゆえ，国際構造の変化の動態を分析し，国際構造の変化がもたらす影響を探ることは，わが国の外交・安全保障政策や国際貢献を考える上からも，国際社会の平和と安定と秩序を形成する上からも極めて重要な前提作業である。本授業では，冷戦終結以降の国際構造の変化とその影響について考察するとともに，我が国の国際政治上の課題を明らかにする。

〔教材〕
教科書：ジョセフ・S.ナイ ジュニア (著), デイヴィッド・A. ウェルチ (著), 田中 明彦 (翻訳), 村田 晃嗣 (翻訳)『国際紛争』原書第９版，有斐閣，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前にテキストの該当箇所を読み，自らの課題を用意して臨むこと。ディスカッションを通通して，思考力，分析力の養成が主眼であるため，事前，事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習，復習には十分な時間(標準は各２時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕
リアクション・ペーパー（30%）と授業内レポートの点数（70%）を合算して６割以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
akira●obirin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕
この授業は国際政治の応用編である。ディスカッションの機会を多く設けたいと考えているので，教科書を活用して，予習・復習を充分に行って授業に臨んでください。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入―国際構造の変化とは何か
第２週　国際構造と国際紛争
第３週　国際構造の変化の理論
第４週　第一次世界大戦の起源
第５週　集団安全保障の興亡
第６週　第二次世界大戦の起源
第７週　冷戦構造の形成
第８週　核兵器の役割
第９週　冷戦の進展
第10週　地域紛争の拡大
第11週　冷戦の終結
第12週　グローバリゼーションと相互依存
第13週　情報革命，脱国家的主体とパワーの分散
第14週　世界武力社会紛争と国際構造
第15週　まとめと確認

国際政治Ⅳ（国際戦略）

3625003200100

副　題	国際戦略の理論と政策							担　当　者	加藤　朗　講師		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	POL-327-IC

〔授業の到達目標〕
代表的な戦略理論に関する理解を深める。

〔授業の内容〕
本講義では，戦略理論を用いながら，21世紀の国際社会を展望し，最終的には，日本が取りうる対外政策・安全保障政策上の選択肢を検討する。国家戦略とは，ある国家目標の達成のために自らの能力と資源をいかに効果的に用いるかをめぐる理論・技術であり，日本が国際貢献を果たし，あるいは国家・国民の安全と繁栄を確実にするための基本指針となるものである。しかしながら，戦略の策定はさまざまな偏見や誤解や希望的観測など反映されやすく，かつ断片的・不正確な情報・知識に基づくものともなりやすい。そのため，戦略策定に当たっては，人類が長い歴史を通じて見出してきた経験則に基づく客観性を伴った英知の集積である戦略理論や戦略思想を学ぶことが絶対的に必要となる。また主要国の指導者たちがどのような発想を持って国際政治を展開しているかを理解する上でも有用である。そうした戦略論の基礎理論や代表的思想を紹介・解説しながら，21世紀の日本の国家戦略について考えていきたい。

〔教材〕
参考書：石津朋之・永末聡・塚本勝也編著『戦略原論』初版，日本経済新聞社，2010年
石津朋之 (監修), ジョン ベイリス (編集), ジェームズ ウィルツ (編集), コリン グレイ (編集)『戦略論』初版，勁草書房，2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
ディスカッションを中心に進めるので，予習による事前準備が重要となる。参考文献の指定箇所を熟読の上，自らの課題を明らかとして講義に臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕
リアクション・ペーパー（30%）と授業内レポート（70%）の点数を合算して 6 割以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
akira●obirin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕
この授業は国際政治の応用編である。ディスカッションの機会を多く設けたいと考えているので，参考書を活用して，予習・復習を充分に行って授業に臨んでください。
授業計画

〔授　業　計　画〕

第 1 週　導入―戦略とは何か
第 2 週　戦争の原因
第 3 週　近代の戦略思想（1）総力戦戦略
第 4 週　〃
第 5 週　非対称戦の戦略
第 6 週　人間の安全保障戦略
第 7 週　民主主義による平和戦略
第 8 週　人道的武力介入戦略
第 9 週　軍備管理戦略
第10週　技術と戦争
第11週　文化と戦争
第12週　国際法と戦争
第13週　日本の国家安全保障戦略
第14週　日本の防衛戦略
第15週　まとめと確認

ヨーロッパ政治史I

3625004100100

副　題	ホロコースト研究							担　当　者	武井　彩佳　准教授
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	HIS-328-IC

〔授業の到達目標〕

ホロコーストとは何だったのか，その背景と展開，さらにこれが現代世界に今でも与え続けている影響について理解する。

〔授業の内容〕

ホロコーストとその残した負の遺産について，毎回異なるテーマで講義する。前半ではホロコーストの展開とその性格を，後半ではホロコースト後の世界について学ぶ。

〔教材〕

参考書：ヴォルフガング・ベンツ『ナチス第三帝国を知るための101の質問』現代書館，2007年
ダン・ストーン『ホロコースト・スタディーズ』白水社，2012年
芝健介『ホロコースト：ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』（中公新書）中央公論社，2008年

詳細な参考文献リストは初回の授業で配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考文献を読む

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度：試験（もしくはレポート）＝50：50

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜日の４時限後30分。
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は出席点が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入：ホロコーストとは何か
第２週　ホロコーストの展開（１）：移住
第３週　ホロコーストの展開（２）：財産の略奪
第４週　ホロコーストの展開（３）：虐殺
第５週　コラボ(対独協力者)
第６週　ユダヤ人を助けた人々
第７週　ホロコーストと女性
第８週　関連する映画鑑賞
第９週　ホロコースト生存者（１）
第10週　ホロコースト生存者（２）
第11週　イスラエルとホロコースト
第12週　ドイツ・ユダヤ人社会の再建
第13週　ホロコーストの記憶と表象（１）：証言
第14週　ホロコーストの記憶と表象（２）：記念碑
第15週　予備日
計画通りにいかないこともあります。

ヨーロッパ政治史II

3625004200100

副　題	強制移住とジェノサイド							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	HIS-329-IC

〔授業の到達目標〕

20世紀を，強制的な人の移動と，それに伴い発生したジェノサイドという観点から理解する。

〔授業の内容〕

20世紀は世界的な規模で国境線の移動があり，人の強制的な移動がなされた時代である。これは民族的に均質な国家を樹立するという試みと表裏一体の関係にある。20世紀のヨーロッパと，ヨーロッパの勢力が及んだ地域（中東･アフリカ）を中心として，住民交換，強制移動，ジェノサイドの事例を学び，連綿と続く暴力の歴史について考える。

〔教材〕

参考書：ノーマン・ネイマーク『スターリンのジェノサイド』みすず書房，2012年
石田勇治・竹内進一編『ジェノサイドと現代世界』勉誠出版，2010年
ノーマン・ナイマーク『民族浄化のヨーロッパ史：憎しみの連鎖の20世紀』刀水書房，2014年

授業でプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考文献を読む

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度：試験（もしくはレポート）＝50：50

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜の４時限後30分
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は出席点半分

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　概念の説明：強制移住，民族浄化，ジェノサイド，ホロコースト
第３週　最初のジェノサイド？ヘレロとナマ
第４週　トルコとギリシアの住民交換
第５週　アルメニア・ジェノサイド
第６週　スターリンの強制移住（１）
第７週　スターリンの強制移住（２）
第８週　特別授業
第９週　ナチズム（１）「民族ドイツ人」の移住
第10週　ナチズム（２）スラブ人に対するジェノサイド
第11週　ドイツ人の追放
第12週　加害者・犠牲者・傍観者
第13週　サバルタン・ジェノサイド
第14週　現代のジェノサイド
第15週　授業のまとめ
計画通りにいかないこともあります。

アメリカ文化論I

3623001100100

副　題	米大統領とアメリカの政治・社会							担　当　者	石澤　靖治　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	POL-201-ID

〔授業の到達目標〕

米大統領の変遷を軸としてアメリカ政治の制度や思想について基礎的な知識を養いつつ，アメリカ国民がアメリカの国内状況と対外関係の変化をどうとらえ，大統領に対する国民の要望と期待が時代ごとにどのように変わっていったのかを理解できるようにする。アメリカの保守とリベラルという思想によるアメリカ政治・社会の問題を分析できるようにする。

〔授業の内容〕

最初に米大統領選の制度としくみを説明する。具体的には大統領になる条件や選挙人制度など。次に米大統領選挙と米大統領の歴史をたどる。時期的には主としてF．ルーズベルトの1930年ごろから現在のオバマまで。その中でアメリカ社会全体にかかわる思想として，政府と個人との関係から，保守とリベラルというものを中心に説明する。

〔教材〕

参考書：Neustadt, Richard, *Presidential Power*, Free Press, 1990
久保文明他『アメリカ政治』（有斐閣アルマ）有斐閣，2007年
阿部斉『現代アメリカ政治』第２版，東京大学出版会，1992年
有賀夏紀『アメリカの20世紀（上・下）』中央公論新社，2002年
宇佐美滋『アメリカ大統領』講談社，1988年

参考文献は一例。米大統領と米社会について書かれたものは上記以外に無数にある。授業中にも随時紹介するが，各自積極的に他の文献にもあたること

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に各２時間

〔成績評価の方法〕

期末試験：50%，理解度の確認：30%，平常点：20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tue 14：30-15：30

〔備考〕

人数制限：約80名

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の説明，スケジュール
第２週　アメリカ大統領と大統領への道
第３週　南北戦争以降大恐慌以前まで
第４週　繁栄と大恐慌の時代：F･ルーズベルトのニューディールの意義
第５週　冷戦・赤狩りと大統領：トルーマン，アイゼンハワー
第６週　公民権運動とベトナム戦争１―ケネディ，ジョンソン，ニクソン
第７週　公民権運動とベトナム戦争２―ケネディ，ジョンソン，ニクソン
第８週　公民権運動とベトナム戦争３―ケネディ，ジョンソン，ニクソン
第９週　理解度の確認
第10週　大統領の失墜：ニクソン，フォード，カーター
第11週　保守主義と冷戦の終了：レーガン，ブッシュSr.
第12週　ポピュリズムと大統領：クリントン
第13週　２つの大統領像：ブッシュJr.，オバマ
第14週　オバマ大統領と2016年米大統領選
第15週　まとめ
理解度の確認も含めて進行が多少前後することがある。

アメリカ文化論II

3623001200100

副　題								担　当　者	前嶋　和弘　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	POL-202-ID

〔授業の到達目標〕
　アメリカの政治・社会・文化についての包括的な理解を目指す

〔授業の内容〕
　この授業ではアメリカの政治・社会・文化についての包括的な理解を目指す。アメリカは入植から現在まで，一貫して存在そのものにグローバルな要因をはらんでおり，「自分と異なるもの」との相克と共存の過程を常に繰り返しながら国家として発展してきた。特定の政治文化と異なる政治文化が出会うところには，何が生まれるのか――。この授業ではこの問題をグローバル化の中でのアメリカの政治文化を例にして検証する。まず，「アメリカからみえる世界」を考察してから，アメリカ国内の「グローバル化」の過程を人種マイノリティや移民をめぐる政治過程から分析し，プルーラリズム（多元主義）と排外主義の相克に代表される矛盾についても論ずる。これに続いて，特に「非アメリカ的なもの」のとの軋轢を検証する中で，移民についてのステレオタイプ的視線の変遷やその変化も分析する。また，アメリカが作り出した国際秩序について，民主主義や市場経済という思想の点や第二次大戦後の実際の国際秩序形成をふりかえり，さらには文化外交とソフトパワーの影響について検証する。アメリカという国家の枠組（人種，民族，宗教，地理的な多様性，理念，文化）のほか，アメリカ政治の中心アクター（連邦議会，大統領），および「＋αのアクター」（政党，利益団体，世論，メディア）の役割にもできるだけふれる。アメリカを理解するとともに，日本との比較の視点も失わず，「アメリカを研究することで日本を知る」ことも目指している。「アメリカ文化論I」を受講していることは望ましいが，はじめて受講する学生にも理解できるように，できる限り判りやすく進めたい。

〔教材〕
　参考書：久保、砂田、松岡、森脇著『アメリカ政治』有斐閣，2010年
　　吉野孝、前嶋和弘編『オバマ政権はアメリカをどのように変えたのか』東信堂，2010年
　　前嶋和弘『アメリカ政治とメディア』北樹出版，2011年
　　久保文明『ティーパーティの研究：アメリカ保守主義の変容』ＮＴＴ出版，2012年
　　吉野孝、前嶋和弘編『オバマ政権と過渡期のアメリカ社会』東信堂，2012年
　　吉野孝、前嶋和弘編『「オバマ後」のアメリカ政治』東信堂，2014年
　　吉野孝、前嶋和弘編『2008年アメリカ大統領選挙』東信堂，2009年
　　滝田賢治編『アメリカがつくる国際秩序』ミネルヴァ書房，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　ブックレポートも課すため，本の選択のために，授業後は常に自分の興味がある内容を独自に調べておく。

〔成績評価の方法〕
　毎回のリアクションペーパーや，授業での貢献度を重視する。授業最終日にまとめのための試験を課す。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　電子メール（授業中に説明）での連絡は常に受け付けている

〔備考〕
　「講義」というよりも準演習的な内容であり，学生の積極的な参加が大前提として求められている。毎回のリアクションペーパーなどを通じ，教員と学生，学生相互が双方向で意見を交わす。理解を深めるため，ニュース映像などを頻繁に使う。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション：なぜ，アメリカの政治・社会・文化を学ぶのか
第２週　“アメリカ人”になるということ（実験国家のアイデンティティ：人種，民族，宗教，地理的な多様性）
第３週　「アメリカは日本の兄？味方？それとも敵？」（日本人にとってのアメリカ）
第４週　「自由」「平等」「個人主義」は共存できるか？（アメリカの理念と文化）
第５週　「特定の文化と別の文化が出会うところには，何が生まれるのか」（人種・エスニシティと文化）
第６週　「なぜ，アメリカは民主主義のモデルとなったのか」（建国の理想），アメリカンデモクラシーと「丘の上の街」
第７週　アメリカへの人の移動：移民とそのメカニズム
第８週　ラテン系アメリカ人
第９週　アジア系アメリカ人
第10週　アフリカ系アメリカ人，社会運動としての公民権運動
第11週　グローバル化に取り残された人々　ネイティブ・アメリカンと政治
第12週　「なぜアメリカの選挙は“派手に見える”のか」（選挙）
第13週　「異なる人種，民族，宗教，ジェンダーでは，政治的な見方がどのように違うのか？」（世論）
第14週　「テレビはキングメーカーにふさわしいか」（メディアと政治，社会，文化）
第15週　まとめ
学生の理解度や参加度を重視するため，授業計画は必ずしも当該週と一致しないことがある。

イスラム文化論II

3623003200100

副　題	イスラムと社会生活							担　当　者	小野　仁美　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ARE-203-ID

〔授業の到達目標〕

社会生活に見られるイスラムをとおして，イスラム文化の多彩な魅力を知り，イスラム教徒の価値観への理解を深める。また，イスラム教徒をめぐる現代の諸問題について，その背景を把握することにより,安直な先入観にもとづく偏見を払拭する。

〔授業の内容〕

授業は講義形式で進めるが，映像資料や現物資料を活用して，イスラム文化を多角的に見ていきたい。世界のイスラム教徒がどのような歴史をもち,どのような価値観を有しているのか。イスラムの基本的教義を解説しつつ，様々な地域において展開される多様なムスリム社会を紹介したい。

〔教材〕

毎回レジュメを配布する。教科書はとくに指定しない。
参考文献は，授業時に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として，事前に指定する参考文献に目を通しておくこと。授業後には，復習として再度参考文献を読み，理解を深めてほしい。

〔成績評価の方法〕

期末レポート50%，平常点（リアクション・ペーパー，質問等）50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

初回の授業時に，教員のメールアドレスをお伝えします。

〔備考〕

授業後の質問を歓迎します。参考文献の相談にも応じますので,積極的に活用してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業のねらいと進め方
第２週　ハラール・ビジネスと日本
第３週　イスラムと日常生活
第４週　イスラムの結婚観
第５週　映像でみる現代ムスリム社会（１）
第６週　パレスチナ問題を考える
第７週　映像でみる現代ムスリム社会（２）
第８週　アラブ革命とイスラム主義
第９週　イスラムとジェンダー
第10週　映像でみる現代ムスリム社会（３）
第11週　特別授業：イスラムと音楽
第12週　イスラムと美術
第13週　アニメで学ぶイスラム文化
第14週　イスラムと建築
第15週　まとめと復習
授業計画は変更することがある。

☆イギリス文化論II

3626000200100

副　題	英国文化展望：中世から現代へ							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ARE-205-ID

〔授業の到達目標〕

講義をとおして英国の中世～近代を観察し，英国のたどった歴史と日本のそれとを比較することで地域及び比較文化の視点を養う。

〔授業の内容〕

他のヨーロッパの国々同様，古くからキリスト教を受け入れてきた英国は，ヘンリー八世以来，英国国教会という独自のキリスト教社会を形成してきた。そして今日このキリスト教信仰が危機に見舞われているという。本講義ではアメリカのピューリタニズムを生むきっかけともなった英国のキリスト教の歴史を皮切りに，教育制度や英国が世界に誇る環境保護政策，さらには日本のお手本となった議会制度，ジャガーやローバーミニといった名車を生み出した英国の自動車産業，スピットファイアからハリアーに至る航空機産業，それらの源となった産業革命とはいかなるものであったのかなど，かなりよくばったイギリス文化の展望となる。授業内容は，解説：３に対して担当者が長年，英国で取材した映像，その他ドキュメンタリー等の映像を見ながら，ポイントをワークシートに記述する作業：７，というスリルあふれるものになる。Seeing is believing!

〔教材〕

テキスト：毎時間，テーマに関連した資料プリントを用意する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に各２時間を要する。

〔成績評価の方法〕

毎時間使用するワークシートの出来具合（20%），授業への参加意欲・貢献度（10%），定期試験（70%）の合計で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３時限
メールまたは国際コミュニケーション学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業ガイダンス　Prologue
第２週　英国のキリスト教１：ローマからの伝道
第３週　英国のキリスト教２：中世キリスト社会～ヘンリー八世と英国国教会
第４週　英国のキリスト教３：カトリック，国教会そしてプロテスタント
第５週　英国の議会政治制度１：腐敗政治からの脱却
第６週　英国の議会政治制度２：さらなる政治改革をめざして
第７週　英国産業革命の意義：産業革命の光と影
第８週　英国の教育制度１：初等教育編
第９週　英国の教育制度２：中等教育編
第10週　英国の環境保護について１：The National Trustの環境保護
第11週　英国の環境保護について２：The English Heritageの環境保護
第12週　英国の自動車産業および道路交通事情について
第13週　英国の航空機産業：その過去と未来
第14週　フェア・トレードにみる英国のニュービジネス
第15週　まとめ

フランス文化論I

3626001100100

副　題	フランスの歴史と文化							担　当　者	工藤　晶人　准教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ARE-206-ID

〔授業の到達目標〕

中世から近世にかけてのフランス史について理解を深める。

〔授業の内容〕

この講義では，中世から近世にいたるフランスの歴史を通観する。ヨーロッパのなかでのさまざまな文化圏との関わり，海外（カリブ海域とアフリカ）との関係を重視して，異文化交渉のなかから形成されてきたフランスの多様性について考える。

〔教材〕

参考文献を授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

学期中の中間レポート（40%），学期末レポート（40%），コメントシート（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日の昼休み
授業中に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　歴史学の考え方１
第２週　歴史学の考え方２
第３週　フランスとフランス語圏の地理１
第４週　フランスとフランス語圏の地理２
第５週　中世ヨーロッパとフランス１
第６週　中世ヨーロッパとフランス２
第７週　近世フランスの国家と社会１
第８週　近世フランスの国家と社会２
第９週　近世フランスの国家と社会３
第10週　カリブ海とフランス１
第11週　カリブ海とフランス２
第12週　西アフリカとフランス１
第13週　西アフリカとフランス２
第14週　フランスと環大西洋世界
第15週　まとめ
進行は前後することがある。

フランス文化論II

3626001200100

副　題	フランスの歴史と文化							担　当　者	工藤　晶人　准教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ARE-207-ID

〔授業の到達目標〕

近世から近代にかけてのフランス海外関係史について理解を深める。

〔授業の内容〕

この講義では，18世紀末から20世紀初頭にかけてのフランス海外関係史を通観する。環大西洋地域，地中海，東南アジア，サハラ以南アフリカとの関係を概観し，フランスとフランス語圏の多様性について考える。

〔教材〕

参考文献を授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

学期中の中間レポート（40%），学期末レポート（40%），コメントシート（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日の昼休み
授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　歴史学の考え方１
第２週　歴史学の考え方２
第３週　大西洋革命の時代１
第４週　大西洋革命の時代２
第５週　地中海とフランス１
第６週　地中海とフランス２
第７週　地中海とフランス３
第８週　東南アジアとフランス１
第９週　東南アジアとフランス２
第10週　サハラ以南アフリカとフランス１
第11週　サハラ以南アフリカとフランス２
第12週　共和国と帝国１
第13週　共和国と帝国２
第14週　共和国と帝国３
第15週　まとめ
進行は前後することがある。

ドイツ文化論I

3626002100100

副　題	「ドイツ的」とは何か							担　当　者	武井　彩佳　准教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ARE-208-ID

〔授業の到達目標〕

歴史や宗教を通してドイツ文化の根底にあるものを理解する。「ドイツ的」なものとは何か。

〔授業の内容〕

ドイツというと一般的なイメージとして，「堅実」「合理的」「深い精神性」といった言葉が並ぶ一方で，「暗い」「排他的」「独裁」といった否定的な言葉も浮かびます。ドイツ人は「ドイツ」というものをどのように捉えてきたのでしょうか。また，ドイツ文化の特徴だとみなされてきたものはどのように生まれてきたのでしょうか。

第二次世界大戦以前のドイツを対象に，ドイツ文化の背景にあるものについて考えます。同時に料理などのより一般的な文化も見てみましょう。視覚資料を多く使います。

〔教材〕

参考書：若尾祐司・井上茂子『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ，2005年
若尾祐司・井上茂子『ドイツ文化史入門―16世紀から現代まで』昭和堂，2011年
授業でプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考文献を読む。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度：試験＝50：50

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜の４時限後30分
授業の前後に受け付けます

〔備考〕

遅刻者は出席点半分

〔授　業　計　画〕

第１週　導入：「ドイツ」という概念
第２週　ドイツの森
第３週　中世の都市の発展
第４週　中世の人々の暮らし
第５週　食文化（１）
第６週　食文化（２）
第７週　特別講義
第８週　宗教
第９週　ドイツ外のドイツ（１）
第10週　ドイツ外のドイツ（２）
第11週　ドイツとユダヤの共生
第12週　ヴァイマル文化
第13週　ジェンダー（１）
第14週　ジェンダー（２）
第15週　理解の確認
計画通りいかないこともあります。

ドイツ文化論II

3626002200100

副　題	戦後ドイツ社会							担　当　者	武井　彩佳　准教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	ARE-209-ID

〔授業の到達目標〕

戦後ドイツの政治や社会を,「ナチズムの克服」「想起文化」「環境」などの側面から理解する。

〔授業の内容〕

二つの世界大戦を引き起こし，そして敗北したドイツ。しかし戦後ドイツは急速な経済復興を果たし，信頼される民主主義国家として再生した。

この授業では，戦後ドイツがたどった軌跡を追い，特にナチズムの過去の克服や，移民・外国人の受け入れをめぐる議論，そしてドイツが世界をリードする環境問題への取り組みなどの点から，多面的に学ぶ。

〔教材〕

参考書：ノルベルト・フライ／佐藤健生『過ぎ去らぬ過去との取り組み　日本とドイツ』岩波書店，2011年
矢野久『労働移民の社会史　戦後ドイツの経験』現代書館，2010年
石田勇治『過去の克服：ヒトラー後のドイツ』復刻版，白水社，2014年

授業でプリントを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考文献を読む。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度：試験＝50：50

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜４時限後30分
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は出席点半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　敗戦・占領――戦後の出発点
第２週　過去の克服（１）
第３週　過去の克服（２）
第４週　ユダヤ人社会の再建
第５週　イスラエルとの関係
第６週　特別講義
第７週　想起の文化（１）
第８週　想起の文化（２）
第９週　ドイツの外国人・マイノリティ（１）
第10週　ドイツの外国人・マイノリティ（２）
第11週　関連する映画鑑賞
第12週　環境への取り組み（１）
第13週　環境への取り組み（２）
第14週　ドイツの軍隊
第15週　理解度の確認
計画通りいかないこともあります。

イタリア文化論I

3626003100100

副　題	都市文化としてのイタリア文化とその歴史							担　当　者	根占　献一　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ARE-210-ID

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパ文化としてとしてのイタリア文化，またイタリア文化独自の特徴をその都市文明に求め，この理解を深めること

〔授業の内容〕

古代と近代バロック文化の中心となったローマやナポリ，共和制の伝統を長く伝えたヴェネツィア，中世ビザンティン文化の香りを残すラヴェンナ，ルネサンス都市として知られる花の都フィレンツェなど，イタリアはたくさんの都市があり，その文明が栄えた。いくつかの都市を紹介してイタリア文化の特徴を明らかにしてゆこう。

〔教材〕

参考書は適宜紹介し，場合によっては資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

最低各２時間。

〔成績評価の方法〕

試験（50パーセント），授業態度［出席回数など］（35パーセント），リアクションペーパーなど(15%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問などがある場合には，月曜日12時45分から13時半の間に研究室を訪ねること。ただし，前もって学科事務室に希望の日にちに関して連絡をとっておくほうが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　序：イタリア都市の特徴
第２週　永遠の都ローマ（１）
第３週　同上（２）
第４週　映像資料
第５週　ラヴェンナ―古代から中世へ
第６週　アッシージ―キリスト教の発展
第７週　映像資料
第８週　ヴェネツィア―今昔
第９週　ピサとフィレンツェ
第10週　フィレンツェとシエナ
第11週　映像資料
第12週　トスカーナ大公国時代
第13週　近代国家イタリアの誕生（１）
第14週　同上（２）
第15週　結ーイタリア都市と私たち
専門家を招いて「特別授業（講義）」を行う予定。

イタリア文化論II

3626003200100

副　題	文学と絵画に描かれる18世紀のヴェネツィア	担　当　者	宮坂　真紀　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIT-211-ID

〔授業の到達目標〕

18世紀ヴェネツィアにおける文化的諸相の歴史的意義や特色について理解を深めるとともに，絵画や文学テクストを通して様々な文化現象について考察できるようになる。

〔授業の内容〕

アドリア海に浮かぶ水上都市ヴェネツィアはその地理的特異性もさることながら，サン・マルコ広場に面した古い格式あるカフェ，そして仮面をつけた人々が行き交う幻想的なカーニヴァルなど，今日なお世界中から人々を惹きつけてやまない魅力的要素に溢れています。

そのヴェネツィアの長い歴史の中でも，とくに18世紀は文化的成熟度において一つの頂点を極めた時代といえるでしょう。

この講義では，主に18世紀を中心にヴェネツィアにおける様々な現象を取り上げ，文化史的意義や特色を考察しますが，背景となる史実を確認するだけでなく，P.ロンギ，G.D.ティエポロ，C.ゴルドーニなど18世紀の絵画や文学をとおして，同時代の人々の目にどのように映っていたのかという観点からも論じて見たいと思います。

〔教材〕

授業中に講義内容に関連する資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学期のはじめに参考文献を紹介します。授業の予習として各回のテーマに沿ったページを事前に読んできてください。また，各授業は前回までの講義内容を踏まえた上で進行しますので，復習として授業後に配布プリントやノートの内容を整理して次の授業に臨んでください。

〔成績評価の方法〕

成績は，学期末試験（80%）と授業への取り組み（20%）に基づいて評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取って下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　現代につながる18世紀のヴェネツィアの文化現象
第２週　ヴェネツィアにおけるカフェのはじまり
第３週　カフェの社会的役割
第４週　ヴェネツィアにおける出版文化の興隆
第５週　18世紀におけるジャーナリズムの興隆
第６週　女性の社会進出
第７週　文学や絵画のテーマとしての女性
第８週　服飾の流行
第９週　社交生活の様相
第10週　別荘生活の様相
第11週　商業劇場の誕生と発展
第12週　音楽院の役割
第13週　広場の様相とその役割
第14週　ヴェネツィアのカーニヴァル
第15週　講義のまとめと確認

各回の講義計画はあくまで予定です。授業の進捗状況に応じて一部，変更する場合もあります。

東南アジア文化論I（大陸部）

3626003300100

副　題	遺跡を通してみるアジア文化							担　当　者	重枝　豊　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ARE-212-ID

〔授業の到達目標〕

日本と距離的には近い東南アジアだが，それらの国々の基層文化はさまざまな違いをもっている。それらを理解することによって，日本文化について再考できる視野をもてるようになること。

〔授業の内容〕

東南アジア大陸部の文化を建築を通して解読する。講義主体はベトナムとカンボジア，タイであるが，東南アジア，広域アジア圏を常に念頭に置きながら，東南アジア大陸部の文化摂取，醸造，展開のプロセスを探る。覚える各国史ではなく，現場で考える立場の地域史をグローバルにとらえることを講義の目的とする。

〔教材〕

参考書：千原大五郎『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』第３版，鹿島出版会，1987年
日本建築学会編『東洋建築史図集』第１版，彰国社，1995年
桃木至朗『歴史世界としての東南アジア』（世界史リブレット12）第１版，山川出版社，1996年

毎回資料を配付する。教科書はとくに定めないが，毎回提示する図書を各自が事前に読んでいるものとして，授業を進めるので注意すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習を２時間，復習を２時間。

〔成績評価の方法〕

記述式の試験の実施と，出席，１～２回程度のレポート提出することがある。その場合は期末試験80点，出席・レポート20点の総合評価として成績を付ける。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

講義の前後に直接お願いしたい。緊急の要件の場合はメールでの連絡も受け付ける
メールアドレス：shigeeda●arch.cst.nihon-u.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンスとアジアの基層文化について　講義の進め方について
第２週　カンボジアの歴史と文化遺産１　プレ・アンコール期の建築について
第３週　カンボジアの歴史と文化遺産２　アンコール期の建築（アンコール・ワット以前）
第４週　カンボジアの歴史と文化遺産３　アンコール・ワットとバイヨン寺院
第５週　カンボジアの歴史と文化遺産４　東北タイのクメール寺院
第６週　ベトナムの歴史と文化遺産１　チャンパーの聖地ミーソン遺跡
第７週　ベトナムの歴史と文化遺産２　チャンパーのさまざまな地域の遺跡
第８週　ベトナムの歴史と文化遺産３　北部仏教寺院の成立と特徴
第９週　インドネシアの歴史と文化遺産１　中部ジャワの初期遺構
第10週　インドネシアの歴史と文化遺産２　プランバナンとボロブドール遺跡群
第11週　インドネシアの歴史と文化遺産３　ソロ遺跡群と東部ジャワ遺跡
第12週　ミャンマーの歴史と文化遺産　パガン遺跡
第13週　ラオスの歴史と文化遺産　ワット・プー遺跡とカトゥー族の民家
第14週　タイの歴史と文化遺産　アユタヤとスコータイの文化について
第15週　フエでの文化財修復とミーソン・サイトミュージアムの建設

毎回推薦図書を提示するので，予備知識をもって受講することが望ましい。講義は毎回パワーポイントを用いて行なう。

東南アジア文化論II（島嶼部）

3626003400100

副　題	居住文化と生活文化からアジアの基層文化を考える	担　当　者	乾　尚彦　教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ARE-213-ID

〔授業の到達目標〕

東南アジア島嶼部の文化の特質，その基層文化を把握する。

〔授業の内容〕

東南アジア島嶼部には，多くの民族が住み，様々な自然，歴史，社会的条件から，多様な生活文化，住まいの諸相がみられる。こうした多様性と同時に共通性も指摘できる。それは，日本を含めたアジアの基層文化とも関連している。

本講義では，東南アジア島嶼部に生活する民族（オーストロネシア系の諸民族）の文化をいくつか具体的にとりあげ，それを成立させてきた要因について考えていきたい。対象とするのは，これまで実際にフィールドワークによって調査研究をおこなってきた地域・民族である。生活文化の実相を，調査者の視点で多くの画像資料を用いながら具体的に示していきたい。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題提出（講義前日まで）

〔成績評価の方法〕

毎回のレポート，出席，最終レポートの内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ヤミ族（台湾）１
第２週　ヤミ族（台湾）２
第３週　ヤミ族（台湾）３
第４週　パイワン族（台湾）１
第５週　パイワン族（台湾）２
第６週　ニアス族（インドネシア）１
第７週　ニアス族（インドネシア）２
第８週　ボントック族（フィリピン）１
第９週　ボントック族（フィリピン）２
第10週　ボントック族（フィリピン）３
第11週　ボントック族（フィリピン）４
第12週　イフガオ族（フィリピン）
第13週　バタック族（インドネシア）
第14週　総括１
第15週　総括２

☆アフリカ文化論

3626003500100

副　題	多様な文化や社会への理解から築く相互関係					担　当　者	津山　直子　講師				
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ARE-214-ID

〔授業の到達目標〕

アフリカの多様な歴史，文化，伝統，社会について理解し，洞察することを基盤として，現代アフリカの抱える諸問題やそこに生き，さまざまな課題に取り組む人々についての理解を深めていく。そして，同時代に生きる者としてどのような相互関係を築いていけるかを主体的に考えていくことができるようにする。

〔授業の内容〕

アフリカについては，貧困や紛争問題が取り上げられることが多いが，まずそこには多様で豊かな文化や歴史，伝統，社会があることをアフリカの諸地域に目を向けながら，広い視野を持って理解できるようにする。映像資料も活用していく。その上で，現代アフリカが持つ課題や可能性について，ジェンダー，農業と食，映像や文学，NPOの活動，ネルソン・マンデラのような偉人を通して，理解し考察していく。「遠いアフリカ」ではなく，アフリカと日本にはどのような相互関係や共通課題があり，より近い関係を築いていくために何が必要かを洞察していく。

〔教材〕

教科書は使用しない。必要なプリントを配布し，参考文献は適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業に関連する資料，参考文献，映像による予習・復習（各２時間）

〔成績評価の方法〕

授業内で書く小ペーパー（複数回実施・出欠席確認をかねる），授業に関する課題レポート，期末試験を総合的に評価する。（出席・小ペーパー20%，課題レポート30%，試験50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

遅刻者の入室は許可していませんので，気をつけてください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　南部アフリカの文化
第３週　第６回TICAD (アフリカ開発会議）の成果と課題
第４週　東アフリカの文化
第５週　中央アフリカの文化
第６週　西アフリカの文化
第７週　北アフリカの文化
第８週　現代アフリカの社会：ジェンダー
第９週　現代アフリカの社会：貧困問題とSDGs (持続可能な開発目標）
第10週　現代アフリカの社会：農業と食料
第11週　現代アフリカの社会：NPOの活動
第12週　現代アフリカの社会：ネルソン・マンデラが希求した社会
第13週　現代アフリカの社会：映画と文学
第14週　アフリカと日本
第15週　まとめ

授業計画は大体の流れを示すもので，進行や理解度，関連の時事を考慮しながら変更することがある。
グループワークやディスカッションも取り入れていく。

☆中南米文化論

3626003600100

副　題	ラテンアメリカの歴史と文化							担　当　者	佐藤　正樹　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ARE-215-ID

〔授業の到達目標〕

中南米地域の文化について，その歴史に重心をおいて広く学ぶ。中南米諸国について慣れ親しむことを通じ，異文化という現象およびその理解を自らの問題として考察出来るようになることを目指す。

〔授業の内容〕

中南米とは，ラテンアメリカとも呼ばれ，アメリカ合衆国以南の広大な大陸とカリブ海域の島々を指す。この地域は，およそ300年にわたってスペイン，ポルトガルの植民地支配を受けた。19世紀以降，独立運動が起こり，複数の国民国家が成立し，今日へと至る。長期にわたる植民地支配の歴史は，中南米を特徴づける大きな要因となり，また根深い諸問題の起源として，今日まで影響を及ぼしている。このラテンアメリカ世界の文化について，特にその歴史的経緯を踏まえながら講義解説する。

〔教材〕

参考書：大貫良夫（他）『ラテンアメリカを知る事典（新版）』平凡社，2013年

参考文献等は，必要に応じて適宜授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

本講義においては予習は特に必要ないが，復習作業は意識的に行って欲しい。具体的には，各回の講義の後，そのテーマと自分の興味関心を照らし合わせ，必要に応じて自分でさらに知識・情報を獲得されたい。これは最終レポートの準備作業でもある。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎週の小エッセイ（50%），学期末レポート（50%）の内容を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　中南米という舞台
第３週　アメリカ土着の文化
第４週　ヨーロッパ・キリスト教の文化
第５週　中南米の歴史（１）：植民地時代
第６週　中南米の歴史（２）：独立国家形成期
第７週　中南米の歴史（３）：20世紀以降
第８週　ラテンアメリカ文学（１）：魔術的リアリズム
第９週　ラテンアメリカ文学（２）：政治と向き合う創作活動
第10週　中南米における民族（１）：メスティサヘ
第11週　中南米における民族（２）：インディヘニスモ
第12週　中南米社会の諸問題（１）
第13週　中南米社会の諸問題（２）
第14週　中南米社会の諸問題（３）
第15週　まとめ

授業計画はおおよその目安であり，進行は前後することがあります。

中国文化論

3626003800100

副　題								担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ARE-216-ID

〔授業の到達目標〕

現代中国を多面的に理解することで，メディアで流される単純化された＜中国イメージ＞を相対化する。

〔授業の内容〕

最近,世界の政治経済で中国の存在感が高まっている。その中国を多面的に理解するために，日中関係，政治経済，民族，宗教，家族についてテーマ毎に学習する

〔教材〕

授業のはじめにプリントを配布する。欠席者のための再配布はおこなわない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で配布するプリントに，参考文献が記載されているので，授業内容とともに参考文献を各自熟読し，内容に対する理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー（40%）と期末試験（60%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜 3 限

授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　日中関係の歴史と現在（1）
第 3 週　日中関係の歴史と現在（2）
第 4 週　現代中国の政治構造
第 5 週　現代中国の政治史
第 6 週　現代中国の経済発展（1）
第 7 週　現代中国の経済発展（2）
第 8 週　現代中国の格差問題（1）
第 9 週　現代中国の格差問題（2）
第10週　現代中国の民族問題（1）
第11週　現代中国の民族問題（2）
第12週　現代中国社会と宗教結社（1）
第13週　現代中国社会と宗教結社（2）
第14週　現代中国の家族と女性
第15週　まとめ

朝鮮文化論

3626004500100

副　題	韓国の文化と社会							担　当　者	羅　京洙　准教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ARE-217-ID

〔授業の到達目標〕

本授業は，東アジアの諸文化を踏まえつつ，朝鮮半島（特に韓国）の文化と社会について様々な角度から総体的に理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

これまでの朝鮮文化論をクリティカルにとらえつつ，比較文化論という観点から朝鮮文化への理解を深める。具体的には，朝鮮半島独自の文化的な伝統と現代に触れると共に，歴史的にも文化的にも近い関係にある日本と朝鮮半島の文化交流についても解説をおこなう。また，受講生との積極的な質疑応答と討論を軸として授業を進めたい。受講生は，朝鮮半島の文化と社会に関する情報･知識に接する機会を多くし，問題意識をもって授業に臨むことが求められる。なお，関連の視聴覚教材やコンピュータも必要に応じて豊富に使用する。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが，毎回の指定文献を授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

受講生は，毎回の指定文献や参考資料を必読の上，授業に参加すること。毎回の授業の準備として，予習・復習合わせて 4 時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

レポート（40%）と期末試験（30%）を重視するが，授業への参加態度・貢献度（30%）も加味する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合は，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション
第 2 週　東アジアの中のコリア
第 3 週　朝鮮半島の歴史と現在
第 4 週　恨（ハン）という情緒
第 5 週　朝鮮半島の歌文化：アリランからK-POPまで
第 6 週　日韓文化交流：<韓流篇>
第 7 週　日韓文化交流：<日流篇>
第 8 週　若者文化
第 9 週　教育と学歴
第10週　コリアン・ディアスポラ（在外コリアン）とその文化
第11週　在日コリアンと多文化共生
第12週　韓国の政治文化と大統領
第13週　北朝鮮の文化と社会
第14週　歴史認識問題と日韓・日朝関係
第15週　総合討論・総括

☆南アジア文化論

3626004600100

副　題	基本的身体行為から理解する南アジアの文化と社会	担　当　者	杉本　浄　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ARE-218-ID

〔授業の到達目標〕
多元的・複合的文化を形成するとされる南アジア世界。本授業では，複雑に見えるこれら文化群の一端を理解することを目的とする。

〔授業の内容〕
［概要］本授業は，南アジアの文化の概要を紹介するものである。南アジア世界は広大で多様で重層的であるため，一定の理解を得るには多少なりとも工夫が必要であると考えられる。授業では人間の一生の営為と文化事象を基本的な動詞群を用いてまとめることで，地続きの文化理解を目指す。こうした理解の延長線上で，南アジア社会に関する様々な事象について考えたい。先述した基本的な動詞とは，下記のスケジュールにあるような「生まれる」から「死ぬ」までの間の様々な人間の身体行為をあらわす。
［授業の進め方］授業では，まず人間の行為・動作に注目することで南アジアの文化特徴を理解し，その上で文化と社会との間に現れる一連の問題群について考える。例えば，南アジアで「生まれる」ことに関して，誕生儀礼といった文化事象を理解した上で，病院・産婆の問題や男子重視の風潮がもたらす社会問題などを考える。
本授業は教科書を特に指定せず，毎回，授業時にレジュメ資料を配布する。参考文献については，授業の中で随時指示する。ビデオ教材や写真などを多用しながら，分かりやすい授業内容としたい。また，時折授業の中で，織物，金属細工，絵，儀礼の道具といった南アジアの具体的な物に触れる機会を設ける。
［小発表］学期中，履修者は数回，課題が課せられ，小発表の機会がある。発表テーマは授業内容に沿うものである。
［レポート］身近にある南アジア由来のモノや事象を写真で撮ってきて，それについて調べた上で，レポートを書き，提出してもらう（3000字程度）。提出したレポートは修正の指示に従い再提出が求められる。再提出されたレポートはレポート集として編さんし，最終授業で受講者に配布する予定である。

〔教材〕
参考書：鈴木正崇　編『南アジアの文化と社会を読み解く』慶應大学出版会，2011年
小西正捷 編『インド』（暮らしがわかる〈アジア読本〉）河出書房新社，1997年
田中雅一　他編『南アジア社会を学ぶ人のために』世界思想社，2010年
石井溥 編『ネパール』（暮らしがわかる〈アジア読本〉）河出書房新社，1997年
小西正捷　編『インド』（暮らしがわかる〈アジア読本〉）河出書房新社，1997年
参考書に選んだ本は南アジアの各国の人々の生活を具体的に知るための基本的な内容が書かれています。必要に応じて，図書館などで参照してください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業に沿った課題を出していきます。履修者は次の時間までに提出し，必要とあれば小発表をしていきます。

〔成績評価の方法〕
授業参加（小課題＋出席など）点（40%），発表点（20%），レポート点（40%）を総合的に勘案して成績をつけます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
ガイダンスの際にお伝えします。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス―授業内容の紹介・スケジュール・簡単な南アジアの紹介など。
第２週　南アジア世界とは？―南アジア各国情報。地理・歴史・宗教・文化などの南アジアを知る上で基本となる情報を紹介。
第３週　生まれる―誕生儀礼や出産に関する身体行為について。その上で，「産む」ことに関する社会問題を取り扱う。
第４週　沐る･清める―沐浴の意義や身体を清めることによる死と再生の循環について。さらに，水と人間のかかわりから，汚染されるガンジス川問題にまで話が拡大する予定。
第５週　食べる１―南アジアの食文化に関する紹介。香辛料の役割や食に関する宗教的な意義など。ビデオ観賞あり。
第６週　食べる２―食文化を研究するとは？最近ようやく注目されるようになった食文化研究を現代問題とからめて紹介。他に，南アジアの食材やカレーのルーツなど。
第７週　聞く／話す―南アジアの多言語状況。話し言葉と書き言葉の違いについて。その上で，実際に南アジアの各言語を音声で聞いてみる。また，日本の大学では学べないオリヤ語を話してみる。
第８週　読む／書く―南アジアの文学事情について。短編の朗読など。その上で，現在起こっている南アジアの言語問題を取り上げる。
第９週　うたう／踊る―南アジアの民間芸能についての概論。ビデオ観賞あり。
第10週　（閑話休題）南アジアを探して―学習院女子大学の周りにある南アジア由来のものを探索する。
第11週　換える―南アジアは陸路と海路による交易が古代から盛んであった。歴史的お話から現在のインドにおける経済発展の状況へと展開する。
第12週　旅する―古くから盛んに行われていた巡礼とその意義について考察する。その上で，現代インドにおける旅行の分析を行う。
第13週　死ぬ―葬送儀礼の過程を詳細に紹介し，一つ一つの行為の意義について明らかにする。それから，現代インドにおける死に対する意識の変化について追う。
第14週　再生する―南アジアにおける再生の考えを紹介
第15週　レポートの講評，授業のまとめと授業内容の理解度の確認。
あくまでも予定であり，授業の流れと履修者の関心によってその内容に若干の変更があります。各回の課題については授業時に随時お伝えします。

☆ロシア文化論

3626004700100

副　題	伝統文化、宗教、民族、日常社会についての考察	担　当　者	中村　逸郎　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ARE-219-ID

〔授業の到達目標〕

ロシア文化を広範に理解しながら,ロシア的な思考とその特質を深く学ぶことで，異文化理解の手法を身につけます。

〔授業の内容〕

本講義では，ロシア社会に欧米文化が急速に流入する一方で，ロシアに古くから根ざす伝統文化が大規模に復活している社会の様相を考えます。欧米化が進むところで，まるでそれらを見据え,打ち消すかのようにロシア伝統文化が出現しています。欧米化が深化すればするほど，伝統文化は衰退するかのようにおもわれますが，逆にロシア社会では欧米化が伝統文化を歴史の彼方から引き戻しているかのようです。近年，ロシア社会に復興する伝統文化，とくに宗教（ロシア正教会）を中心に，先住少数民族の土着信仰（イスラム教，仏教，シャーマニズム），さらにはそれらと絡む政治，経済の動向をふくめてロシア文化について考察します。本講義では，わたしの現地調査をふまえて問題点を具体的に提起し，ロシアは欧米文化に対抗できる基軸になりうるのか，将来のロシアのありように踏みこんで考えてみます。

〔教材〕

教科書：中村逸郎著『シベリア最深紀行―知られざる大地への七つの旅』岩波書店，2016年
参考書：中村逸郎著『ろくでなしのロシア―プーチンとロシア正教』講談社，2013年
中村逸郎著『ロシアはどこに行くのか―タンデム型デモクラシーの限界』講談社，2008年
中村逸郎著『虚栄の帝国ロシア――闇に消える「黒い」外国人たち』岩波書店，2007年

教科書は購入するようにしてください。参考書については補足的に図書館等で閲覧してください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業１回あたり４時間ほどの学修を自宅や図書館で行ってください。

〔成績評価の方法〕

学期末のレポートを50点，出席を50点として総合評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

以下のアドレスに連絡してください。nakamura.itsuro.fn●u.tsukuba.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ロシアの風土，文化とロシア人の信仰心
第２週　ビザンチン帝国からのキリスト教の流入―「第三のローマ」としてのモスクワ
第３週　イスラム教を受容するロシア正教会―タタール人支配下での正教会の勢力拡大
第４週　愛国主義を鼓舞するロシア正教会―ナポレオン戦争と第二次世界大戦
第５週　ソ連時代に弾圧されたロシア正教会―宗教と社会主義
第６週　ロシア正教会と結託する政治家―プーチンと総主教の思惑と確執
第７週　ロシア正教会が乗りだすビジネス事業と民衆の不信感―宗教と市場経済
第８週　ロシア社会の欧米派によるロシア正教会への抗議行動―宗教と市民社会
第９週　多民族国家としてのロシア文化―140民族が編み出す文化の多層性
第10週　シベリア極北民族の放牧文化―マイスナ50度にすむヤマール人
第11週　シベリアを支配するイスラム教の文化，風習―タタール人を中心にチュールク系民族
第12週　森林地帯にすむ流浪400年のドイツ人―多文化・多宗教・多言語を有するゴレーンドルの人びと
第13週　ロシアでもっとも幸福度の高い仏教徒―トゥヴァー人を中心に
第14週　欧米に対抗するロシア文化圏構想―ユーラシア文化圏の可能性
第15週　ロシアと日本の文化交流のありよう

東欧文化論

3626004800100

副　題	ドナウ流域諸国の歴史と文化							担　当　者	中島　崇文　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ARE-220-ID

〔授業の到達目標〕
東欧，特に南東欧の文化の諸側面に関する幅広い知識を身につける。

〔授業の内容〕
ドイツ，オーストリア，スロヴァキア，ハンガリー，旧ユーゴスラヴィア諸国，アルバニア，ブルガリア，ルーマニアといったドナウ川流域を中心とする国々の歴史と文化について，多様な側面から講義する。地域研究基礎論I･IIと相互補完的な講義科目である。

〔教材〕
教科書：柴宜弘編著『バルカンを知るための65章』（エリア・スタディーズ48）明石書店，2013年
六鹿茂夫編著『ルーマニアを知るための60章』（エリア・スタディーズ66）明石書店，2010年
毎週，授業開始時にレジュメを配布し，これに基づいて講義する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業で用いるレジュメは原則として前の授業で配布するので，事前にしっかりと目を通しておくこと。また，教科書の該当箇所は毎週のレジュメの末尾に明記しているので，こちらも事前に読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕
論述式の期末試験の点数（約50%）と毎週の授業終了時に提出していただく感想文の点数（約50%）を合計して100点満点として算出する。受講者は毎週出席して当然との観点から，出席を点数化して加点するということは行わず，逆に１回の欠席につき７点の減点とする。遅刻した際には，その理由を証明する書類が提示されない限り，出席とはみなされない。受講態度に問題がある（私語，早退，居眠りなど）と判断される場合も大幅に減点される。受講生は遅刻せずに毎週出席するよう，最大限に努力すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは毎回のレジュメに記載している）。

〔備考〕
できる限り２年次，さもなければ３年次に履修するのが望ましい。また，関連科目である地域研究基礎論I･IIを履修済み，もしくは履修中であることが望ましい。また，秋学期には西洋芸術論，言語地理学も可能な限り履修することをお勧めする。さらに，中欧国際協力研修参加予定者，国際コミュニケーション学科の学生で中島ゼミへの申請を検討している者は，地域研究基礎論I･II，東欧文化論，国際コミュニケーション基礎演習Dをできるだけ履修し，かつ，優秀な成績を修めるよう努力すること（ゼミの選考に際しては，これらの授業を履修し，かつ，それらの成績の優秀な者が優先される）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明
第２週　東欧におけるドナウ川の概観とイメージ
第３週　東欧におけるドナウ川の実態，運河建設と流域諸国間の協力
第４週　東欧の窓口としてのウィーン
第５週　東欧におけるギリシア的要素とローマ概念の変遷
第６週　東欧における東方正教会（１）―起源と発展―
第７週　東欧における東方正教会（２）―モルドヴァの修道院のフレスコ画の事例―
第８週　東欧における巡礼―メジュゴーリエ，ニクラ，マリヤ・ビストリツァ，オフリド，カルヴァリア・ゼブジドフスカなどの聖地―
第９週　東欧における吸血鬼や魔女への信仰
第10週　東欧の食文化
第11週　東欧における四季折々の風習
第12週　東欧におけるマス・メディア
第13週　日本の東欧支援と東欧における対日感情
第14週　ゲスト講師による特別授業（未定）
第15週　総括

☆オセアニア文化論

3626004900100

副　題	日濠関係を考える							担　当　者	阿久津　博康　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ARE-221-ID

〔授業の到達目標〕

（１）濠洲（オーストラリア）の政治・外交・安全保障・社会文化について基本的な知識を早い段階で習得する。

（２）こうした基本的な知識を活かして自分なりの「濠洲観」や「日濠関係観」を持てるようにする。

（３）個人発表ではそうした自分の「濠洲観」や「日濠関係観」を披露できるようにする。

〔授業の内容〕

本授業の目的と方針は以下の通りです。

（１）近年益々深化・拡大している日濠関係（特に政治・安全保障分野）の歴史を回顧すると共に，将来の日濠関係について考える。

（２）濠洲の政治は勿論のこと，歴史，文化，経済，そして国際関係について基本的な知識を習得する。

（３）以上で習得した基本的な知識に基づき，今後の日濠関係について自分で考え，考えたことを文章にしたり，人前で発表できる能力を養う。

（４）なお，本授業ではAlan Rixの「The Australia-Japan Political Alignment: 1952」(Routledge, 1999)（英書）を参考にし乍ら講義を進めていく。

〔教材〕

参考書：Alan Rix, *The Australia-Japan Political Alignment: 1952 to the present. (Routledge studies in the modern history of Asia) 1st Edition, Routledge, 1999,* Routledge, 1999

（副次的な参考書）竹田いさみ，森　健『オーストラリア入門』第４版，東京大学出版会，2002年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備又は予習としては，毎回の授業の最後に出される課題を次回授業迄に一時間程度で熟すことである。同課題は次回授業開始時に提出する。

又，課題内容は濠洲や日濠関係に関する用語や基本的事項に関する簡潔な説明を求めるものである。

更に，復習については，前回授業で学習した事項の中で理解できなかった事柄を確認すると共に，次回授業でそれについて講師に要領良く質問できるようにしておくことが望まれる。

〔成績評価の方法〕

評価方法は以下の通り。（出席60%，発表40%）

（１）出席率３分の２以上で発表の資格が得られる。

（２）原則として発表の成績で評価を決定する。

（３）但し，已むを得ない事情により指定期間に発表する機会を逸した場合は，例外的にレポート提出に代えることを認める。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

発表に関する詳細については初回の授業で説明する。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要説明
第２週　濠洲（オーストラリア）概観（１）
第３週　濠洲（オーストラリア）概観（２）
第４週　日濠関係概要：戦略的発展を中心に
第５週　日濠政治関係史（１）
第６週　日濠政治関係史（２）
第７週　日濠政治関係史（３）
第８週　日濠政治関係史（４）
第９週　日濠政治関係史（５）
第10週　日濠政治関係史（６）
第11週　日濠政治関係史（７）
第12週　日濠関係の戦略的発展過程の回顧
第13週　濠洲又は日濠関係に関する受講者による発表（１）
第14週　濠洲又は日濠関係に関する受講者による発表（２）
第15週　日濠関係の戦略的発展の将来展望

アメリカ文学I

3626006100100

副　題								担　当　者	山口　志のぶ　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	LIT-222-ID

〔授業の到達目標〕

アメリカの歴史を概観し，それぞれの時代を代表する作家とその作品を研究することによって，アメリカ文学の特色を理解することを目標にします。

〔授業の内容〕

今年度は19世紀末から第一次世界大戦頃までの歴史を概観しながら，その社会背景や文化の中から生まれた代表的文学作品を取り上げて解説します。春学期は，今年が没後100年にあたるヘンリー・ジェイムズの後期三大長編と，自然主義文学において先駆的役割を果たした作家について扱う予定です。理解を深めるために映像資料を大いに活用します。

〔教材〕

参考書：寺門泰彦、渡辺信二、武田千枝子、佐藤千春、矢作三蔵、水谷八也『アメリカ文学案内』第１版，朝日出版社，2008年
上岡伸雄『Geography in U.S. History』第7版，2008年

教科書は使用せず，適宜プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業内で出席確認を兼ねたコメントペーパーを書いて提出していただきます。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60％と平常点約40％をもとに総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後，あるいは学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

第１回目の授業には必ず出席してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　〃
第３週　「金メッキ時代」（３）　－　ヘンリー・ジェイムズの後期三大長編
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　世紀末から第一次世界大戦頃まで（１）―　自然主義文学の先駆者
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

上記の内容は一応の目安であり，受講者の理解度を考慮しながら授業を進めていきます。

アメリカ文学II

3626006200100

副　題								担　当　者	山口　志のぶ　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	LIT-223-ID

〔授業の到達目標〕

アメリカの歴史を概観し，それぞれの時代を代表する作家とその作品を研究することによって，アメリカ文学の特色を理解することを目標にします。

〔授業の内容〕

今年度は19世紀末から第一次世界大戦頃までの歴史を概観しながら，その社会背景や文化の中から生まれた代表的文学作品を取り上げて解説します。秋学期は，自然主義作家と「お上品なリアリスト」と呼ばれる女性作家たちを主に扱う予定です。理解を深めるために映像資料を大いに活用します。

〔教材〕

参考書：寺門泰彦、渡辺信二、武田千枝子、佐藤千春、矢作三蔵、水谷八也『アメリカ文学案内』第１版，朝日出版社，2008年
上岡伸雄『Geography in U.S. History』第7版，2008年

教科書は使用せず，適宜プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業内で出席確認を兼ねたコメントペーパーを書いて提出していただきます。

〔成績評価の方法〕

期末試験の結果約60％と平常点約40％をもとに総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業終了後，あるいは学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

第１回目の授業には必ず出席してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　〃
第３週　世紀末から第一次世界大戦頃まで（２）―　自然主義文学
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　世紀末から第一次世界大戦頃まで（３）―　イーディス・ウォートン他
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

上記の内容は一応の目安であり，受講者の理解度を考慮しながら授業を進めていきます。

☆イギリス文学I

3626006300100

副　題	映像によるイギリス文学 1							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIT-224-ID

〔授業の到達目標〕

イギリス文学の代表的作品を通じて，その歴史・社会，文化的背景を理解し，その特色を学ぶ

〔授業の内容〕

長い歴史を有するイギリス文学を全て網羅することは不可能に近い。教養のある大学生として知っておくべき重要な作品を中心に，原作と映画化作品とを比較検討してみたい。原作を読んで参加すれば，原作と映画化作品の比較がある程度理解していると大変面白い授業となるはずである。扱うジャンルはイギリス文学小説・詩・戯曲が中心になる。各作品の生まれた社会・時代背景などを説明しながら，イギリス文学の特質とは何かを学ぶことが本講義の目的である。

〔教材〕

参考書：G.C.Thornley & Gwyneth Roberts, *An Outline of English Literature, Longman*, ロングマン社
野町　二/荒井良雄『イギリス文学案内』朝日出版
必要に応じてプリントを使用する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

原作もしくは翻訳を熟読のこと　予習 2 時間　復習 2 時間

〔成績評価の方法〕

試験　70パーセント
レポート　30パーセント

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜 4 限　メールでの予約が必要
mitsuhiro.iwasaki●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イギリス文学概説
第 2 週　エリザベス朝時代と文学
第 3 週　William Shakespeare
第 4 週　Hamlet　1
第 5 週　Hamlet　2
第 6 週　Thomas Hardy
第 7 週　Tess of the D'Urbervilles 1
第 8 週　Tess of the D'Urbervilles 2
第 9 週　Jane Austin
第10週　Pride and Prejudice 1
第11週　Pride and Prejudice 2
第12週　Agatha Christie　1
第13週　Agatha Christie　2
第14週　Agatha Christie　3
第15週　まとめ

☆イギリス文学II

3626006400100

副　題	映画で学ぶ英文学							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIT-225-ID

〔授業の到達目標〕

アメリカ文学と比較した場合イギリス文学の豊かさと伝統はその長き歴史と複雑・多彩な文化にその一因を求めることができる。こうした点を理解し，改めて，現在の主要なイギリス文学作品を考察・理解する。

〔授業の内容〕

映画化された英文学作品の原作と映画作品の比較を中心に，原作のテーマと時代背景について論ずる。受講する学生は，必ず原作をペーパーバックかもしくは，翻訳にて事前に読んでおくことが重要となる。今回取り上げる作品は，最もイギリスの文化の香りを感じさせてくれる作品を中心に選んでいる。とくにアメリカ文学にはない階級文化と長き伝統から育まれたイギリス文学の特徴を視覚体感していただきたい。

〔教材〕

参考書：G.C.Thornley & Gwyneth Roberts, An Outline of English Literature, Longman, ロングマン社.

参考書：野町　二/荒井良雄　『イギリス文学案内』，朝日出版

必要に応じてプリントを使用する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

原作もしくは翻訳を熟読のこと　予習 2 時間　復習 2 時間

〔成績評価の方法〕

試験　70パーセント　レポート　30パーセント

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜 4 限　メールでの予約が必要

mitsuhiro.iwasaki●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　グレアム・グリーン　第三の男　1
第 2 週　グレアム・グリーン　第三の男　2
第 3 週　わが命尽きるとも　1
第 4 週　わが命尽きるとも　2
第 5 週　眺めのいい部屋　1
第 6 週　眺めのいい部屋　2
第 7 週　オリヴァ・ツイスト　1
第 8 週　オリヴァ・ツイスト　2
第 9 週　チャタレー夫人の恋人　1
第10週　チャタレー夫人の恋人　2
第11週　リア王　1
第12週　リア王　2
第13週　クウィー　1
第14週　クウィー　2
第15週　まとめ

比較音楽論I（東洋）

3626011100100

副　題								担　当　者	丸山　洋司　講師		
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ART-326-ID

〔授業の到達目標〕

「東洋」と「西洋」の音楽にはどのような相違点や共通点があるのか。また両者は歴史的にどのように影響を与えあったのか。これらのテーマについて，各自さまざまな角度から考えることができるようになる。

〔授業の内容〕

各回異なるテーマを設定して講義する。授業でとりあげる予定のテーマは「言葉と音楽」「声の芸術」「楽器」「音組織」「リズム」「音楽と宗教」などである。それぞれのテーマについて,「東洋」と「西洋」の相違点や共通点，あるいは両者の影響関係という視点から各学生が考察を深めていくきっかけを作る。

〔教材〕

参考書：柘植元一、塚田健一『はじめての世界音楽』音楽之友社，1999年

教科書は使用しない。授業で，適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業冒頭の小レポートにそなえて，各自文献を読んだり，視聴覚資料を視聴する時間をとる。

復習：授業で疑問に思った点，興味を持った点を各自掘り下げて調べる。文献を読むだけでなく，視聴覚資料を視聴することがのぞまれる。

〔成績評価の方法〕

授業冒頭で課す小レポートの記述内容（20%）リアクションペーパーの記述内容（20%）学期末試験（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Email: hiromaru886●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　言葉と音楽
第３週　声の芸術（１）声楽の諸様式
第４週　声の芸術（２）声楽様式の伝播
第５週　楽器（１）楽器の分類
第６週　楽器（２）体鳴楽器
第７週　楽器（３）膜鳴楽器
第８週　楽器（４）弦鳴楽器（単一弦鳴楽器）
第９週　楽器（５）弦鳴楽器（複合弦鳴楽器）
第10週　楽器（６）気鳴楽器
第11週　音組織
第12週　リズム
第13週　音楽と宗教（１）仏教・イスラム教
第14週　音楽と宗教（２）日本におけるキリスト教音楽の受容
第15週　総括

比較音楽論II（西洋）

3626011200100

副　題	ヨーロッパの社会とオペラ							担　当　者	米田　かおり　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ART-327-ID

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパの音楽活動のなかで非常に重要なジャンルとして今なお愛好されている「オペラ」が，社会のなかでどのような役割を果たしたかを理解するとともに，授業内で使用する映像資料なども通してオペラそのものの楽しさを体験する。

〔授業の内容〕

「オペラ」は「敷居が高い」「堅苦しい」と概して考えられるかもしれないが，ヨーロッパの音楽の歴史をながめてみたとき,オペラほどあらゆる階層の人々に愛好されたジャンルはない。歌手の歌唱力や華やかな舞台,「恋愛物」のストーリーなど，オペラには聴衆を魅了する要素があふれている。音楽家もオペラに魅せられ，モーツァルトをはじめ，多くの音楽家がオペラでの成功を最大の目標に掲げていた。同時にオペラは当時の社会と密接に関わり，時代や地域ごとに異なる様相を映し出したジャンルである。この授業では，ヨーロッパの社会とオペラの関わりを歴史的に考察しながら，作品や作曲家ばかりではなく，歌手や聴衆，劇場，台本などについても理解を深める。

〔教材〕

授業ごとにプリントを配布し，適宜参考文献を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の授業内容（オペラ作品や作曲家など）を告知するので，授業内で執筆する小レポートに反映できるよう，自身の専門や関心との関連について，事前にまとめておくこと。

また限られた時間内でオペラ作品全体を鑑賞することは難しいため，図書館などの視聴覚資料を用いて積極的に鑑賞する。

〔成績評価の方法〕

学期末レポート（50%）および出席点（25%），授業内小レポート（25%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ヨーロッパの音楽と社会―オペラから見えるもの
第２週　オペラのなかの「日本」―ジャコモ・プッチーニ（1858-1924）《蝶々夫人》を例に
第３週　イタリアの宮廷文化とオペラの誕生
第４週　公開オペラの登場―ヴェネツィア共和国とオペラ
第５週　カストラート（去勢歌手）への熱狂―ナポリ王国とオペラ
第６週　17～18世紀フランスとオペラ―ルイ14世時代におけるフランス語オペラの確立
第７週　18世紀におけるイタリア・オペラへの熱狂―イギリス,ロシアを例に
第８週　モーツァルト（1756-1791）とウィーン（１）王侯貴族の社交生活とオペラ
第９週　モーツァルトとウィーン（２）ドイツ語歌芝居《魔笛》の背景にあるもの
第10週　19世紀ドイツ・ナショナリズムとオペラ―リヒャルト・ヴァーグナー（1813-1883）の楽劇
第11週　19世紀イタリアにおけるオペラ（１）「ベル・カントの時代」ロッシーニ，ベッリーニ，ドニゼッティの活躍
第12週　19世紀イタリアにおけるオペラ（２）ジュゼッペ・ヴェルディ（1813-1901）
第13週　19世紀フランスにおけるオペラ―パリ・オペラ座から見えるもの
第14週　19世紀国民楽派とオペラ―ロシア，チェコを例に
第15週　20世紀のオペラ―イギリスの作曲家ベンジャミン・ブリテン（1913-1976）を例に

☆比較宗教論I

3626012100100

副　題	死者の救済と共同体におけるその位置							担　当　者	田口　博子　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	PHL-328-ID

〔授業の到達目標〕
死者供養についての諸研究を精読することを通して，死者の救済とは何か，そして死者の共同体における位置について，自分なりの見解を得ることを目標とします。

〔授業の内容〕
アジア・太平洋戦争が終結してから70年あまりが過ぎ，全国戦没者追悼式にも，戦没者の子供あるいは孫の世代の方々が参加するようになられて久しくなりました。日常生活でも，戦争中に亡くなられ方々のことが意識に昇ることはまれなのではないでしょうか。しかしながらここ数年８月15日が近づくと諸外国，特に近隣諸国のメディアの視線が注がれる慰霊の場があります。この批判的な報道を快く思わない向きも存在します。ただ＜快く思わない＞ということは，外国メディアがわれわれの深層心理を暴きだしていることへの拒否反応なのかもしれません。
今年は死者と生者の関連を通年のテーマとします。春学期では日本における死者供養，とりわけ慰霊について取り扱います。その際神道と仏教，そしてアニミズムやシャーマニズムについても説明を加えたいと考えています。

〔教材〕
・授業時にプリントを適宜配布します。
・授業で一部分を講読する著書は以下の通りです。
池上良正，『死者の救済史－供養と憑依の宗教学』，角川書店（角川選書）
末木文美士，『日本仏教史－思想史とアプローチ』，新潮社（新潮文庫）
津城寛文，『社会的宗教と他界的宗教のあいだ－見え隠れする死者』，世界思想社
村上興匡・西村明［編］，『慰霊の系譜－死者を記憶する共同体』，森話社

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：一週間前にお渡しする講読テキストに眼を通してきてください。
復習：講読時に提示された論点について，自分なりの意見をまとめてください。

〔成績評価の方法〕
（１）評価方法:学期末テスト,あるいはレポート（3000字程度）とリアクションペーパー（毎回提出）による評価。初回の授業でどちらを施行するかを決定します。
（２）成績の配分：試験あるいはレポート80%，リアクションペーパー（15回）15%，授業への貢献度５%で評価。ただしリアクションペーパーに「～が分かりました」,「理解できませんでした」とだけ記してあるものは評価の対象外とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
初回の授業時に伝達します。

〔備考〕
レポートでコピーアンドペーストを発見した場合，出席・リアクションペーパーの提出状況にかかわらず不合格とします。

〔授　業　計　画〕

第１週　アニミズムについて
第２週　シャーマニズムについて
第３週　神道について
第４週　初期仏教について
第５週　『日本仏教史』：仏教土着
第６週　『死者の救済史』（１）：苦しむ死者と日本の民衆宗教
第７週　（２）：仏教説話集に見る死者の救済
第８週　（３）：供養システムの深化と定着
第９週　『社会的宗教と他界的宗教のあいだ』（１）：死者の位置付け
第10週　（２）：死者の幻影
第11週　（３）：公共宗教の観点から見た死者祭祀
第12週　『慰霊の系譜』（１）：近代国家と死者の「記憶」の問題
第13週　（２）：戦後における罹災者に対する慰霊・追悼
第14週　（３）：変質する慰霊行事
第15週　まとめ
参加者の興味に応じて，テキストを変更する可能性があります。

☆比較宗教論II

3626012200100

副　題	信仰における「喪の作業」の役割							担　当　者	田口　博子　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	PHL-329-ID

〔授業の到達目標〕
死をめぐる文化人類学，社会人類学，歴史学の諸研究を概観した上で，信仰と精神分析学の「喪の作業」という概念の関連を明らかにすることを目指します。

〔授業の内容〕
文化人類学，社会人類学，あるいは民族学において「葬礼」や「服喪」は重要な研究テーマの一つです。ジークムント・フロイトは，残された近親者が喪に服する風習の意味を精神分析学の観点から明らかにすることを試みました。「悲哀とメランコリー」では「喪の作業」という概念が提示され，愛する対象を喪失した者が，深い悲哀から日常生活に戻る過程が描かれます。精神分析家のメラニー・クラインは「喪の作業」と乳児の他者認識の関連を発見し，やがて「抑うつポジション」として理論化して行きます。この現象を児童精神科医のD・W・ヴィニコットは違う角度から「移行対象」という概念で説明しました。
秋学期では「喪の作業」をキーワードとして，原始キリスト教の成立についての考察を行います。信仰の核には＜喪失＞が関連しているのではないか。果たしてわれわれは何を失ってしまったか。これらの点を，半期をかけて深く掘り下げようと思っています。

〔教材〕
・授業時にプリントを適宜配布します。
・授業で講読する著書は以下の通りです。
ファン・ヘネップ，『通過儀礼』，弘文堂
内堀基光・山下晋司，『死の人類学』，講談社（講談社学術文庫）
フィリップ・アリエス，『死と歴史－西欧中世から現代へ』，みすず書房
メカトーフ，ハンティントン，『死の儀礼』，未来社
ジークムント・フロイト，「喪とメランコリー」『フロイト全集14』（新宮一成他訳），岩波書店
メラニー・クライン，『メラニー・クライン著作集３－愛，罪そして償い』，誠信書房
D.W.ヴィニコット，『遊ぶことと現実』，岩崎学術出版社
佐藤研，『悲劇と福音－原始キリスト教における悲劇的なるもの』，清水書院

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：テキストの読解
復習：内容の整理

〔成績評価の方法〕
（１）評価方法:学期末テスト，あるいはレポート（3000字程度）とリアクションペーパー（毎回提出）による評価。初回の授業でどちらを施行するかを決定します。
（２）成績の配分：試験あるいはレポート80%，リアクションペーパー（15回）15%，授業への貢献度５%で評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
初回の授業時に伝達します。

〔備考〕
レポートでコピーアンドペーストを発見した場合，出席・リアクションペーパーの提出状況にかかわらず不合格とします。

〔授　業　計　画〕

第１週　『通過儀礼』：誕生，婚姻，死
第２週　『死の人類学』：死者と生者の関連
第３週　『死と歴史』（１）：死を前にしての態度
第４週　（２）：現代における死者礼拝
第５週　『死の儀礼』（１）：北米における葬送儀礼の歴史
第６週　（２）：現代のアメリカ合衆国における葬礼の特殊性
第７週　「喪とメランコリー」（１）：悲哀
第８週　（２）：メランコリー
第９週　メラニー・クラインの「抑うつポジション」について
第10週　ヴィニコットの「移行対象」について
第11週　ミシェル・ド・セルトーのフロイト解釈
第12週　セルトーの神秘主義研究
第13週　原始キリスト教について
第14週　『悲劇と福音』（１）：キリストの直弟子たちの「喪の作業」
第15週　（２）：パウロの「喪の作業」と「十字架の神学」
参加者の興味に応じて，テキストを変更する可能性があります。

文化遺産学

3626012300100

副　題	文化財から文化遺産へ							担　当　者	M．ウーゴ　准教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	MSE-230-ID

〔授業の到達目標〕

文化遺産の保護や活用の意味を理解すること。

〔授業の内容〕

文化遺産は，移動可能な絵画から，広い土地に根づく遺跡までが含まれる。歴史的に重要なもの，芸術的に重要なもの，民俗学的に貴重なもの，さまざまである。芸術は，絵画と彫刻と建築からなるとされているが，本授業では建築を中心に西洋や日本で古代から現在まで，どのように芸術作品や歴史資料を扱ってきたのかを考える。芸術作品を鑑賞しながらも，複数の建物や都市空間からなる歴史地区を対象にし，地域や時代によって大きく異なるその保護方法について理解を深める。どのような「文化遺産」が保護対象になってきたかを時代追って考察し，「文化遺産」を通史的に理解することを目的とする。

〔教材〕

参考書：伊藤延男・濱島正士・他『歴史的建造物の保存』（新建築学大系50）彰国社，1999年
ユッカ・ヨキレット（著）、益田兼房（監修）『建築遺産の保存-その歴史と現在』（立命館大学歴史都市防災研究センター叢書）アルヒーフ，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献等），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況と授業時の積極性［10%］，中間試験［30%］，期末試験［60%］

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水・５限
OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　古代と中世にける文化財の保護
第３週　近世以降の文化財修復事業
第４週　19世紀：近代国家形成と歴史
第５週　明治維新後の文化財保護
第６週　文化財の調査
第７週　博物館の設立
第８週　文化財の保護行政１
第９週　文化財の保護行政２
第10週　文化財の保護行政３
第11週　戦前の文化財保護
第12週　戦中・戦後の文化財保護
第13週　現在の文化遺産の保護
第14週　文化遺産の保護と国際協力
第15週　まとめ

外国語演習ⅠA

3628000100100

副　題	International Relations of East Asia							担　当　者	羅　京洙　准教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ENG-301-IW

〔授業の到達目標〕

東アジア国際関係に関する諸問題を外国語（主に英語及び韓国語）で論じるための語学力を身につけることを目指す。

〔授業の内容〕

異文化への理解を深めるため，言語能力の習得は欠かせないことである。とりわけ英語力は，言うまでもなく，最も必要とされる国際コミュニケーションの手段である。東アジア国際関係の諸問題，例えば地域統合や安全保障，朝鮮半島問題（北朝鮮を含む），日韓関係，歴史認識問題，人の移動，文化交流などに関する英語・韓国語の資料（新聞・雑誌・論文・図書・映像など）を豊富に使用し，英語・韓国語文化圏の人々（研究者）は，東アジアという地域をいかに認識・表現しているのかを一緒に考える。また，本演習では，関連文献の講読を中心としつつも，語学学習における読む・書く・聞く・話すという四機能をバランスよく演習していく。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが，毎回の指定文献や資料などを演習中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

受講生は，毎回の指定文献や参考資料を必読の上，演習に参加すること。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度・貢献度（30%），課題（30%），期末試験（40%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

演習の内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　講義：東アジア国際関係論に関する英語表現（１）
第３週　講義：東アジア国際関係論に関する韓国語表現（２）
第４週　リーディング（読解）演習（１）
第５週　リーディング（読解）演習（２）
第６週　リーディング（読解）演習（３）
第７週　リスニング（聴解）演習（１）
第８週　リスニング（聴解）演習（２）
第９週　リスニング（聴解）演習（３）
第10週　プレゼンテーション演習（１）
第11週　プレゼンテーション演習（２）
第12週　プレゼンテーション演習（３）
第13週　ライティング（作文）演習（１）
第14週　ライティング（作文）演習（２）
第15週　総合討論・総括

外国語演習IB

3628000100200

副　題	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係(1)									担　当　者	久保田　有香　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-302-IW

〔授業の到達目標〕

東南アジア（ASEAN諸国）について，英語文献を題材に，ジェンダー，市場及び国際関係という三つの視点から，理解を深めること。また，英語でものごとを理解し，議論することの楽しさを知ること。

〔授業の内容〕

本演習は，ASEAN諸国について，ジェンダー，市場及び国際関係の視点から理解を含めることを第一の目的とします。アセアン諸国の現在を取り上げている英文記事等を対象に議論を深め，みなさんと東南アジアとの距離を少しでも近くし，日ASEAN関係の重要性を自分たちの問題として理解していただきたいと考えています。具体的なテーマとしては，東南アジア諸国における女性の社会進出状況，背景としての投資環境状況，また各国におけるジェンダー関係の事例等を考えています。

また，本授業を通じて，英語でものごとを理解し，議論することの楽しさについても触れていただきたく，授業形式は，指定された文献（記事等）についての講読にとどまらず,社会人になってからも有用と考えられるディベートを積極的に取り入れ,参加型を目指しています。

基本的に記事の講読とディベートをセットで授業を進めますが，日本アセアンセンターに出向しているアセアン各国の職員とのディスカッションも適宜実施し，アセアンについての知識を多面的に深められるようにしたいと考えています。

〔教材〕

各回毎に指定，または配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：配布された記事については簡単な和訳を準備すること，ディベート前には，各自のリサーチが必要。

〔成績評価の方法〕

（１）授業への参加態度(20%)意欲的に授業に取り組んだか（40%）
（２）期末試験（40%程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　テキストの配布
第２週　ASEANおよびASEAN10カ国の概要
第３週　講読
第４週　講読記事に関するディベート
第５週　講読，次回のテキストの配布
第６週　講読記事に関するディベート
第７週　講読，次回のテキストの配布
第８週　講読記事に関するディベート
第９週　ASEANスタッフとの議論（１）
第10週　ASEANスタッフとの議論（２）
第11週　講読，次回のテキストの配布
第12週　講読記事に関するディベート
第13週　講読，次回のテキストの配布
第14週　講読記事に関するディベート
第15週　総括

外国語演習IC

3628000100300

副　題	外国語で学ぶ奴隷貿易の歴史							担　当　者	工藤　晶人　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-303-IW

〔授業の到達目標〕

大西洋奴隷貿易の歴史について，映画を題材とした文献の講読を通じて理解を深める。

〔授業の内容〕

数百年に渡ってヨーロッパ，アフリカ，アメリカを結びつけた奴隷貿易は，現代の世界にも影響を与えつづけている。この演習では，奴隷貿易を題材とした映画鑑賞と，英語を中心とする外国語文献の講読を通じてその歴史を学ぶ。

〔教材〕

プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

授業中に課される課題と参加姿勢を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日の昼休み
授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　テキストの購読とディスカッション
第３週　〃
第４週　〃
第５週　映画を題材としたディスカッション
第６週　テキストの購読とディスカッション
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　映画を題材としたディスカッション
第11週　テキストの購読とディスカッション
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　映画を題材としたディスカッション
参加人数により授業計画を変更する。

外国語演習ID

3628000100400

副　題								担　当　者	渡邉　淳　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ENG-304-IW

〔授業の到達目標〕

英語の語彙と表現を習得し，プレゼン力一般の向上を図る。

〔授業の内容〕

英語の新聞，雑誌の記事や本の抜粋を教材として取り上げ，英語の語彙，表現を習得しながら,外国と日本でのものの考え方の類似点や相違点などを認識しつつ,「自分」の意見を考える。また，勉強した事柄に関し学生同士で議論し，グループとして互いに意見を取り纏め，グループごとにプレゼンする練習を行う。テーマとしては「学校と実社会の違い」「グループでうまく協働作業するヒント」「うまくプレンゼンするための留意点」など授業で取り上げる予定。

〔教材〕

用意した教材を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布した語彙集と記事などを予習／復習すること。

先週取り上げたテーマについて自分の意見を整理し，クラスのグループで議論する準備が望ましい。

〔成績評価の方法〕

出席点（約15%），レポートと授業態度等（約35%）および１回のテスト（約50%）の総合点

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の後あるいは国際コミュニケーション学科の副手経由のアポ申し入れ

〔授　業　計　画〕

第１週　年間予定の説明，
外資系企業がよく使用するSMART方式のObjectives設定と人事評価手法を学び，春学期のこのコースの目標を考える
第２週　英字新聞等の時事問題に関する記事を読む。
第３週　先週の取り上げた記事に関連するテーマについてグループ分けしたクラスがそれぞれグループごとに意見をまとめ，クラスの前で発表する。又，プレゼンする上での改善点を話し合いながらグループごとに相手を評価していく。
第４週　英語の本から「グループでうまく協働作業するためのヒント」に関する抜粋を読む。
第５週　先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し，グループでの意見の集約し，プレゼンする練習を行う。
第６週　英語の本から「失敗からの教訓」に関する抜粋を読む。
第７週　先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し，グループでの意見の集約し，プレゼンする練習を行う。
第８週　英文レポート提出とプレゼンの練習
第９週　英語の本から「神童達の追跡調査」に関する抜粋を読む。
第10週　先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し，グループで意見を集約し，プレゼンする練習を行う。
第11週　英語の本から「プレゼンの秘訣」に関する抜粋を読む。
第12週　先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し，グループで意見を集約し，プレゼンする練習を行う。
第13週　英語の本から「成功した人の共通点」に関する抜粋を読む。
第14週　先週取り上げた本／記事に関するテーマを議論し，グループで意見を集約し，プレゼンする練習を行う。
第15週　期初のObjectivesを自己評価する。
理解度の確認をする。

外国語演習IE

3628000100500

副　題	オペラと異郷趣味							担　当　者	大崎　さやの　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ITA-305-IW

〔授業の到達目標〕
西欧の芸術文化が生み出した作品群と，そこに見られる世界に対する視点を学ぶことを通して，現代の人間社会と文化について考えられる視点を養うこと。

〔授業の内容〕
オペラは16世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術です。今日に至るまで，多くのオペラ作品が作られ，上演され続けています。オペラは西欧を代表する芸術様式の一つですが，いっぽうでその作品群には，古くより西欧以外の異郷を舞台にした，または異郷の人を登場人物としたオペラが存在します。よく知られた例では，エジプトを舞台としたヴェルディの《アイーダ》，日本を舞台としたプッチーニの《蝶々夫人》などです。本演習では，オペラとその異郷趣味について書かれたテクストを読みながら，異郷を扱った西欧のオペラ作品と，そこに見られる西欧以外の異郷への視点について，考えていきたいと思います。テクストは比較的平易な文体で書かれており，さまざまな異郷趣味オペラについての言及を含む，大変興味深いものです。この授業をきっかけに，学生のみなさんのオペラそして西欧の異郷趣味についての知識と関心が深まることを期待します。なお，テクストには，作品タイトル等英語以外の言語も用いられていますが，各言語への興味を深めるよい機会となるでしょう。

〔教材〕
テクスト教材（英語）は，こちらで準備します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業には，配布したテクストをあらかじめ読んだうえで出席すること。

〔成績評価の方法〕
出席（50%），発表（25%），レポート（25%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付けます。

〔備考〕
ビデオによる作品鑑賞を随時行います。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　テクスト紹介　西洋演劇史について簡単な紹介
第２週　各自の担当箇所決定　オペラ史の簡単なまとめ
第３週　テクストに基づく各自の発表（１）
第４週　テクストに基づく各自の発表（２）
第５週　作品鑑賞（１）
第６週　テクストに基づく各自の発表（３）
第７週　テクストに基づく各自の発表（４）
第８週　作品鑑賞（２）
第９週　テクストに基づく各自の発表（５）
第10週　テクストに基づく各自の発表（６）
第11週　作品鑑賞（３）
第12週　テクストに基づく各自の発表（７）
第13週　テクストに基づく各自の発表（８）
第14週　作品鑑賞（４）
第15週　まとめ
履修者の人数により，変更されることがあります。

外国語演習IF

3628000100600

副　題	Race and Ethnicity							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-306-IW

〔授業の到達目標〕

アメリカの人種／エスニシティ―の歴史的・社会的・政治的生成について理解する。

〔授業の内容〕

この授業では，英語圏の大学１年生レベルのテキストを読みながら，おもにアメリカの人種問題，エスニシティについて勉強しますリーディングだけでなく，同時にリスニングも取り入れた，総合的な学習を目指します。

〔教材〕

テキストはプリントで配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを予習して読んでくる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（60点），課題の提出（40点）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜４時限後30分
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は出席点が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　文献講読＋リスニング
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　関連する映画鑑賞
第８週　文献講読＋リスニング
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
計画通りに進まないこともあります。

外国語演習IG

3628000100700

副　題	ビジネス現場からみた日米関係							担　当　者	大出　隆　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-307-IW

〔授業の到達目標〕

1980年代以降の日米関係に於いて，ビジネスがどう両国関係に関わってきたのか，その概要を理解し，互いに重要な経済パートナーである日米両国のあるべき関係を(特にビジネスの視点を通じて)考える力を身につける。又，英文テキストを読みつつ英語力向上も図る。

〔授業の内容〕

日米間の企業活動に関わる様々な事象を取上げ,ビジネス現場で起きていることを,その時々の社会情勢や国際情勢と関連付け，日米関係の文脈の中で，その実態を的確に把握する。その上でそれらを，ロビー活動を含む熾烈な企業競争から社会貢献活動/文化交流活動まで多角的な視点で捉える。同盟関係にあり世界で最大級の経済規模を持つ日米両国の関係は，ビジネス抜きでは考えられず,そうした視点から利益を享受する二国間関係のあるべき姿を考えていく。但し，本演習では様々な事象をあくまで概論的に取上げるので，興味を惹かれた点については，更に深く学んでいってもらいたい。

〔教材〕

参考書：大河原良雄『オーラルヒストリー 日米外交』ジャパンタイムズ，2006年
Roger Benjamin 他, *The Fairness Debate in US-Japan Economic Relations*, RAND, 1991

教科書は使用しない。授業では適宜プリントを配布する。参考書"The Fairness Debate in US-Japan Economic Relations"はインターネット上で公開されている。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布するテキストを予習すること。テキストに関わる内容についての講義後に，それに基づくディスカッションを毎回行いますので事前準備が必要です。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(20%)，ディスカッションへの貢献(30%)，期末試験(50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔備考〕

この演習では国際ビジネスに関わる事例を取上げ，そこに内在する問題点に関して，「自分ならどうするか？」と常に考えてもらいます。国際ビジネスに関心ある学生に適します。

〔授　業　計　画〕

第１週　【学期の予定の説明】・・・講義の全体像を紹介する。
第２週　【日米経済摩擦】・・70-80年代の日本の対米過剰輸出に起因する貿易摩擦の実態を概説し，その後の貿易不均衡是正を目的にした日米構造協議に至るプロセスを考察する。
第３週　【日本企業が関わる米国内での事件１】・・80年代に米国で起きた事件(IBM産業スパイ事件と東芝機械ココム違反事件)の概要を解説し，日本企業の対米戦略を考察する。
第４週　【日本企業が関わる米国内での事件２】・・トヨタ大規模リコール事件(2009年)の概要を解説し，GMを例に企業と国家の関わり方やトヨタの事件後の対米戦略を探る。
第５週　【米国でのロビー活動の実態】・・日本人には分かり難い米国でのロビー活動について，その手法等の概要を解説し，民間が関わる米国議会のPower Politicsの一端を考察する。
第６週　【Buy American(保護主義政策)】・・保護主義的色彩の強いBuy American法について，それを是とする米国社会の構造と背景を探り，日本企業の対応戦略を検討する。
第７週　【日米経済交流】・・日米民間経済人レベルの対話を通じ，両国経済関係の健全な発展の為に1961年に開始された日米財界人会議の活動実態を概観し意義や目的を探る。
第８週　【日米科学技術交流】・・日米間には科学技術協力協定(1988年発効)があるが十分とは言い難い。その問題の所在を探り，日米間の科学技術交流のあり方を検討する。
第９週　【国際戦略提携１：JV】・・JV(合弁)の事例を紹介し当該事案の是非を考察する。
第10週　【国際戦略提携２：M&A】・・M&A(合併/買収)事例を紹介し当該事案を考察する。
第11週　【日系アメリカ人】・・日系アメリカ人について学び，日系アメリカ人により設立された米日カウンシル(US-Japan Council)と日本ビジネス界との関わり等について考察する。
第12週　【CSR(企業の社会的責任)活動】・・米国でのCSR活動事例を紹介し，その意義を考察する。
第13週　【ビジネス界からの発信１】－　日米協力による情報発信・・原発安全性の科学的評価を世界に発信する日米原子力円卓会議の活動を概観し，その意義を考察する。
第14週　【ビジネス界からの発信２】－政策提言（Clean Coal Forum）・・石炭火力発電依存の途上国が多い中,CO2排出を抑える日本の技術を提言するフォーラムの意義を考察する。
第15週　【ビジネス界からの発信３】－Community活動・・ワシントン日本商工会財団を例に，日米関係における財団活動の意義について考察する。≪Brief Wrap-upを含む≫

外国語演習IH

3628000100800

副　題	様々な国における女性の社会進出の実態					担　当　者	佐久間　潮　教授				
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-308-IW

〔授業の到達目標〕

様々な国における女性の社会進出の実態を調べること。それを基に日本における女性の社会進出問題を自ら考える力を養うこと。

〔授業の内容〕

英語経済雑誌の記事等を教材にして，外国における女性の社会進出問題と日本のそれとを比較しつつ考える。

〔教材〕

授業の中で適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各 2 時間

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（30%）とテスト（70%）で総合評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日 3 時限
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第 1 週　授業で配布する資料を輪読し，解説し，考える。
第 2 週　〃
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

外国語演習II

3628000100900

副　題	Experiencing Shakespeare							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-309-IW

〔授業の到達目標〕

シェイクスピアの作品を原語で講読，現代英語との比較をとおして英語の言語的性格や特徴を理解する。またセリフの朗読訓練および発表をとおしてプレゼンテーション能力の向上を目指す。

〔授業の内容〕

シェイクスピアのロマンス劇『テンペスト』の原作(The Tempest)を講読する。受講生一人ひとりの講読箇所を指定し，調べた内容の発表を行う。また講読箇所の個別またはグループによる朗読発表を行う。また5月に来日する英国劇団ITCLの本学公演を観劇して，レヴューを英語で書く練習をする。またこの作品の舞台版や映画版の鑑賞をとおして，それらの脚本化された作品と原作の比較を行う。公演には履修生全員が公演スタッフとして参加することを単位取得の条件のひとつとする。

〔教材〕

参考書：河合祥一郎『シェイクスピア・ハンドブック』三省堂，2010年
L・ダントン=ダウナー、アラン・ライディング『シェイクスピアヴィジュアル事典』新樹社，2004年

テキストは担当者が用意したものを購入してもらう。(授業初回時に教室にて配布予定)

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習においては原文講読に欠かせないOEDを念入りに引いて問題となる語について調べておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業での発表(20%), ITCL公演スタッフ参加(30%),　観劇レヴューのレポート(10%), 試験(40%)の割合で評価する。*「テンペスト」公演スタッフ参加および観劇(5月21日)は必修。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜3時限
メールまたは国際コミュニケーション学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　原作講読1: Act 1
第3週　原作講読2: Act 1　および朗読発表
第4週　原作講読3: Act 2
第5週　原作講読4: Act 2　および朗読発表
第6週　原作講読5: Act 2
第7週　原作講読6: Act 3
第8週　原作講読7: Act 3　および朗読発表
第9週　原作講読8: Act 3
第10週　原作講読9: Act 4
第11週　原作講読10: Act 4　および朗読発表
第12週　原作講読11: Act 4
第13週　原作講読12: Act 5
第14週　原作講読13: Act 5　および朗読発表
第15週　原作講読14: Review　および朗読発表

英国劇団ITCLの公演(5月21日)の準備・当日のスタッフ業務によって授業スケジュールに若干変更が出る場合もある。

外国語演習IJ

3628000101000

副　題	西欧から見た東欧の人々と社会・モーツァルトの生涯	担　当　者	中島　崇文　教授

単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-310-IW

〔授業の到達目標〕
中・東欧における社会や文化・芸術に関する理解を深めると共に，英文の読解力の更なる向上を達成する。

〔授業の内容〕
今学期前半は社会主義体制が崩壊する直前の1988年にウィーンからイスタンブルまで，ハンガリー，ルーマニア，ブルガリアを通って自転車で旅をしたイギリス人女性のジャーナリストが現地での印象を記したテキストの中で第12章（コプシャ・ミーカ町とシビウ市を訪問する部分）を精読し，当時の西側にはまだ闇に包まれていた「もう一つのヨーロッパ」の現状を考察する。他方，今学期後半はオーストリア出身の音楽家モーツァルトの生涯に関する文献の一部（ウィーンでの10年間」の章）を精読する。授業では一文ずつ丁寧に訳し，構文等を確認すると共に，内容の把握にも努める。２冊目のテキストに関しては，一つの文章が10行以上にわたる長文のものも少なくないので，ある程度の忍耐を要するものとなっている。こちらの方は原文は独語であり，これを英訳したものを読むことになるが，テキストには独文も記載されているので，独語履修者は原文と比較することも可能である。

〔教材〕
教科書：Georgina Harding, *In Another Europe: A Journey to Romania*, London, Hodder&Stoughton, 1990, 157p
Johannes Jansen, *Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)*, Köln, London, Los Angeles, Madrid, Paris, Tokyo, Taschen, 2005, 96p
テキストはコピーして配布する。初回の授業にて早速テキストを読み始めるので，履修予定者は事前に必ずコピーを受け取り，予習しておくこと４号館の１階に入ってすぐ左の国際コミュニケーション学科のレポートボックス室の小部屋の中島ゼミのボックスに３月下旬に入れておくので，自分の名前の付されたものを時間のある時に持っていくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週，教科書の中で読むであろう箇所を事前に熟読し，訳しておくこと。履修者は大学ノート等を１冊，各自で用意し，訳文を予習の段階で一通り作成しておき，授業時に一文ずつ添削するという方法を取るのが良いと思われる。

〔成績評価の方法〕
中間試験（約25%）及び期末試験（約25%）の合計点数に毎週授業開始時に実施される小テストの合計点（約50%）を加味して100点満点として算出する。なお，予習していないと判断される場合には減点することがある。テキストにはやや難しい箇所もあるので，履修者は毎週，予習と復習に十分な時間をかけて取り組むことが求められる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは初回のレジュメに記載する）。

〔備考〕
中島ゼミの３年生はできるだけ履修すること。地域研究基礎論I･II，東欧文化論，国際コミュニケーション基礎演習Dといった関連科目を出来るだけ数多く履修済み，ないしは履修中であることが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明
第２週　序文
第３週　工場による環境汚染の深刻なコプシャ・ミーカ町
第４週　シビウ市でのホテルのチェックイン
第５週　シビウ市のドイツ的景観
第６週　歴史博物館での現地の芸術家との会話
第７週　ドイツ系住民との出会いとルター派教会訪問
第８週　理解度の確認
第９週　コンスタンツェとの結婚とハイドンによる賞賛の言葉
第10週　『後宮からの逃走』と『魔笛』
第11週　『フィガロの結婚』と『ドン・ジョヴァンニ』
第12週　三大交響曲の特徴―ハイドンの影響と独自性の追求―
第13週　経済的困窮
第14週　理解度の確認
第15週　復習・総括

外国語演習IK

3628000101100

副　題	金融・経済基礎							担　当　者	中島　洋子　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ENG-311-IW

〔授業の到達目標〕

時事問題を取り上げながら，金融の基礎知識を身につけ，同時に英語での表現力を高めること。

〔授業の内容〕

Nikkei Asian Review, Economist等の英字新聞や英文経済誌の時事問題を読み，金融・経済の基礎を学ぶ。

以下の授業計画に示す内容は目安であり，タイムリーな金融経済事象を採り上げるので，その時々でテーマは異なる。

〔教材〕

Nikkei Asian Review, Economist誌等。

※テキストは，授業時に配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布するテキストの予習が必要。

〔成績評価の方法〕

出席状況，授業態度，試験などを総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　日本経済の課題
第２週　日本の金融機関の種類と特徴
第３週　三大銀行業務：預金
第４週　三大銀行業務：貸出
第５週　三大銀行業務：為替
第６週　中央銀行の果たす役割
第７週　金利水準と物価
第８週　日本の量的金融緩和の行方
第９週　日本国債と財政事情
第10週　為替相場動向
第11週　郵政民営化
第12週　サブプライムローンとリーマンショック
第13週　海外の金融事情（１）
第14週　海外の金融事情（２）
第15週　まとめ

外国語演習IL

3628000101200

副　題	Cultural Properties in Japan							担　当　者	M．ウーゴ　准教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	MSE-312-IW

〔授業の到達目標〕

To become able to explain about Japanese Cultural Properties in English.

〔授業の内容〕

本演習では，日本国内の文化財に関する資料を英語で読み，その理解を深めることを目的とする。さらに，調べた文化財を英語の小論文にまとめ，その特徴を英語で発表し，全員でコメントするかたちで演習を進めることにする。日本の文化に初めて触れる人にどのように，何を説明する必要があるのかを考えることで，日本の文化財の特徴や外国の文化財との違いを明確にし，文化財を国際コミュニケーションの手段として利用し，自国の文化についてより深く理解することができるだろう。日本の文化財を海外に英語で紹介するとともに，世界で一般的に使われている英語に慣れ親しみ，身につけることが目標である。

〔教材〕

参考書：Cultural Properties Department, Agency for Cultural Affairs (ed.), *Cultural Properties for Future Generations*, Agency for Cultural Affairs, Japan, 2013

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業への参加の姿勢（積極性）［20%］，試験，レポートや発表［80%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水・５限
OH以外は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　有形文化財
第３週　無形文化財
第４週　民俗文化財
第５週　記念物
第６週　文化的景観
第７週　伝統的建造物群
第８週　発表と討論
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

外国語演習IM

3628000101300

副　題	英語で読む国際法							担　当　者	櫻井　大三　教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	LAW-313-IW

〔授業の到達目標〕
国際法の基本的な事柄について書かれた英語文献の意味内容を把握し，正確な日本語訳を作成することができるようになること。

〔授業の内容〕
本演習は，国際法の基本的な事柄を英語文献の解析を通じて学習することを目的としている。その意図するところは，外国語（英語）で書かれた学術書の主張内容を的確に理解し，アカデミックな議論の展開に慣れることにある。教材には，アメリカやイギリスの大学で初めて国際法を学ぶ大学生（法学部生に限らない）に広く読まれている，定評ある下記の入門書を用いる。
近い将来諸君は，学部レベルでこの種の文献を読み込んできた人たちとさまざまな分野で交流し，競い合うこととなるであろう。欧米の知的エリートたちと対等に渡り合うための第一歩として，いわば「世界共通語」でもある国際法の英語原典に親しんで頂くことには，それなりの意義があると思われる。
授業形式は例年，「英語の形から入る」というスタイル，すなわち，英文法の知識および英語構文の基本事項を確認しながら一文一文を精読するというスタイルにこだわっている。これにより，受講生は，英語の文章を正確に読み解く力（したがって，正確な日本語訳を作成する力）を向上させることができるであろう。今年度もこのやり方を踏襲しつつ，幾ばくかでも英文の内容把握（国際法上の議論）に接近してみたいと考えている。

〔教材〕
教科書：Buergenthal, Th. & Murphy, S. D., *Public International Law in a Nutshell*, 5th Edition, Thomson/West, 2013
上記テキストの中から，国際人権法，国際人道法，海洋法，国際環境法，国際機構論，国際安全保障論のいずれか一つの分野を取り上げる予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習では，事前に英文マテリアルの該当箇所を音読し，不知の語句の意味を辞書で調べ，和訳を作成してくること。復習では，教師が説明した文法や構文，英文の意味内容を踏まえて，正確な和訳を辞書なしで作成できるようにすること。

〔成績評価の方法〕
（１）毎回の出席，予習ノートの提出，授業中に指示された箇所の訳読および板書訳，質疑応答（以上を平常点として50％程度）
（２）期末試験（50％程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
毎週月曜日の放課後，もしくは，毎週金曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
電子メールによる（メールアドレスは，学科事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
テキストの内容理解を十分に深めるために，担当者による「国際法I・II」を履修済みであるか，並行して履修されることを強く推奨する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　受講の心得の確認
第３週　テキストの訳読　（１）
第４週　テキストの訳読　（２）
第５週　テキストの訳読　（３）
第６週　テキストの訳読　（４）
第７週　テキストの訳読　（５）
第８週　テキストの訳読　（６）
第９週　テキストの訳読　（７）
第10週　テキストの訳読　（８）
第11週　テキストの訳読　（９）
第12週　テキストの訳読　（10）
第13週　テキストの訳読　（11）
第14週　テキストの訳読　（12）
第15週　総括

外国語演習IN

3628000101400

副　題	外国語で読む現代日本							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	HIS-314-IW

〔授業の到達目標〕

日本に関する，英語もしくは中国語の記事等の文章を理解できるようにする。外国語で日本について説明できるような語彙力を身に着ける（英語か中国語かは参加者が選択する）。

〔授業の内容〕

海外に出て，自分の「日本」に対する無知に気づかされた経験を持つひとは少なくないだろう。「国際コミュニケーション」において，自らの国について知ることは必須である。

本演習では，参加者が自己の語学能力に応じて，英語もしくは中国語を選択し，担当教員が指定する文章を翻訳して内容を報告し，みなでディスカッションする。こうした作業を通して，外国語を通して現代日本について改めて考え，同時に，外国人記者や研究者らが「日本」をどのようにみているかについても，考えてみたい。

〔教材〕

授業時に文献のコピーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に指定された記事を翻訳し，内容を理解したうえで授業に参加すること。ディスカッションでは，各自の意見を求められることもあるので，自分の考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業参加を重視する。成績は，授業参加（発言・報告等50%），期末試験（50%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜３限

授業後に直接連絡，もしくはメール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）。

〔備考〕

参加者の人数により，授業計画を若干変更する可能性がある。また中国語圏の留学生は，必ず英語を選択すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　文献講読とディスカッション
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　まとめ，予備日
第15週　〃

外国語演習IO

3628000101500

副　題	英語で学ぶ環境経済							担　当　者	荘林　幹太郎　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-315-IW

〔授業の到達目標〕

経済に係る基礎的な英文について，センテンスを正確に翻訳するとともに，パラグラフ単位での意味を把握することができるようになる。

〔授業の内容〕

本演習では，地球環境問題への経済学の適用を題材として，英語で「サブスタンス」を学ぶことを目的とする。経済学関連の入門書，あるいは一般向けの啓蒙書をテキストとして，環境経済学の基礎を学ぶ。概ね毎回出題される宿題を解くことによって，英語を丁寧に読む習慣を身につけてほしい。

〔教材〕

毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の資料の翻訳に 4 時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

授業中の発言（25%），中間試験（25%），期末試験またはレポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日昼休み

mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション
第 2 週　地球温暖化とその原因①
第 3 週　地球温暖化とその原因②
第 4 週　市場の効率性
第 5 週　市場の失敗としての外部性①
第 6 週　市場の失敗としての外部性②
第 7 週　外部性としての地球温暖化①
第 8 週　外部性としての地球温暖化②
第 9 週　外部性の是正政策①
第10週　外部性の是正政策②
第11週　貿易と環境
第12週　リカードの比較優位
第13週　環境外部性と貿易
第14週　WTO交渉と環境
第15週　総活

外国語演習II A

3628000200100

副　題	Experiencing Shakespeare							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-316-IW

〔授業の到達目標〕

シェイクスピアの作品を原語で鑑賞し，現代英語との比較をとおして英語の言語的性格や特徴を理解する。またセリフの朗読訓練および発表をとおして英語独自のリズムやイントネーションを身につけながら，プレゼンテーション能力の向上を目指す。

〔授業の内容〕

シェイクスピアの作品を原語で鑑賞する。さらに１～２回に一度の割合で，テキスト講読箇所の個別またはグループによる朗読及び内容に関する発表を行う。

〔教材〕

教科書：荒井良雄他, *Globe Shakespeare Quotations*, 朝日出版社, 2012
参考書：G. L. ブルック（三輪・佐藤他共訳）『シェイクスピアの英語』初版，松柏社，1998年
L・ダントン=ダウナー、アラン・ライディング『シェイクスピアヴィジュアル事典』新樹社，2004年
河合祥一郎『シェイクスピア・ハンドブック』三省堂，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の発表箇所については，発表者だけでなく履修者全員が念入りな予習をして臨むこと。

〔成績評価の方法〕

授業での発表(20%)，試験(70%)，授業への参加意欲・貢献度(10%)の割合で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜３時限
メールまたは国際コミュニケーション学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　原作講読1: All the World’s a Stage (As You Like It)
第３週　原作講読2: Lovers (Romeo and Juliet)および朗読発表
第４週　原作講読3: Justice vs. Mercy (The Merchant of Venice)および朗読発表
第５週　原作講読4: Nothing (Macbeth)および朗読発表
第６週　原作講読5: Prologue (Henry V)および朗読発表
第７週　原作講読6: Speak the Speech (Hamlet)および朗読発表
第８週　原作講読7: What is a Man? (Hamlet)および朗読発表
第９週　原作講読8: To be or not to be (Hamlet)および朗読発表
第10週　原作講読9: Sonnet No. 18および朗読発表
第11週　原作講読10: Sonnet No. 30および朗読発表
第12週　原作講読11: Sonnet No. 105および朗読発表
第13週　原作講読12: Enlightenment- Brutus’ Speech (Julius Caesar)および朗読発表
第14週　原作講読13: Enlightenment- Antony’s Speech (Julius Caesar)および朗読発表
第15週　原作講読14: Enlightenment-Sparrow Speech (Hamlet)および朗読発表

外国語演習ⅡB

3628000200200

副　題	東南アジアにおけるジェンダー、市場および国際関係(2)	担　当　者	久保田　有香　講師

単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-317-IW

〔授業の到達目標〕

東南アジア（ASEAN諸国）について，英語文献を題材に，ジェンダー，市場及び国際関係という三つの視点から，理解を深めること。また，英語でものごとを理解し，議論することの楽しさを知ること。

〔授業の内容〕

本演習は，ASEAN諸国について，ジェンダー，市場及び国際関係の視点から理解を含めることを第一の目的とします。アセアン諸国の現在を取り上げている英文記事等を対象に議論を深め，みなさんと東南アジアとの距離を少しでも近くし，日ASEAN関係の重要性を自分たちの問題として理解していただきたいと考えています。具体的なテーマとしては，東南アジア諸国における女性の社会進出状況，背景としての投資環境状況，また各国におけるジェンダー関係の事例等を考えています。

また，本授業を通じて，英語でものごとを理解し，議論することの楽しさについても触れていただきたく，授業形式は，指定された文献（記事等）についての講読にとどまらず,社会人になってからも有用と考えられるディベートを積極的に取り入れ,参加型を目指しています。

基本的に記事の講読とディベートをセットで授業を進めますが，日本アセアンセンターに出向しているアセアン各国の職員とのディスカッションも適宜実施し，アセアンについての知識を多面的に深められるようにしたいと考えています。

〔教材〕

各回毎に指定，または配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：配布された記事については簡単な和訳を準備すること，ディベート前には，各自のリサーチが必要。

〔成績評価の方法〕

（１）授業への参加態度(20%)意欲的に授業に取り組んだか（40%）
（２）期末試験（40%程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　テキストの配布
第２週　ASEANおよびASEAN10カ国の概要
第３週　講読
第４週　講読記事に関するディベート
第５週　講読，次回のテキストの配布
第６週　講読記事に関するディベート
第７週　講読，次回のテキストの配布
第８週　講読記事に関するディベート
第９週　ASEANスタッフとの議論（１）
第10週　ASEANスタッフとの議論（２）
第11週　講読，次回のテキストの配布
第12週　講読記事に関するディベート
第13週　講読，次回のテキストの配布
第14週　講読記事に関するディベート
第15週　総括

外国語演習IIC

3628000200300

副　題	外国語で学ぶ国際移民							担　当　者	工藤　晶人　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-318-IW

〔授業の到達目標〕

人の国際移動について，映画を題材とした文献講読を通じて理解を深める。

〔授業の内容〕

人の国際移動はさまざまな異文化の出会いにつながる。この演習では，国際移動にかかわる映画鑑賞と文献講読を通じて，現代世界の特質について考えてみたい。

〔教材〕

教科書：南塚信吾，秋田茂，高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史』ミネルヴァ書房，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読

〔成績評価の方法〕

授業中に課される課題（70%），参加姿勢（30%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日の昼休み
授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　テキストの購読とディスカッション
第３週　〃
第４週　〃
第５週　映画を題材としたディスカッション
第６週　テキストの購読とディスカッション
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　映画を題材としたディスカッション
第11週　テキストの購読とディスカッション
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　映画を題材としたディスカッション
参加人数により授業計画を変更する。

外国語演習IID

3628000200400

副　題								担　当　者	渡邉　淳　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1	コース・ナンバー	ENG-319-IW

〔授業の到達目標〕

英語の語彙と表現を習得し，プレゼン力一般の向上を図る。

〔授業の内容〕

英語の新聞，雑誌の記事や本の抜粋を教材として取り上げ，特に経済／時事関連英語の語彙，表現を習得しながら，外国と日本での物の考え方の類似点や相違点などを認識しつつ，「自分」の意見を考える。また，勉強した事柄に関し学生同士で議論し，グループとして互いに意見を取り纏め，グループごとにプレゼンする練習を行う。「移民の給与への影響」「ものがどうして売れるのか」「ものがどうして流行るのか」などのテーマを授業で取り上げる予定。

〔教材〕

用意した教材を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前配布の語彙集と記事の抜粋を予習する。

記事の内容に関する各自の意見を整理し，クラスでのグループディスカッションにて発表する復習する。

〔成績評価の方法〕

出席点（約15%），レポートと授業態度等（約35%）および　テスト（約50%）の総合点

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の後あるいは国際コミュニケーション学科の副手を通したアポ

〔授　業　計　画〕

第１週　学期の予定の説明，
直近の時事／経済問題に関する英字新聞記事を読む。
第２週　先週の取り上げた記事についてgroup discussionを通じテーマに対する理解度を深めたり，意見のプレゼン力のレベルアップを図る。
第３週　「移民の給与への影響」を読み，ヨーロッパへの移民の流入について併せて考える。
第４週　先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し，グループでの意見の集約し，プレゼンする練習を行う。
第５週　消費者の心理に関する行動経済学の本の抜粋を読む。
第６週　先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し，グループで意見を集約し，プレゼンする練習を行う。
第７週　英文レポート提出とプレゼンの練習
第８週　「マシュマロ実験」と将来の成功についての記事を読む。
第９週　先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し，グループで意見を集約し，プレゼンする練習を行う。
第10週　行動経済学による価格設定の仕方についての記事を読む。
第11週　先週取り上げた本／記事に関連するテーマを議論し，グループで意見を集約し，プレゼンする練習を行う。
第12週　アメリカの職場での男女の考え方の違いについての記事の抜粋を読む。
第13週　先週取り上げた本／記事に関するテーマを議論し，グループで意見を集約し，プレゼンする練習を行う。
第14週　英字新聞等からの時事問題の抜粋を読む。
第15週　理解度の確認

外国語演習IIE

3628000200500

副　題	イタリア、ルネサンスの芸術家像							担　当　者	高橋　朋子　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ENG-320-IW

〔授業の到達目標〕

15世紀初頭，フィレンツェで興った美術革新をルネサンスと呼びます。この時代は傑出した芸術家たちが，多くの名作を生みだしました。昨今我が国の美術展覧会でもよく話題になる画家や彫刻家たちが活躍した時代です。本年は彼らがどのようにして芸術家として修業し，腕を磨き，知性を磨いたかを論じたテクストを購読し，イタリア・ルネサンス美術を成り立たせている基本と背景を理解することを目標とします。

〔授業の内容〕

講読するテクストはFrancis Ames-LewisのThe Intellectual Life of the Early Renaissance Artistです。長い間西洋では，画家や彫刻家は単なる職人として，詩人や数学者，人文主義者たちに比べると社会的に低い職業とみなされていました。ところが16世紀になると絵画や彫刻はあらゆる芸術のなかで最も優れた芸術と主張されるようになります。もちろんレオナルド・ダ・ヴィンチ，ミケランジェロの登場があったからです。本年度はこうした西洋美術史の頂点に立つ美術家を生み出すに至った背景を，Ames-Lewis　の本書から学びます。尚この本はイタリア・ルネサンス美術を学ぶ際の必読書ともいえる名著です。

〔教材〕

教材はコピーを配布しますからテキストを購入する必要はありません。以下に一応テクストをあげておきます。

Francis Ames-Lewis, The Intellectual Life of the Early Renaissance Artist, Yale University Press, London, 2000.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に西洋美術史，特に中世からルネサンスにかけてを勉強しておくこと。

〔成績評価の方法〕

講読の授業ですから，分担部分の訳と理解力が評価の基本です。また学期最後には本年度講読した内容に関するレポートを提出してもらいます。それらに出席状況を加味して評価します

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

毎回,一人10行（１パラグラフくらい）を分担します。演習の参加人数によって異なりますが，２回に１度程度で自分の分担が回ると思ってください。

〔授　業　計　画〕

第１週　演習で用いるテクストの紹介。講読分担等，今後の授業の方針確認
第２週　テクストの購読
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

この授業では英語のテクストを読むだけでなく，そこで語られている作品や内容を理解することも目的としています。ですから，講読者はできる限り自分の分担箇所で語られる作品を見つけてコピー，あるいはパワーポイント，あるいは本を持ち込むなどで作品を提示することを求めます。また教師のほうでも，さらに詳しい関連作品に言及し，作品を提示し，美術史の理解がさらに深まることを目指します。

外国語演習ⅡF

3628000200600

副　題	Race and Ethnicity							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-321-IW

〔授業の到達目標〕

アメリカの人種／エスニシティ―の歴史的・社会的・政治的生成について理解する。

〔授業の内容〕

この授業では，英語圏の大学１年生レベルのテキストを読みながら，おもにアメリカの人種問題，エスニシティについて勉強しますリーディングだけでなく，同時にリスニングも取り入れた，総合的な学習を目指します。

〔教材〕

テキストはプリントで配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを予習して読んでくる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（60点），課題の提出（40点）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜４時限後30分
授業の前後に受け付けます。

〔備考〕

遅刻者は出席点が半分。

〔授　業　計　画〕

第１週　文献講読＋リスニング
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　関連する映画鑑賞
第８週　文献講読＋リスニング
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
計画通りに進まないこともあります。

外国語演習IIG

3628000200700

副　題	グローバル企業のCSR活動とアライアンス活動	担　当　者	大出　隆　講師

単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-322-IW

〔授業の到達目標〕

企業のCSR(企業の社会的責任)活動とアライアンス(戦略的提携)活動の概要を理解し，グローバルに展開するビジネス活動に必要な戦略とはどういうものかを学び，グローバル企業の活動に関わる課題をみつけて，自分なりに解決案を考える力を身につける。

〔授業の内容〕

本演習では，グローバル企業の様々な事業活動の内，CSR活動とアライアンス活動に焦点をあて，それらがどのような活動で，何故企業が行う必要があるのかを先ず考える。その上で関連する英文資料を読みながら具体的事例を通して，企業がグローバルに事業展開する上で直面する課題とは何かを学び，その解決策を検討してゆく。CSRとアライアンス分野の活動を例に，当該分野におけるグローバル企業のビジネス戦略について考えていきたい。

〔教材〕

参考書：Kash Rangan他, *Why Every Company Needs a CSR Strategy and How to Build It*, Harvard Business School, 2012
江夏健一/桑名義晴『理論とケースで学ぶ国際ビジネス』三訂版，同文館，2012年

教科書は使用しない。授業では適宜プリントを配布する。参考書"Why Every Company Needs a CSR Strategy and How to Build It"はインターネット上で公開されている。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布するテキストを予習すること。テキストに関わる内容についての講義後に，それに基づくディスカッションを毎回行いますので事前準備が必要です。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(20%)，ディスカッションへの貢献(30%)，期末試験(50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受付けます。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡をとること。

〔備考〕

この演習では，国際ビジネスに関わる事例を取上げ，そこに内在する問題点に関して，「自分ならどうするか？」と常に考えてもらいます。国際ビジネスに関心ある学生に適します。

〔授　業　計　画〕

第１週　【学期の予定の説明】・・・　講義の全体像を紹介する。
第２週　【CSRの基本概念】・・CSRがどう経営と関わり，日米欧での考え方の違いは何かを解説し，企業がグローバルにビジネス展開する上で求められる社会的責任について考察する。
第３週　【コーポレート-ガバナンス(企業統治)】・・企業統治の観点から行うCSRへの取り組み例を挙げて解説し，その必要性や意義について考察する。
第４週　【サスティナブル社会の実現】・・環境問題に取り組むGE等主要企業例を紹介し，環境負荷削減に向けた企業活動のあり方について考察する。
第５週　【財団の活動】・・財団による社会貢献を行う企業活動例を紹介し，その意義を考察する。
第６週　【Fellowship Program】・・日立と米外交問題評議会(CFR)のFellowship Programで在日の米国人Fellowをゲスト招待し，企業のCSR活動について学生との意見交換を行う。
第７週　【CSRからCSVへ】・・CSRを更に進化させた概念として新たに注目されているCSV(共通価値の創造)について学習し，CSRとの本質的な違いを理解する。
第８週　【アライアンス戦略とは？】・・様々な方法で行われる企業同士の提携について解説し，何故，企業がアライアンスを行う必要があるのかを考察する。
第９週　【Partnershipの８原則】・・デロイト社のアライアンス調査結果について学習する。
第10週　【共同開発契約】・・公開されている共同開発契約書(雛形)を読みつつ，実際にどのような取決めがなされているのか理解し，英文契約書特有の表現も学習する。
第11週　【新規分野進出の為の合弁事業】・・市場参入の近道である合弁事業について，具体例からその実態を垣間見て，そこに内在する問題点などを考察する。
第12週　【Did Honeywell Create a Competitor？】・・ハネウェル社と山武ハネウェルの提携関係は1960年代に始まり順調に推移するも90年代に解消した。当該ケースを学習する。
第13週　【Alliance among Air France/KLM, Delta & Alitalia】・・航空業界アライアンス"Sky Team"の礎になった企業間提携に関わる経緯を概観し，その戦略の有用性を探る。
第14週　【戦略的アライアンスの成功要因】・・アライアンスを競争優位の戦略，成長戦略として成功させるには何が必要なのか，成功と失敗を分ける要因は何かについて考察する。
第15週　【総括】
第６週に招待予定の米人Fellowの都合次第で授業スケジュールに変更が出る場合もあります。

外国語演習IIH

3628000200800

副　題	アジア女性の晩婚化と避婚化							担　当　者	佐久間　潮　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-323-IW

〔授業の到達目標〕

少子高齢化が進む日本において，社会における女性の果たす役割はどのようなものであることが望ましいか，自ら考えられるようになること。

〔授業の内容〕

英語経済雑誌の記事などを読み，アジアで起きている女性の晩婚化，避婚化問題を考え，それを基に日本の少子高齢化社会における女性の役割を考える。

〔教材〕

授業の中で適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各 2 時間

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（30%）とテスト（70%）で総合評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日 3 時限
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第 1 週　授業で配布する資料を輪読し，解説し，考える。
第 2 週　〃
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

外国語演習II I

3628000200900

副　題	国際情勢							担　当　者	藤原　朝子　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ENG-324-IW

〔授業の到達目標〕

（1）　時事的な英語表現の習得
（2）　英語・日本語の資料を読み，英語で簡潔にまとめる能力の習得
（2）　ストーリー性のあるプレゼンテーションをする能力の習得

〔授業の内容〕

本講義では，国際情勢に関するニュース（英語）を読みながら，キータームを学び，それを活用する方法を学びます。

具体的には，１週目に短い英文を読んでキータムを確認した上で，与えられたイシューについてグループで資料を検討し，２週目に英語でプレゼンテーションを行います。

本年度はとりわけ，アメリカ大統領選と時期が重なるので，前半は同選挙にまつわる話題，後半は世界の主要地域のニュースを取り上げる予定です。

〔教材〕

時事ニュース。授業内で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

プレゼンテーションのための英文原稿は，発表前日までに教員にメールで提出して，添削を受けます。

〔成績評価の方法〕

期末試験は行いません。
隔週の課題（40%）。プレゼンテーション（40%）。グループワークへの貢献（20%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。また授業中に教員のメールアドレスを知らせるので，その他の質問や，プレゼンテーション原稿の提出・添削は，メールにより行います。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　アメリカ大統領選「民主党と共和党」（１）
第３週　アメリカ大統領選「民主党と共和党」（２）
第４週　アメリカ大統領選「アイオワ州とフロリダ州」（１）
第５週　アメリカ大統領選「アイオワ州とフロリダ州」（２）
第６週　アメリカ大統領選「結果」
第７週　中南米「リオ五輪とブラジルの悩み」（１）
第８週　中南米「リオ五輪とブラジルの悩み」（２）
第９週　ヨーロッパ「試練に立たされる理念」（１）
第10週　ヨーロッパ「試練に立たされる理念」（２）
第11週　中東「サウジアラビアと石油」（１）
第12週　中東「サウジアラビアと石油」（２）
第13週　アジア「中国と共産主義」（１）
第14週　アジア「中国と共産主義」（２）
第15週　まとめ
＊上記のトピックは例として示したものです。最新のニュースにより内容は変更されます。

外国語演習II J

3628000201000

副　題	International Relations of East Asia							担　当　者	羅　京洙　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-325-IW

〔授業の到達目標〕

東アジア国際関係に関する諸問題を外国語（主に英語及び韓国語）で論じるための語学力を身につけることを目指す。

〔授業の内容〕

異文化への理解を深めるため，言語能力の習得は欠かせないことである。とりわけ英語力は，言うまでもなく，最も必要とされる国際コミュニケーションの手段である。東アジア国際関係の諸問題，例えば地域統合や安全保障，朝鮮半島問題（北朝鮮を含む），日韓関係，歴史認識問題，人の移動，文化交流などに関する英語・韓国語の資料（新聞・雑誌・論文・図書・映像など）を豊富に使用し，英語・韓国語文化圏の人々（研究者）は，東アジアという地域をいかに認識・表現しているのかを一緒に考える。また，本演習では，関連文献の講読を中心としつつも，語学学習における読む・書く・聞く・話すという四機能をバランスよく演習していく。

〔教材〕

特定の教科書は用いないが，毎回の指定文献や資料などを演習中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

受講生は，毎回の指定文献や参考資料を必読の上，演習に参加すること。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

演習への参加態度・貢献度（30%），課題（30%），期末試験（40%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

演習の内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　講義：東アジア国際関係論に関する英語表現（１）
第３週　講義：東アジア国際関係論に関する韓国語表現（２）
第４週　リーディング（読解）演習（１）
第５週　リーディング（読解）演習（２）
第６週　リーディング（読解）演習（３）
第７週　リスニング（聴解）演習（１）
第８週　リスニング（聴解）演習（２）
第９週　リスニング（聴解）演習（３）
第10週　プレゼンテーション演習（１）
第11週　プレゼンテーション演習（２）
第12週　プレゼンテーション演習（３）
第13週　ライティング（作文）演習（１）
第14週　ライティング（作文）演習（２）
第15週　総合討論・総括

外国語演習IIK

3628000201100

副　題	金融・経済基礎							担　当　者	中島　洋子　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ENG-326-IW

〔授業の到達目標〕

時事問題を取り上げ，金融，経済をより身近なものとして感じられるように理解を深め，同時に英語の表現力を高めること。また特に女性社会進出に焦点を当てたい（春学期の授業内容とは重複しない。）。

〔授業の内容〕

Nikkei Asian Review, Economist等の英字新聞や英文経済誌の時事問題を読み，金融・経済の基礎を学ぶ。

以下の授業計画に示す内容は目安であり，タイムリーな金融経済事象を採り上げるので，その時々でテーマは異なる。

〔教材〕

Nikkei Asian Review, Economist誌等。

※テキストは，授業時に配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布するテキストの予習は必要。

〔成績評価の方法〕

出席状況，授業態度，試験などを総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　世界経済の現状
第２週　日本経済の現状ーアベノミクスの課題
第３週　日本の金融政策の概要
第４週　日本銀行の役割
第５週　金利と物価
第６週　日本国債と政府債務残高
第７週　消費税
第８週　為替相場動向
第９週　高齢化社会と女性の社会進出
第10週　ワークライフバランス
第11週　女性が働くための環境作り
第12週　世界における女性の活躍
第13週　日本の成長戦略とは
第14週　世界経済の展望
第15週　まとめ

外国語演習ⅡL

3628000201200

副　題	World Cultural and Natural Heritage							担　当　者	M．ウーゴ　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	MSE-327-IW

〔授業の到達目標〕

To learn about World Heritage in English.

〔授業の内容〕

本演習では，世界遺産に関する資料を英語で読み，その理解を深めることを目的とする。演習生は興味のある世界遺産について調べ，調べた内容を英語で紹介し，全員でコメントするかたちで演習を進めることにする。日本の世界遺産のみならず，海外の世界遺産の魅力を理解すると同時に，その特徴を英語で紹介することによって，世界文化遺産や自然遺産，さらに文化財一般にまつわる専門用語に慣れ親しみ，身につけることが目標である。

〔教材〕

参考書：Unesco World Heritage Centre (ed.), *World Heritage*, Pressgroup Holding Europe SA, Valencia(Spain), 1996年～

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

出席と授業への参加の姿勢（積極性）［10%］，レポートや試験［50%］，発表［40%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水・５限

OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　cultural properties
第３週　world heritage
第４週　発表・討論
第５週　〃
第６週　world heritage: success stories 1
第７週　world heritage: success stories 2
第８週　world heritage: challenges and issues
第９週　発表・討論
第10週　〃
第11週　world heritage: international cooperation 1
第12週　world heritage: international cooperation 2
第13週　world heritage: international cooperation 3
第14週　発表・討論
第15週　まとめ

外国語演習IIM

3628000201300

副　題	英語で読む国際法							担　当　者	櫻井　大三　教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	LAW-328-IW

〔授業の到達目標〕
国際法の基本的な事柄について書かれた英語文献の意味内容を把握し，正確な日本語訳を作成することができるようになること。

〔授業の内容〕
春学期に引き続き，下記の定評ある入門書を用いて，国際法の基本的な事柄を英語文献の解析を通じて学習することとしたい。演習の目的・進め方，使用教材の性格等については，春学期のシラバスを参照されたい。
近い将来諸君は，学部レベルでこの種の文献を読み込んできた人たちとさまざまな分野で交流し，競い合うこととなるであろう。欧米の知的エリートたちと対等に渡り合うための第一歩として，いわば「世界共通語」でもある国際法の英語原典に親しんで頂くことには，それなりの意義があると思われる。
秋学期は，春学期に培った英文読解の技法にさらに磨きをかけつつ，テキストの内容把握（国際法上の議論）にいっそうこだわってみたいと思う。

〔教材〕
教科書：Buergenthal, Th. & Murphy, S. D., *Public International Law in a Nutshell*, 5th Edition, Thomson/West, 2013
上記テキストの中から，国際人権法，国際人道法，海洋法，国際環境法，国際機構論，国際安全保障論のいずれか一つの分野を取り上げる予定（春学期に扱った内容とは異なる）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習では，事前に英文マテリアルの該当箇所を音読し，不知の語句の意味を辞書で調べ，和訳を作成してくること。復習では，教師が説明した文法や構文，英文の意味内容を踏まえて，正確な和訳を辞書なしで作成できるようにすること。

〔成績評価の方法〕
（１）毎回の出席，予習ノートの提出，授業中に指示された箇所の訳読および板書訳，質疑応答（以上を平常点として50％程度）
（２）期末試験（50％程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
毎週月曜日の放課後，もしくは，毎週金曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
電子メールによる（メールアドレスは，学科事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
テキストの内容理解を十分に深めるために，担当者による「国際法I・II」を履修済みであるか，並行して履修されることを強く推奨する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　受講の心得の確認
第３週　テキストの訳読　（１）
第４週　テキストの訳読　（２）
第５週　テキストの訳読　（３）
第６週　テキストの訳読　（４）
第７週　テキストの訳読　（５）
第８週　テキストの訳読　（６）
第９週　テキストの訳読　（７）
第10週　テキストの訳読　（８）
第11週　テキストの訳読　（９）
第12週　テキストの訳読　（10）
第13週　テキストの訳読　（11）
第14週　テキストの訳読　（12）
第15週　総括

外国語演習IIN

3628000201400

副　題	外国語で読む現代日本							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	HIS-329-IW

〔授業の到達目標〕
日本に関する，英語もしくは中国語の記事等の文章を理解できるようにする。外国語で日本について説明できるような語彙力を身に着ける（英語か中国語かは参加者が選択する）。

〔授業の内容〕
海外に出て，自分の「日本」に対する無知に気づかされた経験を持つひとは少なくないだろう。「国際コミュニケーション」において，自らの国について知ることは必須である。
本演習では，参加者が自己の語学能力に応じて，英語もしくは中国語を選択し，担当教員が指定する文章を翻訳して内容を報告し，みなでディスカッションする。こうした作業を通して，外国語を通して現代日本について改めて考え，同時に，外国人記者や研究者らが「日本」をどのようにみているかについても，考えてみたい。

〔教材〕
授業時に文献のコピーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前に指定された記事を翻訳し，内容を理解したうえで授業に参加すること。ディスカッションでは，各自の意見を求められることもあるので，自分の考えをまとめておくこと。

〔成績評価の方法〕
授業参加を重視する。成績は，授業参加（発言・報告等50%），期末試験（50%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜３限
授業後に直接連絡，もしくはメール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）。

〔備考〕
参加者の人数により，授業計画を若干変更する可能性がある。また中国語圏の留学生は，必ず英語を選択すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　導入
第２週　文献講読とディスカッション
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　まとめ，予備日
第15週　〃

外国語演習IIO

3628000201500

副　題	英語で学ぶ日本の農村・環境問題							担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-330-IW

〔授業の到達目標〕

英語のみの授業により，総合的かつ複層的な内容（この授業の場合，我が国の農村・環境問題）を理解できる。

〔授業の内容〕

本演習では，TPPなどで最も政治的にセンシティブな事項となっている我が国の農村問題について，その歴史的意味合いや，農産物貿易問題との関係性，農業政策の影響など総合的かつ複層的な視点で議論する。授業は英語のみで行われ，受講生に対する講義中の質問などを通して，受講生も英語のみで対応する。

〔教材〕

毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の資料の翻訳に毎週４時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

授業中の発言（25%），中間試験（25%），期末試験またはレポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日昼休み

mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　農村とは？
第３週　我が国の農業農村を巡る状況
第４週　同上
第５週　農業農村が環境に与える影響
第６週　同上
第７週　〃
第８週　農業環境問題を議論するための経済学の基礎
第９週　同上
第10週　〃
第11週　農業農村と環境を調和させるための政策
第12週　同上
第13週　〃
第14週　総括
第15週　〃

国際コミュニケーション演習IA・IIIA

3621010100100

副　題	文化財の保護と活用							担　当　者	M．ウーゴ　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	MSE-301-IY MSE-449-IY

〔授業の到達目標〕
社会における自然遺産や文化遺産の役割を考え，調べる力，文章作成の力を磨く。

〔授業の内容〕
「文化財」や「遺産」という用語が指す内容は常に変化している。例えば，文化財に指定される対象は，宗教建築から民家へ，単独の記念物から景観へ，高尚な芸術から民俗芸能へと広がっていった。すなわち，時代，地域，文化的背景の違いによって，文化財を取り巻く価値観も，「文化財」や「遺産」に関する国際協力のあり方も多様に存在する。本演習では，文化財に関する国内外のさまざまな事例を通じて，世界の現状を知るとともに国際協力に関する理解を深めることを目的とする。演習では次の四段階の調査が求められる。
1）日本における文化財制度調査。文化庁，地方自治体，専門的組織の役割と成果。
2）世界遺産の役割。ユネスコ,国際専門機関を対象に国際協力に関する実践の評価と分析。
3）日本国内と国際機関の比較。特に，文化遺産・自然遺産・無形遺産の区分と選択過程，推薦と保護活動，国際協力企画の具体的な事例。
4）文化の多様性と「遺産」保護政策の関連を考える。最終的には「遺産」を通じて国際社会の可能性と問題点について展望する。
各自の研究テーマについて定期的にプレゼンテーションを行う。

〔教材〕
参考書：三輪嘉六（編）『文化財学の構想』勉誠出版，2003年
後藤治、オフィスビル総合研究所「歴史的建造物保存の財源確保に関する提言」プロジェクト『都市の記憶を失う前に』白揚社，2008年
演習中に指示する。英語文献も含む。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
出席と授業への参加の姿勢（積極性）［10%］，レポート［40%］や発表［50%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水・５限
OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
この授業を選択する学生は，日本語の文献はもちろんのこと，英語文献も活用すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本の文化財制度１
第３週　日本の文化財制度２
第４週　日本の文化財制度３
第５週　まとめ
第６週　社会における文化財の役割１
第７週　社会における文化財の役割２
第８週　文化財と世界遺産１
第９週　文化財と世界遺産２
第10週　まとめ
第11週　国内外の比較１
第12週　国内外の比較２
第13週　国内外の比較３
第14週　国内外の比較４
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IIIB

3621020100200

副　題	Intercultural Communication I							担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	2	配当年次	4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-450-IY

〔授業の到達目標〕

This course is intended to help students become competent in communication with others of diverse cultural backgrounds by helping them expand their range of verbal and nonverbal communication skills, become able to communicate effectively in unfamiliar settings, recognize the influence their own culture has had on the way in which they view themselves, and expand their knowledge of the ways of other cultures.

〔授業の内容〕

Spending one to two weeks for each chapter, we will cover the first half of the text this semester. Each week students will form groups to present the content of the textbook to the class, and all students will also be given a handout of study guide questions on the chapter to prepare for discussion in class. Other supplementary readings will be suggested to give students a wider understanding of each topic, and topics for research papers will also be suggested. The course will be conducted entirely in English: readings, discussion, reports, presentations will all be done in English. Students will thus be continuously developing their English skills at the same time they are expanding their understanding of and skills in intercultural communication.

〔教材〕

教科書：Fred E. Jandt, *An Introduction to Intercultural Communication: Identities in a Global Community*, 6th Edition, Sage Publications, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week to study the textbook and study guide questions, and another 2 hours to prepare for their presentation of the textbook when it is their turn.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and term reports (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 13：00～14：30.
See the schedule outside my office door for other options by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　The dispute over defining culture
第 3 週　〃
第 4 週　Defining communication as an element of culture
第 5 週　〃
第 6 週　Culture's influence on perception
第 7 週　〃
第 8 週　Barriers to intercultural communication
第 9 週　〃
第10週　Nonverbal communication
第11週　〃
第12週　Language as a barrier
第13週　〃
第14週　Oral presentations of term reports
第15週　〃

国際コミュニケーション演習IC・IIIC

3621010100300

副　題	経営学							担　当　者	金城　亜紀　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	MAN-303-IY MAN-451-IY

〔授業の到達目標〕

経営学で関心のあるテーマを教員の指導のもとに研究し，主体的にゼミの運営に貢献することにより，将来どの分野で活躍するためにも不可欠な，（1）課題設定力，（2）リサーチ力，（3）発信力を体得します。成果物としてプレ卒論（約2万字）を書き上げる基礎力を身につけます。こうして，チームワークとガッツをもって卒業後のキャリアを形成できる実力を涵養します。

〔授業の内容〕

4～6月は米ビジネススクールの教材を用いて経営学の大局観を養いながら，論文の執筆方法，資料検索スキル等を学びます。その後，プレ卒論のテーマを決めて，原則として二人一組で執筆を開始し，夏合宿には概ね6合目まで完成することを目指します。

〔教材〕

教科書は使用せず，適宜プリント等を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1週間当たり概ね10時間程度の準備学習が必要になると思われます（プレ卒論の執筆時間を含める）。

〔成績評価の方法〕

演習への貢献（発表，議論への参加等）：70%
夏合宿におけるプレ卒論の到達状況：30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日：13：30～14：30 (4222研究室)

〔授　業　計　画〕

第1週　Kick-off
第2週　経営学の基本理論（1）
第3週　経営学の基本理論（2）
第4週　経営学の基本理論（3）
第5週　経営学の基本理論（4）
第6週　経営学の基本理論（5）
第7週　経営学の基本理論（6）
第8週　論文執筆指導（1）
第9週　論文執筆指導（2）
第10週　資料検索指導（3）
第11週　資料検索指導（4）
第12週　プレ卒論骨子発表（1）
第13週　プレ卒論骨子発表（2）
第14週　プレ卒論骨子発表（3）
第15週　合宿への準備と課題設定
より良い内容にするために本計画を変更することがあります。

国際コミュニケーション演習ID・IIID

3621010100400

副　題	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究	担　当　者	中島　崇文　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ARE-304-IY ARE-452-IY

〔授業の到達目標〕

中・東欧を中心とするヨーロッパの歴史や文化に関する幅広い専門的な知識を身につけると共に，各自が関心を持つテーマの研究を段階を追って進める。

〔授業の内容〕

授業は卒業論文に関わる発表と学術論文の講読を織り交ぜたものとなる。春学期には３年生による卒業論文の構想発表が行われる。個々の発表の後は出席者全員が発表内容に関して一言ずつコメントする。履修生は担当教員のみならず，他の履修生の助言も考慮に入れて各自の研究を進めることになる。残りの時間には，各自が自分の研究にとって最も重要と思われる学術論文を１本ずつ選んで，授業の中で発表する。

〔教材〕

取り上げる学術論文については，各自が教員と事前に打ち合わせて決めることとする。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講読する学術論文は事前に熟読し，授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

受講態度（約30%），授業中に行う発表や指定された課題に取り組む姿勢（約70%）等によって総合的に評価する。演習の授業は大学の諸連絡の場でもあるので，就職活動と重ならない限り，毎週出席すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，４号館２階の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスはゼミのガイダンス等で既にお知らせしている通りである）。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業概要の説明，自己紹介
第２週　卒業論文の執筆について，学術論文講読
第３週　卒業論文構想発表（３年生１名），学術論文講読
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括

国際コミュニケーション演習IE・IIIE

3621010100500

副　題	情報戦略なき国家							担　当　者	畠山　圭一　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	POL-305-IY POL-453-IY

〔授業の到達目標〕
国際関係，国際政治，国際コミュニケーションおよび異文化理解に関する広い視野と深い洞察力を養う。

〔授業の内容〕
「高度情報化時代の国際戦略」をメイン・テーマに外交戦略の課題を考察する。高度情報化時代の今日，私たちはさまざまなデーターを瞬時にして獲得できるようになったが，データーが多ければ多いほど，情報処理・分析は，困難になる。また入手データーが質の高い情報を提供するとは限らない。すなわち,高度情報化に伴うデーター量の増大は,かえってコミュニケーションや相互理解を妨げかねず，情報の質を低下させる危険性の方が大きいのである。かかる時代，国際コミュニケーションに最も必要な課題は，今まで以上に相手のもつ固有の歴史，文化，伝統や政治・経済・社会に関する思想・制度を深く理解し，「相手の偏見や誤解を解消し，自らの意思を適切に相手に受容させる」発信能力と「状況を正しく把握し，相手の意思を深く洞察する」受信能力の向上を図ることである。そこで，本演習では「IT革命」の国際情報戦略上の影響を探り，更に諸国，諸民族の歴史，文化，伝統を比較し，国際文化交流の担い手に必要な，国際コミュニケーションおよび異文化理解に関する広い視野と深い洞察力を養う。

〔教材〕
追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前にテキストの該当箇所を読み，自らの課題を用意して臨むこと。思考力，分析力の養成が主眼であるため，事前，事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習，復習には十分な時間(標準は各２時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕
出席状況（２割），演習参加の積極性，報告内容，リポート等（あわせて８割）によって総合的に判断し，60点以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火４限又は随時。連絡方法は初回授業で指示する。

〔備考〕
学外講師（研究者，官僚，国際機関幹部，ジャーナリスト等）による特別講義や学外の各種セミナーへの出席等の企画も考えている。また春合宿，夏合宿も予定している。国際政治，外交に関する強い目的意識と関心をもって望んでほしい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　導入講義
第３週　テキスト輪読と討論
第４週　報告と討論
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括

国際コミュニケーション演習III F

3621020100600

副　題	Discussing Japan							担　当　者	J．F．モア　教授
単位	2	配当年次	4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ECM-454-IY

〔授業の到達目標〕

This is the spring term of a 2-year seminar concerned with the presenting of information about Japan in English. The purpose of the course is to read English-language material related to Japan, and to write about and discuss Japan-related topics in English.

〔授業の内容〕

Fourth-year students will pursue their research for the graduation thesis in addition to reading the assigned texts and participating in discussion. A ten-page progress report is to be submitted in May.

〔教材〕

教科書：Tessa Morris-Suzuki, *Re-inventing Japan*, M. E. Sharpe, 1998

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of readings and comments for each week's discussion.

〔成績評価の方法〕

Attendance and participation in class, 30%；written assignments, 40%； individual research progress 30%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Getting acquainted
第 2 週　Reading and Discussion
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション演習IG・IIIG

3621010100700

副　題	地球環境問題と国際コミュニケーション							担　当　者	荘林　幹太郎　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ENV-307-IY ENV-455-IY

〔授業の到達目標〕

地球環境問題の複雑性，相互連関性ならびに同問題に対する対策を検討する場合の総合的な視野の必要性についての理解を深めるるとともにその過程を通じて，異分野間，異文化間のコミュニケーションの重要性を把握する。

〔授業の内容〕

本演習I, IIIにおいては,いくつかの地球環境問題について掘り下げた議論を行うこととする。基礎的な文献輪読，（場合によっては）東京近傍における現地調査，実際に問題解決に当たっている当事者からのヒアリング，クラスでのグループディスカッショ等の多様な方法により議論を深めていくこととしたい。

本年は，環境政策についての国際的な制度比較を行うことにより，社会，経済，文化，自然がそれぞれの環境政策にどのような影響を与えているかを議論するとともに，政策の相互理解の取組みを分析することを想定している。

〔教材〕

教科書：追って指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回４時間程度の負荷で，次回で使用する資料のレジュメ作成あるいは小レポートを課す。

〔成績評価の方法〕

授業中の議論（20%），小レポート（２～３回：30%），期末レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日５時間目
mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

国際コミュニケーション演習Gの受講を将来希望する学生は，基礎演習G，地球環境論I,IIのセット,環境科学I，環境経済学，国際関係基礎論Ⅱのいずれかを受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　地球温暖化防止政策：日本
第３週　地球温暖化防止政策：EU
第４週　地球温暖化防止政策：米国
第５週　水政策：日本
第６週　水政策：EU
第７週　水政策：米国
第８週　水政策：豪州
第９週　バイオマス政策：日本
第10週　バイオマス政策：EU
第11週　バイオマス政策：米国
第12週　景観・生物多様性保全政策：日本
第13週　景観・生物多様性保全政策：EU
第14週　景観・生物多様性保全政策：米国
第15週　総合討論

国際コミュニケーション演習IH・IIIH

3621010100800

副　題	現代欧米社会の人種・民族							担　当　者	武井　彩佳　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-308-IY HIS-456-IY

〔授業の到達目標〕

現代の欧米社会で民族的・人種的マイノリティと多数派社会の間に存在する様々な問題の原因について知り，これからの展望について考える。

〔授業の内容〕

現代欧米社会におけるマジョリティ／マイノリティ関係を，人種・民族・移民・難民・階級等をキーワードにして考える。現出している様々な問題が，いかなる歴史背景から生まれたものであるか理解する。3年生は指定されたテキストの個所をレジュメにまとめ発表し，4年生は卒業論文の構想を学期内に最低1度は報告する。

〔教材〕

テキストは配布するか，初回の授業で教科書を一斉購入する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度60%，報告40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜の4時限後30分。
メール等。

〔授　業　計　画〕

第1週　導入：自己紹介，報告者の決定など
第2週　文献講読
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　課外授業
第9週　文献講読＋4年生卒論構想発表
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　予備日

国際コミュニケーション演習II・III I

3621010100900

副　題	日本の歴史社会学							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	HIS-309-IY HIS-457-IY

〔授業の到達目標〕

近現代日本の社会変動を，東アジア全体の動きも視野に入れながら考察し，現在の日本社会の歴史的土壌を理解する。

〔授業の内容〕

演習では，日本および東アジアに関連した歴史社会学的研究を講読する。参加者は，各自が担当する文献の内容について発表し，皆でディスカッションする。学生は報告に加えて司会も担当する。最終的には，各自が構想した研究計画を発表する。

リーディングアサインメントについては，事前にガイダンスをおこない指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参加者は事前に指定される文献を熟読し，報告者はアウトラインを作成する必要がある。他に進行役の学生も，事前に文献を読み，適切な問題提起等を準備しておく必要がある。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は，報告内容（40%），授業参加（発言・報告等　40%），レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜 3 限

授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）

〔備考〕

参加者の数や関心事によって授業計画が若干変更される可能性がある。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　自己紹介・オリエンテーション
第 2 週　文献講読・発表・ディスカッション
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　研究計画発表
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IK・IIIK

3621010101100

副　題	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究							担　当　者	羅　京洙　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ARE-311-IY ARE-459-IY

〔授業の到達目標〕
東アジアの地域統合に関する議論が盛んに行われている現在，南北コリアがいかにして「地域の一員」として関わっていくのか，大きな関心が寄せられている。本演習は，東アジアの中の朝鮮半島を，「地域性」という新しい観点から捉えなおすことを目標とする。

〔授業の内容〕
東アジア地域研究にまつわる理論・ディシプリンの紹介や，朝鮮半島をとりまく様々な問題群を検討の対象とし，東アジアの中の朝鮮半島を総合的に理解する。さらに本演習では，朝鮮半島を含む東アジアの国・地域に内在する類似性と相違性を，比較の観点から複眼的かつ客観的にとらえる高度な能力を身につける。とりわけ，担当教員の専門分野である東アジアにおける人々（特にコリアン）と文化のトランスナショナルな移動現象について一緒に学ぶ。グローバリゼーションが進む中，東アジアでは，人々の国境を越えるトランスナショナルな移動と交流が活発に行われている。その人々の移動の際には，文化の移動も伴われ，互いの持つ文化への理解が強く求められている。

〔教材〕
特定の教科書は用いないが，指定文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
指定文献や参考資料をあらかじめ読んだ上で，毎回の演習に臨むこと。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕
演習への参加態度・貢献度（30%），研究報告（30%），課題・レポート（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
演習の内容について質問などがある場合は，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔備考〕
本演習は，受講生の積極的な研究発表と討論を両軸に進める。主な活動として，（１）関連文献の輪読とディスカッション，（２）学生によるプレゼンテーション，（３）レポートや卒論の執筆活動などを行う。また，第一線の東アジア・朝鮮半島専門家との交流や，（学生主体・自由参加の形で）フィールドワークの機会を設けることも計画している。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　文献講読と討論（１）
第３週　文献講読と討論（２）
第４週　文献講読と討論（３）
第５週　文献講読と討論（４）
第６週　プレゼンテーションと討論（１）
第７週　プレゼンテーションと討論（２）
第８週　プレゼンテーションと討論（３）
第９週　プレゼンテーションと討論（４）
第10週　プレゼンテーションと討論（５）
第11週　プレゼンテーションと討論（６）
第12週　プレゼンテーションと討論（７）
第13週　プレゼンテーションと討論（８）
第14週　プレゼンテーションと討論（９）
第15週　総合討論・総括

国際コミュニケーション演習IL・IIIL

3621010101200

副　題	ヨーロッパ文化の諸問題							担　当　者	根占　献一　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	PHL-312-IY PHL-460-IY

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパにおける思想・文化の背景にキリスト教や古代のギリシャ・ローマ文明が深くかかわっていることを知る

〔授業の内容〕

ルネサンスを軸にヨーロッパ的教養の諸相を考え，私たちとの関係も考える場にしたい。

この演習を希望する者の意見や関心を聞いたうえで使用テクストなどを決め，受講生には適宜，関心テーマ，修論に向けた発表報告を期待したい。

〔教材〕

読んでいくテクストは外国語（英語）文献の場合もありうる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各 2 時間以上

〔成績評価の方法〕

演習参加への熱意（40%）とレポート（60%）で判断

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問などがある場合には，月曜日12時45分から13時半の間に研究室を訪ねること。ただし，前もって学科事務室に希望の日にちに関して連絡をとっておくほうが望ましい。

〔備考〕

適宜，受講生にも関心テーマの発表を行なってもらう形式を取り入れる。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ヨーロッパ文化の諸相―古典古代とルネサンス・近代の関係
第 2 週　以下，先の各週と関わるテキストの精読
第 3 週　同上
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括

国際コミュニケーション演習IM・IIIM

3621010101300

副　題	国際法と国内法の基本問題	担　当　者	櫻井　大三　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	LAW-313-IY LAW-461-IY

〔授業の到達目標〕

国際社会または国内社会において現実に生じている問題を国際法･国内法の観点から検討し，卒業論文の作成に必要な調査，分析，報告を行うこと。他の受講生との議論を通じて，研究の知見や作法を共有すること。

〔授業の内容〕

本演習は，現代社会において生起するさまざまな問題を国際法および国内法双方の観点から読み解くことを第一の目的としている。分かりやすく言うと，諸君が国際法や国内法の諸問題に幅広く接する中で，素朴に感じた疑問を出発点とし（自ら問いを立てる），その疑問を自ら解き明かすために調査を行い（自ら問いの検証・論証にあたる），その調査結果を一定の形にまとめる（問いに対する結論を導く）のが，本演習の目的である。

受講生は，国際法や国内法に関する文献（外国語を含む）・資料（法律や条約の条文，国連など国際機構の決議，ICJなどの司法機関が下す判決等）を幅広く読み込むだけでなく，日々，新聞の社会面･国際面に目を通し，世の中の動きを把握することが求められる。したがって，『六法』や『条約集』といった法令集が必携となるし，法律の用語辞典も不可欠である。また，新聞をとっていない者は，図書館等で毎日閲覧することが求められる。法律の勉強というのは，基本的には文献考証（文献解析というべきか）のスタイルをとるから，本演習での勉強を通じて，諸君は膨大な分量の文書・文章に接することとなるであろう。その中から，自身が抱いた疑問に対する答えを自ら発掘し，それを卒業論文という形で文章化（作品化）することが，本演習の最終目標となる。

〔教材〕

参考書：佐藤望［他］『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年
鹿島茂『勝つための論文の書き方』（文春新書）文藝春秋，2003年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

１．予習120分：プレレジュメ記載の複数の参考文献に当たりながら，疑問点を質問できるように準備しておくこと（報告者は，別途指示された要領により報告原稿，レジュメを準備すること）。

２．復習120分：報告者は，討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて，報告原稿を加筆修正すること。当該報告原稿が卒論の柱を構成するものとなるよう推敲を重ねること。

〔成績評価の方法〕

以下の諸点を総合的に評価する。
（１）演習への参加態度（毎回の出席，所定の報告，討論への参加，課外活動への参加等）
（２）レポート等の提出物（提出の有無，期日の遵守，内容の実質的な完成度等）
（３）その他，ゼミの募集要項に記した条件を満たし且つ遵守していること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

毎週月曜日の放課後，もしくは，毎週金曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
電子メールによる（メールアドレスは，学科事務室にて確認されたい）。

〔備考〕

本演習への参加の前提として，受講生には以下の諸点が求められる。
（１）『アカデミック・スキルズ』を読了し且つその内容を十分理解していること。
（２）ゼミ開講時までに，別に指示する課題図書を読了していること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　使用教材の概要説明，演習の受け方・心得等
第３週　受講生による個別報告（１）
第４週　受講生による個別報告（２）
第５週　受講生による個別報告（３）
第６週　受講生による個別報告（４）
第７週　受講生による個別報告（５）
第８週　受講生による個別報告（６）
第９週　受講生による個別報告（７）
第10週　受講生による個別報告（８）
第11週　受講生による個別報告（９）
第12週　受講生による個別報告（10）
第13週　受講生による個別報告（11）
第14週　受講生による個別報告（12）
第15週　受講生による個別報告（13）

国際コミュニケーション演習IN・IIIN

3621010101400

副　題	比較生活文化研究							担　当　者	乾　尚彦　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ANT-314-IY ANT-462-IY

〔授業の到達目標〕

人間が地球に住むためにつくりだした具体的な環境，文化を対象にする。これらを比較することで，その特質や異文化に対する理解を深めるのが目的である。

〔授業の内容〕

まず，世界各地の都市，建築，生活文化を比較研究することを主題にした研究論文を読んでいく。毎回，発表者は，自分の関心に応じた論文を検索し，更にその内容に関連した文献をさがし，文化や対象地域についての基礎的な事項を整理しながら，論文の構成や研究手法，結論について報告する。全員で，その内容について，検討，討論をおこなう。これらを通して，比較文化研究に必要な基礎的な事項，基礎文献，資料探索法について習熟を深めるとともに，研究論文とはどうあるべきか，どのような要素を必要とするかについて把握していく。次に，フィールドワークの実例を通して，その技術や方法論について学んでいく。

また，毎回，世界各地の建築，世界遺産を数例とりあげ，建築についての認識を深めていく。

〔教材〕

演習中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

建築ガイドシートの作成または報告内容のレジュメ作成。

〔成績評価の方法〕

レポート，出席，発表の内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　建築文化の資料探索法
第２週　建築文化に関する研究論文１
第３週　建築文化に関する研究論文２
第４週　建築文化に関する研究論文３
第５週　建築文化に関する研究論文４
第６週　フィールドワーク論　今和次郎の悉皆調査
第７週　フィールドワーク論　路上観察学会の視力・妹尾河童の表現力
第８週　フィールドワーク論　参与観察とは
第９週　フィールドワーク論　民家の見方調べ方・デザインサーヴェイの方法
第10週　フィールドワーク論　映像人類学の方法
第11週　フィールドワーク論　旅行記か論文か
第12週　フィールドワーク論　分類とは何か
第13週　フィールドワーク論　文化の記述方法
第14週　まとめ１
第15週　まとめ２

国際コミュニケーション演習IO・IIIO

3621010101500

副　題	English and Its Culture I							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ENG-315-IY ENG-463-IY

〔授業の到達目標〕

３年次（演習I）では２年次までに培った英語力をさらに伸ばしつつシェイクスピアをとおして演劇文化および英国文化の理解を深める。また特に英語史関連の文献講読をとおして，４年次における卒論作成へのステップとする。４年次は前半期において，参考文献の入手，データ分析など本格的な卒論作成にむけての準備を行う。

〔授業の内容〕

英語という言語は，16－７世紀〈シェイクスピアの時代〉までは，たかだかブリテン島というちっぽけな島国の中で使われるゲルマン語の一末裔にすぎなかった。それが21世紀を迎えたこの時代，今や全世界の共通語として用いられるほどの興隆をみせるまでになった。このように地球全域でコミュニケーションの道具として使われる英語という言語の特色とは何か？その秘密に触れ，問題点を英語学的観点から究明しつつ，各自のテーマを発見し，これを４年次の卒業論文・卒業研究へと展開していくのがこの演習のねらいである。具体的には，英語史の流れを概観しつつ，英語の地名や政治・文化・宗教・生活習慣その他英国のあらゆるものと言葉の結びつきについて考察したい。このため「イギリス」に関連するものを文字情報だけでなく，映像情報をふんだんに駆使して受講者に提供する。したがって受講希望者は基本的に「イギリスが好き」であることが条件となる。また，５月に来日する英国劇団の本学公演の上演スタッフとしての参加も必修とする。

〔教材〕

各受講生の希望するテーマに沿った教材プリントを使用する。他にドキュメンタリー番組のビデオなど視聴覚教材も用いる。参考書については大学図書館にあるものを随時指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材プリントの発表箇所は発表者だけでなく履修者全員が念入りに調べておくこと。予習・復習に最低各１時間半以上かけること。

〔成績評価の方法〕

定期試験（70%）の他，ゼミ関連授業および活動の出席状況や予習・発表状況等（30%）を参考とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜４時限
メールまたは国際コミュニケーション学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業ガイダンス・資料プリント類配布
第２週　テキスト講読／受講者発表
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　テキスト講読：受講者発表およびまとめ

2016年５月21日に予定されている英国劇団の本学上演に関しては，上記に述べた目的のため，必ず全員参加すること。また春・秋に予定されている関連授業も必修とする。

国際コミュニケーション演習IP・IIIP

3621010101600

副　題	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史							担　当　者	工藤　晶人　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	HIS-316-IY HIS-464-IY

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパと中東・アフリカ地域の歴史，言語，文化，宗教について理解を深める。並行して卒業論文作成の準備を進める。

〔授業の内容〕

ヨーロッパ，アジア，アフリカといった地域の文化についての単純なイメージを見直し，さまざまな地域を比較しながら交流の歴史を学ぶ。担当教員が専門とする地域はフランスとマグリブだが，そのほかの地域（ヨーロッパ，中東，アフリカ）について関心を持つ学生も受け入れる。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読または発表準備

〔成績評価の方法〕

報告とレポートの内容（60%），授業参加の積極性（40%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日の昼休み
授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーションと自己紹介
第２週　文献講読・発表・ディスカッション
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション演習IQ・IIIQ

3621010101700

副　題	国際開発協力							担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	INR-317-IY INR-465-IY

〔授業の到達目標〕
国際協力のあるべき姿を客観的に述べられるようにする

〔授業の内容〕
【国際コミュニケーション演習　ＩQ】
「豊かな」先進国と，「貧しい」と言われる開発途上国がある中，地球規模の活動が盛んに行われ，まさに国内外を問わず，地球の全生態系を含めた相互依存の重要性が説かれている。そのような状況の中，ボランティア･国際援助活動の重要性は拡大し続けている。ボランティア，援助活動などは自分が持つ能力，労力，技術，知識を他者に提出することでとどまるのであろうか。または，反対にそのような活動から当事者が得るものの方が多いのではないだろうか。あるいは，どれだけ私たち先進国の人間は，貧困，人権，環境問題，ジェンダーなどについて知り，理解しているのだろうか。「現場から見た視点」を中心に，参加した活動の紹介を通して，実例を挙げながら，ボランティアや国際協力のあり方，展望，参加の仕方について考察する。
【国際コミュニケーション演習　III Q】
国際コミュニケーション演習IとIIでは国際援助・協力・ボランティア活動に主体的に携わり考察してきた。参加した活動とそれを元に行った研究から提起された国際援助・協力・ボランティア活動に関わる諸問題を取り上げる。問題が発生する背景がどのようなものか，そしてその問題解決につながる方策を考察・分析しながら卒業論文を作成する。

〔教材〕
授業中に指示，配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
各回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には４時間費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕
レポート　40%，発表　40%，授業への参加意欲他　20%
IとIIIでは異なりますので，詳細は授業中に配布する書面で確認してください。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
第１回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合，必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて，授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　INTRODUCTION
第２週　テキスト輪読，発表，ディスカッション
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
初回授業で発表等の順番を決めます。

国際コミュニケーション演習IT・IIIT

3621010102000

副　題	グローバル化の実態							担　当　者	佐久間　潮　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECO-320-IY ECO-468-IY

〔授業の到達目標〕

各種資料および参考文献からグローバル化とそれに伴う文化摩擦の実態を把握すること。また，文化摩擦の生じている地域に出向き，その実態を調査し，自ら多文化共生の方法を考え出すこと。

〔授業の内容〕

グローバル化とは，簡単に言えば，財，サービス，資金，人，情報，が世界中を活発に往き来するようになることである。私達のまわりを少し見回しただけでも，私達がグローバル化した社会に生活していることは，すぐに分かるであろう。

人々はヨーロッパの有名ブランド品を使ったり，アジアの諸国で生産された電気製品やドイツで生産された自動車を購入したりするだけでなく，アメリカの映画を鑑賞し，連休には海外旅行を楽しんだりする。また，日本で働くために外国から来ている人々もたくさんいる。さらに，日本の預金金利が低いので外国の銀行に預金する人もいる。テレビでは衛星放送を通じてアメリカのCNNやイギリスのBBCのニュースだけでなく，外国の様々な番組を視聴することができる。また，インターネットを通じてさまざまな情報が世界を駆け巡る。

このようなグローバル化は私達の生活にどのような影響を及ぼしているのであろうか。また，将来どのような展開が待っているのであろうか。この問題について考えるために，テキストを輪読するだけでなく，さまざまな資料を使った調査，発表，さらにはディスカッションを行なう。

〔教材〕

輪読する資料を授業時に適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

4時間

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（10%），発表（50%），レポート（40%）で総合評価

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日3時限
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第1週　世界の財貿易の現状（1）
第2週　世界の財貿易の現状（2）
第3週　世界の財貿易の現状（3）
第4週　世界の財貿易の現状（4）
第5週　世界のサービス貿易の現状（1）
第6週　世界のサービス貿易の現状（2）
第7週　世界の資金移動の現状（1）
第8週　世界の資金移動の現状（2）
第9週　国境を越えた人々の移動（1）
第10週　国境を越えた人々の移動（2）
第11週　人々の国際移動と文化摩擦（1）
第12週　人々の国際移動と文化摩擦（2）
第13週　人々の国際移動と文化摩擦（3）
第14週　人々の国際移動と文化摩擦（4）
第15週　人々の国際移動と文化摩擦（5）

国際コミュニケーション演習IU・IIIU

3621010102100

副　題	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育） 2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-321-IY LIF-469-IY

〔授業の到達目標〕
1．体験学習法と教えない教育について十分に認識し，それらを実践するファシリテーション能力がある。
2．問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3．独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4．体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5．実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕
1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え，食物の役割を探究し，人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて，歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し，食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ，おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材，食品，料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2．環境教育・科学教育と体験学習（環境コミュニケーションと科学コミュニケーション）：小学校の自然体験や理科の単元をアメリカで生まれたGEMS，MARE，FOSS,PWやPWETなどの教材の指導体験を通し，教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え，改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕
ゼミ希望学生は，２年時に実施される味わい教育インストラクターの講習会に必ず参加すること。講習会で使用するテキストと卒論テーマは密接に関連している。また，講習会はできるだけ複数回参加すること。ゼミの選択が決定した２年生は３月に実施されるゼミ事前講習会に必ず参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
研究テーマに対応した文献の遡及調査を実施することが必須である。また，選択した分野の学会を探すことも必要である。演習の時間だけではファシリテーションの実践や味わい教育を実践する時間は取れないことから，事前の準備や振り返りの時間が４時間程度必要である。

〔成績評価の方法〕
1．ゼミではプログラム実践を通した経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため，出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。（40%）
2．積極的課外授業への参加を通し，アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し，論理的に自らのアクティビティを評価することができる。（40%）
3．積極的な文献収集とその読解を通し，適切な報告書を作成することができる。（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業に関する質問はakira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日５限目（16：40-17：50）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕
金曜日午後に課外活動を実施することがある。午後の時間割には演習のみを割り当てることが望ましい。味わい教育インストラクター養成講習会にできるだけ参加すること。可能な時期（夏季休業中など）にゼミ旅行を実施する（２泊から３泊：場所は青森，大分を予定）。また，フードコンシャスネス教育班の学生は，ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　フードコンシャスネス教育，環境コミュニケーション，科学コミュニケーションとは何か？
　　卒論作成指導，文献検索方法，ラーニングサイクル，振り返り方法について
第２週　文献調査法　卒業論文の仮テーマの作成など
第３週　ファシリテーション体験１（ファシリテーションとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査１
第４週　ファシリテーション体験２（ラーニングサイクルとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査２
第５週　ファシリテーション体験３（振り返りとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査３
第６週　アンケート作成とその評価方法
第７週　感覚・味覚教育プログラム，環境教育プログラム，科学教育プログラムの体験
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　環境教育プログラム，食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
グループでのテーマに対応し，協調関係を構築する必要がある。

国際コミュニケーション演習Ⅳ・ⅢⅤ

3621010102200

副　題	言語学・日本語教育I							担　当　者	秋山　智美　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	JPL-322-IY JPL-470-IY

〔授業の到達目標〕

3年生においては，言語学研究の基礎分野を広く理解し，研究の所在やアプローチする方法について学ぶことを目的とする。

4年生においては，卒業論文作成に向けての具体的な計画を立てて，実践的な調査研究を始める。

〔授業の内容〕

現代の日本語分野において対照言語学研究，社会言語学研究の諸問題を含めて幅広く諸領域（文法論，意味論，語彙論，語用論，文章・談話論，待遇表現，方言，日本語教育など）の研究を進める。

〔教材〕

授業時にプリントを配布します。その他，参考書については適宜，授業内で指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業の予習として授業時に配布された資料を2時間程度かけて通読すること。
毎回，授業の復習として授業時に配布された資料を2時間程度かけて通読すること。

〔成績評価の方法〕

課題レポート（50%），授業への参加態度・発表（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール（aki1●amber.plala.or.jp)（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　導入
第2週　先行研究の通読（文法論）
第3週　先行研究の通読（意味論）
第4週　先行研究の通読（語彙論）
第5週　先行研究の通読（語用論）
第6週　先行研究の通読（文章・談話論）
第7週　先行研究の通読（待遇表現）
第8週　先行研究の通読（方言）
第9週　先行研究の通読（日本語教育）
第10週　先行研究の通読（社会言語学）
第11週　卒業論文に向けて－研究計画発表(1)
第12週　卒業論文に向けて－研究計画発表(2)
第13週　卒業論文に向けて－研究計画発表(3)
第14週　卒業論文に向けて－研究計画発表(4)
第15週　卒業論文に向けて－研究計画発表(5)
授業計画は，進行状況により変更する場合もある。

国際コミュニケーション演習IW・IIIW

3621010102300

副　題	日本語研究の方法							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	JPL-323-IY JPL-471-IY

〔授業の到達目標〕

学術的な日本語研究方法の基礎（文献検索，コーパス利用，調査，分析，プレゼンテーションなど）を習得する

〔授業の内容〕

時代（古典語・現代語）を問わず，日本語やその他の言語に関する研究書や研究論文などを読む。それぞれの学生が興味･関心のある事柄に関する文献を探し，その内容について，解説，批判，今後の研究の展開の可能性などに関する報告を行う。（初回授業から数回，教員が日本語研究・言語研究について概説する。）

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが，必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は10時間以上の準備が必要。発表時以外は各２時間程度の予習・復習（指定された研究書，学術論文などを読んでおく）が必要

〔成績評価の方法〕

発表担当時の発表内容およびプレゼンテーション（80%）の他，討論への参加の積極性（20%）などを総合的に評価する。最低でも開講時数の２／３以上の出席が必須である。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
初回の授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　言語研究と日本語研究の諸分野についての概要説明
第２週　具体的な研究方法の検討
第３週　以後は担当学生による発表と討論
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IX・IIIX

3621010102400

副　題	情報システム							担　当　者	江藤　正己　専任講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	INF-324-IY INF-472-IY

〔授業の到達目標〕

3年生
・学術研究に必要な基礎的事項やコンピュータの基礎的知識を修得する
・情報システムの可能性を理解する
4年生
・卒業論文・研究に関連する文献を整理し，自己の研究の学術的意義を明確に主張できる
・卒業論文・研究における調査の具体的な枠組みを設計する

〔授業の内容〕

私たちの身の回りには，TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ，Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い，ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり，情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。本演習では，人間の知的活動に関わる文系的な側面から，広い意味での「情報システム」を研究します。

3年生(春学期)は，パワーポイントを使ったプレゼンテーション，情報検索･収集，文献要約，情報システムの調査，エクセルを使ったテキスト分析などをおこないます。4年生は，年間を通じて，卒業論文・研究の進捗状況について報告をおこないます。

〔教材〕

参考書：酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

必要に応じて個別面談等をおこないながら，卒業論文・研究（またはそれに準ずる内容）を進めること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(50%)，課題(50%)
ただし，授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕

本演習の卒業論文・研究では，「システムをつくる」ことを選択した場合でも，「システムをつくらない」場合とほぼ同じ量（枚数）の論文作成が課されます。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　パワーポイントを利用したビブリオバトル（1）
第3週　パワーポイントを利用したビブリオバトル（2）
第4週　パワーポイントを利用したビブリオバトル（3）
第5週　文献要約（1）
第6週　文献要約（2）
第7週　文献要約（3）
第8週　情報システム調査（1）
第9週　情報システム調査（2）
第10週　情報システム調査（3）
第11週　エクセルを使ったテキスト分析（1）
第12週　エクセルを使ったテキスト分析（2）
第13週　エクセルを使ったテキスト分析（3）
第14週　エクセルを使ったテキスト分析（4）
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習ⅡA・ⅣA

3621010200100

副　題	文化財の保護と活用							担　当　者	M．ウーゴ　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	MSE-325-IY MSE-473-IY

〔授業の到達目標〕
社会における自然遺産や文化遺産の役割を考え，調べる力，文章作成の力を磨く。

〔授業の内容〕
「文化財」や「遺産」という用語が指す内容は常に変化している。例えば，文化財に指定される対象は，宗教建築から民家へ，単独の記念物から景観へ，高尚な芸術から民俗芸能へと広がっていった。すなわち，時代，地域，文化的背景の違いによって，文化財を取り巻く価値観も，「文化財」や「遺産」に関する国際協力のあり方も多様に存在する。本演習では，文化財に関する国内外のさまざまな事例を通じて，世界の現状を知るとともに国際協力に関する理解を深めることを目的とする。演習では次の四段階の調査が求められる。
１）日本における文化財制度調査。文化庁，地方自治体，専門的組織の役割と成果。
２）世界遺産の役割。ユネスコ，国際専門機関を対象に国際協力に関する実践の評価と分析。
３）日本国内と国際機関の比較。特に，文化遺産・自然遺産・無形遺産の区分と選択過程，推薦と保護活動，国際協力企画の具体的な事例。
４）文化の多様性と「遺産」保護政策の関連を考える。最終的には「遺産」を通じて国際社会の可能性と問題点について展望する。
各自の研究テーマについて定期的にプレゼンテーションを行う。

〔教材〕
参考書：三輪嘉六（編）『文化財学の構想』勉誠出版，2003年
青柳正規『文化立国論：日本のソフトパワーの底力』筑摩書房，2015年
演習中に指示する。英語文献も含む。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の前と後に必ず予習と復習し（授業の内容や指定した参考文献，検索した資料），疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
出席と授業への参加の姿勢（積極性）［10%］，レポート［40%］や発表［50%］を総合的に評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水・５限
OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
この授業を選択する学生は，日本語の文献はもちろんのこと，英語文献も活用すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本の文化財制度１
第３週　日本の文化財制度２
第４週　日本の文化財制度３
第５週　まとめ
第６週　社会における文化財の役割１
第７週　社会における文化財の役割２
第８週　文化財と世界遺産１
第９週　文化財と世界遺産２
第10週　まとめ
第11週　国内外の比較１
第12週　国内外の比較２
第13週　国内外の比較３
第14週　国内外の比較４
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習ⅣB

3621020200200

副　題	Intercultural Communication II							担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	2	配当年次	4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-474-IY

〔授業の到達目標〕

This course is intended to help students become competent in communication with others of diverse cultural backgrounds by helping them expand their range of verbal and nonverbal communication skills, become able to communicate effectively in unfamiliar settings, recognize the influence their own culture has had on the way in which they view themselves, and expand their knowledge of the ways of other cultures.

〔授業の内容〕

This course is a continuation of Intercultural Communication I. We will take up where we left off at the end of the first term and continue with the second half of the text, spending one to two weeks for each chapter. We will continue to conduct the classes in the same way as the first semester, but the content will be increasingly complex. The course will be conducted entirely in English: readings, discussion, reports, term paper, presentations will all be done in English. Students will thus be continuously developing their English skills at the same time they are expanding their understanding of and skills in intercultural communication.

〔教材〕

教科書：Fred E. Jandt, *An Introduction to Intercultural Communication: Identities in a Global Community*, 6th Edition, Sage Publication, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week to study the textbook and study guide questions, and another 2 hours to prepare for their presentation of the textbook when it is their turn.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), reports (20%), presentations (30%), and a term paper (20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 13：00～14：30.
See the schedule outside my office door for other options by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Dimensions of culture
第 3 週　Dominant U.S. cultural patterns: using value orientation theory
第 4 週　〃
第 5 週　Comparative cultural patterns: Arab culture
第 6 週　Women, families, and children
第 7 週　〃
第 8 週　Contact between cultures
第 9 週　Immigration and acculturation
第10週　〃
第11週　Cultures within cultures
第12週　〃
第13週　Identity and subgroups
第14週　Oral presentations of term papers
第15週　〃

国際コミュニケーション演習IIC・IVC

3621010200300

副　題	経営学							担　当　者	金城　亜紀　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	MAN-327-IY MAN-475-IY

〔授業の到達目標〕

経営学で関心のあるテーマを教員の指導のもとに研究し，主体的にゼミの運営に貢献することにより，将来どの分野で活躍するためにも不可欠な，（1）課題設定力，（2）リサーチ力，（3）発信力を体得します。成果物としてプレ卒論（約2万字）を書き上げます。こうして，ガッツをもって卒業後のキャリアを形成できる実力を涵養します。

〔授業の内容〕

春学期と合宿で養った基礎力をバネに，いよいよプレ卒論の執筆に傾注します。2～3週間に1回の頻度で途中経過を報告し，建設的な批判を議論を重ねながら，内容を高め完成していきます。指定討論者をあらかじめ設定しますが，ゼミ生全員でコメントすることが求められ，そのための予習が必要です。

〔教材〕

プレ卒論のレジメと草稿が主たる教材となります。適宜，関連する資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1週間当たり概ね10時間程度以上の準備学習が必要になると思われます（プレ卒論の執筆時間を含める）。

〔成績評価の方法〕

演習への貢献（発表，議論への参加等）：50%
プレ卒論：50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日：12：20～13：20 (4222研究室)

〔授　業　計　画〕

第1週　Kick-off（秋学期の目標設定）
第2週　プレ卒論の中間報告とディスカッション，コメント，指導
第3週　同上
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括：プレ卒論提出
より良い内容にするために本計画を変更することがあります。

国際コミュニケーション演習IID・IVD

3621010200400

副　題	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究							担　当　者	鈴木　珠美　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	ARE-328-IY ARE-476-IY

〔授業の到達目標〕

春学期に引き続き，中・東欧を中心とするヨーロッパの歴史や文化に関する幅広い専門的な知識を身につけると共に，各自が関心を持つテーマの研究を段階を追って進める。

〔授業の内容〕

授業は卒業論文に関わる発表と学術論文の講読を織り交ぜたものとなる。秋学期には４年生による卒業論文の最終発表が行われる。個々の発表の後は出席者全員が発表内容に関して一言ずつコメントする。履修生は担当教員のみならず，他の履修生の助言も考慮に入れて各自の研究を進めることになる。残りの時間には，各自が自分の研究にとって最も重要と思われる学術論文を１本ずつ選んで，授業の中で発表する。

〔教材〕

取り上げる学術論文については，各自が教員と事前に打ち合わせて決めることとする。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講読する学術論文は事前に熟読し，授業中に中身の濃いコメントを述べられるようにしておくこと。

〔成績評価の方法〕

受講態度（約30%），授業中に行う発表や指定された課題に取り組む姿勢（約70%）等によって総合的に評価する。演習の授業は大学の諸連絡の場でもあるので，就職活動と重ならない限り，毎週出席すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業の前後に直接，申し出るか，メールにて連絡すること（メールアドレスは初回授業等でお伝えする予定）。

〔授　業　計　画〕

第１週　卒業論文最終発表（４年生１名），学術論文講読
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括

国際コミュニケーション演習IIE・IVE

3621010200500

副　題	日本の政治文化の特質							担　当　者	畠山　圭一　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	POL-329-IY POL-477-IY

〔授業の到達目標〕
国際関係，国際政治，国際コミュニケーションおよび異文化理解に関する広い視野と深い洞察力を養う。

〔授業の内容〕
春学期に引き続き，「高度情報化時代の国際戦略」をメイン・テーマに外交戦略の課題を考察するが，秋学期では，相手の偏見や誤解を解消し，自らの思想や意図を相手に適切に伝えるには，いったい，どのような情報発信が必要かという点に注目して演習を進めたい。意思伝達にとって重要なことは，伝えようとする物事の本質を深く知り，さらにそれを相手に理解できるように説明することである。本演習では「日本の政治文化の特質」や「日本の国家理念」等についての検討を加え，対日誤解を解き，日本の思想や意図を的確に伝えるためにはどのような説明が必要であるかを検討する。また，年度の最後に「日本の国際戦略」を総合テーマに各グループからの研究報告も行ってもらう。

〔教材〕
追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前にテキストの該当箇所を読み，自らの課題を用意して臨むこと。思考力，分析力の養成が主眼であるため，事前，事後の思索が極めて重要な意味を持つ。予習，復習には十分な時間(標準は各2時間程度)を確保することが望ましい。

〔成績評価の方法〕
出席状況（2割），演習参加の積極性，報告内容，リポート等（あわせて8割）によって総合的に判断し，60点以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火4限又は随時。連絡方法は初回授業で指示する。

〔備考〕
月に1回程度，学外講師（研究者，官僚，国際機関幹部，ジャーナリスト等）による特別授業や学外の各種セミナーへの出席等の企画も考えている。秋合宿または冬合宿も予定している。国際政治，外交に関する強い目的意識と関心をもって望んでほしい。

〔授　業　計　画〕

第1週　導入講義
第2週　テキスト輪読と討論
第3週　報告と討論
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括講義

国際コミュニケーション演習IVF

3621020200600

副　題	Discussing Japan							担　当　者	Ｊ．Ｆ．モア　教授
単位	2	配当年次	4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ECM-478-IY

〔授業の到達目標〕

This is the autumn term of a 2-year seminar on the presenting of information about Japan in English. Fourth-year students should complete their graduation theses.

〔授業の内容〕

Fourth year students will report on the progress of their research as well as joining the class discussion of assaigned readings. A report on your progress during the summer should be submitted in October.

〔教材〕

Same as III F: no need to purchase again.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of presentations and reports each week.

〔成績評価の方法〕

Evaluations will be based on students' attendance and contributions to classroom discussions 30%, and on timely progress in their reports on their research projects (October 35%, December 35%.)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第１週　Presentation of research interests and book reports
第２週　Reports and discussion
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　Presentation of research results
第15週　〃

国際コミュニケーション演習IIG・IVG

3621010200700

副　題	地球環境問題と国際コミュニケーション									担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ENV-331-IY ENV-479-IY

〔授業の到達目標〕

地球環境問題の複雑性，相互連関性ならびに同問題に対する対策を検討する場合の総合的な視野の必要性についての理解を深めるるとともにその過程を通じて，異分野間，異文化間のコミュニケーションの重要性を把握する。

〔授業の内容〕

本演習I, IIIにおいては，いくつかの地球環境問題について掘り下げた議論を行うこととする。基礎的な文献輪読，（場合によっては）東京近傍における現地調査，実際に問題解決に当たっている当事者からのヒアリング，クラスでのグループディスカッショ等の多様な方法により議論を深めていくこととしたい。

本年は，環境政策についての国際的な制度比較を行うことにより，社会，経済，文化，自然がそれぞれの環境政策にどのような影響を与えているかを議論するとともに，政策の相互理解の取組みを分析することを想定している。

〔教材〕

教科書：追って指示する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回４時間程度の負荷で，次回で使用する資料のレジュメ作成あるいは小レポートを課す。

〔成績評価の方法〕

授業中の議論（20%），小レポート（２～３回：30%），期末レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日５時間目
mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

国際コミュニケーション演習Gの受講を将来希望する学生は，基礎演習G，地球環境論I,IIのセット,環境科学I，環境経済学，国際関係基礎論Ⅱのいずれかを受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　地球温暖化防止政策：日本
第３週　地球温暖化防止政策：EU
第４週　地球温暖化防止政策：米国
第５週　水政策：日本
第６週　水政策：EU
第７週　水政策：米国
第８週　水政策：豪州
第９週　バイオマス政策：日本
第10週　バイオマス政策：EU
第11週　バイオマス政策：米国
第12週　景観・生物多様性保全政策：日本
第13週　景観・生物多様性保全政策：EU
第14週　景観・生物多様性保全政策：米国
第15週　総合討論

国際コミュニケーション演習IIH・IVH

3621010200800

副　題	現代欧米社会の人種・民族							担　当　者	武井　彩佳　准教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	HIS-332-IY HIS-480-IY

〔授業の到達目標〕

現代の欧米社会で民族的・人種的マイノリティと多数派社会の間に存在する様々な問題の原因について知り，これからの展望について考える。

〔授業の内容〕

現代欧米社会におけるマジョリティ／マイノリティ関係を，人種・民族・移民・難民・階級等をキーワードにして考える。現出している様々な問題が，いかなる歴史背景から生まれたものであるか理解する。3年生は指定されたテキストの個所をレジュメにまとめ発表し，4年生は個別に卒業論文の添削指導を行う。

〔教材〕

テキストは配布するか，初回の授業で教科書を一斉購入する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定されたテキスト部分を読んでくる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度60%，報告40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月・水曜4時限後30分
メール等。

〔授　業　計　画〕

第1週　文献講読
第2週　〃
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　文献講読＋4年生卒論添削
第7週　〃
第8週　課外授業＋4年生卒論添削
第9週　文献講読＋4年生卒論添削
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　文献講読
第15週　予備日

国際コミュニケーション演習III・IVI

3621010200900

副　題	東アジア地域研究と歴史社会学							担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	HIS-333-IY HIS-481-IY

〔授業の到達目標〕

春学期は「日本」が中心的テーマだが，秋学期では中国，韓国などの東アジア地域の状況を理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

演習では，学生各自の研究テーマを考慮しつつ数冊の研究書を選び，皆で講読する。参加者は，各自が担当する文献の内容について発表し，皆でディスカッションする。学生は報告に加えて司会も担当する。最終的には，各自が構想した研究計画を発表する。

リーディングアサインメントについては，事前にガイダンスをおこない指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参加者は事前に指定される文献を熟読し，報告者はアウトラインを作成する必要がある。他に進行役の学生も，事前に文献を読み，適切な問題提起等を準備しておく必要がある。

〔成績評価の方法〕

出席を重視する。成績は，報告内容（40%），授業参加（40%），レポート（20%）の結果を総合的に判断して決定する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜 3 限

授業後に直接連絡，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）

〔備考〕

参加者の数や関心事によって授業計画が若干変更される可能性がある。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　文献講読・発表・ディスカッション
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　研究計画発表
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IIK・IVK

3621010201100

副　題	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究							担　当　者	羅　京洙　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ARE-335-IY ARE-483-IY

〔授業の到達目標〕
東アジアの地域統合に関する議論が盛んに行われている現在，南北コリアがいかにして「地域の一員」として関わっていくのか，大きな関心が寄せられている。本演習は，東アジアの中の朝鮮半島を，「地域性」という新しい観点から捉えなおすことを目標とする。

〔授業の内容〕
東アジア地域研究にまつわる理論・ディシプリンの紹介や，朝鮮半島をとりまく様々な問題群を検討の対象とし，東アジアの中の朝鮮半島を総合的に理解する。さらに本演習では，朝鮮半島を含む東アジアの国・地域に内在する類似性と相違性を，比較の観点から複眼的かつ客観的にとらえる高度な能力を身につける。とりわけ，担当教員の専門分野である東アジアにおける人々（特にコリアン）と文化のトランスナショナルな移動現象について一緒に学ぶ。グローバリゼーションが進む中，東アジアでは，人々の国境を越えるトランスナショナルな移動と交流が活発に行われている。その人々の移動の際には，文化の移動も伴われ，互いの持つ文化への理解が強く求められている。

〔教材〕
特定の教科書は用いないが，指定文献については演習時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
指定文献や参考資料をあらかじめ読んだ上で，毎回の演習に臨むこと。毎回の演習の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕
演習への参加態度・貢献度（30%），研究報告（30%），課題・レポート（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
演習の内容について質問などがある場合は，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔備考〕
本演習は，受講生の積極的な研究発表と討論を両軸に進める。主な活動として，（１）関連文献の輪読とディスカッション，（２）学生によるプレゼンテーション，（３）レポートや卒論の執筆活動などを行う。また，第一線の東アジア・朝鮮半島専門家との交流や，（学生主体・自由参加の形で）フィールドワークの機会を設けることも計画している。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　文献講読と討論（１）
第３週　文献講読と討論（２）
第４週　文献講読と討論（３）
第５週　文献講読と討論（４）
第６週　プレゼンテーションと討論（１）
第７週　プレゼンテーションと討論（２）
第８週　プレゼンテーションと討論（３）
第９週　プレゼンテーションと討論（４）
第10週　プレゼンテーションと討論（５）
第11週　プレゼンテーションと討論（６）
第12週　プレゼンテーションと討論（７）
第13週　プレゼンテーションと討論（８）
第14週　プレゼンテーションと討論（９）
第15週　総合討論・総括

国際コミュニケーション演習ⅡL・ⅣL

3621010201200

副　題	ルネサンス文化の展開―思想の様態							担　当　者	根占　献一　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	PHL-336-IY PHL-484-IY

〔授業の到達目標〕

ルネサンス思想の多様性を知り，これを現代に生かすことを学ぶ

〔授業の内容〕

春学期の内容を深めることを目指す。ルネサンス時代を視座におき，ヨーロッパ文化理解を深めるために，関連テクストの精読に努めたい。

４年生は卒論に向けた各自のテーマを絞っていくために口頭発表などを行うこととする。

〔教材〕

外国語テクスト（こちらで準備する）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各２時間

〔成績評価の方法〕

春学期に同じ。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問などがある場合には，月曜日12時45分から13時半の間に研究室を訪ねること。ただし，前もって学科事務室に希望の日にちに関して連絡をとっておくほうが望ましい。

〔備考〕

春学期に同じで，ビデオなど視覚教材を多用する。

〔授　業　計　画〕

第１週　春学期の確認
第２週　テキスト購読と発表（ビデオなど）
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　本演習の総括

国際コミュニケーション演習IIM・IVM

3621010201300

副　題	国際法と国内法の基本問題	担　当　者	櫻井　大三　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	LAW-337-IY LAW-485-IY

〔授業の到達目標〕

国際社会または国内社会において現実に生じている問題を国際法･国内法の観点から検討し，卒業論文の作成に必要な調査，分析，報告を行うこと。他の受講生との議論を通じて，研究の知見や作法を共有すること。

〔授業の内容〕

本演習は，現代社会において生起するさまざまな問題を国際法および国内法双方の観点から読み解くことを第一の目的としている。分かりやすく言うと，諸君が国際法や国内法の諸問題に幅広く接する中で，素朴に感じた疑問を出発点とし（自ら問いを立てる），その疑問を自ら解き明かすために調査を行い（自ら問いの検証・論証にあたる），その調査結果を一定の形にまとめる（問いに対する結論を導く）のが，本演習の目的である。

受講生は，国際法や国内法に関する文献（外国語を含む）・資料（法律や条約の条文，国連など国際機構の決議，ICJなどの司法機関が下す判決等）を幅広く読み込むだけでなく，日々，新聞の社会面･国際面に目を通し，世の中の動きを把握することが求められる。したがって，『六法』や『条約集』といった法令集が必携となるし，法律の用語辞典も不可欠である。また，新聞をとっていない者は，図書館等で毎日閲覧することが求められる。法律の勉強というのは，基本的には文献考証（文献解析というべきか）のスタイルをとるから，本演習での勉強を通じて，諸君は膨大な分量の文書・文章に接することとなるであろう。その中から，自身が抱いた疑問に対する答えを自ら発掘し，それを卒業論文という形で文章化（作品化）することが，本演習の最終目標となる。

〔教材〕

参考書：佐藤望［他］『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年
鹿島茂『勝つための論文の書き方』（文春新書）文藝春秋，2003年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

１．予習120分：プレレジュメ記載の複数の参考文献に当たりながら，疑問点を質問できるように準備しておくこと（報告者は，別途指示された要領により報告原稿，レジュメを準備すること）。

２．復習120分：報告者は，討論時に提起された疑問点やコメントを踏まえて，報告原稿を加筆修正すること。当該報告原稿が卒論の柱を構成するものとなるよう推敲を重ねること。

〔成績評価の方法〕

以下の諸点を総合的に評価する。
（１）演習への参加態度（毎回の出席，所定の報告，討論への参加，課外活動への参加等）
（２）レポート等の提出物（提出の有無，期日の遵守，内容の実質的な完成度等）
（３）その他，ゼミの募集要項に記した条件を満たし且つ遵守していること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

毎週月曜日の放課後，もしくは，毎週金曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
電子メールによる（メールアドレスは，学科事務室にて確認されたい）。

〔備考〕

本演習への参加の前提として，受講生には以下の諸点が求められる。
（１）『アカデミック・スキルズ』を読了し且つその内容を十分理解していること。
（２）ゼミ開講時までに，別に指示する課題図書を読了していること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　演習の受け方・心得等
第３週　『アカデミック・スキルズ』について
第４週　受講生による個別報告（１）
第５週　受講生による個別報告（２）
第６週　受講生による個別報告（３）
第７週　受講生による個別報告（４）
第８週　受講生による個別報告（５）
第９週　受講生による個別報告（６）
第10週　受講生による個別報告（７）
第11週　受講生による個別報告（８）
第12週　受講生による個別報告（９）
第13週　受講生による個別報告（10）
第14週　受講生による個別報告（11）
第15週　受講生による個別報告（12）

平素から新聞を読む習慣を身につけ，関心のある事件・事象に注目し，どのようなテーマについて報告をしたいのかを熟考してもらいたい。

国際コミュニケーション演習IIN・IVN

3621010201400

副　題	比較生活文化研究							担　当　者	乾　尚彦　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ANT-338-IY ANT-486-IY

〔授業の到達目標〕

文化をフィールドワークによって調べるための基礎を習得する。

〔授業の内容〕

春学期に続いて，フィールドワークの具体的な事例を個別にとりあげ，実際の技術について学んでいく。その上で，実際のフィールドワークを実施（演習の時間外に数日かけて行う），文化を記録する方法について考える。また，翌年度の卒業論文への導入として，4000字程度の小論文を作製し，論文の書き方について学ぶ。

春学期同様，毎回，世界各地の建築，世界遺産を数例とりあげ，建築についての認識を深めていく。

〔教材〕

演習中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

建築ガイドシートの作成または報告のためのレジュメ作成。

〔成績評価の方法〕

レポート，出席，発表の内容による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　フィールドワークの方法論
第２週　フィールドワークの準備と計画１
第３週　フィールドワークの準備と計画２
第４週　論文の書き方
第５週　先行研究の把握１
第６週　先行研究の把握２
第７週　先行研究の把握３
第８週　小論文を書く１
第９週　小論文を書く２
第10週　小論文を書く３
第11週　小論文を書く４
第12週　小論文を書く５
第13週　小論文を書く６
第14週　論文発表会１（パワーポイント，キーノートなどによる）
第15週　論文発表会２（パワーポイント，キーノートなどによる）

国際コミュニケーション演習IIO・IVO

3621010201500

副　題	English and Its Culture II							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	ENG-339-IY ENG-487-IY

〔授業の到達目標〕
　３年生はゼミにおける最後の学びの時間として，卒論作成に必要となる論文・参考文献の読み方を訓練する。また４年生は，卒論作成にむけて綿密な計画を立て，個別指導により卒論完成を目指す。

〔授業の内容〕
　春学期に続いて英国文化と英語史の流れを，テキストをとおして概観しつつ，歴史の各節目における英国および英語の特徴・問題点を把握することを秋学期の主な目標とする。また英語という言語に代表される英国の諸文化と言葉の結びつきについても考察したい。ルネサンス以降，英語は，新世界の発見・植民地化にともない飛躍的な発展を見ることになる。そして二つの大きな世界戦争（特に第二次世界大戦）をとおして世界の共通語としての地位を獲得するに至っていく。そのプロセスにおける英語という言語の特色とは何か？その秘密に触れ，問題点を英語学的観点から究明しつつ，各自のテーマを発見し，これを４年次の卒業論文・卒業研究へと展開していくのがこの演習のねらいである。具体的には，Shakespeareや聖書の現代英語における影響，また近代における「様々な英語」の発達史を，テキストをとおして概観する。さらに卒業論文・卒業研究に必要となるであろうその他の研究論文・参考資料等にもあたり，その読み方等も訓練する。

〔教材〕
　教材としては，テキストのほかにCD・映画のビデオなど視聴覚教材もふんだんに用いる。参考書については大学図書館，個人研究室にあるものを随時指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　毎回の授業における発表箇所は発表者だけでなく履修者全員が念入りに調べておくこと。

〔成績評価の方法〕
　授業への参加意欲・貢献度(10%),レポート(10%)，プレゼンテーション(10%)，関連する授業（外国語演習，英語学概論，イギリス文化論など）及び学期末試験(70%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　月曜４時限
　メールまたは国際コミュニケーション学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕
　４年生は別に設ける時間帯において卒論指導を行う。毎週指定された卒論指導を受けなかった場合，また指導に従わない場合には卒論の評価を行わないので十分に注意すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　英国と英語文化について／テキスト講読および発表
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習IIP・IVP

3621010201600

副　題	ヨーロッパ・アジア・アフリカの比較交流史	担　当　者	工藤　晶人　准教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	HIS-340-IY HIS-488-IY

〔授業の到達目標〕

ヨーロッパと中東・アフリカ地域の歴史，言語，文化，宗教について理解を深める。並行して卒業論文作成の準備を進める。

〔授業の内容〕

ヨーロッパ，アジア，アフリカといった地域の文化についての単純なイメージを見直し，さまざまな地域を比較しながら交流の歴史を学ぶ。担当教員が専門とする地域はフランスとマグリブだが，そのほかの地域（ヨーロッパ，中東，アフリカ）について関心を持つ学生も受け入れる。

〔教材〕

授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

関連文献の購読または発表準備

〔成績評価の方法〕

報告とレポートの内容（60%），授業参加の積極性（40%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日の昼休み
授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーションと自己紹介
第２週　文献講読・発表・ディスカッション
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション演習IIQ・IVQ

3621010201700

副　題	国際開発協力							担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	INR-341-IY INR-489-IY

〔授業の到達目標〕
自分の問題意識に基づき卒業論文執筆の準備，発表をする

〔授業の内容〕
【国際コミュニケーション演習　II Q】
国際コミュニケーション演習Iでは国際援助・協力活動に実際に参加した。その現場体験をふまえ，それらの活動が意味することを考察する。また，現場で認識された問題などの解決法をさぐるためのグループディスカッションなどを行う。前半は，参加した活動内容を基盤に，研究テーマを選択し，個別のテーマに関連する分野の文献を広範に読み，レポートする。後半は，研究テーマを発表する。
【国際コミュニケーション演習　IV Q】
国際コミュニケーション演習I, II, IIIでは国際援助・協力・ボランティア活動に主体的に携わり考察してきた。参加した活動とそれを元に行った研究から提起された国際援助・協力・ボランティア活動に関わる諸問題を取り上げる。問題が発生する背景がどのようなものか，そしてその問題解決につながる方策を考察・分析しながら卒業論文を完成させる。

〔教材〕
演習時に指定。プリント使用。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
各回ごとに次回授業のための課題が出ます。課題には4時間費やすことを予定してください。

〔成績評価の方法〕
レポート　40%，発表　40%，授業への参加意欲他　20%
IIとIVでは異なりますので，授業内で配布する書面にて詳細を確認してください。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
第1回授業は欠席しないようにしてください。万が一欠席した場合,必ず「次週の授業日前」に配布資料を取りにきて，授業内容については他の受講生に確認してください。

〔授　業　計　画〕

第1週　INTRODUCTION
第2週　テーマ発表，ディスカッション
第3週　〃
第4週　〃
第5週　〃
第6週　〃
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
初回授業で発表等の順番を決めます。

国際コミュニケーション演習ⅡＴ・ⅣＴ

3621010202000

副　題	グローバル化の実態（その２）							担　当　者	佐久間　潮　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECO-344-IY ECO-492-IY

〔授業の到達目標〕

各種資料および参考文献からグローバル化の実態を把握し，かつ実際にグローバル化に伴って文化摩擦の生じている地域に出向き，その実態を調査し，自らその解決方法を考え出すこと。

〔授業の内容〕

グローバル化とは，簡単に言えば，財，サービス，資金，人，情報，が世界中を活発に往き来するようになることである。私達のまわりを少し見回しただけでも，私達がグローバル化した社会に生活していることは，すぐに分かるであろう。

人々はヨーロッパの有名ブランド品を使ったり，アジアの諸国で生産された電気製品やドイツで生産された自動車を購入したりするだけでなく，アメリカの映画を鑑賞し，連休には海外旅行を楽しんだりする。また，日本で働くために外国から来ている人々もたくさんいる。さらに，日本の預金金利が低いので外国の銀行に預金する人もいる。テレビでは衛星放送を通じてアメリカのCNNやイギリスのBBCのニュースだけでなく，外国の様々な番組を視聴することができる。また，インターネットを通じてさまざまな情報が世界を駆け巡る。

このようなグローバル化は私達の生活にどのような影響を及ぼしているのであろうか。また，将来どのような展開が待っているのであろうか。この問題について考えるために，テキストを輪読するだけでなく，さまざまな資料を使った調査，発表，さらにはディスカッションとレクチャーを行なう。

この授業は，演習ＩＴ・ⅢＴで学習したことをさらに掘り下げるものである。

〔教材〕

輪読する資料を授業時に適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

４時間

〔成績評価の方法〕

授業への参加意欲・貢献度（10%），発表（50%），レポート（40%）で総合評価

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日３時限
学科事務室経由

〔授　業　計　画〕

第１週　世界の財貿易の現状（１）
第２週　世界の財貿易の現状（２）
第３週　世界の財貿易の現状（３）
第４週　世界の財貿易の現状（４）
第５週　世界のサービス貿易の現状（１）
第６週　世界のサービス貿易の現状（２）
第７週　世界の資金移動の現状（１）
第８週　世界の資金移動の現状（２）
第９週　国境を越えた人々の移動（１）
第10週　国境を越えた人々の移動（２）
第11週　人々の国際移動と文化摩擦（１）
第12週　人々の国際移動と文化摩擦（２）
第13週　人々の国際移動と文化摩擦（３）
第14週　人々の国際移動と文化摩擦（４）
第15週　人々の国際移動と文化摩擦（５）

国際コミュニケーション演習IIU・IVU

3621010202100

副　題	1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育） 2．環境教育・科学教育と体験学習（環境または科学コミュニケーション）	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-345-IY LIF-493-IY

〔授業の到達目標〕
1．体験学習法と教えない教育について十分に認識し，それらを実践するファシリテーション能力がある。
2．問題点やその解決方法を見出すために必要な情報収集能力がある。
3．独創的なアクティビティを作る能力があることとそれらを改善する能力がある。
4．体験学習法や教えないファシリテーション方法を他者に指導することができる。
5．実践した成果を報告書としてまとめる能力がある。

〔授業の内容〕
1．食物教育と味わい教育（フードコンシャスネス教育）：食物とは何か？おいしさとは何か？食物の持つ価値を考え，食物の役割を探究し，人と食物の関係や繋がりを追究することを目的とする。身近な食材や伝統食品などについて，歴史的背景やその価値を文献やフィールドワークにより調査し，食材や料理の味覚やおいしさについても官能検査や成分分析により詳細に調べ，おいしさや地域の食文化の特性について議論できるとともに調査した食材，食品，料理などについて広報できる能力を養うことを目的とする。
2．環境教育・科学教育と体験学習（環境コミュニケーションと科学コミュニケーション）：小学校の自然体験や理科の単元をアメリカで生まれたGEMS，MARE，FOSS,PWやPWETなどの教材の指導体験を通し，教えない教育を実践するとともに実際のファシリテーション能力を高めることを目的とする。実際の教科書を批判的に捉え，改善提案ができる能力を養う。

〔教材〕
ゼミ希望学生は，２年時に実施される味わい教育インストラクターの講習会に必ず参加すること。講習会で使用するテキストと卒論テーマは密接に関連している。また，講習会はできるだけ複数回参加すること。ゼミの選択が決定した２年生は３月に実施されるゼミ事前講習会に必ず参加すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
研究テーマに対応した文献の遡及調査を実施することが必須である。また，選択した分野の学会を探すことも必要である。演習の時間だけではファシリテーションの実践や味わい教育を実践する時間は取れないことから，事前の準備や振り返りの時間が４時間程度必要である。

〔成績評価の方法〕
1．ゼミではプログラム実践を通した経験を重視する。振り返りに参加しファシリテーションの改善やプログラムの修正などを議論する。そのため，出席状況や積極的に議論展開する授業への貢献度を重視する。（40%）
2．積極的課外授業への参加を通し，アクティビティの実践経験を重視する。教育法の比較やアンケートを実施し，論理的に自らのアクティビティを評価することができる。（40%）
3．積極的な文献収集とその読解を通し，適切な報告書を作成することができる。（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業に関する質問はakira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日５限目（16：40-17：50）のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。
akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）とasshijimi●me.com（change ● to @）にメールすること。

〔備考〕
金曜日午後に課外活動を実施することがある。午後の時間割には演習のみを割り当てることが望ましい。味わい教育インストラクター養成講習会にできるだけ参加すること。可能な時期（夏季休業中など）にゼミ旅行を実施する（２泊から３泊：場所は青森，大分を予定）。また，フードコンシャスネス教育班の学生は，ゼミ旅行以外にフィールドワークのための現地調査を予定している。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　フードコンシャスネス教育，環境コミュニケーション，科学コミュニケーションとは何か？
　　卒論作成指導，文献検索方法，ラーニングサイクル，振り返り方法について
第２週　文献調査法　卒業論文の仮テーマの作成など
第３週　ファシリテーション体験１（ファシリテーションとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査１
第４週　ファシリテーション体験２（ラーニングサイクルとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査２
第５週　ファシリテーション体験３（振り返りとは？）　食物，環境，科学研究およびその調査３
第６週　アンケート作成とその評価方法
第７週　感覚・味覚教育プログラム，環境教育プログラム，科学教育プログラムの体験
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　環境教育プログラム，食物教育・味覚教育プログラムあるいは科学教育プログラムの作成
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
グループでのテーマに対応し，協調関係を構築する必要がある。

国際コミュニケーション演習IIV・IVV

3621010202200

副　題	言語学・日本語教育II							担　当　者	秋山　智美　講師		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	JPL-346-IY JPL-494-IY

〔授業の到達目標〕

3年生においては，言語学研究の基礎分野を広く理解し，研究の所在やアプローチする方法について学ぶことを目的とする。

4年生においては，卒業論文作成に向けての具体的な計画を立てて，実践的な調査研究を始める。

〔授業の内容〕

現代の日本語分野において対照言語学研究，社会言語学研究の諸問題を含めて幅広く諸領域（文法論，意味論，語彙論，語用論，文章・談話論，待遇表現，方言，日本語教育など）の研究を進める。

〔教材〕

授業時にプリントを配布します。その他，参考書については適宜，授業内で指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，授業の予習として授業時に配布された資料を2時間程度かけて通読すること。
毎回，授業の復習として授業時に配布された資料を2時間程度かけて通読すること。

〔成績評価の方法〕

課題レポート（50%），授業への参加態度・発表（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール（aki1●amber.plala.or.jp)（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　4年生による卒業論文発表（1）
第2週　4年生による卒業論文発表（2）
第3週　4年生による卒業論文発表（3）
第4週　4年生による卒業論文発表（4）
第5週　4年生による卒業論文発表（5）
第6週　4年生による卒業論文発表（6）
第7週　4年生による卒業論文発表（7）
第8週　4年生による卒業論文発表（8）
第9週　3年生による中間論文に向けた発表（1）
第10週　3年生による中間論文に向けた発表（2）
第11週　3年生による中間論文に向けた発表（3）
第12週　3年生による中間論文に向けた発表（4）
第13週　3年生による中間論文に向けた発表（5）
第14週　3年生による中間論文に向けた発表（6）
第15週　3年生による中間論文に向けた発表（7）
授業計画は，進行状況により変更する場合もある。

国際コミュニケーション演習IIW・IVW

3621010202300

副　題	言語研究の可能性							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	JPL-347-IY JPL-495-IY

〔授業の到達目標〕

さまざまな言語研究について理解し，その中から卒業論文のテーマを決定する

〔授業の内容〕

ひとくちに言語研究といっても，研究対象である言語をどのような視点から，どのような存在としてみるのかによって，さまざまな内容の研究がある。まず，言語研究の分野としてどのようなものがあるのかを知り，次にその中から，自分個人の研究としてどういう分野の言語研究を行っていくのかを決定する必要がある。この演習ではそのために必要な知識や技術の習得をめざす。また，秋学期のはじめに，４年次学生の卒業論文の中間発表を行い，卒業論文執筆の準備を整える。

〔教材〕

テキストとして事前に指定する文献は特にないが，必要に応じて授業内で紹介していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表時は,準備のための時間が10時間以上必要。発表時以外は各２時間程度の予習･復習（あらかじめ指定された文献を読んでおく）が必要。

〔成績評価の方法〕

発表担当の際の発表内容，発表方法（80%）討論への参加の積極性（20%）。
また，最低でも開講時数の２／３以上の出席が必要。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
初回の授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　卒業論文執筆の注意事項
第２週　卒業論文中間発表１
第３週　卒業論文中間発表２
第４週　卒業論文中間発表３
第５週　卒業論文中間発表４
第６週　さまざまな言語研究１
第７週　さまざまな言語研究２
第８週　共時態に関する研究
第９週　過去の言語に関する研究
第10週　卒業論文着想発表１
第11週　卒業論文着想発表２
第12週　卒業論文着想発表３
第13週　卒業論文着想発表４
第14週　卒業論文着想発表５
第15週　まとめ

国際コミュニケーション演習ⅡX・ⅣX

3621010202400

副　題	情報システム									担　当　者	江藤　正己　専任講師
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	INF-348-IY INF-496-IY

〔授業の到達目標〕

３年生

・情報システムの特長や問題点を深く理解する

・４年次に卒業論文・研究として取り組む「リサーチクエッション」を見つける

４年生

・卒業論文・研究に関する調査の結果を整理・考察し，成果を文章の形でまとめる

〔授業の内容〕

私たちの身の回りには，TwitterやLINE, FacebookなどのSNSをはじめ，Wikipedia, Google, YouTube, Instagramなど多くの情報システムが存在します。スマートフォンの普及に伴い，ユーザー数が一国の人口よりも多い情報システムも珍しくなくなり，情報システムの動向が世界中に大きく影響を与えるようになってきました。本演習では，人間の知的活動に関わる文系的な側面から，広い意味での「情報システム」を研究します。

３年生(秋学期)は，情報システムをつくる過程を一通り体験します。具体的には，グループ単位で，小規模な簡易情報システムをソフトウェアやウェブサービス等を用いて構築します。その後，アンケート調査やインタビュー調査等によって評価をおこない，つくったシステムの問題点や情報システムの意義について考えます。４年生は，年間を通じて，卒業論文・研究の進捗状況について報告をおこないます。

〔教材〕

参考書：酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

必要に応じて個別面談等をおこないながら，卒業論文・研究（またはそれに準ずる内容）を進めること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(50%)，課題(50%)

ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。

連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕

本演習の卒業論文・研究では，「システムをつくる」ことを選択した場合でも，「システムをつくらない」場合とほぼ同じ量（枚数）の論文作成が課されます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　情報システムの設計（１）
第３週　情報システムの設計（２）
第４週　情報システムの設計（３）
第５週　情報システムの構築（１）
第６週　情報システムの構築（２）
第７週　情報システムの中間評価
第８週　情報システムの構築（３）
第９週　情報システムの構築（４）
第10週　情報システムの構築（５）
第11週　情報システムの最終評価（１）
第12週　情報システムの最終評価（２）
第13週　期末発表
第14週　〃
第15週　まとめ

卒業研究（春）

3621091100200

副　題								担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ICM-401-IZ

〔授業の到達目標〕

所属する各ゼミ担当教員の指導のもとで，各自のテーマに沿った卒業論文を作成すること。

〔授業の内容〕

所属する各ゼミ担当教員により内容は異なる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

所属する各ゼミにより，準備学習の内容およびそれに必要な時間は異なる。

〔成績評価の方法〕

所属する各ゼミ担当教員により成績評価の方法は異なる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

卒業研究（秋）

3621091100100

副　題								担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ICM-402-IZ

〔授業の到達目標〕

所属する各ゼミ担当教員の指導のもとで，各自のテーマに沿った卒業論文を作成すること。

〔授業の内容〕

所属する各ゼミ担当教員により内容は異なる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

所属する各ゼミにより，準備学習の内容およびそれに必要な時間は異なる。

〔成績評価の方法〕

所属する各ゼミ担当教員により成績評価の方法は異なる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

卒業論文（春）

3621091200200

副　題								担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ICM-403-IZ

〔授業の到達目標〕

所属する各ゼミ担当教員の指導のもとで，各自のテーマに沿った卒業論文を作成すること。

〔授業の内容〕

所属する各ゼミ担当教員により内容は異なる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

所属する各ゼミにより，準備学習の内容およびそれに必要な時間は異なる。

〔成績評価の方法〕

所属する各ゼミ担当教員により成績評価の方法は異なる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

卒業論文（秋）

3621091200100

副　題								担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ICM-404-IZ

〔授業の到達目標〕

所属する各ゼミ担当教員の指導のもとで，各自のテーマに沿った卒業論文を作成すること。

〔授業の内容〕

所属する各ゼミ担当教員により内容は異なる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

所属する各ゼミにより，準備学習の内容およびそれに必要な時間は異なる。

〔成績評価の方法〕

所属する各ゼミ担当教員により成績評価の方法は異なる。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

所属する各ゼミにより異なる。各ゼミのシラバスを参照のこと。

英語コミュニケーション学科

平成 28 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

英語コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
英語コミュニケーション基礎演習科目群	英語コミュニケーション基礎演習ⅠA	アメリカ文化論（移民）	ECM-101-EX	1	春		2	岩﨑　光洋	415
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠB	Cross-cultural Communication	ECM-102-EX	1	春		2	G. R. ファリア	416
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠC	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	ECM-103-EX	1	春		2	J. F. モア	417
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠD	「国際共通語」としての英語	ECM-104-EX	1	春		2	高橋　礼子	418
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠE	ビジネス英話	ECM-105-EX	1	春		2	C. ウィン	419
	英語コミュニケーション基礎演習ⅠF	英語学習法	ECM-106-EX	1	春		2	萱　忠義	420
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡA	アメリカ文化論（移民）	ECM-107-EX	1		秋	2	岩﨑　光洋	421
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡB	Cross-cultural Communication	ECM-108-EX	1		秋	2	G. R. ファリア	422
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡC	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	ECM-109-EX	1		秋	2	J. F. モア	423
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡD	「国際共通語」としての英語	ECM-110-EX	1		秋	2	高橋　礼子	424
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡE	ビジネス英話	ECM-111-EX	1		秋	2	C. ウィン	425
	英語コミュニケーション基礎演習ⅡF	英語学習法	ECM-112-EX	1		秋	2	萱　忠義	426
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢA	アメリカ文化論（移民）	ECM-213-EX	2	春		2	岩﨑　光洋	415
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢB	Cross-cultural Communication	ECM-214-EX	2	春		2	G. R. ファリア	416
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢC	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	ECM-215-EX	2	春		2	J. F. モア	417
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢD	「国際共通語」としての英語	ECM-216-EX	2	春		2	高橋　礼子	418
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢE	ビジネス英話	ECM-217-EX	2	春		2	C. ウィン	419
	英語コミュニケーション基礎演習ⅢF	英語学習法	ECM-218-EX	2	春		2	萱　忠義	420
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣA	アメリカ文化論（移民）	ECM-219-EX	2		秋	2	岩﨑　光洋	421
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣB	Cross-cultural Communication	ECM-220-EX	2		秋	2	G. R. ファリア	422
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣC	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	ECM-221-EX	2		秋	2	J. F. モア	423
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣD	「国際共通語」としての英語	ECM-222-EX	2		秋	2	高橋　礼子	424
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣE	ビジネス英話	ECM-223-EX	2		秋	2	C. ウィン	425
	英語コミュニケーション基礎演習ⅣF	英語学習法	ECM-224-EX	2		秋	2	萱　忠義	426
	海外研修A	Studying at the Universityof Lethbridge	ECM-225-EX	2	春集中		18	岩﨑　光洋	427
	海外研修B	Studying at the Universityof Lethbridge	ECM-226-EX	2		秋集中	18	岩﨑　光洋	428
英語コミュニケーション基礎演習科目群	TOEIC Basics A	TOEIC対策（700点未満対象）	ENG-101-EV	1	春		2	C. ウィン	429
	TOEIC Basics B	TOEIC対策（700点未満対象）	ENG-102-EV	1	春		2	W. トング	430
	TOEIC Basics C	TOEIC対策（700点未満対象）	ENG-103-EV	1	春		2	ウィルキンソン ヤエコ	431
	TOEIC Skills A	TOEIC対策（750点未満対象）	ENG-104-EV	1		秋	2	C. ウィン	432
	TOEIC Skills B	TOEIC対策（750点未満対象）	ENG-105-EV	1		秋	2	W. トング	433
	TOEIC Skills C	TOEIC対策（750点未満対象）	ENG-106-EV	1		秋	2	ウィルキンソン ヤエコ	434
	Paragraph Writing A		ENG-107-EV	1	春		2	J. F. モア	435
	Paragraph Writing B	Grammar-based Writing	ENG-108-EV	1	春		2	萱　忠義	436
	Paragraph Writing C	パラグラフの書き方	ENG-109-EV	1	春		2	高橋　礼子	437
	Writing Practice A		ENG-110-EV	1	春		2	J. F. モア	438
	Writing Practice B	Grammar-based Writing	ENG-111-EV	1	春		2	萱　忠義	439

英語コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
英語コミュニケーション英語演習基礎科目群	Writing Practice C	パラグラフを書く	ENG-112-EV	1	春		2	高橋　礼子	440
	Essay Writing A		ENG-113-EV	1		秋	2	J．F．モア	441
	Essay Writing B	Grammar-based Writing	ENG-114-EV	1		秋	2	萱　　忠義	442
	Essay Writing C	エッセイの書き方	ENG-115-EV	1		秋	2	高橋　礼子	443
	Writing Skills A		ENG-116-EV	1		秋	2	J．F．モア	444
	Writing Skills B	Grammar-based Writing	ENG-117-EV	1		秋	2	萱　　忠義	445
	Writing Skills C	エッセイを書く	ENG-118-EV	1		秋	2	高橋　礼子	446
	Academic Writing A		ENG-201-EV	2	春		2	J．F．モア	447
	Academic Writing B	Supporting Your Ideas with Sources	ENG-202-EV	2		秋	2	J．F．モア	448
	Presentations A		ENG-203-EV	2	春		2	J．テスター	449
	Presentations B		ENG-204-EV	2		秋	2	J．テスター	450
	Listening Practice A		ENG-205-EV	2	春		2	渡辺　幸俊	451
	Listening Practice B		ENG-206-EV	2		秋	2	渡辺　幸俊	452
	Listening Skills A		ENG-207-EV	2	春		2	渡辺　幸俊	453
	Listening Skills B		ENG-208-EV	2		秋	2	渡辺　幸俊	454
	Discussing Global Issues A		ENG-209-EV	2	春		2	G．ディオリオ	455
	Discussing Global Issues B		ENG-210-EV	2		秋	2	G．ディオリオ	456
	Discussing Business Issues A		ENG-211-EV	2	春		2	T．スコット	457
	Discussing Business Issues B		ENG-212-EV	2		秋	2	T．スコット	458
英語コミュニケーション英語演習専門科目群	Debate A	Effective Arguments	ECM-301-EW	3	春		2	C．トロイ	459
	Debate B	Effective Arguments	ECM-302-EW	3		秋	2	C．トロイ	460
	Business Presentations A		ECM-303-EW	3	春		2	伊藤　直美	461
	Business Presentations B		ECM-304-EW	3		秋	2	伊藤　直美	462
	Business Writing A		ECM-305-EW	3	春		2	T．スコット	463
	Business Writing B		ECM-306-EW	3		秋	2	T．スコット	464
	Discussing Current Issues A		ECM-307-EW	3	春		2	C．L．イヤリー	465
	Discussing Current Issues B		ECM-308-EW	3		秋	2	C．L．イヤリー	466
	Newspaper English A		ECM-309-EW	3	春		2	J．テスター	467
	Newspaper English B		ECM-310-EW	3		秋	2	J．テスター	468
	In-Depth News Listening A	ニュースとビジネス英語のリスニング	ECM-311-EW	3	春		2	C．ウィン	469
	In-Depth News Listening B	ニュースとビジネス英語のリスニング	ECM-312-EW	3		秋	2	C．ウィン	470
英語コミュニケーション専門演習科目群	国際コミュニケーション特殊演習Ⅰ	Contemporary Japanese society as seen by a foreign scholar	ECM-301-EY	3	春		2	G．R．ファリア	471
	国際コミュニケーション特殊演習Ⅱ	Contemporary Japanese society as seen by a foreign scholar	ECM-302-EY	3		秋	2	G．R．ファリア	472
	※映像文化特殊演習Ⅰ	聖書と映画	ECM-303-EY	3	春		2	岩﨑　光洋	473
	映像文化特殊演習Ⅱ	アカデミー賞作品とアメリカ文化	ECM-304-EY	3		秋	2	岩﨑　光洋	474
	日本文化発信英語特殊演習Ⅰ	Outside the Mainstream	ECM-305-EY	3	春		2	J．F．モア	475
	日本文化発信英語特殊演習Ⅱ	Outside the Mainstream	ECM-306-EY	3		秋	2	J．F．モア	476

英語コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
英語コミュニケーション専門演習科目群	ビジネスコミュニケーション特殊演習Ⅰ	Discussing Business Topics	ECM-307-EY	3	春		2	C．ウィン	477
	ビジネスコミュニケーション特殊演習Ⅱ	Discussing Business Topics	ECM-308-EY	3		秋	2	C．ウィン	478
	第二言語習得特殊演習Ⅰ	第二言語の学習	ECM-309-EY	3	春		2	萱　忠義	479
	第二言語習得特殊演習Ⅱ	第二言語の教授法	ECM-310-EY	3		秋	2	萱　忠義	480
	World Englishes 特殊演習Ⅰ	世界の多様な英語	ECM-311-EY	3	春		2	高橋　礼子	481
	World Englishes 特殊演習Ⅱ	世界の多様な英語	ECM-312-EY	3		秋	2	高橋　礼子	482
	英語コミュニケーション演習ⅠA	卒業論文作成　Ⅰ	ECM-313-EY	3	春		2	岩﨑　光洋	483
	英語コミュニケーション演習ⅠB	Intercultural Communication Ⅰ	ECM-314-EY	3	春		2	G．R．ファリア	484
	英語コミュニケーション演習ⅠD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	ECM-316-EY	3	春		2	高橋　礼子	485
	英語コミュニケーション演習ⅠE	ビジネス英語	ECM-317-EY	3	春		2	C．ウィン	486
	英語コミュニケーション演習ⅠF	応用言語学：英語学習法・教授法	ECM-318-EY	3	春		2	萱　忠義	487
	英語コミュニケーション演習ⅡA	卒業論文　Ⅰ	ECM-319-EY	3		秋	2	岩﨑　光洋	488
	英語コミュニケーション演習ⅡB	Intercultural Communication Ⅱ	ECM-320-EY	3		秋	2	G．R．ファリア	489
	英語コミュニケーション演習ⅡD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	ECM-322-EY	3		秋	2	高橋　礼子	490
	英語コミュニケーション演習ⅡE	ビジネス英語	ECM-323-EY	3		秋	2	C．ウィン	491
	英語コミュニケーション演習ⅡF	応用言語学：英語学習法・教授法	ECM-324-EY	3		秋	2	萱　忠義	492
	英語コミュニケーション演習ⅢA	卒業論文作成　Ⅰ	ECM-425-EY	4	春		2	岩﨑　光洋	483
	英語コミュニケーション演習ⅢB	Intercultural Communication Ⅰ	ECM-426-EY	4	春		2	G．R．ファリア	484
	英語コミュニケーション演習ⅢC	Discussing Japan	ECM-427-EY	4	春		2	J．F．モア	493
	英語コミュニケーション演習ⅢD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	ECM-428-EY	4	春		2	高橋　礼子	485
	英語コミュニケーション演習ⅢE	ビジネス英語	ECM-429-EY	4	春		2	C．ウィン	486
	英語コミュニケーション演習ⅢF	応用言語学：英語学習法・教授法	ECM-430-EY	4	春		2	萱　忠義	487
	英語コミュニケーション演習ⅣA	卒業論文　Ⅰ	ECM-431-EY	4		秋	2	岩﨑　光洋	488
	英語コミュニケーション演習ⅣB	Intercultural Communication Ⅱ	ECM-432-EY	4		秋	2	G．R．ファリア	489
	英語コミュニケーション演習ⅣC	Discussing Japan	ECM-433-EY	4		秋	2	J．F．モア	494
	英語コミュニケーション演習ⅣD	「国際共通語」としての英語と世界の英語	ECM-434-EY	4		秋	2	高橋　礼子	490
	英語コミュニケーション演習ⅣE	ビジネス英語	ECM-435-EY	4		秋	2	C．ウィン	491
	英語コミュニケーション演習ⅣF	応用言語学：英語学習法・教授法	ECM-436-EY	4		秋	2	萱　忠義	492
卒業研究・卒業論文	卒業研究（春）	（英語コミュニケーション学科）	ECM-401-EZ	4	春集中		8	G．R．ファリア	495
	卒業研究（秋）	（英語コミュニケーション学科）	ECM-402-EZ	4		秋集中	8	G．R．ファリア	496
	卒業論文（春）	（英語コミュニケーション学科）	ECM-403-EZ	4	春集中		8	G．R．ファリア	497
	卒業論文（秋）	（英語コミュニケーション学科）	ECM-404-EZ	4		秋集中	8	G．R．ファリア	498
国際コミュニケーション学科・国際関係基礎科目群	経営学Ⅰ	経営学の基礎を学び、キャリアについて考える	MAN-101-IA	1～		秋	2	金城　亜紀	227
	※マーケティングⅠ	消費財マーケティングの基礎理論	MAN-202-IA	2～	春		2	田島　博和	228
	地域研究基礎論Ⅰ（第三世界）	中・東欧研究概論（1）	ARE-103-IA	1～	春		2	中島　崇文	229
	地域研究基礎論Ⅱ（第三世界）	中・東欧研究概論（2）	ARE-104-IA	1～		秋	2	石田　信一	230
	国際関係基礎論Ⅰ	国際安全保障学の基礎	INR-105-IA	1～	春		2	畠山　圭一	231

英語コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション学科・国際関係基礎科目群	国際関係基礎論Ⅱ	国際政治経済の基本的枠組み	INR-106-IA	1～		秋	2	荘林幹太郎	232
	環境科学Ⅰ	環境問題を理解するための自然・社会科学の基礎	ENV-107-IA	1～	春		2	荘林幹太郎	233
	環境科学Ⅱ	環境政策概論	ENV-108-IA	1～		秋	2	加藤　弘二	234
	マスコミュニケーション論Ⅰ(概論)	メディアと社会	SOC-109-IA	1～	春		2	蔡　星慧	235
国際コミュニケーション学科・地域文化系基礎科目群	言語学Ⅰ	記号のシステム・音と語の仕組み・対照言語学	LIN-101-IB	1～	春		2	佐藤　直人	236
	言語学Ⅱ	統語論・意味論・語用論と言語学史	LIN-102-IB	1～		秋	2	佐藤　直人	237
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	LIN-103-IB	1～	春		2	福島　直恭	238
	社会言語学Ⅱ	近代日本の言語政策	LIN-104-IB	1～		秋	2	福島　直恭	239
	文化人類学Ⅰ	文化人類学の基礎概念	ANT-105-IB	1～	春		2	齋藤　亜子	240
	文化人類学Ⅱ	現代における民族：文化人類学とフィールドワーク	ANT-106-IB	1～		秋	2	齋藤　亜子	241
	北米文化論	北米地域の地理・風土と政治・文化	ARE-107-IB	1～		秋	2	畠山　圭一	242
	ヨーロッパ文化論	近代ヨーロッパの宗教・思想・文化	PHL-108-IB	1～		秋	2	根占　献一	243
	アジア文化論	アジアにおける戦争、革命、社会変容	ARE-109-IB	1～	春		2	金野　純	244
	イスラム文化論Ⅰ	イスラムの基礎知識	ARE-110-IB	1～	春		2	小野　仁美	245
	言語地理学	スラヴの言語と文化	GEO-111-IB	1～		秋	2	坂倉　千鶴	246
	比較神話論		ANT-112-IB	1～	春		2	東　由美子	247
	比較道具論	生活を支える道具から生活文化を考察する	LIF-113-IB	1～	春		2	真島　麗子	248
	比較居住文化論	モンゴロイドアジア大陸部を中心として	LIF-114-IB	1～	春		2	乾　尚彦	249
国際コミュニケーション学科・国際関係専門科目群	国際コミュニケーション論	歴史を動かす国際報道	ICM-201-IC	2～		秋	2	明石　和康	274
	国際関係論Ⅰ（国際関係史）	複数の国際社会	INR-202-IC	2～	春		2	工藤　晶人	275
	国際関係論Ⅱ（日欧関係）	日欧関係にみる近世と近代	INR-203-IC	2～		秋	2	工藤　晶人	276
	国際関係論Ⅲ（日米関係）		INR-204-IC	2～	春		2	畠山・齋藤	277
	※国際関係論Ⅳ（将来展望）	21世紀の国際関係	INR-205-IC	2～		秋	2	畠山　圭一	278
	国際法Ⅰ	分権社会の法	LAW-206-IC	2～	春		2	櫻井　大三	279
	国際法Ⅱ	国家と国際法	LAW-207-IC	2～		秋	2	櫻井　大三	280
	ボランティア論Ⅰ	ボランティアとは？ 国際協力ＮＧＯの活動を通し学ぶ	VOL-208-IC	2～	春		2	野口　朝夫	281
	ボランティア論Ⅱ	NPOとわたしたち	VOL-209-IC	2～		秋	2	伊藤由紀子	282
	国際機構論Ⅰ	国際機構の設立と構造	INR-310-IC	3～	春		2	小中さつき	283
	国際機構論Ⅱ	様々な分野における国際機構の活動	INR-311-IC	3～		秋	2	小中さつき	284
	国際開発論Ⅰ	国際開発援助	INR-212-IC	2～	春		2	伊藤由紀子	285
	国際開発論Ⅱ		INR-213-IC	2～		秋	2	眞嶋　麻子	286
	経営学Ⅱ	経営学の基礎を、「会社」を題材に、体系的かつ実践的に学ぶ	MAN-214-IC	2～	春		2	金城　亜紀	287
	※マーケティングⅡ	東南アジアでのマーケティング	MAN-215-IC	2～		秋	2	田島　博和	288
	金融論	金融の基本を学ぶ	ECO-216-IC	2～		秋	2	佐久間　潮	289
	国際経済Ⅰ	貿易と外国為替の基礎	ECO-217-IC	2～	春		2	佐久間　潮	290
	国際経済Ⅱ		ECO-218-IC	2～		秋	2	渡邉　淳	291
	マスコミュニケーション論Ⅱ(理論)	メディアとコミュニケーション、メディアと文化	SOC-219-IC	2～		秋	2	蔡　星慧	292

英語コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
国際コミュニケーション学科・国際関係専門科目群	マスコミュニケーション論Ⅲ(広告・PR)	広告やPRの役割を理解する	SOC-220-IC	2～	春		2	中馬　淳	293
	☆比較教育学			3～	－	－	2	－	－
	比較政治学Ⅰ	比較政治：日本と中国	POL-222-IC	2～	春		2	杉原　志啓	294
	比較政治学Ⅱ	日中対立とアメリカ政治	POL-223-IC	2～		秋	2	杉原　志啓	295
	国際政治Ⅰ（歴史と現状）	国際政治の歴史と現状	POL-224-IC	2～	春		2	畠山　圭一	296
	国際政治Ⅱ（日本の使命）	近代日本政治外交史	POL-225-IC	2～		秋	2	齋藤　洋子	297
	国際政治Ⅲ（構造変化）	国際関係の構造変化と21世紀の課題	POL-326-IC	3～	春		2	加藤　朗	298
	国際政治Ⅳ（国際戦略）	国際戦略の理論と政策	POL-327-IC	3～		秋	2	加藤　朗	299
	ヨーロッパ政治史Ⅰ	ホロコースト研究	HIS-328-IC	3～	春		2	武井　彩佳	300
	ヨーロッパ政治史Ⅱ	強制移住とジェノサイド	HIS-329-IC	3～		秋	2	武井　彩佳	301
国際コミュニケーション学科・地域文化系専門科目群	アメリカ文化論Ⅰ	米大統領とアメリカの政治・社会	POL-201-ID	2～	春		2	石澤　靖治	302
	アメリカ文化論Ⅱ		POL-202-ID	2～		秋	2	前嶋　和弘	303
	イスラム文化論Ⅱ	イスラムと社会生活	ARE-203-ID	2～		秋	2	小野　仁美	304
	☆イギリス文化論Ⅰ			2～	－	－	2	－	－
	☆イギリス文化論Ⅱ	英国文化展望：中世から現代へ	ARE-205-ID	2～	春		2	古庄　信	305
	フランス文化論Ⅰ	フランスの歴史と文化	ARE-206-ID	2～	春		2	工藤　晶人	306
	フランス文化論Ⅱ	フランスの歴史と文化	ARE-207-ID	2～		秋	2	工藤　晶人	307
	ドイツ文化論Ⅰ	「ドイツ的」とは何か	ARE-208-ID	2～	春		2	武井　彩佳	308
	ドイツ文化論Ⅱ	戦後ドイツ社会	ARE-209-ID	2～		秋	2	武井　彩佳	309
	イタリア文化論Ⅰ	都市文化としてのイタリア文化とその歴史	ARE-210-ID	2～	春		2	根占　献一	310
	イタリア文化論Ⅱ	文学と絵画に描かれる18世紀のヴェネツィア	LIT-211-ID	2～		秋	2	宮坂　真紀	311
	東南アジア文化論Ⅰ（大陸部）	遺跡を通してみるアジア文化	ARE-212-ID	2～	春		2	重枝　豊	312
	東南アジア文化論Ⅱ（島嶼部）	居住文化と生活文化からアジアの基層文化を考える	ARE-213-ID	2～		秋	2	乾　尚彦	313
	☆アフリカ文化論	多様な文化や社会への理解から築く相互関係	ARE-214-ID	2～		秋	2	津山　直子	314
	☆中南米文化論	ラテンアメリカの歴史と文化	ARE-215-ID	2～	春		2	佐藤　正樹	315
	中国文化論		ARE-216-ID	2～		秋	2	金野　純	316
	朝鮮文化論	韓国の文化と社会	ARE-217-ID	2～	春		2	羅　京洙	317
	☆南アジア文化論	基本的身体行為から理解する南アジアの文化と社会	ARE-218-ID	2～	春		2	杉本　浄	318
	☆ロシア文化論	伝統文化、宗教、民族、日常社会についての考察	ARE-219-ID	2～	春		2	中村　逸郎	319
	東欧文化論	ドナウ流域諸国の歴史と文化	ARE-220-ID	2～	春		2	中島　崇文	320
	☆オセアニア文化論	日濠関係を考える	ARE-221-ID	2～	春		2	阿久津博康	321
	アメリカ文学Ⅰ		LIT-222-ID	2～	春		2	山口志のぶ	322
	アメリカ文学Ⅱ		LIT-223-ID	2～		秋	2	山口志のぶ	323
	☆イギリス文学Ⅰ	映像によるイギリス文学　1	LIT-224-ID	2～	春		2	岩﨑　光洋	324
	☆イギリス文学Ⅱ	映画で学ぶ英文学	LIT-225-ID	2～		秋	2	岩﨑　光洋	325
	比較音楽論Ⅰ（東洋）		ART-326-ID	3～	春		2	丸山　洋司	326
	比較音楽論Ⅱ（西洋）	ヨーロッパの社会とオペラ	ART-327-ID	3～		秋	2	米田かおり	327

英語コミュニケーション学科　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科　目　名	副　　題	ｺｰｽ・ﾅﾝﾊﾞｰ	配当年次	学期		単位	担　当　者	頁
国際コミュニケーション学科・境界横断専門科目群	☆比較宗教論Ⅰ	死者の救済と共同体におけるその位置	PHL-328-ID	3～	春		2	田口　博子	328
	☆比較宗教論Ⅱ	信仰における「喪の作業」の役割	PHL-329-ID	3～		秋	2	田口　博子	329
	文化遺産学	文化財から文化遺産へ	MSE-230-ID	2～	春		2	M．ウーゴ	330

以下は、平成23～25年度入学者を対象とする科目群である。

科目群	科　目　名	副　　題	ｺｰｽ・ﾅﾝﾊﾞｰ	配当年次	学期		単位	担　当　者	頁
指定された他学科専門科目	日本文化政策論Ⅰ	文化政策の基本構造	MSE-101-JA	1～	春		2	阿曽村智子	42
	日本文化政策論Ⅱ	日本文化政策の現状	MSE-102-JA	1～		秋	2	阿曽村智子	43
	比較文化論Ⅹ（工芸）	海を渡った工芸品	ART-310-JE	3～	春		2	福島　雅子	135

英語コミュニケーション基礎演習IA・IIIA

3630010100100

副　題	アメリカ文化論（移民）							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-101-EX ECM-213-EX

〔授業の到達目標〕

アメリカ文化の多様性を移民の歴史・文化から理解する。

〔授業の内容〕

移民の国，人種のルツボ，などといわれるアメリカ。そのアメリカを形成する多くの異なった民族がどのような推移で，一つのアメリカという国家を形成しながらも，その一方で自己の独自性というアイデンティティーを保持してきたのかを考えてみたい。アメリカの歴史を理解した上での講義・演習となるので，知識のない人はしっかり学習した上で授業に参加していただきたい。書籍からはなかなか理解できない時代背景などをより鮮明に理解していただけるよう，映像作品（映画・ニュース映画・ドキュメント・フィルムなど）をできるだけ多用しながら，議論と考察を加えてみたい。本年度は黒人，ユダヤ，アジア，ヒスパニックを中心に取り上げることとする。歴史的・社会的背景などについても十分に加味しながら授業を進めることにする。

〔教材〕

参考書：野村達朗『「民族」で読むアメリカ』（講談社現代新書）講談社
　　松尾式戎之『民族から読み解く「アメリカ」』（講談社選書メチエ）講談社
プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布プリントの熟読（予習：2時間　復習：2時間）

〔成績評価の方法〕

授業内での発表20%　レポート30%　試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日4時限。アポイントメントをとること。

〔授　業　計　画〕

第1週　イギリスからの移民。映画　Scarlet Letterを参考に，イギリスからプリマス周辺に移民して来た人たちの生活・風習・宗教観などを見て，アメリカの原点を考える。
第2週　黒人移民の歴史　1　奴隷解放までの歴史　映画　AMISTAD
第3週　黒人移民の歴史　2　公民権運動　「キング牧師，マルコムX，ケネディー」映画　MALCOLM X
第4週　黒人移民の歴史　3　映画　The Color Purple
第5週　黒人移民の歴史　4　黒人のアメリカ社会における現状　映画　Jungle Fever
第6週　ユダヤ系アメリカ人　1　第二次大戦以前　映画　Gentleman's Agreement
第7週　ユダヤ系アメリカ人　2　第二次大戦以降　映画　Schindler's List
第8週　ユダヤ系アメリカ人　3　アメリカの政治・経済等への影響力
第9週　日系アメリカ人　映画　Snow Falling on Cedars
第10週　中国系アメリカ人　映画　JOY LUCK CLUB
第11週　ヒスパニック　映画　SCARFACE
第12週　移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題　1
第13週　移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題　2
第14週　まとめ
第15週　〃

英語コミュニケーション基礎演習IB・IIIB

3630010100200

副　題	Cross-cultural Communication							担　当　者	G．R．ファリア　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-102-EX ECM-214-EX

〔授業の到達目標〕

In this course, we will be developing our competence in cross-cultural communication, which is communication between people of different cultural and ethnic backgrounds. We will strive to recognize and accept beliefs and values that are different from our own, develop understanding of the value systems of others, become aware of our own prejudices and stereotyped thinking as well as those of others. We will strive to learn about other cultures, develop an open-minded attitude toward cultural differences, become familiar with nonverbal behavior and cultural practices, values, and customs.

〔授業の内容〕

The textbook, Cultures in Contrast, will guide us with readings, vocabulary, discussion questions focusing on various cultures, but especially contemporary American culture. Following the interests of the students, students will form groups and choose from the themes in the text (listed below) to study and lead the class in discussion each week. After we have studied a particular theme, students will write an essay or report on that theme. As well as developing your competence in cross-cultural communication, you will also be developing your ability in reading, writing, listening to, and speaking English, as the entire class will be conducted in English.

〔教材〕

教科書：Myra Shulman, *Cultures in Contrast*, 2nd Edition, University of Michigan Press, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours each week to study the textbook in preparation for class discussions as well as 2 hours to prepare weekly reports or essays.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), group presentations (20%), reports and essays (50%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 13：00～14：30.
See the schedule outside my office door for other options by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Social adjustment: culture shock
第 3 週　Academic motivation: miscommunication
第 4 週　Group learning: unethical behavior
第 5 週　Campus living: roommate relations
第 6 週　Time management: punctuality
第 7 週　Difficult decisions: interpersonal conflict
第 8 週　Gender issues: sexual orientation
第 9 週　Peer pressure: binge drinking
第10週　Religious beliefs: discrimination
第11週　Student-teacher interactions: sexual harassment
第12週　Academic integrity: plagiarism
第13週　Personal relationships: racism and prejudice
第14週　Discussion
第15週　〃

英語コミュニケーション基礎演習IC・IIIC

3630010100300

副　題	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	担　当　者	J．F．モア　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-103-EX ECM-215-EX

〔授業の到達目標〕

外国人に日本について説明する場合，表現に苦心する原因の１つは，風土，文化，習慣の違いが多くて，適切な言葉が見出せないことにある。この演習の目的は，日本的な物や習慣について英語で読んだり書いたりすることによって，自分のまわりの日本的世界を英語で表現出来るようになることである。その際に必要になる「定義をするための英語」と「過程を描写し，やり方を説明する英語」のパターンは基本的なものである。しかも，英語の学術論文にもよく利用されているものでもあり，使いこなせるようになると後々まで便利である。

〔授業の内容〕

テキストは，時間感覚から新聞・ビジネス・ショッピングまで様々なテーマをとりあげ，日本とアメリカの社会や国民の考え方を比較し，その違いと変化を指摘しているものである。学生がプレゼンテーションでは，テキストのサマリーに自分で調べた情報をつけて発表して，クラスメートの考えを英語で聞き出そうとする。この二つの作業，英作文と英文の reading and discussionを平行した授業になる。

授業は英語で行う。

〔教材〕

教科書：Paul Stapleton, *Exploring Hidden Culture*, Kinseido, 2001

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Read the assigned chapter each week before class and prepare a two-paragraph comment, along with your questions about it, and discussion questions for the class.

Presentation preparation (8 hours).

Examination preparation (7 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%，presentation 20%，weekly assignments 25%, final examination 25%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第１週　Getting acquainted and presentation scheduling
第２週　Presentations and discussion　ものの定義をする練習
第３週　〃
第４週　Presentations and discussion　意見を述べる練習
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　Presentations and discussion　比較をする練習
第９週　〃
第10週　〃
第11週　Presentations and discussion　過程・やり方を説明する練習
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　Final discussion
試験期間に期末試験を行う。

英語コミュニケーション基礎演習ID・IIID

3630010100400

副　題	「国際共通語」としての英語							担　当　者	高橋　礼子　専任講師
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-104-EX ECM-216-EX

〔授業の到達目標〕

英語が世界的に広がった背景，英語使用の現状，英語が果たす役割，英語の多様性について学び，英語を取り巻く状況を多面的にとらえることができるようになる。英語で意見を交換し，自分の意見を発表できるようになる。

〔授業の内容〕

まずはじめに，今日の英語の世界的な広がりや英語使用の現状，英語が果たす役割について様々な観点から見ていく。World Englishesにも触れ，世界の様々な英語も紹介する。「English as a Lingua Franca」とは何かについても考える。演習を通して，皆さんにとって英語，英語学習とは何なのか，未来における英語の役割と英語教育についても一緒に考えていく。

〔教材〕

教科書：『English Outlook: A Content-based Approach to English Learning』南雲堂，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定した教科書の範囲にはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

（1）　出席，授業への積極的な参加（30%）
（2）　プレゼンテーション（30%）
（3）　課題　（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日，12：10〜13：30
reiko.takahashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　英語の世界的な広がり
第2週　English as a Lingua Francaとは？
第3週　英語の多様性
第4週　英語の広がりと歴史的背景
第5週　世界における英語使用の現状
第6週　World Englishes
第7週　アジアの英語
第8週　日本の英語（1）
第9週　日本の英語（2）
第10週　ヨーロッパ／アフリカの英語
第11週　公用語論
第12週　英語の役割
第13週　未来における英語教育
第14週　プレゼンテーション（1）
第15週　プレゼンテーション（2）
進捗状況により，内容を変更する可能性があります。

英語コミュニケーション基礎演習IE・IIIE

3630010100500

副　題	ビジネス英話							担　当　者	C．ウィン　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-105-EX ECM-217-EX

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to learn basic business communication skills in English.

〔授業の内容〕

この授業は初級～準中級向けのビジネス英会話です。会社案内，アポイントメントの取り方，電話対応，商品やサービスの説明，苦情の取り扱い方などのビジネスにおける様々な場面を取り上げ，適切な英語表現を学び，ビジネスの基本的な英語コミュニケーションスキルを育成します。ロールプレーやプレゼンテーションを通じて必要性と実感が湧くよう授業を進めます。ボキャブラリー練習を行い，ビジネス英語の語彙の取得だけではなく，実践的な使い方や言い回しを身につけます。ビジネス英会話のリスニング練習も行い，英語の聴解力を高めます。この授業を通して英語を話す自信をつけ，実際の社会で使えるよう期待します。英語のビジネスコミュニケーション能力向上はTOEICテストのスコアアップにもつながります。この授業を終了後にはTOEICテストを受験，あるいは再受験していただきたい。

〔教材〕

教科書：Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457818-9) Oxford University Press, 2009
Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate Workbook New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457810-3) Oxford University Press, 2009

700点以上の正式なTOEICスコアを有する学生：
授業中に正式なTOEICスコアを提示した場合，Business Venture 2 Pre-Intermediate WORKBOOK New Edition（ISBN: 978-0-19-457810-3）を購入する必要がない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance & Participation 30%, Homework 40%, Presentation 10%, Test 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔備考〕

受講対象者：
TOEIC受験未経験者あるいはTOEIC 650点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第１週　Socializing
第２週　Telephoning
第３週　Making Appointments
第４週　Presenting Information
第５週　Products and Services
第６週　Discussing Decisions
第７週　Dealing with Complaints
第８週　Checking Progress
第９週　Describing the Future
第10週　Regulations and Advice
第11週　Meetings
第12週　Presentations
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

英語コミュニケーション基礎演習IF・IIIF

3630010100600

副　題	英語学習法							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-106-EX ECM-218-EX

〔授業の到達目標〕
（1）　言語とは何かを知る。
（2）　言語学の基礎を理解する。
（3）　さまざまな英語教授法を概観する。
（4）　効率的・効果的な教授法を考察する。

〔授業の内容〕
この基礎演習では，まず「言語とは何か？」を考えることから始めます。そして，言語の本質を理解した上で，「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいのか？」を考察していく予定です。基礎演習の前半部分では言語学的要素を，後半部分では応用言語学的・英語教育学的要素を主に扱います。この基礎演習を通して広範な言語習得研究を概観できるようなクラスを展開していく予定です。この分野に関して興味がある人は歓迎します。なお，入門コースであるので予備知識は必要としませんが，教科書の理解及びクラス内活動では英語力が必須となります。

〔教材〕
教科書：Shawn M. Clankie & Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, 三修社, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習は，１回の授業につき，予習２時間，復習２時間程度とする）。

〔成績評価の方法〕
出席及びクラスへの参加度20%, クイズ20%, 試験60%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日の５時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　言語学の基礎知識：言語の始まり
第３週　言語学の基礎知識：言語の変遷
第４週　言語学の基礎知識：動物に言語はあるのか
第５週　言語学の基礎知識：公用語とは何か
第６週　言語学の基礎知識：方言とは何か
第７週　言語学の基礎知識：言語の危機と消滅
第８週　理解度の確認
第９週　応用言語学：若いほど言語は習得しやすいのか？
第10週　応用言語学：優れた言語の学習者とは？
第11週　応用言語学：語学習得における教授法の役割
第12週　応用言語学：バイリンガル教育について
第13週　応用言語学：早期英語教育について
第14週　理解度の確認
第15週　総復習・まとめ

英語コミュニケーション基礎演習ⅡA・ⅣA

3630010200100

副　題	アメリカ文化論（移民）							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-107-EX ECM-219-EX

〔授業の到達目標〕
　アメリカ文化の多様性を移民の歴史・文化から理解する。

〔授業の内容〕
　移民の国，人種のルツボ，などといわれるアメリカ。そのアメリカを形成する多くの異なった民族がどのような推移で，一つのアメリカという国家を形成しながらも，その一方で自己の独自性というアイデンティティーを保持してきたのかを考えてみたい。アメリカの歴史を理解した上での講義・演習となるので，知識のない人はしっかり学習した上で授業に参加していただきたい。書籍からはなかなか理解できない時代背景などをより鮮明に理解していただけるよう，映像作品（映画・ニュース映画・ドキュメント・フィルムなど）をできるだけ多用しながら，議論と考察を加えてみたい。本年度は黒人，ユダヤ，アジア，ヒスパニックを中心に取り上げることとする。歴史的・社会的背景などについても十分に加味しながら授業を進めることにする。

〔教材〕
　参考書：野村達朗『「民族」で読むアメリカ』（講談社現代新書）講談社
　　松尾式戎之『民族から読み解く「アメリカ」』（講談社選書メチエ）講談社
　プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　予習：2時間　復習：2時間

〔成績評価の方法〕
　授業内での発表20%　レポート30%　試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　金曜日4時限。アポイントメントをとること。

〔授　業　計　画〕

第1週　イギリスからの移民。映画　Scarlet Letterを参考に，イギリスからプリマス周辺に移民して来た人たちの生活・風習・宗教観などを見て，アメリカの原点を考える。
第2週　黒人移民の歴史　1　奴隷解放までの歴史　映画　AMISTAD
第3週　黒人移民の歴史　2　公民権運動　「キング牧師，マルコムX，ケネディー」映画　MALCOLM X
第4週　黒人移民の歴史　3　映画　The Color Purple
第5週　黒人移民の歴史　4　黒人のアメリカ社会における現状　映画　Jungle Fever
第6週　ユダヤ系アメリカ人　1　第二次大戦以前　映画　Gentleman's Agreement
第7週　ユダヤ系アメリカ人　2　第二次大戦以降　映画　Schindler's List
第8週　ユダヤ系アメリカ人　3　アメリカの政治・経済等への影響力
第9週　日系アメリカ人　映画　Snow Falling on Cedars
第10週　中国系アメリカ人　映画　JOY LUCK CLUB
第11週　ヒスパニック　映画　SCARFACE
第12週　移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題　1
第13週　移民と人種差別に関する現代アメリカ諸問題　2
第14週　まとめ
第15週　〃

英語コミュニケーション基礎演習IIB・IVB

3630010200200

副　題	Cross-cultural Communication							担　当　者	G．R．ファリア　教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-108-EX ECM-220-EX

〔授業の到達目標〕

In this course, we will be developing our competence in cross-cultural communication, which is communication between people of different cultural and ethnic backgrounds. We will strive to recognize and accept beliefs and values that are different from our own, develop understanding of the value systems of others, become aware of our own prejudices and stereotyped thinking as well as those of others. We will strive to learn about other cultures, develop an open-minded attitude toward cultural differences, become familiar with nonverbal behavior and cultural practices, values, and customs.

〔授業の内容〕

The textbook, Cultures in Contrast, will guide us with readings, vocabulary, discussion questions focusing on various cultures, but especially contemporary American culture. Following the interests of the students, students will form groups and choose from themes in the text (listed below) to study and lead the class in discussion each week. After we have studied a particular theme, students will write an essay or report on that theme. As well as developing your competence in cross-cultural communication, you will also be developing your ability in reading, writing, listening to, and speaking English, as the entire class will be conducted in English.

〔教材〕

教科書：Myra Shulman, *Cultures in Contrast*, 2nd Edition, University of Michigan Press, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours each week to study the textbook in preparation for class discussions as well as 2 hours to prepare weekly reports or essays.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), group presentations (20%), reports and essays (50%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 13：00～14：30.
See the schedule outside my office door for other options by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Social adjustment: culture shock
第 3 週　Academic motivation: miscommunication
第 4 週　Group learning: unethical behavior
第 5 週　Campus living: roommate relations
第 6 週　Time management: punctuality
第 7 週　Difficult decisions: interpersonal conflict
第 8 週　Gender issues: sexual orientation
第 9 週　Peer pressure: binge drinking
第10週　Religious beliefs: discrimination
第11週　Student-teacher interactions: sexual harassment
第12週　Academic integrity: plagiarism
第13週　Personal relationships: racism and prejudice
第14週　Discussion
第15週　〃

英語コミュニケーション基礎演習IIC・IVC

3630010200300

副　題	「Tell me about Japan」と言われた時の英語	担　当　者	J．F．モア　教授

単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-109-EX ECM-221-EX

〔授業の到達目標〕

The goals of this class are to become more comfortable speaking and writing about Japan in English, and to become more aware of the differences in the ways people communicate in Japanese and in English.

〔授業の内容〕

外国人に日本について説明する場合，表現に苦心する原因の１つは，風土，文化，習慣の違いが多くて，適切な言葉が見出せないことにある。この演習の目的は，日本的な物や習慣について英語で読んだり書いたりすることによって，自分のまわりの日本的世界を英語で表現出来るようになることである。その際に必要になる「定義をするための英語」と「過程を描写し，やり方を説明する英語」のパターンは基本的なものである。しかも，英語の学術論文にもよく利用されているものでもあり，使いこなせるようになると後々まで便利である。

演習中で読むテキストは日本語と英語を比較し，その違いを学習者としてどう対応すべきかをテーマにしている。学生がするプレゼンテーションでは，テキストのサマリーを用意して，クラスメートの理解を確認して，意見を英語で聞き出そうとする。この二つの作業，英作文と英文の　reading and discussionを平行した授業になる。授業は英語で行う。

〔教材〕

教科書：*Handouts will be given in class*

教科書は授業中に指示，配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of reading and two paragraph comment for class discussion.
Preparation for presentation (8 hours).
Preparation for examination (7 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and participation in class discussion 30%；　presentation 20%；　weekly written assignments 25%；　final examination 25%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第１週　Getting acquainted and presentation scheduling
第２週　Presentations and discussion　ものの定義をする練習
第３週　〃
第４週　Presentations and discussion　意見を述べる練習
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　Presentations and discussion　比較をする練習
第９週　〃
第10週　〃
第11週　Presentations and discussion　過程・やり方を説明する練習
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　Final discussion
試験期間に期末試験を行う。

英語コミュニケーション基礎演習IID・IVD

3630010200400

副　題	「国際共通語」としての英語							担　当　者	高橋　礼子　専任講師
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-110-EX ECM-222-EX

〔授業の到達目標〕

英語が世界的に広がった背景，英語使用の現状，英語が果たす役割，英語の多様性について学び，英語を取り巻く状況を多面的にとらえることができるようになる。英語で意見を交換し，自分の意見を発表できるようになる。

〔授業の内容〕

まずはじめに，今日の英語の世界的な広がりや英語使用の現状，英語が果たす役割について様々な観点から見ていく。World Englishesにも触れ，世界の様々な英語も紹介する。「English as a Lingua Franca」とは何かについても考える。演習を通して，皆さんにとって英語，英語学習とは何なのか，未来における英語の役割と英語教育についても一緒に考えていく。

〔教材〕

教科書：『English Outlook: A Content-based Approach to English Learning』南雲堂，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定した教科書の範囲にはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

（1）　出席，授業への積極的な参加（30%）
（2）　プレゼンテーション（30%）
（3）　課題　（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日，12：10〜13：30
reiko.takahashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　英語の世界的な広がり
第2週　English as a Lingua Francaとは？
第3週　英語の多様性
第4週　英語の広がりと歴史的背景
第5週　世界における英語使用の現状
第6週　World Englishes
第7週　アジアの英語
第8週　日本の英語（1）
第9週　日本の英語（2）
第10週　ヨーロッパ／アフリカの英語
第11週　公用語論
第12週　英語の役割
第13週　未来における英語教育
第14週　プレゼンテーション（1）
第15週　プレゼンテーション（2）
進捗状況に応じて，内容を変更する可能性があります。

英語コミュニケーション基礎演習IIE・IVE

3630010200500

副　題	ビジネス英話							担　当　者	C．ウィン　教授
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-111-EX ECM-223-EX

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to learn basic business communication skills in English.

〔授業の内容〕

この授業は初級～準中級向けのビジネス英会話です。会社案内，アポイントメントの取り方，電話対応，商品やサービスの説明，苦情の取り扱い方などのビジネスにおける様々な場面を取り上げ，適切な英語表現を学び，ビジネスの基本的な英語コミュニケーションスキルを育成します。ロールプレーやプレゼンテーションを通じて必要性と実感が湧くよう授業を進めます。ボキャブラリー練習を行い，ビジネス英語の語彙の取得だけではなく，実践的な使い方や言い回しを身につけます。ビジネス英会話のリスニング練習も行い，英語の聴解力を高めます。この授業を通して英語を話す自信をつけ，実際の社会で使えるよう期待します。英語のビジネスコミュニケーション能力向上はTOEICテストのスコアアップにもつながります。この授業を終了後にはTOEICテストを受験，あるいは再受験していただきたい。

〔教材〕

教科書：Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457818-9) Oxford University Press, 2009
Roger Barnard & Jeff Cady, *Business Venture 2 Pre-Intermediate Workbook New Edition*, (ISBN: 978-0-19-457810-3) Oxford University Press, 2009

700点以上の正式なTOEICスコアを有する学生：
授業中に正式なTOEICスコアを提示した場合，Business Venture 2 Pre-Intermediate WORKBOOK New Edition（ISBN: 978-0-19-457810-3）を購入する必要がない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance & Participation 30%, Homework 40%, Presentation 10%, Test 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔備考〕

受講対象者：
TOEIC受験未経験者あるいはTOEIC 650点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第１週　Socializing
第２週　Telephoning
第３週　Making Appointments
第４週　Presenting Information
第５週　Products and Services
第６週　Discussing Decisions
第７週　Dealing with Complaints
第８週　Checking Progress
第９週　Describing the Future
第10週　Regulations and Advice
第11週　Meetings
第12週　Presentations
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

英語コミュニケーション基礎演習IIF・IVF

3630010200600

副　題	英語学習法							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	1 2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-112-EX ECM-224-EX

〔授業の到達目標〕
（1）言語とは何かを知る。
（2）言語学の基礎を理解する。
（3）さまざまな英語教授法を概観する。
（4）効率的・効果的な教授法を考察する。

〔授業の内容〕
この基礎演習では，まず「言語とは何か？」を考えることから始めます。そして，言語の本質を理解した上で，「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいのか？」を考察していく予定です。基礎演習の前半部分では言語学的要素を，後半部分では応用言語学的・英語教育学的要素を主に扱います。この基礎演習を通して広範な言語習得研究を概観できるようなクラスを展開していく予定です。この分野に関して興味がある人は歓迎します。なお，入門コースであるので予備知識は必要としませんが，教科書の理解及びクラス内活動では英語力が必須となります。

〔教材〕
教科書：Shawn M. Clankie & Toshihiko Kobayashi, *Language and Our World*, 三修社, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習は，1回の授業につき，予習2時間，復習2時間程度とする）。

〔成績評価の方法〕
出席及びクラスへの参加度20%, クイズ20%, 試験60%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　言語学の基礎知識：言語の始まり
第3週　言語学の基礎知識：言語の変遷
第4週　言語学の基礎知識：動物に言語はあるのか
第5週　言語学の基礎知識：公用語とは何か
第6週　言語学の基礎知識：方言とは何か
第7週　言語学の基礎知識：言語の危機と消滅
第8週　理解度の確認
第9週　応用言語学：若いほど言語は習得しやすいのか？
第10週　応用言語学：優れた言語の学習者とは？
第11週　応用言語学：語学習得における教授法の役割
第12週　応用言語学：バイリンガル教育について
第13週　応用言語学：早期英語教育について
第14週　理解度の確認
第15週　総復習・まとめ

海外研修 A

3630030300100

副　題	Studying at the Universityof Lethbridge	担　当　者	岩﨑　光洋　教授

単位	18	配当年次	2	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-225-EX

〔授業の到達目標〕

6か月間のカナダ留学研修。語学研修のみならず異文化交流の実戦の場として有効に過ごすことが求める。留学期間中は積極的にコミュニケーションを図り，国際的な視野を広げるとともに，多様な価値観が存在する社会で生き抜く能力を養うよう努力すること

〔授業の内容〕

授業は全てレスブリッジ大学側が提供。授業では簡潔で明瞭な発言，応答が常に求められていることを意識して，予習すること。なお，語学の成績によりレスブッリジ大学の通常科目を上限3科目まで履修することが可能。特に，ライティング能力の不足が指摘されているので，十二分な準備をすること。

〔教材〕

レスブッリジ大学が提供

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習　5時間　復習　3時間

〔成績評価の方法〕

レスブッリジ大学側からの評価を70パーセント
レポート　30パーセント

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

2週間に1度，メールにて学業とホームステーに関する報告を必ずすること
メール

〔授　業　計　画〕

第1回　1ガイダンス，ヒアリング・ライティング試験
第2回　2授業開始
第3回　3
第4回　4
第5回　5
第6回　6
第7回　7
第8回　8
第9回　9
第10回　10
第11回　11
第12回　12
第13回　13
第14回　14
第15回　15

海外研修Ｂ

3630030300200

副　題	Studying at the Universityof Lethbridge							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	18	配当年次	2	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-226-EX

〔授業の到達目標〕

６か月間のカナダ留学研修。語学研修のみならず異文化交流の実戦の場として有効に過ごすことが求める。留学期間中は積極的にコミュニケーションを図り，国際的な視野を広げるとともに，多様な価値観が存在する社会でより自分の協調性と個性を磨くよう努力すること

〔授業の内容〕

授業は全てレスブリッジ大学側が提供。授業では簡潔で明瞭な発言，応答が常に求められていることを意識して，予習すること。なお，語学の成績によりレスブッリジ大学の通常科目を上限３科目まで履修することが可能。特に，ライティング能力の不足が指摘されているので，十二分な準備をすること。選択科目等の履修に関してはレスブリッジ大学の担当者と良く協議すること。

〔教材〕

レスブッリジ大学が提供

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習　５時間　復習　３時間

〔成績評価の方法〕

レスブッリジ大学側からの評価を70パーセント
レポート　30パーセント

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

2週間に１度，メールにて学業とホームステーに関する報告を必ずすること
メール

〔授　業　計　画〕

第１回　１ガイダンス，ヒアリング・ライティング試験
第２回　２授業開始
第３回　３
第４回　４
第５回　５
第６回　６
第７回　７
第８回　８
第９回　９
第10回　10
第11回　11
第12回　12
第13回　13
第14回　14
第15回　15

TOEIC Basics A

3634030100100

副　題	TOEIC対策（700点未満対象）							担　当　者	C．ウィン　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ENG-101-EV

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skils for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い，それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し，より高いスコアを獲得するため，TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし，文法を把握し，聴解を磨き，読解を上達させます。自分の弱みを発見し，分析し，スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ，自分の能力を確認します。当コースの受講者は，授業以外に相当な量の課題が出されるので，自己学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村　紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試1[改訂新版] [CD3枚付き]』（ISBN: 978-4-7890-1388-8）ジャパンタイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席姿勢　30%，宿題　40%，暗唱　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔備考〕

対象者：TOEIC 700点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction，模擬試験
第 2 週　模擬試験
第 3 週　Listening & Reading Comprehension
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　模擬試験
第 9 週　〃
第10週　Listening & Reading Comprehension
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　模擬試験
第15週　〃

TOEIC Basics B

3634030100200

副　題	TOEIC対策（700点未満対象）							担　当　者	W．トング　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-102-EV

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skils for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い，それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し，より高いスコアを獲得するため，TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし，文法を把握し，聴解を磨き，読解を上達させます。自分の弱みを発見し，分析し，スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ，自分の能力を確認します。当コースの受講者は，授業以外に相当な量の課題が出されるので，自己学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEICテスト新最強トリプル模試１』ジャパンタイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席と参加姿勢　30%，宿題　40%，暗唱　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC 700点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction, Confirmation of understanding
第２週　Confirmation of understanding
第３週　Listening & Reading Comprehension
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　Confirmation of understanding
第９週　〃
第10週　Listening & Reading Comprehension
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　Confirmation of understanding
第15週　〃

TOEIC Basics C

3634030100300

副　題	TOEIC対策（700点未満対象）							担　当　者	ウィルキンソン　ヤエコ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ENG-103-EV

〔授業の到達目標〕

Listening, Reading, Grammarの３つの基礎力をアップし，TOEICテストのスピードに対応できる力を養い，より高いTOEICスコアの獲得を目指します。

〔授業の内容〕

語彙力を含む基礎力を伸ばし，TOEICテストで必要とされるスキルを学びます。また，模擬テストを通し，自分の弱みを確認し，復習する事で，弱点を克服します。課題を含め，自己学習が求められます。

〔教材〕

教科書：中村紳一郎『TOEICテスト　新・最強トリプル模試1』（ISBN978-4-7890-1388-8）改定新版，ジャパンタイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学期初めに配布する授業計画表に記載されている通りにホームワークを提出すること

〔成績評価の方法〕

成績は，以下の割合にて評価する。
授業への参加度　20%
授業態度　10%
宿題　20%
単語帳　10%
テスト　20%
ロールプレイ，暗唱　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，授業後に受け付ける。それ以外の時間は，学科事務室を通じて，連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC700点未満の者

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction　理解度の確認
第２週　理解度の確認
第３週　Listening & Reading Comprehension
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　理解度の確認
第８週　〃
第９週　Listening & Reading Comprehension
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　理解度の確認
第14週　Listening & Reading Comprehension
　　まとめ
第15週　理解度の確認
授業計画は，変更することがある。

TOEIC Skills A

3634030200100

副　題	TOEIC対策（750点未満対象）							担　当　者	C．ウィン　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ENG-104-EV

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skils for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い，それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し，より高いスコアを獲得するため，TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし，文法を把握し，聴解を磨き，読解を上達させます。自分の弱みを発見し，分析し，スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ，自分の能力を確認します。当コースの受講者は，授業以外に相当な量の課題が出されるので，自己学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村　紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試2[改訂新版] [CD3枚付き]』（ISBN: 978-4-7890-1389-5）ジャパンタイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席姿勢　30%，宿題　40%，暗唱　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔備考〕

対象者：TOEIC 750点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction,　模擬試験
第 2 週　模擬試験
第 3 週　Listening & Reading Comprehension
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　模擬試験
第 8 週　〃
第 9 週　Listening & Reading Comprehension
第10週　〃
第11週　〃
第12週　模擬試験
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

TOEIC Skills B

3634030200200

副　題	TOEIC対策（750点未満対象）							担　当　者	W．トング　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-105-EV

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build listening, vocabulary, grammar and reading skils for taking the TOEIC test.

〔授業の内容〕

ListeningとReadingを交互に行い，それぞれの分野について解釈していきます。TOEICの内容を理解し，より高いスコアを獲得するため，TOEICテストで必要とされるスキルの向上を目指します。英語の語彙を増やし，文法を把握し，聴解を磨き，読解を上達させます。自分の弱みを発見し，分析し，スキルアップを図ります。TOEIC模擬テストを通じ，自分の能力を確認します。当コースの受講者は，授業以外に相当な量の課題が出されるので，自己学習が必要となります。

〔教材〕

教科書：中村 紳一郎『TOEIC(R)テスト新・最強トリプル模試2』ジャパンタイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席と授業中の姿勢（30%），宿題（40%），テスト（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

対象者：TOEIC 750点未満の者。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction, Confirmation of understanding
第 2 週　Confirmation of understanding
第 3 週　Listening & Reading Comprehension
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　Confirmation of understanding
第 8 週　〃
第 9 週　Listening & Reading Comprehension
第10週　〃
第11週　〃
第12週　Confirmation of understanding
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

TOEIC Skills C

3634030200300

副　題	TOEIC対策（750点未満対象）							担　当　者	ウィルキンソン　ヤエコ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	ENG-106-EV

〔授業の到達目標〕
Listening, Reading, Grammarの３つの基礎力をアップし，TOEICテストのスピードに対応できる力を養い，より高いTOEICスコアの獲得を目指します。

〔授業の内容〕
語彙力を含む基礎力を伸ばし，TOEICテストで必要とされるスキルを学びます。また，模擬テストを通し，自分の弱みを確認し，復習する事で，弱点を克服します。課題を含め，自己学習が求められます。

〔教材〕
教科書：中村紳一郎『TOEICテスト　新・最強トリプル模試2』（ISBN978-4-7890-1389-5）改定新版，ジャパンタイムズ，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
学期初めに配布する授業計画表に記載された通りにホームワークを提出すること

〔成績評価の方法〕
成績は，以下の割合にて評価する。
授業への参加度　20%
授業態度　10%
宿題　20%
単語帳　10%
テスト　20%
ロールプレイ，暗唱　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は，授業後に受け付ける。それ以外の時間は，学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕
対象者：TOEIC750点未満の者

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction　理解度の確認
第２週　理解度の確認
第３週　Listening & Reading Comprehension
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　理解度の確認
第８週　〃
第９週　Listening & Reading Comprehension
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　理解度の確認
第14週　Listening & Reading Comprehension
まとめ
第15週　理解度の確認
授業計画は，変更することがある。

Paragraph Writing A

3634030300100

副　題								担　当　者	Ｊ．Ｆ．モア　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-107-EV

〔授業の到達目標〕

In this course students will be introduced to, and practice, the basics of writing paragraphs and essays.

〔授業の内容〕

We will begin at the paragraph level, reviewing topic and supporting sentences, and practice writing paragraphs. Then we will progress to short essays containing an introductory paragraph with thesis statement, supporting paragraphs and concluding paragraph.

〔教材〕

教科書：Alice Oshima, Ann Hogue, *Longman Academic Writing Series: Level 4 Essays*, 5th Edition, Pearson, 20__

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Review of previous lesson and preparation of writing assignments.
Review for final examination (5 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendence and class participation 30%, weekly writing assignments 45%, final examination 25%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第 1 週　What is a paragraph?
第 2 週　Improving your paragraphs
第 3 週　What are the parts of an essay?
第 4 週　Essay Practice
第 5 週　Supporting your ideas
第 6 週　Essay Practice
第 7 週　Process Essay
第 8 週　Cause Essay
第 9 週　Effect Essay
第10週　Support your ideas with information from sources
第11週　Comparison/Contrast Essay
第12週　〃
第13週　Argumentative Essay
第14週　〃
第15週　Final Review

Paragraph Writing B

3634030300200

副　題	Grammar-based Writing							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ENG-108-EV

〔授業の到達目標〕

This is a companion course to Writing Practice B conducted by the same instructor.

1) To brush up grammar knowledge and to increase vocabulary
2) To learn the concept of the paragraph with reference to its unity and coherence, and structure
3) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012
参考書：綿貫　陽 / マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法（例文暗記CD付き）』旺文社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習2時間，復習2時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Unit 1: What Are the CUBING and POWER System？　（1）
第3週　Unit 1: What Are the CUBING and POWER System？　（2）
第4週　Unit 2: What Is Writing？　（1）
第5週　Unit 2: What Is Writing？　（2）
第6週　Unit 3: About the Paragraph　（1）
第7週　Unit 3: About the Paragraph　（2）
第8週　レポートの書き方・フォーマット
第9週　Unit 4: Descriptive Paragraph [Describe It]　（1）
第10週　Unit 4: Descriptive Paragraph [Describe It]　（2）
第11週　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph [Compare It]　（1）
第12週　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph [Compare It]　（2）
第13週　Unit 6: Process Paragraph [Narrate It]　（1）
第14週　Unit 6: Process Paragraph [Narrate It]　（2）
第15週　総復習・まとめ

Paragraph Writing C

3634030300300

副　題	パラグラフの書き方							担　当　者	高橋　礼子　専任講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ENG-109-EV

〔授業の到達目標〕

このコースでは，パラグラフの構造と書き方を学び，パラグラフが書けるようになる。

〔授業の内容〕

まずはじめに，パラグラフとは何か，パラグラフの構成要素（topic sentence, supporting sentence（s），concluding sentence），又その書き方を学ぶ。次に，様々なパラグラフの展開方法（描写，過程，意見文等）を学ぶ。最終的には，エッセイとは何か，又，エッセイの構成要素について理解を深めることが目標である。

〔教材〕

教科書：『Success with College Writing』Macmillan Languagehouse，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定した教科書の範囲にはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

（1）　授業への出席，積極的な参加（30%）
（2）　学期中課題　（30%）
（3）　学期末課題　（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日，12：10～13：30
reiko.takahashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　The definition of a paragraph
第2週　The structure of a paragraph
第3週　Identifying and writing topic sentences
第4週　Paragraph support and development
第5週　Writing concluding sentences
第6週　Descriptive paragraphs
第7週　Process paragraphs
第8週　Opinion paragraphs
第9週　Comparison & Contrast paragraphs
第10週　Problem & Solution paragraphs
第11週　The definition of an essay
第12週　The structure of an essay
第13週　Outlining an essay
第14週　Introductions and conclusions
第15週　Unity and coherence
進捗状況に応じて，内容を変更する可能性があります。

Writing Practice A

3634030400100

副　題								担　当　者	Ｊ．Ｆ．モア　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-110-EV

〔授業の到達目標〕

In this course students will be introduced to, and practice, the basics of writing in English. It is taught in conjunction with Paragraph Writing A.

〔授業の内容〕

We will begin at the paragraph level, reviewing topic and supporting sentences, and practice writing paragraphs.Then we will progress to short essays containing an introductory paragraph with thesis statement, supporting paragraphs and concluding paragraph.

〔教材〕

教科書：

(Same as for Paragraph Writing A - buy only 1 copy！)

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Review previous lesson and prepare writing assignment.

Review to prepare for final examination (5 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%, weekly writing assignments 45%, final examination 25%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第 1 週　What is a paragraph?
第 2 週　Improving your paragraphs
第 3 週　What are the parts of an essay?
第 4 週　Essay Practice
第 5 週　Supporting your ideas
第 6 週　Essay Practice
第 7 週　Process Essay
第 8 週　Cause Essay
第 9 週　Effect Essay
第10週　Support your ideas with information from sources
第11週　Comparison/Contrast Essay
第12週　〃
第13週　Argumentative Essay
第14週　〃
第15週　Final Review

Writing Practice B

3634030400200

副　題	Grammar-based Writing							担　当　者	萱　忠義　准教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-111-EV

〔授業の到達目標〕

This is a companion course to Paragraph Writing B conducted by the same instructor.

1) To brush up grammar knowledge and to increase vocabulary
2) To learn the concept of the paragraph with reference to its unity and coherence, and structure
3) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012
参考書：綿貫　陽 / マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法（例文暗記CD付き）』旺文社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習2時間，復習2時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Unit 1: What Are the CUBING and POWER System？　（1）
第3週　Unit 1: What Are the CUBING and POWER System？　（2）
第4週　Unit 2: What Is Writing？　（1）
第5週　Unit 2: What Is Writing？　（2）
第6週　Unit 3: About the Paragraph　（1）
第7週　Unit 3: About the Paragraph　（2）
第8週　レポートの書き方・フォーマット
第9週　Unit 4: Descriptive Paragraph [Describe It]　（1）
第10週　Unit 4: Descriptive Paragraph [Describe It]　（2）
第11週　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph [Compare It]　（1）
第12週　Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph [Compare It]　（2）
第13週　Unit 6: Process Paragraph [Narrate It]　（1）
第14週　Unit 6: Process Paragraph [Narrate It]　（2）
第15週　総復習・まとめ

Writing Practice C

3634030400300

副　題	パラグラフを書く							担　当　者	高橋　礼子　専任講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-112-EV

〔授業の到達目標〕

Paragraph Writingで学んだパラグラフの書き方を確認し，練習を通して英語でまとまりのある文章が書けるようになる。

〔授業の内容〕

まずはじめに，リーディングやディスカッション（ペア又はグループ），フリーライティングを通して自分の考えをまとめ，トピックに関連する語彙や表現，文の構造を学び，パラグラフを書く練習をする。クラスの中で書いた物を交換して互いにコメントをしたり，そのコメントを基に書き直したりして，より良いライティングを目指す。授業では，様々な分野のトピックを取り上げる。最終的には，複数のパラグラフをまとめてエッセイにする手法を学ぶ。

〔教材〕

教科書：*Success with College Writing*, Macmillan LanguageHouse, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定した教科書の範囲にはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

（1）　授業への出席，積極的な参加（30%）
（2）　学期中課題　（30%）
（3）　学期末課題　（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日，12：10～13：30
reiko.takahashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　Introduction
第2週　Process writing
第3週　Choosing and narrowing a topic
第4週　Gathering ideas
第5週　Peer editing
第6週　Describing people, places, and processes
第7週　Transitions
第8週　Modal auxiliaries, Causal adverbs
第9週　Comparative and contrastive structures, Similarities and differences, Advantages and disadvantages
第10週　Conditional structures
第11週　How to format an essay, Writing thesis statements
第12週　Writing
第13週　Writing an outline
第14週　Essays for examinations
第15週　Editing an essay for unity & coherence
進捗状況に応じて，内容を変更する可能性があります。

Essay Writing A

3634030500100

副　題								担　当　者	Ｊ．Ｆ．モア　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-113-EV

〔授業の到達目標〕

This course will give students opportunity to refine their ability to write short essays in English.

〔授業の内容〕

We will continue to work on paragraph coherence and development, discuss the development of the Introduction further, and write essays using different patterns of organization.

〔教材〕

教科書：To be announced

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Review of previous class content and preparation of writing assignments.
Review in preparation for final examination (5 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%, weekly writing assignments 45%, final examination 25%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第１週　Essay Review
第２週　further practice in using and documenting sources
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

Essay Writing B

3634030500200

副　題	Grammar-based Writing							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ENG-114-EV

〔授業の到達目標〕

This is a companion course to Writing Skills B conducted by the same instructor.

1) To be able to write an essay of multiple paragraphs on topics related to personal life and interests
2) To understand the fundamentals of academic writing and research papers
3) To learn how to type a composition based on a writing format or style
4) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012
参考書：綿貫　陽 / マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法（例文暗記CD付き）』旺文社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習2時間，復習2時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Unit 7: Narrative Paragraph [Narrate It]（1）
第3週　Unit 7: Narrative Paragraph [Narrate It]（2）
第4週　Unit 8: Summary Paragraph [Summarize It]（1）
第5週　Unit 8: Summary Paragraph [Summarize It]（2）
第6週　Unit 9: Analysis Paragraph [Explain It]（1）
第7週　Unit 9: Analysis Paragraph [Explain It]（2）
第8週　レポートの書き方・フォーマット
第9週　Unit 10: Cause and Effect Paragraph [Explain It]（1）
第10週　Unit 10: Cause and Effect Paragraph [Explain It]（2）
第11週　Unit 11: Persuasive Paragraph [Argue It]（1）
第12週　Unit 11: Persuasive Paragraph [Argue It]（2）
第13週　Unit 12: Problem-Solution Paragraph [Argue It]（1）
第14週　Unit 12: Problem-Solution Paragraph [Argue It]（2）
第15週　総復習・まとめ

Essay Writing C

3634030500300

副　題	エッセイの書き方							担　当　者	高橋　礼子　専任講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ENG-115-EV

〔授業の到達目標〕

このコースでは，すでに学んだパラグラフとエッセイの書き方を復習し，英語でエッセイが書けるようになる。

〔授業の内容〕

まずは，エッセイの構成要素であるintroductory paragraph（thesis statementを含む），supporting paragraph, concluding paragraphの書き方を学ぶ。次に英語の論理展開を理解して，一貫性のあるエッセイの書き方や，目的に応じたエッセイのパターン（原因・結果，意見文，対象，比較等）を学ぶ。

〔教材〕

教科書：Nancy Herzfeld-Pipkin, *Destinations 2: Writing for Academic Success*, Thomson Heinle, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教科書の範囲にはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

（1）　出席，授業への積極的な参加（30%）
（2）　学期中課題　（30%）
（3）　学期末課題　（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日，12：10～13：30
reiko.takahashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　Review of paragraphs, The definition of an essay
第2週　Introductory paragraph, Thesis statement
第3週　Supporting paragraph(s), Concluding paragraph
第4週　Narrative essay 1
第5週　Narrative essay 2
第6週　Process essay 1
第7週　Process essay 2
第8週　Cause essay
第9週　Effect essay
第10週　Opinion essay 1
第11週　Opinion essay 2
第12週　Comparison & contrast essay 1
第13週　Comparison & contrast essay 2
第14週　Writing
第15週　〃

進捗状況に応じて，内容を変更する可能性があります。

Writing Skills A

3634030600100

副　題								担　当　者		Ｊ．Ｆ．モア　教授	
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	ENG-116-EV

〔授業の到達目標〕

This course, which is taught in conjunction with Essay Writing A, will give students opportunity to refine their ability to write short essays in English.

〔授業の内容〕

We will continue to work on paragraph coherence and development, discuss the development of the Introduction further, and write essays using different patterns of organization.

〔教材〕

Same as for Essay Writing A. Buy only one copy.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Review of previous lesson and preparation of writing assignments.
Review of semester content in preparation for final examination (5 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%, weekly writing assignments 45%, final examination 25%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第１週　Essay Review
第２週　further practice in using and documenting sources
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

Writing Skills B

3634030600200

副　題	Grammar-based Writing							担　当　者	萱　忠義　准教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ENG-117-EV

〔授業の到達目標〕

This is a companion course to Essay Writing B conducted by the same instructor.

1) To be able to write an essay of multiple paragraphs on topics related to personal life and interests
2) To understand the fundamentals of academic writing and research papers
3) To learn how to type a composition based on a writing format or style
4) To practice in editing one's own and others' compositions

〔授業の内容〕

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are supposed to be proactive in order to express their thoughts and opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

〔教材〕

教科書：Matthew A. Taylor & David E. Kluge, *Basic Steps to Academic Writing*, Cengage Learning, 2012
参考書：綿貫　陽 / マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法（例文暗記CD付き）』旺文社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習2時間，復習2時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席およびクラスへの参加度20%，クイズ及び課題40%，試験（期末）40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Unit 7: Narrative Paragraph [Narrate It]（1）
第3週　Unit 7: Narrative Paragraph [Narrate It]（2）
第4週　Unit 8: Summary Paragraph [Summarize It]（1）
第5週　Unit 8: Summary Paragraph [Summarize It]（2）
第6週　Unit 9: Analysis Paragraph [Explain It]（1）
第7週　Unit 9: Analysis Paragraph [Explain It]（2）
第8週　レポートの書き方・フォーマット
第9週　Unit 10: Cause and Effect Paragraph [Explain It]（1）
第10週　Unit 10: Cause and Effect Paragraph [Explain It]（2）
第11週　Unit 11: Persuasive Paragraph [Argue It]（1）
第12週　Unit 11: Persuasive Paragraph [Argue It]（2）
第13週　Unit 12: Problem-Solution Paragraph [Argue It]（1）
第14週　Unit 12: Problem-Solution Paragraph [Argue It]（2）
第15週　総復習・まとめ

Writing Skills C

3634030600300

副　題	エッセイを書く							担　当　者	高橋　礼子　専任講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-118-EV

〔授業の到達目標〕

このコースでは，様々なエッセイの展開方法を学び，英語でエッセイが書けるようになる。

〔授業の内容〕

リーディングやペア又はグループ･ディスカッションを通して自分の考えをまとめ，語彙力･表現力を強化し，文の構造を学びながら，エッセイを書く練習をする。授業では，様々な分野のトピック（心理学，歴史，環境，文化，ビジネス）を取り上げる。

〔教材〕

教科書：Nancy Herzfeld-Pipkin, *Destinations 2: Writing for Academic Success*, Thomson Heinle, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教科書の範囲にはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

（1）　授業への出席，積極的な参加（30%）
（2）　学期中課題　（30%）
（3）　学期末課題　（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日，12：10～13：30
reiko.takahashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1: How we learn and how we think
第 3 週　〃
第 4 週　Unit 2: The African-American experience
第 5 週　〃
第 6 週　Unit 3: Live long, live well
第 7 週　〃
第 8 週　Unit 4: Our Earth, our resources, our environment
第 9 週　〃
第10週　Unit 5: Different people, different ways
第11週　〃
第12週　Unit 6: The changing face of business
第13週　〃
第14週　Writing
第15週　〃
進捗状況に応じて，内容を変更する可能性があります。

Academic Writing A

3634030700100

副　題								担　当　者	Ｊ．Ｆ．モア　教授
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-201-EV

〔授業の到達目標〕

This class is intended to make your writing more persuasive through the inclusion and synthesis of supporting information from various sources with appropriate citation.

〔授業の内容〕

In this class you will continue to improve your ability to write essays. You will practice the skills of paraphrase and summary in English, and learn to give in-text citations. You will become able to write research papers that include information from authoritative sources.

〔教材〕

教科書：Alan Meyers, *Longman Academic Writing Series Level 5 Essays To Research Papers*, Pearson Longman, 2006

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Review of previous class content and preparation of writing assignments.
Preparation of final research paper (15 hours).

〔成績評価の方法〕

Evaluation will be based on: Attendance and class participation, 30%； essay assignments (5) 45%, and a final research paper 25%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Review of Essay Structure
第 2 週　Classification Essay
第 3 週　Using Surveys
第 4 週　Process Essay
第 5 週　Summary Writing
第 6 週　Cause-Effect Essays
第 7 週　Definitions
第 8 週　Definition Essay
第 9 週　Problem/Solution Essay
第10週　Summary/Response Essay
第11週　〃
第12週　Argumentative Essay
第13週　〃
第14週　Research Papers
第15週　〃
There will be a final research paper instead of a final examination.

Academic Writing B

3634030700200

副　題	Supporting Your Ideas with Sources							担　当　者	J．F．モア　教授		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENG-202-EV

〔授業の到達目標〕

The goals of the class are to improve your ability to synthesize material from several sources and use it to support your arguments in research papers, and to raise the level of sophistication of your writing.

〔授業の内容〕

Students will continue to improve their academic essays. By practicing a variety of types of essays in which you use quotation, paraphrase, and summary and then document your sources you will become able to write well-organized academic essays.

〔教材〕

教科書：Alan Meyers, *Longman Academic Writing Series Level 5 Essays to Research Papers*

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of readings and essay assignments.
Preparation of final research paper (15 hours).

〔成績評価の方法〕

Attendance and class participation 30%, Chapter essays （4） 50%, Final paper 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
　　Review of Essay Structure
第 2 週　Classification Essay
第 3 週　Using Surveys
第 4 週　Process Esssay
第 5 週　Writing summaries
第 6 週　Cause/Effect Essay
第 7 週　Definitions
第 8 週　Definition Essay
第 9 週　Problem/Solution Essay
第10週　Summary/Response Essay
第11週　〃
第12週　Argumentative Essay
第13週　〃
第14週　Research Papers
第15週　〃
There will be a final research paper rather than an examination.

Presentations A

3634030800100

副　題								担　当　者	J. テスター　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月	時限	1	コース・ナンバー	ENG-203-EV

〔授業の到達目標〕

Students will learn to deliver effective and succinct presentations on a variety of topics.

〔授業の内容〕

Students will study and practice the various elements that make up an effective presentation through individual assignments, working with study partners and group work. They will learn how to structure a talk, prepare visual aids and give a full presentation. Students will also learn how to handle questions.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 40%
Completion of homework 20%
Classroom presentations 20%
Final presentation 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Essential English communication skills.
第 2 週　Presentation overview.
第 3 週　Correct posture and eye contact.
第 4 週　The use of gesture to emphasize.
第 5 週　How to use word stress.
第 6 週　Creating effective visual aids.
第 7 週　Explaining visual aids.
第 8 週　Describing trends.
第 9 週　Presentation Introduction.
第10週　Presentation main body.
第11週　Using transitions.
第12週　Presentation conclusion.
第13週　Handling questions.
第14週　Giving a full presentation.
第15週　Presentations for assessment.

Presentations B

3634030800200

副　題								担　当　者	J. テスター　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	1	コース・ナンバー	ENG-204-EV

〔授業の到達目標〕

Students will learn to deliver effective and succinct presentations on a variety of topics.

〔授業の内容〕

Students will study and practice the various elements that make up an effective presentation through individual assignments, working with study partners and group work. They will learn how to structure a talk, prepare visual aids and give a full presentation. Students will also learn how to handle questions.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 40%
Completion of homework 20%
Classroom presentations 20%
Final presentation 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Essential English communication skills.
第 2 週　Presentation overview.
第 3 週　Correct posture and eye contact.
第 4 週　The use of gesture to emphasize.
第 5 週　How to use word stress.
第 6 週　Creating effective visual aids.
第 7 週　Explaining visual aids.
第 8 週　Describing trends.
第 9 週　Presentation Introduction.
第10週　Presentation main body.
第11週　Using transitions.
第12週　Presentation conclusion.
第13週　Handling questions.
第14週　Giving a full presentation.
第15週　Presentations for assessment.

Listening Practice A

3634030900100

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-205-EV

〔授業の到達目標〕

政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。この授業はListening Skills Aとのペア授業です。

〔授業の内容〕

日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の第11週目以降には，それまでに学習したニュースの中から１つを選択し，暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表していただきます。

〔教材〕

教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2016』株式会社ニュートン

「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントで用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕

試験は行いません。評価は授業への参加度30%，各回の語彙テスト40%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表30%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕

テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。
毎回のニュース・ファイル持ち帰り用のUSB（４G以上推奨）をご用意ください。

Listening Practice B

3634030900200

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	ENG-206-EV

〔授業の到達目標〕

政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。この授業はListening Skills Bとのペア授業です。

〔授業の内容〕

日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の第11週目以降には，それまでに学習したニュースの中から１つを選択し，暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表していただきます。

〔教材〕

教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2016』株式会社ニュートン

「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕

試験は行いません。評価は授業への参加度30%，各回の語彙テスト40%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表30%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕

テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。
毎回のニュース・ファイル持ち帰り用のUSB（４G以上推奨）をご用意ください。

Listening Skills A

3634031000100

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-207-EV

〔授業の到達目標〕

政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。この授業はListening Practice Aとのペア授業です。

〔授業の内容〕

日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の第11週目以降には，それまでに学習したニュースの中から１つを選択し，暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表していただきます。

〔教材〕

教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2016』株式会社ニュートン

「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕

試験は行いません。評価は授業への参加度30%，各回の語彙テスト40%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表30%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕

テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。
毎回のニュース・ファイル持ち帰り用のUSB（４G以上推奨）をご用意ください。

Listening Skills B

3634031000200

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ENG-208-EV

〔授業の到達目標〕
政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。この授業はListening Practice Bとのペア授業です。

〔授業の内容〕
日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の第11週目以降には，それまでに学習したニュースの中から１つを選択し，暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表していただきます。

〔教材〕
教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2016』株式会社ニュートン
「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕
試験は行いません。評価は授業への参加度30%，各回の語彙テスト40%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表30%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕
テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。
毎回のニュース・ファイル持ち帰り用のUSB（４G以上推奨）をご用意ください。

Discussing Global Issues A

3634031100100

副　題								担　当　者	G．ディオリオ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-209-EV

〔授業の到達目標〕

To develop reading, discussion, and debate skills through research into and discussion of current events.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn to critically read different types of news and opinion articles, to connect different ideas, and to support opinions using evidence. In addition to textbook readings, the class as a whole will choose a topic to research deeply and discuss in class. Students' research and ideas are an integral part of the course.

〔教材〕

教科書：*Reading the News*, (Pete Sharma) Heinle Cengage, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every week, students will need to find and read articles on the topic chosen by the class and write short summaries of their research.

〔成績評価の方法〕

30% - Preparation, including research and homework
50% - Class discussion and participation
20% - Essay

Class participation is the most important part of the course. Therefore, on-time attendance and active participation in class are important.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

After class or by appointment. Please e-mail to set up and appointment.
In-person after class or by e-mail: gsdeorio●gmail.com（change ● to @）.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course introduction
第 2 週　Reading News and Features
　　Weekly news round-up
第 3 週　Reading Opinion pieces
　　Weekly news round-up
第 4 週　Reading Business articles
　　Weekly news round-up
第 5 週　Reading Lifestyle articles
　　Weekly news round-up
第 6 週　Reading Arts and Entertainment articles
　　Weekly news round-up
第 7 週　Reading Technology, Science, and Health articles
　　Selection of research topic
第 8 週　Group discussion of research topic 1
　　Research summary
第 9 週　Group discussion of research topic 2
　　Research summary
第10週　Group discussion of research topic 3
　　Research summary
第11週　Group discussion of research topic 4
　　Research summary
第12週　Group discussion of research topic 5
　　Research summary
第13週　Group discussion of research topic 6
　　Research summary
　　Essay explanation
第14週　Group discussion of research topic 7
　　Final summary of research
　　Essay explanation
第15週　Student presentations of essays
　　Final discussion
　　Course closing

Specific assignments will be decided each week, based on in-class discussion.

Discussing Global Issues B

3634031100200

副　題								担　当　者	G．ディオリオ　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ENG-210-EV

〔授業の到達目標〕

To develop reading, discussion, and debate skills through research into and discussion of current events.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn to critically read different types of news and opinion articles, to connect different ideas, and to support opinions using evidence. In addition to textbook readings, the class as a whole will choose a topic to research deeply and discuss in class. Students' research and ideas are an integral part of the course.

〔教材〕

教科書：*Reading the News*, (Pete Sharma) Heinle Cengage, 2007

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every week, students will need to find and read articles on the topic chosen by the class and write short summaries of their research.

〔成績評価の方法〕

30% - Preparation, including research and homework
50% - Class discussion and participation
20% - Essay

Class participation is the most important part of the course. Therefore, on-time attendance and active participation in class are important.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

After class or by appointment. Please e-mail to set up and appointment.
In-person after class or by e-mail: gsdeorio●gmail.com（change ● to @）.

〔授　業　計　画〕

第１週　Course introduction
第２週　Reading News and Features
　　Weekly news round-up
第３週　Reading Opinion pieces
　　Weekly news round-up
第４週　Reading Business articles
　　Weekly news round-up
第５週　Reading Lifestyle articles
　　Weekly news round-up
第６週　Reading Arts and Entertainment articles
　　Weekly news round-up
第７週　Reading Technology, Science, and Health articles
　　Selection of research topic
第８週　Group discussion of research topic 1
　　Research summary
第９週　Group discussion of research topic 2
　　Research summary
第10週　Group discussion of research topic 3
　　Research summary
第11週　Group discussion of research topic 4
　　Research summary
第12週　Group discussion of research topic 5
　　Research summary
第13週　Research summary
　　Essay explanation
第14週　Final summary of research
　　Essay explanation
第15週　Student presentations of essays
　　Final discussion

Specific assignments will be decided each week, based on in-class discussion.

Discussing Business Issues A

3634031200100

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-211-EV

〔授業の到達目標〕

The goal of this subject is to develop practical business communication skills. Through the course, you should be able to build vocabulary and fluency to communicate effectively in business situations.

〔授業の内容〕

This course focuses on the use of practical English in a business environment. The course has been designed to prepare you for using English in the business world. You will be able to communicate and correspond in English with confidence.

〔教材〕

教科書：David Cotton, David Falvey, Simon Kent, *Market Leader Pre-Intermediate Third Edition*, latest Edition, Pearson Longman, 2012

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students need to have the homework completed and be prepared to speak on the topic of the week. In addition, be prepared to ask any questions that you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

There will be tests (60%) and participation (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Careers
第 2 週　Companies
第 3 週　Selling
第 4 週　Great ideas
第 5 週　Stress
第 6 週　Entertaining
第 7 週　Review
第 8 週　New Business
第 9 週　Marketing
第10週　Planning
第11週　Review
第12週　Managing People
第13週　Conflict
第14週　Products
第15週　Review

Discussing Business Issues B

3634031200200

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ENG-212-EV

〔授業の到達目標〕

The goal of this subject is to develop practical business communication skills. Through the course, you should be able to build vocabulary and fluency to communciate effectively in business situations.

〔授業の内容〕

This course focuses on the use of practical English in a business environment. The course has been designed to prepare you for using English in the business world. You will be able to communicate and correspond in English with confidence.

〔教材〕

教科書：David Cotton, David Falvey, Simon Kent, *Market Leader Pre-Intermediate Third Edition*, latest Edition, Pearson Longman, 2012

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the homework and be prepared to speak on the topic of the week. In addition, you should be prepared to ask any questions that you still may have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

There will be tests (60%) and participation (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Careers
第 2 週　Companies
第 3 週　Selling
第 4 週　Great ideas
第 5 週　Stress
第 6 週　Entertaining
第 7 週　Review
第 8 週　New Business
第 9 週　Marketing
第10週　Planning
第11週　Review
第12週　Managing People
第13週　Conflict
第14週　Products
第15週　Review

Debate A

3634040100100

副　題	Effective Arguments							担　当　者	C．トロイ　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-301-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to prepare students to be better at persuading people by learning strategies and techniques to influence people's opinions and actions more effectively.

〔授業の内容〕

This course is designed to teach valuable debating techniques and strategies. Students will learn how to argue in social, professional, and political debates. New techniques and debate tactics will be covered in each class that will help students understand an argument better and become more persuasive when arguing an issue. Debate strategies will be introduced each lesson, and students will be required to research debate topics before class and prepare for and have debates in class.

〔教材〕

教科書：Jay Heinrichs, *Thank You For Arguing*, Second Edition, Three Rivers Press, 2007

Thank You For Arguing: What Aristotle, Lincoln, and Homer Simpson Can Teach Us About the Art of Persuasion ISBN 978-0-307-34144-0

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to read one unit from the book for each class. They will also be required to do research for debates which will be collected and graded.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on quizzes/tests, preparation; debate performance, and attendance; participation. Preparation will be graded based on research notes for the debate topics.

Quizzes 30%, Preparation 15%, Attendance and Debate Participation 25%, Final Exams 30%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

TOEIC700点以上をf-Campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction, understanding the importance of persuasion in everyday life. Setting your goals: deciding what you want to achieve from an argument by setting goals. Debate topic and groups assigned.

第２週　Controlling the tense: When to use the past, present, and future tenses more effectiviely. Debate preparation time given. Groups will be chosen to debate in lesson 3 and they will be given sides (For vs. Against).

第３週　Softening them up: The importance of character, logic, and emotion in debate and sympathizing with your audience. DEBATE 1: Groups chosen in lesson 2 will debate.

第４週　Getting them to like you: The importance of acting the way your audience expects you to act. Debate topic and groups assigned. QUIZ 1: Units 1-3 of the text.

第５週　Making them listen: The three most important traits of persuasive leadership. Groups will be chosen to debate in lesson 6 and they will be given sides (For vs. Against).

第６週　Show leadership: Persuading your audience by showing that you are someone who knows how to solve the problem being debated. DEBATE 2

第７週　Winning their trust: Being more trustworthy by appearing indifferent and reluctant to accept your own side. Debate topic and groups assigned. QUIZ 2: Units 4-6 of the text

第８週　Controlling the mood: The importance of influencing your audience's emotions rather than displaying your own and the value of story-telling. Groups will be chosen to debate in lesson 9 and they will be given sides (For vs. Against).

第９週　Turning the volume down: Using the passive tense to avoid assigning blame and the different types humor and their use. DEBATE 3

第10週　Gaining the high ground: Considering what is in your audience's best interest and convincing them that you are fighting for what's best for them. How to persuade the unpersuadable by agreeing with them. Debate topic and groups assigned. QUIZ 3: Units 7-9

第11週　Persuading on your terms: How to argue when the facts are against you. Groups will be chosen to debate in lesson 12 and they will be given sides (For vs. Against).

第12週　Control the Argument: Using logic to get your audience to agree or to make a conclusion that supports your side. DEBATE 4.

第13週　Review of course materials. QUIZ 4.

第14週　Final Debates: Two debates will be held on this day. Each student will participate in one of them.

第15週　Written Final Review.

Units covered in the quizzes and the debate schedule may change, but students will be told in advance.

Debate B

3634040100200

副　題	Effective Arguments							担　当　者	C．トロイ　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ECM-302-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to prepare students to be better at persuading people by learning strategies and techniques to influence people's opinions and actions more effectively.

〔授業の内容〕

This course is designed to teach valuable debating techniques and strategies. Students will learn how to argue in social, professional, and political debates. New techniques and debate tactics will be covered in each class that will help students understand an argument better and become more persuasive when arguing an issue. Debate strategies will be introduced each lesson, and students will be required to research debate topics before class and prepare for and have debates in class.

〔教材〕

教科書：Jay Heinrichs, *Thank You For Arguing*, Second Edition, Three Rivers Press, 2007

Thank You For Arguing: What Aristotle, Lincoln, and Homer Simpson Can Teach Us About the Art of Persuasion ISBN 978-0-307-34144-0

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to read one unit from the book for each class. They will also be required to do research for debates which will be collected and graded.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on quizzes/tests, preparation; debate performance, and attendance; participation. Preparation will be graded based on research notes for the debate topics.

Quizzes 30%, Preparation 15%, Attendance and Debate Participation 25%, Final Exams 30%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

TOEIC700点以上をf-Campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction, understanding the importance of persuasion in everyday life. Setting your goals: deciding what you want to achieve from an argument by setting goals. Debate topic and groups assigned.

第２週　Controlling the tense: When to use the past, present, and future tenses more effectiviely. Debate preparation time given. Groups will be chosen to debate in lesson 3 and they will be given sides (For vs. Against).

第３週　Softening them up: The importance of character, logic, and emotion in debate and sympathizing with your audience. DEBATE 1: Groups chosen in lesson 2 will debate.

第４週　Getting them to like you: The importance of acting the way your audience expects you to act. Debate topic and groups assigned. QUIZ 1: Units 1-3 of the text.

第５週　Making them listen: The three most important traits of persuasive leadership. Groups will be chosen to debate in lesson 6 and they will be given sides (For vs. Against).

第６週　Show leadership: Persuading your audience by showing that you are someone who knows how to solve the problem being debated. DEBATE 2

第７週　Winning their trust: Being more trustworthy by appearing indifferent and reluctant to accept your own side. Debate topic and groups assigned. QUIZ 2: Units 4-6 of the text

第８週　Controlling the mood: The importance of influencing your audience's emotions rather than displaying your own and the value of story-telling. Groups will be chosen to debate in lesson 9 and they will be given sides (For vs. Against).

第９週　Turning the volume down: Using the passive tense to avoid assigning blame and the different types humor and their use. DEBATE 3

第10週　Gaining the high ground: Considering what is in your audience's best interest and convincing them that you are fighting for what's best for them. How to persuade the unpersuadable by agreeing with them. Debate topic and groups assigned. QUIZ 3: Units 7-9

第11週　Persuading on your terms: How to argue when the facts are against you. Groups will be chosen to debate in lesson 12 and they will be given sides (For vs. Against).

第12週　Control the Argument: Using logic to get your audience to agree or to make a conclusion that supports your side. DEBATE 4.

第13週　Review of course materials. QUIZ 4.

第14週　Final Debates: Two debates will be held on this day. Each student will participate in one of them.

第15週　Written Final Review.

Units covered in the quizzes and the debate schedule may change, but students will be told in advance.

Business Presentations A

3634040200100

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ECM-303-EW

〔授業の到達目標〕
プレゼンテーションは難しい…と思っていませんか？大丈夫です。
「誰に」「何のために」「何を話すのか」という核がしっかりしていれば，
そんなに怖くありません。英語で「分かりやすく伝える」プレゼンテーションを目標とした
talkative and activeクラスです。

〔授業の内容〕
プレゼンテーションに必要な要素（structure, phrases, body language, etc）を学び
＝インプット，その上で実際に実践＝アウトプットしていきます。
見て聞いて実践して，フィードバックを活かし，ステップアップを図りましょう。
テーマはcasualな身の回りのことから，最終的には少々チャレンジングでformalな内容を
目指します。discussionを交え，多くを語る内容です。

〔教材〕
参考書：Mark D. Stafford, *Successful PRESENTATIONS　An Interactive Guide*, Cengage Learning

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
ターゲット（audience, contents, aim）に応じたプレゼンテーションに向け，
リサーチを行なう。適切な用語・フレーズを用いたスピーチ，visual aidsを
準備・練習すること。

〔成績評価の方法〕
Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を。

〔備考〕
TOEIC700点以上をf-Campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit 1: Self Introduction
　　Posture　－　Introduction
第２週　Unit 2: Hometown
　　Eye Contact　－　Overview: TOKYO!
第３週　Unit 3: Family
　　Gestures　－　Details
第４週　Unit 4: Interests
　　Stage Position　－　Conclusion
第５週　Review skills
　　Attend　－　Talk (perform): Fast food, fashion
第６週　Unit 5: Education
　　Projection　－　Introductory Phrases
第７週　Unit 6: Culture Shock
　　Enunciation　－　Signpost Expressions: Fast food, fast fasion w/visual aids
第８週　Unit 7: Stereotypes
　　Intonation　－　Facts & Opinions
第９週　Unit 8: Population
　　Phrasing　－　Supporting Evidence
第10週　Review skills
　　Attend　－　Discussion (perform): Promote a plan to...
第11週　Unit 9: Events
　　Anticipating Questions　－　Informing
第12週　Unit 10: Places
　　Understanding Questions　－　Describing
第13週　Unit 11: Processes
　　Checking Understanding　－　Explaining
第14週　Unit 12: Opinions
　　Staying in Control　－　Persuading
第15週　Final Presentations
各週の内容は授業の進度などにより前後する場合があります。

Business Presentations B

3634040200200

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ECM-304-EW

〔授業の到達目標〕

プレゼンテーションは難しい…と思っていませんか？大丈夫です。
「誰に」「何のために」「何を話すのか」という核がしっかりしていれば，
そんなに怖くありません。英語で「分かりやすく伝える」プレゼンテーションを目標とした
talkative and activeクラスです。

〔授業の内容〕

プレゼンテーションに必要な要素（structure, phrases, body language, etc）を学び
＝インプット，その上で実際に実践＝アウトプットしていきます。
見て聞いて実践して，フィードバックを活かし，ステップアップを図りましょう。
テーマはcasualな身の回りのことから，最終的には少々チャレンジングでformalな内容を
目指します。discussionを交え，多くを語る内容です。

〔教材〕

参考書：Mark D. Stafford, *Successful PRESENTATIONS　An Interactive Guide*, Cengage Learning

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ターゲット（audience, contents, aim）に応じたプレゼンテーションに向け，
リサーチを行なう。適切な用語・フレーズを用いたスピーチ，visual aidsを
準備・練習すること。

〔成績評価の方法〕

Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を。

〔備考〕

TOEIC700点以上をf-Campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit 1: Self Introduction
　　Posture　－　Introduction
第２週　Unit 2: Hometown
　　Eye Contact　－　Overview: TOKYO!
第３週　Unit 3: Family
　　Gestures　－　Details
第４週　Unit 4: Interests
　　Stage Position　－　Conclusion
第５週　Review skills
　　Attend　－　Talk (perform): Fast food, fashion
第６週　Unit 5: Education
　　Projection　－　Introductory Phrases
第７週　Unit 6: Culture Shock
　　Enunciation　－　Signpost Expressions: Fast food, fast fasion w/visual aids
第８週　Unit 7: Stereotypes
　　Intonation　－　Facts & Opinions
第９週　Unit 8: Population
　　Phrasing　－　Supporting Evidence
第10週　Review skills
　　Attend　－　Discussion (perform): Promote a plan to...
第11週　Unit 9: Events
　　Anticipating Questions　－　Informing
第12週　Unit 10: Places
　　Understanding Questions　－　Describing
第13週　Unit 11: Processes
　　Checking Understanding　－　Explaining
第14週　Unit 12: Opinions
　　Staying in Control　－　Persuading
第15週　Final Presentations
各週の内容は授業の進度などにより前後する場合があります。

Business Writing A

3634040300100

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ECM-305-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this subject is to develop practical business writing skills. Through the course, you should be able to build vocabulary and fluency to communicate effectively in business situations.

〔授業の内容〕

The aim of this course is to provide ample opportunities for the students to build upon their written correspondence skills for working in business situations. There will be writing assignments followed by student critiques. A variety of subjects will be covered, for example, requests, replies, notices and apologies. This course will provide a supportive environment for the students to develop useful skills for their future.

〔教材〕

教科書：*Company to Company*, (Andrew Littlejohn) 4th Edition, Cambridge University Press, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the completed homework and be prepared to do the activity of the day. In addition, please ask any questions you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

There will be tests (60%) and participation (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

TOEIC700点以上をf-Campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Making enquiries
第 3 週　Continued from week 2
第 4 週　Business prospects
第 5 週　Continued from week 4
第 6 週　Contacting customers
第 7 週　Continued from week 6
第 8 週　When things go wrong
第 9 週　Continued from week 8
第10週　Getting things done
第11週　Continued from week 10
第12週　Maintaining contact
第13週　Continued from week 12
第14週　Customer service
第15週　Continued from week 14

Business Writing B

3634040300200

副　題								担　当　者	T．スコット　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ECM-306-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this subject is to develop practical business writing skills. Through the course, you should be able to build vocabulary and fluency to communicate effectively in business situations.

〔授業の内容〕

The aim of this course is to provide ample opportunities for the students to build upon their written correspondence skills for working in business situations. There will be writing assignments followed by student critiques. A variety of subjects will be covered, for example, requests, replies, notices and apologies. This course will provide a supportive environment for the students to develop useful skills for their future.

〔教材〕

教科書：*Company to Company*, (Andrew Littlejohn) 4th Edition, Cambridge University Press, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the completed homework and be prepared to do the activity of the day. In addition, please ask any questions you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

There will be tests (60%) and participation (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

TOEIC700点以上をf-Campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Making enquiries
第 3 週　Continued from week 2
第 4 週　Business prospects
第 5 週　Continued from week 4
第 6 週　Contacting customers
第 7 週　Continued from week 6
第 8 週　When things go wrong
第 9 週　Continued from week 8
第10週　Getting things done
第11週　Continued from week 10
第12週　Maintaining contact
第13週　Continued from week 12
第14週　Customer service
第15週　Continued from week 14

Discussing Current Issues A

3634050100100

副　題								担　当　者	C. L. イヤリー　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ECM-307-EW

〔授業の到達目標〕

To give students an opportunity to practice discussing current events in English. By doing this, students will increase their knowledge of local and world affairs, and also increase their English fluency and vocabulary.

〔授業の内容〕

Using articles from publications like Japan Times, Japan News, and Japan Today, classes will focus on a different theme every two weeks. Example topics are: the environment, fashion trends, social media, arts, and food and cuisine.

〔教材〕

On the first day of the course, the instructor will provide a book of recent articles and discussion questions on current events and trends, and the book will be updated at the midpoint of the course.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Before each class students should read articles and note any challenging vocabulary. Students should also come to class prepared to share their opinions and participate in class conversation.

〔成績評価の方法〕

There will be occasional vocabulary quizzes to ensure that students retain new words and phrases.

Class participation 60%

Quizzes 40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

TOEIC700点以上をf-Campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Section I - Topic #1
第 2 週　Review, vocabulary quiz
第 3 週　Topic #2
第 4 週　Review, vocabulary quiz
第 5 週　Topic #3
第 6 週　Review, vocabulary quiz
第 7 週　Section II - Topic #4
第 8 週　Review, vocabulary quiz
第 9 週　Topic #5
第10週　Review, vocabulary quiz
第11週　Topic #6
第12週　Review, vocabulary quiz
第13週　Topic #7
第14週　Review
第15週　Final Discussion and Quiz

Discussing Current Issues B

3634050100200

副　題								担　当　者	C. L. イヤリー　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ECM-308-EW

〔授業の到達目標〕

To give students an opportunity to practice discussing current events in English. By doing this, students will increase their knowledge of local and world affairs, and also increase their English fluency and vocabulary.

〔授業の内容〕

Using articles from publications like Japan Times, Japan News, and Japan Today, classes will focus on a different theme every two weeks. Example topics are: the environment, fashion trends, social media, arts, and food and cuisine.

〔教材〕

On the first day of the course, the instructor will provide a book of recent articles and discussion questions on current events and trends, and the book will be updated at the midpoint of the course.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Before each class students should read articles and note any challenging vocabulary. Students should also come to class prepared to share their opinions and participate in class conversation.

〔成績評価の方法〕

There will be occasional vocabulary quizzes to ensure that students retain new words and phrases.

Class participation 60%

Quizzes 40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

TOEIC700点以上をf-Campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Section I - Topic #1
第 2 週　Review, vocabulary quiz
第 3 週　Topic #2
第 4 週　Review, vocabulary quiz
第 5 週　Topic #3
第 6 週　Review, vocabulary quiz
第 7 週　Section II - Topic #4
第 8 週　Review, vocabulary quiz
第 9 週　Topic #5
第10週　Review, vocabulary quiz
第11週　Topic #6
第12週　Review, vocabulary quiz
第13週　Topic #7
第14週　Review
第15週　Final Discussion and Quiz

Newspaper English A

3634050200100

副　題								担　当　者	J. テスター　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ECM-309-EW

〔授業の到達目標〕

The course will improve students' English skills through reading, analyzing and discussing newspaper articles.

〔授業の内容〕

Students will read and analyze newspaper articles on a wide range of topics. They will summarize and discuss them in pairs and groups. They will also write reactions and participate in debates from different points of view.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 40%
Completion of homework 10%
Assignments 30%
Final test 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

TOEIC700点以上をf-Campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　English communication skills.
第 2 週　Vocabulary building strategies.
第 3 週　Discussion skills.
第 4 週　Summarizing articles.
第 5 週　Reacting to articles.
第 6 週　Group discussion.
第 7 週　Pair debates.
第 8 週　Reporting current events.
第 9 週　Discussing domestic news
第10週　Talking about current world news stories.
第11週　Discussing economic news.
第12週　Debating environmental issues.
第13週　Discussing business news.
第14週　Scientific reporting.
第15週　Final assessments.

Newspaper English B

3634050200200

副　題								担　当　者	J. テスター　講師		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	ECM-310-EW

〔授業の到達目標〕

The course will improve students' English skills through reading, analyzing and discussing newspaper articles.

〔授業の内容〕

Students will read and analyze newspaper articles on a wide range of topics. They will summarize and discuss them in pairs and groups. They will also write reactions and participate in debates from different points of view.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 40%
Completion of homework 10%
Assignments 30%
Final test 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

TOEIC700点以上をf-Campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　English communication skills.
第 2 週　Vocabulary building strategies.
第 3 週　Discussion skills.
第 4 週　Summarizing articles.
第 5 週　Reacting to articles.
第 6 週　Group discussion.
第 7 週　Pair debates.
第 8 週　Reporting current events.
第 9 週　Discussing domestic news
第10週　Talking about current world news stories.
第11週　Discussing economic news.
第12週　Debating environmental issues.
第13週　Discussing business news.
第14週　Scientific reporting.
第15週　Final assessments.

In-Depth News Listening A

3634050300100

副　題	ニュースとビジネス英語のリスニング	担　当　者	C．ウィン　教授

単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	ECM-311-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is improve in-depth listening comprehension skills in English.

〔授業の内容〕

オンラインニュース，ドキュメンタリーや英語演説を教材として使い，時事英語や高度な英語の聞き取り練習を通して聴解力を向上させます。ディクテーションやニュースのロールプレーを行い，リスニングとスピーキングスキルを磨きます。ニュース放送やリスニング練習後，口頭や筆記で内容要約や感想発表を通して，理解度を深めます。更に様々な熟語，ビジネス語彙や専門用語を学習し，プロフェッショナル英語力を身に付けます。

〔教材〕

授業中にプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席姿勢　30%，課題　40%，発表　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔備考〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

TOEIC700点以上をf-campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

In-Depth News Listening B

3634050300200

副　題	ニュースとビジネス英語のリスニング							担　当　者	C．ウィン　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	ECM-312-EW

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is improve in-depth listening comprehension skills in English.

〔授業の内容〕

オンラインニュース，ドキュメンタリーや英語演説を教材として使い，時事英語や高度な英語の聞き取り練習を通して聴解力を向上させます。ディクテーションやニュースのロールプレーを行い，リスニングとスピーキングスキルを磨きます。ニュース放送やリスニング練習後，口頭や筆記で内容要約や感想発表を通して，理解度を深めます。更に様々な熟語，ビジネス語彙や専門用語を学習し，プロフェッショナル英語力を身に付けます。

〔教材〕

授業中にプリントを配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席姿勢　30%，課題　40%，発表　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔備考〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

TOEIC700点以上をf-campus科目としての履修の条件とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　ディクテーション，内容要約，感想発表，解説
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション特殊演習I

3631060100100

副　題	Contemporary Japanese society as seen by a foreign scholar	担　当　者	G．R．ファリア　教授

単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ECM-301-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to apply students' understanding of intercultural communication to the text and to their own experiences, to discuss in class, and then to write research papers or essays on these topics in English.

〔授業の内容〕

In this seminar we will use as our text a book written by an American scholar who has been conducting research in Japan since the mid-1980s and is now a professor in the U.S. The book offers an intriguing view of Japanese society focusing on women and the family and the changes that have been taking place in recent decades. It should be interesting to study the author's interpretations and reach our own conclusions about what she says. Each week we will read one chapter of the book and prepare to study and discuss the contents in class. The reading will be challenging, and students should expect to spend time in preparation at home. Students will write their thoughts and impressions in a journal each week as they prepare for class and will write a mid-term and a final term paper on topics related to our study. Students will take an active part in presenting and discussing the text and related topics in class. Of course, the entire seminar will be conducted only in English.

〔教材〕

教科書：Susan B. Holloway, *Women and Family in Contemporary Japan*, Cambridge University Press, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week studying the textbook in preparation for class discussions and another 1-2 hours in preparation for their group presentation of the text.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and two term papers (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 13：00～14：30.
See the schedule outside my office door for other options by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course introduction
第 2 週　Chapter 1: "Good wives, wise mothers": parenting and family life in cultural context
第 3 週　Chapter 2: Locating the research in space and time
第 4 週　Chapter 3: What is a wise mother?
第 5 週　Chapter 4: Hansei: the process of self-reflection
第 6 週　Chapter 5: Memories of childhood
第 7 週　Chapter 6: Husbands: crucial partners or peripheral strangers?
第 8 週　Chapter 7: Shitsuke: the art of child rearing
第 9 週　Chapter 8: Maternal involvement in children's schooling
第10週　Chapter 9: Balancing work and family life
第11週　Chapter 10: Women and family life: ideology, experience, and agency
第12週　Oral presentations of term reports and discussion
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

国際コミュニケーション特殊演習II

3631060200100

副　題	Contemporary Japanese society as seen by a foreign scholar	担　当　者	G．R．ファリア　教授

単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ECM-302-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to apply students' understanding of intercultural communication to the text and to their own experiences, to discuss in class, and then to write research papers or essays on these topics in English.

〔授業の内容〕

In this seminar we will use as our text a book which was written by a professor of cultural anthropology in an American university who specializes in Japanese society. The book offers an intriguing view of Japanese society as it faces the challenges of the 21st century. It should be interesting to study the author's interpretations and reach our own conclusions about what she says. Every one or two weeks we will read a chapter of the text and prepare to discuss the contents in class. The reading will be challenging, and students should expect to spend time in preparation at home. Students will write their thoughts, impressions, and questions in a journal each week as they prepare for class discussion and will write a mid-term and a final term paper on topics related to our study. Students will take an active part in presenting and discussing the text and related topics in class. Of course, the entire seminar will be conducted only in English.

〔教材〕

教科書：Anne Allison, *Precarious Japan*, Duke University Press, 2013

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week studying the textbook in preparation for class discussions and another 1-2 hours in preparation for their group presentation of the text.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and two term papers (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 13：00～14：30.
See the schedule outside my office door for other options by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Chapter 1: Pain of life
第 3 週　Chapter 2: From lifelong to liquid Japan
第 4 週　Chapter 3: Ordinary refugeeism: poverty, precarity, youth
第 5 週　”
第 6 週　Chapter 4: Home and hope
第 7 週　”
第 8 週　Chapter 5: The social body--in life and death
第 9 週　”
第10週　Chapter 6: Cultivating fields from the edges
第11週　Chapter 7: In the mud
第12週　”
第13週　Oral presentations of term papers and discussion
第14週　〃
第15週　〃

※映像文化特殊演習I

3631070100100

副　題	聖書と映画							担　当　者	岩﨑　光洋　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ECM-303-EY

〔授業の到達目標〕

聖書に関する映画の代表作を鑑賞し，その時代背景，社会の変化などを考慮しながらその意義と表現形式党を比較検討・議論する。

〔授業の内容〕

The Ten Commandments, King of Kings, The Bible, The Passion of The Christの４本の聖書映画を比較，検討し，聖書に関する基本的な知識を習得するとともに，現代における科学と聖書の問題に関しても考えてみる。

〔教材〕

プリントを使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：２時間　復習：２時間

〔成績評価の方法〕

プレゼン　30パーセント　試験　70パーセント

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日４時限。アポイントメントをとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　The Ten Commandments 1
第２週　The Ten Commandments 2
第３週　The Ten Commandments　まとめ
第４週　King of Kings 1
第５週　King of Kings 2
第６週　King of Kings　まとめ１
第７週　The Bible 1
第８週　The Bible 2
第９週　The Bible　まとめ
第10週　The Passion of The Christ　1
第11週　The Passion of The Christ　2
第12週　The Passion of The Christ　3
第13週　The Passion of The Christ　まとめ
第14週　A Man for All seasons 1
第15週　A Man for All seasons 2

映像文化特殊演習II

3631070200100

副　題	アカデミー賞作品とアメリカ文化							担　当　者	岩﨑　光洋　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	ECM-304-EY

〔授業の到達目標〕

アカデミー作品賞と時代的背景を理解し，映像文化の意義について考える。

〔授業の内容〕

アカデミー作品賞受賞作品を教材として，作品評，作品のテーマ，作品の普遍性等についてディスカッション形式で授業を行なう。また，アカデミー賞の選考法，問題点等についても言及する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：2時間　復習：2時間

〔成績評価の方法〕

プレゼン　30パーセント　試験　70パーセント

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日4時限。アポイントメントをとること。

〔授　業　計　画〕

第1週　Chariot of Fire
第2週　〃
第3週　Braveheart
第4週　〃
第5週　Gandhi
第6週　〃
第7週　CRASH
第8週　〃
第9週　American Beauty
第10週　〃
第11週　Out of Africa
第12週　〃
第13週　Beautiful Mind
第14週　〃
第15週　Million Dollar Baby

日本文化発信英語特殊演習I

3631080100100

副　題	Outside the Mainstream							担　当　者	Ｊ．Ｆ．モア　教授
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ECM-305-EY

〔授業の到達目標〕

This course has two goals: to stimulate students to learn more about Japan, and to provide them with the opportunity to discuss Japan in English.

〔授業の内容〕

Students will read English-language academic articles related to Japanese popular culture and write essays on topics related to the text. We will examine the vocabulary and style of the text as well as discussing its content.

〔教材〕

Handouts will be given in class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation for classes (2 hours/week).
Preparation of papers (10 hours x 3).

〔成績評価の方法〕

Evaluations: weekly attendance, preparation and classroom participation 30%, 2 short research papers 20% each, final paper 30%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Reading and Discussion
第３週　〃
第４週　〃
第５週　Reading and Discussion (first paper due)
第６週　Reading and Discussion
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　Reading and Discussion (second paper due)
第11週　Reading and Discussion
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

日本文化発信英語特殊演習II

3631080200100

副　題	Outside the Mainstream							担　当　者	Ｊ．Ｆ．モア　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ECM-306-EY

〔授業の到達目標〕

This course has two goals: to stimulate students to learn more about Japan, and to provide them with the opportunity to discuss Japan in English.

〔授業の内容〕

Students will read English-language academic articles related to Japanese popular culture and write essays on topics related to the text. We will examine the vocabulary and style of the text as well as discussing its content.

〔教材〕

Handouts will be given in class

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation for classes (2 hours/week).
Preparation of papers (10 hours x 3).

〔成績評価の方法〕

Evaluations: weekly attendance, preparation and classroom participation 30%, 2 short research papers 20% each, final paper 30%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Reading and Discussion
第３週　〃
第４週　〃
第５週　Reading and Discussion (first paper due)
第６週　Reading and Discussion
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　Reading and Discussion (second paper due)
第11週　Reading and Discussion
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

ビジネスコミュニケーション特殊演習I

3631010300100

副　題	Discussing Business Topics							担　当　者	C．ウィン　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ECM-307-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build English communication skills in dealing with various business related topics.

〔授業の内容〕

Students will examine and discuss various business related issues. Current news topics and business case studies will be used as material for analysis and discussion. Students will look at ways to organize opinions and present arguments. Students will work on improving their business discussion skills in English.

〔教材〕

No set text. Handouts will be given during class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance & Participation 30%, Homework 40%, Discussions & Presentations 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔授　業　計　画〕

第１週　Discussions and Presentations
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

ビジネスコミュニケーション特殊演習II

3631010400100

副　題	Discussing Business Topics							担　当　者	C．ウィン　教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ECM-308-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build English communication skills in dealing with various business related topics.

〔授業の内容〕

Students will examine and discuss various business related issues. Current news topics and business case studies will be used as material for analysis and discussion. Students will look at ways to organize opinions and present arguments. Students will work on improving their business discussion skills in English.

〔教材〕

No set text. Handouts will be given during class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance & Participation 30%, Homework 40%, Discussions & Presentations 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔授　業　計　画〕

第１週　Discussions and Presentations
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

第二言語習得特殊演習I

3631010500100

副　題	第二言語の学習							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ECM-309-EY

〔授業の到達目標〕
（1）　ことばの学習がどのように行われるのかを学ぶ。
（2）　ことばはどのように教えられるべきかを学ぶ。
（3）　第二言語習得関連の文献を英語で読み，専門用語を理解する。

〔授業の内容〕
前期と後期を通して，第二言語習得を概観していく。前半部分では第二言語習得論はどのように行われるかを扱い，後半部分ではその教授法に焦点を当て講義を展開する。主な使用言語は英語で，学生の発表を中心とする（必要に応じて，日本語も使用する）。

〔教材〕
教科書：Shawn M. Clankie & 小林敏彦『言語と私たちの生活―Language and Our Lives』三修社，2013年
教科書以外の付加教材は，こちらで用意する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習2時間，復習2時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕
出席及びクラスへの参加度20%，発表20%，クイズ20%，課題またはテスト40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　The Importance of Making Mistakes（1）
第3週　The Importance of Making Mistakes（2）
第4週　Active language learning（1）
第5週　Active language learning（2）
第6週　Learning to think in English（1）
第7週　Learning to think in English（2）
第8週　Vocabulary（1）
第9週　Vocabulary（2）
第10週　The Benefits of Studying Abroad（1）
第11週　The Benefits of Studying Abroad（2）
第12週　Paralanguage（1）
第13週　Paralanguage（2）
第14週　理解度の確認
第15週　総復習・まとめ
演習科目のため，学生の興味や言語教育の時代的変化を加味し，授業計画を大幅に変更することもある。初回の授業で最新の授業計画を必ず確認すること。

第二言語習得特殊演習II

3631010600100

副　題	第二言語の教授法							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ECM-310-EY

〔授業の到達目標〕
（1）　ことばの学習がどのように行われるのかを学ぶ。
（2）　ことばはどのように教えられるべきかを学ぶ。
（3）　第二言語習得関連の文献を英語で読み，専門用語を理解する。

〔授業の内容〕
前期と後期を通して，第二言語習得を概観していく。前半部分では第二言語習得論はどのように行われるかを扱い，後半部分ではその教授法に焦点を当て講義を展開する。主な使用言語は英語で，学生の発表を中心とする（必要に応じて，日本語も使用する）。

〔教材〕
教科書：Shawn M. Clankie & 小林敏彦『言語と私たちの生活―Language and Our Lives』三修社，2013年
教科書以外の付加教材は，こちらで用意する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習2時間，復習2時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕
出席及びクラスへの参加度20%，発表20%，クイズ20%，課題またはテスト40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Listening（1）
第3週　Listening（2）
第4週　Reading（1）
第5週　Reading（2）
第6週　Teacher-Centered Classrooms and Grammar-Translation（1）
第7週　Teacher-Centered Classrooms and Grammar-Translation（2）
第8週　Speaking（1）
第9週　Speaking（2）
第10週　Writing（1）
第11週　Writing（2）
第12週　Learner-Centered Classrooms and Communicative Language Teaching（1）
第13週　Learner-Centered Classrooms and Communicative Language Teaching（2）
第14週　理解度の確認
第15週　総復習・まとめ
演習科目のため，学生の興味や言語教育の時代的変化を加味し，授業計画を大幅に変更することもある。初回の授業で最新の授業計画を必ず確認すること。

World Englishes 特殊演習I

3631010700100

副　題	世界の多様な英語							担　当　者	高橋　礼子　専任講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	ECM-311-EY

〔授業の到達目標〕

（1）英語の広がりや，世界における英語使用の現状について理解を深める。
（2）世界の多様な英語に触れ，英語の多様性について理解を深める。

〔授業の内容〕

まずは，英語使用の現状に注目し，英語がなぜ世界中に広がったのかを考察します。次に，映像等を通して世界の様々な英語に触れ，異なる文化・社会の中で使われる多様な英語の特徴と役割を認識し，英語の多様性について理解を深めていきます。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定された文献を読んだ上で出席すること。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

（1）　授業への出席，積極的な参加（30%）
（2）　グループ・プレゼンテーション（20%）
（3）　プレゼンテーション（20%）
（4）　課題　（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日，12：10～13：30
reiko.takahashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　The spread of English
第3週　‘Standard English’ and　‘non-standard Englishes’
第4週　‘Native speaker’ and　‘non-native speaker’
第5週　English in Japan
第6週　English in Asia　（1）
第7週　English in Asia　（2）
第8週　グループ・プレゼンテーション（1）
第9週　グループ・プレゼンテーション（2）
第10週　Linguistic imperialism and critical awareness
第11週　The ownership of English
第12週　The future of English
第13週　プレゼンテーション（1）
第14週　プレゼンテーション（2）
第15週　まとめ
進捗状況に応じて，内容を変更する可能性があります。

World Englishes 特殊演習II

3631010800100

副　題	世界の多様な英語							担　当　者	高橋　礼子　専任講師
単位	2	配当年次	3	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	ECM-312-EY

〔授業の到達目標〕

（1）　英語の広がりや，世界における英語使用の現状について理解を深める。
（2）　世界の多様な英語に触れ，英語の多様性について理解を深める。

〔授業の内容〕

まずは，英語使用の現状に注目し，英語がなぜ世界中に広がったのかを考察します。次に，映像等を通して世界の様々な英語に触れ，異なる文化・社会の中で使われる多様な英語の特徴と役割を認識し，英語の多様性について理解を深めていきます。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定された文献を読んだ上で出席すること。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

（1）　授業への出席，積極的な参加（30%）
（2）　グループ・プレゼンテーション（20%）
（3）　プレゼンテーション（20%）
（4）　課題　（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日，12：10〜13：30
reiko.takahashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　World Englishes　（1）
第3週　World Englishes　（2）
第4週　Intelligibility
第5週　Creativity
第6週　English in Japan　（1）
第7週　English in Japan　（2）
第8週　グループ・プレゼンテーション（1）
第9週　グループ・プレゼンテーション（2）
第10週　English as a Lingua Franca
第11週　International intelligibility
第12週　The future of English
第13週　プレゼンテーション（1）
第14週　プレゼンテーション（2）
第15週　まとめ
進捗状況に応じて，内容を変更する可能性があります。

英語コミュニケーション演習IA・IIIA

3630050100100

副　題	卒業論文作成　I							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ECM-313-EY ECM-425-EY

〔授業の到達目標〕

論文とレポートの違いを理解する

〔授業の内容〕

卒業論文のテーマの選び方。卒業論文作成のための基礎知識の習得（テーマの現代性と意義，資料の検索法等について）する。時事問題に関するニュースを素材として，議論するので，必ず自分の意見を主張できるよう準備すること。発言する際には論理的かつ簡潔に述べること。

〔教材〕

プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：2時間　復習：2時間

〔成績評価の方法〕

小論　60%，発表　40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日4時限。予約が必要。
メール

〔備考〕

政治・経済・文化に関する国内外のトピックをテーマに小論作成のトレーニングを実施します。

〔授　業　計　画〕

第1週　卒論とは
第2週　テーマ　I
第3週　テーマ　II
第4週　テーマ　III
第5週　論文の形式　I
第6週　論文の形式　II
第7週　論文の形式　III
第8週　論文の形式　IV
第9週　小論発表　I
第10週　小論発表　II
第11週　小論発表　III
第12週　小論発表　IV
第13週　小論発表　V
第14週　小論発表　VI
第15週　小論発表　VII

英語コミュニケーション演習IB・IIIB

3630050100200

副　題	Intercultural Communication I							担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-314-EY ECM-426-EY

〔授業の到達目標〕

This course is intended to help students become competent in communication with others of diverse cultural backgrounds by helping them expand their range of verbal and nonverbal communication skills, become able to communicate effectively in unfamiliar settings, recognize the influence their own culture has had on the way in which they view themselves, and expand their knowledge of the ways of other cultures.

〔授業の内容〕

Spending one to two weeks for each chapter, we will cover the first half of the text this semester. Each week students will form groups to present the content of the textbook to the class, and all students will also be given a handout of study guide questions on the chapter to prepare for discussion in class. Other supplementary readings will be suggested to give students a wider understanding of each topic, and topics for research papers will also be suggested. The course will be conducted entirely in English: readings, discussion, reports, presentations will all be done in English. Students will thus be continuously developing their English skills at the same time they are expanding their understanding of and skills in intercultural communication.

〔教材〕

教科書：Fred E. Jandt, *An Introduction to Intercultural Communication: Identities in a Global Community*, 6th Edition, Sage Publications, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week to study the textbook and study guide questions, and another 2 hours to prepare for their presentation of the textbook when it is their turn.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), presentations (30%), and term reports (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 13：00～14：30.
See the schedule outside my office door for other options by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　The dispute over defining culture
第 3 週　〃
第 4 週　Defining communication as an element of culture
第 5 週　〃
第 6 週　Culture’s influence on perception
第 7 週　〃
第 8 週　Barriers to intercultural communication
第 9 週　〃
第10週　Nonverbal communication
第11週　〃
第12週　Language as a barrier
第13週　〃
第14週　Oral presentations of term reports
第15週　〃

英語コミュニケーション演習ID・IIID

3630050100400

副　題	「国際共通語」としての英語と世界の英語	担　当　者	高橋　礼子　専任講師

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECM-316-EY ECM-428-EY

〔授業の到達目標〕

（1）　世界における英語使用の現状について理解を深める。
（2）　世界の多様な英語について理解を深める。
（3）「国際共通語」として英語を使う際に必要となる力について（自分なりの）考えをまとめる。
（4）　論文の書き方を学ぶ。

〔授業の内容〕

ゼミの共通研究テーマは，「『国際共通語』としての英語と世界の英語」です。世界における英語使用の現状と英語が広まった背景に注目し，異なる文化・社会の中で使われる多様な英語の特徴と役割，国際的に通用する（しやすい）英語の特徴や，「国際共通語」として英語を使う際に必要となる力について議論します。

同時に，英語の文献を理解し，論理的に意見を述べることができる力を伸ばします。授業はディスカッションを中心に進め，プレゼンテーションも必須です。

3年生は，色々な文献を読んだり，映像を見たりして興味の幅を広げ，同時にリサーチ・スキルと論理的な思考能力を伸ばしていきます。4年生は各自が研究テーマを見つけ，そのテーマについて詳しく調べ，その結果を論文にまとめます。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定された文献を読んだ上で出席すること。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

（1）　授業への出席と積極的な参加（30%）
（2）　発表　（30%）
（3）　課題　（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日，12：10〜13：30
reiko.takahashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　World Englishes　（1），文献の検索方法
第3週　World Englishes　（2），参考文献のまとめ方
第4週　English as a Lingua Franca　（1）
第5週　English as a Lingua Franca　（2）
第6週　中間発表　（1）
第7週　中間発表　（2）
第8週　Reading and Discussion　（1）
第9週　Reading and Discussion　（2）
第10週　Reading and Discussion　（3）
第11週　Reading and Discussion　（4）
第12週　卒業研究話し合い
第13週　期末発表　（1）
第14週　期末発表　（2）
第15週　まとめ
進捗状況により，内容を変更する可能性があります。

英語コミュニケーション演習IE・IIIE

3630050100500

副　題	ビジネス英語							担　当　者	C．ウィン　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECM-317-EY ECM-429-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to gain confidence in using business English.

〔授業の内容〕

この授業の目標はビジネス英語の環境に慣れ，実用的な英語のコミュニケーションスキルを向上させます。時事英語，様々なビジネストピックやシナリオを取り上げ，英語の学習に加え，ビジネスの知識や視野を広げます。ケーススタディーディスカッション，ビジネスミーティングのロールプレー，プレゼンテーションなどを行い，ビジネス英語の実践力を身につけます。会話力だけではなく，ビジネス英語の文書力も習得します。高度な英語力を身につけるには，努力と継続的な勉強が必要です。

〔教材〕

教科書：David Cotton, David Falvey, and Simon Kent, *Market Leader Intermediate Business English Course Book with DVD-ROM*, (978-1-4082-3695-6) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010
John Rogers, *Market Leader Intermediate Business English Practice File with CD*, (ISBN 978-1-4082-3696-3) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010

受講対象者：TOEIC 650点以上の者

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席姿勢　30%，課題　40%，発表　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔授　業　計　画〕

第１週　ディスカッションやロールプレー
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

英語コミュニケーション演習IF・IIIF

3630050100600

副　題	応用言語学：英語学習法・教授法							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-318-EY ECM-430-EY

〔授業の到達目標〕

（1）　応用言語学の基礎を理解する。
（2）　多様な英語教授法を概観する。
（3）　効率的・効果的な教授法を研究する。
（4）　応用言語学の知識を基礎として，自分の英語力向上に努める。
（5）　卒業論文に向けて学術的な文章を書く準備をする。

〔授業の内容〕

英語をマスターするには，膨大な時間と労力を必要とします。しかし，なぜ英語学習は難しいのでしょうか？この演習では，「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいの？」「英語を教えるにはどうしたら効果的なの？」などの疑問を解消すべく，第二言語習得研究（外国語の学習・教育に関する研究）において科学的に解明されている事柄を検証していきます。また，今までの研究結果に基づいて，効果的な言語学習方法及び教授法を考察し，自分自身の英語力向上にも努めます。

3年次より卒業論文に向けて準備をし，各々のテーマに沿った研究も行っていきます。

〔教材〕

教科書：Muriel Saville-Troike, *Introducing Second Language Acquisition*, 2 nd Edition, Cambridge University Press, 2012
参考書：村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習2時間，復習2時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕

出席及びクラスへの参加度30%，発表30%，試験またはレポート40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Chapter01: Introducing second language acquisition（1）
第3週　Chapter01: Introducing second language acquisition　（2）
第4週　Chapter02: Foundations of second language acquisition　（1）
第5週　Chapter02: Foundations of second language acquisition　（2）
第6週　Chapter03: The linguistics of second language acquisition　（1）
第7週　Chapter03: The linguistics of second language acquisition　（2）
第8週　卒業論文中間発表　（1）
第9週　卒業論文中間発表　（2）
第10週　学術論文の探し方・APA論文形式について
第11週　Chapter04: The psychology of second language acquisition　（1）
第12週　Chapter04: The psychology of second language acquisition　（2）
第13週　理解度の確認
第14週　卒業論文発表　（1）
第15週　卒業論文発表　（2）

演習科目のため，学生の興味や言語教育の時代的変化を加味し，授業計画を大幅に変更することもある。初回の授業で最新の授業計画を必ず確認すること。

英語コミュニケーション演習ⅡA・ⅣA

3630050200100

副　題	卒業論文　Ⅰ							担　当　者	岩﨑　光洋　教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ECM-319-EY ECM-431-EY

〔授業の到達目標〕

卒業論文とはいかなるものかを理解する

〔授業の内容〕

卒業論文作成のための基礎知識（論理的な思考と明瞭な論述の習得のための実践的トレーニング）４年生の卒論について考察し，議論する。

〔教材〕

プリント使用

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：２時間　復習：２時間

〔成績評価の方法〕

小論　60%，発表　40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日４時限。事前のアポをメールにてとること。
メール

〔備考〕

４年生の卒論発表を中心に，批評のあり方を習得する。

〔授　業　計　画〕

第１週　卒論とは
第２週　テーマ　Ⅰ
第３週　テーマ　Ⅱ
第４週　テーマ　Ⅲ
第５週　論文の形式　Ⅰ
第６週　論文の形式　Ⅱ
第７週　論文の形式　Ⅲ
第８週　論文の形式　Ⅳ
第９週　小論発表　Ⅰ
第10週　小論発表　Ⅱ
第11週　小論発表　Ⅲ
第12週　小論発表　Ⅳ
第13週　小論発表　Ⅴ
第14週　小論発表　Ⅵ
第15週　小論発表　Ⅶ

英語コミュニケーション演習ⅡB・ⅣB

3630050200200

副　題	Intercultural Communication II	担　当　者	G．R．ファリア　教授

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-320-EY ECM-432-EY

〔授業の到達目標〕

This course is intended to help students become competent in communication with others of diverse cultural backgrounds by helping them expand their range of verbal and nonverbal communication skills, become able to communicate effectively in unfamiliar settings, recognize the influence their own culture has had on the way in which they view themselves, and expand their knowledge of the ways of other cultures.

〔授業の内容〕

This course is a continuation of Intercultural Communication I. We will take up where we left off at the end of the first term and continue with the second half of the text, spending one to two weeks for each chapter. We will continue to conduct the classes in the same way as the first semester, but the content will be increasingly complex. The course will be conducted entirely in English: readings, discussion, reports, term paper, presentations will all be done in English. Students will thus be continuously developing their English skills at the same time they are expanding their understanding of and skills in intercultural communication.

〔教材〕

教科書：Fred E. Jandt, *An Introduction to Intercultural Communication: Identities in a Global Community*, 6th Edition, Sage Publication, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2-3 hours each week to study the textbook and study guide questions, and another 2 hours to prepare for their presentation of the textbook when it is their turn.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), reports (20%), presentations (30%), and a term paper (20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 13：00～14：30.
See the schedule outside my office door for other options by appointment.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Dimensions of culture
第３週　Dominant U.S. cultural patterns: using value orientation theory
第４週　〃
第５週　Comparative cultural patterns: Arab culture
第６週　Women, families, and children
第７週　〃
第８週　Contact between cultures
第９週　Immigration and acculturation
第10週　〃
第11週　Cultures within cultures
第12週　〃
第13週　Identity and subgroups
第14週　Oral presentations of term papers
第15週　〃

英語コミュニケーション演習IID・IVD

3630050200400

副　題	「国際共通語」としての英語と世界の英語	担　当　者	高橋　礼子　専任講師

単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECM-322-EY ECM-434-EY

〔授業の到達目標〕

（1）　世界における英語使用の現状と，世界的な英語の広がりに関して議論されている事柄について理解を深める。

（2）　世界の多様な英語について理解を深める。

（3）　国際的に通用する（しやすい）英語の特徴と，「国際共通語」として英語を使う際に必要となる力について（自分なりの）考えをまとめる。

（4）　論文の書き方を学ぶ。4年生は卒業論文を完成させる。

〔授業の内容〕

ゼミの共通研究テーマは，「『国際共通語』としての英語と世界の英語」です。世界における英語使用の現状と，世界的な英語の広がりに関して議論されている事柄について理解を深め，多角的に考察します。最終的には，「国際共通語」として英語を用いたコミュニケーションにおいて，必要なことは何なのか，議論を深めます。春学期に引き続き，English as a Lingua FrancaとWorld Englishesに関する文献を中心に文献を読みます。

3年生は，卒業研究テーマに関する文献を読み進める準備を始めます。4年生は，中間発表や個人指導も行いながら卒業論文の執筆を進めます。

〔教材〕

初回の授業で説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定された文献を読んだ上で出席すること。予習に2時間以上，復習に2時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

（1）　授業への出席と積極的な参加（30%）

（2）　発表　（30%）

（3）　課題　（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日，12：10〜13：30

reiko.takahashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス

第2週　World Englishes　（1），卒業論文指導

第3週　World Englishes　（2），卒業論文指導

第4週　English as a Lingua Franca　（1），卒業論文指導

第5週　English as a Lingua Franca　（2），卒業論文指導

第6週　中間発表　（1）

第7週　中間発表　（2）

第8週　卒業研究話し合い（1）

第9週　卒業研究話し合い（2）

第10週　Reading and Discussion　（1）

第11週　Reading and Discussion　（2）

第12週　Reading and Discussion　（3）

第13週　最終発表　（1）

第14週　最終発表　（2）

第15週　まとめ

進捗状況により，内容を変更する可能性があります。

英語コミュニケーション演習ⅡE・ⅣE

3630050200500

副　題	ビジネス英語							担　当　者	C．ウィン　教授
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ECM-323-EY ECM-435-EY

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to gain confidence in using business English.

〔授業の内容〕

この授業の目標はビジネス英語の環境に慣れ，実用的な英語のコミュニケーションスキルを向上させます。時事英語，様々なビジネストピックやシナリオを取り上げ，英語の学習に加え，ビジネスの知識や視野を広げます。ケーススタディーディスカッション，ビジネスミーティングのロールプレー，プレゼンテーションなどを行い，ビジネス英語の実践力を身につけます。会話力だけではなく，ビジネス英語の文書力も習得します。高度な英語力を身につけるには，努力と継続的な勉強が必要です。

〔教材〕

教科書：David Cotton, David Falvey, and Simon Kent, *Market Leader Intermediate Business English Course Book with DVD-ROM*, (978-1-4082-3695-6) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010
John Rogers, *Market Leader Intermediate Business English Practice File with CD*, (ISBN 978-1-4082-3696-3) 3rd Edition, Longman (Pearson Education Limited), 2010

受講対象者：TOEIC 650点以上の者

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

出席姿勢　30%，課題　40%，発表　10%，テスト　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔授　業　計　画〕

第１週　ディスカッションやロールプレー
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

英語コミュニケーション演習ⅡF・ⅣF

3630050200600

副　題	応用言語学：英語学習法・教授法							担　当　者	萱　忠義　准教授		
単位	2	配当年次	3 4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	ECM-324-EY ECM-436-EY

〔授業の到達目標〕
（1）　応用言語学の基礎を理解する。
（2）　多様な英語教授法を概観する。
（3）　効率的・効果的な教授法を研究する。
（4）　応用言語学の知識を基礎として，自分の英語力向上に努める。
（5）　卒業論文に向けて学術的な文章を書く準備をする。

〔授業の内容〕
英語をマスターするには，膨大な時間と労力を必要とします。しかし，なぜ英語学習は難しいのでしょうか？この演習では，「英語を効率的に勉強するにはどうしたらいいの？」「英語を教えるにはどうしたら効果的なの？」などの疑問を解消すべく，第二言語習得研究（外国語の学習・教育に関する研究）において科学的に解明されている事柄を検証していきます。また，今までの研究結果に基づいて，効果的な言語学習方法及び教授法を考察し，自分自身の英語力向上にも努めます。
3年次より卒業論文に向けて準備をし，各々のテーマに沿った研究も行っていきます。

〔教材〕
教科書：Muriel Saville-Troike, *Introducing Second Language Acquisition*, 2 nd Edition, Cambridge University Press, 2012
参考書：村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業で指定された参考文献を熟読の上，授業に参加すること（準備学習の時間は，1回の授業につき，予習2時間，復習2時間程度を要する）。

〔成績評価の方法〕
出席及びクラスへの参加度30%，発表30%，試験またはレポート40%。（クラスで配布する詳細シラバス（最終決定版）を必ず参照のこと）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日の5時限目（事前にアポイントを取ること）
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Chapter05: Social contexts of second language acquisition（1）
第3週　Chapter05: Social contexts of second language acquisition（2）
第4週　Chapter06: Acquiring knowledge for L2 use（1）
第5週　Chapter06: Acquiring knowledge for L2 use（2）
第6週　学術論文の探し方・APA論文形式について・論文の書き方（1）
第7週　学術論文の探し方・APA論文形式について・論文の書き方（2）
第8週　卒業論文中間発表　（1）
第9週　卒業論文中間発表　（2）
第10週　卒業論文中間発表　（3）
第11週　Chapter07: L2 learning and teaching　（1）
第12週　Chapter07: L2 learning and teaching　（2）
第13週　理解度の確認
第14週　卒業論文発表　（1）
第15週　卒業論文発表　（2）
演習科目のため，学生の興味や言語教育の時代的変化を加味し，授業計画を大幅に変更することもある。初回の授業で最新の授業計画を必ず確認すること。

英語コミュニケーション演習IIIC

3630060100300

副　題	Discussing Japan							担　当　者	Ｊ．Ｆ．モア　教授
単位	2	配当年次	4	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ECM-427-EY

〔授業の到達目標〕

This is the spring term of a 2-year seminar concerned with the presenting of information about Japan in English. The purpose of the course is to read English-language material related to Japan in English, and to write about and discuss Japan-related topics in English.

〔授業の内容〕

Fourth-year students will pursue their research for the graduation thesis in addition to reading the assigned texts and participating in discussion. A ten-page progress report is to be submitted in May.

〔教材〕

教科書：Tessa Morris-Suzuki, *Re-inventing Japan*, M. E. Sharpe, 1998

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of readings for each week's discussion.

〔成績評価の方法〕

Attendance and participation in class, 30%； written assignments, 40%； individual research progress 30%.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第１週　Getting acquainted
第２週　Reading and Discussion
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

英語コミュニケーション演習IVC

3630060200300

副　題	Discussing Japan							担　当　者	J．F．モア　教授
単位	2	配当年次	4	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	ECM-433-EY

〔授業の到達目標〕

This is the autumn term of a 2-year seminar on the presenting of information about Japan in English. Fourth-year students should complete their graduation theses in addition to participating in the class discussions of assigned readings.

〔授業の内容〕

Fourth year students will report on the progress of their research as well as joining the class discussion of assigned readings. A report of your progress during the summer should be submitted during October.

〔教材〕

Same as III C; no need to purchase again.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation of presentations and reports each week.

〔成績評価の方法〕

Evaluations will be based on students' attendance and contributions to classroom discussions 30%, and on timely progress in their reports on their research projects (October 35%, December 35%.)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursday 2d period, 他

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Presentation of research interests and book reports
第 2 週　Reports and discussion
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　Presentation of research results
第15週　〃

卒業研究（春）

3631091100200

副　題	（英語コミュニケーション学科）							担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-401-EZ

〔授業の到達目標〕

問題を見いだしそれに対する情報収集力を身に付け，解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて，研究の成果を卒業研究論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談　(240時間以上)。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

卒業研究（秋）

3631091100100

副　題	（英語コミュニケーション学科）							担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-402-EZ

〔授業の到達目標〕

問題を見いだしそれに対する情報収集力を身に付け，解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて，研究の成果を卒業研究論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談　(240時間以上)。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

卒業論文（春）

3631091200200

副　題	（英語コミュニケーション学科）							担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-403-EZ

〔授業の到達目標〕

問題を見いだしそれに対する情報収集力を身に付け，解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて，研究の成果を卒業論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談　(240時間以上)。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

卒業論文（秋）

3631091200100

副　題	（英語コミュニケーション学科）							担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	8	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ECM-404-EZ

〔授業の到達目標〕

問題を見いだしそれに対する情報収集力を身に付け，解決方法を考える力を養う。

〔授業の内容〕

受講している英語コミュニケーション学科演習の担当教員の本で決めたテーマについて，研究の成果を卒業論文としてまとめる。

〔教材〕

論文指導の課程で逐次指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

研究，論文作成，担当教員との面談　(240時間以上)。

〔成績評価の方法〕

論文作成課程及び論文査読。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学科事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

論文作成課程及び提出までのスケジュールについては各ゼミにおいて指示する。

共通科目（外国語科目１群・２群を除く）

平成 28 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

共通科目（外国語を除く）　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 全学科	学期		単位	担当者	頁
特別総合科目群	特別総合科目Ⅰ（外交官）	外交・国際交流の第一線から	CAR-201-GA	2～	春		2	阿曽村智子	506
	特別総合科目Ⅱ（特派員）			1～	－	－	2	－	－
	特別総合科目Ⅲ（国際企業）	組織とキャリアの最前線	CAR-203-GA	2～	春		2	金城　亜紀	507
	特別総合科目Ⅳ(東アジア共同体論－学際的アプローチ)	アジアの調和と発展に向けて	INR-004-GA	1～		秋	2	金野　　純	508
	特別総合科目Ⅴ（環境問題）	地球・自然・人と生き物たち	ENV-005-GA	1～	春		2	品川　　明	509
	特別総合科目Ⅵ（職業選択）			1～	－	－	2	－	－
	特別総合科目Ⅶ(現代時事分析１)	現役記者によるニュース分析	SOC-207-GA	2～	春		2	石澤　靖治	510
	特別総合科目Ⅷ(現代時事分析２)	海外特派員経験者が現場報告	INR-208-GA	2～		秋	2	石澤　靖治	511
	特別総合科目Ⅸ(フードコンシャスネス論１)	食の真の価値を考える～食教育の新しい視座	LIF-109-GA	1～	春		2	品川　　明	512
	特別総合科目Ⅹ(フードコンシャスネス論２)	フードコンシャスネスと食を自覚する授業	LIF-210-GA	2～		秋	2	品川　　明	513
	特別総合科目XI(オリンピックの探究)	オリンピック・リテラシーの成熟に向けて	SPO-011-GA	1～		秋	2	荒井　啓子	514
	特別総合科目XII(キャリアデザイン１)	大学期のキャリア意識を確認する	CAR-112-GA	1～2		秋	2	木村　　進	515
	特別総合科目XIII(キャリアデザイン２)	主体的な人生を送るために	CAR-313-GA	3～	春		2	木村　　進	516
国際文化交流論科目	国際文化交流論Ⅰ(日本の国際文化交流)	自分探しの異文化交流　－自分を知り、日本を知る－	ICR-001-GB	1～	春		2	伊部　正信	517
	国際文化交流論Ⅱ(国際開発協力)	国際開発協力の現場と異文化理解	POL-002-GB	1～	春集中		2	藤谷　浩至	518
	国際文化交流論Ⅲ(日本文化交流史)	欧州において日本文化交流を実践するために	ICR-003-GB	1～	春		2	中島　崇文	519
	国際文化交流論Ⅳ(戦争と平和)		POL-004-GB	1～	春		2	奥村　快也	520
	国際文化交流論Ⅴ(国際ビジネス)			2～	－	－	2	－	－
	国際文化交流論Ⅵ(技術交流)		ICR-006-GB	1～	春		2	伊藤由紀子	521
	国際文化交流論Ⅶ(報道と文化交流)			1～	－	－	2	－	－
	国際文化交流論Ⅷ(環境教育)	国際文化交流のための環境教育等の実践	ENV-008-GB	1～		秋	2	品川　　明	522
	国際文化交流論Ⅸ			1～	－	－	2	－	－
	国際文化交流論Ⅹ(日本とアジアの近現代比較経営史)	Japan and Asia: Piercing the Veil	MAN-210-GB	2～		秋	2	金城　亜紀	523
	国際文化交流論XI(環太平洋地域２)	Japn, North America and the World	GEO-211-GB	2～		秋	2	金城　亜紀	524
共通基礎科目群	法学Ⅰ			1～	－	－	2	－	－
	法学Ⅱ	法学入門　（民事法の基礎）	LAW-102-GC	1～		秋	2	櫻井　大三	525
	日本国憲法		LAW-103-GC	1～	春		2	福井　康佐	526
	教育学	学校と社会	EDU-104-GC	1～	春		2	雲川けいか	527
	哲学	哲学的に考える。	PHL-105-GC	1～		秋	2	杉山晃太郎	528
	心理学		PSY-106-GC	1～	春		2	角尾　美奈	529
	基礎政治学	難民問題と国民国家	POL-107-GC	1～		秋	2	杉原　志啓	530
	基礎経済学	新聞の経済記事の読み方	ECO-108-GC	1～		秋	2	佐久間　潮	531
	基礎社会学	現代社会を理解するための理論と方法	SOC-109-GC	1～	春		2	時安　邦治	532
	基礎統計学	初めて学ぶ統計学	INF-110-GC	1～		秋	2	竹内　俊子	533
	日本近代史概論	近代日本における制度・政策、経済、社会	HIS-111-GC	1～		秋	2	森田　貴子	534
	西洋近代史概論	寛容と迫害のヨーロッパ史	HIS-112-GC	1～		秋	2	高津　美和	535

共通科目（外国語を除く）　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 全学科	学期		単位	担当者	頁
共通基礎科目群	西洋思想史概論	西洋政治思想史	PHL-113-GC	1～		秋	2	時安　邦治	536
	日本芸術論	美術をめぐる理念とその展開	ART-114-GC	1～	春		2	石田　佳也	537
	西洋芸術論	中欧文化史　チェコ、ポーランド、ハンガリーの歴史と芸術を中心に	ART-115-GC	1～		秋	2	遠藤　望	538
	英語学概論	英語史と言語研究の概観	ENG-116-GC	1～		秋	2	古庄　信	539
	学習院史Ⅰ		HIS-117-GC	1～	春		2	藤田　英昭	540
	学習院史Ⅱ			1～	－	－	2	－	－
人間・環境系科目群	人間関係論Ⅰ（家族）		SOC-001-GD	1～	春		2	石黒　史郎	541
	人間関係論Ⅱ（母体の健康と育児）		CHL-002-GD	1～	春		2	白坂　香弥	542
	人間関係論Ⅲ（幼児教育）	小児の発達と発育からみた幼児教育	CHL-003-GD	1～	春集中		2	澤口　聡子	543
	人間関係論Ⅳ（カウンセリング論）		PSY-004-GD	1～		秋	2	角尾　美奈	544
	人間関係論Ⅴ（地域社会）		SOC-005-GD	1～		秋	2	長野　慎一	545
	人間関係論Ⅵ（組織社会）		SOC-006-GD	1～	春		2	長野　慎一	546
	人間関係論Ⅶ（女性）		GEN-007-GD	1～		秋	2	中村優実子	547
	社会環境論Ⅰ（環境法）	国際環境問題解決のための法制度	LAW-008-GD	1～		秋	2	小中さつき	548
	社会環境論Ⅱ（環境経済学）	ミクロ経済学とその環境問題への応用	ECO-009-GD	1～	春		2	荘林幹太郎	549
	社会環境論Ⅲ（食糧の安全性）			1～	－	－	2	－	－
	社会環境論Ⅳ（エネルギーと社会問題）			1～	－	－	2	－	－
	自然環境論Ⅰ（エコロジー）	気づきから人間の責任ある行動へ 体験学習による生態学	ENV-012-GD	1～	春		2	品川　明	550
	自然環境論Ⅱ（自然環境の保全）	北海道のゆったりした自然の中で自分の中の自然を育てる	ENV-013-GD	1～	春集中		2	山本　幹彦	551
	自然環境論Ⅲ（生物資源利用）	植物資源の利用	ENV-014-GD	1～	春		2	阿部　誠	552
	自然環境論Ⅳ（環境汚染）	東日本大震災の復興と持続可能な町づくり	ENV-015-GD	1～	春集中		2	平井・品川	553
	生活環境論Ⅰ（人間と食）	食の基礎と母乳の科学	LIF-016-GD	1～		秋	2	品川　明	554
	生活環境論Ⅱ（ウエルネス論）	身体・健康・環境～well-beingについて考える	LIF-017-GD	1～		秋	2	荒井　啓子	555
	生活環境論Ⅲ（健康と栄養）	食物と健康	LIF-018-GD	1～	春		2	阿部　誠	556
	生活環境論Ⅳ（社会福祉論）	女性と社会福祉	SOC-019-GD	1～		秋	2	田中恵美子	557
	生活環境論Ⅴ（生活者と環境）	私たちにとって有意義な生活とは何か	LIF-020-GD	1～	春		2	内田　直子	558
	地球環境論Ⅰ	地球環境問題への総合的アプローチ	ENV-021-GD	1～	春		2	荘林幹太郎	559
	地球環境論Ⅱ	事例分析を通じた複雑性の理解に向けて	ENV-022-GD	1～		秋	2	荘林幹太郎	560
情報技術科目群	情報処理ⅠA（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-101-GE	1～	春		2	清水　將吾	561
	情報処理ⅠB（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-102-GE	1～	春		2	清水　將吾	562
	情報処理ⅠC（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-103-GE	1～	春		2	岩城　宏明	563
	情報処理ⅠD（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-104-GE	1～	春		2	岩城　宏明	564
	情報処理ⅠE（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-105-GE	1～	春		2	清水　將吾	565
	情報処理ⅠF（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-106-GE	1～	春		2	加園　克己	566
	情報処理ⅠG（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-107-GE	1～	春		2	岩城　宏明	567
	情報処理ⅠH（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-108-GE	1～	春		2	加園　克己	568

共通科目（外国語を除く）　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 全学科	学期		単位	担当者	頁
情報技術科目群	情報処理ＩＩ（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-109-GE	1～	春		2	市川　収	569
	情報処理ＩＪ（コンピュータ入門）	コンピュータ入門	CAR-110-GE	1～	春		2	市川　収	570
	情報処理ⅡＡ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-111-GE	1～		秋	2	清水　將吾	571
	情報処理ⅡＢ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-112-GE	1～		秋	2	清水　將吾	572
	情報処理ⅡＣ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-113-GE	1～		秋	2	岩城　宏明	573
	情報処理ⅡＤ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-114-GE	1～		秋	2	岩城　宏明	574
	情報処理ⅡＥ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-115-GE	1～		秋	2	清水　將吾	575
	情報処理ⅡＦ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-116-GE	1～		秋	2	加園　克己	576
	情報処理ⅡＧ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-117-GE	1～		秋	2	岩城　宏明	577
	情報処理ⅡＨ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-118-GE	1～		秋	2	加園　克己	578
	情報処理ⅡＩ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-119-GE	1～		秋	2	市川　収	579
	情報処理ⅡＪ（コンピュータ基礎）	コンピュータ基礎	CAR-120-GE	1～		秋	2	市川　収	580
	情報処理Ⅲ（コンピュータ応用）	画像処理	CAR-121-GE	1～	春		2	岩城　宏明	581
	情報処理Ⅳ（コンピュータ応用）	プログラム作成	CAR-122-GE	1～		秋	2	岩城　宏明	582
	文献情報		INF-123-GE	1～		秋	2	越塚・西川	583
	社会調査法		SOC-024-GE	1～		秋	2	本柳　亨	584
日本語表現法科目群	日本語表現法ＩＡ	「書きことば」による文章表現	JPL-101-GF	1～	春		2	阿部美菜子	585
	日本語表現法ＩＢ	「書きことば」による文章表現	JPL-102-GF	1～	春		2	阿部美菜子	586
	日本語表現法ＩＣ	「書きことば」による文章表現	JPL-103-GF	1～	春		2	奥泉　香	587
	日本語表現法ＩＤ	「書き言葉による文章表現」	JPL-104-GF	1～	春		2	村上　佳恵	588
	日本語表現法ＩＥ	「書きことば」による文章表現	JPL-105-GF	1～	春		2	篠﨑　佳子	589
	日本語表現法ＩＦ		JPL-106-GF	1～	春		2	木村　直恵	590
	日本語表現法ＩＧ	アカデミックライティング	JPL-107-GF	1～	春		2	福島　直恭	591
	日本語表現法ＩＨ	「書きことば」による文章表現	JPL-108-GF	1～		秋	2	阿部美菜子	592
	日本語表現法ＩＩ	「書きことば」による文章表現	JPL-109-GF	1～		秋	2	篠﨑　佳子	593
	日本語表現法ＩＪ	「書き言葉による文章表現」	JPL-110-GF	1～		秋	2	村上　佳恵	594
	日本語表現法ＩＫ	「書き言葉による文章表現」	JPL-111-GF	1～		秋	2	村上　佳恵	595
	日本語表現法ＩＬ	「書きことば」による文章表現	JPL-112-GF	1～		秋	2	加藤　陽子	596
	日本語表現法ＩＭ		JPL-113-GF	1～		秋	2	木村　直恵	597
	日本語表現法ＩＮ	アカデミックライティング	JPL-114-GF	1～		秋	2	福島　直恭	598
	日本語表現法ⅡＡ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-115-GF	1～	春		2	阿部美菜子	599
	日本語表現法ⅡＢ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-116-GF	1～	春		2	村上　佳恵	600
	日本語表現法ⅡＣ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-117-GF	1～	春		2	村上　佳恵	601
	日本語表現法ⅡＤ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-118-GF	1～		秋	2	阿部美菜子	602
	日本語表現法ⅡＥ	「書きことば」による文章表現	JPL-119-GF	1～		秋	2	奥泉　香	603
	日本語表現法ⅡＦ	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	JPL-120-GF	1～		秋	2	村上　佳恵	604

共通科目（外国語を除く）　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 全学科	学期		単位	担当者	頁
スポーツ・健康科学演習科目群	スポーツ・健康科学演習ＩＡ	ダンスと文化(日本の踊りと世界のダンス)	SPO-001-GG	1～	春		2	荒井　啓子	605
	スポーツ・健康科学演習ＩＢ	和の身体技法	SPO-002-GG	1～	春		2	森田　ゆい	606
	スポーツ・健康科学演習ＩＣ	レクリエーションとニュースポーツ	SPO-003-GG	1～	春		2	針ヶ谷雅子	607
	スポーツ・健康科学演習ＩＤ	世界の身体技法	SPO-004-GG	1～	春		2	瀬戸　邦弘	608
	スポーツ・健康科学演習ＩＥ	スポーツ技術とゲーム(テニス)	SPO-005-GG	1～	春		2	吉成　啓子	609
	スポーツ・健康科学演習ⅡＡ	東洋の養生法(太極拳と呼吸法)	SPO-006-GG	1～		秋	2	荒井　啓子	610
	スポーツ・健康科学演習ⅡＢ	スポーツ技術とゲーム(バドミントン)	SPO-007-GG	1～		秋	2	吉成　啓子	611
	スポーツ・健康科学演習ⅡＣ	からだとこころをほぐすワーク	SPO-008-GG	1～		秋	2	針ヶ谷雅子	612
	スポーツ・健康科学演習ⅡＤ	フラダンスとハワイの身体文化	SPO-009-GG	1～		秋	2	針ヶ谷雅子	613
	スポーツ・健康科学演習ⅡＥ	生涯スポーツとしてのバレーボール	SPO-010-GG	1～		秋	2	吉成　啓子	614
伝統文化演習科目群	伝統文化演習ＩＡ（書道）		TRD-001-GH	1～	春		2	香川　明美	615
	伝統文化演習ＩＢ（書道）		TRD-002-GH	1～	春		2	齊藤　登	616
	伝統文化演習ⅡＡ（書道）		TRD-003-GH	1～		秋	2	香川　明美	617
	伝統文化演習ⅡＢ（書道）		TRD-004-GH	1～		秋	2	齊藤　登	618
	伝統文化演習ⅢＡ（華道）		TRD-005-GH	1～	春		2	池坊・山本	619
	伝統文化演習ⅢＢ（華道）		TRD-006-GH	1～	春		2	池坊・山本	620
	伝統文化演習ⅣＡ（華道）		TRD-007-GH	1～		秋	2	池坊・山本	621
	伝統文化演習ⅣＢ（華道）		TRD-008-GH	1～		秋	2	池坊・山本	622
	伝統文化演習ⅤＡ（茶道）		TRD-009-GH	1～	春		2	岩田　明子	623
	伝統文化演習ⅤＢ（茶道）		TRD-010-GH	1～	春		2	岩田　明子	624
	伝統文化演習ⅤＣ（茶道）	国際人としての茶の湯	TRD-011-GH	1～	春		2	中澤　宗寿	625
	伝統文化演習ⅤＤ（茶道）	国際人としての茶の湯	TRD-012-GH	1～	春		2	中澤　宗寿	626
	伝統文化演習ⅥＡ（茶道）		TRD-013-GH	1～		秋	2	岩田　明子	627
	伝統文化演習ⅥＢ（茶道）		TRD-014-GH	1～		秋	2	岩田　明子	628
	伝統文化演習ⅥＣ（茶道）	国際人としての茶の湯	TRD-015-GH	1～		秋	2	中澤　宗寿	629
	伝統文化演習ⅥＤ（茶道）	国際人としての茶の湯	TRD-016-GH	1～		秋	2	中澤　宗寿	630
	伝統文化演習ⅦＡ（香道）	香の伝統と文化	TRD-017-GH	1～	春		2	三條西公彦	631
	伝統文化演習ⅦＢ（香道）	香の伝統と文化	TRD-018-GH	1～	春		2	三條西公彦	632
	伝統文化演習ⅦＣ（香道）	香の伝統と文化	TRD-019-GH	1～	春		2	三條西公彦	633
	伝統文化演習ⅦＤ（香道）	香の伝統と文化	TRD-020-GH	1～	春		2	三條西公彦	634
	伝統文化演習ⅧＡ（香道）	香の伝統と文化を学ぶ	TRD-021-GH	1～		秋	2	三條西公彦	635
	伝統文化演習ⅧＢ（香道）	香の伝統と文化を学ぶ	TRD-022-GH	1～		秋	2	三條西公彦	636
	伝統文化演習ⅧＣ（香道）	香の伝統と文化を学ぶ	TRD-023-GH	1～		秋	2	三條西公彦	637
	伝統文化演習ⅧＤ（香道）	香の伝統と文化を学ぶ	TRD-024-GH	1～		秋	2	三條西公彦	638
	伝統文化演習ⅨＡ(有職故実)	十二単の着装実習を軸として	TRD-025-GH	1～	春		2	鮫嶋　康順	639
	伝統文化演習ⅨＢ(有職故実)	十二単の着装実習を軸として	TRD-026-GH	1～	春		2	鮫嶋　康順	640

共通科目（外国語を除く）　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 全学科	学期		単位	担当者	頁
伝統文化演習科目群	伝統文化演習ⅨＣ（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	TRD-027-GH	1～	春		2	鮫嶋　康順	641
	伝統文化演習ＸＡ（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	TRD-028-GH	1～		秋	2	鮫嶋　康順	642
	伝統文化演習ＸＢ（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	TRD-029-GH	1～		秋	2	鮫嶋　康順	643
	伝統文化演習ＸＣ（有職故実）	十二単の着装実習を軸として	TRD-030-GH	1～		秋	2	鮫嶋　康順	644
国際文化交流演習科目群	国際文化交流演習Ⅰ（国際儀礼）	現代の国際儀礼（プロトコール）	CAR-001-GI	1～		秋	2	阿曽村智子	645
	国際文化交流演習ⅡＡ（演劇）		ART-002-GI	1～		秋	2	小田島則子	646
	国際文化交流演習ⅡＢ（演劇）	演劇祭運営実習	ART-003-GI	1～		秋	2	尼ヶ﨑　彬	647
	国際文化交流演習Ⅲ（音楽）	デジタル時代の大衆音楽	ART-004-GI	1～	春		2	杉原　志啓	648
	国際文化交流演習Ⅳ（映画）	映画における異文化交流	ART-005-GI	1～		秋	2	土田　環	649
	国際文化交流演習ＶＡ（美術）	日本美術に親しむ	ART-006-GI	1～		秋	2	上野　友愛	650
	国際文化交流演習ＶＢ（美術）	美術館における国際文化交流	ART-007-GI	1～	春集中		2	丹羽　晴美	651
	国際文化交流演習Ⅵ（シンクタンク）	政策形成過程におけるシンクタンクの役割	CAR-208-GI	2～		秋	2	這禽　恵子	652
	国際文化交流演習ⅦＡ（海外語学研修）	Lethbridge ELS/LECTURE/INTERNSHIP	ENG-009-GI	1～	春集中		2	岩﨑　光洋	653
	国際文化交流演習ⅦＢ（海外語学研修）	Deakin ELS/LECTURE/INTERNSHIP	ENG-010-GI	1～		秋集中	2	岩﨑　光洋	654
	国際文化交流演習ⅦＣ（海外語学研修）	イギリス語学研修	ENG-011-GI	1～	春集中		2	古庄　信	655
	国際文化交流演習Ⅷ（情報メディア）	翻訳で学ぶソーシャルメディア	INF-012-GI	2～		秋	2	藤原　朝子	656
	国際文化交流演習ⅨＡ（海外ボランティア）	Volunteer Activities	VOL-013-GI	1～	春集中		2	岩﨑　光洋	657
	国際文化交流演習ⅨＢ（海外ボランティア）	Volunteer Activities	VOL-014-GI	1～		秋集中	2	岩﨑　光洋	658
	国際文化交流演習Ⅹ（アートマネージメント）			1～	－	－	2	－	－
	国際文化交流演習ⅩⅠ（ワシントン・セミナー１）	国際機関における国際協力活動と米国における文化政策	INR-216-GI	2～	春集中		2	畠山・M.ウーゴ	659
	国際文化交流演習ⅩⅡ（ワシントン・セミナー２）	ワシントンで学ぶ米国の政治と歴史	INR-217-GI	2～	春集中		2	畠山　圭一	660
	国際文化交流演習ⅩⅢ（開発途上国研修1）		INR-018-GI	1～		秋	2	伊藤由紀子	661
	国際文化交流演習ⅩⅣ（開発途上国研修2）		INR-019-GI	1～		秋集中	2	伊藤由紀子	662
生活文化演習科目群	生活文化演習Ⅰ（染色）		LIF-001-GJ	1～	春		2	佐久間敏子	663
	生活文化演習Ⅱ（刺繍）		LIF-002-GJ	1～		秋	2	佐久間敏子	664
	生活文化演習Ⅲ（食品製造）			1～	－	－	2	－	－
	生活文化演習Ⅳ（食品加工）			1～	－	－	2	－	－
	生活文化演習Ⅴ（空間造形）	製図の基礎と住空間の設計	DES-005-GJ	1～	春		2	渡邊　保弘	665
	生活文化演習Ⅵ（空間造形）	空間の立体表現と住宅設計	DES-006-GJ	1～		秋	2	渡邊　保弘	666
社会演習科目群	ボランティア演習	国際協力ＮＧＯでボランティアを体験する	VOL-001-GK	1～		秋	2	野口　朝夫	667
	社会儀礼演習	社会人として必要なマナー知識や作法を学ぶ	CAR-202-GK	2～	春		2	明石　伸子	668

特別総合科目I（外交官）

3731000100100

副　題	外交・国際交流の第一線から							担　当　者	阿曽村　智子　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	CAR-201-GA

〔授業の到達目標〕

（１）外交官の仕事について，その法律上の立場から実際の日常業務まで具体的な事例を通じて総合的に理解することにより，世界や日本の平和と繁栄のために外交官が果たす役割について理解を深める。（２）将来，国際交流・国際協力の活動に携わるにあたって現場で役に立つ基本的な知識やものの見方を身につける。（３）一市民として日本の外交政策に対して自分なりの意見を持てるようになる。

〔授業の内容〕

外交の機能は，情報収集，政策形成，交渉，広報，国際協力活動の支援，在留自国民の保護など，広範囲にわたっている。近年においては，二国間のみならず国際機関や国際会議などを通じた多国間外交の舞台も拡大している。独立行政法人や民間団体（NGO）の活動もますます重要な役割を果たすようになってきた。本講義では，こうした広義の意味での「外交官」の諸側面を考察の対象としている。内外の大使経験者をはじめ国際舞台の第一線で外交・国際交流および国際協力に携わる様々な関係者を招き，体験談を通じて外交や国際関係の実態を浮き彫りにしたい。

〔教材〕

教科書：外務省儀典官室『国際儀礼に関する１２章―プロトコール早わかり』財団法人世界の動き社，２００４年

参考書：ハロルド・ニコルソン著/斎藤真＆深谷満雄訳『外交』（UP選書）東大出版会，1968年
矢田部厚彦『職業としての外交官』（文春新書）文芸春秋，2001年
大日方和雄『領事の仕事　国際人のサポーター』有信堂，2005年
緒方貞子序＆西崎真理子他著『国際協力を仕事として―開発・人道援助に飛び立つ女性たち―』第4版，彌生書房，2000年
金子将史・北野充編著『パブリック・ディプロマシー戦略』PHP研究所，2014年
友田二郎『国際儀礼とエチケット（新装普及版）』学生社，2001年

上記の他にも内外の外交官の回想録等を授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に提示する指定図書にあらかじめ目をとおし，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。ゲスト講師の場合には，講演内容概要とコメントおよび質問を文章にまとめて提出すること。日頃から新聞の国際欄などを閲覧して情報収集し，講義内容と関連づけて考えられるように訓練すること。

〔成績評価の方法〕

期末の筆記試験（50%）および学期中数回提出のリアクション・ペーパーの内容（まとめて50%）を基に総合的に判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

t-asomura●world.odn.ne.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　序論：外交官とは？
第２週　外交に関する基礎知識（１）在外公館の役割
第３週　外交と文化：国際文化交流と日本文化の紹介
第４週　外交官の仕事：領事業務
第５週　外交官の仕事：情報の収集と分析
第６週　第３回～第５回のまとめ
第７週　外交に関する基礎知識（２）「外交官」に関する基本文献
第８週　大使の仕事：二国間関係の場合
第９週　大使夫人の仕事：接遇と文化交流
第10週　（独立行政法人）国際交流基金の仕事
第11週　国際文化協力活動に携わるNGOの活動
第12週　第７回～第10回のまとめ
第13週　外交に関する基礎知識（３）プロトコールとマナー
第14週　21世紀の日本の外交戦略
第15週　総括

講義テーマの順はゲスト・スピーカーの日程調整の都合により，上記の授業計画と多少異なる場合もある。具体的なゲスト・スピーカーの日程等については学期初めの講義で発表する。

特別総合科目III（国際企業）

3731001300100

副　題	組織とキャリアの最前線							担　当　者	金城　亜紀　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	CAR-203-GA

〔授業の到達目標〕

1．グローバル化する組織におけるリーダーシップのあり方を理解する。
2．21世紀におけるキャリアについて自分なりの考えを確立し，実践できるようになる。
3．ゲスト・スピーカーの先生方から今後の人生の歩み方についての示唆を得る。

〔授業の内容〕

今日，あらゆる組織はグローバル化の渦中にいます。本授業では，「国際企業」の「企業」を「組織」と読み替え，組織・人材・キャリアについて理論と実践の両面から考えます。理論と実践の架け橋として，現場感覚に富んだ第一線で活躍される方々をゲスト・スピーカーとしてお招きします。

本授業は，ディスカッションを重視し，受講生に積極的な発言を求めます。予備知識は必要ありませんが，好奇心が旺盛で，チームとしてお互いを高め合うことを重んじる方を歓迎します。

〔教材〕

参考書：Lane, H.W. and Maznevski, M.L.『International Management Behavior: Global and Sustainable Leadership』Wiley，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習として１～２時間程度，レポート（約10本）に各２時間程度を要すると思われます。

〔成績評価の方法〕

レポート：75%
クラスでの発表・発言：25%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日：13：30～14：30 (4222研究室)

〔授　業　計　画〕

第１週　Kick-off
第２週　The Global Manager
第３週　ゲスト・スピーカー特別講義
第４週　Understanding Culture
第５週　ゲスト・スピーカー特別講義
第６週　Interpersonal Skills for International Management
第７週　ゲスト・スピーカー特別講義
第８週　Managing Global Teams and Networks
第９週　ゲスト・スピーカー特別講義
第10週　Executing Global Strategy
第11週　ゲスト・スピーカー特別講義
第12週　Talent Management: Selecting and Developing Global Managers
第13週　ゲスト・スピーカー特別講義
第14週　Managing Change in Global Organizations
第15週　ゲスト・スピーカー特別講義

ゲストスピーカーの詳細は開講時にお知らせします（先生方のご都合により変更する場合があります）。より良い授業にするために，本計画を修正することがあります。

特別総合科目Ⅳ（東アジア共同体論ー学際的アプローチ）

3731002400100

副　題	アジアの調和と発展に向けて							担　当　者	金野　純　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INR-004-GA

〔授業の到達目標〕

アジア各国が調和のとれた関係を築くうえで，どのような課題があり，どのような展望が描けるのかについて，歴史・社会・国際関係・環境の側面から多面的に理解する。授業の内容を踏まえて，各自が自分なりの考えを持つ。講座参加者は，アジアが共有する課題を具体的に知り，同時に共同性の構築がもたらすベネフィットについても議論することで，より広い視野からアジアをみる目を養う。

〔授業の内容〕

急速に経済的な発展を続けるアジアだが，アジア各国の関係をみれば，様々な問題が存在している。しかし様々な問題がある今だからこそ，逆にアジアの調和の可能性を探る必要性もまた求められているのである。なぜなら東アジアに存在する課題は，国家と国家の関係だけではない。国境を越えた環境問題の広がり，グローバルな経済活動に伴う国際移動の活発化，コミュニケーション技術の発達による社会運動の国際的連帯などの諸現象を目の当たりにする現在，アジアの調和的な関係の構築は我々にとって重要な課題なのである。

そこで本講座では，多様な専門分野から講師を招き，主に（1）国境を越えた広域的課題と（2）各国境内における狭域的課題の2つの側面からアジアについて議論をおこなう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の準備として，授業の前にシラバスを確認し，各回の授業に関連した書籍などで事前に「自分なりの見方・意見」を準備した上で，授業に参加すること。授業後は，授業の内容も踏まえて自らの考えを再検討し，内容をリアクションペーパーとして提出すること。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー（70%），授業参加（自発的発言等）（30%）。なお授業実施回数の3分の1以上を欠席した場合は，科目を履修したとは認められません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜3限

授業後に直接連絡するか，もしくは電子メール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）。

〔授　業　計　画〕

第1週　今後の授業に関するガイダンス，また前年度の授業内容についても，先生方とのインタビュー映像を利用して紹介する。
第2週　（歴史・全般）アジアにおける歴史問題と和解の可能性：金野純（学習院女子大学・准教授）
第3週　（歴史・政治）戦前・戦中における日中共同事業：李嘉冬（東華大学・副教授）
第4週　（歴史・経済）香港を中心とした東アジアの経済史：李培徳（香港大学・客員准教授）
第5週　（歴史・思想）戦時期のアジア主義の軌跡と今後のアジア関係：朴尚洙（高麗大学・教授）
第6週　（社会）日本のシティズンシップとアジア：時安邦治（学習院女子大学・教授）
第7週　（社会）日本における外国人居住者への法的支援：皆川涼子（弁護士）
第8週　（社会）中国と日本ー国境を越えた公共圏の形成を展望する：阿古智子（東京大学・准教授）
第9週　（国際・言語）スリランカにおける日本語教育：M・A・ニマル（ケラニヤ大学・教授）
第10週　（国際・経済）世界の経済と変わる東アジア：平川均（名古屋大学・名誉教授）
第11週　（国際・人口移動）東アジアの人口移動と国際関係：羅京洙（学習院女子大学・准教授）
第12週　（環境）原発事故の東アジアへの影響：宋浣範（高麗大学・教授）
第13週　（環境）農業からみる環境問題：荘林幹太郎（学習院女子大学・教授）
第14週　（総合）アジア共同体の夢とビジョン：佐藤洋治（ワンアジア財団理事長）
第15週　（総合）授業のまとめ

特別総合科目V（環境問題）

3731001500100

副　題	地球・自然・人と生き物たち							担　当　者	品川　明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENV-005-GA

〔授業の到達目標〕

1．各講師の授業テーマを十分に理解できるとともに自らの意見を持つこと．
2．環境に対する自らの責任を認識できる
3．自らが環境保全のために積極的行動できること

〔授業の内容〕

地球にはすばらしい自然があり，多様な生き物たちが一生懸命生きている。そのすばらしい生き物の世界を一線の研究者によるオムニバス方式の講義で堪能してください。昆虫からヒトの生き様に触れた時，神秘と感動の生き物の世界とヒトの責任の大きさ，そして地球の美しさ，寛容さに魅せられることでしょう！

〔教材〕

毎回プリントを配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

それぞれの授業終了後，テーマに対応した文献を調査することが望ましい。そのための時間として，３時間を要する。

〔成績評価の方法〕

1．出席状況と授業への参加姿勢，積極的発言などの授業貢献度を重視する．（40%）
2．毎回講義の内容について，気づいたこと，発見したこと，疑問に思ったこと，感想を授業中に提出する．このレポートは講義への参加状況の把握と成績評価の基礎となり，厳密に評価する．（60%）

「評価基準」授業中の受講態度を重視する．小レポートの記述内容から講義の理解度を評価し，到達目標をクリアーしている場合のみ合格点を与える．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日（４限目）のオフィス･アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕

８名の講師による地球と生き物たちの共演です。地球や動物についてできるだけトピック性の高いテーマを設定するため，講義内容を変更することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　ガイアシンフォニー　第２番の上映会（佐藤初女さん）品川　明
第２週　生物の進化と絶滅　富田京一（肉食爬虫類研究所）
第３週　島嶼の生態系－西表島の両生爬虫類を中心に－　富田京一（肉食爬虫類研究所）
第４週　南極が壊れる　藤原幸一（Nature’s Planet　代表，　ネイチャーフォト・ジャーナリスト）
第５週　森が壊れている～地球温暖化による森林環境の激変　藤原幸一（Nature’s Planet　代表，　ネイチャーフォト・ジャーナリスト）
第６週　農を取り巻く環境　萩原さとみ（ファームイン・サギヤマ）
第７週　今こそ伝えたい農の力　萩原さとみ（ファームイン・サギヤマ）
第８週　糀と日本人　浅利　妙峰（糀屋本店　）
第９週　ガイアシンフォニー　第５番上映会　品川　明
第10週　西表島の人と自然～自然の恵みを頂く伝統の知恵　石垣金星（紅露工房　用務員　西表民謡愛好会会長他）
第11週　いのちを産む　大野明子（明日香医院院長）
第12週　ガイアの知性（地球交響曲の作成秘話）　龍村　仁（映画監督）
第13週　海の生き物たち～日本の食文化を飾る魚介類　品川　明
第14週　貝から考える生き物の仕組みと人の役割　品川　明
第15週　まとめ　品川　明

特別総合科目VII（現代時事分析１）

3731002000100

副　題	現役記者によるニュース分析							担　当　者	石澤　靖治　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SOC-207-GA

〔授業の到達目標〕

ジャーナリズムと時事問題分析への理解を深めつつ，新聞の役割とニュースを読み込む視点を得ることを目標とする。

〔授業の内容〕

毎日新聞社で活躍する現役の論説委員，編集委員，海外特派員経験者らが，日々複雑に絡み合う政治・経済・社会・文化のニュースを，取材現場で得た裏話を絡めて新聞記事やニュース写真をふんだんに使い，解説，分析する。ともすると膨大なニュースに流されがちだが，ニュースの見方，視点を考えることで，ニュースの本質に迫る新聞と記者の役割を実感してもらい，ニュースの価値を自ら判断するメディアリテラシーを学ぶ。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業当日配られる新聞を，授業前と授業後にしっかり読むこと。

〔成績評価の方法〕

リアクションレポート提出（毎回）：90%，授業中のコメント提出：10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

人数制限：約100人（希望者が多い場合は，レポートで選考）

〔授　業　計　画〕

第１週　Orientation：授業概要の説明と，新聞記者の仕事概説
第２週　メディア・文化論１
第３週　メディア・文化論２
第４週　メディア・文化論３
第５週　メディア・文化論４
第６週　政治事情分析１
第７週　政治事情分析２
第８週　政治事情分析３
第９週　経済事情分析１
第10週　経済事情分析２
第11週　経済事情分析３
第12週　社会事情分析１
第13週　社会事情分析２
第14週　社会事情分析３
第15週　まとめ

特別総合科目VIII（現代時事分析２）

3731002100100

副　題	海外特派員経験者が現場報告							担　当　者	石澤　靖治　教授
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	INR-208-GA

〔授業の到達目標〕

ジャーナリズムと時事問題分析への理解を深めつつ，新聞の役割と国際ニュースを読み込む視点を得ることを目標とする。

〔授業の内容〕

毎日新聞社で活躍する海外特派員経験者らが，日々複雑に絡み合う海外のニュースを，取材現場で得た裏話を絡めて，新聞記事や記者が撮影した写真をふんだんに使い，解説，分析する。ともすると膨大なニュースに流されがちだが，ニュースの見方，視点を考えることで，ニュースの本質に迫る新聞と記者の役割を実感してもらい，各国・各地域の実情を理解しつつ，国際ニュースの価値を自ら判断する能力を養う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日配布される新聞を授業前・授業後に熟読すること。

〔成績評価の方法〕

授業をまとめたレポート（毎回）：90%，授業中の発言・コメント：10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

人数制限：約100人（希望者が多い場合は，レポートで選考）

〔授　業　計　画〕

第１週　Orientation：授業概要の説明と新聞記者の仕事概説
第２週　米国事情１
第３週　米国事情２
第４週　欧州事情１
第５週　欧州事情２
第６週　中国事情１
第７週　中国事情２
第８週　朝鮮半島事情１
第９週　朝鮮半島事情２
第10週　中東事情１
第11週　中東事情２
第12週　アフリカ事情１
第13週　アフリカ事情２
第14週　ロシア事情１
第15週　ロシア事情２

特別総合科目IX（フードコンシャスネス論１）

3731002200100

副　題	食の真の価値を考える～食教育の新しい視座	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIF-109-GA

〔授業の到達目標〕
１．フードコンシャスネスの意義や理念を理解できる。
２．食と自然との繋がりを理解し，食の価値を表現することができる。
３．日本伝統文化と日本の食の繋がりを理解し，食の価値を表現することができる。
４．フードコンシャスネス教育の本質を理解し，食を自覚的に表現することができる。

〔授業の内容〕
これまでの食に関する教育は，栄養学，衛生学，食品学，生物学，化学などの視点からのアプローチが多く，それぞれの教科においては断片的で縦断的な知識の習得に重きを置いたものと判断される。また，平成17年に制定された食育基本法も，食生活の改善，生活習慣病の予防の観点から，栄養学，食品衛生学などを背景とした議論が多く，アプローチの視点は教育現場や家庭でも従来の教育手法によるものが多い。
本授業では，食べるもの，食べること，食べかたという日常の行為をきちんと意識し，食に対する自覚的かつ積極的な姿勢を育むことを目的とする。また，食を自覚的に感じる能力や食を積極的に意識する能力を身につける必要がある。
そのために，フードコンシャスネスの意義を議論する。次に，食と自然環境の繋がり，日本文化と食との関わり，フードコンシャスネスの教育的価値などを多くの食の専門家を招き実践を通して，自覚的に理解できるように授業展開する。

〔教材〕
特に指定しない。レジュメ，ワークシート，リアクションペーパーを授業毎に配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業の後に振り返りを実施し，授業で見出した概念や疑問点を整理する。疑問点は文献などを活用し，自分自身の意見をまとめる必要がある。

〔成績評価の方法〕
１．出席状況　20%　４回以上の欠席，早退や遅刻も厳格に対応する。
２．発言や質問などの授業貢献度を重視する　20%
３．リアクションペーパーやアンケートの内容を重視する。30%
４．授業中の発表とそのレポートの内容や提出状況を重視する。30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業に関する質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日５限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕
外部講師は実務の都合により日程変更する可能性があります。

〔授　業　計　画〕

第１週　フードコンシャスネスの意義１～食とは
第２週　フードコンシャスネスの意義２：
　　もの・こと・かたの意味　アンケート　グループ討議と発表
第３週　フードコンシャスネスと食１：
　　食と農～自然環境と土との関わり：岸ユキ氏
第４週　フードコンシャスネスと日本文化１：
　　茶道と食～陰陽：中澤　宗寿（学習院女子大学伝統文化演習担当講師）
第５週　フードコンシャスネスと食２：
　　食と漁業～魚食を考える：上田　勝彦（元漁師・元水産庁）
第６週　フードコンシャスネスと日本文化２：
　　糀と食：浅利　妙峰（糀屋本店）
第７週　フードコンシャスネスと食３：
　　ワインの味わい方：信國　武洋（ソムリエ）
第８週　フードコンシャスネスと日本文化３：
　　日本文化と和食：佐竹　力総（美濃吉）
第９週　フードコンシャスネスと日本文化４：
　　神事と食：鎌田　紀彦（大宮八幡宮）
第10週　フードコンシャスネスと教育１：
　　日本の食教育の現状と課題：楠野恭巳（フードコンシャスネス研究所）
第11週　フードコンシャスネスと教育２
　　自分の食べ方～食べ方でわかる感じる能力
第12週　フードコンシャスネスと教育３
　　自分の五感力～自分の能力を確認する
第13週　フードコンシャスネスと教育４
　　自分の味わい力～味を感じる理由
第14週　フードコンシャスネスの意義３～食を表現する
第15週　まとめ
　　フードコンシャスネスの理念　食と生き物と自然の繋がり

特別総合科目X（フードコンシャスネス論２）

3731002300100

副　題	フードコンシャスネスと食を自覚する授業	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LIF-210-GA

〔授業の到達目標〕
１．食および食教育の本質とフードコンシャスネスの理念の理解する
２．感覚・味わい教育の現状と課題を理解する
３．自覚的に概念を形成する過程を理解する
４．正解を求めない教育のあり方を理解する。多様な考えを尊重する姿勢を理解する。

〔授業の内容〕
食を教える教育から食を意識する教育が重要であり，そのためには食を感じる教育が必要である。食を感じる教育とは，五官を使って，五感を感じるとともに心に残る感動（心感や六感）があってはじめて食を感じたことになる。感覚や味わい力向上には心に残る体験（経験）とその記憶が重要だ。食を捉えるとき，単に食材として，購入や調理の際は形や色や鮮度を意識することも大切である。しかし，これは食のごく一部の側面でしかない。また，食事の時，ただ空腹を満たすためのものであったり，テレビをみながらの通過儀礼的なものであったりもする。食事に対し，漫然と接することなく，素材や味付けなど様々な周辺情報にも関心を持ちながら食べることが重要である。食に関心を持ち，心に焼き付けながら食事をすることは素晴らしいことである。
食は本来その多くが生き物や生き物から生産されたものである。多くの生き物を頂いたとき，その生き物は多くの年月をかけ，広大な土地や海で育ち，膨大な労力の果てに食卓にあることを忘れてはいけない。そして，多くの命が我々の命として引き継がれて行く。食卓にあるとき，当たり前のこととして，漫然と食事をすること無く，この食卓に糧（いのち）があることを有り難い事実として捉え，感謝の気持ちとその生き物への想いを持って頂きたい。それらによって，食の記憶が蓄積され，経験となり，感覚，味覚，風味や食味の向上につながる。
このような観点から，食から耕す未来と文化の理念を実現するため，感覚と味覚について教育的配慮ができる学生を養成することを目的としている。この講義は，実際の食物を使用した感覚や味わいの講座以外に子ども達がどのように自覚的な気づきに達するかの指導方法や指導者としての心得などのセッションもある。

〔教材〕
特に指定しない。プリント，ワークシートとリアクションペーパーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
我が家の味のルーツや各地の雑煮について，調査し発表する。また，最終的に残したい日本の味についてレポート発表する。それらを調査し，まとめるために４時間以上の学習が必要である。

〔成績評価の方法〕
１．出席状況および授業への貢献度　40%　４回以上の欠席，早退や遅刻についても厳格に対応する。
２．授業中のアクティビティやコミュニケーション活動から得られた概念を文章表現する振り返りを重視する。30%
３．企画提案および発表　30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日４限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕
２年生以上の履修科目である。演習形式の授業を実施するため，事前に人数制限（36名）する。
フードコンシャスネス論１履修者を優先する。

〔授　業　計　画〕

第１週　フードコンシャスネスと味わい１
　　フードコンシャスネスの教育的意義：我が家の味と伝統食（雑煮）
　　リンゴの試食
第２週　フードコンシャスネスと教育１
　　フードコンシャスネスの理念と特徴
第３週　フードコンシャスネスと味わい２
　　基本味とその生理的意義
第４週　フードコンシャスネスと味わい３
　　うま味の意義と味噌汁の試食
第５週　フードコンシャスネスと食の叡智１
　　日本蕎麦と日本文化：成田　重行
第６週　フードコンシャスネスと味わい４
　　醤油の味比べ
第７週　フードコンシャスネスと味わい５
　　地域の雑煮（グループ討議と発表）
第８週　フードコンシャスネスと食の叡智２
　　茶道と和菓子：中澤　宗寿（学習院女子大学伝統文化演習担当講師）
第９週　フードコンシャスネスと味わい６
　　だしのおいしさ
第10週　フードコンシャスネスと食の叡智３
　　糀の世界と人とのかかわり：浅利　妙峰（糀屋本店）
第11週　フードコンシャスネスと味わい７
　　味噌の味比べ
第12週　フードコンシャスネスと味わい８
　　日本の三珍
第13週　フードコンシャスネスと食の叡智４
　　米と飯～研ぎ方から炊き方まで：吉村　常弘（御飯）
第14週　フードコンシャスネスと自分
　　グループ討議と発表（残したい日本の味）リンゴの試食
第15週　まとめ（雑煮の食べ比べとフードコンシャスネスの役割）
日程や外部講師が変更する場合がある。

特別総合科目XI（オリンピックの探究）

3731002500100

副　題	オリンピック・リテラシーの成熟に向けて	担　当　者	荒井　啓子　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SPO-011-GA

〔授業の到達目標〕

＜各講師の講義テーマをから，以下の点を理解し深く考えるようにする。＞

・近代オリンピックの理念とともに，オリンピックの歴史的背景を理解する。

・オリンピックに向けられた現代的諸問題とともに「文化」や「社会」のありようを考える。

・「国際交流とは何か」「国際協力とは何か」「世界の中の日本文化とは何か」を考える。

・2020TOKYOに向けて，同時に2020TOKYOのその後に目を向けて（For & Beyond 2020），それぞれの課題を考える。

・スポーツ文化の表象力について考える。

〔授業の内容〕

・オリンピックに深く関わる第一線の研究者，ジャーナリスト，あるいはオリンピアン・パラリンピアンが毎回ゲストスピーカーとして講義を行い，それぞれの専門的な立場や視点から，オリンピックの諸相を掘り下げ説き起こす。

・近代オリンピックの根本精神（オリンピズム）は，「文化・教育・スポーツを一体とした生き方の創造である」とオリンピック憲章に記されている。これは，オリンピック・パラリンピック競技大会が，単なるスポーツの祭典ではなく，世界中の異なる文化の異なる環境の人々がスポーツを通じて集い，互いの文化を知り，個々の生き方を理解し尊重することを目指していると言えよう。しかし，そこには，政治・経済・人種・メディア・ジェンダー等と関わる厳しい「現実」が内在してきた。そこで，本講義では，総合芸術と称され領域を超えてあらゆる「知」が注がれてきたオリンピックの歴史を辿るとともに，その光と影を浮き彫りにしつつ，現代社会におけるオリンピックとは何か，という問題に接近する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に配布する資料を参考にして，近代オリンピックの各大会の特徴について理解を深め授業の予習・復習に役立てる。

〔成績評価の方法〕

出席状況（30%），理解度の確認（30%），レポート（40%）によって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目，火曜日４時間目

〔備考〕

事前に履習者数の制限を行う。（事前調整科目）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス＜オリンピック概観＞
第２週　オリンピック起源論
第３週　クーベルタンとオリンピック教育
第４週　日本におけるオリンピックと嘉納治五郎
第５週　オリンピックとメディア
第６週　オリンピック招致：1940年東京大会
第７週　1964東京大会と都市東京
第８週　理解度の確認
第９週　オリンピックとジェンダー
第10週　オリンピックとスポーツ倫理～ドーピングをめぐって
第11週　アジェンダ2020とオリンピックレガシー
第12週　現代社会とオリンピック休戦（Olympic truce　）
第13週　オリンピックと芸術～アート・マネジメントの視点から
第14週　異文化理解と近代オリンピックの相克
第15週　戦後70年とオリンピックと報道
進度及び各講師の都合等により，テーマや日程の変更がある。
招聘する講師の詳細については，ガイダンスにおいて紹介する。

特別総合科目XII（キャリアデザイン１）

3731000700100

副　題	大学期のキャリア意識を確認する	担　当　者	木村　進　講師

単位	2	配当年次	1～2	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	CAR-112-GA

〔授業の到達目標〕

卒業後の社会での活躍の場をイメージし，大学期をどう過ごすか（大学期のキャリア）を計画，実施していきます。

〔授業の内容〕

大学期の４年間は,長いようで短いとよく言われます。何もしないうちに卒業を迎えてしまったと言う人もいます。しかしこの４年間を有効に活かして，自己を育成し，卒業後のステージにつなげている人も多いのです。大学期を成長のための手段とし，合目的的な学生生活を送るために，主に１年生と２年生向けの授業になっています。大学期をどう過ごすかを確認していきましょう。

前年度まで受講人数の制限で履修機会がなかった学年のために新設した，意欲的な内容となっています。

〔教材〕

教科書：木村　進『自分で切り開くキャリア・デザイン』中央経済社
参考書：大久保　幸夫『仕事のための１２の基礎力』日経BP社
ほかの参考書は，その都度，紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として，教科書を始めの２週間で一通り読んでいただき，感想を提出してもらいます。
ほかには，毎回の授業時に指示いたします。

〔成績評価の方法〕

試験はしませんが，授業への参加度や提出課題により評価します。
評価は課題レポート　60%（30%×２回）
振り返りシート　40%（期末に一括提出）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

随時メールで受付けます。メールアドレス　susumu.kimura●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

楽しく勉強していきましょう。
※旧「特別総合科目VI（職業選択）」の履修者は，本科目は履修できません。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
●授業の進め方　●キャリアの概念
第２週　大学期についての考察
●大学期のタイムキーパーは自分
第３週　今の自分，卒業後の自分
大学期を手段化
第４週　なりたい自分をイメージする
●ワーク・ステージの概念
第５週　今，現在の自分を理解する
●自己理解とは
第６週　一生をイメージしてみる
●ライフ・ダイヤ・グラム作成
第７週　大学で何をするか
●行動計画と履修計画
第８週　キャリア・プランと阻害要因
●積極的不確実性　●自己効力感
第９週　職業への関心
●外部講師
第10週　社会人として必要な基礎的能力（１）
●組織力と個人力　●自己開示力
第11週　社会人として必要な基礎的能力（２）
●ストレス耐性
第12週　社会人として必要な基礎的能力（３）
●コミュニケーションスキル
第13週　逆算のキャリア
●目標と段取り　●偶然のキャリア
第14週　総括
●個人力の時代
第15週　自主研究
第１回目の授業は必ず参加してください。履修者を確定します。
授業計画は外部講師招聘のため，若干スケジュールを変更する可能性があります。
授業ではワークシートや自己理解のための諸検査を実施しますので，出席していないと成果が出ません。

特別総合科目XIII（キャリアデザイン２）

3731000800100

副　題	主体的な人生を送るために							担　当　者	木村　進　講師
単位	2	配当年次	3～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	CAR-313-GA

〔授業の到達目標〕

自分のキャリア（人生の道筋）を自分でデザインする知識・能力をつける。

〔授業の内容〕

人は働くことを通して社会参加を果し，なりたい自分に近づこうとします。

キャリアとは，その人が歩んでいく人生の道筋のことで，生涯（ライフ・キャリア）の中に職業期間（ジョブ。キャリア）があります。ひとは，その道筋の途中の節目，節目で次に進むべき道（キャリア）を描いて（デザインして）歩を進めます。そのためには自分の特性を理解し（自己理解），また雇用，職業，企業といった社会や職域環境を知り（情報理解），卒業後の活躍の場をイメージしていきます。

さらに外部講師による「ビジネスマナー」の機会も設けます。

〔教材〕

教科書：木村　進『自分で切り開くキャリア・デザイン』中央経済社，２００１４年
参考書：金井　壽宏『働く人のためのキャリア・デザイン』ＰＨＰ研究所
　　大久保　幸夫『仕事のための１２の基礎力』日経ＢＰ社
ほかの参考書は，その都度，紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として，教科書を始めの２週間で一通り読んでいただき，感想を提出してもらいます。
ほかには，毎回の授業時に指示いたします。

〔成績評価の方法〕

試験はしませんが，授業への参加度や提出課題により評価します。
評価は，課題レポート　60%（30%×２回）
振返りシート　40%（期末に一括提出）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

随時メールで受付けます。メールアドレスは，susumu.kimura●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔備考〕

楽しく勉強していきましょう。
※旧「特別総合科目VI（職業選択）」の履修者は，本科目は履修できません。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　●授業の進め方　●「キャリア・デザイン１」の概要
第２週　集団の中の自分
　●人間とは集団的動物　●他人から見た自分
第３週　燃焼条件を確認
　●キャリア・アンカー
第４週　社会人として必要な基礎的能力（１）
　●組織力と個人力　●協働力
第５週　社会人として必要な基礎的能力（２）
　●ビジネスマナー　<外部講師>
第６週　社会人として必要な基礎的能力（３）
　●コンピテンシーとセレンディピティー
第７週　社会人として必要な基礎的能力（４）
　●反応力　●基礎力調査
第８週　「働く」を考える
　●人はなぜ，働くのか
第９週　ワーク・ステージの形成
　●職業興味検査
第10週　就活準備
　●職業選択とストーリー性　●偶然性とキャリア
第11週　企業を知る
　●雇用環境の変化
第12週　職業を知る，業界を知る
　●情報理解の大切さ
第13週　「ワーク・ライス・バランス」の意識
　●女性と職業
第14週　総括
　●キャリア・デザインと阻害要因
第15週　自主研究

第１回目の授業は必ず参加してください。履修者を確定します。
授業計画は外部講師招聘のため，若干スケジュールを変更する可能性があります。
授業ではワークシートや自己理解のための諸検査を実施しますので，出席していないと成果が出ません。

国際文化交流論I（日本の国際文化交流）

3732001100100

副　題	自分探しの異文化交流　―自分を知り、日本を知る―	担　当　者	伊部　正信　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ICR-001-GB

〔授業の到達目標〕
本講義は国際文化交流論の入門基礎講座として，日本人の対外意識や民族，国家意識とは何かを考え，異文化摂取の歴史を振り返り，日本の異文化交流の特質や現状を体系的に学ぶことを目標とする。

〔授業の内容〕
異文化体験は自己を相対化させ，日本文化とは何かを認識する契機になると共に，自分とは一体何なのかという個人のアイデンティティを確立させる糸口ともなる。文化交流の主役は個人である。しかし，交流を推進するのは政府や民間団体であることが多い。本講義では，政府，民間団体そして個人など，さまざまな視点から国際文化交流の役割と意義を考察する。異文化摂取が日本の社会や文化の形成に果たした歴史を振り返り，日本人の対外意識の特性を分析すると共に，日本文化，異文化間コミュニケーションなどにも言及する。また，日本の文化交流の現場や実情を知るため，各種の事例研究を行い，国際交流の現状と課題も検討する。本講義を通して，受講者は自分こそが文化交流の主体であり，媒体ともなり得ることを自覚し，国や政府主導の交流だけではなく，民間の発意による交流を活性化させてこそ，「人類の福祉と世界平和に寄与する」という文化交流の究極的な目的が達成できることを学んでほしい。さらに，文化交流は自分を知り，日本を知る，まさに自分探しの旅となること，そして，自分を変え，日本を変革する触媒ともなることを理解していただきたい。

〔教材〕
講義の進展に従い，その都度指定する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の講義内容は，翌週の授業の冒頭で学生にその要約を発表させるので，学生は翌週の授業日までにノートを参照しながら講義内容を再確認し，発表できるよう準備しなければならない。学生に発表させるのは，この講義を講師と学生の「交流」型授業にすると共に，学生のプレゼンテーション能力を涵養する狙いからである。

〔成績評価の方法〕
授業の出席，参画姿勢，発言などとレポート，試験で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕
本講義は講師から学生への一方的な直流の講義ではなく，国際文化「交流」論であるので，学生の参画を促す講師と学生の双方向の「交流」型講義にしたい。

〔授　業　計　画〕

第１週　国際交流って何？　――自己紹介とQ＆A――
第２週　文化交流の役割と意義
第３週　日本人の対外意識――異文化接触の特質――
第４週　日本的「ウチ」，西欧的「私」
第５週　「民族意識」と「国家意識」
第６週　文化交流の歴史　Ⅰ　――中国文化から西欧文化へ――
第７週　文化交流の歴史　Ⅱ　――受信型から発信型へ――
第８週　異文化間コミュニケーション　Ⅰ
第９週　異文化間コミュニケーション　Ⅱ
第10週　最近の文化交流
第11週　文化交流の現場から――事例研究　Ⅰ
第12週　文化交流の現場から――事例研究　Ⅱ
第13週　文化交流の現場から――事例研究　Ⅲ
第14週　総括――変革の触媒としての文化交流――
第15週　理解度の確認

国際文化交流論II（国際開発協力）

3732001200100

副　題	国際開発協力の現場と異文化理解	担　当　者	藤谷　浩至　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	POL-002-GB

〔授業の到達目標〕
１．開発途上国の抱える課題と人々の生活や社会について理解すること，２．その課題解決のための国際社会の取組である国際開発協力についての基本的な知識を習得すること，３．そうした国際開発協力活動の現実を学ぶことを通じて異文化社会との接し方について考察し，知見を得ること

〔授業の内容〕
2011年３月の東日本大震災に際して国際社会から日本に提供された支援に表れているように，国家をはじめとする様々な主体が様々に関わりあって国際社会は成り立っており，その関わりの一つの形態として国際開発協力があります。本講義では，開発途上国・地域が抱える経済・社会の現状と主な課題について取り上げ，課題ごとに紹介すると同時に，国際社会が開発途上国・地域に対して行っている様々な協力活動・援助の概要についての理解を深めます。日本による協力活動については，日本の政府開発援助（ODA）とその実施機関である国際協力機構（JICA）の事業を中心に紹介します。大規模災害時における国際緊急援助についても，その一活動として取り上げます。
また，昨年は開発協力大綱が策定され，国際社会においても「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。こうした最近の国際開発協力を巡る潮流についても紹介し，国際開発協力の意義と課題への認識を深め，異文化理解に役立てます。

〔教材〕
参考書：服部　正也『ルワンダ中央銀行総裁日記（増補版）』（中公新書）中央公論新社，2009年
大塚 啓二郎『なぜ貧しい国はなくならないのか』日本経済新聞出版社，2014年
教科書はありません。上記の参考文献は，昨年度，課題レポートの対象としたものです。その他の参考文献は講義の中で紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
（講義開始まで）（１）外務省HPまたはJICA HP等を通じて，自分が関心のある国（開発途上国）に対して，どのような援助・協力事業が行われているのか調べて，国際協力事業の一般的なイメージをつかんでおくこと（約10時間），（２）1992年に閣議決定された「政府開発援助(ODA)大綱」，2003年に改定された改定版「ODA大綱」，2015年に策定された「開発協力大綱」にそれぞれ目を通しておくこと（約20時間）
（講義終了後）講義で紹介した課題図書を元にレポートを作成する（約30時間）

〔成績評価の方法〕
毎回の授業後のリアクションペーパーの内容，出席率，課題レポートの内容を総合的に（30：30:40の割合で）評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１回　国際開発協力の仕組み
第２回　国際開発協力の歴史（１）
第３回　国際開発協力の歴史（２）
第４回　東日本大震災と国際緊急援助
第５回　開発の主要課題について（貧困）
第６回　開発の主要課題について（農業・農村開発）
第７回　開発の主要課題について（水と衛生）
第８回　開発の主要課題について（環境）
第９回　開発の主要課題について（保健医療）
第10回　開発の主要課題について（ジェンダー配慮）
第11回　国際開発協力とボランティア事業
第12回　国際開発協力と企業・NGO連携
第13回　平和構築・復興支援
第14回　人間の安全保障と最近の潮流
第15回　まとめ
８月２日（火），３日（水），４日（木），５日（金）の４日間（１時限または２時限から４時限の間）に実施予定。
･主な講義内容（予定。変更の可能性はあります）:国際開発協力の仕組み，歴史（冷戦終結まで，冷戦後から21世紀にかけて），開発の主な課題について（貧困，農業･農村開発，水と衛生，環境，保健医療，ジェンダー配慮等），国際緊急援助，国際開発協力とボランティア事業，企業・NGOとの連携，平和構築・復興支援，人間の安全保障,まとめ

国際文化交流論III（日本文化交流史）

3732001300100

副　題	欧州において日本文化交流を実践するために	担　当　者	中島　崇文　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ICR-003-GB

〔授業の到達目標〕

国際交流には様々な形態があるが，中でも文化を通じて行うものは双方に自然に受け入れられることが多く，近年，その重要性は広く認識されるようになってきており，本学においても開学以来重視されているものである。日本文化に接することで，たとえ日本から地理的に遠く離れていても人々が極めて親日的になるケースは少なくないが，欧州地域はその典型的な例である。本授業では現地で日本文化を中心とする交流を実践する方法を考察する。

〔授業の内容〕

日本と欧州の交流の歴史を踏まえたうえで，日本文化交流の実施が可能な機関について学ぶこととする。また，日本の身近な文化（書道，華道，折紙，アニメ，歌，踊り等）をどのように発信し，現地の人々に共有してもらえるかを考える。その手段として欧州の複数の言語の基本的な表現を習得し，これらの言語で日本文化を説明できるようにする。

〔教材〕

毎週の授業時に各種資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の授業で配布される資料を熟読すること。

〔成績評価の方法〕

授業に取り組む姿勢（発表（約25%），議論（約25%），レポート（約50%））を総合して評価する。毎週，履修者全員が出席することを原則とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

オフィスアワーは月曜日の15：00～16：00とする。それ以外の時間帯にも可能な限り対応する。用事がある際には直接，4号館2階の研究室に足を運ぶか，メールにて連絡すること（メールアドレスは毎回のレジュメに記載している）。

〔備考〕

原則として事前に中欧国際協力研修またはジュネーヴ研修への参加の内定が得られている者以外には履修を認めないので注意すること。これらの研修については2号館の掲示板に3～4月に掲示しているので確認し，できるだけ初回授業以前に申し込むこと。

〔授　業　計　画〕

第1週　授業内容の説明，自己紹介
第2週　欧州の概要
第3週　欧州と日本との交流の歴史
第4週　欧州における日本語教育機関
第5週　欧州における日本文化に関心を持つその他の様々な機関
第6週　日本文化交流を行う手段としての欧州の諸言語の学習
第7週　〃
第8週　〃
第9週　〃
第10週　欧州において日本文化交流を行うためのワークショップ
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括

国際文化交流論Ⅳ（戦争と平和）

3732001400100

副　題								担　当　者	奥村　快也　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	POL-004-GB

〔授業の到達目標〕
安全保障（戦争と平和）に関する基礎的な知識・教養を身につける事を主な目標とする。

〔授業の内容〕
安全保障（戦争と平和）に関する哲学・古典・歴史（日本の戦争通史，ヨーロッパの戦争通史）等を通じて，戦争の原因と結果について考える。
さらに日本の近・現代史を通じて，日本が何故，太平洋戦争でアメリカと戦うことになったかを考え，戦争は不可避だったのか否かについても検討する。
また，戦後日米関係の形成について，占領下での政策，サンフランシスコ講和条約，日米安全保障条約の成立過程を通じて理解させ，今日の日本を取り巻く安全保障環境，日本の安全保障政策，国防政策，防衛力，国際貢献及び危機管理等の現状を知り，今後の日本の安全保障について考察して貰う。

〔教材〕
教科書等は使用せず，各講義ごとにレジメを配布し，講義を行なう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
講義の最後に次回講義の焦点を示し，講義において発表・討議できるよう準備する。
予習に2時間程度，復習に2時間程度をかけること。

〔成績評価の方法〕
期末試験（含むリポート）を実施する。この際授業の出席状況も重視する。
評価点配分は期末試験（含むリポート）80パーセント，出席率20パーセントとする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第1週　戦争と平和　概論
第2週　日本の歴史（古代ー明治）から戦争と平和について考える
第3週　ヨーロッパ（含む中東）の歴史から戦争と平和について考える（1）
第4週　ヨーロッパ（含む中東）の歴史から戦争と平和について考える（2）
第5週　古典から戦争と平和について考える
第6週　日本の近代史から戦争と平和について考える
第7週　日米戦争への道（何故日本はアメリカと戦争をしたのか？）
第8週　太平洋の主要な作戦（日本は何故作戦に失敗したのか？）
第9週　日本の戦後処理と日米安全保障条約
第10週　日本を取り巻く安全保障環境
第11週　日本の安全保障政策
第12週　国際連合と日本の国際貢献
第13週　危機管理と災害派遣
第14週　まとめと解説
第15週　理解度の確認
安全保障等の時事問題がある場合はその都度講義に含めて解説する。
第10週以降の講義は努めて国内外の現況に応じ，アップデートして実施する。

国際文化交流論VI（技術交流）

3732001600100

副　題								担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	ICR-006-GB

〔授業の到達目標〕

実践的な国際協力活動の実践をする

〔授業の内容〕

９月に実施されるラオス国際協力研修への参加を前提とし，国際協力活動のありかたを考える。

経済的には世界のトップレベルに位置する国々でも，その「幸福度」指標は必ずしも経済的豊かさと比例しない。「幸福度」に焦点を当てながら，開発途上国の発展と外部者の関わりあい方について考える。

〔教材〕

授業中に適宜プリント他を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各授業で指定された文献等のレポートの課題が必要です。およそ３～４時間予定してください。

〔成績評価の方法〕

発表　30%，レポート他課題　50%，授業への取り組み他　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日お昼休み
メール

〔備考〕

本科目履修希望者は，「履修制限」がありますので，第１回目授業に必ず出席し，内容を確認してください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　ワークショップ
第３週　発表
第４週　外部講師講義
第５週　ワークショップ
第６週　発表
第７週　外部講師講義
第８週　ワークショップ
第９週　発表
第10週　外部講師講義
第11週　ワークショップ
第12週　発表
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

国際文化交流論VIII（環境教育）

3732001800100

副　題	国際文化交流のための環境教育等の実践	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	ENV-008-GB

〔授業の到達目標〕

1．国際文化交流のため，地域（ベトナムなど）の風土，生活文化，教育を探究理解し，日本との違いを明確にする。

2．環境教育，水教育，食教育の視点から，体験学習法に基づく教育手法を十分に理解し，実践することができる。

3．環境教育，水教育，食教育の視点から，体験学習を実践するためのアクティビティを創作することができる。

〔授業の内容〕

1．ベトナムと日本の風土，生活文化，自然環境に関する講義を行う。

2．環境教育，水教育，食教育の観点から，プロジェクトワイルド，プロジェクトウエット，GEMS，MARE，フードコンシャスネスのアクティビティを習得し，実践で実施するワークショップを行う。

3．環境教育，水教育，食教育の観点から，体験教育で使用するアクティビティを創作するワークショップを行う。

4．応用として，習得したアクティビティを子ども等に向けて実践する。

〔教材〕

環境教育，水教育，食教育に関する教材を使用する。授業中に配布または指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日本とベトナムについて，風土や生活文化を調べ，相違点や同意点を発表する。ベトナムに日本の文化を伝えるためのテキストを全員で作成する。

〔成績評価の方法〕

1．出席状況と積極的な発言など授業貢献度を重視する。（40%）

2．環境教育，水教育，食教育の独創的なアクティビティを作成する。（20%）

3．指導者としての実践能力を評価する。（20%）

4．最終レポートを評価する。（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕

国際交流研修（ベトナム）履修者はこの授業を必ず履修すること。この授業の一部はプロジェクト・ウエットのエデュケーター資格を獲得するための講習を兼ねる。エデュケーター資格希望者はテキスト代として，3000円必要である。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　日本とベトナムの風土
第３週　日本とベトナムの文化１　食
第４週　日本とベトナムの文化２　教育
第５週　日本とベトナムの文化３　環境
第６週　プロジェクトウエットの実践（水環境教育指導者研修）
第７週　〃
第８週　〃
第９週　フードコンシャスネス教育の実践（味わい教育指導者研修）
第10週　MAREの実践（海洋教育指導者研修）
第11週　環境教育，水環境教育，フードコンシャスネス教育に関するアクティビティの作成
第12週　〃
第13週　環境教育，水環境教育，フードコンシャスネス教育に関するアクティビティの実践
第14週　〃
第15週　まとめ

国際文化交流論X（日本とアジアの近現代比較経営史）

3732002000100

副　題	Japan and Asia: Piercing the Veil							担　当　者	金城　亜紀　教授		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1	コース・ナンバー	MAN-210-GB

〔授業の到達目標〕

1. Understand Japanese and Asian business, economy and society.
2. Acquire insight as to why countries and companies rise and fall.
3. Generate solutions to challenges that our societies face today or will face in the future.

〔授業の内容〕

Asia is one of the most dynamic and promising regions for economic growth in the 21st century. Yet it is not free from difficult challenges that may hinder her success. What can the rest of Asia (and possibly the world) learn from Japan's series of spectacular successes and failures since the Meiji restoration to today? Leveraging state of the art technology that enables students and academics to actively engage across the Pacific, we collectively investigate this important theme. The course will be conducted interactively in a business school format: be prepared for cold calls.

〔教材〕

Handouts, including reading materials and case studies will be distributed in advance.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students should expect to spend 3 to 4 hours to prepare for each class. Invest additional time and effort if you are not well versed in English.

〔成績評価の方法〕

Attendance and active participation: 25%
Midterm report: 25%
Final exam: 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Thursdays: 12：20 to 13：20 (Office 4222) in Tokyo.

〔備考〕

本授業は，レスブリッジ大学との海外同時授業となる。授業は９月初旬から12月中旬まで開講される。履修を希望する場合は，７月１日（金）～７月29日（金）に申し込むこと。
詳細は，７号館１階教務関係掲示板を確認すること（６月初旬から掲示）。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction and kick-off: What we want to achieve and how
第２週　Case: Yataro Iwasaki: Founding Mitsubishi (A)(B) - the mavericks
第３週　Case: Honda (A)(B) - what strategy?
第４週　Case: The Miracle Years - too good to be true
第５週　Japan as Number One (Vogel) - a perfect joke
第６週　Implications for Asia (ex-Japan)
第７週　Case: Beyond the Bubble - it used to work
第８週　The 1940 System: Japan under the Wartime Economy (Noguchi) - some things never change
第９週　Demography: Shrinking Population Economics (Matsutani) - what goes up goes down
第10週　Ballooning Fiscal Deficit: IMF Report - unsolved mystery
第11週　New Reality Facing Japanese Youth: A Nagging Sense of Job Insecurity (Genda)
第12週　Implications for Asia (ex-Japan)
第13週　Fighting Bureaucracy: Yamato Transports - whatever it takes
第14週　Globalization: "Englishnization" at Rakuten - someone's trying
第15週　Wrap-up: Quest for a future that works
This plan is subject to change for improvement.

国際文化交流論XI（環太平洋地域２）

3732002100100

副　題	Japn, North America and the World							担　当　者	金城　亜紀　教授		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	GEO-211-GB

〔授業の到達目標〕

1. To outline some of the main themes in Japanese politics, geography and modern history from the Meiji Restoration to the present in relation to Canada.
2. To trace the evolution of Japan's international relations in modern times with special emphasis on its interaction with the United States and Canada from both Japanese and western perspectives.
3. To contrast the international relations and nationalist sentiments of Canada and the United States with the Japanese experience.
4. To understand that Japanese and North Americans construct their histories and geographies in different ways and that a nuanced appreciation of these differences is the foundation for international cooperation and development.
5. To expose our students to Canadian and Japanese perspectives in a multidisciplinary approach that includes concepts from international relations, politics, economics, social and intellectual history, and geography.

〔授業の内容〕

Lectures cover the economic and political geography and history of Japan in comparison to Canada from the nineteenth-century to the present. Topics will include creation of the nation state & constitutional change, emigration and immigration, demographic structure and aging, wartime relations between Japan, Canada and the United States, indigeneity and assimilation, diplomatic relations, international trade, foreign investment and multinational corporations; and the national security challenges posed by maritime border disputes and environmental degradation.

〔教材〕

All reading materials are linked to the Moodle web page; any additional required reading will also be linked to Moodle.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Weekly reading and active participation in all lectures are essential to academic success in the course.

〔成績評価の方法〕

Attendance and active participation: 25%
Midterm report: 25%
Final exam: 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email:maclachlan●uleth.ca（change ● to @）

〔備考〕

本授業は，レスブリッジ大学との海外同時授業となる。授業は９月初旬から12月中旬まで開講される。履修を希望する場合は，７月１日（金）～７月29日（金）に申し込むこと。
詳細は，７号館１階教務関係掲示板を確認すること（６月初旬から掲示）。

〔授　業　計　画〕

第１週　Welcome, Introduction, Jakota Triangle & Japan's Geography
第２週　The Emergence of Two Modern Nation States: Canadian Confederation and Meiji Restoration Compared
第３週　Early Interaction between Japan and Canada: Christian Missions & Immigration
第４週　Japanese Empire, Taisho Democracy, Inazō Nitobe, Samurai Diplomat
第５週　Canada & Japan at War & the Fall of Hong Kong: *Savage Christmas*
第６週　Wartime Internment of Japanese Canadians in British Columbia & Alberta
第７週　The American Occupation of Japan: Beata Sirota, "*The Only Woman in the Room*"
第８週　Indigenous Peoples and the State: the Ainu and First Nations, Metis & Inuit
第９週　Identity, Ainu, & Appropriation of the Kimono in North America
第10週　Japan-Canada Trade Relations & Foreign Direct Investment
第11週　Canada & Japan as Pacific partners: WTO, APEC, & TPP
第12週　Environmental Problems & Policy in Japan with Canadian Perspectives
第13週　Maritime Sovereignty & Law of the Sea
第14週　Territorial Issues & Maritime Sovereignty in Canada & Japan
第15週　Conceptual Review

Please see Moodle page for sequential listing of lecture topics and links to required reading.
This plan is subject to change.

法学II

3735000200100

副　題	法学入門　（民事法の基礎）							担　当　者	櫻井　大三　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	LAW-102-GC

〔授業の到達目標〕
法律学の基本的な知識を習得すること。そして，教科書が扱う設例の中から民事法上の論点を抽出し，法的根拠（民法等の関連条文）を踏まえたうえで，その当否についての判断が下せるようになること。

〔授業の内容〕
これまで法ないし法律（学）に接したことのない初学者を対象とした法学入門の講義を行う。
講義では，日常生活の中で法律が果たしている役割に気付いて頂きたいという思惑から，「HとJという，どこにでもいるごく普通の２人の大学生」が遭遇する自動車事故を素材として描かれた下記の教材をテキストに，民事法（民法の主要法領域すなわち不法行為法，契約法および家族法）の基礎（さわりの部分）を概説する予定である。

〔教材〕
教科書：松井茂記[他]『はじめての法律学　HとJの物語』（有斐閣アルマ）第4版，有斐閣，2014年
『六法』が必携となる（指定『六法』については，開講時に指示する）。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：（十分理解できなくても）教科書の該当箇所を熟読（再々読）することが，何よりも重要である。
復習：授業中に書き込んだレジュメを入念に読み返すとともに，授業で言及した法令の条文を『六法』で再確認すること。

〔成績評価の方法〕
（１）授業中に実施する小テストないしレポート（20%程度）
（２）学期末試験（80%程度）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
毎週月曜日の放課後，もしくは，毎週金曜日の昼休み（但し，事前にアポを取ること）。
電子メールによる（メールアドレスは，学科事務室にて確認されたい）。

〔備考〕
初回のガイダンスには必ず出席すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　「法学の基礎」の復習
第３週　不法行為法の基礎　（１）
第４週　不法行為法の基礎　（２）
第５週　不法行為法の基礎　（３）
第６週　不法行為法の基礎　（４）
第７週　契約法の基礎　（１）
第８週　契約法の基礎　（２）
第９週　契約法の基礎　（３）
第10週　契約法の基礎　（４）
第11週　契約法の基礎　（５）
第12週　家族法の基礎　（１）
第13週　家族法の基礎　（２）
第14週　家族法の基礎　（３）
第15週　総括
いずれかの機会に，法律実務家を招聘し，特別授業を実施することを予定している（昨年度は，法律実務に精通した企業人をお招きし，主として遺産相続に係る民法実務についてお話しして頂いた）。

日本国憲法

3735000300100

副　題								担　当　者	福井　康佐　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LAW-103-GC

〔授業の到達目標〕

憲法の基礎概念の習得と法学的思考力の養成

〔授業の内容〕

この授業は，日本国憲法の基本的概念を習得することを目標とします。憲法は，中学高校と学習した受講生も多いと思いますが，本来的には奥の深い学問です。日常生活の多くに，憲法の理念が関係しています。この授業では，難しい言葉よりも生きた人権の問題を，みなさんと一緒に考えて行きたいと思います。テキストは，あえて，わかりやすいものを選びましたので，まずは，憲法の世界に入門してみてください。

〔教材〕

教科書：初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門』（有斐閣アルマ）第４補訂版，有斐閣，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを事前に読んでおいてください。

〔成績評価の方法〕

期末試験の成績による。平常点，出席点は評価対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　人権の性質・人権分類
第３週　人権の享有主体～外国人の人権・マイノリティーの人権
第４週　平等権～差別はなぜ生じるか。
第５週　信教の自由
第６週　思想良心の自由
第７週　表現の自由その１～表現の自由の重要性
第８週　表現の自由その２～様々な表現の自由に対する規制
第９週　学問の自由と教科書検定
第10週　死刑制度
第11週　裁判員制度
第12週　生存権
第13週　平和主義
第14週　天皇
第15週　まとめ
私語は厳禁です。私語をする人は退場を命じます。

教育学

3735010300100

副　題	学校と社会							担　当　者	雲川　けいか　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	EDU-104-GC

〔授業の到達目標〕

学校と社会とのかかわりを社会発展，社会変動から捉えることで，学校教育の役割・意味を理解する。

〔授業の内容〕

この授業は，ダイナミックに変化しつつある現代社会における教育を考察する。社会学的に教育を見ていく手がかりになる重要な概念や理論を理解すること，そうした概念や理論をグローバル化，多文化化社会における教育現象やデータ解釈にあてはめてみることで，データや理論から現実の問題を読み解いていくやり方を身につけることを目指すとともに，国際化社会，多民族・多文化社会の問題を理解するための発想や視点を伝えていく。

〔教材〕

参考書：柴野昌山ほか『『教育社会学』』有斐閣ブックス，1992年
広田照幸『『教育は何をなすべきか』』岩波書店，2015年
酒井朗ほか『『よくわかる教育社会学』』ミネルヴァ書房，2012年

教科書は指定しない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

できれば，事前に柴野昌山ほか編『教育社会学』（有斐閣ブック）を読むこと。

〔成績評価の方法〕

理解度，受講態度などによって総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

keikacho●nifty.com（change ● to @）

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション：授業内容，進め方などについて説明する。
第２週　文化の伝達装置としての学校（１）：学校で伝達されている文化とは何か？どんな役割を果たすのか？
第３週　文化の伝達装置としての学校（２）：政治的意味と経済的効用
第４週　文化の伝達装置としての学校（３）：差異的な社会の再生産　教育と不平等の問題，理論・概念
第５週　文化の伝達装置としての学校（４）：教育と不平等の問題，データに基づく討論
第６週　文化の伝達装置としての学校（５）：教育の市場化がもたらす問題
第７週　多文化社会における教育（１）：国際化，グローバル化の進展と日本における国際理解・異文化理解教育
第８週　多文化社会における教育（２）：日本における国際理解・異文化理解教育の実態と生徒の意識
第９週　多文化社会における教育（３）：新たな国民統合の理念としての多文化主義とそれをめぐる論争
第10週　多文化社会における教育（４）：欧米諸国における多文化主義・多文化教育
第11週　多文化社会における教育（５）：多民族国家・中国における多文化・二言語教育
第12週　社会変動と教育（１）：社会変動と教育に関する諸説明理論，日本における教育の拡大と社会変化との関連
第13週　社会変動と教育（２）：政治変動と教育　学制や選抜の問題に着目する
第14週　社会変動と教育（３）：経済変動と教育，貧困と教育
第15週　理解度の確認

教育にかかわる様々な問題を取り上げる。国際化社会，多民族・多文化社会に関心を持つ学生は大歓迎です。

哲学

3735020300100

副　題	哲学的に考える。	担　当　者	杉山　晃太郎　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	PHL-105-GC

〔授業の到達目標〕

この授業では，以下を到達目標とします。

- 古代以来のヨーロッパの哲学者や思想家の考え方を学び，理解する。
- そうした考え方と，現代社会で取り上げられている複雑で多様な問題とのかかわりを理解する。
- 哲学的な考え方に基づく視点から，現代の諸問題を見つめ直し，自分の考えを根拠に基づいてまとめることができるようになる。

〔授業の内容〕

私たちが「哲学」という言葉で呼んでいる学問は，今から2500年ほど前に古代ギリシアで始まり，その後ヨーロッパを中心に様々な形に変化し，またヨーロッパ以外の文明からの影響も受けつつ，人々の考え方や生き方に大きな影響を与えてきました。そして，今日，現代社会が抱えている科学技術，生命倫理，地球環境，政治経済に関連する問題を考える上でも，「哲学的に考える」ことが必要とされています。この講義では，哲学の歴史の中で取り上げられてきた様々な考え方を取り上げて，考えてみたいと思います。

具体的には，日本語の「哲学」とその原語の「フィロソフィア」という言葉の由来から始めて，古代から哲学において論じられてきた基本的な問題を取り上げます。その際，単に個々の問題を紹介するのではなく，身近な例を取り上げて，どのような状況の中からそうした問題が生じたのか，そして，それが現在の私たち自身や私たちの生活にどのようにかかわっているのか，講義していきます。

〔教材〕

参考書：ヨースタイン・ゴルデル（池田理代子訳）『ソフィーの世界 -- 哲学者からの不思議な手紙 --』NHK出版，1995年
竹内洋一郎（ほか）『身近な哲学』（図解雑学）ナツメ社，2004年

* 教科書は使用しません。授業内容，参考書等に関するプリントを毎回配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は不要です。授業後に，以下の点を中心に，毎回の授業で配布されたプリントを復習してください。

- 特に，プリント中に「☆」印で示された問いに対して，授業内容を踏まえて自分なりの考えとその根拠をまとめて，記録しておく。
- シラバス記載の参考書，あるいは，その回のプリントに記載された参考文献に当たり，内容の理解に努める。
- 興味関心をもった回の授業（２～3回程度）のプリントに記載された参考文献を図書館等を利用して読み，理解を深める。

〔成績評価の方法〕

授業内小レポートと学期末試験を総合して評価します。

○　授業内小レポート（２回実施）(30%)
評価時のポイント
- 授業内容が正しく理解されているか。
- 根拠が適切に示されているか。

○　学期末試験（小論文形式）(70%)
評価時のポイント
- 授業内容が正しく理解されているか。
- 自分の体験が適切に記述されているか。
- 自分の考えが筋道立てて記述されているか。
- 根拠が適切に示されているか。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

kotaro.sugiyama●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

* メール本文中に授業名とフルネームを記載すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス　--　授業の進め方,「哲学」という言葉
第２週　「わたし」と「世界」のこと
第３週　科学と哲学
第４週　とらえどころのないもの
第５週　アトムの話
第６週　感覚と経験
第７週　三角形を見た人はいない！？
第８週　これはなんですか？
第９週　今日の「わたし」は，昨日の「わたし」とは違う！？
第10週　ものが存在するということ
第11週　あなたは，わたしのことを全然わかっていない！
第12週　自然と人間
第13週　どっちが得か，考えよう！
第14週　神さまは存在する！
第15週　知を愛する人

心理学

3735020400100

副　題								担　当　者	角尾　美奈　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	PSY-106-GC

〔授業の到達目標〕

心理学はこころの働きと行動を対象とし，そこに潜む法則性を明らかにしようとする学問である。この授業では,日常生活での体験や身近な現象を心理学的な枠組みでとらえ直すことで,自分自身についての理解を深め，他者との関係や社会生活についての理解を深めることを目指す。

〔授業の内容〕

こころの仕組みや働き，他者との関係を維持あるいは崩壊させる要因，集団状況において生じる現象などについて，基礎的な知識を修得する。基本的に講義形式の授業であり，授業内容に関連した心理テストの実施も予定している。

〔教材〕

教科書は指定しない。毎回の授業で資料を配布し，適宜参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業計画はいくつかのトピックから構成されているが，それぞれの内容は相互に関連している部分があり，毎回の授業内容の理解には，先に学習した内容が理解され知識が定着されていることが必要である。従って，毎回の授業の準備として，学習内容の復習を行った上で出席すること。

〔成績評価の方法〕

学期末試験(80%)，課題レポート(10%)，授業内で実施するリアクションペーパー(10%)により総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

履修希望者数が多い場合は第１週のオリエンテーションにおいて履修制限を行うことがある。履修を希望する場合は必ず第１週の授業に出席すること。また，授業はパワーポイントを用いて行うが，授業内のスライドの撮影等は一切禁止とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　知覚
第３週　記憶
第４週　学習
第５週　パーソナリティ（１）
第６週　パーソナリティ（２）―心理テストによる自己分析
第７週　パーソナリティ（３）―心理テストによる自己分析
第８週　パーソナリティ（４）―心理テストによる自己分析
第９週　対人関係（１）
第10週　対人関係（２）
第11週　対人関係（３）
第12週　社会的影響（１）
第13週　社会的影響（２）
第14週　社会的影響（３）
第15週　授業内容のまとめと学期末試験の確認

授業計画は，履修者の状況や授業の進捗状況により一部変更することがある。

基礎政治学

3735021100100

副　題	難民問題と国民国家							担　当　者	杉原　志啓　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	POL-107-GC

〔授業の到達目標〕

政治と政治学の基礎理論の習得。つまり国家，権力，権威，立憲政治，民主主義，全体主義，政治制度，官僚制，政党政治，圧力団体，マスコミ権力，さらに近年世界の難民問題により対応を迫られている近代国民国家の本質等々の概念を学問的に習得。

〔授業の内容〕

本年度は，政治学の基礎知識を習得しつつ，ボーダレス・エコノミーやグローバリゼーションの進展のもとで対応の困難度が増大しつつある近代国民国家の機能と役割を詳しく検討していく。すなわち，排他的領土支配を基礎とする国家（主権）の国境概念を破壊しようとする世界的な地域動向をふまえ，これからの国家というものと政治の態様を詳しくレクチャーしていく予定である。

〔教材〕

参考書：杉原志啓編・坂本多加雄著『坂本多加雄選集１・２』藤原書店，2005年

授業中政治学の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中の配布プリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の１回の小テスト（50%）と学期末レポート１回（50%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

授業中の配布プリントの閲読

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　政治と政治学
第３週　政治哲学と政治思想
第４週　国家とは何か
第５週　近代国民国家の成立（世界）
第６週　近代国民国家の成立（日本）
第７週　国民国家の現状
第８週　日本における政教分離
第９週　立憲主義と帝国憲法
第10週　日本国憲法と象徴天皇制度
第11週　国民国家の機能と役割
第12週　グローバリゼーションおよび難民問題と国民国家
第13週　日本の戦後平和主義と政治
第14週　国民国家の変質
第15週　国家相対化論の胎動

小テストと期末レポートは，実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが，この２回は必ず出席すること。

基礎経済学

3735021200100

副　題	新聞の経済記事の読み方							担　当　者	佐久間　潮　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	ECO-108-GC

〔授業の到達目標〕

経済に関する基礎知識と考え方を習得し，新聞の経済記事を理解できるようにすること。

〔授業の内容〕

日本経済に関しては1990年代初めから「景気が悪い」,「リストラされた」,「希望する職に就けない」，等々，長期間，良い話がほとんどなかった。かつて中南米諸国の1980年代のことを意味していた「失われた10年」という言葉は1990年代以降の日本の経済を特徴付ける言葉としても使われるようになった。世界の経済環境が大きく変わりつつある中，日本経済は今後どのような方向をたどるのであろうか。

この授業は，このような問題を自ら考えるために必要な基本的経済知識と考え方を身につけることを目的にしている。具体的には，内外の新聞や雑誌を教材にし，それらを読みつつ，国内総生産，経済成長，消費，投資，輸出と輸入，財政政策，金融政策，失業，賃金，インフレ，需要と供給，などの基本概念を学び，経済の理論にのっとった考え方ができるようになることが目的である。

〔教材〕

授業の中で適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各２時間

〔成績評価の方法〕

期末テスト（100%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日３時限
学科事務室経由

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　経済の考え方
第２週　国民総生産（GDP）とは（その１）
第３週　国民総生産（GDP）とは（その２）
第４週　国民総生産（GDP）とは（その３）
第５週　経済成長と生産性
第６週　失業とインフレ（その１）
第７週　失業とインフレ（その２）
第８週　財政政策
第９週　金融政策
第10週　需要と供給と均衡
第11週　消費と効用
第12週　コストと生産
第13週　価格と生産
第14週　賃金の決定
第15週　国際貿易と直接投資

基礎社会学

3735021300100

副　題	現代社会を理解するための理論と方法	担　当　者	時安　邦治　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	SOC-109-GC

〔授業の到達目標〕

社会学の基本的な理論や概念を学ぶとともに，さまざまなデータを参照して現代社会の諸問題について理解し，エビデンスにもとづいて自分の見解を述べられるようになる。

〔授業の内容〕

社会学は近代社会の自己理解として成立したと言ってよい。そして，社会学は常に具体的な問題と向き合うことを通じて発展してきた。この授業では，社会学の視点から現代社会の諸側面について考えていく。同時に,社会学的に考えるために必要な理論や概念について解説する。なお，この授業は公務員試験科目「社会学」の対策としても意義があるだろう。

〔教材〕

教科書：櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功『アンビシャス社会学』北海道大学出版会，2014年

教科書は必ず入手すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の授業の前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと。授業は重要ポイントの解説と学生からの質問への応答を中心とする。授業終了後に出す課題に取り組み，成果を提出すること。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（50%）と提出課題（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日 4 限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。

kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション
第 2 週　第 1 章　社会学のあゆみ
第 3 週　第 3 章　家族
第 4 週　第 4 章　教育
第 5 週　第 5 章　政治・社会運動
第 6 週　第 6 章　メディアの現在
第 7 週　第 7 章　地域社会とコミュニティ
第 8 週　第 8 章　労働
第 9 週　第 9 章　社会階層
第10週　第10章　福祉と社会保障
第11週　第11章　グローバリゼーション
第12週　第12章　少子高齢社会
第13週　第13章　地域社会とソーシャル・キャピタル
第14週　第14章　ジェンダー・セクシュアリティ
第15週　第15章　災害とコミュニティ

基礎統計学

3735021400100

副　題	初めて学ぶ統計学							担　当　者	竹内　俊子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INF-110-GC

〔授業の到達目標〕

分析したい事柄に適するデータを各自が集め，講義で習得した方法でEXCELを使って分析し，結論を導くことができるようになることが目標です。

〔授業の内容〕

さまざまな現象を科学的に分析するためには，適切なデータを集め，集められたデータを整理し，その意味するところを正しく理解し，そして結論を導くことが必要です。そのために統計学があります。本講義は，統計学を学んだことがない人のための統計学入門です。さらに講義にあわせてExcelによる実習を行ないます。

〔教材〕

参考書：田中勝人『統計学』第2版，新世社，2010年
森棟公夫『統計学入門』第2版，新世社，2000年
東京大学教養学部統計学教室『統計学入門』初版，東京大学出版会，1991年

適宜，資料を配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に配布した資料の内容を理解し，練習問題および課題をすべてやり，次の授業に臨んで下さい。

〔成績評価の方法〕

授業中に行なう小テスト（30%）と課題（40%），及び最終レポート（30%）を総合して評価します。

ただし，課題または最終レポートが未提出の場合には単位を認定しません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後とメールにて受け付けます。メールアドレスについては授業中にお知らせします。

〔備考〕

講義にあわせてExcelによる実習を行ないます。そのため，Excelの基本的な操作が出来ることを前提として講義をすすめます。

また，履修希望者がパソコンの台数を超えた場合には，人数を制限することがありますので，履修希望者は必ず第１回目の授業に出席して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意して下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義概要
　　統計データをどう解釈したらよいだろうか　その１　サイズと単位
第２週　統計データをどう解釈したらよいだろうか　その２　構成比と特化係数
第３週　統計データをどう解釈したらよいだろうか　その３　指数・寄与率・標準化
第４週　統計データをどう解釈したらよいだろうか　その４　データの類型
第５週　統計データをどう整理したらよいだろうか　その１　分布表・分布図
第６週　統計データをどう整理したらよいだろうか　その２　平均・分散
第７週　統計データをどう整理したらよいだろうか　その３　ローレンツ曲線・ジニ係数
第８週　統計データをどう集めたらよいだろうか　インターネットで情報収集
第９週　現象をどう分析したらよいだろうか　その１　分割表
第10週　現象をどう分析したらよいだろうか　その２　相関表・相関係数
第11週　現象をどう分析したらよいだろうか　その３　回帰分析１　回帰式の当てはめと妥当性
第12週　現象をどう分析したらよいだろうか　その４　回帰分析２　回帰モデルの作り方とその評価
第13週　現象をどう分析したらよいだろうか　その５　回帰分析３　定性的な独立変数
第14週　レポート指導
第15週　まとめ

日本近代史概論

3735022100100

副　題	近代日本における制度・政策、経済、社会	担　当　者	森田　貴子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	HIS-111-GC

〔授業の到達目標〕

本講義では，明治初年から第二次世界大戦までの日本について，法律・経済・社会・教育・都市などの多角的な視点から，日本の近代を歴史的事実に基づき把握することをめざします。

〔授業の内容〕

明治になり，日本は封建的な制度を撤廃し，近代的な制度を急激に形成しました。多様な法律・規則が制定・改廃され，多くの社会的な変動と改革がなされました。

本講義では，明治初年から第二次世界大戦までの日本について，法律・経済・社会・教育・都市などの多角的な視点から，日本の近代を歴史的事実に基づき把握することをめざします。

〔教材〕

教場で，適宜，参考文献を指示します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，指定した参考文献をあらかじめ読んだ上で出席してください。

〔成績評価の方法〕

毎回提出するミニレポート（50%）と，学期末の試験１回（持込み不可）（50%）によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　この授業について。日本近代史について。歴史学の方法について。
第２週　教育制度――小学校の設置
第３週　廃藩置県と秩禄処分――大名から華族へ
第４週　都市計画――銀座煉瓦街の建設
第５週　土地制度――地租改正の実施
第６週　司法制度――裁判所の設置
第７週　貨幣制度――貨幣の統一
第８週　金融制度――松方デフレと日本銀行の設立
第９週　条約改正――欧化政策と鹿鳴館
第10週　憲法の制定
第11週　帝国図書館の設立
第12週　三菱の創設
第13週　都市機能の拡充――上水道・電気・ガスの普及
第14週　第一次世界大戦・第二次世界大戦へ
第15週　理解度の確認
毎回の講義後，その回の授業内容について，５～６行のミニレポートを提出してもらいます。
ミニレポートは，講義時間内に書きます。

西洋近代史概論

3735022200100

副　題	寛容と迫害のヨーロッパ史							担　当　者	高津　美和　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	HIS-112-GC

〔授業の到達目標〕

現代の日本を生きる私たちは，誰からも強制されることなく，自由に考え行動することができる。しかし，こうした「思想の自由」は，はじめからすべての人に与えられていたわけではない。授業を通じて,現在私たちが当たり前のものと見なしがちな「思想の自由」が,ヨーロッパでは，寛容と迫害の間を揺れ動く近代史を経てはじめて達成されたことを理解する。

〔授業の内容〕

ルネサンスの人文主義者，16世紀の宗教改革者，そして17～18世紀の啓蒙主義者たちの生涯と思想を紹介しながら,「思想の自由」獲得に向けた苦難の歴史を辿る。

〔教材〕

プリントを配布する。参考文献については，授業中に適宜指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：各回のテーマについて下調べし，リアクション・ペーパーで疑問点を質問できるように準備する。

復習：授業中に配布したプリントを見返し，紹介した参考文献に目を通す。

〔成績評価の方法〕

出席，リアクション・ペーパーなどの平常点（40%）および学期末試験（60%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　ルネサンスにおける「世界と人間の発見」
第３週　人文主義者の聖書研究と教会批判
第４週　エラスムスとキリスト教人文主義
第５週　ルターの「95カ条の論題」と宗教改革の開始
第６週　カルヴァンの「神権政治」とセルヴェトゥスの処刑
第７週　宗教改革急進派と寛容主義者たち
第８週　トマス・モアとヘンリー８世
第９週　トレント公会議と対抗宗教改革
第10週　異端審問と魔女狩り
第11週　イエズス会の布教活動
第12週　モンテーニュ『エセー』における寛容思想
第13週　ヴォルテールの『寛容論』
第14週　フランス革命における自由
第15週　理解度の確認

西洋思想史概論

3735022400100

副　題	西洋政治思想史							担　当　者	時安　邦治　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	PHL-113-GC

〔授業の到達目標〕

西洋政治思想を概観し，政治とは何か，よい政府とは何か，権力とは何かを理解し，説明できるようになる。さらに，現代の政治状況について自分の見解を述べられるようになる。

〔授業の内容〕

古代ギリシア・ローマから始めて20世紀までの政治思想史を概観する。個別の思想家の著作について深く立ち入り，論じることよりは，大まかな流れをつかみ，何が論じられてきたかを理解することに重点を置く。イギリスの政治哲学者D．ミラーは政治哲学を「善き統治と悪しき統治の本性，原因，結果に関する探求」と規定したが，この授業もこうした政治哲学の一環だと思ってもらいたい。

〔教材〕

教科書：宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣アルマ）有斐閣，2013年

教科書は必ず入手すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の授業の前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと。授業は重要ポイントの解説と学生からの質問への応答を中心とする。授業終了後に出す課題に取り組み，成果を提出すること。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストまたはレポート（50%）と提出課題（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日４限。会議が入ることがあるのでメール等で事前に連絡すること。

kuniharu.tokiyasu●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　第１章　古代ギリシアの政治思想
第３週　第２章　ローマの政治思想
第４週　第３章　中世ヨーロッパの政治思想
第５週　第４章　ルネサンスと宗教改革
第６週　第５章　17世紀イングランドの政治思想（１）
第７週　第５章　17世紀イングランドの政治思想（２）
第８週　第６章　18世紀の政治思想
第９週　第７章　米仏二つの革命（１）
第10週　第７章　米仏二つの革命（２）
第11週　第８章　19世紀の政治思想（１）
第12週　第８章　19世紀の政治思想（２）
第13週　第８章　19世紀の政治思想（３）
第14週　終章　20世紀の政治思想（１）
第15週　終章　20世紀の政治思想（２）

日本芸術論

3735023100100

副　題	美術をめぐる理念とその展開							担　当　者	石田　佳也　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	ART-114-GC

〔授業の到達目標〕

日本の芸術史を概観し，とくに日本美術の創作活動において重要な役割を果たした各時代の美的理念の歴史を理解する。

〔授業の内容〕

日本文化を形成する絵画・工芸や文学・芸能などの諸芸術は，時代に応じて独自の美的理念を追求してきた。この講義では，日本の芸術史における基礎事項を確認しながら，とくに特定の美術作品を選び，その制作背景や，文学や芸能との影響関係を考察する。

〔教材〕

参考文献に関しては授業中に適宜紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回に配布したレジュメの内容を，再確認する。可能であれば，授業中に指定した参考文献を参照し，また授業中に推薦する授業に関連した展覧会を鑑賞する。

〔成績評価の方法〕

出席状況（40%）と期末のレポート（60%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容のガイダンス
第２週　日本芸術論の基礎事項　その歴史と展開
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　日本美術の諸様相　絵画・工芸と文学・芸能との影響関係を中心に考察する
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　総括
毎回，スクリーンに関連する画像を相当数映写する。
講義で取り上げる項目の順番は，適宜変更する場合もある。

西洋芸術論

3735023200100

副　題	中欧文化史　チェコ、ポーランド、ハンガリーの歴史と芸術を中心に	担　当　者	遠藤　望　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ART-115-GC

〔授業の到達目標〕
かつては「東欧」と位置付けられ，いまだなじみの薄いチェコ，ポーランド，ハンガリーの中欧３国において，19世紀末から20世紀初頭の独立期に開化した独特の文化・芸術を，中世期の繁栄とその後の異民族支配，および20世紀の共産主義時代という歴史的背景をふまえて知ることにより，民族，国家にとっての文化芸術の意義を理解する。

〔授業の内容〕
近年経済成長地域としても，また新たな観光地としても注目を集める「中欧」地域。その中からチェコ，ポーランド，ハンガリーの文化・芸術をとりあげます。この３国は，1989年の劇的な革命によって，民主主義国家への復帰を達成してから，着実にユーロ諸国の一員となり私たちにその姿を見せてきました。第２次大戦以降の世界においては「東欧」と位置付けられ，ベールに包まれていたこの地域には，かつて，まさに西洋と東洋が交錯するセントラル・ヨーロッパとして独特の文化が開花していました。本講義では，この３つの国の歴史・文化をまず振り返り，加えて19世紀後半から20世紀初頭にかけて開花した独特な文化を考察します。取り上げるのは，美術，建築，ファッション，写真，音楽から人形劇，アニメなど広範囲に及ぶ予定です。また授業内容に関連する企画展等，学外の見学を1，2回課す予定です。この地域に視点を置くことによって，これまで学生が受け取ってきたであろう西ヨーロッパ中心的な世界史観の変化を期待すると同時に，民族や国家にとって文化芸術がいかなる意味をもつのかを考えます。

〔教材〕
参考書：ジャポニスム学会編『ジャポニスム入門』第3版，思文閣出版，2000年
薩摩秀登『チェコとスロヴァキアを知るための56章』明石書店，2003年
渡辺克義『ポーランドを知るための60章』明石書店，2001年
羽場久泥子『ハンガリーを知るための47章』明石書店，2000年
毎回プリントを配布し，教材とします。特に教科書は使用しません。その他の参考書は，授業内で指示していきます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：毎回配布するプリントに記載された「予習項目」（3-4項目）にしたがって，次の講義の準備を行う。
復習：予習項目に記入した事項を授業中にとりあげるので，各自事前に調べたことを確認し，授業後にまとめておく。

〔成績評価の方法〕
出席状況（30%）および筆記試験（70%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールによる連絡，質問は授業後にも受け付けます。

〔備考〕
講義形式の授業のほかに，内容の関連する展覧会見学などの課題を実施します。見学は出席としてカウントします。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　中欧，セントラル・ヨーロッパとは　講義で扱う地域と都市，時代
第２週　中欧の歴史：中世黄金期のチェコ，ポーランド，ハンガリー
第３週　中欧の歴史：神聖ローマ帝国とハプスブルク家
第４週　中欧文化史：チェコの19世紀
第５週　中欧文化史：チェコ　独立期の芸術　アール・ヌーヴォーからアール・デコへ
第６週　中欧文化史：チェコ　チェコの人形劇とアニメーション
第７週　展覧会等の見学　授業内容に関連する企画展などを指定し見学
第８週　中欧文化史：ポーランドの19世紀
第９週　中欧文化史：ポーランドのモダニズムと日本
第10週　中欧文化史：ハンガリーの19世紀　２重帝国時代のブダペシュト
第11週　中欧文化史：ハンガリー　世紀末の建築と応用美術
第12週　中欧文化史：ハンガリー　20世紀の写真家たち
第13週　展覧会等の見学　授業内容に関連する企画展などを指定し見学
第14週　中欧文化史：中欧の音楽とダンス
第15週　理解度の確認
出席を重視します。授業は，講義が中心となりますが，スライド，DVDなど視覚的なものを多用します。
企画展など指定見学の日程の都合により，授業計画を変更することがあります。

英語学概論

3735023300100

副　題	英語史と言語研究の概観							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ENG-116-GC

〔授業の到達目標〕

英語学という視点から英語を観察し，英語という言語の性質・特徴を語学の授業とは異なる視点から捉えることを目標とする。また英語を言語学的に研究することの意義を見出す。

〔授業の内容〕

この科目は教職課程･外国語（英語）に必要な科目のひとつとして開設されたものであるが，教職課程を履修しない学生にとっても「英語学」(English linguistics)とは何か，英語とはそもそもどのような言語であるのか，など英語という言語を歴史的，共時的に観察することで，これまでとは異なる視点から英語を学ぶという点で意義のある科目となろう。

一般的に「英語学」という学問を定義する場合，英語学の学問的出発点となった「歴史言語学」，すなわち英語という言語の由来から発達，変遷をとおして今日国際語としての地位を築くに至った過程を様々な文献等をとおして歴史的に観察する分野と,「構造言語学」「生成文法」「認知言語学」「談話分析」など理論的な立場から英語を分析する分野などに大別されよう。この時間では担当者の専門である「歴史統語論」(historical syntax)の立場から前者の部分を主として講義していくが，後者の理論的考え方についても触れ，文字通り「英語学」について広く見識を深める授業としたい。

〔教材〕

教科書：八木克正『新英語学概論』英宝社，2007年

英語史については，英語の発達についてより理解を深めるため，テキストの他に，映像資料や音声資料なども用いる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業箇所についてテキストを熟読しておくこと。また授業時に配布されるワークシートは必ず授業中に正確に記述できたか確認し，内容を十分に理解しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業に取り組む姿勢，出席点(30%)，定期試験（70%）を目安に評価する。５分以上の遅刻，および授業中の私語・居眠り・スマホ使用などは全体の評価において大きな減点対象とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンスおよび「英語学の概要」
第２週　英語の外面史（言語の系統樹における英語の位置～英語はどこから来たか）
第３週　古英語(Old English)　その１（アングロサクソン人の侵入）
第４週　古英語(Old English)　その２（デーン人侵入～ノルマン人征服）
第５週　中英語(Middle English)　その１（中英語は古英語からなぜ，どのように変化したか）
第６週　中英語(Middle English)　その２（代表作家Chaucerにみる中英語の特徴）
第７週　中英語(Middle English)　その３（The Canterbury Tales鑑賞）
第８週　初期近代英語(Early Modern English)　その１（中英語から初期近代英語への変化）
第９週　初期近代英語(Early Modern English)　その２（初期近代英語の代表Shakespeare）
第10週　初期近代英語(Early Modern English)　その３（英語学的立場からのShakespeare作品鑑賞）
第11週　初期近代英語から現代英語へ（英語圏の広がり）
第12週　統語論・意味論・形態論などの英語学各分野について
第13週　構造言語学，生成文法とは何か（ヒトはどのように言語を身につけるのか）
第14週　認知言語学，談話分析とは何か（言語は脳でどのように処理されるのか）
第15週　日本の英語教育はどこへ向かうのか，向かうべきか（最近の研究成果）・まとめ

学習院史I

3735025100100

副　題								担　当　者	藤田　英昭　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	土	時限	1	コース・ナンバー	HIS-117-GC

〔授業の到達目標〕

学習院女子大学の母体となった学習院の歴史や女子教育のあゆみを学びながら，学習院女子大学がどのような歴史的背景のもとで開校・成立していったのか理解する。近現代日本において，学習院に何が求められていたのか考えていきたい。

〔授業の内容〕

華族の教育機関として開設された学習院のあゆみを，近現代日本の政治・社会・経済・文化状況などを視野に入れながらみていく。特に学習院の運営や女子教育に大きな影響を与えた谷干城や大鳥圭介・下田歌子・西村茂樹・乃木希典といった人物に焦点を当て，彼らが学習院や華族に何を求めていたのか解説していく。また，女子教育に関わった教員についても具体的に取り上げていきたい。

〔教材〕

授業中にプリントを配布し，適宜参考文献を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業の際に準備学習の指示をする。

〔成績評価の方法〕

平常の出席状況(30%)・レポート(70%)によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに－学習院のあゆみ
第２週　京都学習院から華族学校へ
第３週　学習院の開院と歴代院長
第４週　歴代院長と学習院教育（１）－谷干城の華族教育－
第５週　歴代院長と学習院教育（２）－三浦梧楼の教育改革－
第６週　華族女学校の開校と明治女子教育（１）
第７週　華族女学校の開校と明治女子教育（２）
第８週　華族女学校の校長と教育方針（１）－西村茂樹の女子教育観－
第９週　華族女学校の校長と教育方針（２）－細川潤次郎の女子教育観－
第10週　外国人教師が見た華族女学校生徒
第11週　学習院女子教育の展開
第12週　女子学習院と乃木希典
第13週　学習院に通った徳川家の人々
第14週　戦中・戦後の女子学習院
第15週　まとめ
授業の進み具合などにより，授業計画が変更することもあり得る。

人間関係論I（家族）

3735050100100

副　題								担　当　者	石黒　史郎　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SOC-001-GD

〔授業の到達目標〕

現代の家族を，感情や思い込みによってではなく，思考や論理によってとらえること。そのための視点や材料を学ぶことである。

〔授業の内容〕

現代の社会において，家族は，個々の人にとって，きわめて身近なものとしてとらえられており，さまざまな文脈で家族が語られるばあいにも（たとえば「家族の教育力の低下」や「家族介護の問題」など），どうしても身近な経験をもとにして語られやすい。現代の私たちは，多くのばあい家族に囲まれた関係の中で幼少期をすごすので，じぶんたちの経験してきた家族を自然なものと感じがちである。

しかし，じっさいには家族のありかたは，ここ５，60年にかぎっても大きく変化してきている。この授業では，家族が現在のようなありかたに至ったいきさつなどをふまえながら，現在の家族をめぐるさまざまなことがらを，それらを自明視しない視点からとりあげ，また考えてもらう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に指定した文献の入手，統計資料や論文の検索，およびそれらに基づいたコメントの執筆を求めることがある。

〔成績評価の方法〕

成績評価は記述式の試験85%，コメントペーパー15%による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

電子メールによる。

〔備考〕

発言を求めることがあるので，そのつもりで参加すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（評価方法など）と主旨説明
第２週　「家族」ということばの使われかたの歴史的な変化について説明する。
第３週　公私領域の分離の過程と，それにともなう家屋の変化について説明する。
第４週　戦後の一時期に一般的になった専業主婦，およびそれが果たした役割について考えてもらう。
第５週　公領域での「ふつう」の水準をを支える役割が，どのような人によって，どのように遂行されてきたのかについて考えてもらう。
第６週　「収入」のありかたがどのように変化しているかを説明し，それを使ってどのように家庭生活が営まれているかについて考えてもらう。
第７週　こどもの育てかたが，産業構造の転換の前後でどのように変化しているかについて説明し，現代の子育ての特質について考えてもらう。
第８週　現代の若者の自立困難と，それへの対策について考えてもらう。
第９週　結婚の歴史的変化について説明し，現在の結婚難について考えてもらう。
第10週　現代の法制度としての結婚について説明し，その変化の是非について考えてもらう。
第11週　戦後の家族のありかたを大きく変化させた産児調整の普及について説明し，現代の産児調整の特徴について考えてもらう。
第12週　近代化とともに進んだ出産の医療化について説明し，それが出産にもたらした影響について考えてもらう。
第13週　いちどは反倫理的なものとして否定された優生思想が，現代では新しい形で問題になってきていることを説明し，その問題について考えてもらう。
第14週　現代では，高齢期にかならずしも家族とともに生活しているとはかぎらなくなっていることを説明し，高齢期の生活にいかに対処すべきかについて考えてもらう。
第15週　まとめと理解度の確認

人間関係論II（母体の健康と育児）

3735051200100

副　題								担　当　者	白坂　香弥　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	CHL-002-GD

〔授業の到達目標〕

胎児から始まる子どもの発達を理解し，子どもの健全な発育・成長には，親が心身ともに健康であることが重要であることを学習する。やがては，親となるか次世代を育成する立場・子育てをする親を支援する立場になるなど，自分自身のライフスタイルについて考える機会をもつ。

〔授業の内容〕

現代社会が，子育てにとってどのような特徴をもっているかを学習して，現在の育児事情について理解する。

親になるプロセスと，子どもの発達を学び，親と子のそれぞれの面から健康な親子関係築く大切さを学ぶとともに，問題が起きる場合についても知識を得て，適切な育児支援について理解を深める。

〔教材〕

教科書は指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。毎回資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に紹介した文献には目を通しておく。日ごろから，育児に関する新聞や雑誌の記事には興味・関心をもつ。

〔成績評価の方法〕

学期末試験（80%）授業内の小レポート（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　子どもを育てる環境としての現代社会の特徴
第２週　子どもの発達①胎児～胎生期
第３週　子どもの発達②乳児期
第４週　子どもの発達③幼児期
第５週　子どもの発達④学童期以降
第６週　妊娠中の母親の健康と危機
第７週　出産時の母親の健康と危機
第８週　育児中の母親の健康と危機
第９週　親子関係の危機①愛着障害
第10週　親子関係の危機②虐待
第11週　親子関係の危機③その他
第12週　女性のライフサイクルと妊娠・出産
第13週　育児支援の実際①制度や施設
第14週　育児支援の実際②親教育のプログラム
第15週　まとめ

人間関係論III（幼児教育）

3735051300100

副　題	小児の発達と発育からみた幼児教育							担　当　者	澤口　聡子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	CHL-003-GD

〔授業の到達目標〕

自らの人生で直面する幼児教育の発達と発育からみた課題に，小児科学，赤ちゃん学，子ども学，小児保健学の基礎知識を使って対応できるようにすること。

〔授業の内容〕

今日の小児科学，小児保健学，赤ちゃん学，子ども学の発達と発育の知識を使って，幼児教育の今日的課題を理解する。

日本の母と子をとりまく問題を理解し，その中で，幼児教育の課題に繋がるものは何か，その課題に自分がどのように対応できるかを考える。他者と如何に共生するか，共生することが困難な場合に，どのように，対応できるかを理解する。

〔教材〕

講義毎に異なる教科書と，画像教材を用い，一冊の書籍を指定しない。

講義毎に，作成教材を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業終了後，授業の内容について自分の考えをまとめてください。

〔成績評価の方法〕

出席　毎回の授業でのリフレクションシート　期末試験

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

副手を経由する。

〔授　業　計　画〕

第１回　子どもの発達　赤ちゃんの不思議
第２回　発達するということ　誕生の不思議
第３回　赤ちゃんは何故かわいいか
第４回　赤ちゃんは世界をどうみているか
第５回　健やか親子21と次世代育成　子ども園の試み
第６回　人との関わり　保育者　医師との関わり
第７回　人との関わりの中で育つ
第８回　母親の役割
第９回　父親の役割
第10回　友達の役割
第11回　共に生きる能力をどう評価するか
第12回　気になる子どもたち　発達障害について
第13回　共に生きる能力をどう育てるか　支援が逆効果になる危険
第14回　性同一性障害
第15回　総括及び理解度の確認
スライド説明　画像教材　リフレクションシートの３構成
数回は講義とリフレクションシートのみ

人間関係論Ⅳ（カウンセリング論）

3735051400100

副　題								担　当　者	角尾　美奈　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	PSY-004-GD

〔授業の到達目標〕
カウンセリングの理論やカウンセラーとしての基本的な在り方を学ぶことで，人間を理解しようとする態度を養うことを目的とする。そのためには，自分自身について理解を深めることや，様々な心理的問題について知ることが必要であり，自分についての振り返りや心理的諸問題についての知識を修得することも目指す。

〔授業の内容〕
ライフサイクルごとに生じやすい心理的問題，それらに対する様々な心理療法的アプローチやカウンセリングの理論などについて，概論的な知識を修得する。基本的に講義形式の授業であり，授業内容に関連した心理テストの実施も予定している。

〔教材〕
教科書は指定しない。毎回の授業で資料を配布し，適宜参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業計画はいくつかのトピックから構成されているが，それぞれの内容は相互に関連している部分があり，毎回の授業内容の理解には，先に学習した内容が理解され知識が定着されていることが必要である。従って，毎回の授業の準備として，学習内容の復習を行った上で出席すること。

〔成績評価の方法〕
学期末試験(80%)，課題レポート(10%)，授業内で実施するリアクションペーパー(10%)により総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕
履修希望者数が多い場合は第１週のオリエンテーションにおいて履修制限を行うことがある。履修を希望する場合は必ず第１週の授業に出席すること。また，授業はパワーポイントを用いて行うが，授業内のスライドの撮影等は一切禁止とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　カウンセリング（１）
第３週　カウンセリング（２）
第４週　カウンセリング（３）
第５週　心理テストによる自己理解（１）
第６週　心理テストによる自己理解（２）
第７週　ライフサイクルと心理的問題（１）
第８週　ライフサイクルと心理的問題（２）
第９週　ライフサイクルと心理的問題（３）
第10週　ライフサイクルと心理的問題（４）
第11週　ライフサイクルと心理的問題（５）
第12週　ライフサイクルと心理的問題（６）
第13週　ライフサイクルと心理的問題（７）
第14週　ライフサイクルと心理的問題（８）
第15週　授業内容のまとめと学期末試験の確認
授業計画は，履修者の状況や授業の進捗状況により一部変更することがある。

人間関係論V（地域社会）

3735051500100

副　題								担　当　者	長野　慎一　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	SOC-005-GD

〔授業の到達目標〕
1「地域」という語の多義性を，社会情勢と学問的背景を踏まえた上で，理解・表現できる
2「地域内」,「地域間」の間に「差異」が生まれる社会的背景を理解・表現できる
3「(諸) 地域」に生きる一個の，あるいは集合的な行為者として，いかに「地域」に関わりうるのかを，現実的に，かつ，想像的に構想できる

〔授業の内容〕
地域という語で何を意味するか，あるいは何を期待するかは，この語が使用される歴史社会的脈絡によって，さらには，その語を使用する主体の位置によって，異なっている。本講義では，この差異に配慮しつつ,「地域」なるものが，具体的現象として立ち現れてくる様相を概括的に説明する。全講義に積極的に参加することで，地域社会の多様な姿を具体的にイメージし，己がそこでいかなる位置を占め，いかに振る舞いうるのかを，考える力を養える。

〔教材〕
参考書：森岡清志ほか『地域の社会学』有斐閣，2008年
伊藤陽一ほか『グローバル・コミュニケーション』ミネルヴァ書房，2013年
渡辺秀樹『越境する家族社会学』学文社，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業の予習はいりません。かわりに，復習，関連文献の調査，レポートの作成には相応の時間を割いてください。講義の内容は,大きく次のように分類できます。1「地域」概念，2ケアと地域社会，3マイノリティと地域社会，4グローバリゼーションと地域社会，5地域社会とガヴァナンス。これらの5つの内容が終わるごとに小レポを作成していただきます。1回ごとの作業に平均10～12時間ほどはかかると思います。

〔成績評価の方法〕
①5回の小レポート（75%）②期末試験（25%）②は簡単な用語説明

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション：「地域」という概念の多義性・多重性
第2週　「地域」を成り立たせる基本項目
第3週　ケアを支える場としての地域〔続く3回の講義に対する総論に当たる〕
第4週　子育てを支える地域社会
第5週　高齢者と地域社会
第6週　障がい者と地域社会
第7週　マイノリティによる地域再編〔続く2回の講義に対する総論に当たる〕
第8週　エスニック集団の集住と地域社会
第9週　性的少数者と脱地域化／再地域化
第10週　グローバリゼーションと地域の生存戦略〔続く2回の講義に対する総論に当たる〕
第11週　地域産業の再編：外への国際化／内なる国際化
第12週　地域再生：「伝統」の創造
第13週　環境問題と地域（1）：生活環境主義
第14週　環境問題と地域（2）：ダウンストリーム論
第15週　総括にかえて：地域社会とガヴァナンス

人間関係論VI（組織社会）

3735051600100

副　題								担　当　者	長野　慎一　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	SOC-006-GD

〔授業の到達目標〕

1.「組織」の構造，内部でのミクロな人間関係，全体的な自己 - 統治・自己 - 変革の過程，外部との関係に関わる諸理論を理解し，具体的な分析に的確に適用できる。

2．組織の類型（行政組織，営利企業，ボランタリー組織，社会運動組織など）を識別し，その相違を表現できる

3．具体的現象を参照しつつ諸理論を批判的に検討できる

〔授業の内容〕

一個人の人格や活動のみではなしえないことも，複数の人が集まることでできることがあります。そのような集まりの洗練された形態として「組織」はあります。本講義では，（1）組織について蓄積されてきた基本的概念を具体的現実に適用し解釈する方法，（2）具体的現実に照らし，概念を再度批判的に検討する方法，この双方を学ぶことができます。

〔教材〕

教科書：渡辺深, *組織社会学*, ミネルヴァ書房, 2010

参考書：桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論　補訂版』有斐閣，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業は基本的に教科書にしたがい進めます。教科書は理論的色彩が強いので，講義では，事例を盛り込み，学生の皆様が，具体的な理解に至るようにいたします。ただし，各講義の前に教科書の関連の章を読んでおいてください（2時間)。小テストが2回，期末が1回で，計3回で比重は同じです。基本概念の理解ができているかを表現してもらいます。レポートは1回で，学んだ理論を用いて具体的現象を分析して，その結果をまとめてもらいます。各回の復習に2時間ほどかけてください。

〔成績評価の方法〕

①レポート（25%）②小テスト（50%）③期末テスト（25%）

②は，第5週及び第10週に行う「理解度の確認」で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション：「組織」について学ぶ意義／「組織」が存在する意義
様々な集合のあり方がある中，いかに「組織」という形態が生まれるのか，「組織」という形態であるからこそなしうることとは何なのか。この点を明かしつつ，全体の講義の流れを説明する。

第２週　「組織」の定義
組織の一般的定義を説明する（教科書は１章）

第３週　合理的システムモデル
テーマ：合理性が貫徹すると仮定する場合に，組織はいかに概念化されうるか（教科書は２章）

第４週　自然システムモデル
テーマ：特定の状況において，適応・生存を目指す集団としての組織のあり方とはどのようなものか（教科書は３章）

第５週　理解度の確認とまとめ〔第１週～第４週の内容について〕

第６週　閉鎖システムモデルと開放システムモデル
組織内構造に焦点を当てる理論（合理的システムモデル／自然システムモデル）と対比させつつ，組織と環境（埋め込まれている状況）の関係に焦点を当てる諸理論の一般的特徴と意義を説明する（教科書は２，３，４章）

第７週　コンティンジェンシー理論
テーマ：組織の最適な姿が環境の不確実性にいかに左右されるか（教科書は４章）

第８週　非合理（認識）モデル
テーマ：主観的に人々によって作りあげれる現実としての組織とはいかなるものか（教科書は５章）

第９週　資源依存理論
テーマ：組織はいかに己の生存に必要な資源を他の組織から調達するか，その過程ではいかなる諸関係が内部に生成するか。（教科書は６章）

第10週　理解度の確認とまとめ〔第６週～第９週の内容について〕

第11週　組織エコロジー論
テーマ：個々の組織を内包する組織群は，環境との関係でいかに発生，成長，衰退するか（教科書は７章）

第12週　制度理論
テーマ：組織は，文化的環境（特に国家や専門職などの信念体系）の影響下でいかに形成されるか（教科書は８章）

第13週　取引コスト理論
テーマ：資源の獲得という目的に向かう中で，いかに市場交換から独立した内部過程が組織内に形成されるか（教科書は９章）

第14週　組織のネットワーク理論
テーマ：重層的なネットワーク内に位置づく組織間・内コミュニケーションのあり方とはいかなるものか。（教科書は10章）

第15週　組織と市民社会
これまでの全講義の内容を踏まえつつ，NGO・NPOや社会運動組織に着目し，組織が市民社会に果たし得る役割について展望を示す。

人間関係論VII（女性）

3735051700100

副　題										担　当　者	中村　優実子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	GEN-007-GD

〔授業の到達目標〕

日本近現代小説を読むことを通し，〈愛〉・〈性〉をめぐる問題について知見を広げ，自分なりの考察を行う。

〔授業の内容〕

男女平等化への取り組みがなされている状況下で，現代女性の生き方は多様化し，それに伴い，恋愛や結婚の在り方も変容してきている。だが，どのように形をかえようとも，〈愛〉と〈性〉の問題は重要なテーマとして，私たちの前に横たわっているといえるだろう。

授業では，近現代小説において恋愛と性の問題がどのように描かれてきたのかを，フェミニズムやジェンダー（歴史・社会・文化的性差）の視点によって見つめてみる。これらの作品を学ぶことを通して，私たちが知らず知らずに内面化しているジェンダーを意識化することができ，さらに現代女性の〈愛〉と〈性〉の問題を問い直す契機になればと考えている。

〔教材〕

教材は適宜指定し，場合によってはプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前に指定したテクストを必ず読んだ上で，授業にのぞんで下さい。

〔成績評価の方法〕

1．リアクションペーパーの内容と出席状況（40%）
2．学期末レポート（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　樋口一葉の生涯と『わかれ道』－女の決断
第３週　円地文子『女坂』を読む－女の忍従
第４週　田村俊子『炮烙の刑』を読む（１）－〈新しい女〉の蛮勇
第５週　田村俊子『炮烙の刑』を読む（２）
第６週　夏目漱石『こころ』を読む（１）－黙殺される女
第７週　夏目漱石『こころ』を読む（２）
第８週　谷崎潤一郎の生涯と『春琴抄』
第９週　谷崎潤一郎『春琴抄』を読む－女性崇拝か自己愛か
第10週　芥川龍之介『秋』を読む－シスターフッドの行方
第11週　尾崎翠『山村氏の鼻』を読む－女のアイロニー
第12週　三島由紀夫『仮面の告白』を読む－セクシュアリティの揺らぎ
第13週　村上春樹『ノルウェイの森』を読む
第14週　角田光代『対岸の彼女』を読む（１）－女の友情
第15週　角田光代『対岸の彼女』を読む（２）

社会環境論I（環境法）

3736001100100

副　題	国際環境問題解決のための法制度	担　当　者	小中　さつき　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	LAW-008-GD

〔授業の到達目標〕

世界でいかなる環境問題が生じているのかを知る。さらに問題解決に立ちはだかる障害を理解し，どのような解決方法が必要なのかについて，自分の意見を提示できるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

近年，温暖化，越境大気汚染，絶滅危惧種の増加，海面上昇，砂漠化といった言葉を日常的に見聞きする。果たしてこうした地球環境問題が実際にどのような状況にあるのか，その原因，被害の程度また予測される将来の状況について理解し，そのうえで国際社会がこれらの問題に対し，どのように対応してきたのかまた対応しようとしているのかを学ぶ。

まずは国際環境法の特徴や基本原則を理解し，その後具体的な事例を取り上げながら，個別に問題を検討していく。

講義形式の授業であるが，受講生とともに授業を作っていきたいと考えている。そのため，受講生数に応じてディスカッションや意見を発表する機会を設ける。

〔教材〕

参考書：西井正弘　臼杵知史編『テキスト国際環境法』有信堂，2011年
地球環境法研究会『地球環境条約集』第４版，中央法規出版，2003年
西井正弘編『地球環境条約ー生成・展開と国内実施』有斐閣，2005年

教材については最初の授業で説明を行うので，そのうえで各自準備されたい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

１時間程度の復習をすること。授業で扱った事例や環境問題について配布した資料を再確認し，環境破壊を引き起こす原因と結果，また法制度の内容をしっかり理解すること。

その他に，関心のある問題については自分でさらに掘り下げ，また新聞には必ず毎日目を通し，環境関連の記事をしっかり読むこと。

〔成績評価の方法〕

学期末確認テスト（80%）と授業内での小テスト，レポート，発言等（20%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール　satsukikonaka●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕

新聞等の媒体を通して，環境に関する時事問題に関心を持つことを心掛けて欲しい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　国際環境問題とは何か
第３週　国際法と国際環境法
第４週　国際環境法の形成と発展（１）
第５週　国際環境法の形成と発展（２）
第６週　国際環境法の定立形式
第７週　国際環境法の基本原則（１）
第８週　国際環境法の基本原則（２）
第９週　事後救済制度と事前防止制度
第10週　国際環境条約の履行確保
第11週　オゾン層保護と気候変動の防止と予防
第12週　人権と環境
第13週　武力紛争と環境
第14週　企業活動と環境
第15週　確認とまとめ

できるだけ具体的な問題を通して自分の頭で考えることを重視したい。したがって，授業計画に基づき進めていく予定であるが，国際環境問題に関する国際社会や国際機構による新たな取り組みが見られた際には，多少授業内容を変更する場合もある。

社会環境論II（環境経済学）

3736001200100

副　題	ミクロ経済学とその環境問題への応用	担　当　者	荘林　幹太郎　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ECO-009-GD

〔授業の到達目標〕

余剰分析を中心としたミクロ経済学の基礎を演習問題を自ら解くことも活用して完全に理解するとともに，外部性，公共財に伴う市場の失敗概念を実際の環境問題に応用できるようになる。

〔授業の内容〕

市場は資源を効率的に配分するメカニズムとされている。一方で，市場は環境問題を引き起こすこともある。また，環境を改善するために市場的な手法が有効な場合もある。

本講義では，これらを分析するためにミクロ経済学の基礎とその環境問題への応用を学ぶ。

また，ミクロ経済学は公共政策や開発協力分野においても有力な分析ツールであることから，環境問題に関心のある学生に加えて，それらの分野に関心のある学生（公務員や海外援助機関を志望する学生）もぜひ受講して欲しい。

〔教材〕

教科書：N.グレゴリー マンキュー『マンキュー経済学〈1〉ミクロ編』第2版，東洋経済新報社，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の宿題に4時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出欠確認を兼ねる：20%），中間試験（自宅持ち帰り試験：20%），期末試験（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日5時間目

mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　ミクロ経済学の基礎（1）：効用とその最大化
第3週　ミクロ経済学の基礎（2）：需要
第4週　ミクロ経済学の基礎（3）：供給
第5週　ミクロ経済学の基礎（4）：均衡価格の形成
第6週　ミクロ経済学の基礎（5）：市場による割り当ての効率性
第7週　ミクロ経済学による環境問題の分析（1）：外部性による市場の失敗
第8週　ミクロ経済学による環境問題の分析（2）：公共財
第9週　ミクロ経済学による環境問題の分析（3）：環境政策としての課税
第10週　ミクロ経済学による環境問題の分析（4）：規制の経済分析
第11週　ミクロ経済学による環境問題の分析（5）：排出権取引
第12週　ミクロ経済学による環境問題の分析（6）：貿易と環境
第13週　ミクロ経済学による環境問題の分析（7）：外部性の価値計測
第14週　まとめ（1）
第15週　まとめ（2）

自然環境論I（エコロジー）

3736011100100

副　題	気づきから人間の責任ある行動へ　体験学習による生態学	担　当　者	品川　明　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	5	コース・ナンバー	ENV-012-GD

〔授業の到達目標〕

1．エコシステム教育の視点を十分に理解し，自然の中で環境と生き物の関わりを認識できる．
2．生き物の生息環境とその形態について，その理由を理解し説明できる．
3．人と生き物の関わりを十分に理解し，人としての責任を把握することができる．

〔授業の内容〕

生物と環境との関係を主題とする。今世紀になって特に重要な課題となった自然環境や生活環境の汚染と破壊，人口と食糧の問題などを考察できるために生態学や生物学の基本を体験学習を通じて学ぶ。生物の特徴とその生態，自然環境のしくみを学び，人類が自然の一員であることを確認する。

体験学習のプログラムとしてプロジェクト・ワイルドや海のプログラムなどの体験に基づく学習法を学び，気づきから人間の責任ある行動へと導く講義を展開する。

なお，本講義以外に１泊２日の課外授業（三浦半島）を実施することがある。

〔教材〕

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布し，参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

アクティビティーの改善点や意義などを把握するための復習が必要である。

〔成績評価の方法〕

1．出席状況と積極的な発言など授業貢献度を重視する．（30%）
2．授業のアクティビティに関するリアクションペーパーの内容を重視する．（40%）
3．活動の参加とグループ発表（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，水曜日４限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕

自然環境やエコロジーとはどのようなことかいっしょに悩んでみましょう。
教室内外でアクティビティを行うため，受講人数を制限することがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　生態学の基礎と体験学習法
第３週　生物と環境
第４週　体験学習　プロジェクト・ワイルド
第５週　〃
第６週　体験学習　プロジェクト・ウェット
第７週　〃
第８週　体験学習　GEMS
第９週　〃
第10週　体験学習　MARE
第11週　〃
第12週　体験学習　味わい教育
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

自然環境論II（自然環境の保全）

3736011200100

副　題	北海道のゆったりした自然の中で自分の中の自然を育てる	担　当　者	山本　幹彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ENV-013-GD

〔授業の到達目標〕

人や自然との関わりを通して自分自身との関係性を育て，自然と共存する意味を理解する

〔授業の内容〕

北海道の大自然の中であなた自身の環境とのかかわりを取り直す４日間の集中授業です。自然を単に頭だけで理解するのではなく，あなたの心と身体を自然の中に放り込み，体験を中心にエコロジーや環境保護を学びます。

全体のテーマは『関わり』です。食糧自給率を知っていても,自然の大切さを知っていても，体験の中から自分の言葉で理解することが大切です。実習では食の生産現場である農家を訪ねたり，加工品であるパン屋のおやじさんから話を聞いたりしながら，現場とあなたをつなぎます。また，道民の森という北海道のゆったりした森の中で，森の中を歩き，星空を見上げ，写真という表現で自然を切り取ってみましょう。自然の中では出来るだけゆったりと過ごしてみましょう。４日間の北海道の自然の中で，あなた自身の自然認識を育てるお手伝いをします。

ポイントは受身では得るものはないということです。あなた自身の主体的な関わりを期待します。そのために，事前の準備が大切です。皆さんの関わりでどのような学びの場が創造できるのか，私も楽しみにしています。

〔教材〕

事前に自然や北海道をキーワードにした書籍を読み，レポートを提出してもらいます。その時に参考となる書籍は登録後に連絡します。実習中は講義用のプリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

実習に参加する前に，参考図書を最低でも一冊読み，レポートを提出してもらいます。

〔成績評価の方法〕

事前と事後のレポートや実習中の主体的な関わりなどによって総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

天候によってプログラムは変更される場合があります。この実習は北海道へのツアーとなります。申込み後のキャンセルは料金が発生します。特に，４年生は就職活動などを考えて申しこんでください。

〔授　業　計　画〕

第１回　１日目：羽田から新千歳空港へ。その後，無農薬栽培農家を訪ねて農業の現場の話しとディスカッション。その後，道民の森へ。
第２回　２日目：自然体験活動
第３回　３日目：スライドショー作りと発表。
第４回　４日目：４日間のまとめの後，地元のパン屋さんでディスカッション。
第５回　実習
第６回　〃
第７回　〃
第８回　〃
第９回　〃
第10回　〃
第11回　〃
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃

実習に参加する前に，参考図書を最低でも一冊読み，レポートを提出してもらいます。実習中は，北海道で無農薬でお米作りをしている農家や，限りなく安全なパンを焼いているパン屋さんを訪ね，ディスカッションを行います。単に話しを聞くだけではなく，質問や問いかけを考えてきてください。道民の森では，ゆったりした自然の中で五感の再教育をしながらスライドショーという表現に取り組んでもらいます。デジカメ，もしくはスマホのカメラ機能を使って写真を撮り，グループに分かれてパソコンでスライドショーに仕上げます。可能な方はマイパソコンを持参してください。終了後はレポートを提出してもらいます。日程は９月５日（月曜日）から８日（木曜日）の３泊４日です。費用は約60,000円を予定しています。（往復航空券，集合場所から道民の森までの往復のバス代，期間中の宿泊・食事代，保険を含みます。）また，食事は自炊となります。

自然環境論III（生物資源利用）

3736011300100

副　題	植物資源の利用							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENV-014-GD

〔授業の到達目標〕
植物の特性を知り，自然環境や人間の生活などにおける重要度を理解できるようになる。

〔授業の内容〕
自然環境としての植物との調和を念頭に置きつつ,生活と直接関連する部分に重点を置いて，生物資源としての植物の利用の現状と新しい可能性について考える。まず生物資源としての植物の特性と地球環境の関連について述べた後，植物の特異性とその利用についていくつかの具体的テーマをとり上げて解説する。理解を深めるため部分的に簡単な実験を取り入れる。テーマの中からひとつを選択して，現状の調査と将来の予測をレポートしてもらう。

〔教材〕
プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
提出レポート（約90%）および授業への参加状況（約10%）で成績を評価する。ただし，授業回数の３分の１を越えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業等について質問がある場合は，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに
第２週　食糧資源としての穀物の可能性と限界
第３週　〃
第４週　食用作物の成立と改良
第５週　〃
第６週　新しい食用作物とその利用
第７週　デンプンの利用
第８週　植物の有用成分の利用に関する実習
第９週　〃
第10週　〃
第11週　セルロースの利用
第12週　植物油脂，植物タンパク質の利用
第13週　植物工場による栽培
第14週　環境問題と植物資源利用
第15週　レポート作成指導
授業の一部で実験・実習を行う予定です。
授業計画は変更することがある。

自然環境論Ⅳ（環境汚染）

3736011400100

副　題	東日本大震災の復興と持続可能な町づくり	担　当　者	品川　明　教授 平井　和也　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ENV-015-GD

〔授業の到達目標〕
1．東日本大震災で被害をうけた宮城県南三陸町の海環境と海洋生物資源の理解
2．地域の復興と持続可能な町づくりのための提案
3．持続可能な教育のためのアクティビティの提案と実践

〔授業の内容〕
東日本大震災で甚大な被害をうけた宮城県南三陸町の復興と持続可能な町づくりのための提案と実践するための講義や実習を行う。まず，事前授業にて，南三陸町の持つ海洋生物資源の有効利用を推進するため，フードコンシャスネスの観点から特産物（ワカメ，鮭，海鞘など）に関する理解を深める。その後，特産物を利用した食教育や環境保全プログラムを開発する。次に，事前授業の成果を活かすために，南三陸町にてフィールドワーク，地域復興現場の見学，グループ討議，実習を織り交ぜながら，南三陸町の生活・環境・産業・社会問題などの理解を深める。最終的に，南三陸町の復興と海洋資源の持続可能な教育と活用を実現できるモデルプランを作成し，海と環境と地域産業が調和した地域づくりを提案する。

〔教材〕
特に指定しない。必要に応じて資料を配布し，参考文献や参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
集中講義の前に，事前授業を春学期に６回程度実施する。授業の目的は南三陸の水産資源を活用した味わい深い御飯の開発にある。
そのために，食調査や調理実習を実施する。実際の授業以外に調査のために必要な時間は毎回１時間程度である。また，環境教育センター主催の環境教育指導者講座および味わい教育インストラクター養成講座には積極的に参加すること。

〔成績評価の方法〕
1．事前授業への出席と課題作成（40%）
2．現地でのと授業参加状況（30%）
3．レポート作成（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕
宮城県南三陸町での宿泊と集中講義
定員：25名
日程：８月30日～９月２日，費用は約50,000円を予定（交通費，宿泊，保険）
その他，春学期に実施される事前授業に参加すること。また，フードコンシャスネス論Ⅰを受講することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１回　事前授業
第２回　〃
第３回　8/30午後　南三陸町を概観するフィールドワーク
第４回　8/30夜　南三陸町の概要についてレクチャー
第５回　8/31午前　漁業についてのフィールドワーク
第６回　〃
第７回　8/31午後　農業についてのフィールドワーク
第８回　〃
第９回　8/31夜　農業と漁業，水産物についてのレクチャー
第10回　9/1午前　南三陸トレイルワーク入谷
第11回　〃
第12回　9/1午後　食材を使って地域の魅力を引き立てるワークショップ
第13回　〃
第14回　9/2午前　グループ討議「この講義で何を学んだか。持続可能な地域づくりのためにできることは何か，企画作成。」
第15回　〃
◯事前授業：ガイダンスにて，開催日程を提示する。
◯南三陸町の研修
１日目：南三陸町内視察（震災地の現況を観て，知る），海洋生物資源の講義
２日目：南三陸町のフィールドワーク（地域復興現場の見学：アクティビティへの応用）
南三陸町の海洋資源の生物学的理解（サケ・ホタテ・ホヤなど），味わい教室の実践（味覚教育プログラム）
３日目：地域振興のワークショップ（環境保全，味わい教育に関するプログラム）
南三陸町の水産物を利用した地域振興プログラムを考えるワークショップ，南三陸町探索プログラム
４日目：討議：発表と意見交換

生活環境論I（人間と食）

3736021100100

副　題	食の基礎と母乳の科学							担　当　者	品川　明　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	LIF-016-GD

〔授業の到達目標〕
1．食品を理解する上で必要な栄養素に関する基礎知識を認識している。
2．食生活に関するさまざまな問題を取り上げ，それらの解決方法について考え得る能力がある。
3．母乳成分の特質や母乳栄養と社会の関わりなどについて問題点を認識できる。

〔授業の内容〕
現代の食生活に関するさまざまな問題を取り上げ，食生活の現状を認識するとともにその解決方法について議論する．食物と人，食物と環境，食物の条件などについて理解を深める．さらに，具体的な食物として人間をはじめとするほ乳類が食する母乳について，母乳成分の特質を詳細に講述し，母乳栄養と社会の問題点について議論する．

〔教材〕
特に指定しない．必要に応じてプリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
食に関する基礎学習および母乳に関する事前の調査と授業後の復習が必要である。

〔成績評価の方法〕
1．出席状況と積極的な発言など授業貢献度を重視する．(30%)
2．リアクションペーパーを重視する（20%）
3．小テストを実施する．(25%)
「評価基準」授業中の積極的な質問や発言を評価する．小テストでは，食品の栄養素に関する基礎知識や母乳成分の特質についての理解度を評価し，到達目標をクリアーしている場合のみ合格点を与える．
4．本試験（25%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業に関して質問がある場合は，akira.shinagawa●gakushuin.ac.jp（change ● to @）までメールで問い合わせるか，金曜日４限目のオフィス・アワーに環境教育センター（523教室）まで来ること。

〔備考〕
数回実施されるリアクションペーパーの提出を重要視する

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　食品成分の基礎（食べるものに何が含まれているか）１
第３週　食品成分の基礎（食べることとは何を意味するのか）２
第４週　食品成分の基礎（何をどのように食べるか？）３
第５週　食生活の現状
第６週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）１
第７週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）２
第８週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）３
第９週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）４
第10週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）５
第11週　母乳の科学（ヒトとウシの乳の比較）６
第12週　母乳の非栄養学的価値１
第13週　母乳の非栄養学的価値２
第14週　母乳の非栄養学的価値３
第15週　まとめ

生活環境論II（ウエルネス論）

3736021200100

副　題	身体・健康・環境～well-beingについて考える	担　当　者	荒井　啓子　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	LIF-017-GD

〔授業の到達目標〕

現代社会における身体・健康・環境についての様々な話題から，個の尊重としてのwell-beingとは何かを考える。また，健康に向けたライフスタイルを自らデザインするための知識や方法を模索する。

〔授業の内容〕

ウエルネス（wellness）とは，illness　と対照的な言葉であるが，単に「病気でない」という状態を示すものではない。それは，health　のもつ意味をより幅広い視座から捉え直し，各人が現在おかれている様々な状況に応じて心地好く生活していくための方法を模索する積極的かつ総合的な健康に対する考え方とされている。著しい社会変化の中で，「余暇社会」と言われて久しく，自由裁量時間をどのように過ごしていくかということに関心が寄せられ続けている。また，科学技術の進歩に伴う便利な生活は，他方，身体を動かさない日常によって「運動不足病」（hypokinetic disease）を引き起こしている。このような状況の中で，時間や健康を自分でデザインし，身体（こころとからだ）を健やかにして快適な生活をおくることは現代社会に暮らす私たちにとって重要な課題と考えられる。

そこで，この時間では，「身体」「健康」「環境」に関するトピックを社会的・文化的視点から採り上げ，自分に合った心地好いライフスタイルの創造を志向しながら，生活文化としての健康について考えていきたい。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前回のレジュメを確認し各自のノートに目を通して上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

レポート（50%），理解度の確認（30～40%），出席状況（20～10%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は，進度や課題内容等により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目，火曜日４時間目

〔備考〕

「特別講義」を開催する場合がある。履習希望者多数の場合は第一週に人数制限を行う。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　ウエルネス（wellness）の考え方
第３週　健康とは何か～あなたは今健康ですか？
第４週　『体に悪いことしてますか』～健康スポーツ・ブームを考える
第５週　現代社会と運動不足病
第６週　ストレスコントロールとリラクゼーション
第７週　肥満対策とスポーツ
第８週　理解度の確認（予定）
第９週　現代のボディ・イメージと痩身神話
第10週　日本人の養生観
第11週　個の尊重としてのwell-being
第12週　たばこの歴史と文化と健康～世界の禁煙CMから
第13週　オリンピックと環境問題
第14週　余暇社会とスポーツ～人生100年時代の健康観
第15週　まとめ

生活環境論III（健康と栄養）

3736021300100

副　題	食物と健康							担　当　者	阿部　誠　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIF-018-GD

〔授業の到達目標〕
食品成分に関する基本的知識を備える。

〔授業の内容〕
現代における生活をより豊かで健康的にするうえで食の重要性はきわめて高い。我々の食生活に関わる食品はきわめて多様であり，食品選択のためには食品成分に関する基本的知識が必要である。食品成分の栄養的価値や性質について，具体的食品や健康問題などの事例と関連づけてできるだけ具体的に解説し，正しい食品選択への方策を考えていく。

〔教材〕
プリントを配付する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業終了後は内容を復習して疑問点を図書館等を利用して調査しておくこと。解決できない個所については次回質問できるようにしておくこと。次回の授業の内容を配布プリントやシラバスから把握し，概要を理解したうえで授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕
学期末試験（約90%）および授業への参加状況（約10%）で成績を評価する。ただし，授業回数の３分の１を超えて欠席した場合は成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業等について質問がある場合は，月曜日（13：00～15：00），火曜日（10：30～12：00）のオフィスアワーに研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　食物摂取の必要性
第２週　食物中の栄養素とその分布
第３週　食物のエネルギーと炭水化物
第４週　〃
第５週　脂質の性質と役割
第６週　〃
第７週　タンパク質の機能と栄養
第８週　〃
第９週　食生活と成人病
第10週　〃
第11週　〃
第12週　食生活とガン
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

生活環境論Ⅳ（社会福祉論）

3736021400100

副　題	女性と社会福祉							担　当　者	田中　恵美子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	SOC-019-GD

〔授業の到達目標〕

1．社会福祉の意味，成り立ちについて説明できる。　2．女性のライフステージにおける特徴と社会制度の関係について論ずることができる。　3．現代日本社会における課題と女性の立場について考察することができる。

〔授業の内容〕

この講義では社会福祉の意味世界について説明し，女性の立場で社会福祉とどうかかわるのかについて考察していく。特に現代日本社会における様々な福祉問題への理解と，それらにおける女性の立ち位置について，各自が自らの意見を持ち，議論ができるようにする。

前半で社会福祉の定義，ライフサイクルと社会福祉制度の関係，社会福祉制度の成り立ち及び戦後日本の歴史について学んだあと，現代社会における社会問題と女性の関係について考察していく。

＊授業で配布する資料の予備は保管しません。必ず出席者からコピーをもらってください。

＊当日欠席により課題提出が遅れる場合は，事前に受け付けます。

＊携帯電話やパソコンの使用は禁止します。ただし事前に説明を受け，講義取得に必要と判断された場合，許可します。

〔教材〕

参考書：岩田正美『社会福祉への招待』第1版，放送大学教育振興会，2016年

その他の参考図書は必要に応じて授業中または資料で情報提供します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業は前回の授業内容の振り返りからスタートするので，復習を十分行って出席すること。また授業計画に乗せられているキーワードについて，授業中に指名されても自分なりの意見が述べられるよう，あらかじめ必要と思われるような基本的な情報（制度の内容や社会問題として認識されていること）について，新聞等最新の情報媒体から取得しておくこと。

〔成績評価の方法〕

まとめと理解度の確認　80%，コメントシート20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　社会福祉とは何か－定義　我々の生活世界との違い
第２週　ライフサイクルと制度－女性のライフステージ
第３週　社会福祉制度の成り立ち－イギリスを中心に
第４週　戦後日本の社会福祉制度　１－戦後初期～高度経済成長期
第５週　戦後日本の社会福祉制度　２－高度経済成長期～現代
第６週　就労－雇用格差と女性　男女雇用機会均等法
第７週　結婚・出産－ライフワークバランス　海外と日本
第８週　出生前診断－現代的課題
第９週　子どもの貧困－子どもの貧困防止法
第10週　子どもの失踪・虐待－児童虐待防止法
第11週　疾病と女性－難病対策法
第12週　障害者の自立生活運動と女性－障害者権利条約
第13週　老後をどう生きるのか－おひとりさまの老後　年金・所得
第14週　家族の老いを支える－「介護」の形：介護保険制度の問題
第15週　まとめと理解度の確認

授業で聞き逃したことは教員に尋ねることも大切ですが，まずは学生同士で情報を共有しあってください。授業中にグループディスカッションを行ったり，意見を求めたりすることもあります。積極的に参加してください。どんな意見でも構いません。自分の意見を述べてください。発表したり，ディスカッションしたりできない人はこの科目は履修しないように。

生活環境論V（生活者と環境）

3736021500100

副　題	私たちにとって有意義な生活とは何か	担　当　者	内田　直子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	LIF-020-GD

〔授業の到達目標〕

日々生活をしている人間，すなわち「生活者」の立場から，主に都市生活を中心とした現在の生活実態の問題点を見つけ出し，その解決のための効果的なあり方や改善点などの提案ができるようになる。

〔授業の内容〕

人間と環境の関係は，ヒト全体をとりまくマクロな環境から，個人をとりまくミクロな環境と，様々な視点から考えられる。本講義では，家庭生活での消費や家計を中心とした生活経済上の諸問題，福祉の発展における生活空間の利便性やその弊害，住まいや地域を取り巻く景観や人間同士が集まって醸し出す美観などの広義のランドスケープ，そして芸術文化と企業メセナや，IT社会や工業技術など，文化や情報技術に関することなどを取り上げる予定である。これらの多角的な視点から生活者と環境との関係を捉え，我々にとって有意義な生活とは何かを検討したい。

〔教材〕

教科書は使用しないが，プリント等を適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業には，課題に挙げている生活環境について，現代の生活者がどのような状況にあるのか，毎日の新聞（一般紙）記事，テレビのニュース･報道番組等を準備に2時間以上活用しながら，問題意識を持って受講すること。授業後も同様に2時間以上これらの生活情報の比較・選択・活用に努めること。

〔成績評価の方法〕

学期末レポート(90%)と授業への参加度(10%)とにより評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス　／　生活者および環境とは何か
第2週　消費や家計の経済視点からみた生活環境（1）　消費者問題
第3週　消費や家計の経済視点からみた生活環境（2）　契約のしくみ
第4週　消費や家計の経済視点からみた生活環境（3）　生活設計
第5週　消費や家計の経済視点からみた生活環境（4）　高齢期の経済生活
第6週　福祉の発展に伴う空間の変化からみた生活環境（1）　住生活事情
第7週　福祉の発展に伴う空間の変化からみた生活環境（2）　ユニバーサルデザイン
第8週　福祉の発展に伴う空間の変化からみた生活環境（3）　暮らしの中の安心安全
第9週　広義のランドスケープからみた生活環境（1）　街の景観
第10週　広義のランドスケープからみた生活環境（2）　広告・サイン
第11週　広義のランドスケープからみた生活環境（3）　身近な美観
第12週　文化・情報技術からみた生活環境（1）　文化・芸術と企業メセナ
第13週　文化・情報技術からみた生活環境（2）　工業技術と生活支援
第14週　文化・情報技術からみた生活環境（3）　ヒューマンインターフェース
第15週　まとめ

地球環境論I

3736040100100

副　題	地球環境問題への総合的アプローチ							担　当　者	荘林　幹太郎　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	ENV-021-GD

〔授業の到達目標〕

地球の構造や物質循環等に関する科学的知識，環境と経済活動の関連を分析するための経済学的知識，国家間の利害を調整するための国際関係論などの，地球環境問題を理解するための多様な分野の基礎を把握することが可能となる。

〔授業の内容〕

ある国における社会経済活動が環境に与える影響はその国の国境の内側にとどまらない。例えばその国から排出される温暖化ガスは地球全体の温暖化を招き，海洋汚染は近隣国にも大きな被害をもたらす。また，国際化の進展に伴う貿易の増加は，輸入国，輸出国の環境に変化をもたらすかもしれない。あるいは，ある国の現在世代の行為が他の国の将来世代に影響を与える。

本講義では，このような地球規模での環境問題について，広角的な視点から，問題の所在，因果関係，問題解決のための政策手法について概観する。

〔教材〕

参考書：京都大学地球環境学研究会『地球環境学のすすめ』（京大人気講義シリーズ）丸善，2005年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の宿題に4時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出席確認を兼ねる：20%），中間試験（20%），期末試験（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日5時間目
mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
第2週　いくつかの基礎的概念の整理（地球の成り立ちと地球システム）
第3週　いくつかの基礎的概念の整理（持続性と環境倫理，不確実性と予防原則，エコロジカルフットプリント等）
第4週　地球温暖化（1）：何故二酸化炭素が増加すると地球は温暖化するのか？
第5週　地球温暖化（2）：二酸化炭素の急増（地球の成り立ちと炭素の循環）
第6週　地球温暖化（3）：温暖化の影響
第7週　地球温暖化（4）：温暖化ガスを削減するための政策手法―環境税，排出権取引，研究・開発，自発的な取り組み
第8週　地球温暖化（5）：国際的な対策の枠組みー京都議定書とIPCC
第9週　生物多様性の減少（1）：何故生物多様性は重要か？
第10週　生物多様性の減少（2）：生物多様性の急激な減少
第11週　生物多様性の減少（3）：生物多様性条約
第12週　貿易と環境（1）：自由貿易は環境にプラスかマイナスか？
第13週　貿易と環境（2）：WTO農業交渉と環境―自由貿易と環境保全を両立させるための政策は可能か？
第14週　総括
第15週　〃

地球環境論II

3736040200100

副　題	事例分析を通じた複雑性の理解に向けて	担　当　者	荘林　幹太郎　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	ENV-022-GD

〔授業の到達目標〕

現在の主要な地球環境問題である地球温暖化，水資源･土壌資源の劣化，生物多様性の減少，自由貿易の拡大とその環境への影響について，その科学的なメカニズムを踏まえたうえで，対応策について社会科学の手法も含めて包括的に議論する。本科目の履修を通じて，地球環境についての複雑な問題を事例とした総合的な思考力の醸成を目標とする。

〔授業の内容〕

ある国における社会経済活動が環境に与える影響はその国の国境の内側にとどまらない。例えばその国から排出される温暖化ガスは地球全体の温暖化を招き，海洋汚染は近隣国にも大きな被害をもたらす。また，国際化の進展に伴う貿易の増加は，輸入国，輸出国の環境に変化をもたらすかもしれない。あるいは，ある国の現在世代の行為が他の国の将来世代に影響を与える。「地球環境論II」では，このような地球規模での環境問題について，事例分析を通じて，その複雑性および問題の把握・解決のための総合的な視点の重要性を示す。

〔教材〕

EU, OECD，世銀等における国際的な政策議論についてのレポートを参考資料とする予定。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の授業を踏まえた宿題に 4 時間程度の負荷を想定

〔成績評価の方法〕

宿題（出席確認を兼ねる：50%），期末試験（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜日 5 時間目

mikitaro.shobayashi●gakushuin.ac.jp（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション
第 2 週　地球温暖化①：温室効果ガスと温暖化のメカニズム
第 3 週　地球温暖化②：温暖化適応策の必要性と概要
第 4 週　地球温暖化③：温暖化緩和のための政策手法（排出権取引・環境税）
第 5 週　水資源・土壌資源①：コモンズとしての淡水資源の現状（水循環のマクロ概観）
第 6 週　水資源・土壌資源②：世界的規模の土壌劣化の概況
第 7 週　水資源・土壌資源③：水・土壌資源保全のための総合的な対策：コモンズの悲劇を避けるために
第 8 週　生物多様性①：生物多様性の現状と危機
第 9 週　生物多様性②：国際的な取り組み
第10週　生物多様性③：わが国の取り組み
第11週　貿易と環境①：貿易理論と環境の整合と不整合
第12週　貿易と環境②：貿易と環境の関係性を示す実例
第13週　貿易と環境③:WTOと貿易
第14週　総括：地球環境問題の総合性
第15週　総括：全体討論

情報処理IA（コンピュータ入門）

3733000100100

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	清水　將吾　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	CAR-101-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IB（コンピュータ入門）

3733000100200

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	清水　將吾　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	CAR-102-GE

〔授業の到達目標〕
（1） タッチタイピングが行える．
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3） コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕
コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕
授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕
平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火曜５限
授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IC（コンピュータ入門）

3733000100300

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	CAR-103-GE

〔授業の到達目標〕

（1）タッチタイピングが行える。
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える。
（3）コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である。この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって，パソコンの使用経験の有無は問わない。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの実習10%，ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜４限
授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　ワープロソフトの利用　（1）
第８週　ワープロソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理ID（コンピュータ入門）

3733000100400

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	CAR-104-GE

〔授業の到達目標〕

（1）タッチタイピングが行える。
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える。
（3）コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である。この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって，パソコンの使用経験の有無は問わない。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの実習10%，ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜４限
授業時に指示する

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　ワープロソフトの利用　（1）
第８週　ワープロソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IE（コンピュータ入門）

3733000100500

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	清水　將吾　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	CAR-105-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IF（コンピュータ入門）

3733000100600

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	加園　克己　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	CAR-106-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IG（コンピュータ入門）

3733000100700

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	CAR-107-GE

〔授業の到達目標〕

（1）タッチタイピングが行える。
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える。
（3）コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる。

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である。この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する。受講にあたって，パソコンの使用経験の有無は問わない。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの実習10%，ワープロソフト/プレゼンテーションソフトの実習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜４限
授業時に指示する

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　ワープロソフトの利用　（1）
第８週　ワープロソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IH（コンピュータ入門）

3733000100800

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	加園　克己　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	CAR-108-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．

（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．

（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理II（コンピュータ入門）

3733000100900

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	市川　収　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	CAR-109-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．
（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．
（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理IJ（コンピュータ入門）

3733000101000

副　題	コンピュータ入門							担　当　者	市川　収　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	CAR-110-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　タッチタイピングが行える．

（2）Webや図書館を用いた情報検索やレポート，プレゼンテーション資料の作成が行える．

（3）　コンピュータやネットワークの仕組みと利用上の注意事項を理解し，適切な利用ができる．

〔授業の内容〕

コンピュータやネットワークを活用できる能力は，現代社会において不可欠である．この講義では，コンピュータおよびネットワークに関する基礎的な知識と正しい使い方を身につけることを目的とし，学内のネットワーク環境に慣れ，学生生活に必要なコンピュータ操作スキルを習得する．受講にあたって，パソコンの使用経験の程度は問わない．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，タッチタイピングの演習10%，文書作成ソフトおよびプレゼンテーションソフトの演習50%，第10週から第14週の内容に関する期末試験30%，OPACの使い方に関する試験10%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Windowsの操作
第３週　タイピングと日本語入力
第４週　メールの使い方と利用上の注意
第５週　Webによる情報検索と利用上の注意
第６週　OPACによる蔵書検索
第７週　文書作成ソフトの利用　（1）
第８週　文書作成ソフトの利用　（2）
第９週　プレゼンテーションソフトの利用
第10週　ハードウェアの基礎
第11週　ソフトウェアの基礎
第12週　ネットワークの基礎
第13週　ネットワーク利用に関するルールやマナー
第14週　ネットワーク利用に必要なセキュリティ対策
第15週　まとめ

情報処理ⅡA（コンピュータ基礎）

3733000200100

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	清水　將吾　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	CAR-111-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Ⅰを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（1）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（2）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（3）：差し込み印刷
第５週　表計算　（1）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（2）：書式設定
第７週　表計算　（3）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（4）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（5）：グラフ作成
第10週　表計算　（6）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（7）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IIB（コンピュータ基礎）

3733000200200

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	清水　將吾　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	CAR-112-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Ｉを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（1）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（2）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（3）：差し込み印刷
第５週　表計算　（1）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（2）：書式設定
第７週　表計算　（3）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（4）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（5）：グラフ作成
第10週　表計算　（6）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（7）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IIC（コンピュータ基礎）

3733000200300

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	CAR-113-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
（2）　ワープロソフトを使って，図表を含む文書が作成できる。
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである。この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は，情報処理Ｉを履修したか，同レベル以上の能力があることとする。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜４限
授業時に指示する

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（1）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（2）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（3）：差し込み印刷
第５週　表計算　（1）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（2）：書式設定
第７週　表計算　（3）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（4）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（5）：グラフ作成
第10週　表計算　（6）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（7）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IID（コンピュータ基礎）

3733000200400

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	CAR-114-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
（2）　ワープロソフトを使って，図表を含む文書が作成できる。
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである。この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は，情報処理Ｉを履修したか，同レベル以上の能力があることとする。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜４限
授業時に指示する

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理ⅡE（コンピュータ基礎）

3733000200500

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	清水　將吾　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	CAR-115-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Ⅰを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜５限
授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理ⅡＦ（コンピュータ基礎）

3733000200600

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	加園　克己　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	5	コース・ナンバー	CAR-116-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Ⅰを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IIG（コンピュータ基礎）

3733000200700

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	CAR-117-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える。
（2）　ワープロソフトを使って，図表を含む文書が作成できる。
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える。

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである。この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする。受講の条件は，情報処理Ｉを履修したか，同レベル以上の能力があることとする。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける。

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜４限
授業時に指示する

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（1）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（2）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（3）：差し込み印刷
第５週　表計算　（1）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（2）：書式設定
第７週　表計算　（3）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（4）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（5）：グラフ作成
第10週　表計算　（6）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（7）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理IIH（コンピュータ基礎）

3733000200800

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	加園　克己　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4	コース・ナンバー	CAR-118-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Ｉを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理II I（コンピュータ基礎）

3733000200900

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	市川　収　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	CAR-119-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Ｉを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理II J（コンピュータ基礎）

3733000201000

副　題	コンピュータ基礎							担　当　者	市川　収　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	CAR-120-GE

〔授業の到達目標〕

（1）　表計算ソフトを使って，簡単なデータ処理やグラフ作成が行える．
（2）　文書作成ソフトを使って，図表を含む文書が作成できる．
（3）　プレゼンテーション資料，およびWebによる情報発信が行える．

〔授業の内容〕

情報リテラシーとは，情報ネットワークを活用して情報を収集・加工・分析し，発信する能力のことである．この授業では，コンピュータを用いた表計算，画像処理の基礎を学び，文書，プレゼンテーション資料やWebを通じて情報発信できる能力を体得することを目的とする．受講の条件は，情報処理Ｉを履修したか，同レベル以上の能力があることとする．なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける．

〔教材〕

授業中に適宜プリントを配布する．

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

当日の授業までに前回までの内容の復習をしておくこと．

〔成績評価の方法〕

平常の授業参加態度を考慮し，各課題の達成度100%により評価する．

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　文書作成（１）：ページのレイアウト
第３週　文書作成（２）：図や画像の挿入
第４週　文書作成（３）：差し込み印刷
第５週　表計算　（１）：表計算ソフトの環境の管理，データの作成
第６週　表計算　（２）：書式設定
第７週　表計算　（３）：ワークシートの管理，ウィンドウの表示
第８週　表計算　（４）：数式，関数の適用
第９週　表計算　（５）：グラフ作成
第10週　表計算　（６）：データの抽出，並べ替え
第11週　表計算　（７）：総合演習
第12週　画像処理の基礎
第13週　プレゼンテーション資料の作成
第14週　Webによる情報発信
第15週　総合演習

情報処理III（コンピュータ応用）

3733000300100

副　題	画像処理							担　当　者	岩城　宏明　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	CAR-121-GE

〔授業の到達目標〕

画像処理に必要な技術を理解し，様々な画像処理の手法を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

パソコンでは，画像・音声・映像等のデータを簡単に取り扱うことができる。この授業では，画像処理に関する内容を中心に講義を進め，コンピュータの活用技法を身につけることを目的とする。また，同時にコンピュータのハードウェアについても理解を深める。受講の条件は，情報処理Ⅰ・Ⅱを履修したか,同レベル以上の能力があることとする。主に使用するソフトウェアは，PhotoShopとする。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるのでクラス定員を設ける。

〔教材〕

教科書は，最初の授業で指示する。授業中にプリント等を配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として教科書理解に30時間，課題制作のために30時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

課題として提出された作品の完成度（70%)，作品の制作過程を説明したレポート（30%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（講義概要・履修上注意・実習室利用上の注意等）
第２週　画像データ（データの種類・形式，入出力機器の取り扱い）
第３週　ワープロソフトへの画像取り込み
第４週　画像データの編集１（編集ソフトPhotoShop　の利用法）
第５週　画像データの編集２（編集ソフトの利用法）
第６週　画像データの編集３（編集ソフトの利用法）
第７週　作品コンテスト
第８週　ホームページ作成１
第９週　ホームページ作成２
第10週　動画１（アニメーションGIF　形式とJavaScript)
第11週　動画２（WMV形式等－ビデオ映像の編集）
第12週　プレゼンテーション用のソフトウェアについて１
第13週　プレゼンテーション用のソフトウェアについて２
第14週　まとめ
第15週　〃
ただし，理解度によって，変更する場合がある。

情報処理Ⅳ（コンピュータ応用）

3733000400100

副　題	プログラム作成							担　当　者	岩城　宏明　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	CAR-122-GE

〔授業の到達目標〕

プログラム作成に必要な基礎知識を理解することを目標とする。

〔授業の内容〕

コンピュータが動作するには，ソフトウェア（プログラムやデータ）が必要である。この授業では，ソフトウェアの開発能力を養うことを目的とする。またプログラム作成に必要はハードウェア・ソフトウェアに関する事項についても学習する。使用言語はJavaScriptを予定している。受講の条件は，情報処理Ⅰ・Ⅱを履修したか，同レベル以上の能力があることとする。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるのでクラス定員を48名とする。

〔教材〕

最初の授業で教科書を指示する。また授業中にプリント等を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

準備学習として教科書理解に20時間，課題制作のために40時間を授業外に必要な時間として想定している。

〔成績評価の方法〕

中間レポート30%・最終課題70%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（講義概要・履修上注意・実習室利用上の注意等）
第２週　コンピュータに関する基本事項（動作の仕組みやOSについて）
第３週　プログラミング言語の解説１（for文・if文・配列）
第４週　プログラミング言語の解説２（予約オブジェクト・メソッド・プロパティ等）
第５週　プログラミング言語の解説３（文字列オブジェクト・Mathオブジェクト等）
第６週　プログラミング言語の解説４（イベント処理等）
第７週　プログラミング言語の解説５（予約オブジェクト２等）
第８週　演習問題
第９週　プログラムとアルゴリズム
第10週　プログラムの構造化・いろいろなデータ構造
第11週　データ処理とファイル管理
第12週　プログラムコンテスト課題提示と説明
第13週　プログラムコンテスト準備
第14週　プログラムコンテスト
第15週　〃
ただし，履修者の理解状況によって，変更する場合がある。

文献情報

3733001100100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授 西川　和　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	INF-123-GE

〔授業の到達目標〕

以下の３点を目標とする。

1. 大学の授業がどのようなもので，なぜ情報を自分で収集する必要があるのかを理解する。
2. 指示された資料を入手することが出来るようになる。
3. 自分で情報を収集することが出来るようになる。

〔授業の内容〕

大学での学習では自分で情報を探さねばならず，多様な情報源を用いる必要がある。この授業では大学の授業や卒業論文の執筆の為に，なぜ情報を手にしなければならないのかを解説する。そして，紙媒体とオンラインの両方の様々な情報源から，必要な情報を探し，入手し，利用する方法を実習する。講師による解説の後，履修者自身が課題を解いていく形式をとる。課題は翌週に提出してもらい，後日解説を行う。

司書課程科目において本授業の内容をより詳しく扱うため，司書課程を履修している学生の受講は認めない。

〔教材〕

参考書：佐藤望他『アカデミック・スキルズ:大学生のための知的技法入門』第2版，慶應義塾大学出版会，2012年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

課題は授業時間外の作業が必要な量を想定している。

〔成績評価の方法〕

平常点(30点)，授業ごとの課題(50点)，小テスト(20点)による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メール，もしくは授業の後に受けつける。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：大学での学習とは何か，なぜ情報を集める必要があるのか，どのような情報源があるのか
第２週　参考文献の書き方：情報源ごとの特徴・注意点，なぜ参考文献を記述するのか
第３週　インターネット１：信頼できる情報源とは
第４週　インターネット２：様々な検索方法，検索ワードの設定の仕方
第５週　情報を探すプロセス：様々な手法を組み合わせた検索
第６週　参考図書：そこにある情報と，他の情報源に関する情報
第７週　統計データ：紙媒体及び電子媒体の統計データの利用
第８週　図書１：図書館の蔵書を利用する
第９週　図書２：横断検索と海外の図書館の利用，デジタル化された図書の利用
第10週　雑誌論文１：学術雑誌とはなにか，国内の雑誌論文を入手する方法
第11週　雑誌論文２：機関レポジトリの利用と，様々なデータベースを用いて論文を探す方法
第12週　新聞記事：新聞記事データベースの利用
第13週　テーマを決めて情報を探す１：各自の興味のある情報を収集する
第14週　テーマを決めて情報を探す２：各自の興味のある情報を収集する
第15週　まとめ，理解の確認

社会調査法

3733002100100

副　題								担　当　者	本柳　亨　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	SOC-024-GE

〔授業の到達目標〕
本講義の到達目標は，目にうつる身近なことから問いを立て，考え，解くための「社会学的想像力」を養うことである。

〔授業の内容〕
社会学の考察は，「理論的な思考作業」と「実証的な思考作業」の二つの思考作業を軸としている。本講義では，「実証的な思考作業」が中心となる社会調査の意義と目的，方法と手順の基礎的事項を解説する。解説の際は，恋愛，結婚，家族，ソーシャル・ネットワーキング・サービス，ファッションなど，身近な問題を題材として取り上げる。本講義では，社会調査の基礎的事項を理解してもらうことに加えて,「社会について考えること」の楽しさを体感してもらう。なお，教室の広さとパソコン台数に制限があるので，クラス定員を設ける。

〔教材〕
教科書は使用しない。授業中にプリントを配布し，必要に応じて参考書を紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業の前後は合計60時間以上の準備学習（予習・復習）を行うこと。この授業では，参考資料として，学術書のみならず，映画や小説も紹介する。関心をもった作品に対して積極的にアプローチし，それを自分の言葉で表現し，家族や友人と対話をすること。こうした時間も「準備学習」に含まれる。

〔成績評価の方法〕
授業のリアクション・ペーパー（20%）と学期末レポート（80%）を合わせて総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕
本講義は，統計学の知識が全くなくても受講できる。

〔授　業　計　画〕

第１週　社会調査の基礎
第２週　社会調査のデザイン（一）
第３週　社会調査のデザイン（二）
第４週　理論的な思考作業
第５週　先行研究の調べ方
第６週　調査対象の選出方法
第７週　質問紙調査法の種類と方法
第８週　調査票の作成
第９週　エディティングとコーディング
第10週　データの基礎的集計
第11週　データの分析（一）
第12週　データの分析（二）
第13週　社会調査の企画と設計
第14週　社会調査の今日的課題
第15週　まとめ
授業計画は予定であり，変更することがある。

日本語表現法I A

3734000100100

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	阿部　美菜子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	JPL-101-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので，話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法I」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
配布された資料に目を通し，授業内容の理解を深めた上で，課題に取り組むこと。

〔成績評価の方法〕
出席状況（20%），授業参加態度（30%），提出物（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要－「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（１）―文体や言葉を選択する
第３週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（２）―曖昧な表現を正す
第４週　不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴を把握する
第５週　学術論文の文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，要点をとらえる
第７週　論証文を書く（１）―　データを提示して重要部分を言語化して説明する
第８週　論証文を書く（２）―　データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く（３）―　一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く（４）―　文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く（５）―　段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く（６）―　学術論文に必要な技術（全体の構成，先行研究への言及，引用，テクニカルタームなど）を習得する
第13週　これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　「書きことば」で話す－口頭発表の技術
第15週　まとめ
上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法IB

3734000100200

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	阿部　美菜子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	JPL-102-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので，話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法I」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
配布された資料に目を通し，授業内容の理解を深めた上で，課題に取り組むこと。

〔成績評価の方法〕
出席状況（20%），授業参加態度（30%），提出物（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要－「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（１）―文体や言葉を選択する
第３週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（２）―曖昧な表現を正す
第４週　不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴を把握する
第５週　学術論文の文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，要点をとらえる
第７週　論証文を書く（１）―　データを提示して重要部分を言語化して説明する
第８週　論証文を書く（２）―　データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く（３）―　一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く（４）―　文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く（５）―　段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く（６）―　学術論文に必要な技術（全体の構成，先行研究への言及，引用，テクニカルタームなど）を習得する
第13週　これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　「書きことば」で話す－口頭発表の技術
第15週　まとめ
上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法IC

3734000100300

副　題	「書きことば」による文章表現	担　当　者	奥泉　香　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-103-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているため，話し手は聞き手の既有知識を把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた部分で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は,大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指す場合が多い。「日本語表現法ＩＤ」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

自作の教材を適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の事前課題や授業時に書いた文章の修正，補完が必要である。

〔成績評価の方法〕

各回の提出物と課題毎の提出物で，総合的に判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　聴覚情報を整理して書く
第２週　機器の取り扱い方を，コミュニケーション状況に応じて，相手にわかりやすく文章化する
第３週　視覚的テクストから得た情報を，コミュニケーション状況に応じて，相手にわかりやすく文章化する－１－
第４週　視覚的テクストから得た情報を，コミュニケーション状況に応じて，相手にわかりやすく文章化する－２－
第５週　不特定多数の読み手を想定して書かれた報告文を読み，その文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，その文体的特徴や文献等の記述方法を把握する
第７週　論証文を書く－１－資料から必要な部分を引用し，問いを生成する
第８週　論証文を書く－２－データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く－３－一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く－４－－文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く－５－－段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く－６－全体構造を検討して書き直す
第13週　論証文を書く－７－；１～６までの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　論証文を書く－８－；１～６までの学習内容をふまえて論証文を書く
第15週　ピアワークによる批評と修正
書く・修正する過程で各人が気づきを得る授業デザインを目指す。

日本語表現法ID

3734000100400

副　題	「書き言葉による文章表現」							担　当　者	村上　佳恵　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-104-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているし，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。「日本語表現法１Ｄ」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回，復習に１時間，レポート作成の準備に３時間の学習が必要。

〔成績評価の方法〕
開講時数の2/3以上の出席が必須。授業参加度（20%），各回の提出物（30%），レポート(50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は，授業後に受け付ける。それ以外の時間は，サポートセンターを通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要　「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　パラグラフ・ライティング
第３週　説明文を書く
第４週　レポートの基本的な構成
第５週　論文の分析
第６週　論証するとはどういうことか
第７週　情報の集め方／テーマを探す
第８週　論証文を書く（１）アウトラインの作成
第９週　論証文を書く（２）引用と要約
第10週　論証文を書く（３）主張と根拠
第11週　論証文を書く（４）予想される反論と反駁
第12週　論証文を書く（６）序論とむすび／行動提示の文
第13週　論証文を書く（７）図表の説明
第14週　ピアワークによる批判と修正
第15週　まとめ
なお，この授業では，毎回，グループでの話し合いの時間を設ける。

日本語表現法IE

3734000100500

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	篠﨑　佳子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	JPL-105-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので，話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法Ｉ」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，事前課題に取組み，情報収集を十分に行った上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

授業参加態度（50%），提出物（50%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問や相談等は，メールでも受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要，「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　様々なコミュニケーションの状況に応じた文章化
第３週　問題のある文章・優れた文章の分析
第４週　学術論文・レポートの作成手順
第５週　学術論文の文体的特徴（構成・展開・論拠・引用・資料説明，書式など）
第６週　論証文の構成，論証文の表現
第７週　論証文を書く（１）アウトラインの作成
第８週　論証文を書く（２）序論：背景説明と問題提起
第９週　論証文を書く（３）本論：主張と根拠
第10週　論証文を書く（４）本論：データの提示と解釈
第11週　論証文を書く（５）本論：反論と反駁
第12週　論証文を書く（６）結論：まとめと今後の課題
第13週　論証文を書く（７）その他：引用文献，参考文献，注
第14週　ピアワークによる評価と修正
第15週　まとめ

上記の計画は，履修者の状況や授業の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法ＩＦ

3734000100600

副　題								担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-106-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。正確な文章表現の特徴について理解し，実践することができる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているし，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。「日本語表現法」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
参考書：名古屋大学教育学部付属中学校・高等学校国語科『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房，2014年
橋本修ほか『大学生のための日本語表現トレーニング』三省堂，2008年
特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回授業の復習を行い授業内容をきちんと身につけるとともに，宿題として課された課題を仕上げること。

〔成績評価の方法〕
開講時数の2/3以上の出席が必須。出席（20%），各回の提出物（80%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要　「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（１）―文体や言葉を選択する
第３週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（２）―曖昧な表現を正す
第４週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（３）―不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴
第５週　学術論文の文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，要点をとらえる
第７週　論証文を書く（１）―　データを提示して重要部分を言語化して説明する
第８週　論証文を書く（２）―　データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く（３）―　一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く（４）―　文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く（５）―　段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く（６）―　学術論文に必要な技術（全体の構成，先行研究への言及，引用，テクニカルタームなど）を習得する
第13週　これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　「書きことば」で話す－口頭発表の技術
第15週　まとめ
上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法IG

3734000100700

副　題	アカデミックライティング							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-107-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる

〔授業の内容〕

現代社会では，同じく口頭表現とは言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数に対する,特に書くことによって表現する言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に論理的，説明的な言語使用は技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法Ｉ」では，特にレポートや論文を執筆するということを念頭に置いて，的確でわかりやすく論理的な表現力の習得を目標として授業を展開していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内では課題作文が書ききれないので，授業後の学習が必要

〔成績評価の方法〕

開講時数の２／３以上の出席が必須。さらに毎回のレポート提出（80%），および議論への参加の積極性（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　言語および言語使用に関する基礎的説明
第２週　口頭言語と書記言語に関する基礎的説明
第３週　書記言語の性格，特徴
第４週　説明的に文章を書く①
第５週　説明的に文章を書く②
第６週　学術論文を読む①
第７週　学術論文を読む②
第８週　レポートを書く技術①
第９週　レポートを書く技術②
第10週　レポートを書く技術③
第11週　データの取り扱い①
第12週　データの取り扱い②
第13週　先行研究の取り扱い
第14週　「わかりやすさ」とはどういうことか
第15週　まとめ

日本語表現法IH

3734000100800

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	阿部　美菜子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	JPL-108-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので，話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法I」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
配布された資料に目を通し，授業内容の理解を深めた上で，課題に取り組むこと。

〔成績評価の方法〕
出席状況（20%），授業参加度（30%），提出物（50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要－「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（１）―文体や言葉を選択する
第３週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（２）―曖昧な表現を正す
第４週　不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴を把握する
第５週　学術論文の文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，要点をとらえる
第７週　論証文を書く（１）―　データを提示して重要部分を言語化して説明する
第８週　論証文を書く（２）―　データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く（３）―　一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く（４）―　文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く（５）―　段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く（６）―　学術論文に必要な技術（全体の構成，先行研究への言及，引用，テクニカルタームなど）を習得する
第13週　これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　「書きことば」で話す－口頭発表の技術
第15週　まとめ
上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法II

3734000100900

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	篠﨑　佳子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	JPL-109-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面や状況を共有しているので，話し手は聞き手の既有知識をよく把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということが言える。「日本語表現法Ⅰ」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，事前課題に取組み，情報収集を十分に行った上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

授業参加態度（50%），提出物（50%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問や相談等は，メールでも受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要，「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　様々なコミュニケーションの状況に応じた文章化
第３週　問題のある文章・優れた文章の分析
第４週　学術論文・レポートの作成手順
第５週　学術論文の文体的特徴（構成・展開・論拠・引用・資料説明，書式など）
第６週　論証文の構成，論証文の表現
第７週　論証文を書く（１）アウトラインの作成
第８週　論証文を書く（２）序論：背景説明と問題提起
第９週　論証文を書く（３）本論：主張と根拠
第10週　論証文を書く（４）本論：データの提示と解釈
第11週　論証文を書く（５）本論：反論と反駁
第12週　論証文を書く（６）結論：まとめと今後の課題
第13週　論証文を書く（７）その他：引用文献，参考文献，注
第14週　ピアワークによる評価と修正
第15週　まとめ

上記の計画は，履修者の状況や授業の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法I J

3734000101000

副　題	「書き言葉による文章表現」							担　当　者	村上　佳恵　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-110-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているし，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。「日本語表現法１J」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回，復習に１時間，レポート作成の準備に３時間の学習が必要。

〔成績評価の方法〕
開講時数の2/3以上の出席が必須。授業参加度（20%），各回の提出物（30%），レポート(50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は，授業後に受け付ける。それ以外の時間は，サポートセンターを通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要　「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　パラグラフ・ライティング
第３週　説明文を書く
第４週　レポートの基本的な構成
第５週　論文の分析
第６週　論証するとはどういうことか
第７週　情報の集め方／テーマを探す
第８週　論証文を書く（１）アウトラインの作成
第９週　論証文を書く（２）引用と要約
第10週　論証文を書く（３）主張と根拠
第11週　論証文を書く（４）予想される反論と反駁
第12週　論証文を書く（６）序論とむすび／行動提示の文
第13週　論証文を書く（７）図表の説明
第14週　ピアワークによる批判と修正
第15週　まとめ
なお，この授業では，毎回，グループでの話し合いの時間を設ける。

日本語表現法IK

3734000101100

副　題	「書き言葉による文章表現」							担　当　者	村上　佳恵　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-111-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているし，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。「日本語表現法１K」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕
特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回，復習に１時間，レポート作成の準備に３時間の学習が必要。

〔成績評価の方法〕
開講時数の2/3以上の出席が必須。授業参加度（20%），各回の提出物（30%），レポート(50%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は，授業後に受け付ける。それ以外の時間は，サポートセンターを通して連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要　「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　パラグラフ・ライティング
第３週　説明文を書く
第４週　レポートの基本的な構成
第５週　論文の分析
第６週　論証するとはどういうことか
第７週　情報の集め方／テーマを探す
第８週　論証文を書く（１）アウトラインの作成
第９週　論証文を書く（２）引用と要約
第10週　論証文を書く（３）主張と根拠
第11週　論証文を書く（４）予想される反論と反駁
第12週　論証文を書く（６）序論とむすび／行動提示の文
第13週　論証文を書く（７）図表の説明
第14週　ピアワークによる批判と修正
第15週　まとめ
なお，この授業では，毎回，グループでの話し合いの時間を設ける。

日本語表現法IL

3734000101200

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	加藤　陽子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	JPL-112-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文が書けるようになる

〔授業の内容〕
言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しており，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているため，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。本授業では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指した活動をおこなう。

〔教材〕
特に定めず，授業の中で適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回の授業後に，主に復習を目的とした課題を課す。それをこなしたうえで次の授業に臨むこと。また，課題についてクラス内でおこなうフィードバックも，復習として有効に活用すること。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度（30%），課題（70%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　シラバスの説明，ニーズ調査，「話しことば」と「書きことば」の違いとそれぞれのバラエティを知る
第２週　コミュニケーションの状況に応じて，様々な情報を相手にわかりやすく文章化する
第３週　問題のある文章・優れた文章を分析する，課題のフィードバック
第４週　学術論文・レポートの作成手順を理解する，課題のフィードバック
第５週　学術論文を読み，その具体的特徴を把握する（構成・展開・論拠・引用・資料説明，書式など）
第６週　論証文の構成を知る，課題のフィードバック
第７週　論証文の表現を知る，課題のフィードバック
第８週　論証文を書く１―序論を書く（１）背景説明，課題のフィードバック
第９週　論証文を書く２－序論を書く（２）問題提起と観点提示，課題のフィードバック
第10週　論証文を書く３－本論を書く（１）データの提示と重要部分の言語化，課題のフィードバック
第11週　論証文を書く４－本論を書く（２）データの説明と解釈の書き分け，課題のフィードバック
第12週　論証文を書く５－本論を書く（３）結論の書き方，課題のフィードバック
第13週　論証文を書く６－結びを書く（本論の要約，評価，課題と展望），課題のフィードバック
第14週　論証文を書く７－引用文献，注，課題のフィードバック
第15週　まとめ
履修学生の状況により，授業計画を変更することがある

日本語表現法IM

3734000101300

副　題								担　当　者	木村　直恵　准教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-113-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。正確な文章表現の特徴について理解し，実践することができる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手とか不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているし，話し手は聞き手の既有知識をよく把握しているので，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた量で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術であり，一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指すということができる。「日本語表現法」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

参考書：名古屋大学教育学部付属中学校・高等学校国語科『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房，2014年
橋本修ほか『大学生のための日本語表現トレーニング』三省堂，2008年

特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回授業の復習を行い授業内容をきちんと身につけるとともに，宿題として課された課題を仕上げること。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。出席（20%），各回の提出物（80%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業中に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業の概要　「話しことば」と「書きことば」の違い
第２週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（１）―文体や言葉を選択する
第３週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（２）―曖昧な表現を正す
第４週　コミュニケーションの状況に応じた文章化（３）―不特定多数の読み手に向けた報告文の文体的特徴
第５週　学術論文の文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，要点をとらえる
第７週　論証文を書く（１）―　データを提示して重要部分を言語化して説明する
第８週　論証文を書く（２）―　データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く（３）―　一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く（４）―　文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く（５）―　段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く（６）―　学術論文に必要な技術（全体の構成，先行研究への言及，引用，テクニカルタームなど）を習得する
第13週　これまでの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　「書きことば」で話す－口頭発表の技術
第15週　まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法IN

3734000101400

副　題	アカデミックライティング							担　当　者	福島　直恭　教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-114-GF

〔授業の到達目標〕
論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる

〔授業の内容〕
現代社会では，同じく口頭表現とは言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数に対する,特に書くことによって表現する言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に論理的，説明的な言語使用は技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法Ｉ」では，特にレポートや論文を執筆するということを念頭に置いて，的確でわかりやすく論理的な表現力の習得を目標として授業を展開していく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業内では課題作文が書ききれないので，授業後の学習が必要

〔成績評価の方法〕
開講時数の２／３以上の出席が必須。さらに毎回のレポート提出（80%），および議論への参加の積極性（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
木曜２限
メール（アドレスは日本文化学科事務室に行って問い合わせること）

〔授　業　計　画〕

第１週　言語および言語使用に関する基礎的説明
第２週　口頭言語と書記言語に関する基礎的説明
第３週　書記言語の性格，特徴
第４週　説明的に文章を書く①
第５週　説明的に文章を書く②
第６週　学術論文を読む①
第７週　学術論文を読む②
第８週　レポートを書く技術①
第９週　レポートを書く技術②
第10週　レポートを書く技術③
第11週　データの取り扱い①
第12週　データの取り扱い②
第13週　先行研究の取り扱い
第14週　「わかりやすさ」とはどういうことか
第15週　まとめ

日本語表現法II A

3734000200100

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	阿部　美菜子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	JPL-115-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では，同じ口頭表現と言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類の異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目は，よく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は,これからの社会生活において重要であるにもかかわらず,多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。そこで,「日本語表現法II」では，コミュニケーション状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に，研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や，議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し，授業内容の理解を深めた上で，準備（プレゼンテーション･ディベート）を行うこと。

〔成績評価の方法〕

出席（20%），プレゼンテーションと授業参加度（60%），提出物（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　コミュニケーション状況の違いについて
第２週　プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（１）
第３週　プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（２）
第４週　コミュニケーション状況における説明（１）―　ひとりの相手に対する説明
第５週　コミュニケーション状況における説明（２）―　少数の相手に対する説明
第６週　コミュニケーション状況における説明（３）―　多数の相手に対する説明
第７週　コミュニケーション状況における説明（４）―　学術的な発表（１回目）
第８週　コミュニケーション状況における説明（５）―　学術的な発表（２回目）
第９週　第４週から第８週までの比較検討とまとめ
第10週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（１）―　論の立て方
第11週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（２）―　メモをとりながらの展開
第12週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（３）―　メモを活かした反駁
第13週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（４）―　ディベートの体験１
第14週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（５）―　ディベートの体験２
第15週　まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法IIB

3734000200200

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	村上　佳恵　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-116-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では，同じく口頭表現とは言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目はよく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法2B」では，コミュニケーションの状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に，研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や，議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表とディベートの準備に４時間程度の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。議論への参加度（20%），発表（50%），課題等提出物（30%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，授業後に受け付ける。それ以外は，サポートセンターを通して連絡を連絡をとること。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　言語および言語使用に関する基礎的説明
第２週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（１）
第３週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（２）
第４週　プレゼンテーション実習と討論（１）
第５週　プレゼンテーション実習と討論（２）
第６週　プレゼンテーション実習と討論（３）
第７週　プレゼンテーション実習と討論（４）
第８週　プレゼンテーション実習と討論（５）
第９週　プレゼンテーション実習と討論（６）
第10週　ディベートの実習（１）
第11週　ディベートの実習（２）
第12週　ディベートの実習（３）
第13週　ディベートの実習（４）
第14週　ディベートの実習（５）
第15週　まとめ

上記の予定は，履修生の人数と進捗状況により一部変更する可能性がある。

日本語表現法IIC

3734000200300

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	村上　佳恵　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	JPL-117-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では，同じく口頭表現とは言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目はよく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法2C」では，コミュニケーションの状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に，研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や，議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表とディベートの準備に４時間程度の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。議論への参加度（20%），発表（50%），課題等提出物（30%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，授業後に受け付ける。それ以外は，サポートセンターを通して連絡を連絡をとること。

〔授　業　計　画〕

第１週　言語および言語使用に関する基礎的説明
第２週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（１）
第３週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（２）
第４週　プレゼンテーション実習と討論（１）
第５週　プレゼンテーション実習と討論（２）
第６週　プレゼンテーション実習と討論（３）
第７週　プレゼンテーション実習と討論（４）
第８週　プレゼンテーション実習と討論（５）
第９週　プレゼンテーション実習と討論（６）
第10週　ディベートの実習（１）
第11週　ディベートの実習（２）
第12週　ディベートの実習（３）
第13週　ディベートの実習（４）
第14週　ディベートの実習（５）
第15週　まとめ

上記の予定は，履修生の人数と進捗状況により一部変更する可能性がある。

日本語表現法IID

3734000200400

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	阿部　美菜子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	JPL-118-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では，同じ口頭表現と言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類の異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目は，よく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は,これからの社会生活において重要であるにもかかわらず,多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。そこで,「日本語表現法II」では，コミュニケーション状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に，研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や，議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

適宜，資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布された資料に目を通し，授業内容の理解を深めた上で，準備（プレゼンテーション･ディベート）を行うこと。

〔成績評価の方法〕

出席（20%），プレゼンテーションと授業参加度（60%），提出物（20%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　コミュニケーション状況の違いについて
第２週　プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（１）
第３週　プレゼンテーション原稿および資料の構成と書き方（２）
第４週　コミュニケーション状況における説明（１）―　ひとりの相手に対する説明
第５週　コミュニケーション状況における説明（２）―　少数の相手に対する説明
第６週　コミュニケーション状況における説明（３）―　多数の相手に対する説明
第７週　コミュニケーション状況における説明（４）―　学術的な発表（１回目）
第８週　コミュニケーション状況における説明（５）―　学術的な発表（２回目）
第９週　第４週から第８週までの比較検討とまとめ
第10週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（１）―　論の立て方
第11週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（２）―　メモをとりながらの展開
第12週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（３）―　メモを活かした反駁
第13週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（４）―　ディベートの体験１
第14週　ディベート的手法を取り入れた口頭表現（５）―　ディベートの体験２
第15週　まとめ

上記の計画は履修者の状況や講義の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語表現法ⅡＥ

3734000200500

副　題	「書きことば」による文章表現							担　当　者	奥泉　香　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-119-GF

〔授業の到達目標〕

論理的でわかりやすいレポートや論文を書けるようになる。

〔授業の内容〕

言語を中心としたコミュニケーションの場は，大別して２種類の状況に分類することができる。１つ目は，よく知っている相手との対面的なコミュニケーションの場で，２つ目はよく知らない相手や不特定多数を相手とした，文字媒体による非対面的なコミュニケーションの場である。前者のような状況では，話し手と聞き手が場面，状況を共有しているため，話し手は聞き手の既有知識を把握している。したがって，伝えたい情報のうち言語化されるのは限られた部分で済むことになる。このような状況依存的なコミュニケーションの場における適切な母語の運用は，大学生の段階ではすでに十分習得済みであるといえる。これに対して後者のような，状況への依存度の低い－逆に言えば言語表現への依存度の高い－言語使用は，母語の獲得過程より後に，それとは別に訓練によって習得しなければならない技術である。一般に「書きことば」と呼ばれる言語使用はこのようなものを指す場合が多い。「日本語表現法ＩＤ」では，このような意味での「書きことば」の習得を第一の目標として，特にレポートや卒業論文などの論理的な文章をわかりやすく書くことを目指す。

〔教材〕

自作の教材を適宜配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業の事前課題や授業時に書いた文章の修正，補完が必要である。

〔成績評価の方法〕

各回の提出物と課題毎の提出物で，総合的に判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　聴覚情報を整理して書く
第２週　機器の取り扱い方を，コミュニケーション状況に応じて，相手にわかりやすく文章化する
第３週　視覚的テクストから得た情報を，コミュニケーション状況に応じて，相手にわかりやすく文章化する－１－
第４週　視覚的テクストから得た情報を，コミュニケーション状況に応じて，相手にわかりやすく文章化する－２－
第５週　不特定多数の読み手を想定して書かれた報告文を読み，その文体的特徴を把握する
第６週　学術論文を読み，その文体的特徴や文献等の記述方法を把握する
第７週　論証文を書く－１－資料から必要な部分を引用し，問いを生成する
第８週　論証文を書く－２－データの説明と解釈を書き分ける
第９週　論証文を書く－３－一文の構造を意識して書き直す
第10週　論証文を書く－４－－文相互の関係を検討して書き直す
第11週　論証文を書く－５－－段落相互の関係を検討して書き直す
第12週　論証文を書く－６－全体構造を検討して書き直す
第13週　論証文を書く－７－；１～６までの学習内容をふまえて論証文を書く
第14週　論証文を書く－８－；１～６までの学習内容をふまえて論証文を書く
第15週　ピアワークによる批評と修正
書く・修正する過程で各人が気づきを得る授業デザインを目指す。

日本語表現法IIF

3734000200600

副　題	コミュニケーション状況に応じた口頭表現	担　当　者	村上　佳恵　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3	コース・ナンバー	JPL-120-GF

〔授業の到達目標〕

研究発表等において，わかりやすく論理的な説明ができるようになる。
議論の場において，論理的で説得力のある話し方ができるようになる。

〔授業の内容〕

現代社会では，同じく口頭表現とは言っても，コミュニケーションの状況に応じて，大別すると２種類のかなり異なった言語使用が必要とされる。１つ目は，１人ないしは少人数のよく知っている相手とのコミュニケーションの場面における言語使用で，２つ目はよく知らない相手に対する比較的フォーマルな発話場面における言語使用である。前者のようなコミュニケーションの場は，人間が言語を獲得した時期から現在まですべての言語社会に普遍的に存在するものであり，そのような親しい相手との日常会話的な言語使用は，大学生の段階では既に十分経験済みである。これに対して後者のような状況での，特に説明的あるいは討論的な発話における的確な言語使用技術は，これからの社会生活において重要であるにもかかわらず，多くの学生にとって経験も少なく，訓練も不十分であると思われる。「日本語表現法2F」では，コミュニケーションの状況に応じた，的確でわかりやすく論理的な口頭表現力の習得を目標として授業を展開していく。特に，研究発表などの場におけるよりわかりやすい説明技術や，議論の場における論理的で説得力のある言語使用の訓練が中心となる。

〔教材〕

特定の教科書は用いず，適宜資料を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表とディベートの準備に４時間程度の準備学習が必要。

〔成績評価の方法〕

開講時数の2/3以上の出席が必須。議論への参加度（20%），発表（50%），課題等提出物（30%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は，授業後に受け付ける。それ以外は，サポートセンターを通して連絡を連絡をとること。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　言語および言語使用に関する基礎的説明
第２週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（１）
第３週　プレゼンテーションの方法と原稿作りの基本（２）
第４週　プレゼンテーション実習と討論（１）
第５週　プレゼンテーション実習と討論（２）
第６週　プレゼンテーション実習と討論（３）
第７週　プレゼンテーション実習と討論（４）
第８週　プレゼンテーション実習と討論（５）
第９週　プレゼンテーション実習と討論（６）
第10週　ディベートの実習（１）
第11週　ディベートの実習（２）
第12週　ディベートの実習（３）
第13週　ディベートの実習（４）
第14週　ディベートの実習（５）
第15週　まとめ

上記の予定は，履修生の人数と進捗状況により一部変更する可能性がある。

スポーツ・健康科学演習IA

3737100100100

副　題	ダンスと文化(日本の踊りと世界のダンス)	担　当　者	荒井　啓子　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	SPO-001-GG

〔授業の到達目標〕

様々な地域の様々な時代の様々なダンスの体験を通して，多様な身体の使い方や踊り方を習得しその背景にある多様な文化を学ぶ。同時に姿勢を整え，軽やかな動きを身につける。

〔授業の内容〕

Danceという言葉は，desire of lifeという意味をもっている。それは，私たちが生きていることとダンスが，深く関わっていることを示唆している。この時間では，様々な国の，様々な形態の，様々な歴史をもつダンスの体験を通して，「ダンスとはどのような文化なのか」あるいは「他の文化とどのような関係があるのだろうか」という問題を考えてほしい。パーティダンスやボールルームダンス（ソーシャルダンス）は「国際共通語」でもあり，海外における人々とのコミュニケーションの役割を果たすことができる。また，バロックダンスや諸外国及び日本の舞踊を体験することによって，各地に受け継がれてきた伝統的な生活文化や社会的背景を知ることができる。音楽に合わせて身体を動かす楽しさを体験しながら，各自が「ダンスによる比較文化論」を展開してほしい。

〔教材〕

テーマに応じて授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回習得した身体技法を理論とともに復習した上で，毎回の授業に出席する。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%），動きの発表と理解度の確認（30%），レポート（20%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目，火曜日４時間目

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けるが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進める。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的とすすめ方
第２週　ダンスとコミュニケーション（現代のパーティダンス）
第３週　ダンスとコミュニケーション（アメリカン・カントリーダンス）
第４週　ボールルームダンスの系譜と技法（ラテン）
第５週　〃
第６週　〃
第７週　動きの発表と理解度の確認
第８週　ボールルームダンスの系譜と技法（モダン）
第９週　〃
第10週　ダンスの歴史を辿る（フランス宮廷舞踊を体験する）
第11週　世界の民族舞踊
第12週　日本の民踊（各地の文化と踊り）
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ＋動きの発表と理解度の確認

スポーツ・健康科学演習IB

3737100100200

副　題	和の身体技法							担　当　者	森田　ゆい　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	4	コース・ナンバー	SPO-002-GG

〔授業の到達目標〕
日本の踊りをはじめとする「和の身体技法」を体験することによって，日本に特有な身体文化や身体運動文化を理解し，和服を着た場合の所作や立居振る舞いとともにその文化的背景を学びます。その過程の中で，和服（浴衣）を自分で着る技能を習得し，国際交流の場において日本舞踊を披露できる能力を培うことを目指します。

〔授業の内容〕
本授業では，主に日本舞踊と地歌舞を題材として「和の身体技法」を学びます。また日本舞踊の「踊り」と地歌舞の「舞」の違いについて理解を深めるための講義を行い，その上で，体験を通してそれぞれの「身体づかい」の違いを習得していきます。
踊る曲目は日本舞踊の「菊づくし」と地歌舞の「高砂」です。「菊づくし」のまとめでは，数人ずつがステージに上がり踊りを披露します。
本授業を通して，各自が和服を着こなし，踊ることとともに和の身のこなしを身に着けることを期待します。

〔教材〕
授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
自宅で練習できるように音楽をCDでお渡しできます。

〔成績評価の方法〕
出席状況（50点），平常点（５点），踊りの実技と着付けのテスト（20点），レポート（25点）によって総合的に評価します。
（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メール可能　morita●musubinokai.org（change ● to @）

〔備考〕
各自で浴衣，帯，足袋を用意してください。
スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス・授業の目的と進め方
第２週　浴衣の着方，基本的な立居振舞を通した日本の身体文化や身体運動文化の基礎的理解
第３週　日本舞踊「菊づくし」
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　「菊づくし」まとめ・理解度の確認
第８週　「日本舞踊」と「地歌舞」概論
第９週　地歌舞「高砂」
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　「高砂」まとめ
第15週　総括

スポーツ・健康科学演習IC

3737100100300

副　題	レクリエーションとニュースポーツ							担　当　者	針ヶ谷　雅子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	SPO-003-GG

〔授業の到達目標〕

授業で体験した活動の中から，自分の好みやライフスタイルに合ったものを見つけ，楽しさや充実感とともに運動不足を解消し，こころとからだを健康にするすぐれた余暇活動を生涯続けられるきっかけにしたいと思います。

〔授業の内容〕

現代社会においては，余暇（レジャー）をいかに充実させるかが，生活を豊かにするための重要なポイントとなります。「レクリエーション」とは，余暇を利用して楽しみや気晴らしを目的に自発的に行われる活動のことです。この授業では，様々なレクリエーションを体験します。グループで協力しながら課題を解決するようなゲーム，伝承遊びや世界の遊び，年齢・技能・体力を問わず気軽に参加できるように開発された「ニュースポーツ」を取り入れ，屋外での活動も，季節に応じて実施します。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介します。（プリント配布，ビデオによる映像教材等）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内での運動がしっかりできるよう，睡眠・食事などに気を配り，万全の体調でのぞめるよう整えること。また，授業で取り上げた種目について，インターネットやテキストなどを利用し，知識を補うこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%），平常点（30%），レポート（20%）によって総合的に評価します。
（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

e-mail

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス「レジャー・レクリエーションとは」「ニュースポーツとは」，授業の目的と進め方
第２週　体力診断テスト・アイスブレーキング
第３週　長縄跳び（１）いろいろなバリエーションを楽しむ・仲間と一緒に跳ぶ
第４週　長縄跳び（２）ダブルダッチに挑戦する
第５週　ユニバーサル・ホッケー
第６週　ネイチャーゲーム・フィールドゲーム（屋外）
第７週　ダンスを楽しむ（１）フラダンス
第８週　ダンスを楽しむ（２）パーティーダンス・フォークダンス
第９週　KUBB（スウェーデン発祥のゲーム）
第10週　伝承遊び（ゴム段跳びなど）
第11週　ウォークラリー
第12週　ボールジャグリング（１）
第13週　ボールジャグリング（２）
第14週　その他のニュースポーツ（インディアカなど）
第15週　まとめ「現代社会とレジャー・レクリエーション」
受講者数により実習種目に変更があります。
天候などにより，スケジュールが変更になることがあります。

スポーツ・健康科学演習ID

3737100100400

副　題	世界の身体技法							担　当　者	瀬戸　邦弘　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	SPO-004-GG

〔授業の到達目標〕

さまざまな地域のさまざまな身体技法を体験することによって，世界中に存在する独自のスポーツ・身体文化や遊戯を理解し，同時に固有の文化としての「からだの使い方」を学ぶ。

〔授業の内容〕

世界にはさまざまな「身体技法」がある。「身体技法」とはごく簡単に言えば「それぞれの社会によって異なる伝統的な身体の使い方」と説明することができる。したがって，そのあり方は,それぞれの時代や地域における生活様式や価値観等によって特徴づけられている。「立つ，座る，歩く，走る」などの原初的な生活動作はもとより遊び(ゲーム)を含む広義のスポーツはもっともよく保存された「身体技法」といえるだろう。この時間では世界に拡がるスポーツ・身体文化とそれらを支える身体技法に関しての知見を深めることになる。

〔教材〕

参考書：寒川恒夫他『教養としてのスポーツ人類学』大修館書店，2004年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義で受けた内容，紹介された参考図書・資料をよく読んで復習する事。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%），動きの発表と理解度の確認（30%），レポート（20%）によって総合評価する。

（上記の目安は，速度や課題内容等により多少変更することがある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的と進め方
第２週　日本のスポーツ・身体文化①　伝統的なスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第３週　日本のスポーツ・身体文化②　伝統的なスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第４週　日本のスポーツ・身体文化③　伝統的なスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第５週　アジアのスポーツ・身体文化①　東アジアのスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第６週　アジアのスポーツ・身体文化②　東南アジアのスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第７週　北米のスポーツ・身体文化① WEIOと先住民スポーツ・身体文化と遊戯の世界
第８週　北米のスポーツ・身体文化② WEIOと先住民スポーツ・身体文化と遊戯の世界
第９週　ヨーロッパのスポーツ・身体文化①　イギリス，フランスのスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第10週　ヨーロッパのスポーツ・身体文化②　イギリス，フランスのスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第11週　ヨーロッパのスポーツ・身体文化③　イギリス，フランスのスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第12週　島嶼部のスポーツ・身体文化①　太平洋地域を中心としたスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第13週　島嶼部のスポーツ・身体文化②　太平洋地域を中心としたスポーツ・身体文化と遊戯の世界
第14週　動きの発表と理解度の確認
第15週　まとめ

スポーツ・健康科学演習IE

3737100100500

副　題	スポーツ技術とゲーム（テニス）	担　当　者	吉成　啓子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	SPO-005-GG

〔授業の到達目標〕

テニスの実践を通して，文化としてのスポーツについての理解を深め，同時に，判断力・社会性・協調性などを養い，生涯にわたってスポーツや身体活動を生活の中に取り入れていくことができるようにする。

〔授業の内容〕

どのようなスポーツでもその技術を習得することが，楽しむための第一歩です。そしてその楽しいスポーツ経験が生涯スポーツにつながっていきます。この時間では，テニスの技能をその理論的背景とともに習得します。経験別・レベル別の指導を取り入れるなどして，ひとりひとりのより一層の身体運動能力の改善を目指します。また生涯スポーツの観点から体育･スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。

前半は初心者を対象とした基礎技術を中心に個々のレベルアップをはかり，ミニゲームなどを通してルールやマナーの理解を深めます。後半にかけてゲームに関連する応用技術を習得した上でリーグ戦およびトーナメント戦を行う予定です。

〔教材〕

必要に応じてプリントなどを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日頃から健康管理に気をつけ，授業にはできるだけ体調の良い状態で参加してください。

〔成績評価の方法〕

出席状況(50%)，スキルテスト(15%)，参加意欲･態度(15%)，ペーパテストまたはレポート(20%)など総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は共通科目サポートセンターを通じて連絡を取って下さい。

〔備考〕

天候によりスケジュールが変更になる可能性があります。

雨天でも体育館を使用してショートテニスなどを行いますので，必ず運動できる服装および体育館シューズを持参してください。

※スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的と進め方。グループ編成など。
第２週　体力トレーニング／ラケッティング，グラウンド・ストローク
第３週　体力トレーニング／グラウンド・ストロークの応用（トップスピン・アンダースピン），ボレー
第４週　自己の体力を知る：新体力テストの理解と実践
第５週　体力トレーニング／サービスの基礎（フラットサーブ）＆サービスレシーブ／ミニゲーム
第６週　体力トレーンング／サービスの応用（スライス・スピン）＆サービスレシーブ／シングルスゲームの理解と実践
第７週　体力トレーニング／スマッシュ，ロビングの基礎
第８週　体力トレーニング／実技テスト（基礎技術）／ルールとマナーの理解
第９週　体力トレーニング／ダブルスマッチの基礎戦術（雁行陣でのポジショニング）
第10週　体力トレーニング／ダブルスマッチの基礎戦術（平行陣でのポジショニング）
第11週　体力トレーニング／ダブルスゲームの理解と実践
　　体力テストの結果報告と自己体力評価
第12週　体力トレーニング／タイブレイクシステムの理解と実践
第13週　体力トレーニング／班対抗戦（１）
第14週　体力トレーニング／班対抗戦（２）
第15週　体力トレーニング／班対抗戦（３）

スポーツ・健康科学演習ⅡA

3737100200100

副　題	東洋の養生法（太極拳と呼吸法）	担　当　者	荒井　啓子　教授

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	SPO-006-GG

〔授業の到達目標〕

東洋（東アジア文化圏）の養生思想を学ぶとともに，主に中国の「簡化太極拳」(24式)を体験・習得し，現代社会における自分の健康観や身体観を再検討し，生活文化としてあるいは健康文化としてスポーツを生活の中に組み入れることができる能力を養う。

〔授業の内容〕

エアロビクスのような「数値」で自分の運動強度を推測できる運動は，いわば科学的で近代的な健康法である。これに対して，中国では，人間の身体の部分的な数値を尺度とするのではなく，長い間の「経験」に基づいて，部分と全体，心と体などを総合的に捉えて健康を考えてきた。この考え方は，一見混沌として捉えようがないように見えるが，情報化・人工化された現代社会の中で，人間を総合的かつ全体的にながめながら「自然な身体」を模索する一つの方法とも言える。

この時間では，東洋（東アジア文化圏）の養生思想を学ぶとともに，主に中国の「簡化太極拳」(24式)を体験・習得し，現代社会における自分の健康観や身体観を再検討していく。太極拳はゆっくりとした動きと呼吸法が特徴的であり，しなやかな動きを身に付けることによって平衡感覚や柔軟性を培うことができる。また,呼吸法はリラクゼーションとしても有効である。身体の「自然な」動きとはどのようなものなのかということをを探りながら，緩やかな「からだほぐし」や「からだづくり」を目指す。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介する。プリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前回習得した身体技法を理論とともに復習した上で，毎回の授業に出席すること。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%），動き発表と理解度の確認（30%），レポート（20%）によって総合的に評価する。

（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合がある）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日３時間目，火曜日４時間目

〔備考〕

特別授業を開催する場合がある。

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けるが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進める。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：「東洋の養生思想」，授業の目的とすすめ方
第２週　日常生活のための動きのチェック
第３週　甩手（スワイショウ），呼吸法，練功十八法（１）
第４週　甩手（スワイショウ），呼吸法，練功十八法（２）
第５週　10式太極拳＋呼吸法（１組）
第６週　10式太極拳＋呼吸法（１組～２組）
第７週　10式太極拳＋呼吸法（１組～３組）
第８週　10式太極拳＋呼吸法（１組～４組＋十字手＋収勢）
第９週　10式太極拳＋呼吸法（まとめ）
第10週　動きの発表と理解度の確認
第11週　簡化太極拳二十四式＋呼吸法（１）
第12週　簡化太極拳二十四式＋呼吸法（２）
第13週　グループワーク
第14週　表演会
第15週　まとめ：「健康文化としての東洋の養生論」

スポーツ・健康科学演習ⅡB

3737100200200

副　題	スポーツ技術とゲーム（バドミントン）	担　当　者	吉成　啓子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	SPO-007-GG

〔授業の到達目標〕

バドミントンの実践を通して，文化としてのスポーツを学び，同時に判断力・社会性・協調性などを養い，生涯にわたってスポーツや身体活動を生活の中に取り入れていくことができるようにする。

〔授業の内容〕

どのようなスポーツでもその技術を習得することが，楽しむための第一歩です。そしてその楽しいスポーツ経験が生涯スポーツにつながっていきます。この時間では，バドミントンの技能をその理論的背景とともに習得します。経験別・レベル別の指導を取り入れるなどして，ひとり一人のより一層の身体運動能力の改善を目指します。また,生涯スポーツの観点から体育・スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。

前半は初心者を対象とした基礎技術を中心に個々のレベルアップをはかり，ミニゲームなどを通してルールやマナーの理解を深めます。後半にかけてゲームに関連する応用技術を習得した上でリーグ戦およびトーナメント戦を行う予定です。

〔教材〕

必要に応じてプリントなどを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日頃から健康管理に気をつけ，授業にはできるだけ体調のよい状態で参加してください。

〔成績評価の方法〕

出席状況(50%)，スキルテスト(15%)，参加意欲･態度(15%)，ペーパテストまたはレポート(20%)など総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は共通科目サポートセンターを通じて連絡を取って下さい。

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的と進め方，グループ編成
第２週　自己の体力を知る：新体力テストの理解と実践
第３週　基礎技術の習得（１）:ハイクリアー,ロングハイサービス／ハーフシングルスゲーム（１）
第４週　基礎技術の習得（２）：ドリブンクリアー，ドライブ／ハーフシングルス（２）
第５週　基礎技術の習得（３）：スマッシュ／ルールとマナー／シングルスゲーム（１）
第６週　基礎技術の習得（４）：ドロップ＆カット／シングルスゲーム（２）
第７週　基礎技術の習得（５）：ヘアピン／ショートサービス／ハーフコートダブルス
第８週　スキルテスト（基礎技術）
第９週　応用技術の習得（１）：サイド・バイサイドにおけるコンビネーションプレー／ダブルスゲーム（１）
第10週　応用技術の習得（２）:トップ＆バックにおけるコンビネーションプレー／ダブルスゲーム（２）
　　体力テストの結果報告と自己体力評価
第11週　班対抗戦（１）
第12週　班対抗戦（２）
第13週　班対抗戦（３）
第14週　シングルスゲーム・オールトーナメント戦
第15週　ダブルスゲーム・オールトーナメント戦

スポーツ・健康科学演習IIC

3737100200300

副　題	からだとこころをほぐすワーク							担　当　者	針ヶ谷　雅子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	SPO-008-GG

〔授業の到達目標〕

現代社会では，「運動不足」や「ストレス」は深刻な問題であり，「肥満」や「姿勢の悪さ」は特に女性にとって大きな悩みのひとつになっています。この授業では，こうした問題を少しでも解消するきっかけとなるようなワークを体験し，最終的にはそれぞれのライフスタイルに合うものを生活のなかに取り入れていくことを目指しています。

〔授業の内容〕

「からだ」と「こころ」は深く関係しており,「からだ」がほぐれると「こころ」も軽くなり,「こころ」がはずむと「からだ」ものびのびとします。背中を曲げてうつむいた姿勢では生き生きとした気持ちにはなりません。こうした「こころ」と「からだ」の関係を実感しながら,時には筋肉を動かし心拍数をあげて運動し,また時にはゆったりと自然のリズムに身をゆだね,「からだ」と「こころ」をほぐしていきましょう。

〔教材〕

テーマごとに授業時に紹介します。（プリント配布，ビデオによる映像教材等）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内での運動がしっかりできるよう，睡眠・食事などに気を配り，万全の体調でのぞめるよう整えること。また，授業で取り上げた種目について，インターネットやテキストなどを利用し，知識を補うこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%），平常点（30%），レポート（20%）によって総合的に評価します。
（上記の目安は，進度や課題内容により多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

e-mail

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス・授業の目的と進め方・概論「健康とは」
第２週　＜こころ＞アイスブレーキングゲーム・コミュニケーションゲーム
第３週　＜からだ＞ストレッチと呼吸法
第４週　＜からだ＞有酸素運動「エアロビクスダンス」
第５週　＜こころ＞身近な自然を感じるアクティビティ「ネイチャーゲーム」
第６週　＜からだ＞有酸素運動「ウォーキング」
第７週　＜からだ＞いろいろな縄跳び（１）
第８週　＜からだ＞いろいろな縄跳び（２）
第９週　＜こころ＞ヨガ入門（１）
第10週　＜こころ＞ヨガ入門（２）
第11週　＜からだ＞やさしい筋力トレーニング「チューブ運動」
第12週　＜からだ＞良い姿勢とは「バレエレッスン」
第13週　＜からだ＞良い姿勢とは「社交ダンス入門」
第14週　＜こころ＞マッサージとリラクゼーリョン
第15週　まとめ 「からだとこころを解放する」
天候などにより，アクティビティが変更になることがあります

スポーツ・健康科学演習ⅡD

3737100200400

副　題	フラダンスとハワイの身体文化							担　当　者	針ヶ谷　雅子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	SPO-009-GG

〔授業の到達目標〕

「フラ」は，単なるダンスではなく，文字を持たなかったハワイの人々が，踊りによってコミュニケーションし，歴史を語り継いだ「文化」です。手の細かい動きひとつひとつがすべて意味を持っています。

また，一見優雅に見えるフラですが，全身の筋肉を使って裸足で踊るため，運動量は意外に多く，ダイエットや健康維持のために続ける愛好者も増えています。やさしいハワイの調べに合わせ，ハワイの美しい植物や楽器の柄のスカートを身につけるだけでも，ストレスから解放されるでしょう。

この授業では，ハワイの文化を身体（からだ）で味わい，筋肉を動かし，こころとからだの健康維持につなげていくことを目指しています。

〔授業の内容〕

「愛情」や「自然の美しさ」を歌ったフラの音楽に合わせて踊っていきます。また，資料や画像を見ながらハワイの歴史や文化を学びます。

〔教材〕

必要に応じて，授業時に紹介します。（プリント配布，ビデオによる映像教材等）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業内での運動がしっかりできるよう，睡眠・食事などに気を配り，万全の体調でのぞめるよう整えること。また，授業で取り上げた種目について，インターネットやテキストなどを利用し，知識を補うこと。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%），平常点（30%），レポート（20%）によって総合的に評価します。
（上記の目安は，進度や課題内容により，多少変更する場合があります）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

e-mail

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践の中で解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス（授業の目的と進め方）概論「フラダンスとは」
第２週　アイスブレーキング　からだほぐし
第３週　フラダンス入門　実際にフラダンスを体験してみる（１）
第４週　フラダンス入門　実際にフラダンスを体験してみる（２）
第５週　ハワイの文化（１）「ハワイの歴史」
第６週　フラダンス初級　動きのバリエーションを増やす（１）
第７週　フラダンス初級　動きのバリエーションを増やす（２）
第８週　フラダンス初級　動きのバリエーションを増やす（３）
第９週　ハワイの文化（２）「ハワイの生活とフラ」
第10週　フランダンス中級　ハワイの文化を身体で表現しながら，こころを込めて踊る（１）
第11週　フランダンス中級　ハワイの文化を身体で表現しながら，こころを込めて踊る（２）
第12週　フランダンス中級　ハワイの文化を身体で表現しながら，こころを込めて踊る（３）
第13週　フランダンス中級　ハワイの文化を身体で表現しながら，こころを込めて踊る（４）
第14週　発表会　小グループで作品発表する
第15週　まとめ
上記の計画は，天候や進度に応じて変更する場合があります。

スポーツ・健康科学演習ⅡE

3737100200500

副　題	生涯スポーツとしてのバレーボール	担　当　者	吉成　啓子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	SPO-010-GG

〔授業の到達目標〕

バレーボールの実践を通して，文化としてのスポーツについての理解を深め，同時に，判断力・社会性・協調性などを養い，生涯にわたってスポーツや身体活動を生活の中に取り入れていくことができるようにする。

〔授業の内容〕

どのようなスポーツでも，その技術を修得することが楽しむための第一歩です。そしてその楽しいスポーツ経験が，生涯スポーツにつながっていきます。この時間では，バレーボールの技能をその理論的背景とともに習得します。集団種目の特性である個人が集団に対してどのように働きかけるかを理解し，実践します。また生涯スポーツの観点から体育・スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。

〔教材〕

必要に応じてプリントなどを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

日頃から健康管理に気をつけ，授業にはできるだけ体調のよい状態で参加してください。

〔成績評価の方法〕

出席状況(50%)，スキルテスト(15%)，参加意欲･態度(15%)，ペーパテストまたはレポート(20%)など総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間は共通科目サポートセンターを通じて連絡を取って下さい。

〔備考〕

スポーツ・健康科学演習科目群の授業はすべて「実技・講義一体型授業」であり，必要に応じて講義のみの時間も設けますが，実践のなかで解説を織り込み理論的背景を講じながら授業を進めます。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス：授業の目的と進め方
第２週　自己の体力を知る：新体力テストの理解と実践
第３週　グループ編成（１）
：基礎技術の習得（いろいろなパス練習：対人パス・円陣パスなど）／第１回リーグ戦（１）
第４週　基礎技術の習得（いろいろなパス練習:ランニングパス･３人組トス練習）／第１回リーグ戦（２）
第５週　基礎技術の習得（各種サーブ・アタック練習）／第１回リーグ戦（３）
第６週　基礎技術を使った応用練習（アタックレシーブ練習）／第２回リーグ戦（１）
第７週　基礎技術を使った応用練習（２段トス練習）／第２回リーグ戦（２）
第８週　基礎技術を使った応用練習（サービスレシーブ練習）／第２回リーグ戦（３）
第９週　グループ編成（２）
：コンビネーションプレーの習得（３人レシーブ・サービスレシーブ）／第３回リーグ戦（１）
第10週　コンビネーションプレーの習得（シートレシーブ・コンビサービスレシーブ）／第３回リーグ戦（２）
体力テストの結果報告と自己体力評価
第11週　コンビネーションプレーの習得（４vs４ミニゲーム）／第３回リーグ戦（３）
第12週　チーム別練習（各チームで練習メニュー作成）／第４回リーグ戦（１）
第13週　チーム別練習（各チームで練習メニュー作成）／第４回リーグ戦（２）
第14週　チーム別練習（各チームで練習メニュー作成）／第４回リーグ戦（３）
第15週　ゲームを楽しもう！（誕生日月選手権など）
授業の前半は,バレーボールに必要な体力トレーニングおよび個人･チーム技能練習。後半はゲームを行います。
授業計画は変更する場合があります。

伝統文化演習IA（書道）

3752100100100

副　題								担　当　者	香川　明美　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	TRD-001-GH

〔授業の到達目標〕
古来，文字を持たなかった日本人は，平安時代に独自のかな文字を作り出した。日本人はどの様に文字を変遷させていったのか，その過程を学ぶ。
実習では，仮名を基礎から学び，短歌をちらし書きで書くことを目指す。

〔授業の内容〕
日本の文字の変遷を歴史をたどりながら学ぶ。
仮名の古筆の名品を教科書を使って鑑賞する。
実習では，平仮名，変体仮名の単体，連綿を学び，短歌を書く。

〔教材〕
教科書：大東文化大学書道研究所編『書道テキスト第9巻かな』二玄社
実習には随時プリント手本を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業で扱うテキストの箇所を指示するので，次回までに目を通し，内容を把握しておくこと。
実習の課題を家でも練習し，清書に臨めるように準備すること。

〔成績評価の方法〕
課題の提出作品の評価で60%　講義内容の筆記テストで40%
但し，出席，受講，実習態度を重視。欠席，遅刻の回数によって減点対象とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業前後30分間教室でのみ受け付ける。
それ以外の時間は，サポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕
実習を円滑に行なう為に受講者は30名とする。
実習用具は各自で用意し，第１週より持参すること。
用具は，かな用半紙，小筆，石製の硯，固形の墨（墨汁不可），下敷き，ぶんちん
２回目の受講者は，実習に関しては基礎からさらに進み，色紙，短冊等の作品を作成する。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義；半年間の概要。道具の説明。実習；かなの基礎１
第２週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷１　実習；かなの基礎２
第３週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷２　実習；かなの基礎３
第４週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷３　実習；かなの基礎４
第５週　講義；平安期の書１　実習；変体かなの基礎１
第６週　講義；平安期の書２　実習；変体かなの基礎２
第７週　講義；平安期の書３　実習；変体かなの基礎３
第８週　講義；かな文字の興隆と発達　実習；変体かなの基礎４
第９週　講義；古筆とは　実習；連綿の学習１
第10週　講義；古筆の名品鑑賞１　実習；連綿の学習２
第11週　講義；古筆の名品鑑賞２　実習；短歌を書く１
第12週　講義；古筆の名品鑑賞３　実習；短歌を書く２
第13週　講義；古筆の名品鑑賞４　実習；短歌を書く３
第14週　講義；平安以降の書　実習；短歌を書く４
第15週　講義；理解度の確認　実習；実用書

伝統文化演習IB（書道）

3752100100200

副　題								担　当　者	齊藤　登　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	TRD-002-GH

〔授業の到達目標〕
楷書のもつ構築美を古典を通して理解してもらう。

〔授業の内容〕
大陸（中国）より渡来した文字は永い年月を履み，我大和民族の英知により定着し，音・意共に日本的に生まれ変った。春学期は，我国に影響を与えた中国＝南北朝時代，特に北魏時代の作品により，隋を経て唐代の名品に触れ，如何にして我国に入り日本的書に変貌を遂げたかを実書を通して学んでいく。

〔教材〕
教科書：『全国大学書道学会「書の古典と理論」』
参考書：柳碧蘇『柳碧蘇「書の古典攻略ハンドブック」』可成屋
書の実技故え，必ず用意して下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業開始のチャイム前に入室し，用具をセットして下さい。
要は，実技の為の準備です。

〔成績評価の方法〕
毎回の如き作品を提出して頂きます。それにて評価をつけます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕
実習を円滑に行うため，受講者は50名とする。
実習用具は各自で用意すること。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　半年の授業内容説明，用具用材の解説。
第２週　唐・九成宮醴泉銘を用いて，点・画・線の練習。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第３週　唐･九成宮醴泉銘を用いて，構成，特に横細，縦太の練習。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第４週　唐・孔子廟堂碑－楷書の優雅さを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第５週　唐･孟法師碑－楷書の厳格さと正確さを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第６週　唐・雁塔聖教序－楷書に行書の流れを加味する。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第７週　唐･九成，孔子，孟法，雁塔の中より各自自由選別研究。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第８週　二回連続とする。
第９週　北魏の雄渾な書に接する。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第10週　北魏の代表作の一つ高貞碑を用いて点，画を学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第11週　北魏の代表作の一つ張猛龍碑を用いて，鋭い筆使いを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第12週　北魏の代表作の一つ鄭羲下碑を用いて，豊かさを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第13週　北魏の代表作の一つ龍門各種を用いて，楷書のバリエーションを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第14週　夏期休暇中の半折作品の書き方説明。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第15週　総括。
毎回作品を提出して戴きます。それによって評価をつけます。要はこの授業は試験が無い為です。

伝統文化演習ⅡA（書道）

3752100200100

副　題								担　当　者	香川　明美　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	TRD-003-GH

〔授業の到達目標〕

古来，文字を持たなかった日本人は，平安時代に独自のかな文字を作り出した。日本人はどの様に文字を変遷させていったのか，その過程を学ぶ。

実習では，仮名を基礎から学び，短歌をちらし書きで書くことを目指す。

〔授業の内容〕

日本の文字の変遷を歴史をたどりながら学ぶ。

仮名の古筆の名品を教科書を使って鑑賞する。

実習では，平仮名，変体仮名の単体，連綿を学び，短歌を書く。

〔教材〕

教科書：大東文化大学書道研究所編『書道テキスト第9巻かな』二玄社

実習には随時プリント手本を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で扱うテキストの箇所を指示するので，次回までに目を通し，内容を把握しておくこと。

実習の課題を家でも練習し，清書に臨めるように準備すること。

〔成績評価の方法〕

課題の提出作品の評価で60%　講義内容の筆記テストで40%

但し，出席，受講，実習態度を重視。欠席，遅刻の回数によって減点対象とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業前後30分間教室でのみ受け付ける。

それ以外の時間は，サポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実習を円滑に行なう為に受講者は30名とする。

実習用具は各自で用意し，第１週より持参すること。

用具は，かな用半紙，小筆，石製の硯，固形の墨（墨汁不可），下敷き，ぶんちん

２回目の受講者は，実習に関しては基礎からさらに進み，色紙，短冊等の作品を作成する。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義；半年間の概要。道具の説明。実習；かなの基礎１
第２週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷１　実習；かなの基礎２
第３週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷２　実習；かなの基礎３
第４週　講義；かな文字ができる前の文字の変遷３　実習；かなの基礎４
第５週　講義；平安期の書１　実習；変体かなの基礎１
第６週　講義；平安期の書２　実習；変体かなの基礎２
第７週　講義；平安期の書３　実習；変体かなの基礎３
第８週　講義；かな文字の興隆と発達　実習；変体かなの基礎４
第９週　講義；古筆とは　実習；連綿の学習１
第10週　講義；古筆の名品鑑賞１　実習；連綿の学習２
第11週　講義；古筆の名品鑑賞２　実習；短歌を書く１
第12週　講義；古筆の名品鑑賞３　実習；短歌を書く２
第13週　講義；古筆の名品鑑賞４　実習；短歌を書く３
第14週　講義；平安以降の書　実習；短歌を書く４
第15週　講義；理解度の確認　実習；実用書

伝統文化演習IIB（書道）

3752100200200

副　題								担　当　者	齊藤　登　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	TRD-004-GH

〔授業の到達目標〕
行書の流麗美を理解し，その後和様・仮名美へとの流れを学ぶ

〔授業の内容〕
大和朝廷成立以後より奈良朝を経て，平安初期にかけて多大な影響を与えた東晋・王羲之の書，日本の漢字黄金期の代表的作品を中心に学ぶ。更には平安中期以後の我国独特の文化が熟成され，豪華絢爛たる「仮名美」を生むに至ったこれら文化の歴史を追い乍ら，実書をもって修得していきたい。

〔教材〕
教科書：『全国大学書道学会「書の古典と理論」』
参考書：柳碧蘇『柳碧蘇「書の古典攻略ハンドブック」』可成屋
書の実技故え，必ず用意して下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業開始のチャイム前に入室し，用具をセットして下さい。
要は，実技の為の準備です。

〔成績評価の方法〕
毎回の如き作品を提出して頂きます。それにて評価をつけます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕
実習を円滑に行うため，受講者は50名とする。
実習用具は各自で用意すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　行書の成立，繁栄，名品（和・漢）の説明。
第２週　東晋・王羲之作，蘭亭叙を用いて行書の入門とする。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第３週　東晋･王羲之作，集字聖教序を用いて行書の展開を図る。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第４週　東晋・王羲之作，蘭亭叙，集字聖教序の自由研究。各自選ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第５週　東晋・王羲之作，喪乱帖を用いて，行書より草書にかけての筆使いを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第６週　難度故え２週間同じことを行う。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第７週　平安期･空海書の風信帖を学び乍ら，中国との違いを探る。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第８週　平安期・嵯峨天皇書と伝えられる李嶠詩を用いて鋭い筆使いを学ぶ。（（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第９週　唐太宗，温泉銘を用い大胆な筆使いを学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第10週　同上。
第11週　顔真卿の書風を学ぶ。空海との関連を説明。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第12週　同上。
第13週　平安初期，三筆の違い，共通点を各自学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第14週　伝・藤原行成筆，白楽天詩巻を用い和様体を学ぶ。（授業毎に時代背景，エピソード等を解説）
第15週　総括。
毎回作品を提出して戴きます。それによって評価をつけます。要はこの授業は試験が無い為です。

伝統文化演習III A（華道）

3752100300100

副　題								担　当　者	池坊 専好　客員教授 山本　珠江　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	TRD-005-GH

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし，人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で，個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは，室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく，固い蕾に明日への希望を，朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し，懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技，季の美感，豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

教科書：『図録いけばなの流れ（華道史年表）』
『学校華道』
授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート制作提出

〔成績評価の方法〕

出席及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）70%
期末レポート　20%
理解度の確認（試作）10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は，先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため，受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円　27年度実績）納入のこと。授業時には花鋏を貸与します。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義　伝統文化華道
第２週　実技　いけばなの基本構成＜自由花＞
第３週　講義　華道の根本理念
第４週　講義　贈る花　実技
第５週　講義　間合いの美　いけばなの魅力　実技
第６週　講義　花と色彩　実技＜自由花＞
第７週　講義　花と季　実技＜自由花＞
第８週　講義　華道史　和の美意識
第９週　講義　草木の生成　実技＜生花＞
第10週　講義　草木の出生美　実技＜生花＞
第11週　実技　創作の楽しさ　花・優・遊
第12週　講義　日々花としつらい　実技＜自由花＞
第13週　講義　行事といけばな　七夕　実技＜自由花＞
第14週　実技　試作（春学期の成果をいかした作品制作）
第15週　講義　生活文化と華道

伝統文化演習ⅢＢ（華道）

3752100300200

副　題								担　当　者	池坊 専好　客員教授 山本　珠江　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	TRD-006-GH

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし，人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で，個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは，室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく，固い蕾に明日への希望を，朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し，懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技，季の美感，豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

教科書：『図録いけばなの流れ（華道史年表）』
『学校華道』
授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート制作提出

〔成績評価の方法〕

出席及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）70%
期末レポート　20%
理解度の確認（試作）10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は，先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため，受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円　27年度実績）納入のこと。授業時には花鋏を貸与します。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義　伝統文化華道
第２週　実技　いけばなの基本構成＜自由花＞
第３週　講義　華道の根本理念
第４週　講義　贈る花　実技
第５週　講義　間合いの美　いけばなの魅力　実技
第６週　講義　花と色彩　実技＜自由花＞
第７週　講義　花と季　実技＜自由花＞
第８週　講義　華道史　和の美意識
第９週　講義　草木の生成　実技＜生花＞
第10週　講義　草木の出生美　実技＜生花＞
第11週　実技　創作の楽しさ　花・優・遊
第12週　講義　日々花としつらい　実技＜自由花＞
第13週　講義　行事といけばな　七夕　実技＜自由花＞
第14週　実技　試作（春学期の成果をいかした作品制作）
第15週　講義　生活文化と華道

伝統文化演習ⅣA（華道）

3752100400100

副　題		担　当　者	池坊 専好　客員教授 山本　珠江　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	TRD-007-GH

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし，人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で，個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

授業の内容

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは，室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく，固い蕾に明日への希望を，朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し，懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技，季の美感，豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

教科書：『図録いけばなの流れ（華道史年表）』
『学校華道』

授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート制作提出

〔成績評価の方法〕

出席及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）70%
期末レポート　20%
理解度の確認（試作）10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は，先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため，受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円　27年度実績）納入のこと。授業時には花鋏を貸与します。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義　伝統文化華道
第２週　講義　はじめる前に知っておきたい花の事　実技＜自由花＞
第３週　実技　いけばなの基本構成＜自由花＞
第４週　講義　余白の美　いけばなの魅力　実技＜自由花＞
第５週　講義　花と色彩　実技＜自由花＞
第６週　講義　華道史　和の美意識
第７週　講義　草木の出生美　実技＜生花＞
第８週　講義　技と匠　実技＜生花＞
第９週　講義　四季と花　実技＜自由花＞
第10週　講義　華道の根本理念
第11週　講義　祭事と花　Xmas carol　実技＜自由花＞
第12週　講義　創作の楽しさ　花・優・遊　実技
第13週　講義　行事と花　お正月のしつらい　実技
第14週　実技　試作（秋学期の成果をいかした作品制作）
第15週　花展見学

伝統文化演習ⅣB（華道）

3752100400200

副　題								担　当　者	池坊 専好　客員教授 山本　珠江　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	TRD-008-GH

〔授業の到達目標〕

花をいけることは命を見つめ命を生かし，人を大切に想う気持ちを育みます。草木の営みに触れ和の美意識を学習する中で，個々の思いをかたちに想像力と表現力を高めていきます。

〔授業の内容〕

華道の理念を確立したのは，室町時代後半に活躍した池坊専応でした。専応はただ美しい花だけを鑑賞するのではなく，固い蕾に明日への希望を，朽ちた草花や枯れた枝にはその命の終焉に共感し，懸命に生きる草木に思いを寄せています。こうした先人の心と技，季の美感，豊かなこころの文化「華道」を未来に向けて継承していきます。

〔教材〕

教科書：『図録いけばなの流れ（華道史年表）』
『学校華道』
授業内容に付随する資料の配布

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

自宅で行う実習レポート制作提出

〔成績評価の方法〕

出席及び実技に付随して自宅で行う実習レポートの提出（写真添付）70%
期末レポート　20%
理解度の確認（試作）10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

実技（試作以外）の場合は，先にデモンストレーションをします。実習を円滑に行うため，受講者を30名以下とします。受講者は実習費（花材・剣山代・16,000円　27年度実績）納入のこと。授業時には花鋏を貸与します。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義　伝統文化華道
第２週　講義　はじめる前に知っておきたい花の事　実技＜自由花＞
第３週　実技　いけばなの基本構成＜自由花＞
第４週　講義　余白の美　いけばなの魅力　実技＜自由花＞
第５週　講義　花と色彩　実技＜自由花＞
第６週　講義　華道史　和の美意識
第７週　講義　草木の出生美　実技＜生花＞
第８週　講義　技と匠　実技＜生花＞
第９週　講義　四季と花　実技＜自由花＞
第10週　講義　華道の根本理念
第11週　講義　祭事と花　Xmas carol　実技＜自由花＞
第12週　講義　創作の楽しさ　花・優・遊　実技
第13週　講義　行事と花　お正月のしつらい　実技
第14週　実技　試作（秋学期の成果をいかした作品制作）
第15週　花展見学

伝統文化演習ＶＡ（茶道）

3752100500100

副　題								担　当　者	岩田　明子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	TRD-009-GH

〔授業の到達目標〕
茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して，人とのかかわりの大切さ，自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で，譲り合いや思いやる心，感謝し，仕えあう心を学び，人や自然に対しての感性を磨き，受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を，自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し，自らを振り返り，その心を日常生活の中に生かしていく。そして，伝統文化に対する理解を基盤として，異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕
日本に特有な総合芸術文化の茶道は,四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は，茶道は宗教性，哲学性，道徳性，芸術性，修道性，社交性の要素を内包し，相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では，茶道文化がもつ総合性を「道(心)・学(茶道学)・実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。
実技は，三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また，実技の際には毎回，禅語や花，菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕
参考書：監修：千宗室，千玄室　編集著作者：学校茶道教本編集委員会　『裏千家茶道』第４版，制作発行：今日庵，2011年
毎回，講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
・講義や実技を通じて，おもいやりの心や感謝する心を意識し，普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ,レポートの提出をする。(20時間)
・実技は，基本所作，点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)
・実際に計画を立てて家族や友人に茶をもてなし，準備から片付けまでを体験し，主客の交流を通しておもてなしの心について学ぶ。(10時間)

〔成績評価の方法〕
レポート２回(50点・%)　リアクションペーパー(30点・%)　授業態度・意欲(20点・%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールアドレス：akikoiwa●jcom.zaq.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕
実習を円滑に行うために，受講者を27名以下とします。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筅(4300円　平成27年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，時計やアクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　【講義・実技】茶道概要　茶の湯とは，ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」，道を学ぶ心構え，服装，懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して３グループに分かれグループごとに自己紹介，履物の脱ぎ方・揃え方，坐り方，真行草の挨拶の仕方，歩き方，ふすまの開け方・閉め方
第２週　【実技】割稽古（１）　帛紗のつけ方，捌き方，棗・茶杓の清め方，抹茶の点て方，運びの仕方，菓子・薄茶のいただき方
第３週　【実技】割稽古（２）　茶碗に茶巾・茶筅・茶杓を仕組む，茶巾を畳み，茶碗を清める，茶筅通しの仕方，点前の準備と後片付け
第４週　【講義】茶道の意義　(和敬清寂，利休七則，茶事について）,ビデオ鑑賞「茶の湯　茶事編」
第５週　【実技】盆略点前（１）レポート提出
第６週　【実技】盆略点前（２）
第７週　【講義】茶の湯の歴史　茶の伝来と発展，世界の茶
第８週　【講義】道具，銘，茶花について
第９週　【実技】風炉　薄茶点前割稽古　柄杓の扱い
第10週　【実技】風炉　薄茶点前（１）
第11週　【実技】風炉　薄茶点前（２）
第12週　【講義】点前の意義，茶人の逸話
第13週　【実技】風炉　薄茶点前（３）レポート提出
第14週　【実技】風炉　薄茶点前（４）濃茶のいただき方
第15週　【講義】総まとめ

伝統文化演習VB（茶道）

3752100500200

副　題								担　当　者	岩田　明子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	TRD-010-GH

〔授業の到達目標〕

茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して，人とのかかわりの大切さ，自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で，譲り合いや思いやる心，感謝し，仕えあう心を学び，人や自然に対しての感性を磨き，受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を，自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し，自らを振り返り，その心を日常生活の中に生かしていく。そして，伝統文化に対する理解を基盤として，異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕

日本に特有な総合芸術文化の茶道は,四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は，茶道は宗教性，哲学性，道徳性，芸術性，修道性，社交性の要素を内包し，相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では，茶道文化がもつ総合性を「道(心)・学(茶道学)・実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。

実技は，三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また，実技の際には毎回，禅語や花，菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕

参考書：監修：千宗室，千玄室　編集著作者：学校茶道教本編集委員会　『裏千家茶道』第４版，制作発行：今日庵，2011年

毎回，講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・講義や実技を通じて，おもいやりの心や感謝する心を意識し，普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ,レポートの提出をする。(20時間)

・実技は，基本所作，点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)

・実際に計画を立てて家族や友人に茶をもてなし，準備から片付けまでを体験し，主客の交流を通しておもてなしの心について学ぶ。(10時間)

〔成績評価の方法〕

レポート２回(50点・%)　リアクションペーパー(30点・%)　授業態度・意欲(20点・%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレス：akikoiwa●jcom.zaq.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕

実習を円滑に行うために，受講者を27名以下とします。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筅(4300円　平成27年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，時計やアクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　【講義・実技】茶道概要　茶の湯とは，ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」，道を学ぶ心構え，服装，懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して３グループに分かれグループごとに自己紹介，履物の脱ぎ方・揃え方，坐り方，真行草の挨拶の仕方，歩き方，ふすまの開け方・閉め方

第２週　【実技】割稽古（１）　帛紗のつけ方，捌き方，棗・茶杓の清め方，抹茶の点て方，運びの仕方，菓子・薄茶のいただき方

第３週　【実技】割稽古（２）　茶碗に茶巾・茶筅・茶杓を仕組む，茶巾を畳み，茶碗を清める，茶筅通しの仕方，点前の準備と後片付け

第４週　【講義】茶道の意義　(和敬清寂，利休七則，茶事について）,ビデオ鑑賞「茶の湯　茶事編」

第５週　【実技】盆略点前（１）レポート提出

第６週　【実技】盆略点前（２）

第７週　【講義】茶の湯の歴史　茶の伝来と発展，世界の茶

第８週　【講義】道具，銘，茶花について

第９週　【実技】風炉　薄茶点前割稽古　柄杓の扱い

第10週　【実技】風炉　薄茶点前（１）

第11週　【実技】風炉　薄茶点前（２）

第12週　【講義】点前の意義，茶人の逸話

第13週　【実技】風炉　薄茶点前（３）レポート提出

第14週　【実技】風炉　薄茶点前（４）濃茶のいただき方

第15週　【講義】総まとめ

伝統文化演習VC（茶道）

3752100500300

副　題	国際人としての茶の湯							担　当　者	中澤　宗寿　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	TRD-011-GH

〔授業の到達目標〕
茶の湯の世界に身を置いて，常に自分で考えて判断していくことを体得し，そして常に相手を思いながらこころの受け渡しが自然にこなせるようになることを目指します。それと同時に，国際社会で活躍する日本人とは何か？を意識できることを目標としていきます。

〔授業の内容〕
講義・実習の両面から授業を進めてまいります。日本の美意識，哲学的思考，自然の摂理，歴史観など，茶の湯の本質を見つめていくことで，日本人としてのブレない柱を築いていきます。また，主客の交わりや連客の動きから，常に相手を重んじることを考え，日本人としての柔軟な思考力も身につけていきます。習い事としての茶道ではなく，このスピードが速く多様化していく時代に，国際社会の日本人としての基盤を作っていく茶道になります。尚，これからの社会を見据え，また留学生とのコミュニケーションの土台作りも兼ね，英語で行うことがあります。

〔教材〕
参考書：而妙斎家元『表千家茶の湯入門　上：風炉編』主婦の友社
　　而妙斎家元『表千家茶の湯入門　下：炉編』主婦の友社
点前の自習・復習用としておすすめします。授業では使用しません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
特に予習・復習をする必要はないが，日本人としての，また日本を伝える素養は，日常生活に茶の湯の発想をいかすことからだんだんと身についていくことなので，授業そのものを自身の生活や考えに取り入れるように試みてください。

〔成績評価の方法〕
出席状況（50%），レポート（40%），自主的な試み（10%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
E-mail:tearoom●nakazawasoju.jp（change ● to @）

〔備考〕
実習を円滑に行うために，受講者を25名以下とする。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット(5,500円　平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，アクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義・国際人としての茶の湯
　　実技・薄茶
第２週　講義・茶室という空間
　　実技・床の間拝見
第３週　講義・主客
　　実技・主客の交わり
第４週　講義・主客
　　実技・連客の動き
第５週　講義（実技）・薄茶席（模範点前）で客をする
第６週　講義・茶について
　　実技・茶椀の扱い
第７週　講義・身体の動き
　　実技・動きの意識
第８週　講義・薄茶点前
　　実技・袱紗の扱いの確認
第９週　講義・薄茶点前
　　実技・点前道具の扱いの確認
第10週　講義（実技）・薄茶席（模範点前）で今までの復習
第11週　講義・客人への対応
　　実技・薄茶を中心に
第12週　講義・客をイメージしてのしつらえ
　　実技・水屋仕事
第13週　講義・濃茶
　　実技・濃茶を頂く１
第14週　講義・茶事の流れ
　　実技・濃茶を頂く２
第15週　講義（実技）薄茶席（来賓を招いて）
授業計画は，あくまでも進行計画であり，袱紗の扱い方，道具の清め方など茶の基本となることも触れていきます。また，熱意のある要望には，出来る限りお応え致します。
春学期は，風炉のしつらえで進めてまいります。

伝統文化演習VD（茶道）

3752100500400

副　題	国際人としての茶の湯							担　当　者	中澤　宗寿　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	TRD-012-GH

〔授業の到達目標〕

茶の湯の世界に身を置いて，常に自分で考えて判断していくことを体得し，そして常に相手を思いながらこころの受け渡しが自然にこなせるようになることを目指します。それと同時に，国際社会で活躍する日本人とは何か？を意識できることを目標としていきます。

〔授業の内容〕

講義・実習の両面から授業を進めてまいります。日本の美意識，哲学的思考，自然の摂理，歴史観など，茶の湯の本質を見つめていくことで，日本人としてのブレない柱を築いていきます。また，主客の交わりや連客の動きから，常に相手を重んじることを考え，日本人としての柔軟な思考力も身につけていきます。習い事としての茶道ではなく，このスピードが速く多様化していく時代に，国際社会の日本人としての基盤を作っていく茶道になります。尚，これからの社会を見据え，また留学生とのコミュニケーションの土台作りを兼ね，英語で行うことがあります。

〔教材〕

参考書：而妙斎家元『表千家茶の湯入門　上：風炉編』主婦の友社
　　而妙斎家元『表千家茶の湯入門　下：炉編』主婦の友社
点前の自習・復習用としておすすめします。授業では使用しません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習をする必要はないが，日本人としての，また日本を伝える素養は，日常生活に茶の湯の発想をいかすことからだんだんと身についていくことなので，授業そのものを自身の生活や考えに取り入れるように試みてください。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%），レポート（40%），自主的な試み（10%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-mail:tearoom●nakazawasoju.jp（change ● to @）

〔備考〕

実習を円滑に行うために，受講者を25名以下とする。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット(5,500円　平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，アクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義・国際人としての茶の湯
　　実技・薄茶
第２週　講義・茶室という空間
　　実技・床の間拝見
第３週　講義・主客
　　実技・主客の交わり
第４週　講義・主客
　　実技・連客の動き
第５週　講義（実技）・薄茶席（模範点前）で客をする
第６週　講義・茶について
　　実技・茶椀の扱い
第７週　講義・身体の動き
　　実技・動きの意識
第８週　講義・薄茶点前
　　実技・袱紗の扱いの確認
第９週　講義・薄茶点前
　　実技・点前道具の扱いの確認
第10週　講義（実技）・薄茶席（模範点前）で今までの復習
第11週　講義・客人への対応
　　実技・薄茶を中心に
第12週　講義・客をイメージしてのしつらえ
　　実技・水屋仕事
第13週　講義・濃茶
　　実技・濃茶を頂く１
第14週　講義・茶事の流れ
　　実技・濃茶を頂く２
第15週　講義（実技）薄茶席（来賓を招いて）

授業計画は，あくまでも進行計画であり，袱紗の扱い方，道具の清め方など茶の基本となることも触れていきます。また，熱意のある要望には，出来る限りお応え致します。
春学期は，風炉のしつらえで進めてまいります。

伝統文化演習VIA（茶道）

3752100600100

副　題								担　当　者	岩田　明子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	TRD-013-GH

〔授業の到達目標〕
茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して，人とのかかわりの大切さ，自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で，譲り合いや思いやる心，感謝し，仕えあう心を学び，人や自然に対しての感性を磨き，受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を，自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し，自らを振り返り，その心を日常生活の中に生かしていく。そして，伝統文化に対する理解を基盤として，異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕
日本に特有な総合芸術文化の茶道は,四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は，茶道は宗教性，哲学性，道徳性，芸術性，修道性，社交性の要素を内包し，相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では，茶道文化がもつ総合性を「道(心)･学(茶道学)･実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。
実技は，三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また，実技の際には毎回，禅語や花，菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕
参考書：監修：千宗室，千玄室　編集著作者：学校茶道教本編集委員会　『裏千家茶道』第４版，制作発行：今日庵，2011年
毎回，講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
・講義や実技を通じて，おもいやりの心や感謝する心を意識し，普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ,レポートの提出をする。(20時間)
・実技は，基本所作，点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)
・実際に計画を立てて家族や友人に茶をもてなし，準備から片付けまでを体験し，主客の交流を通しておもてなしの心について学ぶ。(10時間)

〔成績評価の方法〕
レポート２回(50点・%)　リアクションペーパー(30点・%)　授業態度・意欲(20点・%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
メールアドレス：akikoiwa●jcom.zaq.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕
実習を円滑に行うために，受講者を27名以下とします。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筅(4300円　平成27年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，時計やアクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　【講義・実技】茶道概要　茶の湯とは，ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」，道を学ぶ心構え，服装，懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して３グループに分かれグループごとに自己紹介，履物の脱ぎ方・揃え方，坐り方，真行草の挨拶の仕方，歩き方，ふすまの開け方・閉め方
第２週　【実技】割稽古（１）　帛紗のつけ方，捌き方，棗・茶杓の清め方，抹茶の点て方，運びの仕方，菓子・薄茶のいただき方
第３週　【実技】割稽古（２）　茶碗に茶巾・茶筅・茶杓を仕組む，茶巾を畳み，茶碗を清める，茶筅通しの仕方，点前の準備と後片付け
第４週　【講義】茶道の意義　(和敬清寂，利休七則，茶事について）,ビデオ鑑賞
第５週　【実技】盆略点前（１）レポート提出
第６週　【実技】盆略点前（２）
第７週　【講義】茶の湯の歴史
第８週　【講義】茶室，露地について
第９週　【実技】風炉　薄茶点前割稽古　柄杓の扱い
第10週　【実技】風炉　薄茶点前（１）
第11週　【実技】風炉　薄茶点前（２）
第12週　【講義】点前の意義，利休百首
第13週　【実技】風炉　薄茶点前（３）レポート提出
第14週　【実技】風炉　薄茶点前（４）濃茶のいただき方
第15週　【講義】総まとめ

伝統文化演習VIB（茶道）

3752100600200

副　題								担　当　者	岩田　明子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	TRD-014-GH

〔授業の到達目標〕

茶道はおもてなしの心でもある。お茶をいただき合うという主客の交流を通して，人とのかかわりの大切さ，自然や美に対する心をも養う。本授業(実技と講義)を学ぶ中で，譲り合いや思いやる心，感謝し，仕えあう心を学び，人や自然に対しての感性を磨き，受講生ひとりひとりが文化とは何かの本質を，自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。講義や実習を通して思いやりの心や感謝する心を意識し，自らを振り返り，その心を日常生活の中に生かしていく。そして，伝統文化に対する理解を基盤として，異文化を尊重できる態度や資質を育む。

〔授業の内容〕

日本に特有な総合芸術文化の茶道は,四百年以上前に千利休によって大成されたものである。千玄室氏は，茶道は宗教性，哲学性，道徳性，芸術性，修道性，社交性の要素を内包し，相互に関連しつつ総合性を形成していると述べている。本授業では，茶道文化がもつ総合性を「道(心)･学(茶道学)･実(実を通しての働き)」の立場から探究していく。

実技は，三グループに分かれ指導。準備や片付けも含めメンバー間で協力しながら学び支え合う。また，実技の際には毎回，禅語や花，菓子の銘などの説明を行う。

〔教材〕

参考書：監修：千宗室，千玄室　編集著作者：学校茶道教本編集委員会　『裏千家茶道』第４版，制作発行：今日庵，2011年

毎回，講義資料は配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・講義や実技を通じて，おもいやりの心や感謝する心を意識し，普段の日常生活の中にどう結びつけるか考察する。またそこから発展して興味のあることを調べ,レポートの提出をする。(20時間)

・実技は，基本所作，点前の反復練習を行った上で出席すること。(30時間)

・実際に計画を立てて家族や友人に茶をもてなし，準備から片付けまでを体験し，主客の交流を通しておもてなしの心について学ぶ。(10時間)

〔成績評価の方法〕

レポート２回(50点・%)　リアクションペーパー(30点・%)　授業態度・意欲(20点・%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

メールアドレス：akikoiwa●jcom.zaq.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕

実習を円滑に行うために，受講者を27名以下とします。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット・茶筅(4300円　平成27年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，時計やアクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　【講義・実技】茶道概要　茶の湯とは，ビデオ鑑賞「お茶で豊かな心を」，道を学ぶ心構え，服装，懐中物・帛紗の扱いの説明。茶室に移動して３グループに分かれグループごとに自己紹介，履物の脱ぎ方・揃え方，坐り方，真行草の挨拶の仕方，歩き方，ふすまの開け方・閉め方

第２週　【実技】割稽古（１）　帛紗のつけ方，捌き方，棗・茶杓の清め方，抹茶の点て方，運びの仕方，菓子・薄茶のいただき方

第３週　【実技】割稽古（２）　茶碗に茶巾・茶筅・茶杓を仕組む，茶巾を畳み，茶碗を清める，茶筅通しの仕方，点前の準備と後片付け

第４週　【講義】茶道の意義　(和敬清寂，利休七則，茶事について）,ビデオ鑑賞

第５週　【実技】盆略点前（１）レポート提出

第６週　【実技】盆略点前（２）

第７週　【講義】茶の湯の歴史

第８週　【講義】茶室，露地について

第９週　【実技】風炉　薄茶点前割稽古　柄杓の扱い

第10週　【実技】風炉　薄茶点前（１）

第11週　【実技】風炉　薄茶点前（２）

第12週　【講義】点前の意義，利休百首

第13週　【実技】風炉　薄茶点前（３）レポート提出

第14週　【実技】風炉　薄茶点前（４）濃茶のいただき方

第15週　【講義】総まとめ

伝統文化演習VIC（茶道）

3752100600300

副　題	国際人としての茶の湯							担　当　者	中澤　宗寿　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	TRD-015-GH

〔授業の到達目標〕

茶の湯の世界に身を置いて，常に自分で考えて判断していくことを体得し，そして常に相手を思いながらこころの受け渡しが自然にこなせるようになることを目指します。それと同時に，国際社会で活躍する日本人とは何か？を意識できることを目標としていきます。

〔授業の内容〕

講義・実習の両面から授業を進めてまいります。日本の美意識，哲学的思考，自然の摂理，歴史観など，茶の湯の本質を見つめていくことで，日本人としてのブレない柱を築いていきます。また，主客の交わりや連客の動きから，常に相手を重んじることを考え，日本人としての柔軟な思考力も身につけていきます。習い事としての茶道ではなく，このスピードが速く多様化していく時代に，国際社会の日本人としての基盤を作っていく茶道になります。尚，これからの社会を見据え，また留学生とのコミュニケーションの土台作りを兼ね，英語で行うことがあります。

〔教材〕

参考書：而妙斎家元『表千家茶の湯入門　上：風炉編』主婦の友社
　　而妙斎家元『表千家茶の湯入門　下：炉編』主婦の友社
点前の自習・復習用としておすすめします。授業では使用しません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習をする必要はないが，日本人としての，また日本を伝える素養は，日常生活に茶の湯の発想をいかすことからだんだんと身についていくことなので，授業そのものを自身の生活や考えに取り入れるように試みてください。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%），レポート（40%），自主的な試み（10%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-mail:tearoom●nakazawasoju.jp（change ● to @）

〔備考〕

実習を円滑に行うために，受講者を25名以下とする。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット(5,500円　平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，アクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義・国際人としての茶の湯
　　実技・薄茶
第２週　講義・茶室という空間
　　実技・床の間拝見
第３週　講義・主客
　　実技・主客の交わり
第４週　講義・主客
　　実技・連客の動き
第５週　講義（実技）・薄茶席（模範点前）で客をする
第６週　講義・茶について
　　実技・茶椀の扱い
第７週　講義・身体の動き
　　実技・動きの意識
第８週　講義・薄茶点前
　　実技・袱紗の扱いの確認
第９週　講義・薄茶点前
　　実技・点前道具の扱いの確認
第10週　講義（実技）・薄茶席（模範点前）で今までの復習
第11週　講義・客人への対応
　　実技・薄茶を中心に
第12週　講義・客をイメージしてのしつらえ
　　実技・水屋仕事
第13週　講義・濃茶
　　実技・濃茶を頂く１
第14週　講義・茶事の流れ
　　実技・濃茶を頂く２
第15週　講義（実技）薄茶席（来賓を招いて）

授業計画は，あくまでも進行計画であり，袱紗の扱い方，道具の清め方など茶の基本となることも触れていきます。また，熱意のある要望には，出来る限りお応え致します。
秋学期は，炉のしつらえで進めてまいります。

伝統文化演習VID（茶道）

3752100600400

副　題	国際人としての茶の湯							担　当　者	中澤　宗寿　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	3	コース・ナンバー	TRD-016-GH

〔授業の到達目標〕

茶の湯の世界に身を置いて，常に自分で考えて判断していくことを体得し，そして常に相手を思いながらこころの受け渡しが自然にこなせるようになることを目指します。それと同時に，国際社会で活躍する日本人とは何か？を意識できることを目標としていきます。

〔授業の内容〕

講義・実習の両面から授業を進めてまいります。日本の美意識，哲学的思考，自然の摂理，歴史観など，茶の湯の本質を見つめていくことで，日本人としてのブレない柱を築いていきます。また，主客の交わりや連客の動きから，常に相手を重んじることを考え，日本人としての柔軟な思考力も身につけていきます。習い事としての茶道ではなく，このスピードが速く多様化していく時代に，国際社会の日本人としての基盤を作っていく茶道になります。尚，これからの社会を見据え，また留学生とのコミュニケーションの土台作りを兼ね，英語で行うことがあります。

〔教材〕

参考書：而妙斎家元『表千家茶の湯入門　上：風炉編』主婦の友社
　　而妙斎家元『表千家茶の湯入門　下：炉編』主婦の友社
点前の自習・復習用としておすすめします。授業では使用しません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

特に予習・復習をする必要はないが，日本人としての，また日本を伝える素養は，日常生活に茶の湯の発想をいかすことからだんだんと身についていくことなので，授業そのものを自身の生活や考えに取り入れるように試みてください。

〔成績評価の方法〕

出席状況（50%），レポート（40%），自主的な試み（10%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-mail:tearoom●nakazawasoju.jp（change ● to @）

〔備考〕

実習を円滑に行うために，受講者を25名以下とする。受講者は，実習費（3,000円）帛紗挟みセット(5,500円　平成26年度実績)が必要です。実技では白靴下着用，アクセサリーは身につけないこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義・国際人としての茶の湯
　　実技・薄茶
第２週　講義・茶室という空間
　　実技・床の間拝見
第３週　講義・主客
　　実技・主客の交わり
第４週　講義・主客
　　実技・連客の動き
第５週　講義（実技）・薄茶席（模範点前）で客をする
第６週　講義・茶について
　　実技・茶椀の扱い
第７週　講義・身体の動き
　　実技・動きの意識
第８週　講義・薄茶点前
　　実技・袱紗の扱いの確認
第９週　講義・薄茶点前
　　実技・点前道具の扱いの確認
第10週　講義（実技）・薄茶席（模範点前）で今までの復習
第11週　講義・客人への対応
　　実技・薄茶を中心に
第12週　講義・客をイメージしてのしつらえ
　　実技・水屋仕事
第13週　講義・濃茶
　　実技・濃茶を頂く１
第14週　講義・茶事の流れ
　　実技・濃茶を頂く２
第15週　講義（実技）薄茶席（来賓を招いて）

授業計画は，あくまでも進行計画であり，袱紗の扱い方，道具の清め方など茶の基本となることも触れていきます。また，熱意のある要望には，出来る限りお応え致します。
秋学期は，炉のしつらえで進めてまいります。

伝統文化演習VII A（香道）

3752100700100

副　題	香の伝統と文化	担　当　者	三條西　公彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	TRD-017-GH

〔授業の到達目標〕
古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕
香は古今東西，人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は，文学や自然風俗に主題をとり，幾つかの香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。
六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが，貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり，香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。
講義では，世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ，香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質，香木にまつわる歴史にも触れていきます。
更に和室を使用し実習を行い，実際に香を聞き「組香」を鑑賞し，香によって表現されたその「組香」の世界観を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕
参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。
復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。

〔成績評価の方法〕
出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
kinyoshi_gyosui_3024●nifty.com（change ● to @）

〔備考〕
和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　名香と銘香(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIIB（香道）

3752100700200

副　題	香の伝統と文化	担　当　者	三條西　公彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	TRD-018-GH

〔授業の到達目標〕
古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕
香は古今東西，人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は，文学や自然風俗に主題をとり，幾つかの香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。
六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが，貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり，香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。
講義では，世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ，香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質，香木にまつわる歴史にも触れていきます。
更に和室を使用し実習を行い，実際に香を聞き「組香」を鑑賞し，香によって表現されたその「組香」の世界観を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕
参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。
復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。

〔成績評価の方法〕
出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
kinyoshi_gyosui_3024●nifty.com（change ● to @）

〔備考〕
和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　名香と銘香(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIIC（香道）

3752100700300

副　題	香の伝統と文化	担　当　者	三條西　公彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	TRD-019-GH

〔授業の到達目標〕
古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕
香は古今東西，人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は，文学や自然風俗に主題をとり，幾つかの香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。
六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが，貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり，香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。
講義では，世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ，香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質，香木にまつわる歴史にも触れていきます。
更に和室を使用し実習を行い，実際に香を聞き「組香」を鑑賞し，香によって表現されたその「組香」の世界観を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕
参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。
復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。

〔成績評価の方法〕
出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
kinyoshi_gyosui_3024●nifty.com（change ● to @）

〔備考〕
和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　名香と銘香(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VII D（香道）

3752100700400

副　題	香の伝統と文化							担　当　者	三條西　公彦　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	TRD-020-GH

〔授業の到達目標〕
古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕
香は古今東西，人類と密接な関係がありました。そして我国独自の形として発達した香道は，文学や自然風俗に主題をとり，幾つかの香りを組み合わせた「組香」を鑑賞する事を主とする日本の芸道のひとつです。
六世紀香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。それは香を焚く目的の変遷と言いかえてもいいでしょう。すなわち当初宗教的に用いられていたものが，貴族の楽しみやたしなみとして実用的なものになり，香道が成立した頃には遊芸にまで高められたのです。
講義では，世界に類をみない香りの文化が創造された歴史と意義に触れ，香道の持つ日本文化の神髄を探究していきます。又香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質，香木にまつわる歴史にも触れていきます。
更に和室を使用し実習を行い，実際に香を聞き「組香」を鑑賞し，香によって表現されたその「組香」の世界観を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座が苦にならない人が望ましい。

〔教材〕
参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。
復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。

〔成績評価の方法〕
出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
kinyoshi_gyosui_3024●nifty.com（change ● to @）

〔備考〕
和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　名香と銘香(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIII A（香道）

3752100800100

副　題	香の伝統と文化を学ぶ	担　当　者	三條西　公彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	TRD-021-GH

〔授業の到達目標〕

古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

古今東西，香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。しかし，日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。

六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語（梅枝）で知られる薫物合に始まり，室町時代に香道という形へと昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合，たきつぎ香，そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗，更にそれを取込んだ文学がありました。

さらに香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。

実習は実際に香を聞き，香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年

授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。

復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

kinyoshi_gyosui_3024●nifty.com（change ● to @）

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　香の道具(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIIIB（香道）

3752100800200

副　題	香の伝統と文化を学ぶ	担　当　者	三條西　公彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	TRD-022-GH

〔授業の到達目標〕
古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕
古今東西，香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。しかし，日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。
六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語（梅枝）で知られる薫物合に始まり，室町時代に香道という形へと昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合，たきつぎ香，そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗，更にそれを取込んだ文学がありました。
さらに香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。
実習は実際に香を聞き，香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕
参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。
復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。

〔成績評価の方法〕
出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
kinyoshi_gyosui_3024●nifty.com（change ● to @）

〔備考〕
和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　香の道具(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIIIC（香道）

3752100800300

副　題	香の伝統と文化を学ぶ	担　当　者	三條西　公彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	5	コース・ナンバー	TRD-023-GH

〔授業の到達目標〕

古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕

古今東西，香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。しかし，日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。

六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語（梅枝）で知られる薫物合に始まり，室町時代に香道という形へと昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合，たきつぎ香，そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗，更にそれを取込んだ文学がありました。

さらに香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。

実習は実際に香を聞き，香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕

参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年

授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。

復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。

〔成績評価の方法〕

出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

kinyoshi_gyosui_3024●nifty.com（change ● to @）

〔備考〕

和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　香の道具(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習VIIID（香道）

3752100800400

副　題	香の伝統と文化を学ぶ	担　当　者	三條西　公彦　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	TRD-024-GH

〔授業の到達目標〕
古今東西，人類に使用されてきた香，そして日本の伝統文化である香道についての基本知識を，講義を通じて得る。実習を通して香道という伝統芸道の世界観を知り，基本作法を取得する。

〔授業の内容〕
古今東西，香は人類(特に権力者達)と密接な関係を持ってきました。しかし，日本では他国に見られない特異な発達をしてきました。
六世紀に香木が焚香用として仏教とともに渡来して以来，日本人と香との付き合い方は様々な変遷を見せてきました。香は遊芸として親しまれます。それは源氏物語（梅枝）で知られる薫物合に始まり，室町時代に香道という形へと昇華していきます。遊芸として行うものも薫物合から香合，たきつぎ香，そして組香へと変遷していきます。それらのバックボーンには常に我国の豊かな四季や自然風俗，更にそれを取込んだ文学がありました。
さらに香道で用いる香りの素である「香木」の種類とその香りの特質について説明します。
実習は実際に香を聞き，香を以て表現された組香の文学的主題を十分に理解できるようにします。和室を使用するので，正座を苦にしない人が望ましい。

〔教材〕
参考書：畑正高『香三才』東京書籍，2004年
『香道入門（淡交ムック）』淡交社，1993年
尾崎左永子『香道蘭之園』淡交社，2002年
授業中にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：香道の基本動作，作法について繰り返し練習し，考えずに自然にできるようにしましょう。又和室の授業の時は正座の練習をして下さい。
復習：授業中に体験した各種の香りについてまとめる事。和室の授業の時は組香の証歌，作者について調べると，その組香の世界観についてより理解が深まる。

〔成績評価の方法〕
出席及び毎回の授業で色々な「香」を聞き，その感想を書く(70%)。期末のレポート提出(25%)。実習理解度(5%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
kinyoshi_gyosui_3024●nifty.com（change ● to @）

〔備考〕
和室での実習を円滑に行う為，受講者30名以下とする。

〔授　業　計　画〕

第１週　香について，道について(講義)
第２週　世界の香(講義)
第３週　香の歴史１と香木について１(講義)
第４週　香の歴史２と香木について２(講義)
第５週　香の歴史３と香木について３(講義)
第６週　香席について(講義)
第７週　季節の組香１（実習）
第８週　季節の組香２（実習）
第９週　季節の組香３（実習）
第10週　香炉造り（実習）
第11週　香をたく（実習）
第12週　季節の組香４（実習）
第13週　組香概論(講義)
第14週　香の道具(講義)
第15週　季節の組香５（実習）

伝統文化演習IXA（有職故実）

3752100900100

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	鮫嶋　康順　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	TRD-025-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を小人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度・出席状況（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記［備考］欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。

それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班５名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小袿装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括

最終回の講義では十二単以外の装束をお見せすることもあります。その「御方（＝モデル）」は受講生有志にお願いします。

伝統文化演習IXB（有職故実）

3752100900200

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	鮫嶋　康順　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	TRD-026-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を小人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度・出席状況（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記［備考］欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。

それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班５名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小袿装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括

最終回の講義では十二単以外の装束をお見せすることもあります。その「御方（＝モデル）」は受講生有志にお願いします。

伝統文化演習IXC（有職故実）

3752100900300

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	鮫嶋　康順　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	TRD-027-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を小人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度・出席状況（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記［備考］欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。

それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班５名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小袿装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括

最終回の講義では十二単以外の装束をお見せすることもあります。その「御方（＝モデル）」は受講生有志にお願いします。

伝統文化演習XA（有職故実）

3752101000100

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	鮫嶋　康順　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	TRD-028-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を小人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度・出席状況（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記［備考］欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。

それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班５名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小袿装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括

最終回の講義では十二単以外の装束をお見せすることもあります。その「御方（＝モデル）」は受講生有志にお願いします。

伝統文化演習XB（有職故実）

3752101000200

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	鮫嶋　康順　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	TRD-029-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を小人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度・出席状況（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記［備考］欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。

それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班５名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小袿装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括

最終回の講義では十二単以外の装束をお見せすることもあります。その「御方（＝モデル）」は受講生有志にお願いします。

伝統文化演習XC（有職故実）

3752101000300

副　題	十二単の着装実習を軸として	担　当　者	鮫嶋　康順　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	TRD-030-GH

〔授業の到達目標〕

（１）十二単の着装の手順を理解し，仲間と協力して実際に着装できるようになる。

（２）装束類の扱いを通じて，他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め，実際の行為に表現する。

〔授業の内容〕

現代日本の伝統的な年中行事の多くは，古代の宮廷社会における儀礼に根源が求められます。有職故実とは，公家を中心として武家・庶民の社会にまでひろく及ぶ，伝統的な習俗や知識の集大成です。四季折々の行事に見られる宮廷装束の意義や美的観点の説明を軸として，国際社会に生きる女性の基礎教養としての，日本文化に対する理解を深めます。

実際の授業では，宮廷女性の盛装である「十二単（唐衣裳装束）」の着装の演習を通じて，古人の生活や感性に思いを寄せてゆきます。宮廷装束に関する知識や実際の着装技術は，「衣紋道」と呼ばれて有職故実の最も重要な部分のひとつをなしています。初心の段階から十二単の着付けが経験できるように，受講生を小人数の班に分けて，段階を踏んで実技を指導しながら，衣紋・有職の世界を楽しく実感できるように計らってゆきます。

〔教材〕

教科書：仙石宗久『十二単のはなし』第5版，オクターブ，1995年

初回の授業から毎回かならず持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：授業各回に指示する教科書・補助資料の該当範囲を次回までに理解しておくこと。（30分から１時間程度）

復習：授業各回に説明した手技を反復して次回までに体得しておくこと。（３時間から３時間半程度）

〔成績評価の方法〕

【１】授業への参加態度・出席状況（60%），【２】実技試験（25%），【３】学期末レポート（15%）の総合評価。

各項目の評価基準の詳細は初回授業時に示します。

なお，下記［備考］欄の理由から，「欠席・遅刻のないこと」を単位認定の条件とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問などは授業の前後に受け付けます。

それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ってください。

〔備考〕

欠席・遅刻のおそれのある方（就職活動や教育実習などを含む）は，くれぐれも受講登録を避けてください。「少しくらい大丈夫だろう」という甘えが周囲の多大な迷惑の元になります。

演習では，１班５名で協力しつつ，毎回異なる手技と知識を習得します。前回欠席または当日遅刻の受講生がいると，その一人のキャッチアップを待つために他の学生の時間が浪費されて班全員の進度が遅れ，他の受講生の試験にまで悪影響を及ぼします。

実技試験では写真撮影も許可しますので，「御方」に美しく「お服上げ」する技術を身に付けるためにも，全回の出席が必須です。

〔授　業　計　画〕

第１週　講義：有職故実・宮廷装束概論　および　唐衣裳装束（十二単）模範着装実演
　　演習：立居振舞の基本（坐礼・膝行など）
第２週　講義：十二単１……長袴（ながばかま）の概念と扱い方
　　演習：十二単１……長袴の着付け
第３週　講義：十二単２……単（ひとえ）の概念と扱い方
　　演習：十二単２……長袴・単の着付け
第４週　講義：十二単３……五衣（いつつぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事１）
　　演習：十二単３……長袴・単・五衣の着付け
第５週　講義：十二単４……帯・紐の結び方の確認
　　演習：十二単４……長袴・単・五衣の着付けの発展
第６週　講義：十二単５……打衣（うちぎぬ）の概念と扱い方，補足講義（年中行事２）
　　演習：十二単５……下具〔＝長袴・単・五衣・打衣〕の着付け
第７週　講義：十二単６……表着（うわぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単６……下具と表着の着付け
第８週　講義：十二単７……唐衣（からぎぬ）および裳（も）の概念と扱い方
　　演習：十二単７……下具・表着・唐衣・裳の着付け
第９週　講義：十二単８……檜扇（ひおうぎ）の概念と扱い方
　　演習：十二単８……十二単皆具の着付け
第10週　講義：十二単９……各手技の確認，補足講義（年中行事３）
　　演習：十二単９……十二単皆具の着付けの発展
第11週　講義：十二単10……着装の仕上げにあたってのチェックポイント
　　演習：十二単10……十二単皆具の着付けの総仕上げ
第12週　講義：有職故実１
　　演習：十二単11（確認１）……十二単皆具の着装手順についての理解度の確認　その１
第13週　講義：有職故実２
　　演習：十二単12（確認２）……同上　その２
第14週　講義：有職故実３
　　演習：十二単13（確認３）……同上　その３
第15週　講義：十二単とその他の宮廷装束……十二単皆具・小袿装束・直衣装束など各種宮廷装束の着装実演と総括

最終回の講義では十二単以外の装束をお見せすることもあります。その「御方（＝モデル）」は受講生有志にお願いします。

国際文化交流演習I（国際儀礼）

3738100100100

副　題	現代の国際儀礼（プロトコール）							担　当　者	阿曽村　智子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	CAR-001-GI

〔授業の到達目標〕
（1）国際儀礼の成り立ちについて史的考察を行い，その本来の意義を理解する。（2）外交関係において今日でも重要な位置を占める公式儀礼の次第について基本的な知識を身に付ける。（3）国際交流・国際協力やグローバルなビジネス活動においてすぐに役立つ知識を身につけ，適切に実践できるようになる。

〔授業の内容〕
国際儀礼の歴史とその展開，基本原則，外交・国際交流およびビジネスでの実際について，なるべく具体的な例（内外の失敗談を含めて）を取り上げつつ，現代プロトコールについて論じる。学期中３回程度，ゲスト講師を招いて現代の国際儀礼や接遇について現場のお話を伺う予定である。ゲストの都合によっては，シラバスにある講義内容の順が一部変更になることもある。

〔教材〕
参考書：外務省儀典官室『国際儀礼に関する12章』財団法人世界の動き社，2000年
友田二郎『国際儀礼とエチケット』新装普及版，学生社，2004年
Jean Serres, *Practical Handbook of Protocol(Edition in English)*, Editions de la Bievre, 2010
Pauline Innis, Mary Jane McCaffree & Richard M.Sand, Esquire, *Protocol- The Complete Handbook of Diplomatic, Official and Social Usage*, Durban House Publishing, 1997
個別テーマの文献については講義中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業中に提示する資料にあらかじめ目をとおし，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。ゲスト講師の場合には，講演内容概要とコメントおよび質問を文章にまとめて提出すること。関連図書の読書と併せて予・復習に各2時間程度。

〔成績評価の方法〕
学期末試験（50%）および日頃の主体的な出席態度（数回提出のリアクション・ペーパーの内容，全部で50%）を総合して評価を行う。積極的な参加の指標として，リアクションペーパーでは質問の頻度と内容も重視する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
t-asomura●world.odn.ne.jp（change ● to @）

〔備考〕
例年テーブルマナーの実践および本格的なフランス料理店のオーナー・シェフとの交流の機会として学期終了後に有志の昼食会を企画している。

〔授　業　計　画〕

第１週　序論：プロトコールの考え方
第２週　プロトコールの歴史と原則
第３週　プロトコールの基本（１）名称，呼称および敬称
第４週　プロトコールの基本（２）序列と席次　その１：国旗の扱い
第５週　プロトコールの基本（３）序列と席次　その２：テーブル・プラン
第６週　国公賓の接遇と公式行事
第７週　設宴（食事会，パーティ等）の企画と実際
第８週　外交と食事：献立とテーブルマナー
第９週　行事と服装，ドレスコード
第10週　招待状とお礼状（１）
第11週　招待状とお礼状（２）
第12週　国際ビジネスとプロトコール
第13週　文化多様性時代の世界のマナーとプロトコール（１）
第14週　文化多様性時代の世界のマナーとプロトコール（２）
第15週　総括

国際文化交流演習ⅡA（演劇）

3738100200100

副　題								担　当　者	小田島　則子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	ART-002-GI

〔授業の到達目標〕

イギリスの現代劇を日本語に置き換えていく過程で，イギリスの文化的・社会的背景を含めた作者の意図を理解していきます。また，英語と日本語双方の言葉の働きの面白さに触れ，自身の言語能力の向上に繋げていきます。

〔授業の内容〕

2007年にイギリスの女性戯曲作家ポリー・ステナムが19歳で書き，鮮烈なデビューを飾った作品『That Face』（１幕８場）を扱います。テキストを正確に読み解いて上演にふさわしい日本語台本を作ることを最終目的としますが，それには以下の項目に重点を置いて授業を進めたいと思います。

1．英文の意味を読み取り作者の意図を理解する。
2．文化的背景や社会的背景を読み取る。
3．キャラクターを設定する。
4．設定したキャラクターに合う言葉遣いを模索する。
5．朗読劇の形式で発表しながら,耳で聞いて伝わる日本語になっているかどうか検討する。

なお，授業は受講者の人数によってはグループでの発表形式で行います。

〔教材〕

教科書：Polly Stehnam『That Face』revised版，Faber and Faber Ltd.，2008年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業計画の中に記載した通り，毎回次の授業で扱う箇所を下読みし，さらに前の週に読んだ箇所を復習して理解を深め，レポートが課されている場合は，必要な資料を当たってレポートを作成した上で授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

全授業の2/3以上出席した学生を成績評価の対象とします。成績は授業での発表と参加の姿勢（20%），レポート（20%），試験（40%）により評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　準備学習：これまで見たことのある英米の舞台，または読んだことのある英米の戯曲を振り返っておくこと。
授業内容：ガイダンス。近年日本で上演された海外戯曲の原作を用いて，戯曲を読む練習をする。
第２週　scene１の前半を読み，発話から状況と登場人物の背景をさぐる。
第３週　scene1を最後まで読み，この場面の状況と登場人物を理解する。
第４週　scene1の翻訳を発表し，全員で適当なセリフに翻訳されているかどうか検討する。
第５週　scene２を読み，ト書きや発話から状況を把握し，さらに登場人物の性格や関係を理解する。
第６週　scene２の翻訳を発表し，全員で適当なセリフに翻訳されているかどうか検討する。
第７週　scene２,３の映像を見て，演出で付け加えられている効果を確認しながら，読み取った内容を発表する。
第８週　scene４を読み，人物像について新たな発見などがあれば発表する。
第９週　scene５を読み，人物像について新たな発見などがあれば発表する。
第10週　scene４，５の翻訳を発表し，適切なセリフになっているかどうかを検討する。さらに，重要と思われるセリフを抜き出し，その背景を考える。
第11週　scene６を読み，日本語のセリフに翻訳し，発表する。
第12週　scene７を読み，日本語のセリフに翻訳し，発表する。
第13週　scene８を読み，日本語のセリフに翻訳し，発表する。
第14週　舞台の映像を見て，自分の解釈と比較し，作品のテーマを探る。
第15週　授業のまとめ。同作者による別の作品にも触れながら，作品への理解を深める。

履修者の人数によってはグループによる発表の場を設けます。また，履修者の語学力のレベルにより，テキストの進度を変更する場合があります。

国際文化交流演習IIB（演劇）

3738100200200

副　題	演劇祭運営実習							担　当　者	尼ヶ﨑　彬　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	5	コース・ナンバー	ART-003-GI

〔授業の到達目標〕

舞台芸術におけるアートマネジメントがいかなるものであるかを現場体験によって知る。

〔授業の内容〕

11月に本学で行われる演劇祭（http://pafe-gwc.org/）にインターンとして参加し，実際に演劇祭の制作・運営を手伝い，現場でのさまざまな作業や問題解決の方法を実習する。実習生に責任ある仕事はまかされないので，末端の仕事を手伝うことになるが，それでも芸術に人生を預けた人々との出会い，全員で何かをやり遂げたという達成感など，アートマネジメントという仕事の多様な側面を体験することができる。参加劇団の公演は全て無料で見ることができる。

授業時間は一応火曜５限に設定されているが，授業の性格上これにとらわれることなく，必要に応じてスタッフワークをしてもらうことになる。なお演劇祭は今のところ11月の土曜日曜に予定されている。受講者はこれに参加してもらい，それを授業と振り替える。一回の実習の拘束時間は長い。従って11月の週末に所用の多い人には薦められない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習(アートマネジメント・及び演劇祭に関する書籍およびビデオ学習)は通算40時間程度。復習(実習経験を踏まえたオペレーションの反省，および提案事項を考える)は通算20時間程度。

〔成績評価の方法〕

活動への参加（出席）の程度（80%）とレポート（20%）による

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

下記参照

質問がある場合,簡単なことはメールでakira.amagasaki●gakushuin.ac.jp（change ● to @）まで問い合わせること。面談したほうがよい場合は，上記アドレスへメールしてアポイントをとること。面談は火・水の３限または木曜２限に研究室で行う。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　アートマネジメントと演劇祭運営
第３週　劇場機構とその操作（招聘講師）
第４週　カンパニー（劇団）マネジメントのノウハウ（招聘講師）
第５週　演劇祭「Pafe.GWC (Performing Arts Festival.GWC)」制作実習（以下10週分の実習を演劇祭期間中に行う）
第６週　「Pafe」制作実習
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　「Pafe」事後評価

演劇祭の実習で経験できるのはスタッフワークのごく一部であり，全体像を知るためには授業外での学習が重要になる。また前提として演劇や舞踊の知識がある程度必要となる。pafeの公演はなるべく全て観られるようにするが，他にも自分でさまざまな演劇や舞踊公演を見ることが望ましい。

国際文化交流演習III（音楽）

3738100300100

副　題	デジタル時代の大衆音楽							担　当　者	杉原　志啓　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	ART-004-GI

〔授業の到達目標〕

日本における大衆音楽とその文化の特質を学ぶ。また，20世紀において日本の音楽文化のみならず，世界の大衆音楽形式に絶大な影響を与えてきたアメリカの音楽ジャンルの学術的な定義と特質を習得。

〔授業の内容〕

ポピュラー音楽は，20世紀後半から重要な国際的文化実践のひとつとなっている。わが国ではしかし，この分野の音楽はアカデミックな領域に適切な題材として扱われない傾向がある。本講義では，この二つの世界をカルチュラル・スタディーズの１テーマとして真面目に結びつけていく。本年度のテーマは，Jポップに象徴されるデジタル時代の日本の大衆音楽の現状と歴史的特質とをクロニクルにたどっていく予定である。なお，例年どおり毎回講義内容にかかわる日本および英米の貴重な音源や映像を多数駆使していく。

〔教材〕

参考書：西村幸裕・杉原志啓『イチローと村上春樹は、いつビートルズを聴いたのか』ＰＨＰ研究所，2009年

授業中大衆音楽史の基本的テキストを多数紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中の配布プリントの閲読。

〔成績評価の方法〕

授業期間内の１回の小テスト（50%）と学期末レポート１回（50%）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　ソフト・パワーとは何か
第３週　大衆音楽の現状－デジタル化とマルチメディア化
第４週　音楽全体のノンパッケージ化（配信）
第５週　大衆音楽における自己表現の大衆化現象
第６週　20世紀前半の米大衆音楽（１）ハード編　SPレコード，ラジオ等
第７週　20世紀前半の米大衆音楽（２）ソフト編　ブルース，ジャズ，カントリー等
第８週　20世紀後半の米大衆音楽（１）ハード編　LP，シングル，テレビ，MTV，CD，iPod，iTunes等
第９週　20世紀後半の米大衆音楽（２）ソフト編　モダン・ジャズ，R&B，ロック，ヒップ・ホップ等
第10週　日本の大衆音楽（１）西洋音楽の導入の歴史
第11週　日本の大衆音楽（２）歌謡曲の誕生とレコード産業
第12週　大衆音楽の変容（１）歌謡曲のアメリカ化
第13週　大衆音楽の変容（２）歌謡曲の消滅とアメリカ化文化の身体化
第14週　レコード文化とJポップの衰退
第15週　大衆音楽にみる日本文化の伝統と今後の展望

小テストと期末レポートは，実施日の前の週に告知する。授業期間出席はとらないが，この２回は必ず出席のこと。

国際文化交流演習Ⅳ（映画）

3738100400100

副　題	映画における異文化交流							担　当　者	土田　環　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4	コース・ナンバー	ART-005-GI

〔授業の到達目標〕

作品の解釈にとどまらず，文化産業・文化政策の視点に立ち，「つくる」「観る」「上映する」という一体化したプロセスのなかで映画を理解することを目指す。また，海外との文化交流のなかで，映画の置かれている現況や果たすべき「役割」について，受講者がそれぞれのヴィジョンを検討できるようにする。

〔授業の内容〕

本実習では，日本および北米・ヨーロッパを中心に，映画祭および映画の国際展開に関する事例をとりあげ，映画の持つ文化的･社会的な役割を学ぶ。映画というジャンルにとどまらず，個人や社会の記憶の在り方，アート･マネジメントの実践，国際文化交流の現在などについて，受講者が各自の関心と重ね合わせながら考える機会とすることを目標としたい。また，映画製作，映画祭，文化政策などの分野に携わるゲストの方々をお招きする予定。

〔教材〕

教科書：キム・ドンホ＝著『世界のレッドカーペット』ヨシモトブックス，2011年

参考書：コミュニティシネマセンター＝編『「映画祭とコミュニティシネマに関する基礎調査」報告書』コミュニティシネマセンター，2008年

キネマ旬報映画総合研究所=編『映画ビジネスデータブック〈2012-2013〉』キネマ旬報社，2012年

福井健策＝編／内藤篤・升本喜郎＝著『映画・ゲームビジネスの著作権』社団法人著作権情報センター，2007年

映画芸術編集部＝編『映画館のつくり方』AC Books，2010年

他の参考文献は必要に応じコピーして配布する。参考書を必ず購入する必要はないが，映画作品や書籍を通じて，あらかじめ映像に対する関心を持って各自実習に参加してほしい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

普段から映画館へ足を運び，多くの映画を観てほしい。

〔成績評価の方法〕

授業への参加度，試験／レポートにより評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

国内の映画祭や文化事業への参加者（インターン・アルバイト含む）を募る予定なので，希望する学生は早めに申し出ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション－映画に描かれた「日本人」
第２週　日本製映画のつくり方―製作委員会方式　―ゲスト
第３週　映画と国際競争力（１）―日本映画の国際展開とセールス・エージェントの役割
第４週　映画と国際競争力（２）―フォーマット・セールスの可能性
第５週　映画と国際競争力（３）―「模倣」と「盗作」とのはざまに
第６週　映画と国際競争力（４）―言語の壁はどのように乗り越えられるのか　―ゲスト
第７週　文化事業としての映画祭（１）―総論および海外の映画祭
第８週　文化事業としての映画祭（２）―日本における映画祭　―ゲスト
第９週　文化事業としての映画祭（３）―求められる「日本映画」とは？　―ゲスト
第10週　映画と社会（１）―「上映」とは何か
第11週　映画と社会（２）―日本映画の映し出す「地方」と映画館
第12週　映画と社会（３）―デジタル化と映画館
第13週　映画と法（１）―映画における著作権の考え方
第14週　映画と法（２）日本の文化政策における映画－ゲスト
第15週　映画と法（３）映画は「文化財」なのか「商品」なのか

国際文化交流演習VA（美術）

3738100500100

副　題	日本美術に親しむ							担　当　者	上野　友愛　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	3	コース・ナンバー	ART-006-GI

〔授業の到達目標〕
日本美術に親しみ，その個性と魅力を自ら考え，発信する力を育成します。

〔授業の内容〕
国際的に関心の高い日本文化から，この授業では美術分野に特化して講義します。
日本美術の歴史は，洗練された大陸の美術を学ぶことに始まりますが，平安時代には早くも日本人の美意識が認められ，独自の成長を遂げました。この授業では，日本中世絵画史の基礎事項を確認しながら，知られざる日本美術の個性と魅力，そして日本人の想像力の豊かさについて多角的に学びます。

〔教材〕
参考書：佐野みどり・並木誠士『中世日本の物語と絵画』放送大学教育振興会，2004年
日高薫『日本美術のことば案内』小学館，2003年
上野友愛・岡本麻美『かわいい絵巻』東京美術，2015年
教科書は特に指定しません。
その他の参考文献は，授業時に適宜紹介します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業の予習・復習として，定期的に宿題を課します（4時間程度要する）。
期日までに自ら調べてまとめ，提出すること。

〔成績評価の方法〕
平常点（出席状況，授業態度，コメントペーパー，宿題提出）40%，期末のレポート60%の割合で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕
1．実習を行うため，履修希望者数によっては人数制限を設けることがあります。
2．初回授業には必ず出席すること。
3．授業の最後に，毎回コメントペーパーを書いてもらいます。
4．学外の美術館見学を2回行う予定です。土曜もしくは日曜日に実施します。見学は，展覧会の開催状況によって，授業計画の順番とは異なる時期に行う場合があります（詳細は授業内でお知らせします）。見学に関わる費用は自費とします。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　絵巻の魅力（1）：絵巻とは？
第3週　絵巻の魅力（2）：絵巻の取り扱い実習
第4週　絵巻の魅力（3）：鳥獣人物戯画
第5週　絵巻の魅力（4）：鎌倉時代の絵巻
第6週　お伽草子絵（1）：お伽草子と下剋上
第7週　お伽草子絵（2）：お伽草子と場
第8週　お伽草子絵（3）：見えない世界を描く
第9週　見学授業（土日いずれかに実施）
第10週　日本絵画の景観表象（1）：山水屏風
第11週　日本絵画の景観表象（2）：屏風の仕組みを知る
第12週　日本絵画の景観表象（3）：古地図・垂迹曼荼羅・掛幅社寺縁起絵
第13週　日本絵画の景観表象（4）：参詣曼荼羅
第14週　日本絵画の景観表象（5）：洛中洛外図
第15週　見学授業（土日いずれかに実施）
授業計画は，進捗に合わせて内容を一部変更したり，順序を変更する場合があります。

国際文化交流演習VB（美術）

3738100500200

副　題	美術館における国際文化交流							担　当　者	丹羽　晴美　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ART-007-GI

〔授業の到達目標〕

美術表現を用いた国際交流事業において，具体的なアプローチを展覧会，広報，教育普及事業などの視点から考察することを目標とする。

〔授業の内容〕

この授業では現代美術，写真・映像というメディアによる文化交流がどのように行われてきたのかを，展覧会，作品表現を通して考察します。また進行中もしくは過去の展覧会企画の分析や，これからの国際文化交流プログラムの展望，公的資金を運用する責務などについて，グループディスカッションを通して探ります。

〔教材〕

授業中に指示。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

国際文化交流の過去事例や類似活動の調査，ディスカッションを経て課題となった美術展における国際文化交流の提案作成など。

〔成績評価の方法〕

出席，受講態度（ディスカッション時等），発表内容

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

夏期集中講座（8月上旬～9月初旬3日間程度予定）

〔授　業　計　画〕

第１回　国際文化交流／公的資金運用の実例
第２回　〃
第３回　〃
第４回　〃
第５回　〃
第６回　公立美術館における国際文化交流について（東京都写真美術館の実例など）
　　ディスカッションプログラム
第７回　〃
第８回　〃
第９回　〃
第10回　〃
第11回　国際文化交流の責務と可能性
　　ディスカッションプログラム
第12回　〃
第13回　〃
第14回　多様な国際文化交流のあり方について
第15回　〃
夏期集中講座
（登録人数・進行状況によって，内容に変更あり）
実施計画）
１日目：国際文化交流／公的資金運用の実例
ディスカッションプログラム
２日目：公立美術館における国際文化交流について（東京都写真美術館の実例など）
ディスカッションプログラム
３日目：国際文化交流の責務と可能性
ディスカッションプログラム
多様な国際文化交流のあり方について

国際文化交流演習VI（シンクタンク）

3738100600100

副　題	政策形成過程におけるシンクタンクの役割	担　当　者	這禽　恵子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	CAR-208-GI

〔授業の到達目標〕

シンクタンクの概要や政策形成過程に果たす役割を理解するとともに，日本が抱えている様々な現状や課題を理解する。

〔授業の内容〕

新しい知的な産業分野であり，政策形成過程に重要な役割を果たすことが期待されるシンクタンクの概要を分り易く解説する。政策形成過程の特徴や課題を概観するとともに，事例研究によりシンクタンクの調査研究分野や手法などを解説する。また，日本の代表的なシンクタンクを訪問し見学する。

〔教材〕

授業ごとにレジュメを配布。参考書・文献は随時紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事例研究ではテーマによって事前学習が必要な場合がある。

〔成績評価の方法〕

出席・レポート及びシンクタンク見学参加

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

hatok●xj8.so-net.ne.jp（change ● to @）

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　シンクタンクとは何か
第２週　政策課題と日本の政策形成過程の特徴
第３週　シンクタンクの活動分野，研究活動と専門性
第４週　シンクタンクの現状
第５週　日本のシンクタンクの歴史
第６週　シンクタンクの実務（事例研究）
第７週　地方のシンクタンク
第８週　シンクタンクの実務（事例研究）
第９週　シンクタンクにおける情報化
第10週　シンクタンクの実務（事例研究）
第11週　〃
第12週　〃
第13週　世界のシンクタンク
第14週　政策形成過程におけるシンクタンクの役割
第15週　日本のシンクタンクの将来像
シンクタンクの実務では具体的な研究事例や研究課題を取り上げ，研究方法や研究内容等を解説する。

国際文化交流演習VII A（海外語学研修）

3738100700100

副　題	Lethbridge ELS/LECTURE/INTERNSHIP							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ENG-009-GI

〔授業の到達目標〕

4週間のホームステー生活を中心に，コミュニケーション力とカナダ文化・歴史等に関する理解を深める

〔授業の内容〕

8月初旬よりカナダのレスブリッジ大学における海外語学研修。授業内容は中・上級の日常英会話の習得とカナダ文化への理解を深めるための講義が中心となる。習得した英語を実践する場として，ホームステー先の家族，通学路のモール等で積極的に活用し，英語力のスキルアップと自信を養っていただきたい。

〔教材〕

レスブリッジ大学指定のテキスト・教材等は現地にて支給されます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：2時間　復習：2時間

〔成績評価の方法〕

レスブリッジ大学のELS担当教員の評価　50%，出席　20%，帰国後のレポート　30%等を総合的に再評価する

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

最少催行人数：15名

〔授　業　計　画〕

8月の研修出発前に，3回の面談，ガイダンス，指導等を行ないますので，必ず出席すること。レスブリッジ大学スタッフによる語学力チック面談を後日案内します。これも必ず受けて下さい。連絡等は全て学科事務室の副手を通して行ないます。質問等がある場合には副手に申し出ること。

国際文化交流演習VII B（海外語学研修）

3738100700200

副　題	Deakin ELS/LECTURE/INTERNSHIP							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ENG-010-GI

〔授業の到達目標〕

4週間のホームステー生活を中心に，コミュニケーション力とオーストラリア文化・歴史等に関する理解を深める

〔授業の内容〕

2月中旬よりメルボルンのDEAKIN Universityの語学センターで中・上級会話，TOEICの授業を45時間受講する。授業内では他の国からきている多く留学生とのコミュニケーション練習等も含まれている。積極的な自己アピールとコミュニケーション・スキルの実践の場として活用に努めて欲しい。

〔教材〕

DEAKIN University指定のテキスト・教材等は現地にて支給されます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：2時間　復習：2時間

〔成績評価の方法〕

Deakin Uniの授業担当者による評価50%，出席率　20%　帰国後のレポート30%等を総合的に再評価する

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

最少催行人数：15名

〔授　業　計　画〕

2月の研修出発前に，3回の面談，ガイダンス，指導等を行ないますので，必ず出席すること。
ディーキン大学スタッフによるガイダンスも予定されているのでこれも必ず受けて下さい。
連絡等は全て学科事務室の副手を通して行ないます。質問等がある場合には副手に申し出ること。

国際文化交流演習VIIC（海外語学研修）

3738100700300

副　題	イギリス語学研修							担　当　者	古庄　信　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	ENG-011-GI

〔授業の到達目標〕

イギリス 3 週間の語学研修およびホームステイによって英語運用能力を高める

〔授業の内容〕

イギリス・レディング大学語学センターISLIのプログラムに従って 3 週間の英語研修を受講する。また滞在中，英国人家庭でのホームステイやLondon, Oxford他英国各地への小旅行を体験することで英語及び英国文化に親しむ。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参加希望者は参加（受講）決定後，出発までにホームステイや日常生活で困らない程度の英語力（自己紹介～日本文化紹介などを含む）を身に着けておくことが望ましい。ガイダンスは必ず出席すること。

〔成績評価の方法〕

レディング大学語学センターでの授業出席状況及び授業評価，帰国後のレポート等により評価する

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

現地での携帯電話及びメール（出発時に連絡）

〔備考〕

最少催行人数：10名

〔授　業　計　画〕

第 1 回　レディング大学語学センターISLI英語研修プログラム
第 2 回　〃
第 3 回　〃

国際文化交流演習VIII（情報メディア）

3738100800100

副　題	翻訳で学ぶソーシャルメディア							担　当　者	藤原　朝子　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INF-012-GI

〔授業の到達目標〕

（1）　ニュース翻訳の基本的ルールの習得
（2）　情報メディアを使ったファクトチェック等の基本的手法の習得
（3）　従来型メディアとソーシャルメディアに関する基本知識の習得

〔授業の内容〕

本講義では，英文ニュースの翻訳を通じて，情報メディアの使い方を学びます。

翻訳は，英文を単純に日本文に置き換えるのではなく，第三者が日本語のニュースとして読んだとき，内容を十分把握できる翻訳の作成を目指します。そのための基本的なルールを学ぶとともに，各種情報源を使って事実関係をチェックする方法を学びます。

学生の皆さんは，一定の英語力と，日本語の表現力が必要ですが，背景情報を調べる根気や好奇心も同じくらい重要なります。本年度は特に，現在多用されているソーシャルメディアについて，そのビジネスモデルや歴史，従来型メディアとの比較等をテーマにしたニュースを取り上げ，その実態を学びます。

〔教材〕

時事ニュースやプレスリリース。授業内で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

隔週で翻訳課題（A4サイズ１枚）を出しますので，翌週の授業の前日正午までに提出すること。

〔成績評価の方法〕

期末試験は行いません。隔週の課題提出（60%），課題の評価（40%）。

課題の評価は，英文の読解よりも，授業で述べた翻訳の基本ルールが反映されていることを重視します。

翻訳ソフトを使った翻訳は，提出とみなしません。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付けます。それ以外の時間の質問および課題提出はメールで受け付けます。メールアドレスは授業中にお知らせします。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　苦戦する従来型のメディア
第３週　苦戦する従来型のメディア２
第４週　フェイスブック（１）
第５週　フェイスブック（２）
第６週　インスタグラム（１）
第７週　インスタグラム（２）
第８週　ツイッター（１）
第９週　ツイッター（２）
第10週　スナップチャット（１）
第11週　スナップチャット（２）
第12週　LINE・WhatsApp（１）
第13週　LINE・WhatsApp（２）
第14週　ウェイボーと中国のSNS（１）
第15週　ウェイボーと中国のSNS（２）

＊上記の内容は，別のソーシャルメディアを扱ったニュースに変更になる場合があります。

国際文化交流演習IX A（海外ボランティア）

3738100900100

副　題	Volunteer Activities							担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	VOL-013-GI

〔授業の到達目標〕

教室を離れ，ボランティアの現場での英語を理解し，積極的に指示に従い行動する力を養う

〔授業の内容〕

オーストリア語学研修と同時に，現地大学スタッフ等の協力の下，環境・文化・教育などに関連するボランティア活動を行う。授業とは違う環境で，様々な体験学習をしてもらうのが目的である。もちろん事前指導が現地で行われる。日本では経験できない体験を機に，新たな視点，考え，認識が生まれる可能性を秘めた実習になるよう心がけたい。現地小学校，植林，海岸清掃等，海外でのボランティア活動を通じて，ボランティアとは一体何なのかを考える第一歩になれば良いと思います。

〔教材〕

ボランティアの内容・準備等については，現地にて事前のレクチャーが有るので，その指示に従うこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各 2 時間

〔成績評価の方法〕

レポート

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

最少催行人数：15名

〔授　業　計　画〕

事前のガイダンス指導に必ず出席の事。ガイダンス実施日程は後日発表する。

国際文化交流演習IXB（海外ボランティア）

3738100900200

副　題	Volunteer Activities								担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	VOL-014-GI

〔授業の到達目標〕

教室を離れ,ボランティアの現場でその意味とその指示を正確に理解し,正確なコミュニケーションを図る

〔授業の内容〕

カナダ語学研修と同時に，現地大学スタッフ等の協力の下，環境・文化・教育などに関連するボランティア活動を行う。授業とは違う環境で，様々な体験学習をしてもらうのが目的である。もちろん事前に綿密な指導が現地で行われる。日本では経験できない体験を機に，新たな視点，考え，認識が生まれる可能性を秘めた実習になるよう心がけたい。現地小学校・養護老人ホーム，植林，清掃等，海外でのボランティア活動を通じて，ボランティアとは一体何なのかを考える第一歩になれば良いと思います。

〔教材〕

ボランティアの内容・準備等については，現地にて事前のレクチャーが有るので，その指示に従うこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

各 2 時間

〔成績評価の方法〕

レポート

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

最少催行人数：15名

〔授　業　計　画〕

事前のガイダンス指導が重要となります。必ず出席する事。ガイダンス日程については，後日発表する。

国際文化交流演習XI（ワシントン・セミナー１）

3738101100100

副　題	国際機関における国際協力活動と米国における文化政策	担　当　者	畠山　圭一　教授 M．ウーゴ　准教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	INR-216-GI

〔授業の到達目標〕

国際機関における国際協力活動と米国における文化政策を理解すること。

〔授業の内容〕

米国での研修準備として国際機関における国際協力活動と米国における文化政策，文化財保護の仕組みや関連機関の活動について学び，学生によるグループ発表や意見交換を行う。国際協力については，世界銀行やIMFの活動内容等について理解を深め，米国の文化政策については，米国の歴史や社会と照らし合わせ，ワシントンDCの都市計画や歴史的建造物，史跡，国立公園の保護と整備について理解を深める。なお事前研修については国際協力を畠山が，文化政策をウーゴが担当する。

〔教材〕

参考書：Moeller, Gerard Martin, *AIA Guide to the Architecture of Washington, D.C.*, 5th Edition, The Johns Hopkins University Press, 2012

国際協力については追って指示する。文化政策については上記の通り。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業期間が始まる前に参考書を読み，授業中に質問や討論ができるように準備すること。

〔成績評価の方法〕

事前研修については，授業参加の積極性（10%），レポートや発表（90%）を総合的に評価する。

現地研修については，課題レポート等（40%）と参加状況（60%）を総合的に評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火・４限。連絡方法は初回授業で指示する。

ウーゴ：水・５限。OH以外の時間は学科事務室を通じて連絡を取ること。

〔備考〕

２年生以上を対象とする。また，国際文化交流演習XI，XIIの同時履修を原則とする。

最少催行人数は10人程度。

〔授　業　計　画〕

事前研修を５～６回，合計15～20時間程度，実施する。内容，期日については後ほど掲示する。

国際文化交流演習XII（ワシントン・セミナー２）

3738101200100

副　題	ワシントンで学ぶ米国の政治と歴史	担　当　者	畠山　圭一　教授

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	INR-217-GI

〔授業の到達目標〕
国際協力，国際文化交流の活動内容，アメリカの政治・文化の実態について基礎知識を獲得し，理解を深める。

〔授業の内容〕
米国の首都，ワシントンDCは，世界の政治的中心であるとともに，多くの国際機関や国際文化機関が点在する国際協力，国際文化交流の一大拠点である。本演習のXIおよびXIIは，米国の政治・経済・文化等に興味・関心を抱く学生や，将来，国際協力や国際文化交流事業にかかわりたいと考えている学生のために，各種の歴史施設・文化施設・行政機関・国際機関・文化交流団体等を訪問し，あるいは各種施設機関で活躍する幹部職員と接し，アメリカの政治・経済・社会・文化の実態や，国際協力や文化交流の活動内容にじかに触れることを目的としている。
本演習は，国際機関研修・文化交流研修・アメリカ文化研修の３部で構成される。XIIではアメリカ文化研修（XIでは国際機関研修・文化交流研修）を行う。
アメリカ文化研修では，アメリカ政治およびアメリカ史に関する集中講義が行われるほか，アメリカの政治・文化・歴史にじかに触れることを目的に，連邦議会および議員事務所，州政府庁舎，行政機関，報道機関，シンクタンクなどを訪問し，議員や幹部職員等と懇談するほか，史跡（初期のイギリス入植地，植民地時代の歴史保存地域，建国初期の歴代大統領邸宅，南北戦争の激戦地等々）を探訪する。

〔教材〕
追って，指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
事前研修中はもちろんのこと，研修中は事前に資料を読み，自らの課題を用意して臨むこと。また，講師はすべて実務者であり，講義内容も実践的であるから，事後の内容整理と思索が極めて重要な意味を持つ。研修期間中は宿舎にての予習，復習に十分な時間(標準は各２時間程度)を確保することが求められる。

〔成績評価の方法〕
課題レポート等（４割）と参加状況（６割）によって総合的に判断する。60点以上を合格とする。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
火４限，連絡方法は初回授業で指示する。

〔備考〕
２年生以上を対象とする。なお，希望者多数の場合，人数制限を行うことがある。
また，国際文化交流演習XI・国際文化交流演習XIIの両方を同時に履修することを原則とする。最少催行人数は例年10人前後となっており，希望者少数の場合は取り止めになる場合もある。

〔授　業　計　画〕

事前研修（８月上旬を予定）を５～６回，合計15～20時間程度実施する。内容，期日については後ほど掲示する。

国際文化交流演習XIII（開発途上国研修1）

3738101300100

副　題								担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3	コース・ナンバー	INR-018-GI

〔授業の到達目標〕
開発途上国の教育，国際協力活動の現場を知る・理解する

〔授業の内容〕
国際文化交流実習XIIIは，国際文化交流実習XIV（外国で実施される１週間～10日間程度の研修）を履修・参加する学生を対象にした授業です。国際協力の現状とその課題を学びます。研修実施国を訪問する前の学習により得たその国のイメージと，現地での実体験を比較しながら，開発途上国での様々な社会現象や国際協力・交流をより主体的に考察することを目指します。
平成27年度は,「開発途上国の教育」および「国際協力活動」に焦点を当てて,講義（外務省，JICA, NGO等）と演習を織り交ぜながら，授業を進めてゆきます。詳細は，夏休み前後に開催される国際文化交流実習XIIIおよびXIVのためのガイダンスで確認してください。

〔教材〕
60 Million Girls (Save the Children)をはじめとしたものは，授業内で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業内で指定される文献等に関わるレポート，受講した授業の感想等の予習・復習が必要です。およそ３～４時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕
発表　30%，レポート他課題　50%，授業への取り組み他　20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
本科目は，国際文化交流実習XIVを履修し，国際協力研修に参加する学生を対象としています（国際協力研修については国際文化交流実習XIVを参照してください）ので，履修にあたっては注意してください（＝国際協力研修に参加する学生のみ履修が認められ，単位が取得できます）。
ガイダンスを実施しますので履修希望者は必ず出席し，履修を決めてください。
ガイダンスに参加した方のみ履修が認められます。
最少催行人数：５名

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　ワークショップ
第３週　60 Million Girls　（１）
第４週　60 Million Girls　（２）
第５週　「教育」に関わる発表　（１）
第６週　教育についての講義・ワークショップ
第７週　国際協力機構（JICA）講義
第８週　「教育」に関わる発表　（２）
第９週　NGOに関わる講義（１）
第10週　NGOについての発表
第11週　NGOに関わる講義（２）
第12週　NGOについての発表
第13週　研修実施国に関わる講義
第14週　リスク管理
第15週　まとめ

国際文化交流演習XIV（開発途上国研修2）

3738101400100

副　題								担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	INR-019-GI

〔授業の到達目標〕
開発途上国を訪問し，国際協力の現場を知る

〔授業の内容〕
グローバリゼーション，NGO，ボランティア，国際援助・協力・交流という言葉は，その実体よりもイメージだけが先行していることが多い。つまり，多くの人は，テレビ・新聞などのマスメディアを通して，こうした国際化の時流や現象，国際協力の組織や活動に関する漠然としたイメージと興味は持つ。しかしながら，その明確な意義，成果，そして自分との関連付け（参加）について考える際に，それを判断すべき，主体的かつ有効な術を有していないということが多い。

こうした問題の解決の１つとして，講義による机上の学習と，自らの主体的な実体験をあわせたもの（＝より自分の身近な事象，活動として位置づける）が，本実習である。本実習に参加することにより，より鮮明な問題認識とその問題解決法を模索することへと繋がるはずである。

本実習では，開発途上国を訪問し，人々と交流しながら，政府・NGO等の援助事業の実態に触れる機会を提供する。研修実施国への渡航前の事前学習として，当該国に関する知識（歴史・政治・社会等，言語，国際援助，NGO等）を学ぶ。事前学習による当該国のイメージと，現地での実体験を比較しながら，実習参加者一人一人に，開発途上国での様々な社会現象や国際協力・交流をより主体的に考察・体験してもらうことが，本実習の最大の目的である。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
国際文化交流演習XIII（開発途上国研修１）と並行して，現地での活動のための準備が必要になります。

〔成績評価の方法〕
研修実施国への渡航前・現地・渡航後でのそれぞれの活動・課題への取り組みを総合的に評価

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日お昼休み
メール

〔備考〕
本科目は，国際文化交流実習XIIIを履修する学生を対象としていますので，履修にあたっては注意してください（＝国際文化交流実習XIIIを履修する学生のみ履修が認められ，単位が取得できます）。ガイダンスを実施しますので，必ず参加して下さい。研修の詳細は７月中に説明会を実施します。
最少催行人数：５名

〔授　業　計　画〕

２月上旬に訪問国で実施

生活文化演習I（染色）

3753100100100

副　題								担　当　者	佐久間　敏子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-001-GJ

〔授業の到達目標〕

日本の伝統工芸として現代に継承されている染色について，その歴史や技法を知り，作品制作することでより理解を深めることができる。

〔授業の内容〕

染色の基礎的知識についての講義。より理解を深めるため沖縄の伝統工芸「紅型」によるテーブルセンターの制作を指導する。

〔教材〕

授業時にプリント配布。紅型図録。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布プリントに目を通し，各自制作進度の確認をしておく。

〔成績評価の方法〕

提出作品（50%）理解度の確認（40%）作品鑑賞レポート（10%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語を除く）

〔授　業　計　画〕

第１週　染色についての歴史・種類
第２週　紅型についての歴史・種類
第３週　紅型の用具・用布について
第４週　紅型の型紙について（型置）
第５週　豆汁・染液について（地入れ）
第６週　色差しの方法について（色差し）
第７週　〃
第８週　くまどりについて（色差し）
第９週　〃
第10週　仕上げの方法について（色差し）
第11週　仕上げの方法について（水元）
第12週　現代の染色について（水元）
第13週　現代の染色について（仕上げ）
第14週　作品の講評
第15週　まとめと解説

生活文化演習II（刺繍）

3753100200100

副　題								担　当　者	佐久間　敏子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	3	コース・ナンバー	LIF-002-GJ

〔授業の到達目標〕

仏教伝来と共に伝えられたという日本刺繍について，その歴史や技法を知り，実技を通してより理解を深めることができる。

〔授業の内容〕

日本刺繍の基礎的知識についての講義。絹布・絹糸を使い，伝統模様の梅や桜の花の刺繍方法を指導する。

〔教材〕

授業時にプリント配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

配布プリントに目を通し，各自制作進度の確認をしておく。

〔成績評価の方法〕

提出作品（50%）理解度の確認（40%）作品鑑賞レポート（10%）により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　刺繍についての歴史・種類
第２週　用具について（台張りの準備）
第３週　台張りについて（台張りをする）
第４週　針の種類・扱い方（木綿糸での練習）
第５週　糸の種類・扱い方（糸縒りの練習）
第６週　面の表現について（梅の花びらの縒り糸の繍切り）
第７週　〃
第８週　厚みの表現について（梅の花びらの肉入れ）
第９週　平糸の扱い方について（梅の花びらの平糸の繍切り）
第10週　〃
第11週　平糸の扱い方について（桜の花びらの平糸の繍切り）
第12週　線の表現について（唐草のまつい繍）
第13週　点の表現について（花びらの中央に相良繍）
第14週　仕上げについて
第15週　まとめと解説

生活文化演習V（空間造形）

3753100500100

副　題	製図の基礎と住空間の設計	担　当　者	渡邊　保弘　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	DES-005-GJ

〔授業の到達目標〕

住いへの理解は，自らが設計を行うことが一つの有力な方法である。このためには，住まいの空間を的確に表現する技術を身につけることが必須となる。本演習は建築図面の基本的な表現技術を体得し，個々の住まいのあるべき形（家庭に於ける社会性を含む）を考え，その形を図面化する事を目標とする。

〔授業の内容〕

本演習では，その目標に対し下記の課題を行ない，その他建築および建築家を調べレポートを提出する。

1．製図について：製図道具の扱い方，線の引き方の基本から始め，基本となる住宅設計図面（平面図，立面図，断面図，配置図，詳細図）の読み取り方と描き方，プレゼンテーションの技術を図面のトレースを通して学び，住宅の空間構成を理解する。

2．設計１：メゾネット形式住宅のインテリアを独自に立案する（平面計画）。

3．設計２：ル・コルビジェの代表作の一つとして名高い集合住宅ユニテ・ダビタシオン（マルセイユ）を学び，その二層になった空間が使用出来るメゾネット形式住宅の改装計画を立案する（平面計画）。

〔教材〕

基本的な講義および演習資料を実習中に配布し，補完的なものについてはその都度指示をする。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

実習中に配布する演習資料の熟読，デザイン実習や改装計画作成実習の試作検討等が授業外の予習・復習として求められる。それぞれ週２～４時間程度。

〔成績評価の方法〕

提出された設計課題およびレポートの評価，設計プロセス（いかに試行錯誤したか，デザインポリシーが明確かを演習時に個々のエスキース，スケッチより確認する），出席を含めた総合評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

現代の住宅では失われつつある日本の伝統的住居についても学習したい。

〔授　業　計　画〕

第１週　建築，建築家，基本的設計技術／講義
第２週　基本図のトレースで学ぶ住宅設計／実技
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　メゾネット形式集合住宅のデザイン／講義，実技
第７週　メゾネット形式集合住宅のデザイン／実技
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　ユニテ・ダビタシオンと改装計画／講義，実技
第12週　ユニテ・ダビタシオンと改装計画／実技
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

演習室の蔵書の閲覧や住宅展示場の訪問などで，多くの建物に接し知見を広めて実習に取り組んでもらいたい。

生活文化演習VI（空間造形）

3753100600100

副　題	空間の立体表現と住宅設計							担　当　者	渡邊　保弘　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	4	コース・ナンバー	DES-006-GJ

〔授業の到達目標〕

住いへの理解は，自らが設計を行うことが一つの有力な方法である。このためには，住まいの空間を的確に表現する技術を身につけることが必須となる。本演習は生活文化実習V（空間造形）で習得した諸事項を基礎として，住空間についての理解を深めるとともに，現代の都市および郊外に於ける住まいの差を考察しながら，個々が思考する住居空間の実作をめざす。

〔授業の内容〕

秋学期を通じて一戸建ての住宅の設計（主に平面計画）を行ないながら，空間表現に不可欠な立体表現の方法（透視図法・パース）や色彩計画（カラーコーディネイト）の基礎を学び，最終的にはそれらの表現を取り入れた住宅設計を課題として提出する。

〔教材〕

実習中に配布あるいは指示をする。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

実習中に配布する演習資料の熟読，設計演習の試作検討が授業外の予習・復習として求められる。それぞれ週２～４時間程度。

〔成績評価の方法〕

提出された課題およびレポートの評価，設計プロセス（いかに試行錯誤したか，デザインポリシーが明確か），出席を含めた総合評価。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

現代の住宅では失われつつある日本の伝統的住居について,その歴史的変遷や伝統的な設計システムについての講義を行う。生活文化実習V(空間造形)に続けて履修することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　住宅設計（秋学期を通じて徐々に考えていく）／講義
第２週　〃／実技
第３週　〃
第４週　〃／実技，　併せて色彩設計（カラーコーディネイト）／講義
第５週　〃／実技，　〃／実技
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃／実技，　併せて透視図法（パース）／講義
第13週　〃／実技，　〃／実技
第14週　〃
第15週　〃
実習室の蔵書の閲覧や住宅展示場の訪問などで，多くの建物に接し知見を広めて実習に取り組んでもらいたい。

ボランティア演習

3754100100100

副　題	国際協力ＮＧＯでボランティアを体験する	担　当　者	野口　朝夫　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	VOL-001-GK

〔授業の到達目標〕

５年前の東日本大震災に際しては，NGO，NPOが現地で様々な活動を展開した。このような災害，戦争などの緊急支援活動などを通じ，また世界の困難な環境に生きる人々への支援などで話題になるNGO（Non-Governmental Organizations）＝　非政府組織だが，日本では社会のセクターとして認知されてまだ日が浅く，その幅広い活動や考え方は，充分には知られていない。そこで，長くラオスで識字教育分野の協力支援を続けている「特定非営利活動法人ラオスのこども」の活動を，実際にボランティアとして体験することを通じ，NGOとは何か，何を目的としているのか，どのような活動をしているのかなどを学ぶ。

〔授業の内容〕

NGOの活動分野やさまざまな考えなどを講義で学んだ上で，「ラオスのこども」東京事務所などでの業務補助体験，イベント参加などを体験し，さらに自らがボランティアとして担う学内でのイベントプログラムを企画立案し実施する。

この授業は，教室での講義と学外での活動により構成される。学外での授業は，一回に約２コマ分の時間をかけるものとする。詳細なスケジュールは第１回の授業時に説明をおこなう。履修を希望している学生は必ず出席すること。欠席の場合は履修できない。

〔教材〕

教材は用いない。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ボランティアの活動記録を毎回つけ，活動を考察する。

学内イベントの準備は，担当に応じ，授業時間外に各自積極的におこなう。

〔成績評価の方法〕

・授業への参加態度　70%　学期末レポート　10%　イベント企画への参加姿勢　20%　の割合で評価をおこなう。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Email　asawo.noguchi●nifty.com（change ● to @）

〔備考〕

受講者は，授業への積極的参加が求められる。そのため，ボランティア活動に関心が深いことを前提とする。実習は日曜日など，曜日と時間を変えておこなわれることがある。また，春学期の「ボランティア論I」とともに，本授業を選択することが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　ボランティアって何か　ボランティアの意味を考える　講義
第２週　さまざまなNGO活動を知る　講義
第３週　学外でのボランティア体験と学内イベントの企画および準備
　　以降，毎週定期的に実習をおこなうとは限らない
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　学内イベントを企画し，実施する
第15週　活動をふり返る　講義

授業計画は，変更になることがある。学内での講義以外は，大田区西馬込にある特定非営利活動法人ラオスのこども事務所やイベント会場など，学外にて実務体験をおこなう。その際の交通費などの経費は自己負担となる。

社会儀礼演習

3754100200100

副　題	社会人として必要なマナー知識や作法を学ぶ	担　当　者	明石　伸子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4	コース・ナンバー	CAR-202-GK

〔授業の到達目標〕

この授業は，マナーの基礎知識を総合的に学習することで，日本人として社会人として自信がもてるようになることを目標としています。また，実習を通じて美しい所作ができるようにするとともに，好感度を高めてより美しく輝く女性を育てます。

〔授業の内容〕

礼儀や作法を身につけることは社会人として必要なだけでなく，より魅力的な女性になるために大切な要素です。さらに国際化に伴い，外国人と接する機会も増える今後，「プロトコール(外交儀礼）の基本」についてもぜひ知っておいて欲しいものです。具体的には社会人として大切なビジネスマナー，食事のいただき方，人づき合いに不可欠な冠婚葬祭のしきたり，日本人として知っておいて欲しい年中行事などをトータルで学習します。また，相手を大切にする心を上手に伝えるための所作や立ち居振る舞いのポイントについても確認します。

マナーは一見堅苦しいもののように思われるかもしれませんが,むしろ知っていると便利で，自分自身をより美しく輝かせてくれるものです。また，よりよい人間関係を築くために必要なコミュニケーションスキルの要素もあります。社会に出る前に，トータルなマナーの知識を確認するのがこの授業の内容です。

〔教材〕

教科書：特定非営利活動法人日本マナー・プロトコール協会『改訂版「さすが！」といわせる大人のマナー講座』第1版第17刷版，株式会社ＰＨＰ研究所

指定のテキストで学習します。「改訂版」の最新版を購入してください。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業範囲の内容について事前にテキストを確認してきてください。

〔成績評価の方法〕

出席と授業態度（50%），２回の小テスト（20%），期末テスト（30%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション　～礼儀や作法，プロトコールとは何か，お辞儀の練習～
第２週　好感度を高めるポイント　～第一印象の重要性，印象を決定する要素について～
第３週　自己の印象を高める　～自己紹介の仕方，笑顔，歩き方，姿勢，話し方を確認する～
第４週　言葉遣いと話し方の確認　～正しい敬語や丁寧な話し方～
第５週　外国の習慣について知る　～プロトコールの原則，席次，国旗，握手，異文化を知る～
第６週　和食の作法　～DVD視聴後知識の確認，正しい箸使い，忌み箸などの確認～
第７週　洋食のテーブルマナー　～DVD視聴後知識の確認，カトラリーの使い方などの確認～
第８週　手紙の書き方とビジネス文書　～手紙の形式，正式な手紙を書いてみる～
第９週　ビジネスマナー　～社会人意識，訪問やお付き合いの仕方，名刺交換，来客応対など～
第10週　通過儀礼とは何か　～帯祝いから長寿の祝いまでの知識の確認～
第11週　結婚のしきたりとパーティの種類　～知識の確認，祝儀袋とふくさの使い方など～
第12週　葬儀のしきたりと贈答のしきたり　～知識の確認，不祝儀袋，焼香の仕方など～
第13週　日本の年中行事　～四季折々の日本に伝わる祭礼の種類，神社の参拝の仕方など～
第14週　授業の総括　～理解度の確認～
第15週　授業の総括　～まとめ～

共通科目（外国語）

平成 28 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

共通科目（外国語）　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 日文	配当年次 国コミ	配当年次 英コミ	学期		単位	担当者	頁
外国語科目1群	BASIC LISTENING A		ENG-101-GL	−	−	1	春		2	岩﨑　光洋	676
	BASIC LISTENING B		ENG-102-GL	−	−	1	春		2	伊藤　直美	677
	BASIC LISTENING C		ENG-103-GL	−	−	1	春		2	C．ウィン	678
	BASIC LISTENING D		ENG-104-GL	−	1	−	春		2	岩﨑　光洋	679
	BASIC LISTENING E		ENG-105-GL	−	1	−	春		2	伊藤由紀子	680
	BASIC LISTENING F		ENG-106-GL	−	1	−	春		2	伊藤由紀子	681
	BASIC LISTENING G	Listening parctice for the TOEIC	ENG-107-GL	−	1	−	春		2	古庄　信	682
	BASIC LISTENING H	英国現代文化に耳をすませば	ENG-108-GL	−	1	−	春		2	石渡　忠大	683
	BASIC LISTENING I	英語リスニング力の向上	ENG-109-GL	−	1	−	春		2	成田　奈央	684
	BASIC LISTENING J		ENG-110-GL	−	1	−	春		2	坂本　裕子	685
	BASIC LISTENING K	英語リスニング力の向上	ENG-111-GL	−	1	−	春		2	成田　奈央	686
	BASIC LISTENING L		ENG-112-GL	1	−	−	春		2	水谷　利美	687
	BASIC LISTENING M		ENG-113-GL	1	−	−	春		2	W．トング	688
	BASIC LISTENING N		ENG-114-GL	1	−	−	春		2	渡辺　幸俊	689
	BASIC LISTENING O		ENG-115-GL	1	−	−	春		2	渡辺　幸俊	690
	BASIC LISTENING P		ENG-116-GL	1	−	−	春		2	大石美恵子	691
	BASIC LISTENING Q		ENG-117-GL	1	−	−	春		2	大石美恵子	692
	NEWS LISTENING A		ENG-118-GL	−	−	1		秋	2	岩﨑　光洋	693
	NEWS LISTENING B		ENG-119-GL	−	−	1		秋	2	伊藤　直美	694
	NEWS LISTENING C		ENG-120-GL	−	−	1		秋	2	C．ウィン	695
	NEWS LISTENING D		ENG-121-GL	−	1	−		秋	2	岩﨑　光洋	696
	NEWS LISTENING E	英語リスニング能力の向上	ENG-122-GL	−	1	−		秋	2	伊藤由紀子	697
	NEWS LISTENING F	英語リスニング能力の向上	ENG-123-GL	−	1	−		秋	2	伊藤由紀子	698
	NEWS LISTENING G	Listening practice with BBC news	ENG-124-GL	−	1	−		秋	2	古庄　信	699
	NEWS LISTENING H	BBCニュースを通しての世界理解	ENG-125-GL	−	1	−		秋	2	石渡　忠大	700
	NEWS LISTENING I	英語リスニング力の向上	ENG-126-GL	−	1	−		秋	2	成田　奈央	701
	NEWS LISTENING J		ENG-127-GL	−	1	−		秋	2	坂本　裕子	702
	NEWS LISTENING K	英語リスニング力の向上	ENG-128-GL	−	1	−		秋	2	成田　奈央	703
	NEWS LISTENING L		ENG-129-GL	1	−	−		秋	2	水谷　利美	704
	NEWS LISTENING M		ENG-130-GL	1	−	−		秋	2	W．トング	705
	NEWS LISTENING N		ENG-131-GL	1	−	−		秋	2	渡辺　幸俊	706
	NEWS LISTENING O		ENG-132-GL	1	−	−		秋	2	渡辺　幸俊	707
	NEWS LISTENING P		ENG-133-GL	1	−	−		秋	2	大石美恵子	708
	NEWS LISTENING Q		ENG-134-GL	1	−	−		秋	2	大石美恵子	709
	BASIC READING A		ENG-135-GL	−	−	1	春		2	R．S．ジョーンズ	710
	BASIC READING B		ENG-136-GL	−	−	1	春		2	K．フォード	711

共通科目（外国語）　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 日文	配当年次 国コミ	配当年次 英コミ	学期		単位	担当者	頁
外国語科目1群	BASIC READING C		ENG-137-GL	−	−	1	春		2	伊藤　直美	712
	BASIC READING D		ENG-138-GL	−	1	−	春		2	A．パラスキ	713
	BASIC READING E		ENG-139-GL	−	1	−	春		2	横江百合子	714
	BASIC READING F	Reading and Improving your Vocabulary	ENG-140-GL	−	1	−	春		2	R．ジョーンズ	715
	BASIC READING G		ENG-141-GL	−	1	−	春		2	小倉　雅明	716
	BASIC READING H		ENG-142-GL	−	1	−	春		2	武富　利亜	717
	BASIC READING I		ENG-143-GL	−	1	−	春		2	P．アプス	718
	BASIC READING J		ENG-144-GL	1	−	−	春		2	式町眞紀子	719
	BASIC READING K		ENG-145-GL	1	−	−	春		2	G．ディオリオ	720
	BASIC READING L		ENG-146-GL	1	−	−	春		2	坂本　裕子	721
	BASIC READING M		ENG-147-GL	1	−	−	春		2	橋本ナターシャ	722
	BASIC READING N		ENG-148-GL	1	−	−	春		2	森　葉子	723
	READING & WRITING A		ENG-149-GL	−	−	1		秋	2	R．S．ジョーンズ	724
	READING & WRITING B		ENG-150-GL	−	−	1		秋	2	K．フォード	725
	READING & WRITING C		ENG-151-GL	−	−	1		秋	2	伊藤　直美	726
	READING & WRITING D		ENG-152-GL	−	1	−		秋	2	A．パラスキ	727
	READING & WRITING E		ENG-153-GL	−	1	−		秋	2	横江百合子	728
	READING & WRITING F		ENG-154-GL	−	1	−		秋	2	R．ジョーンズ	729
	READING & WRITING G		ENG-155-GL	−	1	−		秋	2	小倉　雅明	730
	READING & WRITING H		ENG-156-GL	−	1	−		秋	2	武富　利亜	731
	READING & WRITING I		ENG-157-GL	−	1	−		秋	2	P．アプス	732
	READING & WRITING J		ENG-158-GL	1	−	−		秋	2	式町眞紀子	733
	READING & WRITING K		ENG-159-GL	1	−	−		秋	2	G．ディオリオ	734
	READING & WRITING L		ENG-160-GL	1	−	−		秋	2	坂本　裕子	735
	READING & WRITING M		ENG-161-GL	1	−	−		秋	2	橋本ナターシャ	736
	READING & WRITING N		ENG-162-GL	1	−	−		秋	2	森　葉子	737
	SPEAKING PRACTICE A		ENG-163-GL	−	−	1	春		2	小倉　雅明	738
	SPEAKING PRACTICE B		ENG-164-GL	−	−	1	春		2	J．テスター	739
	SPEAKING PRACTICE C		ENG-165-GL	−	−	1	春		2	白川　幸子	740
	SPEAKING PRACTICE D		ENG-201-GL	−	2	−	春		2	K．フォード	741
	SPEAKING PRACTICE E		ENG-202-GL	−	2	−	春		2	R．S．ジョーンズ	742
	SPEAKING PRACTICE F		ENG-203-GL	−	2	−	春		2	P．アプス	743
	SPEAKING PRACTICE G		ENG-204-GL	−	2	−	春		2	山科美智子	744
	SPEAKING PRACTICE H		ENG-205-GL	−	2	−	春		2	横江百合子	745
	SPEAKING PRACTICE I		ENG-206-GL	−	2	−	春		2	A．パラスキ	746
	SPEAKING PRACTICE J	Let's Have Fun Speaking English Together!	ENG-207-GL	−	2	−	春		2	R．ジョーンズ	747

共通科目（外国語）　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 日文	配当年次 国コミ	配当年次 英コミ	学期		単位	担当者	頁
外国語科目1群	SPEAKING PRACTICE K		ENG-208-GL	−	2	−	春		2	式町眞紀子	748
	SPEAKING PRACTICE L		ENG-209-GL	−	2	−	春		2	矢田　陽子	749
	SPEAKING PRACTICE M		ENG-210-GL	2	−	−	春		2	藤後　仁美	750
	SPEAKING PRACTICE N		ENG-211-GL	2	−	−	春		2	谷口めぐみ	751
	SPEAKING PRACTICE O		ENG-212-GL	2	−	−	春		2	橋本ナターシャ	752
	SPEAKING PRACTICE P	The Leader in Global Communication	ENG-213-GL	2	−	−	春		2	武富　利亜	753
	SPEAKING PRACTICE Q	TOEFL Independentスピーキング形式トピック考察	ENG-214-GL	2	−	−	春		2	石渡　忠大	754
	SPEAKING PRACTICE R	Building Confidence in Speaking English	ENG-215-GL	2	−	−	春		2	森　葉子	755
	SPEAKING PRACTICE S		ENG-216-GL	2	−	−	春		2	藤後　仁美	756
	SPEAKING SKILLS A		ENG-166-GL	−	−	1		秋	2	小倉　雅明	757
	SPEAKING SKILLS B		ENG-167-GL	−	−	1		秋	2	J．テスター	758
	SPEAKING SKILLS C		ENG-168-GL	−	−	1		秋	2	白川　幸子	759
	SPEAKING SKILLS D		ENG-217-GL	−	2	−		秋	2	K．フォード	760
	SPEAKING SKILLS E		ENG-218-GL	−	2	−		秋	2	R．S．ジョーンズ	761
	SPEAKING SKILLS F		ENG-219-GL	−	2	−		秋	2	P．アプス	762
	SPEAKING SKILLS G		ENG-220-GL	−	2	−		秋	2	山科美智子	763
	SPEAKING SKILLS H		ENG-221-GL	−	2	−		秋	2	横江百合子	764
	SPEAKING SKILLS I		ENG-222-GL	−	2	−		秋	2	A．パラスキ	765
	SPEAKING SKILLS J	Let's Enjoy Speaking More and More English Together!	ENG-223-GL	−	2	−		秋	2	R．ジョーンズ	766
	SPEAKING SKILLS K		ENG-224-GL	−	2	−		秋	2	式町眞紀子	767
	SPEAKING SKILLS L		ENG-225-GL	−	2	−		秋	2	矢田　陽子	768
	SPEAKING SKILLS M		ENG-226-GL	2	−	−		秋	2	藤後　仁美	769
	SPEAKING SKILLS N		ENG-227-GL	2	−	−		秋	2	谷口めぐみ	770
	SPEAKING SKILLS O		ENG-228-GL	2	−	−		秋	2	橋本ナターシャ	771
	SPEAKING SKILLS P	The Leader in Global Communication	ENG-229-GL	2	−	−		秋	2	武富　利亜	772
	SPEAKING SKILLS Q	論理的スピーキング技術研究	ENG-230-GL	2	−	−		秋	2	石渡　忠大	773
	SPEAKING SKILLS R	Getting ready for negotiations in English	ENG-231-GL	2	−	−		秋	2	森　葉子	774
	SPEAKING SKILLS S		ENG-232-GL	2	−	−		秋	2	藤後　仁美	775
	INTENSIVE READING & WRITING A		ENG-233-GL	−	−	2	春		2	G．R．ファリア	776
	INTENSIVE READING & WRITING B		ENG-234-GL	−	−	2		秋	2	G．R．ファリア	777
	INTENSIVE READING & WRITING C		ENG-235-GL	−	2	−	春		2	水谷　利美	778
	INTENSIVE READING & WRITING D		ENG-236-GL	−	2	−		秋	2	水谷　利美	779
	INTENSIVE READING & WRITING E		ENG-237-GL	−	2	−	春		2	T．スコット	780
	INTENSIVE READING & WRITING F		ENG-238-GL	−	2	−		秋	2	T．スコット	781
	INTENSIVE READING & WRITING G		ENG-239-GL	−	2	−	春		2	W．トング	782
	INTENSIVE READING & WRITING H		ENG-240-GL	−	2	−		秋	2	W．トング	783

共通科目（外国語）　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 日文	配当年次 国コミ	配当年次 英コミ	学期		単位	担当者	頁
外国語科目1群	INTENSIVE READING & WRITING I		ENG-241-GL	−	2	−	春		2	白川　幸子	784
	INTENSIVE READING & WRITING J		ENG-242-GL	−	2	−		秋	2	白川　幸子	785
	INTENSIVE READING & WRITING K		ENG-243-GL	2	−	−	春		2	山科美智子	786
	INTENSIVE READING & WRITING L		ENG-244-GL	2	−	−		秋	2	山科美智子	787
	INTENSIVE READING & WRITING M		ENG-245-GL	2	−	−	春		2	T．スコット	788
	INTENSIVE READING & WRITING N		ENG-246-GL	2	−	−		秋	2	T．スコット	789
	INTENSIVE READING & WRITING O		ENG-247-GL	2	−	−	春		2	吉富　昇	790
	INTENSIVE READING & WRITING P		ENG-248-GL	2	−	−		秋	2	吉富　昇	791
	INTENSIVE READING & WRITING Q		ENG-249-GL	2	−	−	春		2	鈴木　美穂	792
	INTENSIVE READING & WRITING R		ENG-250-GL	2	−	−		秋	2	鈴木　美穂	793
外国語科目2群	フランス語　基礎ⅠA		FRN-101-GM	1〜			春		2	井上　美穂	794
	フランス語　基礎ⅠB		FRN-102-GM	1〜			春		2	井上　美穂	795
	フランス語　基礎ⅡA		FRN-103-GM	1〜				秋	2	井上　美穂	796
	フランス語　基礎ⅡB		FRN-104-GM	1〜				秋	2	井上　美穂	797
	フランス語　応用Ⅰ		FRN-205-GM	2〜			春		2	井上・篠原	798
	フランス語　応用Ⅱ		FRN-206-GM	2〜				秋	2	井上・篠原	799
	ドイツ語　基礎ⅠA		GER-107-GM	1〜			春		2	柿沼・小出	800
	ドイツ語　基礎ⅠB		GER-108-GM	1〜			春		2	平井・小出	801
	ドイツ語　基礎ⅡA		GER-109-GM	1〜				秋	2	柿沼・小出	802
	ドイツ語　基礎ⅡB		GER-110-GM	1〜				秋	2	平井・小出	803
	ドイツ語　応用Ⅰ		GER-211-GM	2〜			春		2	柿沼・平井	804
	ドイツ語　応用Ⅱ		GER-212-GM	2〜				秋	2	柿沼・平井	805
	イタリア語　基礎ⅠA	覚えた表現を使ってみよう	ITA-113-GM	1〜			春		2	岡田・カルーディス	806
	イタリア語　基礎ⅠB	習ったことをさっそく使ってみよう	ITA-114-GM	1〜			春		2	菅野・カルーディス	807
	イタリア語　基礎ⅡA	積極的にイタリア語で表現してみよう	ITA-115-GM	1〜				秋	2	岡田・カルーディス	808
	イタリア語　基礎ⅡB	イタリア語でたくさんコミュニケーションとってみよう	ITA-116-GM	1〜				秋	2	菅野・カルーディス	809
	イタリア語　応用Ⅰ	イタリア語基礎学力の向上	ITA-217-GM	2〜			春		2	菅野・岡田	810
	イタリア語　応用Ⅱ	イタリア語基礎学力の向上	ITA-218-GM	2〜				秋	2	菅野・岡田	811
	スペイン語　基礎Ⅰ	さあ，スペイン語を始めよう！	SPN-119-GM	1〜			春		2	木下　雅夫	812
	スペイン語　基礎Ⅱ	さあ，スペイン語を始めよう！	SPN-120-GM	1〜				秋	2	木下　雅夫	813
	スペイン語　応用Ⅰ	スペイン語でコミュニケーションしましょう！	SPN-221-GM	2〜			春		2	木下　雅夫	814
	スペイン語　応用Ⅱ	スペイン語でコミュニケーションしましょう！	SPN-222-GM	2〜				秋	2	木下　雅夫	815
	中国語　基礎ⅠA		CHN-123-GM	1〜			春		2	松本　秀士	816
	中国語　基礎ⅠB		CHN-124-GM	1〜			春		2	金野　純	817
	中国語　基礎ⅠC		CHN-125-GM	1〜			春		2	松本　秀士	818
	中国語　基礎ⅡA		CHN-126-GM	1〜				秋	2	松本　秀士	819

共通科目（外国語）　平成 28 年度授業科目および担当者

☆：隔年開講科目、※：学部研究科共同開講科目

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次 日文	配当年次 国コミ	配当年次 英コミ	学期		単位	担当者	頁
外国語科目2群	中国語　基礎ⅡB		CHN-127-GM	1～				秋	2	金野　純	820
	中国語　基礎ⅡC		CHN-128-GM	1～				秋	2	松本　秀士	821
	中国語　応用Ⅰ	基礎中国語からさらなる一歩	CHN-229-GM	2～			春		2	斉　霞	822
	中国語　応用Ⅱ	リスニング中国語	CHN-230-GM	2～				秋	2	斉　霞	823
	韓国語　基礎ⅠA	楽しく学ぶ韓国語会話	KOR-131-GM	1～			春		2	羅・申	824
	韓国語　基礎ⅠB	楽しく学ぶ韓国語会話	KOR-132-GM	1～			春		2	羅・申	825
	韓国語　基礎ⅡA	楽しく学ぶ韓国語会話	KOR-133-GM	1～				秋	2	羅・申	826
	韓国語　基礎ⅡB	楽しく学ぶ韓国語会話	KOR-134-GM	1～				秋	2	羅・申	827
	韓国語　応用Ⅰ	実践的な韓国語学習	KOR-235-GM	2～			春		2	羅・李	828
	韓国語　応用Ⅱ	実践的な韓国語学習	KOR-236-GM	2～				秋	2	羅・李	829
	日本語ⅠA	聴解力と会話力を高める	JPL-137-GM	1～			春		2	篠﨑　佳子	830
	日本語ⅠB	漢字・聴解	JPL-138-GM	1～			春		2	滝本いずみ	831
	日本語ⅠC	漢字・聴解	JPL-139-GM	1～			春		2	滝本いずみ	832
	日本語ⅡA	聴解力と会話力を高める	JPL-140-GM	1～				秋	2	篠﨑　佳子	833
	日本語ⅡB	漢字・聴解	JPL-141-GM	1～				秋	2	滝本いずみ	834
	日本語ⅡC	漢字・聴解	JPL-142-GM	1～				秋	2	滝本いずみ	835
	日本語ⅢA	日本語の読解・文法を学ぶ。日本を深く理解する	JPL-143-GM	1～			春		2	野口　直子	836
	日本語ⅢB	文法・読解	JPL-144-GM	1～			春		2	新井惠美子	837
	日本語ⅢC	文法・読解	JPL-145-GM	1～			春		2	及川千代香	838
	日本語ⅣA	日本語を通して日本を深く理解する	JPL-146-GM	1～				秋	2	野口　直子	839
	日本語ⅣB	文法・読解	JPL-147-GM	1～				秋	2	新井惠美子	840
	日本語ⅣC	文法・読解	JPL-148-GM	1～				秋	2	及川千代香	841
	日本語ⅤA	大学で学ぶために必要な日本語1	JPL-149-GM	1～			春		2	松本　祥子	842
	日本語ⅤB	発信するための日本語へ	JPL-150-GM	1～			春		2	野口　直子	843
	日本語ⅤC	書く力・話す力を高める	JPL-151-GM	1～			春		2	加藤　陽子	844
	日本語ⅥA	大学で学ぶために必要な日本語2	JPL-152-GM	1～				秋	2	松本　祥子	845
	日本語ⅥB	発信するための日本語へ	JPL-153-GM	1～				秋	2	野口　直子	846
	日本語ⅥC	書く力・話す力を高める	JPL-154-GM	1～				秋	2	加藤　陽子	847

BASIC LISTENING A

3715030100100

副　題								担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-101-GL

〔授業の到達目標〕

ナチュラルスピードの英語を「聞く」「話す」能力の育成・習得

〔授業の内容〕

時事英語，アメリカの映画・テレビ等の作品から，様々なスチュエーションのもとで話される会話の英語を聞き取り，よりナチュラルなスピードとリズムで「話す」ことができるよう，トレーニングします。毎回小テストと，スピーキングの試験を随時実施します。

〔教材〕

教科書：渡辺・岩崎『CBS News Flash On DVD』第5版，成美堂，2008年
渡辺・岩崎『Roman Holiday』第1版，南雲堂，2009年
プリント

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習：2時間　復習：2時間

〔成績評価の方法〕

小テストの成績　70%　スピーキング・テスト　30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

金曜日の4時限。アポイントメントをとること。

〔備考〕

録音の都合上，遅刻は厳禁とします。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第1週　Weather Report/ In Her Shoes
第2週　World News 1 / The War of the Roses
第3週　World News 2 / 27 Dresses
第4週　World News 3 / Las Vegas
第5週　World News 4 / Milion Dollar Arm
第6週　World News 5 / Maid of Honor
第7週　World News 6 / When Harry Met Sally
第8週　World News 7 / Love Actually
第9週　World News 8 / The Notebook
第10週　World News 9 / Negotiator
第11週　World News 10 / You've Got Mail
第12週　World News 11 / The Descendants
第13週　World News 12 / The Joy Luck Club
第14週　World News 13 / Elizabethtown
第15週　World News 14 / paper Chase
録音の都合上，遅刻は厳禁とします。

BASIC LISTENING B

3715030100200

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-102-GL

〔授業の到達目標〕

聞き取れれば言える。「今の分かった！」から始まるリスニングと
コミュニケーション力の向上を目指します。
一字一句を聞きとる作業よりも内容把握，また相手がいる場合には会話がつながるよう
リズム感のある英語を大切にする授業です。

〔授業の内容〕

interactive（対話）またnon-interactive（映画・ニュース）な題材をもとに
毎回warm up-listening and dictation-check-other activitiesを行う
アクティビティーを取り入れた，参加型クラスです。
また，トピックに応じたpresentationにもチャレンジします。

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, *Listening Advantage 4*, CENGAGE Learning

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ただ聞くばかりでなく，トピックについての会話・スピーチ・映像について
"What do you think?"意見が求められます。テキストに目を通し，
トピックについて考えてくること。苦手な「音」を意識して予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction & Guidance
第 2 週　Unit01: Learning a language (In order to)
　　Unit01: Learning a language (I think)
第 3 週　Unit02: Education for life (I guess)
　　Unit02: Education for life (What do you mean?)
第 4 週　Unit03: Attitudes toward work (I just want to)
　　Unit03: Attitudes toward work (It sounds like)
第 5 週　Unit04: Hobbies (I'd love to)
　　Unit04: Hobbies (What's the word?)
第 6 週　Review and check
　　Unit05: Reading (Please be sure to)
第 7 週　Unit06: Consumerism (Sorry to interrupt)
　　Unit06: Consumerism (It's difficult to)
第 8 週　Unit07: Ideal partner (Hopefully)
　　Unit07: Ideal partner (So you mean)
第 9 週　Unit08: Co-workers (There's no need to)
　　Unit08: Co-workers (Definitely)
第10週　Unit09: Historic figures (I was wondering if)
　　Unit09: Historic figures (--or something)
第11週　Unit10: Globalization (on the other hand)
　　Unit10: Globalization (let me finish)
第12週　Unit11: Earth's resources (one of my concern is)
　　Unit11: Earth's resources (right, right, right)
第13週　Unit12: Discovery (especially)
　　Unit12: Discovery (Changing the word)
第14週　Presentation
第15週　Review and check
各週のunitは授業の進度，時のニュースにより変動することがあります。

BASIC LISTENING C

3715030100300

副　題								担　当　者	C．ウィン　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/水	時限	4/4	コース・ナンバー	ENG-103-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, *Listening Advantage*, (ISBN: 978-1424002443) Heinle Cengage, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance & Participation 30%, Homework 40%, Test 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Language Learning
第３週　Education
第４週　Work Attitudes
第５週　Hobbies
第６週　Reading
第７週　Consumerism
第８週　Comprehension Exercises
第９週　Life Partner
第10週　Co-workers
第11週　Historic Figures
第12週　Globalization
第13週　Earth Resources
第14週　Discovery
第15週　Comprehension Exercises

BASIC LISTENING D

3715030100400

副　題								担　当　者	岩﨑　光洋　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-104-GL

〔授業の到達目標〕
ナチュラルスピードの英語を「聞く」「話す」能力の育成・習得

〔授業の内容〕
時事英語，アメリカの映画・テレビ等の作品から，様々なスチュエーションのもとで話される会話の英語を聞き取り，よりナチュラルなスピードとリズムで「話す」ことができるよう，トレーニングします。毎回小テストと，スピーキングの試験を随時実施します。

〔教材〕
教科書：渡辺・岩崎『CBS News Flash On DVD』第5版，成美堂，2008年
渡辺・岩崎『Roman Holiday』第1版，南雲堂，2009年
プリント

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習 2 時間　復習 2 時間

〔成績評価の方法〕
小テストの成績　70%　スピーキング・テスト　30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
金曜 4 限　事前のメールでのアポが必要
授業中にメールアドレスを知らせます

〔備考〕
録音の都合上，遅刻は厳禁とします。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Weather Report/ In Her Shoes
第 2 週　World News 1 / The War of trhe Roses
第 3 週　World News 2 / 27 Dresses
第 4 週　World News 3 / Las Vegas
第 5 週　World News 4 / Miion Dollar Arm
第 6 週　World News 5 / Maid of Honor
第 7 週　World News 6 / When Harry Met Sally
第 8 週　World News 7 / Love Actually
第 9 週　World News 8 / The Notebook
第10週　World News 9 / Negotiator
第11週　World News 10 / You've Got Mail
第12週　World News 11 / The Descendants
第13週　World News 12 / The Joy Luck Club
第14週　World News 13 / Elizabethtown
第15週　World News 14 / paper Chase
録音の都合上，遅刻は厳禁とします。

BASIC LISTENING E

3715030100500

副　題								担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-105-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：深山晶子　村尾純子他『Insights 2016』金星堂，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了できなかった部分のディクテーションおよびその内容把握が復習，宿題です。

〔成績評価の方法〕

単語テスト40%，発表　15%，モニタリング　15%，ノート　10%，試験　10%，授業への取り組み　10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日お昼休み
メール

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Delicious "Tan-i"
第 2 週　Silver Workforce
第 3 週　Beauty Differs
第 4 週　Mobile Networks Yielding New Business
第 5 週　Potential of Music
第 6 週　About That Controversial Black Drink
第 7 週　Kids Cooking
第 8 週　Wired Wirelessly to Tourists
第 9 週　Japanese Barbershop Finds Success in Vietnam
第10週　Times Gone By?
第11週　Helpful or Harmful?
第12週　Encounter with a Genius
第13週　Facing a Choice
第14週　"Bug Hunters" Wanted
第15週　Advice for Child-Rearing Fathers

BASIC LISTENING F

3715030100600

副　題								担　当　者	伊藤　由紀子　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-106-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：深山晶子　村尾純子他『Insights 2016』金星堂，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了できなかった部分のディクテーションおよびその内容把握が復習，宿題です。

〔成績評価の方法〕

単語テスト40%，発表　15%，モニタリング　15%，ノート　10%，試験　10%，授業への取り組み　10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日お昼休み

メール

〔授　業　計　画〕

第１週　Delicious "Tan-i"
第２週　Silver Workforce
第３週　Beauty Differs
第４週　Mobile Networks Yielding New Business
第５週　Potential of Music
第６週　About That Controversial Black Drink
第７週　Kids Cooking
第８週　Wired Wirelessly to Tourists
第９週　Japanese Barbershop Finds Success in Vietnam
第10週　Times Gone By?
第11週　Helpful or Harmful?
第12週　Encounter with a Genius
第13週　Facing a Choice
第14週　"Bug Hunters" Wanted
第15週　Advice for Child-Rearing Fathers

BASIC LISTENING G

3715030100700

副　題	Listening Parctice for the TOEIC							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-107-GL

〔授業の到達目標〕

授業をとおしてリスニング力を強化する

〔授業の内容〕

テキストや副教材をとおして，「英語を聴く」ための基礎～応用練習を行う。Listening skill（聴く力）をアップするためには，ただ「聴く」だけでは不十分である。「聞こえたとおりに」すぐ復唱する(shadowing)練習と「聞こえてもスペルが頭に浮かばない単語」を減らしていく(vocabulary developing)練習，さらに「聞こえない音を文法的に補う練習(grammar supporting)をバランスよく行うことでリスニング力を向上していく。

〔教材〕

教科書：Satoko Eguma, Yasuyuki Nomura, Yoshinaga Tanihara, *Listening Navigator for the TOEIC TEST*, 成美堂, 2006

テキストはTOEICのリスニング４部門(Part 1～Part 4)における強化を図るよう編纂されている。また受講生が単なるTOEIC練習で終わることなく，日常生活から環境，旅行，社会問題と幅広い分野でのトピックが題材として取り入れられている。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に各２時間を要する

〔成績評価の方法〕

主として毎回の授業終了時に提出してもらうワークシートの成績で評価する(50%)が，課題のノート提出(30%)や遅刻，授業態度等(20%)も評価の対象とする。また学期中にTOEICを受験し，相当のスコアを獲得したものにはさらにボーナス点を加算する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

テキストは第２回の授業までに必ず購入しておくこと。英英辞書(Longman or Oxford)必携

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンスとTOEIC模試による実力把握
第２週　Unit 1
第３週　Unit 2
第４週　Unit 3
第５週　Unit 4
第６週　Unit 5
第７週　Unit 6
第８週　Unit 7
第９週　Unit 8
第10週　Unit 9
第11週　Unit 10
第12週　Unit 11
第13週　Unit 12
第14週　Unit 13
第15週　Unit 14

BASIC LISTENING H

3715030100800

副　題	英国現代文化に耳をすませば							担　当　者	石渡　忠大　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-108-GL

〔授業の到達目標〕

1）基礎的英語会話文の内容理解，2）基礎的英語会話文にて使用される語彙の習得，3）基礎的英語会話文を使っての会話練習，4）パッセージリスニング対処法習得，5）パッセージリスニングに含まれる語彙の習得，および6）英国現代文化への興味醸造

〔授業の内容〕

英国現代文化の学習への理解を通して，主題に対する興味を醸造し，その興味に基づいて，基礎的な会話文リスニングおよびパッセージ文理解への技術を身につける。使用する文化側面材料は，現代英国の生活で日常的に話題にされる材料。単なるリスニング能力の向上のみならず，「耳からの英国文化知識」として利用できるものである。

〔教材〕

教科書：Paul Chris McVay, 川田伸道『Let's Check Out the UK』初版，金星堂，2015年

第3週を超えて教科書を入手しない場合，3週連続で教科書を持ってくることを忘れた学生は欠席扱いとする。毎週，関連動画を利用し，リスニング応用力を身につける。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前週使用した語彙学習と，パッセージ文復習（授業における毎週の理解度確認のため）

〔成績評価の方法〕

出席5分の4以上，中間テストおよび期末テスト成績6割以上を満たす者を単位取得者とする。パッセージ文小テスト，語彙テスト結果も付加的に考慮。出席5分の4以上を満たした学生のみ，期末試験を受ける資格を有する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール（大学により発行され次第提示）

〔授　業　計　画〕

第1週　授業オリエンテーション
第2週　I Can't Wait to Explore Britain!
「イギリス」は英語で何て言う？
第3週　How about Going to a Pub?
パブカルチャーと飲酒問題
第4週　The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?
ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方
第5週　This Is a Multi-Ethnic Country
多民族社会イギリス
第6週　What's It Like Being a Student in the UK?
大学生でいるのも楽じゃない！
第7週　Mmm... It Sounds Too Risky
賭けてみる？　ブックメーカーの行く末は
第8週　理解度の確認
第9週　You Should Try Fish and Chips!
多彩で美味しい！　イギリス料理
第10週　It's Fun Listening to Different Accents
８月のエディンバラ
第11週　Do You Fancy Something Sweet?
そのチョコレート，原料はどこから？
第12週　I'm Looking forward to Seeing Wales!
ウェールズ語とチャールズ皇太子
第13週　Don't You Know that UK Designs Are Popular?
カッコイイだけにあらず，ブリティッシュ・スタイル
第14週　Would You Like to See a Play?
英語は詩人シェイクスピアに学べ
第15週　That's the Great Thing about Travel!
変わりゆくイギリス王室

BASIC LISTENING I

3715030100900

副　題	英語リスニング力の向上							担　当　者	成田　奈央　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	3/2	コース・ナンバー	ENG-109-GL

〔授業の到達目標〕
語彙や表現を増やし，友人・家族との会話，ビジネス会話，テレビ・ラジオの放送，アナウンスなど，様々な場面・状況で話される英語を理解するリスニング力を高めること。

〔授業の内容〕
この授業では，リスニング力を身に付けることを主眼に学んでいきます。そのために，多くの会話やトークを聞き，ディクテーション（書き取り）も行います。日常生活にまつわる，興味深いトピックに関し，実際の会話にすぐ活かせる英語表現が紹介されている教材を用いながら，ナチュラルスピードで話される英語に慣れていきましょう。TOEICのリスニング問題も，毎回ミニテスト形式で取り入れていきます。
また，リスニング力だけでなく，スピーキング力の向上にも取り組みます。教材をお手本に，同じ発音，リズム，スピードで話すことが出来る様，練習を重ねていきます。そしてその中で会話表現の習得を目指します。

〔教材〕
教科書：Jack C. Richards with Grant Trew, *Tactics for Listening Developing*, 3rd Edition, Oxford, 2010
Takayuki Ishii, Osamu Yamaguchi, Masahiko Iwata, Ayami Murakami, Joe Ciunci, *Listening Explorer for the TOEIC Test*, Seibido, 2016

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習では，テキストの中で分からない英単語があれば，それらの意味を予め調べておいて下さい。
復習では，授業で使用した音声教材をUSBメモリーに保存し，その音声教材を用いて，授業で行ったエクササイズやディクテーション，スピーキング練習などに繰り返し取り組んで下さい。
リスニング力を高めるために，とりわけ復習に力を入れて頂きたいと考えます。

〔成績評価の方法〕
授業態度（30%），発表（15%），課題（15%），テスト（40%）により総合的に評価します。
日頃の努力（授業に取り組む姿勢，発表に一生懸命準備をして臨んでいるか，課題に真面目に取り組み，期日に提出しているか）を重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日・木曜日の10時から15時は，お教室または講師控え室におります。或いは，授業の前や後に，お教室でお声掛け下さい。メールアドレスは，必要に応じてお知らせ致しますので，まずは直接お話下さるか，サポートセンターを通じてご連絡下さい。

〔備考〕
パソコンを使っての授業となります。大学から教えられたログイン用のパスワードを忘れずにお持ち下さい。また，初回から毎回USBメモリーを使用しますので，必ずお持ち下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit 1 The Weekend
　　Unit 2 City Transportation
第２週　Unit 3 Neighbors
　　Unit 4 Celebrations
第３週　Unit 5 Restaurants
　　Unit 6 Gifts
第４週　Unit 7 Air Travel
　　Unit 8 Mishaps
第５週　Review (Units 1-8)
第６週　Unit 9 Jobs
　　Unit 10 Keeping Fit
第７週　Unit 11 Invitations
　　Unit 12 Campus Life
第８週　Unit 13 Hobbies and Pastimes
　　Unit 14 Shopping Problems
第９週　Unit 15 Hotel Services
　　Unit 16 Movies
第10週　Review (Units 9-16)
第11週　Unit 17 Fears
　　Unit 18 Phone Messages
第12週　Unit 19 Touring a City
　　Unit 20 Airports
第13週　Unit 21 Hotels
　　Unit 22 Traffic
第14週　Unit 23 Roommates
　　Unit 24 Travel
第15週　Review (Units 17-24)

BASIC LISTENING J

3715030101000

副　題								担　当　者	坂本　裕子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-110-GL

〔授業の到達目標〕

日常会話から必要な情報を聞き出し，短い会話ができるように目指します。

〔授業の内容〕

リスニング能力を養成するため，キャンパス内での学生の会話を聞き取ります。音声から情報を聞き取り，内容を把握し，発声練習を行います。毎回，口頭練習を行った後，発表をしてもらいます。

〔教材〕

教科書：西蔭浩子　他, *Campus English*, センゲージラーニング, 2014

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として単語調べを行い，全体に目を通す。
復習では必ず聞き直し，口頭発表するために暗唱できるよう練習してください。

〔成績評価の方法〕

小テスト・試験・発表・出席状況を基に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第1週　ガイダンス
第2週　Unit 1
第3週　Unit 2
第4週　Unit 3
第5週　Unit 4
第6週　Unit 5
第7週　Unit 6
第8週　Review 1
第9週　Unit 7
第10週　Unit 8
第11週　Unit 9
第12週　Unit 10
第13週　Unit 11
第14週　Unit 12
第15週　Review 2

BASIC LISTENING K

3715030101100

副　題	英語リスニング力の向上							担　当　者	成田　奈央　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/3	コース・ナンバー	ENG-111-GL

〔授業の到達目標〕
語彙や表現を増やし，友人・家族との会話，ビジネス会話，テレビ・ラジオの放送，アナウンスなど，様々な場面・状況で話される英語を理解するリスニング力を高めること。

〔授業の内容〕
この授業では，リスニング力を身に付けることを主眼に学んでいきます。そのために，多くの会話やトークを聞き，ディクテーション（書き取り）も行います。日常生活にまつわる，興味深いトピックに関し，実際の会話にすぐ活かせる英語表現が紹介されている教材を用いながら，ナチュラルスピードで話される英語に慣れていきましょう。TOEICのリスニング問題も，毎回ミニテスト形式で取り入れていきます。
また，リスニング力だけでなく，スピーキング力の向上にも取り組みます。教材をお手本に，同じ発音，リズム，スピードで話すことが出来る様，練習を重ねていきます。そしてその中で会話表現の習得を目指します。

〔教材〕
教科書：Jack C. Richards with Grant Trew, *Tactics for Listening Developing*, 3rd Edition, Oxford, 2010
Takayuki Ishii, Osamu Yamaguchi, Masahiko Iwata, Ayami Murakami, Joe Ciunci, *Listening Explorer for the TOEIC Test*, Seibido, 2016

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習では，テキストの中で分からない英単語があれば，それらの意味を予め調べておいて下さい。
復習では，授業で使用した音声教材をUSBメモリーに保存し，その音声教材を用いて，授業で行ったエクササイズやディクテーション，スピーキング練習などに繰り返し取り組んで下さい。
リスニング力を高めるために，とりわけ復習に力を入れて頂きたいと考えます。

〔成績評価の方法〕
授業態度（30%），発表（15%），課題（15%），テスト（40%）により総合的に評価します。
日頃の努力（授業に取り組む姿勢，発表に一生懸命準備をして臨んでいるか，課題に真面目に取り組み，期日に提出しているか）を重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日・木曜日の10時から15時は，お教室または講師控え室におります。或いは，授業の前や後に，お教室でお声掛け下さい。メールアドレスは，必要に応じてお知らせ致しますので，まずは直接お話下さるか，サポートセンターを通じてご連絡下さい。

〔備考〕
パソコンを使っての授業となります。大学から教えられたログイン用のパスワードを忘れずにお持ち下さい。また，初回から毎回USBメモリーを使用しますので，必ずお持ち下さい。

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit 1 The Weekend
　　Unit 2 City Transportation
第２週　Unit 3 Neighbors
　　Unit 4 Celebrations
第３週　Unit 5 Restaurants
　　Unit 6 Gifts
第４週　Unit 7 Air Travel
　　Unit 8 Mishaps
第５週　Review (Units 1-8)
第６週　Unit 9 Jobs
　　Unit 10 Keeping Fit
第７週　Unit 11 Invitations
　　Unit 12 Campus Life
第８週　Unit 13 Hobbies and Pastimes
　　Unit 14 Shopping Problems
第９週　Unit 15 Hotel Services
　　Unit 16 Movies
第10週　Review (Units 9-16)
第11週　Unit 17 Fears
　　Unit 18 Phone Messages
第12週　Unit 19 Touring a City
　　Unit 20 Airports
第13週　Unit 21 Hotels
　　Unit 22 Traffic
第14週　Unit 23 Roommates
　　Unit 24 Travel
第15週　Review (Units 17-24)

BASIC LISTENING L

3715030101200

副　題								担　当　者	水谷　利美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-112-GL

〔授業の到達目標〕

様々な場面で話される英語を理解できるよう，語彙力を強化し，リスニング・スキルを向上させることを目標とします。

〔授業の内容〕

リスニングのコツや発音・会話のストラテジーなどを押さえながら，会話，ブロードキャスト，アナウンスなど様々なタイプのリスニング練習を行います。テキストにあるタスクのほか，ディクテーション，シャドーイングによる発話練習，ペアになっての対話練習なども加えます。

〔教材〕

教科書：Tom Kenny, Tamami Wada, *Listening Advantage 4*, 1st Edition, Cengage Learning, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としてはテキスト記載のWarm-upやBefore You Listenの問題を行う。復習としては，テキストのSelf-Study unitsの問題を行う他，配布するscriptを読んで内容を確認し，疑問点があれば質問できるようにし，さらに，指定部分を聴いて書き取る練習もする。この授業では，予習よりも復習に重点を置く。

〔成績評価の方法〕

テストの点数（60%）に課題提出状況・授業参加態度（40%）を加味して総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 Learning a Language
第 3 週　Unit 2 Education for Life
第 4 週　Unit 3 Attitudes Toward Work
第 5 週　Unit 4 Hobbies
第 6 週　Unit 5 Reading
第 7 週　Unit 6 Consumerism
第 8 週　理解度の確認（Practice Test 1　他）
第 9 週　Unit 7 Ideal Partner
第10週　Unit 8 Co-workers
第11週　Unit 9 Historic Figures
第12週　Unit 10 Globalization
第13週　Unit 11 Earth's Resources
第14週　Unit 12 Discovery
第15週　理解度の確認（PracticeTest 2　他）
上記の計画は学生の力量などにより変更の可能性もあります。

BASIC LISTENING M

3715030101300

副　題								担　当　者	W．トング　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-113-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding spoken English in a wide variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their listening comprehension skills for understanding social conversations, basic business dialogues, broadcasts and announcements. Students will practice dialogues in listening activities to improve their pronunciation, intonation, and comprehension.

〔教材〕

教科書：Margaret Brooks, *Skills for Success - Listening and Speaking 2*, Oxford, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class participation 50%
Tests/quizzes 25%
Homework 25%
To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Skills for Success, supplementary audio-visual materials, speaking and listening practice
第 2 週　〃
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

BASIC LISTENING N

3715030101400

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	4/1	コース・ナンバー	ENG-114-GL

〔授業の到達目標〕
政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。

〔授業の内容〕
日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の第11週目以降には，それまでに学習したニュースの中から１つを選択し，暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表していただきます。

〔教材〕
教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2016』株式会社ニュートン
「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。そのため，第１週の天気予報を除く以後の各回の内容には，その時点での最新ニュースとなります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕
試験は行いません。評価は授業への参加度　30%，各回の語彙テスト40%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表30%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕
テキストはプリントを使います。

〔授　業　計　画〕

第１週　FNN　&　NHK　天気予報
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduction
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。
毎回のニュース・ファイル持ち帰り用のUSB（４G以上推奨）をご用意ください。

BASIC LISTENING O

3715030101500

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	3/2	コース・ナンバー	ENG-115-GL

〔授業の到達目標〕
政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。

〔授業の内容〕
日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の第11週目以降には，それまでに学習したニュースの中から１つを選択し，暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表していただきます。

〔教材〕
教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2016』株式会社ニュートン
「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。そのため，第１週の天気予報を除く以後の各回の内容には，その時点での最新ニュースとなります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕
試験は行いません。評価は授業への参加度30%，各回の語彙テスト40%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表30%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕
「グローバルニュースロイター2016」掲載ニュース以外の最新ニュースにはプリントを使います。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　FNN　&　NHK　天気予報
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduction
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。
毎回のニュース・ファイル持ち帰り用のUSB（４G以上推奨）をご用意ください。

BASIC LISTENING P

3715030101600

副　題								担　当　者	大石　美恵子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-116-GL

〔授業の到達目標〕

様々なシチュエーションの英語を聞くことによってリスニングの基礎を身につけます。

〔授業の内容〕

テキストを用いたリスニングの基礎学習の他に，生の英語ニュースを毎回聞いてディクテーションしていきます。

〔教材〕

教科書：『Tactics for Listening Developing』3rd版，OXFORD，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

試験40%，授業への参加態度30%，提出物及び小テスト30%の総合点で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Units 1,2 & News
第３週　Units 3,4 & News
第４週　Units 5,6 & News
第５週　Units 7,8 & News
第６週　Units 9,10 & News
第７週　Unit 11,12 & News
第８週　前半の理解度の確認　& News
第９週　Units 13,14 & News
第10週　Units 15,16 & News
第11週　Units 17,18 & News
第12週　Units 19,20 & News
第13週　Units 21,22 & News
第14週　Units 23,24 & News
第15週　まとめと解説及び理解度の確認

BASIC LISTENING Q

3715030101700

副　題								担　当　者	大石　美恵子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-117-GL

〔授業の到達目標〕

様々なシチュエーションの英語を聞くことによってリスニングの基礎を身につけます。

〔授業の内容〕

テキストを用いてリスニングの他に，生の英語のニュースを毎回聞いてディクテーションしていきます。

〔教材〕

教科書：『Tactics for Listening Developing』3rd版，OXFORD，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

試験40%，授業への参加態度30%，提出物及び小テスト30%の総合点で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　Units 1,2 & News
第 3 週　Units 3,4 & News
第 4 週　Units 5,6 & News
第 5 週　Units 7,8 & News
第 6 週　Units 9,10 & News
第 7 週　Units 11,12 & News
第 8 週　前半の理解度の確認　& News
第 9 週　Units 13,14 & News
第10週　Units 15,16 & News
第11週　Units 17,18 & News
第12週　Units 19,20 & News
第13週　Units 21,22 & News
第14週　Units 23,24 & News
第15週　まとめと解説及び理解度の確認

NEWS LISTENING A

3715030200100

副　題								担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-118-GL

〔授業の到達目標〕
ナチュラルスピードの英語を「聞く」「話す」能力の育成・習得

〔授業の内容〕
アメリカの新旧の映画作品を教材にし，ヒアリング力の養成を目的にします。授業では毎回小テストを行う。学生諸君は，復習に十二分に時間をかけ，録音した音声と同じ音，同じスピード，同じリズムで話すことができるまで，徹底的に練習すること。その練習の成果をチェックするため，随時スピーキング・テストを行う。映画の英語はナチュラルで，我々日本人がもっとも不得意な感情豊かな音声表現・表情・身振り手振りなどを習得するのに大変役に立つはずです。映像を参考に，生き生きとした英語をしっかり自分のものにするように心掛け，努力してください。

〔教材〕
教科書：渡辺・岩﨑『CBS News Flash On DVD』第５版，成美堂，2008年
渡辺・岩﨑『Roman Holiday』（ローマの休日）第１版，南雲堂，2009年
教科書は自宅学習用の課題として，定期的に提出，チェックを行います　授業ではプリントを使用します

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：２時間　復習：２時間

〔成績評価の方法〕
小テストの成績　70%　スピーキング・テスト　30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
金曜日の４時限。アポイントメントをとること。

〔備考〕
遅刻は録音の都合上，授業の運営の大きな妨げとなるので厳禁とします

〔授　業　計　画〕

第１週　World News 15 / Two Weeks Notice
第２週　World News 16 / The American President
第３週　World News 17 / THE WEST WING
第４週　World News 18 / Boston Legal No. 8 Live Big
第５週　World News 19 / The Devil Wears Prada
第６週　World News 20 / Lion For Rambs
第７週　World News 21 / Queen
第８週　World News 22 / Far From Heaven
第９週　World News 23 / Wall Street - Money Never Sleeps
第10週　World News 24 / The Bucket List
第11週　World News 25 / Major Crimes
第12週　World News 26 / Charlie Wilson’s War
第13週　World News 27 / Class Action
第14週　World News 28 / Anger Management
第15週　World News 29 / One True Thing

NEWS LISTENING B

3715030200200

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-119-GL

〔授業の到達目標〕

「世界を知る」テキストで世界をめぐりながら，聞く話す＝春学期の「分かった！」から
秋学期は「ちゃんと通じた！」へとステップアップさせると共に，
時のnews，時の人のspeechで
リスニング力・コミュニケーション力のさらなる向上を目指します。

〔授業の内容〕

各国の紹介を観ながらテキストのdialogueをしっかり聞き取る一方，
時のニュースにも注目していきます。
warm-up--listening and dictation--check & other activitiesを続け
弱点は強化し，自分の得意な面はさらに伸びるよう，聞いて「理解する」を繰り返します。
また意見交換を行う，春学期とは違うテーマでpresentationも行うなど，
グループワークも増えていきます。

〔教材〕

教科書：CENGAGE Learning, *GLOBE TROTTERS*

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ただ聞くばかりでなく，トピックについての会話・スピーチ・映像について
"What do you think?"意見が求められます。テキストに目を通し，
トピックについて考えてくること。苦手な「音」を意識して予習・復習すること。

〔成績評価の方法〕

Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
　　Unit01: Spain-At the airport
第２週　Current News
　　Unit02: China-From the airport
第３週　TED
第４週　Unit03: Peru-At the hotel
　　Report
第５週　Unit05: New York-Getting directions
　　Current News
第６週　Unit07: India-Shopping
　　Current News
第７週　Malala Yousafzai
　　Interview - Monster (character)
第８週　Unit08: New Zealand-One day excursions
　　Review and Check
第９週　Unit09: Africa-running into problems
　　Nelson Mandela
第10週　Unit10: Cambodia-Bargaining
　　Report
第11週　Solve Mystery!
第12週　Unit11: Egypt-Home visit
　　Unit12: Italy-At a restaurant
第13週　Presentation
第14週　Unit13: Mars-Saying good-bye
　　Current news
第15週　Review and Check
各内容・unitは授業の進度，時のニュースにより変わることがあります。

NEWS LISTENING C

3715030200300

副　題								担　当　者	C．ウィン　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/水	時限	4/4	コース・ナンバー	ENG-120-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Akira Morita『BBC World Profile on DVD』（ISBN:　978-4523177401）Nanundo, 2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

A course schedule of assignments will be given in class. Students are responsible for completing assignments by due dates set on the schedule.

〔成績評価の方法〕

Attendance & Class Participation 30%, Homework 40%, Tests 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日12：10-13：00

〔授　業　計　画〕

第１週　Laughter
第２週　Hats
第３週　Sphinx’s Nose
第４週　Terracotta Warriors
第５週　Silver and Platinum
第６週　Athens
第７週　Skydiving
第８週　Comprehension Exercises
第９週　Food and Society
第10週　Shinjuku Station
第11週　Bali’s Temples
第12週　Car Recycling
第13週　Hi-Tech Farming
第14週　Honolulu
第15週　Comprehension Exercises and Review

NEWS LISTENING D

3715030200400

副　題								担　当　者	岩﨑　光洋　教授
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-121-GL

〔授業の到達目標〕
ナチュラルスピードの英語を「聞く」「話す」能力の育成・習得

〔授業の内容〕
アメリカの新旧の映画作品を教材にし，ヒアリング力の養成を目的にします。授業では毎回小テストを行う。学生諸君は，復習に十二分に時間をかけ，録音した音声と同じ音，同じスピード，同じリズムで話すことができるまで，徹底的に練習すること。その練習の成果をチェックするため，随時スピーキング・テストを行う。映画の英語はナチュラルで，我々日本人がもっとも不得意な感情豊かな音声表現・表情・身振り手振りなどを習得するのに大変役に立つはずです。映像を参考に，生き生きとした英語をしっかり自分のものにするように心掛け，努力してください。

〔教材〕
教科書：渡辺・岩﨑『CBS News Flash On DVD』第５版，成美堂，2008年
渡辺・岩﨑『Roman Holiday』（ローマの休日）第１版，南雲堂，2009年
教科書は自宅学習用の課題として，定期的に提出，チェックを行います　授業ではプリントを使用します

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習２時間　復習２時間

〔成績評価の方法〕
小テストの成績　70%　スピーキング・テスト　30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
金曜４限　事前のメールでのアポが必要
授業中にメールアドレスを知らせます

〔備考〕
遅刻は録音の都合上，授業の運営の大きな妨げとなるので厳禁とします

〔授　業　計　画〕

第１週　World News 15 / Two Weeks Notice
第２週　World News 16 / The American President
第３週　World News 17 / THE WEST WING
第４週　World News 18 / Boston Legal No. 8 Live Big
第５週　World News 19 / The Devil Wears Prada
第６週　World News 20 / Lion For Rambs
第７週　World News 21 / Queen
第８週　World News 22 / Far From Heaven
第９週　World News 23 / Wall Street - Money Never Sleeps
第10週　World News 24 / The Bucket List
第11週　World News 25 / Major Crimes
第12週　World News 26 / Charlie Wilson’s War
第13週　World News 27 / Class Action
第14週　World News 28 / Anger Management
第15週　World News 29 / One True Thing

NEWS LISTENING E

3715030200500

副　題	英語リスニング能力の向上	担　当　者	伊藤　由紀子　教授

単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-122-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：山根繁　Kathleen Yamane『ABC World News 18』初版，金星堂，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了しなかった部分は復習・宿題です。3～4時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕

単語テスト40%，発表　15%，モニタリング　15%，ノート　10%，試験　10%，授業への取り組み　10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日お昼休み
メール

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
　　Royal Visit: Prince William in Japan
第2週　Free-Range Parenting
第3週　Security Breach: Drone Crashes on White House Lawn
第4週　Animal Love: Zoos Play Matchmaker
第5週　Operation Pizza
第6週　Big Powerball Jackpot Growing
第7週　Obama in India
第8週　Real Money Investigation: Thieves Holding Your Data Hostage
第9週　Burger Wars: Billion Dollar Burger?
第10週　The Perfect Apple?
第11週　Winter Blast
第12週　Russian Spies? Three Suspects Charged
第13週　Measles on the Move
第14週　School Bus Safety: Should School Buses Have Seat Belts?
第15週　A New Era: U.S.-Cuba Stage Historic Talks

NEWS LISTENING F

3715030200600

副　題	英語リスニング能力の向上							担　当　者	伊藤　由紀子　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-123-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide genre of news topics and contents. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：山根繁　Kathleen Yamane『ABC World News 18』初版，金星堂，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に終了しなかった部分は復習・宿題です。3～4時間を予定しましょう。

〔成績評価の方法〕

単語テスト40%，発表　15%，モニタリング　15%，ノート　10%，試験　10%，授業への取り組み　10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

月曜日お昼休み
メール

〔授　業　計　画〕

第1週　イントロダクション
　　Royal Visit: Prince William in Japan
第2週　Free-Range Parenting
第3週　Security Breach: Drone Crashes on White House Lawn
第4週　Animal Love: Zoos Play Matchmaker
第5週　Operation Pizza
第6週　Big Powerball Jackpot Growing
第7週　Obama in India
第8週　Real Money Investigation: Thieves Holding Your Data Hostage
第9週　Burger Wars: Billion Dollar Burger?
第10週　The Perfect Apple?
第11週　Winter Blast
第12週　Russian Spies? Three Suspects Charged
第13週　Measles on the Move
第14週　School Bus Safety: Should School Buses Have Seat Belts?
第15週　A New Era: U.S.-Cuba Stage Historic Talks

NEWS LISTENING G

3715030200700

副　題	Listening Practice with BBC news							担　当　者	古庄　信　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-124-GL

〔授業の到達目標〕

ニュース英語の教材を用いて，様々な社会問題の内容をより正確に聞き取ることが出来るよう目指す。またニュース英語をとおして世界の様々な状況を理解する。

〔授業の内容〕

BBCのニュース番組を用いて世界の情勢や様々な出来事を「英語で理解する」ことができるよう訓練する。

〔教材〕

教科書：Sakae Onoda, Lucy Cooker, *BBC Understanding the News in English 9*, 金星堂, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習・復習に各２時間が必要。語彙力を強化するため英英辞典を引く訓練をすること。

〔成績評価の方法〕

毎回行うディクテーションの出来(70%，但し２回目に行うReviewは60点以下不合格とする)，語彙力アップのためのVocabulary Note作成(20%)，出席状況・授業態度(10%)により総合的評価を行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

英英辞書(Longman, or Oxford)は毎時間必携のこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit 1 & Review
第２週　Unit 2 & Review
第３週　Unit 3 & Review
第４週　Unit 4 & Review
第５週　Unit 5 & Review
第６週　Unit 6 & Review
第７週　Unit 7 & Review
第８週　Unit 8 & Review
第９週　Unit 9 & Review
第10週　Unit 10 & Review
第11週　Unit 11 & Review
第12週　Unit 12 & Review
第13週　Unit 13 & Review
第14週　Unit 14 & Review
第15週　Unit 15 & Review

週２回の授業のうち，１回目はテキストに沿った聞き取り，２回目は聞き取りの幅を広げたレビュー（復習）という反復の形で進めていく。

NEWS LISTENING H

3715030200800

副　題	BBCニュースを通しての世界理解							担　当　者	石渡　忠大　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-125-GL

〔授業の到達目標〕

1)英語会話理解，2）英文ニュースパッセージ理解技術習得，3）会話及びニュースで取り扱われた語彙の習得，4）ニュースリスニングを通しての現代社会理解，5）Unitで取り扱われた内容に関する質問（英語）

〔授業の内容〕

BBC（英国放送協会）による，良質な英語でのニュース理解を通し，現代社会の現状と問題に関する語彙およびリスニング技術を習得。そのニュース内容に基づき，単なるリスニング授業ではなく，映像とリスニングを通しての知識獲得を目標とする。

〔教材〕

教科書：Dominic Cheetham, Yukiko Takeoka, Mayumi Yamura, Rima Uraguchi『Seeing the World through the News 1』初版，金星堂，2014年

授業開始3週目を越えて教科書を購入しない生徒，3週連続で教科書を授業に持ってこない学生は，欠席扱いとする。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前週取り扱われた語彙の学習と文章の理解。これに基づき，毎週理解度の確認を行う。

〔成績評価の方法〕

出席5分の4以上，中間・期末期に理解度確認で6割以上の点取得（出席5分の4を満たした学生のみ期末テストを受ける資格を有する）を満たす学生が単位取得。毎週の語彙テスト結果は付加的に考慮する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール（大学により発行され次第学生に提示）

〔授　業　計　画〕

第１週　授業オリエンテーション
第２週　The Queen: Patron of the Arts
　　エリザベス女王の即位60周年記念パーティー
　　Facebook and Free Speech
　　&#c8;b; フェイスブック投稿であわや解雇の危機？
第３週　The Stonehenge Site
　　ストーンヘンジの静寂を取り戻せ
第４週　Muslim Dress
　　スカーフ着用で仕事を失う？
第５週　The Death of the Book?
　　未来型小説の登場
第６週　A Day Trip to Derry?
　　ロンドンデリーが人気の観光スポットに
第７週　Bringing Back the Bees
　　絶滅寸前のハチを救え！
第８週　理解度の確認
第９週　Becoming British Citizens
　　「イギリス人」になるための試験
第10週　At Home with Dementia
　　認知症患者の理想の家
第11週　The Price of Parking
　　車通勤はお金がかかる？
第12週　Space: Next Step or Dead End?
　　宇宙ステーションの未来はいかに
第13週　A Vote for Scottish Independence
　　独立か自治か―スコットランドの悲願
第14週　Raising University Fees
　　授業料高騰で大学入学志願者激減？
第15週　Brain Reading
　　人の心を読む？―脳波の音声化

NEWS LISTENING I

3715030200900

副　題	英語リスニング力の向上							担　当　者	成田　奈央　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	3/2	コース・ナンバー	ENG-126-GL

〔授業の到達目標〕
語彙を増やし，ニュースを理解するリスニング力を高めること。

〔授業の内容〕
アメリカABC放送のニュース番組”World News Tonight”で伝えられた実際のニュースを教材とします。ニュースは，政治や社会から，身近で取り組みやすいジャンルのものまで含みます。アメリカのニュースを中心に世界のニュースを聞き，春学期のBasic Listeningで身に付けた，リスニング力の更なる向上を図ります。アンカーパーソンやリポーターの話すスピードに徐々に慣れ，また，ニュース番組の構成やニュース用語も理解していきます。
TOEICのリスニング問題に関しても，春学期よりも難易度の高いものを，本テスト形式で取り入れ，実践的に，スコアアップを目指します。
また，春学期に引き続き，スピーキング力をより一層高めていくことにも重点を置きたいと考えています。

〔教材〕
教科書：Shigeru Yamane, Kathleen Yamane『ABC World News 18』Kinseido，2016年
プリント（TOEIC）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習では，テキストの中で分からない英単語があれば，それらの意味を予め調べておいて下さい。各ユニットのWarm-up Exercises AとBは，予め解いてきて下さい。
復習では，授業で使用した音声教材をUSBメモリーに保存し，その音声教材を用いて，授業で行ったエクササイズやディクテーション，スピーキング練習などに繰り返し取り組んで下さい。
リスニング力を高めるために，とりわけ復習に力を入れて頂きたいと考えます。

〔成績評価の方法〕
授業態度（30%），発表（10%），課題（15%），テスト（45%）により総合的に評価します。
日頃の努力（授業に取り組む姿勢，発表に一生懸命準備をして臨んでいるか，課題に真面目に取り組み，期日に提出しているか）を重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日・木曜日の10時から15時は，お教室，または講師控え室におります。或いは，授業の前や後に，お教室でお声掛け下さい。メールアドレスは，必要に応じてお知らせ致しますので，まずは直接お話下さるか，サポートセンターを通じてご連絡下さい。

〔備考〕
授業では，初回から毎回USBメモリーを使用しますので，必ずお持ち下さい。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1 Royal Visit: Prince William in Japan
第 2 週　Unit 2 Free-Range Parenting
第 3 週　Unit 3 Security Breach: Drone Crashes on White House Lawn
第 4 週　Unit 4 Animal Love: Zoos Play Matchmaker
第 5 週　Unit 5 Operation Pizza
第 6 週　Unit 6 Big Powerball Jackpot Growing
第 7 週　Unit 7 Obama in India
第 8 週　Unit 8 Real Money Investigation: Thieves Holding Your Data Hostage
第 9 週　Unit 9 Burger Wars: Billion Dollar Burger?
第10週　Unit 10 The Perfect Apple?
第11週　Unit 11 Winter Blast
第12週　Unit 12 Russian Spies? Three Suspects Charged
第13週　Unit 13 Measles on the Move
第14週　Unit 14 School Bus Safety: Should School Buses Have Seat Belts?
第15週　Unit 15 A New Era: U.S.- Cuba Stage Historic Talks

NEWS LISTENING J

3715030201000

副　題								担　当　者	坂本　裕子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-127-GL

〔授業の到達目標〕

内容を理解するためのキーワードを聞き出し，まとまった英文を発表できるよう目指します。

〔授業の内容〕

Basic Listeningで養ったリスニング・ディクテーションの能力を更に向上させるため，ABCニュースを聞きながら練習を行います。毎回，授業で発話練習を行った後，口頭発表をしてもらいます。

〔教材〕

教科書：山根　繁　他, *ABC World News 18*, 金星堂, 2016

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は単語調べと内容読解を確実に行います。

復習はニュースの聞き直しと，口頭発表のために暗唱できるよう練習します。

〔成績評価の方法〕

学期末テスト・小テスト・口頭発表を基準にし，授業時の意欲的な参加を加味して評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　Unit 1
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Unit 3
第 5 週　Unit 4
第 6 週　Unit 5
第 7 週　Unit 6
第 8 週　Unit 7
第 9 週　Unit 8
第10週　Unit 9
第11週　Unit 10
第12週　Unit 11
第13週　Unit 12
第14週　Unit 13
第15週　Review

NEWS LISTENING K

3715030201100

副　題	英語リスニング力の向上							担　当　者	成田　奈央　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/3	コース・ナンバー	ENG-128-GL

〔授業の到達目標〕
語彙を増やし，ニュースを理解するリスニング力を高めること。

〔授業の内容〕
アメリカABC放送のニュース番組”World News Tonight”で伝えられた実際のニュースを教材とします。ニュースは，政治や社会から，身近で取り組みやすいジャンルのものまで含みます。アメリカのニュースを中心に世界のニュースを聞き，春学期のBasic Listeningで身に付けた，リスニング力の更なる向上を図ります。アンカーパーソンやリポーターの話すスピードに徐々に慣れ，また，ニュース番組の構成やニュース用語も理解していきます。
TOEICのリスニング問題に関しても，春学期よりも難易度の高いものを，本テスト形式で取り入れ，実践的に，スコアアップを目指します。
また，春学期に引き続き，スピーキング力をより一層高めていくことにも重点を置きたいと考えています。

〔教材〕
教科書：Shigeru Yamane, Kathleen Yamane『ABC World News 18』Kinseido，2016年
プリント（TOEIC）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習では，テキストの中で分からない英単語があれば，それらの意味を予め調べておいて下さい。各ユニットのWarm-up Exercises AとBは，予め解いてきて下さい。
復習では，授業で使用した音声教材をUSBメモリーに保存し，その音声教材を用いて，授業で行ったエクササイズやディクテーション，スピーキング練習などに繰り返し取り組んで下さい。
リスニング力を高めるために，とりわけ復習に力を入れて頂きたいと考えます。

〔成績評価の方法〕
授業態度（30%），発表（10%），課題（15%），テスト（45%）により総合的に評価します。
日頃の努力（授業に取り組む姿勢，発表に一生懸命準備をして臨んでいるか，課題に真面目に取り組み，期日に提出しているか）を重視します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
月曜日・木曜日の10時から15時は，お教室，または講師控え室におります。或いは，授業の前や後に，お教室でお声掛け下さい。メールアドレスは，必要に応じてお知らせ致しますので，まずは直接お話下さるか，サポートセンターを通じてご連絡下さい。

〔備考〕
授業では，初回から毎回USBメモリーを使用しますので，必ずお持ち下さい。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1 Royal Visit: Prince William in Japan
第 2 週　Unit 2 Free-Range Parenting
第 3 週　Unit 3 Security Breach: Drone Crashes on White House Lawn
第 4 週　Unit 4 Animal Love: Zoos Play Matchmaker
第 5 週　Unit 5 Operation Pizza
第 6 週　Unit 6 Big Powerball Jackpot Growing
第 7 週　Unit 7 Obama in India
第 8 週　Unit 8 Real Money Investigation: Thieves Holding Your Data Hostage
第 9 週　Unit 9 Burger Wars: Billion Dollar Burger?
第10週　Unit 10 The Perfect Apple?
第11週　Unit 11 Winter Blast
第12週　Unit 12 Russian Spies? Three Suspects Charged
第13週　Unit 13 Measles on the Move
第14週　Unit 14 School Bus Safety: Should School Buses Have Seat Belts?
第15週　Unit 15 A New Era: U.S.- Cuba Stage Historic Talks

NEWS LISTENING L

3715030201200

副　題								担　当　者	水谷　利美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-129-GL

〔授業の到達目標〕

語彙力を強化しつつ，リスニング・スキルを向上させる訓練をしながら，英語ニュースを聞いて理解できるようにすることが第一の目標です。シャドーイングにより音声面の強化を図り，さらに自分の意見を述べることにも挑戦して，英語での発信力をつける事も目標とします。

〔授業の内容〕

アメリカで実際に放送されている “CBS Evening News” で取り上げられた様々なジャンルのニュースに接して，語彙問題演習や聞き取り練習を行うと共に，シャドーイングやペアによる会話練習も行います。2 unitsごとに単語テストを行います。テキストの他，最新のニュース（Reuter他)も取り上げ，ディクテーション演習を行います。

〔教材〕

教科書：熊井信弘，Stephen Timson『CBS News Break 2』初版，成美堂，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としては，ニュース視聴前のタスク（テキスト記載）を行う。単語プリント配布後はその単語を覚え，Quick Response の練習をする。各ユニット１回目終了後はサイト・トランスレーションやシャドーイングの練習をする。この授業では予習よりも復習を重視する。

〔成績評価の方法〕

単語テストおよび学期中２回行うテスト（60%），課題提出状況・授業参加態度（40%）により総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Unit 1 UNIQLO Aims High
第３週　Unit 2 Study Finds How TV Affects Children’s Behaviour
第４週　Unit 3 Texting & Driving ... It Can Wait
第５週　Unit 4 Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals
第６週　Unit 5 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water
第７週　Unit 6 A Wave of Asian Immigrants
第８週　理解度の確認
第９週　Unit 7 Facebook Envy
第10週　Unit 8 Smart Networking Tips
第11週　Unit 9 Bringing Manufacturing Back to the U.S. via the Robot
第12週　Unit 10 Manners 101
第13週　Unit 11 Baby Boomers Moving Back to Cities
第14週　Unit 12 Law Students Struggle to Find Work
第15週　理解度の確認

以上はテキストによる授業の実施予定ですが，これに加えて適宜，最新のニュースを扱います。但し，クラスの力量・進度状況などにより変更の可能性があります。

NEWS LISTENING M

3715030201300

副　題								担　当　者	W．トング　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-130-GL

〔授業の到達目標〕

To build vocabulary and develop listening skills for understanding English news broadcasts.

〔授業の内容〕

Through this course, students will deepen their news listening comprehension skills. Students will be exposed to a wide range of news topics and content. Activities such as dictations, oral summaries, and written summaries will reinforce their understanding of listening selections. Online news listening activities will also be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Carmella Lieske, *Globe Trotters*, Cengage, 2013

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class participation 50%
Tests/quizzes 25%
Homework 25%
To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Globe Trotters, supplementary audio-visual materials, speaking and listening practice
第 2 週　〃
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

NEWS LISTENING N

3715030201400

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	4/1	コース・ナンバー	ENG-131-GL

〔授業の到達目標〕
政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。

〔授業の内容〕
日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の第11週目以降には，それまでに学習したニュースの中から１つを選択し，暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表していただきます。

〔教材〕
教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2016』株式会社ニュートン
「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。そのため，第１週の天気予報を除く以後の各回の内容には，その時点での最新ニュースとなります。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕
試験は行いません。評価は授業への参加度30%，各回の語彙テスト40%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表30%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕
テキストはプリントを使います。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃
毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。
毎回のニュース・ファイル持ち帰り用のUSB（４G以上推奨）をご用意ください。

NEWS LISTENING O

3715030201500

副　題								担　当　者	渡辺　幸俊　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	3/2	コース・ナンバー	ENG-132-GL

〔授業の到達目標〕

政治・経済・社会・事件・事故などさまざまなニュースを聞き取る上での聴取力を養う上で過不足のない語彙力を培い，Toeic Testなどに際して自信をもって臨めるよう，十分な応用力を培います。

〔授業の内容〕

日々，世界に最新のニュースを配信している　THOMASON REUTERS社のニュース項目を取り上げて，その聞き取りを中心に授業展開していきます。ニュースには政治・経済・社会・スポーツ・芸能など幅広いジャンルがあります。そしてその聞き取りには高校時代に培った語彙では絶対的に不足です。聞き取りにはこの語彙力が重要です。そのため，毎授業の開始時に前週に学習したニュースに使用された語彙の小テストを課します。この語彙力養成は必ずTOEICのテストに力を発揮します。授業の第11週目以降には，それまでに学習したニュースの中から１つを選択し，暗記した上で，実際のニュース画面を見ながら，それに合わせた暗誦を聴く者に分かるように発表していただきます。

〔教材〕

教科書：渡辺幸俊『グローバルニュース・ロイター2016』株式会社ニュートン

「グローバルニュース・ロイター2016」はネットでアクセスします。さらにその時点で最新のニュースをプリントを用意します。新たなニュース，最新ニュースを教材に取り上げます。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎週の語彙テストのために，復習を必ず行ってください。評価の重要な要素になります。

〔成績評価の方法〕

試験は行いません。評価は授業への参加度30%，各回の語彙テスト40%　さらにニュース画面に沿ってのニュース暗誦テストの発表30%によります。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

右記のメールで連絡をお取りください。nabesama●mac.com（change ● to @）

〔備考〕

「グローバルニュースロイター2016」掲載以外の最新ニュースについてはプリントを用意いたします。

〔授　業　計　画〕

第１週　REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第２週　前週の語彙テスト／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　前週の語彙テスト／暗誦発表／REUTERS英語ニュース＋語彙確認＋ディクテーション＋シャドーイング　＋　Reproduciton
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

毎回の授業の始めに語彙テストを行います。成績に大きく影響するテストです。遅刻厳禁です。
毎回のニュース・ファイル持ち帰り用のUSB（４G以上推奨）をご用意ください。

NEWS LISTENING P

3715030201600

副　題								担　当　者	大石　美恵子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-133-GL

〔授業の到達目標〕

春学期で培ったリスニング力を基に，更なるリスニング力アップを目指します。

〔授業の内容〕

授業は，様々な国の映像を英語で紹介しているテキストGlobe Trotters　を中心に進めていきます。さらに春学期同様，英語ニュースのディクテーションも続けます。

〔教材〕

教科書：『Globe Trotters』1st版，Cengage，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

試験40%，授業への参加態度30%，提出物及び小テスト30%の総合点で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Unit 1 & News
第３週　Unit 2 & News
第４週　Unit 3 & News
第５週　Unit 4 & News
第６週　Unit 5 & News
第７週　Unit 6 & News
第８週　Unit 7 & News
第９週　Unit 8 & News
第10週　Unit 9 & News
第11週　Unit 10 & News
第12週　Unit 11 & News
第13週　Unit 12 & News
第14週　Unit 13 & News
第15週　授業のまとめ及び理解度の確認

NEWS LISTENING Q

3715030201700

副　題								担　当　者	大石　美恵子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-134-GL

〔授業の到達目標〕

春学期に培ったリスニング力を基に，更なるリスニング力アップを目指します。

〔授業の内容〕

授業は，様々な国の映像を英語で紹介しているテキストGlobe Trotters　を中心に進めていきます。さらに春学期同様，英語ニュースのディクテーションも続けます。

〔教材〕

教科書：『Globe Trotters』1st版，Cengage，2013年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストにはあらかじめ目を通し，疑問点を授業中に質問できるように準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕

試験40%，授業への参加態度30%，提出物及び小テスト30%の総合点で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　Unit 1 & News
第３週　Unit 2 & News
第４週　Unit 3 & News
第５週　Unit 4 & News
第６週　Unit 5 & News
第７週　Unit 6 & News
第８週　Unit 7 & News
第９週　Unit 8 & News
第10週　Unit 9 & News
第11週　Unit 10 & News
第12週　Unit 11 & News
第13週　Unit 12 & News
第14週　Unit 13 & News
第15週　授業のまとめ及び理解度の確認

BASIC READING A

3714030100100

副　題								担　当　者	R．S．ジョーンズ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-135-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organisation.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Amanda French, *Essential Reading 4*, MacMillan, 2008
Ian Munby & Dorothy E. Zemach, *Read to Write Compositions*, BTB Press

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading, review and summaries of articles. Looking up unfamiliar words, and keeping vocabulary notebooks up to date. Preparing presentations. Planning. writing and editing essays.

〔成績評価の方法〕

Participation 20%, Writing assignments 25%, Reading review quizzes 25%, Class Presentations 20%, Vocabulary notebooks 10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email: rsjones73●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕

Students should bring a B6 sized vocabulary notebook to class.

〔授　業　計　画〕

第１週　Course Introduction: Students will get to know each other, and be introduced to the textbooks and course requirements.
第２週　Language: Students should read and carefully analyse "The power of doublespeak" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and discuss media bias.
第３週　Language: Students will review the article, memorise key expressions, and search for examples of doublespeak in the media before class.
Students will present their own examples of doublespeak, and practice using new vocabulary during the lesson. Inference, and scanning skills will be introduced.
第４週　Local Culture: Students should read and analyse "Traveler's Tales" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and compare the examples of local culture from the textbook with their own culture. A regular speed-reading component will be introduced from this week.
第５週　Read to Write Presentations: Students will prepare presentations and worksheets on a variety of writing skills and key concepts. These will provide the foundation for later writing assignments.
第６週　Food: Students should read and analyse "International travelers shouldn't miss..." before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and compare perceptions of food in Japan and in other countries. Vocabulary notebooks will be checked, and used to prepare for a review quiz.
第７週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.
第８週　Film: Students should read and analyse "Spotlight on: East Asian movies head West" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary, and discuss how East Asian and Western cultures have influenced one another. Students will begin planning and writing an essay on "Advantages & Disadvantages".
第９週　Film: After discussing their essays with classmates, students will submit their "Advantages & Disadvantages" essay. Students should prepare a presentation on a movie, actor, or director of their choice.
Students will discuss movie clichés, and practice pre-reading, skimming, and scanning skills.
第10週　Fashion: Students should read and analyse "Strike the pose in Tokyo" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and discuss the importance of fashion. "Advantages and Disadvantages" essays will be returned, and discussed individually.
第11週　Fashion: Students will review the skill of inference, and learn how to recognise key words, and main ideas. They will begin planning and writing an essay on "Love-Hate Relationships".
第12週　Controversy: Students should read and analyse "Time to legalize?" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and brainstorm controversial issues that affect Japan. After discussing their essays with classmates, students will submit their "Love-Hate relationships" essay.
第13週　Controversy: Students will review the article, memorise key expressions, and prepare a presentation on a controversial issue. "Love-Hate relationships" essays will be returned, and discussed individually.
第14週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.
第15週　Summer study plan: Students should write a summer study plan before class. They will share advice, discuss, and revise their plans in class.

BASIC READING B

3714030100200

副　題								担　当　者	K．フォード　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-136-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert and Linda Lee, *Cause and Effect 3*, Heinle

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Class preparation is mainly reading required texts, graded reader books, or preparing research reports.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on class participation（30%), presentations（20%), homework preparation （20%), journal writing（10%), book reports（10%), and tests（10%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

fordkeith●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction to the course and reading strategies; Homwework: readings on classroom culture and communication
第２週　Cause and Effect 3: Unit 1, Lessons 1 and 2; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第３週　Cause and Effect 3: Unit 1, Lessons 3 and 4; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第４週　Cause and Effect 3: Unit 1, Lesson 5 and Review; Homework textbook reading and vocabulary exercises
第５週　Social Issues Readings and Graded Reader Book Report; Homework: internet readings, discussion preparation, and reading of graded reader book
第６週　Cause and Effect 3: Unit 2, Lessons 1 and 2; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第７週　Cause and Effect 3: Unit 2, Lessons 3 and 4; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第８週　Poster Presentations and Cause and Effect 3: Unit 2, Lesson 5 and Review; Homework: textbook reading and vocabulary exercises and presentation practice
第９週　Social Issues Readings and Graded Reader Book Report; Homework: internet readings, discussion preparation, reading of graded reader book
第10週　Cause and Effect 3: Unit 3, Lessons 1 and 2; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第11週　Cause and Effect 3: Unit 3, Lessons 3 and 4; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第12週　Cause and Effect 3: Unit 3, Lesson 5 and Review; Homework: textbook reading and vocabulary exercises
第13週　Social Issues Readings; Homework: internet readings and discussion preparation
第14週　Graded Reader Book Report and Power Point Presentations; Homwework: reading of graded reader book and presentation practice
第15週　Final Review and any make-up or missed oral reports and presentations

BASIC READING C

3714030100300

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-137-GL

〔授業の到達目標〕
取り上げた題材のひたすら文面・文字を追う…のではなく
全体の流れまた中核をつかみ，感想・意見を述べることができるよう
reading fluencyとreading skillsの向上を目指します。

〔授業の内容〕
身近な題材や皆が一度は聞いたことのある物語から最近のニューストピックスまで
様々な内容を「読み」，時には「見て」いきます。毎回
warm-up--reading--check--discussion & other activitiesを行う
アクティブクラスです。また，テーマに応じたpresentationにもチャレンジします。

〔教材〕
教科書：Chris Gough, *Essential Reading 1*, Macmillan
教科書　Essential Reading 1は１年を通して使用する予定です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
”What do you think?”　毎回トピックに応じた意見が求められます。
自分の意見をバックアップできるようテキストに目を通し，
トピックについて考えてくること。
また，疑問点を質問できるよう準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問・相談などは授業前後，またはサポートセンターを通して連絡を

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction & Guidance
Unit01: A Japanese in Chicago
第２週　10 Benefits to studying abroad (1-5)
Unit01: An American in Tokyo
第３週　10 Benefits to studying abroad (6-10)
Unit02: Shanghai is sinking
第４週　Current News
Unit02: Life in big cities
第５週　Big City vs. Small Town
Discussion
第６週　Unit03: Unusual hotels
The Experience of Travelling and Learning
第７週　Unit03: The best hotel
Plan a trip to ...
第８週　Current news
Review -- Check
第９週　Unit04: Zhang Ziyi
Zhang Ziyi News
第10週　Unit05: Just can’t stop
Shopahaolic
第11週　Unit05: Gamers are growing older
Current news
第12週　Unit06: Shopping around the world
Night Markets
第13週　Presentation
第14週　Unit06: Untitled article
Current news
第15週　Summary -- Check
各週取り上げるunit・内容は授業の進度，時のニュースなどにより変わることがあります。

BASIC READING D

3714030100400

副　題								担　当　者	A．パラスキ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-138-GL

〔授業の到達目標〕

This course is designed to assess and develop student's reading and vocabulary skills in English

〔授業の内容〕

There will be a focus on using vocabulary from the reading text, both in the contexts provided in the text and in new contexts provided by the instructor and, later, by the student. Students will create class vocabulary lists of words extracted from the text and use them in various writing exercises to be assessed by the instructor. By providing a context-based usage of vocabulary, one of the major aims will be for students to acquire a native sense of usage. Students are required to keep a vocabulary journal with examples of acceptable and unacceptable usage.

〔教材〕

教科書：*Concepts and Comments 4*, (Heinle) 3rd Edition

Supplementary materials will be provided during the term.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to spent an amount of time outside of class studying and mastering language patterns for presentation that equals or exceeds the amount of time spent in class.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on attendance and reading assignments(40%), vocabulary assignments(20%), class participation(20%) and tests(20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 2 週　Vocabulary assignment 1; class discussion.
第 3 週　Reading assignment 2; assessment and discussion.
第 4 週　Vocabulary assignment 2; class discussion.
第 5 週　Reading assignment 3; assessment and discussion.
第 6 週　Vocabulary assignment 3; class discussion.
第 7 週　Reading assignment 4; assessment and discussion.
第 8 週　Vocabulary assignment 4; class discussion.
第 9 週　Reading assignment 5; assessment and discussion.
第10週　Vocabulary assignment 5; class discussion.
第11週　Reading assignment 6; assessment and discussion.
第12週　Vocabulary assignment 6; class discussion.
第13週　Reading assignment 7; assessment and discussion.
第14週　Vocabulary assignment 7; class discussion.
第15週　Review

BASIC READING E

3714030100500

副　題								担　当　者	横江　百合子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-139-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organisation.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：P. Ackert and L. Lee, *Cause & Effect*, 4th Edition, Cengage, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please come prepared to participate actively.

〔成績評価の方法〕

Midterm exam (30%) Final exam (30%) Other assignments (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 Lesson 1
第 3 週　Unit 1 Lesson 2
第 4 週　Unit 1 Lesson 3
第 5 週　Unit 1 Lesson 4
第 6 週　Unit 1 Lesson 5
第 7 週　Extra materials
第 8 週　Review & confirmation of understanding
第 9 週　Unit 2 Lesson 1
第10週　Unit 2 Lesson 2
第11週　Unit 2 Lesson 3
第12週　Unit 2 Lesson 4
第13週　Unit 2 Lesson 5
第14週　Extra materials
第15週　Review & confirmation of understanding

BASIC READING F

3714030100600

副　題	Reading and Improving your Vocabulary	担　当　者	R．ジョーンズ　講師

単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-140-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organisation. The goal of this subject is for the students to improve their vocabulary by reading a variety of things. In addition, students will have the opportunity to speak about things they have read. This is a fun and dynamic class and if the students study hard, they will learn many things and improve their English ability.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through class activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, where appropriate and possible, practical reading materials from sources such as newspapers, journals, and other media may be incorporated into the course The main purpose of this course is to help the students find enjoyment in reading English, and to increase vocabulary levels. Students will read short paragraphs and longer stories. In addition, before and after most readings, there will be lots of chances to speak English. Students should also be prepared to do quite a bit of reading at home.

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential Reading 1 (ISBN 978-4-773-6189-2)*, Macmillan, Latest

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students need to bring the textbook to all lessons. They need to be sure to complete all homework assignments and review past lessons.

〔成績評価の方法〕

Attendance = 10 points
Punctuality = 10 points
Effort and participation = 20 points
Class and homework exercises = 100 x 40% = 40 points
Final evaluations = 100 x 20% = 20 points
Total = 100 points.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction to the course, the textbook, grading system. Introducing the teacher and course expectations.
第 2 週　Student introduction activities. Reading from the textbook; Takeshi in Chicago.
第 3 週　Exercises from lesson 1 of the textbook. Reading; Julie a computer programmer in Tokyo. Essential vocabulary skill practice and exercises.
第 4 週　Unit 2 of the textbook, Big City Life. Essential reading and vocabulary skills. Reading; Life in the big cities.
第 5 週　Unit 3 of the textbook; A hotel with a difference. Vocabulary work and essential reading skill practice. Reading: The Best Hotel in the World.
第 6 週　Unit 4: Making movies. Comprehension and vocabulary work. Reading; China's first international movie star. Essential vocabulary work and excrcises.
第 7 週　Unit 5: Addictions - reading, comprehension and vocabulary work. Reading ;Japanese gamers are growing older. Comprehension questions and essential English skills practice.
第 8 週　Unit 6: We love shopping. Reading, vocabulary and comprehension exercises.
第 9 週　Textbook reading; unit 6. Love and Romance - speed dating reading. Reading skills practice, comprehension questions and vocabulary building exercises.
第10週　A tale of two cities. Reading practice. Essential reading skills comprehension and vocabulary building.
第11週　Reading about plastic surgery - unit 9 of the textbook. Reading practice - Korean Beauties. Reading skills exercises and vocabulary building.
第12週　International sport - reading exercises and vocabulary building from unit 10 of the textbook.
第13週　Reading topic - pop music. Reading about a virtual pop group, Gorillaz. Comprehension exercises and vocabulary building.
第14週　Unit 12 of the textbook with activities focussed around leading a healthy life through food choices, exercise and reducing stress. Vocabulary building exercises and comprehension work.
第15週　Summary of the course. Overview of the studies undertaken in the first semester and final evaluations.

The course will follow the content of the textbook from week to week. Let's have fun reading together. Remember: the more effort you put into something, the more you can get out of it! Come to all the lessons and be on time!

BASIC READING G

3714030100700

副　題								担　当　者	小倉　雅明　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-141-GL

〔授業の到達目標〕
基本的な英文を読みながら基礎的な語彙・文法項目を理解し，定着させる。

〔授業の内容〕
指定テキストと配布プリントなどをつかって，たくさん英語に触れてもらいます。ほぼ毎回単語テストと授業内容にかんする小テストを行います。なお，授業での説明には英語と日本語の両方を用います。

〔教材〕
参考書：Patricia Ackert, Linda Lee, Harry Haynes, Jessica Beck, *Thoughts and Notions*, Updated Edition, CENGAGE Learning, 2014
必要に応じてその都度プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習として指定された範囲は必ずこなしている前提で授業は進行します。
予習・復習など授業外での学習時間は60時間必要です。

〔成績評価の方法〕
授業参加態度：30%，課題・宿題・クイズ：40%，期末課題：30%により総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
気になることがあればいつでもrrtrnrrtrn●ogdict.com（change ● to @）に連絡してください。その際，かならずお名前とご所属を明記してください。

〔備考〕
辞書を頻繁に使います。紙の辞書でも電子辞書でもよいので毎回かならず持ってきてください。使う辞書について相談がある場合は事前にメールで問い合わせて下さい。なお，初回の授業に(持っている人は)インターネットにつながったスマートフォンかタブレット，パソコンを持ってきてください。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　Unit1 Lesson1
第３週　Unit1 Lesson2
第４週　Unit1 Lesson3
第５週　Unit2 Lesson1
第６週　Unit2 Lesson2
第７週　Unit2 Lesson3
第８週　Review
第９週　Unit3 Lesson1
第10週　Unit3 Lesson2
第11週　Unit3 Lesson3
第12週　Unit4 Lesson1
第13週　Unit4 Lesson2
第14週　Unit4 Lesson3
第15週　Review
進行予定は受講者の理解度などによって適宜調整される可能性があります。

BASIC READING H

3714030100800

副　題								担　当　者	武富　利亜　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-142-GL

〔授業の到達目標〕

基本的な文法を身につけながら，速読ができ，また，自分の意見などが書けるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

頭のなかで英語を和訳しながらではなく，同時通訳の訓練でも用いられる，英語を英語の語順で理解する方法を練習する。また，基礎から文法を見直す。読解力，語彙力を高め，最終的には，論理的に自分の意見が書けるようになることを目指す。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, *Reading Keys 1*, New Edition, Macmillan, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

分からない単語を調べたり，和訳したりする時間が必要。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，テスト60%，パフォーマンス・ポイント20%（授業内でのパフォーマンス）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction Unit 1 The Beautiful Game
第 2 週　Unit 1 The Beautiful Game
第 3 週　Unit 2 Sports for Everyone
第 4 週　〃
第 5 週　Unit 3 Work Around the World
第 6 週　〃
第 7 週　Review
第 8 週　Unit 4 Unusual Occupations
第 9 週　〃
第10週　Unit 5 Life on Death Row
第11週　〃
第12週　Unit 6 Crazy Criminals
第13週　〃
第14週　Summary (まとめ・予備)
第15週　Review
上記は，あくまで目安であり，随時進捗状況に応じて変更される。
テキストは，トラベル，カルチャーなどネット社会から日常生活まで，幅広い 8 つのテーマで構成されている。トピックやジャンルに合わせて，読解・語彙スキルを養う。

BASIC READING I

3714030100900

副　題								担　当　者	P．アプス　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-143-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of the course is help the students develop better reading skills.

〔授業の内容〕

The course is divided into two sections, an intensive and extensive reading program. In the intensive section of the course we will study the skills and approaches that help a reader understand a text. Secondly the students will be expected to read extensively. To achieve this aim the students will read and write book reports on the graded readers supplied in the class and in the library.

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential reading- book two*, (Macmillan Press)

Students will be expected to have a dictionary in every class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

For every class will be expected to read extensively and by the end of the semester they will be expected to have read 600 pages. Each student will keep a vocabulary book and each week they will have to increase the number of words by 10 so at the end of the semester the students will have to increase by 150 words. Every three weeks there will be a vocabulary test on what words they have added to their books. Finally the students will be doing homework from the textbook.

〔成績評価の方法〕

The students will be graded on four criteria:

1) Book reports and reading progress (Minimum of 600 pages)（40%）
2) Vocabulary Book (20%)
3) Class tests - Every chapter will have a　（20%）
4) Attitude in class that is willingness to co-operate with tasks in the classroom.（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Unfortunately I do not have office hours for the students

Students can contact me by email which I will give in the class on the first day.

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction to reading, the course and what is expected throughout the semester.
第 2 週　Introduction to reading, explanation of intensive and extensive reading.
第 3 週　Intensive Reading
Essential Reading chapter One - Culture Shock -Cultural differences
第 4 週　Intensive Reading
Essential Reading Chapter One - Culture Shock - Doing things differently
Skill - Identifying facts & opinions
第 5 週　Intensive Reading
Essential Reading Test - Chapter one
第 6 週　Intensive Reading
Essential Reading - Chapter Two - Chewing for a better grade
第 7 週　Intensive Reading - Chapter two - A sticky problem
第 8 週　Intensive Reading - Chapter Two - Reading test
第 9 週　Intensive Reading
Essential Reading Chapter Three - Profcasts
第10週　Intensive Reading
Essential Reading Chapter Three -CD vs Vinyl
第11週　Intensive Reading
Essential Reading Chapter Test Three
第12週　Intensive Reading
Essential Reading Chapter Four - Urban life
第13週　Essential Reading Chapter Four - Living in the city
第14週　Intensive Reading
Essential Reading Chapter Test four
第15週　Checking the number book report pages read.
Review of the semester's study.

Will follow the chapters of the book.

Every week there will be speed reading and reading skill exercises.

BASIC READING J

3714030101000

副　題								担　当　者	式町　眞紀子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-144-GL

〔授業の到達目標〕
英文の基本概念であるparagraphの仕組みとその構成を正確に理解する。
語彙の増強―単に辞書的な理解に留まらず，文脈に沿って適宜選択し，表現力を高める。
意味のまとまりを的確に反映した音読をする。

〔授業の内容〕
「異文化理解」,「都市と生活」,「食と健康問題」,「恋愛と結婚」,「スポーツ」など，私たちの日常生活に密接に関わる話題を扱った各ユニットで提示されるケーススタディーを，内容確認もかねて各自に発表してもらいます。必要に応じて語彙･文法という基本的事項で補い，リーディングにおける技術的な手法である ”skimming” や ”scanning” についても，練習問題を活用して体得することに結び付けます。また，音読は必須です。意味のまとまりや音の強弱によって適切な声の大きさによって音読することで，英語「らしさ」を聴覚から取り込み，正確な読みや，ライティング時の素養とするためです。

〔教材〕
教科書：Chris Gough, *Essential Reading 1*, Oxford: Macmillan, 2008
授業には必ず英和辞書（電子・紙媒体）を持参すること。
また，実力をつけるために，以下のような英英辞典も使うことが望ましい。
Longman Dictionary of Contemporary English
Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary
文法の参考書，問題集については授業時に説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習（次回授業で扱う範囲）を前提に授業は進められます。pre-readingや本文はもちろん，練習問題も解いて，不明な点も洗い出したうえで授業に臨むこと。授業とは，わかっていることを再確認し，わからないことを明らかにするための時間です。授業後は必ず復習をして，わからないことをあいまいなままにしないことと，理解をさらに深めるために，本文の要約や，速読のトレーニングに充ててみることを奨励します。
これら一連の学習の流れには，４時間程度が見込まれます。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度（授業における積極性・発表・発言など含む）50%，試験30%，課題20%　以上を基準に総合的に判断します。成績評価対象詳細に関しては，学生便覧を参照のこと。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業時の教室にて，もしくはサポートセンターにて手配のこと。

〔備考〕
板書を多用しますので，ノートを一冊用意すること。その際，配布プリントの整理と保管のうえでも，A4サイズが望ましい。
スマートフォンの辞書アプリは学習用には不十分なので，教室での使用は認めません。これに関連して，机上に授業と関係ないものを置くことに対してはペナルティを科します。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction & Orientation
Unit1: ”New Lives”　ケース「日本人留学生」「在日外国人コンピュータープログラマー」本文内容の確認
第２週　Unit1:(cont.)　文法項目･語彙の説明，”skimming”　や　”scanning”，応用表現（書換え･口語表現など）
Brief review Unit1
第３週　Unit2: ”Big city life”　ケース「上海」「都会に住むことの功罪とは」本文内容の確認
第４週　Unit2:(cont.)　文法項目･語彙の説明，”skimming”　や　”scanning”，応用表現（書換え･口語表現など）
Brief review Unit2
第５週　Unit3: ”A hotel with a difference”　ケース「他とはちょっと違うホテル」「世界一のホテル」本文内容の確認
第６週　Unit3:(cont.)　文法項目･語彙の説明，”skimming”　や　”scanning”，応用表現（書換え･口語表現など）
Brief review Unit3
第７週　Midterm
第８週　Review for midterm
ライティング・ワークショップ（配布資料に基づく）
第９週　Unit4: ”Making movies”　ケース「無題記事」「Zhang Zyhi」本文内容の確認
第10週　Unit4:(cont.)　文法項目･語彙の説明，”skimming”　や　”scanning”，応用表現（書換え･口語表現など）
Brief review Unit4
第11週　Unit5: ”Addicted”　ケース「やめられない！」「少子高齢化がこんなところにも」本文内容の確認
第12週　Unit5:(cont.)　文法項目･語彙の説明，”skimming”　や　”scanning”，応用表現（書換え･口語表現など）
Bief review Unit5
第13週　Unit6: ”We love shopping”　ケース「世界の買い物事情」「無題記事」本文内容の確認
第14週　Unit6:(cont.)　文法項目･語彙の説明，”skimming”　や　”scanning”，応用表現（書換え･口語表現など）
Brief review Unit6
第15週　Review
基本的にはテキストに沿って読み進めて行きますが，学生にとってより身近な話題として捉えるために，トピックに関連した新聞やネットなど各種メディアでの ”authentic” な文書も積極的に取り上げる予定です。したがってスケジュールが変更されることも有り得ます。

BASIC READING K

3714030101100

副　題								担　当　者	G．ディオリオ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-145-GL

〔授業の到達目標〕
To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕
Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕
教科書：*Reading Keys 1*, New Edition, Macmillan, 2009
参考書：*Xreading.com*, Xreading.com
Xreading.com is a website and application that gives students access to many different graded readers in English. These can be read on a computer, smartphone, or tablet.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
Every week, students will need to read one book (graded reader) and take a short quiz on it. There will also be short homework assignments based on readings done in class. In addition, students will need to keep vocabulary notebooks or notecards and study them every week.
Completion of the homework and participation in class are very important to success in this course.

〔成績評価の方法〕
25% - Attendance and class participation
40% - Extensive reading and homework
25% - Tests
10% - Vocabulary
On-time class attendance is very important.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
After class or by appointment. Please e-mail to set an appointment.
Come talk to me after class or e-mail: gsdeorio●gmail.com（change ● to @）.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course introduction
第 2 週　Reading Skills 1
Forming reading groups
第 3 週　Reading Skills 2
Reading group discussion - Book 1
第 4 週　Reading Skills 3
Reading group discussion - Book 1
第 5 週　Reading Skills 4
Reading group discussion - Book 1
第 6 週　Reading Skills 5
Reading group discussion - Book 1
第 7 週　Reading Skills 6
Reading group discussion - Book 1
第 8 週　Reading Skills Review
Book 1 summary
第 9 週　Reading Confirmation and understanding of Book 1
Test review
第10週　Reading group discussion - Book 2
Introduction to writing
第11週　Reading group discussion - Book 2
Paragraphs
第12週　Reading group discussion - Book 2
Organization
第13週　Reading group discussion - Book 2
Paragraphs
第14週　Book 2 summary
Writing review
第15週　Confirmation and understanding of Book 2
Course closing
Specific assignments and due dates will be decided based on progress in class.

BASIC READING L

3714030101200

副　題								担　当　者	坂本　裕子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-146-GL

〔授業の到達目標〕

基本的な英文法を確認しながら，まとまった英文を読解できるよう目指します。

〔授業の内容〕

様々なトピックの英文を読みながら，英文読解を効率的に行う手順や方法を身につけるための練習を行います。

各ユニット毎にライティングの練習もします。

〔教材〕

教科書：兼頭　満里子　他, *News Matters　Understanding English Newspapers*, New Edition, 南雲堂, 2016

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としては単語調べと内容読解。

復習として内容を確認した後，各ユニット毎に出される英作文を提出します。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストと課題提出を基準にし，出席状況や授業への意欲的な参加を加味して評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　Unit 1
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Unit 3
第 5 週　Unit 4
第 6 週　Unit 5
第 7 週　Unit 6
第 8 週　Unit 7
第 9 週　Unit 8
第10週　Unit 9
第11週　Unit 10
第12週　Unit 11
第13週　Unit 12
第14週　Unit 13
第15週　Review

BASIC READING M

3714030101300

副　題								担　当　者	橋本　ナターシャ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-147-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations. In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be incorporated into the course.

〔教材〕

教科書：Miles Craven『Reading Keys 1』New版，Macmillan，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to pre-learn the designated vocabulary, read the texts (from the textbook and distributed articles), and do their homework BEFORE the class. A strong emphasis will be on pair work and small group discussions, so students are expected to come to class on time and prepared, so that they can participate in class activities with their groups/partner.

〔成績評価の方法〕

Quizzes and exams: 70%
In class activities (pair work, group work, presentations): 20%
Homework: 10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Email (will be given in the first class meeting).

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction & orientation
　　Pair work, small group work, conversation, short readings.
第 2 週　Unit 1 Sports
第 3 週　Unit 2 Sports
第 4 週　Unit 3 People at work
第 5 週　Unit 4 People at work
第 6 週　Unit 5 Crime and punishment
第 7 週　Unit 6 Crime and punishment
第 8 週　Unit 7 Growing up
第 9 週　Unit 8 Growing up
第10週　Unit 9 Success, fame, and money
第11週　Unit 10 Success, fame, and money
第12週　Unit 11 Going places
第13週　Unit 12 Going places
第14週　Unit 13 Culture connections
第15週　Unit 14 Culture connections
Changes in the schedule are possible and will be timely announced.

BASIC READING N

3714030101400

副　題								担　当　者	森　葉子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-148-GL

〔授業の到達目標〕

To develop reading comprehension skills through vocabulary building and understanding of text organization.

〔授業の内容〕

Through this course, students will learn skills such as discerning the main and supporting ideas of reading selections through classroom activities such as oral summaries and presentations.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert and Linda Lee, *Reading & Vocabulary Development 2*, (Thoughts & Notions) 2nd Edition, Heinle, 2005

In addition to textbook reading selections, practical reading materials from sources such as newspapers, magazines, journals, and other media will be included in the course.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to read ahead before each class and review vocabulary list after each class.

As a warm-up, every Saturday class will start with a vocabulary quiz.

〔成績評価の方法〕

Class Participation (30%), Vocabulary Quizzes (30%), Presentation (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Any consultation welcome after class. For other hours, please contact me through the Department Support Center.

〔備考〕

Please bring the following to every class:

1. A dictionary (either a hard copy or electronic)
2. A notebook (for lectures)
3. A notebook (for vocabulary)

〔授　業　計　画〕

第１週　Class Orientation-Textbook Introduction
Unit 1: Inventions and Inventors
Lesson 1 The Zipper
第２週　Unit 1
Lesson 2 The Postage Stamp
第３週　Unit 1
Lesson 3 Pencils and Pens
第４週　Unit 2：Sports
Lesson 2: Sumo Wrestling
第５週　Unit 2
Lesson 4 Olympic Sports
第６週　Unit 2
Lesson 5 Great Athletes
第７週　Unit 3: Food
Lesson 2: Foods from Around the World
第８週　Unit 3
Lesson 3 Chocolate
第９週　Unit 3
Lesson 5 Twenty-One Days Without Food
第10週　Unit 4: Mysteries
Lesson 1 The Marie Celeste
第11週　Unit 4
Lesson 3 The Easter Island Statues
第12週　Unit 4
Lesson 5 Mystery of the Monarchs
第13週　Unit 5: Business
Lesson 1 The History of Money
第14週　Unit 5
Lesson 2 Mass Marketing
第15週　Unit 5
Lesson 4 Doing Business Around the World

READING & WRITING A

3714030200100

副　題								担　当　者	R．S．ジョーンズ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-149-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension, and their understanding of text organisation in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Amanda French, *Essential Reading 4*, MacMillan, 2008
Ian Munby & Dorothy E. Zemach, *Read to Write Compositions*, BTB Press
Students should bring a B6 sized vocabulary notebook to class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading, review and summaries of articles. Looking up unfamilar words, and keeping vocabulary notebooks up to date. Preparing presentations. Planning. writing and editing essays. Reading graded readers, and preparing book reports.

〔成績評価の方法〕

Participation 20%, Writing assignments 30%, Reading review quizzes 20%, Independent reading 20%, Vocabulary notebooks 10%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email: rsjones73●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction: Students will be introduced to the course requirements for the second semester. Students will select and read a graded reader of their choice.
第２週　Skills for success: Students should read and carefully analyse "How to get your foot in the door" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and discuss their definition of success.
第３週　Skills for success: Students will review the article, memorise key expressions, and consider which are the most valuable attributes in an employee. Students will make a short presentation on their own successes, and practice using new vocabulary during the lesson.
第４週　The paranormal: Students should read and analyse "Fear and fakes" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and discuss how they feel about the paranormal.
Students will begin planning and writing a "Compare & Contrast" essay.
第５週　The paranormal: Students will prepare and give a short presentation about the paranormal in Japan. After discussing their essays with classmates, students will submit their "Compare & Contrast" essay.
第６週　Body and Spirit: Students should read and analyse "What if...?" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and discuss their own survival ideas.
Vocabulary notebooks will be checked, and used to prepare for a review quiz.
"Compare & Contrast" essays will be returned, and discussed individually.
第７週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.
第８週　Nature: Students should read and analyse "The tragedy of the tiger" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and discuss animal conservation.
第９週　Nature: Students will review the article, memorise key expressions, and make a short presentation on animal conservation in Japan.
Students will begin planning and writing a "Then & Now" essay.
第10週　Technology: Students should read and analyse "Big Brother is getting bigger" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and discuss how they feel about the privacy implications of the latest technology.
After discussing their essays with classmates, students will submit their "Compare & Contrast" essay.
第11週　Technology: Students will review the article, memorise key expressions, and consider both the positive and the negative aspects of the latest technology. Students will make a short presentation on their favourite or least favourite piece of technology. "Then & Now" essays will be returned, and discussed individually.
第12週　21st Century Love: Students should read and analyse "Words of love?" before class. During the lesson, students will answer comprehension questions on the subject, note any new vocabulary and discuss dating and self-help books. Students will begin planning and writing a "Problems & Solutions" essay.
第13週　21st Century Love: Students will review the article, memorise key expressions, and evaluate different approaches towards dating. After discussing their essays with classmates, students will submit their "Problems & Solutions" essay.
第14週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class. "Problems & Solutions" essays will be returned, and discussed individually.
第15週　Study plan: Students should write a study plan before class. They will share advice, discuss, and revise their plans in class.

READING & WRITING B

3714030200200

副　題								担　当　者	K．フォード　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-150-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Patricia Ackert and Linda Lee, *Cause and Effect 3*, Heinle

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Class preparation is mainly reading required texts, graded reader books, written work, or preparing research reports.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on class participation（30%), presentations（10%), homework preparation （20%), journal writing and written work（20%), book reports（10%), and tests（10%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

fordkeith●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction to the course; Examples of readings and summary writing
第２週　Cause and Effect 3: Unit 4, Lessons 1 and 2; Summary writing; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第３週　Cause and Effect 3: Unit 4, Lessons 3 and 4; Summary writing; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第４週　Cause and Effect 3: Unit 4, Lessons 5 and Review; Summary writing; Homework: textbook reading and vocabulary exercises
第５週　Social Issues Readings and Graded Reader Book Report；；　Homework: internet readings, discussion preparation, and reading of graded reader book
第６週　Poster Presentations of Great Lives Reading Research
第７週　Cause and Effect 3: Unit 5, Lessons 1 and 2; Summary writing; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第８週　Cause and Effect 3: Unit 5, Lessons 3 and 4; Summary writing; Homework: textbook readings and vocabulary exercises
第９週　Social Issues Readings; Homework: internet readings, discussion preparation
第10週　Graded Reader Written Book Report and Oral Report; Homework: Reading of graded reader book
第11週　Cause and Effect 3: Unit 5, Lesson 5 and Review; Summary writing; Homework: textbook reading and vocabulary exercises
第12週　Social Issues Readings; Homework: internet readings, discussion preparation
第13週　Readings About Defining/Measuring Development and Sustainable Development Projects
第14週　Graded Reader Written Book Report and Oral Report; Homework: reading of graded reader book
第15週　Power Point Presentations of Developing Countries Reading Research and Final Review

READING & WRITING C

3714030200300

副　題								担　当　者	伊藤　直美　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-151-GL

〔授業の到達目標〕
春学期に続きreading fluencyとreading skillsの向上と
感想・意見を述べるにとどまらず，内容をまとめる・意見を書くなどを
目指します。

〔授業の内容〕
春学期と同じテキストを使いながら，
warm-up--reading--check--discussion & other activitiesを続け
様々な題材を読むと同時に意見交換・書くという作業が増えていきます。
また，ひとつの物語をクラス全体でretellする，謎解きに挑戦，
春学期とは違うテーマでpresentationも行うなど，グループワークも多く行います。

〔教材〕
教科書：『Chris Gough, *Essential Reading 1*, Macmillan』
Essential Reading 1　は１年を通して使用する予定です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
”What do you think?”　毎回トピックに応じた意見が求められます。
自分の意見をバックアップできるようテキストに目を通し，
トピックについて考えてくること。
また，疑問点を質問できるよう準備しておくこと。

〔成績評価の方法〕
Attendance, Participation/Contribution to class activities & discussions (50%)
Daily worksheets, tests and presentation (50%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction & Guidance
　　Unit07: Speed dating
第２週　Runaway Bride
　　Unit07: The day after the fire
第３週　Retell the story
第４週　Unit08: London’s China Town
　　China Town - Moon Festival
第５週　Cooking
　　Unit09: Face transplants
第６週　Technology
　　Unit09: Korean beauties
第７週　World Beauty
　　McDonald’s House
第８週　Current news
　　Summary -- Check
第９週　Unit10: Asian Soccer Players
　　Adapt to new culture
第10週　Solve the Mystery!
第11週　Unit11: Pop stars overnight
　　Unit12: Junk food
第12週　School lunch
　　Unit12: A Japanese diet
第13週　Presentation
第14週　Review
　　Current news
第15週　Summary -- Check
各週取り上げるunit・内容は授業の進度，時のニュースなどにより変わることがあります。

READING & WRITING D

3714030200400

副　題								担　当　者	A．パラスキ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-152-GL

〔授業の到達目標〕

This course is designed to assess and develop student's reading and writing skills in English

〔授業の内容〕

There will be a focus on using vocabulary from the reading text, both in the contexts provided in the text and in new contexts provided by the instructor and, later, by the student. Students will create class vocabulary lists of words extracted from the text and use them in various writing exercises to be assessed by the instructor. By providing a context-based usage of vocabulary, one of the major aims will be for students to acquire a native sense of usage. Students are required to keep a vocabulary journal with examples of acceptable and unacceptable usage.

〔教材〕

教科書：『Concepts and Comments 4』（Heinle）3rd版

Supplementary materials will be provided during the term.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students should bring a notebook and a dictionary.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on attendance and class participation(40%), reading assignments(20%), writing assignments(20%) and tests(20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 2 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 3 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 4 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 5 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 6 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 7 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第 8 週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第 9 週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第10週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第11週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第12週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第13週　Reading assignment 1; assessment and discussion.
第14週　Vocabulary assignment 1; class disscussion.
第15週　Review

READING & WRITING E

3714030200500

副　題								担　当　者	横江　百合子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-153-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organisation in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in English.

〔教材〕

教科書：P. Ackert and L. Lee, *Cause & Effect*, Fourth Edition, Cengage, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please come prepared to participate actively.

〔成績評価の方法〕

Midterm exam (30%) Final exam (30%) Other assignments (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 3 Lesson 1
第 3 週　Unit 3 Lesson 2
第 4 週　Unit 3 Lesson 3
第 5 週　Unit 3 Lesson 4
第 6 週　Unit 3 Lesson 5
第 7 週　Extra materials
第 8 週　Review & confirmation of understanding
第 9 週　Unit 4 Lesson 1
第10週　Unit 4 Lesson 2
第11週　Unit 4 Lesson 3
第12週　Unit 4 Lesson 4
第13週　Unit 4 Lesson 5
第14週　Extra materials
第15週　Review & confirmation of understanding

READING & WRITING F

3714030200600

副　題	Reading and Improving your Vocabulary	担　当　者	R．ジョーンズ　講師

単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-154-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English. The focus of this semester's class is reading. In addition the students will occasionally write about topics that have been discussed and things that have been read in class. The main aim is to have fun while studying and for the students to improve their English skills, particularly vocabulary.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organisation in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Though writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing. This is a continuation of the class from the spring term, but new students are most welcome. The main point in this course is for students to discover the joy of reading English and how it can help them build up useful English vocabulary. In addition, before and after most readings, the students will have a chance to speak about the various reading topics. Students will also get an opportunity to write about what they have read and to develop their opinions by writing.

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential Reading 1 (ISBN: 9780230020108)*, Macmillan

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are to bring the textbook to all lessons. Students must ensure that they have completed all homework assignments. Students need to review the previous lessons and prepare for the coming lessons.

〔成績評価の方法〕

Attendance = 10 points
Punctuality = 10 points
Effort and participation = 20 points
Writing reports = 100 x 20% = 20 points
Homework and class exercises = 100 x 20% = 20 points
Final assessments = 100 x 20% = 20 points
Total = 100 points

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Welcome back to the class. Various reading and writing exercises and course expectations for the fall semester.
第２週　Reading taken from unit 1 - Culture shock. Comprehension exercises and vocabulary work. Reading - Doing things differently.
第３週　Unit 2 of the text. How chewing can improve grades! Reading about the perils of chewing gum. Vocabulary work and comprehension exercises. Writing practice based on the themes.
第４週　Technology - reading taken from the textbook. Comprehension and vocabulary building with more writing practice.
第５週　Chapter 4 - Reading and discussion about urban life. Reading about living in the city. Writing practice and various other exercises.
第６週　Readings taken from chapter 5 of the text. The case for plastic surgery. Comprehension exercises, vocabulary building and writing practice.
第７週　Topic theme is piracy and fake goods. Reading - Big labels small prices. Reading exercise; Copycats.
第８週　Consumerism. Reading; Doing Without. Discussion, comprehension and vocabulary exercises. Writing practice.
第９週　Theme; Fashion. Readings from the textbook, vocabulary building and comprehension work. Reading about people talking about their hair from 5 different countries.
第10週　Reading theme is about the internet and virtual reality. Reading about and discussion of podcasts, blogging and programming.
第11週　The reading theme is about tattoos. Reading texts taken from unit 10 of the textbook. Discussion and reading about Metrosexual.
第12週　Reading topic revolves around sport. Comprehension exercises, vocabulary building and writing assignments.
第13週　The reading topic explores unusual reading sports and activities. Vocabulary building and comprehension questions.
第14週　Readings from unit 12 of the textbook examining student's reading skills and preferences. Vocabulary building and final writing assignments.
第15週　Summation of the course of studies and final evaluations. Collection of final writing reports.

The textbook units will be covered each week. Always try hard and you can improve your English. Please do not be late to the lessons. Try hard to come to all the lessons and do all the homework. Be punctual.

READING & WRITING G

3714030200700

副　題								担　当　者	小倉　雅明　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-155-GL

〔授業の到達目標〕

読解力を磨きながら，それを土台として伝えたいことを的確に表現できるようにライティング力のレベルアップを目標とします。

〔授業の内容〕

春学期に引き続き，基礎的な語彙・文法項目の学習を続けます。指定テキストと配布プリントなどをつかって，たくさん英語に触れてもらいます。毎回単語テストと授業内容にかんする小テストを行います。なお，授業での説明には英語と日本語の両方を用います。

〔教材〕

参考書：Patricia Ackert, Linda Lee, Harry Haynes, Jessica Beck, *Thoughts and Notions*, Updated Edition, CENGAGE Learning, 2014

必要に応じてその都度プリントを配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として指定された範囲は必ずこなしている前提で授業は進行します。

予習・復習など授業外での学習時間は60時間必要です。

〔成績評価の方法〕

授業参加：30%，課題・宿題・クイズ：40%，期末課題：30%により総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

気になることがあればいつでもrrtrnrrtrn●ogdict.com（change ● to @）に連絡してください。その際，かならずお名前とご所属を明記してください。

〔備考〕

辞書を頻繁に使います。紙の辞書でも電子辞書でもよいので毎回かならず持ってきてください。使う辞書について相談がある場合は事前にメールで問い合わせて下さい。なお，初回の授業に(持っている人は)インターネットにつながったスマートフォンかタブレット，パソコンを持ってきてください。

〔授　業　計　画〕

第１週　１学期の復習・確認
第２週　Unit5 Lesson1
第３週　Unit5 Lesson2
第４週　Unit5 Lesson3
第５週　Unit6 Lesson1
第６週　Unit6 Lesson2
第７週　Unit6 Lesson3
第８週　Review
第９週　Unit7 Lesson1
第10週　Unit7 Lesson2
第11週　Unit7 Lesson3
第12週　Unit8 Lesson1
第13週　Unit8 Lesson2
第14週　Unit8 Lesson3
第15週　Review

進行予定は受講者の理解度などによって適宜調整される可能性があります。

READING & WRITING H

3714030200800

副　題								担　当　者	武富　利亜　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-156-GL

〔授業の到達目標〕

速読ができ，スキミング，スキャニング力も養う。自分の意見などが，熟語や比喩など様々な表現方法を用いて豊かな文章が書けるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

テキスト内の記事を読みながら，同時通訳の訓練でも用いられる，英語を英語の語順で理解する方法をペア・ワークなどで実践しながら練習する。高度な読解力，語彙力を身につけ，最終的には，論理的に自分の意見が書けるようになることを目指す。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, *Reading Keys 1*, New Edition, Macmillan, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

分からない単語を調べたり，和訳したりする時間が必要。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，テスト60%，パフォーマンス・ポイント20%（授業内でのパフォーマンス）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction Unit 7 Childhood Memories
第 2 週　Unit 7 Childhood Memories
第 3 週　Unit 8 Growing Up in Another Culture
第 4 週　〃
第 5 週　Unit 9 The Secret of Success
第 6 週　〃
第 7 週　Review
第 8 週　Unit 10 Is the Money the Answer
第 9 週　〃
第10週　Unit 11 The Car is King
第11週　〃
第12週　Unit 12 Incredible Journeys
第13週　〃
第14週　Summary (まとめ・予備)
第15週　Review

上記は，あくまで目安であり，随時進捗状況に応じて変更される。テキストは，トラベル，カルチャーなどネット社会から日常生活まで，幅広い 8 つのテーマで構成されている。トピックやジャンルに合わせて，読解・語彙スキルを養う。

READING & WRITING I

3714030200900

副　題								担　当　者	P．アプス　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-157-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of the course is help the students develop better reading skills. In this semester. The students will improve their writing skills by improving their book reports and the students will their writing and finally the students will improve their speed and comprehension for tests like TOIEC, TOEFL and IELTS

〔授業の内容〕

The course is divided into two sections, an intensive and extensive reading program. In the intensive section of the course we will study the skills and approaches that help a reader understand a text. Secondly the students will be expected to read extensively. To achieve this aim the students will read and write book reports on the graded readers supplied in the class and in the library.

〔教材〕

教科書：Chris Gough, *Essential reading- book two*, (Macmillan Press)

Students will be expected to have a dictionary in every class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

For every class will be expected to read extensively and by the end of the semester they will be expected to have read 800 pages. Each student will keep a vocabulary book and each week they will have to increase the number of words by 10 so at the end of the semester the students will have to increase by 150 words. Every three weeks there will be a vocabulary test on what words they have added to their books. Finally the students will be doing homework from the textbook.

〔成績評価の方法〕

The students will be graded on four criteria:

1) Book reports and reading progress (Minimum of 800 pages)（40%）
2) Vocabulary Book (20%)
3) Class tests - Every chapter will have a　（20%）
4) Attitude in class that is willingness to co-operate with tasks in the classroom.（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Unfortunately I do not have office hours for the students

Students can contact me by email which I will give in the class on the first day.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction to reading, the course and what is expected throughout the semester.
第 2 週　Intensive Reading
Essential Reading comprehension - Chapter Five - The body beautiful - Under the knife
第 3 週　Intensive Reading
Essential Reading comprehension - Chapter Five - The body beautiful -Beautiful people have beautiful lives
第 4 週　Intensive Reading
第 5 週　Intensive Reading
Reading comprehension five
Essential Reading Chapter Six - The piracy business - Copycats
第 6 週　Intensive Reading
Essential Reading chapter six- Culture Shock
-Cultural differences
第 7 週　Intensive Reading
Reading comprehension Six
Chapter seven
第 8 週　Intensive Reading -
Essential Reading Chapter Eight - Fashion Fusion? Confusion!
第 9 週　Intensive Reading - Essential Reading Chapter Eight - Splitting hairs
第10週　Intensive reading
Chapter eight comprehension
第11週　TOIEC test practice
第12週　Prepare for a oral vocabulary test of the words they have studied during the semester.
第13週　Oral vocabulary comprehension of the words they have studied during the semester.
第14週　Checking the number book report pages read.
第15週　Review of the semester's study.

Will follow the chapters of the book.

Every week there will be speed reading and reading skill exercises.

READING & WRITING J

3714030201000

副　題								担　当　者	式町　眞紀子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-158-GL

〔授業の到達目標〕
英文の基本概念であるparagraphの仕組みとその構成を正確に理解する。
語彙の増強―単に辞書的な理解に留まらず，文脈に沿って適宜選択し，表現力を高める。
意味のまとまりを的確に反映した音読をする。

〔授業の内容〕
春学期のBasic Reading Jから引き続き，「異文化理解」，「都市と生活」，「食と健康問題」，「恋愛と結婚」，「スポーツ」など，私たちの日常生活に密接に関わる話題を扱った各ユニットで提示されるケーススタディーを，内容確認もかねて各自に発表してもらいます。必要に応じて語彙・文法という基本的事項で補い，リーディングにおける技術的な手法である ”skimming” や ”scanning” についても，練習問題を活用して体得することに結び付けます。また，音読は必須です。意味のまとまりや音の強弱によって適切な声の大きさによって音読することで，英語「らしさ」を聴覚から取り込み，正確な読みや，ライティング時の素養とするためです。
今学期では応用演習として，各ユニットに関連してライティングの時間を増やします。

〔教材〕
教科書：Chris Gough, *Essential Reading1*, Oxford: Macmillan, 2008
授業には必ず英和辞書（電子・紙媒体）を持参すること。
また，実力をつけるために，以下のような英英辞典も使うことが望ましい。
Longman Dictionary of Contemporary English
Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary
文法の参考書，問題集については授業時に説明します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習（次回授業で扱う範囲）を前提に授業は進められます。pre-readingや本文はもちろん，練習問題も解いて，不明な点も洗い出したうえで授業に臨むこと。授業とは，わかっていることを再確認し，わからないことを明らかにするための時間です。授業後は必ず復習をして，わからないことをあいまいなままにしないことと，理解をさらに深めるために，本文の要約や，速読のトレーニングに充ててみることを奨励します。
これら一連の学習の流れには，４時間程度が見込まれます。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度（積極性・発表・発言など含む）50%，試験30%，課題 20% 以上を基準に総合的に判断します。成績評価対象詳細に関しては，学生便覧を参照のこと。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
授業時の教室にて，もしくはサポートセンターにて手配のこと。

〔備考〕
板書を多用しますので，ノートを一冊用意すること。その際，配布プリントの整理と保管のうえでも，A4サイズが望ましい。
スマートフォンの辞書アプリは学習用には不十分なので，教室での使用は認めません。これに関連して，机上に授業と関係ないものを置くことに対してはペナルティを科します。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction & Orientation
Unit7: ”Love and Romance” ケース「出会いを求めて」「むくわれない思い―『ジェイン・エアより』」本文内容の確認
第２週　Unit1:(cont.) 文法項目・語彙の説明，”skimming” や ”scanning”，応用表現（書換え・口語表現など）
Brief review Unit7
第３週　Unit8: ”Two cities” ケース「ロンドンの中華街」「様変わりした北京の夜」本文内容の確認
第４週　Unit8:(cont.) 文法項目・語彙の説明，”skimming” や ”scanning”，応用表現（書換え・口語表現など）
Brief review Unit8
第５週　Unit9: ”New faces” ケース「顔面移植」「韓国美人のひみつ」本文内容の確認
第６週　Unit9:(cont.) 文法項目・語彙の説明，”skimming” や ”scanning”，応用表現（書換え・口語表現など）
Brief review Unit9
第７週　Midterm
第８週　Review for midterm
ライティング・ワークショップ（配布資料に基づく）
第９週　Unit10: ”International sport” ケース「アジアのサッカー選手たち」「ミシェル・ウィ―旋風」本文内容の確認
第10週　Unit10:(cont.) 文法項目・語彙の説明，”skimming” や ”scanning”，応用表現（書換え・口語表現など）
Brief review Unit10
第11週　Unit11: ”Changing pop music” ケース「虚構のバンド Gorillaz」「ポップ・スターたちの夜」本文内容の確認
第12週　Unit11:(cont.) 文法項目・語彙の説明，”skimming” や ”scanning”，応用表現（書換え・口語表現など）
Bief review Unit11
第13週　Unit12: ”A healthy diet?” ケース「ジャンクフードはおよしなさい」「日本食に飛びつく欧米人」本文内容の確認
第14週　Unit6:(cont.) 文法項目・語彙の説明，”skimming” や ”scanning”，応用表現（書換え・口語表現など）
Brief review Unit12
第15週　Review
基本的にはテキストに沿って読み進めて行きますが，学生にとってより身近な話題として捉えるために，トピックに関連した新聞やネットなど各種メディアでの ”authentic” な文書も積極的に取り上げる予定です。したがってスケジュールが変更されることも有り得ます。

READING & WRITING K

3714030201100

副　題								担　当　者	G．ディオリオ　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-159-GL

〔授業の到達目標〕
To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕
Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕
教科書：*Reading Keys 1*, New Edition, Macmillan, 2009
参考書：*Xreading.com*, Xreading.com
Xreading.com is a website and application that gives students access to many different graded readers. Students can read these books on computers, tablets, or smartphones.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
Every week, students will need to read one book (graded reader) and take a short quiz on it. There will also be short homework assignments based on readings done in class. In addition, students will need to keep vocabulary notebooks or notecards and study them every week.
Students will write one longer essay in stages, with editing to be done for homework.
Completion of the homework and participation in class are very important to success in this course.

〔成績評価の方法〕
25% - Attendance and participation
25% - Essay
25% - Extensive reading
25% - Tests
On-time attendance in class and class participation are very important to success in the course.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
After class or by appointment. Please e-mail to make an appointment.
In person after class, or by e-mail: gsdeorio●gmail.com（change ● to @）.

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course introduction
第 2 週　Formation of reading groups, review of reading skills
　　Introduction to essay writing
第 3 週　Reading groups - Book 3
　　Essay planning
第 4 週　Reading groups - Book 3
　　Essay outlines
第 5 週　Reading groups - Book 3
　　Introductory paragraphs
第 6 週　Reading groups - Book 3
　　Body paragraphs 1
第 7 週　Reading groups - Book 3
　　Body paragraphs 2
第 8 週　Book 3 summary
　　Conclusions
第 9 週　Confirmation and understanding for Book 3
　　Test review
第10週　Reading groups - Book 4
　　Editing
第11週　Reading groups - Book 4
　　Research
第12週　Reading groups - Book 4
　　Paraphrasing and summarizing
第13週　Reading groups - Book 4
　　Citations
第14週　Book 4 summary
　　Editing
第15週　Confirmation and understanding for Book 4
　　Essays due
Assignments will be decided based on in-class progress.

READING & WRITING L

3714030201200

副　題								担　当　者	坂本　裕子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-160-GL

〔授業の到達目標〕

春学期に学んだ事を基盤にして，更に深く長文を読解できるよう目指します。

〔授業の内容〕

様々なトピックの英文を読みながら，英文読解を効率的に行う手順や方法を身につけるための練習を行います。月に一回単語帳・リーディングレポートを提出してもらいます。

〔教材〕

教科書：Miles Craven, *Reading Keys 1 (New edition)*, Macmillan, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としては，単語調べ・内容読解，復習は内容の見直しを行います。

〔成績評価の方法〕

学期末のテストと課題提出を基準にし，出席状況や授業への意欲的な参加を加味して評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　ガイダンス
第 2 週　Unit 1
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Unit 3
第 5 週　Unit 4
第 6 週　Unit 5
第 7 週　Unit 6
第 8 週　Unit 7
第 9 週　Unit 8
第10週　Unit 9
第11週　Unit 10
第12週　Unit 11
第13週　Unit 12
第14週　Unit 13
第15週　Review

READING & WRITING M

3714030201300

副　題								担　当　者	橋本　ナターシャ　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-161-GL

〔授業の到達目標〕
To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕
Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.
The course is designed to help students to:
（１）Expand vocabulary through reading and using topic based vocabulary in conversations, discussions, and/or writing.
（２）Improve opinion giving skills.
（３）Learn how to (a) ask follow-up questions and (b)give detailed responses, both in speaking and writing.
（４）Improve reading skills.

〔教材〕
教科書：Patricia Ackert, Linda Lee, Harry Hayness, & Jessica Beck, *Thoughts and Notions - Reading and vocabulary development 2 - NEW*, NEW Edition, Cengage, 2014

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
In this class we will: study vocabulary, practice reading, write, and have group and pair discussions. You will be required to pre-learn some designated vocabulary (about 10-12 for each class), read the texts, and do your homework BEFORE the class. A strong emphasis will be on pair work and small group discussions, so you are expected to come to class on time and prepared, so that you can participate in class activities with your group/partner.
More than one hour of preparation time outside of class will be required for every class in order to review, memorize new vocabulary and read required texts. Additional time will be needed to work on writing assignments.
You will keep YOUR OWN notes. You will also make YOUR OWN vocabulary list or vocabulary cards.

〔成績評価の方法〕
Quizzes (eight times; after every unit that consists of three lessons): 60
Tests (two times): 20
Homework, writing tasks, and in-class participation (asking questions, making comments, responding to teacher's questions): 20

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Guidance, conversation in pairs/small groups.
　　Unit 1 Lesson 1
第２週　Unit 1 Lessons 2 & 3
第３週　Unit 2 Lessons 1 & 2
第４週　Unit 2 Lesson 3
第５週　Unit 3 Lessons 1 & 2
第６週　Unit 3 Lesson 3; Unit 4 Lesson1
第７週　Unit 4 Lessons 2 & 3
第８週　Unit 5 Lesson 1
第９週　Unit 5 Lessons 2 & 3
第10週　Unit 6 Lessons 1 & 2
第11週　Unit 6 Lesson 3
第12週　Unit 7 Lessons 1 & 2
第13週　Unit 7 Lesson 3
第14週　Unit 8 Lessons 1 & 2
第15週　Unit 8 Lesson 3
Some changes in the schedule are possible and will be timely announced.

READING & WRITING N

3714030201400

副　題								担　当　者	森　葉子　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-162-GL

〔授業の到達目標〕

To continue building reading fluency and develop writing skills for expressing ideas and opinions in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary for reading comprehension and their understanding of text organization in English. Students will write summaries and opinions of materials they have read. Through writing activities, students will develop their skills for expressing their ideas and views in writing.

〔教材〕

教科書：Miles Craven, *Reading Keys 1*, New Edition, Macmillan, 2009

Supplementary handouts will be distributed according to necessity.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to read ahead before each class and review vocabulary list after each class. As a warm-up, every Saturday class will start with a vocabulary quiz.

〔成績評価の方法〕

Class Participation (30%), Vocabulary Quizzes (30%), Presentation (20%), Writing Assessment (20%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Any consultation welcome after class. For other hours, please contact me through the Department Support Center.

〔備考〕

Please bring the following to every class:

1. A dictionary (either a hard copy or electronic)
2. A notebook (for lectures)
3. A notebook (for vocabulary)

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Class Orientation- Textbook Introduction
　　Unit 1: The beautiful game
第 2 週　Unit 2: Sports for everyone
第 3 週　Unit 3: Work around the world
第 4 週　Unit 4: Unusual occupations
第 5 週　Unit 5: Life on death row
第 6 週　Unit 6: Crazy criminals
第 7 週　Unit 7: Childhood memories
第 8 週　Unit 8: Growing up in another culture
第 9 週　Unit 9: The secret of success
第10週　Unit 10: Is money the answer?
第11週　Unit 11: The car is king
第12週　Unit 12: Incredible journeys
第13週　Unit 13: We do things differently
第14週　Unit 14: The language puzzle
第15週　Unit 15: No place like home

SPEAKING PRACTICE A

3717030100100

副　題								担　当　者	小倉　雅明　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-163-GL

〔授業の到達目標〕

必要な場面に応じて必要な表現を用いることができるようにスピーキング力の土台を築くための学習及びトレーニングを行います。

〔授業の内容〕

テキストを用いながら実際に英語を使う際に必要になるであろう知識や表現を中心に学びます。様々な状況・場面・話題に応じた言葉のやりとりを学ぶことで実際の運用につなげていきます。実際に「使う」場面を想定した練習の機会を多く設ける予定です。特に口語表現や基本単語の使い方に重点をおきます。授業は主に英語で行われます。

〔教材〕

参考書：Joan Saslow, Allen Ascher, *SUMMIT1*, 2nd Edition, PEARSON, 2012

必要に応じてその都度プリントなどを追加で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として指定されたことは全てこなしている前提で授業は進行します。

予習・復習など授業外での学習は60時間必要です。

〔成績評価の方法〕

参加：40%，課題・宿題：30%，期末課題：30%　に基づいて総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

気になることがあればいつでもrrtrnrrtrn●ogdict.com（change ● to @）に連絡してください。その際，かならずお名前とご所属を明記してください。

〔備考〕

辞書を頻繁に使います。紙の辞書でも電子辞書でもよいので毎回かならず持ってきてください。特に英英辞典は必須です。使う辞書について相談がある場合は事前にメールで問い合わせて下さい。なお，初回の授業に(持っている人は)インターネットにつながったスマートフォンかタブレット，パソコンを持ってきてください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　イントロダクション+Preview
第 2 週　Unit1
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　Unit2
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　Unit3
第10週　〃
第11週　〃
第12週　Unit4
第13週　〃
第14週　〃
第15週　Review

進行予定は受講者の理解度などによって適宜調整される可能性があります。

SPEAKING PRACTICE B

3717030100200

副　題								担　当　者	J. テスター　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-164-GL

〔授業の到達目標〕

This course will improve practical English communication skills.

〔授業の内容〕

Students build confidence to handle a variety of situations in English through conversation practice, vocabulary building, role-play and discussion.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 2*, 2nd Edition, Cengage, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 40%
Vocabulary project 10%
Completion of Homework 20%
Quizzes and tests 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introducing yourself. Conversation skills.
第 2 週　Compensation strategies. Asking for clarification.
第 3 週　Vocabulary learning strategies.
第 4 週　Discussing routines.
第 5 週　Discussing hobbies and pastimes.
第 6 週　Asking for and giving opinions.
第 7 週　Agreeing and disagreeing.
第 8 週　Giving advice.
第 9 週　Making and responding to suggestions.
第10週　Participating in discussions.
第11週　Active listening and showing interest.
第12週　Discussing current topics.
第13週　Reporting on the past.
第14週　Talking about experiences.
第15週　Review

SPEAKING PRACTICE C

3717030100300

副　題								担　当　者	白川　幸子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-165-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build confidence and fluency in English conversation.

〔授業の内容〕

Students will learn how to handle a variety of situations in English and express their thoughts in English through conversation practice, vocabulary building, role-play and group work.

〔教材〕

教科書：David Paul, Tracy Davis, *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008

Extra materials will be provided during the course

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Revision of contents of each class. Preparation to participate in conversations.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 55%

Presentations 25%

Oral Exam 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
　　Topic: Friends
第 2 週　Topic: Friends
第 3 週　Topic: Free time
第 4 週　〃
第 5 週　Topic: The past
第 6 週　〃
第 7 週　Topic: The family
第 8 週　〃
第 9 週　Topic: Work
第10週　〃
第11週　Topic: City life
第12週　〃
第13週　Topic: Beliefs
第14週　〃
第15週　Topic: The future

This syllabus is subject to some change.

SPEAKING PRACTICE D

3717030100400

副　題								担　当　者	K．フォード　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-201-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：Ascher, A. , Saslow, J.『Summit 1』Pearson ELT

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation will involve studying necessary grammar and vocabulary, and preparaing to take part in conversations, discussions and speeches.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on class participation（40%), presentations（20%), homework preparation（20%） and speaking tests（20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

fordkeith●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introductions Conversation Topic, and Summit 1 Unit 1; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals.
第２週　Family Conversation Topic, and Summit 1 Unit 2; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals.
第３週　School Experiences Conversation Topic, and Summit 1 Unit 3; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals.
第４週　Healthy Living and Lifestyle Conversation Topic, and Summit 1 Unit 4; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals.
第５週　Hobbies and Entertainment Conversation Topic, and and Summit 1 Unit 5; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals.
第６週　Me, My Life Poster Presentations
第７週　Summit 1 Unit 6; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals.
第８週　Fluency Topics, and and Summit 1 Unit 7; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals.
第９週　Best and Worst Travel Experiences Conversation Topic, and Summit 1 Unit 8; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals.
第10週　Summit 1 Unit 9; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals; Choose an International City for group research and presentation
第11週　Discussing and Organising details of five-day guide of chosen city
第12週　Group Preparation of Poster and Speech Practice
第13週　A Guide to an International City of Culture Poster Presentations
第14週　〃
第15週　Summit 1 Unit 10; Preparation: Study required grammar and vocabulary, and be ready to participate in communication goals; Fluency Topics, Review and Course Evaluation

SPEAKING PRACTICE E

3717030100500

副　題								担　当　者	R．S．ジョーンズ　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-202-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversation skills in a variety of situations. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：Jun Liu, Tracy Davis, Susanne Rizzo, *Communication Strategies 3*, Cengage, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading of articles, looking up unfamilar expressions, keeping vocabulary notebooks up to date, preparing for role-plays and discussions.

〔成績評価の方法〕

Participation 20%
Oral assessments 50%
Vocabulary tests 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email: rsjones73●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕

Students should bring a B6 sized vocabulary notebook to class.

〔授　業　計　画〕

第１週　Course Introduction: Students will get to know each other, and be introduced to the textbooks and course requirements.
第２週　Dress Code: Students should read the article on page 12, look up unfamiliar vocabulary, and answer questions in the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第３週　Dress Code: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第４週　Video Games: Students should read the article on page 12, look up unfamiliar vocabulary, and answer questions in the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第５週　Video Games: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第６週　Advertising: Students should read the article on page 18, look up unfamiliar vocabulary, and answer the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第７週　Advertising: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第８週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.
第９週　International Competitions: Students should read the article on page 24, look up unfamiliar vocabulary, and answer the questions in the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第10週　International Competitions: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第11週　Mobile Phones: Students should read the article on page 30, look up unfamiliar vocabulary, and answer the questions from the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第12週　Mobile Phones: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第13週　Manners and Etiquette: Students should read the article on page 36, look up unfamiliar vocabulary, and answer the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第14週　Manners and Etiquette: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第15週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.

SPEAKING PRACTICE F

3717030100600

副　題								担　当　者	P．アプス　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-203-GL

〔授業の到達目標〕

There are three goals for the students. The first is students will learn how to hold a discussion. The students will learn basic presentation skills. finally the students will learn to speak in real life situations.

〔授業の内容〕

The second semester the students will do a number of projects that will improve their communication ability. There students will make a small movie as well as participating poster presentation. The students will also participate in class discussions that are of interest to the young adult.

〔教材〕

教科書：Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka『『Impact Issues 3』（Impact Issues）New版,』（Pearson Longman，2009年）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every class students will have to prepare for the next class there will a lot of presentations and homework. Students will be expected to check vocabulary for the next class.

〔成績評価の方法〕

1) 30% Participation and effort
2) 20% Homework
3) 30% presentations
4) 20% interview

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

There are no office hours.
In the first class the teacher will give the students an email to contact him.

〔備考〕

In this course I hope the students will try their hardest to communicate in class with each other and myself. The simple point is that English is easy if you try.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction In this class there will be an explanation of the grading system, the outline of the course and the rules of the classroom.
第２週　Impact Issues Unit One - Cosmetic Surgery
第３週　Impact Issues - Cosmetic Surgery
第４週　Impact Issues - unit 2 - friends and lovers
第５週　〃
第６週　Impact Issues - unit 3 - I don’t care
第７週　〃
第８週　Impact Issues - unit 4 - Rules, Rules, Rules
第９週　Impact Issues - unit 5 - Plagiarism
第10週　Class Presentation - What is success
第11週　The Issue
Impact Issues - unit 12 - No Place Like home
第12週　Impact Issues - unit 12 - No Place Like home
第13週　The students Present their interview findings as a PowerPoint presentation
第14週　Test - Group discussion
第15週　Review of the semester course.

SPEAKING PRACTICE G

3717030100700

副　題								担　当　者	山科　美智子　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-204-GL

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to improve your practical English conversation skills in a variety of situations. After taking this course, you will be able to express your ideas and discuss some topics with your classmates. You can also obtain presentation skills.

〔授業の内容〕

This course focuses on building up your vocabulary and expressing your ideas in a variety of conversational situations. Students will have a lot of opportunities to practice role-plays and discuss many kinds of topics. Presentation skills will be also incorporated.

This course is very interactive and communicative, so it is important to participate in the speaking practices actively.

〔教材〕

教科書：Joan Saslow, Allen Ascher『Top Notch2』Third版，Pearson Education，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class, around 3 to 4h.

〔成績評価の方法〕

Participation in class activities 20% Assignment 20%, Presentation 40%, Exam 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Guidance, Unit1 Greetings and Small Talk
第 2 週　Unit1 Greetings and Small Talk
第 3 週　Unit2 Movies and Entertainment
第 4 週　〃
第 5 週　Unit3 Staying in Hotels
第 6 週　〃
第 7 週　Unit4 Cars and Driving
第 8 週　〃
第 9 週　Unit5 Personal Care and Appearance
第10週　〃
第11週　Presentation Strategies/Pronunciation exercises
第12週　Presentation
第13週　〃
第14週　Grammar/Connecting ideas
第15週　Comprehensive Review

Schedule might be changed to take into consideration students' levels and interests.

SPEAKING PRACTICE H

3717030100800

副　題								担　当　者	横江　百合子　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-205-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：J. Saslow and A. Ascher, *Top Notch 3*, Third Edition, Pearson Longman, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please come prepared to participate actively.

〔成績評価の方法〕

Midterm exam (30%) Final Exam (30%) Other assignments (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1
第 3 週　Extra materials
第 4 週　Unit 2
第 5 週　Extra materials
第 6 週　Unit 3
第 7 週　Extra materials
第 8 週　Review & confirmation of understanding
第 9 週　Unit 4
第10週　Extra materials
第11週　Unit 5
第12週　Extra materials
第13週　Unit 6
第14週　Extra materials
第15週　Review & confirmation of understanding

SPEAKING PRACTICE I

3717030100900

副　題								担　当　者	A．パラスキ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-206-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build fluency and expand the ability to converse in English.

〔授業の内容〕

Rather than focus on the grammar or specific vocabulary, this course revolves around the practice and understanding of different interpersonal skills involved in conversation.

〔教材〕

教科書：*Conversation Strategies*, (Pro LinguaAssociates) revised Edition, 2005

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to study vocabulary and practice language patterns for presentation outside of class time. The amount of time spent outside class should be expected to equal or exceed the amount of time spent in class.

〔成績評価の方法〕

Student grades are based on attendance and class participation(40%), improvement(20%), short quizzes(20%) and student presentations(20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Rejoinders and follow-ups
第 2 週　Confirmations and Clarifications.
第 3 週　Keeping or Killing a Conversation.
第 4 週　Requests and Responses.
第 5 週　Soliciting Details.
第 6 週　Comparisons.
第 7 週　Distinguishing Nuance and Finding the Right Word.
第 8 週　Starting and Stopping a Conversation.
第 9 週　Beginning and Ending a Phone Call; Phone Conversations.
第10週　Expressing Opinions.
第11週　Discussion Connectors.
第12週　Summarizing.
第13週　Conducting a Formal Meeting.
第14週　Review.
第15週　Evaluation presentation.

SPEAKING PRACTICE J

3717030101000

副　題	Let's Have Fun Speaking English Together!	担　当　者	R．ジョーンズ　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-207-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations. To allow the students many opportunities to speak English in class. This is a fun and exiting class and if the students study hard, they will gradually improve their English speaking skills.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussion, where possible and appropriate, will be incorporated to allow the students to improve their general conversational skills. This is a fun an dynamic English conversation class is for those students who are serious about improving their English speaking skills. In the class, we will talk about a variety of interesting topics. The level of this class is about intermediate, but all students who are prepared to try hard are most welcome. In the typical class, handouts will be used and students will talk mostly in pairs. This will give the students the maximum amount of time to practice speaking English. Remember; practice makes perfect! . There will be plenty of fun in the class, but students need to study hard if they want to improve their English abilities.

〔教材〕

教科書：『Top Notch 2』（Joan Saslow and Allan Ascher）3rd版，Person Longman，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students need to bring the textbook to all the lessons and to make sure they have completed all homework assignments. If a student misses a class they must find out what they missed.

〔成績評価の方法〕

Attendance = 10 points
Punctuality = 10 points
Effort and participation = 20 points
Class and homework exercises = 100 x 40% = 40 points
Final evaluations = 100 x 20% = 20 points
Total = 100 points.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

zerosumgame●mac.com（change ● to @）

〔備考〕

Please try hard to come to all the lessons and do all the homework. If you do your best, you can get a good final grade for this class. It is up to you. You will need to bring the textbook to all the lessons.

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction to the course, the textbook, grading system. Introducing the teacher and course expectations.
第２週　Student introduction activities. Getting reacquainted with someone. Conversational models and speaking practice.
第３週　Greeting a visitor to your country. Conversation practice and vocabulary building. Idioms and other expressions. Discussion of gestures and customs. Model conversation study, practice and extensions.
第４週　Conversations about movies and entertainment. Vocabulary building and idiom work. Functional English practice; Apologizing for being late. Discussing preferences for movie genres, and making recommendations. Group work on debating the effects violence has on viewers of the mass media.
第５週　Functional English related to staying in hotels. Checking into a hotel. Leaving and taking a message, and requesting housekeeping services.
第６週　Conversation practice related to cars and driving. Describing a car accident. Reporting a problem with a car. Renting a car. Discussion revolving around good and bad driving techniques.
第７週　Conversation and discussion theme based around Personal Care and Appearance. Functional English revolves around shopping in a store and requesting information.
第８週　The conversation themes revolve around healthy eating. Model conversation dialog work, vocabulary building and discussions.
第９週　Discussion and conversations around personality. Getting to know someone's likes and dislikes. How to cheer someone up! Discussion and conversations around birth order.
第10週　Functional English revolving around discussion of the arts. Making recommendations for a good museum. Talking about and describing objects.
第11週　Talking about artistic talents. Vocabulary building and model dialog practice.
第12週　Discussion and conversations about favourite artists. More idiom practice, model dialog building and vocabulary work.
第13週　Conversation themes based around computers and the modern age. Troubleshooting problems with technology. Making recommendations when buying computers and other technological things in a store.
第14週　Discussion and conversation practice based around ethics and values. Making ethical choices. Returning someone else's property and expressing personal values.
第15週　Summation of the course of study and final evaluations.

SPEAKING PRACTICE K

3717030101100

副　題								担　当　者	式町　眞紀子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-208-GL

〔授業の到達目標〕
To improve and developing students' communicational abilities

〔授業の内容〕
This course will focus on developing "oral" and "aural" communication. However, attention will be given to reading and writing as well. Listening, speaking, reading and writing will be combined throughout the course. In addition to these four basic skills, the course will address the needs of students by dealing with the norms of grammar and punctuation in order to apply them when students write speech scripts.
Remember that classroom activities are conducted with the view of maximizing interaction among students.

〔教材〕
教科書：Paul, David., *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008
『*College level English-Japanese dictionaries*』
参考書：*Longman Dictionary of Contemporary English*
Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
You will be expected to:-prepare appropriately and complete homework tasks for the next class.
-review class content and take notes to further your understanding.
-research and prepare for presentation projects.
These activites should be arranged for 4 hours in total for each unit.

〔成績評価の方法〕
exams 30%, attendance and class participation 50% and homework 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
At classroom or at the support center

〔備考〕
スマートフォンの辞書アプリは学習用には不十分なので，教室での使用は認めません。これに関連して，机上に授業と関係ないものを置くことに対してはペナルティを科します。
また，板書を多用しますので，ノートを一冊用意すること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction and orientation.
Unit1 "Friends" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第２週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第３週　Unit 2 "Free Time" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第４週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第５週　Unit 3 "The Past" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第６週　Communication exercise and act out:utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第７週　Unit 4 "The Family" utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第８週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies for writing opinions
第９週　Unit 5 "Work" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第10週　Communication exercise and act oututilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第11週　Unit 6 "City Life" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第12週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第13週　Unit 7 "Beliefs"Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第14週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第15週　Review
To make the classes more effectively and practically, we will be jumping and refferring to differrent pages of the textbook, without following them sequentially one after another.

SPEAKING PRACTICE L

3717030101200

副　題								担　当　者	矢田　陽子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-209-GL

〔授業の到達目標〕

In this class, students will use the text, Impact Issues 2, as a basis for more in-depth discussions utilizing skills acquired previous English speaking experiences in the first year. This class will be a student-centered course to get used to express own opinion in English. In other words, the teacher is not the focal point of the classroom. Students will rely upon each other and themselves to improve their English communicative abilities. Students will also learn how to give a presentation in English in front of all classmates.

Last and most importantly, this is a speaking class designed to maximize the use of spoken English in a supportive environment.

〔授業の内容〕

この授業では，英語でのディスカッションやプレゼンテーション能力を高めていきます。

テキストは毎回テーマが設定されており，そのテーマに沿って自分の意見を英語で表現することに取り組みんでいきます。

従来型の教員が学生に教えるという形ではなく，英語での学生同士のロール・プレイ，コミュニケーションがこの授業の軸となっています。

間違った表現を使うことを恐れることなく，口に出して表現することに慣れていきましょう。

〔教材〕

教科書：*Impact Issues 2*, New Edition, Pearson Longman, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で一度触れたフレーズや言い回しを積極的に使用していくように心がける。

〔成績評価の方法〕

中間プレゼンテーション25%，授業中の取り組み・自主性（25%），期末プレゼンテーション50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

辞書は電子辞書でかまいませんが，必ず授業に携帯すること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 First Impression
第 3 週　Unit2 Traffic Jam
第 4 週　Unit3 Who needs the local languages?
第 5 週　Unit4 Getting Ahead
第 6 週　Unit 5 Forever Single
第 7 週　Presentation（成績25%分）
第 8 週　Unit 6 What are friends for ?
第 9 週　Unit 7 What`s for dinner?
第10週　Unit 8 Cyber Bullying
第11週　Unit 9 Taking care of Father
第12週　Unit 10 Why do go School?
第13週　Unit 11 International relationships
第14週　Unit 12 Too little, too late
第15週　Presentation

SPEAKING PRACTICE M

3717030101300

副　題								担　当　者	藤後　仁美　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-210-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.
To have opportunities to communicate in English as much as possible in class.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays, discussions, and presentations will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 2*, Cengage, 2008
Additional materials will be provided when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to read the textbook, study vocabulary to prepare for the role-plays, discussions and presentations in class. Also, review the content after each class.

〔成績評価の方法〕

Class participation 40%, homework 20%, quizzes 20%, presentations 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Contact information will be given in class.

〔備考〕

Please bring English dictionaries to every class.
Prepare and review well in order to participate actively in class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1: Attitudes
第 2 週　Unit 2: Money
第 3 週　Unit 3: Health
第 4 週　Unit 4: Education
第 5 週　Unit 5: Crime
第 6 週　Unit 6: The Environment
第 7 週　Unit 7: Aliens
第 8 週　Unit 8: History
第 9 週　Unit 9: Women in Society
第10週　Unit 10: The Developing World
第11週　Unit 11: Violence
第12週　Unit 12: Politics
第13週　Unit 13: Economics
第14週　Unit 14: Happiness
第15週　Unit 15: Globalization

The schedule is subject to some changes depending on the levels and interests of the students.

SPEAKING PRACTICE N

3717030101400

副　題								担　当　者	谷口　めぐみ　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	3/2	コース・ナンバー	ENG-211-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to practice and improve practical English conversation skills.

〔授業の内容〕

Students will build confidence and expand their ability to speak in English through conversation practice, vocabulary building, role-play and discussion. This course will also guide students towards the way to effective speaking. By learning a few basic principles and practicing several essential skills, students will be ready to deal with a variety of conversational situations.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies*, Cengage Learning, 2008
Kate Elwood, *The Way to Effective Speaking*, 改訂 Edition, Nan'un-Do, 2010

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to review the key expressions introduced during class and complete/submit any homework given during class.

〔成績評価の方法〕

Student grades are based on attendance and class participation (30%), completion of homework (20%), short quizzes (10%) and student presentations (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Students will be given a brief explanation during the first class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Greetings and Small Talk (Introduction)
第 2 週　Friends (Chapter 1)
第 3 週　Eye Contact
第 4 週　Free Time (Chapter 2)
第 5 週　Gestures
第 6 週　The Past (Chapter 3)
第 7 週　Voice Usage
第 8 週　The Family (Chapter 4)
第 9 週　Generating Enthusiasm
第10週　Work (Chapter 5)
第11週　Ending with a Bang!
第12週　Using Visual Aids
第13週　Bringing It All Together（1）
第14週　Bringing It All Together（2）
第15週　Presentation

The schedule provided is due to change according to the actual time length necessary for the students participating in the course.

SPEAKING PRACTICE O

3717030101500

副　題								担　当　者	橋本　ナターシャ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-212-GL

〔授業の到達目標〕
To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕
Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕
教科書：Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka, *Impact Issues 2*, New Edition, Pearson Longman, 2009
Kehe, David & Kehe, Peggy Dustin, *Discussion Strategies*, Second Edition, Prolingua Associates, 2012
"Discussion Strategies" (2012, Second Edition) by Kehe, D. and Kehe P.D. will be used through the spring and fall semesters （通年用) weekly, in addition to the main textbook ("Impact Issues 2").

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
In this class, students will be required to actively participate in conversation and discussions in pairs and small groups. Preparation at home will take about an hour for each class. Preparation includes the following: preparing questions to ask your classmates, preparing your answers to instructor-prepared discussion questions, pre-learning and reviewing vocabulary necessary for in-class activities and quizzes, and preparing and practicing role-plays/simulations to present in class.

〔成績評価の方法〕
Role-plays and in-class activities: 60%
Quizzes and homework: 40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Orientation, getting to know each other
Unit 1 First Impressions
第 2 週　Units 2 & 3
第 3 週　Units 3 & 4
第 4 週　Role-play 1
第 5 週　Units 5 & 6
第 6 週　Role play 2
第 7 週　Units 7 & 8
第 8 週　Units 9 & 10
第 9 週　Role play 3
第10週　Units 11 & 12
第11週　Units 13 & 14
第12週　Units 15 & 16
第13週　Role play 4
第14週　Units 17 & 18
第15週　Units 19 & 20

SPEAKING PRACTICE P

3717030101600

副　題	The Leader in Global Communication	担　当　者	武富　利亜　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-213-GL

〔授業の到達目標〕

語彙力をつけるとともに様々な場面に応じて英語で会話ができるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

テキストを使って，英語のスピーキング，リスニング，リーディング，ライティングを実践していく。大学を卒業後，社会人となっても通用する英語力，特に英会話力を養うことを念頭に授業を進めていく。

〔教材〕

教科書：Joan Salslow, Allen Ascher, *TOP NOTCH 1*, Third Edition, Pearson Longman

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

分からない単語は，あらかじめ辞書で意味を調べておく必要がある。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，試験60%，パフォーマンス20%（パフォーマンス・ポイントは授業初日に説明する）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

言語習得には，継続が必須である。

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション。Unit 1 Preview Lesson 1 Meet someone new.　テキストを必ず準備しておくこと。
第２週　Unit 1 Lesson 2 Identify and describe people. Lesson 3 Provide personal information.
第３週　Unit 1 Lesson 4 Introduce someone to a group. Review.
第４週　Unit 2 Preview Lesson 1 Accept or decline an invitation.
第５週　Unit 2 Lesson 2 Express locations and give directions. Lesson 3 Make plans to see an event.
第６週　Unit 2 Lesson 4 Talk about musical tastes. Review.
第７週　理解度の確認
第８週　Unit 3 Preview Lesson 1 Report news about relationships.
第９週　Unit 3 Lesson 2 Describe extended families. Lesson 3 Compare people.
第10週　Unit 3 Lesson 4 Discuss family cultural traditions. Review.
第11週　Unit 4 Preview. Lesson 1 Ask for a restaurant recommendation.
第12週　Unit 4 Lesson 2 Order from a menu. Lesson 3 Speak to a server and pay for a meal.
第13週　Unit 4 Lesson 4 Discuss food and health. Review.
第14週　Review (Unit 5)
第15週　理解度の確認
授業内容は，進捗状況に応じて随時変更する。

SPEAKING PRACTICE Q

3717030101700

副　題	TOEFL Independentスピーキング形式トピック考察	担　当　者	石渡　忠大　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-214-GL

〔授業の到達目標〕

1）与えられた題目に関して，明確かつ論理的に口頭で述べる技術を身に着ける，2）スピーキングで応用できる語彙や表現の習得，3）日常会話における典型的なトピック例を知る

〔授業の内容〕

好きな季節から，仕事のあり方，完璧な一日の過ごし方など，日常的に使用される会話トピックに慣れ親しみ，これらのトピックにおける質問に答えるだけではなく，そのトピックの傾向に沿って，学生たち自らがトピックを探し出し，質問する能力を養う。その過程で，語彙や表現方法を学び，意見提示のための具体的材料にしていく。サンプルアンサー分析を通し，何が論理的で，何が明確な答えなのかを学習する。同時に実用的文法学習を行い，スピーキング実践に活かす。

〔教材〕

教科書：Corporate Author, *240 Speaking Topics: With Sample Answers*, Createspace, 2103

授業開始3週を越えて教科書を購入しない学生，3週連続で教科書を忘れた学生は欠席扱いとされる。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

前週使用のトピックの復習（授業内で小テストされる）

〔成績評価の方法〕

授業出席5分の4以上，中間期と期末に理解度の確認を行う（授業出席5分の4を満たした学生のみ受ける資格がある）で6割以上の成績取得。付属的に小テストの結果も考慮する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Eメール（大学から取得次第，学生に提示）

〔授　業　計　画〕

第1週　授業オリエンテーション
第2週　Which season - winter, spring, summer or fall - is your favourite?
第3週　If you could plan the perfect day to spend with your close friends, where would you go and why?
第4週　What is the most frightening experience you have ever had in your life?
第5週　Should a country's government tell its citizens how many children they can have?
第6週　Would you rather earn a lot of money working in a job that you don't like or earn less money doing something you enjoy?
第7週　Should students work while they study?
第8週　理解度の確認
第9週　Which do you think is better for the environment: to build fewer factories or to create more wildlife preservation areas?
第10週　Do you agree or disagree with the following statement? It is healthier for children to live in the countryside than in the city.
第11週　Should students consult their parents about their majors and careers?
第12週　In order to get healthy, should people exercise more or sleep more?
第13週　If you could give a meaningful gift to a family member, what would it be?
第14週　Explain your learning style: visual, auditory, kinesthetic, etc.
第15週　What do you think are some of the causes and what are some of the solutions to the problem of obesity in today's society?

挙げられているトピックは授業における分析トピックであり，これらのトピック以外のトピックが授業において使用されるものとする。

SPEAKING PRACTICE R

3717030101800

副　題	Building Confidence in Speaking English	担　当　者	森　葉子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-215-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays and discussions will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 2*, Cengage Learning, 2008

Supplementary handouts will be distributed according to necessity.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to come to class prepared for discussions by reading ahead before each class and reviewing vocabulary after each class. As a warm-up, every Saturday class will start with a vocabulary quiz.

〔成績評価の方法〕

Class Participation (30%), Vocabulary Quizzes (30%), Presentation (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Any consultation welcome after class. For other hours, please contact me through the Department Support Center.

〔備考〕

Please bring the following to every class:

1.A dictionary (either a hard copy or electronic)

2.A notebook (for lectures & discussions)

3.A notebook (for vocabulary)

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Class Orientation - Textbook Introduction
　　Theme 1: Attitudes
第 2 週　Theme 2: Money
第 3 週　Theme 3: Health
第 4 週　Theme 4: Education
第 5 週　Theme 5: Crime
第 6 週　Theme 6: The Environment
第 7 週　Theme 7: Aliens
第 8 週　Theme 8: History
第 9 週　Theme 9: Women in Society
第10週　Theme 10: The Developing World
第11週　Theme 11: Violence
第12週　Theme 12: Politics
第13週　Theme 13: Economics
第14週　Theme 14: Happiness
第15週　Theme 15: Globalization

SPEAKING PRACTICE S

3717030101900

副　題								担　当　者	藤後　仁美　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-216-GL

〔授業の到達目標〕

To practice and improve practical English conversation skills in a variety of situations.
To have opportunities to communicate in English as much as possible in class.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their confidence and vocabulary to deal with a variety of conversational situations in English. Students will practice skills such as initiating and building a conversation. Role-plays, discussions, and presentations will be incorporated to allow students to improve their general conversation skills.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008
Additional materials will be provided when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to read the textbook, study vocabulary to prepare for the role-plays, discussions and presentations in class. Also, review the content after each class.

〔成績評価の方法〕

Class participation 40%, homework 20%, quizzes 20%, presentations 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Contact information will be given in class.

〔備考〕

Please bring English dictionaries to every class.
Prepare and review well in order to participate actively in class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1: Friends
第 2 週　Unit 2: Free Time
第 3 週　Unit 3: The Past
第 4 週　Unit 4: The Family
第 5 週　Unit 5: Work
第 6 週　Unit 6: City Life
第 7 週　Unit 7: Beliefs
第 8 週　Unit 8: The Future
第 9 週　Unit 9: Transportation
第10週　Unit 10: Vices
第11週　Unit 11: Marriage
第12週　Unit 12: Animals
第13週　Unit 13: Computers
第14週　Unit 14: The Generation Gap
第15週　Unit 15: Travel

The schedule is subject to some changes depending on the levels and interests of the students.

SPEAKING SKILLS A

3717030200100

副　題								担　当　者	小倉　雅明　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-166-GL

〔授業の到達目標〕

必要な場面に応じて必要な表現を用いることができるようにスピーキング力の土台を築くための学習及びトレーニングを行います。

〔授業の内容〕

テキストを用いながら実際に英語を使う際に必要になるであろう知識や表現を中心に学びます。様々な状況・場面・話題に応じた言葉のやりとりを学ぶことで実際の運用につなげていきます。実際に「使う」場面を想定した練習の機会を多く設ける予定です。特に口語表現や基本単語の使い方に重点をおきます。授業は主に英語で行われます。

〔教材〕

参考書：Joan Saslow, Allen Ascher, *SUMMIT1*, 2nd Edition, PEARSON, 2012

必要に応じてその都度プリントなどを追加で配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として指定されたことは全てこなしている前提で授業は進行します。

予習・復習など授業外での学習は60時間必要です。

〔成績評価の方法〕

参加：40%，課題・宿題：30%，期末課題：30%　に基づいて総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

気になることがあればいつでもrrtrnrrtrn●ogdict.com（change ● to @）に連絡してください。その際，かならずお名前とご所属を明記してください。

〔備考〕

辞書を頻繁に使います。紙の辞書でも電子辞書でもよいので毎回かならず持ってきてください。特に英英辞典は必須です。使う辞書について相談がある場合は事前にメールで問い合わせて下さい。なお，初回の授業に(持っている人は)インターネットにつながったスマートフォンかタブレット，パソコンを持ってきてください。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit5
第 2 週　〃
第 3 週　Unit6
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　Unit7
第 8 週　〃
第 9 週　Unit8
第10週　〃
第11週　Unit9
第12週　〃
第13週　Unit10
第14週　〃
第15週　Review

進行予定は受講者の理解度などによって適宜調整される可能性があります。

SPEAKING SKILLS B

3717030200200

副　題								担　当　者	J. テスター　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-167-GL

〔授業の到達目標〕

This course continues to build on and improve the skills developed in Speaking Practice B.

〔授業の内容〕

The overall aim is to help students communicate actively in English. They will learn practical communication skills to interact on a wide variety of topics through vocabulary building and fluency in English.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 2*, 2nd Edition, Cengage, 2009

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to review what has been said during class / to prepare yourself for next class.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 40%
Vocabulary project 10%
Completion of homework 20%
Quizzes and tests 30%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Discussing future plans.
第 2 週　Using numbers.
第 3 週　Discussing trends.
第 4 週　Stating preferences.
第 5 週　Making comparisons.
第 6 週　Using conditionals to describe future possibility.
第 7 週　Discussing work and jobs.
第 8 週　Discussing money.
第 9 週　Discussing family issues.
第10週　Discussing Japanese culture.
第11週　Discussing travel experiences.
第12週　Talking about environmental issues.
第13週　Talking about relationships.
第14週　Talking about health issues.
第15週　Review

SPEAKING SKILLS C

3717030200300

副　題								担　当　者	白川　幸子　講師		
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/3	コース・ナンバー	ENG-168-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to build confidence and fluency in English conversation.

〔授業の内容〕

Students will learn how to handle a variety of situations in English and express their thoughts in English through conversation practice, vocabulary building, role-play and group work.

〔教材〕

教科書：David Paul, Tracy Davis, *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008

Extra materials will be provided during the course

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Revision of contents of each class. Preparation to participate in conversations.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Participation 55%
Presentations 25%
Oral Exam 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Topic: The future
第 2 週　Topic: Transportation
第 3 週　〃
第 4 週　Topic: Vices
第 5 週　〃
第 6 週　Topic: Marriage
第 7 週　〃
第 8 週　Topic: Animals
第 9 週　〃
第10週　Topic: Computers
第11週　〃
第12週　Topic: The generation gap
第13週　〃
第14週　Topic: Travel
第15週　〃
This syllabus is subject to some change

SPEAKING SKILLS D

3717030200400

副　題								担　当　者	K．フォード　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-217-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：Ascher, A., Saslow, J.『Summit 2』Pearson ELT

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparation will involve preparing to take part in conversations, discussions and speeches by studying necessary language and vocabulary.

〔成績評価の方法〕

Evaluation is based on class participation（40%), presentations（20%), homework preparation（20%）and speaking tests（20%）.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

fordkeith●hotmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction to Social Issues Project, and Summit 2 Unit 1; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第２週　Discussing Various Example Social Issues, and Summit 2 Unit 2; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第３週　Discussing Various Example Social Issues, and Summit 2 Unit 3; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第４週　Choosing a Social Issue topic for research and presentation, and Summit 2 Unit 4; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第５週　Class Survey of Social Issues, and Summit 2 Unit 5; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第６週　Collation of Class Survey, and Summit 2 Unit 6; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第７週　Sharing Research of Social Issues, and Summit 2 Unit 7; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第８週　Preparation of Handout and Notecards, and Summit 2 Unit 8; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第９週　Practice Speech with Handout, and Summit 2 Unit 9; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第10週　Social Issue Poster Presentations
第11週　〃
第12週　Example of Internet Reading Report and Discussion Assignment, and Summit 2 Unit 10; Preparation: Grammar and vocabulary study, and being ready to take part in communication goals
第13週　Internet Reading Report; Discussion Assignments
第14週　〃
第15週　Fluency Topics, Review and Course Evaluation

SPEAKING SKILLS E

3717030200500

副　題								担　当　者	R．S．ジョーンズ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-218-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：Jun Liu, Tracy Davis, Susanne Rizzo, *Communication Strategies 3*, Cengage, 2008

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Pre-reading of articles, looking up unfamilar expressions, keeping vocabulary notebooks up to date, preparing for role-plays and discussions.

〔成績評価の方法〕

Vocabulary notebooks 10%
Participation 20%
Vocabulary quizzes 20%
Oral assessments 50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

email: rsjones73●gmail.com（change ● to @）

〔備考〕

Students should bring a B6 sized vocabulary notebook to class.

〔授　業　計　画〕

第１週　Review: Students will review key vocabulary and techniques from the first semester. Course requirements will be explained.
第２週　Health and Nature: Students should read the article on page 48, look up unfamiliar vocabulary, and answer questions in the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第３週　Health and Nature: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第４週　Extreme Sports: Students should read the article on page 54, look up unfamiliar vocabulary, and answer questions in the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第５週　Extreme Sports: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第６週　Multiple Intelligences: Students should read the article on page 66, look up unfamiliar vocabulary, and answer the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第７週　Multiple Intelligences: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第８週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.
第９週　Gender Roles: Students should read the article on page 72, look up unfamiliar vocabulary, and answer the questions in the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第10週　Gender Roles: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned.
Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第11週　Dating: Students should read the article on page 78, look up unfamiliar vocabulary, and answer the questions from the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第12週　Dating: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第13週　Parenting: Students should read the article on page 84, look up unfamiliar vocabulary, and answer the Vocabulary activities section before class. During the lesson, students will answer comprehension and discussion questions on the subject.
第14週　Parenting: Students should prepare by reviewing the article, memorising key expressions, and making sentences with the vocabulary that they have learned. Students will use the new expressions that they have memorised to write and perform speeches, and role-plays.
第15週　Review Quiz: Students should prepare by reviewing the vocabulary and contents of previous units.
Common misunderstandings will be discussed in class.

SPEAKING SKILLS F

3717030200600

副　題								担　当　者	P．アプス　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-219-GL

〔授業の到達目標〕

The aim of this subject is to get the students to speak!

〔授業の内容〕

The second semester the students will do a number of projects that will improve their communication ability. There students will make a small movie project as well as participating in a foreigner interview project. The students will also participate in class discussions that are of interest to the young adult.

〔教材〕

教科書：Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka『『Impact Issues 3』（Impact Issues）New』（Pearson Longman，2009年）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Every class students will have to prepare for the next class there will a lot of presentations and homework. Students will be expected to check vocabulary for the next class. the students also in this semester will have to prepare to interview foreign students on the campus.

〔成績評価の方法〕

20% - There will be an interview test at the end of each term
20% - Class participation will be evaluated.
20% - Evaluation of the video project.
20% - PowerPoint presentation of movies .
20% - Tests for each chapter studied

〔備考〕

In this course I hope the students will try their hardest to communicate in class with each other and myself. The simple point is that English is easy if you try.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　review of first semester
第 2 週　Impact Issues Unit 6 - House work
第 3 週　Impact Issues Unit 6 - Housework continued
第 4 週　Impact Issues - The Unborn Child
第 5 週　Impact Issues The Unborn Child
第 6 週　Final Editing of the history Project.
第 7 週　Viewing of the history project.
第 8 週　Impact Issues - Unit Eight
第 9 週　Favorite movies and discussion
第10週　The students will watch the movie East is East and they will research various aspects of the movie and present to their groups
第11週　Students will select a movie and prepare a power point presentation about the movie
第12週　Students continue with PowerPoint presentation of the movies
第13週　Continuation of PowerPoint Presentations
第14週　Final Interviews with students
第15週　Review of the semester work

The schedule can change depending on the number of students in the class.

SPEAKING SKILLS G

3717030200700

副　題								担　当　者	山科　美智子　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-220-GL

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to improve your practical English conversation skills in a variety of situations. After taking this course, you will be able to discuss some topics in a group and present your experiences and ideas more fluently.

〔授業の内容〕

This course focuses on enriching your vocabulary and skills of expressing your ideas and opinions in a variety of situations.

Students will have a lot of opportunities to discuss many kinds of topics. Presentation skills will be also incorporated.

This is a very interactive course, so it is important to participate in the communicative exercises actively.

〔教材〕

教科書：Joan Saslow, Allen Ascher『Top Notch2』Third版，Pearson education，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class, around 3 to 4h.

〔成績評価の方法〕

Participation in class activities 20% Assignment 20%, Presentation 40%, Exam 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit6 Eating Well
第２週　〃
第３週　Unit7 About Personality
第４週　〃
第５週　Unit8 The Arts
第６週　〃
第７週　Unit9 Living with Computers
第８週　〃
第９週　Unit10 Ethics and Values
第10週　〃
第11週　Presentation Strategies/Pronunciation practice
第12週　Presentation
第13週　〃
第14週　Grammar/Connecting ideas
第15週　Comprehensive Review

Schedule might be changed to take into consideration student levels and interests.

SPEAKING SKILLS H

3717030200800

副　題								担　当　者	横江　百合子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-221-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of subjects.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：J. Saslow and A. Ascher, *Top Notch 3*, Third Edition, Pearson Longman, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Please come prepared to participate actively.

〔成績評価の方法〕

Midterm exam (30%) Final exam (30%) Other assignments (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 7
第 3 週　Extra materials
第 4 週　Unit 8
第 5 週　Extra materials
第 6 週　Unit 9
第 7 週　Extra materials
第 8 週　Review & confirmation of understanding
第 9 週　Unit 10
第10週　Extra materials
第11週　Debate session 1
第12週　Debate session 2
第13週　Debate session 3
第14週　Debate session 4
第15週　Review & confirmation of understanding

SPEAKING SKILLS I

3717030200900

副　題								担　当　者	A．パラスキ　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-222-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to focus conversation skills in to a more sophisticated and informed use in discussions.

〔授業の内容〕

In the first semester, basic communication skills are practiced and enhanced. In the second semester, these skills are focused in discussions, which means the conscious focus on one topic at a time.

〔教材〕

教科書：*Discussion Strategies*, (Pro LinguaAssociates) 2nd Edition, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be expected to spent an amount of time outside of class studying and mastering language patterns for presentation that equals or exceeds the amount of time spent in class.

〔成績評価の方法〕

Student grades are based on attendance and class participation(40%), improvement(20%), short quizzes(20%) and student presentations (20%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Rejoinder and follow-ups
第 2 週　Comprehension Checks and Clarifications.
第 3 週　Answering with Details.
第 4 週　Discussion Presentation 1.
第 5 週　Paragraph Clarifications.
第 6 週　Interrupting Someone and Words That Describe.
第 7 週　Reported Speech.
第 8 週　Volunteering an Answer.
第 9 週　Discussion Presentation 2.
第10週　Clarifying by Summarizing.
第11週　Telling Other People’s Opinions and Experiences.
第12週　Helping the Leader Explain.
第13週　Discussion Presentation 3.
第14週　Final Group Discussion Project Preparation.
第15週　Final Group Discussion Project Presentation.

SPEAKING SKILLS J

3717030201000

副　題	Let's Enjoy Speaking More and More English Together!	担　当　者	R．ジョーンズ　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-223-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics. The main goal of this class is to give the students the maximum time to practice speaking English. The theme of the class is English for travelling, living or studying in an English speaking country. The class will help diligent students build their vocabulary and particularly their command over idioms.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions in English. This is a fun and dynamic English conversation class is for those students who are serious about improving their English speaking skills. In the class, we will talk about a variety of interesting topics. The level of this class is about intermediate, but all students who are prepared to try hard are most welcome. In the typical class the students will talk mostly do activities in pairs. This will give the students the maximum amount of time to practice speaking English. Remember; practice makes perfect! There will be plenty of fun in the class, but students need to study hard if they want to improve their English abilities.

〔教材〕

教科書：『Top Notch 2』（Joan Saslow and Allan Ascher）3rd版，Pearson Longman，2015年

The textbook will be used in every class.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Be sure to bring the textbook to all lessons. Be sure to do all the homework. If absent, check what you missed from the classes.

〔成績評価の方法〕

Attendance = 10 points
Punctuality = 10 points
Effort and participation = 20 points
Class and homework exercises = 100 x 40% = 40 points
Final evaluations = 100 x 20% = 20 points
Total = 100 points.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

Please try hard to come to all the lessons on time. If you do your best in the lessons you should get a good grade, if you work hard,

you'll definitely get the best grade. It's up to you! If you miss a class find out what you missed. If your friend misses a class, help them to find out what they need to do for the next lesson. The best policy is to come to all the lessons.

〔授　業　計　画〕

第１週　Welcome back to the course of studies. Explanation of the grading system and course expectations. Conversations based around the student's summer break experiences.
第２週　Conversation strategies around making small talk. Describing a busy schedule and developing cultural awareness.
第３週　Discussion and debates around health issues. How to call in sick and making medical or dental appointments.
第４週　More conversation built around health issues. How to talk about medical treatments and medications.
第５週　Conversation strategies based on getting things done. Getting someone to do something. Requesting express services and evaluating the quality of a service.
第６週　Functional English based around making recommendations. Recommending a book. Offering to lend items and describing your reading habits.
第７週　More model dialog study and discussing the quality of reading material.
第８週　Conversation themes revolve around natural disasters. Conveying a message and reporting news. Describing natural disasters and preparing for emergencies.
第９週　Conversations and discussions about life plans. Explaining a change to life and work plans.
第10週　Discussing skills, abilities and qualifications. Vocabulary and idiom building.
第11週　Conversation theme revolves around holidays and traditions. Wishing someone a good holiday. Asking about local customs and exchanging information about holidays. Explaining and comparing wedding traditions.
第12週　Communication goals build around the discussion themes of inventions and discoveries. Describing technology. Functional English concerning taking responsibility for mistakes.
第13週　Conversation practice concerned with describing inventions and how they solve problems, and the impact of inventions and discoveries.
第14週　Communication goal to discuss and debate controversial issues. How to bring up a controversial subject. Discussing difficult issues politely. Understanding some main global issues and the pros and cons of solutions.
第15週　Final summarisations of the course of study and preparation for final evaluations.

Good luck with your studies. Come to all the lessons and try your best. I want you to be happy in the classes, challenge and learn many new things. Please come to all the lessons. If you miss a class, find out what you missed. If your friend misses a class, help them find out what they missed.

SPEAKING SKILLS K

3717030201100

副　題								担　当　者	式町　眞紀子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/2	コース・ナンバー	ENG-224-GL

〔授業の到達目標〕
To improve further students' communicational abilities

〔授業の内容〕
This course will follow on from the first, Speaking Practice K; this means that we will focus on the same skills covered and obtained. There will, however, be some more new skills covered in this semester to improve students' communicational abilities with a clear purpose consistently and realistically. In addition to four basic skills, the course will address the needs of students by dealing with the norms of grammar and punctuation in order to apply them when students write presentation materials.
Remember that classroom activities are conducted with the view of maximizing interaction among students.

〔教材〕
教科書：Paul, David., *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008
『*College level English-Japanese dictionaries*』
参考書：*Longman Dictionary of Contemporary English*
Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
You will be expected to:-prepare appropriately and complete homework tasks for the next class.
-review class content and take notes to further your understanding.
-research and prepare for presentation projects.
These activites should be arranged for 4 hours in total for each unit.

〔成績評価の方法〕
exams 30%, attendance and class participation 50% and homework 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
At classroom or at the support center

〔備考〕
スマートフォンの辞書アプリは学習用には不十分なので，教室での使用は認めません。これに関連して，机上に授業と関係ないものを置くことに対してはペナルティを科します。
板書を多用しますので，ノートを一冊用意すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction and orientation.
Unit9 "Transportation" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第２週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第３週　Unit 10 "Vices" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第４週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第５週　Unit 11 "Marriage" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第６週　Communication exercise and act out:utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第７週　Unit 12 "Animals" utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第８週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies for writing opinions
第９週　Unit 13 "Computers" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第10週　Communication exercise and act oututilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第11週　Unit 14 "The Generation Gap" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第12週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第13週　Unit 15 "Travel" Points of view of the section, vocabulary building, and dealing with topics of grammar
第14週　Communication exercise and act out: utilizing sample patterns and strategies of the unit for writing opinions
第15週　Review
To make the classes more effectively and practically, we will be jumping and refferring to differrent pages of the textbook, without following them sequentially one after another.

SPEAKING SKILLS L

3717030201200

副　題								担　当　者	矢田　陽子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-225-GL

〔授業の到達目標〕

In this class, students will use the text, Impact Issues 2, as a basis for more in-depth discussions utilizing skills acquired

previously; English speaking experiences in the first year. This class will be a student-centered course to get used to express own opinion in English. In other words, the teacher is not the focal point of the classroom. Students will rely upon each other and

themselves to improve their English communicative abilities. Students will also learn how to give a

presentation in English in front of all classmates.

Last and most importantly, this is a speaking class designed to maximize the use of spoken

English in a supportive environment.

〔授業の内容〕

この授業では，英語でのディスカッションやプレゼンテーション能力を高めていきます。

テキストは毎回テーマが設定されており，毎回，自分の意見を英語で表現することに取り組みます。

従来型の教員が学生に教えるという形ではなく，英語での学生同士のロール･プレイ，コミュニケーションが軸になります。

間違った表現を使うことを恐れることなく,口に出して表現することに慣れていきましょう。

後期でのこのコースでは，前期に続いて同じテキストを使用していきます。

グローバルな社会的観点から様々な問題を考え分析し，自己の意見を英語にしていきます。

〔教材〕

教科書：『Impact Issues 2』New版，Peason Longman，2009年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

学んだコミュニケーション・フレーズは積極的に使用していくことを心がけましょう

〔成績評価の方法〕

中間プレゼンテーション25%，授業中の取り組み・自主性（25%)，期末プレゼンテーション50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

前期課程と同様に授業には必ず辞書を携帯すること

〔授　業　計　画〕

第１週　Unit 14 Government Control
もし政府が国民の家族計画についての政策を決定しそれが法的拘束力をを持つようになったとしたらどうなるのか。政府によるコントロールについて架空の例を考えながら自分の意見を表現していきます。

第２週　Unit15 Living together
同姓と既成概念について。20代の若いカップルが結婚より以前にまず同棲を計画していますが，親世代の考え方は異なり結婚前の同棲に反対です。この課では，結婚や同棲など，現代の男女のあり方について英語で考えていきます。

第３週　Unit16 Discrimination
この課では女性二人の会話を通して，外見・審美における差別や先入観について考えていきます。

第４週　Unit 17 Who will help them
戦争，自然災害，貧困など様々な理由で避難民となった人々について考えるセクションです。先進国は発展途上国から流出する避難民をどのように援助していくべきなのか，国連，各国政府はどのように対応していくべきなのかについて考えていきます。

第５週　Unit 18 Finding the right one
恋愛と結婚の違い，結婚の価値，理想的な結婚について，など人間にとっての「愛」と「結婚」について考えていきます。

第６週　中間プレゼンテーション

第７週　Unit19 Dress for Success
教員の服装についてクレームをつける一組の親と校長の会話をまず聴き，「教員」には一定の服装のルールを守るべきかどうか，社会的立場によって服装の暗黙の規定を守るべきなのかどうかについて考えていきます。

第８週　Unit 20 A mothers story
テキスト最終課にあたるこの20課では，死刑制度について考えます。18歳の息子を殺害された母親の死刑擁護の意見を聞き，死刑制度は必要なのか否か考えていきます。

第９週　プリント課題の取り組み（時事，社会問題について）

第10週　プリント課題の取り組み

第11週　〃

第12週　〃

第13週　〃

第14週　〃

第15週　Presentation

SPEAKING SKILLS M

3717030201300

副　題								担　当　者	藤後　仁美　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-226-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.
To enjoy speaking English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：Jun Liu, Tracy Davis, Susanne Rizzo, *Communication Strategies 3*, Cengage, 2008
Additional materials will be provided when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to read the textbook, study vocabulary to prepare for the role-plays, discussions and presentations in class. Also, review the content after each class.

〔成績評価の方法〕

Class participation 40%, homework 20%, quizzes 20%, presentations 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Contact information will be given in class.

〔備考〕

Please bring English dictionaries to every class.
Prepare and review well in order to participate actively in class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1: Dress Code
第 2 週　Unit 2: Video Games
第 3 週　Unit 3: Advertising
第 4 週　Unit 4: International Competitions
第 5 週　Unit 5: Mobile Phones
第 6 週　Unit 6: Manners and Etiquette
第 7 週　Unit 7: Volunteering
第 8 週　Unit 8: Health and Nature
第 9 週　Unit 9: Extreme Sports
第10週　Unit 10: Free Education
第11週　Unit 11: Multiple Intelligences
第12週　Unit 12: Gender Roles
第13週　Unit 13: Dating
第14週　Unit 14: Parenting
第15週　Unit 15: Natural Disasters

The schedule is subject to some changes depending on the levels and interests of the students.

SPEAKING SKILLS N

3717030201400

副　題								担　当　者	谷口　めぐみ　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	3/2	コース・ナンバー	ENG-227-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

In the first semester, students practiced the essentials skills necessary to speak effectively. Through this course, students will develop their English communication skills into a more sophisticated and academic use in discussions and presentations.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 1*, Cengage Learning, 2008
Kate Elwood『The Way to Effective Speaking』改訂版，Nan'un-do，2010年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are recommended to support their ideas or opinions when presenting them to their classmates. In order to actively participate in course projects, students are required to critically think, research and organize information related to the topic in question.

〔成績評価の方法〕

Student grades are based on attendance and class participation (30%), completion of homework (30%), and presentations (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction: What is a Presentation?
　　Using Visual Aids
第 2 週　Organizing Information
第 3 週　Supporting Ideas
第 4 週　Travel (Chapter 15)
第 5 週　Project 1
第 6 週　〃
第 7 週　Telling Stories
第 8 週　Project 2
第 9 週　〃
第10週　Building Interest
第11週　Speaking Impromptu
第12週　Marriage (Chapter 11)
第13週　Project 3
第14週　〃
第15週　Bringing It All Together

The schedule provided is due to change according to the actual time length necessary for the students participating in the course.

SPEAKING SKILLS O

3717030201500

副　題								担　当　者	橋本　ナターシャ　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-228-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 1*, Cengage, 2008
Kehe, David & Kehe, Peggy Dustin, *Discussion Strategies*, Second Edition, Prolingua Associates, 2012

"Discussion Strategies" (2012, Second Edition) by Kehe, D. and Kehe P.D. will be used weekly, through the spring and fall semesters （通年用), in addition to the main textbook ("Communication Strategies 1").

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

In this class, students will be required to actively participate in conversation and discussions in pairs and small groups. Preparation includes the following: preparing questions to ask your classmates, preparing your answers to instructor-prepared discussion questions, learning and reviewing vocabulary necessary for in-class activities and quizzes, and preparing and practicing role-plays/simulations to present in class.

〔成績評価の方法〕

Role-plays and in-class activities: 60%
Quizzes and homework: 40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
　　Unit 1 Friends
第 2 週　Unit 2 Free time
第 3 週　Unit 3 The past
　　Role play 1
第 4 週　Unit 4 The family
第 5 週　Unit 5 Work
第 6 週　Unit 6 City life
第 7 週　Unit 7 Beliefs
第 8 週　Unit 8 The future
　　Role play 2
第 9 週　Unit 9
第10週　Unit 10
第11週　Unit 11
　　Role play 3
第12週　Unit 12
第13週　Unit 13
第14週　Unit 14
第15週　Unit 15
　　Role play 4

SPEAKING SKILLS P

3717030201600

副　題	The Leader in Global Communication	担　当　者	武富　利亜　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-229-GL

〔授業の到達目標〕

語彙力をつけるとともに様々な場面に応じて英語で会話ができるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

テキストを使って，英語のスピーキング，リスニング，リーディング，ライティングを実践していく。大学を卒業後，社会人となっても通用する英語力，特に英会話力を養うことを念頭に授業を進めていく。

〔教材〕

教科書：Joan Salslow, Allen Ascher, *TOP NOTCH 1*, Third Edition, Pearson Longman

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

分からない単語は，あらかじめ辞書で意味を調べておく必要がある。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，試験60%，パフォーマンス20%（パフォーマンス・ポイントは授業初日に説明する）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

言語習得には，継続が必須である。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション。Unit 5 Preview. Lesson1 Recommend a brand or model.教科書を準備してくること。
第２週　Unit 5 Lesson 2 Express sympathy for a problem. Lesson 3 Complain when things don’t work.
第３週　Unit 5 Lesson 4 Describe features of products. Review.
第４週　Unit 6 Preview. Lesson 1 Plan an activity with someone.
第５週　Unit 6 Lesson 2 Talk about habitual activities and plans. Lesson 3 Discuss fitness and eating habits.
第６週　Unit 6 Lesson 4 Describe your routines. Review.
第７週　理解度の確認
第８週　Unit 7 Preview. Lesson 1 Greet someone arriving from a trip.
第９週　Unit 7 Lesson 2 Ask about someone’s vacation. Lesson 3 Discuss vacation preferences.
第10週　Unit 7 Lesson 4 Describe vacation experiences. Review.
第11週　Unit 8 Preview. Lesson 1 Shop and pay for clothes.
第12週　Unit 8 Lesson 2 Ask for a different size or color. Lesson 3 Navigate a mall or department store.
第13週　Unit 8 Lesson 4 Discuss clothing do’s and don’ts. Review.
第14週　Unit 9 Preview. Lesson 1 Discuss schedules and buy tickets.
第15週　理解度の確認
授業内容は，進捗状況に応じて随時変更する。

SPEAKING SKILLS Q

3717030201700

副　題	論理的スピーキング技術研究							担　当　者	石渡　忠大　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-230-GL

〔授業の到達目標〕
1）基礎論理思考習得，2）基礎論理技術習得，3）基礎論理技術を使用した発話構成力養成，4）反証に基づく批判能力学習，5）論理的な英語スピーキング能力養成

〔授業の内容〕
有用な構文を与え習得させ，そのまま意見を述べさせる授業ではなく，そこより一歩下がり，基礎的な論理思考をまず習得することで物事の考え方を養成し，基礎論理技術を学び発言内容に硬質な構造を与え，基礎論理で用いられる英文を有用な構文ととらえ，それを使って非常に簡素な文を作り，それをスピーキング能力に結び付けることを目的とする。

〔教材〕
参考書：Anthony Weston, *A Rulebook for Arguments*, 4th Edition, Hackett Pub Co Inc, 2009
John Eric Nolt, *Informal Logic: Possible Worlds and Imagination*, 1st Edition, Mcgraw-Hill College, 1984
Tom Miles, *Arguments: How To Persuade Others To Your Way Of Thinking (Semantics, Arguments, Debating)*, 1st Edition, HRD Publishing, 2015
John Eric Nolt, *Logics*, Wadsworth Pub Co, 1996
授業はハンドアウト配布で行う。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
前週の学習内容を復習。その理解に基づき，毎週理解度の確認を行う。

〔成績評価の方法〕
出席５分の４必須。中間期と期末に理解度確認を行う。（出席５分の４を満たした学生のみ期末の理解度の確認に臨む資格がある）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
Eメール（大学より発行され次第学生に提示）

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
第２週　Preferences -　自分の好み，経験，立場を述べる
第３週　Inductive Reasoning（１）（帰納法）-　様々な具体例からの結論
第４週　Inductive Reasoning（２）（帰納法）-　データを読み，そこからの結論
第５週　Abductive Reasoning （仮説的推論）-　状況判断，状況証拠からの結論
第６週　Deductive Reasoning（１）（演繹法）-　基本構造
第７週　Deductive Reasoning（２）（演繹法）- Conjunction (A and B), Disjunction (A or B), Conditional (If A, then B), Biconditional (A if and only if B)
第８週　理解度の確認
第９週　Possible Worlds（１）(可能世界)- Possibility（可能性)とNecessity（必然性）
第10週　Possible Worlds（２）(可能世界) - Modalities（様々な様相）
第11週　Sufficient and Necessary Conditions（十分・必要条件）
第12週　Counterfactuals（１）（反事実）-　過去に関する仮定
第13週　Counterfactuals（２）（反事実）-　過去に関する仮定
第14週　Time （時間）-　時間に関する論理思考
第15週　Not To Do（無効論理）-　すべきではないこと。
あくまで基礎的で，形式化されていない論理技術を，英語スピーキングに活かすものである。

SPEAKING SKILLS R

3717030201800

副　題	Getting ready for negotiations in English	担　当　者	森　葉子　講師

単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-231-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：Joan Saslow and Allen Ascher, *TOP NOTCH 2*, 3rd Edition, Pearson Longman, 2015
Supplementary handouts will be distributed according to necessity.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students are required to come to class prepared for discussions by reading ahead before each class and reviewing vocabulary after each class. As a warm-up, every Saturday class will start with a vocabulary quiz.

〔成績評価の方法〕

Class Participation (30%), Vocabulary Quizzes (30%), Presentation (40%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Any consultation welcome after class. For other hours, please contact me through the Department Support Center.

〔備考〕

Please bring the following to every class:
1. A dictionary (either a hard copy or electronic)
2. A notebook (for lectures & discussions)
3. A notebook (for vocabulary)

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Class Orientation - Textbook Introduction
　　Unit 1
第 2 週　Unit 2
第 3 週　Presentation and Review
第 4 週　Unit 3
第 5 週　Unit 4
第 6 週　Presentation and Review
第 7 週　Unit 5
第 8 週　Unit 6
第 9 週　Presentation and Review
第10週　Unit 7
第11週　Unit 8
第12週　Presentation and Review
第13週　Unit 9
第14週　Unit 10
第15週　Presentation and Review

SPEAKING SKILLS S

3717030201900

副　題								担　当　者	藤後　仁美　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-232-GL

〔授業の到達目標〕

To develop practical communication skills in English to interact on a wide range of topics.
To enjoy speaking English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will build their vocabulary and fluency in order to communicate actively in English. Students will gain the confidence to engage in and expand on various topics of interest. Through a variety of speaking activities, students will develop their ability to express their ideas and opinions.

〔教材〕

教科書：David Paul, *Communication Strategies 2*, Cengage, 2008
Additional materials will be provided when necessary.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will be required to read the textbook, study vocabulary to prepare for the role-plays, discussions and presentations in class. Also, review the content after each class.

〔成績評価の方法〕

Class participation 40%, homework 20%, quizzes 20%, presentations 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Contact information will be given in class.

〔備考〕

Please bring English dictionaries to every class.
Prepare and review well in order to participate actively in class.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1: Attitudes
第 2 週　Unit 2: Money
第 3 週　Unit 3: Health
第 4 週　Unit 4: Education
第 5 週　Unit 5: Crime
第 6 週　Unit 6: The Environment
第 7 週　Unit 7: Aliens
第 8 週　Unit 8: History
第 9 週　Unit 9: Women in Society
第10週　Unit 10: The Developing World
第11週　Unit 11: Violence
第12週　Unit 12: Politics
第13週　Unit 13: Economics
第14週　Unit 14: Happiness
第15週　Unit 15: Globalization

The schedule is subject to some changes depending on the levels and interests of the students.

INTENSIVE READING & WRITING A

3713030100100

副　題								担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-233-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to develop students' ability in reading and summarizing articles in English, expressing opinions about them orally and in writing, increasing vocabulary, giving presentations, and asking and answering questions in English.

〔授業の内容〕

This course will focus on reading articles on current topics and will be conducted entirely in English. Each week students will choose an article from an English newspaper or magazine or from the Internet, then write a report on the topic, including vocabulary, to be turned in. Students will give a presentation on one of their topics periodically to the class. The reports and presentations may be on any topics the student chooses, but they must be done in English. After a student's presentation, other students will ask questions and we will have discussion of the topic. This course will help you improve your ability in reading, writing, speaking and listening to English, as well as increase your knowledge and understanding of various topics and develop your presentation skills.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours in preparation of weekly reports and another 1-2 hours in preparation for presentations.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), weekly reports (30%), presentations (30%), and a final report (10%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 13：00～14：30.
See the schedule outside my office door for other options by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Presentations and discussion
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

INTENSIVE READING & WRITING B

3713030100200

副　題										担　当　者	G．R．ファリア　教授
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-234-GL

〔授業の到達目標〕

The goal of this course is to develop students' ability in reading and summarizing articles in English, expressing opinions about them orally and in writing, increasing vocabulary, giving presentations, and asking and answering questions in English.

〔授業の内容〕

This course will focus on reading articles on current topics and will be conducted entirely in English. Each week students will choose an article from an English newspaper or magazine or from the Internet, then write a report on the topic, including vocabulary, to be turned in. Students will give a presentation on one of their topics periodically to the class. The reports and presentations may be on any topics the student chooses, but they must be done in English. After a student's presentation, other students will ask questions and we will have discussion of the topic. This course will help you improve your ability in reading, writing, speaking and listening to English, as well as increase your knowledge and understanding of various topics and develop your presentation skills.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Students will need to spend 2 hours in preparation of weekly reports and another 1-2 hours in preparation for presentations.

〔成績評価の方法〕

Grades will be based on attendance and participation in class (30%), weekly reports (30%), presentations (30%), and a final report (10%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

Tuesday 13：00～14：30.
See the schedule outside my office door for other options by appointment.

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Presentations and discussion
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

INTENSIVE READING & WRITING C

3713030100300

副　題								担　当　者	水谷　利美　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-235-GL

〔授業の到達目標〕

１年次に養った力をもとにさらなる語彙力強化と読解力向上を目指すと共に，Writing の基本ルールを押さえ，英語での自己表現力をつけることを目標とします。

〔授業の内容〕

原則として和訳をせずにテキストを読み進めます。ユニットごとに Reading Skill を習得していきながら，文章を読み，exercises を通して内容理解に努め，Building Vocabulary や Discussion & Writing のセクションにおけるタスクをこなしていきます。

〔教材〕

教科書：Linda Lee, Erik Gundersen, *Select Readings Intermediate*, 2nd Edition, Oxford University Press, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの指定された箇所の読解と課題のwriting を行う。

〔成績評価の方法〕

テスト(60%)，課題提出(20%)，授業参加態度 (20%)により，総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Chapter 1 Answering 6 Common Interview Questions
第３週　Chapter 2 Young Women Changing the World
第４週　Chapter 3 Student Learning Teams
第５週　Chapter 4 Learning to Speak
第６週　Chapter 5 The Man in the Moon Has Company
第７週　Chapter 6 Culture Shock
第８週　Chapter 7 Private Lives
第９週　Chapter 8 A Young Blind Whiz
第10週　Chapter 9 How to Make a Speech
第11週　Chapter 10 Conversational Ball Games
第12週　Chapter 11 Letters of Application
第13週　Chapter 12 Out to Lunch
第14週　Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
第15週　Chapter 14 The Art of Genius
以上の計画は，受講者の力量や授業進度などにより変更の可能性があります。

INTENSIVE READING & WRITING D

3713030100400

副　題								担　当　者	水谷　利美　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-236-GL

〔授業の到達目標〕

１年次に養った力をもとにさらなる語彙力強化と読解力向上を目指すと共に，Writing の基本的ルールを押さえ，英語での自己表現力をつけることを目標とします。

〔授業の内容〕

原則として和訳をせずにテキストを読み，exercises を通して内容理解に努めます。基本となるVocabulary Skills, Reading Skills, Writing Skillsを習得していきながら，文法にも留意して，ユニットごとに課題のwritingを行います。

〔教材〕

教科書：Linda Lee, Erik Gundersen, *Select Readings Intermediate*, 2nd Edition, Oxford University Press, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストの指定された箇所の読解と課題のwriting を行う。

〔成績評価の方法〕

テスト(60%)，課題提出(20%)，授業参加態度 (20%)により，総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction
第２週　Chapter 1 Answering 6 Common Interview Questions
第３週　Chapter 2 Young Women Changing the World
第４週　Chapter 3 Student Learning Teams
第５週　Chapter 4 Learning to Speak
第６週　Chapter 5 The Man in the Moon Has Company
第７週　Chapter 6 Culture Shock
第８週　Chapter 7 Private Lives
第９週　Chapter 8 A Young Blind Whiz
第10週　Chapter 9 How to Make a Speech
第11週　Chapter 10 Conversational Ball Games
第12週　Chapter 11 Letters of Application
第13週　Chapter 12 Out to Lunch
第14週　Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
第15週　Chapter 14 The Art of Genius
以上の計画は，受講者の力量や授業進度などにより変更の可能性があります。

INTENSIVE READING & WRITING E

3713030100500

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/土	時限	4/2	コース・ナンバー	ENG-237-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Margot F. Gramer, *Q:Skills for Success Reading and Writing 3*, 2nd Edition, Oxford, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

To prepare for each class, spend two hours or more to review the contents of the previous class and two hours or more to prepare for the next class.

〔成績評価の方法〕

Class Participation (30%)
Individual Effort (30%)
Quizzes (20%)
Homework (20%)
Students who have not attended more than one-third of the total number of classes will not be considered to have taken the class.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 Sociology
第 3 週　Unit 1 continued and Unit 2 Nutritional Science
第 4 週　Unit 2 continued
第 5 週　Unit 3 Information Technology
第 6 週　Unit 3 continued and Unit 4 Marketing
第 7 週　Unit 4 continued
第 8 週　Confirmation of understanding
第 9 週　Unit 5 Psychology
第10週　Unit 5 continued and Unit 6 Philosophy
第11週　Unit 6 continued
第12週　Unit 7 Economics
第13週　Unit 7 continued and Unit 8 Behavioral Studies
第14週　Unit 8 continued
第15週　Confirmation of understanding

INTENSIVE READING & WRITING F

3713030100600

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/土	時限	4/2	コース・ナンバー	ENG-238-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Margot F. Gramer, *Q:Skills for Success Reading and Writing 3*, 2nd Edition, Oxford, 2015

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

To prepare for each class, spend two hours or more to review the contents of the previous class and two hours or more to prepare for the next class.

〔成績評価の方法〕

Class Participation (30%)
Individual Effort (30%)
Quizzes (20%)
Homework (20%)
Students who have not attended more than one-third of the total number of classes will not be considered to have taken the class.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction
第 2 週　Unit 1 Sociology
第 3 週　Unit 1 continued and Unit 2 Nutritional Science
第 4 週　Unit 2 continued
第 5 週　Unit 3 Information Technology
第 6 週　Unit 3 continued and Unit 4 Marketing
第 7 週　Unit 4 continued
第 8 週　Confirmation of understanding
第 9 週　Unit 5 Psychology
第10週　Unit 5 continued and Unit 6 Philosophy
第11週　Unit 6 continued
第12週　Unit 7 Economics
第13週　Unit 7 continued and Unit 8 Behavioral Studies
第14週　Unit 8 continued
第15週　Confirmation of understanding

INTENSIVE READING & WRITING G

3713030100700

副　題								担　当　者	W．トング　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-239-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Margot F.Gramer, Colin S.Ward, *Skills for Success - Reading and Writing 3*, Oxford, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes.

〔成績評価の方法〕

Attendance/Class participation 50%
Tests/quizzes 25%
Homework 25%

To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Skills for Success, supplementary articles, writing compositions
第２週　〃
第３週　〃
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

The schedule and supplementary articles will be modified to fit the needs and interests of our class. Some of the topics that we'll cover through the supplementary material include strategies for building vocabulary, reading comprehension techniques, Multiple Intelligence, Social Proof and the Bystander Effect, Interview Skills, Conflict in Literature/Storytelling, Literary Themes.

INTENSIVE READING & WRITING H

3713030100800

副　題								担　当　者	W．トング　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	ENG-240-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Margot F.Gramer, Colin S.Ward, *Skills for Success - Reading and Writing 3*, Oxford, 2011

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

There will be homework assigned at the end of most classes.

〔成績評価の方法〕

Attendance/Class participation 50%
Tests/quizzes 25%
Homework 25%

To receive credit for the course, it is necessary to attend at least two-thirds of the classes, in keeping with university policy.

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Skills for Success, supplementary articles, writing compositions
第 2 週　〃
第 3 週　〃
第 4 週　〃
第 5 週　〃
第 6 週　〃
第 7 週　〃
第 8 週　〃
第 9 週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　〃

The schedule and supplementary articles will be modified to fit the needs and interests of our class. Some of the topics that we'll cover through the supplementary material include strategies for building vocabulary, reading comprehension techniques, Multiple Intelligence, Social Proof and the Bystander Effect, Interview Skills, Conflict in Literature/Storytelling, Literary Themes.

INTENSIVE READING & WRITING I

3713030100900

副　題								担　当　者	白川　幸子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-241-GL

〔授業の到達目標〕

To consolidate learning outcomes from Year 1 and further studetns' ability in reading and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from various sources, class text books, newspapers and other media sources. Students will develop their skills in writing summaries of and opinions on reading materials covered in the class. Students will also improve essay writing skills in English.

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby, *Q: Skills for Success - Reading and Writing 2*, Oxford University Press, 2015

Extra materials will be provided during the course

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Homework will be assigned at the end of most classes and revise lessons.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 60%

Final Exam 40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction and Unit 1
第 2 週　Unit 1 and Unit 2
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Unit 3
第 5 週　Unit 3/Unit 4
第 6 週　Unit 4
第 7 週　Unit 5
第 8 週　Unit 5/Unit 6
第 9 週　Unit 6
第10週　Unit 7
第11週　Unit 7/Unit 8
第12週　Unit 8
第13週　Unit 9
第14週　Unit 9/Unit 10
第15週　Unit 10

The syllabus is subject to some change.

INTENSIVE READING & WRITING J

3713030101000

副　題								担　当　者	白川　幸子　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-242-GL

〔授業の到達目標〕

To consolidate learning outcomes from Year 1 and further studetns' ability in reading and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from various sources, class text books, newspapers and other media sources. Students will develop their skills in writing summaries of and opinions on reading materials covered in the class. Students will also improve essay writing skills in English.

〔教材〕

教科書：*Q: Skills for Success - Reading and Writing 2*, Oxford University Press

Extra materials will be provided during the course

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Homework will be assigned at the end of most classes and revise lessons.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Class Participation 60%

Final Exam 40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Introduction and Unit 1
第 2 週　Unit 1/Unit 2
第 3 週　Unit 2
第 4 週　Uint 3
第 5 週　Unit 3/Unit 4
第 6 週　Unit 4
第 7 週　Unit 5
第 8 週　Unit 5/Unit 6
第 9 週　Unit 6
第10週　Unit 7
第11週　Unit 7/Unit 8
第12週　Unit 8
第13週　Unit 9
第14週　Unit 9/Unit 10
第15週　Unit 10

The syllabus is subject to change.

INTENSIVE READING & WRITING K

3713030101100

副　題								担　当　者	山科　美智子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-243-GL

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to strengthen reading fluency and writing skills in English. You will learn how to summarize articles and write academic essays.

〔授業の内容〕

This course focuses on improving your reading comprehension skills, using reading materials from texts, newspapers, and media sources. Students will develop their skills in expressing their opinions on topics in the text as well as current events.

Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments. Presentation skills will be also incorporated.

〔教材〕

教科書：Joe Mc Veigh, Jennifer Bixby『Q: Skills for Success- Reading and Writing 2』Second版，Oxford University Press，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class, around 3 to 4h.

〔成績評価の方法〕

participation in class 20%, homework, writing assignments 30% presentation 30% exam 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1 Why does something become popular?
第 2 週　〃
第 3 週　Unit 2 How do colors affect the way we feel?
第 4 週　Unit 2 How do colors affect the way we feel?/Research
第 5 週　Unit 2 How do colors affect the way we feel?/Presentation
第 6 週　Unit 3 What does it mean to be polite?
第 7 週　Unit 3 What does it mean to be polite?/Writing
第 8 週　Unit 4 What makes a competition unfair?
第 9 週　Unit 5 What makes a family business successful?
第10週　Presentation
第11週　Presentation, Essay writing assignment
第12週　Unit 6 Do you prefere to get help from a person or a machine?
第13週　Unit 7 Is it better to save what you have or buy new things?
第14週　Unit 8 How can we prevent diseases?
第15週　Reviews

Schedule might be changed to take into consideration student levels and interests.

INTENSIVE READING & WRITING L

3713030101200

副　題								担　当　者	山科　美智子　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-244-GL

〔授業の到達目標〕

The aim of this course is to strengthen reading fluency and writing skills in English. You will learn how to summarize articles and write academic essays.

〔授業の内容〕

This course focuses on improving your reading comprehension skills, using reading materials from texts, newspapers, and media sources. Students will develop their skills in expressing their opinions on topics in the text as well as current events.

Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments. Presentation skills will be also incorporated.

〔教材〕

教科書：Joe Mc Veigh, Jennifer Bixby『Q: Skills for Success- Reading and Writing 2』Second版，Oxford University Press，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Preparations and reviews are required for each class, around 3 to 4h.

〔成績評価の方法〕

participation in class 20%, homework, writing assignments 30% presentation 30% exam 20%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1 Why does something become popular?
第 2 週　〃
第 3 週　Unit 2 How do colors affect the way we feel?
第 4 週　Unit 2 How do colors affect the way we feel?/Research
第 5 週　Unit 2 How do colors affect the way we feel?/Presentation
第 6 週　Unit 3 What does it mean to be polite?
第 7 週　Unit 3 What does it mean to be polite?/Writing
第 8 週　Unit 4 What makes a competition unfair?
第 9 週　Unit 5 What makes a family business successful?
第10週　Presentation
第11週　Presentation, Essay writing assignment
第12週　Unit 6 Do you prefer to get help from a person or a machine?
第13週　Unit 7 Is it better to save what you have or buy new things?
第14週　Unit 8 How can we prevent diseases?
第15週　Reviews

Schedule might be changed to take into consideration student levels and interests.

INTENSIVE READING & WRITING M

3713030101300

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	5/1	コース・ナンバー	ENG-245-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：『Q: Skills for Success 2 Reading and Writing』（Joe McVeigh & Jennifer Bixby）New Edition版，Oxford

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the completed homework and be prepared to do the activity of the day. In addition, please ask any questions you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

There will be tests (60%) and participation (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1 Q: Why does something become popular?
第 2 週　Unit 1 Q: Why does something become popular?
　　Unit 2 Q: How do colors affect the way we feel?
第 3 週　Unit 2 Q: How do colors affect the way we feel?
第 4 週　Unit 3 Q: What does it mean to be polite?
第 5 週　Unit 3 Q: What does it mean to be polite?
　　Unit 4 Q: What makes a competition unfair?
第 6 週　Unit 4 Q: What makes a competition unfair?
第 7 週　Unit 5 Q: What makes a family business successful?
第 8 週　Unit 5 Q: What makes a family business successful?
　　Unit 6 Q: Do you prefer to get help from a person or a machine?
第 9 週　Unit 6 Q: Do you prefer to get help from a person or a machine?
第10週　Unit 7 Q: Is it better to save what you have or buy new things?
第11週　Unit 7 Q: Is it better to save what you have or buy new things?
　　Unit 8 Q: What makes a good story?
第12週　Unit 8 Q: What makes a good story?
第13週　Unit 9 Q: Does everyone need math?
第14週　Unit 9 Q: Does everyone need math?
　　Unit 10 Q: How can we prevent diseases?
第15週　Unit 10 Q: How can we prevent diseases?

INTENSIVE READING & WRITING N

3713030101400

副　題								担　当　者	T．スコット　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	5/1	コース・ナンバー	ENG-246-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：『Q: Skills for Success 2 Reading and Writing』（Joe McVeigh & Jennifer Bixby）New Edition版，Oxford

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

All of the students must bring the completed homework and be prepared to do the activity of the day. In addition, please ask any questions you may still have on any given topic.

〔成績評価の方法〕

There will be tests (60%) and participation (40%).

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Unit 1 Q: Why does something become popular?
第 2 週　Unit 1 Q: Why does something become popular?
　　Unit 2 Q: How do colors affect the way we feel?
第 3 週　Unit 2 Q: How do colors affect the way we feel?
第 4 週　Unit 3 Q: What does it mean to be polite?
第 5 週　Unit 3 Q: What does it mean to be polite?
　　Unit 4 Q: What makes a competition unfair?
第 6 週　Unit 4 Q: What makes a competition unfair?
第 7 週　Unit 5 Q: What makes a family business successful?
第 8 週　Unit 5 Q: What makes a family business successful?
　　Unit 6 Q: Do you prefer to get help from a person or a machine?
第 9 週　Unit 6 Q: Do you prefer to get help from a person or a machine?
第10週　Unit 7 Q: Is it better to save what you have or buy new things?
第11週　Unit 7 Q: Is it better to save what you have or buy new things?
　　Unit 8 Q: What makes a good story?
第12週　Unit 8 Q: What makes a good story?
第13週　Unit 9 Q: Does everyone need math?
第14週　Unit 9 Q: Does everyone need math?
　　Unit 10 Q: How can we prevent diseases?
第15週　Unit 10 Q: How can we prevent diseases?

INTENSIVE READING & WRITING O

3713030101500

副　題								担　当　者	吉富　昇　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-247-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Natasha Haugnes, Beth Maher, *NorthStar 2, Reading & Writing*, Fourth Edition, Pearson Longman, 2015

Extra materials will be provided during the semester.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Textbook Reading: 90 minutes. Journal: 120 minutes. Class Review: 30 minutes.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Homework Assignments(50%), Class Participation(25%) and Exams (25%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第 1 週　Course Introduction, Quick Write
Textbook Unit 1 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 1 for Homework Assignment
第 2 週　Quick Write
Textbook Unit 1 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 2 for Homework Assignment
第 3 週　Quick Write
Textbook Unit 2 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 3 for Homework Assignment
第 4 週　Quick Write
Textbook Unit 2 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 4 for Homework Assignment
第 5 週　Quick Write
Textbook Unit 3 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 5 for Homework Assignment
第 6 週　Quick Write
Textbook Unit 4 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 6 for Homework Assignment
第 7 週　Quick Write
Textbook Unit 5 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 7 for Homework Assignment
第 8 週　Quick Write
Textbook Unit 6 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 8 for Homework Assignment
第 9 週　Quick Write
Textbook Unit 7 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 9 for Homework Assignment
第10週　Quick Write
Textbook Unit 8 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 10 for Homework Assignment
第11週　Reading Material 1
Writing Project 1a
第12週　Reading Material 2
Writing Project 1b
第13週　Reading Material 3
Writing Project 1c
第14週　Reading Material 4
Writing Project 1d
第15週　Review

INTENSIVE READING & WRITING P

3713030101600

副　題								担　当　者	吉富　昇　講師		
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	2/2	コース・ナンバー	ENG-248-GL

〔授業の到達目標〕

To further strengthen reading fluency and writing skills in English.

〔授業の内容〕

Through this course, students will improve their reading comprehension skills, using practical reading materials from texts, books, newspapers, media sources, etc. Students will develop their skills in writing summaries of and reactions to reading selections. Students will also write to give their opinions on topics introduced in the class. Paragraph and essay writing skills will be reinforced through writing assignments.

〔教材〕

教科書：Natasha Haugnes, Beth Maher, *NorthStar 2, Reading & Writing*, Fourth Edition, Pearson Longman, 2015

Extra materials will be provided during the semester.

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

Textbook Reading: 90 minutes. Journal: 120 minutes. Class Review: 30 minutes.

〔成績評価の方法〕

Attendance and Homework Assignments(50%), Class Participation(25%) and Exams (25%)

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Course Introduction, Quick Write
Textbook Unit 1 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 1 for Homework Assignment

第２週　Quick Write
Textbook Unit 1 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 2 for Homework Assignment

第３週　Quick Write
Textbook Unit 2 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 3 for Homework Assignment

第４週　Quick Write
Textbook Unit 2 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 4 for Homework Assignment

第５週　Quick Write
Textbook Unit 3 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 5 for Homework Assignment

第６週　Quick Write
Textbook Unit 4 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 6 for Homework Assignment

第７週　Quick Write
Textbook Unit 5 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 7 for Homework Assignment

第８週　Quick Write
Textbook Unit 6 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 8 for Homework Assignment

第９週　Quick Write
Textbook Unit 7 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 9 for Homework Assignment

第10週　Quick Write
Textbook Unit 8 Reading Assignment: Assessment and Discussion
Journal 10 for Homework Assignment

第11週　Reading Material 1
Writing Project 1a

第12週　Reading Material 2
Writing Project 1b

第13週　Reading Material 3
Writing Project 1c

第14週　Reading Material 4
Writing Project 1d

第15週　Review

INTENSIVE READING & WRITING Q

3713030101700

副　題								担　当　者	鈴木　美穂　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	春学期	曜日	水/土	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-249-GL

〔授業の到達目標〕

１年次に培った英語力をもとに，リーディング力とライティング力をさらに向上させることを目指します。

〔授業の内容〕

テキストの他，ウェブサイトの記事などさまざまなタイプの文章を読み，正確に英文の概要を掴む訓練を行います。語彙，文法の解説も適宜行います。同時に英文の内容を要約したり，その英文に対する自分の意見をまとめたりすることにより，ライティング力の向上を図ります。

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby『Q:Skills for Success-Reading and Writing 1』Oxford University Press，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，リーディングの問題や文法演習などの課題を出すので，必ず解いてくること。また各UnitごとにWriting Assignment　を提出してもらう。毎回の授業準備として予習に２時間以上，復習およびライティングの準備に２時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，提出課題40%，授業の理解度40%を合わせて総合的に判断します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction　授業のガイダンスとテキストの説明，初回のWriting
第２週　Unit 1 Reading　およびQuick Writing
第３週　Unit 1　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第４週　Unit 2 Reading　およびQuick Writing
第５週　Unit 2　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第６週　Unit 3 Reading　およびQuick Writing
第７週　Unit 3　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第８週　Unit 4 Reading　およびQuick Writing
第９週　Unit 4　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第10週　Unit 5 Reading　およびQuick Writing
第11週　Unit 5　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第12週　Unit 6 Reading　およびQuick Writing
第13週　Unit 6　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第14週　Unit 7 Readingと文法事項の学習
第15週　これまでの授業内容のまとめと確認

INTENSIVE READING & WRITING R

3713030101800

副　題								担　当　者	鈴木　美穂　講師
単位	2	配当年次	2	開講期間	秋学期	曜日	水/土	時限	1/1	コース・ナンバー	ENG-250-GL

〔授業の到達目標〕

１年次に培った英語力をもとに，リーディング力とライティング力をさらに向上させることを目指します。

〔授業の内容〕

テキストの他，ウェブサイトの記事などさまざまなタイプの文章を読み，正確に英文の概要を掴む訓練を行います。語彙，文法の解説も適宜行います。同時に英文の内容を要約したり，その英文に対する自分の意見をまとめたりすることにより，ライティング力の向上を図ります。

〔教材〕

教科書：Joe McVeigh, Jennifer Bixby『Q:Skills for Success-Reading and Writing 1』Oxford University Press，2015年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回，リーディングの問題や文法演習などの課題を出すので，必ず解いてくること。また各UnitごとにWriting Assignment　を提出してもらう。毎回の授業準備として予習に２時間以上，復習およびライティングの準備に２時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，提出課題40%，授業の理解度40%を合わせて総合的に判断します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　Introduction　授業のガイダンスとテキストの説明，初回のWriting
第２週　Unit 1 Reading　およびQuick Writing
第３週　Unit 1　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第４週　Unit 2 Reading　およびQuick Writing
第５週　Unit 2　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第６週　Unit 3 Reading　およびQuick Writing
第７週　Unit 3　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第８週　Unit 4 Reading　およびQuick Writing
第９週　Unit 4　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第10週　Unit 5 Reading　およびQuick Writing
第11週　Unit 5　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第12週　Unit 6 Reading　およびQuick Writing
第13週　Unit 6　文法事項の学習，ライティング課題作成に向けて
第14週　Unit 7 Readingと文法事項の学習
第15週　これまでの授業内容のまとめと確認

フランス語　基礎IA

3721011100100

副　題								担　当　者	井上　美穂　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水/金	時限	1/1	コース・ナンバー	FRN-101-GM

〔授業の到達目標〕

「自分の名前や国籍を言う」「物の場所をたずねる」等の基本的な表現を，フランス語で言えるようになることを目指します。また,フランス語圏で起きているできごとを知ることにより，日本とフランス語圏との違いを理解できるようになることも，授業の目標です。

〔授業の内容〕

週２回の授業で同じ教科書を使います。何回も口頭練習を繰り返すことにより，会話の表現を身につける練習を中心に行います。その会話を行うのに必要な文法規則も学習します。授業では，２人ずつのペア練習が多く行われます。また，フランス語圏の情報をお伝えするために，ネット上のフランスのニュースも毎回の授業で扱います。

〔教材〕

教材は，授業の時に教員が配布しますので，購入の必要はありません。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。何回も繰り返して身につけることが重要ですので，毎回の授業内容を復習してください。

〔成績評価の方法〕

出席率が75％未満の場合は，単位が取得できません。春学期に２回のテストを行います。口頭試験と筆記試験の両方です。その２回のテストの平均点で評価を決めます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　何かを提示する・定冠詞・パリの観光名所
第２週　何であるかをたずねる・答える・不定冠詞・パリの観光名所
第３週　何があるかをたずねる・答える・名詞複数形の作り方・パリの観光名所
第４週　挨拶する・一緒に～しないかと誘う・主語人称代名詞・否定形
第５週　誰であるかをたずねる・名前と国籍を言う・出身をたずねる・動詞aller・主語on・縮約
第６週　行き先を言う・それは無理であるという・強勢形
第７週　授業の有無を言う・動詞avoir・否定のde
第８週　時間割をたずねる・答える・deの縮約
第９週　部屋をほめる・満足を表す・所有形容詞
第10週　これからすることをたずねる・直前に行ったことを言う・近接未来・近接過去
第11週　部屋をほめる（２）・形容詞の位置・名詞に前置する形容詞・形容詞　beau, nouveau
第12週　空腹や喉の渇きを言う・暑い寒いを伝える・痛い所を言う・欲しいかどうかをたずねる・部分冠詞
第13週　物の場所をたずねる・答える・場所の表現
第14週　年齢をたずねる・体調をたずねる・効果について驚く・指示形容詞
第15週　まとめ

フランス語　基礎IB

3721011100200

副　題								担　当　者	井上　美穂　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水/金	時限	3/2	コース・ナンバー	FRN-102-GM

〔授業の到達目標〕

基本的な表現を，フランス語で言えるようになることを目指します。また，フランス語圏で起きているできごとを知ることにより，日本とフランス語圏との違いを理解できるようになることも，授業の目標です。

〔授業の内容〕

週２回の授業で同じ教科書を使います。何回も口頭練習を繰り返すことにより，会話の表現を身につける練習を中心に行います。その会話を行うのに必要な文法規則を学習してから，会話にのぞみます。授業では，２人ずつのペア練習が多く行われます。また，フランス語圏の情報をお伝えするために，ネット上のフランスのニュースも毎回の授業で扱います。

〔教材〕

教科書：南舘英孝ほか『新・ペアで学ぼうフランス文法』第三書房，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。何回も繰り返して身につけることが重要ですので，毎回の授業内容を復習してください。

〔成績評価の方法〕

出席率が75％未満の場合は，単位が取得できません。春学期に２回のテストを行います。口頭試験と筆記試験の両方です。その２回のテストの平均点で評価を決めます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　名詞の性と不定冠詞・性別をあてる会話練習
第２週　女性名詞の作り方・職業の名詞を女性形にした会話練習
第３週　un, uneと数詞１から10・カフェで注文する
第４週　主語代名詞・tuとvous・持ち物を確認する
第５週　動詞avoir・文房具を借りる
第６週　名詞の複数形・文房具店での会話
第７週　定冠詞・予定をたずねる
第８週　動詞　-er型・旅行の日程についての会話
第９週　否定文・否定のde・好き嫌いについての会話・持ち物について有無を言う
第10週　数詞11から20・文房具店での買い物
第11週　動詞　etre・外国産の製品についてたずねる
第12週　形容詞の性数一致・血液型についてたずねる
第13週　形容詞の位置・形容詞を使った物当てゲーム（１）
第14週　男性第二形を持つ形容詞・形容詞を使った物当てゲーム（２）
第15週　動詞　-ir型・食事の終え方についての会話

フランス語　基礎II A

3721011200100

副　題								担　当　者	井上　美穂　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水/金	時限	1/1	コース・ナンバー	FRN-103-GM

〔授業の到達目標〕

基礎Iの時よりも多少複雑な内容をフランス語で言えるようになることを目指します。また，フランス語圏で起きているできごとを知ることにより，日本とフランス語圏との違いを理解できるようになることも，授業の目標です。

〔授業の内容〕

春学期の教科書の続きを学習しますが,秋学期から参加なさる方にも十分に配慮いたします。授業の形式は，春学期と同じように口頭練習が中心です。２人でペア練習を行います。文法規則は，会話を行うのに必要な項目のみを扱います。ネット上のフランス語圏のニュース映像も毎週見ます。

〔教材〕

教材は，教員が配布します。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。何回も繰り返して身につけることが重要ですので，毎回の授業内容を復習してください。

〔成績評価の方法〕

出席率が75％未満の場合は，単位が取得できません。秋学期に２回テスト（口頭試験と筆記試験の両方）を行い，その平均点で評価を決めます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　好き嫌いを言う・その場にいる人たちに提案する・-er動詞
第２週　好き嫌いを言う（２）・別のことをしようと提案する・動詞faire
第３週　謝る・動詞　mettre・de+形容詞複数形+名詞複数
第４週　動詞prendre・命令形
第５週　許可を求める・～すぎる・比較する・比較級
第６週　最上級
第７週　人数をたずねる・avoirを助動詞に使う複合過去形
第８週　必要なものをたずねる・数1000まで
第９週　するべきことをたずねる
第10週　材料と調理の表現
第11週　プレゼントなどを渡す・お礼を言う
第12週　etreを助動詞に使う複合過去
第13週　天気を言う・半過去形
第14週　外出を表す語・半過去形
第15週　楽しかったかどうかをたずねる・複合過去形と半過去形の使い分け

フランス語　基礎ⅡB

3721011200200

副　題								担　当　者	井上　美穂　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水/金	時限	3/2	コース・ナンバー	FRN-104-GM

〔授業の到達目標〕

基礎Iの時よりも多少複雑な内容をフランス語で言えるようになることを目指します。また，フランス語圏で起きているできごとを知ることにより，日本とフランス語圏との違いを理解できるようになることも，授業の目標です。

〔授業の内容〕

春学期の教科書の続きを学習しますが,秋学期から参加なさる方にも十分に配慮いたします。授業の形式は，春学期と同じように口頭練習が中心です。２人でペア練習を行います。文法規則は，会話を行うのに必要な項目のみを扱います。ネット上のフランス語圏のニュース映像も毎週見ます。

〔教材〕

教科書：南舘英孝ほか『新・ペアで学ぼうフランス文法』第三書房，2016年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習は必要ありません。何回も繰り返して身につけることが重要ですので，毎回の授業内容を復習してください。

〔成績評価の方法〕

出席率が75％未満の場合は，単位が取得できません。秋学期に２回テスト（口頭試験と筆記試験の両方）を行い，その平均点で評価を決めます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　部分冠詞・朝ごはんについて述べる
第２週　質問文の作り方・食べ物飲み物をすすめる
第３週　定冠詞の縮約・体の痛みをうったえる
第４週　人称代名詞強勢形・医院での会話
第５週　指示形容詞・洋服の買い物
第６週　所有形容詞・おもちゃの持ち主を確認する
第７週　動詞　aller, venir・どこかに一緒に行こうと誘う
第８週　近接未来・日程を告げる
第９週　近接過去・ちょうど終えたことを主張する
第10週　代名動詞・名前をたずねる・自分の一日の行動を説明する
第11週　中性代名詞　en・キャンプへの持ち物とその分量を確認する
第12週　中性代名詞　y　・フランスに誰と行くのかを説明する・中性代名詞　le
第13週　数詞70から99・加減乗除の計算をする
第14週　疑問形容詞　quel　・フランスの有名人の生まれた年をたずねる
第15週　非人称の　il　・時刻をたずねる・フランスの各地域にある観光名所について説明する

フランス語　応用I

3721021100100

副　題								担　当　者	篠原　学　講師 井上　美穂　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火/水	時限	2/2	コース・ナンバー	FRN-205-GM

〔授業の到達目標〕

篠原の授業では書き言葉を中心に学習し，「フランス語で書かれた平易な文章の意味がわかるようになる」「フランス語のしくみを理解し，短い文が書けるようになる」という到達目標を掲げます。井上の授業では話し言葉を中心に学習し，「ゆっくりと話されたフランス語が理解できる」「初歩的な内容をフランス語で言えるようになる」ことを目標とします。

〔授業の内容〕

篠原の授業では，会話文などの短い文章を素材として基本的な文法事項を確認しながら短い文を書く練習を行うことで，フランス語の読み書きの習熟度を高めることを目指します。井上の授業では，まず文法項目を短時間で解説し，その文法事項を用いたききとり問題を行い，最後に同じ文法項目を用いた簡単な会話を隣同士でペアになって練習します。フランスのニュース紹介も基礎に引き続き，行います。

〔教材〕

教科書：藤田裕二、藤田知子、鈴木シルヴィ『新・東京―パリ，初飛行［CD付新装改訂版］』駿河台出版社，2011年

井上の授業で使う教材は，大学のサーバーに載せてあるweb教材「クリック・ル・フランセ」です。同一文法項目を中心に，ききとり問題と会話練習の両方が用意されているので，こちらの教材を使うことにしました。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

篠原の授業に予習の必要はありませんが，復習は欠かさず行い，授業中に書けなかったフランス語の文を翌週までに書けるようになってきてください。井上の授業でも予習の必要はありません。web教材はいつでもアクセスできますので，毎週必ず復習を行って下さい。

〔成績評価の方法〕

２人の教員で50点ずつの評価を出し合い，合計して最終の評価とします。

篠原：授業への参加態度（40%）毎回の復習（20%）学期末試験（40%）

井上：隣同士で行う会話練習が重要ですので，75%以上の出席率が必要です。その出席率を評価の80%とし，残りの20%を小テストに当てます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

篠原m.shinohara103●gmail.com（change ● to @）

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　イントロダクション
第２週　挨拶と自己紹介
第３週　好きなものの表現
第４週　形容詞の使い方
第５週　否定文と疑問文（１）
第６週　否定文と疑問文（２）
第７週　中間的な復習（１）
第８週　時間・天候の表現，数量の表現
第９週　命令の表現
第10週　代名詞の使い方（１）
第11週　代名詞の使い方（２）
第12週　過去の表現
第13週　未来の表現
第14週　中間的な復習（２）
第15週　確認のテストとまとめ

上記の第１回～第15回までの授業計画は，篠原が担当する授業のものです。井上の授業では，「過去のでき事を述べる」「感嘆文」「受動態を使う」などの練習を行います。

フランス語　応用II

3721021200100

副　題		担　当　者	篠原　学　講師 井上　美穂　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火/水	時限	2/2	コース・ナンバー	FRN-206-GM

〔授業の到達目標〕

篠原の授業では書き言葉を中心に学習し，「フランス語で書かれた平易な物語が読めるようになる」「ある程度の長さをもつフランス語の文が書けるようになる」という到達目標を掲げます。井上の授業では話し言葉を中心に学習し，「ゆっくりと話された長めのフランス語が理解できる」「多少複雑な内容をフランス語で言えるようになる」ことを目標とします。

〔授業の内容〕

篠原の授業では，フランス語で書かれた物語（未定）を読みながら，そこに現れたさまざまな表現を活用してフランス語を書く練習を行うことで，フランス語の表現力を高めます。井上の授業では，春学期に引き続き，まず文法項目を短時間で解説し，その文法事項を用いたききとり問題を行い，最後に同じ文法項目を用いた簡単な会話を隣同士でペアになって練習します。フランスのニュース紹介も行います。

〔教材〕

篠原の授業で使う教材は，初回授業時に配布します。井上の授業で使う教材は，大学のサーバーに載せてあるweb教材「クリック・ル・フランセ」です。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

篠原の授業に関しては，配布されたテキストの文章を毎回予習してくること（わからない単語を調べる，構文をとり意味を考える）が必要です。井上の授業では予習の必要はありませんが，web教材はいつでもアクセスできますので，毎週必ず復習を行って下さい。

〔成績評価の方法〕

２人の教員で50点ずつの評価を出し合い，合計して最終の評価とします。
篠原：授業への参加態度（40%）毎回の予習（20%）学期末試験（40%）
井上：隣同士で行う会話練習が重要ですので，75%以上の出席率が必要です。その出席率を評価の80%とし，残りの20%を小テストに当てます。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

篠原m.shinohara103●gmail.com（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　関係代名詞quiを使ってフランス各地の特徴を説明する
第２週　関係代名詞queを使ってフランス各地の特徴を説明する
第３週　関係代名詞dontを使って世界のフランス語圏の特徴を説明する
第４週　関係代名詞o？を使って世界のフランス語圏の特徴を説明する
第５週　条件法と直説法の違いを学習する
第６週　条件法を使って「もし～ならば，～なのに」という内容を表現する
第７週　直説法を条件法に変えて語気を緩和する
第８週　条件法を使って語気を緩和した表現で忠告する
第９週　人称代名詞間接目的補語３人称を使って昔話を語る
第10週　人称代名詞間接目的補語１・２人称を使って昔話の台詞を完成させる
第11週　接続法を使って必要なことを伝える
第12週　接続法を使って必要なことを相談する
第13週　単純未来形２人称を使って相手の未来を想像する
第14週　単純未来形１人称を使って自分の将来を語る
第15週　ジェロンディフを使って健康に関するアドバイスを出す
上記の第１回～第15回までの授業計画は，井上が担当する授業のものです。

ドイツ語　基礎IA

3722011100100

副　題		担　当　者	柿沼　義孝　講師 小出　昌弘　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	3/4	コース・ナンバー	GER-107-GM

〔授業の到達目標〕
ドイツ語技能検定試験（独検）５級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕
ドイツ語はEUの中でもっとも多くの人が話している言語です。皆さんのドイツに対するイメージはどんなでしょうか。音楽の国，ロマンティック街道，ライン川の流れとそこにそびえる城。ソーセージ，ワイン，そしてビール。数え上げればきりがありません。このドイツ語の時間では自己紹介から始まって，買い物やレストランでの注文の仕方など，簡単な日常会話を勉強しながら，ドイツやオーストリアのいろいろな文化を体験していきます。またドイツ語検定試験にも挑戦してみませんか。
ドイツ語未履修者を対象として，ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と，初歩の会話を学びます。
柿沼の授業では，ミュンヒェンでドイツ語を勉強し始めたフィンランドの大学生の日常生活を通じて，あいさつ・自己紹介から始め，スーパーでの買い物，天気やジャガイモ料理などドイツの生活に関する話を含めて，日常生活で使う語彙や会話表現を学びます。それをフォローする形で小出の授業では作文練習を中心に，基本表現や文法の習得を目指します。

〔教材〕
教科書：池内　宣夫『発信するドイツ語』三修社
Schritte International 1, Hueber
柿沼使用教科書：Schritte International 1
小出使用教科書：『発信するドイツ語』

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
前回の授業で扱った内容をよく復習して，次の授業で使えるように表現方法や仕掛けをしっかり身に付けること。

〔成績評価の方法〕
学期末試験他の成績（70%）に平常点（30%）を加味して行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　つづりと発音の関係
第２週　〃
第３週　動詞の現在人称変化
第４週　〃
第５週　名詞の性・格と冠詞の変化
第６週　〃
第７週　不規則動詞と名詞の複数形
第８週　〃
第９週　人称代名詞
第10週　〃
第11週　所有冠詞・否定冠詞・指示冠詞
第12週　〃
第13週　前置詞
第14週　〃
第15週　まとめ

ドイツ語　基礎IB

3722011100200

副　題		担　当　者	平井　敏雄　講師 小出　昌弘　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	4/3	コース・ナンバー	GER-108-GM

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）５級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

大学を卒業する人にとって２つ以上の外国語を学ぶことは，世界の常識です。２つめの外国語としてドイツ語にチャレンジしてください。ドイツ語未履修者を対象として，ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と，初歩の会話を学びます。小出の授業では，作文の練習を中心に基本文法の習得を目指し，平井の授業では，日常のさまざまな場面に応じた会話の練習を通して，語彙・発話力の充実をはかってゆきます。

〔教材〕

教科書：池内宣夫『ドイツ語表現への誘い（新訂版）』初版，郁文堂，2013年
　　佐藤修子他『スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語』三修社
小出使用教科書：『ドイツ語表現への誘い』（新訂版）
平井使用教科書：『スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語』

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の授業で扱う部分の内容にあらかじめ目を通し，わからない単語は辞書で確認し，練習問題の解答を考えてきて下さい。

〔成績評価の方法〕

学期末試験他の成績（70%）に平常点（30%）を加味して行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　つづりと発音
第２週　〃
第３週　動詞の現在人称変化
第４週　〃
第５週　不規則動詞
第６週　〃
第７週　名詞の性・名詞の格
第８週　〃
第９週　前置詞
第10週　〃
第11週　話法の助動詞
第12週　〃
第13週　分離動詞
第14週　〃
第15週　まとめ

ドイツ語　基礎ⅡA

3722011200100

副　題								担　当　者	柿沼　義孝　講師 小出　昌弘　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	3/4	コース・ナンバー	GER-109-GM

〔授業の到達目標〕
　ドイツ語技能検定試験（独検）４級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕
　ドイツ語はEUの中でもっとも多くの人が話している言語です。皆さんのドイツに対するイメージはどんなでしょうか。音楽の国，ロマンティック街道，ライン川の流れとそこにそびえる城。ソーセージ，ワイン，そしてビール。数え上げればきりがありません。このドイツ語の時間では自己紹介から始まって，買い物やレストランでの注文の仕方など，簡単な日常会話を勉強しながら，ドイツやオーストリアのいろいろな文化を体験していきます。またドイツ語検定試験にも挑戦してみませんか。
　ドイツ語基礎IAを修得した者を対象として，ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と，日常的なさまざまな場面に応じた初級会話を学びます。IAで使用したテキストの続きを学び，応用への橋渡しとします。
　柿沼の授業では，引き続き，ミュンヒェンでドイツ語を勉強し始めたフィンランドの大学生の日常生活を通じて，スーパーでの買い物，天気やジャガイモ料理などドイツの生活に関する話を含めて，日常生活で使う語彙や会話表現を学びます。それをフォローする形で，小出の授業では，引き続き作文練習を中心に様々な表現や基本文法の一層の確実な把握を目指します。

〔教材〕
　教科書：池内　宣夫『発信するドイツ語』三修社
　　Schritte International 1, Hueber
　柿沼使用教科書：Schritte International 1
　小出使用教科書：『発信するドイツ語』

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　前回の授業の復習をしっかり行って，次回の授業のために表現方法や仕掛けを身に付けておくこと。

〔成績評価の方法〕
　学期末試験他の成績（70%）に平常点（30%）を加味して行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　春学期の復習１
第２週　春学期の復習２
第３週　分離動詞と非分離動詞
第４週　再帰代名詞と再帰動詞
第５週　形容詞の格変化と比較変化
第６週　話法の助動詞と未来の助動詞
第７週　副文と命令形
第８週　過去形
第９週　現在完了形
第10週　zu　不定詞
第11週　受動文
第12週　関係代名詞
第13週　接続法
第14週　まとめと復習・解説
第15週　まとめと今後の展望

ドイツ語　基礎IIB

3722011200200

副　題										担　当　者	平井　敏雄　講師 小出　昌弘　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	4/3	コース・ナンバー	GER-110-GM

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）４級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

ドイツ語基礎Iを修得した者を対象として，ドイツ語を使いこなすための文法の基礎と，日常的なさまざまな場面に応じた初級会話を学びます。IBで使用したテキストの続きを学び，中級への橋渡しとします。小出の授業では，作文の練習を中心に基本文法の習得を目指し，平井の授業では，日常のさまざまな場面に応じた会話の練習を通して，語彙･発話力の充実をはかってゆきます。

〔教材〕

教科書：池内宣夫『ドイツ語表現への誘い　（新訂版）』初版，郁文堂，2013年
　　佐藤修子他『スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語』三修社
小出使用教科書：『ドイツ語表現への誘い』（新訂版）
平井使用教科書：『スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語』

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

次回の授業で扱う部分の内容にあらかじめ目を通し，わからない単語は辞書で確認し，練習問題の解答を考えてきて下さい。

〔成績評価の方法〕

学期末試験他の成績（70%）に平常点（30%）を加味して行う。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　春学期の復習
第２週　〃
第３週　過去形・完了形
第４週　〃
第５週　再帰表現・受動態
第６週　〃
第７週　形容詞の格変化
第８週　〃
第９週　関係代名詞
第10週　〃
第11週　接続法
第12週　〃
第13週　〃
第14週　接続法
第15週　〃

ドイツ語　応用I

3722021100100

副　題		担　当　者	柿沼　義孝　講師 平井　敏雄　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月/火	時限	4/3	コース・ナンバー	GER-211-GM

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）３級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

ドイツ語基礎を履修した人を対象として，文を読み，書き，聞き，話す練習をします。またドイツのさまざまな面をアクチュアルな問題も含めて紹介していきます。柿沼の授業では，インターネットやDVDなどのさまざまな映像メディアを通して，現代のドイツの若者がどんな日常を送っているのか，若者言葉は？携帯は？など日本の若者と比較しつつ，グローバルな時代のドイツの生活を体験します。平井の授業では，基礎に引き続いて文法事項の学習をしながら，ある程度まとまった内容をもったテキストをドイツ語で読み解く練習および，独作文の練習をしてゆきます。

〔教材〕

教科書：清野智昭他『ドイツ語の時間　読解編』朝日出版社

（１）柿沼使用テキスト：授業時配付プリント及びテキスト（授業時に指示）

（２）平井使用テキスト：清野智昭他『ドイツ語の時間　読解編』（朝日出版社）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

あらかじめ，次回の授業で扱うテキスト部分を読み，練習問題の解答を準備してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的参加の度合いを平常点（30%）とし期末試験の成績（70%）に加味します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　基礎の復習
第２週　〃
第３週　講読・練習
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

ドイツ語　応用II

3722021200100

副　題		担　当　者	柿沼　義孝　講師 平井　敏雄　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月/火	時限	4/3	コース・ナンバー	GER-212-GM

〔授業の到達目標〕

ドイツ語技能検定試験（独検）３級合格程度のドイツ語運用能力の習得を目指します。

〔授業の内容〕

ドイツ語応用Iと基本的には同じですが，内容的には少し高度なものを扱います。ドイツについてのアクチュアルな情報について紹介する点も同じです。柿沼の授業では，ドイツ語基礎を履修した人を対象として，文を読み，書き，聞き，話す練習をします。またドイツのさまざまな面をアクチュアルな問題も含めて紹介していきます。インターネットやDVDなどのさまざまな映像メディアを通して，現代のドイツの若者がどんな日常を送っているのか，若者言葉は？携帯は？など日本の若者と比較しつつ，グローバルな時代のドイツの生活を体験します。平井の授業では，応用Iに引き続き文法事項の学習をしながら，ある程度まとまった内容をもったテキストをドイツ語で読み解く練習および，独作文の練習をしてゆきます。

〔教材〕

教科書：清野智昭他『ドイツ語の時間　読解編』朝日出版社
（１）柿沼使用テキスト：授業時配付プリント及びテキスト（授業時に指示）
（２）平井使用テキスト：清野智昭他『ドイツ語の時間　読解編』（朝日出版社）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

あらかじめ，次回の授業で扱うテキスト部分を読み，練習問題の解答を準備してきてください。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的参加の度合いを平常点（30%）とし期末試験の成績（70%）に加味します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　応用Iの復習
第２週　〃
第３週　講読・練習
第４週　〃
第５週　〃
第６週　〃
第７週　〃
第８週　〃
第９週　〃
第10週　〃
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　〃
第15週　まとめ

イタリア語　基礎IA

3723011100100

副　題	覚えた表現を使ってみよう	担　当　者	岡田　由美子　講師 C．カルーディス　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木/金	時限	2/4	コース・ナンバー	ITA-113-GM

〔授業の到達目標〕

実用的なフレーズを活かしながら，基本的な日常コミュニケーションをとることを目指します。イタリア語を楽しく学び，理解し，そして日常会話ができるようになりたいと望む学生を対象にしています。間違うことを気にせず，積極的に授業に参加しましょう。

〔授業の内容〕

日本人の若者にとってイタリアは，料理，サッカー，ファッション，芸術などを通じてとても身近です。この科目は，魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら，イタリア語を楽しく学び，日常会話ができるようになりたいと望む学生を対象としています。発音の仕方に始まり，旅行などですぐ使える実用的な会話と表現を，実際にクラスメートと会話しながら着実に学びます。ペアおよびグループワーク，スキット作りなど，学生が楽しみながら参加できる練習をたくさん行います。イタリア語での映画を見たり，イタリア語の歌を聞いたりもします。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社，2011年
岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社，2004年

カルーディス担当の会話の教材は，毎回プリントを配布します。辞書は必要を感じたら購入してください。お勧め順にあげておきます。

『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『ポケットプログレッシブ伊和･和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

復習を中心に各自行ってください。特に発音は，復習しながら発音することでどんどん上達いたします。イタリア人になれるくらいに，付属のCDを何回も聞いて発音しましょう。

〔成績評価の方法〕

岡田担当の文法は，各課ごとに理解度の確認を行います。学期末テストはありません。各課ごとの理解度の確認を総合評価し，通常授業での課題提出および授業への出席等を加味して，成績とします。カルーディス担当の会話は，毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

理解度の確認は，授業計画で示されています。最初の授業で日時をお知らせいたします。

岡田の授業で学期末に，授業と並行してイタリア語の映画を１本観ます。授業で習った会話をみつけましょう。

〔授　業　計　画〕

第１週　1. Pronti...? Via！　アルファベット・名詞
第２週　1. Pronti...? Via！　形容詞・冠詞
第３週　1. Pronti...? Via！　主語人称代名詞・動詞
第４週　理解度の確認１　；　2. Piacere! essere
第５週　2. Piacere! essere･ 再帰動詞chiamarsi
第６週　2. Piacere！　再帰動詞chiamarsi
第７週　理解度の確認２　；　3. La famiglia avere･ 所有形容詞
第８週　3. La famiglia　数詞１～30
第９週　3. La famiglia　前置詞と定冠詞の結合
第10週　3. La famiglia　まとめ
第11週　理解度の確認３　；　4. La posta　不規則動詞uscire
第12週　4. La posta　不規則動詞andare venire
第13週　4. La posta　不規則動詞　まとめ
第14週　4. La posta　指示代名詞・指示形容詞
第15週　理解度の確認４　；　まとめ

『Ho capito！』の文法に合わせて『Facciamo esercizi！』を進めていきますので，必ず毎回教科書を２冊用意してきましょう。

イタリア語　基礎IB

3723011100200

副　題	習ったことをさっそく使ってみよう	担　当　者	菅野　ヴェロニカ　講師 C．カルーディス　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	1/5	コース・ナンバー	ITA-114-GM

〔授業の到達目標〕

実用的なフレーズを活かしながら，基本的な日常コミュニケーションをとることを目指します　。

イタリア語を楽しく学び，理解し，そして日常会話が出来るようになりたいと望む学生を対象にしています。間違うことを気にせず，積極的な気持ちで授業に参加しましょう。

〔授業の内容〕

日本人の若者にとってイタリアは，料理，サッカー，ファッション，芸術などを通じてとても身近です。この科目は，魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら，イタリア語を楽しく学び，日常会話が出来るようになりたいと望む学生を対象としています。アルファベットの発音から旅行などですぐに使える実用的な会話と表現を，実際にクラスメートと会話しながら着実に学びます。ペア・グループワーク，スッキト作りなど，学生が楽しみながら参加できる練習をたくさん行います。授業中映画を見たり，音楽を聴いたりします。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ, *Ho Capito オカピト！*, 2 nd Edition, 白水社, ２０１５

参考書：岡田由美子，Yumiko Okada, *Facciamo esercizi!*, 白水社, 2004

カルーディス担当の会話の教材は，毎回プリントを配布します。辞書は必要を感じたら購入してください。お勧め順にあげておきます。

『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『ポケットプログレッシブ伊和･和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としては，教科書の２ページぐらいの語彙を前もって調べておきます。クラスで習った分を復習しましょう。

〔成績評価の方法〕

１～２課ごとで習った表現その他の小テストや確認と出席，宿題，授業での積極的な参加及び活動を評価します。期末試験はありません。

カルーディス担当の会話は，毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業紹介，さまざまな挨拶，イタリア及び簡単なイタリア語の言葉の紹介。
第２週　第１課. Pronti...? Via！アルファベット・名詞・形容詞・冠詞
第３週　第１課. Piacere！　主語人称代名詞・動詞
第４週　第１課の小テスト　第２課. Piacere！　自己紹介（名前，出身を言う）
第５週　第２課. Piacere！　自己紹介（名前，出身，仕事を言う）
　　再帰動詞chiamarsi
第６週　第２課. Piacere！の小テスト　第３課. La famiglia所有形容詞
第７週　第３課. La famiglia所有形容詞　前置詞と定冠詞の結合　Avere動詞
第８週　イタリアの映画を見ます。
第９週　第４課. La Posta　方向説明　不規則動詞uscire, andare, venire
第10週　第４課. La posta　指示代名詞，指示形容詞
第11週　第４課.　の小テスト
　　第５課. Al telefono　日常を述べる　質問の仕方。交通機関
第12週　第５課. Al telefono　時間　月と季節の名前
第13週　第５課. Al telefono　の小テスト
　　第６課. Permesso?
　　許可を得る。「できる」動詞
第14週　第６課.Permesso?
　　丁寧な断り方。形容詞。６課の練習問題と答え合わせ。
第15週　イタリアの映画を見ます。
映画やイタリアの世界遺産の映像をたくさん見ます。

イタリア語　基礎ⅡA

3723011200100

副　題	積極的にイタリア語で表現してみよう	担　当　者	岡田　由美子　講師 C．カルーディス　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	木/金	時限	2/4	コース・ナンバー	ITA-115-GM

〔授業の到達目標〕

基礎Iで習得した能力をアップしながら，日常的なことについてのコミュニケーションをとることを目指す。

〔授業の内容〕

基礎Iをさらに発展させた形で会話と文法を学んでいきます。昨年度の基礎Iで単位を取得した学生も履修可能です。会話はカルーディスが担当します。文法は岡田が担当します。秋学期終了後には，ぜひイタリア語検定５級もしくは４級にチャレンジしてみましょう。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社，2011年
岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社，2004年

カルーディス担当の会話は，毎回プリントを配布します。辞書：『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『プログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

春学期同様に，復習を中心に，発音をしながら根気よくフレーズを覚えましょう。覚えれば覚えるほど，ふとした日本語がイタリア語になって浮かんできますよ。頑張りましょう。

〔成績評価の方法〕

岡田担当の文法は，各課ごとに理解度の確認を行います。学期末テストはありません。各課ごとの理解度の確認を総合評価し，通常授業での課題提出および授業への参加態度等を加味して，成績とします。カルーディス担当の会話は，毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

理解度の確認は，授業計画で示されています。最初の授業で日時をお知らせいたします。

岡田の授業で学期末に，授業と並行してイタリア語の映画を観ます。習った会話をどれだけ探せるかチャレンジしましょう。

〔授　業　計　画〕

第１週　5. Al telefono　疑問詞
第２週　5. Al telefono　不規則動詞stare
第３週　5. Al telefono　時間・月の言い方
第４週　理解度の確認１　；　6. Permesso？　不規則動詞sapere
第５週　6. Permesso？　不規則動詞potere
第６週　6. Permesso？　不規則動詞volere
第７週　6. Permesso？　不規則動詞dovere,　まとめ
第８週　理解度の確認２　；　7. Non mi sento bene　再帰動詞
第９週　7. Non mi sento bene　直接・間接目的語代名詞
第10週　7. Non mi sento bene　曜日の言い方
第11週　7. Non mi sento bene　まとめ
第12週　理解度の確認３　；　8. Mi piace uscire　piacere
第13週　8. Mi piace uscire　目的語代名詞の複合形
第14週　8. Mi piace uscire　まとめ
第15週　理解度の確認４　；　まとめ

『Ho capito！』の文法事項に合わせて『Facciamo esercizi！』を進めていきますので，必ず毎回教科書を２冊用意しましょう。

イタリア語　基礎IIB

3723011200200

副　題	イタリア語でたくさんコミュニケーションとってみよう	担　当　者	菅野　ヴェロニカ　講師 C．カルーディス　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	1/5	コース・ナンバー	ITA-116-GM

〔授業の到達目標〕

実用的なフレーズを活かしながら，基本的な日常コミュニケーションをとることを目指します　。

イタリア語を楽しく学び，理解し，そして日常会話が出来るようになりたいと望む学生を対象にしています。間違うことを気にせず，積極的な気持ちで授業に参加しましょう。

〔授業の内容〕

日本人の若者にとってイタリアは，料理，サッカー，ファッション，芸術などを通じてとても身近です。この科目は，魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら，イタリア語を楽しく学び，日常会話が出来るようになりたいと望む学生を対象としています。アルファベットの発音から旅行などですぐに使える実用的な会話と表現を，実際にクラスメートと会話しながら着実に学びます。ペア・グループワーク，スッキト作りなど，学生が楽しみながら参加できる練習をたくさん行います。授業中映画を見たり，音楽を聴いたりします。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ, *Ho Capito オカピト！*, 2 nd Edition, 白水社, ２０１５
参考書：岡田由美子，Yumiko Okada『Facciamo esercizi!』白水社，2004年
カルーディス担当の会話は，毎回プリントを配布します。辞書：『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『プログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習としては，教科書の２ページぐらいの語彙を前もって調べておきます。クラスで習った分を復習しましょう。

〔成績評価の方法〕

１～２課ごとで習った表現その他の小テストや確認と出席，宿題，授業での積極的な参加及び活動を評価します。期末試験はありません。
カルーディス担当の会話は，毎回の授業の参加姿勢を評価して成績とします。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業紹介，第５課までの復習
第２週　第６課までの復習
第３週　第７課　Non mi sento bene　お医者さんで。
直接・間接目的語代名詞，曜日
第４週　第７課　Non mi sento bene
再帰動詞・直接・間接目的語代名詞
第５週　第７課　Settima Unita’の小テスト
第８課　Mi piace uscire　好みを述べる
piacere・interessare動詞。
第６週　第８課　Mi piace uscire
piacere・interessare動詞。
直接目的語代名詞・目的語代名詞福合形。
第７週　第８課　Mi piace uscireの小テスト　第９課　Ho conosciuto Veronica　近過去・過去分詞。
第８週　映画を見る。
第９週　第９課　Ho conosciuto Veronica
近過去・部分冠詞。第10課　Mi e’ piaciuto subito　過去形　不規則な過去分詞
第10週　第９課　Ho conosciuto Veronica　の小テスト
第10課　Mi e’ piaciuto subito
過去形　不規則な過去分詞，関係代名詞
第11週　第10課の小テスト
第11課　Il lavoro　未来系
第12週　第１２課　Al grande magazzino　買い物へ　条件法
第13週　第11課と第１２課　の小テスト
第１３課　Lo sport　半過去，非人称の分
第14週　第１３課　Lo sport　半過去，非人称の分
練習問題と答え合わせ
第15週　映画を見る。
映画やイタリアの世界遺産の映像をたくさん見ます。

イタリア語　応用I

3723021100100

副　題	イタリア語基礎学力の向上	担　当　者	菅野　ヴェロニカ　講師 岡田　由美子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	火/木	時限	2/4	コース・ナンバー	ITA-217-GM

〔授業の到達目標〕

基礎で養った会話の力を，聞き取りに力を入れることで，磨きましょう。そして，イタリアと日本の文化の違いを考えることで，イタリアとイタリア人の明るい生き方について学びましょう。イタリア語検定４級のレベルが目標です。

〔授業の内容〕

岡田の授業では『Ho capito！』と『Facciamo esercizi！』を使います。初級で習った文法をさらに発展させ，会話に欠かせない聞き取りの力を向上させましょう。目標はイタリア語検定４級です。

菅野の授業では配布プリントを使用します。慣用句などを使い，文化について考えたり話し合ったりします。会話に使えるフレーズをたくさん身につけたいと思います。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社，2011年
岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社，2004年

岡田の補助教材・菅野の教材は，毎回プリントを配布します。

辞書：『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習はもちろんですが，やはり応用でも復習には力を入れましょう。学んだ慣用句をしっかりと身に付けると，イタリア人もびっくりするはずです。

〔成績評価の方法〕

岡田・菅野の授業とも，各課ごとの理解度の確認，課題提出，授業中の積極的な参加姿勢，で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

学期末にイタリア語の映画を観ます。文化の違いや習った会話を，映画を通して感じてください。

〔授　業　計　画〕

第１週　岡田：基礎イタリア語の総復習
　　菅野：授業説明
第２週　岡田：Lezione 9 Ho conosciuto Veronica.
　　菅野：イタリアの歌を訳しましょう。
第３週　岡田：Lezione 9 Ho conosciuto Veronica.
　　菅野：訳について考えます。
第４週　岡田：Lezione 9 Ho conosciuto Veronica.
　　菅野：イタリア語の色々な言い回し
第５週　岡田：理解度の確認１　Lezione 10 Mi è piaciuto subito.
　　菅野：イタリア語の色々な言い回し
第６週　岡田：Lezione 10 Mi è piaciuto subito.
　　菅野：イタリア語の色々な言い回し
第７週　岡田：Lezione 10 Mi è piaciuto subito.　まとめ
　　菅野：日本語の色々な言い回し
第８週　岡田：理解度の確認２　Lezione 11 Il lavoro.
　　菅野：映画を見ます
第９週　岡田：Lezione 11 Il lavoro.
　　菅野：文化と礼儀
第10週　岡田：Lezione 11 Il lavoro.
　　菅野：イタリア人が触れたがらない話題と文化の違い
第11週　岡田：理解度の確認３　Lezione 12 Al grande magazzino.
　　菅野：文化による人との距離
第12週　岡田：Lezione 12 Al grande magazzino.
　　菅野：文化と人生観
第13週　〃
第14週　岡田：Lezione 12 Al grande magazzino.　まとめ
　　菅野：まとめ
第15週　岡田：理解度の確認４
　　菅野：映画を見ます。

岡田の授業では,『Ho capito！』の文法事項に合わせて『Facciamo esercizi！』を進めていきます。必ず毎回教科書を２冊用意しましょう。
授業には予習はもちろんですが，特に復習に力を入れて学習しましょう。
菅野の授業では，その時のニュースを取り上げることありますので，計画が変わることがあります。

イタリア語　応用II

3723021200100

副　題	イタリア語基礎学力の向上	担　当　者	菅野　ヴェロニカ　講師 岡田　由美子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	火/木	時限	2/4	コース・ナンバー	ITA-218-GM

〔授業の到達目標〕

実用的なフレーズを活かしながら，基本的な日常のコミュニケーションをとることを目指します。春学期で習った表現力をさらに伸ばしましょう。秋学期終了後にはぜひイタリア語検定の４級もしくは３級にチャレンジするのもいいかもしれません。

イタリア語を楽しく学び，理解し，そして日常会話ができるようになりたい学生を対象にしています。間違うことを気にせず，積極的に授業に参加しましょう。

〔授業の内容〕

日本人の若者にとってイタリアは，料理，サッカー，ファッション，芸術を通じてとても身近です。この科目は，魅力的で人気のあるイタリアの文化を理解しながら，イタリア語を楽しく学び，日常会話ができるようになりたいと望む学生を対象としています。

岡田の授業では『Ho capito！』と『Facciamo esercizi！』を使用し，基礎イタリア語で習った文法をさらに発展させ，会話に必要な聞き取る力も養っていきます。

菅野の授業では，ペアもしくはグループワーク，スキット作りなど，楽しみながら参加して練習をしましょう。また，どちらのクラスもイタリア語での映画を見たり，イタリア語の歌を聞いたりします。

〔教材〕

教科書：菅野ヴェロニカ『Ho capito!』（オ・カピート）白水社，2011年
岡田由美子『Facciamo esercizi!』（練習しましょう！イタリア語問題集）白水社，2004年

岡田の補助教材・菅野の教材は毎回用意いたします。

辞書：『プリーモ伊和辞典　和伊付き』白水社，『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館，『伊和中辞典』小学館

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

春学期同様，予習も必要ですが，復習に力を入れましょう。習った慣用句や表現をしっかりと覚えて，聞いた日本語が自然にイタリア語になって口から出るくらい，覚えてしまいましょう。

〔成績評価の方法〕

理解度の確認，授業への参加姿勢，出席で総合評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

学期末にイタリア語の映画を観ます。イタリアの魅力をますます感じましょう。

〔授　業　計　画〕

第１週　岡田：春学期の総復習，夏休みの出来事
　　菅野：授業の説明と学生からの希望
第２週　岡田：Lezione 13 Lo sport.
　　菅野：いろいろな表現
第３週　〃
第４週　〃
第５週　岡田：Lezione 13 Lo sport.　まとめ
　　菅野：いろいろな表現
第６週　岡田：理解度の確認１　Lezione 14 Devi studiare!
　　菅野：いろいろな表現
第７週　岡田：Lezione 14 Devi studiare!
　　菅野：映画を見ます。
第８週　岡田：lezione 14 Devi studiare!
　　菅野：メールの書き方
第９週　岡田：Lezione 14 Devi studiare!
　　菅野：イタリアの慣用句
第10週　岡田：理解度の確認２　Lezione 15 Dante Alighieri
　　菅野：イタリアの慣用句
第11週　岡田：Lezione 15 Dante Alighieri
　　菅野：イタリアの慣用句
第12週　岡田：Lezione 15 Dante Alighieri
　　菅野：上下関係と男女の役割
第13週　岡田：Lezione 15 Dante Alighieri
　　菅野：グリーティングカード，お礼の手紙，感謝の手紙
第14週　岡田：Lezione 15 Dante Alighieri
　　菅野：まとめ
第15週　岡田：理解度の確認３　総まとめ
　　菅野：映画を見ます。

岡田の授業は目標としてイタリア語検定４級を目指しています。
『Ho capito！』の文法事項に合わせて『Facciamo esercizi！』を進めていきますので，教科書を毎回必ず２冊用意しましょう。
菅野の授業はより具体的なイタリア語を使う場面での実践を目指しています。積極的に参加しましょう。

スペイン語　基礎I

3723051100100

副　題	さあ，スペイン語を始めよう！	担　当　者	木下　雅夫　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	SPN-119-GM

〔授業の到達目標〕
春学期は，直説法現在形の基本的用法を習得しよう。

〔授業の内容〕
スペイン語は世界の４億人が使う言葉です。この授業では，教科書『基礎徹底マスター！スペイン語練習ドリル』を用いて，スペイン語の「読み」「書き」「話す」ことを学びます。この教科書は，一般向けの書籍で，スペイン語圏でよく使われる会話表現を軸に，文法説明と聴解を含む演習問題とで構成されています。受講者の皆さんは予め教科書で予習をして授業に臨みます。授業では，演習プリントを配布し，スペイン語基礎への理解を深めていきます。また，スペイン語の表現を通じて，スペイン語圏の文化・社会への理解も深めていきましょう。反転授業的なスタイルを目指したいので，予習を前提に授業に参加して下さい。また，スペイン語の習得には動詞の意味と活用を覚えること不可欠ですのです。語学習得の早さには個人差がありますが，こつこつ続けることが大事です。少しだけやって諦めてしまうのではなく，秋学期も続けて学ぶつもりで選択して下さい。

〔教材〕
教科書：福島教隆　ナカガワ・マルガリータ『基礎マスター！　スペイン語練習ドリル』初版，NHK出版，2010年
参考書：高垣敏博『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』初版，小学館，2003年
寺崎英樹他『デイリーコンサイス西和・和西辞典』初版，三省堂，2010年
<辞書について>『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』と『デイリーコンサイス西和・和西辞典』は，携帯型の辞書でも語彙数がある程度豊富なことが特長で，日本語訳・西語訳の両方に使えて便利です。辞書は上記のもの以外のものでも構いませんが，白水社『パスポート』などの初級専用辞書や旅行用ポケット版辞書は避けて下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：教科書の各単元の文法説明を読み，新出単語を調べて，練習問題をやって正誤を確認しておいてください。授業では，プリントを配布して問題演習を行い，理解を深めていきます。各単元を終えたら，確認テストを行いますので，十分な復習をお願いします。

〔成績評価の方法〕
中間テスト・期末テストおよび平常点(課題提出・確認テストなど）とを総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕
しっかり声を出して読もう！

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　スペイン語をどう学ぶか？，文字の読み方。
第２週　名詞，冠詞。
第３週　形容詞。
第４週　主語の代名詞とser。
第５週　ser, estar, haber。
第６週　前置詞，接続詞。
第７週　理解度の確認（１）
第８週　文の種類。
第９週　副詞，不定語，否定語。
第10週　比較級，最上級。
第11週　直説法現在形(規則活用動詞)。
第12週　直説法現在形(不規則活用動詞)。
第13週　不定詞，現在分詞，過去分詞-1。
第14週　不定詞，現在分詞，過去分詞-2。
第15週　理解度の確認（２）
授業計画は，受講者の習熟状況に応じて変更します。

スペイン語　基礎II

3723051200100

副　題	さあ，スペイン語を始めよう！							担　当　者	木下　雅夫　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	2/1	コース・ナンバー	SPN-120-GM

〔授業の到達目標〕
春学期は，直説法現在形の基本的用法を習得しよう。

〔授業の内容〕
スペイン語は世界の４億人が使う言葉です。この授業では，教科書『基礎徹底マスター！スペイン語練習ドリル』を用いて，スペイン語の「読み」「書き」「話す」ことを学びます。この教科書は，一般向けの書籍で，スペイン語圏でよく使われる会話表現を軸に，文法説明と聴解を含む演習問題とで構成されています。受講者の皆さんは予め教科書で予習をして授業に臨みます。授業では，演習プリントを配布し，スペイン語基礎への理解を深めていきます。また，スペイン語の表現を通じて，スペイン語圏の文化・社会への理解も深めていきましょう。反転授業的なスタイルを目指したいので，予習を前提に授業に参加して下さい。また，スペイン語の習得には動詞の意味と活用を覚えること不可欠ですのです。語学習得の早さには個人差がありますが，こつこつ続けることが大事です。さらに上のレベルのスペイン語を目指して続けるつもりで選択して下さい。

〔教材〕
教科書：福島教隆　ナカガワ・マルガリータ『基礎マスター！　スペイン語練習ドリル』初版，NHK出版，2010年
参考書：高垣敏博『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』初版，小学館，2003年
寺崎英樹他『デイリーコンサイス西和・和西辞典』初版，三省堂，2010年
<辞書について>『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』と『デイリーコンサイス西和・和西辞典』は，携帯型の辞書でも語彙数がある程度豊富なことが特長で，日本語訳・西語訳の両方に使えて便利です。辞書は上記のもの以外のものでも構いませんが，白水社『パスポート』などの初級専用辞書や旅行用ポケット版辞書は避けて下さい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習：教科書の各単元の文法説明を読み，新出単語を調べて，練習問題をやって正誤を確認しておいてください。授業では，プリントを配布して問題演習を行い，理解を深めていきます。各単元を終えたら，確認テストを行いますので，十分な復習をお願いします。

〔成績評価の方法〕
中間テスト・期末テストおよび平常点(課題提出・確認テストなど）とを総合的に評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕
しっかり声を出して読もう！

〔授　業　計　画〕

第１週　直説法点過去形-1
第２週　直説法点過去形-2
第３週　直説法線過去形
第４週　直説法過去完了形
第５週　目的語の代名詞，所有詞。
第６週　再帰動詞-1
第７週　再帰動詞-2
第８週　理解度の確認（１）
第９週　直説法未来形，過去未来形
第10週　受動文，使役文，知覚文
第11週　複文
第12週　命令法，接続法の単文用法
第13週　接続法の名詞節用法
第14週　接続法の関係節，副詞節用法
第15週　理解度の確認（２）
授業計画は，受講者の習熟状況に応じて変更します。

スペイン語　応用I

3723061100100

副　題	スペイン語でコミュニケーションしましょう！	担　当　者	木下　雅夫　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	SPN-221-GM

〔授業の到達目標〕
　春学期の目標は，基礎で学んだ文法を生かして，会話，作文などの表現力を磨くことです。

〔授業の内容〕
　春学期の授業は,基礎１・２で習得したスペイン語を基礎として,スペイン語での「読み」「書き」「聞く」「話す」力を伸ばして行きます。基礎クラスの終了から１年以上空いた人でも安心して参加できます。演習教材『アンバル―スペイン語講座』を用いて，単語力と表現力の習得を図ります。また適宜，スペイン語圏の民話の翻訳やDELE(スペイン政府公認の検定試験)の問題などにもチャレンジしていきます。

〔教材〕
教科書：モヤノ＝ロペス，高松他『アンバル―スペイン語講座』第2版，弘学社，2010年
　スペイン語辞書が必要であるので，必ず持参すること。
　教科書『アンバル―スペイン語講座』は，初級の内容を復習しながら，スペイン語の実践的表現力向上に役立つように構成されています。基礎事項の再確認もしていきましょう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　『アンバル』で用いられるスペイン語表現の文法は，基礎クラスで理解しているものとして授業を進めます。各単元の文法内容に疑問があれば，別添「学生ノート」で予習をしてください。

〔成績評価の方法〕
　期末試験と平常点を総合的に判断して評価します。平常点は，単元毎の確認テスト，課題の消化，授業参加の積極性で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　サポートセンターを通して連絡を取ること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　自己紹介と相手の属性を訪ねる表現演習
第２週　自分の家族を紹介する表現演習
第３週　人の特徴を描写する表現演習
第４週　人の状態を訪ね，自分の状態を描写する表現演習-1
第５週　人の状態を訪ね，自分の状態を描写する表現演習-2
第６週　時間に関する表現演習
第７週　日時に関する表現演習
第８週　所在に関する表現演習-1
第９週　所在に関する表現演習-2
第10週　大学生活に関する表現演習
第11週　余暇活動に関する表現演習
第12週　休暇に関する表現演習
第13週　今やっていることに関する表現演習-1
第14週　今やっていることに関する表現演習-2
第15週　理解度の確認
受講者には，DELEやスペイン語技能検定(6月と10月に実施)の受験を勧めます。また授業では教科書の単元毎に確認テストを行います。

スペイン語　応用II

3723061200100

副　題	スペイン語でコミュニケーションしましょう！	担　当　者	木下　雅夫　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	月/木	時限	1/2	コース・ナンバー	SPN-222-GM

〔授業の到達目標〕

秋学期の目標は，春学期に続いて基礎の学習内容をもとに，スペイン語表現力に磨きをかけると同時に，語彙力と読解力を向上させることです。

〔授業の内容〕

秋学期の授業は，応用１に続いて，教科書『アンバル―スペイン語講座』を用いて，スペイン語での「読み」「書き」「聞く」「話す」力を伸ばす演習を行います。応用１の終了から１年以上空いた人でも安心して参加できます。また，DELE(スペイン政府公認の検定試験)問題やスペイン語圏の民話を用いて演習を行います。

〔教材〕

教科書：モヤノ＝ロペス，高松他『アンバル―スペイン語講座』第2版，弘学社，2010年

スペイン語辞書が必要であるので，必ず持参すること。

教科書『アンバル―スペイン語講座』は，初級の内容を復習しながら，スペイン語の実践的表現力向上に役立つように構成されています。基礎事項の再確認もしていきましょう。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

『アンバル』で用いられる表現の文法事項は理解しているものとして授業を進めます。各単元の表現で用いられる文法に疑問点について，付属の「学生ノート」を用いて予習してください。

〔成績評価の方法〕

期末試験と平常点を総合的に判断して評価します。平常点は，単元毎の確認テスト，課題の消化，授業参加の積極性で評価します。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　意志，これからやろうとすることを述べる表現演習
第２週　天候に関する表現演習
第３週　希望を述べる表現演習
第４週　許可に関する表現演習
第５週　交通手段に関する表現演習
第６週　生活習慣に関する表現演習
第７週　自分の嗜好に関する表現演習
第８週　痛みに関する表現演習
第９週　完了した動作に関する表現演習
第10週　経験の有無に関する表現演習
第11週　完了が意識される過去に関する表現演習-1
第12週　完了が意識される過去に関する表現演習-2
第13週　不完了が意識される過去に関する表現演習
第14週　未来の事柄に関する表現演習
第15週　理解度の確認

受講者には，DELEやスペイン語技能検定(6月と10月に実施)の受験を勧めます。また授業では教科書の単元毎に確認テストを行います。

中国語　基礎I A

3724011100100

副　題								担　当　者	松本　秀士　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	4/3	コース・ナンバー	CHN-123-GM

〔授業の到達目標〕

現在，日中両国間で，社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では，13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び，国際交流への理解を深めることを第一目標とする。

〔授業の内容〕

現在，日中両国間で，社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では，13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び，国際交流への理解を深めることを目的とする。語学の４技能は，聞く，話す，読む，書くことである。特に実践の場では，相手の話す内容を理解して，返事をすることが求められる。したがって本講義では，読み書きに加え，聞く力と話す力をバランス良く伸ばすことを第一目標とする。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

［予習］　新出単語・本文・例文に振られたピンインに従って，音読練習をするとともに，意味を調べる。

［復習］　音読・置き換え練習等をしながら，新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

出席状況（最低３分の２以上，３分の１以上の欠席は不可）と，平常点（小テストと授業態度）30%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　発音（声調，母音子音・鼻母音，そり舌母音）
第２週　発音（音節，数字と挨拶，発音の復習テスト，課堂用語）
第３週　自己紹介（人称代名詞，指示代名詞１，動詞“是”，“的”，姓・氏名）
第４週　家族紹介（動詞“有”，“ma”疑問文，副詞“不・也・都”，年齢の聞き方）
第５週　復習
第６週　存在・位置（１）（指示代名詞・場所，動詞“在”，名詞の場所化“～上”・“～里”）
第７週　存在・位置（２）（反復疑問文，量詞，“二”と“liang”，“几”と“多少”）
第８週　復習
第９週　日常の挨拶（形容詞述語文，形容詞＋名詞，“有点er”＋形容詞，“又～又”）
第10週　比較（指示代名詞２，選択疑問文，比較の表現）
第11週　復習
第12週　時の表現（名詞述語文，動詞述語文，連動文１，“bian～bian”）
第13週　動作の描写（進行の副詞“在”，程度補語，持続の助詞“着”，動詞フレーズ＋名詞）
第14週　復習
第15週　総括

中国語　基礎IB

3724011100200

副　題								担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火/水	時限	4/3	コース・ナンバー	CHN-124-GM

〔授業の到達目標〕

中国語の基礎的知識を習得する。最終的に中国語検定３級から４級の水準に達することを目標とする。

〔授業の内容〕

現在，日中両国間で，社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では，13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び，国際交流への理解を深めることを目的とする。語学の４技能は，聞く，話す，読む，書くことである。特に実践の場では，相手の話す内容を理解して，返事をすることが求められる。したがって本講義では，読み書きに加え，聞く力と話す力をバランス良く伸ばすことを第一目標とする。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストを事前に読み，新出単語を暗記しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業の参加態度（発言等，なお３分の１以上の欠席は不可）10%と，平常点（単語の小テストや復習テスト）20%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜３限

授業後に直接連絡するか，電子メール（jun6116●gmail.com)（change ● to @)。

〔授　業　計　画〕

第１週　発音（声調，母音子音・鼻母音，そり舌母音）
第２週　発音（音節，数字と挨拶，発音の復習テスト，課堂用語）
第３週　自己紹介（人称代名詞，指示代名詞１，動詞“是”，“的”，姓・氏名）
第４週　家族紹介（動詞“有”，“ma”疑問文，副詞“不・也・都”，年齢の聞き方）
第５週　復習
第６週　存在・位置（１）（指示代名詞・場所，動詞“在”，名詞の場所化“～上”・“～里”）
第７週　存在・位置（２）（反復疑問文，量詞，“二”と“liang”，“几”と“多少”）
第８週　復習
第９週　日常の挨拶（形容詞述語文，形容詞＋名詞，“有点er”＋形容詞，“又～又”）
第10週　比較（指示代名詞２，選択疑問文，比較の表現）
第11週　復習
第12週　時の表現（名詞述語文，動詞述語文，連動文１，“bian～bian”）
第13週　動作の描写（進行の副詞“在”，程度補語，持続の助詞“着”，動詞フレーズ＋名詞）
第14週　復習
第15週　まとめ

中国語　基礎IC

3724011100300

副　題								担　当　者	松本　秀士　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月/金	時限	3/4	コース・ナンバー	CHN-125-GM

〔授業の到達目標〕

現在，日中両国間で，社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では，13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び，国際交流への理解を深めることを第一目標とする。

〔授業の内容〕

現在，日中両国間で，社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では，13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び，国際交流への理解を深めることを目的とする。語学の４技能は，聞く，話す，読む，書くことである。特に実践の場では，相手の話す内容を理解して，返事をすることが求められる。したがって本講義では，読み書きに加え，聞く力と話す力をバランス良く伸ばすことを第一目標とする。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

［予習］　新出単語・本文・例文に振られたピンインに従って，音読練習をするとともに，意味を調べる。

［復習］　音読・置き換え練習等をしながら，新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

出席状況（最低３分の２以上，３分の１以上の欠席は不可）と，平常点（小テストと授業態度）30%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　発音（声調，母音子音・鼻母音，そり舌母音）
第２週　発音（音節，数字と挨拶，発音の復習テスト，課堂用語）
第３週　自己紹介（人称代名詞，指示代名詞１，動詞“是”，“的”，姓・氏名）
第４週　家族紹介（動詞“有”，“ma”疑問文，副詞“不・也・都”，年齢の聞き方）
第５週　復習
第６週　存在・位置（１）（指示代名詞・場所，動詞“在”，名詞の場所化“～上”・“～里”）
第７週　存在・位置（２）（反復疑問文，量詞，“二”と“liang”，“几”と“多少”）
第８週　復習
第９週　日常の挨拶（形容詞述語文，形容詞＋名詞，“有点er”＋形容詞，“又～又”）
第10週　比較（指示代名詞２，選択疑問文，比較の表現）
第11週　復習
第12週　時の表現（名詞述語文，動詞述語文，連動文１，“bian～bian”）
第13週　動作の描写（進行の副詞“在”，程度補語，持続の助詞“着”，動詞フレーズ＋名詞）
第14週　復習
第15週　総括

中国語　基礎ⅡA

3724011200100

副　題								担　当　者	松本　秀士　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	4/3	コース・ナンバー	CHN-126-GM

〔授業の到達目標〕

現在，日中両国間で，社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では，13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び，国際交流への理解を深めることを第一目標とする。そして，最終的に中国語検定試験で４級から３級程度のレベルに到達したい。

〔授業の内容〕

語学の４技能は，聞く，話す，読む，書くことである。特に実践の場では，相手の話す内容を理解して，返事をすることが求められる。したがって本講義では，読み書きに加え，聞く力と話す力をバランス良く伸ばすために，教科書の各課に沿って練習しながら，初級レベルの中国語の語彙・文法をマスターする。春学期に続いて，総合的なコミュニケーション能力の獲得を目指す。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

［予習］　新出単語・本文・例文に振られたピンインに従って，音読練習をするとともに，意味を調べる。

［復習］　音読・置き換え練習等をしながら，新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（最低３分の２以上，３分の１以上の欠席は不可となる）と，平常点（小テストや授業態度）30%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　発音・文法基礎事項の総確認
第２週　希望・願望・可能（“打算”と“想”，ふたつの“会”，“能”，“可以”）
第３週　時の経過（ふたつの“了”，時量，二重目的語，“ne”疑問文）
第４週　復習
第５週　経験（経験をあらわす“guo”，“是～的”の文，前置詞“在”，連動文２）
第６週　動作の限定・前置詞（前置詞，動詞の重ね型，“sui然～但是”，“ba”）
第７週　復習
第８週　動作の結果と可能性（結果補語，可能補語，“越～越”）
第９週　使役・受け身の表現（指示代名詞，使役文，受け身文，形容詞＋動詞）
第10週　復習
第11週　動作の方向性（方向補語，処置文，存現文，“一”＋動詞，“因wei～所以”）
第12週　“要”，“来”，“一点er”，お金の単位
第13週　復習
第14週　総合練習
第15週　総括

中国語　基礎ⅡB

3724011200200

副　題								担　当　者	金野　純　准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火/水	時限	4/3	コース・ナンバー	CHN-127-GM

〔授業の到達目標〕

最終的には中国語検定試験で３級から４級程度のレベルに達することを目標とする。

〔授業の内容〕

初級レベルの中国語の語彙・文法をマスターした上で，春学期に学んだ内容を応用できるように練習し，簡単なコミュニケーション能力の獲得を目指す。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2006年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

事前にテキストを読み，新出単語を記憶しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（発言等，なお３分の１以上の欠席は不可となる）10%と，平常点（単語の小テストや復習テスト）20%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

火曜３限

授業後に直接連絡もしくはメール（jun6116●gmail.com）（change ● to @）

〔授　業　計　画〕

第１週　発音・文法基礎事項の総確認
第２週　希望・願望・可能（“打算”と“想”，ふたつの“会”，“能”，“可以”）
第３週　時の経過（ふたつの“了”，時量，二重目的語，“ne”疑問文）
第４週　復習
第５週　経験（経験をあらわす“guo”，“是～的”の文，前置詞“在”，連動文２）
第６週　動作の限定・前置詞（前置詞，動詞の重ね型，“sui然～但是”，“ba”）
第７週　復習
第８週　動作の結果と可能性（結果補語，可能補語，“越～越”）
第９週　使役・受け身の表現（指示代名詞，使役文，受け身文，形容詞＋動詞）
第10週　復習
第11週　動作の方向性（方向補語，処置文，存現文，“一”＋動詞，“因wei～所以”）
第12週　レストランにて（“一点er”，お金の単位）
第13週　復習
第14週　まとめ
第15週　映画鑑賞と概略的な内容理解の練習

中国語　基礎IIC

3724011200300

副　題								担　当　者	松本　秀士　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	3/4	コース・ナンバー	CHN-128-GM

〔授業の到達目標〕

現在，日中両国間で，社会経済面での緊密な交流が加速している。本講義では，13億を超える中国人と華僑が使用する中国語を学び，国際交流への理解を深めることを第一目標とする。そして，最終的に中国語検定試験で４級から３級程度のレベルに到達したい。

〔授業の内容〕

語学の４技能は，聞く，話す，読む，書くことである。特に実践の場では，相手の話す内容を理解して，返事をすることが求められる。したがって本講義では，読み書きに加え，聞く力と話す力をバランス良く伸ばすために，教科書の各課に沿って練習しながら，初級レベルの中国語の語彙・文法をマスターする。春学期に続いて，総合的なコミュニケーション能力の獲得を目指す。

〔教材〕

教科書：趙秀敏・冨田昇『中国語初級テキスト　飛天』白帝社，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

［予習］　新出単語・本文・例文に振られたピンインに従って，音読練習をするとともに，意味を調べる。

［復習］　音読・置き換え練習等をしながら，新出単語・文型を定着させる。

〔成績評価の方法〕

小テストや授業態度30%，期末試験の成績70%を総合して判断する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　発音・文法基礎事項の総確認
第２週　希望・願望・可能（“打算”と“想”，ふたつの“会”，“能”，“可以”）
第３週　時の経過（ふたつの“了”，時量，二重目的語，“ne”疑問文）
第４週　復習
第５週　経験（経験をあらわす“guo”，“是～的”の文，前置詞“在”，連動文２）
第６週　動作の限定・前置詞（前置詞，動詞の重ね型，“sui然～但是”，“ba”）
第７週　復習
第８週　動作の結果と可能性（結果補語，可能補語，“越～越”）
第９週　使役・受け身の表現（指示代名詞，使役文，受け身文，形容詞＋動詞）
第10週　復習
第11週　動作の方向性（方向補語，処置文，存現文，“一”＋動詞，“因wei～所以”）
第12週　“要”，“来”，“一点er”，お金の単位
第13週　復習
第14週　総合練習
第15週　総括

中国語　応用I

3724021100100

副　題	基礎中国語からさらなる一歩							担　当　者	斉　霞　講師		
単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水/金	時限	3/2	コース・ナンバー	CHN-229-GM

〔授業の到達目標〕

続けて発音の向上をはかります。基本的な文法事項を更に習熟し，簡単な日常会話ができ，ある程度聞き取れ，中級への橋渡しになること。

〔授業の内容〕

中国語基礎で中国語の発音と基本的な文法を習得した学生を対象とする授業です。発音を重視しますので，音読練習をたくさん行う予定です。さらに一年に習った内容を踏まえて，主に基礎文型の中の「各種の補語」「把構文」「複文」部分を習得できるよう重点的に勉強します。使用教科書は『実用中国語十課２』です。

〔教材〕

教科書：劉愛莉等『実用中国語十課2』白帝社，2008年
辞書が必須なので各自ご用意ください（斉霞）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎日三十分添付CDで聞いたり，単語を暗唱したり，声を出して読む練習をしたりしてください。そのうち中国語のリズム感がつかめるようになります。

〔成績評価の方法〕

単語テストを含めた小テストや授業中の発表および期末試験を総合して評価する。出席必須，遅刻三回で欠席一回，欠席回数に応じて最終評価が減点される。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　第一課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第２週　第二課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第３週　第三課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第４週　復習テスト
第５週　第四課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第６週　第五課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第７週　復習テスト　文章読解
第８週　第六課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第９週　第七課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第10週　復習テスト
第11週　第八課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第12週　第九課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第13週　第十課　単語，本文，会話，応用文型，文法，練習問題
　　単語テスト，会話暗唱
第14週　復習テスト　文章読解
第15週　インタネットで中国語　理解度の確認
平常点として各課の単語テストと会話の暗唱を課すので，事前に予習が必要です。

中国語　応用II

3724021200100

副　題	リスニング中国語							担　当　者	斉　霞　講師
単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水/金	時限	3/2	コース・ナンバー	CHN-230-GM

〔授業の到達目標〕
聞く，話す力をさらに伸ばし，中検三級レベルを目指します

〔授業の内容〕
この授業は中国語の発音と基礎文法を習得し，さらに聞く力を高めようとする学生を対象とする。
使用する教科書は中検三級から二級までのリスニング問題に相当するレベルのものである。その教科書は中国人の日常生活から社会や中国事情まで幅広い話題を取り上げており，リスニングの力を上げると同時に現在の中国への理解を深めることもできる。
進め方としては毎回授業の前に学生は各自にまえもって音声CDで予習し，授業では聴き取りの練習を行う。そして読む練習のあと，取り上げた話題について質問をし，応用会話をする。こういった練習を通じて確実にリスリングの力を高めることを目指す。辞書を必ず用意してください。

〔教材〕
教科書：斉霞『耳が喜ぶ中国語』三修社，2010年
中日辞典が必須。電子辞書にはほとんど小学館の中日辞典を搭載しているので，一番のオススメです。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
単語の暗唱をして，または配布の本文内容のピンインプリントを声を出して読んでください。熟読しておけば，先生の質問を聞いてわかるようになります。

〔成績評価の方法〕
小テストと期末試験の結果にもとづき総合的に評価する

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　STEP１　１自己紹介　２中国人の名前　３私の休日　４手製の贈り物
第２週　STEP１　５私の父親　６私の生活　８中日の漢字の意味の違い　９物価指数が最も高い都市ーー東京
第３週　STEP１　11北京交通マルチカード　13「80後」世代の消費志向　14若者のボランティア活動　15規則正しい社会
第４週　STEP１　18結婚相手募集広告　20縁起の良い言葉　22理想的な地下鉄車内環境　23お年玉
第５週　STEP１　26「蟻族」　29大学生のロマンスに誰がお金を払うのか　31「立春に春餅を食べる」　34お茶やタバコで客をもてなす
第６週　STEP１　37ブログとミニブログ　38簡易録音スタジオ　39外国人の目から見た北京　40呼称
第７週　STEP１　45私の学生時代の友達　46「女子大生の日」　47上海のおやつ　49あるキャリアウーマンの一日
第８週　中国語検定試験四級過去問，テレビ番組鑑賞：中国人の就活
第９週　STEP２　13大学生の心理問題　16漢字が招いた誤解　17日本の主婦の知恵　20小学生の罰金
第10週　STEP２　22どうやって自己紹介をするか　32私の心の中の秘密　37若者の「鞍替え」傾向
第11週　中国語検定試験三級過去問，テレビ番組鑑賞：中国人の婚活
第12週　STEP３　２ほかと違う豆乳屋さん
第13週　STEP３　４後列から座る
第14週　STEP３　17身をもって「一週間100元生活を実践する」
第15週　STEP１　18お見合いスーパー
毎回単語の小テストを行いますが，隣同士相談可です。一回短文２つずつ進める予定ですが，進み具合により変更も可能です。後半に本文の書き取り練習を取り入れることもあります。
学期の中間ぐらいに中国語検定四級と三級の過去問を一回ずつやって，説明をします。中国語検定にも挑戦してみてください。

韓国語　基礎I A

3725051100100

副　題	楽しく学ぶ韓国語会話	担　当　者	羅　京洙　准教授 申　英秀　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	3/3	コース・ナンバー	KOR-131-GM

〔授業の到達目標〕

初めて韓国語及びハングル文字に接する学生を対象に基礎的な事項を習得することを目標とする。ハングルの原理を理解し，正確な発音を身につけるようにする。

〔授業の内容〕

日本語との比較ということを念頭において，次の２点を具体的な授業内容としたい。週の二回の授業は別々の内容を行う。１日目は韓国語の文字・発音に慣れる練習を行う。慣用的な表現を実際に発音することで,ハングルの特性を学習する。本授業では文法はそれほど意識せず,積極的に発音して感性を掴んでもらう学習を行う。２日目は，韓国語の基本的な文法と文章構造を学習する。また本授業では,PCを使用してフレーズの学習や文字入力の練習も行う。なお,各時間最低限の慣用的なフレーズや単語を学習するため，是非覚えてもらいたい。また，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年

テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で，毎回の授業に臨むこと。毎回の授業の準備として,予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）発音としくみ,（２）ハングルの歴史的背景　※（１）は１日目,（２）は２日目（以下同様）
第２週　（１）あいさつの表現，（２）文字の構成（母音・子音）
第３週　（１）程度の表現，（２）末音・連音現象
第４週　（１）状態の表現，（２）子音同化・濃音化現象
第５週　（１）目的の表現，（２）末音と子音の同化
第６週　（１）言い回しの表現，（２）復習（文字と発音）
第７週　韓国の文化（１）
第８週　（１）個人に関わる表現，（２）平叙文と尊敬表現
第９週　（１）数に関わる表現，（２）疑問形・否定文
第10週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）用言の一般形と末音変則形
第11週　（１）交通・地理の表現，（２）用言の冠形詞形
第12週　（１）天候・自然の表現，（２）用言の時制と母音調和
第13週　（１）学問・思考の表現，（２）用言の禁止表現と勧誘形
第14週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）復習（用言の活用）
第15週　韓国の文化（２）

韓国語　基礎IB

3725051100200

副　題	楽しく学ぶ韓国語会話	担　当　者	羅　京洙　准教授 申　英秀　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火/金	時限	4/4	コース・ナンバー	KOR-132-GM

〔授業の到達目標〕

初めて韓国語及びハングル文字に接する学生を対象に基礎的な事項を習得することを目標とする。ハングルの原理を理解し，正確な発音を身につけるようにする。

〔授業の内容〕

日本語との比較ということを念頭において，次の２点を具体的な授業内容としたい。週の二回の授業は別々の内容を行う。１日目は韓国語の文字・発音に慣れる練習を行う。慣用的な表現を実際に発音することで,ハングルの特性を学習する。本授業では文法はそれほど意識せず,積極的に発音して感性を掴んでもらう学習を行う。２日目は，韓国語の基本的な文法と文章構造を学習する。また本授業では,PCを使用してフレーズの学習や文字入力の練習も行う。なお,各時間最低限の慣用的なフレーズや単語を学習するため，是非覚えてもらいたい。また，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年

テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で，毎回の授業に臨むこと。毎回の授業の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）発音としくみ,（２）ハングルの歴史的背景　※（１）は１日目,（２）は２日目（以下同様）
第２週　（１）あいさつの表現，（２）文字の構成（母音・子音）
第３週　（１）程度の表現，（２）末音・連音現象
第４週　（１）状態の表現，（２）子音同化・濃音化現象
第５週　（１）目的の表現，（２）末音と子音の同化
第６週　（１）言い回しの表現，（２）復習（文字と発音）
第７週　韓国の文化（１）
第８週　（１）個人に関わる表現，（２）平叙文と尊敬表現
第９週　（１）数に関わる表現，（２）疑問形・否定文
第10週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）用言の一般形と末音変則形
第11週　（１）交通・地理の表現，（２）用言の冠形詞形
第12週　（１）天候・自然の表現，（２）用言の時制と母音調和
第13週　（１）学問・思考の表現，（２）用言の禁止表現と勧誘形
第14週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）復習（用言の活用）
第15週　韓国の文化（２）

韓国語　基礎ⅡA

3725051200100

副　題	楽しく学ぶ韓国語会話	担　当　者	羅　京洙　准教授 申　英秀　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火/金	時限	3/3	コース・ナンバー	KOR-133-GM

〔授業の到達目標〕

韓国語基礎Ⅰを終了した者を対象とし，韓国語の会話と簡単な文章構造を組み立てて使用する能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

前期と同様に週二日の授業は個別に展開するが，両者が融合される内容を目指す。第１日目に，簡単な日常会話を行える能力を養うことを目標とする。実際の会話の場に直面すると，理解しているはずの文章が使用できないケースが多い。したがって，韓国語会話の慣用表現に多く接して，そこから発展させる能力を身につける。併せて発音上の問題も習得する。第２日目には，文章読解能力を高める学習を行う。実際に，朝鮮半島で通用している文章は，ハングルのみの文章が多い。そこで，文章構造を正しく理解して読解する能力が求められる。用言の活用語尾や不規則変化など，文法上の問題をテキストを中心に学習する。なお，前期と同様にPCの入力を通じて韓国語の構造を理解する機会も設ける。また，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年

テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で，毎回の授業に臨むこと。毎回の授業の準備として，予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）あいさつの表現，（２）用言の補助語幹
第２週　（１）程度の表現，（２）用言の補助語幹
第３週　（１）状態の表現，（２）副詞的表現
第４週　（１）目的の表現，（２）副詞的表現
第５週　韓国の文化（３）
第６週　（１）言い回しの表現，（２）副詞的表現
第７週　（１）個人に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第８週　（１）数に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第９週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）接続語尾
第10週　韓国の文化（４）
第11週　（１）交通・地理の表現，（２）接続語尾
第12週　（１）天候・自然の表現，（２）一般慣用表現
第13週　（１）学問・思考の表現，（２）一般慣用表現
第14週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）まとめ
第15週　韓国の文化（５）

韓国語　基礎ⅡB

3725051200200

副　題	楽しく学ぶ韓国語会話	担　当　者	羅　京洙　准教授 申　英秀　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月/金	時限	3/4	コース・ナンバー	KOR-134-GM

〔授業の到達目標〕

韓国語基礎Ⅰを終了した者を対象とし，韓国語の会話と簡単な文章構造を組み立てて使用する能力を養うことを目標とする。

〔授業の内容〕

前期と同様に週二日の授業は個別に展開するが，両者が融合される内容を目指す。第１日目に，簡単な日常会話を行える能力を養うことを目標とする。実際の会話の場に直面すると，理解しているはずの文章が使用できないケースが多い。したがって，韓国語会話の慣用表現に多く接して，そこから発展させる能力を身につける。併せて発音上の問題も習得する。第２日目には，文章読解能力を高める学習を行う。実際に，朝鮮半島で通用している文章は，ハングルのみの文章が多い。そこで，文章構造を正しく理解して読解する能力が求められる。用言の活用語尾や不規則変化など，文法上の問題をテキストを中心に学習する。なお，前期と同様にPCの入力を通じて韓国語の構造を理解する機会も設ける。また，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。また，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年

テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

テキストをあらかじめ読んだ上で，毎回の授業に臨むこと。毎回の授業の準備として,予習・復習合わせて４時間以上をかけること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）あいさつの表現，（２）用言の補助語幹
第２週　（１）程度の表現，（２）用言の補助語幹
第３週　（１）状態の表現，（２）副詞的表現
第４週　（１）目的の表現，（２）副詞的表現
第５週　韓国の文化（３）
第６週　（１）言い回しの表現，（２）副詞的表現
第７週　（１）個人に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第８週　（１）数に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第９週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）接続語尾
第10週　韓国の文化（４）
第11週　（１）交通・地理の表現，（２）接続語尾
第12週　（１）天候・自然の表現，（２）一般慣用表現
第13週　（１）学問・思考の表現，（２）一般慣用表現
第14週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）まとめ
第15週　韓国の文化（５）

韓国語　応用I

3725061100100

副　題	実践的な韓国語学習	担　当　者	羅　京洙　准教授 李　ソラ　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	水/木	時限	3/4	コース・ナンバー	KOR-235-GM

〔授業の到達目標〕

韓国語基礎を終了した者を対象に，更に一層の韓国語能力の向上や実践的な会話力の習得を目標とする。

〔授業の内容〕

将来的な能力向上を念頭において，週の二日を次の２点に分け，具体的な授業内容としたい。第１日目には，耳で聞くという学習方法を取り入れ，実際に行われている会話をフレーズ的に理解する学習を行う。具体的には，映画やドラマ，ナレーションなどで実際に使われているフレーズ，K-POPで使用されているフレーズをどうやって聞き取るか，どのように活用するかを検証し，実際に使えるようになる学習を行う。第２日目には，基礎に引き続き，基本的な文章構造を中心に学習する。なお，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕

参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年

テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

韓国語能力を向上させるためには，あらゆる疑問をその場で解決することが必要である。そのために，毎回の授業の準備として，テキストの予習・復習（合わせて４時間以上）をきちんと行い，積極的に教員に質問を行うこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

共通科目（外国語）

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）あいさつ，（２）文章構成　※（１）は１日目，（２）は２日目（以下同様）
第２週　（１）あいさつの表現，（２）文章構成
第３週　（１）程度の表現，（２）文章構成
第４週　（１）状態の表現，（２）文章構成
第５週　韓国の文化（１）
第６週　（１）目的の表現，（２）基礎復習
第７週　（１）言い回しの表現，（２）基礎復習
第８週　（１）個人に関わる表現，（２）基本文型
第９週　韓国の文化（２）
第10週　（１）数に関わる表現，（２）基本文型
第11週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）基本文型
第12週　（１）交通・地理の表現，（２）基本文型
第13週　（１）天候・自然の表現，（２）基本文型
第14週　（１）学問・思考の表現，（２）基本文型
第15週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）復習（用言の活用）

韓国語　応用II

3725061200100

副　題	実践的な韓国語学習	担　当　者	羅　京洙　准教授 李　ソラ　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	水/木	時限	3/4	コース・ナンバー	KOR-236-GM

〔授業の到達目標〕
　韓国語応用Ｉを終了した者を対象とし，更に一層の韓国語能力の向上を目標とする。慣用的表現を習得し，実際の言語活動に活かせるようにする。

〔授業の内容〕
　前期と同様に週二日の授業は個別に展開する。第１日目に，日常会話をスムーズに行える能力を養うことを目標とする。実際の会話の場に直面すると，理解しているはずの文章が使用できないケースが多い。したがって，韓国語会話の慣用表現に多く接して，そこから発展させる能力を身につける。併せて発音上の問題も習得する。第２日目には，文章読解能力を高める学習を行う。実際に，朝鮮半島で通用している文章は，ハングルのみの文章が多い。そこで，文章構造を正しく理解して読解する能力が求められる。用言の活用語尾や不規則変化など文法上の問題を中心に学習する。また，前期に引き続き，映画やドラマ，ナレーションなどで実際に使われているフレーズをどうやって聞き取るか，どのように活用するかを検証し，実際に使えるようになる学習を行う。さらに，言語は常に文化的背景を持つものであるため，そういった側面についても学ぶ機会を設けたい。

〔教材〕
参考書：小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』小学館，1992年
　テキストについては，初回の授業時に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　韓国語能力を向上させるためには，あらゆる疑問をその場で解決することが必要である。そのために，毎回の授業の準備として，テキストの予習・復習（合わせて４時間以上）をきちんと行い，積極的に教員に質問を行うこと。

〔成績評価の方法〕
　授業への参加態度・貢献度（30%），課題（15%），小テスト（15%），期末試験（40%）で評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　授業内容について質問などがある場合には，水曜日のオフィス・アワー（16：30～17：30）に研究室まで来ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　（１）あいさつの表現，（２）用言の補助語幹
第２週　（１）程度の表現，（２）用言の補助語幹
第３週　（１）状態の表現，（２）副詞的表現
第４週　（１）目的の表現，（２）副詞的表現
第５週　韓国の文化（３）
第６週　（１）言い回しの表現，（２）副詞的表現
第７週　（１）個人に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第８週　（１）数に関わる表現，（２）用言の活用語尾変化
第９週　（１）道具・身体・食事の表現，（２）まとめ（基本文型）
第10週　韓国の文化（４）
第11週　（１）交通・地理の表現，（２）文章構成
第12週　（１）天候・自然の表現，（２）文章構成
第13週　（１）学問・思考の表現，（２）文章構成
第14週　（１）藝術・社会・趣味の表現，（２）文章構成
第15週　韓国の文化（５）

日本語IA

3726050100100

副　題	聴解力と会話力を高める							担　当　者	篠﨑　佳子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	3/4	コース・ナンバー	JPL-137-GM

〔授業の到達目標〕

この授業は，聴解力と会話力を高めることを目標とする。

〔授業の内容〕

「聴解」では，テレビのニュースや情報番組，ドラマや音楽などを視聴覚教材として用いて，いろいろな日本語の表現についての理解を深めながら，聞き取り練習をおこなう。また，希望があれば，日本語能力試験のための聴解練習も取り入れる。

「会話」では，いろいろな場面における表現の違いについての理解を深めながら，口頭練習をおこなう。また，さまざまな日本事情を話題として取り上げ，スピーチやディスカッションなどをおこなう。

日本語授業アシスタントとして，日本人学生にも授業に参加してもらい，日本の社会・文化等について生の情報を得る。

具体的な内容および教材については，学期の初めに学生と相談の上，決定する。

〔教材〕

毎回，授業時にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前回の授業の復習と事前に配付された教材の予習をした上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（50%），提出物（20%），試験（30%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問や相談，欠席の連絡等は，メールでも受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容の説明とオリエンテーション
第２週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第３週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション１
第４週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第５週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ１
第６週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第７週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション２
第８週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第９週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ２
第10週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第11週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション３
第12週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第13週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ３
第14週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション４
第15週　まとめ（理解度の確認）
上記の計画は，授業の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語IB

3726050100200

副　題	漢字・聴解							担　当　者	滝本　いずみ　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-138-GM

〔授業の到達目標〕
漢字，聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。
漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり，学習した漢字，語彙を使えるようにする。
聴解：自然な日本語を聞く力を培う。
聞き取れたことから内容を推測して，人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕
漢字：各自のペースで毎回到達度テストを行う。
また，漢字の仕組みが学べる教材，日本文化や社会に関係した教材，
読解クラスで使用した教材などを使い，応用力を培う。
聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う
＊促音，長音，音の変化などの基礎的な聴解練習
＊様々な場面における日本語の聴解練習
＊映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し，日本人ゲストに伝える。
＊日本人ゲストの話を聞き取って内容をまとめる。
なお，毎回のテーマは，読解・会話クラスとできるだけリンクし，語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕
教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会，2008年
聴解：教科書は使用せず，適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週テストを行うため，漢字，語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕
毎回のテスト，提出物での評価（計60%），学期末テスト（40%）により評価する。

〔備考〕
オフィスアワー：月曜日火曜日の14：00～14：30, 18：00～19：00

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション，漢字プレイスメントテスト
第２週　漢字１　各自のレベルに応じた学習とテスト
　　現代文化１　ファッション
第３週　漢字２
　　現代文化２　日本の若者
第４週　漢字３
　　異文化コミュニケーション１　日本と自国の共通点
第５週　漢字４
　　異文化コミュニケーション２　日本と自国の相違点
第６週　漢字５
　　異文化コミュニケーション３　意見を聞く
第７週　漢字６
　　教育１　教育，習い事，教育制度
第８週　漢字７
　　教育２　教育についての意見を聞く
第９週　漢字８
　　社会１　日本の地理
第10週　漢字９
　　社会２　生教材
第11週　漢字10
　　伝統文化１　日本の伝統文化
第12週　漢字11
　　伝統文化２　日本の伝統行事
第13週　漢字12
　　生活・ライフスタイル１　結婚，結婚制度
第14週　漢字13
　　生活・ライフスタイル２　結婚，国際結婚についての意見を聞く
第15週　まとめ
＊授業計画は変更することがあります。
＊毎回日本人ゲスト（学生ボランティア）に来ていただき，聞きとれたことを伝えたり，ゲストの日本語を聞き取る練習を行う予定です。

日本語IC

3726050100300

副　題	漢字・聴解							担　当　者	滝本　いずみ　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-139-GM

〔授業の到達目標〕
漢字，聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。
漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり，学習した漢字，語彙を使えるようにする。
聴解：自然な日本語を聞く力を培う。
聞き取れたことから内容を推測して，人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕
漢字：各自のペースで毎回到達度テストを行う。
また，漢字の仕組みが学べる教材，日本文化や社会に関係した教材，
読解クラスで使用した教材などを使　い，応用力を培う。
聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う
＊促音，長音，音の変化などの基礎的な聴解練習
＊様々な場面における日本語の聴解練習
＊映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し，日本人ゲストに伝える
＊日本人ゲストの話を聞き取って内容をまとめる
なお，毎回のテーマは，読解・会話クラスとできるだけリンクし，語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕
教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会，2008年
佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書初級300』国書刊行会，2009年
聴解：教科書は使用せず，適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週テストを行うため，漢字，語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕
毎回のテスト，提出物での評価（計60%）および　学期末テスト（40%）により評価する。

〔備考〕
オフィスアワー：月曜日火曜日14：00～14：30, 18：00～19：00

〔授　業　計　画〕

第１週　漢字１　各自のレベルに合わせた学習とテスト
オリエンテーション
第２週　漢字２
現代文化１　ファッション
第３週　漢字３
現代文化２　日本の若者
第４週　漢字４
異文化コミュニケーション１　日本と自国の共通点
第５週　漢字５
異文化コミュニケーション２　日本と自国の相違点
第６週　漢字６
異文化コミュニケーション３　意見を聞く
第７週　漢字７
教育１　習い事
第８週　漢字８
教育２　教育についての意見を聞く
第９週　漢字９
伝統文化１　伝統文化
第10週　漢字10
伝統文化２　伝統行事
第11週　漢字11
生活・ライフスタイル１　結婚式
第12週　漢字12
生活・ライフスタイル２　国際結婚について
第13週　漢字13
生活・ライフスタイル　日本での生活
第14週　漢字14
日本の文化について
第15週　まとめ及び解説
＊授業計画は変更することがあります。
＊毎回日本人ゲスト（学生ボランティア）に来ていただき，聞いたことを伝えたり，ゲストの日本語を聞き取る練習を行う予定です。

日本語IIA

3726050200100

副　題	聴解力と会話力を高める							担　当　者	篠﨑　佳子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	3/4	コース・ナンバー	JPL-140-GM

〔授業の到達目標〕

この授業は，聴解力と会話力を高めることを目標とする。

〔授業の内容〕

「聴解」では，テレビのニュースや情報番組，ドラマや音楽などを視聴覚教材として用いて，いろいろな日本語の表現についての理解を深めながら，聞き取り練習をおこなう。また，希望があれば，日本語能力試験のための聴解練習も取り入れる。

「会話」では，いろいろな場面における表現の違いについての理解を深めながら，口頭練習をおこなう。また，さまざまな日本事情を話題として取り上げ，スピーチやディスカッションなどをおこなう。

日本語授業アシスタントとして，日本人学生にも授業に参加してもらい，日本の社会・文化等について生の情報を得る。

具体的な内容および教材については，学期の初めに学生と相談の上，決定する。

〔教材〕

毎回，授業時にプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前回の授業の復習と事前に配付された教材の予習をした上で，出席すること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（50%），提出物（20%），試験（30%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

授業に関する質問や相談，欠席の連絡等は，メールでも受け付ける。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業内容の説明とオリエンテーション
第２週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第３週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション１
第４週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第５週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ１
第６週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第７週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション２
第８週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第９週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ２
第10週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第11週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション３
第12週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），会話練習
第13週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），スピーチ３
第14週　聴解練習（日本語能力試験，最新ニュースなど），ディスカッション４
第15週　まとめ（理解度の確認）
上記の計画は，授業の進捗状況により，一部変更することがある。

日本語IIB

3726050200200

副　題	漢字・聴解									担　当　者	滝本　いずみ　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-141-GM

〔授業の到達目標〕
漢字，聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。
漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり，学習した漢字，語彙を使えるようにする。
聴解：自然な日本語を聞く力を培う。
聞き取れたことから内容を推測して，人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕
漢字：各自のペースで毎回到達度テストを行う。
また，漢字の仕組みが学べる教材，日本文化や社会に関係した教材，
読解クラスで使用した教材などを使い，応用力を培う。
聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う
＊促音，長音，音の変化などの基礎的な聴解練習
＊様々な場面における日本語の聴解練習
＊映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し，日本人ゲストに伝える
＊日本人ゲストの話を聞き取って内容をまとめる
なお，毎回のテーマは，読解・会話クラスとできるだけリンクし，語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕
教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会，2008年
聴解：教科書は使用せず，適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週テストを行うため，漢字，語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕
毎回のテスト，提出物での評価（計60%）および　学期末テスト（40%）により評価する。

〔備考〕
オフィスアワー：月曜日火曜日の14：00～14：30, 18：00～19：00

〔授　業　計　画〕

第１週　漢字１　各自のレベルに合わせた学習，テスト
数字，　自己１　自己紹介
第２週　漢字２
助数詞，　自己２　趣味について
第３週　漢字３
時刻・日付，自己３　好きな食べ物
第４週　漢字４
拗音・促音・撥音，旅行１　おすすめの観光地
第５週　漢字５
清音・濁音，　旅行２　経験を聞く―楽しかった旅行について―
第６週　漢字６
電話―実際に電話をする―
第７週　漢字７
食１　日本の食文化１
第８週　漢字８
食２　日本の食文化２
第９週　まとめ１
第10週　漢字９
留学生の国の印象，国民性，文化などについて
第11週　漢字10
日本の迷信
第12週　漢字11
日本の季節の行事
第13週　漢字12
意見を聞く１　身近な問題について
第14週　漢字13
意見を聞く２　社会問題について
第15週　まとめ２
＊授業計画は変更することがあります。
＊毎回日本人ゲスト（学生ボランティア）に来ていただき，聞いたことを伝えたり，ゲストの日本語を聞き取る練習を行う予定です。

日本語IIC

3726050200300

副　題	漢字・聴解							担　当　者	滝本　いずみ　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-142-GM

〔授業の到達目標〕
漢字，聴解ともに個々のレベルに合った到達目標を設定する。
漢字：漢字を中心とした語彙の増強をはかり，学習した漢字，語彙を使えるようにする。
聴解：自然な日本語を聞く力を培う。
聞き取れたことから内容を推測して，人に伝えることができるようになることを目指す。

〔授業の内容〕
漢字：各自のペースで毎回到達度テストを行う。
また，漢字の仕組みが学べる教材，日本文化や社会に関係した教材，
読解クラスで使用した教材などを使い，応用力を培う。
聴解：各自のレベルに応じた聴解練習を行う
＊促音，長音，音の変化などの基礎的な聴解練習
＊様々な場面における日本語の聴解練習
＊映像などの生教材で聞き取れたことから内容を推測して理解し，日本人ゲストに伝える
＊日本人ゲストの話を聞き取って内容をまとめる
なお，毎回のテーマは，読解・会話クラスとできるだけリンクし，語彙や表現の学習につなげる。

〔教材〕
教科書：佐藤 尚子『留学生のための漢字の教科書中級700』国書刊行会，2008年
聴解：教科書は使用せず，適宜ハンドアウトを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎週テストを行うため，漢字，語彙の予習復習が必須です。

〔成績評価の方法〕
毎回のテスト，提出物での評価（計60%）および　学期末テスト（40%）により評価する。

〔備考〕
オフィスアワー：月曜日火曜日14：00～14：30，18：00～19：00

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション，漢字のプレイスメントテスト，指示のことば
第２週　漢字１　各自のレベルに合った学習とテスト
　　数字１，　自己について１　自己紹介
第３週　漢字２
　　数字２　自己について２　趣味など
第４週　漢字３
　　日付　自己について３　好きな食べ物
第５週　漢字４
　　拗音・促音・撥音，時刻　旅行１
第６週　漢字５
　　清音・濁音，助数詞，　旅行２
第７週　漢字６
　　清音・濁音，日本の食文化１
第８週　漢字７
　　拗音，撥音，日本の食文化２
第９週　漢字８
　　日本の今１　ポップカルチャー
第10週　漢字９
　　日本の今２　社会問題
第11週　漢字10
　　日本の伝統文化１　行事など
第12週　漢字11
　　日本の伝統文化２　考え方
第13週　漢字12
　　ニュースに慣れる１
第14週　漢字13
　　ニュースに慣れる２
第15週　まとめ及び解説
＊授業計画は変更することがあります。
＊毎回日本人ゲスト（学生ボランティア）に来ていただき，聞いたことを伝えたり，ゲストの日本語を聞き取る練習を行う予定です。

日本語III A

3726050300100

副　題	日本語の読解・文法を学ぶ。日本を深く理解する	担　当　者	野口　直子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3/4	コース・ナンバー	JPL-143-GM

〔授業の到達目標〕

日本語の読み物の読解を通して，日本語だけでなく日本への理解を深めることを目指す。上級の文法力を養成し，高度な日本語の運用力を身につける。

〔授業の内容〕

この授業では，いろいろなスタイルやトピックの文章を読み，日本人の考え方，文化への理解を深める。新聞などの記事から日本の社会の今を知るとともに，伝統的な文化の記事から，文化だけでなく，日本人の考え方，生き方が学べるようにする。またアカデミックな文章が読めるように読解のストラテジーを学んでいく。高度な文章を読むために必要な上級の文法についても随時学んでいく。

〔教材〕

特に教科書は指定せず，随時プリント，新聞記事を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって，目を通し，わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では，教材を読んだことを前提に内容理解，質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

小テスト　30%，宿題・提出物　20%，試験　50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　自己紹介
第２週　説明文を読む１
　　文法　１　受身の文
第３週　説明文を読む２
　　文法　２　受身と授受表現
第４週　小説を読む１
　　文法　３　配慮表現
第５週　小説を読む２
　　文法　４　使役文
第６週　エッセーを読む１
　　文法　５　使役文と使役受身の表現
第７週　エッセーを読む２
　　文法　テンスとアスペクト１
第８週　意見文を読む１
　　文法　テンスとアスペクト２
第９週　意見文を読む２
　　文法　自動詞・他動詞
第10週　情報を読み取る１
　　文法　モダリティ　１
第11週　読解のストラテジー１　トップダウンの読み方
　　文法　モダリティ　２
第12週　読解のストラテジー２　ボトムアップの読み方
　　文法　モダリティ　３
第13週　読解のストラテジー３　予測をする
　　文法　条件文
第14週　読解のストラテジー４　文章を整理して理解する
　　文法　助詞について
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本語IIIB

3726050300200

副　題	文法・読解							担　当　者	新井　惠美子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2/3	コース・ナンバー	JPL-144-GM

〔授業の到達目標〕

正確に理解，運用できる語彙，表現を増やしながら，日本語の文章を読むスキルを習得し，情報やメッセージを的確に読み解くことで，日本人の考え方や行動を考察し，日本文化，日本社会に対する理解を深める。

〔授業の内容〕

基本文法の復習や中上級の機能表現の学習をしながら，文の構造を確認する。また，文の連続，文章の展開の理解を助ける接続詞や指示語などの用法を学習し運用練習する。さらに，情報，書き手のメッセージについてクラスメートと意見交換する。新聞，雑誌，ウェブサイト，文学作品などから，お知らせ，通知，広告，記事，説明文，エッセイ，意見文，論説文，会話文，小説，詩など，いろいろなタイプおよび内容の文章をテキストとして扱う。

〔教材〕

教科書は使用せず，適宜，文法練習問題・読解用テキストのプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

予習として，文法説明，例文，読解テキストにはあらかじめ目を通し，辞書を使って内容を自分なりに解釈し，設問がある場合は答えを書き留め，疑問点は質問できるようにしておく。復習として，すべてのテキストを読み直し，例文作成，設問に答える，意見や感想を書くなど毎回出される宿題をしながら，重要語彙・表現を覚えていく。

〔成績評価の方法〕

授業参加態度(30%)，宿題・提出物(10%)，小テスト(10%)，期末試験(50%)により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕

この内容は，２・３限通しの授業で実施する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，文法１（初級文法復習１）
　　読解１（速読のためのスキャニング練習）
第２週　文法２（初級文法復習２）
　　読解２（速読のためのスキミング練習）
第３週　文法３（文の構造）
　　読解３（お知らせ文・通知文・広告）
第４週　文法４（文章の展開）
　　読解４（統計・解説文）
第５週　文法５（機能表現１）
　　読解５（ニュース記事）
第６週　文法６（機能表現２）
　　読解６（マニュアル・説明文）
第７週　文法７（機能表現３）
　　読解７（エッセイ）
第８週　文法８（機能表現４）
　　読解８（エッセイ）
第９週　文法９（機能表現５）
　　読解９（詩）
第10週　文法10（機能表現６）
　　読解10（童話）
第11週　文法11（機能表現７）
　　読解11（論説文）
第12週　文法12（機能表現８）
　　読解12（映画シナリオ）
第13週　文法13（機能表現９）
　　読解13（小説）
第14週　文法14（機能表現10）
　　読解14（小説）
第15週　理解度の確認
授業計画は，学生の学習履歴，達成度，関心に合わせて変更することがある。

日本語IIIC

3726050300300

副　題	文法・読解							担　当　者	及川　千代香　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2/3	コース・ナンバー	JPL-145-GM

〔授業の到達目標〕

中級の文法・表現，語彙を学習し，運用できるようになる。また，日本語の文章が正しく理解できるようになる。さらに，日本人の考え方や日本文化についても理解を深める。

〔授業の内容〕

既習文法の復習をしながら，新たな文型･表現を学び，例文作成練習で定着をはかる。また，読むスキルを身につけるための読解トレーニングを行い，日本人の生活や日本文化に関する読みものにもチャレンジする。まとまりごとに語彙テスト，文法テストを実施し，理解度を確認する。

〔教材〕

参考書：平井悦子，三輪さち子『中級へ行こう』スリーエーネットワーク，2004年

適宜，文法練習プリントおよび読み教材を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に語彙リストの意味調べは必須で，授業後には復習を目的とした宿題を課す。長い読みものが宿題の場合は，辞書で調べ，内容を理解し，質問に答えること。

また，まとまりごとの語彙テスト，文法テストのために復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度　30%，宿題・提出物　10%，復習テスト　20%，期末試験　40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション，自己紹介，復習１
第２週　復習２
第３週　文法１＆読解１
第４週　文法２＆読解２
第５週　文法３＆読解３
第６週　文法４＆読解４
第７週　文法５＆読解５
第８週　文法６＆読解６
第９週　文法７＆読解７
第10週　文法８＆読解８
第11週　文法９＆読解９
第12週　文法10＆読解10
第13週　文法11＆読解11
第14週　文法12＆読解12
第15週　まとめ
状況により授業計画は変更することがある。

日本語IV A

3726050400100

副　題	日本語を通して日本を深く理解する	担　当　者	野口　直子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3/4	コース・ナンバー	JPL-146-GM

〔授業の到達目標〕

日本語の読み物の読解を通して，日本語だけでなく日本への理解を深めることを目指す。上級の文法力を養成し，高度な日本語の運用力を身につける。

〔授業の内容〕

この授業では，いろいろなスタイルやトピックの文章を読み，日本人の考え方，文化への理解を深める。新聞などの記事から日本の社会の今を知るとともに，伝統的な文化の記事から，文化だけでなく，日本人の考え方，生き方が学べるようにする。またアカデミックな文章が読めるように読解のストラテジーを学んでいく。高度な文章を読むために必要な上級の文法についても随時学んでいく。

〔教材〕

教科書は使用せず，適宜プリントを配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって，目を通し，わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では，教材を読んだことを前提に内容理解，質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

小テスト　30%，宿題・提出物　20%，試験　50%。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　自己紹介
第２週　読解：異文化コミュニケーションについて１
　　文法：慣用句　と　副詞　１
第３週　読解：異文化コミュニケーションについて２
　　文法：慣用句　と　副詞　２
第４週　発表
第５週　読解：若者について１
　　文法：慣用句　と　副詞　３
第６週　読解：若者について２
　　文法：慣用句　と　副詞　４
第７週　読解：女性の生き方１
　　文法：オノマトペ　１
第８週　読解：女性の生き方２
　　文法：オノマトペ　２
第９週　読解：伝記
　　文法：オノマトペ　３
第10週　発表
第11週　読解：日本社会　ー信頼社会と安心社会ー
　　文法：接続詞
第12週　読解：日本社会　ー仕事ー
　　文法：接続詞
第13週　読解：豊かさとは何か１
　　文法：敬語
第14週　読解：豊かさとは何か２
　　文法：敬語
第15週　まとめ
授業計画は変更することがある。

日本語IVB

3726050400200

副　題	文法・読解							担　当　者	新井　惠美子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2/3	コース・ナンバー	JPL-147-GM

〔授業の到達目標〕
正確に理解，運用できる語彙，表現を増やしながら，日本語の文章を読むスキルを習得し，情報やメッセージを的確に読み解くことで，日本人の考え方や行動を考察し，日本文化，日本社会に対する理解を深める。

〔授業の内容〕
基本文法の復習や中上級の機能表現の学習をしながら，文の構造を確認する。また，文の連続，文章の展開の理解を助ける接続詞や指示語などの用法を学習し運用練習する。さらに，情報，書き手のメッセージについてクラスメートと意見交換する。新聞，雑誌，ウェブサイト，文学作品などから，お知らせ，通知，広告，記事，説明文，エッセイ，意見文，論説文，会話文，小説，詩など，いろいろなタイプおよび内容の文章をテキストとして扱う。

〔教材〕
教科書は使用せず，適宜，文法練習問題・読解用テキストのプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
予習として，文法説明，例文，読解テキストにはあらかじめ目を通し，辞書を使って内容を自分なりに解釈し，設問がある場合は答えを書き留め，疑問点は質問できるようにしておく。復習として，すべてのテキストを読み直し，例文作成，設問に答える，意見や感想を書くなど毎回出される宿題をしながら，重要語彙・表現を覚えていく。

〔成績評価の方法〕
授業参加態度(30%)，宿題・提出物(10%)，小テスト(10%)，期末試験(50%)により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンターを通じて連絡を取ること。

〔備考〕
この内容は，２・３限通しの授業で実施する。

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス，文法１（初級文法復習１）
　　読解１（速読のためのスキャニング練習）
第２週　文法２（初級文法復習２）
　　読解２（速読のためのスキミング練習）
第３週　文法３（文の構造）
　　読解３（お知らせ文・通知文・広告）
第４週　文法４（文章の展開）
　　読解４（統計・解説文）
第５週　文法５（機能表現１）
　　読解５（ニュース記事）
第６週　文法６（機能表現２）
　　読解６（マニュアル・説明文）
第７週　文法７（機能表現３）
　　読解７（エッセイ）
第８週　文法８（機能表現４）
　　読解８（エッセイ）
第９週　文法９（機能表現５）
　　読解９（詩）
第10週　文法10（機能表現６）
　　読解10（童話）
第11週　文法11（機能表現７）
　　読解11（論説文）
第12週　文法12（機能表現８）
　　読解12（映画シナリオ）
第13週　文法13（機能表現９）
　　読解13（小説）
第14週　文法14（機能表現10
　　読解14（小説）
第15週　理解度の確認
授業計画は，学生の学習履歴，達成度，関心に合わせて変更することがある。

日本語IVC

3726050400300

副　題	文法・読解							担　当　者	及川　千代香　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2/3	コース・ナンバー	JPL-148-GM

〔授業の到達目標〕

中級の文法・表現，語彙を学習し，運用できるようになる。また，日本語の文章が正しく理解できるようになる。さらに，日本人の考え方や日本文化についても理解を深める。

〔授業の内容〕

既習文法の復習をしながら，新たな文型･表現を学び，例文作成練習で定着をはかる。また，読むスキルを身につけるための読解トレーニングを行い，日本人の生活や日本文化に関する読みものにもチャレンジする。まとまりごとに語彙テスト，文法テストを実施し，理解度を確認する。

〔教材〕

参考書：平井悦子，三輪さち子『中級へ行こう』スリーエーネットワーク，2004年

適宜，文法練習プリントおよび読み教材を配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に語彙リストの意味調べは必須で，授業後には復習を目的とした宿題を課す。長い読みものが宿題の場合は，辞書で調べ，内容を理解し，質問に答えること。

また，まとまりごとの語彙テスト，文法テストのために復習をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度　30%，宿題・提出物　10%，復習テスト　20%，期末試験　40%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション，自己紹介，復習１
第２週　復習２
第３週　文法１＆読解１
第４週　文法２＆読解２
第５週　文法３＆読解３
第６週　文法４＆読解４
第７週　文法５＆読解５
第８週　文法６＆読解６
第９週　文法７＆読解７
第10週　文法８＆読解８
第11週　文法９＆読解９
第12週　文法10＆読解10
第13週　文法11＆読解11
第14週　文法12＆読解12
第15週　まとめ
状況により授業計画は変更することがある。

日本語ＶＡ

3726050500100

副　題	大学で学ぶために必要な日本語１							担　当　者	松本　祥子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1/2	コース・ナンバー	JPL-149-GM

〔授業の到達目標〕

４年間を通して日本の大学で学ぶためには，日本語の基礎力の徹底が求められる。文法的な基礎はもちろん，読解力，聴解力，書く力，話す力，発表の力の全面にわたって日本語能力の向上を図る。

〔授業の内容〕

文法：N1レベルの構文を理解するだけでなく，これを適切に使いこなせるように練習する。
語彙：文法・表記等で適切な文を書けるよう練習する。
聴解：内容を正確に把握できるよう練習する。
作文：読み取ったことをまとめたり意見文を作成したりする。レポート執筆のための基礎を学ぶ。
話す力：敬語・待遇表現の練習をする。

〔教材〕

教科書はない。毎回，必要なプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に指示をする。

〔成績評価の方法〕

定期試験（60%）及び平常授業における提出物・確認テスト（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

クラスのメンバーにより，授業内容が変更されることがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　自己紹介・導入
第２週　語彙の意味・用法１
第３週　読解と作文練習１
第４週　語彙の意味・用法２
第５週　読解と作文練習２
第６週　語彙の意味・用法３
第７週　聴解と作文練習
第８週　レポートの書き方１
第９週　N1の表現文型を使いこなす１
第10週　レポートの書き方２
第11週　N1の表現文型を使いこなす２
第12週　敬語の使い方１
第13週　N1の表現文型を使いこなす３
第14週　敬語の使い方２
第15週　まとめ・確認

日本語VB

3726050500200

副　題	発信するための日本語へ							担　当　者	野口　直子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-150-GM

〔授業の到達目標〕

作文，会話を通して，発信するための日本語能力の習得を目指す。

〔授業の内容〕

トピックとして，自分の身近なできごとのみならず，日本および自国の社会，文化についての洞察を深められるような素材を新聞，インターネットなどからとりあげる。それらの情報を基に，説明する。意見を述べるなどの技術，能力の習得を行う。

日本人学生の協力を得て日本人学生との会話の時間を設け，日本の社会，文化について生の情報を得たり，ディスカッションを行う。クラス内でのインターアクションを重視するので，学生の積極的な参加を望む。

〔教材〕

教科書は使用せず，適宜プリントを配布する

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって，目を通し，わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では，教材を読んだことを前提に内容理解，質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，宿題・提出30%，クラス内でのテスト50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　ニーズ調査，レディネス調査
第２週　作文の技術（１）自己紹介の文章の書き方
　　自己紹介をする
第３週　作文の技術（２）説明文
　　友だちについて
第４週　作文の技術（３）説明文
　　私の国について
第５週　作文の技術（４）説明文
　　私の国の有名人
第６週　作文の技術（５）感想文
　　私の好きな小説／映画／劇
第７週　作文の技術（６）感想文
　　私の好きな場所／国
第８週　作文の技術（７）感想文
　　趣味について・料理について
第９週　作文の技術（８）メールの書き方
　　依頼する
第10週　作文の技術（９）メールの書き方
　　お知らせをする
第11週　作文の技術（10）意見文
　　異文化について
第12週　作文の技術（11）意見文
　　教育について
第13週　作文の技術（12）意見文
　　伝統文化について
第14週　作文の技術（13）意見文
　　現代社会について
第15週　まとめ
日本人学生にボランティアとして会話の相手に入ってもらう授業を実施予定。
授業計画は変更することがある。

日本語VC

3726050500300

副　題	書く力・話す力を高める							担　当　者	加藤　陽子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	3/4	コース・ナンバー	JPL-151-GM

〔授業の到達目標〕

日本と自国の社会や文化に関する話題について，まとまった文章を書き，発表できるようになる。また，それらの話題について，質疑応答ができるようになる。

〔授業の内容〕

日本と自国の社会・文化に関する話題について，小スピーチの原稿を書き，発表する。さらに，発表内容について，質疑応答の練習をおこなう。また，自然な発音，アクセントの練習や，色々な場面での会話練習やインタビュー，ディスカションをおこなう。

具体的な内容および教材については，学期の初めに学生と相談の上，決定する。

〔教材〕

毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回の授業には，前の授業内容の復習となる課題をおこなった上で出席すること。また，日常生活の中で見つけた言葉をリストにまとめて，使える言葉を増やすこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(35%)，課題（30%），試験（35%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業についての説明とオリエンテーション，作文（表記のしかた，自己紹介文），自己紹介練習
第２週　作文（１），メールを書く，会話
第３週　作文（１），メールを書く，発音・アクセント練習，会話
第４週　作文（１），発音・アクセント練習，スピーチ，スピーチの内容について会話
第５週　作文（２），発音・アクセント練習，会話
第６週　作文（２），発音・アクセント練習，会話，インタビュー
第７週　作文（２），発音・アクセント練習，スピーチ，スピーチの内容について会話
第８週　作文（３），発音・アクセント練習，会話
第９週　作文（３），発音・アクセント練習，会話，インタビュー
第10週　作文（３），機能別会話，スピーチ，スピーチの内容について会話
第11週　作文（４），機能別会話，ディスカッション
第12週　作文（４），機能別会話，インタビュー，ディスカッション
第13週　作文（４），機能別会話，ディスカッション
第14週　感謝の手紙の書き方，スピーチ，スピーチの内容について会話
第15週　まとめと解説
学生の状況によって，授業計画を一部変更することがある。

日本語VI A

3726050600100

副　題	大学で学ぶために必要な日本語２							担　当　者	松本　祥子　講師		
単位	２	配当年次	１～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1/2	コース・ナンバー	JPL-152-GM

〔授業の到達目標〕

４年間を通して日本の大学で学ぶためには，日本語の基礎力の徹底が求められる。文法的な基礎はもちろん，読解力，聴解力，書く力，話す力，発表の力の全面にわたって日本語能力の向上を図る。

〔授業の内容〕

文法：N1レベルの構文を理解するだけでなく，これを適切に使いこなせるように練習する。
語彙：文法・表記等で適切な文を書けるよう練習する。
聴解：内容を正確に把握できるよう練習する。
作文：読み取ったことをまとめたり意見文を作成したりする。レポート執筆のための基礎を学ぶ。
話す力：敬語・待遇表現の練習をする。

〔教材〕

教科書はない。毎回，必要なプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業中に指示をする。

〔成績評価の方法〕

定期試験（60%）及び平常授業における提出物・確認テスト（40%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

クラスのメンバーにより，授業内容が変更されることがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　自己紹介・導入
第２週　語彙の意味・用法１
第３週　読解と作文練習１
第４週　語彙の意味・用法２
第５週　読解と作文練習２
第６週　語彙の意味・用法３
第７週　聴解と作文練習
第８週　レポートの書き方１
第９週　N1の表現文型を使いこなす１
第10週　レポートの書き方２
第11週　N1の表現文型を使いこなす２
第12週　敬語を使いこなす１
第13週　N1の表現文型を使いこなす３
第14週　敬語を使いこなす２
第15週　まとめ・確認

日本語VIB

3726050600200

副　題	発信するための日本語へ							担　当　者	野口　直子　講師
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	4/5	コース・ナンバー	JPL-153-GM

〔授業の到達目標〕

作文，会話を通して，発信するための日本語能力の習得を目指す。

〔授業の内容〕

トピックとして，自分の身近なできごとのみならず，日本および自国の社会，文化についての洞察を深められるような素材を新聞,インターネットなどからとりあげる。その情報を基に，説明や，意見を述べる技術，能力の習得を行う。

日本人学生の協力を得て日本人学生との会話の時間を設け，日本の社会，文化について生の情報を得たり，ディスカッションを行う。クラス内でのインターアクションを重視するので，学生の積極的な参加を望む。

〔教材〕

教科書は使用せず，適宜プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

教材には前もって，目を通し，わからない語彙は必ずその意味を調べておくこと。授業では，教材を読んだことを前提に内容理解，質問などを行う。疑問点は積極的に授業で聞くこと。授業後に出される宿題で必ずその日に学習したことを確認しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，宿題・提出30%，クラス内でのテスト50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　ニーズ調査，レディネス調査
第２週　小論文の書き方（１）原稿用紙の使い方
　　会話：旅行について１
第３週　小論文の書き方（２）表記のしかた
　　会話：旅行について２
第４週　小論文の書き方（３）文体について
　　ディスカッション：旅行について
第５週　小論文の書き方（４）話し言葉から書き言葉へ
　　会話：食について
第６週　小論文の書き方（５）正しい構造の文１
　　会話：健康について
第７週　小論文の書き方（６）正しい構造の文２
　　ディスカッション：食と健康について
第８週　小論文の書き方（７）文のつながり
　　会話：日本の社会について１
第９週　小論文の書き方（８）小論文に使われる表現
　　会話：日本の社会について２
第10週　小論文の書き方（９）段落
　　ディスカッション：日本の社会について
第11週　小論文の書き方（10）小論文のはじめとおわり
　　ディスカッション：自国の文化と日本の文化
第12週　メールの書き方
　　ディスカッション：現代文化と伝統文化
第13週　敬語を使用した文章
　　依頼の場面での会話
第14週　敬語を使用した文章
　　許可を求める場面の会話
第15週　まとめ
日本人学生にボランティアとして入ってもらい会話，ディスカッションを実施予定。
授業計画は変更することがある。

日本語VIC

3726050600300

副　題	書く力・話す力を高める	担　当　者	加藤　陽子　講師

単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	3/4	コース・ナンバー	JPL-154-GM

〔授業の到達目標〕

日本と自国の社会や文化に関する話題，また，専門分野の一般的な話題について，まとまった文章を書き，発表できるようになる。また，それらの話題について，質疑応答ができるようになる。

〔授業の内容〕

日本と自国の社会・文化に関する話題について，また，専門分野の一般的な話題について，小スピーチの原稿を書き，発表する。また発表内容について，質疑応答とインタビューの練習をおこなう。加えて，会話の技術を向上させるさまざまな練習をする。さらに，表現する力をつけるために，語彙力を高める。

具体的な内容および教材については，学期の初めに学生と相談の上，決定する。

〔教材〕

毎回プリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

毎回課される課題に取り組み，授業の復習をしたうえで次の授業に臨むこと。また，語彙力を高めるために，日常生活の中で見つけた語彙をまとめてリストにし，覚えて使うようにすること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(35%)，課題（30%），試験（35%）によって評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　授業についての説明とオリエンテーション，作文（表記のしかた），メールの書き方
第２週　作文（自己紹介文），会話技術（発音，アクセント，イントネーション），機能別会話
第３週　作文（国の紹介），会話技術（発音，アクセント，イントネーション），機能別会話
第４週　作文（日本社会について１），会話
第５週　〃
第６週　作文（日本社会について１），会話，スピーチ，スピーチの内容を題材に会話
第７週　作文（日本社会について２），会話技術（質問），インタビュー
第８週　〃
第９週　作文（日本社会について２），会話技術（質問），スピーチ，スピーチの内容を題材に会話
第10週　作文（専門について１），会話技術（あいづち，フィラー），インタビュー
第11週　〃
第12週　作文（専門について１），スピーチ，スピーチの内容を題材に会話
第13週　作文（意見），ディスカッション
第14週　〃
第15週　まとめ
学生の状況によって，授業計画を一部変更することがある。

司書課程

平成 28 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

平成 24 年度以降入学者用

司 書 課 程　平成 28 年度授業科目および担当者

相当する省令科目	単位	科目群	本学開講科目	コース・ナンバー	単位	履修年次	履修単位	学期		担当者	頁
生涯学習概論	2	司書課程必修科目群	生涯学習概論	INF-181-LA	2	第2セメスター～	13科目 26単位		秋	塚原　正彦	852
図書館概論	2		図書館概論	INF-182-LA	2	第2セメスター～		春		越塚　美加	853
図書館制度・経営論	2		図書館制度・経営論	INF-283-LA	2	第2セメスター～			秋	西野　一夫	854
図書館情報技術論	2		図書館情報技術論A	INF-284-LA	2	第4セメスター～		春		江藤　正己	855
			図書館情報技術論B	INF-285-LA					秋	江藤　正己	856
図書館サービス概論	2		図書館サービス概論	INF-186-LA	2	第2セメスター～			秋	越塚　美加	857
情報サービス論	2		情報サービス論	INF-187-LA	2	第2セメスター～		春		江藤　正己	858
児童サービス論	2		児童サービス論A	－	2	第2セメスター～		－	－	－	－
			児童サービス論B	INF-289-LA					秋	山口　雅子	859
情報サービス演習	2		情報検索演習A	INF-390-LA	2	第4セメスター～		春		江藤　正己	860
			情報検索演習B	INF-391-LA					秋	江藤　正己	861
			レファレンスサービス演習A	INF-292-LA	2	第2セメスター～		春		越塚　美加	862
			レファレンスサービス演習B	INF-293-LA					秋	越塚　美加	863
図書館情報資源概論	2		図書館情報資源概論	INF-194-LA	2	第2セメスター～		春		越塚　美加	864
情報資源組織論	2		情報資源組織論	INF-195-LA	2	第2セメスター～			秋	木村麻衣子	865
情報資源組織演習	2		情報資源組織演習Ⅰ	INF-296-LA	2	第3セメスター～			秋	木村麻衣子	866
			情報資源組織演習Ⅱ	INF-297-LA	2	第3セメスター～		春		木村麻衣子	867
図書館基礎特論	1	司書課程選択必修科目群	図書館基礎特論	INF-381-LB	2	第5セメスター～	2科目 4単位以上		秋	江藤　正己	868
図書・図書館史	1		図書・図書館史	INF-182-LB	2	第2セメスター～			秋	白戸満喜子	869
図書館サービス特論	1		図書館サービス特論	INF-383-LB	2	第5セメスター～		春		越塚　美加	870
計 15 科目 30 単位以上（本学の科目）											

省令科目とは図書館法施行規則で規定された科目のことを指す。本学の選択必修科目群では省令上 1 単位が配当されている科目を 1 科目 2 単位として開講しているが、省令上、 2 科目以上を修得する必要があるため本学開講科目 2 科目 4 単位以上を選択必修としている。

生涯学習概論

3801000100100

副　題	楽習社会の未来デザイン							担　当　者	塚原　正彦　講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	INF-181-LA

〔授業の到達目標〕

文明のまなざしからいま私たちの社会で起きている学びの革命を検証し，生涯学習をデザインし，マネジメントすることができる想像力と創造力を持ち，専門能力を使いこなすことができる資質とは何かを明らかにする。身近な地域や生活にまなざしをあて，物語ミュージアムを創造する演習を組み入れながら，未来の学芸員，司書そして楽習デザイナーに求められる生活，文化資源の発見の方法，学びのコンテンツをデザインをするためのスキルの習得を目指す。

〔授業の内容〕

情報文明が進展し，新しい富の未来が到来し，生涯学習社会は新たな段階に突入しつつある。イギリスをはじめ先進各国では，文化施設やライブラリーが，狭義の保存，管理，研究施設から人々の学びをテーマにした楽習創造センターにうまれ変わり，地域の持つ文化遺伝子を活用したまなびのプログラムやそれを未来に継承するための人づくりが実践されはじめた。そのような動きは，企業活動，生活文化，そして遊びにまで波及している。

図書館，公民館，ミュージアム，青少年教育施設などの最先端の取り組みに加え，学ぶ人が主役となり，思いついたアイデアを次々に結びつけ，物語をつくり知を創造するコンテンツ産業，ツーリズム，幸福産業なども視野にいれ，生涯学習社会の可能性と私たち一人ひとりの生きるチカラとは何かについて考える。

〔教材〕

参考書：塚原正彦『ミュージアム国富論』日本地域社会研究所，2000年
　　塚原正彦『ふるさと遺産』日本地域社会研究所，2006年

教科書としては，著者が編著した「明日のミュージアム」（日本地域資源研究所）と「明日のための世界と図書館紀行」を活用する。活用の方法については，授業中に指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

演習形式で授業をすすめるため，施設調査や地域資源調査の発注課題に取り組むことになる。

〔成績評価の方法〕

400字の「未来デザインシート」（10%），ヒューマンライブラリの施設調査（50%），地域資源調査の成果物（20%），教科書とリンクした電子学習システムの参加（20%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

・ヒューマンライブラリーの施設調査を実施し，楽習デザインを評価薄するレポートを作成する。
・電子学習システムを活用して授業で得た知識を発展させる学習に取り組む。
・地域資源調査の現地研修を実施する予定で，ワークシートを作成する課題に取り組む。（常総市を予定している）

〔授　業　計　画〕

第１週　生涯学習の理念と国づくりと地域（楽習都市の未来デザイン）
第２週　歴史に学ぶ本とコレクションのチカラ（学術都市アレキサンドリアとミュージアムとライブラリーの誕生）
第３週　生涯学習が地域を変え，未来をつくる（暮らしをデザインする文化起業家）
第４週　まなびと交流が創造する未来産業（W.ディズニーの挑戦と楽習社会）
第５週　生活に組み込まれた学びとデザイン（玩具からみた家庭のチカラ）
第６週　人に優しいヒューマンライブラリー（冠岳区の図書館革命に学ぶ）
第７週　デジタルコミュニケーションが学びを変える（世界一大きな本とふるさとミュージアム）
第８週　楽習デザインの事例研究：ふるさとの本をつくるプロジェクト（ブータン王国の世界一大きな本）
第９週　楽習デザインの事例研究:ふるさとの記憶を記録する（デジタルアーカイブの取り組み）
第10週　楽習デザインの事例研究：ミュージアム国富論とイギリスの知の産業革命
第11週　楽習デザインの事例研究：私設公民館の学習デザイン（愛媛県伊予市双海町の学びのデザイン）
第12週　地域資源の発見と活用の基本スキルを習得する（歩く，見る，聞く）
第13週　現地実習：地域資源調査と地域資源の物語化の実践してみる
第14週　地域社会のための学びのライブラリーをデザインする
第15週　楽習社会の未来デザインを共有し評価する

未来デザイン研究と自然に美をみいだし，ひろい心を持ち，ありのままに生きている名も知れぬ人々がうみだしている人間味あふれる物語を相互作用させながら，筆者が開発したミュージアム・メソッド（事例研究→フィールド調査→プレゼンテーション創作→展示→相互評価）を活用して，授業をすすめる。受講者には，一人ひとりの身近な生活にまなざしを向け，未来への宝物を収集し，自分の目で見て，考え，思いを世界に発信する演習に参加する。

図書館概論

3801001100100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	INF-182-LA

〔授業の到達目標〕

図書館の基本的な機能を理解する。また，館種ごとの違いについて認識しながら，図書館員の役割について理解する。

〔授業の内容〕

図書館の基本的な機能や社会での位置づけおよび市民生活で果たすべき役割について，法的な基盤やこれまでに策定されてきた各種政策，答申，報告書の内容と深く結び付いていることを踏まえ，理解することを目的とする。

上述の狙いに基づいて，図書館の歴史や現状を，館種別に検討すると同時に，図書館職員の役割や資格に対する考え方，設置母体との関係，さまざまな図書館の利用者の特徴，類縁機関やそのほかの機関との関わりについて取り上げる。

〔教材〕

参考書：高山正也、岸田和明編『図書館概論』（現代図書館情報学シリーズ1）樹村房，2011年
日本図書館協会『図書館年鑑2015』2015年版，日本図書館協会，2015年

授業は配布資料を中心に進めるので，欠席した翌週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認し，必要に応じて受領しておくこと。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業時にできるだけ具体的な事例を示すので，復習のために文献リスト中の文献を読んだり，ウェブページを確認することが求められる。

〔成績評価の方法〕

平常点４割，期末試験６割

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日４限，５限
日本文化学科事務室を通じて，あるいは電子メール

〔授　業　計　画〕

第１週　日本の図書館の現状と動向：統計資料をもとに
第２週　日本の図書館の現状と動向：政策との関わり
第３週　日本の図書館の現状と動向：図書館活動の事例
第４週　図書館の構成要素と機能
第５週　図書館の自由に関する現状と課題
第６週　各種公共図書館宣言に見られる公共図書館像
第７週　図書館の歴史
第８週　公共図書館の成立と展開１
第９週　公共図書館の成立と展開２
第10週　館種別図書館の特徴と利用者１
第11週　館種別図書館の特徴と利用者２
第12週　図書館員の役割と資格
第13週　図書館と連携・協力を進める諸機関
第14週　図書館の課題と展望１
第15週　図書館の課題と展望２

図書館制度・経営論

3801001200100

副　題	21世紀の公共資源としての図書館の経営					担　当　者	西野　一夫　講師			
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	INF-283-LA

〔授業の到達目標〕

図書館法第２条，第３条の基づく図書館の機能と奉仕活動を図書館の経営現場に照らして，実践的に検証し，社会的機能としての図書館の役割について，理解を深める。

〔授業の内容〕

公立図書館を取り巻く法制度を行政法との関係を含めて学習します。
地域を支える図書館のあり方を実証的に学習し，経営的な視点から評価を行います。
公立図書館をめぐる経営環境の変化を，資金面，人材面から分析し，将来的展望を探ります。
図書館の総合的評価と，サービス計画立案については実践的に学習します。
21世紀の公立図書館に必要な人材の在り方について，学習を深めます。

〔教材〕

参考書：永田治樹『図書館経営論』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ）初版，日本図書館協会，2011年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で配布するプリントの学習。

〔成績評価の方法〕

出席状況，質問票，レポートによる総合採点法です。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

司書課程

〔授　業　計　画〕

第１週　21世紀の図書館像
第２週　図書館法概説
　　設置者，専門的職員の配置，無料原則を中心に
第３週　公の施設の規制緩和と労働環境財務環境の変化
　　指定管理制度とPFIを中心に
第４週　国立国会図書館の現在を考える
　　国会図書館の議会サービスと図書館サービスの現状を考える
第５週　図書館の組織と運営管理
　　市町村図書館の機能とサービスを社会的機能から考える
第６週　公共図書館に自己点検評価（１）
　　行政評価の手法
第７週　公共図書館の自己点検評価（２）
　　サービスの点検評価の方法
第８週　公共図書館の自己点検評価（３）
　　アクションプランの立案
第９週　図書館員の倫理綱領・図書館の自由
　　図書館経営から見た図書館自由
第10週　図書館の施設設備を考える
　　利用者から見た学びの環境としての施設設備
第11週　日常的業務の指針と非日常的事態への対応（１）
　　業務マニュアルの作り方
第12週　日常的業務の指針と非日常的事態への対応（２）
　　犯罪や災害とどう向き合うか
第13週　図書館と法
　　行政法，個人情報保護法と図書館を考える
第14週　21世紀の図書館と社会教育施設
　　社会教育法の構造と図書館法のこれからについて考える
第15週　まとめ
授業は教科書と毎回お配りするプリントにそって進めます。
出席票を活用して，質問や感想を記入してもらいます。
質問などは次の授業の講義内容にできるだけ反映します。

図書館情報技術論Ａ

3801001500100

副　題								担　当　者	江藤　正己　専任講師
単位	2	配当年次	第4セメスター～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INF-284-LA

〔授業の到達目標〕
社会における情報技術の役割や位置づけを知る
コンピュータネットワークやホームページに関する基礎的な知識を修得する
検索システムの仕組みを理解し，その動作の基礎的な部分を擬似的に再現できるようになる
図書館業務に関する情報技術を類別し，それらの内容を説明できるようになる

〔授業の内容〕
第４セメスター以降に在籍する学生を対象とする（科目等履修生は，第２学年第２学期以降）。
まず，身のまわりにどのような情報システムが存在するか，現代社会において情報技術がどのような意味を持っているのかを見直すことからはじめる。その後，「ホームページを閲覧する」「ウェブ上で検索をおこなう」など，多くの人が日常的におこなう行動の裏側で，どのような情報技術や仕組が働いているのかを説明する。特に，核となる箇所については，PCを用いた演習の形式をとる。その他，図書館業務に特化した情報システムや技術的トピックについても適宜とりあげて解説する。

〔教材〕
参考書：森大二郎『検索エンジンはなぜ見つけるのか』日経BP社，2011年
松村真宏，三浦麻子『人文・社会科学のためのテキストマイニング』改訂新版，誠信書房，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
授業で用いたソフトウェアの使い方について復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度(30%)，演習課題(40%)，レポート(20%)，小テスト(10%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕
履修者の人数制限をおこなうことがある。初回授業には出席すること（出席できない場合は，必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。
小テストは，最終授業日に実施予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報技術と社会
第２週　コンピュータとネットワークの基礎
第３週　コンピュータシステムの管理と情報セキュリティ
第４週　ホームページによる情報の発信（１）
第５週　ホームページによる情報の発信（２）
第６週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術
第７週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術の実際（１）
第８週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術の実際（２）
第９週　最新の情報技術と図書館
第10週　検索システムを支える基礎的な技術
第11週　検索システム（データベース・検索エンジン）の仕組み
第12週　検索システムのランキングの理論
第13週　検索システムのランキングの実際（１）
第14週　検索システムのランキングの実際（２）
第15週　理解度の確認，まとめ

図書館情報技術論Ｂ

3801001500200

副　題								担　当　者	江藤　正己　専任講師
単位	2	配当年次	第4セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	INF-285-LA

〔授業の到達目標〕
社会における情報技術の役割や位置づけを知る
コンピュータネットワークやホームページに関する基礎的な知識を修得する
検索システムの仕組みを理解し，その動作の基礎的な部分を擬似的に再現できるようになる
図書館業務に関する情報技術を類別し，それらの内容を説明できるようになる

〔授業の内容〕
第４セメスター以降に在籍する学生を対象とする（科目等履修生は，第２学年第２学期以降）。
まず，身のまわりにどのような情報システムが存在するか，現代社会において情報技術がどのような意味を持っているのかを見直すことからはじめる。その後，「ホームページを閲覧する」「ウェブ上で検索をおこなう」など，多くの人が日常的におこなう行動の裏側で，どのような情報技術や仕組が働いているのかを説明する。特に，核となる箇所については，PCを用いた演習の形式をとる。その他，図書館業務に特化した情報システムや技術的トピックについても適宜とりあげて解説する。

〔教材〕
参考書：森大二郎『検索エンジンはなぜ見つけるのか』日経BP社，2011年
松村真宏，三浦麻子『人文・社会科学のためのテキストマイニング』改訂新版，誠信書房，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
授業で用いたソフトウェアの使い方について復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度(30%)，演習課題(40%)，レポート(20%)，小テスト(10%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕
履修者の人数制限をおこなうことがある。初回授業には出席すること（出席できない場合は，必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。
小テストは，最終授業日に実施予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報技術と社会
第２週　コンピュータとネットワークの基礎
第３週　コンピュータシステムの管理と情報セキュリティ
第４週　ホームページによる情報の発信（１）
第５週　ホームページによる情報の発信（２）
第６週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術
第７週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術の実際（１）
第８週　電子資料の管理やデジタルアーカイブを支える基礎的な技術の実際（２）
第９週　最新の情報技術と図書館
第10週　検索システムを支える基礎的な技術
第11週　検索システム（データベース・検索エンジン）の仕組み
第12週　検索システムのランキングの理論
第13週　検索システムのランキングの実際（１）
第14週　検索システムのランキングの実際（２）
第15週　理解度の確認，まとめ

図書館サービス概論

3801001400100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	INF-186-LA

〔授業の到達目標〕
図書館で提供する基本的なサービスについて理解し，コミュニティの中の図書館の役割について明確な考えを持つ。

〔授業の内容〕
図書館は，その館種によってサービス対象やサービス内容，扱う資料の種類が大きく異なっている。この授業では，公立図書館におけるサービスを中心にその基本構成及び最新の状況について議論する。公立図書館に限らず，図書館界は社会状況を反映して大きく変動している時期にあたっており，この授業を受講した後も自ら知識を最新のものに保つ必要がある。
利用者によりよいサービスを提供するために，資料を，収集，組織化，保存，管理し，利用者の要求にできる限りこたえようとする点は館種を問わず共通しており，この「サービスの精神」は，図書館員の資質として重要なものの一つである。
本科目では，図書館サービスの意義と利用者に対する多様なサービスについて理解を深め，基本的な知識を習得することを目的とする。また，館種による利用者像，近年見られるさまざまな分野に焦点を当てた新しい情報提供サービス，国際的にも注目されている著作権問題，図書館間ネットワークの動向や新しいサービスを展開していく上で不可欠な他機関との協力の可能性について議論する。

〔教材〕
参考書：宮部頼子編『図書館サービス概論』（現代図書館情報学シリーズ）樹村房，2012年
日本図書館協会『図書館年鑑(購入不要)』最新版，日本図書館協会
本講義では，基本的に教科書に基づいて進めていく。必要に応じてプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時間内に示すさまざまな図書館サービスについて，文献を読んだり，ウェブページを確認したり，また実際に図書館訪問をすることによって確認することによって復習することを求める。

〔成績評価の方法〕
平常点（４割）（授業中に数回ビデオを見てそれに関する考察等のレポートを求める）及び期末レポート（６割）による。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日4, 5限
日本文化学科事務室を通じて，あるいは，電子メールにて

〔備考〕
欠席した場合は次週までに必ず配布資料の有無をサポートセンターで確認し，必要に応じて資料を受け取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　図書館でサービスを提供するということ
第２週　図書館法といわゆる「望ましい基準」
第３週　利用者のためのサービス：さまざまな館種と利用者
第４週　テクニカルサービスとパブリックサービス
第５週　貸出サービスの現在
第６週　情報提供サービス
第７週　図書館の文化活動，図書館の広報
第８週　利用者別に見たサービスの種類と留意点：障害者サービスと高齢者サービス
第９週　利用者別に見たサービスの種類と留意点：児童サービスと多文化サービス
第10週　国内外の図書館間ネットワーク
第11週　課題解決型サービス１
第12週　課題解決型サービス２
第13週　著作権法と図書館サービス１
第14週　著作権法と図書館サービス２
第15週　現代の図書館と図書館員

情報サービス論

3801001600100

副　題								担　当　者	江藤　正己　専任講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	春学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	INF-187-LA

〔授業の到達目標〕
図書館における情報サービスの意義と種類について理解する
レファレンスサービスや情報検索サービスの基礎的事項を修得する
インターネット普及後の新たな利用者支援の枠組みを考察できるようになる
どのような情報源が存在するのか説明できるようになる

〔授業の内容〕
「レファレンスサービス演習」や「情報検索演習」の科目に対する導入的意味を持たせながら，図書館の情報サービスについて，講義を主体に進めていく。まず，多くの履修者にとって最も身近であろう発信型情報サービスからはじめる。次に，インターネット普及後の新たな図書館の利用者支援の形を説明する。その後，情報サービスの中心的な役割であるレファレンスサービスや情報検索サービスをとりあげ，最後に各種の情報源について解説する。

〔教材〕
教科書：田村俊作『情報サービス論』（新現代図書館学講座）新訂版，東京書籍，2010年
参考書：井上真琴『図書館に訊け!』（ちくま新書）筑摩書房，2004年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業前に教科書を読んでおくこと。
授業でとりあげた図書館の情報サービスについて，実際にみてみること。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度(30%)，複数回のレポート(30%)，期末試験(40%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔授　業　計　画〕

第１週　社会の情報化と図書館サービス
第２週　発信型情報サービス
第３週　社会における検索の位置づけ
第４週　新しい技術を使ったサービス
第５週　資料の電子化に応じたサービス
第６週　情報リテラシー教育
第７週　個別支援型サービス
第８週　レファレンスサービスの発展と情報サービスへの展開
第９週　レファレンス質問
第10週　レファレンス事例の活用
第11週　情報探索・利用環境の整備
第12週　情報サービスの管理と運営
第13週　電子的な情報源の実際
第14週　情報サービスの情報源
第15週　まとめ

児童サービス論Ｂ

3801002000200

副　題								担　当　者	山口　雅子　講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	2	コース・ナンバー	INF-289-LA

〔授業の到達目標〕
図書館活動における児童サービスの意義を理解する。実際に児童資料を手に取り，絵本の読み聞かせやブックトークの演習を行うことによって，具体的な仕事のイメージをつかむ。

〔授業の内容〕
児童に対する図書館活動は，成人を対象としたものとは，別の専門性も必要とする。ここでは，まず，日本の児童図書館の歴史を，日本及び欧米の児童文学の発達と対照しつつ辿り，児童図書館の存在の意味と，児童サービスの意義を考える。その上で，乳幼児からヤングアダルトまでという，幅広い利用者を対象とした資料や，年齢層別の選書，サービスの在り方について解説。また，保健所や学校など関連施設との連携や協力によるサービスについても言及する。読書を助けるための様々なサービス（主として，絵本の読み聞かせ，ブックトーク，ストーリーテリング）については，その基本を学ぶと共に，なぜそれが必要なのかについても考え，演習を通して，その意義を確認する。

〔教材〕
授業中に追って指示する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
演習の準備，レポート作成のために，必ず一度は公共図書館の児童室を訪問すること。
演習に臨むには，相応の準備と時間が必要であることを心得ておくこと。

〔成績評価の方法〕
演習(50%)とレポート(50%)によって評価する。（学期末試験は行わない。）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は，授業後に受け付ける。それ以外の時間は，サポートセンターを通じて連絡をとること。

〔備考〕
受講希望者数によって人数制限をすることがある。

〔授　業　計　画〕

第１週　子供の頃の図書館体験や読書体験を思い出してみる。実際に絵本の読み聞かせとストーリーテリングを聞く。その他
第２週　日本と欧米の児童文学史及び児童図書館の発達について
第３週　〃
第４週　子供と読書　・　児童サービスの意義
第５週　子供の成長と児童資料（ブックスタートからヤングアダルトまで）
第６週　児童図書館員の仕事と役割
第７週　選書
第８週　蔵書構成と選書　・　レファレンス
第９週　児童サービスの技術と実際（絵本の読み聞かせ）
第10週　児童サービスの技術と実際（ブックトーク，紹介文，その他）
第11週　児童サービスの技術と実際（ストーリーテリング）
第12週　資料の紹介及び評価／絵本・幼年文学（学生による絵本の読み聞かせとブックトークを含む）
第13週　資料の紹介及び評価／昔話・小学初級・中級向け創作（学生によるブックトークを含む）
第14週　資料の紹介および評価／小学上級・ヤングアダルト向け創作及びノンフィクション全般（学生によるブックトークを含む）
第15週　まとめと解説
授業内に，絵本の読み聞かせ，ブックトークの演習を課すので，しっかりと準備をして，積極的に参加してほしい。

情報検索演習 A

3801006100100

副　題								担　当　者	江藤　正己　専任講師
単位	2	配当年次	第4セメスター～	開講期間	春学期	曜日	水	時限	1	コース・ナンバー	INF-390-LA

〔授業の到達目標〕
演習課題を数多く解くことにより，情報検索に関する実践的な能力を修得する
個別システムの操作方法を習熟する
今後開発される新しい検索システムにも対応できるようになる
図書館がおこなっている発信型の情報サービスについて知る

〔授業の内容〕
第４セメスター以降に在籍する学生を対象とする（科目等履修生は，第２学年第２学期以降）。
まず，身近な検索システムであるサーチエンジンを使って情報検索の考え方を説明する。その後，情報検索システムの理論に関する解説をまじえながら，図書や雑誌を対象とした検索方法や各種データベースの使い方等をみていく。
各授業は，基本的に，前半がシステムの概要や検索技術の説明，後半が検索課題を用いた演習となる。なお，授業時間中に終わらなかった課題は宿題になる。

〔教材〕
参考書：藤田節子『キーワード検索がわかる』（ちくま新書）筑摩書房，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
返却された課題を復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度(30%)，課題(60%)，小テスト(10%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕
履修人数制限をおこなうことがあるため初回授業に出席すること（出席できない場合は，必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。
小テストは，最終授業日に実施予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報検索の基礎
第２週　サーチエンジン
第３週　大学図書館のOPAC
第４週　NDL-OPAC
第５週　件名を使った検索
第６週　検索サービスの評価
第７週　雑誌記事(電子ジャーナルを含む)
第８週　シソーラスを使った検索
第９週　書誌ユーティリティー
第10週　一般雑誌記事・新聞記事
第11週　各種情報源の特徴と選択方法
第12週　検索技術の最新動向
第13週　その他の検索
第14週　パスファインダー
第15週　理解度の確認，まとめ

情報検索演習Ｂ

3801006100200

副　題								担　当　者	江藤　正己　専任講師
単位	2	配当年次	第4セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	INF-391-LA

〔授業の到達目標〕

演習課題を数多く解くことにより，情報検索に関する実践的な能力を修得する
個別システムの操作方法を習熟する
今後開発される新しい検索システムにも対応できるようになる
図書館がおこなっている発信型の情報サービスについて知る

〔授業の内容〕

第４セメスター以降に在籍する学生を対象とする（科目等履修生は，第２学年第２学期以降）。

まず，身近な検索システムであるサーチエンジンを使って情報検索の考え方を説明する。その後，情報検索システムの理論に関する解説をまじえながら，図書や雑誌を対象とした検索方法や各種データベースの使い方等をみていく。

各授業は，基本的に，前半がシステムの概要や検索技術の説明，後半が検索課題を用いた演習となる。なお，授業時間中に終わらなかった課題は宿題になる。

〔教材〕

参考書：藤田節子『キーワード検索がわかる』（ちくま新書）筑摩書房，2007年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
返却された課題を復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度(30%)，課題(60%)，小テスト(10%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。

連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕

履修人数制限をおこなうことがあるため初回授業に出席すること（出席できない場合は，必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。

小テストは，最終授業日に実施予定。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報検索の基礎
第２週　サーチエンジン
第３週　大学図書館のOPAC
第４週　NDL-OPAC
第５週　件名を使った検索
第６週　検索サービスの評価
第７週　雑誌記事(電子ジャーナルを含む)
第８週　シソーラスを使った検索
第９週　書誌ユーティリティー
第10週　一般雑誌記事・新聞記事
第11週　各種情報源の特徴と選択方法
第12週　検索技術の最新動向
第13週　その他の検索
第14週　パスファインダー
第15週　理解度の確認，まとめ

レファレンスサービス演習Ａ

3801001700100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	1	コース・ナンバー	INF-292-LA

〔授業の到達目標〕
基本的なレファレンスツールについて理解し，具体的な演習を通じて適切に活用できるようにする。

〔授業の内容〕
＊「レファレンスサービス演習B」と同じ内容
最初にレファレンスサービスの概要を簡単に解説し，情報サービスに用いる資料の多様性が増す中，各資料の特性を踏まえ，課題に応じて適切に活用する必要があることについて理解を深める。その後，テーマ別にどのような資料を使い，調査できるかを演習を通じて修得する。演習の評価は提出されたレポートをできる限り詳細に取り上げながら解説を加えていく。この解説を通じて，課された課題に対する正答やその他，利用可能な情報源についての知識だけではなく，利用者にとってどのように回答を提示することが望ましいかについての理解を深めていく。

〔教材〕
教科書：田村俊作『新訂情報サービス論』（新現代図書館学講座）新訂版，東京書籍，2010年
参考書：長澤雅男；　石黒祐子『レファレンスブックス：　選びかた・使いかた』新訂版，日本図書館協会，2015年
教科書に基づいて授業を行うので，必携のこと。（江藤先生ご担当「情報サービス論」と兼用）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時に説明した分野について，課題を授業時間外に行い，それをレポートして提出することを求める。提出翌週の授業で答え合わせをするが，自分が割り当てられた課題以外については，きちんと復習すること。

〔成績評価の方法〕
課題（８回　56点），試験（44点）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日4,5限
日本文化学科事務室を通じて，あるいは，電子メールにて

〔備考〕
欠席した週の配布資料をサポートセンターで受け取り，期日通り課題を提出すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報サービスとは
第２週　レファレンス情報資源の種類
第３週　レファレンスコレクションの構築
第４週　レファレンスプロセス：レファレンスインタビューの重要性
第５週　書誌事項に関する決まり，実際の読み方，書き方
第６週　図書の探し方
第７週　雑誌に関する情報源
第８週　新聞に関する情報源
第９週　百科事典，言葉の情報源
第10週　人物・団体に関する情報源
第11週　地名に関する情報源
第12週　歴史・日時に関する情報源
第13週　図書・叢書に関する情報源および翻訳書誌
第14週　統計の情報源および白書
第15週　まとめ

レファレンスサービス演習Ｂ

3801001700200

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	INF-293-LA

〔授業の到達目標〕
基本的なレファレンスツールについて理解し，具体的な演習を通じて適切に活用できるようにする。

〔授業の内容〕
＊「レファレンスサービス演習Ａ」と同じ内容
最初にレファレンスサービスの概要を簡単に解説し，情報サービスに用いる資料の多様性が増す中，各資料の特性を踏まえ，課題に応じて適切に活用する必要があることについて理解を深める。その後，テーマ別にどのような資料を使い，調査できるかを演習を通じて修得する。演習の評価は提出されたレポートをできる限り詳細に取り上げながら解説を加えていく。この解説を通じて，課された課題に対する正答やその他，利用可能な情報源についての知識だけではなく，利用者にとってどのように回答を提示することが望ましいかについての理解を深めていく。

〔教材〕
教科書：田村俊作『新訂情報サービス論』（新現代図書館学講座）新訂版，東京書籍，2010年
参考書：長澤雅男；　石黒祐子『レファレンスブックス：　選びかた・使いかた』新訂版，日本図書館協会，2015年
教科書に基づいて授業を行うので，必携のこと。（江藤先生ご担当「情報サービス論」と兼用）

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業時に説明した分野について，課題を授業時間外に行い，それをレポートして提出することを求める。提出翌週の授業で答え合わせをするが，自分が割り当てられた課題以外については，きちんと復習すること。

〔成績評価の方法〕
課題（８回　56点），試験（44点）。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日4,5限
日本文化学科事務室を通じて，あるいは，電子メールにて

〔備考〕
欠席した週の配布資料をサポートセンターで受け取り，期日通り課題を提出すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報サービスとは
第２週　レファレンス情報資源の種類
第３週　レファレンスコレクションの構築
第４週　レファレンスプロセス：レファレンスインタビューの重要性
第５週　書誌事項に関する決まり，実際の読み方，書き方
第６週　図書の探し方
第７週　雑誌に関する情報源
第８週　新聞に関する情報源
第９週　百科事典，言葉の情報源
第10週　人物・団体に関する情報源
第11週　地名に関する情報源
第12週　歴史・日時に関する情報源
第13週　図書・叢書に関する情報源および翻訳書誌
第14週　統計の情報源および白書
第15週　まとめ

図書館情報資源概論

3801001300100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	INF-194-LA

〔授業の到達目標〕
　図書館で扱う情報資源の多様性や個々の特徴，それらを図書館でどのように収集・提供するかについて理解する。

〔授業の内容〕
　図書館では，さまざまな形態の資料を図書館資料として扱っており，近年，その多様化はますます進んでいる。特に，電子メディア及びネットワークは図書館資料の枠組みを大きく変えることになった。これは，資料の多様性の問題だけではなく，図書館員の知識や技能の範囲の拡大，経済性，法的な枠組みの変化といった問題と密接に結びついている。
　本科目では，図書館で扱われる多様なメディアの特性を，それらの出版・流通経路，図書館における蔵書構築及び評価方法，媒体の劣化や経済性を視野に入れた保存法等について広く理解することを目的とする。また，それらのメディアを扱うための図書館員の技能についても考えていく。

〔教材〕
参考書：平野英俊ほか『図書館情報資源概論』（現代図書館情報学シリーズ）樹村房，2012年
　教科書は特に用いないが，授業の大筋は参考書としてあげた文献に基づくので，予習や復習に役立ててほしい。授業中にプリントを配布する他，参考書を適宜挙げていく。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
　利用したことがないメディアについて，あるいはそれらの利用法について授業中に言及することが多いので，授業時間外に実際に確認して復習し，それらの特徴の習得に努めること。

〔成績評価の方法〕
　平常点（３割）（授業中にビデオを見た場合にレポートを求めたり，あるトピックについての意見を授業時間内にレポートとして求めたりする）及び期末レポート（７割）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
　水曜4, 5限
　日本文化学科事務室を通じて，あるいは，電子メール

〔備考〕
　欠席した場合は，次週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認して受け取っておくこと。

〔授　業　計　画〕

第１週　図書館資料の多様性
第２週　図書館資料の出版と流通
第３週　図書館における知的自由
第４週　図書資料
第５週　図書資料２
第６週　逐次刊行物１
第７週　逐次刊行物２
第８週　電子媒体資料１
第９週　電子媒体資料２
第10週　行政資料と郷土資料
第11週　障がい者のための図書館資料と再生装置
第12週　メディアの劣化と保存（マイクロ資料・光媒体）
第13週　コレクション構築の仕組みと手法
第14週　コレクションの評価
第15週　図書館資料をめぐる社会的な動き

情報資源組織論

3801002200100

副　題								担　当　者	木村　麻衣子　講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	1	コース・ナンバー	INF-195-LA

〔授業の到達目標〕

図書館において目録がいかに重要な役割を果たしているかを理解し，内容に着目した分類や件名標目の付与および典拠コントロールの必要性，書誌ユーティリティ形成の必要性を説明できるようになる。また，図書館や情報資源をめぐる環境変化に伴い，目録の世界が今まさに変化しつつあることを理解し，従来の図書館目録と，新しい図書館目録の相違点を説明できるようになる。

〔授業の内容〕

図書館が，情報資源をどのように組織してきたかという歴史を踏まえ，書誌コントロールや典拠コントロールの実際，利用者の視点に立った目録作成について，講義する。また，内容からの検索を可能にするための方策として，分類や件名を用いた主題目録の基礎を概説する。さらに,情報資源の多様化に伴う新たな方向性としての新しい目録規則やフォーマットについて，国際的な動きを踏まえて概観し，従来の目録との相違点を考えていく。

〔教材〕

教科書：田窪直規編『情報資源組織論』（現代図書館情報学シリーズ）樹村房，2011年
参考書：日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第4版，丸善，2013年

指定の教科書を持参すること。補完的にプリントを配布することもあるので，欠席した場合は，翌週までにサポートセンターにて受領し，授業に持参すること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

1．図書館でOPACを使って資料を探してみること。
2．OPACの書誌画面にどのような情報が含まれているか気をつけて見てみること。
3．教科書に予め目を通してから授業に臨むこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（50%），小テスト２回（50%）による。
平常点は授業記録提出によって与える。
ただし，原則として，欠席回数が５回以上となった場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問は授業後またはメールにて受け付ける。メールアドレスは初回の授業で知らせる。

〔授　業　計　画〕

第１週　図書館における情報資源組織（１）
第２週　図書館における情報資源組織（２）
第３週　図書館目録の機能と構成要素
第４週　目録法と目録規則
第５週　記述と標目
第６週　目録法の新しい動向
第７週　記述目録法まとめ
第８週　情報資源への主題からのアプローチ
第９週　分類法
第10週　語による主題組織法
第11週　コンピュータ目録とOAPCのしくみ
第12週　書誌ユーティリティ
第13週　メタデータ
第14週　書誌コントロール
第15週　理解度の確認，まとめ

授業記録の取り方について，第２回目の授業で説明するので，欠席しないこと。

情報資源組織演習I

3801002300100

副　題								担　当　者	木村　麻衣子　講師
単位	2	配当年次	第3セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INF-296-LA

〔授業の到達目標〕
図書館における目録規則を理解し，『日本目録規則1987年版改訂３版』にもとづく目録作成を実際に行えるようになる。カード目録のほか，国立情報学研究所が運営する総合目録データベースNACSIS-CATで使用されている書誌フォーマット，国立国会図書館で使用されているJAPAN/MARC MARC21書誌フォーマットも理解し，書誌記述ができるようになる。

〔授業の内容〕
情報資源組織演習のうち，主として目録作成演習を扱う。『日本目録規則1987年版改訂３版』に基づいたさまざまな資料に対する目録作成演習を行う。

〔教材〕
参考書：和中幹雄，山中秀夫，横谷弘美『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズIII）日本図書館協会，2014年
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則1987年版改訂3版』日本図書館協会，2006年
教科書は指定しない。初回の授業で，演習に使用するプリントを配布するので，毎回持参すること。そのほかに，適宜プリントを配布することがある。授業を休んだ場合は，次週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認し，必要に応じて受け取ること。
参考書に挙げた『日本目録規則1987年版改訂３版』は授業で使用するため，サポートセンターで１人１冊貸与する。毎回授業前に借りること。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
毎回，『日本目録規則1987年版改訂３版』をサポートセンターで借りて，授業開始までに目を通しておくこと。
授業中に作成した書誌記述は，赤ペンで修正し，「なぜ，このような記述になるのか」を考えながら復習すること。

〔成績評価の方法〕
平常点（30%），課題の達成度（35%），小テスト（35%）による。
ただし，原則として，欠席回数が５回以上となった場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問は授業後またはメールにて受け付ける。メールアドレスは初回授業で知らせる。

〔備考〕
グループ分けをして演習を行うことがあるので，やむをえない事情（電車の遅延など）がある場合を除き遅刻は認めない。
赤いボールペンを持参すること。

〔授　業　計　画〕

第１週　目録とは何か
第２週　『日本目録規則1987年版改訂３版』の解説１
第３週　『日本目録規則1987年版改訂３版』の解説２
第４週　各書誌的事項の記載方法１
第５週　各書誌的事項の記載方法２
第６週　標目と典拠コントロール
第７週　書誌階層構造
第８週　カード目録の作成
第９週　各種資料の記述１
第10週　各種資料の記述２
第11週　NACSIS-CATでの目録作業１
第12週　NACSIS-CATでの目録作業２
第13週　JAPAN/MARC MARC21フォーマットの解説
第14週　JAPAN/MARC MARC21フォーマットでの書誌レコード作成
第15週　理解度の確認，まとめ

情報資源組織演習II

3801002400100

副　題								担　当　者	木村　麻衣子　講師
単位	2	配当年次	第3セメスター～	開講期間	春学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INF-297-LA

〔授業の到達目標〕
「情報資源組織論」で学んだ主題分析に基づく情報資源組織化の理論と技術への理解を深める。分類法や索引法について，演習を通して深く学び，情報資源組織業務の実践的な能力を身につける。最新の日本十進分類法新訂10版および基本件名標目表の使い方を学び，適切な分類・件名が付与できるようになる。

〔授業の内容〕
主題目録法（分類法と索引法）による情報資源の組織化を演習形式で扱う。まず，図書等の紙媒体資料に対して件名と分類を付与する演習をそれぞれ行う。件名付与の演習では基本件名標目表を，分類付与の演習では日本十進分類法新訂10版を用いる。その後，分類記号を使って請求記号を付与する方法についても学び，一つの資料に対して分類・件名・請求記号を付与する総合的な情報資源組織化の演習を行う。

〔教材〕
参考書：和中幹雄，山中秀夫，横谷弘美『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズIII）日本図書館協会，2014年
教科書は指定しない。適宜プリントを配布するので，授業を休んだ場合は，次週までにサポートセンターで配布資料の有無を確認し，必要に応じて受け取ること。
日本十進分類法と基本件名標目表はサポートセンターにて貸与する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
1. 図書館のOPACを検索した際には，分類記号と件名標目の表示を確認する。
2. 日常的に，自分が手にする本は一言で表すとどのような内容かを考え，主題分析の練習をする。
3. 日本十進分類法や基本件名標目表をサポートセンターで借りた際には，授業開始前にざっと眺めておく。

〔成績評価の方法〕
平常点（30%），課題の達成度（35%），小テスト２回（35%）による。
ただし，原則として，欠席回数が５回以上となった場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問は授業後またはメールにて受け付ける。メールアドレスは初回授業で知らせる。

〔備考〕
グループ分けをして演習を行うことがあるので，やむをえない事情（電車の遅延など）がある場合を除き遅刻は認めない。

〔授　業　計　画〕

第１週　主題目録法とは
第２週　基本件名標目表の構造と概要（１）
第３週　基本件名標目表の構造と概要（２）
第４週　基本件名標目表を用いた件名作業の演習（１）
第５週　基本件名標目表を用いた件名作業の演習（２）
第６週　日本十進分類法の概要（１）
第７週　日本十進分類法の概要（２）
第８週　日本十進分類法を用いた分類の演習（１）
第９週　日本十進分類法を用いた分類の演習（２）
第10週　日本十進分類法を用いた分類の演習（３）
第11週　請求記号の付与
第12週　総合演習（１）
第13週　総合演習（２）
第14週　総合演習（３）
第15週　理解度の確認，まとめ

図書館基礎特論

3802010200100

副　題								担　当　者	江藤　正己　専任講師
単位	2	配当年次	第5セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	1	コース・ナンバー	INF-381-LB

〔授業の到達目標〕
「図書館情報技術論」の科目で学んだ図書館に関わる情報技術の理解をさらに深める
Webやデータベースに関する技術を組み合わせた情報発信ができる
今後の高度な情報化社会における図書館や図書館員の位置づけを予測できる

〔授業の内容〕
第５セメスター以降に在籍する学生を対象とする（科目等履修生は，第３学年第１学期以降）。
Webやデータベースなどの情報技術を対象とした，PCを用いた演習形式の授業である。主としてWeb上で配布・公開されている素材（テンプレートやプログラム・ソフトウェア，API等）を用いて，図書館ホームページやそのコンテンツ（新着雑誌記事速報など動的に変化するものも含む）の構築をおこなう。国立国会図書館が運営するデータベース等の図書館関連のAPIだけでなく，Twitterなど一般的な情報システムが提供しているAPIも扱い，広い観点から図書館に関わる情報技術を解説する。

〔教材〕
参考書：牧野雄二，川嶋斉『新着雑誌記事速報から始めてみよう: RSS･APIを活用した図書館サービス』（JLA図書館実践シリーズ）日本図書館協会，2012年
松村真宏，三浦麻子『人文・社会科学のためのテキストマイニング』改訂新版，誠信書房，2014年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
授業前に授業用サイトに目を通しておくこと。
授業で用いたソフトウェアについて復習しておくこと。

〔成績評価の方法〕
授業への参加態度(30%)，演習課題(50%)，レポート(20%)
ただし，授業実施回数の３分の１以上欠席した場合，成績評価の対象としない。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
水曜日の午前11時から12時。事前にメール等でアポイントをとることが望ましい。アポイントがない場合，対応できないことがある。
連絡用のメールアドレスを初回授業時に指示する。

〔備考〕
プログラミングに関する知識は不要であるが「図書館情報技術論」の科目内容を理解している（≒単位を修得済みである）ことを前提に授業を展開する。
履修者の人数制限をおこなうことがある。初回授業には出席すること（出席できない場合は，必ず事前にサポートセンターに連絡しておくこと）。

〔授　業　計　画〕

第１週　情報技術を活用した図書館サービス
第２週　Web技術に関する基礎事項の確認（１）
第３週　Web技術に関する基礎事項の確認（２）
第４週　マッシュアップ技術を用いた情報システム
第５週　特定トピックナビゲーションシステムの作成（１）
第６週　特定トピックナビゲーションシステムの作成（２）
第７週　新着雑誌記事速報の作成（１）
第８週　新着雑誌記事速報の作成（２）
第９週　オープンデータと図書館
第10週　レファレンス協同データベースAPIの活用（１）
第11週　レファレンス協同データベースAPIの活用（２）
第12週　Twitter APIの活用（１）
第13週　Twitter APIの活用（２）
第14週　今後の高度な情報社会における図書館や図書館員の位置づけ
第15週　まとめ

図書・図書館史

3802010400100

副　題	書物と図書館の成り立ち							担　当　者	白戸　満喜子　講師
単位	2	配当年次	第2セメスター～	開講期間	秋学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	INF-182-LB

〔授業の到達目標〕
漢籍(中国の古書)･和古書・洋古書に関する基礎用語を理解し，古書と図書館に関する知識を習得することが到達目標であり,同時に司書という職につくために必要な教養と判断力を身につけてもらいたい。

〔授業の内容〕
図書館において保存・公開される書物と図書館という施設に関して，中国・日本・西洋のそれぞれにおいてどのような歴史をたどったかについて講義する。特に日本の書物の成り立ちについては形態・生産・流通・制度に関する歴史的発展を概説し，和古書の取り扱い方と修復についても講義する。

〔教材〕
教科書：櫛笥節夫『書庫渉猟』おうふう
参考書：廣庭基介　長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社
藤井隆『日本古典書誌学総説』和泉書院
陳国慶『漢籍版本入門』研文出版
折田洋晴『インキュナブラの世界』日本図書館協会
高野彰『洋書の話』丸善
ジョン・カーター『西洋書誌学入門』国書出版社
モーリーン・サワ『本と図書館の歴史』西村書店
教科書『書庫渉猟』は授業時に随時参考とするが購入は必須としない。
授業で扱う和古書･漢籍に関する書誌学用語については『日本古典籍書誌学辞典』(岩波書店)を参考にするとよい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
あらかじめ日本史･世界史の基礎知識を確認しておくこと。(参考:『歴史手帳』吉川弘文館)
復習は各内容に合わせて教科書もしくは該当する内容の参考書を一読すること。

〔成績評価の方法〕
出席20%　学年末試験80%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
質問等は授業後に受け付ける。それ以外の時間はサポートセンター（情報科目・司書課程）を通じて連絡可能。

〔授　業　計　画〕

第１週　書誌学とは何か
第２週　漢籍と目録学
第３週　中国の図書館史
第４週　和古書の装訂
第５週　和古書の書型
第６週　版本の部分名称
第７週　洋古書の構成と部分名称
第８週　洋古書の書型と東洋の本との異同
第９週　紙以前の書写材料と製紙技術
第10週　印刷技術の伝播
第11週　活版印刷の登場と書物の大量生産
第12週　西洋の図書館史
第13週　日本の印刷・出版史
第14週　日本の図書館史
第15週　古書の取り扱い方と保存・修復
授業計画は進行順であり，実施週とは一致しない場合もある。

図書館サービス特論

3802010300100

副　題								担　当　者	越塚　美加　教授
単位	2	配当年次	第5セメスター～	開講期間	春学期	曜日	木	時限	1	コース・ナンバー	INF-383-LB

〔授業の到達目標〕

図書館を利用者が自分で自由に使えるようにするために図書館側が考慮すべき大きな要素としての最近の図書館利用者に対する理解を深める。また，自学自習による長期滞在型の利用が増加してきたことに伴い，図書館の物理的な構造や探索を助けるための各種ツールが必要なことを理解し，図書館利用上の快適さを実現するために配慮するべき点は利用者がおかれたさまざまな状況に応じて多様であることを理解する。

〔授業の内容〕

図書館の長時間滞在者が増加する傾向が各地で報告されているが，現在の公共図書館利用者の特性について文献に報告された内容をもとに議論する。また，読書を促進するうえでも，利用者自身が生涯学習の一部として調査研究を行う場合であっても，図書館の快適さは重要な要素となる。この中には，全体的な雰囲気，閲覧室や書架等の利用スペースの配置や雰囲気，照明，家具の色や形状，配置，音（騒音等），サイン計画等も含まれるが，利用者だけでなく，そこで働く人々にとっての快適さも重要となる。図書館の中にはさまざまな機能を持つ部屋や利用者の身体的条件が多様であることからも，多くの視点が必要となる。現在までの図書館建築に関する議論を踏まえ，具体的な図書館において，特にサイン計画の適切さに関連する調査を授業時間外に行い，その結果を元にグループごとに図書館の快適さについての分析及び考察を行う。この検討を通じて，図書館員としての仕事に必要不可欠なグループワークのごく初歩的な進め方も併せて習得する。

〔教材〕

教科書は特に指定せず，雑誌論文を中心に検討を加える。取り上げる文献は授業時にコピーを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

グループワークについては，授業時間外での単独調査をもとにして進める。結果の分析時間等，グループでの準備学習が必要とされるので，十分時間をかけて行うこと。

〔成績評価の方法〕

平常点（出席３割，グループ討議への貢献等３割，合計６割），期末レポート（４割）による。いずれが欠けても合格に達したとみなさないので，注意すること。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

水曜日4,5限
日本文化学科事務室を通じて，あるいは，電子メールにて

〔授　業　計　画〕

第１週　図書館利用者の特性とそれに応じた図書館の快適さを模索する必要性
第２週　図書館利用者とは
第３週　近年の日本の公共図書館における利用者層の変化１
第４週　近年の日本の公共図書館における利用者層の変化２
第５週　エンベッディッド・ライブラリアンの議論に見られる利用者の変化
第６週　図書館の立地と利用者
第７週　図書館の快適さとは
第８週　浦安市立図書館のサインと利用しやすさに関する調査の検討１
第９週　浦安市立図書館のサインと利用しやすさに関する調査の検討２
第10週　調査結果について，グループでの検討
第11週　〃
第12週　〃
第13週　〃
第14週　調査結果の発表及び議論
第15週　まとめ

グループワークのための調査は授業時間外に行う必要があり，また後半はグループワークが中心になるので，積極的な貢献を求める。

学芸員課程

平成 28 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

平成 24 年度以降入学者用

学 芸 員 課 程　平成 28 年度授業科目および担当者

博物館法施行規則による科目	科目群	本学の対応授業科目	コース・ナンバー	単位	履修年次	履修単位	学期		担　当　者	頁
博物館概論	学芸員課程必修科目	博物館概論	MSE-181-CA	2	1	10科目19単位	春		清水　敏男	874
博物館展示論		博物館展示論	MSE-182-CA	2	1			秋集中	窪田　研二	875
博物館経営論		博物館経営論	MSE-283-CA	2	2～3		春		田中　裕二	876
博物館資料論		博物館資料論	MSE-284-CA	2	2～3		春		松田　睦彦	877
博物館教育論		博物館教育論	MSE-285-CA	2	2～3		春集中		黒沢　　伸	878
博物館資料保存論		博物館資料保存論	MSE-286-CA	2	2～4			秋	大川　美香	879
博物館情報・メディア論		博物館情報・メディア論	MSE-287-CA	2	2～4			秋	安田　篤生	880
生涯学習概論		生涯学習概論	INF-181-LA	2	2～4			秋	塚原　正彦	852
博物館実習		博物館実習ＩＡ	MSE-488-CA	1	4		春集中		清水　敏男	881
		博物館実習ＩＢ	MSE-489-CA	1	4		春集中		児島やよい	882
		博物館実習ＩＩＡ	MSE-490-CA	2	4			秋集中	清水　敏男	883
		博物館実習ＩＩＢ	MSE-491-CA	2	4			秋集中	児島やよい	884

博物館概論

3810011100100

副　題	博物館学の基礎							担　当　者	清水　敏男　教授		
単位	2	配当年次	1	開講期間	春学期	曜日	土	時限	2	コース・ナンバー	MSE-181-CA

〔授業の到達目標〕
博物館に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕
「授業のねらい」博物館概論ではまず博物館とは何かを理念，成立史の基本から学び，博物館の存在意義を理解する。さらに，我が国のみならず諸外国における法令，制度，組織を学び，実務を実行するうえでの基礎的知識を身につける。また学芸員について，理念，職責，実務について理論的かつ具体的に学び,専門職員としての知識を体得し自覚をもつことを目的とする。
「科目概要」西欧における博物館の歴史を説くことで博物館の概念成立の事情ならびに理念を学び，ついで日本における成立の歴史を学ぶことで理念，成立の経緯を学ぶ。我が国の博物館法ならびに関連法令，諸外国の法令を学び，定義，種類，分類，制度，組織，博物館に関わる組織等について理解する。学芸員ならびに博物館の諸職員の業務について定義から現実の業務にいたるまでその基礎的知識を身につける

〔教材〕
教科書：米屋優ほか『現代美術館学』昭和堂，2003年
松宮秀治『ミュージアムの思想』白水社，2003年
ジャック・サロワ『フランスの美術館・博物館』白水社，2003年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
教科書（参考書）を熟読すること。博物館，展覧会の調査を行いレポートをまとめること。

〔成績評価の方法〕
出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本），期末レポート（2000字）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
木曜日12時半から１時，２時半から３時

〔備考〕
学芸員課程正規履修者となるためには，本授業ならびに「博物館展示論」の単位を履修１年目に修得しなくてはならない。

〔授　業　計　画〕

第１週　西欧における博物館の歴史と理念1(中世末からルネッサンス，絶対王制)
第２週　西欧における博物館の歴史と理念2(啓蒙主義，近代)
第３週　日本の博物館の歴史と理念１（幕末から明治）
第４週　日本の博物館の歴史と理念２（大正から昭和，平成）
第５週　博物館法を読む１（博物館の目的，社会教育法等関連法令，博物館の定義）
第６週　博物館法を読む２（博物館の定義と事業：収集，保管，利用，教育等）
第７週　博物館法を読む３（学芸員の定義，制度，職務，学芸員以外のスタッフ）
第８週　博物館法を読む４（国立博物館，公立美術館と関連法令）
第９週　博物館法を読む５（私立博物館と民法等関連法令，NPO法人）
第10週　博物館法を読む６（登録博物館，相当施設，類似施設）
第11週　博物館の収支・税金，マネジメント，知的所有権管理，契約
第12週　展示，広報，出版，教育普及事業
第13週　企画展覧会の製作の実際（企画から実施まで）
第14週　我が国ならびに諸外国の博物館の現状
第15週　まとめ（博物館学史，学芸員の責務，国際組織と国際協力）

博物館展示論

3810011200100

副　題								担　当　者	窪田　研二　講師
単位	2	配当年次	1	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-182-CA

〔授業の到達目標〕

展覧会が作られる流れや仕組みを学び，その中における展示の役割や重要性を認識する。

〔授業の内容〕

博物館展示の意義，博物館展示の実際および展示の解説活動を10回～12回の講義によって解説し，展覧会を企画する際に作成する展示企画を演習としておこない，最後の授業において各自が発表をおこなう。

〔教材〕

教科書：木下史青『博物館へ行こう』岩波ジュニア新書，2007年

現在東京国立博物館のデザイン室長である著者が博物館における展示デザインについての仕事内容や，世界の博物館を例に挙げながら，展覧会が出来ていく過程を紹介している。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

発表準備のための調査等に必要な時間：６時間程度

〔成績評価の方法〕

出席率および発表内容を重視。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学芸員課程事務室を通して連絡を取ること。

学芸員課程

〔授　業　計　画〕

第１回　展示論概説
第２回　〃
第３回　〃
第４回　〃
第５回　〃
第６回　グループワーク
第７回　〃
第８回　〃
第９回　〃
第10回　〃
第11回　〃
第12回　〃
第13回　〃
第14回　発表
第15回　〃

展示論概説：コミュニケーションとしての展示，調査研究の成果の提示，展示と展示論の歴史，展示の政治性と社会性，展示の諸形態，展示の製作（企画，デザイン），展示の製作（技術，施行等），関係者との協力（他館，所蔵者，専門業者等），展示の評価と改善・更新，解説文・解説パネル，人による解説，機器による解説，展示解説書（展示図録，パンフレット等），展示計画の作成（前半），展示計画の作成（後半）

前半は博物館・美術館における展示の歴史および諸形態を学び，展示におけるさまざまな役割や留意点を学習する。

後半はグループワークを実施し，展覧会の企画から展示企画の立案までをおこない，最終発表会を授業内でおこなう。

博物館経営論

3810011400100

副　題								担　当　者	田中　裕二　講師
単位	2	配当年次	2～3	開講期間	春学期	曜日	土	時限	1	コース・ナンバー	MSE-283-CA

〔授業の到達目標〕

指定管理者制度の導入や公益法人改革など行政改革の過程で，公立博物館を取り巻く環境は大きく変わった。潤沢な補助金に支えられていた時代から，自主的・自律的な経営判断が求められる時代となった。そこで，経営的視点からみた博物館の組織や機能を学び，学芸員として幅広い視野で博物館の運営に携わることができる実践力を養う。

〔授業の内容〕

講義担当者が勤務する公立博物館の事例を中心に，日本の博物館を取り巻く社会的環境の変化，特に指定管理者制度下の博物館が抱える諸課題を検証する。人材，組織，予算や事業内容など，現場の実務に対応した内容で講義を進める。講義形式を基本とするが，出来る限り出席者が意見を述べる機会を設け，活発な議論の場としたい。また，講義の進捗状況や履修生の人数などを考慮した上で，博物館のバックヤードや施設見学を組み込む予定。

〔教材〕

教科書：佐々木亨・亀井　修『博物館経営論』放送大学教育振興会，2013年

その他の参考書については適宜授業中に紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

講義内容について指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。授業開始前までに興味のある博物館・美術館を最低１館ピックアップし，その運営主体や設立目的等を調べ，常設展または特別展を見学しておくことが望ましい。

〔成績評価の方法〕

出席点（20%），発言（20%），課題に基づくレポートの提出（60%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学芸員課程事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　公立博物館を取り巻く環境１：なぜミュージアム・マネージメントが必要とされているのか
第２週　公立博物館を取り巻く環境２：指定管理者制度の導入と課題
第３週　博物館の使命，事業計画の策定と評価
第４週　博物館の人材，組織，予算
第５週　博物館の施設，設備，危機管理
第６週　博物館経営の手法：広報，マーケティング，利用者調査
第７週　博物館における連携１：他館，大学，行政，他機関との連携
第８週　博物館における連携２：地域社会との連携や活性化，ボランティアや支援組織
第９週　ミュージアムショップとレストランの経営
第10週　展覧会マネジメント１：展覧会の仕組み
第11週　展覧会マネジメント２：展覧会マネジメント
第12週　ファンドレイジング１：外部資金の導入
第13週　海外の博物館経営：イギリスとアメリカの博物館事例紹介
第14週　トップマネジメント：館長の役割
第15週　博物館経営の展望と課題：授業の総括

博物館資料論

3810011000100

副　題	人文系博物館資料を中心に							担　当　者	松田　睦彦　講師
単位	2	配当年次	2～3	開講期間	春学期	曜日	水	時限	2	コース・ナンバー	MSE-284-CA

〔授業の到達目標〕

博物館資料の収集，整理，保管等に関する理論や方法の習得，博物館の調査研究活動についての理解等を通じて，博物館で資料を扱う際の基礎的能力を養う。

〔授業の内容〕

人文系博物館における資料，とくに歴史・民俗資料の調査・収集・保存・修復・整理・公開といった一連の流れについて，おもに担当者の経験にもとづいて講義する。美術資料とは異なる，歴史・民俗資料特有の課題についても，学生の皆さんとともに考えたい。

〔教材〕

参考書：大堀哲／水嶋英治『博物館学Ⅰ（博物館概論／博物館資料論）』（博物館学教科書）学文社，2012年
国立歴史民俗博物館『被災地の博物館に聞く―東日本大震災と歴史・文化資料』吉川弘文館，2012年

教科書は講義では使用しない。したがって，事前に購入する必要はないが，適宜参考にしてほしい。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

本授業では博物館資料に関する知識のみならず，学芸員として必要とされる「ものをとおして考える力」の獲得を重視する。したがって，授業内容についての予習・復習によって自らの疑問を明確化してほしい。準備学習の具体的内容については適宜指示する。

〔成績評価の方法〕

通常の受講態度・出席（50%），レポート（50%）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

E-mail　matsuda●rekihaku.ac.jp（change ● to @）

学芸員課程

〔授　業　計　画〕

第１週　ガイダンス
第２週　博物館資料とは何か
第３週　資料の価値
第４週　国立歴史民俗博物館の展示
第５週　資料の収集と保存
第６週　資料調査の方法（１）
第７週　資料調査の方法（２）
第８週　資料調査の方法（３）
第９週　資料の取扱い
第10週　複製資料の価値と製作
第11週　写真による記録保存
第12週　映像の活用
第13週　資料の教育普及活動への活用
第14週　展示見学
第15週　まとめ

学外授業として，講師が勤務する国立歴史民俗博物館での展示およびバックヤード見学を行なう。

博物館教育論

3810011500100

副　題	広がる博物館活動とその可能性について考える	担　当　者	黒沢　伸　講師

単位	2	配当年次	2～3	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-285-CA

〔授業の到達目標〕

博物館における教育活動の歴史や変遷について知り，これらを俯瞰的にとらえる中で，博物館教育の目的や意義，基盤となる理論，通底する理念を理解する。

博物館における多様な教育活動の展開について知り，学校教育との違いなど，その特性や手法を理解した上で，新たな活動の可能性について考察できるようにする。

個々の学生の体験にもとづいて，それぞれの興味を具体的なプログラムとして展開する上で必要となる「課題を発見・整理する力」，「実践のための有効な手法をイメージする力」を習得する。

活動の実践に必要となるプレゼンテーション，コミュニケーションのメソッドについて課題・演習を通じて学び，そのスキルを高める。

〔授業の内容〕

近年，博物館相当施設における教育活動は，現場の創意工夫により多様性に富むものになってきた。こうした状況を社会的・歴史的背景をふまえつつ俯瞰し，具体的かつ様々な実践を知ることで，博物館の現在を把握，未来を展望する。

こうした概論的知見を講義の中で整理しつつ，課題演習を通して，各論として新しい教育プログラムの企画作成を試みる。それぞれのプログラムの持つ目的や対象，方法の最適化について考え，チーム毎に具体的なプログラム・活動内容をプレゼンテーションの形式で発表する。

学生相互のフィードバックをとおして，批評的な視座の獲得を目指す。

〔教材〕

教科書：小笠原喜康、並木美砂子、矢島國雄『博物館教育論　新しい博物館教育を描きだす』初版，株式会社　ぎょうせい，2012年

教科書以外の参考文献は授業中に紹介，配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

・教科書は受講前にひととおり目をとおしておくこと。

・授業初日までに，任意の博物館・美術館等（１カ所で良い）に実際に出向いて具体的な教育プログラム（※）を視察，または参加し，その報告（レポート，画像を含めてA4用紙１～2枚にレイアウト，書式自由）を作成しておくこと。そのプログラムの対象者（参加者），趣旨，内容，具体的な方法などに留意し，優れた面，改善点など各自の評価も含めてレポートすること。レポートは初日，全員に発表してもらいます。

（※：いわゆるワークショップや講演会など，主催者が「教育プログラム」と位置づけていなくても，例えば美術館での展示方法について，など，各自がその内容に教育的配慮があると判断したものであれば，分野や内容は問わない。）

・演習課題として，「自分が人に伝えたい（見せたい）もの（こと・人など）」に関する発表を行うので，事前に内容をイメージしておくこと。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度（30%），事前課題のレポート（10%）や授業で行う２つの演習課題（10%＋30%）及びそのプレゼンテーション（20%）を総合して評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学芸員課程事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

授業実施日は９月12（月），13（火），14（水）を予定。

コンピューターを使ったプレゼンテーションを行なうので，パワーポイント等，基本的なソフトウェアの利用は必須。

〔授　業　計　画〕

第１回　○ガイダンス：博物館教育論とは
　　★『市民教育の場としての博物館』
第２回　○博物館の利用と学び
　　・レポート発表とワークショップ
　　・博物館の利用実態と利用者の博物館体験
第３回　・博物館における学びの特性
　　★『博物館教育の基礎理論』
第４回　○博物館教育の実際-1
　　・博物館教育活動の手法（館内，館外）
　　・課題演習：教育プログラムの作成と考察-1
　　プログラムの作成のためのガイダンス
第５回　a.実践「伝える！」演習
　　b.教育プログラムの企画：テーマ，目的，ターゲット設定
第６回　○博物館教育の実際-2
　　・課題演習：教育プログラムの作成と考察-2
　　a.実践「伝える！」演習の発表と講評
第７回　○博物館教育の意義と理念
　　・博物館教育の歴史と変遷
　　★『日本の博物館教育史』
第８回　・コミュニケーションとしての博物館教育
　　（博物館教育の双方向性，博物館諸機能の教育的意義）
第９回　○　博物館教育の実際-3
　　・課題演習：教育プログラムの作成と考察-3
第10回　b.教育プログラムの企画：詳細案作成
第11回　○博物館教育の実際-4
　　・課題演習：教育プログラムの作成と考察-4
第12回　b.教育プログラムの企画-プレゼンテーション作成
第13回　○博物館教育の実際-5
　　・事例検証：博物館と学校教育
　　・課題演習：教育プログラムの作成と考察-5
　　b.教育プログラムの企画：発表と講評
第14回　○総括とまとめ
　　・　第４世代の博物館についての考察
　　（生涯学習，人材養成，地域と博物館，博物館リテラシー）
　　★『ジュニア学芸員を育てる』／★『これからの博物館』
第15回　・博物館教育の方針と評価
　　・学びの意義，博物館の存在意義

★　印は教科書を使用して行うので，授業初日までに関連項を熟読，予習しておくこと。

博物館資料保存論

3810011300100

副　題								担　当　者	大川　美香　講師		
単位	2	配当年次	2～4	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	MSE-286-CA

〔授業の到達目標〕

美術館・博物館における最適な資料保存・展示・収蔵のための知識を習得することを通じて，資料の状態把握・修復から資料周辺の環境や資料の活用に至るまでの基礎的能力を養う。

〔授業の内容〕

美術館・博物館における保存に関する具体的な取り組みや美術品を中心とする資料の調査・修復の実施例により，科学的な視点で博物館における資料保存に必要な知識を学ぶ機会を提供する。

〔教材〕

参考書：石崎武志『博物館資料保存論』第2版，講談社，2013年

教科書は使用せず，毎回プリントを配布する。参考文献についてもプリントを配布する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

参考書又は初回に配布する参考文献リストからそれぞれの回に関連する文献を選び，読んでおくこと。

〔成績評価の方法〕

学期末に提出する１回のレポート(50%)および出席状況(50%)により評価する。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

質問は，授業終了後またはメール（artconslab●pop02.odn.ne.jp（change ● to @）)まで。

学芸員課程

〔授　業　計　画〕

第１週　博物館における資料保存（ガイダンス）
第２週　資料の構造
第３週　資料の状態
第４週　資料の科学的調査の方法
第５週　資料の科学的調査の事例
第６週　資料の調査（実習）
第７週　資料の修復１
第８週　資料の修復２
第９週　資料の保存と環境
第10週　資料の生物被害とIPM
第11週　資料の保存対策
第12週　資料と災害
第13週　資料の取り扱いと輸送・梱包
第14週　資料の取り扱い（実習）
第15週　博物館の取り組み事例とこれから（資料活用等）
授業計画は変更することがある。

博物館情報・メディア論

3810011600100

副　題								担　当　者	安田　篤生　講師		
単位	2	配当年次	2～4	開講期間	秋学期	曜日	月	時限	2	コース・ナンバー	MSE-287-CA

〔授業の到達目標〕

博物館における情報の意義とその活用方法及び情報発信の課題等について理解し，博物館活動における情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

〔授業の内容〕

メディアはわれわれの日常生活の隅々にまで浸透し，デジタル情報に依存したライフスタイルが出来上がっている。今日の博物館活動においても，収集・展示・教育普及・調査研究などあらゆる面においてメディアの理解と活用・応用が求められ，そうしたメディアによる情報の管理・発信が必要になっている。主だったメディアの歴史と基本知識を振り返りつつ，メディアの時代における博物館活動を考えていきたい。

〔教材〕

教科書は使用しないが，参考文献は授業中に必要に応じて紹介する。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

ノートは授業中にとるだけではなく読み返すことで，さらに必要があれば自分で調べて補完することで内容が自分のものになります。また，当然ながら，学芸員課程のほかの科目とつながっている科目なので，自分の中でそれらをリンクさせて，課程全体の内容を身につけるようにしてください。

〔成績評価の方法〕

期末試験ならびに出席状況により評価する。期末試験は自筆ノートの持込可。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学芸員課程事務室を通して連絡を取ること。

〔授　業　計　画〕

第１週　はじめに－メディアとは
第２週　博物館・情報・メディア
第３週　メディアと人間―歴史の中から（１）
第４週　メディアと人間―歴史の中から（２）
第５週　メディアと人間―歴史の中から（３）
第６週　メディアと人間―歴史の中から（４）
第７週　メディアと人間―歴史の中から（５）
第８週　メディアと人間―歴史の中から（６）
第９週　デジタル時代の博物館活動（１）
第10週　デジタル時代の博物館活動（２）
第11週　デジタル時代の博物館活動（３）
第12週　デジタル時代の博物館活動（４）
第13週　デジタル時代の博物館活動（５）
第14週　デジタル時代の博物館活動（６）
第15週　まとめ－メディアとしての博物館

前半は，博物館活動に縁の深いメディアの歴史（具体的には写真・映画・印刷など）を概観しながら「メディアと人間」の基本的な問題を考える。後半は，デジタル時代における博物館活動（すなわち展示・収集保存・教育普及・調査研究）の現状と課題を，学芸員の現場の視点から考察する。

博物館実習IA

3810021100100

副　題	博物館の実際と業務を学ぶ							担　当　者	清水　敏男　教授
単位	1	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-488-CA

〔授業の到達目標〕
学芸員課程で学んできたことを実務実習を通じて総合的に理解し体験，体得することを目標とする。

〔授業の内容〕
「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。
「授業概要」春学期集中では学内実習を実施する。学内実習では歴史系，芸術系，自然科学系などさまざまな博物館を見学し多様な博物館活動の実際を理解すると同時に，学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その課程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕
初回授業までに博物館美術館を最低１館を訪れ，美術館博物館の歴史，経営体制，運営などを調査しレポート（各館1000字）をまとめること。初回授業で提出する。アートプロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕
出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本）実習は出席しない意味がない。欠席の場合は単位を認定しないことがある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕
木曜日12時はから１時，午後２時半から３時
初回授業で指示する

〔備考〕
春学期集中講義として実施する。主に土曜日午後に実施する。初回授業までに告知する。
学内実習を30時間以上実施する。
館園実習は１回あたり８時間，合計６回を予定するが，詳細は館園の指示に従う。
学内実習は１単位，学外館園実習は１単位である。
学外の館園実習は，学習院大学史料館他の博物館で行う。

〔授　業　計　画〕

第１回学内実習博物館実習ガイダンス（実習の心得，館園実習事前指導等）
第２回学内実習博物館見学実習（歴史系博物館）
第３回学内実習博物館見学実習（芸術系博物館）
第４回学内実習展覧会企画（調査，企画会議，企画立案）
第５回学内実習展覧会企画（調査，企画会議，企画立案）
第６回学内実習展覧会企画（作品調査・研究，作品調書の取り方，温湿度計等機材の扱い方）
第７回学内実習展覧会企画（調査，企画会議，企画立案）
第８回学内実習展覧会企画（展示計画，導線計画，展示キャプション等計画・作成）
第９回学内実習展覧会企画（作品の取り扱い実習：額装，軸層，箱等）
第10回学内実習展覧会企画（教育普及事業計画）
第１回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第２回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第３回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第４回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第５回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第６回館園実習（館園のシラバスに準拠）

博物館実習IB

3810021100200

副　題	博物館の実際と業務を学ぶ							担　当　者	児島　やよい　講師
単位	1	配当年次	4	開講期間	春学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-489-CA

〔授業の到達目標〕

学芸員課程で学んできたことを実務実習を通じて総合的に理解し体験，体得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。

「授業概要」春学期集中では学内実習を実施する。学内実習では歴史系，芸術系，自然科学系などさまざまな博物館を見学し多様な博物館活動の実際を理解すると同時に，学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その課程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

博物館美術館を調査しレポートをまとめること。

アートプロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕

出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本）

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学芸員課程事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

春学期集中講義として実施する。実施時期は初回授業で告知する。

学内実習を30時間以上実施する。

取得単位は１単位である。

〔授　業　計　画〕

第１回学内実習博物館実習ガイダンス（実習の心得，館園実習事前指導等）
第２回学内実習博物館見学実習（歴史系博物館）
第３回学内実習博物館見学実習（芸術系博物館）
第４回学内実習展覧会企画（調査，企画会議，企画立案）
第５回学内実習博物館見学実習（自然科学系博物館）
第６回学内実習展覧会企画（作品調査・研究，作品調書の取り方，温湿度計等機材の扱い方）
第７回学内実習博物館見学実習（新宿区内博物館調査）
第８回学内実習展覧会企画（展示計画，導線計画，展示キャプション等計画・作成）
第９回学内実習展覧会企画（作品の取り扱い実習：額装，軸層，箱等）
第10回学内実習展覧会企画（教育普及事業計画）

博物館実習ⅡA

3810021200100

副　題	博物館の実際と業務を学ぶ	担　当　者	清水　敏男　教授

単位	2	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-490-CA

〔授業の到達目標〕

学内実習における展覧会等の企画実施，学外の館園実習における学芸業務の実際を体験することで実務に関するより深い理解を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。

「授業概要」学内実習では，学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その課程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。館園実習においては現場の学芸員の指導のもとに博物館業務の実際を学ぶ。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

初回授業までに博物館美術館を最低１館訪れ，歴史，経営，運営等について調査しレポート（1000字）をまとめること。初回授業で提出。アートプロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕

出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本），学外の館園実習の評価
出席しない場合は単位を認定しないことがある。

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

木曜日12時半から１時，午後２時半から３時
初回授業で指示する

〔備考〕

秋学期集中講義として実施する。主に土曜日午後に実施する。初回授業までに告知する。
学内実習は合計30時間以上を予定。
館園実習は１回あたり８時間，合計６回を予定するが，詳細は館園の指示に従う。
学内実習は１単位，学外館園実習は１単位である。
学外の館園実習は，学習院大学史料館他の博物館で行う。

〔授　業　計　画〕

第１回学内実習展覧会企画（第１回学内展示会企画作業）
第２回学内実習展覧会企画（作品収集，作品調書，展示準備）
第３回学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）
第４回学内実習展覧会企画（展示作業）
第５回学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）
第６回学内実習展覧会企画（展示撤収）
第７回学内実習展覧会企画（第２回学内展示会企画作業）
第８回学内実習展覧会企画(作品収集，作品調書，展示準備）
第９回学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）
第10回学内実習展覧会企画（展示作業）
第11回学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）
第12回学内実習展覧会企画（展示撤収）
第13回学内実習，館園実習に関する総括
第１回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第２回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第３回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第４回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第５回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第６回館園実習（館園のシラバスに準拠）

博物館実習ⅡB

3810021200200

副　題	博物館の実際と業務を学ぶ	担　当　者	児島　やよい　講師

単位	2	配当年次	4	開講期間	秋学期集中	曜日		時限		コース・ナンバー	MSE-491-CA

〔授業の到達目標〕

学内実習における展覧会等の企画実施，学外の館園実習における学芸業務の実際を体験することで実務に関するより深い理解を習得することを目標とする。

〔授業の内容〕

「授業のねらい」博物館実習では，学内実習，館園実習を通じて博物館の現場を体験することにより，学芸員課程で学んだことを自らの体験とし，実践的実務的な素養を身につけることを目的とする。さまざまな博物館活動の実際を学び，博物館における学芸員の業務を間近で体験することで職務の実態と重要性を学ぶことが重要である。

「授業概要」学内実習では，学内展示施設において展覧会，教育普及事業等を企画・実施することで博物館活動を体験する。その課程において資料の調査，保管，取り扱いなどの実務を学ぶ。館園実習においては現場の学芸員の指導のもとに博物館業務の実際を学ぶ。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

博物館美術館を調査しレポートをまとめること。
アートプロジェクト等にボランティア等で参加することが推奨される。

〔成績評価の方法〕

出席日数，博物館調査レポート（1000字×10本），学外の館園実習の評価

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

学芸員課程事務室を通して連絡を取ること。

〔備考〕

秋学期集中講義として実施する。実施時期については初回授業で告知する。
学内実習は合計30時間以上を予定。
館園実習は１回あたり８時間，合計６回を予定するが，詳細は館園の指示に従う。
学内実習は１単位，学外館園実習は１単位である。
学外の館園実習は，学習院大学史料館他の博物館で行う。

〔授　業　計　画〕

第１回学内実習展覧会企画（第１回学内展示会企画作業）
第２回学内実習展覧会企画（作品収集，作品調書，展示準備）
第３回学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）
第４回学内実習展覧会企画（展示作業）
第５回学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）
第６回学内実習展覧会企画（展示撤収）
第７回学内実習展覧会企画（第２回学内展示会企画作業）
第８回学内実習展覧会企画(作品収集，作品調書，展示準備）
第９回学内実習展覧会企画（教育普及事業準備，展示準備）
第10回学内実習展覧会企画（展示作業）
第11回学内実習展覧会企画（教育普及事業実施）
第12回学内実習展覧会企画（展示撤収）
第13回学内実習，館園実習に関する総括
第１回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第２回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第３回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第４回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第５回館園実習（館園のシラバスに準拠）
第６回館園実習（館園のシラバスに準拠）

日本語教員養成講座

平成 28 年度授業科目および担当者

講　義　内　容（シラバス）

日本語教員養成講座　平成 28 年度授業科目および担当者

科目群	科目名	副題	コース・ナンバー	配当年次	学期		単位	担当者	頁
日本語教員養成講座専門科目	応用日本語学Ⅰ	現代日本語文法と関連領域１	JPL-181-NA	1～	春		2	加藤　陽子	888
	応用日本語学Ⅱ	現代日本語文法と関連領域２	JPL-182-NA	1～		秋	2	加藤　陽子	889
	日本語教授法Ⅰ	外国人に日本語を教えるために	JPL-283-NA	2～	春		2	野口　直子	890
	日本語教授法Ⅱ	外国人に日本語を教えるために	JPL-284-NA	2～		秋	2	野口　直子	891
日本語教員養成講座科目	日本語学Ⅰ	現代日本語の諸相	JPL-105-JA	1～	春		2	福島　直恭	46
	日本語学Ⅱ	日本語の歴史	JPL-106-JA	1～		秋	2	福島　直恭	47
	言語学Ⅰ	記号のシステム・音と語の仕組み・対照言語学	LIN-101-IB	1～	春		2	佐藤　直人	236
	言語学Ⅱ	統語論・意味論・語用論と言語学史	LIN-102-IB	1～		秋	2	佐藤　直人	237
	社会言語学Ⅰ	社会の中の言語	LIN-103-IB	1～	春		2	福島　直恭	238
	社会言語学Ⅱ	近代日本の言語政策	LIN-104-IB	1～		秋	2	福島　直恭	239
	言語地理学	スラヴの言語と文化	GEO-111-IB	1～		秋	2	坂倉　千鶴	246

応用日本語学I

3820001000100

副　題	現代日本語文法と関連領域１							担　当　者	加藤　陽子　講師		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	2	コース・ナンバー	JPL-181-NA

〔授業の到達目標〕

日本語を母語としない学習者に対して何をどこまで教えればよいのか，理解できるようになる。

〔授業の内容〕

日本語の非母語話者が日本語を使ってコミュニケーションを行えるようになるためには，さまざまな知識が必要である。中でも，語彙を適切に選択し順序良く組み合わせて文を作る際に，文法は欠かせない知識である。

本授業では，現代日本語文法およびその関連領域の基礎的で重要な概念や話題を紹介する。受講生は授業で得た知識を活用し，自身の言語直感や身近な言語資源を参照しながら，母語である日本語を分析的・客観的に捉えていく練習を行う。

〔教材〕

特に定めず，毎回プリントを配布する。参考書としては，以下のものを勧める。

荻野綱男編『現代日本語学入門』明治書院，2007年

近藤安月子『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社，2008年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で扱った事項を身の回りの言語資源で確認するなどの形で復習を徹底し，理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，課題５%，試験75%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

〔授　業　計　画〕

第１週　シラバス説明，外国語としての日本語，言語の単位と研究分野
第２週　日本語学習者の誤用から見える日本語文法
第３週　学校文法と日本語教育文法
第４週　日本語教育から見た文法１（語：形態素）
第５週　日本語教育から見た文法２（語：語構成）
第６週　日本語教育から見た文法３（語：活用）
第７週　日本語教育から見た文法４（語：品詞）
第８週　日本語教育から見た文法５（文：格）
第９週　日本語教育から見た文法６（文：文の構造）
第10週　日本語教育から見た文法７（文：文法カテゴリー）
第11週　日本語教育から見た文法８（文：助詞）
第12週　日本語教育から見た文法９（文：ヴォイス１）
第13週　日本語教育から見た文法10（文：ヴォイス２）
第14週　日本語教育から見た文法11（文：ヴォイス３）
第15週　まとめと確認
進行の速度は受講者の理解の程度に合わせて適宜調節する。

応用日本語学II

3820002000100

副　題	現代日本語文法と関連領域２							担　当　者	加藤　陽子　講師		
単位	２	配当年次	１～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	２	コース・ナンバー	JPL-182-NA

〔授業の到達目標〕

日本語を母語としない学習者に対して何をどこまで教えればよいのか，理解できるようになる。

〔授業の内容〕

本授業では，春学期に開講した「応用日本語学Ｉ」に続き，現代日本語文法およびその関連領域の基礎的で重要な概念や話題を紹介する。受講生は授業で得た知識を活用し，自身の言語直感や身近な言語資源を参照しながら，母語である日本語を分析的・客観的に捉えていく練習を行う。

〔教材〕

特に定めず，毎回プリントを配布する。参考書としては，以下のものを勧める。
荻野綱男編『現代日本語学入門』明治書院，2007年
近藤安月子『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社，2008年

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

授業で扱った事項を身の回りの言語資源で確認するなどの形で復習を徹底し，理解を深めること。

〔成績評価の方法〕

授業への参加態度20%，課題５%，試験75%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

・この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。
・応用日本語学Ｉで学んだ事項を前提として講義する。応用日本語学Ｉの単位を修得していない者は，今年度の履修を控えることが望ましい。

〔授　業　計　画〕

第１週　シラバス説明，日本語学習者の誤用から見える日本語文法
第２週　日本語教育から見た文法１（文：テンス・アスペクト）
第３週　日本語教育から見た文法２（文：テンス・アスペクト）
第４週　日本語教育から見た文法３（文：ムードとモダリティ）
第５週　日本語教育から見た文法４（文：ムードとモダリティ）
第６週　日本語教育から見た文法５（文：複文１）
第７週　日本語教育から見た文法６（文：複文２）
第８週　日本語教育から見た文法７（文章・談話：文章・談話の構造）
第９週　日本語教育から見た文法８（文章・談話：結束性と一貫性）
第10週　日本語教育から見た文法９（文章・談話：話し言葉と書き言葉）
第11週　関連領域１（待遇表現）
第12週　関連領域２（さまざまな日本語）
第13週　関連領域３（日本語能力試験）
第14週　関連領域４（日本語教育能力試験）
第15週　まとめと確認
進行の速度は受講者の理解の程度に合わせて適宜調節する。

日本語教授法I

3820011000100

副　題	外国人に日本語を教えるために	担　当　者	野口　直子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	春学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-283-NA

〔授業の到達目標〕

日本語を外国語として客観的に見る目を養い，日本語学習者に理論的に教えられるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

日常使っている日本語を外国人に教えるために必要な知識，価値観，考え方などを学ぶ。この学期は総論として，自己の言語について，自分の持つ学習観，教授観についての気づきを促す。また異文化コミュニケーションを学ぶことによって，文化の違う人に日本語を教えることの難しさ，方法について学ぶ。「日本語を教える」ことが具体的にどういうことかを考えることにより，自分自身の日本語についての考察も深まることになる。

〔教材〕

教科書は使用せず，プリントを適宜配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教材がある場合は，あらかじめ読んだ上で出席すること。授業後は，配布された教材をよく読んで，その日の授業の確認をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

提出物20%，授業への参加度30%，試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

〔授　業　計　画〕

第１週　オリエンテーション
　　日本語を教えるとは
第２週　自己の日本語（１）教師の資質　言語観
第３週　自己の日本語（２）学習観と教育観
第４週　コミュニケーション論
　　コミュニケーションとは何か
第５週　異文化コミュニケーション（１）
第６週　異文化コミュニケーション（２）
第７週　日本語の基礎
　　音声と表記
第８週　日本語教育と国語教育
　　日本語教授法の歴史と理論（１）
第９週　日本語教授法の歴史と理論（２）
第10週　日本語の初級・中級・上級とは
第11週　日本語教授法（１）名詞・形容詞文
第12週　日本語教授法（２）名詞・形容詞文
第13週　日本語教授法（２）動詞文（１）
第14週　日本語教授法（３）動詞文（２）
第15週　まとめ

この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

日本語教授法II

3820012000100

副　題	外国人に日本語を教えるために	担　当　者	野口　直子　講師

単位	2	配当年次	2～	開講期間	秋学期	曜日	金	時限	1	コース・ナンバー	JPL-284-NA

〔授業の到達目標〕

日本語を外国語として客観的に見る目を養い，日本語学習者に理論的に教えられるようになることを目標とする。

〔授業の内容〕

日常使っている日本語を外国人に教えるために必要な知識，価値観，考え方などを学ぶ。この学期は各論として，日本語をどのように教えるか，具体的に考えていく。日本語の間違いを指摘することはできるが，なぜ間違いかを説明することは，ふだん無意識に使っている言語だけに難しい。外国人の目をもって日本語を見ることにより，「説明できる日本語」となる。日本語の意味の違い，使われる場面の違い，話し手の心情を表す日本語の微妙なニュアンスなどを身近な例をとりながら，学んでいく。当たり前に使っている日本語を見直していくことで自分自身の日本語についての考察も深まることになる。

〔教材〕

プリントを適宜配布。

〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕

指定された教材がある場合は，あらかじめ読んだ上で出席すること。授業後は，配布された教材をよく読んで，その日の授業の確認をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

提出物20%，授業への参加度30%，期末試験50%

〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕

サポートセンターを通して連絡を取ること。

〔備考〕

この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。

〔授　業　計　画〕

第１週　日本語教授法（４）可能形
第２週　日本語教授法（５）受身形
第３週　日本語教授法（６）使役形・使役受身形
第４週　日本語教授法（７）自動詞・他動詞
第５週　日本語享受法（８）条件
第６週　日本語教授法（９）テンス・アスペクト
第７週　日本語教授法（10）授受表現
第８週　中間試験
第９週　日本語教授法（11）待遇表現
第10週　日本語教授法（12）敬語
第11週　読むことを教える１
第12週　読むことを教える２
第13週　読むことを教える３
第14週　読むことを教える４
第15週　まとめ

この授業は，日本語教員養成講座専門科目である。したがってこの授業の単位は，国際文化交流学部を卒業するために必要な単位には算入されない。よく注意して欲しい。